

**2019年度
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目
100番台
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覧

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【P1302】 Elementary Humanities A [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	1
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【P1304】 Elementary Humanities B [リチャード・パロース] 秋学期授業/Fall	2
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【P2301】 Elementary Social Science A [SCHIFANO ADRIEN] 春学期授業/Spring	3
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【P2302】 Elementary Social Science B [スキハノ アドリアン] 秋学期授業/Fall	4
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【P3602】 Elementary Mathematics A [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	5
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【P3603】 Elementary Mathematics B [Takeyoshi KOGISO] 春学期授業/Spring	6
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1802】 Academic Literacy A [パワートーマス G] 秋学期授業/Fall	6
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1803】 Academic Literacy B [パワートーマス G] 春学期授業/Spring	8
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1804】 College Writing A [担当者未定] 秋学期授業/Fall	9
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1805】 College Writing B [ANTHONY L FENTON] 春学期授業/Spring	10
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【P0162】 Elementary Information Technology [松田 裕幸] 秋学期授業/Fall	12
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【P0163】 Information Technology [Yukou MATSUDA] 春学期授業/Spring	13
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【P0632】 Elementary Career Development [担当者未定] 秋学期授業/Fall	14
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0001】 基礎ゼミⅠ [安孫子 信] 春学期授業/Spring	15
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0002】 基礎ゼミⅡ [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall	15
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0003】 基礎ゼミⅠ [西塚 俊太] 春学期授業/Spring	16
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0004】 基礎ゼミⅡ [菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall	17
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0005】 基礎ゼミⅠ [小島 尚人] 春学期授業/Spring	18
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0007】 基礎ゼミⅠ [田中 裕希] 春学期授業/Spring	19
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0009】 基礎ゼミⅠ [小島 尚人] 春学期授業/Spring	20
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0011】 基礎ゼミⅠ [丹治 愛] 春学期授業/Spring	21
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0013】 基礎ゼミⅠ [大塚 紀弘] 春学期授業/Spring	22
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0015】 基礎ゼミⅠ [塩沢 裕仁] 春学期授業/Spring	23
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0017】 基礎ゼミⅠ [高澤 紀恵] 春学期授業/Spring	23
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0019】 基礎ゼミⅠ [松本 剣志郎] 春学期授業/Spring	24
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0021】 基礎ゼミⅠ [羽佐田 紘大] 春学期授業/Spring	24

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0023】基礎ゼミⅠ [片岡 義晴] 春学期授業/Spring	25
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0025】基礎ゼミⅠ [前空 英明] 春学期授業/Spring	25
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0027】基礎ゼミⅠ [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	26
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0029】基礎ゼミⅠ [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	27
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0030】基礎ゼミⅡ [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	28
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0031】基礎ゼミⅠ [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	30
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0032】基礎ゼミⅡ [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	31
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0033】基礎ゼミⅠ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	33
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0034】基礎ゼミⅡ [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	33
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0041】基礎ゼミ [上西 充子] 春学期授業/Spring	34
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0043】基礎ゼミ [李 舜志] 春学期授業/Spring	35
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0045】基礎ゼミ [坂本 旬] 春学期授業/Spring	37
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0047】基礎ゼミ [神野 潔] 春学期授業/Spring	38
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0049】基礎ゼミ [棚井 仁] 春学期授業/Spring	40
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0051】基礎ゼミ [橋本 広大] 春学期授業/Spring	41
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0053】基礎ゼミ [田口 賢太郎] 春学期授業/Spring	43
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0055】基礎ゼミ [仲 修平] 春学期授業/Spring	44
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0057】基礎ゼミ [前浦 穂高] 春学期授業/Spring	46
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0059】基礎ゼミ [安田 節之] 春学期授業/Spring	47
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0061】基礎ゼミ [李 舜志] 春学期授業/Spring	49
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0063】基礎ゼミ [福井 令恵] 春学期授業/Spring	50
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0065】基礎ゼミ [齋藤 嘉孝] 春学期授業/Spring	52
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0067】基礎ゼミ [酒井 理] 春学期授業/Spring	53
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0069】基礎ゼミ [佐藤 恵] 春学期授業/Spring	55
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0071】基礎ゼミ [荒川 裕子] 春学期授業/Spring	56
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0101】情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	58
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0103】情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	59
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0105】情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	60

— III —

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0217】情報リテラシーⅡ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	89
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0219】情報リテラシーⅡ [色川 進] 春学期授業/Spring	90
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0221】情報リテラシーⅡ [四手井 綱章] 春学期授業/Spring	91
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0223】情報リテラシーⅡ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	92
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0225】情報リテラシーⅡ [四手井 綱章] 春学期授業/Spring	93
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0227】情報リテラシーⅡ [重定 如彦] 春学期授業/Spring	94
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0301】情報処理演習 [菅原 真悟] 春学期授業/Spring	95
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0302】情報処理演習 [菅原 真悟] 秋学期授業/Fall	96
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0303】情報処理演習 [寺澤 信雄] 春学期授業/Spring	97
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0304】情報処理演習 [寺澤 信雄] 秋学期授業/Fall	98
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0305】情報処理演習 [寺澤 信雄] 春学期授業/Spring	99
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0306】情報処理演習 [寺澤 信雄] 秋学期授業/Fall	100
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0307】情報処理演習 [御園生 純] 春学期授業/Spring	101
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0308】情報処理演習 [御園生 純] 秋学期授業/Fall	102
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0431】キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0432】キャリアデザイン入門 [高橋 実] 春学期授業/Spring	104
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0433】キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0434】キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0435】キャリアデザイン入門 [平林 正樹、宮木 あづさ] 春学期授業/Spring	109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0436】キャリアデザイン入門 [藤澤 広美] 春学期授業/Spring	110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0437】キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0451】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0452】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	114
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0453】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	115
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0454】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	117
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0501】大学を知ろう <法政学>への招待 [高柳 俊男、小林 ふみ子] 春学期授業/Spring	118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1001】日本古典文学A [表 きよし] 春学期授業/Spring	120
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1002】日本古典文学B [表 きよし] 秋学期授業/Fall	121

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1003】 日本古典文学A [園 明美] 春 学期授業/Spring	122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1004】 日本古典文学B [園 明美] 秋 学期授業/Fall	123
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1005】 日本古典文学A [成島 知子] 春学 期授業/Spring	124
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1006】 日本古典文学B [成島 知子] 秋学 期授業/Fall	125
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1007】 日本古典文学A [成島 知子] 春学 期授業/Spring	126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1008】 日本古典文学B [成島 知子] 秋学 期授業/Fall	127
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1009】 日本近・現代文学A [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1010】 日本近・現代文学B [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1011】 日本近・現代文学A [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	130
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1012】 日本近・現代文学B [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1013】 日本文学A [島田 雅彦] 春学期授 業/Spring	132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1014】 日本文学B [島田 雅彦] 秋学期授 業/Fall	133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1015】 日本文学A [村山 龍] 春学期授 業/Spring	133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1016】 日本文学B [村山 龍] 秋学期授 業/Fall	134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1017】 外国文学A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	135
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1018】 外国文学B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	136
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1019】 外国文学A [近江屋 志穂] 春学期 授業/Spring	137
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1020】 外国文学B [近江屋 志穂] 秋学期 授業/Fall	138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1021】 外国文学A [吉井 涼子] 春学期授 業/Spring	138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1022】 外国文学B [吉井 涼子] 秋学期授 業/Fall	139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1023】 外国文学A [吉井 涼子] 春学期授 業/Spring	140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1024】 外国文学B [吉井 涼子] 秋学期授 業/Fall	141
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1025】 外国文学A [梁 禮先] 春学期授 業/Spring	142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1026】 外国文学B [梁 禮先] 秋学期授 業/Fall	143
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1027】 日本近・現代文学A [鈴木 彩] 春学期授業/Spring	144
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1028】 日本近・現代文学B [鈴木 彩] 秋学期授業/Fall	145
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1061】 文章論 [萩野 了子] 春学期授業/Spring	146
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1062】 文章論 [西元 康雅] 秋学期授業/Fall	147
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1063】 文章論 [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	148
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1064】 文章論 [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	149
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1065】 文章論 [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	150

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1066】文章論 [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall151	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1069】文章論 [西元 康雅] 秋学期授業/Fall152	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1070】文章論 [西元 康雅] 秋学期授業/Fall153	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1081】言語学 A [江村 裕文] 春学期授 業/Spring	154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1082】言語学 B [江村 裕文] 秋学期授 業/Fall	155
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1083】言語学 A [齊藤 雄介] 春学期授 業/Spring	156
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1084】言語学 B [齊藤 雄介] 秋学期授 業/Fall	156
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1085】言語学 A [板井 美佐] 春学期授 業/Spring	157
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1086】言語学 B [板井 美佐] 秋学期授 業/Fall	158
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1091】哲学 I [滝口 清栄] 春学期授 業/Spring	159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1092】哲学 II [滝口 清栄] 秋学期授業/Fall160	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1093】哲学 I [計良 隆世] 春学期授 業/Spring	161
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1094】哲学 II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall162	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1095】哲学 I [計良 隆世] 春学期授 業/Spring	163
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1096】哲学 II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall164	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1097】哲学 I [君嶋 泰明] 春学期授 業/Spring	165
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1098】哲学 II [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall165	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1099】哲学 I [伊藤 功] 春学期授業/Spring166	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1100】哲学 II [伊藤 功] 秋学期授業/Fall166	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1101】哲学 I [谷口 力] 春学期授業/Spring167	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1102】哲学 II [谷口 力] 秋学期授業/Fall168	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1103】哲学 I [大西 正人] 春学期授 業/Spring	169
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1104】哲学 II [大西 正人] 秋学期授業/Fall170	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1105】哲学 I [近堂 秀] 春学期授業/Spring171	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1106】哲学 II [近堂 秀] 秋学期授業/Fall171	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1107】哲学 I [越部 良一] 春学期授 業/Spring	172
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1108】哲学 II [越部 良一] 秋学期授業/Fall172	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1109】哲学 I [白根 裕里枝] 春学期授 業/Spring	173
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1110】哲学 II [白根 裕里枝] 秋学期授 業/Fall	174
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1121】倫理学 I [越部 良一] 春学期授 業/Spring	175
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1122】倫理学 II [越部 良一] 秋学期授 業/Fall	176
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1123】倫理学 I [佐藤 英明] 春学期授 業/Spring	177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1124】倫理学 II [佐藤 英明] 秋学期授 業/Fall	178
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1125】倫理学 I [伊藤 直樹] 春学期授 業/Spring	179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1126】倫理学 II [伊藤 直樹] 秋学期授 業/Fall	180
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1127】倫理学 I [田島 樹里奈] 春学期 授業/Spring	181

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1128】倫理学Ⅱ [田島 樹里奈] 秋学期授業/Fall	182
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1129】倫理学Ⅰ [杉本 隆久] 春学期授業/Spring	183
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1130】倫理学Ⅱ [杉本 隆久] 秋学期授業/Fall	184
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1131】倫理学Ⅰ [森村 修] 春学期授業/Spring	185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1132】倫理学Ⅱ [森村 修] 秋学期授業/Fall	186
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1133】倫理学Ⅰ [越部 良一] 春学期授業/Spring	187
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1134】倫理学Ⅱ [越部 良一] 秋学期授業/Fall	188
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1141】論理学Ⅰ [大西 正人] 春学期授業/Spring	189
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1142】論理学Ⅱ [大西 正人] 秋学期授業/Fall	190
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1143】論理学Ⅰ [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	191
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1144】論理学Ⅱ [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	192
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1145】論理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授業/Spring	192
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1146】論理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1147】論理学Ⅰ [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring	194
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1148】論理学Ⅱ [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall	195
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1149】論理学Ⅰ [大貫 義久] 春学期授業/Spring	196
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1150】論理学Ⅱ [大貫 義久] 秋学期授業/Fall	197
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1151】論理学Ⅰ [滝口 清栄] 春学期授業/Spring	198
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1152】論理学Ⅱ [滝口 清栄] 秋学期授業/Fall	199
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1153】論理学Ⅰ [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring	200
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1154】論理学Ⅱ [菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall	201
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1155】論理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授業/Spring	202
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1156】論理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	203
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1161】東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	204
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1162】東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	205
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1163】東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	205
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1164】東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	206
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1165】東洋史Ⅰ [板橋 暁子] 春学期授業/Spring	206
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1166】東洋史Ⅱ [板橋 暁子] 秋学期授業/Fall	207
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1167】東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	207

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1168】 東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fal	208
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1169】 東洋史Ⅰ [板橋 暁子] 春学期授 業/Spring	208
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1170】 東洋史Ⅱ [板橋 暁子] 秋学期授 業/Fall	209
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1181】 西洋史Ⅰ [中村 純] 春学期授 業/Spring	209
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1182】 西洋史Ⅱ [中村 純] 秋学期授業/Fal	210
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1183】 西洋史Ⅰ [中村 純] 春学期授 業/Spring	211
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1184】 西洋史Ⅱ [中村 純] 秋学期授業/Fal	212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1185】 西洋史Ⅰ [中村 純] 春学期授 業/Spring	212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1186】 西洋史Ⅱ [中村 純] 秋学期授業/Fal	213
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1187】 西洋史Ⅰ [中村 純] 春学期授 業/Spring	214
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1188】 西洋史Ⅱ [中村 純] 秋学期授業/Fal	215
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1201】 日本史Ⅰ [根崎 光男] 春学期授 業/Spring	215
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1202】 日本史Ⅱ [根崎 光男] 秋学期授 業/Fall	216
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1203】 日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授 業/Spring	217
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1204】 日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授 業/Fall	218
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1205】 日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授 業/Spring	219
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1206】 日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授 業/Fall	220
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1207】 日本史Ⅰ [真辺 美佐] 春学期授 業/Spring	221
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1208】 日本史Ⅱ [真辺 美佐] 秋学期授 業/Fall	222
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1209】 日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授 業/Spring	223
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1210】 日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授 業/Fall	224
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1211】 日本史Ⅰ [根崎 光男] 春学期授 業/Spring	225
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1212】 日本史Ⅱ [根崎 光男] 秋学期授 業/Fall	226
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1221】 宗教論Ⅰ [若林 明彦] 春学期授 業/Spring	227
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1222】 宗教論Ⅱ [若林 明彦] 秋学期授 業/Fall	228
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1223】 宗教論Ⅰ [酒井 健] 春学期授 業/Spring	229
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1224】 宗教論Ⅱ [酒井 健] 秋学期授業/Fal	230
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1231】 芸術A [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	231
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1232】 芸術B [武田 昭彦] 秋学期授業/Fal	232
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1233】 芸術A [小澤 慶介] 春学期授業/Spring	233
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1234】 芸術B [小澤 慶介] 秋学期授業/Fal	234
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1235】 芸術A [中川 三千代] 春学期授 業/Spring	235
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1236】 芸術B [中川 三千代] 秋学期授 業/Fall	236

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2001】法学 I [山本 圭子] 春学期授 業/Spring	237
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2002】法学 II [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	238
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2003】法学 I [権 敬殷] 春学期授業/Spring	238
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2004】法学 II [権 敬殷] 秋学期授業/Fall	239
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2005】法学 I [前川 佳夫] 春学期授 業/Spring	240
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2006】法学 II [前川 佳夫] 秋学期授業/Fall	241
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2007】法学 I [権 敬殷] 春学期授業/Spring	242
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2008】法学 II [権 敬殷] 秋学期授業/Fall	243
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2009】法学 I [石川 澄雄] 春学期授 業/Spring	244
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2010】法学 II [石川 澄雄] 秋学期授業/Fall	245
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2011】法学 I [水野 圭子] 春学期授 業/Spring	247
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2012】法学 II [水野 圭子] 秋学期授業/Fall	248
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2013】法学 I [金子 匡良] 春学期授 業/Spring	249
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2014】法学 II [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	250
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2015】法学 I [権 敬殷] 春学期授業/Spring	251
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2016】法学 II [権 敬殷] 秋学期授業/Fall	252
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2017】法学 I [前川 佳夫] 春学期授 業/Spring	253
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2018】法学 II [前川 佳夫] 秋学期授業/Fall	254
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2031】法学 (日本国憲法) [金子 匡良] 春学期授業/Spring	255
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2032】法学 (日本国憲法) [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	256
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2033】法学 (日本国憲法) [石川 澄雄] 春学期授業/Spring	257
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2034】法学 (日本国憲法) [石川 澄雄] 秋学期授業/Fall	258
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2041】経済学 I [玉之内 直] 春学期授 業/Spring	259
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2042】経済学 II [玉之内 直] 秋学期授 業/Fall	260
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2043】経済学 I [西崎 文平] 春学期授 業/Spring	261
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2044】経済学 II [西崎 文平] 秋学期授 業/Fall	262
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2045】経済学 I [梅溪 健児] 春学期授 業/Spring	263
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2046】経済学 II [梅溪 健児] 秋学期授 業/Fall	264
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2049】経済学 I [玉之内 直] 春学期授 業/Spring	265
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2050】経済学 II [玉之内 直] 秋学期授 業/Fall	266
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2061】マクロ経済学 I [平田 英明] 春 学期授業/Spring	267
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2062】マクロ経済学 II [平田 英明] 秋 学期授業/Fall	268
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2063】マクロ経済学 I [林 直嗣] 春学 期授業/Spring	269
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2064】マクロ経済学 II [林 直嗣] 秋学 期授業/Fall	270

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2071】 心理学 I [浅川 希洋志] 春学期 授業/Spring	271
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2072】 心理学 II [浅川 希洋志] 秋学期 授業/Fall	272
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2073】 心理学 I [櫻井 登世子] 春学期 授業/Spring	273
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2074】 心理学 II [櫻井 登世子] 秋学期 授業/Fall	274
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2075】 心理学 I [小島 弥生] 春学期授 業/Spring	274
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2076】 心理学 II [小島 弥生] 秋学期授 業/Fall	275
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2077】 心理学 I [海部 紀行] 春学期授 業/Spring	276
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2078】 心理学 II [海部 紀行] 秋学期授 業/Fall	277
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2079】 心理学 I [浅川 希洋志] 春学期 授業/Spring	278
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2080】 心理学 II [浅川 希洋志] 秋学期 授業/Fall	279
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2081】 心理学 I [小島 弥生] 春学期授 業/Spring	280
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2082】 心理学 II [小島 弥生] 秋学期授 業/Fall	281
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2083】 心理学 I [海部 紀行] 春学期授 業/Spring	282
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2084】 心理学 II [海部 紀行] 秋学期授 業/Fall	283
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2085】 心理学 I [櫻井 登世子] 春学期 授業/Spring	284
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2086】 心理学 II [櫻井 登世子] 秋学期 授業/Fall	285
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2111】 地理学 I [高木 正] 春学期授 業/Spring	286
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2112】 地理学 II [高木 正] 秋学期授業/Fall	286
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2113】 地理学 I [前川 明彦] 春学期授 業/Spring	287
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2114】 地理学 II [前川 明彦] 秋学期授 業/Fall	288
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2115】 地理学 I [米家 志乃布] 春学期 授業/Spring	289
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2116】 地理学 II [米家 志乃布] 秋学期 授業/Fall	290
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2117】 地理学 I [前畑 明美] 春学期授 業/Spring	290
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2118】 地理学 II [前畑 明美] 秋学期授 業/Fall	291
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2119】 地理学 I [前畑 明美] 春学期授 業/Spring	292
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2120】 地理学 II [前畑 明美] 秋学期授 業/Fall	293
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2131】 社会学 I [菅野 摂子] 春学期授 業/Spring	294
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2132】 社会学 II [菅野 摂子] 秋学期授 業/Fall	295
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2133】 社会学 I [高橋 徹] 春学期授 業/Spring	296

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2134】社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fal	297
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2135】社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授 業/Spring	298
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2136】社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fal	299
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2137】社会学Ⅰ [塚田 修一] 春学期授 業/Spring	300
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2138】社会学Ⅱ [塚田 修一] 秋学期授 業/Fall	301
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2139】社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授 業/Spring	301
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2140】社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fal	302
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2141】社会学Ⅰ [橋本 みゆき] 春学期 授業/Spring	303
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2142】社会学Ⅱ [橋本 みゆき] 秋学期 授業/Fall	304
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2143】社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授 業/Spring	304
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2144】社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fal	305
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2145】社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授 業/Spring	306
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2146】社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fal	307
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2161】政治学Ⅰ [平良 好利] 春学期授 業/Spring	308
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2162】政治学Ⅱ [平良 好利] 秋学期授 業/Fall	309
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2163】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授 業/Spring	309
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2164】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fal	310
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2165】政治学Ⅰ [平良 好利] 春学期授 業/Spring	311
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2166】政治学Ⅱ [平良 好利] 秋学期授 業/Fall	312
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2167】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授 業/Spring	312
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2168】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授 業/Fall	313
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2169】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授 業/Spring	313
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2170】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fal	314
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2171】政治学Ⅰ [面 一也] 春学期授 業/Spring	315
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2172】政治学Ⅱ [面 一也] 秋学期授業/Fal	316
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2173】政治学Ⅰ [岡崎 加奈子] 春学期 授業/Spring	317
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2174】政治学Ⅱ [岡崎 加奈子] 秋学期 授業/Fall	318
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2175】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授 業/Spring	319
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2176】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授 業/Fall	319
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2191】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授 業/Spring	320
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2193】文化人類学 [阿部 朋恒] 春学期授 業/Spring	321
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2195】文化人類学 [岩原 紘伊] 春学期授 業/Spring	322

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2197】文化人類学 [長沢 利明] 春学期授業/Spring	322
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2199】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授業/Spring	323
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2201】文化人類学 [阿部 朋恒] 春学期授業/Spring	324
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2203】文化人類学 [阿部 朋恒] 春学期授業/Spring	325
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2205】文化人類学 [岩原 紘伊] 春学期授業/Spring	326
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2207】文化人類学 [中島 成久] 春学期授業/Spring	326
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2209】文化人類学 [阿部 朋恒] 春学期授業/Spring	327
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2211】社会思想 I [犬塚 元] 春学期授業/Spring	328
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2212】社会思想 II [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	329
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2213】社会思想 I [村田 玲] 春学期授業/Spring	329
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2214】社会思想 II [村田 玲] 秋学期授業/Fall	330
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2215】社会思想 I [洪 貴義] 春学期授業/Spring	331
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2216】社会思想 II [洪 貴義] 秋学期授業/Fall	332
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2217】社会思想 I [網谷 壮介] 春学期授業/Spring	333
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2218】社会思想 II [網谷 壮介] 秋学期授業/Fall	334
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2219】社会思想 I [熊沢 敏之] 春学期授業/Spring	335
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2220】社会思想 II [熊沢 敏之] 秋学期授業/Fall	336
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2221】社会思想 I [村田 玲] 春学期授業/Spring	337
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2222】社会思想 II [村田 玲] 秋学期授業/Fall	338
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3001】教養数学 A [平田 康史] 春学期授業/Spring	339
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3002】教養数学 B [平田 康史] 秋学期授業/Fall	340
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3003】教養数学 A [平田 康史] 春学期授業/Spring	341
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3004】教養数学 B [平田 康史] 秋学期授業/Fall	342
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3005】教養数学 A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	343
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3006】教養数学 B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	344
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3007】教養数学 A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	344
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3008】教養数学 B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	345
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3011】教養数学 A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	346

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3012】 教養数学B [池田 宏一郎] 秋学期 授業/Fall	347
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3013】 教養数学A [倉田 俊彦] 春学期授 業/Spring	347
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3014】 教養数学B [倉田 俊彦] 秋学期授 業/Fall	348
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3015】 教養数学A [佐藤 洋祐] 春学期授 業/Spring	349
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3016】 教養数学B [佐藤 洋祐] 秋学期授 業/Fall	350
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3017】 教養数学A [佐藤 洋祐] 春学期授 業/Spring	351
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3018】 教養数学B [佐藤 洋祐] 秋学期授 業/Fall	351
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3031】 基礎数学 I [若井 健太郎] 春学 期授業/Spring	352
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3032】 基礎数学 II [若井 健太郎] 秋学 期授業/Fall	353
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3033】 基礎数学 I [松田 直祐] 春学期 授業/Spring	353
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3034】 基礎数学 II [松田 直祐] 秋学期 授業/Fall	354
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3035】 基礎数学 I [池田 宏一郎] 春学 期授業/Spring	354
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3036】 基礎数学 II [池田 宏一郎] 秋学 期授業/Fall	355
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3037】 基礎数学 I [若井 健太郎] 春学 期授業/Spring	355
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3038】 基礎数学 II [若井 健太郎] 秋学 期授業/Fall	356
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3039】 基礎数学 I [松田 直祐] 春学期 授業/Spring	356
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3040】 基礎数学 II [松田 直祐] 秋学期 授業/Fall	357
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3041】 基礎数学 I [倉田 俊彦] 春学期 授業/Spring	357
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3042】 基礎数学 II [倉田 俊彦] 秋学期 授業/Fall	358
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3043】 基礎数学 I [江口 直日] 春学期 授業/Spring	358
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3044】 基礎数学 II [江口 直日] 秋学期 授業/Fall	359
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3045】 基礎数学 I [安東 祐希] 春学期 授業/Spring	359
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3046】 基礎数学 II [安東 祐希] 秋学期 授業/Fall	360
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3047】 基礎数学 I [江口 直日] 春学期 授業/Spring	360
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3048】 基礎数学 II [江口 直日] 秋学期 授業/Fall	361
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3051】 入門物理学A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	361
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3052】 入門物理学B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	362
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3053】 入門物理学A [吉瀬 好] 春学期授 業/Spring	363

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3054】 入門物理学 B [吉瀬 好] 秋学期授 業/Fall	364
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3055】 入門物理学 A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	365
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3056】 入門物理学 B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	366
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3057】 入門物理学 A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring	367
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3058】 入門物理学 B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall	368
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3059】 入門物理学 A [井坂 政裕] 春学期 授業/Spring	369
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3060】 入門物理学 B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall	370
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3061】 入門物理学 A [石川 壮一] 春学期 授業/Spring	371
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3062】 入門物理学 B [石川 壮一] 秋学期 授業/Fall	372
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3065】 入門物理学 A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring	373
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3066】 入門物理学 B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall	374
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3067】 入門物理学 A [吉瀬 好] 春学期授 業/Spring	375
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3068】 入門物理学 B [吉瀬 好] 秋学期授 業/Fall	375
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3081】 入門生物学 A [木原 章] 春学期授 業/Spring	376
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3082】 入門生物学 B [木原 章] 秋学期授 業/Fall	378
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3083】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	379
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3084】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	380
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3085】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	381
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3086】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	383
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3087】 入門生物学 A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring	384
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3088】 入門生物学 B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall	385
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3089】 入門生物学 A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring	386
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3090】 入門生物学 B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall	387
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3091】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	388
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3092】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	389
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3093】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	390
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3094】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	392
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3111】 入門化学 A [向井 知大] 春学期授 業/Spring	393

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3112】 入門化学B [向井 知大] 秋学期授 業/Fall	393
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3113】 入門化学A [小林 令子] 春学期授 業/Spring	394
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3114】 入門化学B [小林 令子] 秋学期授 業/Fall	394
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3115】 入門化学A [中田 和秀] 春学期授 業/Spring	395
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3116】 入門化学B [中田 和秀] 秋学期授 業/Fall	396
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3117】 入門化学A [中田 和秀] 春学期授 業/Spring	397
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3118】 入門化学B [中田 和秀] 秋学期授 業/Fall	398
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3119】 入門化学A [赤羽 良一] 春学期授 業/Spring	399
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3120】 入門化学B [赤羽 良一] 秋学期授 業/Fall	400
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3121】 入門化学A [小林 令子] 春学期授 業/Spring	401
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3122】 入門化学B [小林 令子] 秋学期授 業/Fall	401
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3125】 入門化学A [赤羽 良一] 春学期授 業/Spring	402
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3126】 入門化学B [赤羽 良一] 秋学期授 業/Fall	403
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3171】 天文学A [福島 登志夫] 春学期授 業/Spring	404
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3172】 天文学B [福島 登志夫] 秋学期授 業/Fall	404
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3173】 天文学A [福島 登志夫] 春学期授 業/Spring	405
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3174】 天文学B [福島 登志夫] 秋学期授 業/Fall	405
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3175】 天文学A [福島 登志夫] 春学期授 業/Spring	406
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3176】 天文学B [福島 登志夫] 秋学期授 業/Fall	406
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3181】 科学史A [谷本 勉] 春学期授業/Spring	407
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3182】 科学史B [谷本 勉] 秋学期授業/Fall	407
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3183】 科学史A [大橋 由紀夫] 春学期授 業/Spring	408
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3184】 科学史B [大橋 由紀夫] 秋学期授 業/Fall	408
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3185】 科学史A [谷本 勉] 春学期授業/Spring	409
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3186】 科学史B [谷本 勉] 秋学期授業/Fall	410
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3187】 科学史A [谷本 勉] 春学期授業/Spring	410
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3188】 科学史B [谷本 勉] 秋学期授業/Fall	411
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3301】 サイエンス・ラボA [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	411
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3302】 サイエンス・ラボB [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	412
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3303】 サイエンス・ラボA [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	413
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3304】 サイエンス・ラボB [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	414

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3305】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	415
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3306】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	416
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3307】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	417
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3308】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	418
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3309】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	419
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3310】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	420
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3311】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	421
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3312】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	422
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3313】サイエンス・ラボA [西村 直美、島野 智之、吉田 智] 春学期授業/Spring	423
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3314】サイエンス・ラボB [西村 直美、島野 智之、吉田 智] 秋学期授業/Fall	424
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3315】サイエンス・ラボA [西村 直美、島野 智之、吉田 智] 春学期授業/Spring	425
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3316】サイエンス・ラボB [西村 直美、島野 智之、吉田 智] 秋学期授業/Fall	426
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3317】サイエンス・ラボA [向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史] 春学期授業/Spring	427
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3318】サイエンス・ラボB [向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史] 秋学期授業/Fall	428
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3319】サイエンス・ラボA [向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史] 春学期授業/Spring	429
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3320】サイエンス・ラボB [向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史] 秋学期授業/Fall	430
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3321】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	431
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3322】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	432
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3323】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	433
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3324】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	434
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3325】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	435
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3326】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	436
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3327】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	437
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3328】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	438
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3329】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	439
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3330】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	440
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3331】サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	441
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3332】サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	442

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3333】サイエンス・ラボA [西村 直美、 島野 智之、吉田 智] 春学期授業/Spring	443
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3334】サイエンス・ラボB [西村 直美、 島野 智之、吉田 智] 秋学期授業/Fall	444
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3335】サイエンス・ラボA [西村 直美、 島野 智之、吉田 智] 春学期授業/Spring	445
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3336】サイエンス・ラボB [西村 直美、 島野 智之、吉田 智] 秋学期授業/Fall	446
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3337】サイエンス・ラボA [向井 知大、 小林 富美恵、島野 孝史] 春学期授業/Spring	447
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3338】サイエンス・ラボB [向井 知大、 小林 富美恵、島野 孝史] 秋学期授業/Fall	448
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3339】サイエンス・ラボA [向井 知大、 小林 富美恵、島野 孝史] 春学期授業/Spring	449
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3340】サイエンス・ラボB [向井 知大、 小林 富美恵、島野 孝史] 秋学期授業/Fall	450
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3341】サイエンス・ラボA [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	451
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3342】サイエンス・ラボB [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	452
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3343】サイエンス・ラボA [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	453
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3344】サイエンス・ラボB [石塚 芽具 美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	454
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3345】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	455
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3346】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	456
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3347】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	457
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3348】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	458
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3349】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	459
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3350】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	460
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3351】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	461
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3352】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	462
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3353】サイエンス・ラボA [西村 直美、 島野 智之、吉田 智] 春学期授業/Spring	463
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3354】サイエンス・ラボB [西村 直美、 島野 智之、吉田 智] 秋学期授業/Fall	464
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3355】サイエンス・ラボA [西村 直美、 島野 智之、吉田 智] 春学期授業/Spring	465
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3356】サイエンス・ラボB [西村 直美、 島野 智之、吉田 智] 秋学期授業/Fall	466
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3357】サイエンス・ラボA [向井 知大、 小林 富美恵、島野 孝史] 春学期授業/Spring	467
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3358】サイエンス・ラボB [向井 知大、 小林 富美恵、島野 孝史] 秋学期授業/Fall	468
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3359】サイエンス・ラボA [向井 知大、 小林 富美恵、島野 孝史] 春学期授業/Spring	469
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3360】サイエンス・ラボB [向井 知大、 小林 富美恵、島野 孝史] 秋学期授業/Fall	470

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5001】 スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 春学期授業/Spring	471
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5002】 スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 秋学期授業/Fall	472
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5003】 スポーツ総合演習 [丸藤 祐子] 春学期授業/Spring	473
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5004】 スポーツ総合演習 [丸藤 祐子] 秋学期授業/Fall	474
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5005】 スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 春学期授業/Spring	475
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5006】 スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 秋学期授業/Fall	476
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5007】 スポーツ総合演習 [辻 大士] 春学期授業/Spring	477
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5008】 スポーツ総合演習 [辻 大士] 秋学期授業/Fall	478
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5009】 スポーツ総合演習 [門口 智泰] 春学期授業/Spring	479
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5010】 スポーツ総合演習 [門口 智泰] 秋学期授業/Fall	480
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5011】 スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 春学期授業/Spring	481
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5012】 スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 秋学期授業/Fall	482
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5013】 スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 春学期授業/Spring	483
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5014】 スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 秋学期授業/Fall	484
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5015】 スポーツ総合演習 [辻 大士] 春学期授業/Spring	485
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5016】 スポーツ総合演習 [辻 大士] 秋学期授業/Fall	486
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5017】 スポーツ総合演習 [荒井 弘和] 春学期授業/Spring	487
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5018】 スポーツ総合演習 [荒井 弘和] 秋学期授業/Fall	488
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5019】 スポーツ総合演習 [門口 智泰] 春学期授業/Spring	489
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5020】 スポーツ総合演習 [門口 智泰] 秋学期授業/Fall	490
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5021】 スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 春学期授業/Spring	491
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5022】 スポーツ総合演習 [雨宮 怜] 秋学期授業/Fall	492
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5101】 スポーツ総合演習 [落合 久夫] 春学期授業/Spring	493
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5102】 スポーツ総合演習 [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	494
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5103】 スポーツ総合演習 [久保 賢師] 春学期授業/Spring	495
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5104】 スポーツ総合演習 [久保 賢師] 秋学期授業/Fall	496
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5105】 スポーツ総合演習 [笠井 淳] 春学期授業/Spring	497
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5106】 スポーツ総合演習 [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	498

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5107】 スポーツ総合演習 [吉田 康 伸] 春学期授業/Spring	499
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5108】 スポーツ総合演習 [吉田 康 伸] 秋学期授業/Fall	500
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5109】 スポーツ総合演習 [落合 久 夫] 春学期授業/Spring	501
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5110】 スポーツ総合演習 [落合 久 夫] 秋学期授業/Fall	502
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5111】 スポーツ総合演習 [久保 賢 師] 春学期授業/Spring	503
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5112】 スポーツ総合演習 [久保 賢 師] 秋学期授業/Fall	504
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5113】 スポーツ総合演習 [位高 駿 夫] 春学期授業/Spring	505
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5114】 スポーツ総合演習 [位高 駿 夫] 秋学期授業/Fall	506
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5115】 スポーツ総合演習 [吉田 康 伸] 春学期授業/Spring	507
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5116】 スポーツ総合演習 [吉田 康 伸] 秋学期授業/Fall	508
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5117】 スポーツ総合演習 [落合 久 夫] 春学期授業/Spring	509
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5118】 スポーツ総合演習 [落合 久 夫] 秋学期授業/Fall	510
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5119】 スポーツ総合演習 [久保 賢 師] 春学期授業/Spring	511
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5120】 スポーツ総合演習 [久保 賢 師] 秋学期授業/Fall	512
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5121】 スポーツ総合演習 [位高 駿 夫] 春学期授業/Spring	513
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5122】 スポーツ総合演習 [位高 駿 夫] 秋学期授業/Fall	514
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5201】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 春学期授業/Spring	515
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5202】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 秋学期授業/Fall	517
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5203】 スポーツ総合演習 [鈴木 良 則] 春学期授業/Spring	518
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5204】 スポーツ総合演習 [鈴木 良 則] 秋学期授業/Fall	520
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5205】 スポーツ総合演習 [草山 太 一] 春学期授業/Spring	521
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5206】 スポーツ総合演習 [草山 太 一] 秋学期授業/Fall	523
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5207】 スポーツ総合演習 [三好 英 次] 春学期授業/Spring	524
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5208】 スポーツ総合演習 [三好 英 次] 秋学期授業/Fall	526
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5209】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 春学期授業/Spring	527
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5210】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 秋学期授業/Fall	529
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5211】 スポーツ総合演習 [鈴木 良 則] 春学期授業/Spring	530
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5212】 スポーツ総合演習 [鈴木 良 則] 秋学期授業/Fall	532

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5213】 スポーツ総合演習 [草山 太一] 春学期授業/Spring	533
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5214】 スポーツ総合演習 [草山 太一] 秋学期授業/Fall	535
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5215】 スポーツ総合演習 [三好 英次] 春学期授業/Spring	536
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5216】 スポーツ総合演習 [三好 英次] 秋学期授業/Fall	538
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5217】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 春学期授業/Spring	539
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5218】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 秋学期授業/Fall	541
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5219】 スポーツ総合演習 [鈴木 良則] 春学期授業/Spring	542
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5220】 スポーツ総合演習 [鈴木 良則] 秋学期授業/Fall	544
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5221】 スポーツ総合演習 [草山 太一] 春学期授業/Spring	545
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5222】 スポーツ総合演習 [草山 太一] 秋学期授業/Fall	547
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5223】 スポーツ総合演習 [三好 英次] 春学期授業/Spring	548
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5224】 スポーツ総合演習 [三好 英次] 秋学期授業/Fall	550
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5301】 スポーツ総合演習 [千葉 陽子] 春学期授業/Spring	551
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5302】 スポーツ総合演習 [千葉 陽子] 秋学期授業/Fall	552
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5303】 スポーツ総合演習 [福井 邦宗] 春学期授業/Spring	553
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5304】 スポーツ総合演習 [福井 邦宗] 秋学期授業/Fall	554
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5305】 スポーツ総合演習 [高野 美穂] 春学期授業/Spring	555
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5306】 スポーツ総合演習 [高野 美穂] 秋学期授業/Fall	556
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5307】 スポーツ総合演習 [飯村 周平] 春学期授業/Spring	557
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5308】 スポーツ総合演習 [飯村 周平] 秋学期授業/Fall	558
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5309】 スポーツ総合演習 [千葉 陽子] 春学期授業/Spring	559
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5310】 スポーツ総合演習 [千葉 陽子] 秋学期授業/Fall	560
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5311】 スポーツ総合演習 [福井 邦宗] 春学期授業/Spring	561
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5312】 スポーツ総合演習 [福井 邦宗] 秋学期授業/Fall	562
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5313】 スポーツ総合演習 [高野 美穂] 春学期授業/Spring	563
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5314】 スポーツ総合演習 [高野 美穂] 秋学期授業/Fall	564
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5315】 スポーツ総合演習 [中澤 史] 春学期授業/Spring	565
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5316】 スポーツ総合演習 [中澤 史] 秋学期授業/Fall	566

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5317】 スポーツ総合演習 [千葉 陽子] 春学期授業/Spring	567
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5318】 スポーツ総合演習 [千葉 陽子] 秋学期授業/Fall	568
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5319】 スポーツ総合演習 [飯村 周平] 春学期授業/Spring	569
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5320】 スポーツ総合演習 [飯村 周平] 秋学期授業/Fall	570
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5321】 スポーツ総合演習 [笠井 淳] 春学期授業/Spring	571
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5322】 スポーツ総合演習 [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	572
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5327】 スポーツ総合演習 [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	573
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5328】 スポーツ総合演習 [竹内 洋輔] 春学期授業/Spring	574
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5329】 スポーツ総合演習 [小谷 究] 春学期授業/Spring	575
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5330】 スポーツ総合演習 [小谷 究] 秋学期授業/Fall	576
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5331】 スポーツ総合演習 [竹内 洋輔] 春学期授業/Spring	577
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5332】 スポーツ総合演習 [竹内 洋輔] 秋学期授業/Fall	578
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5401】 スポーツ総合演習 [千葉 陽子] 春学期集中/Intensive(Spring)	579
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5403】 スポーツ総合演習 [位高 駿夫] 春学期集中/Intensive(Spring)	580
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5405】 スポーツ総合演習 [落合 久夫] 春学期集中/Intensive(Spring)	581
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5407】 スポーツ総合演習 [鈴木 良則] 春学期集中/Intensive(Spring)	582
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5418】 スポーツ総合演習 [荒井 弘和] 秋学期授業/Fall	584
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5419】 スポーツ総合演習 [荒井 弘和] 春学期集中/Intensive(Spring)	585
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5501】 スポーツ総合演習 S [國井 和彦] 春学期授業/Spring	586
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5502】 スポーツ総合演習 S [國井 和彦] 秋学期授業/Fall	587
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5601】 スポーツ総合演習 [國井 和彦] 春学期授業/Spring	588
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5602】 スポーツ総合演習 [國井 和彦] 秋学期授業/Fall	589
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5603】 スポーツ総合演習 [竹内 洋輔] 春学期授業/Spring	590
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5604】 スポーツ総合演習 [竹内 洋輔] 秋学期授業/Fall	591
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0001】 English 1 I [中和 彩子] 春学期授業/Spring	592
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0002】 English 1 II [中和 彩子] 秋学期授業/Fall	593
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0003】 English 1 I [妻鹿 裕子] 春学期授業/Spring	594
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0004】 English 1 II [妻鹿 裕子] 秋学期授業/Fall	594

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0005】 English 1 I [吉川 太恵子] 春学期授業/Spring	595
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0006】 English 1 II [吉川 太恵子] 秋学期授業/Fall	596
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0007】 English 1 I [當麻 幸子] 春 学期授業/Spring	597
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0008】 English 1 II [當麻 幸子] 秋 学期授業/Fall	597
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0009】 English 1 I [神 康介] 春学 期授業/Spring	598
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0010】 English 1 II [神 康介] 秋学 期授業/Fall	599
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0011】 English 1 I [小川 真也] 春 学期授業/Spring	600
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0012】 English 1 II [小川 真也] 秋 学期授業/Fall	601
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0013】 English 1 I [岡崎 真美] 春 学期授業/Spring	602
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0014】 English 1 II [岡崎 真美] 秋 学期授業/Fall	603
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0015】 English 1 I [鈴木 俊二] 春 学期授業/Spring	604
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0016】 English 1 II [鈴木 俊二] 秋 学期授業/Fall	605
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0017】 English 1 I [高 友希子] 春 学期授業/Spring	606
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0018】 English 1 II [高 友希子] 秋 学期授業/Fall	606
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0019】 English 1 I [藤井 道行] 春 学期授業/Spring	607
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0020】 English 1 II [藤井 道行] 秋 学期授業/Fall	608
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0021】 English 1 I [保坂 嘉恵美] 春学期授業/Spring	609
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0022】 English 1 II [保坂 嘉恵美] 秋学期授業/Fall	610
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0023】 English 1 I [根本 怜奈] 春 学期授業/Spring	611
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0024】 English 1 II [根本 怜奈] 秋 学期授業/Fall	612
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0025】 English 1 I [余田 亜希] 春 学期授業/Spring	613
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0026】 English 1 II [余田 亜希] 秋 学期授業/Fall	614
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0027】 English 1 I [深澤 清] 春学 期授業/Spring	615
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0028】 English 1 II [深澤 清] 秋学 期授業/Fall	616
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0029】 English 1 I [岡崎 真美] 春 学期授業/Spring	617
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0030】 English 1 II [岡崎 真美] 秋 学期授業/Fall	618
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0035】 English 1 I [吉川 太恵子] 春学期授業/Spring	619
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0036】 English 1 II [吉川 太恵子] 秋学期授業/Fall	620

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0037】 English 1 I [藤井 道行] 春 学期授業/Spring	621
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0038】 English 1 II [藤井 道行] 秋 学期授業/Fall	622
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0039】 English 1 I [妻鹿 裕子] 春 学期授業/Spring	623
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0040】 English 1 II [妻鹿 裕子] 秋 学期授業/Fall	623
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0041】 English 1 I [神 康介] 春学 期授業/Spring	624
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0042】 English 1 II [神 康介] 秋学 期授業/Fall	625
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0043】 English 1 I [久慈 美貴] 春 学期授業/Spring	626
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0044】 English 1 II [久慈 美貴] 秋 学期授業/Fall	627
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0045】 English 1 I [小川 真也] 春 学期授業/Spring	628
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0046】 English 1 II [小川 真也] 秋 学期授業/Fall	629
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0047】 English 1 I [岡崎 真美] 春 学期授業/Spring	630
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0048】 English 1 II [岡崎 真美] 秋 学期授業/Fall	631
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0049】 English 1 I [鈴木 俊二] 春 学期授業/Spring	632
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0050】 English 1 II [鈴木 俊二] 秋 学期授業/Fall	633
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0051】 English 1 I [高 友希子] 春 学期授業/Spring	634
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0052】 English 1 II [高 友希子] 秋 学期授業/Fall	635
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0053】 English 1 I [余田 亜希] 春 学期授業/Spring	635
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0054】 English 1 II [余田 亜希] 秋 学期授業/Fall	636
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0055】 English 1 I [保坂 嘉恵美] 春学期授業/Spring	637
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0056】 English 1 II [保坂 嘉恵美] 秋学期授業/Fall	638
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0057】 English 1 I [根本 怜奈] 春 学期授業/Spring	639
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0058】 English 1 II [根本 怜奈] 秋 学期授業/Fall	640
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0059】 English 1 I [深澤 清] 春学 期授業/Spring	641
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0060】 English 1 II [深澤 清] 秋学 期授業/Fall	642
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0061】 English 1 I [岡崎 真美] 春 学期授業/Spring	643
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0062】 English 1 II [岡崎 真美] 秋 学期授業/Fall	644
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0063】 English 1 I [當麻 幸子] 春 学期授業/Spring	646
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0064】 English 1 II [當麻 幸子] 秋 学期授業/Fall	646

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0071】 English 1 I [清水 純子] 春 学期授業/Spring	647
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0072】 English 1 II [清水 純子] 秋 学期授業/Fall	648
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0073】 English 1 I [大澤 岳彦] 春 学期授業/Spring	649
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0074】 English 1 II [大澤 岳彦] 秋 学期授業/Fall	650
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0075】 English 1 I [竹内 晶子] 春 学期授業/Spring	651
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0076】 English 1 II [竹内 晶子] 秋 学期授業/Fall	652
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0077】 English 1 I [北 文美子] 春 学期授業/Spring	653
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0078】 English 1 II [北 文美子] 秋 学期授業/Fall	653
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0079】 English 1 I [大和久 悌一郎] 春学期授業/Spring	654
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0080】 English 1 II [大和久 悌一郎] 秋学期授業/Fall	655
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0081】 English 1 I [吉川 太恵子] 春学期授業/Spring	656
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0082】 English 1 II [吉川 太恵子] 秋学期授業/Fall	657
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0083】 English 1 I [余田 剛] 春学 期授業/Spring	658
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0084】 English 1 II [余田 剛] 秋学 期授業/Fall	659
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0085】 English 1 I [菊池 かおり] 春学期授業/Spring	660
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0086】 English 1 II [菊池 かおり] 秋学期授業/Fall	661
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0087】 English 1 I [本間 章郎] 春 学期授業/Spring	662
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0088】 English 1 II [本間 章郎] 秋 学期授業/Fall	663
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0089】 English 1 I [中和 彩子] 春 学期授業/Spring	664
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0090】 English 1 II [中和 彩子] 秋 学期授業/Fall	665
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0091】 English 1 I [塩谷 幸子] 春 学期授業/Spring	666
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0092】 English 1 II [塩谷 幸子] 秋 学期授業/Fall	667
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0093】 English 1 I [利根川 真紀] 春学期授業/Spring	668
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0094】 English 1 II [利根川 真紀] 秋学期授業/Fall	669
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0095】 English 1 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	670
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0096】 English 1 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	670
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0097】 English 1 I [萩原 眞一] 春 学期授業/Spring	671
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0098】 English 1 II [萩原 眞一] 秋 学期授業/Fall	672

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0099】 English 1 I [村松 美映子] 春学期授業/Spring	673
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0100】 English 1 II [村松 美映子] 秋学期授業/Fall	674
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0105】 English 1 I [竹内 晶子] 春 学期授業/Spring	675
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0106】 English 1 II [竹内 晶子] 秋 学期授業/Fall	676
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0107】 English 1 I [大澤 岳彦] 春 学期授業/Spring	677
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0108】 English 1 II [大澤 岳彦] 秋 学期授業/Fall	678
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0109】 English 1 I [猪俣 佳瑞美] 春学期授業/Spring	679
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0110】 English 1 II [猪俣 佳瑞美] 秋学期授業/Fall	680
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0111】 English 1 I [岡村 由美子] 春学期授業/Spring	681
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0112】 English 1 II [岡村 由美子] 秋学期授業/Fall	681
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0113】 English 1 I [余田 剛] 春学 期授業/Spring	682
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0114】 English 1 II [余田 剛] 秋学 期授業/Fall	683
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0115】 English 1 I [萩原 真一] 春 学期授業/Spring	684
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0116】 English 1 II [萩原 真一] 秋 学期授業/Fall	685
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0117】 English 1 I [高井 美紀子] 春学期授業/Spring	686
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0118】 English 1 II [高井 美紀子] 秋学期授業/Fall	687
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0119】 English 1 I [菊池 かおり] 春学期授業/Spring	688
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0120】 English 1 II [菊池 かおり] 秋学期授業/Fall	689
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0121】 English 1 I [本間 章郎] 春 学期授業/Spring	690
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0122】 English 1 II [本間 章郎] 秋 学期授業/Fall	691
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0123】 English 1 I [北 文美子] 春 学期授業/Spring	692
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0124】 English 1 II [北 文美子] 秋 学期授業/Fall	692
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0125】 English 1 I [塩谷 幸子] 春 学期授業/Spring	693
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0126】 English 1 II [塩谷 幸子] 秋 学期授業/Fall	694
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0127】 English 1 I [利根川 真紀] 春学期授業/Spring	695
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0128】 English 1 II [利根川 真紀] 秋学期授業/Fall	696
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0129】 English 1 I [村松 美映子] 春学期授業/Spring	697
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0130】 English 1 II [村松 美映子] 秋学期授業/Fall	698

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0131】 English 1 I [清水 純子] 春 学期授業/Spring	699
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0132】 English 1 II [清水 純子] 秋 学期授業/Fall	700
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0133】 English 1 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	701
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0134】 English 1 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	701
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0135】 English 1 I [中和 彩子] 春 学期授業/Spring	702
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0136】 English 1 II [中和 彩子] 秋 学期授業/Fall	703
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0141】 English 1 I [遠藤 郁子] 春 学期授業/Spring	704
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0142】 English 1 II [遠藤 郁子] 秋 学期授業/Fall	705
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0143】 English 1 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring	706
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0144】 English 1 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall	707
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0145】 English 1 I [小泉 和弘] 春 学期授業/Spring	708
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0146】 English 1 II [小泉 和弘] 秋 学期授業/Fall	709
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0147】 English 1 I [高橋 優身] 春 学期授業/Spring	710
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0148】 English 1 II [高橋 優身] 秋 学期授業/Fall	711
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0149】 English 1 I [杉 亜希子] 春 学期授業/Spring	712
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0150】 English 1 II [杉 亜希子] 秋 学期授業/Fall	713
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0151】 English 1 I [田中 邦佳] 春 学期授業/Spring	714
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0152】 English 1 II [田中 邦佳] 秋 学期授業/Fall	715
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0153】 English 1 I [坂梨 健史郎] 春学期授業/Spring	716
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0154】 English 1 II [坂梨 健史郎] 秋学期授業/Fall	717
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0155】 English 1 I [田口 清一] 春 学期授業/Spring	718
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0156】 English 1 II [田口 清一] 秋 学期授業/Fall	719
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0157】 English 1 I [岩下 弘史] 春 学期授業/Spring	720
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0158】 English 1 II [岩下 弘史] 秋 学期授業/Fall	721
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0159】 English 1 I [吉田 和久] 春 学期授業/Spring	722
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0160】 English 1 II [吉田 和久] 秋 学期授業/Fall	723
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0161】 English 1 I [北 文美子] 春 学期授業/Spring	724
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0162】 English 1 II [北 文美子] 秋 学期授業/Fall	724

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0163】 English 1 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring	725
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0164】 English 1 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall	726
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0165】 English 1 I [藤井 道行] 春 学期授業/Spring	727
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0166】 English 1 II [藤井 道行] 秋 学期授業/Fall	728
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0167】 English 1 I [池田 しおり] 春学期授業/Spring	729
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0168】 English 1 II [池田 しおり] 秋学期授業/Fall	730
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0169】 English 1 I [吉江 秀和] 春 学期授業/Spring	731
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0170】 English 1 II [吉江 秀和] 秋 学期授業/Fall	732
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0171】 English 1 I [妻鹿 裕子] 春 学期授業/Spring	733
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0172】 English 1 II [妻鹿 裕子] 秋 学期授業/Fall	733
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0173】 English 1 I [滝沢 玄] 春学 期授業/Spring	734
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0174】 English 1 II [滝沢 玄] 秋学 期授業/Fall	735
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0181】 English 1 I [菊池 かおり] 春学期授業/Spring	735
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0182】 English 1 II [岩下 弘史] 秋 学期授業/Fall	736
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0183】 English 1 I [滝沢 玄] 春学 期授業/Spring	737
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0184】 English 1 II [滝沢 玄] 秋学 期授業/Fall	738
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0185】 English 1 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring	738
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0186】 English 1 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall	739
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0187】 English 1 I [田口 清一] 春 学期授業/Spring	740
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0188】 English 1 II [田口 清一] 秋 学期授業/Fall	741
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0189】 English 1 I [小泉 和弘] 春 学期授業/Spring	742
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0190】 English 1 II [小泉 和弘] 秋 学期授業/Fall	743
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0191】 English 1 I [岩下 弘史] 春 学期授業/Spring	744
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0192】 English 1 II [岩下 弘史] 秋 学期授業/Fall	745
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0193】 English 1 I [坂梨 健史郎] 春学期授業/Spring	746
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0194】 English 1 II [坂梨 健史郎] 秋学期授業/Fall	747
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0195】 English 1 I [岡村 由美子] 春学期授業/Spring	748
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0196】 English 1 II [岡村 由美子] 秋学期授業/Fall	749

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0197】 English 1 I [須藤 祐二] 春 学期授業/Spring	749
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0198】 English 1 II [須藤 祐二] 秋 学期授業/Fall	750
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0199】 English 1 I [吉田 和久] 春 学期授業/Spring	751
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0200】 English 1 II [吉田 和久] 秋 学期授業/Fall	752
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0201】 English 1 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring	753
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0202】 English 1 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall	754
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0203】 English 1 I [北 文美子] 春 学期授業/Spring	755
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0204】 English 1 II [北 文美子] 秋 学期授業/Fall	756
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0205】 English 1 I [田中 邦佳] 春 学期授業/Spring	756
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0206】 English 1 II [田中 邦佳] 秋 学期授業/Fall	757
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0207】 English 1 I [高橋 優身] 春 学期授業/Spring	758
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0208】 English 1 II [高橋 優身] 秋 学期授業/Fall	759
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0209】 English 1 I [吉江 秀和] 春 学期授業/Spring	760
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0210】 English 1 II [吉江 秀和] 秋 学期授業/Fall	761
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0211】 English 1 I [杉 亜希子] 春 学期授業/Spring	762
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0212】 English 1 II [杉 亜希子] 秋 学期授業/Fall	763
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0213】 English 1 I [池田 しおり] 春学期授業/Spring	764
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0214】 English 1 II [池田 しおり] 秋学期授業/Fall	765
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0215】 English 1 I [中垣 恒太郎] 春学期授業/Spring	766
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0216】 English 1 II [中垣 恒太郎] 秋学期授業/Fall	767
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0217】 English 1 I [塩谷 幸子] 春 学期授業/Spring	768
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0218】 English 1 II [塩谷 幸子] 秋 学期授業/Fall	769
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0219】 English 1 I [塩谷 幸子] 春 学期授業/Spring	770
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0220】 English 1 II [塩谷 幸子] 秋 学期授業/Fall	771
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0221】 English 2 I [ジェフリー タ ロフスキー] 春学期授業/Spring	772
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0222】 English 2 II [ジェフリー タ ロフスキー] 秋学期授業/Fall	773
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0223】 English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	774
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0224】 English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	775

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0225】 English 2 I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring	776
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0226】 English 2 II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall	777
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0227】 English 2 I [中垣 恒太郎] 春学期授業/Spring	778
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0228】 English 2 II [中垣 恒太郎] 秋学期授業/Fall	779
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0229】 English 2 I [ジェイソン・ポー ル・スミス] 春学期授業/Spring	780
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0230】 English 2 II [ジェイソン・ポー ル・スミス] 秋学期授業/Fall	781
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0231】 English 2 I [ナダー ジャミ リア] 春学期授業/Spring	782
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0232】 English 2 II [ナダー ジャミ リア] 秋学期授業/Fall	783
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0233】 English 2 I [塩谷 幸子] 春 学期授業/Spring	784
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0234】 English 2 II [塩谷 幸子] 秋 学期授業/Fall	785
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0235】 English 2 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring	786
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0236】 English 2 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall	787
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0237】 English 2 I [マイケル マー フィー] 春学期授業/Spring	788
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0238】 English 2 II [マイケル マー フィー] 秋学期授業/Fall	789
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0239】 English 2 I [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	790
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0240】 English 2 II [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	791
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0241】 English 2 I [アンドリュース・ チェン] 春学期授業/Spring	792
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0242】 English 2 II [アンドリュース・ チェン] 秋学期授業/Fall	793
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0243】 English 2 I [リチャード・バ ロース] 春学期授業/Spring	794
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0244】 English 2 II [リチャード・バ ロース] 秋学期授業/Fall	795
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0245】 English 2 I [ロジャー エド ウィン パティモア] 春学期授業/Spring	796
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0246】 English 2 II [ロジャー エド ウィン パティモア] 秋学期授業/Fall	797
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0247】 English 2 I [スティーブン モリス] 春学期授業/Spring	799
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0248】 English 2 II [スティーブン モリス] 秋学期授業/Fall	800
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0249】 English 2 I [マイケル マー フィー] 春学期授業/Spring	801
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0250】 English 2 II [マイケル マー フィー] 秋学期授業/Fall	802
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0255】 English 2 I [中垣 恒太郎] 春学期授業/Spring	803
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0256】 English 2 II [中垣 恒太郎] 秋学期授業/Fall	804

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0257】 English 2 I [マイケル マー フィー] 春学期授業/Spring	805
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0258】 English 2 II [マイケル マー フィー] 秋学期授業/Fall	806
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0259】 English 2 I [ジェフリー タ ロフスキー] 春学期授業/Spring	807
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0260】 English 2 II [ジェフリー タ ロフスキー] 秋学期授業/Fall	808
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0261】 English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	809
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0262】 English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	810
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0263】 English 2 I [ナダー ジャミ リア] 春学期授業/Spring	811
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0264】 English 2 II [ナダー ジャミ リア] 秋学期授業/Fall	812
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0265】 English 2 I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring	813
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0266】 English 2 II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall	813
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0267】 English 2 I [塩谷 幸子] 春 学期授業/Spring	814
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0268】 English 2 II [塩谷 幸子] 秋 学期授業/Fall	815
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0269】 English 2 I [新宅 美樹] 春 学期授業/Spring	816
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0270】 English 2 II [新宅 美樹] 秋 学期授業/Fall	817
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0271】 English 2 I [マイケル マー フィー] 春学期授業/Spring	818
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0272】 English 2 II [マイケル マー フィー] 秋学期授業/Fall	819
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0273】 English 2 I [ロジャー エド ウィン パティモア] 春学期授業/Spring	820
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0274】 English 2 II [ロジャー エド ウィン パティモア] 秋学期授業/Fall	821
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0275】 English 2 I [アンドリュース・ チェン] 春学期授業/Spring	823
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0276】 English 2 II [アンドリュース・ チェン] 秋学期授業/Fall	824
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0277】 English 2 I [スティーブン モリス] 春学期授業/Spring	825
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0278】 English 2 II [スティーブン モリス] 秋学期授業/Fall	826
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0279】 English 2 I [リチャード・バ ロース] 春学期授業/Spring	827
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0280】 English 2 II [リチャード・バ ロース] 秋学期授業/Fall	828
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0281】 English 2 I [ジェイソン・ポー ル・スミス] 春学期授業/Spring	829
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0282】 English 2 II [ジェイソン・ポー ル・スミス] 秋学期授業/Fall	830
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0283】 English 2 I [ウォルター カ ズマー] 春学期授業/Spring	831
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0284】 English 2 II [ウォルター カ ズマー] 秋学期授業/Fall	832

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0291】 English 2 I [石原 紀子] 春 学期授業/Spring	833
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0292】 English 2 II [石原 紀子] 秋 学期授業/Fall	834
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0293】 English 2 I [岩崎 博] 春学 期授業/Spring	835
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0294】 English 2 II [岩崎 博] 秋学 期授業/Fall	836
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0295】 English 2 I [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	837
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0296】 English 2 II [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	838
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0297】 English 2 I [森永 豊] 春学 期授業/Spring	839
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0298】 English 2 II [森永 豊] 秋学 期授業/Fall	840
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0299】 English 2 I [榊原 益子] 春 学期授業/Spring	841
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0300】 English 2 II [榊原 益子] 秋 学期授業/Fall	842
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0301】 English 2 I [大槻 美春] 春 学期授業/Spring	843
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0302】 English 2 II [大槻 美春] 秋 学期授業/Fall	844
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0303】 English 2 I [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	845
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0304】 English 2 II [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	846
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0305】 English 2 I [ジェフリー タ ロフスキー] 春学期授業/Spring	847
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0306】 English 2 II [ジェフリー タ ロフスキー] 秋学期授業/Fall	848
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0307】 English 2 I [フィル・ケニー] 春学期授業/Spring	849
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0308】 English 2 II [フィル・ケニー] 秋学期授業/Fall	850
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0309】 English 2 I [ジェフリー タ ロフスキー] 春学期授業/Spring	850
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0310】 English 2 II [ジェフリー タ ロフスキー] 秋学期授業/Fall	851
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0311】 English 2 I [ロバート・D・ ヒントン] 春学期授業/Spring	852
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0312】 English 2 II [ロバート・D・ ヒントン] 秋学期授業/Fall	853
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0313】 English 2 I [ロジャー エド ウィン パティモア] 春学期授業/Spring	854
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0314】 English 2 II [ロジャー エド ウィン パティモア] 秋学期授業/Fall	856
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0315】 English 2 I [中田 達也] 春 学期授業/Spring	857
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0316】 English 2 II [中田 達也] 秋 学期授業/Fall	858
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0317】 English 2 I [クリス マシオ] 春学期授業/Spring	858
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0318】 English 2 II [クリス マシオ] 秋学期授業/Fall	859

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0319】 English 2 I [フィル・ケニー] 春学期授業/Spring	860
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0320】 English 2 II [フィル・ケニー] 秋学期授業/Fall	861
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0325】 English 2 I [ロジャー エド ウィン パティモア] 春学期授業/Spring	861
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0326】 English 2 II [ロジャー エド ウィン パティモア] 秋学期授業/Fall	863
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0327】 English 2 I [フィル・ケニー] 春学期授業/Spring	864
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0328】 English 2 II [フィル・ケニー] 秋学期授業/Fall	865
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0329】 English 2 I [クリス マシオ] 春学期授業/Spring	865
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0330】 English 2 II [クリス マシオ] 秋学期授業/Fall	866
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0331】 English 2 I [榊原 益子] 春 学期授業/Spring	867
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0332】 English 2 II [榊原 益子] 秋 学期授業/Fall	868
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0333】 English 2 I [岩崎 博] 春学 期授業/Spring	869
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0334】 English 2 II [岩崎 博] 秋学 期授業/Fall	870
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0335】 English 2 I [クリス マシオ] 春学期授業/Spring	871
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0336】 English 2 II [クリス マシオ] 秋学期授業/Fall	872
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0337】 English 2 I [山崎 亮介] 春 学期授業/Spring	873
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0338】 English 2 II [山崎 亮介] 秋 学期授業/Fall	874
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0339】 English 2 I [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	875
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0340】 English 2 II [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	876
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0341】 English 2 I [ジェフリー タ ロフスキー] 春学期授業/Spring	877
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0342】 English 2 II [ジェフリー タ ロフスキー] 秋学期授業/Fall	878
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0343】 English 2 I [ジェフリー タ ロフスキー] 春学期授業/Spring	879
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0344】 English 2 II [ジェフリー タ ロフスキー] 秋学期授業/Fall	880
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0345】 English 2 I [ロバート・D・ ヒントン] 春学期授業/Spring	881
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0346】 English 2 II [ロバート・D・ ヒントン] 秋学期授業/Fall	882
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0347】 English 2 I [フィル・ケニー] 春学期授業/Spring	883
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0348】 English 2 II [フィル・ケニー] 秋学期授業/Fall	884
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0349】 English 2 I [中田 達也] 春 学期授業/Spring	884
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0350】 English 2 II [中田 達也] 秋 学期授業/Fall	885

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0351】 English 2 I [トビー トラブ]	
春学期授業/Spring	885
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0352】 English 2 II [トビー トラブ]	
秋学期授業/Fall	887
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0353】 English 2 I [石原 紀子] 春	
学期授業/Spring	888
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0354】 English 2 II [石原 紀子] 秋	
学期授業/Fall	889
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0355】 English 2 I [Kregg Johnston]	
春学期授業/Spring	890
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0356】 English 2 II [Kregg Johnston]	
秋学期授業/Fall	891
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0361】 English 2 I [アネッテ・グ	
ルーバー] 春学期授業/Spring	892
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0362】 English 2 II [アネッテ・グ	
ルーバー] 秋学期授業/Fall	893
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0363】 English 2 I [ALAN M	
NICHOLLS] 春学期授業/Spring	894
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0364】 English 2 II [ALAN M	
NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	895
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0365】 English 2 I [門馬 義幸] 春	
学期授業/Spring	896
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0366】 English 2 II [門馬 義幸] 秋	
学期授業/Fall	897
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0367】 English 2 I [パワー トーマ	
ス G] 春学期授業/Spring	897
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0368】 English 2 II [パワー トーマ	
ス G] 秋学期授業/Fall	898
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0369】 English 2 I [鹿子嶋 由佳] 春	
学期授業/Spring	899
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0370】 English 2 II [鹿子嶋 由佳] 秋	
学期授業/Fall	900
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0371】 English 2 I [北原 ルック	
明子] 春学期授業/Spring	901
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0372】 English 2 II [北原 ルック	
明子] 秋学期授業/Fall	902
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0373】 English 2 I [森永 豊] 春学	
期授業/Spring	903
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0374】 English 2 II [森永 豊] 秋学	
期授業/Fall	904
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0375】 English 2 I [ウォルター カ	
ズマー] 春学期授業/Spring	906
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0376】 English 2 II [ウォルター カ	
ズマー] 秋学期授業/Fall	907
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0377】 English 2 I [榊原 益子] 春	
学期授業/Spring	908
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0378】 English 2 II [榊原 益子] 秋	
学期授業/Fall	909
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0379】 English 2 I [溝部 敦子] 春	
学期授業/Spring	910
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0380】 English 2 II [石原 紀子] 秋	
学期授業/Fall	911
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0381】 English 2 I [ドノヴァン マ	
イケル] 春学期授業/Spring	912
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0382】 English 2 II [ドノヴァン マ	
イケル] 秋学期授業/Fall	913

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0383】 English 2 I [リチャード・パ ロース] 春学期授業/Spring	914
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0384】 English 2 II [リチャード・パ ロース] 秋学期授業/Fall	915
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0385】 English 2 I [フィル・ケニー] 春学期授業/Spring	916
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0386】 English 2 II [フィル・ケニー] 秋学期授業/Fall	916
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0387】 English 2 I [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	917
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0388】 English 2 II [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	918
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0389】 English 2 I [川澄 亜岐子] 春学期授業/Spring	919
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0390】 English 2 II [川澄 亜岐子] 秋学期授業/Fall	920
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0391】 English 2 I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	921
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0392】 English 2 II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	922
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0393】 English 2 I [スティーブン モリス] 春学期授業/Spring	923
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0394】 English 2 II [スティーブン モリス] 秋学期授業/Fall	924
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0401】 English 2 I [鹿子嶋 由佳] 春 学期授業/Spring	925
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0402】 English 2 II [鹿子嶋 由佳] 秋 学期授業/Fall	926
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0403】 English 2 I [アネット・グ ルーバー] 春学期授業/Spring	927
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0404】 English 2 II [アネット・グ ルーバー] 秋学期授業/Fall	928
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0405】 English 2 I [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	929
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0406】 English 2 II [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	930
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0407】 English 2 I [井上 紗央里] 春学期授業/Spring	931
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0408】 English 2 II [井上 紗央里] 秋学期授業/Fall	932
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0409】 English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	933
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0410】 English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	934
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0411】 English 2 I [門馬 義幸] 春 学期授業/Spring	935
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0412】 English 2 II [門馬 義幸] 秋 学期授業/Fall	935
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0413】 English 2 I [森永 豊] 春学 期授業/Spring	936
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0414】 English 2 II [森永 豊] 秋学 期授業/Fall	937
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0415】 English 2 I [ウォルター カ ズマー] 春学期授業/Spring	938
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0416】 English 2 II [ウォルター カ ズマー] 秋学期授業/Fall	939

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0417】 English 2 I [榊原 益子] 春 学期授業/Spring	940
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0418】 English 2 II [榊原 益子] 秋 学期授業/Fall	941
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0419】 English 2 I [溝部 敦子] 春 学期授業/Spring	942
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0420】 English 2 II [溝部 敦子] 秋 学期授業/Fall	943
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0421】 English 2 I [リチャード・バ ローズ] 春学期授業/Spring	944
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0422】 English 2 II [リチャード・バ ローズ] 秋学期授業/Fall	945
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0423】 English 2 I [ドノヴァン マ イケル] 春学期授業/Spring	946
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0424】 English 2 II [ドノヴァン マ イケル] 秋学期授業/Fall	947
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0425】 English 2 I [斎藤 昇] 春学 期授業/Spring	948
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0426】 English 2 II [斎藤 昇] 秋学 期授業/Fall	949
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0427】 English 2 I [フィル・ケニー] 春学期授業/Spring	950
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0428】 English 2 II [フィル・ケニー] 秋学期授業/Fall	951
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0429】 English 2 I [川澄 亜岐子] 春学期授業/Spring	951
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0430】 English 2 II [川澄 亜岐子] 秋学期授業/Fall	952
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0431】 English 2 I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	953
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0432】 English 2 II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	954
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0433】 English 2 I [スティーブン モリス] 春学期授業/Spring	955
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0434】 English 2 II [スティーブン モリス] 秋学期授業/Fall	956
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0435】 English 2 I [鈴木 俊二] 春 学期授業/Spring	957
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0436】 English 2 II [鈴木 俊二] 秋 学期授業/Fall	958
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0437】 English 2 I [鈴木 俊二] 春 学期授業/Spring	959
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0438】 English 2 II [鈴木 俊二] 秋 学期授業/Fall	960
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0501】 英語 1 [小川 真也] 春学期授 業/Spring	961
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0502】 英語 3 [小川 真也] 秋学期授 業/Fall	962
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0503】 英語 1 [遠藤 郁子] 春学期授 業/Spring	963
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0504】 英語 3 [遠藤 郁子] 秋学期授 業/Fall	964
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0505】 英語 1 [宇治谷 義英] 春学期 授業/Spring	965
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0506】 英語 3 [宇治谷 義英] 秋学期 授業/Fall	966

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0507】 英語 1 [永井 大輔] 春学期授 業/Spring.....	967
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0508】 英語 3 [永井 大輔] 秋学期授 業/Fall	969
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0509】 英語 1 [栗飯原 文子] 春学期 授業/Spring.....	970
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0510】 英語 3 [栗飯原 文子] 秋学期 授業/Fall	971
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0511】 英語 1 [吉田 季実子] 春学期 授業/Spring.....	972
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0512】 英語 3 [吉田 季実子] 秋学期 授業/Fall	972
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0513】 英語 1 [小川 真也] 春学期授 業/Spring.....	973
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0514】 英語 3 [小川 真也] 秋学期授 業/Fall	974
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0515】 英語 1 [遠藤 郁子] 春学期授 業/Spring.....	975
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0516】 英語 3 [遠藤 郁子] 秋学期授 業/Fall	976
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0517】 英語 1 [宇治谷 義英] 春学期 授業/Spring.....	977
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0518】 英語 3 [宇治谷 義英] 秋学期 授業/Fall	978
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0519】 英語 1 [永井 大輔] 春学期授 業/Spring.....	979
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0520】 英語 3 [永井 大輔] 秋学期授 業/Fall	980
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0521】 英語 1 [栗飯原 文子] 春学期 授業/Spring.....	981
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0522】 英語 3 [栗飯原 文子] 秋学期 授業/Fall	982
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0523】 英語 1 [吉田 季実子] 春学期 授業/Spring.....	983
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0524】 英語 3 [吉田 季実子] 秋学期 授業/Fall	984
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0531】 英語 2 [スティーブン モリス] 春学期授業/Spring	984
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0532】 英語 4 [スティーブン モリス] 秋学期授業/Fall	985
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0533】 英語 2 [ジェイソン・ポール・ スミス] 春学期授業/Spring.....	986
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0534】 英語 4 [ジェイソン・ポール・ スミス] 秋学期授業/Fall	987
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0535】 英語 2 [ジョナサン・エーブル] 春学期授業/Spring	988
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0536】 英語 4 [ジョナサン・エーブル] 秋学期授業/Fall.....	989
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0537】 英語 2 [栩木 玲子] 春学期授 業/Spring.....	990
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0538】 英語 4 [栩木 玲子] 秋学期授 業/Fall	990
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0539】 英語 2 [URBANOVA Jana] 春 学期授業/Spring	991
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0540】 英語 4 [URBANOVA Jana] 秋 学期授業/Fall.....	992

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0541】英語2 [リチャード シーハン] 春学期授業/Spring	993
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0542】英語4 [リチャード シーハン] 秋学期授業/Fall	994
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0543】英語2 [スティーブン モリス] 春学期授業/Spring	995
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0544】英語4 [スティーブン モリス] 秋学期授業/Fall	996
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0545】英語2 [ジェイソン・ポール・ スミス] 春学期授業/Spring	997
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0546】英語4 [ジェイソン・ポール・ スミス] 秋学期授業/Fall	998
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0547】英語2 [URBANOVA Jana] 春 学期授業/Spring	999
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0548】英語4 [URBANOVA Jana] 秋 学期授業/Fall	1000
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0549】英語2 [深谷 公宣] 春学期授 業/Spring	1001
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0550】英語4 [深谷 公宣] 秋学期授 業/Fall	1002
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0551】英語2 [リチャード シーハン] 春学期授業/Spring	1003
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0552】英語4 [リチャード シーハン] 秋学期授業/Fall	1004
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0553】英語2 [栩木 玲子] 春学期授 業/Spring	1005
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0554】英語4 [栩木 玲子] 秋学期授 業/Fall	1005
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0561】英語5 [トビー トラブ] 春学 期授業/Spring	1006
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0562】英語6 [トビー トラブ] 秋学 期授業/Fall	1007
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0563】英語5 [ラスカイル・ハウザー] 春学期授業/Spring	1009
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0564】英語6 [ラスカイル・ハウザー] 秋学期授業/Fall	1010
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0565】英語5 [フィル・ケニー] 春学 期授業/Spring	1011
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0566】英語6 [フィル・ケニー] 秋学 期授業/Fall	1011
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0567】英語5 [ウォルター カズマー] 春学期授業/Spring	1012
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0568】英語6 [ウォルター カズマー] 秋学期授業/Fall	1013
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0569】英語5 [マーク・フィールド] 春学期授業/Spring	1014
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0570】英語6 [マーク・フィールド] 秋学期授業/Fall	1015
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0571】英語5 [ラスカイル・ハウザー] 春学期授業/Spring	1016
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0572】英語6 [ラスカイル・ハウザー] 秋学期授業/Fall	1017
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0573】英語5 [ウォルター カズマー] 春学期授業/Spring	1018
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0574】英語6 [ウォルター カズマー] 秋学期授業/Fall	1019

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0601】 English 1-I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	1020
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0602】 English 1-II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1020
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0603】 English 1-I [小泉 和弘] 春学期授業/Spring	1021
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0604】 English 1-II [小泉 和弘] 秋学期授業/Fall	1021
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0605】 English 1-I [吉江 秀和] 春学期授業/Spring	1022
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0606】 English 1-II [吉江 秀和] 秋学期授業/Fall	1023
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0607】 English 1-I [今井 澄子] 春学期授業/Spring	1024
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0608】 English 1-II [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	1025
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0609】 English 1-I [根本 怜奈] 春学期授業/Spring	1026
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0610】 English 1-II [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall	1027
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0611】 English 1-I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	1028
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0612】 English 1-II [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	1029
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0613】 English 1-I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	1029
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0614】 English 1-II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1030
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0615】 English 1-I [小泉 和弘] 春学期授業/Spring	1030
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0616】 English 1-II [小泉 和弘] 秋学期授業/Fall	1031
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0617】 English 1-I [吉江 秀和] 春学期授業/Spring	1031
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0618】 English 1-II [吉江 秀和] 秋学期授業/Fall	1032
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0619】 English 1-I [今井 澄子] 春学期授業/Spring	1033
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0620】 English 1-II [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	1034
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0621】 English 1-I [根本 怜奈] 春学期授業/Spring	1035
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0622】 English 1-II [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall	1036
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0623】 English 1-I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	1037
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0624】 English 1-II [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	1038
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0625】 English 1-I [青山 恵子] 春学期授業/Spring	1039
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0626】 English 1-II [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	1039
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0627】 English 1-I [青山 恵子] 春学期授業/Spring	1040
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0628】 English 1-II [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	1040

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0631】 English 2-I [小堀 洋] 春 学期授業/Spring	1041
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0632】 English 2-II [小堀 洋] 秋 学期授業/Fall	1042
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0633】 English 2-I [森永 豊] 春 学期授業/Spring	1043
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0634】 English 2-II [森永 豊] 秋 学期授業/Fall	1044
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0635】 English 2-I [大曲 陽子] 春 学期授業/Spring	1045
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0636】 English 2-II [大曲 陽子] 秋 学期授業/Fall	1046
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0637】 English 2-I [吉川 直澄] 春 学期授業/Spring	1047
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0638】 English 2-II [吉川 直澄] 秋 学期授業/Fall	1048
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0639】 English 2-I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring	1049
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0640】 English 2-II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall	1049
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0641】 English 2-I [今井 澄子] 春 学期授業/Spring	1050
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0642】 English 2-II [今井 澄子] 秋 学期授業/Fall	1051
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0643】 English 2-I [小堀 洋] 春 学期授業/Spring	1052
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0644】 English 2-II [小堀 洋] 秋 学期授業/Fall	1053
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0645】 English 2-I [森永 豊] 春 学期授業/Spring	1054
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0646】 English 2-II [森永 豊] 秋 学期授業/Fall	1055
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0647】 English 2-I [大曲 陽子] 春 学期授業/Spring	1056
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0648】 English 2-II [大曲 陽子] 秋 学期授業/Fall	1057
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0649】 English 2-I [吉川 直澄] 春 学期授業/Spring	1058
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0650】 English 2-II [吉川 直澄] 秋 学期授業/Fall	1059
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0651】 English 2-I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring	1060
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0652】 English 2-II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall	1061
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0653】 English 2-I [今井 澄子] 春 学期授業/Spring	1062
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0654】 English 2-II [今井 澄子] 秋 学期授業/Fall	1063
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0655】 English 2-I [ストックウェ ル・エスター] 春学期授業/Spring	1064
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0656】 English 2-II [ストックウェ ル・エスター] 秋学期授業/Fall	1065
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0657】 English 2-I [ストックウェ ル・エスター] 春学期授業/Spring	1066
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0658】 English 2-II [ストックウェ ル・エスター] 秋学期授業/Fall	1067

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0701】 英語 1 - I [大曲 陽子] 春 学期授業/Spring	1068
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0702】 英語 1 - II [大曲 陽子] 秋学 期授業/Fall	1069
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0703】 英語 1 - I [高橋 優身] 春 学期授業/Spring	1070
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0704】 英語 1 - II [高橋 優身] 秋学 期授業/Fall	1071
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0705】 英語 1 - I [宮本 正和] 春 学期授業/Spring	1072
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0706】 英語 1 - II [宮本 正和] 秋学 期授業/Fall	1073
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0707】 英語 1 - I [溝部 敦子] 春 学期授業/Spring	1073
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0708】 英語 1 - II [溝部 敦子] 秋学 期授業/Fall	1074
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0709】 英語 1 - I [光野 昭雄] 春 学期授業/Spring	1075
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0710】 英語 1 - II [光野 昭雄] 秋学 期授業/Fall	1076
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0711】 英語 1 - I [鈴木 博雄] 春 学期授業/Spring	1076
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0712】 英語 1 - II [鈴木 博雄] 秋学 期授業/Fall	1077
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0713】 英語 1 - I [高橋 優身] 春 学期授業/Spring	1077
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0714】 英語 1 - II [高橋 優身] 秋学 期授業/Fall	1078
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0715】 英語 1 - I [亀岡 浩一] 春 学期授業/Spring	1079
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0716】 英語 1 - II [亀岡 浩一] 秋学 期授業/Fall	1080
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0717】 英語 1 - I [光野 昭雄] 春 学期授業/Spring	1081
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0718】 英語 1 - II [光野 昭雄] 秋学 期授業/Fall	1082
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0719】 英語 1 - I [戸嶋 まゆみ] 春 学期授業/Spring	1082
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0720】 英語 1 - II [戸嶋 まゆみ] 秋 学期授業/Fall	1083
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0721】 英語 1 - I [宮本 和恵] 春 学期授業/Spring	1084
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0722】 英語 1 - II [宮本 和恵] 秋学 期授業/Fall	1085
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0723】 英語 1 - I [福井 令恵] 春 学期授業/Spring	1085
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0724】 英語 1 - II [福井 令恵] 秋学 期授業/Fall	1086
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0725】 英語 1 - I [小堀 洋] 春学 期授業/Spring	1087
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0726】 英語 1 - II [小堀 洋] 秋学期 授業/Fall	1088
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0731】 英語 2 - I [高橋 優身] 春学 期授業/Spring	1089
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0732】 英語 2 - II [高橋 優身] 秋学 期授業/Fall	1090

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0733】 英語 2 - I [亀岡 浩一] 春学期授業/Spring	1091
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0734】 英語 2 - II [亀岡 浩一] 秋学期授業/Fall	1092
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0735】 英語 2 - I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1092
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0736】 英語 2 - II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1093
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0737】 英語 2 - I [戸嶋 まゆみ] 春学期授業/Spring	1093
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0738】 英語 2 - II [戸嶋 まゆみ] 秋学期授業/Fall	1094
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0739】 英語 2 - I [宮本 和恵] 春学期授業/Spring	1095
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0740】 英語 2 - II [宮本 和恵] 秋学期授業/Fall	1095
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0741】 英語 2 - I [福井 令恵] 春学期授業/Spring	1096
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0742】 英語 2 - II [福井 令恵] 秋学期授業/Fall	1097
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0743】 英語 2 - I [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	1098
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0744】 英語 2 - II [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	1099
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0745】 英語 2 - I [高橋 優身] 春学期授業/Spring	1100
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0746】 英語 2 - II [高橋 優身] 秋学期授業/Fall	1101
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0747】 英語 2 - I [大和久 悌一郎] 春学期授業/Spring	1102
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0748】 英語 2 - II [大和久 悌一郎] 秋学期授業/Fall	1103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0749】 英語 2 - I [溝部 敦子] 春学期授業/Spring	1104
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0750】 英語 2 - II [溝部 敦子] 秋学期授業/Fall	1105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0751】 英語 2 - I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0752】 英語 2 - II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0753】 英語 2 - I [宮本 正和] 春学期授業/Spring	1107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0754】 英語 2 - II [宮本 正和] 秋学期授業/Fall	1107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0755】 英語 2 - I [吉川 太恵子] 春学期授業/Spring	1108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0756】 英語 2 - II [吉川 太恵子] 秋学期授業/Fall	1109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1453】 補講英語 1・2 - I [宮本 正和] 春学期授業/Spring	1110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1454】 補講英語 1・2 - II [宮本 正和] 秋学期授業/Fall	1110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1455】 補講英語 1・2 - I [宮本 正和] 春学期授業/Spring	1111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1456】 補講英語 1・2 - II [宮本 正和] 秋学期授業/Fall	1111

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1457】 補講英語 1・2-I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	1112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1458】 補講英語 1・2-II [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	1113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0901】 Academic English I [ナダージェンミア] 春学期授業/Spring	1113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0902】 Academic English II [ナダージェンミア] 秋学期授業/Fall	1114
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0903】 Academic English I [トビートラップ] 春学期授業/Spring	1115
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0904】 Academic English II [トビートラップ] 秋学期授業/Fall	1117
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0905】 Academic English I [コートランド D スミス] 春学期授業/Spring	1119
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0906】 Academic English II [コートランド D スミス] 秋学期授業/Fall	1120
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0907】 Academic English I [ナダージェンミア] 春学期授業/Spring	1121
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0908】 Academic English II [ナダージェンミア] 秋学期授業/Fall	1122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0909】 Academic English I [トビートラップ] 春学期授業/Spring	1123
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0910】 Academic English II [トビートラップ] 秋学期授業/Fall	1125
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0911】 Academic English I [コートランド D スミス] 春学期授業/Spring	1126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0912】 Academic English II [コートランド D スミス] 秋学期授業/Fall	1127
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3501】 日本語 1 I [板井 美佐] 春学期授業/Spring	1128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3502】 日本語 1 II [板井 美佐] 秋学期授業/Fall	1129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3505】 日本語 1 I [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	1130
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3506】 日本語 1 II [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	1131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3511】 日本語 2 I [山本 そのこ] 春学期授業/Spring	1132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3512】 日本語 2 II [山本 そのこ] 秋学期授業/Fall	1133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3513】 日本語 2 I [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	1134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3514】 日本語 2 II [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	1135
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3515】 日本語 2 I [小宮 修太郎] 春学期授業/Spring	1136
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3516】 日本語 2 II [小宮 修太郎] 秋学期授業/Fall	1137
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4001】 ドイツ語 1 I [内田 俊一] 春学期授業/Spring	1138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4002】 ドイツ語 1 II [内田 俊一] 秋学期授業/Fall	1138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4003】 ドイツ語 1 I [山下 敦] 春学期授業/Spring	1139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4004】 ドイツ語 1 II [山下 敦] 秋学期授業/Fall	1139

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4005】 ドイツ語 1 I [岡本 雅克]	
春学期授業/Spring	1140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4006】 ドイツ語 1 II [岡本 雅克]	
秋学期授業/Fall	1140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4007】 ドイツ語 1 I [渡辺 広佐]	
春学期授業/Spring	1141
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4008】 ドイツ語 1 II [渡辺 広佐]	
秋学期授業/Fall	1141
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4011】 ドイツ語 1 I [渡辺 国彦]	
春学期授業/Spring	1142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4012】 ドイツ語 1 II [渡辺 国彦]	
秋学期授業/Fall	1142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4017】 ドイツ語 1 I [日中 鎮朗]	
春学期授業/Spring	1143
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4018】 ドイツ語 1 II [日中 鎮朗]	
秋学期授業/Fall	1144
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4019】 ドイツ語 1 I [外山 知子]	
春学期授業/Spring	1145
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4020】 ドイツ語 1 II [外山 知子]	
秋学期授業/Fall	1145
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4021】 ドイツ語 1 I [高木 葉子]	
春学期授業/Spring	1146
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4022】 ドイツ語 1 II [高木 葉子]	
秋学期授業/Fall	1146
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4023】 ドイツ語 1 I [高橋 泰雄]	
春学期授業/Spring	1147
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4024】 ドイツ語 1 II [高橋 泰雄]	
秋学期授業/Fall	1148
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4025】 ドイツ語 1 I [山下 敦]	
春学期授業/Spring	1149
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4026】 ドイツ語 1 II [山下 敦]	
秋学期授業/Fall	1150
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4027】 ドイツ語 1 I [高橋 泰雄]	
春学期授業/Spring	1151
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4028】 ドイツ語 1 II [高橋 泰雄]	
秋学期授業/Fall	1152
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4029】 ドイツ語 1 I [佐藤 まり子]	
春学期授業/Spring	1153
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4030】 ドイツ語 1 II [佐藤 まり子]	
秋学期授業/Fall	1153
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4031】 ドイツ語 1 I [高木 葉子]	
春学期授業/Spring	1154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4032】 ドイツ語 1 II [高木 葉子]	
秋学期授業/Fall	1154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4051】 ドイツ語 2 I [佐々木 宗夫]	
春学期授業/Spring	1155
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4052】 ドイツ語 2 II [佐々木 宗夫]	
秋学期授業/Fall	1156
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4053】 ドイツ語 2 I [渡辺 国彦]	
春学期授業/Spring	1157
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4054】 ドイツ語 2 II [渡辺 国彦]	
秋学期授業/Fall	1158
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4055】 ドイツ語 2 I [長澤 優子]	
春学期授業/Spring	1159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4056】 ドイツ語 2 II [長澤 優子]	
秋学期授業/Fall	1159

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4057】 ドイツ語 2 I [浦田 智]	
春学期授業/Spring	1160
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4058】 ドイツ語 2 II [浦田 智]	
秋学期授業/Fall	1161
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4061】 ドイツ語 2 I [長澤 優子]	
春学期授業/Spring	1162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4062】 ドイツ語 2 II [長澤 優子]	
秋学期授業/Fall	1162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4065】 ドイツ語 2 I [D. ハイデ ンライヒ] 春学期授業/Spring	1163
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4066】 ドイツ語 2 II [D. ハイデ ンライヒ] 秋学期授業/Fall	1163
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4067】 ドイツ語 2 I [浦田 智]	
春学期授業/Spring	1164
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4068】 ドイツ語 2 II [浦田 智]	
秋学期授業/Fall	1165
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4069】 ドイツ語 2 I [オストヴァ ルト・イエンス] 春学期授業/Spring	1166
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4070】 ドイツ語 2 II [オストヴァ ルト・イエンス] 秋学期授業/Fall	1167
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4071】 ドイツ語 2 I [春日 正男]	
春学期授業/Spring	1168
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4072】 ドイツ語 2 II [春日 正男]	
秋学期授業/Fall	1169
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4073】 ドイツ語 2 I [岡本 雅克]	
春学期授業/Spring	1170
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4074】 ドイツ語 2 II [岡本 雅克]	
秋学期授業/Fall	1171
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4075】 ドイツ語 2 I [渡辺 広佐]	
春学期授業/Spring	1171
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4076】 ドイツ語 2 II [渡辺 広佐]	
秋学期授業/Fall	1172
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4077】 ドイツ語 2 I [春日 正男]	
春学期授業/Spring	1172
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4078】 ドイツ語 2 II [春日 正男]	
秋学期授業/Fall	1173
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4079】 ドイツ語 2 I [天沼 春樹]	
春学期授業/Spring	1174
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4080】 ドイツ語 2 II [天沼 春樹]	
秋学期授業/Fall	1175
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4101】 ドイツ語 (1) I [高橋 憲 子] 春学期授業/Spring	1176
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4102】 ドイツ語 (1) II [高橋 憲 子] 秋学期授業/Fall	1177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4111】 ドイツ語 (2) I [遠藤 浩 介] 春学期授業/Spring	1177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4112】 ドイツ語 (2) II [遠藤 浩 介] 秋学期授業/Fall	1178
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4121】 ドイツ語 1 [林 志津江]	
春学期授業/Spring	1179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4122】 ドイツ語 3 [林 志津江]	
秋学期授業/Fall	1180
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4123】 ドイツ語 2 [アネッテ・グ ルーバー] 春学期授業/Spring	1181
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4124】 ドイツ語 4 [アネッテ・グ ルーバー] 秋学期授業/Fall	1182

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4125】 ドイツ語 5 [遠藤 浩介]	
春学期授業/Spring	1183
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4126】 ドイツ語 6 [遠藤 浩介]	
秋学期授業/Fall	1184
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4127】 ドイツ語 1 [三ッ石 祐子]	
春学期授業/Spring	1185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4128】 ドイツ語 3 [三ッ石 祐子]	
秋学期授業/Fall	1186
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4129】 ドイツ語 2 [ウテ・シュミット]	
春学期授業/Spring	1187
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4130】 ドイツ語 4 [ウテ・シュミット]	
秋学期授業/Fall	1188
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4141】 ドイツ語 1-I [畠山 勝彦]	
春学期授業/Spring	1189
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4142】 ドイツ語 1-II [畠山 勝彦]	
秋学期授業/Fall	1190
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4143】 ドイツ語 1-I [辻 英史]	
春学期授業/Spring	1191
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4144】 ドイツ語 1-II [辻 英史]	
秋学期授業/Fall	1192
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4145】 ドイツ語 1-I [畠山 勝彦]	
春学期授業/Spring	1193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4146】 ドイツ語 1-II [畠山 勝彦]	
秋学期授業/Fall	1193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4147】 ドイツ語 1-I [畠山 勝彦]	
春学期授業/Spring	1194
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4148】 ドイツ語 1-II [畠山 勝彦]	
秋学期授業/Fall	1195
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4151】 ドイツ語 2-I [伊東 直美]	
春学期授業/Spring	1196
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4152】 ドイツ語 2-II [伊東 直美]	
秋学期授業/Fall	1196
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4153】 ドイツ語 2-I [伊東 直美]	
春学期授業/Spring	1197
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4154】 ドイツ語 2-II [伊東 直美]	
秋学期授業/Fall	1197
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4155】 ドイツ語 2-I [高橋 憲子]	
春学期授業/Spring	1198
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4156】 ドイツ語 2-II [高橋 憲子]	
秋学期授業/Fall	1198
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4157】 ドイツ語 2-I [高橋 憲子]	
春学期授業/Spring	1199
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4158】 ドイツ語 2-II [高橋 憲子]	
秋学期授業/Fall	1199
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2227】 ドイツ語補講 1-I [佐々木 宗夫]	
春学期授業/Spring	1200
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2228】 ドイツ語補講 1-II [佐々木 宗夫]	
秋学期授業/Fall	1201
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2229】 ドイツ語補講 2-I [高橋 憲子]	
春学期授業/Spring	1202
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2230】 ドイツ語補講 2-II [高橋 憲子]	
秋学期授業/Fall	1202
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5001】 フランス語 1 I [近江屋 志穂]	
春学期授業/Spring	1203
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5002】 フランス語 1 II [近江屋 志穂]	
秋学期授業/Fall	1203

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5003】 フランス語 1 I [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	1204
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5004】 フランス語 1 II [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	1204
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5005】 フランス語 1 I [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	1205
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5006】 フランス語 1 II [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	1205
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5007】 フランス語 1 I [野村 訓子] 春学期授業/Spring	1206
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5008】 フランス語 1 II [野村 訓子] 秋学期授業/Fall	1207
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5011】 フランス語 1 I [野村 訓子] 春学期授業/Spring	1207
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5012】 フランス語 1 II [野村 訓子] 秋学期授業/Fall	1208
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5013】 フランス語 1 I [柴崎 秀穂] 春学期授業/Spring	1209
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5014】 フランス語 1 II [柴崎 秀穂] 秋学期授業/Fall	1210
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5015】 フランス語 1 I [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	1210
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5016】 フランス語 1 II [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	1211
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5019】 フランス語 1 I [小幡 一雄] 春学期授業/Spring	1211
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5020】 フランス語 1 II [小幡 一雄] 秋学期授業/Fall	1212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5021】 フランス語 1 I [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	1212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5022】 フランス語 1 II [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	1213
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5041】 フランス語 2 I [寺家村 博] 春学期授業/Spring	1213
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5042】 フランス語 2 II [寺家村 博] 秋学期授業/Fall	1214
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5043】 フランス語 2 I [小幡 一雄] 春学期授業/Spring	1215
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5044】 フランス語 2 II [小幡 一雄] 秋学期授業/Fall	1215
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5045】 フランス語 2 I [杉村 裕史] 春学期授業/Spring	1216
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5046】 フランス語 2 II [杉村 裕史] 秋学期授業/Fall	1216
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5047】 フランス語 2 I [篠原 学] 春学期授業/Spring	1217
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5048】 フランス語 2 II [篠原 学] 秋学期授業/Fall	1218
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5051】 フランス語 2 I [畑中 敏夫] 春学期授業/Spring	1218
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5052】 フランス語 2 II [畑中 敏夫] 秋学期授業/Fall	1219
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5053】 フランス語 2 I [山口 雅敏] 春学期授業/Spring	1219
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5054】 フランス語 2 II [山口 雅敏] 秋学期授業/Fall	1220

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5055】 フランス語 2 I [寺家村 博] 春学期授業/Spring	1221
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5056】 フランス語 2 II [寺家村 博] 秋学期授業/Fall	1222
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5059】 フランス語 2 I [杉村 裕 史] 春学期授業/Spring	1222
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5060】 フランス語 2 II [杉村 裕 史] 秋学期授業/Fall	1223
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5061】 フランス語 2 I [柴崎 秀 穂] 春学期授業/Spring	1223
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5062】 フランス語 2 II [柴崎 秀 穂] 秋学期授業/Fall	1224
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5081】 フランス語 (1) I [佐藤 正和] 春学期授業/Spring	1224
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5082】 フランス語 (1) II [佐藤 正和] 秋学期授業/Fall	1225
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5083】 フランス語 (2) I [ニコ ラ・ガイヤール] 春学期授業/Spring	1225
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5084】 フランス語 (2) II [ニコ ラ・ガイヤール] 秋学期授業/Fall	1226
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5091】 フランス語 1 [近江屋 志 穂] 春学期授業/Spring	1226
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5092】 フランス語 3 [近江屋 志 穂] 秋学期授業/Fall	1227
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5093】 フランス語 2 [廣松 勲] 春学期授業/Spring	1228
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5094】 フランス語 4 [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	1229
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5095】 フランス語 5 [ジョルディ・ フィリップ] 春学期授業/Spring	1230
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5096】 フランス語 6 [ジョルディ・ フィリップ] 秋学期授業/Fall	1230
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5097】 フランス語 1 [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	1231
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5098】 フランス語 3 [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	1232
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5099】 フランス語 2 [コンルール ジョルジュ] 春学期授業/Spring	1233
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5100】 フランス語 4 [コンルール ジョルジュ] 秋学期授業/Fall	1233
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5101】 フランス語 1 [竹本 研史] 春学期授業/Spring	1234
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5102】 フランス語 3 [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	1235
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5103】 フランス語 2 [ヴァリエ ン ス コリンス] 春学期授業/Spring	1236
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5104】 フランス語 4 [ヴァリエ ン ス コリンス] 秋学期授業/Fall	1236
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5111】 フランス語 1-I [稲垣 正久] 春学期授業/Spring	1237
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5112】 フランス語 1-II [稲垣 正久] 秋学期授業/Fall	1237
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5113】 フランス語 1-I [竹本 研史] 春学期授業/Spring	1238
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5114】 フランス語 1-II [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	1239

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5115】 フランス語 1-I [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	1240
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5116】 フランス語 1-II [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	1240
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5117】 フランス語 1-I [瀬戸 和子] 春学期授業/Spring	1241
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5118】 フランス語 1-II [瀬戸 和子] 秋学期授業/Fall	1241
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5121】 フランス語 2-I [野村 訓子] 春学期授業/Spring	1242
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5122】 フランス語 2-II [野村 訓子] 秋学期授業/Fall	1242
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5123】 フランス語 2-I [コンルー ル ジョルジュ] 春学期授業/Spring	1243
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5124】 フランス語 2-II [コンルー ル ジョルジュ] 秋学期授業/Fall	1243
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5125】 フランス語 2-I [楠本 重行] 春学期授業/Spring	1244
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5126】 フランス語 2-II [楠本 重行] 秋学期授業/Fall	1245
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5127】 フランス語 2-I [楠本 重行] 春学期授業/Spring	1245
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5128】 フランス語 2-II [楠本 重行] 秋学期授業/Fall	1246
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3249】 フランス語補講 1-I [森 本 謙子] 春学期授業/Spring	1247
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3250】 フランス語補講 1-II [森 本 謙子] 秋学期授業/Fall	1248
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3251】 フランス語補講 2-I [中 村 美緒] 春学期授業/Spring	1248
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3252】 フランス語補講 2-II [中 村 美緒] 秋学期授業/Fall	1249
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3253】 フランス語補講 3-I [楠 本 重行] 春学期授業/Spring	1249
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3254】 フランス語補講 3-II [楠 本 重行] 秋学期授業/Fall	1250
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6001】 ロシア語 1 I [油本 真理] 春学期授業/Spring	1250
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6002】 ロシア語 1 II [油本 真理] 秋学期授業/Fall	1251
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6003】 ロシア語 1 I [木部 敬] 春学期授業/Spring	1251
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6004】 ロシア語 1 II [木部 敬] 秋学期授業/Fall	1252
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6005】 ロシア語 1 I [長屋 房夫] 春学期授業/Spring	1253
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6006】 ロシア語 1 II [長屋 房夫] 秋学期授業/Fall	1254
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6011】 ロシア語 2 I [土岐 康子] 春学期授業/Spring	1255
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6012】 ロシア語 2 II [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	1256
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6013】 ロシア語 2 I [土岐 康子] 春学期授業/Spring	1256
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6014】 ロシア語 2 II [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	1257

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6015】 ロシア語 2 I [土岐 康子]	
春学期授業/Spring	1257
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6016】 ロシア語 2 II [土岐 康子]	
秋学期授業/Fall	1258
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6031】 ロシア語 1 [コベルニツク ナディヤ] 春学期授業/Spring	1258
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6032】 ロシア語 3 [佐藤 千登勢]	
秋学期授業/Fall	1259
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6033】 ロシア語 2 [佐藤 千登勢]	
春学期授業/Spring	1260
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6034】 ロシア語 4 [佐藤 千登勢]	
秋学期授業/Fall	1261
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6035】 ロシア語 5 [コベルニツク ナディヤ] 春学期授業/Spring	1262
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6036】 ロシア語 6 [コベルニツク ナディヤ] 秋学期授業/Fall	1262
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6041】 ロシア語 1-I [佐藤 裕 子] 春学期授業/Spring	1263
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6042】 ロシア語 1-II [佐藤 裕 子] 秋学期授業/Fall	1264
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6043】 ロシア語 1-I [木部 敬]	
春学期授業/Spring	1265
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6044】 ロシア語 1-II [木部 敬]	
秋学期授業/Fall	1266
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6051】 ロシア語 2-I [佐藤 裕 子] 春学期授業/Spring	1266
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6052】 ロシア語 2-II [佐藤 裕 子] 秋学期授業/Fall	1267
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6053】 ロシア語 2-I [佐藤 裕 子] 春学期授業/Spring	1268
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6054】 ロシア語 2-II [佐藤 裕 子] 秋学期授業/Fall	1269
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4221】 ロシア語補講 1-I [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	1270
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4222】 ロシア語補講 1-II [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	1271
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4223】 ロシア語補講 2-I [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	1272
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4224】 ロシア語補講 2-II [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	1273
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7001】 中国語 1 I [岩田 和子]	
春学期授業/Spring	1274
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7002】 中国語 1 II [岩田 和子]	
秋学期授業/Fall	1275
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7003】 中国語 1 I [大江 千晶]	
春学期授業/Spring	1276
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7004】 中国語 1 II [大江 千晶]	
秋学期授業/Fall	1277
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7005】 中国語 1 I [池田 麻希子]	
春学期授業/Spring	1278
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7006】 中国語 1 II [池田 麻希子]	
秋学期授業/Fall	1279
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7007】 中国語 1 I [野村 英登]	
春学期授業/Spring	1280
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7008】 中国語 1 II [野村 英登]	
秋学期授業/Fall	1281

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7009】 中国語 1 I [鷺巣 益美]	
春学期授業/Spring	1282
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7010】 中国語 1 II [鷺巣 益美]	
秋学期授業/Fall	1283
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7011】 中国語 1 I [赤平 恵里]	
春学期授業/Spring	1284
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7012】 中国語 1 II [赤平 恵里]	
秋学期授業/Fall	1285
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7013】 中国語 1 I [渡部 れい子]	
春学期授業/Spring	1286
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7014】 中国語 1 II [渡部 れい子]	
秋学期授業/Fall	1287
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7015】 中国語 1 I [池田 麻希子]	
春学期授業/Spring	1288
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7016】 中国語 1 II [池田 麻希子]	
秋学期授業/Fall	1289
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7017】 中国語 1 I [岩田 和子]	
春学期授業/Spring	1290
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7018】 中国語 1 II [岩田 和子]	
秋学期授業/Fall	1291
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7019】 中国語 1 I [青木 正子]	
春学期授業/Spring	1292
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7020】 中国語 1 II [青木 正子]	
秋学期授業/Fall	1293
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7021】 中国語 1 I [倉持 貴文]	
春学期授業/Spring	1294
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7022】 中国語 1 II [倉持 貴文]	
秋学期授業/Fall	1295
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7023】 中国語 1 I [篠田 幸夫]	
春学期授業/Spring	1296
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7024】 中国語 1 II [篠田 幸夫]	
秋学期授業/Fall	1297
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7025】 中国語 1 I [大野 広之]	
春学期授業/Spring	1298
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7026】 中国語 1 II [大野 広之]	
秋学期授業/Fall	1299
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7027】 中国語 1 I [渡部 れい子]	
春学期授業/Spring	1300
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7028】 中国語 1 II [渡部 れい子]	
秋学期授業/Fall	1301
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7029】 中国語 1 I [大野 広之]	
春学期授業/Spring	1302
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7030】 中国語 1 II [大野 広之]	
秋学期授業/Fall	1303
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7031】 中国語 1 I [赤平 恵里]	
春学期授業/Spring	1304
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7032】 中国語 1 II [赤平 恵里]	
秋学期授業/Fall	1305
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7033】 中国語 1 I [倉持 貴文]	
春学期授業/Spring	1306
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7034】 中国語 1 II [倉持 貴文]	
秋学期授業/Fall	1307
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7035】 中国語 1 I [篠田 幸夫]	
春学期授業/Spring	1308
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7036】 中国語 1 II [篠田 幸夫]	
秋学期授業/Fall	1309

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7037】 中国語 1 I [青木 正子]	
春学期授業/Spring	1310
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7038】 中国語 1 II [青木 正子]	
秋学期授業/Fall	1311
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7039】 中国語 1 I [野村 英登]	
春学期授業/Spring	1312
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7040】 中国語 1 II [野村 英登]	
秋学期授業/Fall	1313
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7041】 中国語 1 I [大野 広之]	
春学期授業/Spring	1314
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7042】 中国語 1 II [大野 広之]	
秋学期授業/Fall	1315
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7043】 中国語 1 I [福木 滋久]	
春学期授業/Spring	1316
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7044】 中国語 1 II [福木 滋久]	
秋学期授業/Fall	1317
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7045】 中国語 1 I [大江 千晶]	
春学期授業/Spring	1318
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7046】 中国語 1 II [大江 千晶]	
秋学期授業/Fall	1319
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7047】 中国語 1 I [青木 正子]	
春学期授業/Spring	1320
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7048】 中国語 1 II [青木 正子]	
秋学期授業/Fall	1321
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7049】 中国語 1 I [鷺巣 益美]	
春学期授業/Spring	1322
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7050】 中国語 1 II [鷺巣 益美]	
秋学期授業/Fall	1323
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7071】 中国語 2 I [馬 挺] 春学	
期授業/Spring	1324
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7072】 中国語 2 II [馬 挺] 秋学	
期授業/Fall	1325
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7073】 中国語 2 I [齐 霞] 春学	
期授業/Spring	1326
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7074】 中国語 2 II [齐 霞] 秋学	
期授業/Fall	1327
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7075】 中国語 2 I [祝 振媛] 春	
学期授業/Spring	1328
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7076】 中国語 2 II [祝 振媛] 秋	
学期授業/Fall	1329
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7077】 中国語 2 I [薬 会] 春学	
期授業/Spring	1330
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7078】 中国語 2 II [薬 会] 秋学	
期授業/Fall	1331
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7079】 中国語 2 I [齐 霞] 春学	
期授業/Spring	1332
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7080】 中国語 2 II [齐 霞] 秋学	
期授業/Fall	1333
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7081】 中国語 2 I [齐 霞] 春学	
期授業/Spring	1334
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7082】 中国語 2 II [齐 霞] 秋学	
期授業/Fall	1335
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7083】 中国語 2 I [孫 琦] 春学	
期授業/Spring	1336
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7084】 中国語 2 II [孫 琦] 秋学	
期授業/Fall	1337

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7085】 中国語 2 I [王 安] 春学期授業/Spring	1338
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7086】 中国語 2 II [王 安] 秋学期授業/Fall	1339
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7087】 中国語 2 I [馬 挺] 春学期授業/Spring	1340
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7088】 中国語 2 II [馬 挺] 秋学期授業/Fall	1341
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7089】 中国語 2 I [薄 宏] 春学期授業/Spring	1342
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7090】 中国語 2 II [薄 宏] 秋学期授業/Fall	1343
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7091】 中国語 2 I [劉 渴水] 春学期授業/Spring	1344
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7092】 中国語 2 II [劉 渴水] 秋学期授業/Fall	1345
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7093】 中国語 2 I [余 瀾] 春学期授業/Spring	1346
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7094】 中国語 2 II [余 瀾] 秋学期授業/Fall	1347
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7095】 中国語 2 I [劉 光赤] 春学期授業/Spring	1348
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7096】 中国語 2 II [劉 光赤] 秋学期授業/Fall	1349
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7097】 中国語 2 I [孫 琦] 春学期授業/Spring	1350
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7098】 中国語 2 II [孫 琦] 秋学期授業/Fall	1351
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7099】 中国語 2 I [祝 振媛] 春学期授業/Spring	1352
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7100】 中国語 2 II [祝 振媛] 秋学期授業/Fall	1353
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7101】 中国語 2 I [葉 会] 春学期授業/Spring	1354
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7102】 中国語 2 II [葉 会] 秋学期授業/Fall	1355
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7103】 中国語 2 I [孫 琦] 春学期授業/Spring	1356
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7104】 中国語 2 II [孫 琦] 秋学期授業/Fall	1357
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7105】 中国語 2 I [劉 光赤] 春学期授業/Spring	1358
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7106】 中国語 2 II [劉 光赤] 秋学期授業/Fall	1359
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7107】 中国語 2 I [葉 進] 春学期授業/Spring	1360
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7108】 中国語 2 II [葉 進] 秋学期授業/Fall	1361
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7109】 中国語 2 I [靳 耀勳] 春学期授業/Spring	1362
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7110】 中国語 2 II [靳 耀勳] 秋学期授業/Fall	1363
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7111】 中国語 2 I [耿 函] 春学期授業/Spring	1364
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7112】 中国語 2 II [耿 函] 秋学期授業/Fall	1365

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7113】 中国語 2 I [周 重雷] 春 学期授業/Spring	1366
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7114】 中国語 2 II [周 重雷] 秋 学期授業/Fall	1367
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7115】 中国語 2 I [蒋 彧婷] 春 学期授業/Spring	1368
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7116】 中国語 2 II [蒋 彧婷] 秋 学期授業/Fall	1369
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7117】 中国語 2 I [葉 会] 春学 期授業/Spring	1370
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7118】 中国語 2 II [葉 会] 秋学 期授業/Fall	1371
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7119】 中国語 2 I [薄 宏] 春学 期授業/Spring	1372
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7120】 中国語 2 II [薄 宏] 秋学 期授業/Fall	1373
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7141】 中国語 (1) I [鷺巢 益 美] 春学期授業/Spring	1374
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7142】 中国語 (1) II [鷺巢 益 美] 秋学期授業/Fall	1375
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7143】 中国語 (1) I [岩田 和 子] 春学期授業/Spring	1376
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7144】 中国語 (1) II [岩田 和 子] 秋学期授業/Fall	1377
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7151】 中国語 (2) I [康 鴻音] 春学期授業/Spring	1378
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7152】 中国語 (2) II [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	1379
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7153】 中国語 (2) I [周 重雷] 春学期授業/Spring	1380
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7154】 中国語 (2) II [周 重雷] 秋学期授業/Fall	1381
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7161】 中国語 1 [鈴木 靖] 春学 期授業/Spring	1382
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7162】 中国語 3 [鈴木 靖] 秋学 期授業/Fall	1383
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7163】 中国語 2 [蒋 彧婷] 春学 期授業/Spring	1384
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7164】 中国語 4 [蒋 彧婷] 秋学 期授業/Fall	1385
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7165】 中国語 5 [鈴木 靖] 春学 期授業/Spring	1385
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7166】 中国語 6 [鈴木 靖] 秋学 期授業/Fall	1386
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7167】 中国語 1 [渡辺 昭太] 春 学期授業/Spring	1387
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7168】 中国語 3 [渡辺 昭太] 秋 学期授業/Fall	1388
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7169】 中国語 2 [葉 会] 春学期 授業/Spring	1389
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7170】 中国語 4 [葉 会] 秋学期 授業/Fall	1390
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7171】 中国語 1 [曾 士才] 春学 期授業/Spring	1390
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7172】 中国語 2 [祝 振媛] 春学 期授業/Spring	1391

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7173】 中国語 3 [曾 士才] 秋学期授業/Fall	1392
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7174】 中国語 4 [祝 振媛] 秋学期授業/Fall	1393
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7181】 中国語 1 - I [永江 貴子] 春学期授業/Spring	1394
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7182】 中国語 1 - II [永江 貴子] 秋学期授業/Fall	1395
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7183】 中国語 1 - I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1396
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7184】 中国語 1 - II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1396
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7185】 中国語 1 - I [永江 貴子] 春学期授業/Spring	1397
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7186】 中国語 1 - II [永江 貴子] 秋学期授業/Fall	1398
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7187】 中国語 1 - I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1399
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7188】 中国語 1 - II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1399
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7189】 中国語 1 - I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1400
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7190】 中国語 1 - II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1400
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7191】 中国語 1 - I [劉 湯水] 春学期授業/Spring	1401
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7192】 中国語 1 - II [劉 湯水] 秋学期授業/Fall	1402
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7193】 中国語 1 - I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1403
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7194】 中国語 1 - II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1403
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7195】 中国語 1 - I [劉 湯水] 春学期授業/Spring	1404
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7196】 中国語 1 - II [劉 湯水] 秋学期授業/Fall	1405
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7211】 中国語 2 - I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1406
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7212】 中国語 2 - II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1406
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7213】 中国語 2 - I [日原 傳] 春学期授業/Spring	1407
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7214】 中国語 2 - II [日原 傳] 秋学期授業/Fall	1407
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7215】 中国語 2 - I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1408
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7216】 中国語 2 - II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1408
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7217】 中国語 2 - I [日原 傳] 春学期授業/Spring	1409
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7218】 中国語 2 - II [日原 傳] 秋学期授業/Fall	1409
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7219】 中国語 2 - I [後藤 淳一] 春学期授業/Spring	1410
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7220】 中国語 2 - II [後藤 淳一] 秋学期授業/Fall	1410

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7221】 中国語 2-I [篠田 幸夫]	
春学期授業/Spring	1411
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7222】 中国語 2-II [篠田 幸夫]	
秋学期授業/Fall	1412
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7223】 中国語 2-I [後藤 淳一]	
春学期授業/Spring	1413
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7224】 中国語 2-II [後藤 淳一]	
秋学期授業/Fall	1413
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7225】 中国語 2-I [篠田 幸夫]	
春学期授業/Spring	1414
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7226】 中国語 2-II [篠田 幸夫]	
秋学期授業/Fall	1415
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7251】 中国語補講 1-I [池田 麻希子]	
春学期授業/Spring	1416
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7252】 中国語補講 1-II [池田 麻希子]	
秋学期授業/Fall	1416
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7253】 中国語補講 1-I [李 維 涛]	
春学期授業/Spring	1417
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7254】 中国語補講 1-II [李 維 涛]	
秋学期授業/Fall	1418
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7255】 中国語補講 1-I [洪井 君也]	
春学期授業/Spring	1420
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7256】 中国語補講 1-II [洪井 君也]	
秋学期授業/Fall	1420
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7259】 中国語補講 2-I [王 安]	
春学期授業/Spring	1421
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7260】 中国語補講 2-II [王 安]	
秋学期授業/Fall	1422
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7261】 中国語補講 2-I [余 瀾]	
春学期授業/Spring	1423
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7262】 中国語補講 2-II [余 瀾]	
秋学期授業/Fall	1423
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7263】 中国語補講 2-I [劉 光 赤]	
春学期授業/Spring	1424
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7264】 中国語補講 2-II [劉 光 赤]	
秋学期授業/Fall	1424
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E5337】 中国語補講 3-I [沈 小 南]	
春学期授業/Spring	1425
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E5338】 中国語補講 3-II [沈 小 南]	
秋学期授業/Fall	1425
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E5339】 中国語補講 3-I [沈 小 南]	
春学期授業/Spring	1426
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E5340】 中国語補講 3-II [沈 小 南]	
秋学期授業/Fall	1426
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E5341】 中国語補講 3-I [馬 挺]	
春学期授業/Spring	1427
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E5342】 中国語補講 3-II [馬 挺]	
秋学期授業/Fall	1428
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E5343】 中国語補講 3-I [馬 挺]	
春学期授業/Spring	1429
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E5344】 中国語補講 3-II [馬 挺]	
秋学期授業/Fall	1430
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8001】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫]	
春学期授業/Spring	1431
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8002】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫]	
秋学期授業/Fall	1432

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8003】 スペイン語 1 I [敦賀 公 子] 春学期授業/Spring	1433
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8004】 スペイン語 1 II [敦賀 公 子] 秋学期授業/Fall	1433
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8005】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1434
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8006】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1435
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8007】 スペイン語 1 I [渡部 哲 郎] 春学期授業/Spring	1436
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8008】 スペイン語 1 II [渡部 哲 郎] 秋学期授業/Fall	1437
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8009】 スペイン語 1 I [渡部 哲 郎] 春学期授業/Spring	1437
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8010】 スペイン語 1 II [渡部 哲 郎] 秋学期授業/Fall	1438
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8011】 スペイン語 1 I [保崎 典 子] 春学期授業/Spring	1439
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8012】 スペイン語 1 II [保崎 典 子] 秋学期授業/Fall	1440
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8013】 スペイン語 1 I [日高 憲 三] 春学期授業/Spring	1440
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8014】 スペイン語 1 II [日高 憲 三] 秋学期授業/Fall	1441
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8015】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1441
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8016】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1442
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8017】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1443
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8018】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1444
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8019】 スペイン語 1 I [保崎 典 子] 春学期授業/Spring	1445
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8020】 スペイン語 1 II [保崎 典 子] 秋学期授業/Fall	1446
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8021】 スペイン語 1 I [岡本 年 正] 春学期授業/Spring	1447
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8022】 スペイン語 1 II [岡本 年 正] 秋学期授業/Fall	1448
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8023】 スペイン語 1 I [若林 大 我] 春学期授業/Spring	1449
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8024】 スペイン語 1 II [若林 大 我] 秋学期授業/Fall	1450
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8025】 スペイン語 1 I [若林 大 我] 春学期授業/Spring	1451
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8026】 スペイン語 1 II [若林 大 我] 秋学期授業/Fall	1452
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8027】 スペイン語 1 I [宮田 絵 津子] 春学期授業/Spring	1453
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8028】 スペイン語 1 II [宮田 絵 津子] 秋学期授業/Fall	1453
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8031】 スペイン語 1 I [長谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1454
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8032】 スペイン語 1 II [長谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1455

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8061】 スペイン語 2 I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1456
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8062】 スペイン語 2 II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1456
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8063】 スペイン語 2 I [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 春学期授業/Spring	1457
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8064】 スペイン語 2 II [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 秋学期授業/Fall	1458
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8065】 スペイン語 2 I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1458
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8066】 スペイン語 2 II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1459
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8067】 スペイン語 2 I [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	1459
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8068】 スペイン語 2 II [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	1460
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8069】 スペイン語 2 I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1460
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8070】 スペイン語 2 II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1461
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8071】 スペイン語 2 I [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring	1461
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8072】 スペイン語 2 II [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall	1462
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8073】 スペイン語 2 I [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring	1462
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8074】 スペイン語 2 II [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall	1463
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8075】 スペイン語 2 I [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 春学期授業/Spring	1463
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8076】 スペイン語 2 II [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 秋学期授業/Fall	1464
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8077】 スペイン語 2 I [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring	1465
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8078】 スペイン語 2 II [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall	1465
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8079】 スペイン語 2 I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1466
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8080】 スペイン語 2 II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1466
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8081】 スペイン語 2 I [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring	1467
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8082】 スペイン語 2 II [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall	1468
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8083】 スペイン語 2 I [ヴィラ・ラケル] 春学期授業/Spring	1468
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8084】 スペイン語 2 II [ヴィラ・ラケル] 秋学期授業/Fall	1469
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8085】 スペイン語 2 I [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring	1469
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8086】 スペイン語 2 II [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall	1470
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8087】 スペイン語 2 I [久木 正雄] 春学期授業/Spring	1470
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8088】 スペイン語 2 II [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	1471

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8091】 スペイン語 2 I [久木 正雄] 春学期授業/Spring	1472
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8092】 スペイン語 2 II [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	1473
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8121】 スペイン語 (1) I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1473
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8122】 スペイン語 (1) II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1474
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8123】 スペイン語 (1) I [保崎 典子] 春学期授業/Spring	1474
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8124】 スペイン語 (1) II [保崎 典子] 秋学期授業/Fall	1475
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8131】 スペイン語 (2) I [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring	1476
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8132】 スペイン語 (2) II [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall	1476
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8133】 スペイン語 (2) I [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	1477
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8134】 スペイン語 (2) II [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	1477
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8141】 スペイン語 1 [大西 亮] 春学期授業/Spring	1478
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8142】 スペイン語 3 [大西 亮] 秋学期授業/Fall	1478
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8143】 スペイン語 2 [佐々木 直美] 春学期授業/Spring	1479
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8144】 スペイン語 4 [佐々木 直美] 秋学期授業/Fall	1479
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8145】 スペイン語 5 [久木 正雄] 春学期授業/Spring	1480
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8146】 スペイン語 6 [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	1480
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8147】 スペイン語 1 [佐々木 直美] 春学期授業/Spring	1481
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8148】 スペイン語 3 [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	1482
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8149】 スペイン語 2 [ピエダッド・ガルシア・ルイス] 春学期授業/Spring	1482
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8150】 スペイン語 4 [ピエダッド・ガルシア・ルイス] 秋学期授業/Fall	1483
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8151】 スペイン語 1 [久木 正雄] 春学期授業/Spring	1484
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8152】 スペイン語 3 [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	1485
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8153】 スペイン語 2 [ピエダッド・ガルシア・ルイス] 春学期授業/Spring	1485
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8154】 スペイン語 4 [ピエダッド・ガルシア・ルイス] 秋学期授業/Fall	1486
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8161】 スペイン語 1-I [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring	1487
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8162】 スペイン語 1-II [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall	1487
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8163】 スペイン語 1-I [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 春学期授業/Spring	1488
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8164】 スペイン語 1-II [バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ] 秋学期授業/Fall	1488

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8165】 スペイン語 1-I [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	1489
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8166】 スペイン語 1-II [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	1489
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8167】 スペイン語 1-I [ピエダッ ド・ガルシア・ルイス] 春学期授業/Spring	1490
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8168】 スペイン語 1-II [ピエダッ ド・ガルシア・ルイス] 秋学期授業/Fall	1490
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8181】 スペイン語 2-I [松尾 俊輔] 春学期授業/Spring	1491
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8182】 スペイン語 2-II [松尾 俊輔] 秋学期授業/Fall	1492
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8183】 スペイン語 2-I [松尾 俊輔] 春学期授業/Spring	1493
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8184】 スペイン語 2-II [松尾 俊輔] 秋学期授業/Fall	1494
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8185】 スペイン語 2-I [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 春学期授業/Spring	1495
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8186】 スペイン語 2-II [オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス] 秋学期授業/Fall	1495
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8187】 スペイン語 2-I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1496
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8188】 スペイン語 2-II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1496
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8307】 スペイン語補講 1-I [大 貫 良史] 春学期授業/Spring	1497
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8308】 スペイン語補講 1-II [大 貫 良史] 秋学期授業/Fall	1498
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8309】 スペイン語補講 1-I [岡 本 年正] 春学期授業/Spring	1499
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8310】 スペイン語補講 1-II [岡 本 年正] 秋学期授業/Fall	1500
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8311】 スペイン語補講 2-I [塩 崎 公靖] 春学期授業/Spring	1501
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8312】 スペイン語補講 2-II [塩 崎 公靖] 秋学期授業/Fall	1501
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8313】 スペイン語補講 2-I [長 谷川 悦夫] 春学期授業/Spring	1502
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8314】 スペイン語補講 2-II [長 谷川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1503
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9001】 朝鮮語 1 I [富所 明秀] 春学期授業/Spring	1504
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9002】 朝鮮語 1 II [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	1504
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9003】 朝鮮語 1 I [富所 明秀] 春学期授業/Spring	1505
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9004】 朝鮮語 1 II [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	1505
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9005】 朝鮮語 1 I [高橋 梓] 春 学期授業/Spring	1506
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9006】 朝鮮語 1 II [高橋 梓] 秋 学期授業/Fall	1506
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9007】 朝鮮語 1 I [富所 明秀] 春学期授業/Spring	1507
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9008】 朝鮮語 1 II [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	1507

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9009】朝鮮語 1 I [高橋 梓] 春 学期授業/Spring	1508
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9010】朝鮮語 1 II [高橋 梓] 秋 学期授業/Fall	1508
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9021】朝鮮語 2 I [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	1509
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9022】朝鮮語 2 II [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	1509
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9023】朝鮮語 2 I [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	1510
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9024】朝鮮語 2 II [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	1510
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9025】朝鮮語 2 I [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	1511
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9026】朝鮮語 2 II [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	1511
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9027】朝鮮語 2 I [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	1512
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9028】朝鮮語 2 II [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	1512
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9029】朝鮮語 2 I [内山 政春] 春学期授業/Spring	1513
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9030】朝鮮語 2 II [内山 政春] 秋学期授業/Fall	1513
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9041】朝鮮語 (1) I [富所 明 秀] 春学期授業/Spring	1514
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9042】朝鮮語 (1) II [富所 明 秀] 秋学期授業/Fall	1514
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9043】朝鮮語 (2) I [黒澤 朋 子] 春学期授業/Spring	1515
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9044】朝鮮語 (2) II [黒澤 朋 子] 秋学期授業/Fall	1515
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9051】朝鮮語 1 [内山 政春] 春 学期授業/Spring	1516
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9052】朝鮮語 3 [内山 政春] 秋 学期授業/Fall	1517
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9053】朝鮮語 2 [梁 禮先] 春学 期授業/Spring	1517
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9054】朝鮮語 4 [梁 禮先] 秋学 期授業/Fall	1518
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9055】朝鮮語 5 [高柳 俊男] 春 学期授業/Spring	1519
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9056】朝鮮語 6 [高柳 俊男] 秋 学期授業/Fall	1520
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9061】朝鮮語 1-I [高橋 梓] 春 学期授業/Spring	1520
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9062】朝鮮語 1-II [高橋 梓] 秋 学期授業/Fall	1521
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9063】朝鮮語 1-I [内山 政春] 春学期授業/Spring	1521
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9064】朝鮮語 1-II [内山 政春] 秋学期授業/Fall	1522
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9071】朝鮮語 2-I [黒澤 朋子] 春学期授業/Spring	1522
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9072】朝鮮語 2-II [黒澤 朋子] 秋学期授業/Fall	1523

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9073】 朝鮮語 2-I [神谷 丹路]	
春学期授業/Spring	1523
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9074】 朝鮮語 2-II [神谷 丹路]	
秋学期授業/Fall	1524

ART100LA

Elementary Humanities A

2016 年度以前入学者

サブタイトル：Japanese Literature I

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a survey of ancient to medieval Japanese literature. Major literary works are introduced with an emphasis on their literary artistry as well as their historical and cultural importance. Focus is also placed on the unique philosophy that shaped the aesthetic values in Japan throughout the centuries. This topic will be further highlighted by discussing differences in Eastern and Western world views.

【到達目標】

1. to learn about major literary works in their historical and cultural context
2. to gain deeper understanding of the different philosophical backgrounds that have influenced the way of thinking in Japan and the West
3. to improve your English vocabulary regarding the topic

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is based on lectures by the instructor featuring the use of written and audio-visual materials. In addition, every student will be required to deliver a class presentation on a given topic and to submit a short written summary of the presentation. The topics together with the study materials for the presentation will be distributed at the beginning of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introduction to course; scheduling of presentations
2.	Historical overview of Japanese literature	Brief overview of major literary works in their historical context with a focus on the <i>Nara</i> and <i>Heian</i> periods
3.	Japanese perception of nature, Part 1	Definition of nature and corresponding terms in Japanese; Japanese love for nature and its various aspects; Japanese vs. Western concepts of nature
4.	Japanese perception of nature, Part 2	The four seasons as one of the central concepts in Japanese culture and literature; the concept of transformation and change, harmony of <i>yin</i> and <i>yang</i> ; perception of time
5.	Natural images in classical Japanese poetry	Literal and figural meaning of images; metaphors in Japanese vs. Western poetic tradition; pivot-words (<i>kakekotoba</i>)
6.	Key concepts of Japanese aesthetics	Four aesthetic concepts in Japanese culture and literature; demonstration of these concepts in <i>Essays in Idleness</i> by the Buddhist priest <i>Kenkō</i>
7.	Japanese mythology	<i>Records of Ancient Matters (Kojiki)</i> ; Japanese mythology vs. Western ideological concepts (Greek mythology and Christianity)
8.	Japanese poetry, Part 1	The role of poetry from ancient times through the era of <i>Man'yōshū</i> (<i>Collection of Ten Thousand Leaves</i>) to the flourishing era of imperial poetry anthologies

9.	Japanese poetry, Part 2	Long and short poetic forms (<i>chōka</i> and <i>tanka</i>); believed to be the first Japanese poem in the fixed form; major themes and literary devices in classical poetry
10.	Japanese prose, Part 1	Japanese tales and its various genres; the oldest preserved tale (<i>The Tale of the Bamboo Cutter; Taketori Monogatari</i>) and the collection of poem tales (<i>Tales of Ise; Ise Monogatari</i>)
11.	Japanese prose, Part 2	Flourishing of women writers in the <i>Heian</i> period with a focus on two prominent figures <i>Murasaki Shikibu</i> and <i>Sei Shōnagon</i> and their works <i>The Tale of Genji (Genji Monogatari)</i> and <i>The Pillow Book (Makura no Sōshi)</i>
12.	Japanese prose, Part 3	Diaries (<i>nikki</i>) as one of the key genres in women's classical prose; <i>The Gossamer Years (Kagerō Nikki)</i>
13.	Okinawan language and poetry – Introduction	Languages of the Ryūkyū Islands as part of the Japanese language group; language rules in Okinawan poetry <i>ryūka</i>
14.	The world of Okinawan poetry	The oldest preserved collection of old epic songs <i>Omorosōshi</i> ; Okinawan lyrical poetry <i>ryūka</i>

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Prepare a short self-introduction
2. Reading: handout on anthology of Japanese literature
3. Reading: Asquith 1-35
4. Readings: Asquith 36 – 53; handout related to the topic
5. Readings: Asquith 54 – 67; handout on Western poetry
6. Reading: Keene 3 – 22
7. Reading: handout on the *Kojiki*
8. Reading: Keene 47 – 69
9. Reading: Keene 25 – 44
10. Readings: Keene 73 – 95; handout on Japanese tales
11. Reading: handout on women's classical prose
12. Reading: handout on diary literature
13. Reading: text by lecturer on Okinawan poetry
14. Submit short summary of presentation, final written exam

【テキスト（教科書）】

Asquith, Pamela J. and Arne Kalland, ed. *Japanese Images of Nature*. Richmond: Curzon Press, 1997.
Keene, Donald. *The Pleasures of Japanese Literature*. New York: Columbia University Press, 1988.

【参考書】

Keene, Donald. *Anthology of Japanese Literature*. Rutland, Vermont & Tokyo: Charles E. Tuttle Company, 1956. Twenty-second edition, 1991.
McCullough, Helen Craig. *Classical Japanese Prose: an Anthology*. Stanford: Stanford University Press, 1990.
Miner, Earl. *An Introduction to Japanese Court Poetry*. Stanford: Stanford University Press, 1968.

【成績評価の方法と基準】

Class attendance and oral participation are expected; failure to participate in class will result in the subtraction of marks from the total. Grading criteria: oral presentation and written summary (40%); final examination (60%).

【学生の意見等からの気づき】

There have been no student comments so far that would require major changes to the course.

ARSa100LA

Elementary Humanities B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：UK Culture & Society

リチャード・バロース

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will seek to introduce the culture & society of contemporary Britain to students through a series of stimulation audio-visual units, together with selected thematically linked readings.

【到達目標】

During this course, through regular exposure to a variety of audio-visual material, students will have the opportunity to sharpen their listening skills. Follow-up pair-work comprehension questions, discussion & structured conversation practice will also give them the opportunity to improve their oral skills.

Finally students will be encouraged to reflect on their own culture & society as they learn about UK.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The previous lesson's reading assignment will be reviewed before a pair-work preview will introduce the theme for that lesson. Any required vocabulary will be previewed before students view/listen to the material. Pair-work comprehension questions will allow students to check their own understanding, while a post-viewing discussion will offer more chances to analyze the material. Time permitting, there will be structured conversation practice before outlining the following week's homework.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Explanation	Course Introduction
2	Listening & Speaking	Presentation Guidance
3	Listening & Speaking	The Seven Wonders of Britain
4	Listening & Speaking	Wales
5	Listening & Speaking	BBC
6	Listening & Speaking	The Mini
7	Listening & Speaking	The Village
8	Listening & Speaking	British Tea
9	Listening & Speaking	The Purple Violin
10	Listening & Speaking	Sherlock Holmes
11	Listening & Speaking	Agatha Christie
12	Listening & Speaking	The Sea
13	Listening & Speaking	London Taxis
14	Listening & Speaking	UK Public Schools

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Regular reading assignments with comprehension questions, & audio-visual vocabulary preparation. No more than 3 absences will be permitted.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone will be required at every lesson

【成績評価の方法と基準】

Participation & Punctuality 30%

Homework & Classwork 30%

Presentation 20%

Report 20%

【学生の意見等からの気づき】

A more comprehensive vocabulary preview will be provided for students having difficulty with audio-visual comprehension.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to print reports

【その他の重要事項】

Since there is no textbook in this course, students will need to bring an A4 or B4 folder or binder to each class in order to keep the photocopies that will be handed out at every lesson.

【Outline and objectives】

In addition to offering a greater understanding of contemporary UK culture, the course encourages students through the presentation & report to critically compare & contrast UK culture & society with their own.

POL100LA

Elementary Social Science A 2016 年度以前入学者

サブタイトル：Introduction to International Law

SCHIFANO ADRIEN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
SGU コース

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Some paper and a pen.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims at introducing basic notions of international law. First part of the course introduces main subjects of international law and focus in particular on elements of statehood. A second part will discuss how norms of international law are created. Finally, a third part will provide these elements with some dynamism by examining the course of normal relations between States.

【到達目標】

By the end of this course, it is expected that students will have become familiar with:

1. basic notions of international law
2. current international issues
3. functioning of the international system

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Classes will consist in a lecture by the instructor and sharing of students assignments in the perspective of sustaining a discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Characters of international law / relation with municipal law
2.	Subjects (1)	The State (1): statehood / sovereign government / territory / population / recognition
3.	Subjects (2)	The State (2): more on territory / the sea / the sky / outer space
4.	Subjects (3)	The State (3): more on population / minorities / indigeneous people
5.	Subjects (4)	International Organizations
6.	Subjects (5)	Other subjects / insurgents / subjects ad hoc / situation of private persons / individuals / companies / NGOs / human rights
7.	Norms (1)	Customary law
8.	Norms (2)	Treaties
9.	Norms (3)	Other sources / case law of international courts and tribunals / acts of international organizations / municipal law
10.	Relations between States (1)	Diplomatic relations
11.	Relations between States (2)	Law of War / Self-defense / humanitarian law
12.	Relations between States (3)	Responsibility
13.	Relations between States (4)	Peaceful settlement of disputes
14.	Test	Written examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

As a follow up of each class, students will be assigned the task to look for current issues related to the class content. This material will be used in class discussion the following week.

【テキスト（教科書）】

Acquisition of a textbook is not necessary.

【参考書】

www.un.org

Jan KLABBERS, International Law, 2nd ed. (2017; Cambridge, Cambridge University Press), ISBN: 9781316506608

Malcolm N. Shaw, International Law, 8th ed. (2017; Cambridge, Cambridge University Press), ISBN: 9781316638538

【成績評価の方法と基準】

Participation in class: 30%

Written examination: 70%

POL100LA

Elementary Social Science B 2016 年度以前入学者

サブタイトル：Basic Legal Concepts

スキハノ アドリアン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will provide students with a rough picture of law. It does so by introducing basic legal concepts.

The first part of the course introduces two main faces of law: justice and order. The second part focuses on the components of a legal order, which are mainly subjects and norms. The third and last part deals with the notion of legal relations, which are either horizontal or vertical in nature.

【到達目標】

By attending this course, students will be able to:

- understand basic legal concepts,
- build a foundation for studying more specialized fields of law,
- acquire basic legal knowledge that will complement their studies in other fields,
- handle better daily life situations by acquiring a feeling of what is legally correct and what is not, which will hopefully help them to remain free from abuses.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The course will introduce one new concept each week. In so doing, the class will consist in lecture and discussion. In addition, the course will rely on studying excerpts from classical works. Practice for this course will consist in text commentaries.

The course follows a progression so that each class is dependent on previous classes; hence, students may find it easier to follow classes if they have consistent attendance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Rationale for the course and overview / Law, what? / Legal science, what? / Panorama of modern law / Methodology
2.	Justice	Suum cuique / Justice, what? / Equality, what? / Contemporary approaches
3.	Legal order (1): Forms of government	Legal order, what? / Typology / Social functions / Constitution, what? / Horizontal distribution of powers / Legislative, what? / Executive, what? / Judiciary, what?
4.	Legal order (2): Forms of state	Vertical distribution of power / Federalism and its rules / Classification / Changes in power and constitutional change
5.	The Subject of Law (1): Personality	Subject of law, what? / Equality, how? / Typology / Issues
6.	The Subject of Law (2): Capacity	Capacity, what? / Capacity v. rights / Variations of legal capacity / Guardianship / Agency / Delegation
7.	The Norm (1): Validity	Norm, what? / Typology / Formal sources / Sphere of validity
8.	The Norm (2): Legal System	Set of norms, what? / Hierarchy / Classification / Relations among norms
9.	The Legal Relation	Legal relation, what? / Rights / Obligations / Powers / Typology
10.	Horizontal Relations (1): Agreement	Agreement, what? / Contract, what? / Basic principles / Forms / Contents
11.	Horizontal Relations (2): Responsibility	Responsibility, what? / Evolution / Typology / Civil responsibility / Components / Basic principles / Procedures

12.	Vertical Relations (1): Public order	Public order, what? / Authority / Police / Criminal responsibility / Offense, what? / Basic principles / Procedures
13.	Vertical Relations (2): Public interest	Public interest, what? / Public service, what? / Basic principles / Procedures, issues
14.	Human Rights Conclusion	Human rights, what? / History / Typology / Protection at several levels / Enforcement

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are strongly encouraged to read the material for each class beforehand. Homework will be (moderately) requested.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used. Students will be provided with the material necessary for each class.

【参考書】

Jaap HAGE and Bram AKKERMANS (editors) *Introduction to Law* (2014, Springer)

【成績評価の方法と基準】

Participation in class (including homework and discussion): 40%

Presentation (number of presentations per student will depend on the number of students attending the course): 60%

【学生の意見等からの気づき】

Outline of the course has been slightly improved.

【学生が準備すべき機器他】

A pen and some paper might prove useful.

MAT100LA

Elementary Mathematics A

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed for students who need calculus to study business, economics, or other related business majors. In particular, the course will review the basic ideas you need to start calculus. The topics include exponential and logarithmic functions, arithmetic and geometric sequences, graphing basic functions, graphing exponential and logarithmic functions, limit of a sequence, limit of a function.

【到達目標】

At the end of this course, students will demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP1、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

The expected learning outcomes for the course will be assessed through graded activities and ungraded activities. The graded activities include exams, homework and quizzes. It is strongly recommended that students work all those problems since homework and test score are used to determine your grade. The ungraded activities will be used to monitor your progress.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01.	Introduction	Preliminaries 1
02.	Basics and Key Terms	Preliminaries 2
03.	Exponential Functions	Functions and Graphs 1
04.	Logarithmic Functions	Functions and Graphs 2
05.	Graphing Basic Functions	Functions and Graphs 3
06.	Shifting and Stretching Graphs	Functions and Graphs 4
07.	Inverse Functions	Functions and Graphs 5
08.	Graphing Exponential Functions	Functions and Graphs 6
09.	Graphing Logarithmic Functions	Functions and Graphs 7
10.	Composite Functions	Functions and Graphs 8)
11.	Arithmetic and Geometric Sequences	Limits 1
12.	Sigma Notation and Sequences of Differences	Limits 2
13.	Limit of a Sequence	Limits 3
14.	Limit of a Function	Limits 4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Solve the problems of the exercises well. Think by writing on a paper.

【テキスト（教科書）】

You don't need to buy a text book. When you learn more, respectively serve as a reference if it is rudimentary or a book on the theme of preparation for its calculus.

【参考書】

You don't need to prepare references.

【成績評価の方法と基準】

Final exam (approximately 2/3) and the homework submission (approximately 1/3)

【学生の意見等からの気づき】

Not offered until the last fiscal year for the new subjects

【Outline and objectives】

This course is designed for students who need calculus to study business, economics, or other related business majors. In particular, the course will review the basic ideas you need to start calculus. The topics include exponential and logarithmic functions, arithmetic and geometric sequences, graphing basic functions, graphing exponential and logarithmic functions, limit of a sequence, limit of a function.

MAT100LA

Elementary Mathematics B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

Takeyoshi KOGISO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a calculus course intended for those studying business, economics, or other related business majors, and a continuation of topics from “Elementary Mathematics II”. The following topics are presented with applications: derivatives, differentiation rules, derivative of an exponential function and logarithmic function, higher-order derivative, Taylor and Maclaurin series, integrals.

【到達目標】

Students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The expected learning outcomes for the course will be assessed through graded activities and ungraded activities. The graded activities include exams, homework and quizzes. It is strongly recommended that students work all those problems since homework and test score are used to determine your grade. The ungraded activities will be used to monitor your progress.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01.	Introduction	Preliminaries
02.	The Derivative and the Slope of a Graph	Differentiation: Basic Concepts 1
03.	Some Rules for Differentiation	Differentiation: Basic Concepts 2
04.	The Product and Quotient Rules	Differentiation: Basic Concepts 3
05.	The Chain Rule	Differentiation: Basic Concepts 4
06.	Derivatives of Exponential Functions	Differentiation: Basic Concepts 5
07.	Derivatives of Logarithmic Functions	Differentiation: Basic Concepts 6
08.	Higher-order Derivatives	Differentiation: Basic Concepts 7
09.	Extrema and the First-Derivative Test	Additional Applications of the Derivative 1
10.	Concavity and the Second-Derivative Test	Additional Applications of the Derivative 2
11.	The Mean Value Theorem, Taylor's Theorem	Additional Applications of the Derivative 3
12.	Taylor and Maclaurin Series	Additional Applications of the Derivative 4
13.	Approximate Values	Additional Applications of the Derivative 5)
14.	Antiderivatives, Differential Equation	Additional Topics 1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Solve the problems of the exercises well. Think by writing on a paper.

【テキスト（教科書）】

You don't need to buy a textbook. When you learn more, respectively serve as a reference if it is rudimentary or a book on the theme of preparation for its calculus.

【参考書】

You don't need to prepare references.

【成績評価の方法と基準】

Final exam (approximately 2/3) and the homework submission (approximately 1/3)

【学生の意見等からの気づき】

Not offered until the last fiscal year for the new subjects

LANe100LA

Academic Literacy A

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

パワー トーマス G

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course entitled Academic Literacy A aims to provide students with opportunities to think critically and to express their own thoughts and opinions effectively on a variety of topics in paragraphs, essays, and presentations. Students will use English to learn about cultural and social issues related to Japan and other cultures from a number of perspectives.

【到達目標】

Students will read short articles on various topics related to sociology, education, Japanese culture, and mass media. They will learn to gather information and to impart their findings in short paragraphs; they will also research a wider topic, adopt a point of view, and express their ideas in a multi-paragraph essay. In addition, students will learn how to research a topic and to give presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

This course is divided into four parts. (a) Students will read out loud short articles in a pairwork exercise. (b) Students will learn how to gather information, cite sources, and write the results of their findings in logically organized paragraphs and summaries. (c) Students will learn how to write and format a multi-paragraph composition on a pre-selected topic. (d) Students will learn how to research topics they have selected and to present their findings in small groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Course Outline, Assessment criteria
Week 2	Unit 1: Belonging to a Group	Previewing, Skimming, Note-taking, Paraphrasing, Summarizing Paragraph Format and Structure
Week 3	Chapter 1 Marriage, Family, and the Home	Previewing, Skimming, Note-taking, Paraphrasing, Summarizing Paragraph Format and Structure
Week 4	Chapter 2 The Power of the Group	Discussion Skills Presentations Skills Peer Evaluation
Week 5	Unit 2: Gender in Society	Previewing, Skimming, Note-taking, Paraphrasing, Summarizing Paragraph Format and Structure
Week 6	Chapter 3 Gender Roles	Previewing, Skimming, Note-taking, Paraphrasing, Summarizing Paragraph Format and Structure
Week 7	Chapter 4 Gender Issues Today	Discussion Skills Presentations Skills Peer Evaluation
Week 8	Unit 3: Media and Society	Previewing, Skimming, Note-taking, Paraphrasing, Summarizing Essay Format and Structure
Week 9	Chapter 5 Mass Media Today	Previewing, Skimming, Note-taking, Paraphrasing, Summarizing Essay Format and Structure
Week 10	Chapter 6 Impact of the Media on Our Lives	Discussion Skills Presentations Skills Peer Evaluation
Week 11	Unit 4: Breaking the Rules	Previewing, Skimming, Note-taking, Paraphrasing, Summarizing Essay Format and Structure
Week 12	Chapter 7 Crime and Criminals	Previewing, Skimming, Note-taking, Paraphrasing, Summarizing Essay Format and Structure
Week 13	Chapter 8 Controlling Crime	Discussion Skills Presentations Skills Peer Evaluation
Week 14	Review and Final Assessment	Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. All student presentations are to be researched outside class and reflect students'research. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】

Academic Encounters 3: Life in Society, (Reading and Writing) 2nd Edition, Jessica Williams, Kristine Brown, and Susan Hood, Cambridge University Press, 2012. ISBN 978-1-107-65832-5

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries in preparation for the weekly readings and small group discussion. References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. The instructor will make research suggestions.

【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 20%

Homework and written assignments 40%

Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

LANe100LA

Academic Literacy B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

パワー トーマス G

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Building on the skills learned in Academic Literacy A, this course aims to help first year students to further develop transferable academic skills essential for university studies.

【到達目標】

Students continue to learn how to conduct library research, and read and listen to more advanced academic texts and lectures, while practicing critical thinking, note-taking, and referencing skills. Based on the class materials (e.g. readings, lectures) as well as individual research, students will develop the skills to participate in group discussions and give longer, well-supported presentations.

Please bring the results of any “Standardised Test” you have completed (e.g. TOEFL®, TOEIC®, IELTS® or Eiken) to the first class in April.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

Based on the class materials (e.g. readings, lectures) as well as individual research, students will develop the skills to participate in group discussions and give short presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Course outline, Assessment criteria,
Week 2	Contextualizing (Networks)	Listening Speaking
Week 3	Contextualizing	Reading Writing
Week 4	Referencing (Innovation)	Listening Speaking
Week 5	Referencing (Innovation)	Reading Writing
Week 6	Comparison and Contrast (Consumption)	Listening Speaking
Week 7	Comparison and Contrast (Consumption)	Reading Writing
Week 8	Argument and Evidence (Crime)	Listening Speaking
Week 9	Argument and Evidence (Crime)	Reading Writing
Week 10	Problem and Solution (Energy)	Listening Speaking
Week 11	Problem and Solution (Energy)	Reading Writing
Week 12	Cause and Effect (Progress)	Listening Speaking
Week 13	Cause and Effect (Progress)	Reading Writing
Week 14	TED Presentation	Compare social presentation to an Academic Presentation Discuss topic

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Short homework assignments and in-class worksheets will be assigned.

【テキスト（教科書）】

Oxford EAP - A course in English for Academic Purposes (Intermediate B1+), Edward de Chazal & Louis Rogers, Oxford University Press.
Supplementary materials and handouts will also be provided by the instructor.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries in preparation for the weekly reading/dialogue session. References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. The instructor will make research suggestions.

【成績評価の方法と基準】

Participation 20%.

Written assignments 40%

Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable.

LANe100LA

College Writing A

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

担当者未定

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

LANe100LA

College Writing B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

ANTHONY L FENTON

SGU コース

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Building on the skills learned in College Writing A, this course will focus on expanding students' textual/contextual interpretation skills and applying them to the organization and writing of a major research paper. The course will review the fundamentals of formal writing used in academic and professional settings and discuss the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to university research and professional communications. We will then reconsider the outlining and structuring of essays and professional correspondence as well as practice preparing a variety of formal written forms.

【到達目標】

This course aims to build competence in the following tasks:

1. Planning and organizing a major research paper
2. Choosing, evaluating, and using academic sources
3. Building on previous research in developing original research contribution
4. Proofreading, editing, and revising research papers
5. Researching information from class materials and outside sources
6. Writing essays in an academic style (APA Style for this course)
7. Discussing reading material topics in small groups
8. Making in-class presentations in an academic style
9. Synthesizing information and ideas
10. Expressing opinions and supporting those positions with objective evidence (obtained through research), and anecdotal evidence (obtained via personal and/or cultural experiences).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

Each class consists a short interactive lecture, demonstration, or discussion of a writing principle or format followed by a writing, editing, or rewriting exercises, and/or in-class discussions. We will often work together on such exercises, both in small groups and as a whole class. We will also share and edit each other's writing, so students should grow accustomed to both giving and receiving constructive feedback on assignments.

Review/Readings: Each week will address a different reading and writing assignment. Students should review the week's assignment and complete assigned exercises before class.

Participation: As there are many different ways of writing well, learning how to write requires cooperation with others in sharing opinions on style, organization, and argument. Thus, your active participation is required to enable not only your own development but also that of your peers. So naturally, attendance and participation in class is critical and a key part of your course assessment (see formal grading criteria).

Assignments: One or more writing exercises will be assigned each week. Students should both bring a hard copy of the assignment to class and/or submit an electronic copy to the instructor via email depending on the assignment, and specific instructions. Assignments submitted by email should be attached in doc or docx format. Label your attached file with the class, assignment number, and your name according to the following model CWB-Assign#2Name.

Final Research Paper: This is the primary task of the course and one of the main forms of assessment. The final research paper should be no less than 2500 words, excluding a bibliography (Times New Roman, 12-pt. font, double spaced [10 pages]). It should be submitted in hardcopy and electronic form, according to the example: CWB-Assign#2Name

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Reorientation:	Getting acquainted, initial in-class writing, Introduction of the Obituary Genres. Formal Writing Assignment #1

Week 2	Breath: The Latin Root: Spirare APA OWL Purdue Video	Rewriting Initial in-class handwritten writing samples, Discussion questions on three Obituaries. Reading Assignment on Redesigning Life, Formal Writing Assignment #2 Annotated Bibliography for Redesigning Life APA style OpenLibrary.org Springer.com APA OWL Purdue Video OpenLibrary.org Springer.com ** Swales & Feak, Unit 5; (pp. 188-225)
Week 3	Research I: Creating a reading list	
Week 4	Research III: Research skills (library visit to research online databases) Writing a critique	
Week 5	Research III: Research skills (library visit to research online databases) Writing a critique Research IV: Collecting and summarising sources (review citation styles if needed)	** Barnet, Bellanca, Stubbs, Chapter 7; (pp. 115-135) * Swales & Feak, Unit 5; (pp. 188-225) APA OWL Purdue Video MLA OWL Purdue Video Lester, Chapters 8d, 8e, 8f
Week 6	Essay Structure I: Writing a review of your sources	"A student protester's guide to last minute essay writing" Lester, Chapter 8g * Swales & Feak, Unit 8; (pp. 327-378)
Week 7	Essay Structure II: Research questions and narrowing your focus	** Barnet, Bellanca, Stubbs, Chapter 10; (pp. 190-194) Lester, Chapter 10a, 10b
Week 8	Essay Structure III: Introduction and thesis statements	** Barnet, Bellanca, Stubbs, Chapter 9; (pp. 162-180) Lester, Chapter 12a
Week 9	Special Working Session: Individual or group report on progress	* Barnet, Bellanca, Stubbs, Chapter 10; (pp. 202-238)
Week 10	Essay Structure IV: Working with data (how to match data with thesis; "they say/I say" paradigm Data commentary	* Swales & Feak, Unit 4; (pp. 139-183) Lester, Chapter 12b
Week 11	Essay Structure V: Conclusions and situating future research	Lester, 12c
Week 12	Editing I: Organisation How revising, editing, and proofreading works	** Petelin, Chapter 11; (pp. 264-287) * Smith, Pre-test; (pp. 1-10) Lester, 13a Lester, 13a
Week 13	Editing II: Peer editing	Lester, 13a
Week 14	Editing III: Refining arguments Final Presentations	Lester, 13a

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly homework assignments at home, and review materials covered in previous lectures at home to enhance their participation in classroom activities and discussions. Students are also expected to do independent research, i.e., find and analyze information from various English medium mass media sources and academic resource materials during the preparation of their Research Papers.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course reading material during the semester.

The optional text for this course is below:

A Short Guide to College Writing, Fifth Edition.

Sylvan Barnet, Pat Bellanca, and Marcia Stubbs. 2013. Pearson Longman. ISBN: 10: 0205238610

【参考書】

Resources will be drawn from the texts below:

Proofreading, Revising, & Editing Skills Success in 20 Minutes A Day, 1st Edition. Brady Smith. 2003. LearningExpress, LLC. ISBN: 1-57685-466-3.

Professional Editorial Standards: Knowledge, skills, and practices most commonly required for editing English-language material. Editors' Association of Canada. 2016.

Writing Tools: 55 Essential Strategies for Every Writer, 10th Edition.

Roy Peter Clark. 2006. Little, Brown and Company. ISBN: 978-0-316-01498-4.

A Writer's Reference with Resources for Multilingual Writers and ESL, 7th Edition. Diana Hacker and Nancy Sommers. 2011. Harvard University. ISBN: 0-312-60143-3.

How Writing Works: A Field Guide to Effective Writing. Roslyn Petelin. 2016. Allen & Unwin. ISBN: 978-1-92526-691-7.

Longman Academic Writing Series: Essays to Research Papers, 5th Edition. Alice Oshima and Ann Hogue. 2014. Pearson Longman. ISBN: 0132912740.

Academic Writing for Graduate Students: Essential Tasks and Skills. 3rd Edition. John M. Swales and Christine B. Feak. 2012. University of Michigan. ISBN: 978-0472-03475-8.

Academic Vocabulary in Use. Michael McCarthy. 2008. Cambridge University Press. ISBN: 0521689392.

Writing Research Papers: A Complete Guide. 14th Edition Lester, Jim D., and James D. Lester. 2011. Longman. ISBN: 0205059333.8.

【成績評価の方法と基準】

30% In-class Participation

30% Written Assignments

40% Final Research Paper

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than six absences in the semester. The "In-class Participation" part of the assessment is directly connected, but not totally dependent on class attendance, in most cases. Students are allowed 3 absences without penalty. However, students with 4 or more absences will automatically lose half of their possible "In-class Participation" points, and students with 6 absences will lose all their potential "In-class Participation" points.

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

Online Resources

Critical Thinking Skills

- Becoming a Critic of your Thinking
- Glossary of Critical Thinking Terms
- Universal Intellectual Standards
- Valuable Intellectual Traits
- Distinguishing between Inferences and Assumptions
- Thinking with Concepts

Debate topics for analysis, research, and modelling can be found on the following websites:

- <http://www.intelligencesquared.com/>
- <http://www.intelligencesquaredus.org/>
- http://idebate.org/view/top_100_debates

Analytical Skills

- Analytical Reasoning Skills Involved in Graduate Study: Perceptions of Faculty in Six Fields
- Facilitate Independent, Critical & Creative Thinking
- Learnhigher: Free Teaching & Learner Resources for Staff in UK Higher Education
- All Tools and Worksheets: Oregon State University
- Matrix Chart (sample)

EAP Resources

- TOEFL Independent Writing Rubric
- Speaking Assessment Rubrics
- Presentation Peer Assessment Rubrics
- Group Project Collaboration Assessment Rubric
- Building a Better Mousetrap: Replacing Subjective Writing Rubrics with More Empirically-Sound Alternatives for EFL Learners
- 12 Project Management & Collaboration Tools
- EAP Resources Bank
- EAP Toolkit: elanguages.ac.uk
- EAP Links: Resources for EAP Teachers/Lecturers
- EAP Related Websites: Links to EAP Journals, Online Learning, Resources and Useful Organisations
- OWL Purdue Online Writing Lab
- Free I-Phone Dictionary Apps: The Free Dictionary, Dictionary.com, Urban Dictionary

Time Management Resources for Course Activities

- 7 Management Tips for Students
- Managing your Workload: University of Oxford
- Time Management Online Workshop: University of Waterloo
- Managing Your Time: Dartmouth College
- University Time Management: York University
- Study Guides & Strategies
- Time Management Planners and Forms: Federation University Australia
- 8 Steps to Effective Time Management for Students: When to Study and How to Organise your Prep Time (with quiz)

【Outline and objectives】

Building on the skills learned in College Writing A, this course will focus on expanding students' textual/contextual interpretation skills and applying them to the organization and writing of a major research paper. The course will review the fundamentals of formal writing used in academic and professional settings and discuss the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to university research and professional communications. We will then reconsider the outlining and structuring of essays and professional correspondence as well as practice preparing a variety of formal written forms.

PRI100LA

Elementary Information Technology

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

松田 裕幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

You will learn basic knowledge about information technology.

【到達目標】

You will learn basic knowledges of information technology, especially computer architecture, algorithmic programing, data science, and the mechanism of the Internet and related subjects (social network, e-commerce, ethics, security).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The 2/3 time will be used for lectures and the rest for assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	What's Information Technology	The history and the current trend of information technology.
2	Data Processing	Several kinds of data and how to process data.
3	Information Processing	Define the information and how to process and communicate information.
4	Computing Technology	Architecture of computing system. From old fashioned type to super computer.
5	Algorithmic Programming	Design algorithms for solving problem.
6	Data Science - Predicting	Predicting the future being given the past data.
7	Data Science - Classification	Classifying the data according to certain criteria.
8	Communication Technology	Understanding the information communication technology.
9	Internet Protocol	TCP/IP
10	Mechanism of email and World Wide Web (WWW)	Based on server/client system, encoding/decoding information and TCP/IP makes it possible, email and www.
11	e-Commerce	the core technology of e-commerce is public key encryption and block chain.
12	Social Network	Graph theory: understanding the relation among entities.
13	Internet Ethics and Security	Several aspects of ethics and security inherent in the Internet.
14	Final Examination	examination performed with paper and pencil.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

We specify a short article related to the next class in advance, you should read, understand, bring the issue discussed in the article.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

All texts are uploaded in Etude.

【成績評価の方法と基準】

Total evaluation of 14 short assignments : 50%

The score fo the final examination: 50%

You need more than and equal to 60% of the max 100 points to pass the class.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

I have a long carrier in writing and designing for automatic programming, teaching human knowledge to computer, especially natural language.

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI100LA

Information Technology

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

Yukou MATSUDA

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
SGU コース

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

You will learn the information technology of communicating with machines.

【到達目標】

You will learn the information technology of communicating with machines. The main topics are the forms of information, knowledge representation of human knowledge, and autonomous systems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The 2/3 time will be used for lectures and the rest for assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Forms of Information	raw data, text, audio and visual data.
2	Information Theory	the measure of uncertainty-ness.
3	Encoding / Decoding of Information	encoding/decoding information between human and machine or machine and machine
4	Information System: Knowledge Representation Tool	knowledge representation for which machines understand.
5	Natural Language vs. Artificial Language	language as a communication tool.
6	Syntax (grammar) and Semantics of language	grammar and meaning of natural language and artificial language.
7	Ontology: the Network of Meaning	Hierarchy of knowledge.
8	Teaching Human Knowledge to Machines	Knowledge engineering.
9	Human Intelligence and Artificial Intelligence	Intelligent system.
10	Complex Systems	The world is constructed as a complex system.
11	Modeling the System	Model definition of the system.
12	Simulating the System	Evaluating the model by simulating the system.
13	Automatic IT and Autonomous IT	Automatic programming.
14	Final Assignment	Final Assignment.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

We specify a short article related to the next class in advance, you should read, understand, bring the issue discussed in the article.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

All texts are uploaded in Etude.

【成績評価の方法と基準】

Total evaluation of 14 short assignments : 50%

The score for the final assignment 50%

You need more than and equal to 60% of the max 100 points to pass the class.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

none.

【その他の重要事項】

I have a long carrier in writing and designing for automatic programming, teaching human knowledge to computer, especially natural language.

CAR100LA

Elementary Career Development 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

担当者未定

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Some students from foreign countries may have a keen interest in working for Japanese companies or having some business relation to Japan in the future. The main purpose of this class is to understand yourselves as well as basic knowledge on Japan's peculiar work culture and circumstances as the first step to make your own career plan.

【到達目標】

- 1.To understand yourselves from the viewpoints of your interest, values and direction for work.
- 2.To understand Japan's peculiar work culture and circumstances.
- 3.To build the basis of your own career plan, including your four-year campus life plan in HOSEI university.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In each class, the main method to be conducted is group discussion after short lecture. Through such group work, you may be aware of different ways of thinking and even differences on values, which would be useful to consider your own career plan.

So you are required to take part in discussions actively to create good give and take relations with your colleague.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	To explain the outline and aims of the class. You are required to introduce yourselves shortly.
2	Guest Speaker's lecture 1	Essential hints to work in Japanese organization
3	Changes of the Japanese society	Impact of the aging society
4	Characteristics of Japanese companies	Myths of a Japanese style of human resource management
5	Understanding yourselves	To analyze yourselves with a work-sheet
6	Identifying your interest	To analyze your interest with a work-sheet
7	Understanding your strengths	To analyze your strengths both from academic viewpoints and past activities with a work-sheet
8	Goals and objectives for this year	To determine your short-term objectives for this year in Japan with a work-sheet
9	Analyzing your values on work	To analyze your values for work with value cards
10	Identifying your work preferences	To identify your work preference with work-sheets
11	Guest Speaker's lecture 2	Human resources management in Japanese firms
12	Guest Speaker's lecture 3	A foreigner's experiences studying in a Japanese university and working for Japanese companies
13	Four-year campus life plan	To consider and write down your campus life plan in HOSEI Univ, with a work-sheet
14	Summary of classes and ending report	Summary of ECD lectures and making own career plan

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Materials which you are required to read through will be shown in each class.

【テキスト（教科書）】

Hand out will be provided.

【参考書】

Books and papers will be shown in classes.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and attitude 40%
Group discussion and presentation 40%
Final report 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not available.

【Outline and objectives】

Some students from foreign countries may have a keen interest in working for Japanese companies or having some business relation to Japan in the future. The main purpose of this class is to understand yourselves as well as basic knowledge on Japan's peculiar work culture and circumstances as the first step to make your own career plan.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2016 年度以前入学者

安孫子 信

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
文（哲）1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈アランの『幸福論』と出会う〉

「読む、調べる、理解する、その上で考える」という、哲学の一連の作業の練習をすることが、この授業の目的です。その練習台となるのは、「この世でもっとも美しい本の一つ」（アンドレ・モロワ）とも言われるアランの『幸福論』です。

【到達目標】

- a. 読めない漢字もなく、文を声に出して読むことができる。
- b. 不可解な語もなく、文一つ一つの意味を理解できる。
- c. 文と文のつながりを論理的にたどることができる。
- d. 文章全体の主旨を把握し、それに対して自分の考えを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、フランスの哲学者アラン（1868-1951）が「プロボ」（語録）と名づけて書き残した短文を取り上げ、「読む、調べる、理解する、その上で考える」という一連の作業を行っていきます。そのうち、授業で主に行うのは「理解する、その上で考える」の部分です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方を確認し、テキストの先行部分の説明を行います。
2	雨の中で (1)	読みと理解
3	雨の中で (2)	批判と考察
4	欲すること (1)	読みと理解
5	欲すること (2)	批判と考察
6	遠くを見よ (1)	読みと理解
7	遠くを見よ (2)	批判と考察
8	死について (1)	読みと理解
9	死について (2)	批判と考察
10	克服 (1)	読みと理解
11	克服 (2)	批判と考察
12	幸福は徳である (1)	読みと理解
13	幸福は徳である (2)	批判と考察
14	総括	参加者からの問題提起を受けて、全体で総括の討論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「読む、調べる、理解する、その上で考える」のうち、「読む、調べる」は家で予習で行ってください。「理解する、その上で考える」は授業での作業ですが、これについても家で復習をし、リアクションペーパーを提出してもらいます。学期末にはまとめのレポートの提出も求めます。

【テキスト（教科書）】

アラン『幸福論』（神谷幹夫訳、岩波文庫）

【参考書】

桑原武夫編『アラン・ヴァレリー』（中公バックス・世界の名著 66）
アンドレ・モロワ『アラン』（佐貫健訳、みすず書房）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への積極的参加（30％）とリアクションペーパーの提出（30％）、および学期末レポート（40％）で評価します。なおそれぞれの方法において、4 つの到達目標への到達度は、語の読みと意味調べ 30％、論理的理解 30％、哲学的理解 40％の割合で勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論を始め、できるだけ皆さんの間で話し合ってもらう機会を作って行きたいと思っています。

【Outline and objectives】

The goal of this lesson is to meet Alan's "On Happiness". Alan's "On Happiness" is said to be "one of the most beautiful books in the world" (André Maurois). While repeating the basic work of the philosophy of read and think, encounter with this book will be realized.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2016 年度以前入学者

君嶋 泰明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
文（哲）1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トマス・ネーゲルの『哲学ってどんなこと？』をテキストとして、文章を理解し、その内容について議論したりプレゼンテーションしたりする練習をします。グループワークの時間を多くとる授業ですので、受講生にはほかの受講生と積極的に協力しようとする姿勢を求めます。

【到達目標】

- (A) 文章その構造や要点を理解しながら読むことができる。
- (B) まとまった学術的内容についてわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は教師の指示に従い、その日に扱う文章の構造や要点を個人でまとめ、ワークシートに記入します。次にそれをもとにグループで話し合い、意見をまとめます。最後に全体で討議し、もっともよいまとめ方とはどのようなものかを考えます。担当グループはこの討議の結果を踏まえ、次回に文章の内容についてプレゼンテーションします。そのうえで、このプレゼンテーションの内容についてふたたび議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方と概要の説明
第 2 回	『哲学ってどんなこと？』第 2 章①	グループワークと討議
第 3 回	『哲学ってどんなこと？』第 2 章②	プレゼンテーションと議論
第 4 回	『哲学ってどんなこと？』第 3 章①	グループワークと討議
第 5 回	『哲学ってどんなこと？』第 3 章②	プレゼンテーションと議論
第 6 回	『哲学ってどんなこと？』第 4 章①	グループワークと討議
第 7 回	『哲学ってどんなこと？』第 4 章②	プレゼンテーションと議論
第 8 回	『哲学ってどんなこと？』第 5 章①	グループワークと討議
第 9 回	『哲学ってどんなこと？』第 5 章②	プレゼンテーションと議論
第 10 回	『哲学ってどんなこと？』第 6 章①	グループワークと討議
第 11 回	『哲学ってどんなこと？』第 6 章②	プレゼンテーションと議論
第 12 回	『哲学ってどんなこと？』第 7 章①	グループワークと討議
第 13 回	『哲学ってどんなこと？』第 7 章②	プレゼンテーションと議論
第 14 回	『哲学ってどんなこと？』第 8 章	グループワークと討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で時間内にワークシートに記入できるよう、全員がテキストの該当箇所を事前に熟読します。プレゼンテーションの担当グループのメンバーは教師の指示に従い、次回までに協力してプレゼンテーションの準備をします。

【テキスト（教科書）】

T. ネーゲル著・岡本裕一郎・若松良樹訳、『哲学ってどんなこと？』, 昭和堂, 1993 年。

【参考書】

授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

ワークシートの内容が 50%、プレゼンテーションの内容が 50%です。上記到達目標がどれだけ達成されているかが主な評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より新任につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

In this course, using Thomas Nagel's *What Does It All Mean* as a course text, students will practice understanding a written text and discussing and giving a presentation about its content. This course includes a lot of group-work, so students are required to be willing to collaborate with each other.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ I

2016 年度以前入学者

西塚 俊太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
文（哲）1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

三木清の著作『人生論ノート』の各断章を下敷きしながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の基礎の習得を目指す。

【到達目標】

- ・哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
- ・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- （１）受講者全員に三木清の『人生論ノート』内の各断章を発表担当箇所として割り当てる。
- （２）担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
- （３）その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	三木清『人生論ノート』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第 2 回	大学での学習とゼミについて	ゼミ形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 ゼミでの議論の形式
第 3 回	「死について」 「幸福について」	三木清『人生論ノート』の「死について」「幸福について」の二断章に関する発表と議論
第 4 回	「懐疑について」 「習慣について」	「懐疑について」「習慣について」の二断章に関する発表と議論
第 5 回	「虚栄について」 「名誉心について」	「虚栄について」「名誉心について」の二断章に関する発表と議論
第 6 回	「怒について」 「人間の条件について」	「怒について」「人間の条件について」の二断章に関する発表と議論
第 7 回	「孤独について」 「嫉妬について」	「孤独について」「嫉妬について」の二断章に関する発表と議論
第 8 回	「成功について」 「瞑想について」	「成功について」「瞑想について」の二断章に関する発表と議論
第 9 回	「噂について」 「利己主義について」	「噂について」「利己主義について」の二断章に関する発表と議論
第 10 回	「健康について」 「秩序について」	「健康について」「秩序について」の二断章に関する発表と議論
第 11 回	「感傷について」 「仮説について」	「感傷について」「仮説について」の二断章に関する発表と議論
第 12 回	「偽善について」 「娯楽について」	「偽善について」「娯楽について」の二断章に関する発表と議論
第 13 回	「希望について」 「旅について」	「希望について」「旅について」の二断章に関する発表と議論
第 14 回	「個性について」 総まとめの発表	「個性について」に関する発表と全体の総まとめの発表、それにまつわる議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。

【テキスト（教科書）】

三木清『人生論ノート』（新潮文庫）

教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上でゼミに参加すること。

【参考書】

まずは参考書などを参照せず、三木清が『人生論ノート』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎ゼミの主目的の一つである。

参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（70 %）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（30 %）によって評価する。
講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したものとは見なさないで、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「『ひと』であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『三河物語』における譜代意識の根底—「慈悲」と「情」と「武辺」との関係から—」（『倫理学紀要 第 24 輯』、2017）

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Life theory notes" by Miki Kiyoshi.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2016 年度以前入学者

菅沢 龍文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
文（哲）1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で哲学を学ぶにあたって基礎となる、哲学的な問いかけ—そもそも、なぜだろう？—を实践する。

ところで大学ではもちろん、どこでであれ、物事を合理的に考えるためには、論理的思考が大前提となる。なかでも矛盾律は思考の大原則として最初に学ぶ必要がある。その矛盾律について考えを深めてから、その矛盾律を前提として、分析と総合、必要条件・十分条件、事実・概念・言語、唯名論、ものの同一性、懐疑、明証性、人格の同一性、道徳的意志、決定論と自由、などについて初歩的に考え、最後に大学では数多く課されるレポートについて考えて、実践する。これにより、大学で哲学を学ぶ基礎を培う。

【到達目標】

《知識》哲学の基本的な問題を知る。

《態度》問題を発見し、積極的に探究する態度を身につける。

《技能》物事をそもそも「なぜだろう？」と問うて追究する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で取り上げた問題について考察をして、書いて、発表をして、質疑応答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	(1) 授業の進め方 (2) 哲学の基本問題 (3) 自我 テキスト： 16, 27 頁
第 2 回	矛盾	(1) 「矛盾」の由来 (2) 矛盾と同一性 (3) 「矛盾」の定義 テキスト： 29, 33, 37 頁
第 3 回	総合的な判断	(1) 矛盾律 (2) 分析判断・総合判断 (3) 必要条件 テキスト： 42-44, 83 頁
第 4 回	論理と事実	(1) 事実と概念 (2) 概念と言語 (3) 反対当 テキスト： 46-50, 53-56 頁
第 5 回	「a は b である」はナンセンス？	(1) 必要十分条件 (2) 唯名論（ノミナリズム） (3) 総体および皆無の原理 テキスト： 76-81, 83-86, 93, 236 頁
第 6 回	感覚と物	(1) 感覚 (2) 判断・推理 (3) 物の同一性 テキスト： 98, 102-115 頁
第 7 回	懐疑	(1) 一次性質と二次性質 (2) 感覚知覚への疑い (3) 算術・幾何学への疑い テキスト： 118-120, 126-130 頁
第 8 回	明証性	(1) 私は存在する (2) 私は考える (3) 明証的な知覚 テキスト： 132-136, 141-142 頁
第 9 回	自我	(1) 私はあるが、誰でもない？ (2) 人格（ペルソナ） (3) 主観的と客観的 テキスト： 157-172 頁
第 10 回	行為の価値	(1) 善意志 (2) 意図の選択 (3) 道徳的価値 テキスト： 177-181 頁

第 11 回	善い意志	(1) 隣人愛 (2) 無制限に善い意志 (3) 定言命法と黄金律 テキスト：182-183, 186-187, 190-191 頁
第 12 回	自由と道徳	(1) 「である」と「べきである」 (2) 決定論 (3) 心情と結果 テキスト：215-219, 223-228 頁
第 13 回	レポートの作成	(1) 主題 (2) 資料収集 (3) 導入部を書く
第 14 回	レポートの実践	(1) アウトライン (2) 文章マナー (3) レポートを書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備：各回のテーマで何を考えるのかテキストを使って把握する。
※よく理解するのはゼミでの課題となる。

復習：(1) 返却された課題プリントで前回のテーマを復習する。
(2) テーマについて授業プリントとテキストで復習する。

【テキスト（教科書）】

ラインハルト・プラント著『哲学 ひとつの入門』（理想社）

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価の観点には次のとおり。

- (1) 毎回のゼミへの参加態度と課題プリントの評価
- (2) セメスター末のレポートの評価
- (1) を 7 割、(2) を 3 割で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、聞き取りやすい発声を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

To learn philosophy at university, our basic attitude is to make questions like 'why is it so?' and to try to answer it.

Not only at university, wherever it would be, the logical thinking is the basic premise for the rational calm thinking. The law of contradiction is the most important logical principle of thinking and we have to learn it philosophically deeper at first. Presupposing the law of contradiction, as a first step we think about the analysis and synthesis, necessary condition and sufficient condition, fact/concept/language, nominalism, identity of a thing, skepsis, self-evidence, identity of a person, moral will, determinism and freedom, and so on. At last we learn how to write a report, and really make one on a philosophical topic. In this way we cultivate our basis for our study at university.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ I

2016 年度以前入学者

小島 尚人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文（英）1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。

4 クラスに分け、1 限と 2 限に 2 クラスずつ配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、基礎科目・総合科目掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2	グループによる調査・発表 1
第 13 回	Presentations 3	グループによる調査・発表 2
第 14 回	Presentations 4	グループによる調査・発表 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。

【テキスト（教科書）】

配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から総合的に評価します [授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%]。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

*英文学科 1 年生は必ず履修してください。

【Outline and objectives】

"Basic seminar" is to introduce first year students to university education. By having students understand the difference between learning at high school and learning at university, and by teaching how to take notes, how to give a presentation, how to write reports (essays), how to gather materials, this class aims to help students learn efficiently at Hosei University.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2016 年度以前入学者

田中 裕希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
文（英）1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における1年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の1セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1年次の学生全員を4クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科1年生は全員履修してください。

4クラスに分け、1限と2限に2クラスずつ配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、基礎科目・総合科目掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第2回	Note Taking	講義ノートの取り方
第3回	Library Tour	図書館の使い方
第4回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第5回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第6回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第7回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第8回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第9回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第10回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第11回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第12回	Presentations 2	グループによる調査・発表1
第13回	Presentations 3	グループによる調査・発表2
第14回	Presentations 4	グループによる調査・発表3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。

【テキスト（教科書）】

配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から総合的に評価します [授業参加状況 30%, 授業内提出物・発表 70%]。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

*英文学科1年生は必ず履修してください。

【Outline and objectives】

"Basic seminar" is to introduce first year students to university education. By having students understand the difference between learning at high school and learning at university, and by teaching how to take notes, how to give a presentation, how to write reports (essays), how to gather materials, this class aims to help students learn efficiently at Hosei University.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ I

2016 年度以前入学者

小島 尚人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文 (英) 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。

4 クラスに分け、1 限と 2 限に 2 クラスずつ配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、基礎科目・総合科目掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2	グループによる調査・発表 1
第 13 回	Presentations 3	グループによる調査・発表 2
第 14 回	Presentations 4	グループによる調査・発表 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。

【テキスト（教科書）】

配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から総合的に評価します [授業参加状況 30%, 授業内提出物・発表 70%]。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

*英文学科 1 年生は必ず履修してください。

【Outline and objectives】

"Basic seminar" is to introduce first year students to university education. By having students understand the difference between learning at high school and learning at university, and by teaching how to take notes, how to give a presentation, how to write reports (essays), how to gather materials, this class aims to help students learn efficiently at Hosei University.

BSP100LA

基礎ゼミ I

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ I

2016 年度以前入学者

丹治 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

文(英) 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。

4 クラスに分け、1 限と 2 限に 2 クラスずつ配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、基礎科目・総合科目掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2	グループによる調査・発表 1
第 13 回	Presentations 3	グループによる調査・発表 2
第 14 回	Presentations 4	グループによる調査・発表 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。

【テキスト（教科書）】

配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から総合的に評価します [授業参加状況 30%, 授業内提出物・発表 70%]。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

*英文学科 1 年生は必ず履修してください。

【Outline and objectives】

"Basic seminar" is to introduce first year students to university education. By having students understand the difference between learning at high school and learning at university, and by teaching how to take notes, how to give a presentation, how to write reports (essays), how to gather materials, this class aims to help students learn efficiently at Hosei University.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2016 年度以前入学者

大塚 紀弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
文（史）1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の授業には、講義形式と演習形式があります。前者では、専門的な話を整理して理解する能力が必要となります。後者では、自ら調べ、考察し、その内容を伝達する能力が求められます。この授業では、このような能力をいかに身につけ、向上させたいのか、一緒に考えていきたいと思います。

【到達目標】

大学で学ぶための基礎的な能力を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

9 章構成とし、講義形式を基本として進めます。配布プリントとパワーポイントを併用し、基本的に参考書の内容に沿って説明します。パワーポイントの文面については、事前に各章ごとに授業支援システムにアップロードする予定です。また、講義の内容をふまえて、履修者に課題を実践してもらい、意見交換をします。研究発表、図書館実習、キャリアガイダンスの機会も設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎ゼミで学ぶこと	履修のガイダンス
第 2 回	ノートの取り方（1）	大学の授業スタイル
第 3 回	ノートの取り方（2）	ノート取りの実践
第 4 回	研究論文の読み方	研究論文の作法
第 5 回	論文要約の仕方（1）	論文要約の作法
第 6 回	論文要約の仕方（2）	論文要約の実践
第 7 回	レポートの書き方	レポートの作法
第 8 回	図書館の利用と情報検索	図書館実習
第 9 回	レジュメの作り方	レジュメの作法
第 10 回	研究発表の仕方	研究発表の作法
第 11 回	研究発表（1）	研究発表の実践
第 12 回	研究発表（2）	研究発表の実践
第 13 回	卒業後の進路を考える	キャリアガイダンス
第 14 回	レポート提出	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにアップロードされたパワーポイントの文面を基に予習する。プリント、ノートを見直して復習する。また、事前に参考書を読んでおくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
藤田哲也編『大学基礎講座 改増版』（北大路書房、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%、研究発表点 20%、レポート点 20% の合計で評価する予定である。正当な理由なく 5 回以上欠席した場合は、D 評価とする。担当の研究発表、レポートを正当な理由なく怠った場合は、D 評価とする。正当な理由によって欠席した場合は、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。評価基準の詳細は、初回に指示する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】

There are lecture forms and exercise forms in the university classes. In the former, the ability to organize and understand professional stories is necessary. In the latter, the ability to examine, consider, and communicate its contents is required. In this lesson, I would like to think about how to acquire and improve such abilities.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2016 年度以前入学者

塩沢 裕仁

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
文(史)1年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識をひたすら暗記するこれまでの受身型「生徒」から主体的に学ぶ存在としての「学生」になるためのスキル（技能）を学びます。

【到達目標】

前半は、高校時代の学習方法を見直し主体的に学ぶ存在としての学生の学習方法を習得していきます。また、後半では2年生から参加する史学科の演習のためのスキルを習得します。情報収集・討論・資料作成・発表の方法、歴史学研究の歩みや歴史学を学ぶことの意味、史実と史料との関連についても学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講する学生諸君の主体的な取り組みが中心となります。机上での学習と共に、大学図書館や史学科資料室での調査、あるいは国会図書館や東京国立博物館の利用といった実践的な学習も要求されることになります。自力で調査・研究を行っていく、その第一歩を歩みだしてもらいたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介と授業計画
第2回	授業の準備と学習の進め方	授業外学習との関連から
第3回	ノートや調査記録の作成法	資料の収集・整理法に関して
第4回	史料・資料とは何か	研究材料の性格と入手法
第5回	文章の理解と要約	文章の内容整理について
第6回	図書館の利用方法	市ヶ谷図書館活用法
第7回	歴史研究の基本文献	史学科資料室の活用法
第8回	成果の発表方法Ⅰ	レポートおよびレジュメの作成方法
第9回	成果の発表方法Ⅱ	学習・研究報告の仕方
第10回	国会図書館の活用法	大学外での資料収集法
第11回	学習成果の発表Ⅰ	自作のレジュメに基づく発表1
第12回	学習成果の発表Ⅱ	自作のレジュメに基づく発表2
第13回	学習成果の発表Ⅲ	自作のレジュメに基づく発表3
第14回	論文作成法	論文の構成とその作成法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学図書館の書庫や史学科資料室、あるいは国会図書館などでの資料収集の方法を学び、各自の与えられたテーマに基づきそれを活用・実践することで、レジュメやレポートの作成、発表の準備に対する大学での学習の仕方を身に付けていきます。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に配布します。

【参考書】

特に使用しませんが、必要に応じて授業中に参考文献の紹介はします。

【成績評価の方法と基準】

出席（40％）／レポート（20％）／その他（授業内の発表や討論への参加姿勢：40％）

【学生の意見等からの気づき】

専門書や大型の辞書などの書籍については個人で購入することは困難です。授業中に収蔵場所などを示しますので、図書館などを積極的に活用してください。

【Outline and objectives】

We will aim to get out of a passive student that learns historical knowledge by heart and gain the skill for making a student that can think historical events independently.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2016 年度以前入学者

高澤 紀恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
文(史)1年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「市ヶ谷を歴史する」をテーマに、自分の身近な場を歴史的な考察の対象としてみましょう。グループで調査・報告し、各人が短いレポートを書く中で、大学で学ぶ基礎的スキルを身につけましょう。

【到達目標】

史学科の学生として、今後四年間、主体的に歴史を考え、学ぶための基礎的なスキルを身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・「市ヶ谷を歴史する」を共通テーマに、具体的な研究テーマを探してみましょう。
・ゼミ生を6グループにわけます。各グループごとにリサーチし、報告してみましょう。
・ひとりひとり短いレポートを書いてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	歴史を学ぶとは？ なにを歴史する？
2	歴史を学ぶ道具箱（1）	図書館ツアー
3	歴史を学ぶ道具箱（2）	ノート、レジュメ、ビブリオ
4	小フィールド・トリップ	昭和館に行ってみよう。
5	問いをたててみよう。	「市ヶ谷を歴史する」テーマ探しとグループ決め
6	映画を観てみよう。	「否定と肯定と」
7	キャリア・ガイダンス	将来を考えてみよう。 (ビブリオ提出)
8	グループ発表①	「市ヶ谷を歴史する」テーマ①
9	グループ発表②	「市ヶ谷を歴史する」テーマ②
10	グループ発表③	「市ヶ谷を歴史する」テーマ③
11	グループ発表④	「市ヶ谷を歴史する」テーマ④
12	グループ発表⑤	「市ヶ谷を歴史する」テーマ⑤
13	グループ発表⑥	「市ヶ谷を歴史する」テーマ⑥
14	まとめ	全体討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ毎の調査・報告。

+

各人でレポート作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

・斎藤望編『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2006年。
・テッサ・モーリス＝スズキ『Doing History 「歴史」に対して、わたしたちができること』弦書房、2017年。
・上田信『歴史を歴史家から取り戻せ！』清水書院、2018年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ディスカッションへの参加）10％
報告40％
レポート50％

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

This course aims to get a necessary academic skill as a student of the history department. Let's practice "doing history on Ichigaya."

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2016 年度以前入学者

松本 剣志郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
文(史)1年～**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

生徒と学生は何か違うのか。高等教育とは何か。論文の読み方からレジュメの切り方、レポートの書き方まで、史学科の学生になってゆくための基本的技術を学ぶ。

【到達目標】

①史料に基づいて思考し、それを適切な文章で表現できる。②レジュメやレポートの作成方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習とを折衷した授業をおこなう。学生諸君には授業内で発表してもらうことを考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方
第2回	大学の授業	生徒と学生、講義と演習について
第3回	評論を読む	著者の意図を正確に理解すること
第4回	要約の仕方	引用と剽窃
第5回	『論文の書き方』精読1	論文とは
第6回	『論文の書き方』精読2	伝わる文章
第7回	レジュメの切り方	レジュメとは
第8回	図書館ツアー	法政大学図書館を使いこなす
第9回	レポートの書き方	レポートの構成
第10回	研究発表1	各自任意のテーマで発表1
第11回	研究発表2	各自任意のテーマで発表2
第12回	研究発表3	各自任意のテーマで発表3
第13回	研究発表4	各自任意のテーマで発表4
第14回	まとめ	ゼミ・卒業論文に向けて、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を引く癖をつけること。テキストを通読しておくこと。

【テキスト（教科書）】

清水幾太郎『論文の書き方』（岩波新書）

【参考書】

井上ひさし『私家版日本語文法』（新潮文庫）
竹内洋『大学の下流化』（NTT 出版）など

【成績評価の方法と基準】

レポート（50％）、平常点（50％）

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な技術から説明していきます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2016 年度以前入学者

羽佐田 紘大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
文(地)1年～**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、大学での能動的な学習に必要な基礎的なスキルの修得を目指す。

【到達目標】

文献や資料を自ら調べ、内容を理解した上で、プレゼンテーションやレポート作成を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で行う。授業を通して、文献の検索や収集、文献の要約、設定したテーマに基づくプレゼンテーションやレポートの作成について学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法を説明する。
第2回	図書館の利用	図書館の利用方法を学ぶ。
第3回	大学周辺の環境	大学周辺の環境を確認する。
第4回	自己紹介	パワーポイントを使って自己紹介をする。
第5回	文献の検索	個々の興味に沿って文献を検索する。
第6回	文献の紹介（1）	ビブリオバトルを行う。
第7回	文献の紹介（2）	ビブリオバトルを振り返る。
第8回	テーマの設定	グループごとにテーマを設定する。
第9回	発表準備（1）	設定したテーマに基づいて発表準備する。
第10回	発表準備（2）	設定したテーマに基づいて発表準備する（前回のつづき）。
第11回	グループ発表	グループごとにプレゼンテーションを行う。
第12回	レポートの作成（1）	レポートを作成するにあたってテーマを設定する。
第13回	レポートの作成（2）	設定したテーマに基づいてレポートを作成する。
第14回	レポートの作成（3）	設定したテーマに基づいてレポートを作成する（前回のつづき）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表準備など授業時間外での取り組みが必要である。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業内で適宜プリントの配布や文献の紹介を行う。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、発表（30％）、レポート（30％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（必要なときは事前に連絡します）

【Outline and objectives】

This course deals with basic skills required to learn in university.

BSP100LA	
基礎ゼミⅠ	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミⅠ	2016 年度以前入学者
片岡 義晴	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 3/Thu.3 文(地) 1 年～	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生徒」から「学生」になると、受け身で学ぶ立場から、「自主的」に学ぶ立場になります。しかしそのためには一定の技能が必要になります。「自主的」に学んでいくための技能、方法を身につけられるようにすることが目標です。

【到達目標】

「大学生」としての「学び方」を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

「大学生としての学び方」といっても特別な方法があるわけではありません。学ぶ手順を一つ一つ確認し、大学施設の利用法、本の読み方、レポートのまとめ方、発表の仕方等を習得していきます。

【授業の方法】

講義 40 %程度、各自の作業と発表 60 %程度で進めていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	ゼミの進め方の説明、大学での授業の進め方、大学生に求められる学習態度等
第 2 回	ノートテイキング	ノートのとり方
第 3 回	リーディング (1)	本の選び方
第 4 回	リーディング (2)	議論の展開の仕方を読む
第 5 回	リーディング (3)	批判的読解
第 6 回	考える	自分の意見を述べる
第 7 回	情報収集	図書館の利用方法
第 8 回	レポートのまとめ方 (1)	レポートの基礎知識
第 9 回	レポートのまとめ方 (2)	レポート作成の手順
第 10 回	レポートのまとめ方 (3)	レポートの構成
第 11 回	レポートのまとめ方 (4)	文章を書く
第 12 回	口頭発表 (1)	①レジュメ（発表要旨）の作り方 ②発表の仕方と発表後のディスカッション
第 13 回	口頭発表 (2)	口頭発表の実践①
第 14 回	口頭発表 (3)	口頭発表の実践②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

このゼミで触れたことを、日頃の授業で実践していくことが重要です。これから 4 年間で「学び方」が自分の身につくよう、他のそれぞれの授業で実践していった下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』筑摩書房
佐藤・湯川・横山・近藤（2006）『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会
世界思想社編集部（2008）『大学生 学びのハンドブック』世界思想社
専修大学出版企画委員会（2009）『知のツールボックス』専修大学出版局

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への出席、発表、提出物など）で総合的に評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

コメントがないのが問題です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

Academic Skills:Note-taking,Imformation Literacy,Critical Reading,Making Presntations,Writing Papers,etc.

BSP100LA	
基礎ゼミⅠ	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミⅠ	2016 年度以前入学者
前杵 英明	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 3/Thu.3 文(地) 1 年～	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で自発的に勉強するための基本的な情報、知識、方法について学び、高校までの受動的学習との違いに戸惑うことなく、大学生活にスムーズに適応するための導入的授業である。

【到達目標】

大学での学修は、教科書を鵜呑みにすることではなく、批判的に読むことです。卒業時に取得する学士号とは専門分野で何らかの創造をした証です。最高学府の学生として、自信と自覚をもって行動できるようになるための基礎的事項を習得することを到達点とします。

具体的には、専門教育に入る前段階として、大学生として必要な学習スキルを身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

具体的な内容として、図書館での文献検索の実習、文献の収集、文献の読み方と内容の要約、テーマに沿ったプレゼンテーションの練習、レポートの作成方法などを学習します。大学生として、主体的に各課題に取り込んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに～ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方針、受講者による自己紹介など
2	大学におけるハラスメント	大学におけるハラスメントについて講習を受けます
3	キャンパス周辺の環境	市ヶ谷近隣のキャンパスを巡りながら、キャンパス周辺の地形環境について学びます
4	図書館の利用法	図書館で情報検索や図書検索の方法などを学習します
5	雑誌論文と専門書	地理学科図書室や文献センターで専門書や雑誌論文を手にとってみます。
6	レポートの書き方①	レポートを書くための基本的スキルを学習します
7	レポートの書き方②	レポートを書くための基本的スキルを学習します
8	レポートの作成①	実際にレポートを作成してみます。そのための資料探しから始めます。
9	レポートの作成②	レポートを書いてみます
10	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎的技法について解説する
11	テーマの発表①	作成したレポートにそって各自プレゼンテーションを行う
12	テーマの発表②	作成したレポートにそって各自プレゼンテーションを行う
13	テーマの発表③	作成したレポートにそって各自プレゼンテーションを行う
14	クリティカルシンキング	考えることは？ 議論することとは？ ディベートを通じて批判的思考力を身に付ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポートの書き方やプレゼンの仕方についての参考文献を授業で紹介するので、各自授業時間外に読んでおいて下さい。

【テキスト（教科書）】

レポートの組み立て方、木下是雄著、ちくま学術文庫、1994、780 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表 30 %、レポート提出 30 %、授業中の発言 30 %、授業への取り組み 10 %

【学生の意見等からの気づき】

グループワークを取り入れて欲しいということがあったので、ディベートでそれをやってみたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

powerpoint

【その他の重要事項】

授業の順序は他部署の予約状況によって前後することがあります。

【Outline and objectives】

introduction for fundamental study method in the university

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2016 年度以前入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

文（地）1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学では、高校までの受け身の学習とは異なり、自ら能動的に学ぶ姿勢が求められます。つまり、学習に必要な情報収集や情報発信に関わる能力や積極的に自ら学習する意欲が必要です。本授業のテーマは、大学生として必要な学習スキルの修得です。

【到達目標】

このゼミでは、専門ゼミに入る前段階として、大学生として必要な学習スキルを身につけることが目標です。具体的には、文献収集や読み方、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方などを修得することが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

具体的内容として、図書館での文献検索の実習、文献の収集、文献の読み方と内容の要約、テーマに沿ったプレゼンテーションの練習、レポートの作成方法などを学習します。大学生として、主体的に各課題に取り込んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに～ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方針、受講者による自己紹介など
2	文献検索の方法	図書館での実習
3	文献の読み方	具体的にテキストの一部を受講者が音読しながら、教員が解説する。
4	文献の要約①	テキストの内容をまとめて、レジュメで発表してもらいます。
5	文献の要約②	テキストの内容をまとめて、レジュメで発表してもらいます。
6	文献の要約③	テキストの内容をまとめて、レジュメで発表してもらいます。
7	文献の要約④	テキストの内容をまとめて、レジュメで発表してもらいます。
8	問題意識とテーマ設定	社会のなかで問題意識を持ち、テーマ設定を行いましょう。
9	テーマの発表①	パワーポイントでプレゼンテーションしてもらいます。
10	テーマの発表②	パワーポイントでプレゼンテーションしてもらいます。
11	テーマの発表③	パワーポイントでプレゼンテーションしてもらいます。
12	テーマの発表④	パワーポイントでプレゼンテーションしてもらいます。
13	テーマの発表⑤	パワーポイントでプレゼンテーションしてもらいます。
14	レポートの作成①	レポートの書き方・まとめ方について教員が説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメ（要約）やパワーポイントを授業の前に自宅および大学で準備してください。

【テキスト（教科書）】

使用するテキストは授業の最初に提示します。

【参考書】

授業内で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席 50 % 発表 25 % レポート提出 25 % 出席を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

各自のテーマ設定は出身地、(故郷)を地理学的に分析するかたちで行ってもらったところ、好評でしたので引き続きそのかたちで行います。

【Outline and objectives】

This course examines academic skills for studying in university. The main purpose is collecting information presentation skills and writing papers.

BSP100LA		
基礎ゼミⅠ		
2017 年度以降入学者		
BSP100LA		
基礎ゼミⅠ		
2016 年度以前入学者		
藤田 哲也		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金 1/Fri.1		
文(心)1年～		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
春学期の基礎ゼミⅠでは、受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、様々な学習スキル（技能）の習得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し、将来、社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では、大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに、社会に出てからも必要とされる、情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や、他者とのコミュニケーション能力などのスキルと、積極的に活動する態度を身につけることを目指します。		
【到達目標】		
半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。		
1. 情報収集力として、「自分自身で必要な情報を判断した上で、時間が経過してからでも役立つノートを取れるようになること」。		
2. 情報の内容理解として、「教科書など他者の書いた文章を適切に読解すること」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できること」。		
3. 情報発信能力として、「第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書けること」。		
4. コミュニケーション能力として、「相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べること」。		
5. 積極的に活動する態度として、「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で、授業に継続的に参加すること」。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1		
【授業の進め方と方法】		
上記の到達目標を達成するために、「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために、授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また、自分の課題を客観的に捉えるために、他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにするため、毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと、予習・復習を重視します。この授業で取り上げる学習スキル、たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきていると思います。しかし、教員が板書したとおりにノートに書き写すだけでは、大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをまとめる形で板書しなくても、みなさん自身がどこが重要なのかを自分で判断し、時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは、社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても、みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で、高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し、積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。		
もっとも怖いのは「わかつたつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために、授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて、自分に不足している点や誤解していた点に、たくさん気づくことができるでしょう。また、課題に取り組む際には、他の受講生とペアを組み、お互いに意見交換したり、課題の評価をしあう機会を設けます。こうしたペアワークの中で、自分の意見を短時間で的確に述べたり、相手に理解できるように説明をしたり、相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという、コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。		
したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでの参加とは、単に教室に足を運ぶだけのことでなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり、課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には、授業内でのペアワークに参加できないこともありますので、継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No		
【授業計画】		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解
この授業の教育目標を理解し、自分なりに説明できるようにする		
第2回	ノートの取り方 1	典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる
第3回	ノートの取り方 2	前回のノートに対する自己評価と「役立つノート」の必要条件
第4回	初年次教育とは「大学生」である自分が社会から求められていることを説明できるようにする	「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連
第5回	テキストの読み方	読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと、弁証法などの論理構成
第6回	要約の仕方	社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約
第7回	きちんと考える方法 1	書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味
第8回	きちんと考える方法 2	深く広く考えるためのブレインストーミングなどの手法の実践
第9回	図書館の利用	PC を利用した情報検索法と、図書館ツアー
第10回	レポートの書き方 1	大学レポートが要求すること、基本的な原稿作成上のルールの確認
第11回	レポートの書き方 2	レポートや試験の出題意図をふまえた課題作成、宿題に対する添削
第12回	レポート提出と自己評価	レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認
第13回	これまでの総括	これまでの授業内での「気づき」の総点検と新たな「気づき」
第14回	レポート返却	自己評価と教員評価の比較と自己評価基準の修正の必要性の説明
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
第1回	教科書第 0 講の予習	
第2回	教科書第 1 講の予習とノートの見直し	
第3回	教科書第 2 講の予習と、ノートの整理	
第4回	教科書補講の予習とこれまでの総復習	
第5回	教科書第 3 講の予習・第 4 講のための要約の宿題	
第6回	教科書第 4 講の予習・再度の要約課題	
第7回	教科書第 5 講の予習・教科書の練習課題	
第8回	教科書第 5 講の予習・練習課題の実施	
第9回	教科書第 6 講の予習・情報検索の宿題	
第10回	教科書第 7 講の予習・第 8 回宿題見直し	
第11回	教科書第 8 講の予習・練習課題直し	
第12回	レポート作成・春学期総復習	
第13回	「気づき振り返りシート」作成	
第14回	これまでのプリント類の整理と振り返り	
【テキスト（教科書）】		
藤田哲也（編）(2006)、「大学基礎講座 改増版 ー充実した大学生活をおくるためにー」、北大路書房		
【参考書】		
各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。		

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）…予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続 3 回欠席した者、半期中に通算で 5 回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E 評価（未受験）とします。平常点として、授業一回につき+4 点を加算し、上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2 点です。

課題の提出（20%）…授業の進度に合わせて、「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し、提出したものに各 5 点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ、自分なりの視点の獲得等）に応じた 0～10 点までの評価とします。

期末レポート（40%）…この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので、あまり詳しいことはここには書きませんが、「適切な情報を検索し、内容を吟味して、指定字数で要約し、引用できること」、「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」、「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」、「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に、計 40 点分の評価とする予定です。

【学生の意見等からの気づき】

「履修してよかった」は 1 限は 4.55、2 限は 4.44 でした。一人だけ「よくなかった」という人がいたのですが、理由は自由記述からも読み取れませんでしたが、大多数の人からは好評だったのは嬉しいことなのですが、授業外学習の時間はこれまでの学年よりかなり短く、1 限の約 1 割、2 限の約 3 割が「ほとんど行っていない」でした（上位層を見てもかなりクラス差があります）。両クラスとも、1 時間未満で過半数になります。もう少し、予習の習慣をつけるよう、最初のうちに工夫をしてみます。予習をしたほうが授業で得ることも増えるのは事実です。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2016 年度以前入学者

藤田 哲也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
文（心）1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期の基礎ゼミⅡでは、班活動を主体として、情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが、この授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 協同学習の考え方に基づいて、積極的に・効果的に班活動を行うことができる。
2. 情報を伝える相手の視点に立って、必要な情報を集め、それらの情報を適切に取捨選択できる。
3. 資料性が高く、かつ、読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ、実際に作成することができる。
4. 聞き手が聴く気を保ち、理解ししやすい発表をするために必要なことを説明でき、それを実践することができる。
5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し、適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、受講生自身の主体的な活動が中心の授業となります。「協同学習」の考え方に基づいた、班での協同作業（グループワーク）が多いので、毎回休まずに出席することが重要です。

具体的には、4～6 人の班ごとに、「法政大学文学部心理学科に進学しようかどうか迷っている高校生に、“オープンキャンパス”でどのようなことを伝えれば、“法政で学びたい”と思わせることができるか」というテーマで発表（プレゼンテーション）を行うというプロジェクト型学習（PBL）に取り組むことになります。この発表を行うために集める情報が受講生自身に有益となることはもちろんですが、それらの情報・知識を習得することが授業の目的ではなく、発表および発表の準備を通じて、上記の到達目標を達成することが、あくまでも主眼となります。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加には、単に教室に足を運ぶだけのことでなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、班で決めた作業分担について個人の責任を果たすこと、そして実際に発表をすること、他班の発表に対して積極的に評価をフィードバックすることを含みます。

なお、発表の機会は「構想発表」と「本発表」の二回あります。それぞれの発表の趣旨（発表に求められていること）は異なりますので、よく理解し、準備をして臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し、自分なりの目標を明確にする	秋学期授業の概要と目標、班活動の意義と協同学習、授業での具体的なプロジェクト
第 2 回	班の構成と活動方針 秋学期のスケジュールを把握する、班活動を充実させるために積極的に行動する	今後のスケジュール確認、班活動ウォーミングアップ、班の活動方針の話し合い
第 3 回	発表テーマ決定 協同学習による話し合いの技法を実践する、各班での発表テーマを決定する	協同学習の五つの基本原理、班活動のトレーニング、発表テーマについての話し合い
第 4 回	心理学科のカリキュラム 自分の所属する心理学科のカリキュラムを説明できる、卒論に対する具体的イメージを持つ	二年次以降のカリキュラムの概要、二年次の演習Ⅰ履修について、卒論までの道のりと実際
第 5 回	レジュメの作り方 発表におけるレジュメの役割を説明できる、構想発表に向けて班の意見を集約する	レジュメの作り方に関する班活動、構想発表と本発表について、班活動

第 6 回	発表のしかた 発表においてもっとも気をつけるべきことを説明できる、構想発表に向けて班の意見を整理する	発表のしかたに関する班活動、発表順の決定、発表に向けての班活動
第 7 回	発表準備 1 他班の発表に対する「聴き方」の注意点を説明できる、構想発表に向けて班の意見を整理する	構想発表の聴き方（観点別評価とコメント作成）、発表に向けての班活動
第 8 回	構想発表 1 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す、他班の発表に適切な質問やコメントをする	構想発表、観点別評価とコメント作成
第 9 回	構想発表 2 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す、他班の発表と比較して自分の班の特徴を把握できる	構想発表、観点別評価とコメント作成
第 10 回	ここまでの総括 構想発表を通じて明らかになった問題点・改善点を整理して実行に移せる	発表の仕方と内容の両面から見直し、第三者である高校生の視点から客観的に見直し
第 11 回	発表準備 2 本発表に向けて、内容・レジュメ・発表のしかたについての班の方針を明確に挙げることができる	構想発表から気づいた問題点・改善点の再確認と班内での共有
第 12 回	本発表 1 発表内容・発表のしかたについて学んだことを適切に表現できる、他班に適切にコメントできる	本発表、観点別評価とコメント作成
第 13 回	本発表 2 発表について、他班に評価を積極的にフィードバックし、適切に自己評価できる	本発表、観点別評価とコメント作成
第 14 回	総括 この授業で学んだことを振り返り、自分にとっての意味を説明できる	秋学期授業の到達目標にそった振り返り、春秋学期を通じての基礎ゼミで身につけたことの意識化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 班活動で発表するテーマについての構想案を作成する
 第 2 回 次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために、情報を集めたり、原案を作成する
 第 3 回 「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる
 第 4 回 演習 I 履修手続きの確認と、教科書第 9 講の予習
 第 5 回 班ごとに各自が行うべきことを明確にし、個人の責任を果たすことと、教科書第 10 講の予習
 第 6 回 次回の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備
 第 7 回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
 第 8 回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
 第 9 回 本発表に向けて構想の練り直し
 第 10 回 本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て、個人の責任を果たす
 第 11 回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
 第 12 回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
 第 13 回 仮にもう一度発表の機会があったとしたら、どこを改善すべきかを整理する
 第 14 回 一年間この授業で学んできたことを、二年次以降の学習目標に活かすための展望を持つ

【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006),「大学基礎講座 改増版 ー充実した大学生活をおくるためにー」, 北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %) …授業へ出席し積極的に班活動に参加することを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続 3 回欠席した者、半期中に通算で 5 回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E 評価（未受験）とします。平常点として、授業一回につき +4 点を加算し、上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。

班発表 (40%) …構想発表 (10%) と本発表 (30%) のそれぞれに対して、「発表の内容」、「レジュメ」、「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。

班活動 (20%) …各個人がどれだけ班活動に参加し、貢献できたかについて評価します。具体的には、班活動の成果（班の発表の評価）の 1/2 に、授業内における班活動への参加率を乗じたものを、各個人の班活動の評価とする予定です。

【学生の意見等からの気づき】

(2017 年度のアンケートから)W で 22 名中 9 名、X で 30 名中 21 名が「履修してよかった」で 5 あるいは 4 と回答してくれました。W では「履修しなければよかった」と書いていた人も 3 名いました (X にはいなかったです)。例年、多少のクラス差は見られる授業ですが、2017 年度は W クラスの方で班活動がうまくいかに相当なストレスになった班があったことが原因でしょう (X クラスの方は概ね肯定的な評価ばかりでした)。授業の中でも説明したように、班の中で非協力的なメンバーがいたときに、自分が何をできるかを考える機会にしてほしかったのですが、限度を超えていると感じていた人がいたようで、僕としても反省しました。もう少し早期に、ある程度の介入をするように考えてみたいと思います。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2016 年度以前入学者

藤田 哲也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文 (心) 1 年～**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期の基礎ゼミⅠでは、受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、様々な学習スキル（技能）の習得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し、将来、社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では、大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに、社会に出てからも必要とされる、情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や、他者とのコミュニケーション能力などのスキルと、積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として、「自分自身で必要な情報を判断した上で、時間が経過してからでも役立つノートを取れるようになること」。
2. 情報の内容理解として、「教科書など他者の書いた文章を適切に読解すること」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できること」。
3. 情報発信能力として、「第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書けること」。
4. コミュニケーション能力として、「相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べること」。
5. 積極的に活動する態度として、「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で、授業に継続的に参加すること」。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために、授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また、自分の課題を客観的に捉えるために、他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにするため、毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと、予習・復習を重視します。この授業で取り上げる学習スキル、たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきていると思います。しかし、教員が板書したとおりにノートに書き写すだけでは、大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをまとめる形で板書しなくても、みなさん自身がどこが重要なのかを自分で判断し、時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは、社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても、みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で、高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し、積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかつたつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために、授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて、自分に不足している点や誤解していた点に、たくさん気づくことができるでしょう。また、課題に取り組む際には、他の受講生とペアを組み、お互いに意見交換したり、課題の評価をしあう機会を設けます。こうしたペアワークの中で、自分の意見を短時間で的確に述べたり、相手に理解できるように説明をしたり、相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという、コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでの参加とは、単に教室に足を運ぶだけのことでなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり、課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には、授業内でのペアワークに参加できないこともありますので、継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し、自分なりに説明できるようにする	基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解

第 2 回	ノートの取り方 1 高校と大学の授業の違いをふまえ、ノートの取り方を工夫できるようになる	典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる
第 3 回	ノートの取り方 2 ノートを取る目的を説明でき、多様な授業に対応するための観点を考える	前回のノートに対する自己評価と「役立つノート」の必要条件
第 4 回	初年次教育とは 「大学生」である自分が社会から求められていることを説明できるようになる	「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連
第 5 回	テキストの読み方 読解を困難にする要因を理解し、文章の基礎的構成法を自分が書く場面に応用できるようになる	読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと、弁証法などの論理構成
第 6 回	要約の仕方 元の文章からの抜粋でなく内容理解を前提とした要約が書けるようになる	社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約
第 7 回	きちんと考える方法 1 情報を鵜呑みにせず吟味する態度の必要性を理解し、実践できるようになる	書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味
第 8 回	きちんと考える方法 2 自分の意見を持ち、適切に表現するための基本テクニックを使えるようになる	深く広く考えるためのブレインストームングなどの手法の実践
第 9 回	図書館の利用 高校の図書室と大学図書館の違いを理解し、適切に蔵書検索できるようになる	PC を利用した情報検索法と、図書館ツアー
第 10 回	レポートの書き方 1 レポートと作文の違いを説明でき、事実と意見を書き分けられるようになる	大学レポートが要求すること、基本的な原稿作成上のルールの確認
第 11 回	レポートの書き方 2 効率的なレポート作成手順を理解し、出題意図の読み取りができるようになる	レポートや試験の出題意図をふまえた課題作成、宿題に対する添削
第 12 回	レポート提出と自己評価 レポート評価基準を理解し作成過程を振り返り自分の問題点に気づく	レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認
第 13 回	これまでの総括 基礎ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える	これまでの授業内での「気づき」の総点検と新たな「気づき」
第 14 回	レポート返却 レポート自己評価の基準を適切に修正し、内化する	自己評価と教員評価の比較と自己評価基準の修正の必要性の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 教科書第 0 講の予習
- 第 2 回 教科書第 1 講の予習とノートの見直し
- 第 3 回 教科書第 2 講の予習と、ノートの整理
- 第 4 回 教科書補講の予習とこれまでの総復習
- 第 5 回 教科書第 3 講の予習・第 4 講のための要約の宿題
- 第 6 回 教科書第 4 講の予習・再度の要約課題
- 第 7 回 教科書第 5 講の予習・教科書の練習課題
- 第 8 回 教科書第 5 講の予習・練習課題の実施
- 第 9 回 教科書第 6 講の予習・情報検索の宿題
- 第 10 回 教科書第 7 講の予習・第 8 回宿題見直し
- 第 11 回 教科書第 8 講の予習・練習課題直し
- 第 12 回 レポート作成・春学期総復習
- 第 13 回 「気づき振り返りシート」作成
- 第 14 回 これまでのプリント類の整理と振り返り

【テキスト（教科書）】

藤田哲也（編）(2006)、「大学基礎講座 改増版 ー充実した大学生活をおくためにー」、北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）…予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続 3 回欠席した者、半期中に通算で 5 回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E 評価（未受験）とします。平常点として、授業一回につき+4 点を加算し、上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2 点です。

課題の提出（20%）…授業の進度に合わせて、「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し、提出したものに各 5 点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ、自分なりの視点の獲得等）に応じた 0～10 点までの評価とします。

期末レポート（40%）…この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので、あまり詳しいことはここには書きませんが、「適切な情報を検索し、内容を吟味して、指定字数で要約し、引用できること」、「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」、「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」、「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に、計 40 点分の評価とする予定です。

【学生の意見等からの気づき】

「履修してよかった」は 1 限は 4.55、2 限は 4.44 でした。一人だけ「よくなかった」という人がいたのですが、理由は自由記述からも読み取れませんでした。大多数の人からは好評だったのは嬉しいことなのですが、授業外学習の時間はこれまでの学年よりかなり短く、1 限の約 1 割、2 限の約 3 割が「ほとんど行っていない」でした（上位層を見てもかなりクラス差があります）。両クラスとも、1 時間未満で過半数になります。もう少し、予習の習慣をつけるよう、最初のうちに工夫をしてみます。予習をしたほうが授業で得ることも増えるのは確実です。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2016 年度以前入学者

藤田 哲也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文（心）1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期の基礎ゼミⅡでは、班活動を主体として、情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが、この授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 協同学習の考え方に基づいて、積極的・効果的に班活動を行うことができる。
2. 情報を伝える相手の視点に立って、必要な情報を集め、それらの情報を適切に取捨選択できる。
3. 資料性が高く、かつ、読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ、実際に作成することができる。
4. 聞き手が聴く気を保ち、理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき、それを実践することができる。
5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し、適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、受講生自身の主体的な活動が中心の授業となります。「協同学習」の考え方に基づいた、班での協同作業（グループワーク）が多いので、毎回休まずに出席することが重要です。

具体的には、4～6 人の班ごとに、「法政大学文学部心理学科に進学しようかどうか迷っている高校生に、“オープンキャンパス”でどのようなことを伝えれば、“法政で学びたい”と思わせることができるか」というテーマで発表（プレゼンテーション）を行うというプロジェクト型学習（PBL）に取り組むことになります。この発表を行うために集める情報が受講生自身に有益となることはもちろんですが、それらの情報・知識を習得することが授業の目的ではなく、発表および発表の準備を通じて、上記の到達目標を達成することが、あくまでも主眼となります。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加には、単に教室に足を運ぶだけのことでなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、班で決めた作業分担について個人の責任を果たすこと、そして実際に発表をすること、他班の発表に対して積極的に評価をフィードバックすることを含みます。

なお、発表の機会は「構想発表」と「本発表」の二回あります。それぞれの発表の趣旨（発表に求められていること）は異なりますので、よく理解し、準備をして臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し、自分なりの目標を明確にする	秋学期授業の概要と目標、班活動の意義と協同学習、授業での具体的なプロジェクト
第 2 回	班の構成と活動方針 秋学期のスケジュールを把握する、班活動を充実させるために積極的に行動する	今後のスケジュール確認、班活動ウォーミングアップ、班の活動方針の話し合い
第 3 回	発表テーマ決定 協同学習による話し合いの技法を実践する、各班での発表テーマを決定する	協同学習の五つの基本原理、班活動のトレーニング、発表テーマについての話し合い
第 4 回	心理学科のカリキュラム 自分の所属する心理学科のカリキュラムを説明できる、卒論に対する具体的イメージを持つ	二年度以降のカリキュラムの概要、二年度の演習Ⅰ履修について、卒論までの道のりと実際
第 5 回	レジュメの作り方 発表におけるレジュメの役割を説明できる、構想発表に向けて班の意見を集約する	レジュメの作り方に関する班活動、構想発表と本発表について、班活動

発行日：2019/5/1

第 6 回	発表のしかた 発表においてもっとも気をつけるべきことを説明できる、構想発表に向けて班の意見を整理する	発表のしかたに関する班活動、発表順の決定、発表に向けての班活動
第 7 回	発表準備 1 他班の発表に対する「聴き方」の注意点を説明できる、構想発表に向けて班の意見を整理する	構想発表の聴き方（観点別評価とコメント作成）、発表に向けての班活動
第 8 回	構想発表 1 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す、他班の発表に適切な質問やコメントをする	構想発表、観点別評価とコメント作成
第 9 回	構想発表 2 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す、他班の発表と比較して自分の班の特徴を把握できる	構想発表、観点別評価とコメント作成
第 10 回	ここまでの総括 構想発表を通じて明らかになった問題点・改善点を整理して実行に移せる	発表の仕方と内容の両面から見直し、第三者である高校生の視点から客観的に見直し
第 11 回	発表準備 2 本発表に向けて、内容・レジュメ・発表のしかたについての班の方針を明確に挙げることができる	構想発表から気づいた問題点・改善点の再確認と班内での共有
第 12 回	本発表 1 発表内容・発表のしかたについて学んだことを適切に表現できる、他班に適切にコメントできる	本発表、観点別評価とコメント作成
第 13 回	本発表 2 発表について、他班に評価を積極的にフィードバックし、適切に自己評価できる	本発表、観点別評価とコメント作成
第 14 回	総括 この授業で学んだことを振り返り、自分にとっての意味を説明できる	秋学期授業の到達目標にそった振り返り、春秋学期を通じての基礎ゼミで身につけたことの意識化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 班活動で発表するテーマについての構想案を作成する
第 2 回 次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために、情報を集めたり、原案を作成する
第 3 回 「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる
第 4 回 演習 I 履修手続きの確認と、教科書第 9 講の予習
第 5 回 班ごとに各自が行うべきことを明確にし、個人の責任を果たすことと、教科書第 10 講の予習
第 6 回 次回の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備
第 7 回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
第 8 回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
第 9 回 本発表に向けて構想の練り直し
第 10 回 本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て、個人の責任を果たす
第 11 回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
第 12 回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
第 13 回 仮にもう一度発表の機会があったとしたら、どこを改善すべきかを整理する
第 14 回 一年間この授業で学んできたことを、二年次以降の学習目標に活かすための展望を持つ

【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006),「大学基礎講座 改増版 ー充実した大学生活をおくるためにー」, 北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %) …授業へ出席し積極的に班活動に参加することを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続 3 回欠席した者、半期中に通算で 5 回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E 評価（未受験）とします。平常点として、授業一回につき +4 点を加算し、上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。

班発表 (40%) …構想発表 (10%) と本発表 (30%) のそれぞれに対して、「発表の内容」、「レジュメ」、「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。

班活動 (20%) …各個人がどれだけ班活動に参加し、貢献できたかについて評価します。具体的には、班活動の成果（班の発表の評価）の 1/2 に、授業内における班活動への参加率を乗じたものを、各個人の班活動の評価とする予定です。

【学生の意見等からの気づき】

(2017 年度のアンケートから)W で 22 名中 9 名、X で 30 名中 21 名が「履修してよかった」で 5 あるいは 4 と回答してくれました。W では「履修しなければよかった」と書いていた人も 3 名いました (X にはいなかったです)。例年、多少のクラス差は見られる授業ですが、2017 年度は W クラスの方で班活動がうまくいかに相当なストレスになった班があったことが原因でしょう (X クラスの方は概ね肯定的な評価ばかりでした)。授業の中でも説明したように、班の中で非協力的なメンバーがいたときに、自分が何をできるかを考える機会にしてほしかったのですが、限度を超えていると感じていた人がいたようで、僕としても反省しました。もう少し早期に、ある程度の介入をするように考えてみたいと思います。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅠ

2016 年度以前入学者

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法文営 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
レポートや論文の書き方を学びます。

【到達目標】

レポートや論文を書く上で知っておくべき基礎的な事柄を身につけること。論述文とは何かを理解し、論理的な文章が書けるようになること。正しく読みやすい文章が書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義とワークが中心です。春学期を通して段階的に一つのレポートを完成させていきます。提出してもらったレポートは返却し、一人一人に改善すべき点を伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業内容・課題説明
2 回目	事実と意見	テーマに基づく講義
3 回目	主張・根拠・例	説明とワーク
4 回目	論の展開のしかた	説明とワーク
5 回目	根拠となる事柄	説明とワーク
6 回目	アイデアの出し方	説明とワーク
7 回目	図書館ガイダンス	図書館でガイダンス受講
8 回目	資料に基づいてアウトラインを書く	説明とワーク
9 回目	資料を探しながらアウトラインを書く	説明とワーク
10 回目	自分の言葉と他人の言葉を区別する	説明とワーク
11 回目	参考文献からの引用によって自分の主張に根拠を与える	説明とワーク
12 回目	解釈と考察	説明とワーク
13 回目	読みにくい文章を修正する	-説明とワーク -レポートの提出
14 回目	レポート返却	説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞記事などについて自分の意見を書く練習をすること。

【テキスト（教科書）】

藤田哲也編著『大学基礎講座 充実した大学生活を送るために』、北大路書房、2010 年改増版

【参考書】

・木下是雄『レポートの組み立てかた』、ちくまライブラリー 36、筑摩書房、1990 年
・『法政大学 学習支援ハンドブック』

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

LL 教室を使用します。Word を使ってワークを行います。数回の授業にわたって同じ課題に取り組みますので、前回の続きから作業ができるよう USB を用意してください。

【Outline and objectives】

A guide to how to write an essay in Japanese.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミⅡ

2016 年度以前入学者

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法文営 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スピーチやプレゼンテーションのしかたを学びます。

【到達目標】

論理的に話すとは何かを理解すること。授業でプレゼンテーションをする際の準備のしかた、注意すべき点を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および口頭で意見を述べる練習が中心です。秋学期の終わりには、課題についてのプレゼンテーションを一人一人もしくはグループで行ってもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業内容説明
2 回目	要約のしかた	説明とワーク
3 回目	要約した上で意見を述べる	説明とワーク
4 回目	複数の資料を横断的に要約する	説明とワーク
5 回目	様々なタイプのアウトライン	説明とワーク
6 回目	一人で話す・スピーチをする（基本）	説明とワーク
7 回目	一人で話す・スピーチをする（応用）	説明とワーク
8 回目	プレゼンテーションの課題について	説明とワーク
9 回目	プレゼンテーションのレジュメの作り方	説明とワーク
10 回目	プレゼンテーションの手順	説明とワーク
11 回目	メモの取りかた、質問のしかた	説明とワーク
12 回目	ディスカッションとは	説明とワーク
13 回目	プレゼンテーション	プレゼンテーションと講評
14 回目	プレゼンテーション	プレゼンテーションと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞記事などについて自分の意見を口頭で述べる練習をすること。

【テキスト（教科書）】

藤田哲也編著『大学基礎講座 充実した大学生活を送るために』、北大路書房、2010 年改増版

【参考書】

『法政大学 学習支援ハンドブック』

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年と同じ授業を担当していますが、秋学期は授業内容を変えていますので、特にありません。

【Outline and objectives】

A guide to how to give a presentation in Japanese.

[illegible]

第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入）
 ・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布）
 ・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

李 舜志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
キ 1 年 B～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。 ノートの取り方を学ぶ。

第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 1 グループ）
第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 2 グループ）
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第 2 版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入）
・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

[illegible]

第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 1 グループ）
第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 2 グループ）
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第 2 版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入）
 ・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布）
 ・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
		第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
		第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
		第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
		第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
		第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
		第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 1 グループ）
		第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 2 グループ）
		第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。
基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
		受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。		
		【テキスト（教科書）】 ・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第 2 版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入） ・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布） ・各クラス指定の文献（学部より配布）		
基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	【参考書】 適宜指示します。		
		【成績評価の方法と基準】 平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 % 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %		
		【学生の意見等からの気づき】		
基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	【Outline and objectives】 At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.		
		【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1		
		【授業の進め方と方法】 学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。 まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。 なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。		
基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
		【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
		【授業計画】 回 テーマ 内容 第 1 回 授業ガイダンス 基礎ゼミの概要説明と自己紹介 第 2 回 大学における学びとは 高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。		

神野 潔
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水 3/Wed.3 キ 1 年 D～

[illegible]

第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入）
 ・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布）
 ・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

橋本 広大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
キ 1 年 F～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。 ノートの取り方を学ぶ。

第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 1 グループ）
第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 2 グループ）
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第 2 版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入）
・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

[illegible]

第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入）
 ・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布）
 ・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ	BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
			第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
基礎ゼミ	BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
			第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
基礎ゼミ	BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
			第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
基礎ゼミ	BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
			第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
基礎ゼミ	BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
			第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 1 グループ）
基礎ゼミ	BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 2 グループ）
			第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。					
【テキスト（教科書）】 ・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第 2 版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入） ・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布） ・各クラス指定の文献（学部より配布）					
【参考書】 適宜指示します。					
【成績評価の方法と基準】 平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 % 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %					
【学生の意見等からの気づき】 各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。					
【その他の重要事項】 図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。					
【Outline and objectives】 At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1					
【授業の進め方と方法】 学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。 まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。 なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No					
【授業計画】					
回	テーマ	内容			
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介			
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。			

[illegible]

第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入）
 ・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布）
 ・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

安田 節之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
キ 1 年 J～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。 ノートの取り方を学ぶ。

第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 1 グループ）
第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 2 グループ）
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第 2 版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入）
・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

[illegible]

第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 1 グループ）
第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 2 グループ）
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入）
 ・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布）
 ・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ	BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
			第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
			第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
基礎ゼミ	BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
			第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
			第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
基礎ゼミ	BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
			第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
			第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
基礎ゼミ	BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 1 グループ）
			第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 2 グループ）
			第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】					
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。					
【テキスト（教科書）】					
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第 2 版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入） ・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布） ・各クラス指定の文献（学部より配布）					
【参考書】					
適宜指示します。					
【成績評価の方法と基準】					
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 % 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %					
【学生の意見等からの気づき】					
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。					
【その他の重要事項】					
図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。					
【Outline and objectives】					
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.					

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。

[illegible]

第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 1 グループ）
第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 2 グループ）
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第 2 版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入）
・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

BSP100LA

2016 年度以前入学者

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

酒井 理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
キ 1 年 N～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

- 【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。 ノートの取り方を学ぶ。

第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 1 グループ）
第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 2 グループ）
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第 2 版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入）
・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

[illegible]

第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第1グループ）
第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第2グループ）
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入）
 ・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布）
 ・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。

【Outline and objectives】

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ

2016 年度以前入学者

BSP100LA

基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。剽窃への注意。
		第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 5 回	新聞記事・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データを用いたグループワーク。
		第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
		第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
		第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 11 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備
		第 12 回	グループ発表（1）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 1 グループ）
基礎ゼミ BSP100LA	2016 年度以前入学者	第 13 回	グループ発表（2）	グループ発表。質疑と教員コメント（※第 2 グループ）
		第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと、質的調査法・量的調査法の履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】				
受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。				
【テキスト（教科書）】				
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第 2 版』慶應義塾大学出版会、2014 年（各自で購入） ・法政大学「学習支援ハンドブック 2018」（大学より配布） ・各クラス指定の文献（学部より配布）				
【参考書】				
適宜指示します。				
【成績評価の方法と基準】				
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 % 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %				
【学生の意見等からの気づき】				
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。				
【その他の重要事項】				
図書館ガイダンスはクラスによって日程が異なります。それに伴って、上記の授業計画に一部変更がある可能性があります。また学期の途中で、学部上級生の主導によるキャリアサポートのワークショップが行われる予定です。				
【Outline and objectives】				
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills. Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1				
【授業の進め方と方法】				
学部の教員が少人数クラスで丁寧に対応することにより、基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。				
まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。				
なお、図書館ガイダンスの実施時期がクラスによって異なるため、それに伴って前後の内容の順番も一部変更になります。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
あり / Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
なし / No				
【授業計画】				
回	テーマ	内容		
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介		
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。		

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ 2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ 2016 年度以前入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
法文館 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	簡条書きとインデント	Microsoft Word を用いて簡条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 2 版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文館 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	簡条書きとインデント	Microsoft Word を用いて簡条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 2 版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使ったスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法文館 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	簡条書きとインデント	Microsoft Word を用いて簡条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 2 版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使ったスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法文館 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	簡条書きとインデント	Microsoft Word を用いて簡条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 2 版], 重定如彦・河内谷幸子 共著, サイエンス社, 1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システムにアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【Outline and objectives】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2013. Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法文館 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分の表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
春学期の情報処理演習 I では、コンピューターの基本的な概念と使い方、メールやウェブ（ホームページ）などの活用について学びます。

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半に説明を行い、後半に課題を解く、あるいはタイピングなどの実習を行う形式を基本とします。課題は教科書から指定されますので、購入し授業に持参してください。また、資料の配布と課題の提出を授業支援システムを用いて行います。授業支援システムへの登録と使い方については授業内で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ

第 14 回 インターネットとメディアリテラシその 2
フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法文館 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分の表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
春学期の情報処理演習 I では、コンピュータの基本的な概念と使い方、メールやウェブ（ホームページ）などの活用について学びます。

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半に説明を行い、後半に課題を解く、あるいはタイピングなどの実習を行う形式を基本とします。課題は教科書から指定されますので、購入し授業に持参してください。また、資料の配布と課題の提出を授業支援システムを用いて行います。授業支援システムへの登録と使い方については授業内で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ

第 14 回 インターネットとメディアリテラシその 2
フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示します。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 法文館 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。

当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。
 表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ボアソナー ドタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	情報倫理 ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。

14 ネットワークの基礎
ホームページの仕組み

ネットワークの基礎知識を学ぶ。ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 2 版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

1 人 1 台パソコンを使用します。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。

この授業を履修するためには、4 月初旬に抽選手続きが必要です。

【Outline and objectives】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of Word, Excel, and PC internals are included in this course.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

法文堂 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度 of アプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用方法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	実技試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報テラシ（サイエンス社）

Microsoft Word 2013 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。

平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~okajima/>

<https://ir.c.chuo-u.ac.jp/researcher/profile/00015144.html?lang=ja>

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

法文堂 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度 of アプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	実技試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Word 2013 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。

平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~okajima/>

<https://ir.c.chuo-u.ac.jp/researcher/profile/00015144.html?lang=ja>

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
 法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者前提として、タイピング練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムを使って行います。授業支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ

第 12 回 WWW その 2

WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ

第 13 回 インターネットとメディアリテラシその 1

インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ

第 14 回 インターネットとメディアリテラシその 2

フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社

初版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーボードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス

「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】**【配分】**

平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %

【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイピング練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムを使って行います。授業支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ

第 12 回 WWW その 2

WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ

第 13 回 インターネットとメディアリテラシその 1

インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ

第 14 回 インターネットとメディアリテラシその 2

フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
 初版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーボードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス

「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

【配分】

平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %

【評価基準】

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

PRI100LA	
情報処理演習 I	2017 年度以降入学者
PRI100LA	
情報処理演習 I	2016 年度以前入学者
松田 裕幸	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 1/Thu.1 法文営 1～2 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

全体の3分の2を講義に充て、残り3分の1を課題に宛てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンス予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンス分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	評価試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を1つ提出すること。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価： 50%

最終試験の成績： 50%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI100LA	
情報処理演習 I	2017 年度以降入学者
PRI100LA	
情報処理演習 I	2016 年度以前入学者
松田 裕幸	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 2/Thu.2 法文営 1～2 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

全体の3分の2を講義に充て、残り3分の1を課題に宛てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンス予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンス分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	評価試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を1つ提出すること。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価： 50%

最終試験の成績： 50%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 法文館 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。

当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。
 表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ボアソナー ドタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	情報倫理 ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。

14 ネットワークの基礎
ホームページの仕組み

ネットワークの基礎知識を学ぶ。ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 2 版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

1 人 1 台パソコンを使用します。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。

この授業を履修するためには、4 月初旬に抽選手続きが必要です。

【Outline and objectives】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of Word, Excel, and PC internals are included in this course.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 法文館 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。

当科目は、専門科目の情報科目と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。
 表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ボアソナー ドタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	情報倫理 ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。

14 ネットワークの基礎
ホームページの仕組み

ネットワークの基礎知識を学ぶ。ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 2 版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

1 人 1 台パソコンを使用します。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。

この授業を履修するためには、4 月初旬に抽選手続きが必要です。

【Outline and objectives】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of Word, Excel, and PC internals are included in this course.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

久東 義典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 法文館 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、基本的な情報処理技術をマスターすることを目的にしています。ネット社会、パブリックとプライベートの対のテーマから始めて、オフィスに必須のアプリケーション（ワードプロセッサ、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、そして図形描画ソフトウェア）を学習し、理解します。

この授業が完了する頃には、情報科学の基本的な概念を理解できるようにしていきます。

【到達目標】

コンピュータだけにとどまらず、インターネットをはじめとした情報技術の現状とトレンド、正しい知識を得ると共に、ビジネスや日常生活において大切な情報技術に関する一般常識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義は実習が中心で、毎回出席をとります。

講義の進め方は、タイピング練習をしてから、前半で情報技術に関する講義と一緒にいろいろなソフトウェアの操作を紹介します。後半で復習もかねて自習できるように関連するホームページを紹介します。これをよく読んで各自のペースで小テストや課題に挑戦して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業中に紹介したデジタルコンテンツ（この時点では、ホームページのことだと思ってください）を使って課題をこなしながら理解を深めます。 （１）授業を進めるにあたって、ルールとマナー （２）ツールとメールの利用上の諸注意 （３）アプリケーション Excel・Word・PowerPoint）の利用の諸注意 情報機器やデジタル家電製品の基本となる「コンピュータの仕組みや原理の基礎」を把握します。
2	コンピュータの基本概念	コンピュータと計算、コンピュータと人間の違い、コンピュータの分類、コンピュータの基本構成、ハードウェアとソフトウェアについて理解します。 Word によるレポート提出の課題があります。
3	コンピュータの基本操作	ガイダンスですでに説明した内容をさらに深めます。「使い易さとはどういうことか」をテーマに、ユーザー名とパスワード、電源投入と遮断、Windows の基本画面、マウスの基本操作、メニュー、アプリケーションの実行、ウィンドウ、サイズと移動、アクティブウィンドウ、タスクバー、クリップボードとカットアンドペースト、ショートカットキーの操作、トラブルの対処について学習します。 Excel によるレポート提出の課題があります。

4

キーボードと文字入力
 ならびに ICT スキル診断テスト実施

キーボードを使って、日本語のデータを入力することはとても大切です。ここでは、「どのような仕組みで、日本語のデータを扱うのか」を学習します。キーボードと英字入力、日本語入力、かな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP と高度な日本語入力、キーボードの種類、タッチタイピングについて理解します。

Excel によるデータ入力の課題提出があります。

授業外の時間に ICT スキル診断テストを受験してしまった学生は、前述の課題に取り組むことになります。

5

ファイル操作

コンピュータ内でデータを扱う時、ファイルやフォルダという概念を利用して操作します。ここでは、この概念を利用した便利なツール（ソフトウェア）エクスプローラの操作を中心に学習します。

ファイルとフォルダ、ファイルの種類、ファイルのパス、エクスプローラとドライブ、エクスプローラの各部の名称と説明、エクスプローラの基本操作（ファイル操作と表示に関する操作）、アプリケーションによるファイルの新規作成と保存、ファイルのショートカットを理解します。

Excel や Snipping Tool を使って Word に図や表を貼り付ける課題提出があります。

6

コンピュータとデータ
 （その１）

同じ演奏を「アナログ機器（例えばカセットテープ）で録音した演奏」と、「デジタル機器（例えば CD）で録音した演奏」を聞くとは、差があるのでしょうか？ どちらが良いのでしょうか？ この議論をきちんと理解し意見を述べられるようにすることが、ここでの学習です。デジタルとアナログ、デジタルデータと著作権を理解します。PowerPoint を使って文字や図、表を貼り付けたスライドを作成する課題提出があります。

7

コンピュータとデータ
 （その２）

前回の内容をうけて、ここでは、「コンピュータの内部表現は２進数で表す」と分かりやすいことを学習します。２進数と１０進数、２進数とバイトビットを理解します。

8

コンピュータとデータ
 （その３）

Excel を使って２進数等を理解する課題提出があります。前回の内容をうけて、ここでは、文字、音声、画像等のデータは、コンピュータの内部で、どんな表現をするのかを学習します。また、その表現をさらに高度に利用するための考え方を圧縮技術で理解します。文字の符号化、画像の符号化、音の符号化、圧縮技術を理解します。

9

インターネットと電子メール

Word・Excel・PowerPoint を使って音声や画像を貼り付けする課題提出があります。たくさんのコンピュータをつないで、お互いに（双方向に）データをやりとりすることで、いろいろな活動ができるようになりました。これがインターネットです。ここではインターネットの歴史、仕組み、利用方法、電子メールの利用と諸注意について理解します。ネットケット（インターネット利用上のエチケット・マナー）について、インターネットを利用して調べる課題提出があります。

10

World Wide Web
 （その１）

インターネット上のデータをもっと大局的にとらえて、デジタルコンテンツのレベルで考えることを学習します。WWW とハイパーテキストを理解します。Word や Excel、テキストファイルを編集するソフトウェアを使って、Html ファイルを作成する課題提出があります。

11	World Wide Web (その2)	前回の内容をうけて、ここでは、 WWW の仕組みや原理を学習します。 WWW のブラウザの基本的な使い方、 WWW の用語、リンク切れなどを理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
12	World Wide Web (その3)	前回の内容をうけて、ここでは、 WWW と情報社会への影響を学習します。 WWW の歴史、 WWW で得られる情報、サーチエンジンとその仕組み、高度な検索方法を理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
13	インターネットとメディア アリティ (その1)	高度な技術は、その利用に悪意があると常に脅威をはらみます。ここでは、インターネット利用の脅威について学習します。 インターネットと匿名性、インターネットの盗聴と暗号について理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
14	インターネットとメディア アリティ (その2)	前回の内容をうけて、ここでは、インターネット上の犯罪や守るべき常識を学習します。 インターネットの詐欺、インターネットの情報の真偽、フリーソフトの権利を理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で授業中に紹介するホームページをよく読んで、話題になったソフトウェアの使い方を復習しておく課題が出されます。授業時間内で完了できない場合は、次の授業開始前に指示に従って課題提出することになります。
＜授業で紹介するホームページの URL＞

情報技術の基礎（知識定着のための教材）

lect-ip.cocolog-nifty.com

情報処理の実践（Excel・Word・PowerPoint を使った課題提出用の教材）
pract-ip.cocolog-nifty.com

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第2版】 重定 如彦・河内谷 幸子（共著）

サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1352-0

初版ではなく第2版を購入のこと。

情報処理演習Ⅰと情報処理演習Ⅱは、同じテキスト（教科書）を使用。

【参考書】

講義中に紹介するホームページなどを使って指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果） 50%

レポート課題 30%

小テスト 20%

【学生の意見等からの気づき】

授業中に指示されたホームページをよく読んで、授業外で行う学習活動を必ず遂行してください。

【学生が準備すべき機器他】

1人1台パソコンを使用します。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic Information and Communication Technology. It starts with the twin themes of internet society, public and private, then students learn and understand how to use all of the mandatory applications in a complete office productivity suite: a word processor, a spreadsheet, a presentation manager, and a drawing program. Upon successfully completion of the course, students should be able to understand the basic concepts of information science.

PRI100LA

情報処理演習Ⅰ

2017年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習Ⅱ

2016年度以前入学者

久東 義典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

法文営 1～2年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、基本的な情報処理技術をマスターすることを目的にしています。ネット社会、パブリックとプライベートの対のテーマから始めて、オフィスに必須のアプリケーション（ワードプロセッサ、表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、そして図形描画ソフトウェア）を学習し、理解します。
この授業が完了する頃には、情報科学の基本的な概念を理解できるようにしていきます。

【到達目標】

コンピュータだけにとどまらず、インターネットをはじめとした情報技術の現状とトレンド、正しい知識を得ると共に、ビジネスや日常生活において大切な情報技術に関する一般常識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義は実習が中心で、毎回出席をとります。

講義の進め方は、タイピング練習をしてから、前半で情報技術に関する講義と一緒にいろいろなソフトウェアの操作を紹介します。後半で復習もかねて自習できるように関連するホームページを紹介します。これをよく読んで各自のペースで小テストや課題に挑戦して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業中に紹介したデジタルコンテンツ（この時点では、ホームページのことだと思ってください）を使って課題をこなしながら理解を深めます。 （1）授業を進めるにあたって、ルールとマナー （2）ツールとメールの利用上の諸注意 （3）アプリケーション Excel・Word・PowerPoint）の利用の諸注意
2	コンピュータの基本概念	情報機器やデジタル家電製品の基本となる「コンピュータの仕組みや原理の基礎」を把握します。 コンピュータと計算、コンピュータと人間の違い、コンピュータと計算の違い、コンピュータの分類、コンピュータの基本構成、ハードウェアとソフトウェアについて理解します。 Word によるレポート提出の課題があります。
3	コンピュータの基本操作	ガイダンスですすでに説明した内容をさらに深めます。「使い易さとはどういうことか」をテーマに、ユーザー名とパスワード、電源投入と遮断、Windows の基本画面、マウスの基本操作、メニュー、アプリケーションの実行、ウィンドウ、サイズと移動、アクティブウィンドウ、タスクバー、クリップボードとカットアンドペースト、ショートカットキーの操作、トラブルの対処について学習します。 Excel によるレポート提出の課題があります。

4	キーボードと文字入力 ならびに ICT スキル診断テスト実施	キーボードを使って、日本語のデータを入力することはとても大切です。ここでは、「どのような仕組みで、日本語のデータを扱うのか」を学習します。キーボードと英字入力、日本語入力、かな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP と高度な日本語入力、キーボードの種類、タッチタイピングについて理解します。 Excel によるデータ入力の課題提出があります。 授業外の時間に ICT スキル診断テストを受験してしまった学生は、前述の課題に取り組むことになります。 コンピュータ内でデータを扱う時、ファイルやフォルダという概念を利用して操作します。ここでは、この概念を利用した便利なツール（ソフトウェア）エクスプローラの操作を中心に学習します。 ファイルとフォルダ、ファイルの種類、ファイルのバス、エクスプローラとドライブ、エクスプローラの各部の名称と説明、エクスプローラの基本操作（ファイル操作と表示に関する操作）、アプリケーションによるファイルの新規作成と保存、ファイルのショートカットを理解します。 Excel や Snipping Tool を使って Word に図や表を貼り付ける課題提出があります。	11	World Wide Web (その2)	前回の内容をうけて、ここでは、 WWW の仕組みや原理を学習します。ウェブブラウザの基本的な使い方、 WWW の用語、リンク切れなどを理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。 前回の内容をうけて、ここでは、 WWW と情報社会への影響を学習します。 WWW の歴史、 WWW で得られる情報、サーチエンジンとその仕組み、高度な検索方法を理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
5	ファイル操作	ファイルとフォルダ、ファイルの種類、ファイルのバス、エクスプローラとドライブ、エクスプローラの各部の名称と説明、エクスプローラの基本操作（ファイル操作と表示に関する操作）、アプリケーションによるファイルの新規作成と保存、ファイルのショートカットを理解します。 Excel や Snipping Tool を使って Word に図や表を貼り付ける課題提出があります。	12	World Wide Web (その3)	前回の内容をうけて、ここでは、 WWW と情報社会への影響を学習します。 WWW の歴史、 WWW で得られる情報、サーチエンジンとその仕組み、高度な検索方法を理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
6	コンピュータとデータ (その1)	同じ演奏を「アナログ機器（例えばカセットテープ）で録音した演奏」と、「デジタル機器（例えば CD ）で録音した演奏」を聞くとには、差があるのでしょうか？ どちらが良いのでしょうか？ この議論をきちんと理解し意見を述べられるようにすることが、ここでの学習です。デジタルとアナログ、デジタルデータと著作権を理解します。 PowerPoint を使って文字や図、表を貼り付けたスライドを作成する課題提出があります。	13	インターネットとメディア アリティラシ（その1）	高度な技術は、その利用に悪意があると常に脅威をはらみます。ここでは、インターネット利用の脅威について学習します。 インターネットと匿名性、インターネットの盗聴と暗号について理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
7	コンピュータとデータ (その2)	前回の内容をうけて、ここでは、「コンピュータの内部表現は2進数で表す」と分かりやすいことを学習します。2進数と10進数、2進数とビットを理解します。 Excel を使って2進数等を理解する課題提出があります。	14	インターネットとメディア アリティラシ（その2）	前回の内容をうけて、ここでは、インターネット上の犯罪や守るべき常識を学習します。 インターネットの詐欺、インターネットの情報の真偽、フリーソフトの権利を理解します。 関連するテーマについて、インターネットを利用して調べる課題提出があります。
8	コンピュータとデータ (その3)	前回の内容をうけて、ここでは、文字、音声、画像等のデータは、コンピュータの内部で、どんな表現をするのかを学習します。また、その表現をさらに高度に利用するための考え方を圧縮技術で理解します。 文字の符号化、画像の符号化、音の符号化、圧縮技術を理解します。 Word ・ Excel ・ PowerPoint を使って音声や画像を貼り付けする課題提出があります。			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 各回で授業中に紹介するホームページをよく読んで、話題になったソフトウェアの使い方を復習しておく課題が出されます。授業時間内で完了できない場合は、次の授業開始前に指示に従って課題提出することになります。 < 授業で紹介するホームページの URL > 情報技術の基礎（知識定着ための教材） lect-ip.cocolog-nifty.com 情報処理の実践（ Excel ・ Word ・ PowerPoint を使った課題提出用の教材） pract-ip.cocolog-nifty.com 【テキスト（教科書）】 実習 情報リテラシ【第2版】重定 如彦・河内谷 幸子（共著）サイエンス社 ISBN:978-4-7819-1352-0 初版ではなく第2版を購入のこと。 情報処理演習Ⅰと情報処理演習Ⅱは、同じテキスト（教科書）を使用。 【参考書】 講義中に紹介するホームページなど使って指示します。 【成績評価の方法と基準】 平常点（受講態度ならびに授業内提出課題の成果）50% レポート課題30% 小テスト20% 【学生の意見等からの気づき】 授業中に指示されたホームページをよく読んで、授業外で行う学習活動を必ず遂行してください。 【学生が準備すべき機器他】 1人1台パソコンを使用します。 【Outline and objectives】 The purpose of this course is to help students master the basic Information and Communication Technology. It starts with the twin themes of internet society, public and private, then students learn and understand how to use all of the mandatory applications in a complete office productivity suite: a word processor, a spreadsheet, a presentation manager, and a drawing program. Upon successfully completion of the course, students should be able to understand the basic concepts of information science.
9	インターネットと電子メール	たくさんのコンピュータをつないで、お互いに（双方向に）データをやりとりすることで、いろいろな活動ができるようになりました。これがインターネットです。ここではインターネットの歴史、仕組み、利用方法、電子メールの利用と諸注意について理解します。ネットワーク（インターネット利用上のエチケット・マナー）について、インターネットを利用して調べる課題提出があります。			
10	World Wide Web (その1)	インターネット上のデータをもっと大局的にとらえて、デジタルコンテンツのレベルで考えることを学習します。 WWW とハイパーテキストを理解します。 Word や Excel 、テキストファイルを編集するソフトウェアを使って、 Html ファイルを作成する課題提出があります。			

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

法文堂 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーの知識習得の一環として、コンピュータを使えるようになることを目指します。基礎的な IT の知識・技術を、基本レベルからの実習を行いながら順番に習得していきます。

【到達目標】

文書作成・集計処理・情報収集など、大学そしてその後の生活で必要となる IT 関連の知識と技術のうち、特に基礎的な範囲を中心に習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実習を中心にに関連説明を織り交ぜて進めていき、課題もそれに合わせて実施、という実習中心の流れです。ただし授業内での実習といわれる宿題を分離させず、実習室環境だけに限定されない一般的知識を身に付けることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	書類作成の基本	ワープロ基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	ワープロ（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	ワープロ（画像中心）	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめと総合	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、各自が以前の授業内容を理解しておく必要があります。進捗状況や配布物は常に見られるようにしますので、必要に応じて復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

今年度の実習室環境に合わせる必要があるため、初回授業で説明します。昨年度教科書は参考書欄に示しています。

【参考書】

昨年度教科書：「実習 情報リテラシ【第 2 版】」、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,980。

その他一般：IT や情報入門書・同様の他授業で使用されている教科書が該当します。

【成績評価の方法と基準】

配分：課題・宿題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

課題が多いという意見もありますが、「実際にやる」を重要視した結果です。ただし無意味な負荷とならないよう、期限には余裕をもたせ、実習と課題を実質融合させています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。また配布・提出に授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更はあり得ると思います。またこの科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent information society, information technology (IT), computers and related technologies have become essential. The objective is to acquire basic skills and knowledge of IT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーの知識習得の一環として、コンピュータを使えるようになることを目指します。基礎的な IT の知識・技術を、基本レベルからの実習を行いながら順番に習得していきます。

【到達目標】

文書作成・集計処理・情報収集など、大学そしてその後の生活で必要となる IT 関連の知識と技術のうち、特に基礎的な範囲を中心に習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実習を中心に関連説明を織り交ぜて進めていき、課題もそれに合わせて実施、という実習中心の流れです。ただし授業内での実習といわれる宿題を分離させず、実習室環境だけに限定されない一般的知識を身に付けることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	書類作成の基本	ワープロ基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	ワープロ（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	ワープロ（画像中心）	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめと総合	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、各自が以前の授業内容を理解しておく必要があります。進捗状況や配布物は常に見られるようにしますので、必要に応じて復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

今年度の実習室環境に合わせる必要があるため、初回授業で説明します。昨年度教科書は参考書欄に示しています。

【参考書】

昨年度教科書：「実習 情報リテラシ【第 2 版】」、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,980。

その他一般： IT や情報入門書・同様の他授業で使用されている教科書が該当します。

【成績評価の方法と基準】

配分：課題・宿題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

課題が多いという意見もありますが、「実際にやる」を重要視した結果です。ただし無意味な負荷とならないよう、期限には余裕をもたせ、実習と課題を実質融合させています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。また配布・提出に授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更はあり得ると思います。またこの科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent information society, information technology (IT), computers and related technologies have become essential. The objective is to acquire basic skills and knowledge of IT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

法文堂 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーの知識習得の一環として、コンピュータを使えるようになることを目指します。基礎的な IT の知識・技術を、基本レベルからの実習を行いながら順番に習得していきます。

【到達目標】

文書作成・集計処理・情報収集など、大学そしてその後の生活で必要となる IT 関連の知識と技術のうち、特に基礎的な範囲を中心に習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実習を中心に関連説明を織り交ぜて進めていき、課題もそれに合わせて実施、という実習中心の流れです。ただし授業内での実習といわれる宿題を分離させず、実習室環境だけに限定されない一般的知識を身に付けることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	書類作成の基本	ワープロ基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	ワープロ（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	ワープロ（画像中心）	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめと総合	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、各自が以前の授業内容を理解しておく必要があります。進捗状況や配布物は常に見られるようにしますので、必要に応じて復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

今年度の実習室環境に合わせる必要があるため、初回授業で説明します。昨年度教科書は参考書欄に示しています。

【参考書】

昨年度教科書：「実習 情報リテラシ【第 2 版】」、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,980。

その他一般：IT や情報入門書・同様の他授業で使用されている教科書が該当します。

【成績評価の方法と基準】

配分：課題・宿題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

課題が多いという意見もありますが、「実際にやる」を重要視した結果です。ただし無意味な負荷とならないよう、期限には余裕をもたせ、実習と課題を実質融合させています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。また配布・提出に授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更はあり得ると思います。またこの科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent information society, information technology (IT), computers and related technologies have become essential. The objective is to acquire basic skills and knowledge of IT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

法文堂 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーの知識習得の一環として、コンピュータを使えるようになることを目指します。基礎的な IT の知識・技術を、基本レベルからの実習を行いながら順番に習得していきます。

【到達目標】

文書作成・集計処理・情報収集など、大学そしてその後の生活で必要となる IT 関連の知識と技術のうち、特に基礎的な範囲を中心に習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実習を中心に関連説明を織り交ぜて進めていき、課題もそれに合わせて実施、という実習中心の流れです。ただし授業内での実習といわれる宿題を分離させず、実習室環境だけに限定されない一般的知識を身に付けることを目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	書類作成の基本	ワープロ基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	ワープロ（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	ワープロ（画像中心）	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめと総合	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、各自が以前の授業内容を理解しておく必要があります。進捗状況や配布物は常に見られるようにしますので、必要に応じて復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

今年度の実習室環境に合わせる必要があるため、初回授業で説明します。昨年度教科書は参考書欄に示しています。

【参考書】

昨年度教科書：「実習 情報リテラシ【第 2 版】」、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,980。

その他一般： IT や情報入門書・同様の他授業で使用されている教科書が該当します。

【成績評価の方法と基準】

配分：課題・宿題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。授業内での実習を中心に、課題を追記する形として出題します。提出物が実習と課題を兼ねた形となり、目標に対して実際に行っているか・習得できているかの双方を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

課題が多いという意見もありますが、「実際にやる」を重要視した結果です。ただし無意味な負荷とならないよう、期限には余裕をもたせ、実習と課題を実質融合させています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室での授業のため、備え付けの機材を使用します。また配布・提出に授業支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

授業の展開によって若干の予定変更はあり得ると思います。またこの科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline and objectives】

In the recent information society, information technology (IT), computers and related technologies have become essential. The objective is to acquire basic skills and knowledge of IT. This lesson will focus on practical training.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして **Microsoft Word** を使うことができる。スライド作成ソフトとして **Microsoft PowerPoint** を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。**PowerPoint** を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、G U I の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 3 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 4 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 5 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 6 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能を学ぶ。
第 7 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレート機能を使う。
第 8 回	課題①	Microsoft Word を活用する課題に取り組む。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。
第 12 回	画面切り替えとアニメーション	Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。
第 13 回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第 14 回	課題②	発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン I D とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ【第 2 版】」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社の他、課題プリントを適時配布します。

【参考書】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。
(参考情報 <http://hoshilab.net/>)

【成績評価の方法と基準】

課題 (70%)、宿題 (20%)、平常点 (10 %) として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline and objectives】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習 I

2016 年度以前入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法文館 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして **Microsoft Word** を使うことができる。スライド作成ソフトとして **Microsoft PowerPoint** を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。**PowerPoint** を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、G U I の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 3 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 4 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 5 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 6 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能を学ぶ。
第 7 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレート機能を使う。
第 8 回	課題①	Microsoft Word を活用する課題に取り組む。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。
第 12 回	画面切り替えとアニメーション	Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。
第 13 回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第 14 回	課題②	発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン I D とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ【第 2 版】」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社の他、課題プリントを適時配布します。

【参考書】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。
(参考情報 <http://hoshilab.net/>)

【成績評価の方法と基準】

課題 (70%)、宿題 (20%)、平常点 (10 %) として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline and objectives】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI100LA

情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報リテラシー I

2016 年度以前入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本 概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピュータとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ

第 11 回 WWW その 1

WWW の仕組みと利用方法について学ぶ

第 12 回 WWW その 2

WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ

第 13 回 インターネットとメディア
リテラシその 1

インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ

第 14 回 インターネットとメディア
リテラシその 2

フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウィルス、コンピュータ犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報リテラシー I

2016 年度以前入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピュータとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ

第 11 回 WWW その 1

WWW の仕組みと利用方法について学ぶ

第 12 回 WWW その 2

WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ

第 13 回 インターネットとメディアリテラシその 1

インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ

第 14 回 インターネットとメディアリテラシその 2

フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウィルス、コンピュータ犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報リテラシー I

2016 年度以前入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピュータとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ

第 11 回 WWW その 1

WWW の仕組みと利用方法について学ぶ

第 12 回 WWW その 2

WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ

第 13 回 インターネットとメディア
リテラシその 1

インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ

第 14 回 インターネットとメディア
リテラシその 2

フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウィルス、コンピュータ犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通して下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報リテラシー I

2016 年度以前入学者

四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピュータとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ

第 11 回 WWW その 1

WWW の仕組みと利用方法について学ぶ

第 12 回 WWW その 2

WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ

第 13 回 インターネットとメディアリテラシその 1

インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ

第 14 回 インターネットとメディアリテラシその 2

フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウィルス、コンピュータ犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社

初版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤

監修 日経 BP ソフトプレス

「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA	
情報リテラシー I	2017 年度以降入学者
PRI100LA	
情報リテラシー I	2016 年度以前入学者
中村 文隆	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水 3/Wed.3 国 1 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】
コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
情報リテラシー I では、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本 概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する 国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 2 回	e ポートフォリオ	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 3 回	コンピュータの基本構成	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 8 回	コンピュータとデータ	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	

第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディア リテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディア リテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウィルス、コンピュータ犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報リテラシー I

2016 年度以前入学者

四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピュータとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ

第 11 回 WWW その 1

WWW の仕組みと利用方法について学ぶ

第 12 回 WWW その 2

WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ

第 13 回 インターネットとメディアリテラシその 1

インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ

第 14 回 インターネットとメディアリテラシその 2

フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウィルス、コンピュータ犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA	
情報リテラシー I	2017 年度以降入学者
PRI100LA	
情報リテラシー I	2016 年度以前入学者
重定 如彦	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金 3/Fri.3 国 1 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】
コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
情報リテラシー I では、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する 国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 2 回	e ポートフォリオ	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 3 回	コンピュータの基本構成	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 8 回	コンピュータとデータ	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	

第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウィルス、コンピュータ犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline and objectives】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2016 年度以前入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピュータを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムやeポートフォリオを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスを目を通して置いて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2016 年度以前入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピュータを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムやeポートフォリオを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスを目を通して置いて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2016 年度以前入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピュータを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムやeポートフォリオを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスを目を通して置いて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2016 年度以前入学者

四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピュータを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムやeポートフォリオを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスを目を通して置いて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2016 年度以前入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピュータを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムやeポートフォリオを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスを目を通して置いて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2016 年度以前入学者

四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピュータを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムやeポートフォリオを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。

なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスを目を通して置いて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2016 年度以前入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピュータを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは授業支援システムやeポートフォリオを使って行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類の式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。

また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、授業支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 2 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
初版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 8 や Microsoft Office 2013 に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスを目を通して置いて下さい。

【Outline and objectives】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習

2016 年度以前入学者

菅原 真悟

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶために必要となる、コンピュータ・ソフトウェアの基本的操作方法を習得する。

【到達目標】

Windows 環境で基礎的な PC リテラシーの習得をめざす。Office2013 (Word・Excel・PowerPoint) の基本操作および活用方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストをベースに、基礎的な操作方法を習得していく。
- (2) 毎回の授業は、説明と演習を組み合わせで行う。
- (3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解することによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指す。時間に余裕があれば応用的内容も扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業ガイダンス。情報教室 PC へのログイン方法の確認。
第 2 回	Windows の基本操作、USB メモリの取扱方法、セキュリティ	WindowsPC の基本的な使い方の説明。USB メモリ利用の注意点。セキュリティ対策。
第 3 回	電子メールの基本	電子メールの仕組み。電子メールと他のコミュニケーション・ツールとの比較。
第 4 回	ウェブの仕組みと情報検索	ウェブの仕組みについて理解する。情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法。
第 5 回	Word(1)	ワープロソフト（Word）の基本操作を習得する。
第 6 回	Word(2)	基本的な文章作成方法。
第 7 回	Word(3)	Word で表や図を挿入する方法。脚注。校閲機能。
第 8 回	Excel(1)	表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。
第 9 回	Excel(2)	計算式や関数の基本的な使い方。
第 10 回	Excel(3)	相対参照と絶対参照。
第 11 回	Excel(4)	計算式や関数の応用的な使い方。
第 12 回	Excel(5)	Excel で統計データを扱う。
第 13 回	PowerPoint	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を習得する。
第 14 回	総合演習	授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『情報リテラシー アプリ編：Microsoft Word 2013 / Microsoft Excel 2013 / Microsoft PowerPoint 2013 対応』FOM 出版

【参考書】

必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

出席状況や課題提出状況をふまえて総合的に評価する。

授業出席と授業内演習への参加（50%）

小課題の提出（数回出す予定です）（20%）

最終課題（30%）

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルに応じて、基礎的な内容だけでなく、発展的な内容を含む演習問題も選択できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

指定されたテキストを毎回授業に持ってくること。

【その他の重要事項】

基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。

【Outline and objectives】

We learn computer literacy.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習

2016 年度以前入学者

菅原 真悟

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶために必要となる、コンピュータ・ソフトウェアの基本的操作方法を習得する。

【到達目標】

Windows 環境で基礎的な PC リテラシーの習得をめざす。Office2013 (Word・Excel・PowerPoint) の基本操作および活用方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストをベースに、基礎的な操作方法を習得していく。
- (2) 毎回の授業は、説明と演習を組み合わせで行う。
- (3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解することによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指す。時間に余裕があれば応用的内容も扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業ガイダンス。情報教室 PC へのログイン方法の確認。
第 2 回	Windows の基本操作、USB メモリの取扱方法、セキュリティ	WindowsPC の基本的な使い方の説明。USB メモリ利用の注意点。セキュリティ対策。
第 3 回	電子メールの基本	電子メールの仕組み。電子メールと他のコミュニケーション・ツールとの比較。
第 4 回	ウェブの仕組みと情報検索	ウェブの仕組みについて理解する。情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法。
第 5 回	Word(1)	ワープロソフト (Word) の基本操作を習得する。
第 6 回	Word(2)	基本的な文章作成方法。
第 7 回	Word(3)	Word で表や図を挿入する方法。脚注。校閲機能。
第 8 回	Excel(1)	表計算ソフト (Excel) の基本操作を習得する。
第 9 回	Excel(2)	計算式や関数の基本的な使い方。
第 10 回	Excel(3)	相対参照と絶対参照。
第 11 回	Excel(4)	計算式や関数の応用的な使い方。
第 12 回	Excel(5)	Excel で統計データを扱う。
第 13 回	PowerPoint	プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本操作を習得する。
第 14 回	総合演習	授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『情報リテラシー アプリ編：Microsoft Word 2013 / Microsoft Excel 2013 / Microsoft PowerPoint 2013 対応』FOM 出版

【参考書】

必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

出席状況や課題提出状況をふまえて総合的に評価する。

授業出席と授業内演習への参加 (50%)

小課題の提出 (数回出す予定です) (20%)

最終課題 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルに応じて、基礎的な内容だけでなく、発展的な内容を含む演習問題も選択できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

指定されたテキストを毎回授業に持ってくること。

【その他の重要事項】

基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。

【Outline and objectives】

We learn computer literacy.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習

2016 年度以前入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピューターの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	コンピューターの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力的基础。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。
4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)：続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。ブレースホルダーの利用とブレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。

13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、レポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己 P R のホームページを作成するなど活用する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。なるべく毎回出席して下さい。

【その他の重要事項】

3 限は例年受講希望者が多く、定員オーバーになる可能性があります。その場合抽選になります。4 限は比較的に空きがあるので、可能な人は 4 限の受講を検討して下さい。

【Outline and objectives】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application softwares such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習

2016 年度以前入学者

寺澤 信雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピュータの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	コンピュータの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。
4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)：続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。

13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、リポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己 P R のホームページを作成するなどに活用する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セクション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。なるべく毎回出席して下さい。

【その他の重要事項】

3 限は例年受講希望者が多く、定員オーバーになる可能性があります。その場合抽選になります。4 限は比較的に空きがあるので、可能な人は 4 限の受講を検討して下さい。

【Outline and objectives】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application softwares such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習

2016 年度以前入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピューターの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	コンピューターの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。
4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)：続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。ブレースホルダーの利用とブレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。

13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、リポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己 P R のホームページを作成するなどに活用する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。なるべく毎回出席して下さい。

【その他の重要事項】

3 限は例年受講希望者が多く、定員オーバーになる可能性があります。その場合抽選になります。4 限は比較的に空きがあるので、可能な人は 4 限の受講を検討して下さい。

【Outline and objectives】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application softwares such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習

2016 年度以前入学者

寺澤 信雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピューターの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	コンピューターの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。
4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)：続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。ブレースホルダーの利用とブレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。

13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、レポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己 P R のホームページを作成するなどに活用する。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。なるべく毎回出席して下さい。

【その他の重要事項】

3 限は例年受講希望者が多く、定員オーバーになる可能性があります。その場合抽選になります。4 限は比較的に空きがあるので、可能な人は 4 限の受講を検討して下さい。

【Outline and objectives】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application softwares such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習

2016 年度以前入学者

御園生 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パーソナルコンピュータの一般的な操作方法を習得し、それを大学での学習活動に留まらず、日常生活の中でも活用応用できるようなりテラシーを身に付けることを目標とします。

パソコンの基本的操作やアプリケーションソフトの利用方法はもとより、インターネットを利用した情報の主体的な受信や各種のメディア活用能力・情報モラルの涵養など、情報化社会に必要な不可欠である、基礎的な情報リテラシー能力の習得を講義の中心に据え、できる限り受講者個々のスキルレベルに合わせた授業展開を心がける予定です。

【到達目標】

ビジネス系のみならず、表現方法としての情報リテラシーの習得を目指します。とくにプレゼンテーションについてはその理論と方法論の習得を通じて、実際に各種プレゼンツール（パワーポイント・Prezi）とドローソフト（Inkscape）の仕様の実際を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

具体的な課題の完成（目的）に合わせた基本ソフトウェアの使用方法を通じて、複数のソフトウェアを駆使することを目指し、実践的なコンピュータの活用方法を実習を通じて学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション（授業方針と計画・評価方法について）	授業の進め方の注意事項～ログオン方法の確認
②	情報保護について	データ管理とセキュリティについて理解する
③	パーソナルコンピュータ及び Windows-OS の基本的な取扱い方法について	OS の利用方法
④	電子メールの基礎と日本語入力方法～FEP 活用の基礎理解操作方法	メールアカウントの設定とメールソフトについて
⑤	アプリケーションソフト習得～MS Word（1）	基礎的な日本語入力
⑥	アプリケーションソフト習得～MS Word（2）	表組みと描画など
⑦	アプリケーションソフト習得～MS Word（3）	アウトラインプロセッサについて
⑧	アプリケーションソフト習得～MS Excel（1）	エクセルの基礎的な画面構成の理解
⑨	アプリケーションソフト習得～MS Excel（2）	計算式と関数①
⑩	アプリケーションソフト習得～MS Excel（3）	計算式と関数②
⑪	アプリケーションソフト習得～MS Excel（4）	マクロ・VBA 基礎
⑫	ドローイングソフト習得～inkscape ①	ドローソフトの基本的構造とレイヤーの意味
⑬	ドローイングソフト習得～inkscape ②	オリジナルスタンプを作ってみよう
⑭	プレゼンテーション～prezi ①	prezi を使ったプレゼンテーションの作成～アカウント取得など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

prezi アカウント取得のため、かならず大学のメールを利用できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業毎の課題：75%

期末課題：25%

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【その他の重要事項】

授業に出席することより参加することを期待しています。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is not only to use basic application software but also to acquire information literacy as expression method.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

PRI100LA

情報処理演習

2016 年度以前入学者

御園生 純

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
キ 1～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

パーソナルコンピュータの一般的な操作方法を習得し、それを大学での学習活動に留まらず、日常生活の中でも活用応用できるようなりテラシーを身に付けることを目標とします。

パソコンの基本的操作やアプリケーションソフトの利用方法はもとより、インターネットを利用した情報の主体的な受信や各種のメディア活用能力・情報モラルの涵養など、情報化社会に必要な不可欠である、基礎的な情報リテラシー能力の習得を講義の中心に据え、できる限り受講者個々のスキルレベルに合わせた授業展開を心がける予定です。

【到達目標】

ビジネス系のみならず、表現方法としての情報リテラシーの習得を目指します。とくにプレゼンテーションについてはその理論と方法論の習得を通じて、実際に各種プレゼンツール（パワーポイント・Prezi）とドローソフト（Inkscape）の仕様の実際を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

具体的な課題の完成（目的）に合わせた基本ソフトウェアの使用方法を通じて、複数のソフトウェアを駆使することを目指し、実践的なコンピュータの活用方法を実習を通じて学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション（授業方針と計画・評価方法について）	授業の進め方の注意事項～ログオン方法の確認
②	情報保護について	データ管理とセキュリティについて理解する
③	パーソナルコンピュータ及び Windows-OS の基本的な取扱い方法について	OS の利用方法
④	電子メールの基礎と日本語入力方法～FEP 活用の基礎理解操作方法	メールアカウントの設定とメールソフトについて
⑤	アプリケーションソフト習得～MS Word（1）	基礎的な日本語入力
⑥	アプリケーションソフト習得～MS Word（2）	表組みと描画など
⑦	アプリケーションソフト習得～MS Word（3）	アウトラインプロセッサについて
⑧	アプリケーションソフト習得～MS Excel（1）	エクセルの基礎的な画面構成の理解
⑨	アプリケーションソフト習得～MS Excel（2）	計算式と関数①
⑩	アプリケーションソフト習得～MS Excel（3）	計算式と関数②
⑪	アプリケーションソフト習得～MS Excel（4）	マクロ・VBA 基礎
⑫	ドローイングソフト習得～inkscape ①	ドローソフトの基本的構造とレイヤーの意味
⑬	ドローイングソフト習得～inkscape ②	オリジナルスタンプを作ってみよう
⑭	プレゼンテーション～prezi ①	prezi を使ったプレゼンテーションの作成～アカウント取得など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

prezi アカウント取得のため、かならず大学のメールを利用できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業毎の課題：75%

期末課題：25%

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【その他の重要事項】

授業に出席することより参加することを期待しています。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is not only to use basic application software but also to acquire information literacy as expression method.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
法文営国環キ G 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続ける姿勢が求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。
3	激変する社会環境とこれからの生き方を考える	現代社会は AI の発達、グローバル化の進展、長寿化、少子高齢化、就労モデルの崩壊などに代表される社会環境の激変の時代である。このような社会を生き抜いていくための人生戦略を多面的かつ具体的に考えていく。
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。女性、外国人、障害者、高齢者、性的マイノリティなどの多様な人々との協働をはじめ、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働の可能性、サテライトワークなど、新しい働き方のあり方について考える。これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。
5	グローバル化社会における人材	

6	ジェンダー、結婚、家族、社会のきずな	社会生活を営んでいくために考えておくべき性と社会的単位に関する社会的基礎について、ジェンダー、結婚、家族、社会との絆、コミュニティの観点から考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係やコミュニティの変容についても触れていく。私たちの社会は、労働の連鎖で成り立っている。連鎖がひとつでも途絶えると、通常の生活ができなくなる。身近な商品が皆さんの手元に届くまでにどれだけの労働がかかわっているのかを例に考える。併せてサプライチェーンの基本概念についても理解を深めていく。
7	労働の連鎖	自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。
8	インターンシップ	自分が設定した目標やビジョンを実現していくためには、自分自身で行動をマネジメントしていくことが必要である。そのために有効なツール（PDCA、マイルストーン法）やメンタル面で重要な役割を果たすモチベーションの管理について学んでいく。
9	正しく考え、正しく理解するための、ものの見方・考え方	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式についてブランドハプスタンス理論や 4S トランジション理論から学んでいく。
10	セルフマネジメントを学ぶ	いま身の回りで起きていることがらうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。
11	自分のチャンスを広げるための行動様式	働くとはどういうことなのか？ これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。
12	認知、選択、意思決定の科学	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に紙に書きだす。そして、「明日から取り組むこと」を皆さん自身で決め、グループ内で共有する。
13	働くことの意味	
14	学生生活の過ごし方	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等を授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 % という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。（必須ではありません）同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。

【Outline and objectives】

We will learn about the following two points in this class , ① how to spend a meaningful time in our university, ② think about working in the society. In this class, we provide basic knowledge about the way of thinking for that is necessary for a long time life and also working in the society.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

高橋 実

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営国環キG 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	現役の人事部長として「僕自身のキャリアケース」をお話ししながら自己紹介を行います。また、半期の授業の内容、進め方など、皆さんがこの授業を通して何を学ぶべきなのかをお伝えします。
第2回	大学での学び	「大学でもっと多くのことを学んでおけば良かった」。僕もそうですが多くの大人がそう考えています。では、大学という場所では何を学び、何を活かしていくべきなのか。現役社会人の立場から皆さんに伝え、これからの大学での学び方を一緒に考えます。
第3回	「社会に出る」というトランジション	学生から就職し社会に出るというステップは、人生の中でも他にないほど大きなトランジション（変わり目）にあたります。そこで何が変わるのかを学び、自分自身のキャリアで何を考え、行動していくべきなのかを一緒に考えます。
第4回	労働の連鎖	私たちの社会は、労働の連鎖でできあがっています。どんな労働でも社会では価値があるものです。社会の経済活動においてそれぞれの労働がどのようにに関わり、どのように影響を及ぼしているのかを考え、自分自身がこれからのキャリアでどのように社会と関わっていくべきなのかを一緒に考えます。
第5回	働くことの意味	「働く」ということは、辛いものです。働く意味の一つは「労働に対する対価（＝給料）を得る」というものですが、果たしてそれだけでいいのでしょうか？では「働きがい」とはどういうことでしょうか？大人でも悩むこのテーマを、一緒に考えましょう。

第6回	外部環境と個人のキャリア	これからの日本は世界でも未曾有の少子化による労働人口減少に直面します。そんな日本でこれからどんなことが起こるのか？そして、皆さんは其中でどのように生きていくべきなのか。社会の外部環境で起こることを学びながら、自分自身のキャリアを考えます。
第7回	なぜ企業は採用をするのか	そもそもなぜ企業は採用を行うのでしょうか？現役の人事部長だからこそ話せる、企業がなぜ採用をするのか、どんなことを考えて採用を行っているのかを赤裸々にお話しします。就活の相手となる企業の考えを理解することで、皆さんの就活やこれからのキャリアの作り方を考えてもらいます。
第8回	自分自身のキャリアを考える	未来を考える時にはとても不安がつかまといまいます。もちろんいいこともありすが心配や不安はたくさんあると思います。将来のキャリアを考える時には、自分自身の志向や外部環境など、様々な要素を考えてキャリアを決めていかねばなりません。キャリアの決断において、どのように考えてキャリアを見つけていくべきなのかを考えてもらいます。
第9回	働き方と多様性	女性も勿論、外国人、高齢者、障害者、LGBT など、働く人も多様になってきており、これからの時代は働き方そのものが大きく変わります。現職で「複業（パラレルワーク）」を行っている人事部長である僕の経験を伝えながら、これからの社会で自分は何を考え、しなければならないのかを考えます。
第10回	組織におけるコミュニケーション	企業などの組織に属すると、周囲の人と必ずコミュニケーションを行っていかねばなりません。組織の目的と個人の目的は時としてずれてしまうこともあります。社会に出ると、好きでない人と付き合わねばならないことも多くあります。そんな組織で、どのようにコミュニケーションをとっていくべきなのかを考えます。
第11回	「評価される」とはどういうことか	社会人になり、経験を重ね、スキルやノウハウがつくと、立場が変わり、社会的責任が大きくなり、お給料も上がっていきます。そのキャリアプロセスでは常に「評価される」ということが行われます。「評価される」ということはどういうことなのか、それを一緒に考えたいと思います。
第12回	学校から社会への移行	社会に出ると「正解のない問い」に多く直面します。まだ見ぬ社会人の仕事、生活において、様々な「あるある」の事例を紹介します。すべて本当にあった事例ばかり。この事例から、社会人の生活をイメージし、何を考え行動するべきかを考えましょう。
第13回	インターンシップ	最近では、様々な「インターンシップ」が存在します。そもそも、インターンシップとは何なのか。どのようなことをするのだろうか。現役の企業人事部長の視点から、インターンシップとは何かを伝え、理解してもらい、どのように取り組むべきかを考えます。
第14回	学生生活の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考えます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に紙に書き出し、グループでディスカッションをしながら「大学時代」何をやるか」の目標を設定しましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「自分自身のキャリア」について考えるワークを提出してもらう予定です（1回）。授業の中でお伝えします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業中に参考となる書籍を適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出してもらうアクションペーパーが 70%、期末試験が 30%の割合で評価します。自分自身と向き合いこれからのキャリアに活かせる学びを得たかを見させてもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業の中であなたのこれからのキャリアで必要となるポイントをどんどん話すので、積極的にメモを取ってください。そのための筆記用具は必ず持参してください。

【その他の重要事項】

新卒で JCB、NTT、トヨタグループ企業にて新規事業企画・営業などを歴任し、トヨタファイナンス、廣瀬商会、HDE（現 HENNGE）にて、人事責任者に従事しました。これまで 2,000 名以上の新卒学生の面接経験があります。現職で複数の企業（現在 4 社）の人事部長職に従事しているほか、銀座の「キャリアバー」顧問など、組織・人事・キャリアに関わる多方面の仕事に従事しています。

https://www.dodadsj.com/content/180403_takahashi/

企業人事の立場から、皆さんにとってリアリティのあるキャリアデザインと一緒に考えていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

In this lesson, we think about your university life and work in society together.

I support you can spend great time in your university life.

In this class, I provide the basic knowledge on the concept necessary for your “long-term” life and working in society.

Through this opportunity, the purpose of this lesson is to create your good attitude that you can think and act by yourself.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営国環キ G 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。
3	激変する社会環境とこれからの生き方を考える	現代社会は AI の発達、グローバル化の進展、長寿化、少子高齢化、就労モデルの崩壊などに代表される社会環境の激変の時代である。このような社会を生き抜いていくための人生戦略を多面的かつ具体的に考えていく。
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。女性、外国人、障害者、高齢者、性的マイノリティなどの多様な人々との協働をはじめ、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働の可能性、サテライトワークなど、新しい働き方のあり方について考える。これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。
5	グローバル化社会における人材	

6	ジェンダー、結婚、家族、社会のきずな	社会生活を営んでいくために考えておくべき性と社会的単位に関する社会的基礎について、ジェンダー、結婚、家族、社会との絆、コミュニティの観点から考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係やコミュニティの変容についても触れていく。私たちの社会は、労働の連鎖で成り立っている。連鎖がひとつでも途絶えると、通常の生活ができなくなる。身近な商品が皆さんの手元に届くまでにどれだけの労働がかかわっているのかを例に考える。併せてサプライチェーンの基本概念についても理解を深めていく。
7	労働の連鎖	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、皆さんの目的に合ったインターンシップの参加方法と活用方法について考えていく。自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。
8	インターンシップ	自分が設定した目標やビジョンを実現していくためには、自分自身で行動をマネジメントしていくことが必要である。そのために有効なツール（PDCA、マイルストーン法）やメンタル面で重要な役割を果たすモチベーションの管理について学んでいく。
9	正しく考え、正しく理解するための、ものの見方・考え方	チャンスを上げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式についてブランドハプスタンス理論や 4S トランジション理論から学んでいく。
10	セルフマネジメントを学ぶ	いま身の回りで起きていることがらうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。
11	自分のチャンスを広げるための行動様式	働くとはどういうことなのか？ これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。
12	認知、選択、意思決定の科学	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に紙に書きだす。そして、「明日から取り組むこと」を皆さん自身で決め、グループ内で共有する。
13	働くことの意味	
14	学生生活の過ごし方	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等を授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。

【参考書】
授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。（必須ではありません）同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。

【Outline and objectives】

We will learn about the following two points in this class , ① how to spend a meaningful time in our university, ② think about working in the society. In this class, we provide basic knowledge about the way of thinking for that is necessary for a long time life and also working in the society.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
法文営国環キG 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。

最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。
3	激変する社会環境とこれからの生き方を考える	現代社会は AI の発達、グローバル化の進展、長寿化、少子高齢化、就労モデルの崩壊などに代表される社会環境の激変の時代である。このような社会を生き抜いていくための人生戦略を多面的かつ具体的に考えていく。
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。女性、外国人、障害者、高齢者、性的マイノリティなどの多様な人々との協働をはじめ、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、サテライトワークなど、新しい働き方のあり方について考える。
5	グローバル化社会における人材	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。

6	ジェンダー、結婚、家族、社会のきずな	社会生活を営んでいくために考えておくべき性と社会的単位に関する社会的基礎について、ジェンダー、結婚、家族、社会との絆、コミュニティの観点から考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係やコミュニティの変容についても触れていく。
7	労働の連鎖	私たちの社会は、労働の連鎖で成り立っている。連鎖がひとつでも途絶えると、通常の生活ができなくなる。身近な商品が皆さんの手元に届くまでにどれだけの労働がかかわっているのかを例に考える。併せてサプライチェーンの基本概念についても理解を深めていく。
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、皆さんの目的に合ったインターンシップの参加方法と活用方法について考えていく。
9	正しく考え、正しく理解するための、ものの見方・考え方	自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。
10	セルフマネジメントを学ぶ	自分が設定した目標やビジョンを実現していくためには、自分自身で行動をマネジメントしていくことが必要である。そのために有効なツール（PDCA、マイルストーン法）やメンタル面で重要な役割を果たすモチベーションの管理について学んでいく。
11	自分のチャンスを広げるための行動様式	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式についてブランドハブスタンス理論や 4S トランジション理論から学んでいく。
12	認知、選択、意思決定の科学	いま身の回りで起きていることがらうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するこころの動き（意思決定）」について学んでいく。
13	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？ これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。
14	学生生活の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に紙に書きだす。そして、「明日から取り組むこと」を皆さん自身で決め、グループ内で共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等を授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 % という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。（必須ではありません）同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。

【Outline and objectives】

We will learn about the following two points in this class , ① how to spend a meaningful time in our university, ② think about working in the society. In this class, we provide basic knowledge about the way of thinking for that is necessary for a long time life and also working in the society.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

平林 正樹、宮木 あづさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法文営国環キ G 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会で働くということについての基本的な知見を提供します。

これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 【平林担当】	「キャリア」の定義について考えると共に、授業主旨、進め方、成績評価方法、参加態度、およびカリキュラム等について概要を説明する。
第 2 回	大学での学び 【平林担当】	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考える。また、大学での学び方についても考える。
第 3 回	労働の連鎖 【平林担当】	私たちの社会は、労働の連鎖でできあがっている。連鎖が一つでも途絶えると、通常の生活ができなくなる。身近な商品（例えば、おにぎり）が外濠校舎 1 階のコンビニエンスストアに届くまでにどれだけの労働が関わっているかを考える。
第 4 回	働き方と多様性 【平林担当】	現代の日本では、女性は勿論、外国人、高齢者、障害者など様々な人たちが、様々な雇用形態で働いている。その意義や雇用形態による働き方の違いについて考える。また、男性を中心に、ワークライフバランスが問いなおされている。出産や育児といったライフ・イベントについても合わせて考える。
第 5 回	企業の採用活動 【平林担当】	就活を採用される立場からだけでなく、採用する側の視点で考えてみる。企業社会で求められる人材とはどういう人だろうか。どんなことができるだろうか。
第 6 回	グローバル人材とは 【平林担当】	グローバル人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切だ。では、語学力があれば外国人とわかり合えるかというと、そう単純ではない。相手の文化を知っていることがわかり合うための前提になる。

第 7 回	世の中の動きと求められる人材 【平林担当】	これから世の中はどのように変化していくのか、そのような中で私たちに何が求められるようになってくるのかを考える。
第 8 回	学生と社会人 【宮木担当】	社会人には何が求められているのだろうか。学生とは何が異なるのだろうか。就活やインターンシップで求められる基本的な態度についても考える。
第 9 回	アルバイト経験の意味 【宮木担当】	アルバイトとして働く場合も、労働法によって保護されている。労働基準法やパートタイム労働法など、働く上での基本的な権利と義務について学ぶ。非正規労働者のことなどにも触れつつ、アルバイトは就業経験としてどの程度の意味があるのかを考える。
第 10 回	働くことの意味 【宮木担当】	働く意味・働きがいとは何かを考える。自分の周りで仕事をしている人（親、兄弟、親戚など）にインタビューして、その結果を持ち寄り、共有する。身近な大人は、何のために働いているのかをグループで議論する。
第 11 回	インターンシップ 【宮木担当】	インターンシップとは何か。どのようなことをするのだろうか。どういう効果があるのだろうか。どのように参加するのがよいのだろうか。
第 12 回	やる気について 【宮木担当】	「これまでの人生の振り返り」を行い、自身のキャリアと重ねて意味づけモチベーションの源になるものを考える。
第 13 回	変化対応力を考える 【宮木担当】	現実には仕事をしていると予定通りにいかないことがたくさん発生する。そこで求められるのは変化に対応する力である。どうすれば変化対応力を身につけることができるのかを考える。
第 14 回	学生生活の過ごし方 【宮木担当】	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に紙に書き出す。そして、「明日から取り組むこと」を決め、グループ内で共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 10 回のディスカッションのために、事前課題（インタビューの実施）あり。その他の回については、授業の中で適宜指示をします。

【テキスト（教科書）】

特に定めなし。

【参考書】

授業の中で適宜指示をします。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーが 70 %、定期試験での成績が 30%という構成。リアクションペーパーは、記述内容、論理構成等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、学生と教員、学生同士、学生と先輩社会人の相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具は必ず持ってくる。それ以外に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】

担当教員は 2 名とも、企業人事での実務経験があります。企業・組織の実態などを共有し、大学生として、また社会に出ていくためにキャリアデザイン必要性を伝えていきます。

【Outline and objectives】

[Introduction to Career Design] This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working.

Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.

The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

藤澤 広美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文営国環キ G 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会で働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明します。また、キャリアとは何か、大学生にとってのキャリアとは何か、導入講義を行います。
2	働くことの意味	なぜキャリアデザインが必要なのか、あなたにとって働くことの意味や意義、やりがいとは何か、ワークを通して検討します。
3	労働の連鎖	社会は労働（職業や役割等）の連鎖でできています。社会の中で自分自身がどのような役割を担っていくのか、ワークを通して検討します。
4	これまでの自分を振り返る	キャリアデザインの枠組みを学び、これまでの自分を振り返ります。自身の人生観や価値観、仕事観に影響を与えた出会いをまとめるワークを行います。
5	今の自分を分析する	自己理解の基本姿勢について学びます。また、あなた自身が見ている「今の自分」について分析したうえで、改めて自己紹介を行います。
6	多様なキャリア理論	これまで授業で紹介したキャリアに関する理論を整理します。また、理論を用いて長期的なキャリアを展望するワークを行います。
7	偶然を活かすキャリア	偶然を活かすキャリア理論について学びます。偶然を味方につける方法を検討し、長期的な人生を歩む上で必要となる考え方を探ります。
8	人生の転機と変幻自在なキャリア	人生の転機とは何か、転機を活かすキャリア理論と変幻自在なキャリアについて学び、長期的な人生を歩む上で必要となる考え方を探ります。
9	ワーク・ライフ・バランス	ワーク・ライフ・バランスとは何か、結婚、出産や育児といったライフ・イベントに関する事例をもとに検討します。

10	働き方と多様性	現代の日本社会における雇用形態を学び、性別・年齢・国籍などの属性的条件、価値観やライフスタイルなどの違いによる働き方を考えます。
11	インターンシップ	インターンシップとは何か、種類やその効果について学びます。また、参加する際の基本的なマナーを解説し、ES 作成ワークを行います。
12	企業の採用活動と求められる能力	企業の採用活動、求められる能力について学びます。自身の行動を振り返ることで能力を整理し、学生生活の過ごし方のヒントを探ります。
13	大学での学び	大学での学びとは何か、春学期の授業を振り返ります。本授業と他の授業との接点や日常生活における学びの応用など、ワークを通して検討します。
14	学生生活の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどのように過ごすかを考えます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるために何が必要か、学生生活の目標を設定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業では当該テーマに関して生活の中で接点を探したり、それをきっかけに学びを深めたりすることを期待した発展ワークを出題します。日常生活でも学びを応用する機会を増やしていきましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回レジュメやワークシートを配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。
リアクションペーパー（毎回）：70 %、小レポート：30 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当するため、アンケートを実施していません。
なお、授業内での意見によって運営方法等は変更することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等で授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

新卒では人材紹介会社にて人事コンサルティング営業、メーカー・販売業・商社にて法人営業に従事し、ベンチャー企業と創業100年を超える老舗企業を経験しました。また、3つの大学でキャリアカウンセラーとして、累計2,000件を超えるキャリアカウンセリングが経験あります。企業経験の観点からはリアルに、キャリアカウンセリングの観点からは皆さんと近い目線でキャリアデザインについて一緒に考えていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

This course deals with the how to spend at university and working in society.

By thinking them together, I will support you so that you can spend your student life meaningfully.

In the classroom, we provide basic knowledge about the way of thinking, society, and working that are necessary for walking a longer-term life.

It also enhances the development of students' attitude to act autonomously.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法文営国環キ G 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。
3	激変する社会環境とこれからの生き方を考える	現代社会は AI の発達、グローバル化の進展、長寿化、少子高齢化、就労モデルの崩壊などに代表される社会環境の激変の時代である。このような社会を生き抜いていくための人生戦略を多面的かつ具体的に考えていく。
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。女性、外国人、障害者、高齢者、性的マイノリティなどの多様な人々との協働をはじめ、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働の可能性、サテライトワークなど、新しい働き方のあり方について考える。これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。
5	グローバル化社会における人材	

6	ジェンダー、結婚、家族、社会のきずな	社会生活を営んでいくために考えておくべき性と社会的単位に関する社会的基礎について、ジェンダー、結婚、家族、社会との絆、コミュニティの観点から考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係やコミュニティの変容についても触れていく。私たちの社会は、労働の連鎖で成り立っている。連鎖がひとつでも途絶えると、通常の生活ができなくなる。身近な商品が皆さんの手元に届くまでにどれだけの労働がかかわっているのかを例に考える。併せてサプライチェーンの基本概念についても理解を深めていく。
7	労働の連鎖	
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、皆さんの目的に合ったインターンシップの参加方法と活用方法について考えていく。自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。
9	正しく考え、正しく理解するための、ものの見方・考え方	自分が設定した目標やビジョンを実現していくためには、自分自身で行動をマネジメントしていくことが必要である。そのために有効なツール（PDCA、マイルストーン法）やメンタル面で重要な役割を果たすモチベーションの管理について学んでいく。
10	セルフマネジメントを学ぶ	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式についてブランドハプスタンス理論や 4S トランジション理論から学んでいく。
11	自分のチャンスを広げるための行動様式	いま身の回りで起きていることがらうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。
12	認知、選択、意思決定の科学	働くとはどういうことなのか？ これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。
13	働くことの意味	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に紙に書きだす。そして、「明日から取り組むこと」を皆さん自身で決め、グループ内で共有する。
14	学生生活の過ごし方	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等を授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。

【参考書】
授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。（必須ではありません）同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。

【Outline and objectives】

We will learn about the following two points in this class , ① how to spend a meaningful time in our university, ② think about working in the society. In this class, we provide basic knowledge about the way of thinking for that is necessary for a long time life and also working in the society.

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
法文営国環キG 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「企業活動と働き方」に焦点を当て、これからの企業活動の様相の展望と、それに伴う働き方の変化の見通しを学びます。その理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を最近の調査・研究成果も踏まえて考えていきます。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、大きなうねりをもって動いている現代社会のその先の世界において、キャリアをデザインしていくうえで考えておくべき視点を提供し、それらを考慮に入れた各人のキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思います。これからの社会で必要とされる人材として将来にわたって活躍できるようになるためのこの授業がその第一歩になることを期待します。また、授業の展開にあたっては授業中に課題を示し、グループワークによる仲間との話し合いや教員との議論を通じて、その問題に対する理解を深めていこうと思います。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけてほしいと思います。特にこの授業では、生き方・働き方と企業活動の接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについて概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。
2	生きる環境と働く環境の変化	これからの人生を取り巻く環境は大きく変わろうとしている。その中で人間の生き方、働き方に大きな影響が出そうな要素について概観し、どのように生き方や働き方が変わっていきそうか考えていく。その際、時間、お金、労働などに関する価値観の変化にも言及しながら考えていく。
3	「働く」ということ	「働く」とひと言で言っても、それをきちんと説明できる人は少ない。自分自身の「働く」という概念を深く考え、考え方を整理しておくことは自分のキャリア形成の方針を定めるうえで大切である。
4	これからの働き方を考える -働き方の変化と多様性-	日本の企業活動を取り巻く動向（AIの発達、生産性に関する見方の変化、グローバル化、企業や業界の盛衰など）を概観したうえで、今後の流れの行く末と、そこでの働き方の変化について考えていく。
5	「会社」とはなにか	「会社」の本質と特徴を概観したうえで、日本の社会制度（労働法、労働慣行、社会保障など）や雇用環境、働き方（非正規雇用、ワークライフバランス、パラレルキャリアなど）の現状と将来展望について、諸外国との比較も含めてグローバルな視点で考えていく。

6	組織で自分を生かす リーダーシップ、チームワーク、モチベーション、ハビネス	これからの時代の組織において自分自身を生かしていくためには、リーダーシップ、チームワーク、モチベーション、ハビネスに関する深い理解と自分自身によるコントロールが重要性を持ってくるので、これらの概念についての理解を深める。 営業は企業活動にとって根幹の業務である。いくら良いサービスや製品があっても営業がないと企業はお金を得られない。また営業はユーザーと会社を結び、ユーザーのニーズを的確に把握していくという重要な役割を果たす。このような仕事についての理解を深めていく。
7	仕事研究① 「営業・販売」	営業は企業活動にとって根幹の業務である。いくら良いサービスや製品があっても営業がないと企業はお金を得られない。また営業はユーザーと会社を結び、ユーザーのニーズを的確に把握していくという重要な役割を果たす。このような仕事についての理解を深めていく。
8	仕事研究② 「企画・開発」	企画・開発はひと言でいうと、企業における付加価値を創出していくためのセンターともいえる。企画は、商品やサービスの企画だけでなく、会社経営の企画も行う重要な仕事である。また、開発は製品や市場の開発のみならず、人材（社員）の能力開発も担当する。この仕事についての理解を深めていく。
9	仕事研究③ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業が外部の頭脳（ノウハウ、知識など）を得たいときに活躍する仕事である。これからは今まで以上に外部環境の変化に応じた企業の対応スピードが求められるので、企業内部の人材だけでは対応が困難である。そのため、企業に頭脳を提供するコンサルティングの仕事の重要性が増してくる。この仕事についての理解を深めていく。
10	仕事研究④ 「IT」	広い意味での IT（AI、IoT、Siri、数値制御ロボットなどを含む）はこれからの企業や仕事を劇的に変えていくだろう。従来、文系学生は SE しか対応できないと考えられていたが、これからは IT のさまざまな分野で多様な資質を持った人材の活躍が期待される。この仕事についての理解を深めていく。
11	企業人ストーリー① 「新入社員の働き方」	法政大学就業力育成プロジェクトで作成された DVD「ハタラクチカラ」を通じて、新入社員の働き方を知る。グループワークで意見交換し、今から準備しておくべきことを理解する。
12	企業人ストーリー② 「入社 2 年目の働き方」	DVD 教材「ツナゲルチカラ」を活用し、入社 2 年目の社員の仕事ぶり前回考えた新入社員との働き方の違いを考え、その背景や要因についてグループワークでの意見交換を通じて理解を深める。
13	企業人ストーリー③ 「転職」	DVD 教材「ヤリヌクチカラ」を活用し、大企業から中小企業に転職するという場面設定のもとで社員が働くこと、仕事を選択することに対する思いやこだわり（価値観、アンカー）についてグループワークでの意見交換を通じて考えていく。
14	自己実現のためのキャリア デザイン戦略	これからの激動の社会を生き抜いていくためには社会に対応していくだけでは不十分である。むしろ、将来の方向性を見据えたうえで、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、仕事が変わっても役に立つスキル（トランスファラブル・スキル）を持ち続けることが大切である。このような基本的考え方を理解しながら、自分自身のキャリアデザイン（自分計画）をグループで話し合い、自分の考えを深めていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等を授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。（必須ではありません）同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。

【Outline and objectives】

In this class, we learn about corporate activities and how to work. We will think about the way of our own career design through this class. Please make a strong effort to produce the remaining time of the university life by yourself making use of what you will learn in this class.

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法文営国環キ G 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「企業活動と働き方」に焦点を当て、これからの企業活動の相の展望と、それに伴う働き方の変化の見通しを学びます。その理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を最近の調査・研究成果も踏まえて考えていきます。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、大きなうねりをもって動いている現代社会のその先の世界において、キャリアをデザインしていくうえで考えておくべき視点を提供し、それらを考慮に入れた各人のキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思ひます。これからの社会で必要とされる人材として将来にわたって活躍できるようにするためのこの授業がその第一歩になることを期待します。また、授業の展開にあたっては授業中に課題を示し、グループワークによる仲間との話し合いや教員との議論を通じて、その問題に対する理解を深めていこうと思ひます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけてほしいと思ひます。特にこの授業では、生き方・働き方と企業活動の接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについて概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。
2	生きる環境と働く環境の変化	これからの人生を取り巻く環境は大きく変わろうとしている。その中で人間の生き方、働き方に大きな影響が出そうな要素について概観し、どのように生き方や働き方が変わっていきそうか考えていく。その際、時間、お金、労働などに関する価値観の変化にも言及しながら考えていく。
3	「働く」ということ	「働く」とひと言で言っても、それをきちんと説明できる人は少ない。自分自身の「働く」という概念を深く考え、考え方を整理しておくことは自分のキャリア形成の方針を定めるうえで大切である。
4	これからの働き方を考える -働き方の変化と多様性-	日本の企業活動を取り巻く動向（AIの発達、生産性に関する見方の変化、グローバル化、企業や業界の盛衰など）を概観したうえで、今後の流れの行く末と、そこでの働き方の変化について考えていく。
5	「会社」とはなにか	「会社」の本質と特徴を概観したうえで、日本の社会制度（労働法、労働慣行、社会保障など）や雇用環境、働き方（非正規雇用、ワークライフバランス、パラレルキャリアなど）の現状と将来展望について、諸外国との比較も含めてグローバルな視点で考えていく。

6 組織で自分を生かす
—リーダーシップ、チームワーク、モチベーション、ハビネス—

これからの時代の組織において自分自身を生かしていくためには、リーダーシップ、チームワーク、モチベーション、ハビネスに関する深い理解と自分自身によるコントロールが重要性を持つてくるので、これらの概念についての理解を深める。

7 仕事研究①
「営業・販売」

営業は企業活動にとって根幹の業務である。いくら良いサービスや製品があっても営業がないと企業はお金を得られない。また営業はユーザーと会社を結び、ユーザーのニーズを的確に把握していくという重要な役割を果たす。このような仕事についての理解を深めていく。

8 仕事研究②
「企画・開発」

企画・開発はひと言でいうと、企業における付加価値を創出していくためのセンターともいえる。企画は、商品やサービスの企画だけでなく、会社経営の企画も行う重要な仕事である。また、開発は製品や市場の開発のみならず、人材（社員）の能力開発も担当する。この仕事についての理解を深めていく。

9 仕事研究③
「コンサルティング」

コンサルティングは、企業が外部の頭脳（ノウハウ、知識など）を得たいときに活躍する仕事である。これからは今まで以上に外部環境の変化に応じた企業の対応スピードが求められるので、企業内部の人材だけでは対応が困難である。そのため、企業に頭脳を提供するコンサルティングの仕事の重要性が増してくる。この仕事についての理解を深めていく。

10 仕事研究④
「IT」

広い意味での IT（AI、IoT、Siri、数値制御ロボットなどを含む）はこれからの企業や仕事を劇的に変えていくだろう。従来、文系学生は SE しか対応できないと考えられていたが、これからは IT のさまざまな分野で多様な資質を持った人材の活躍が期待される。この仕事についての理解を深めていく。

11 企業人ストーリー①
「新入社員の働き方」

法政大学就業力育成プロジェクトで作成された DVD「ハタラクチカラ」を通じて、新入社員の働き方を知る。グループワークで意見交換し、今から準備しておくべきことを理解する。DVD 教材「ツナゲルチカラ」を活用し、入社 2 年目の社員の仕事ぶりと同考えた新入社員との働き方の違いを考え、その背景や要因についてグループワークでの意見交換を通じて理解を深める。

12 企業人ストーリー②
「入社 2 年目の働き方」

DVD 教材「ヤリヌケチカラ」を活用し、大企業から中小企業に転職するという場面設定のもとで社員が働くこと、仕事を選択することに対する思いやこだわり（価値観、アンカー）についてグループワークでの意見交換を通じて考えていく。

13 企業人ストーリー③
「転職」

これからの激動の社会を生き抜いていくためには社会に対応していくだけでは不十分である。むしろ、将来の方向性を見据えたうえで、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、仕事が変わっても役に立つスキル（トランスファラブル・スキル）を持続することが大切である。このような基本的考え方を理解しながら、自分自身のキャリアデザイン（自分計画）をグループで話し合い、自分の考えを深めていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等を授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。（必須ではありません）同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。

【Outline and objectives】

In this class, we learn about corporate activities and how to work. We will think about the way of our own career design through this class. Please make a strong effort to produce the remaining time of the university life by yourself making use of what you will learn in this class.

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
法文営国環キG 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「企業活動と働き方」に焦点を当て、これからの企業活動の様相の展望と、それに伴う働き方の変化の見通しを学びます。その理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を最近の調査・研究成果も踏まえて考えていきます。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、大きなうねりをもって動いている現代社会のその先の世界において、キャリアをデザインしていくうえで考えておくべき視点を提供し、それらを考慮に入れた各人のキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思います。これからの社会で必要とされる人材として将来にわたって活躍できるようになるためのこの授業がその第一歩になることを期待します。また、授業の展開にあたっては授業中に課題を示し、グループワークによる仲間との話し合いや教員との議論を通じて、その問題に対する理解を深めていこうと思います。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけてほしいと思います。特にこの授業では、生き方・働き方と企業活動の接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについて概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。
2	生きる環境と働く環境の変化	これからの人生を取り巻く環境は大きく変わろうとしている。その中で人間の生き方、働き方に大きな影響が出そうな要素について概観し、どのように生き方や働き方が変わっていきそうか考えていく。その際、時間、お金、労働などに関する価値観の変化にも言及しながら考えていく。
3	「働く」ということ	「働く」とひとりで言っても、それをきちんと説明できる人は少ない。自分自身の「働く」という概念を深く考え、考え方を整理しておくことは自分のキャリア形成の方針を定めるうえで大切である。
4	これからの働き方を考える -働き方の変化と多様性-	日本の企業活動を取り巻く動向（AIの発達、生産性に関する見方の変化、グローバル化、企業や業界の盛衰など）を概観したうえで、今後の流れの行く末と、そこでの働き方の変化について考えていく。
5	「会社」とはなにか	「会社」の本質と特徴を概観したうえで、日本の社会制度（労働法、労働慣行、社会保障など）や雇用環境、働き方（非正規雇用、ワークライフバランス、パラレルキャリアなど）の現状と将来展望について、諸外国との比較も含めてグローバルな視点で考えていく。

6	組織で自分を生かす リーダーシップ、チームワーク、モチベーション、ハビネス	これからの時代の組織において自分自身を生かしていくためには、リーダーシップ、チームワーク、モチベーション、ハビネスに関する深い理解と自分自身によるコントロールが重要性を持ってくるので、これらの概念についての理解を深める。 営業は企業活動にとって根幹の業務である。いくら良いサービスや製品があっても営業がないと企業はお金を得られない。また営業はユーザーと会社を結び、ユーザーのニーズを的確に把握していくという重要な役割を果たす。このような仕事についての理解を深めていく。
7	仕事研究① 「営業・販売」	営業は企業活動にとって根幹の業務である。いくら良いサービスや製品があっても営業がないと企業はお金を得られない。また営業はユーザーと会社を結び、ユーザーのニーズを的確に把握していくという重要な役割を果たす。このような仕事についての理解を深めていく。
8	仕事研究② 「企画・開発」	企画・開発はひと言でいうと、企業における付加価値を創出していくためのセンターともいえる。企画は、商品やサービスの企画だけでなく、会社経営の企画も行う重要な仕事である。また、開発は製品や市場の開発のみならず、人材（社員）の能力開発も担当する。この仕事についての理解を深めていく。
9	仕事研究③ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業が外部の頭脳（ノウハウ、知識など）を得たいときに活躍する仕事である。これからは今まで以上に外部環境の変化に応じた企業の対応スピードが求められるので、企業内部の人材だけでは対応が困難である。そのため、企業に頭脳を提供するコンサルティングの仕事の重要性が増してくる。この仕事についての理解を深めていく。
10	仕事研究④ 「IT」	広い意味での IT（AI、IoT、Siri、数値制御ロボットなどを含む）はこれからの企業や仕事を劇的に変えていくだろう。従来、文系学生は SE しか対応できないと考えられていたが、これからは IT のさまざまな分野で多様な資質を持った人材の活躍が期待される。この仕事についての理解を深めていく。
11	企業人ストーリー① 「新入社員の働き方」	法政大学就業力育成プロジェクトで作成された DVD「ハタラクチカラ」を通じて、新入社員の働き方を知る。グループワークで意見交換し、今から準備しておくべきことを理解する。
12	企業人ストーリー② 「入社 2 年目の働き方」	DVD 教材「ツナゲルチカラ」を活用し、入社 2 年目の社員の仕事ぶり前回考えた新入社員との働き方の違いを考え、その背景や要因についてグループワークでの意見交換を通じて理解を深める。
13	企業人ストーリー③ 「転職」	DVD 教材「ヤリヌクチカラ」を活用し、大企業から中小企業に転職するという場面設定のもとで社員が働くこと、仕事を選択することに対する思いやこだわり（価値観、アンカー）についてグループワークでの意見交換を通じて考えていく。
14	自己実現のためのキャリアデザイン戦略	これからの激動の社会を生き抜いていくためには社会に対応していくだけでは不十分である。むしろ、将来の方向性を見据えたうえで、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、仕事が変わっても役に立つスキル（トランスファラブル・スキル）を持ち続けることが大切である。このような基本的考え方を理解しながら、自分自身のキャリアデザイン（自分計画）をグループで話し合い、自分の考えを深めていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等を授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。（必須ではありません）同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。

【Outline and objectives】

In this class, we learn about corporate activities and how to work. We will think about the way of our own career design through this class. Please make a strong effort to produce the remaining time of the university life by yourself making use of what you will learn in this class.

CAR100LA

キャリアデザイン応用

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
 法文営国環キ G 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「企業活動と働き方」に焦点を当て、これからの企業活動の様相の展望と、それに伴う働き方の変化の見通しを学びます。その理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を最近の調査・研究成果も踏まえて考えていきます。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、大きなうねりをもって動いている現代社会のその先の世界において、キャリアをデザインしていくうえで考えておくべき視点を提供し、それらを考慮に入れた各人のキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思ひます。これからの社会で必要とされる人材として将来にわたって活躍できるようにするためのこの授業がその第一歩になることを期待します。また、授業の展開にあたっては授業中に課題を示し、グループワークによる仲間との話し合いや教員との議論を通じて、その問題に対する理解を深めていこうと思ひます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけてほしいと思ひます。特にこの授業では、生き方・働き方と企業活動の接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについて概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。
2	生きる環境と働く環境の変化	これからの人生を取り巻く環境は大きく変わろうとしている。その中で人間の生き方、働き方に大きな影響が出そうな要素について概観し、どのように生き方や働き方が変わっていきそうか考えていく。その際、時間、お金、労働などに関する価値観の変化にも言及しながら考えていく。
3	「働く」ということ	「働く」とひと言で言っても、それをきちんと説明できる人は少ない。自分自身の「働く」という概念を深く考え、考え方を整理しておくことは自分のキャリア形成の方針を定めるうえで大切である。
4	これからの働き方を考える -働き方の変化と多様性-	日本の企業活動を取り巻く動向（AIの発達、生産性に関する見方の変化、グローバル化、企業や業界の盛衰など）を概観したうえで、今後の流れの行く末と、そこでの働き方の変化について考えていく。
5	「会社」とはなにか	「会社」の本質と特徴を概観したうえで、日本の社会制度（労働法、労働慣行、社会保障など）や雇用環境、働き方（非正規雇用、ワークライフバランス、パラレルキャリアなど）の現状と将来展望について、諸外国との比較も含めてグローバルな視点で考えていく。

6 組織で自分を生かす
—リーダーシップ、チームワーク、モチベーション、ハビネス—

これからの時代の組織において自分自身を生かしていくためには、リーダーシップ、チームワーク、モチベーション、ハビネスに関する深い理解と自分自身によるコントロールが重要性を持つてくるので、これらの概念についての理解を深める。

7 仕事研究①
「営業・販売」

営業は企業活動にとって根幹の業務である。いくら良いサービスや製品があっても営業がないと企業はお金を得られない。また営業はユーザーと会社を結び、ユーザーのニーズを的確に把握していくという重要な役割を果たす。このような仕事についての理解を深めていく。

8 仕事研究②
「企画・開発」

企画・開発はひと言でいうと、企業における付加価値を創出していくためのセンターともいえる。企画は、商品やサービスの企画だけでなく、会社経営の企画も行う重要な仕事である。また、開発は製品や市場の開発のみならず、人材（社員）の能力開発も担当する。この仕事についての理解を深めていく。

9 仕事研究③
「コンサルティング」

コンサルティングは、企業が外部の頭脳（ノウハウ、知識など）を得たいときに活躍する仕事である。これからは今まで以上に外部環境の変化に応じた企業の対応スピードが求められてくるので、企業内部の人材だけでは対応が困難である。そのため、企業に頭脳を提供するコンサルティングの仕事の重要性が増してくる。この仕事についての理解を深めていく。

10 仕事研究④
「IT」

広い意味での IT（AI、IoT、Siri、数値制御ロボットなどを含む）はこれからの企業や仕事を劇的に変えていくだろう。従来、文系学生は SE しか対応できないと考えられていたが、これからは IT のさまざまな分野で多様な資質を持った人材の活躍が期待される。この仕事についての理解を深めていく。

11 企業人ストーリー①
「新入社員の働き方」

法政大学就業力育成プロジェクトで作成された DVD「ハタラクチカラ」を通じて、新入社員の働き方を知る。グループワークで意見交換し、今から準備しておくべきことを理解する。

12 企業人ストーリー②
「入社 2 年目の働き方」

DVD 教材「ツナゲルチカラ」を活用し、入社 2 年目の社員の仕事ぶりと同考えた新入社員との働き方の違いを考え、その背景や要因についてグループワークでの意見交換を通じて理解を深める。

13 企業人ストーリー③
「転職」

DVD 教材「ヤリヌケチカラ」を活用し、大企業から中小企業に転職するという場面設定のもとで社員が働くこと、仕事を選択することに対する思いやこだわり（価値観、アンカー）についてグループワークでの意見交換を通じて考えていく。

14 自己実現のためのキャリアデザイン戦略

これからの激動の社会を生き抜いていくためには社会に対応していくだけでは不十分である。むしろ、将来の方向性を見据えたうえで、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、仕事が変わっても役に立つスキル（トランスファラブル・スキル）を持続することが大切である。このような基本的考え方を理解しながら、自分自身のキャリアデザイン（自分計画）をグループで話し合い、自分の考えを深めていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等を授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパーが 70 %、期末試験での成績が 30 %という構成とします。リアクション・ペーパーについては、記述内容、論理構成、表現法を重点に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、授業前に「授業支援システム」にアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが望まれます。(必須ではありません) 同じ授業資料は授業中においても教室で投影します。

【Outline and objectives】

In this class, we learn about corporate activities and how to work. We will think about the way of our own career design through this class. Please make a strong effort to produce the remaining time of the university life by yourself making use of what you will learn in this class.

IDN100LA

大学を知ろう <法政学>への招待 2017 年度以降入学者待

高柳 俊男、小林 ふみ子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法文営国環キG 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！ 自分の学ぶ大学や学部がいつ、どのように作られたのか、そこにどんな想いや物語があったのか、知ってみたいことはありませんか？ この授業では、1880（明治 13）年の創立以来 140 年になる本学の長い歴史を振り返るとともに、ほかの授業では触れない校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積や図書館の個人文庫、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、さまざまな角度から法政大学に迫ります。最後には学生たち自身で未来の法政大学を考え、総長に提言する機会も用意しています。授業を通じて、そうした歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。

なお、今年度から科目名を「大学を知ろう <法政学への招待>」に変更しました。

【到達目標】

・法政大学の歴史と現在を、日本近現代史や世界史の流れと関連づけて理解する。
・歴史のなかで培われてきた法政大学らしさ（法政大学憲章に凝縮されている）を考え、それを自分の将来を構想する糧とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式ですが、授業としての統一性を保てるよう、科目責任者 2 名が毎回同席します。そのコーディネートのもと、総長以下、各回のテーマに最適の本学教員等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。

「先輩からのエール」の回では、活躍する本学卒業生をお迎えし、受講者以外にも公開して実施します。

授業内容を確認するクリッカーでの振り返りクイズ、リアクションペーパーに書かれた質問への応答、最終回に予定している学部・学年を超えたグループワークなど、多人数でもできるだけ受講生の皆さんの声を反映した参加型・双方向型授業になるよう、さまざまな仕掛けを用意しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「山の手」の市ヶ谷キャンパス～法政大学と地域社会	ガイダンス：冒頭に略年表を使いながら、この授業全体の目的や構成を一通り説明する。 次いで、次回から学ぶ創立以来の本学の歴史の前提として、市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境について学ぶ。また本学の地域連携活動を紹介し、地域との共生のあり方を探る。 (小倉淳一)
2	近代市民社会の開明とノンエリートの人々～法政大学と日本近現代史①	本学の創立者の一人である青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期の様子を講義する。(浜村彰)
3	ボアソナードと梅謙次郎～法政大学と日本近現代史②	和仏法律学校時代から専門学校令による「法政大学」への改称までの時期を対象に、本学の発展に多大な貢献をしたボアソナードと梅謙次郎について、その功績や人物像を学ぶ。(岡孝)
4	リベラリズムの潮流～法政大学と日本近現代史③	リベラリズムの象徴として、本学で教鞭を執った夏目漱石一門の野上豊一郎・内田百閒らの文学者、三木清・戸坂潤などの哲学者たちを紹介し、その教育の底流にあるものを考える。図書館にある関連の個人文庫についても紹介する。(衣笠正晃)
5	学生生活の今昔	本学の学生生活の今昔を、写真や映像を交えて振り返る。戦時下の学徒出陣についても触れる。(古俣達郎)
6	「よき師よき友つどひ結び」～法政大学の校歌	校歌の成立背景や作詞・作曲者、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながら歌唱指導を受けて、実際に歌えるようにする。(児美川孝一郎)

7	大内総長とその時代～法政大学と日本近現代史④	戦後の法政大学の復興・発展期を担った総長である大内兵衛の功績を学び、大内が提示した教育的理想「われらの願い」を考える。(横内正雄)
8	総長からみなさんへ	法政大学のみならず、東京六大学初の女性総長となった田中優子先生に、大学時代以来のご自身の学びと研究、今後の法政大学の世界との向き合い方、学生の皆さんに期待していること、などについて伺う。(田中優子総長)
9	アジアからみつめる～法政大学と国際社会	本学の国際関係を、20世紀初頭の清国留学生に始まる留学生の受け入れや、歴代総長のアジアとの関わりなど、中国や韓国・朝鮮を中心に概観する。(科目責任者＝高柳俊男)
10	ユニークな研究所	本学に設置されている多数の研究所のうち、他大学では類例のないユニークな研究所であり、その研究実績で世に知られる能楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。3研究所の代表者が、直接講義する。(鈴木玲、中俣均、山中玲子)
11	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑤	本学が大きく変貌することになった1990年代以降の改革と、その時期に市ヶ谷キャンパスにつくられた4つの新学部について、関係する教職員に聞く。
12	「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える	本学の「建学の精神」とされる「自由と進歩」だが、実は建学時からあった言葉ではない。そのような学風がどう形成されたのかをたどりつつ、「法政らしさ」の探究の末に明文化された「法政大学憲章」の文言とともに、本学の学風について検討する。(科目責任者＝小林ふみ子)
13	「先輩からのエール」	社会で活躍する本学卒業生の体験を聞くことを通して、後輩である自分が本学で学ぶことの意義や可能性などについて考える機会とする。
14	まとめのワーク	本年度は、オリンピックのメダリストとして、重量挙げ種目で活躍を続ける三宅宏実さん(キャリアデザイン学部卒)をお招きする予定。 本講義のまとめとして、学部・学年を超えた少人数グループを編成し、「法政大学と自分たちの未来」に関する課題を考えるグループワークを行う。理事の同席のもと、もっとも優れた発表をしたグループに総長賞を授与する。(廣瀬克哉常務理事)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講師は異なりますが、話としてはつながっています。配付資料はしっかり読み込んでファイルするとともに、紹介した参考文献にもなるべく目を通すようにしてください。

授業と関連する特別展示などが学内外で開催される場合には、随時お知らせしますので、足を運んでみましょう。第6回の講義で校歌について学んだら、六大学野球などの観戦にもぜひ行きましょう。

【テキスト（教科書）】

写真も多く、よくまとまっている『法政大学 1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、テキストとして生協で販売しています。毎回持参して授業に臨んでください。そのさらにダイジェスト版は、授業支援システムにもアップする予定です。

別途配付する毎回の資料類も、授業支援システムに載せます。

【参考書】

毎回、適宜お知らせします。

本学の歴史をまとめた書籍には、上述の『法政大学 1880-2000 そのあゆみと展望』のほか、『法政大学参拾年史』『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。図書館などで参照してください。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40 %、テキストおよび授業中の振り返りクイズ等をもとに出題する期末試験 60 %を基準にして、総合的に評価します。

期末試験のうち選択問題については、5割の正答が単位取得の最低ラインです。

【学生の意見等からの気づき】

2011年度から開講された比較的新しい科目ですが、期待通り、法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしていることがわかります。また、興味深い授業となるよう工夫しているさまざまな試みが、受講生にいい刺激になっていることも窺われます。そうした方向性を今年度も、さらに伸ばしていくつもりです。

私語に対する不満や改善要望が、若干寄せられています。ボアソナードが大切にしたい言葉「Ne lésez personne（人[の権利]を害してはならない）」を胸に刻み、私語により退席させられることのないようにしてください。

毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていくよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

上述の通り、授業での配付資料類は後日、授業支援システムを通じても配付します。

【その他の重要事項】

・法政大学に入学したばかりの1年生に、大学の歴史や現状を知り、本学で学ぶことの意味を考える中で新たな学びをスタートさせてほしいと願っており、1年次での履修を推奨します。2年生以上の受講も、もちろん歓迎します。
・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法学の探求 LA・LB」にもチャレンジしてみてください。
・「先輩からのエール」の回でこれまでお招きした卒業生は、以下の方々です(敬称略、肩書は当時)。

- ・2011年度：鈴木直道（夕張市長、全国最年少首長）
 - ・2012年度：温又柔（台湾生まれ、多文化・多言語環境を活かして作家デビュー）
 - ・2013年度：板橋洋佳（朝日新聞記者、大阪地検による証拠改ざんをスクープし、新聞協会賞を受賞）
 - ・2014年：鈴木奈穂子（NHK ニュースのアナウンサー）
 - ・2015年度：大塚朝之（猿田彦珈琲株式会社代表取締役）+ 井崎英典（丸山珈琲、パリスタ世界大会でアジア人として初優勝）
 - ・2016年度：嘉山淳平（横須賀市議）
 - ・2017年度：赤坂優（若き起業家、エウレカ創業）
 - ・2018年度：小川祐（浜松市の地域おこし協力隊員）
- ・「法学への招待」をすでに履修した方は、重複履修できません。

【Outline and objectives】

Welcome to Hosei University! Would you like to know when and how your university and faculty were founded, or what kind of expectations or stories were there at that time?

We will trace the nearly 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes and library collections, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

表 きよし

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることにも留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。

【到達目標】

『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『平家物語』後半の、三つの合戦に関する部分を毎回 1～2 段ずつ取り上げて講義していく。各段で事件・人物がどのように描かれているかを分析しながら内容を理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	『平家物語』の特色	授業の進め方、教科書などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。『平家物語』の特色を説明し、どのような点に留意しながら読んだらよいかを把握してもらう。
②	『平家物語』の内容展開	『平家物語』の最初から最後までの話の展開を説明する。どのような出来事が起きるかを把握しておくことにより、以後の授業に順調に対応できるようにしてもらう。
③	猫間の事・法住寺合戦の事	源義仲が平氏を都から追い出すまでの過程と、都での義仲の評価が下落していく様子を把握し、後白河法皇と対立した義仲が苦境に陥った背景を理解する。
④	木曾の最期の事	義経が都に攻め入ったために追い詰められた義仲が、あえて範頼軍が待ち構える琵琶湖へと向かう様子や、乳母子の今井兼平や愛妾の巴との心のつながりを読み取っていく。
⑤	老馬の事・坂落しの事	平氏が態勢を整えて待つ一の谷へと範頼・義経が向かっていく様子や、義経が坂落しと呼ばれる奇襲戦法を実行していく様子、それにより平氏が大混乱に陥る様子を読み取っていく。
⑥	忠度の最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平忠度を取り上げ、忠度の和歌に対する情熱と勅撰集入集への思い、覚悟を決めて最期を迎える様子などを読み取っていく。
⑦	敦盛最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平敦盛を取り上げ、十七歳の若武者ながら高貴な武士としてのプライドを保つ敦盛の健気さと、敦盛を討った熊谷次郎直実の心の変化を読み取っていく。
⑧	逆櫓の事	四国の屋島へ逃れた平氏を討つために義経が都を出発する様子や、大坂の港での逆櫓設置をめぐる梶原景時との激しい論争、悪天候の中船出を強行する義経の思いを読み取っていく。

⑨	大坂越の事・嗣信最期の事	四国の阿波に上陸した義経が陸路を通過して屋島を急襲する様子や、慌てた平氏が海上へと逃れる様子、海岸での戦いで義経の部下である佐藤嗣信が戦死する様子を読み取っていく。
⑩	那須与一の事	夕刻となって戦いが中断となりそうな時に平氏が扇的の船に立てた理由や、射手に選ばれた那須与一が厳しい状況の中で見事に任務をやり遂げる様子を読み取っていく。
⑪	壇の浦合戦の事・遠矢の事	最後合戦である壇の浦合戦がどのような状況で始まっていくか、合戦を目前にしての義経と梶原景時との対立、平氏のリーダー平宗盛の決断力のない姿などを読み取っていく。
⑫	先帝御入水の事	阿波民部重能の寝返りなどにより平氏の敗戦が決定的になる様子や、平氏の副リーダー平知盛の人々に覚悟を促す行動、先頭を切って安德天皇とともに海中に沈む二位殿の覚悟などを読み取っていく。
⑬	能登殿最期の事	入水したが救出されてしまう建礼門院、覚悟が決まらず生け捕りとなる平宗盛、あくまでも戦おうとする平教経、みんなの最期を見届けて入水する平知盛など、平氏の人々の最期の有様を読み取っていく。
⑭	腰越の事	平氏を滅亡に追い込んだ源義経が、兄の源頼朝との関係が悪化したために鎌倉入りを拒否され、自らの思いを腰越状に認めるがついに許されず、苦境に陥っていく様子を読み取っていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる段には必ず事前に目を通し、どのような内容が書かれているか、わかりにくい部分はないかを確認しておく。授業で取り上げることができない段についてもおおその内容を把握するように心がける。『平家物語』に関する解説書はたくさん出版されているので、それらを読むことで『平家物語』に関する知識を自分でも補強していく。

【テキスト（教科書）】

『角川ソフィア文庫 平家物語 下巻』。佐藤謙三校註。角川学芸出版。1959 年。761 円。

【参考書】

千明守著『平家物語が面白いほどわかる本』中経出版。2004 年。
梶原正昭著『古典講読・平家物語』岩波書店。2014 年。2200 円。1500 円。
日下力『平家物語転読』笠間書院。2006 年。1900 円。
山下宏明『平家物語入門・琵琶法師の「平家」を読む』笠間書院。2012 年。1900 円

【成績評価の方法と基準】

様々な人物の描き方、話の展開の工夫など、『平家物語』の持つ特色が十分に理解できたかどうかを論述式の試験で問う。試験の点数（70 %）と授業への参加態度（30 %）を総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

『平家物語』は登場人物が多彩なため、人物関係の把握が難しい。その点に留意しながら授業を進めていくようにしたい。

【Outline and objectives】

Read the "Heike Monogatari" which is a typical work of Japanese classical literature and consider how Heike clan is being driven to ruin through three battles of Ichinotani battle, Yasima battle and Dannoura battle. We analyze in detail how the activities of the appearing people are depicted and clarify how the author sees the meaning of the battle. While paying attention to the fact that "Heike Monogatari" was spoken, We explore the possibilities of expression by means of words.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

表 きよし

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。

【到達目標】

義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

義経・弁慶の成長過程、二人が出会って主従となる経過、追われる立場となった二人の苦難の様子を、様々な作品を通して読み進め、作品による描かれ方の違いなどを講義していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	義経・弁慶の生涯	この授業の内容や進め方などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。義経・弁慶の生涯を把握することにより、今後の授業に順調に取り組めるようにする。
②	鞍馬寺での義経	生まれた年に平治の乱によって父を失い、母とも引き離されて鞍馬寺の稚児となる義経の様子や、鞍馬山の僧正が谷で平氏を倒すため武術の修業に励む義経の健気な姿を読み取っていく。
③	義経の東国下り	僧になることを嫌って鞍馬寺を脱出した義経が金商人吉次とともに東国へ旅立つ様子や、鏡の宿で盗賊に襲撃されるが戦って見事に退治する義経の活躍ぶりを読み取っていく。
④	伊勢三郎との出会い	関東で自分に冷たい態度をとった人物の家を焼き払う義経の過激な行動や、上野国で伊勢三郎の家に泊めてもらい、義経が優れた人物であることを見抜いた伊勢三郎が義経の家来となる様子を読み取っていく。
⑤	義経と兵法書	奥州平泉に身を落ち着けた義経だが、平氏の情報を入手するため都に舞い戻り、周囲の人々にも助けられながら、鬼一法眼が所持していた兵法書を盗み読む様子を読み取っていく。
⑥	弁慶の誕生と成長	弁慶が生まれた時から人並みはずれた様子だったことや、延暦寺の稚児となっても暴れ回って寺を追放される様子など、弁慶の波乱に富んだ人生の始まりの様子を読み取っていく。
⑦	義経・弁慶の出会い	京都に戻った弁慶と義経の出会いには、千本太刀奪いと千人斬りという二つのパターンがある。それぞれがどのような内容で、どのような特色を持っているのかを読み取っていく。
⑧	義経・弁慶の主従契約	清水寺や五条大橋での戦いにより、義経と弁慶は主従の関係を結んでいく。戦いながらも惹かれあっていく二人の息の合った様子や心の結び付きを読み取っていく。

⑨	頼朝からの刺客	平氏を倒すために大活躍した義経だったが、兄の頼朝との関係が悪化して鎌倉に入れず京都で生活を送る。そんな義経のもとに刺客が送りこまれ、義経がそれを退ける様子を読み取っていく。鎌倉から大軍が京都に向かったため、義経は京都を離れて西国へ向かうことにする。大坂から船出した義経一行が暴風に遭遇して危機に陥る様子を読み取っていく。
⑩	義経・弁慶の都落	義経は潜伏生活にも愛妾の静を伴っていたが、吉野山で泣く泣く別れることになる。吉野山で捕えられて鎌倉へ送られた静の行動を通して、静の性格を読み取っていく。
⑪	静との別れ	吉野山などで潜伏生活を送っていた義経は、山伏姿となって奥州平泉へ向かう。途中あちらこちらで疑われるが、弁慶の機転により危機を乗り越えていく様子を読み取っていく。
⑫	義経・弁慶の北国落	奥州平泉にたどり着いて平穏な日々を送っていた義経だが、良き理解者だった藤原秀衡の死によって追い詰められる。義経を守り抜こうとする弁慶の様子や、義経の最期の有様を読み取っていく。
⑬	義経・弁慶の最期	今までの授業を振り返りながら、義経・弁慶伝説の内容が理解できたか、こうした伝説が生まれた背景を考えることができたか、古典文学作品や古典芸能の面白さを理解できたかを確認する。
⑭	全体のまとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる話について、事前にプリントをよく読んでおおよその内容を把握しておく。源義経に関する書物はたくさん出版されているので、そのうちのいくつかを読み、様々な角度から義経・弁慶の様子を理解できるようにする。

【テキスト（教科書）】

安価で入手できる教科書がないため使用しない。プリントを配布する。

【参考書】

梶原正昭校注『新編日本古典文学全集・義経記』小学館。1999 年。4457 円

【成績評価の方法と基準】

古典文学作品に描かれる義経・弁慶伝説の内容が理解できたか、こうした伝説が生まれた背景を考えることができたか、古典文学作品の面白さを人に伝えられるかを論述式の試験で問う。試験の点数（70 %）と、リアクションペーパーの記述内容など授業への参加態度（30 %）を総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

義経伝説は能や歌舞伎などの古典芸能の題材ともなっており、これらの芸能の作品に関心を持つ学生が多い。適宜、古典芸能の作品にも言及するようにしたい。

【Outline and objectives】

Taking a look at Minamoto Yoshitune and Benkei who gained popularity as a tragic hero in the Middle Ages, they are drawn by classical literary works such as "Heiji Monogatari", "Gikeiki" and "Otogisoushi" and classical performing arts such as Noh and Kabuki Comparing people and their changes, we will clarify how the author tries to express ideal images that people asked through their works. Through these considerations, consider various legends behind the formation of literary works and the role that literary works played in the legendary dissemination.

LIT100LA

日本古典文学 A 2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 I 2016 年度以前入学者

サブタイトル：「物の怪」のいる風景

園 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代の人々にとって、災難が降りかかるのは「物の怪」の仕業と考えられていた。

そのため、たとえば病気になった際には、投薬等の治療よりもまずは物の怪を退散させるための祈禱が行われた。

このような状況は、現代から見ると実に非科学的であるといわれることが多い。しかし、高度に科学が発達した今日においても、完全に解明されていない現象があることや、いわゆる「スピリチュアル」なものに心を引かれる人が増えていることを思うと、必ずしも「物の怪」は非科学的な存在とは言いつくたないものであろう。

この授業では、平安時代の文学作品を通して、現代の我々にも通じる、「物の怪」を「生み出した」人間の心理を考えてみる。

【到達目標】

『大鏡』や『栄花物語』といった歴史物語や、『源氏物語』等の文学作品から、「物の怪」が登場する場面を抜き出して紹介し、当時の人々がどのように物の怪と向き合っていたのかを考察するとともに、現代とは異なる平安時代の習俗等も理解してゆく。

なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

ただし、毎回メッセージが記入できる出席カードを配布し、提示された質問やコメントを次の授業の最初のフィードバックの際に反映することで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	大鏡・栄花物語	藤原元方一権力争いに敗れて
③	大鏡・栄花物語	藤原師輔一憑依体質？ の大臣
④	栄花物語	具平親王一子を思う故に物の怪に
⑤	大鏡・栄花物語	藤原顕光・延子一怨霊となった父と娘
⑥	大鏡	藤原道長一物の怪も寄せつけぬ強運
⑦	大鏡・今昔物語・宇治拾遺物語	陰陽師たちの活躍
⑧	源氏物語	六条御息所の物の怪その一
⑨	源氏物語	六条御息所の物の怪その二
⑩	源氏物語	六条御息所の物の怪その三
⑪	源氏物語	誰が夕顔を殺したの？
⑫	源氏物語	桐壺帝の亡霊
⑬	源氏物語・紫式部集	宇治十帖の物の怪・紫式部の物の怪観
⑭	テスト	テストを実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回新しい記事を紹介するので、事前準備は必要ない。

授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返り、個々に考察を深めるよう努めてほしい。

また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？ を考えてほしい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

なし。（それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に試験を行い、答案内容によって評価する（90％）。

ただし、学生諸君との協議により、レポートによって評価する形にする場合もある。

平常点は最終評価の参考とする（10％）。ただし、特別な理由もなく出席率が60％以下という場合は、評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回コメント欄に記された内容を紹介すること（フィードバック）により、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline and objectives】

This course introduces to "MONONOKE" of the Heian period students taking this course. ("MONONOKE" is something like a ghost, a specter, an evil spirit, a supernatural being, and so on.)

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about "MONONOKE" in the literature of the Heian period.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：平安時代のキサキたち

園 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代は、一般に「雅びな時代」というイメージを持たれがちである。中でも、天皇のキサキとなる女性は、まさに「雅び」の体現者ともいべき存在であろう。

また、厳しい身分制度に縛られた平安時代において、その頂点に君臨する天皇のキサキとりわけ中宮（＝皇后）となることは、女性にとって最高の幸せとも考えられていた。

しかし、キサキたちの実態はというと、必ずしもイメージ通りとはいかない側面が散見するのである。

この授業では、歴史物語というジャンルに属する文学作品を通して、平安時代のキサキたちの「実像」に迫ってみる。

【到達目標】

『大鏡』・『栄花物語』という二つの歴史物語を中心に、平安時代の歴代のキサキたちに関する興味深いエピソードを紹介し、それぞれのキサキの人物像を考えとともに、現代とは異なる平安時代の身分・政治制度等も理解してゆく。なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

毎回、メッセージが記入できる出席カードを配布し、提示された質問やコメントを次回の授業の最初のフィードバックの際に反映することで、理解を含め、視野を広げること役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の進め方と概説
②	大鏡・栄花物語	村上天皇のキサキたちその一・天皇も恐妻家？
③	大鏡・栄花物語	村上天皇のキサキたちその二・中宮亡き後の村上天皇
④	大鏡・栄花物語	円融天皇のキサキたちその一・「家」を背負うキサキたち
⑤	大鏡・栄花物語	円融天皇のキサキたちその二・皇后の座をめぐる争い
⑥	大鏡・栄花物語	円融天皇のキサキたちその三・それぞれのキサキの悲劇
⑦	大鏡・栄花物語	花山天皇のキサキたちその一・移り気な天皇
⑧	大鏡・栄花物語	花山天皇のキサキたちその二・陰謀に利用された（？）純愛
⑨	大鏡・栄花物語	一条天皇のキサキたちその一・政権獲得とキサキの地位
⑩	栄花物語・枕草子	一条天皇キサキたちその二・栄華にかかる暗雲
⑪	大鏡・栄花物語	一条天皇キサキたちその三・実家が凋落した時キサキは？
⑫	大鏡・栄花物語	一条天皇キサキたちその四・キサキたちの光と影
⑬	大鏡・栄花物語	一条天皇キサキたちその五・聡明な中宮
⑭	試験日	試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回新しい記事を紹介するので、事前準備は必要ない。

授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返り、個々に考察を深めるよう努めてほしい。

また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？ を考えてほしい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、授業中にプリントを配布する。

【参考書】

なし。（それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に試験を行い、答案内容によって評価する（90％）。

ただし、学生諸君との協議により、レポートによって評価する形にする場合もある。

平常点は最終評価の参考とする（10％）。ただし、特別な理由もなく出席率が60％以下という場合は、評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回コメント欄に記された内容を紹介すること（フィードバック）により、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline and objectives】

This course introduces to Imperial princesses of the Heian period students taking this course.

By the end of the course, students should be

able to do the following:

・ Understand What Imperial princesses of the Heian period were how to live.

・ Recognize the political system and the class system of the Heian Period.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：初期万葉を読む

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
 法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本最古の歌集、万葉集には 7 世紀半ば～8 世紀半ばの約 100 年間の約 4500 種の歌が収められている。それらは年代、歌風などにより 4 期に分けられるが、この授業では第 1 期、一般に初期万葉いと呼ばれる作品を中心に取り上げる。和歌の創成期の作品から、日本古典文学の根幹というべき和歌の世界を学ぶとともに、当時の歴史の流れにおける歌人たちの息遣いを学んでいきたい。

【到達目標】

和歌という 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取るだけでなく、日本の古代社会の整いつつある激動期に生きた人々の人生に思いをはせ、1300 年ほどの時間差があっても共感できる文学としてのありようを見出していく。

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	万葉集および初期万葉の時代背景、概要
2	額田王を中心に 1	熟田津に～三輪山
3	額田王を中心に 2	茜さす～三山～春秋優劣
4	額田王を中心に 3	鏡女王との関わり
5	近江京への思い	柿本人麻呂と高市黒人
6	天武天皇の子供たち 1	高市皇子、十市皇女
7	天武天皇の子供たち 2	大津皇子と大伯皇女
8	天武天皇の子供たち 3	但馬皇女と穗積皇子
9	天武天皇の子供たち 3	草壁皇子と石川郎女
10	柿本人麻呂の挽歌 1	叙事的挽歌
11	柿本人麻呂の挽歌 1	抒情的挽歌
12	柿本人麻呂の恋の歌	名もなき人々の恋の歌
13	初期万葉とはどのような歌だったか	額田王と弓削皇子
14	テスト	事前発表設問による論述テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

百人一首など、現代の生活の中に残留する和歌という文学ジャンルに目を向ける意識を持ってほしい。飛鳥時代から奈良時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。

【テキスト（教科書）】

講談社文庫「万葉集（一）」中西進 全訳注 690 円

【参考書】

講談社文庫「万葉集（二）～（四）」中西進 全訳注
 角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 万葉集」
 角川ソフィア文庫「万葉集一～四」伊藤博 全訳注
 高校時代の日本史の年表
 その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に、事前に発表した選択問題についての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ 100%。

評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的に論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
 ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。授業の回をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
 また、大人数の授業の場合、なかなかディスカッションとはいかないかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline and objectives】

The oldest song collection in Japan, Manyōshū contains about 4,500 songs in about 100 years in the mid-7th and mid-8th centuries. They can be divided into four periods by age, singing style, etc. In this lesson, we will pick up the first phase, the work which is commonly touched by the early Manyō. I would like to learn the world of Japanese poetry called the foundation of Japanese classical literature from the work of the period of Waka's creation, and learn the breathing of the poets in the history of the history.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：万葉集後期の作品を読む

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
 法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本最古の歌集、万葉集には 7 世紀半ば～8 世紀半ばの約 100 年間の約 4500 種の歌が収められている。それらは年代、歌風などにより 4 期に分けられるが、この授業では第 3 期第 4 期の、大伴氏を中心とした歌人たちの作品を読んでいく。

律令制度が整っていく中、官人として生きる男性たちと、その周辺の女性たちの思いを歌たちから読み取っていく。

【到達目標】

古代社会が整備されていく中で官人として生きていくことになる万葉後期の男性歌人たちは、現代社会に生きる社会人に通じるものがある。また女性たちの、社会的制約の中で恋し家族を守ろうとする思いもまた、同様であろう。1300 年ほどの時代を超えて共感できる歌に込められた思いを読み取り、歌、韻文という文学形態がもつ力を感じ取れるようになりたい。

古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、韻文である歌の世界を理解し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解についてのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・背景の説明	作品理解のための時代・制度等の背景説明
第 2 回	亡妻挽歌の比較 1	人麻呂から、旅人と憶良
第 3 回	亡妻挽歌の比較 2	旅人と憶良から家持
第 4 回	律令官人の歌	儀式としての梅花の宴と自負心の建前
第 5 回	大伴旅人	老いへの思いと望郷歌
第 6 回	大伴旅人	讃酒歌の無常観
第 7 回	大伴旅人	フィクションへのまなざし
第 8 回	大伴坂上郎女の歌 1	媚態する女歌
第 9 回	大伴坂上郎女の歌	家を守る恋歌 代作の恋歌
第 10 回	笠郎女	餓鬼の後に額づく思い
第 11 回	古伝承へのアプローチ	高橋虫麻呂と家持
第 12 回	万葉集の到達点	大伴家持の春愁歌
第 13 回	まとめ	万葉集から平安文学へ
第 14 回	レポート提出	レポートの形式等確認指導とレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

百人一首など、現代の生活の中に残留する和歌という文学ジャンルに目を向ける意識を持つてほしい。飛鳥時代から奈良時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。

【テキスト（教科書）】

講談社文庫「万葉集（一）」中西進 全訳注

【参考書】

講談社文庫「万葉集（二）～（四）」中西進 全訳注
 角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 万葉集」
 角川ソフィア文庫「万葉集一～四」伊藤博 全訳注
 高校時代の日本史の年表
 その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート。テーマは万葉集の和歌、歌人、ことばの表現などについて 4000 字相当。これがほぼ評価の 100%。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。

また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。

また、大人数の授業の場合、ディスカッションは難しいかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline and objectives】

The oldest song collection in Japan, Manyoshu contains about 4,500 songs in about 100 years in the mid-7th and mid-8th centuries. They can be divided into four periods by age, singing style, etc. In this lesson, we will read the works of poets mainly by Mr. Otomo in the third phase of the fourth term.

As the regulation system is in place, we will read the thoughts of men living as officers and women around them from songs.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：初期万葉を読む

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本最古の歌集、万葉集には 7 世紀半ば～8 世紀半ばの約 100 年間の約 4500 種の歌が収められている。それらは年代、歌風などにより 4 期に分けられるが、この授業では第 1 期、一般に初期万葉いと呼ばれる作品を中心に取り上げる。和歌の創成期の作品から、日本古典文学の根幹というべき和歌の世界を学ぶとともに、当時の歴史の流れにおける歌人たちの息遣いを学んでいきたい。

【到達目標】

和歌という 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取るだけでなく、日本の古代社会の整いつつある激動期に生きた人々の人生に思いをはせ、1300 年ほどの時間差があっても共感できる文学としてのありようを見出していく。

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	万葉集および初期万葉の時代背景、概要
2	額田王を中心に 1	熟田津に～三輪山
3	額田王を中心に 2	茜さす～三山～春秋優劣
4	額田王を中心に 3	鏡女王との関わり
5	近江京への思い	柿本人麻呂と高市黒人
6	天武天皇の子供たち 1	高市皇子、十市皇女
7	天武天皇の子供たち 2	大津皇子と大伯皇女
8	天武天皇の子供たち 3	但馬皇女と穗積皇子
9	天武天皇の子供たち 3	草壁皇子と石川郎女
10	柿本人麻呂の挽歌 1	叙事的挽歌
11	柿本人麻呂の挽歌 1	抒情的挽歌
12	柿本人麻呂の恋の歌	名もなき人々の恋の歌
13	初期万葉とはどのような歌だったか	額田王と弓削皇子
14	テスト	事前発表設問による論述テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

百人一首など、現代の生活の中に残留する和歌という文学ジャンルに目を向ける意識を持ってほしい。飛鳥時代から奈良時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。

【テキスト（教科書）】

講談社文庫「万葉集（一）」中西進 全訳注 690 円

【参考書】

講談社文庫「万葉集（二）～（四）」中西進 全訳注
角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 万葉集」
角川ソフィア文庫「万葉集一～四」伊藤博 全訳注
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に、事前に発表した選択問題についての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ 100%。

評価のポイントは、設定された問題テーマについて自分なりに考察し、それが論理的に論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。授業の回をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、大人数の授業の場合、なかなかディスカッションとはいかないかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline and objectives】

The oldest song collection in Japan, Manyōshū contains about 4,500 songs in about 100 years in the mid-7th and mid-8th centuries. They can be divided into four periods by age, singing style, etc. In this lesson, we will pick up the first phase, the work which is commonly touched by the early Manyō. I would like to learn the world of Japanese poetry called the foundation of Japanese classical literature from the work of the period of Waka's creation, and learn the breathing of the poets in the history of the history.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：万葉集後期の作品を読む

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
 法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本最古の歌集、万葉集には 7 世紀半ば～8 世紀半ばの約 100 年間の約 4500 種の歌が収められている。それらは年代、歌風などにより 4 期に分けられるが、この授業では第 3 期第 4 期の、大伴氏を中心とした歌人たちの作品を読んでいく。

律令制度が整っていく中、官人として生きる男性たちと、その周辺の女性たちの思いを歌たちから読み取っていく。

【到達目標】

古代社会が整備されていく中で官人として生きていくことになる万葉後期の男性歌人たちは、現代社会に生きる社会人に通じるものがある。また女性たちの、社会的制約の中で恋し家族を守ろうとする思いもまた、同様であろう。1300 年ほどの時代を超えて共感できる歌に込められた思いを読み取り、歌、韻文という文学形態がもつ力を感じ取れるようになりたい。

古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、韻文である歌の世界を理解し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・背景の説明	作品理解のための時代・制度等の背景説明
第 2 回	亡妻挽歌の比較 1	人麻呂から、旅人と憶良
第 3 回	亡妻挽歌の比較 2	旅人と憶良から家持
第 4 回	律令官人の歌	儀式としての梅花の宴と自負心の建前
第 5 回	大伴旅人	老いへの思いと望郷歌
第 6 回	大伴旅人	讃酒歌の無常観
第 7 回	大伴旅人	フィクションへのまなざし
第 8 回	大伴坂上郎女の歌 1	媚態する女歌
第 9 回	大伴坂上郎女の歌	家を守る恋歌 代作の恋歌
第 10 回	笠郎女	餓鬼の後に額づく思い
第 11 回	古伝承へのアプローチ	高橋虫麻呂と家持
第 12 回	万葉集の到達点	大伴家持の春愁歌
第 13 回	まとめ	万葉集から平安文学へ
第 14 回	レポート提出	レポート形式等指導とレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

百人一首など、現代の生活の中に残留する和歌という文学ジャンルに目を向ける意識を持つてほしい。飛鳥時代から奈良時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。

【テキスト（教科書）】

講談社文庫「万葉集（一）」中西進 全訳注

【参考書】

講談社文庫「万葉集（二）～（四）」中西進 全訳注

角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 万葉集」

角川ソフィア文庫「万葉集一～四」伊藤博 全訳注

高校時代の日本史の年表

その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末のレポート。テーマは万葉集の和歌、歌人、ことばの表現などについて 4000 字相当。これがほぼ評価の 100%。作品を踏まえての読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。

また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。

また、大人数の授業の場合、ディスカッションは難しいかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline and objectives】

The oldest song collection in Japan, Manyoshu contains about 4,500 songs in about 100 years in the mid-7th and mid-8th centuries. They can be divided into four periods by age, singing style, etc. In this lesson, we will read the works of poets mainly by Mr. Otomo in the third phase of the fourth term.

As the regulation system is in place, we will read the thoughts of men living as officers and women around them from songs.

LIT100LA

日本近・現代文学 A

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：日本近現代文学の問題作を読む

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日本近・現代文学の問題作を読む】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき 3 回程度の授業で進行します。

【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
 - ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
 - ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
- 作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかかわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。
春学期の「日本近・現代文学 A」では明治期の文学を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

人数によっては発言を求めることもあります。

いずれにしてもテキストは必ず事前に読んでくこと、テキストは毎回持参することを求めます。テキストを読んでこない人、持参しない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでもかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画および予備知識の説明。
2	「日本近代文学」の始まり ：「日本」	『浮雲』
3	「日本近代文学」の始まり ：「近代」	『浮雲』
4	「日本近代文学」の始まり ：「文学」	『浮雲』
5	浪漫主義とはなにか	『たけくらべ』
6	大人の世界の影／背後からの監視	『たけくらべ』
7	テキストの空白について	『たけくらべ』
8	部落差別に関する予備知識そのほか	『破戒』
9	自然主義とはなにか	『破戒』
10	作者の意図と表現について	『破戒』
11	夏目漱石について	『ころも』
12	テキスト論について	『ころも』
13	「私」とはだれか	『ころも』
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これができない人には単位を認定しません。

【テキスト（教科書）】

二葉亭四迷『浮雲』新潮文庫ほか
樋口一葉『にぎりえ・たけくらべ』岩波文庫
島崎藤村『破戒』新潮文庫ほか
夏目漱石『ころも』新潮文庫ほか

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常点20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。

【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

日本近・現代文学B

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：日本近現代文学の問題作を読む

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【日本近・現代文学の問題作を読む】**

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
 一作品につき3回程度の授業で進行します。

【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
 - ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
 - ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
- 作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかかわるかを問うてきました。
 わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。
 秋学期の「日本近・現代文学B」では大正期、昭和期の作品を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

人数によっては発言を求めることもあります。

いずれにしてもテキストは必ず事前に読んでくること、テキストは毎回持参することを求めます。テキストを読んでこない人、持参しない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでもかまいません（ただし『たけくらべ』は集英社文庫版は避けてください）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画および予備知識の説明。
2	自然主義から私小説へ	『子をつれて』
3	やっかいな〈わたし〉	『子をつれて』
4	私小説の意義とはなにか	『子をつれて』
5	芥川龍之介について	『歯車』
6	文学と狂気について	『歯車』
7	芥川龍之介のたたかいとはなにか	『歯車』
8	戦前、戦中、戦後	『人間失格』
9	芥川龍之介と太宰治	『人間失格』
10	敗者の真実	『人間失格』
11	作品の時代背景——禁教の時代と第二次大戦後	『沈黙』
12	神の暴力について	『沈黙』
13	日向のにおい	『沈黙』
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これができない人には単位を認定しません。

【テキスト（教科書）】

葛西善蔵『哀しき父 椎の若葉』講談社文芸文庫
 芥川龍之介『歯車他二篇』岩波文庫
 太宰治『人間失格』新潮文庫ほか
 遠藤周作『沈黙』新潮文庫

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常点20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。

【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

日本近・現代文学A

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：日本近現代文学の問題作を読む

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日本近・現代文学の問題作を読む】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき3回程度の授業で進行します。

【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
 - ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
 - ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
- 作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかかわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。
春学期の「日本近・現代文学A」では明治期の文学を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

人数によっては発言を求めることもあります。

いずれにしてもテキストは必ず事前に読んでくること、テキストは毎回持参することを求めます。テキストを読んでこない人、持参しない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでもかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画および予備知識の説明。
2	「日本近代文学」の始まり ：「日本」	『浮雲』
3	「日本近代文学」の始まり ：「近代」	『浮雲』
4	「日本近代文学」の始まり ：「文学」	『浮雲』
5	浪漫主義とはなにか	『たけくらべ』
6	大人の世界の影／背後からの監視	『たけくらべ』
7	テキストの空白について	『たけくらべ』
8	部落差別に関する予備知識そのほか	『破戒』
9	自然主義とはなにか	『破戒』
10	作者の意図と表現について	『破戒』
11	夏目漱石について	『ころも』
12	テキスト論について	『ころも』
13	「私」とはだれか	『ころも』
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これができない人には単位を認定しません。

【テキスト（教科書）】

二葉亭四迷『浮雲』新潮文庫ほか
樋口一葉『にぎりえ・たけくらべ』岩波文庫
島崎藤村『破戒』新潮文庫ほか
夏目漱石『ころも』新潮文庫ほか

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常点20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。

【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

日本近・現代文学B

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：日本近現代文学の問題作を読む

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日本近・現代文学の問題作を読む】

近現代日本文学の名作・問題作の読解に挑戦しましょう。
一作品につき3回程度の授業で進行します。

【到達目標】

教養の授業ということで、目標を以下のように設定します。

- ・近現代日本文学になじむこと。
 - ・新たな作品の姿、新たな読解方法を提示すること。
 - ・近現代日本文学に対するより深い理解を涵養すること。
- 作家たちは文学を通じて、人間はいかに生きるか、他者・社会といかにかかわるかを問うてきました。
わたしたちはこれらの作品を読みながら、現在を生きるわたしたち自身とわたしたちにかかわる問題について新たな視点を得たいと思います。
秋学期の「日本近・現代文学B」では大正期、昭和期の作品を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

人数によっては発言を求めることもあります。

いずれにしてもテキストは必ず事前に読んでくること、テキストは毎回持参することを求めます。テキストを読んでこない人、持参しない人は受講しないでください。

以下にテキストを示しますが、扱う作品が収録されているなら別の版でもかまいませんし、インターネット「青空文庫」にアップされている作品はそこからダウンロードしたものでもかまいません（ただし『たけくらべ』は集英社文庫版は避けてください）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画および予備知識の説明。
2	自然主義から私小説へ	『子をつれて』
3	やっかいな〈わたし〉	『子をつれて』
4	私小説の意義とはなにか	『子をつれて』
5	芥川龍之介について	『歯車』
6	文学と狂気について	『歯車』
7	芥川龍之介のたたかいとはなにか	『歯車』
8	戦前、戦中、戦後	『人間失格』
9	芥川龍之介と太宰治	『人間失格』
10	敗者の真実	『人間失格』
11	作品の時代背景——禁教の時代と第二次大戦後	『沈黙』
12	神の暴力について	『沈黙』
13	日向のにおい	『沈黙』
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これができない人には単位を認定しません。

【テキスト（教科書）】

葛西善蔵『哀しき父 椎の若葉』講談社文芸文庫
芥川龍之介『歯車他二篇』岩波文庫
太宰治『人間失格』新潮文庫ほか
遠藤周作『沈黙』新潮文庫

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み不可の期末試験（筆記）80%、平常点20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語は解説し、わかりやすい授業を心がけています。

【その他の重要事項】

春学期の明治と、秋学期の大正～昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese modern literature.

LIT100LA

日本文学 A

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：日本文学史

島田 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「現代国語」を越え、文学作品を能動的かつ創造的に読む。主に日本の近現代小説に秘められた欲望を掘り起こす。多様な作品解釈に向けて、誤読の自由も行使する。神話、日本語、カネ、恋愛、戦争、テクノロジーなどのテーマに基づき、漱石、一葉、谷崎、戦後文学などを読み解く。

【到達目標】

日本近代文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテクストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式でしゃべり倒すが、出席者からの質問、意見を交えた対話形式も面白からう。講義を楽しむためには指定通りに作品を読んでくることが望ましく、また多くの質問が飛び交えば、講義は盛り上がるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文学とはどんな営みか？	神話と文学をつなぐもの
2	日本語とはどういう言語か？	魅惑の日本古典
3	お金の話 漱石を読む 1	コトバカカネか？
4	写生文について 漱石を読む 2	明治の散文理論 描写について
5	樋口一葉を読む	少女文学の元祖 言文一致とは別の散文のあり方
6	快楽の活用 谷崎論	官能の哲学 もてない男の栄光
7	性的人間	さまざまな愛の形 同性愛 ロリコン フェティッシュ
8	日本論と日本人論	「武士道」、「日本風景論」、「茶の本」を読む。
9	戦争に負けるということ	敗戦と焼跡の想像力 大衆天皇論
10	戦後の文学	戦争文学 占領文学 坂口安吾の認識
11	小説と“場所”	上京小説 よそ者の視点
12	テクノロジーと文学	出版の歴史
13	現代文学と世相	近頃巷で流行るもの 経済と文学
14	授業内試験	テーマに基づく自由記述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。

【テキスト（教科書）】

『小説作法 ABC』島田雅彦著 新潮選書 2009

『深読み日本文学』島田雅彦著 集英社インターナショナル新書 2017

【参考書】

『必読 150』太田出版

それ以外は随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への参加も平常点として評価されよう。評価基準は筆記試験 80 %、平常点 20 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

私語は質問、意見のみ許す。遅刻は授業開始後 10 分まで。

【Outline and objectives】

Beyond the "Gendai kokugo(contemporary Japanese)" we read literary works actively and creatively. We primarily focus to discover the hidden desires in Japanese contemporary novels. We also exercise freedom of misreading for interpretation of various works. Based on themes such as myths, languages money, romance, war, technology, we will read about Soseki, Ichiba, Tanizaki, postwar literature etc.

LIT100LA	
日本文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：世界文学史	
島田 雅彦	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「世界文学」のエポックメイキングな作品を能動的かつ創造的に読む。神話、言語、恋愛、交易、テクノロジーなどのテーマに基づき、履修者諸君には主に日本で広く、長く読まれて来た西洋古典の必読書と向き合い、世界史の中の文学の役割を認識してもらう。

【到達目標】

世界文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテクストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式を取るが、出席者からの質問、意見を交えた対話形式も面白からう。講義を楽しむためには指定通りに作品を読んでくれることが望ましく、また多くの質問が飛び交えば、講義は盛り上がるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夢見る力	神話の時代 口承文学
2	古代の英雄	「オイディプス王」を読む
3	モーゼと一神教	政治、宗教というフィクション
4	恋愛の誕生	『神曲』を読む
5	ドン・ファンと光源氏	女たらし東西比較
6	グーテンベルク以後	出版文化の萌芽 大量複製時代
7	大航海時代	転換期の知性 交易と文学
8	宣教と棄教	East Meets West 日本におけるキリスト教布教の歴史
9	対話について	ドストエフスキー論
10	パロディ文学論	ジョイスとナボコフ 現代亡命文学事情
11	映画と文学	小説から劇映画へ 映像化された古典
12	テクノロジーと文学	人とモノ 我々は皆古代人である。
13	政治と文学	物語と歴史のはざま ナショナリズムというフィクション
14	授業内試験	テーマに基づく自由記述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予告した本を読んで授業に臨めば、3 倍楽しめる。また質問を用意してくると、実質個別指導を得られる。

【テキスト（教科書）】

『小説作法 ABC』島田雅彦著 新潮選書 2009

【参考書】

『深読み日本文学』島田雅彦著 集英社インターナショナル新書 2017

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は筆記試験 80 %、平常点 20 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

私語は質問、意見のみ許す。遅刻は授業開始後 10 分まで。

【Outline and objectives】

Active and creative reading of epoch-making works of "World Literature". Based on themes such as myths, languages, romance, trade, technology, etc., Students face the must-read books of the Western classics, which have been read widely in Japan recognizing the role of literature in world history.

LIT100LA	
日本文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：	
村山 龍	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学テキストは人の手によって編まれた〈コトバ〉の集積体である。日本語という〈コトバ〉を用いて何が語られているのか、さらになぜその〈コトバ〉が用いられているのか、私たちが当たり前のこととして見過ごしているところに実は大きな意味が隠されていることもある。話者の態度や社会通念などさまざまなものが〈コトバ〉の意味を操作し、構築し、連関を紡いでいるのだ。本講義ではこうした問題意識をもとに、日本近代文学の分析を通じて〈コトバ〉というものの働きを学んでいく。

【到達目標】

・明治以後の日本近代文学のテキストを用いて、社会と人間と文学の関わりを説明することができる。
・文学テキストが娯楽であると同時に、高度な学問の対象でもあることを理解し、多角的に物ごとをとらえ、思考する力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業の終了時にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業に関する説明など
第 2 回	国語と日本語と母語	総説
第 3 回	内面記述の方法として①	日本近代文学はいかにしてはじまったか 二葉亭四迷「浮雲」
第 4 回	内面記述の方法として②	森鴎外「舞姫」
第 5 回	内面記述の方法として③	ジェンダーと言葉の関係
第 6 回	男らしさと女らしさ①	夏目漱石「三四郎」
第 7 回	男らしさと女らしさ②	太宰治の女性独白体① 1930 年代の綴方教育
第 8 回	男らしさと女らしさ③	太宰治の女性独白体②「千代女」と「女生徒」
第 9 回	男らしさと女らしさ④	概説
第 10 回	文学のなかの方言①	井伏鱒二と宮沢賢治の試み
第 11 回	文学のなかの方言②	谷川俊太郎の言語観
第 12 回	言葉と〈コトバ〉①	近代詩における異化作用
第 13 回	言葉と〈コトバ〉②	これまでの講義を振り返る
第 14 回	試験、まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示したテキストがある場合は、それを読んでから授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。
小説作品については授業支援システムで基本的には配布するが、夏目漱石『三四郎』（各社文庫）はそれぞれ購入し、通読しておくこと。

【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業中に課すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（出席等）：30 %
・授業内試験：70 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートは概ね好評であった。ただ、そのなかで、文学批評に関する用語（パラダイムやアンビバレンツなど）が難しいとの意見もあった。できる限り説明を加えていきたいと思うが、そうした語句については『読解を深める 現代文単語〈評論・小説〉改訂版』（桐原書店、2018）などでも学ぶことができるので、ぜひ役立ててほしい。

【Outline and objectives】

Literary texts are collections of "words" knitted by human hands. In fact the great meaning is actually hidden in what we are missing as to what it is told by using the Japanese "words" and why those "words" are used. Sometimes, Various things such as the attitude of the speaker and social wisdom operate the meaning of "words", build it, and spin the linkage. Based on these problem consciousness, this lecture will learn the work of "words" through analysis of modern Japanese literature.

LIT100LA

日本文学 B

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：日本近・現代文学の多様性

村山 龍

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで学問は人文科学分野と自然科学分野とに大別され、それぞれで極めて精緻な研究が行われてきた。日本近代文学も「〈日本〉の〈近代〉の文学」という枠組みがあり、そのなかでさらに細分化されて研究が進められている。しかし、現在、狭い枠組みにとらわれず、いくつもの他領域を横断することによって新しい知見が生み出されるようになっている。そこで本講義では文学テクストを通じて様々な問題系へと認識を広げることが目的とする。

【到達目標】

- ・文学テクストをただ読むのではなく、解釈に通じる深い読解をするための知識を身につけることができる。
- ・具体的な文学テクストの精読を通じて、多様な問題を考える柔軟な思考を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業の終了時にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後の授業に関する説明など
第 2 回	テクスト分析の方法論①	文学テクストはどう読むかを学ぶ
第 3 回	テクスト分析の方法論②	芥川龍之介「羅生門」読解
第 4 回	テクスト分析の方法論③	志賀直哉「小僧の神様」読解
第 5 回	語りと内容の分析①	夢野久作「瓶詰の地獄」①ワークシート
第 6 回	語りと内容の分析②	夢野久作「瓶詰の地獄」②グループディスカッションと解説
第 7 回	明治期のイエ制度①	夏目漱石「それから」①概説
第 8 回	明治期のイエ制度②	夏目漱石「それから」②
第 9 回	経済を描く①	横光利一「家族会議」①概説
第 10 回	経済を描く②	横光利一「家族会議」②読解
第 11 回	政治と文学①	目取真俊「水滴」ワークシートと読解
第 12 回	政治と文学②	目取真俊「魚群記」ワークシートと読解
第 13 回	宗教性を問う	宮澤賢治「ひかりの素足」読解
第 14 回	試験、まとめ	これまでの講義を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指示したテクストがある場合は、それを読んでから授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

授業内で取り扱う小説については、基本的に授業支援システムを用いて読むことができるようにするが、次の 2 冊は購入して読んでおくこと。

①夏目漱石『それから』（各社文庫）

②横光利一「家族会議」（講談社文芸文庫、2000、¥1,242-（ただし Kindle 版））

【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業中に貸すコメントペーパーを含む授業への積極的な貢献度（平常点）：30 %

・授業内試験：70 %

以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアナケートを見ると、グループディスカッションが好評であったので、今年度も実施する。授業内ワークやグループディスカッションは苦手な学生でも参加しやすいように準備する予定である。

【Outline and objectives】

Currently, academic disciplines are roughly divided into humanities and natural sciences. And very sophisticated research has been done in each of them. Modern Japanese literature also has a framework called "Literature" of "Modern" in "Japan", and further research has been undertaken with further refinement. However, at present, new knowledge is created by traversing several other areas without being restricted by a narrow framework. Therefore, this lecture aims to expand recognition to various problem systems through literary texts.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「旅」

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシャ神話『オデュッセイア』から、スウィフト『ガリヴァー旅行記』、モンテーニュ『エッセー』、アイヒェンドルフ『愉しき放浪記』など、旅と文学との関係は世界文学を貫く重要な題材の一つである。

春学期の授業では様々な文学形式（英雄叙事詩、日記、エッセー、風刺小説、教養小説等）における旅の系譜について考えます。

【到達目標】

- 。文学の題材と形式の関係を知ること。
- 。「旅」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- 。異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

入門的な講義、テキスト購読（和訳）、全員での討議によって授業を構成する。補足的に様々なメディアを鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	。授業の内容と進め方の説明
第 2 回	ヨーロッパ文学と「旅」概論（1）	。『オデュッセイア』からロードムービーへ
第 3 回	ヨーロッパ文学と「旅」概論（2）	。課題、ディスカッション
第 4 回	『オデュッセイア』精読（1）	。第一歌（テレマコスとメンテス）
第 5 回	『オデュッセイア』精読（2）	。課題、ディスカッション
第 6 回	『オデュッセイア』精読（3）	。第十一歌（ハデス）
第 7 回	『オデュッセイア』精読（4）	。課題、ディスカッション
第 8 回	冥界への旅（1）	。『オルベウスとエウリュディケ』読解
第 9 回	冥界への旅（2）	。課題、ディスカッション
第 10 回	夢幻旅行と風刺（1）	。スウィフト『ガリヴァー旅行記』読解
第 11 回	夢幻旅行と風刺（2）	。ビュルガー『ほらふき男爵の冒険』との比較
第 12 回	教養小説と「旅」（1）	。課題、ディスカッション
第 13 回	教養小説と「旅」（2）	。ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』読解
第 14 回	授業内試験	。W. ヴェンダース『まわり道』との比較 筆記試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

ホメロス『オデュッセイア』

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出も含む）：50%

学期末試験：50%

受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業中にスマホ操作不可。

【Outline and objectives】

From ancient Greek mythology *Odyssey*, to Swift's *Gulliver's travels*, Montaigne's *Essays*, until Eichendorf's *Memoirs of a Good-for-Nothing*, the relationship between travel and literature is one of the important theme of world literature.

In this course we will investigate various forms of travel literature including epic poem, diary, essay, satire, novel of formation etc.

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「変身」

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多く読者を惹き付けてやまない。

この授業はヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

【到達目標】

- 今日の視点から「変身」の意義を捉え直すこと。
- 「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- 異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

出席者との対話も取り入れながら進めていくので授業中に取り上げる作品はあらかじめ読んでおくこと。メディア比較のために、絵、写真、映画のシーンも時々鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	- 授業の内容と進め方の説明 - 諸芸術モチーフとしての変身について
第 2 回	神話と変身 (1)	オウィディウス『変身物語』読解 [1]
第 3 回	神話と変身 (2)	オウィディウス『変身物語』読解 [2]
第 4 回	メルヘンと変身 (1)	課題、ディスカッション
第 5 回	メルヘンと変身 (2)	- グリム『十二人の兄弟』読解 - グリム『七羽のカラス』読解 - 課題、ディスカッション
第 6 回	19/20 世紀文学と変身 (1)	フーケ『ウンディーネ』読解 [1]
第 7 回	19/20 世紀文学と変身 (2)	- フーケ『ウンディーネ』読解 [2] - 課題、ディスカッション
第 8 回	19/20 世紀文学と変身 (3)	プロイスラー『クラバート』読解 [1]
第 9 回	19/20 世紀文学と変身 (4)	- プロイスラー『クラバート』読解 [2] - 課題、ディスカッション
第 10 回	変身物語と映画 (1)	- ステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解 [1] - 映画との比較
第 11 回	変身物語と映画 (2)	- ステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解 [2] - 諸映画との比較
第 12 回	変身物語と映画 (3)	- 課題、ディスカッション - カフカ『変身』読解 [1]
第 13 回	変身物語と映画 (4)	- 諸映画、コミック等との比較 - カフカ『変身』読解 [2] - 諸映画、コミック等との比較 - 課題、ディスカッション
第 14 回	授業内試験	筆記試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳本（指定テキスト）を各自で購入し、授業の前に該当箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

オウィディウス『変身物語』

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出も含む）：50%

学期末試験：50%

受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業中にスマホ操作不可。

【Outline and objectives】

Literary works exploring the theme of transformation, from Ovid's *Metamorphoses* to Kafka's *Metamorphosis* until Stevenson's *Dr. Jekyll and Mr. Hyde*, are still attracting a lot of readers.

This class discusses this theme from a comparative point of view, taking several examples from different eras and different languages.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バカロレアとフランス文学

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス文学の読み方を基礎から学びたい学生を対象とします。作品は日本語で読みます。

フランスのバカロレアの国語試験を切り口とし、一年間で筆記試験の 4 種類の課題、および口述試験の内容と解き方を理解します。春学期は「テキスト解釈」を学び、関連する文学作品を読んでいきます。

【到達目標】

・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。

・大学入試における記述式問題／口述試験について、フランスの事例を理解する。

・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心です。指示した文章（リアクションペーパー、コメントなど）を授業内に書いてもらうこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要説明
2	ヴォルテール『カンディッド』	テキスト解釈概要
3	ヴォルテール『カンディッド』	作家と作品
4	ヴォルテール『カンディッド』	テキスト解釈
5	ラ・ブリュイエール『クラクテル』	作家と作品
6	ラ・ブリュイエール『クラクテル』	テキスト解釈
7	ラ・ブリュイエール『クラクテル』	テキスト解釈
8	ラ・フォンテーヌ『寓話』	バカロレア口述試験解説
9	ラ・フォンテーヌ『寓話』	作家と作品
10	ラ・フォンテーヌ『寓話』	テキスト解釈
11	エミール・ゾラ追悼演説	2016 年バカロレア筆記試験（テキスト解釈）解説
12	エミール・ゾラ追悼演説	作家と作品
13	エミール・ゾラ追悼演説	テキスト解釈
		期末試験説明
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で言及された文学作品を読む（授業内に指示）。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度を把握しながら、より分かりやすい説明を心がけます。

【Outline and objectives】

An introduction to French literature and a literary analysis.

LIT100LA	
外国文学 B	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 II	2016 年度以前入学者
サブタイトル：バカロレアとフランス文学	
近江屋 志穂	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス文学の読み方を基礎から学びたい学生を対象とします。作品は日本語で読みます。

フランスのバカロレアの国語試験を切り口とし、一年間で筆記試験の 4 種類の課題、および口述試験の内容と解き方を理解します。秋学期は「総括」「小論文」「創作作文」を学び、関連する文学作品を読んでいきます。

【到達目標】

- ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・大学入試における記述式問題／口述試験について、フランスの事例を理解する。
- ・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心です。指示した文章（リアクションペーパー、コメントなど）を授業内に書いてもらうこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期授業内容総括、および秋学期授業内容概説
2	モーパッサン『田園』	作家と作品
3	モーパッサン『田園』	小論文の書き方解説
4	モーパッサン『ベッドのそばで』	小論文
5	モーパッサン『ベッドのそばで』	2016 年度バカロレア問題（小論文）解説
6	ゾラ『貧しい娘たちは何を夢見るのか』	作家と作品
7	ゾラ『貧しい娘たちは何を夢見るのか』	創作作文の書き方解説
8	ゾラ『貧しい娘たちは何を夢見るのか』	2016 年度バカロレア問題（創作作文）解説
9	ゾラ『ジュルミナル』	DVD 視聴
10	2018 年度の本講義期末試験問題（ヴィクトル・ユゴー、カミュ）	総括の文章の書き方解説
11	2016 年度バカロレア筆記試験（総括）問題	総括の文章の書き方解説
12	練習問題	総括の文章の練習 秋学期筆記試験説明
13	バカロレアの筆記試験／口述試験の評価について	テーマに基づく講義
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で言及された文学作品を読む（授業内に指示）。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度を把握しながら、より分かりやすい説明を心がけます。

【Outline and objectives】

An introduction to French literature and a literary analysis.

LIT100LA	
外国文学 A	2017 年度以降入学者
LIT100LA	
文学 I	2016 年度以前入学者
サブタイトル：中国古典に親しむ	
吉井 涼子	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代のものから唐詩までを主な対象とし、詩人のエピソードや時代背景・文化などと関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひろく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

【到達目標】

これから先中国古典詩に興味を持った際に、使うべき字書や辞書がわかるようになる。漢詩を鑑賞するために必要な知識とスキルを習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持ってしまいがちだが、実はコツを掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、原文を訓読で読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。授業は春秋から唐代まで、時代順に進める。授業の終わりには毎回リアクションペーパーを提出していただき、学生の興味の方向性と積極性を見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 中国とは	授業内容の説明と、導入部として中国の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第 2 回	『詩経』を読む	現存最古の中国の詩集『詩経』について解説し、実際に数首を読む。
第 3 回	『楚辞』を読む	中国の南方歌謡として知られる『楚辞』について知り、「離騷」などを読む。
第 4 回	楽府と古詩	前漢時代に詠まれた楽府や古詩十九首などを読み、当時の習俗についても学ぶ。
第 5 回	三曹の詩	三国志の英雄である曹操とその息子たちの詩を鑑賞する。
第 6 回	陶淵明と謝靈運	六朝期を代表するこの両者の作品を比較しつつ鑑賞する。
第 7 回	孟浩然と崔顥	この回から唐詩を学ぶ。まず唐詩（近体詩）全体についてスタイルなどを解説し、実際に。崔顥の「黃鶴樓」と孟浩然の「春暁」を読む。
第 8 回	李白	李白は中国詩を知る上で欠かせない人物である。月を愛した詩人李白の、月を詠んだ有名な詩を鑑賞する。
第 9 回	王維	王維の「九月九日憶山東兄弟」を読み、当時の重陽の節句などの習俗を知る。
第 1 0 回	杜甫	「春望」など、リアリストと言われる杜甫の詠んだ詩から、当時の戦乱を読む。
第 1 1 回	白居易	「長恨歌」を読み解く。
第 1 2 回	杜牧	杜牧の詩から、「題烏江亭」など、英雄を詠んだ懐古的な詩を鑑賞する。
第 1 3 回	まとめ	これまで学んだ詩を復習し、知識が身についているか確認する。
第 1 4 回	試験	授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

大島正二『漢字と中国人—文化史をよみとく—』（岩波書店 2003年）
岡村繁『文選の研究』（岩波書店 1999年）
興膳宏『六朝詩人伝』（大修館書店 2000年）
小川環『唐代の詩人—その傳記』（大修館書店 1975年）
松浦友久『校注 唐詩解釈辞典』（大修館書店 1987年）
その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、若しくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子でも構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

It focuses mainly from ancient things to Tang poetry, and it opens a vision to Chinese classical literature by understanding while relating it to episode of poet, background background・culture etc. Also learn the basic knowledge necessary for appreciating Chinese poetry.

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：中国古典に親しむ

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に漢代のものから、物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、多くの話に触れ人物のエピソードを知り、その当時の時代背景や文化などと一緒に読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひろく。

【到達目標】

物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識にとスキルにより、更に中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。人物を取り上げる場合は、その生涯や時代背景も解説する。作品および小説は原文を訓読で読解していくのを基本とするが、特に長文のものは日本語訳などを利用する。
授業の終わりには毎回リアクションペーパーを提出していただき、学生の興味の方向性と積極性を見る。
志怪・伝記以外は、出来るかぎり春学期で取り扱ったものと縁のあるものを選んだ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と中国文学全体の概説をする。
第2回	漢代の文章	賈誼「弔屈原賦」を読む。
第3回	『穆天子伝』を読む	中国最古の小説とも言われる『穆天子伝』を読み、西周の王であった穆王の説話について知る。
第4回	『漢武故事』を読む	前漢の武帝の生涯を描いた小説『漢武故事』を読む。
第5回	英雄からの手紙	諸葛亮の書いた「出師表」を読む。
第6回	志怪小説を読む（1）	『搜神記』をはじめとする志怪小説について解説し、出来るだけ多くの話を読む。
第7回	志怪小説を読む（2）	（1）では魂の行方をテーマとする志怪小説のうち、異界に関する話を読む。
第8回	志怪小説を読む（3）	志怪小説のうち、予言に関する話を読む。
第9回	「長恨歌伝」を読む	玄宗と楊貴妃の故事がどのように語られていたのか学ぶ。
第10回	「人虎伝」を読む（1）	中島敦の『山月記』により、中国の伝奇小説の中でもこの人虎伝はあまりにも有名である。ここでは、その物語に可能な限り詳しく迫る。
第11回	「人虎伝」を読む（2）	人虎伝の続きを読み進めつつ、伏線について資料を用いて解説する。
第12回	「人虎伝」を読む（3）	人虎伝の結末を読むと共に、『広異記』の虎に化ける人間のエピソードを解説する。
第13回	まとめ	これまでに扱った作品について、知識などが身についているか確認する。
第14回	試験	授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容、特に基本的知識として学んだことはよく復習しておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

芸文院書館『文選』1967 年
海峡出版発行集団・鷺江出版社『新編漢魏叢書』2013 年
明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』1988 年
その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを主とする平常点を 30%、期末試験の点数を 70% として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、若しくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

From the things of the Han Dynasty to the Literary novels of the Tang Dynasty with high narratives, touched many stories, and by reading along with the times background and culture, we will open our vision to Chinese classical literature.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：日中比較

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日中の文学作品や文献などを比較・鑑賞することで、他国の文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになることを目的とする。

【到達目標】

日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることができる。
自国の文化への理解もより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。
授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出していただき、学生の興味の方向性と積極性を見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 日本と中国	授業内容の説明と、導入部として中国と日本の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第 2 回	「神話」を読む（1）	『淮南子』の創世の部分を中心に、中国の神話的な話を読む。
第 3 回	「神話」を読む（2）	前回に引き続き、『史記』などの中国の神話的性格が強い部分を読む。
第 4 回	「神話」を読む（3）	記紀の創世の部分を中心に読む。
第 5 回	日本の太陽と中国の太陽	日本と中国それぞれの文化における太陽の話を探る。
第 6 回	日本の月と中国の月	日本と中国それぞれの文化における月の話を探る。
第 7 回	「魏志倭人伝」を読む（1）	日本の記述が中国の正史に現れるのは『漢書』からである。ここでは『漢書』『後漢書』と、主に『三国志』魏書東夷伝倭人の条（所謂「魏志倭人伝」）を読む。
第 8 回	「魏志倭人伝」を読む（2）	「魏志倭人伝」を読み、当時の日本と中国について学ぶ。
第 9 回	『懷風藻』を読む	日本最古の漢詩集である『懷風藻』を実際に読み、中国の影響を探る。また、日本への仏教伝来などを解説する。
第 10 回	『万葉集』と中国詩	『万葉集』を読み、そこに見られる漢詩や中国文化の影響を見る。
第 11 回	『和漢朗詠集』を読む	「三舟の才」の逸話を持つ藤原公任選の『和漢朗詠集』を鑑賞する。
第 12 回	『枕草子』と『白氏文集』	『白氏文集』は平安期の日本に多大な影響を与えた書物である。ここでは『枕草子』の有名なエピソードと白居易の作品とを合わせて学ぶ。
第 13 回	まとめ	これまで学んだものを復習し、知識が身についているか確認する。
第 14 回	試験	授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

岩波書店『日本古典文学大系 69 懷風藻 文華秀麗集 本朝文粹』1964 年

岩波書店『日本古典文学大系 73 和漢朗詠集 梁塵秘抄』1965 年
中華書局『史記』
中華書局『三国志』
岩波文庫『古事記』1963 年
など

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを主とする平常点を 30%、期末試験の点数を 70% として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。

シラバスに挙げている作品は一例、若しくは主とするものであって、適宜他の作品等も用いる。

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

日本史の基礎知識があることが望ましい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view.

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：日中比較

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日中の文学を比較・鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点で読めるようになる。日本と中国それぞれの古典を学ぶことで、他の文学作品を読むに際しても、より楽しめるような知識と教養を得る。

【到達目標】

精読を通して日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることができる。これから先日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読解するスキルを学ぶことができる。自国の文化への理解もより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テーマを決め、講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出していただき、学生の興味の方向性と積極性を見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明をする。
第 2 回	流浪する英雄—中国—（1）	『史記』晋世家・『国語』晋語から、重耳の話を読解する。
第 3 回	流浪する英雄—中国—（2）	重耳の遭った驪姫の乱と逃亡後の運命を読む。
第 4 回	流浪する英雄—中国—（3）	登場人物を整理しつつ、耳重の流転を追う。
第 5 回	流浪する英雄—中国—（4）	耳重の結末と、家臣のその後を知る。
第 6 回	流浪する英雄—日本—（1）	記紀からヤマトタケルの物語を読み、貴種流離譚を知る。
第 7 回	流浪する英雄—日本—（2）	ヤマトタケルの辿った運命と結末について学ぶ。
第 8 回	戦の天才とその末路—中国—（1）	『史記』楽毅列伝から、中国史における軍事の天才の 1 人である楽毅の話を読む。
第 9 回	戦の天才とその末路—中国—（2）	当時の時代背景などに注意しつつ、引き続き楽毅列伝を読む。
第 10 回	戦の天才とその末路—日本—（1）	日本の戦の天才とされる人物のうち、源義経について『平家物語』から学ぶ。
第 11 回	戦の天才とその末路—日本—（2）	義経を中心として部分を読み進める。
第 12 回	戦の天才とその末路—日本—（3）	『平家物語』の続きを読み、結末に関して解説する。
第 13 回	まとめ	これまでに扱った作品について、知識などが身についているか確認する。
第 14 回	試験	授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容はよく復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

岩波文庫『日本書紀』各巻
岩波文庫『古事記』1963 年
岩波書店『日本古典文学大系 32 平家物語上』
岩波書店『日本古典文学大系 33 平家物語下』
中華書局『史記』

国語基本叢書『国語』
など

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーを主とする平常点を30%、期末試験の点数を70%として評価する。レポートおよび小テストなどは予定していない。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。

シラバスに挙げている作品は一例、若しくは主とする作品であって、適宜他の作品を加える。

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

日本史の基礎知識があることが望ましい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view. By learning each classic during the day, you can acquire more knowledge and culture when you read other literary works.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：日韓文化比較 (日韓交流と理解)

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日韓の文化や興味あるテーマを取り上げて、日韓両国のより理解を深めて行くことを目指していきます。文化や問題などを比較してみることで、新しい発見や将来が見えてきます。また、現在の日韓の若者たちの興味ある問題や題材を、若者目線で幅広く取り上げて、日韓両国の交流を向上させて行くことが目的です。韓国留学生たちの積極的参加も歓迎します。

【到達目標】

日韓の文化や習慣・歴史の差などを比較しながら総合理解していくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本人学生と韓国人の留学生の割合にもよりますが、日韓の文化・習慣・問題・歴史・トレンドなどについて比較したり意見や質問などについて、説明したり直接意見を聞いたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	日韓簡単比較	日韓の基礎知識を比較します。
第 3 回	日韓問題について 1	日韓の間にどのような問題があるかを調べてみます。
第 4 回	日韓習慣の比較	日韓の習慣などの比較をします。
第 5 回	現在の日韓問題について 2	現在の日韓問題について詳しく調べます。
第 6 回	現在の日韓トレンド	日韓トレンドを比較します。
第 7 回	日韓文化比較	日韓文化を比較します。
第 8 回	日韓教育問題比較	日韓教育問題を比較します。
第 9 回	日韓問題比較 3	日韓問題を比較してみます。
第 10 回	日韓の文化を比較	日韓文化について比較をしてみます。
第 11 回	日韓の現在の問題について比較 4	日韓の現在の様々な問題について比較します。
第 12 回	日韓の現在の問題について比較 5	日韓の現在の様々な問題について比較します。
第 13 回	日韓の現在の問題について比較 6	日韓の現在の様々な問題について比較します。
第 14 回	日韓問題について直接意見交換など	意見交換をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓についての記事や情報収集。授業感想など。
日韓の文化・問題などの意見発表なども歓迎します。

【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題―よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

【参考書】

授業中に必要な文献・資料を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・リアクションペーパーの内容・レポートなど 50%、期末レポート 50%。
(学生たちの積極的な授業参加・意見なども参考にします)
合計 100%

【学生の意見等からの気づき】

もっと日韓文化・問題を知りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。授業中に DVD やインターネットを使います。

【その他の重要事項】

授業の内容は、学生の意見などで変わることもあります。
春学期・秋学期合わせての履修が望ましい。

【Outline and objectives】

We aim to deepen the understanding of both Japan and Korea by discussing their cultures and other interesting themes. By comparing cultures and problems between the two countries, you would make new findings and envision their future outlooks. The purpose of this course is to enhance the exchanges between the two countries by taking a broad look at issues and topics that young Koreans and Japanese are interested in from young people's perspectives. This course also welcomes Korean international students.

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：日韓文化比較 (日韓交流と理解)

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業を踏まえて、韓国と日本の文化や話題や問題について、様々な視点から問題を捉えていきます。特に、現在の日韓の若者のトレンドから日韓文化比較を更に進め、歴史から現在までの様々な日韓問題などを、日韓交流の発展を模索していく学習の場にしたいと思います。

【到達目標】

常に、現在の日韓のトレンドを取り上げつつ、その問題や将来性や日韓両国の交流の方向性を考えることを目指すことで、日韓のこれからの未来への活発な交流のきっかけをつくるのが授業の目指す目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げた日韓の文化や話題や問題点について、日韓の両方の立場・視点から考えていく。
リアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	日韓文化比較 1	日韓文化を比較します。
第 3 回	日韓文化比較 2	日韓文化を比較します。
第 4 回	日韓のトレンド比較 1	日韓トレンドを比較します。
第 5 回	日韓のトレンド比較 2	日韓トレンドを比較します。
第 6 回	日韓文化比較 3	日韓文化を比較します。
第 7 回	日韓問題比較 1	日韓問題を比較します。
第 8 回	日韓問題比較 2	日韓問題を比較します。
第 9 回	日韓文化比較 4	日韓文化を比較します。
第 10 回	日韓文化比較 5	日韓文化を比較します。
第 11 回	日韓問題比較 3	日韓問題を比較します。
第 12 回	日韓問題比較 4	日韓問題を比較します。
第 13 回	日韓文化比較 6	日韓文化を比較します。
第 14 回	総合問題などの意見交換	意見交換などをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓問題の記事や情報など。授業内容などによるレポート。

【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著 （『朝日出版社』2018,10）

【参考書】

文献・資料などは授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・リアクションペーパーの内容・レポートなど 50%、期末レポート 50%（積極的な授業参加なども参考にします）
合計 100%

【学生の意見等からの気づき】

日韓の様々な文化・問題についてもっと知りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業では DVD やインターネットなどを使用します。

【その他の重要事項】

授業内容は、諸理由などで変わることがあります。
春学期・秋学期合わせての履修が望ましい。

【Outline and objectives】

Based on the contents covered in the spring semester, we will look at Japanese and Korean cultures, their recent trend, and issues from various perspectives. In particular, we intend to further our comparison of cultures from the trend of young people in Japan and discuss various issues regarding the two countries to cogitate their potential development of exchanges in the future.

LIT100LA

日本近・現代文学 A

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：アダプテーションからみる日本近現代文学

鈴木 彩

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近現代文学のアダプテーションについて学ぶ。＊アダプテーション、とはある作品を元に別の作品を創造すること、および創造された作品を指し、小説やマンガの映画化・舞台化のように、私たちの周囲に数多く存在する。この授業では、その中から文学テキストとして読むことが可能な小説と戯曲（演劇台本）を中心に、既存の物語がいかに作り替えられてきたのか、また、その変容に影響するものは何かを考える。

【到達目標】

私たちはアダプテーションの良し悪しを＊原作に忠実か、その雰囲気を変え得ているかという点で評価する傾向にある。しかし、この授業ではそうした視点を離れて、アダプテーションにみられる、原作の多様な解釈や原作への批評・批判を読み解くこと、およびアダプテーションが作られた背景——時代・場所・作者など——について考察することを主な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎授業の終了時に、リアクションペーパー（講義の感想・質問・講義に関連する問に対する自分の考えなど）を記入してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・進め方について
第2回	＊アダプテーション。と＊間テキスト性。	授業で用いる概念の解説
第3回	原作への忠実さ・原作からの距離①	尾崎紅葉「金色夜叉」
第4回	原作への忠実さ・原作からの距離②	宮本研「新釈・金色夜叉」
第5回	第5回 古典文学から近代文学へ①	森鷗外「生田川」
第6回	古典文学から近代文学へ②	室生犀星「姫たちばな」
第7回	近代文学から古典芸能へ①	芥川龍之介「地獄変」
第8回	近代文学から古典芸能へ②	三島由紀夫「地獄変」
第9回	アダプテーションとしての小説①	つかこうへい「蒲田行進曲」
第10回	アダプテーションとしての小説②	つかこうへい「蒲田行進曲」
第11回	上演というアダプテーション	泉鏡花「海神別荘」
第12回	ちりばめられた作品イメージ	泉鏡花「南地心中」
第13回	総括	授業内容のまとめ
第14回	成績評価	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「授業計画」に挙げた作品は、必ず事前に読んでから授業に臨むこと。（長編作品の場合は、目を通すべき章などを授業内で指示する。）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜プリントの配布を行う。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・試験による評価（履修人数に応じ、レポートに変更する可能性あり）70 %
・平常点（授業内で実施するリアクションペーパーの内容、授業態度）30 %
以上を総合して判断する。ただし試験またはレポートの受験・提出を行わなかった場合、単位は認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につき、アンケートはまだ実施していない。

【Outline and objectives】

This course deals with "Adaptation". "Adaptation" refers to the creation of another work based on a certain work. It exists around us, like the making of novels or manga into movies or stage. In this course, I will focus on the novels and plays (theater scripts) that can be read as literary texts. Students learn how the original work changed and what influenced the changes.

LIT100LA

日本近・現代文学 B

2017 年度以降入学者

LIT100LA

文学Ⅱ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：日本近現代文学から浮かび上がる作者のイメージ

鈴木 彩

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学テキストから浮かび上がる〘作者像〙を読み解く。多くの場合、文学作品を読む読者は、それを書いた作者について、何らかのイメージを抱く。しかし実在の作者と、作品から想起される〘作者像〙は必ずしも同じではない。この授業では作家を主人公にして書かれたフィクションや、自伝的小説・作者の体験に重なる小説などを読むことを通して、作者のイメージがどのように形成され、流布するのかを考える。

【到達目標】

作者に関する情報は、作品を読むにあたって参照され、時にはそれに基づいて登場人物と作者が重ねられもする。しかし文学を学ぶにあたっては、実在する作者と、テキストを読む上で想起される〘作者像〙を適切に切り分ける必要がある。そのことを理解した上で、作品がどのような〘作者像〙を構築しようとしているかを読み取り、それらのテキストが持つ意義や戦略性を学ぶことを、この授業の主な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎授業の終了時に、リアクションペーパー（講義の感想・質問・講義に関連する問に対する自分の考えなど）を記入してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・進め方について
第2回	文学研究は〘作者〙をどう考えるか	授業で用いる概念の解説
第3回	〘作者像〙の流布と更新①	樋口一葉「十三夜」に「ごりえ」
第4回	〘作者像〙の流布と更新②	井上ひさし「頭痛肩こり樋口一葉」
第5回	体験記と創作の境界線①	泉鏡花「露宿」
第6回	体験記と創作の境界線②	泉鏡花「甲乙」
第7回	自伝的小説を書き換えること①	林芙美子「放浪記」
第8回	自伝的小説を書き換えること②	林芙美子「放浪記」
第9回	流行作家の文壇批判①	龍胆寺雄「M・子への遺書」
第10回	流行作家の文壇批判②	龍胆寺雄「M・子への遺書」
第11回	〘作者像〙の構築方法①	太宰治「新ハムレット」
第12回	〘作者像〙の構築方法②	太宰治「道化の華」など
第13回	総括	授業内容のまとめ
第14回	成績評価	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「授業計画」に挙げた作品は、必ず事前に読んでから授業に臨むこと。（長編作品の場合は、目を通すべき章などを授業内で指示する。）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜プリントの配布を行う。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・試験による評価（履修人数に応じ、レポートに変更する可能性あり）70 %
 ・平常点（授業内で実施するリアクションペーパーの内容、授業態度）30 %
 以上を総合して判断する。ただし試験またはレポートの受験・提出を行わなかった場合、単位は認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につき、アンケートはまだ実施していない。

【Outline and objectives】

This course deals with the image of the author. In many cases, a reader reading a literary work holds some image about the author who wrote it. However, it is not necessarily the same as the actual author and the image of the author recalled from the work. In this course, I will take up novels that authors appear as characters, autobiographies, novels that overlap the experiences of the author. Students learn how the image of the author is formed and disseminated.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

萩野 了子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正しい日本語の文章の書き方を学び、自身の考えを正確に分かりやすく伝える技術・知識を身につける。

【到達目標】

レポート、小論文、手紙（メール）などの正しい書き方について学ぶ。普段日本語を用いて生活していたとしても、正しい作法で分かりやすい文章を書くことは、実は決して容易ではない。今一度、文章表現の基礎を見直しながら繰り返し作文練習を行うことで、これまでよりも高い水準の文章を作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回異なるテーマを掲げて講義を行う。それらを踏まえた内容の、小テスト・作文などの課題を課す。提出課題は添削して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	授業の進め方について
第二回	文章表現の基礎①	原稿用紙の使い方について
第三回	文章表現の基礎②	基本的な文法について
第四回	文章表現の基礎③	レトリック・敬語表現について
第五回	文章表現の基礎・実践	これまでの内容を総括・文章作成
第六回	レポート・小論文の書き方①	アカデミックライティングの基礎
第七回	レポート・小論文の書き方②	文章構成について
第八回	レポート・小論文の書き方・実践	これまでの内容を総括・文章作成
第九回	手紙・メールの書き方①	手紙のマナーについて
第十回	手紙・メールの書き方②	敬語表現の復習と実践
第十一回	名文を真似る①	作品鑑賞と解説・アウトライン作成
第十二回	名文を真似る②	作品鑑賞と解説・文章作成
第十三回	講評会	小グループにおける相互の作品講評
第十四回	まとめ	授業の総括・課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で実施する漢字テストのための予習、授業内で提示する課題レポートの作成など。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 点・小テスト 10 点・レポート課題 40 点

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to help students acquire the skills and knowledge needed to write a composition in correct manners.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

西元 康雅

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

法キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、エッセー、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさを味わって欲しい。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
- ③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するために、①課題提示：新聞などの時事にまつわる文章を読ませ、それに関する解説・講義を行う。②作文提出および添削演習：800字～1500字の作文を適宜提出させる。③提出後、文章表現にかかわる様々な基礎知識、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。④毎授業ごとに推敲を行う。④清書の添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却し、総括する。場合によっては、優秀な作文をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	要約	要約の三要素
第 2 回	推敲	簡潔な文章を目指す
第 3 回	論文の構成～入門編	ワークシートを用いて、パラグラフライティングを学ぶ
第 4 回	パラグラフライティングの難所	トピックセンテンスとサポートセンテンスを上手く書き出す
第 5 回	パラグラフライティングの完成	秀逸な学生の記述を基にレビュー、後にリライト
第 6 回	批評文を知る	どのような文章が批評文として優れているかを考察する
第 7 回	批評文を書く	講義内で示した批評文を書くコツをもとに、単なる批判にとどまらない批評文を作成する
第 8 回	批評文の完成	秀逸な学生のエッセーを披露し、レビュー。後に各自リライト。
第 9 回	エッセーを書く	作家のエッセーを基に、どういった着眼点がエッセーに求められるかを考察する。後、エッセーを書く
第 10 回	エッセーを完成させる	秀逸な学生のエッセーをもとに、エッセーをリライトする
第 11 回	口語自由詩の作成	萩原朔太郎に導かれながら、口語自由詩を実作する
第 12 回	リレー小説	ある有名な短編の柱を切り取り、余白を分担しながら全員で埋めていく
第 13 回	リレー小説レビュー	出来上がったリレー小説をレビュー、期末課題を提示
第 14 回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で課された作文を期限厳守で仕上げる

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、提出物 40%、期末課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

より学生の視点に立った添削・コメントを施す。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（Word をインストール）

【Outline and objectives】

In this lesson, in addition to writing paragraph writing writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from essays, criticisms to the creation of novels.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論Ⅰ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：留学生を主な対象とする

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
留学生（法文営国環キ 1～4 年）クラス

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を「書く」力、日本語を「読む」力をつけよう。
川鍋義一担当の「文章論」は他の曜日・時限にもありますが、このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。川鍋義一担当の「文章論」受講を希望する留学生、海外での生活が長く日本語に大きな不安を抱える日本人学生なども、このクラスを受講してください。
（留学生が他の曜日・時限の、川鍋義一担当の「文章論」受講を妨げるものではありません。）

【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、日本の大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義
上記のように3回で1セット、全15回の授業でみなさんには5回の作文を書いてもらうことになります。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で800字～1200字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

上記IおよびIIIの回には、『入試漢字マスター1800+三訂版』（河合出版）の「書き取りA～C」問題から、漢字テストを実施します。

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にします。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび課題①提示	課題：エッセイを書く
2 回	課題①提出および講義	文法、辞書の記号などを学ぶ
3 回	課題①添削返却および講義（漢字テスト1）	課題①作文講評、文章の禁則、文末表現などを学ぶ
4 回	課題②提示（漢字テスト2）	課題：段落構成に注意して読む
5 回	課題②提出および講義	敬語表現、誤りやすい表現などを学ぶ
6 回	課題②添削返却および講義（漢字テスト3）	課題②作文講評、例示・比喩をプロの文章から学ぶ
7 回	課題③提示（漢字テスト4）	課題：論理的に読解する
8 回	課題③提出および講義	課題③の課題文を分析する
9 回	課題③添削返却および講義（漢字テスト5）	課題③作文講評、特殊 → 一般という論法をプロの文章に学ぶ
10 回	課題④提示（漢字テスト6）	課題：要約と意見を分ける
11 回	課題④作文提出および講義	教員に送るメールの書き方について学ぶ
12 回	課題④添削返却および講義（漢字テスト7）	課題④作文講評、引用の書式について学ぶ
13 回	課題⑤提示（漢字テスト8）	課題：2000 字のレポート

1 4 回 課題⑤提出

課題⑤作文講評（課題⑤の返却は授業支援システムを利用する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを5回。ほかに漢字テストの予習。

【テキスト（教科書）】

漢字テストの問題として、『入試漢字マスター1800+三訂版』（川野一幸、立川芳雄、晴山亭共著、河合出版、2011 年、762 円＋税）ほか、随時プリント配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（5回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数・漢字テストの点数50%で評価します。
1回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

【その他の重要事項】

川鍋義一担当の「文章論」は他の曜日・時限にもありますが、このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。川鍋義一担当の「文章論」受講を希望する留学生、海外での生活が長く日本語に大きな不安を抱える日本人学生なども、このクラスを受講してください。
（留学生が他の曜日・時限の、川鍋義一担当の「文章論」受講を妨げるものではありません。）

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にします。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing for international students.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論Ⅰ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

留学生（法文営国環キ 1～4 年）クラス

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を「書く」力、日本語を「読む」力をつけよう。
川鍋義一担当の「文章論」は他の曜日・時限にもありますが、このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。川鍋義一担当の「文章論」受講を希望する留学生、海外での生活が長く日本語に大きな不安を抱える日本人学生なども、このクラスを受講してください。
(留学生が他の曜日・時限の、川鍋義一担当の「文章論」受講を妨げるものではありません。)

【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、日本の大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義
上記のように3回で1セット、全15回の授業でみなさんには5回の作文を書いてもらうことになります。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で800字～1200字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

上記IおよびIIIの回には、『入試漢字マスター1800+三訂版』（河合出版）の「書き取りA～C」問題から、漢字テストを実施します。

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にします。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび課題①提示	課題：エッセイを書く
2 回	課題①提出および講義	文法、辞書の記号などを学ぶ
3 回	課題①添削返却および講義（漢字テスト1）	課題①作文講評、文章の禁則、文末表現などを学ぶ
4 回	課題②提示（漢字テスト2）	課題：段落構成に注意して読む
5 回	課題②提出および講義	敬語表現、誤りやすい表現などを学ぶ
6 回	課題②添削返却および講義（漢字テスト3）	課題②作文講評、例示・比喩をプロの文章から学ぶ
7 回	課題③提示（漢字テスト4）	課題：論理的に読解する
8 回	課題③提出および講義	課題③の課題文を分析する
9 回	課題③添削返却および講義（漢字テスト5）	課題③作文講評、特殊 → 一般という論法をプロの文章に学ぶ
10 回	課題④提示（漢字テスト6）	課題：要約と意見を分ける
11 回	課題④作文提出および講義	教員に送るメールの書き方について学ぶ
12 回	課題④添削返却および講義（漢字テスト7）	課題④作文講評、引用の書式について学ぶ
13 回	課題⑤提示（漢字テスト8）	課題：2000 字のレポート

1 4 回 課題⑤提出

課題⑤作文講評（課題⑤の返却は授業支援システムを利用する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを5回。ほかに漢字テストの予習。

【テキスト（教科書）】

漢字テストの問題として、『入試漢字マスター1800+三訂版』（川野一幸、立川芳雄、晴山亭共著、河合出版、2011 年、762 円＋税）ほか、随時プリント配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（5回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50%、提出物の点数・漢字テストの点数50%で評価します。
1回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

【その他の重要事項】

川鍋義一担当の「文章論」は他の曜日・時限にもありますが、このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。川鍋義一担当の「文章論」受講を希望する留学生、海外での生活が長く日本語に大きな不安を抱える日本人学生なども、このクラスを受講してください。
(留学生が他の曜日・時限の、川鍋義一担当の「文章論」受講を妨げるものではありません。)

添削をする授業であるため、受講人数を30名程度にします。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第2回以降からの初参加は認めません。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing for international students.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

文営環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書く」力、「読む」力をつけよう。

このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義
上記のように 3 回で 1 セット、全 15 回の授業でみなさんには 5 回の作文を書いてもらうことになります。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で 800 字～1200 字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

上記 I および III の回には、『新選総合漢字問題集 常用漢字から表外字まで』（おうふう刊）の「書き取り」問題から、漢字テストを実施します。

添削をする授業であるため、受講人数を 30 名程度にしめます。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第 2 回以降からの初参加は認めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび課題①提示	課題：エッセイを書く
2 回	課題①提出および講義	文法、辞書の記号などを学ぶ
3 回	課題①添削返却および講義（漢字テスト 1）	課題①作文講評、文章の禁則、文末表現などを学ぶ
4 回	課題②提示（漢字テスト 2）	課題：段落構成に注意して読む
5 回	課題②提出および講義	敬語表現、誤りやすい表現などを学ぶ
6 回	課題②添削返却および講義（漢字テスト 3）	課題②作文講評、例示・比喩をプロの文章から学ぶ
7 回	課題③提示（漢字テスト 4）	課題：論理的に読解する
8 回	課題③提出および講義	課題③の課題文を分析する
9 回	課題③添削返却および講義（漢字テスト 5）	課題③作文講評、特殊 → 一般という論法をプロの文章に学ぶ
10 回	課題④提示（漢字テスト 6）	課題：要約と意見を分ける
11 回	課題④作文提出および講義	教員に送るメールの書き方について学ぶ
12 回	課題④添削返却および講義（漢字テスト 7）	課題④作文講評、引用の書式について学ぶ
13 回	課題⑤提示（漢字テスト 8）	課題：2000 字のレポート
14 回	課題⑤提出	課題⑤作文講評（課題⑤の返却は授業支援システムを利用する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを 5 回。ほかに漢字テストの予習。

【テキスト（教科書）】

漢字テストの問題として、『新選総合漢字問題集 常用漢字から表外字まで』（川鍋義一・小秋元段編、おうふう、2011 年、760 円＋税）ほか、随時プリント配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（5 回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50％、提出物の点数・漢字テストの点数 50％で評価します。

1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

【その他の重要事項】

添削をする授業であるため、受講人数を 30 名程度にしめます。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第 2 回以降からの初参加は認めません。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

文営国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書く」力、「読む」力をつけよう。

このクラスは通常のクラスであり、留学生を主な対象とするクラスではありません。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などは川鍋義一担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）を受講してください。無論、自信があれば、留学生などの参加を妨げるものではありません。

【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、作文を提出し、添削を受けることが授業の柱となります。

授業は、

I 課題提示 → II 作文提出および講義 → III 添削返却および講義
上記のように 3 回で 1 セット、全 15 回の授業でみなさんには 5 回の作文を書いてもらうことになります。

I 課題提示：新聞記事、新書レベルの文章を読ませ、それに関する解説・講義を聴かせる。

II 作文提出および添削演習：一週間で 800 字～1200 字の作文を書かせ、授業開始時に提出させる。提出後、文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。

III 添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却した上で、優秀作品をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

上記 I および III の回には、『新選総合漢字問題集 常用漢字から表外字まで』（おうふう刊）の「書き取り」問題から、漢字テストを実施します。

添削をする授業であるため、受講人数を 30 名程度にします。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第 2 回以降からの初参加は認めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンスおよび課題①提示	課題：エッセイを書く
2 回	課題①提出および講義	文法、辞書の記号などを学ぶ
3 回	課題①添削返却および講義（漢字テスト 1）	課題①作文講評、文章の禁則、文末表現などを学ぶ
4 回	課題②提示（漢字テスト 2）	課題：段落構成に注意して読む
5 回	課題②提出および講義	敬語表現、誤りやすい表現などを学ぶ
6 回	課題②添削返却および講義（漢字テスト 3）	課題②作文講評、例示・比喩をプロの文章から学ぶ
7 回	課題③提示（漢字テスト 4）	課題：論理的に読解する
8 回	課題③提出および講義	課題③の課題文を分析する
9 回	課題③添削返却および講義（漢字テスト 5）	課題③作文講評、特殊 → 一般という論法をプロの文章に学ぶ
10 回	課題④提示（漢字テスト 6）	課題：要約と意見を分ける
11 回	課題④作文提出および講義	教員に送るメールの書き方について学ぶ
12 回	課題④添削返却および講義（漢字テスト 7）	課題④作文講評、引用の書式について学ぶ
13 回	課題⑤提示（漢字テスト 8）	課題：2000 字のレポート
14 回	課題⑤提出	課題⑤作文講評（課題⑤の返却は授業支援システムを利用する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削の課題である作文を一週間で書きます。これを 5 回。ほかに漢字テストの予習。

【テキスト（教科書）】

漢字テストの問題として、『新選総合漢字問題集 常用漢字から表外字まで』（川鍋義一・小秋元段編、おうふう、2011 年、760 円＋税）

ほか、随時プリント配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点（5 回の提出物がすべて提出されているかどうか、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）50％、提出物の点数・漢字テストの点数 50％で評価します。

1 回でも未提出の課題があれば、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

作文が少々つらくなるかもしれませんが、「書く」力（それと「読む」力）を伸ばすためです。がんばりましょう。

【その他の重要事項】

添削をする授業であるため、受講人数を 30 名程度にします。希望者多数の場合には初回の授業で抽選します。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。初回に受講生名簿を作るので、第 2 回以降からの初参加は認めません。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

西元 康雅

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で、小論文やレポートの課題を書くことに困っていませんか？それは（おそらく）これまで日本語の書き方を正式に教わってこなかったからです。ルールさえ知っていれば、書くことは難しくありません。本授業では実践的な「書く力」の修得を目指します。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
- ③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するために、①課題提示：新聞などの時事にまつわる文章を読ませ、それに関する解説・講義を行う。②作文提出および添削演習：800字～1500字の作文を適宜提出させる。③提出後、文章表現にかかわる様々な基礎知識、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。④毎授業ごとに推敲を行う。⑤清書の添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却し、総括する。場合によっては、優秀な作文をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介文	他社の共感を得られる「私」へ
第2回	原稿用紙の用い方	タイトル・学科・学籍番号・氏名を正確に配置する
第3回	推敲の基礎	ワークシートに基づいて悪文を知る
第4回	推敲の応用	自己紹介文のリライト
第5回	意見文	夫婦別姓について
第6回	意見文のレビュー	意見文のリライト
第7回	出典表示	雑誌・新聞・和書・訳書などの書き分け
第8回	アカデミック・ライティング	問いの立て方
第9回	パラグラフ構成	トピックセンテンスとは？
第10回	パラグラフライティングの手引き	ワークシートで演習
第11回	パラグラフライティングの基礎	アウトラインを作成する
第12回	パラグラフライティングの実践	アウトラインから文章を作る
第13回	パラグラフライティングのレビュー	好例を励みに、リライトする
第14回	総括	期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下書きを完成させる、推敲を行う、清書を作成するなどの指示をします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業中に適宜、紹介します

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間提出物 30 %、期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

添削をより充実させる。

【Outline and objectives】

Do you have trouble writing an essay or report subject at university? That is because I probably have not officially taught how to write Japanese. If you know even the rules, writing is not difficult. In this class we aim to acquire practical "writing power".

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

BSP100LA

文章論 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

西元 康雅

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではパラグラフライティングといった論文執筆法に加え、エッセー、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさを味わって欲しい。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の歴史的社会的背景を知ることで、言語表現から現代の社会に内在する問題を理解する。
- ③さまざまな「人間」の問題を考え、批判的読解力を身につけると同時に多様な視点からものごとをとらえる能力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するために、①課題提示：新聞などの時事にまつわる文章を読ませ、それに関する解説・講義を行う。②作文提出および添削演習：800字～1500字の作文を適宜提出させる。③提出後、文章表現にかかわる様々な基礎知識、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ。④毎授業ごとに推敲を行う。④清書の添削返却および講義：前週に提出された作文に赤入れし、返却し、総括する。場合によっては、優秀な作文をコピー、配布し（番号・氏名は伏せる）、講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	要約	要約の三要素
第2回	推敲	簡潔な文章を目指す
第3回	論文の構成～入門編	ワークシートを用いて、パラグラフライティングを学ぶ
第4回	パラグラフライティングの難所	トピックセンテンスとサポートセンテンスを上手く書き出す
第5回	パラグラフライティングの完成	秀逸な学生の記述を基にレビュー、後にリライト
第6回	批評文を知る	どのような文章が批評文として優れているかを考察する
第7回	批評文を書く	講義内で示した批評文を書くコツをもとに、単なる批判にとどまらない批評文を作成する
第8回	批評文の完成	秀逸な学生のエッセーを披露し、レビュー。後に各自リライト。
第9回	エッセーを書く	作家のエッセーを基に、どういった着眼点がエッセーに求められるかを考察する。後、エッセーを書く
第10回	エッセーを完成させる	秀逸な学生のエッセーをもとに、エッセーをリライトする
第11回	口語自由詩の作成	萩原朔太郎に導かれながら、口語自由詩を実作する
第12回	リレー小説	ある有名な短編の柱を切り取り、余白を分担しながら全員で埋めていく
第13回	リレー小説レビュー	出来上がったリレー小説をレビュー、期末課題を提示
第14回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で課された作文を期限厳守で仕上げる

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、提出物 40%、期末課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

より学生の視点に立った添削・コメントを施す。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（Word をインストール）

【Outline and objectives】

In this lesson, in addition to writing paragraph writing writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from essays, criticisms to the creation of novels.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

LIN100LA

言語学 I

2016 年度以前入学者

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 法国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は「言語学」といいます。言語学は、人間の言語とはいかなるものであるのか、について知見を積み重ねてきました。この授業では、まずヒトが言語とどう向かい合ってきたかという「言語学史」的に歴史的に概観します。次いで、「言語学」としての特徴的な概念等について紹介します。

最後に、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるかを考えます。

【到達目標】

- 1 「言語」についてのヒトの営みについての一般的な知見を得ること。
- 2 「言語学」の方法についての基礎的な知識を身に着けること。
- 3 「コミュニケーション」における「言語」の位置づけについて、正しい知識を身に着けること。
- 4 結果として、「言語学」の枠組みや思考法について、大まかでもいいから認識を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

世界の言語について概観し、言語学がどうそれらを扱ってきたかを紹介します。

次いで、「言語学」の基礎的な術語・概念について講義します。

最後に、「コミュニケーション」と言語との関係について詳述します。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	内容・授業のすすめ方の説明 「ことば」の記録
第 2 回	世界の言語・言語の起源	世界の言語の現状と、言語の起源について
第 3 回	ヨーロッパの諸言語入門	使用するテキストについて、印欧語とは何か
第 4 回	インド・ヨーロッパ語について	グリムの法則
第 5 回	比較言語学の誕生	「印欧諸語」の成立について解説する
第 6 回	比較言語学の成果	「比較言語学」でわかったことを紹介する
第 7 回	アフリカの諸言語入門	アフリカの語族について
第 8 回	アフリカの「アフロアジア諸語」	「アフロアジア諸語」の解説
第 9 回	アフリカの「ニジェール・コルドファン諸語」	「ニジェール・コルドファン諸語（バントゥー諸語）」の解説
第 10 回	日本語の音韻に関する諸問題	日本語の音声・音韻の諸問題を扱う
第 11 回	日本語の文法に関する諸問題	日本語の文法に関する諸問題を扱う
第 12 回	ポライトネス	人間の社会的距離を調整する言語の機能について解説する
第 13 回	日本語の「敬語」	ポライトネスの観点からみると、日本語の「敬語」とは何か
第 14 回	「ことば」を考えたときの問題等	「ことば」の力、言語の発見等について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な個所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料等を参考にして、理解をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

ヨーロッパの諸言語については、スティーンソン／江村他訳 (2010)『図説 ことばの世界 - 欧米の言語史 -』青山社、を使用します。

【参考書】

「言語学史」については、風間喜代三 (1978)『言語学の誕生』岩波新書、「共時言語学」については、佐久間淳一他 (2007)『言語学入門』研究社と千野栄一 (1994)『言語学の開かれた扉』三省堂、「コミュニケーション」については、平凡社 (1988)『コミュニケーション事典』をあげておきます。

必要に応じて、授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

【成績評価の方法と基準】

試験の得点 100 点満点で評価します。

ただし、このシラバスでは最終回まで授業をし、試験期間に試験を行うという前提で内容を紹介しましたが、受講者の人数によっては、最終回に授業内試験をする可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

知識としてどうこうというよりも、発想法についてこれない学生が多いように、経験的に感じます。

例としてあげる個々の様々な言語の実例を覚える必要はありません。言語学という学問がヒトの言語とはどういうものであると見なしているかという考え方に慣れてください。

【学生が準備すべき機器他】

受講生が多いことが予想されるので、基本的にパワーポイントを使って講義を進めていく予定です。受講生が少なかった場合にはそれに応じてやり方を考えます。

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持つという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくることを期待します。

【Outline and objectives】

Here we discuss about what is Linguistics. The first, we survey the history of Linguistics. The second, we introduce famous Linguists and their theories. The third, we master the way of the Comparative Study of Linguistics. The fourth, we know the Descriptive Linguistics after Ferdinand de Saussure.

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

LIN100LA

言語学 II

2016 年度以前入学者

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 法国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は「言語学」といいます。言語学は、人間の言語とはいかなるものであるのか、について知見を積み重ねてきました。この授業では、まずヒトが言語とどう向かい合ってきたかという「言語学史」的に歴史的に概観します。次いで、「言語学」としての特徴的な概念等について紹介します。

最後に、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるかを考えます。

【到達目標】

- 1 「言語」についてのヒトの営みについての一般的な知見を得ること。
- 2 「言語学」の方法についての基礎的な知識を身に着けること。
- 3 「コミュニケーション」における「言語」の位置づけについて、正しい知識を身に着けること。
- 4 結果として、「言語学」の枠組みや思考法について、大まかでもいいから認識を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

世界の言語について概観し、言語学がどうそれらを扱ってきたかを紹介します。

次いで、「言語学」の基礎的な術語・概念について講義します。

最後に、「コミュニケーション」と言語との関係について詳述します。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	言語：コード理論	「コード」として言語を考える
第 2 回	言語の要素：音の単位	「音声学」から「音韻論」について解説する
第 3 回	言語の要素：意味の単位	「形態論」、「組み立て規則」について解説する
第 4 回	意味	「意味」について考察する
第 5 回	「意義素論」	「意義素論」を紹介する
第 6 回	文法カテゴリー（数・人称他）	文法カテゴリーの各項目について解説する
第 7 回	文法カテゴリー（クラス・ダイクシス他）	文法カテゴリーの各項目について解説する
第 8 回	構造	構造とは何かについて概観する
第 9 回	宗教	言語の最重要課題である宗教について概観する
第 10 回	言語学と語用論	言語学と語用論の観点の違いについて紹介する
第 11 回	コミュニケーションの定義	そもそもコミュニケーションとは何か、解説する
第 12 回	コミュニケーションにおける「ことば」	コミュニケーションの要素の一つ、「ことば」について解説する
第 13 回	コミュニケーションの要素	コミュニケーションを考えたときの要素について解説する
第 14 回	コミュニケーションの限界	コミュニケーションの限界について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な箇所や疑問点があれば、その時点で質問するなり紹介する参考資料等を参考にして、理解をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

秋学期のテキストは未定です。

【参考書】

「共時言語学」については、佐久間淳一他 (2007)『言語学入門』研究社と千野栄一 (1994)『言語学の開かれた扉』三省堂、「コミュニケーション」については、平凡社 (1988)『コミュニケーション事典』をあげておきます。

必要に応じて、授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

【成績評価の方法と基準】

試験の得点 100 点満点で評価します。

ただし、このシラバスでは最終回まで授業をし、試験期間に試験を行うという前提で内容を紹介しましたが、受講者の人数によっては、最終回に授業内試験をする可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

知識としてどうこうというよりも、発想法についてこれない学生が多いように、経験的に感じます。

例としてあげる個々の様々な言語の実例を覚える必要はありません。言語学という学問がヒトの言語とはどういうものであると見なしているかという考え方に慣れてください。

【学生が準備すべき機器他】

受講生が多いことが予想されるので、基本的にパワーポイントを使って講義を進めていく予定です。受講生が少なかった場合にはそれにに応じてやり方を考えます。

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持つという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくることを期待します。

【Outline and objectives】

Here we discuss about what is Linguistics. The first, we survey the history of Linguistics. The second, we introduce famous Linguists and their theories. The third, we master the way of the Comparative Study of Linguistics. The fourth, we know the Descriptive Linguistics after Ferdinand de Saussure.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

LIN100LA

言語学 I

2016 年度以前入学者

齊藤 雄介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
文環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	言語学入門	言語学とは何か、どのような分野があるのかについて説明する。
第 2 回	音声学・音韻論 1	音声学と音韻論の違い、音声構造
第 3 回	音声学・音韻論 2	音声器官、調音点
第 4 回	音声学・音韻論 3	母音と子音
第 5 回	音声学・音韻論 4	音素と異音
第 6 回	音声学・音韻論 5	日本語と英語の強制的違い
第 7 回	形態論 1	語の構造と語の構成
第 8 回	形態論 2	派生接辞と屈折接辞
第 9 回	形態論 3	語彙範疇と機能範疇
第 10 回	形態論 4	派生、屈折、複合と接頭辞、接尾辞の関係
第 11 回	形態論 5	語の右側主要部規則
第 12 回	統語論 1	文法とは何か
第 13 回	統語論 2	文法構造
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。使用するテキスト以外に授業中に配布したプリントも試験範囲に含まれるため、その内容も確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【参考書】

毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%, 期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

LIN100LA

言語学 II

2016 年度以前入学者

齊藤 雄介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
文環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	言語学入門	言語学とは何かを説明し、言語学 A の内容を若干復習する
第 2 回	統語論 1	文法とは何か 文の構造
第 3 回	統語論 2	下位範疇と句構造規則
第 4 回	統語論 3	変形文法
第 5 回	統語論 4	X バー統語論
第 6 回	意味論 1	語と語の意味関係
第 7 回	意味論 2	語の内部の意味関係
第 8 回	意味論 3	語の意味と背景知識
第 9 回	意味論 4	意味と話者の関係
第 10 回	語用論 1	語用論とは何か
第 11 回	語用論 2	言語能力と言語運用と語用論
第 12 回	語用論 3	会話仮設理論
第 13 回	語用論 4	関連性理論
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。使用するテキスト以外に授業中に配布したプリントも試験範囲に含まれるため、その内容も確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【参考書】

「毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%, 期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

LIN100LA

言語学 I

2016 年度以前入学者

板井 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

営キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 講義と演習（グループディスカッション・グループワーク）を中心に行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	言語学とは何か
	言語学入門 1	言語の特質（1）
第 2 回	言語学入門 2	言語の特質（2）
第 3 回	言語学入門 3	言語の特質（3）
第 4 回	音声学 1	音声器官
第 5 回	音声学 2	調音
第 6 回	音声学 3	母音、子音
第 7 回	音韻論 1	異音、相補分布
第 8 回	音韻論 2	環境同化、音声的類似
第 9 回	音韻論 3	日本語の音韻体系
第 10 回	第二言語習得研究 1	第二言語習得研究の流れ
第 11 回	第二言語習得研究 2	中間言語
第 12 回	第二言語習得研究 3	学習者の母語と第二言語習得
第 13 回	第二言語習得研究 4	習得順序と発達順序
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習は必要。

講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。

授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。

PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。配布資料は毎回持参すること。

PPT は基本的に配布しないので、授業時に持参すること。

【参考書】

参考文献は適宜 PPT などで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 100 点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

さらなる履修者の積極的な授業参加を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

※履修者数によっては、初回時に、リアクションペーパーで選抜をするかもしれない。

【Outline and objectives】

Linguistic course - this is an introductory course to Linguistics. This course is not just to introduce students to language, phonetics, phonology and another language acquisition but to encourage them to analyze, be interactive and seize the many aspects of the language and language learning.

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

LIN100LA

言語学 II

2016 年度以前入学者

板井 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

営キ 1 年/法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は日本語の歴史、文法などを概観することで日本語の特徴を捉える。後半は異文化理解という視点から、言語と文化、社会、心理、教育の関係を理解する。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

学生は、日本語の特徴、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 講義と演習（グループディスカッション・グループワーク）を中心に行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	言語学とは何か
第2回	日本語の歴史1	文字の変遷
第3回	日本語の歴史2	音韻の変遷
第4回	日本語の歴史3	その他の現象の変遷
第5回	日本語教育文法1	格助詞とは？
第6回	日本語教育文法2	格助詞の使い分け
第7回	日本語教育文法3	ヴォイス
第8回	日本語教育文法4	国語に関する世論調査
第9回	日本語教育文法5	意味分析の手法
第10回	異文化理解1	カルチャーショック 文化変容モデルと適応理論
第11回	異文化理解2	自己開示
第12回	異文化トレーニング1	異文化トレーニング体験
第13回	異文化トレーニング2	異文化トレーニング講座体験
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習は必要。

講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。

授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。

PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。配布資料は毎回持参すること。

PPT は基本的に配布しないので、授業時に持参すること。

【参考書】

参考文献は適宜 PPT などで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 100 点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・日本語を外国人に教えるための日本語教育文法、異文化理解に興味を持ってもらえてよかったと思う。

・前期に言語学 I を履修しなかった学生にも理解できるよう、言語学 II では前期言語学のエッセンス部分を丁寧にひもろってから後期の講義内容へとつなげたつもりだが、後期だけの履修者が継続的に授業参加するのはやや難しかったようだ。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Fall semester course has two parts:

I. The first half of this course is an overview of the characteristics of Japanese, Japanese language history and grammar.

II. The second half is understanding the relationship between language and culture, society, and psychology. Educate students from the perspective of cross-cultural understanding.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ

2016 年度以前入学者

滝口 清栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することと目的とします。
本講義では、このテーマを踏まえながら、環境と共生という現代的視点から、哲学的テーマをとりあげます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
本講義では、環境と共生をめぐる哲学史的アプローチ、そして現代の理論的問題を明らかにすることを通して、これからの世界を生きる人間と社会のあり方を考える手がかりが得られることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこない、教科書にそって進めます。必要に応じて資料を配布し、あるいパワーポイントも利用して、扱うテーマについての理解が深まるよう努めます。
なお、毎回、リアクションペーパーを配り、次の講義の始まりに答えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション 自然観をめぐる近代以前と近代	自然と人間との関係についてのとらえ方の違いを扱う。
第 2 回	哲学の基本的性格 1 自然を支配するという考え方	近代の哲学者デカルトを通して、その歴史的意義を扱う。
第 3 回	哲学の基本的性格 2 人間の権利、自然の権利	権利概念が、哲学の歩みのなかでどう広がってきたかを扱う。
第 4 回	哲学の歴史 1 エコロジーの哲学史的意味 1	19 世紀前半のアメリカのナチュラリスト、ソローを通して、考える。
第 5 回	哲学の歴史 2 エコロジーの哲学史的意味	19 世紀半ばのドイツの生物学者ヘッケルの提唱した「エコロジー」の意味を明らかにする。
第 6 回	哲学の歴史 3 エコロジーの発想にもとづく新しい学問的成果	20 世紀初頭の成果、食物連鎖、ならびに遷移・極相理論の哲学的意味を探る。
第 7 回	哲学の歴史 4 エコロジーと環境保護	1930 年代中西部アメリカの砂嵐問題とエコロジーの出会いを扱う。
第 8 回	哲学の歴史 5 現代環境思想のフロンティア	レオポルドのランド・エシックスを取り上げる。
第 9 回	哲学の基本問題 1 現代環境思想 1	生命圏中心主義をとるディープ・エコロジーを取り上げる。
第 10 回	哲学の基本問題 2 現代環境思想 2	アメリカの女性哲学者マーチャントの、社会的公正を重視するラディカル・エコロジーを取り上げる。
第 11 回	哲学の基本問題 3 環境と共生をめぐる現代的テーマ 1	配分的正義の問題を扱う。
第 12 回	哲学の基本問題 4 環境と共生をめぐる現代的テーマ 2	世代間の公正の問題を扱う。
第 13 回	哲学の基本問題 5 環境と共生をめぐる現代的テーマ 3	自然の権利の問題を扱う。
第 14 回	哲学Ⅰのまとめ	春学期に扱った諸問題をふりかえり、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

出席にあたっては、教科書を下読みしていただくことが望ましい。講義で取り扱ったテーマについて、リアクションペーパーに感想や質問を書くことで、さらに理解が深まるでしょう。

【テキスト（教科書）】

滝口清栄『環境と共生のリテラシー』（DTP 出版、1200 円）

【参考書】

『環境と共生のリテラシー』の巻末に一覧をあげておきました。

【成績評価の方法と基準】

学期末授業内試験 90%、平常点 10% として、それらを総合して成績を出します。

【学生の意見等からの気づき】

「授業改善アンケート」では、私語に対してきんと対処しているので、静かな雰囲気の中で受講できるという評価を得ています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic characters of philosophy in the historical point of view, then makes clear the fundamental problems of philosophy. In particular this course deals with the relationship of nature, mankind and society.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ

2016 年度以前入学者

滝口 清栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらかできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。本講義では、近代ドイツの哲学者ヘーゲルを通して、このような問題にアプローチします。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。本講義では、ヘーゲル哲学をメインにすえて、認識、存在、人間、社会などの根本にある問題を扱います。これらを通して、常識をつねに問い返す哲学的思考に触れることができるでしょう。こうして得られた思考様式が、現代の問題を考える大切なツールになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとってすすめますが、リアクションペーパーを毎回配りますので、そこに皆さんの理解の具合や感想、質問を書いてもらいたいと思います。次の講義の始めに、答えます。また話しのつながりが分かるように、そして平明に話そうと努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション 18 - 19 世紀の思想と時代の動き	近代という時代の特徴をつかんで、この時代の哲学思想にアプローチする。
第 2 回	哲学の基本的性格 1 個人の自由と社会	J. ロックを通して、近代の新しいテーマを理解する。
第 3 回	哲学の基本的性格 2 経済の哲学的意義	A. スミスを通して、伝統的な見方が転換する場面を理解する。
第 4 回	哲学の根本問題について 1 自由と共同	ルソーを通して、自由をめぐる独創的な問題提起を理解する。
第 5 回	哲学の根本問題について 2 フランス革命とドイツ思想界	フランス革命がドイツの思想界に与えたインパクトを扱う。
第 6 回	哲学の根本問題について 3 宗教をめぐる哲学的思索	若きヘーゲルの思索の出発点を扱う。
第 7 回	哲学の根本問題について 4 理想と現実	理想と現実との関係をくぐり抜けるとはということか？ ヘーゲルの思索を追う。
第 8 回	哲学の根本問題について 5 〈存在するものの理解〉という視点	現実にはアプローチするとはどのようなことか？ ヘーゲルの思索を追う。
第 9 回	哲学の根本問題について 6 哲学は〈体系〉という発想法	ドイツ観念論のなかでライトモチーフとなる体系という発想の特徴を理解する。
第 10 回	哲学の根本問題について 7 近代とはどのような時代か？	ヘーゲルの近代観の特徴を、ほかの諸思想との対比のなかで理解する。
第 11 回	哲学の根本問題について 8 世界を経験して、教養形成の旅	哲学史のなかの奇書『精神現象学』を取り上げる。

第 12 回	現代世界と哲学について 社会をグランドデザインするとはどういうことか？	『法（権利）の哲学』（1820 年）を通して、このテーマにアプローチする。
第 13 回	現代日本と哲学について 人類に発展はあるか？	『世界史の哲学講義』を通して、この問題にアプローチし、あわせて、後世ならびに日本への影響を扱う。
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	秋学期にとりあげた諸問題をふりかえり、論点の整理をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を下読みしていただくのがぞましい。講義を聴いて、感想、質問などをリアクションペーパーに書くことを通して、理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

滝口清栄『ヘーゲル哲学入門』（社会評論社、1800 円）

【参考書】

広松渉・加藤尚武編『ヘーゲル・セレクション』（平凡社ライブラリー、1500 円）

【成績評価の方法と基準】

学期末授業内試験 9 0 %、平常点 1 0 %として、それらを総合して成績を出します。

【学生の意見等からの気づき】

「授業改善アンケート」では、授業中の私語について、きちんと対処しているので、静かな雰囲気の中で、講義を聴けるという評価を得ています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

In general the philosophy aims for criticizing old ways of thinking and new ways of thinking. From this perspective this course explains major theories from ancient times to modern times. In particular this course deals with Hegels philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ

2016 年度以前入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 1 年 I～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。また、比較思想的考察により、東西両哲学思想それぞれの思考法等の特徴と差異についても学ぶ予定です。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：

- ・アイデア説の哲学史上の意味
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか
- ・原理・真理等についての東西両哲学思想それぞれの考え方の特徴と差異

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式。テキストを解説し、資料を用いて補足説明するという形で、授業を進めていきます。

毎回の授業終了時に小テストを行います。（正解した者から退出可能となります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	原理の探求
第 3 回	哲学の基本的性格 2	ヘラクレイトス・ロゴス 原理の探求と懐疑的方法 生成・運動・変化の否定 多元論・原子論 原子と認識の対象
第 4 回	哲学の歴史 1	ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快樂主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン（2） アイデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン（3） アイデア説批判 アイデア説の意味
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン（4） 知性（ヌース）と神
第 9 回	哲学の基本問題 1	変化と運動の説明原理 アリストテレス
第 10 回	哲学の基本問題 2	モラルの危機と哲学
第 11 回	哲学の基本問題 3	世界像と哲学
第 12 回	哲学の基本問題 4	一元論思想とその問題点 一元論思想と宗教 東西の一元論思想
第 13 回	哲学の基本問題 5	原理・真理観についての比較思想的考察
第 14 回	哲学Ⅰのまとめ	まとめ 授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読

授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料はプリントで配布しますが、授業支援システムでも公開します。（履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末筆記試験の成績（80％）と平常点（20％）とに基づき評価。

学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業終了時に行う小テストが学生の授業理解度を上げているようです。これからも続けていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with ancient Western philosophy. Through an overview of that philosophy this course gives an explanation of the common and general characteristics of Western philosophy.

This course also gives students an understanding of the common characteristics and difference between ancient Eastern and Western philosophies by means of comparative study.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ

2016 年度以前入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 1 年 I～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。
この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式。テキストを解説し、資料を用いて補足説明する形で、授業を進めていきます。
毎回の授業終了時に小テストを行います。（正解した者から退出可能となります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教
第 2 回	哲学の基本的性格 1	アウグスティヌス 普遍とは？ 唯名論・実在論
第 3 回	哲学の基本的性格 2	オッカムの剃刀 近代の学問と世界像
第 4 回	哲学の根本問題について 1	自然観・社会観の変更 近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値
第 5 回	哲学の根本問題について 2	認識の確実性・客観性 デカルトの二元論
第 6 回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第 7 回	哲学の根本問題について 4	共有可能な知識とは？ イギリス経験論
第 8 回	哲学の根本問題について 5	客観性は成立するのか？ ヒューム 合理論・経験論からカントへ
第 9 回	哲学の根本問題について 6	カントの超越論的哲学 認識の客観性
第 10 回	哲学の根本問題について 7	カントと近代哲学の難問 （カント哲学の意義と問題点）
第 11 回	哲学の根本問題について 8	超越論的哲学の展開（近代哲学の難問との関連から）
第 12 回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法
第 13 回	現代日本と哲学について	比較思想的考察 ニーチェと仏教 「生きること」それ自体に意味はあるのか？
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	まとめ 授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読。
授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読。

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料はプリントで配布しますが、授業支援システムでも公開します。（履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末筆記試験の成績（80％）と平常点（20％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を使用することで、哲学上の難問についても、学生の理解度は上がっていると思いました。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes. This course gives an explanation of the problems arisen from Descartes' dualism and Kant's and Husserl's solutions to the problems. This course also gives students an understanding of the problem of nihilism pointed out by Nietzsche and his solutions to the problem.

PHL100LA

哲学Ⅰ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ 2016 年度以前入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。
この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。また、比較思想的考察により、東西両哲学思想それぞれの思考法等の特徴と差異についても学ぶ予定です。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：
・アイデア説の哲学史上の意味
・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか
・原理・真理等についての東西両哲学思想それぞれの考え方の特徴と差異

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式。テキストを解説し、資料を用いて補足説明するという形で、授業を進めていきます。
毎回の授業終了時に小テストを行います。（正解した者から退出可能となります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	原理の探求
第 3 回	哲学の基本的性格 2	ヘラクレイトス・ロゴス 原理の探求と懐疑的方法 生成・運動・変化の否定 多元論・原子論 原子と認識の対象
第 4 回	哲学の歴史 1	ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快樂主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン（2） アイデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン（3） アイデア説批判 アイデア説の意味
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン（4） 知性（ヌース）と神
第 9 回	哲学の基本問題 1	変化と運動の説明原理 アリストテレス
第 10 回	哲学の基本問題 2	モラルの危機と哲学
第 11 回	哲学の基本問題 3	世界像と哲学
第 12 回	哲学の基本問題 4	一元論思想とその問題点 一元論思想と宗教 東西の一元論思想
第 13 回	哲学の基本問題 5	原理・真理観についての比較思想的考察
第 14 回	哲学Ⅰのまとめ	まとめ 授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読
授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料はプリントで配布しますが、授業支援システムでも公開します。（履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末筆記試験の成績（80％）と平常点（20％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業終了時に行う小テストが学生の授業理解度を上げているようです。これからも続けていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with ancient Western philosophy. Through an overview of that philosophy this course gives an explanation of the common and general characteristics of Western philosophy. This course also gives students an understanding of the common characteristics and difference between ancient Eastern and Western philosophies by means of comparative study.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ

2016 年度以前入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。
この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式。テキストを解説し、資料を用いて補足説明する形で、授業を進めていきます。
毎回の授業終了時に小テストを行います。（正解した者から退出可能となります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教
第 2 回	哲学の基本的性格 1	アウグスティヌス 普遍とは？ 唯名論・実在論
第 3 回	哲学の基本的性格 2	オッカムの剃刀 近代の学問と世界像
第 4 回	哲学の根本問題について 1	自然観・社会観の変更 近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値
第 5 回	哲学の根本問題について 2	認識の確実性・客観性 デカルトの二元論
第 6 回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第 7 回	哲学の根本問題について 4	共有可能な知識とは？ イギリス経験論
第 8 回	哲学の根本問題について 5	客観性は成立するのか？ ヒューム 合理論・経験論からカントへ
第 9 回	哲学の根本問題について 6	カントの超越論的哲学 認識の客観性
第 10 回	哲学の根本問題について 7	カントと近代哲学の難問 （カント哲学の意義と問題点）
第 11 回	哲学の根本問題について 8	超越論的哲学の展開（近代哲学の難問との関連から） ニヒリズム
第 12 回	現代世界と哲学について	ニーチェの対応法 比較思想的考察
第 13 回	現代日本と哲学について	ニーチェと仏教 「生きること」それ自体に意味はあるのか？
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	まとめ 授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読。
授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読。

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料はプリントで配布しますが、授業支援システムでも公開します。（履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。）

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末筆記試験の成績（80％）と平常点（20％）とに基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を使用することで、哲学上の難問についても、学生の理解度は上がっていると思いました。

【Outline and objectives】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes. This course gives an explanation of the problems arisen from Descartes' dualism and Kant's and Husserl's solutions to the problems. This course also gives students an understanding of the problem of nihilism pointed out by Nietzsche and his solutions to the problem.

PHL100LA

哲学Ⅰ2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ2016 年度以前入学者

君嶋 泰明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
文 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学とは大雑把にいうと、私たちの生きる「生」や「現実」の成り立ちを、適切な概念でもって捉えようとする試みです。この授業では、そうした哲学の仕事の一端を見てみたいと思います。
私たちの生や現実の成り立ちは単純ではありません。それゆえそれを捉えようとする概念にも、相応の精密さが求められることになります。春学期は、私たちの「生」の成り立ちに深くかかわっていると思われる、「幸福」、「価値」、「行為」およびその「理由」の概念に焦点を絞り、それらについて可能な限り行き届いた理解を得ることを目指します。

【到達目標】
(A) 上記の概念について行き届いた理解を得る。
(B) それらの概念を使って自分の生の成り立ちについてある程度説明できるようになる。
(C) 以上を通じて哲学の仕事がどのようなものかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。適宜リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方と概要の説明
第 2 回	幸福①	幸福の多義性と各種理論①
第 3 回	幸福②	幸福の多義性と各種理論②
第 4 回	幸福③	幸福と経験科学
第 5 回	幸福④	幸福はなぜ、どの程度重要か
第 6 回	価値①	さまざまな「よさ」
第 7 回	価値②	それ自身の価値とそうでない価値①
第 8 回	価値③	それ自身の価値とそうでない価値②
第 9 回	価値④	価値と行為
第 10 回	行為①	行為とは何か
第 11 回	行為②	行為のさまざまな理由①
第 12 回	行為③	行為のさまざまな理由②
第 13 回	行為④	行為のさまざまな理由③
第 14 回	まとめ	概念の地図を描く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で指示される参考書によく目を通して授業に臨み、授業後は、配布資料やノートを使って授業内容をよく復習します。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】
授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 40%、期末試験が 60%です。前者はリアクションペーパーの内容や授業での積極的な質問を評価の対象とします。後者では上記の到達目標がどれだけ達成されているかを見ます。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より新任につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】
Roughly speaking, philosophy is an attempt to grasp the structure of our lives or our realities with appropriate concepts. In this course, we will see some of its work.
The structure of our lives or our realities is not simple, thus the concepts with which one tries to grasp it need to be adequately elaborated. In the spring semester, we will focus on the concepts of "happiness," "value," "action," and its "reasons," which are apparently deeply involved in the structure of our lives, and aim to acquire as detailed an understanding of them as possible.

PHL100LA

哲学Ⅱ2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ2016 年度以前入学者

君嶋 泰明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
文 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学とは大雑把にいうと、私たちの生きる「生」や「現実」の成り立ちを、適切な概念でもって捉えようとする試みです。この授業では、そうした哲学の仕事の一端を見てみたいと思います。
私たちの生や現実の成り立ちは単純ではありません。それゆえそれを捉えようとする概念にも、相応の精密さが求められることになります。秋学期は、私たちの「現実」の成り立ちに深くかかわっているはずの「技術」、そしてそれに関連する「人工物」、「自然種」、「本質」といった概念に焦点を絞り、それらについて可能な限り行き届いた理解を得ることを目指します。

【到達目標】
(A) 上記の概念について行き届いた理解を得る。
(B) それらの概念を使って現実の成り立ちについてある程度説明できるようになる。
(C) 以上を通じて哲学の仕事がどのようなものかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。適宜リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方と概要の説明
第 2 回	技術①	技術と哲学
第 3 回	技術②	関連するトピック
第 4 回	人工物①	人工物とは何か
第 5 回	人工物②	いかにして人工物を識別するか
第 6 回	自然種①	自然種とは何か
第 7 回	自然種②	自然種と科学
第 8 回	本質①	ソータル①
第 9 回	本質②	ソータル②
第 10 回	本質③	本質と偶然的性質①
第 11 回	本質④	本質と偶然的性質②
第 12 回	技術③	技術と倫理
第 13 回	技術④	技術と現実
第 14 回	まとめ	概念の地図を描く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で指示される参考書によく目を通して授業に臨み、授業後は、配布資料やノートを使って授業内容をよく復習します。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】
授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 40%、期末試験が 60%です。前者はリアクションペーパーの内容や授業での積極的な質問を評価の対象とします。後者では上記の到達目標がどれだけ達成されているかを見ます。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より新任につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】
Roughly speaking, philosophy is an attempt to grasp the structure of our lives or our realities with appropriate concepts. In this course, we will see some of its work.
The structure of our lives or our realities is not simple, thus the concepts with which one tries to grasp it need to be adequately elaborated. In the fall semester, we will focus on the concept of "technology," which must be deeply involved in the structure of our realities, and some related concepts such as "artifact," "natural kinds," and "essence," and aim to acquire as detailed an understanding of them as possible.

PHL100LA

哲学Ⅰ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ 2016 年度以前入学者

伊藤 功

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
文 1 年 W～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を主として授業を進めます。予備知識がなくとも理解できるよう平易な解説を心掛け、哲学以外の分野にも素材を求めます。また、リアクションペーパーの提出を通じて各自が自分の意見をまとめられるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	講義の概観
第 2 回	哲学の基本的性格 1—哲学の問い	心の外にかんする懐疑
第 3 回	哲学の基本的性格 2—哲学の暫定的定義と方法	他人の心にかんする懐疑
第 4 回	哲学の歴史 1—古代	正義
第 5 回	哲学の歴史 2—中世	悪
第 6 回	哲学の歴史 3—近世	道徳
第 7 回	哲学の歴史 4—現代前編	自己
第 8 回	哲学の歴史 5—現代後編	他者
第 9 回	哲学の基本問題 1—現実世界について	現実
第 10 回	哲学の基本問題 2—現実と虚構の区別について	虚構
第 11 回	哲学の基本問題 3—運命と自由意志の関係について	自由
第 12 回	哲学の基本問題 4—行為の因果性について	運
第 13 回	哲学の基本問題 5—生命に目的はあるか？	生命
第 14 回	哲学Ⅰのまとめ	論点の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介された文献や資料に自らあたり、理解を整理しておく。

【テキスト（教科書）】

使用テキストは開講時に紹介します。

【参考書】

その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。配分は試験 70 %、平常点 30 %です。試験はどれだけ授業内容を正確に理解し自分の考えを展開できるようになったかを記述式の問題で評価。試験は平常点は自分で考えながらどれだけ授業に取り組めているかを主にリアクションペーパーの内容に基づいて評価。

【学生の意見等からの気づき】

出席者同士が相互に学び合えるようリアクションペーパーの扱いなどを工夫したい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic character, history and basic problems of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ 2016 年度以前入学者

伊藤 功

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
文 1 年 W～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平易に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を主として授業を進めます。予備知識がなくとも理解できるよう平易な解説を心掛け、哲学以外の分野にも素材を求めます。また、リアクションペーパーの提出を通じて各自が自分の意見をまとめられるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義の概要
第 2 回	哲学の基本的性格 1—哲学の暫定的定義と方法	理性
第 3 回	哲学の基本的性格 2—哲学の懐疑	感情
第 4 回	哲学の根本問題について 1—現実世界について	技術
第 5 回	哲学の根本問題について 2—科学的世界像について	科学
第 6 回	哲学の根本問題について 3—言語について	言葉の意味
第 7 回	哲学の根本問題について 4—個人の自由について	自由
第 8 回	哲学の根本問題について 5—幸福について	幸福
第 9 回	哲学の根本問題について 6—我執について	愛
第 10 回	哲学の根本問題について 7—道徳について	道徳
第 11 回	哲学の根本問題について 8—死について	死
第 12 回	現代世界と哲学について	所有
第 13 回	現代日本と哲学について	生きる意味
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	論点の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介された文献や資料に自らあたり、理解を整理しておく。

【テキスト（教科書）】

開講時に紹介します。

【参考書】

参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。配分は試験 70 %、平常点 30 %です。試験はどれだけ授業内容を正確に理解し自分の考えを展開できるようになったかを記述式の問題で評価。試験は平常点は自分で考えながらどれだけ授業に取り組めているかを主にリアクションペーパーの内容に基づいて評価。

【学生の意見等からの気づき】

参加者が相互に学び合えるようリアクションペーパーの扱いなどを工夫したい。

【Outline and objectives】

Philosophy criticizes the old common sense and creates new common sense. From this point of view, this course deals with the fundamental problems of philosophy from ancient times to the present.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ

2016 年度以前入学者

谷口 力

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
 営 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。
 この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを通読しながら、「世界」、および、「世界」に関するいくつかの論理的な問題（存在論、認識論、言語論、など）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。
 この授業では、主として、次のような理解を目標とします。
 ・古代ギリシャ哲学における世界の原理について理解する。
 ・大陸合理論における世界の構造について理解する。
 ・イギリス経験論における世界の認識について理解する。
 ・近代ドイツ哲学における世界の説明について理解する。
 ・19～20 世紀哲学における世界の解釈について理解する。
 ・現代分析哲学における世界の分析について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について簡潔に説明した上で、各哲学者の議論に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、また、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション～哲学の基本的性格	・この授業について ・哲学とは何か
第 2 回	哲学の歴史～哲学の基本問題 1	・西洋哲学史全体の流れ ・ソクラテス以前の哲学者たち①（さまざまなアルケー）
第 3 回	哲学の基本問題 2 ：古代ギリシャ哲学（1） ：古代ギリシャ哲学（2）	・ソクラテス以前の哲学者たち②（有、ゼノンのパラドックス、流動説、ヌース）
第 4 回	哲学の基本問題 3 ：古代ギリシャ哲学（3）	・ソクラテス（無知の知） ・プラトン①（イデア論）
第 5 回	哲学の基本問題 4 ：古代ギリシャ哲学（4）	・プラトン②（知識とは何か） ・アリストテレス（四原理、デュナミスとエネルゲイア） ・プロティノス（一者、流出説）
第 6 回	哲学の基本問題 5 ：大陸合理論（1）	・近代への過渡期 ・デカルト（実体、神、精神、物体）
第 7 回	哲学の基本問題 6 ：大陸合理論（2）	・スピノザ（実体、属性、様態） ・ライプニッツ（モノドロジー、最善世界説）
第 8 回	哲学の基本問題 7 ：イギリス経験論（1）	・ロック（経験と観念） ・ヒューム（因果律の否定）
第 9 回	哲学の基本問題 8 ：イギリス経験論（2）	・バークリ（物質的実体の否定）
第 10 回	哲学の基本問題 9 ：近代ドイツ哲学（1）	・カント（感性と悟性、カテゴリーと図式、ア・プリオリな総合判断）
第 11 回	哲学の基本問題 10 ：近代ドイツ哲学（2）	・フィヒテ（自我と非我） ・シェリング（主客の無差別） ・ヘーゲル（絶対者の自己発展、弁証法）
第 12 回	哲学の基本問題 11 ：19～20 世紀哲学	・ショーペンハウアー（意志と表象） ・ニーチェ（真理らしさ、パースペクティヴ） ・ハイデガー（世界- 内- 存在）

第 13 回	哲学の基本問題 12 ：現代分析哲学（1）	・ウィトゲンシュタイン（事実の総体、言語批判、語りえぬもの）
第 14 回	哲学の基本問題 13 ：現代分析哲学（2）～哲学Ⅰのまとめ	・その他の現代形而上学（世界 5 分前仮説、世界制作の方法、可能世界、など） ・試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
 授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いません。授業時にレジュメを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

Semester 末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、基本的に、期末試験 50%、平常点 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline and objectives】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: ‘ world ’ and some related logical problems of ‘ world ’ (ontology, epistemology, linguistic theory, etc.).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ

2016 年度以前入学者

谷口 力

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

営 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平易に解説します。

この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを通読しながら、「心」、および、「心」に関するいくつかの倫理的な問題（価値、道徳、生、など）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

この授業では、主として、次のような理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における心の原理について理解する。
- ・大陸合理論における心の構造について理解する。
- ・イギリス経験論にける心の認識について理解する。
- ・近代ドイツ哲学における心の説明について理解する。
- ・19～20 世紀哲学における心の解釈について理解する。
- ・現代分析哲学における心の分析について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について簡潔に説明した上で、各哲学者の議論に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、また、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション～哲学の基本的性格	・この授業について ・心の哲学とは何か ・西洋哲学史全体の流れ
第 2 回	哲学の根本問題について 1	・ソクラテス（徳の知、死） ・プラトン①（プシュケー、ハデス、想起説）
第 3 回	哲学の根本問題について 2	・プラトン②（魂の正しさ） ・アリストテレス（アニマ）
第 4 回	哲学の根本問題について 3	・デカルト（コギト、心身二元論） ・スピノザ（神、善悪の相対性） ・ライプニッツ（モナド）
第 5 回	哲学の根本問題について 4	・ロック（タブラ・ラサ、感覚と反省） ・ヒューム（知覚の束、同一性の否定） ・パークリ（存在するとは知覚されることである）
第 6 回	哲学の根本問題について 5	・カント（先験的仮象、実践的要請、定言命法）
第 7 回	哲学の根本問題について 6	・フィヒテ（自我） ・ヘーゲル（精神現象学）
第 8 回	哲学の根本問題について 7	・シュティルナー（唯一者） ・ニーチェ（身体、エス） ・フッサール（志向性）
第 9 回	哲学の根本問題について 8	・前期ウイトゲンシュタイン（独我論の貫徹、視野の比喩、世界の意義） ・ライル（カテゴリー- ミステイク、行動主義）
第 10 回	哲学の根本問題について 9	・その他の現代の心の哲学①（同一説、機能主義、消去主義、クオリア、など） ・現代分析哲学（2）

第 11 回	哲学の根本問題について 10	・その他の現代の心の哲学②（随伴現象説、性質二元論、非法則的一元論、認知的閉鎖、など）
第 12 回	哲学の根本問題について 11	・その他の現代の心の哲学③（外在主義と内在主義、さまざまな思考実験）
第 13 回	哲学の根本問題について 12	・後期ウイトゲンシュタイン（生きている人間、目、まなざし、微笑み）
第 14 回	哲学の根本問題について 13	・炎のたとえ ・心の哲学が教えること ・試験について

世界および日本と哲学について～哲学Ⅱのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いません。授業時にレジュメを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

Semester 末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、基本的に、期末試験 50%、平常点 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline and objectives】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: ° mind ° and some related ethical problems of ° mind ° (value, moral, life, etc.).

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ

2016 年度以前入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
 営 1 年 J～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

特にこのⅠの講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何か切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅰのオリエンテーション	ガイダンス 哲学とは？
2	哲学の基本的性格 1	プラトン (1) 「イデアの萌芽」としての人間存在
3	哲学の基本的性格 2	プラトン (2) 『饗宴』アリストファネスの話
4	哲学の歴史 1	プラトン (3) 『饗宴』ソクラテスの話
5	哲学の歴史 2	西田幾多郎 (1) 『善の研究』-「知即愛」の命題
6	哲学の歴史 3	西田幾多郎 (2) 「主客合一」としての人間存在
7	哲学の歴史 4	和辻哲郎 (1) 『倫理学』-「問柄」としての人間存在
8	哲学の歴史 5	和辻哲郎 (2) 「矛盾の統一」としての人間存在
9	哲学の基本問題 1	和辻哲郎 (3) 『風土』-「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	哲学の基本問題 2	和辻哲郎 (4) 主体としての風土
11	哲学の基本問題 3	ブーバー (1) 「我と汝」
12	哲学の基本問題 4	ブーバー (2) 「汝」としての世界
13	哲学の基本問題 5	ブーバー (3) 「本質行為」としての人間
14	哲学Ⅰのまとめ	ふりかえりと試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』（一）、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』

復習として、講義の内容をノートで整理すること。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、期末試験 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末の参照可テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline and objectives】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ

2016 年度以前入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 曜日・時限：土 2/Sat.2
 営 1 年 J～U ／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間の欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	ガイダンス 哲学への導入
2	哲学の基本的性格 1	今西錦司 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
3	哲学の基本的性格 2	その 2 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
4	哲学の根本問題について 1	アリストテレス 自己形成的世界観としての形而上学
5	哲学の根本問題について 2	その 2 自己形成的世界観としての形而上学
6	哲学の根本問題について 3	自己形成的世界観の展開としての近代哲学 近代化の原理としての主観客観二元論
7	哲学の根本問題について 4	デカルトの近代的世界観 近代的主客二元論
8	哲学の根本問題について 5	デカルト (2) 近代的主客二元論
9	哲学の根本問題について 6	デカルト (3) 「近代の分裂」の予告としての近代的主客二元論
10	哲学の根本問題について 7	「近代化」と「近代の分裂」の原理としての主客二元論 近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	哲学の根本問題について 8	カントとヘーゲル カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	現代世界と哲学について	カントとヘーゲル カントのアンチノミー論
13	現代日本と哲学について	カントとヘーゲル ヘーゲルの弁証法的世界観
14	哲学Ⅱのまとめ	カントとヘーゲル ヘーゲルの弁証法的世界観その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。
 今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』
 復習として、講義の内容をノートで整理すること。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、期末試験 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末の参照可テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline and objectives】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

PHL100LA	
哲学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅰ	2016 年度以前入学者
近堂 秀	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 3/Thu.3 文 1 年 L～R、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広げて新しい視野から考えることを目的とします。

【到達目標】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題の概観を通して、知ることの意味を捉え直します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。基本的に講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	学問としての哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	自然を知ること—自然哲学—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	人間を知ること—ソクラテス—
第 4 回	哲学の歴史 1	知の可能性について 1—プラトン—
第 5 回	哲学の歴史 2	知の可能性について 2—アリストテレス—
第 6 回	哲学の基本問題 1	『国家』を読む
第 7 回	哲学の歴史 3	信仰と知—中世哲学—
第 8 回	哲学の歴史 4	人間的理性について—近代哲学—
第 9 回	哲学の歴史 5	考えることと感ずること 1—大陸合理論—
第 10 回	哲学の歴史 6	考えることと感ずること 2—イギリス経験論—
第 11 回	哲学の基本問題 2	『方法序説』を読む
第 12 回	哲学の歴史 7	自然と自由—カント—
第 13 回	哲学の歴史 8	社会と歴史を知ること—ドイツ観念論—
第 14 回	哲学の基本問題 3	人間の知のあり方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容、到達目標と内容理解度のバランスを考えます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and history of philosophy.

PHL100LA	
哲学Ⅱ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
哲学Ⅱ	2016 年度以前入学者
近堂 秀	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 3/Thu.3 文 1 年 L～R、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。カントの世界市民主義の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。基本的に講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	時代状況と哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	近代の哲学思想 1—デカルト—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の哲学思想 2—ロック—
第 4 回	哲学の基本的性格 3	カント哲学の概要
第 5 回	哲学の根本問題について 1	カントの理論哲学 1—『純粋理性批判』の内容—
第 6 回	哲学の根本問題について 2	カントの理論哲学 2—「純粋悟性概念の演繹について」—
第 7 回	哲学の根本問題について 3	『純粋理性批判』を読む 1—第一版演繹—
第 8 回	哲学の根本問題について 4	『純粋理性批判』を読む 2—第二版演繹—
第 9 回	哲学の根本問題について 5	カントの実践哲学 1—純粋実践理性の根本法則—
第 10 回	哲学の根本問題について 6	カントの実践哲学 2—人格と自由—
第 11 回	現代世界と哲学について 1	カント哲学の解釈
第 12 回	現代世界と哲学について 2	カントの政治思想
第 13 回	現代世界と哲学について 3	カントの世界市民主義
第 14 回	現代日本と哲学について まとめ	グローバル化時代の哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容、到達目標と内容理解度のバランスを考えます。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of Kant's philosophy to students taking this course.

PHL100LA

哲学Ⅰ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ 2016 年度以前入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 1 年 T～V、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考えます。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。特にこの講義では、人間存在（自己）の哲学的在り方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。思想家の言葉を見ながら、その意味を理解していくことを中心とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	講義全体の外観とシラバスの解説
第 2 回	哲学の基本的性格 1—哲学の暫定的定義と方法	「愛知」としての哲学と自己
第 3 回	哲学の基本的性格 2—哲学の問い	哲学と科学の関連と相違
第 4 回	哲学の歴史 1—近代①	ニーチェ：解釈論と試みとしての哲学
第 5 回	哲学の歴史 2—近代②	ニーチェ：超人、自己、運命愛
第 6 回	哲学の歴史 3—現代①	ヤスパース：実存と永遠
第 7 回	哲学の歴史 4—現代②	ヤスパース：超越者の「言葉」
第 8 回	哲学の基本問題 1—死について①	ハイデガー：死に関わる人間存在
第 9 回	哲学の基本問題 2—死について②	ドストエフスキー：死と魂の不滅
第 10 回	哲学の基本問題 3—現実と非現実について	ドストエフスキー：悪魔の存在
第 11 回	哲学の基本問題 4—人生に目的はあるか？	清沢満之：絶対無限と自己
第 12 回	哲学の歴史 5—古代	エピクテトス：我執、運命、自由意志
第 13 回	哲学の歴史 6—中世	証空：浄土教における無限者との一体化
第 14 回	哲学Ⅰのまとめ	授業のまとめと展望、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントを読み返すこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（60％くらい）と平常点（40％くらい）の2つにより、総合的に評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline and objectives】

This course deals with the defining characteristics, the history and the questions of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ 2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ 2016 年度以前入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 1 年 T～V、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、通俗的常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、通俗的な意識への批判（存在意識の変革）であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。特にこの講義では、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な状況をも意識しつつ、理解し説明できることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。思想家の言葉を見ながら、その意味を理解していくことを中心とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第 2 回	哲学の基本的性格—哲学の暫定的定義と方法、哲学の懐疑	哲学することの動機
第 3 回	哲学の根本問題について 1—科学的認識と行為の因果性について	カントの認識論
第 4 回	哲学の根本問題について 2—道徳、自由、幸福について	カント：道徳と宗教
第 5 回	哲学の根本問題について 3—現実世界と人間存在について	ヤスパース：包摂者論
第 6 回	哲学の根本問題について 4—真理について	ヤスパース：理性と交わり
第 7 回	哲学の根本問題について 5—哲学的世界像について	古代ギリシャの存在論
第 8 回	哲学の根本問題について 6—現実世界の運動について	ヘーゲルの弁証法
第 9 回	現代日本と哲学について 1	夏目漱石：現代日本批判と自己本位
第 10 回	現代日本と哲学について 2	夏目漱石：道と天
第 11 回	現代世界と哲学について 1	小林秀雄：信じられる自己
第 12 回	現代世界と哲学について 2	小林秀雄：言葉、物、美
第 13 回	現代世界と哲学について 3	小林秀雄：西洋と日本、自己を超える存在
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	授業のまとめと展望、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントを読み返すこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（60％くらい）と平常点（40％くらい）の2つにより総合的に評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic subjects of philosophy from ancient to modern times in the critique of a commonly held view.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅰ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：哲学の源流を辿って

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学というと難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指している。善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、幸せのために、哲学を学ぶことが必要とされている。

【到達目標】

学生は、まずはオーソドックスな哲学の基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。哲学はあらゆる学問の基礎である。何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大なる信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

哲学（Ⅰ）では、哲学の源である古代ギリシア哲学に遡って、哲学とは何か、その根本的な特徴を捉えた上で、哲学はその他の学問や科学とはどう異なるのか、また、なぜ哲学が必要とされるのかなどを探ってみたい。授業は基本的にプリントを用いた講義形式である。哲学者たちの生き方をめぐるエピソードなども交えながら、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義してゆく。補助資料によって著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めてゆきたい。毎回の学生のコメントや質問に丁寧に答えて、わかりやすい授業を目指す。出席を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	足の裏に影はあるか？
2	哲学の基本的性格 1	「哲学」とは何か？
3	哲学の基本的性格 2	ギリシアにおける「哲学」の誕生
4	哲学の歴史 1 （哲学の出発点 1）	無知の自覚と愛知
5	哲学の歴史 2 （哲学の出発点 2）	ソクラテスの無知の自覚
6	哲学の歴史 3 （哲学の出発点 3）	懐疑、驚き、絶望…（デカルト～ヤスパース）
7	哲学の歴史 4 （哲学の究極）	愛についての考察・イデア論とプラトニックラブ
8	哲学の歴史 5 （哲学とは何か・まとめ）	愛の 3 つの対象と知への愛
9	哲学の基本問題 1 （哲学と科学 1）	知についての考察——哲学と学問知
10	哲学の基本問題 2 （哲学と科学 2）	対象の違い——部分と全体、本質と現象
11	哲学の基本問題 3 （哲学と科学 3）	方法の違い——仮説と真理、分析と反省
12	哲学の基本問題 4 （哲学と科学 4）	事実と価値・目的と手段
13	哲学の基本問題 5 （哲学と科学 5）	主体知と客体知・相補性
14	哲学Ⅰ まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた著作を、実際に手に取って読んでみることを。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、下記の参考書を何冊か読むこと。

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山 勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房
『哲学の歴史』 1～5、中央公論新社
『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書
『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と学期末試験（60％）によって評価する。出席は3分の2以上。試験は、手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさをじっくり伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。授業中の私語と、板書の写メ、スマホは禁止する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to science.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

哲学Ⅱ

2016 年度以前入学者

サブタイトル：哲学から考える宗教と人間の幸福

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

法1年S～Y／法文営国環キ2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学Ⅱでは、「Ⅲ. 哲学と宗教」、「Ⅳ. 哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることのできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探索する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと思っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？ 幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

【到達目標】

西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教というものについて、付かず離れずに見る視点を確保することができるだろう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」と「知る」とこととの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？ 古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが、理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリントを用いた講義形式で進めます。まずは、哲学と宗教の根本的相違点である知と信の問題に触れる。その上で、ユダヤ教、キリスト教、ギリシア哲学者たちの神観などについて、補助プリントやDVDなども用いて概要を把握した上で、哲学と宗教との関わりについて考えたい。また、補助資料によって、哲学者たちの生き方をめぐるユニークなエピソードなども交えながら、著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義して理解を深めてゆきたい。

毎回の学生のコメントや質問に丁寧に答えて、分かりやすい授業を目指します。出席を重視します。なるべく哲学Ⅰから取るようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	哲学とは何か?哲学と科学と宗教
2	哲学の基本的性格1	哲学と宗教の相違点——知の立場と信の立場
3	哲学の基本的性格2 (宗教の予備学習1)	ユダヤ教とキリスト教
4	哲学の基本的性格3 (宗教の予備学習2)	キリスト教——愛の宗教
5	哲学の根本問題について1 (哲学と宗教1)	知と信の葛藤——ギリシア哲学とキリスト教
6	哲学の根本問題について2 (哲学と宗教2)	現代における宗教の存在理由——理性の偉大さとその限界
7	哲学の根本問題について3 (哲学と宗教3)	宗教心の源泉——パスカル『パンセ』より

8	哲学の根本問題について 4 (哲学と宗教 4)	自由意志と悪の問題——パスカルとアウグスティヌス
9	哲学の根本問題について 5 (哲学と宗教 5)	自力と他力——人間の強さと弱さについて
10	現代日本と哲学について (哲学と幸福 1)	幸福論——哲学とよき生について
11	現代日本と哲学について (哲学と幸福 2)	意志の弱さと選択の問題
12	現代世界と哲学について (哲学と幸福 3)	正義と幸福——ソクラテスの場合
13	現代世界と哲学について (幸福論の系譜)	ソクラテスの後継者たち——禁欲主義と快楽主義
14	哲学Ⅱ まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れて、興味を持った哲学者の著作を、自分で手に取って読んでみて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、下記の参考書を何冊か読むこと。

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』

内山 勝利、中川 純男著、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』 1～5、中央公論新社

『哲学のすすめ』 岩崎武雄、講談社現代新書

『はじめて学ぶ哲学』 渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と学期末試験（60％）によって評価する。出席は3分の2以上。試験は手書きのノートと配布プリントのみ持ち込み可。授業で扱った内容をめぐる論述形式。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、じっくり哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさを伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。授業中の私語と板書の写メ、スマホは禁止する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to religion. And also this course introduces the philosophical theory of eudaemonics (happiness) to students taking this course.

PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
倫理学Ⅰ	2016 年度以前入学者
越部 良一	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常の生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。思想家の言葉を見ながら、その意味を理解していくことを中心とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学の根本問題、善、自己、社会（共同体）、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」
第 11 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	カント倫理学② 自由とは何か？
第 12 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	功利主義（ベンサム、ミル）
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？	社会契約論
第 14 回	授業のまとめ	授業のまとめと展望、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントを読み返すこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（60％くらい）と平常点（40％くらい）の2つにより、総合的に評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理学的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第 2 回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第 3 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第 7 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第 8 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第 9 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第 10 回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）
第 11 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	世代間倫理（フレチェット）
第 12 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	責任という原理（ヨナス）
第 13 回	何が暴力を抑止するのか？	暴力と倫理学
第 14 回	授業のまとめ	授業のまとめと展望、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（60％くらい）と平常点（40％くらい）の2つにより、総合的に評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline and objectives】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学 I

2016 年度以前入学者

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

営 1 年 A～J、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（１） ——現に問うているのは誰か？	人間が人間の本質を問うという営みがどのようなものなのか考える。
第 2 回	人間とは何か？（２） ——世界内存在としての私	人間を「世界内存在」と捉えたハイデガーの思想を解説する。
第 3 回	人間とは何か？（３） ——私は世界とどのように関わるのか？	人間が世界を認識することができるのは精神的な働きによってである。その位置づけについて考察する。
第 4 回	私は何をなすべきか？ （１）——倫理学とは何か？	倫理学という学問の概要を倫理学の 3 つのレヴェルの違いという観点から解説する。
第 5 回	私は何をなすべきか？ （２）——絶対的な善とは何か？	「よい」という言葉の相対的な使用と絶対的な使用の区別について考える。
第 6 回	私は何をなすべきか？ （３）——アリストテレス倫理学	エウダイモニア（幸福）を中心とするアリストテレス倫理学の特徴を解説する。
第 7 回	私は何をなすべきか？ （４）——快楽主義とストア派の倫理学	生涯にわたる苦痛からの解放を求めるエピクロス派と自然に適合した行為を求めるストア派の思想を解説する。
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（１）——功利主義	公益の最大化をめざす利他主義的幸福主義の立場について考える。
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（２）——自由とは何か？	倫理学の人間学的前提である「自由意志」について考察する。
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（３）——カント倫理学	カント倫理学の概要を解説する。
第 11 回	私は法になかったことをなすべきか？（１）——法実証主義	現に通用している法律の妥当性が倫理的にどんな根拠に基づくのか考える。
第 12 回	私は法になかったことをなすべきか？（２）——社会契約論	ホブズの世界契約論、現代的な契約論ともいえるロールズの思想について解説する。
第 13 回	私は法になかったことをなすべきか？（３）——自由主義・共同体主義	社会的な目標より個人の権利を優先する「自由主義」と共同体にとっての善を重視する「共同体主義」について考える。
第 14 回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、見洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施する（ノート・テキストなどの参照不可）。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこなう（試験 60%・小テスト 40%）。

【学生の意見等からの気づき】

板書事項の改善。

【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

営 1 年 A～J、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）——「正義の戦争」はありうるか？	正戦論とはなにか、正戦論はどのような戦争を正当化するのか考える。
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）——暴力の倫理学	暴力という観点から戦争を考える。
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）——テロリズムと戦争	テロリズムについて戦争倫理学という観点から考察する。
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）——生存権／人権とは何か？	生存権をもつとはいかなることか、その前提条件は何かを考える。
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）——「生きるに値する命」とは何か？	「生きるに値する命」といった評価をおこなう可能性について考える。
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）——動物倫理学	シンガーの「動物解放論」にていて解説する。
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）——動物倫理学	動物倫理学と環境倫理学との関係について解説する。
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）——責任という原理（ヨナス）	ヨナスの責任概念を中心に相互性の問題について考える。
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）——科学技術の倫理	科学技術の発展がもたらす倫理問題を考える。
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）——世代間倫理	世代内倫理に対する世代間倫理について解説する。
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）——環境倫理学とは何か？	世代間倫理としての環境倫理学について解説する。
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）——持続可能な社会とは何か？	「持続可能性」という概念について倫理的な観点から考える。

第 13 回	環境は保護しなければならないのか？（3）—— 21 世紀の倫理学に向けて	なぜ地球環境を保護しなければならないのか、その理由を考える。
第 14 回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
浅見昇吾、森永審一郎（編）『教養としての応用倫理学』、丸善出版、2013 年など

【成績評価の方法と基準】

原則として毎時間小テストを実施するほか、期末試験を実施する（ノート・テキストなどの参照不可）。期末試験の成績に小テストの結果を加味して評価をおこなう（試験 60%・小テスト 40%）。

【学生の意見等からの気づき】

板書方法の改善。

【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学 I

2016 年度以前入学者

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

法 1 年 I～N・Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常の生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的、倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかをみてゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義
第 14 回	まとめ	まとめと授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年など

【成績評価の方法と基準】

学期末にテストを行なう。

成績評価の基準は次のようにする。

授業への貢献度 30% ◻ 小テスト 20% ◻ テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。コメントペーパーを見ていると、4月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

哲学的・倫理的に考えることが、少しずつですが定着していると思います。

【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

法 1 年 I～N・Y／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学 (allied ethics)」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的・倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかをみてゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）	暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）	テロリズムと戦争
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	生命倫理学
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第 13 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて
第 14 回	まとめ	これまでのまとめ、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年

ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年など

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポートを提出してもらいます。
成績評価の基準は次のようになります。
平常点35%；レポート65%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は次のような感想がありました。
「倫理学を1年間受講して、一貫して感じたのは、「わかっているようで、わからない」という感覚でした。頭の中では理解していても、それを表現するとなると行き詰まってしまう。結果的にわかっているけど、わからないという感覚が自分を襲います。私は倫理学の醍醐味はここにあると感じました。考え抜いても、明確な答えを見つけ出せない、この吟味し尽くすなかで、思想というのは形成されると思いました。」
次のようなものもありました。
「日常生活での話を取り入れて授業をしてくださったので、考えやすかったですし、自分の中で様々な考えを取り入れたり考えることが出来て良かったです。」
そして、昨年度は「哲学対話」を行ったので、それを踏まえて次のような感想がありました。
「教職に必要な単位のために取った授業だったが、この授業を履修して良かった。哲学対話では、基礎科目なのに対話をする授業なんてめんどくさいと考えていたが、実際にやってみると非常に楽しかった。
春秋通じて履修したが、秋学期の方が充実していたように感じる。
哲学対話は、積極的に行なっていくべきだと考える。
学生のリアクションペーパーに対するリアクションも毎回あって、他の人の考えを見るのは面白かった。」
次のようなものもありました。
「前期で哲学とは物事を根本から問い、考えそれを伝えることだと先生が仰っていたことがよく分かりました。何となく受け身でそういうもだと受け取るのではなく、なぜ？それは何？それで？と考えてみる習慣がついたと思います。2回行った哲学対話で、他学部の人のが考えが聞けて面白かったです。ものでした。」

【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

倫理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅰ

2016 年度以前入学者

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
文 1 年 A～N、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。
また本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたりしながら、皆さんが主体的に考えられるような授業を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	「私」とは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界の中にいるとはどういうことか？
第 3 回	人間とは何か？（3）	世界の様々な捉え方、世界と「私」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学：幸福な生とは何か？
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学：快楽と禁欲
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義：「万人の利益」が善なのか？
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か：自由意志と責任
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学：行為の道徳的価値と義務
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義：法律は絶対的に正しいのか？
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論：人民の主権と法の支配
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義：個人の権利と共同体的多元性
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみることに。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年など

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（20%）、期末試験またはレポート（80%）

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。

【Outline and objectives】

This course will introduce and survey the various basic concepts and theoretical framework of ethics. Students will gain practice the critical and philosophical thinking through this course.

During the first part of this course we will introduce the basic concepts and foundational theories of ethics. We will attempt to consider what is definition and what is value. In the second part of the course we will examine some specific topics through philosophical theme. Through this course, students will be able to recognize the importance of ethical values and consideration. In addition, students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

文 1 年 A～N、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学 (allied ethics)」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたりしながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第 2 回	何が暴力を抑止するか？（2）	暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するか？（3）	テロリズムと戦争
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	バイオテクノロジーの倫理
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第 13 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて
第 14 回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・レッカー、ハンス・ウーラハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年

ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
など

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（20 %）、期末試験またはレポート（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅰを受けてから受講すると、より理解しやすくなります。

【Outline and objectives】

This course will learn applied ethics with emphases on violence, technology, environment and sustainability. This course will recognize a variety of ethical issues and problems when confronted with examples of social and historical situations. By this course students will be able to understand what is applied ethics and why this field is important. In addition, through this course students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅰ

2016 年度以前入学者

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、基本的には、講義形式で行う。ただ、受講者各自の理解度を確認するために、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりである。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義
第 14 回	まとめ	まとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

倫理的問題は、私たちが日常生活を営むなかで様々な形で出会う問題が多い。それゆえ、受講生各自は、授業内で指示された様々な倫理学的な基本的文献を参考にしながら、自らの倫理的問題を意識することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・レッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（60 %）に加え、小論文（20 %）、リアクションペーパー（20 %）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

【その他の重要事項】

倫理学という学問の性質上、私たちが生きている現場で、実践知として生かされなければ、倫理学で学んだ知識は単なる「机上の空論」にすぎない。倫理学説の特徴を理解しながらも、各自がいきている場面で生かしていかない限り、倫理学的知は身につかない。したがって、授業に参加するだけでなく、自ら日常生活の中で、日頃から倫理観を問い直す姿勢をもつようにしてもらいたい。

【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に、講義形式で行われる。ただ、授業で取り上げる応用倫理学的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）	暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）	テロリズムと戦争
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	動物倫理学
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第 13 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて
第 14 回	まとめ	まとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

応用倫理学の領域は多岐に渡るため、受講生各自はそれぞれの興味関心のままだに倫理的問題にアプローチすることができる。それゆえ、自分が興味のあるテーマについての様々な文献をよみ、自らの倫理観を見直すように努めてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年

加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
 加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
 ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
 など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（60 %）に加え、小論文（20 %）、リアクションペーパー（20%）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

応用倫理学の扱う領域は多種多様であり、そこで生ずる倫理的問題もまた多岐にわたっている。その意味では、私たちは、倫理的問題にどこからでも取り組むことができる。それゆえ、受講生各自は、自らの興味関心や素朴な疑問から倫理的問題にアプローチすることができる。そして、応用倫理学の分野（生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、戦争倫理学など）の領域を堪能してもらいたい。

【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学 I

2016 年度以前入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、基本的には、講義形式で行う。ただ、受講者各自の理解度を確認するために、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりである。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	・受講上の注意 ・授業内容についてのイントロダクション
第 2 回	人間とは何か？（2）	・「現に問うているのは誰か？」 ・ハイデガー哲学からみた「私」の位置
第 3 回	人間とは何か？（3）	・「世界内存在としての私」 ・「私は世界とどのように関わるのか？」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	・「倫理学とは何か？」
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	・「絶対的な善とは何か？」 ・倫理学と宗教
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	・アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	・快樂主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	・功利主義 ・義務と有用性
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	・自由とは何か？ ・権利と自由
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	・カント倫理学 ・権利と義務
第 11 回	私は法になかったことをなすべきか？（1）	・法実証主義 ・法と倫理
第 12 回	私は法になかったことをなすべきか？（2）	・社会契約論 ・国家と個人
第 13 回	私は法になかったことをなすべきか？（3）	・自由主義・共同体主義 ・政治と倫理 ・社会と個人
第 14 回	まとめ	・倫理学の現代的意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・倫理的問題は、私たちが日常生活を営むなかで様々な形で出会う問題が多い。それゆえ、受講生各自は、授業内で指示された様々な倫理学的な基本的文献を参考にしながら、自らの倫理的問題を意識することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年

加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

・定期試験（80 %）に加え、小テスト（20 %）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

【その他の重要事項】

・倫理学という学問の性質上、私たちが生きている現場で、実践知として生かされなければ、倫理学で学んだ知識は単なる「机上の空論」にすぎない。倫理学説の特徴を理解しながらも、各自がいきている場面で生かしていかない限り、倫理学的知は身につかない。したがって、授業に参加するだけでなく、自ら日常生活の中で、日頃から倫理観を問い直す姿勢をもつようにしてもらいたい。

【Outline and objectives】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に、講義形式で行われる。ただ、授業で取り上げる応用倫理学的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）	・「正義の戦争」はありうるか？ ・戦争倫理学入門
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）	・暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）	・テロリズムと戦争 ・国家に抵抗することは、可能か？
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	・生存権／人権とは何か？ ・生命の尊厳と生命の質
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	・「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	・動物倫理学 ・動物保護の倫理
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	・バイオテクノロジーの倫理
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	・責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	・科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	・世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	・環境倫理学とは何か？
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	・持続可能な社会とは何か？
第 13 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	・21 世紀の倫理学に向けて
第 14 回	まとめ	・応用倫理学の現代的な意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

応用倫理学の領域は多岐に渡るため、受講生各自はそれぞれの興味関心のままだに倫理的問題にアプローチすることができる。それゆえ、自分が興味のあるテーマについての様々な文献をよみ、自らの倫理観を見直すように努めてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年

加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80 %）に加え、小テスト（20 %）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

応用倫理学の扱う領域は多種多様であり、そこで生ずる倫理的問題もまた多岐にわたっている。その意味では、私たちは、倫理的問題にどこからでも取り組むことができる。それゆえ、受講生各自は、自らの興味関心や素朴な疑問から倫理的問題にアプローチすることができる。そして、応用倫理学の分野（生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、戦争倫理学など）の領域を堪能してもらいたい。

【Outline and objectives】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学 I

2016 年度以前入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

法 1 年 S～W / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常の生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。思想家の言葉を見ながら、その意味を理解していくことを中心とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学の根本問題、善、自己、社会（共同体）、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」
第 11 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	カント倫理学② 自由とは何か？
第 12 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	功利主義（ベンサム、ミル）
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？	社会契約論
第 14 回	授業のまとめ	授業のまとめと展望、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントを読み返すこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（60 % くらい）と平常点（40 % くらい）の 2 つにより、総合的に評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

法 1 年 S～W / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理学的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第 2 回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第 3 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第 7 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第 8 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第 9 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第 10 回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）
第 11 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	世代間倫理（フレチェット）
第 12 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	責任という原理（ヨナス）
第 13 回	何が暴力を抑止するのか？	暴力と倫理学
第 14 回	授業のまとめ	授業のまとめと展望、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（60％くらい）と平常点（40％くらい）の2つにより、総合的に評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline and objectives】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学 I

2016 年度以前入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」としているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった!」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。特にこの論理学 I では、アリストテレス以来の伝統的な形式論理学に焦点を当てます。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学とは？
2	論理学の原理	アイデンティティとは何か
3	概念 (1)	概念とは何かー内包と外延、類と種
4	概念 (2)	矛盾概念と反対概念
5	概念 (3)	概念の定義
6	判断 (1)	判断とは何か
7	判断 (2)	判断の分類
8	判断 (3)	オイラーの図形、周延と不周延
9	判断 (4)	ベン図
10	推理 (1)	推理とは何か 演繹と帰納、アナロジー
11	推理 (2)	対当推理
12	推理 (3)	変形推理
13	推理 (4)	三段論法の形式
14	推理 (5)	定言三段論法の格式と規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は、事前に教科書の次の章を読む。
復習は、授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、平常点 20 %で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業内でたびたびアクションペーパーの提出があります。

【Outline and objectives】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that. In particular, this logic focuses on traditional formal logic since Aristotle.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった!」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。

春学期の論理学Ⅰでは伝統的な形式論理学と呼ばれるものが主に扱われました。それに対してこの秋学期の論理学Ⅱでは、そうした伝統的な形式論理学の問題点や限界を乗り越えようとする近代以降の論理学の試みにも焦点を当てます。ただし、論理学Ⅰの受講を前提とせず独立にとれるように配慮します。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることができる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学への導入
2	三段論法 (1)	三段論法の格式と規則
3	三段論法 (2)	三段論法の格式と規則
4	三段論法 (3)	ペンの図形による三段論法の妥当性の判定
5	誤謬論	なぜ誤謬に陥るのか
6	帰納推理 (1)	帰納推理とは何か
7	帰納推理 (2)	ミルの帰納法
8	記号論理学 (1)	記号論理学とは何か
9	記号論理学 (2)	命題論理学
10	記号論理学 (3)	命題の記号化と真理表、簡単な思考装置の設計
11	記号論理学 (4)	結合記号の相互関係
12	記号論理学 (5)	恒真命題
13	記号論理学 (6)	公理主義体系
14	記号論理学 (7)	限量論理学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、平常点 20 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

期末テストに備えて、板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

授業内でたびたびアクションペーパーの提出があります。

【Outline and objectives】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that. In LogicI, things called traditional formal logic were mainly dealt with. On the other hand, this LogicII also focuses on modern logic attempts to overcome the problems and limitations of such traditional formal logic. However, we will be able to take it independently without assuming that you take LogicI.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学 I

2016 年度以前入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々は何を考え、何を行なうにしても、まず論理的に正しく考えなくては、いつどこで誤り、不幸な結果を招くかわからない。では「論理的に正しい」とか「矛盾している」とはどういうことなのか。論理学は、我々の思考のあり方を反省し、その原理と規則を明らかにし、正しい判断をもたらすための学問です。

【到達目標】

概念、命題、推理について、その基礎を学びます。論理的に考える方法を身に付けることは、何を学ぶ上でも大変に重要であって、これなくしてはいかなる学問も成立しません。レポートなどを書く上でも言葉や論理に気を付けるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講義では、主として伝統的形式論理学の基礎を学び、正しい推論を形成し論証の妥当性を判定するための基本技術を習得することを目的とします。基本的にはプリントを用いた講義形式ですが、理解を深めるために練習問題を数多く解いてもらいます。身近な例などを用いてわかりやすく説明していきます。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の出席を重視します。なるべく論理学 I と II とを通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	論理学とはいかなる学問か
2	思考の根本原理	同一律、矛盾律、排中律
3	概念論 1	概念とは何か、概念の形成
4	概念論 2	概念の性質、内包と外延
5	概念論 3	分類体系図とカテゴリー
6	概念論 4	概念の種類・問題演習
7	命題論 1	命題とは何か
8	命題論 2	定言命題の基本形式
9	命題論 3	オイラーの図と周延・不周延
10	命題論 4	問題演習
11	推理 1 直接推理	対当関係による推理
12	推理 2	対当の四角形
13	推理 3	対当による推理
14	前期のまとめ	問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。

【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共著、梓出版、2013

【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃
『論理学講義』 村上恭一著 成文堂

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）と学期末試験の成績（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧に分かりやすく面白い授業を心がける。授業中の私語は絶対に禁止なので、授業に集中できるよう、徹底して私語の排除に配慮したい。板書の写メ、スマホも禁止する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学（Ⅰ）で学んだ「概念」や「命題」を元にして、論理学Ⅱでは、主として「推理」をめぐって、論理学の基礎を学ぶ。直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることを目的とする。特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学んでゆきます。

【到達目標】

実際に問題を解いてみることを通して、思考の見事な規則性を確認するとともに、いかに自分が安易な思い込みや思い違いの中で日々暮らしているか、気づくだろう。「勉強したら試験に受かるが、勉強しないと試験に受からない」のかどうか……。論理的思考の基礎を身に付けることは、レポートを書く際にも役立つ。帰納法や誤謬論など、われわれの思考のパターンと、そのあるべき姿について広く学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的な事柄をプリントを用いて講義した上で、多くの練習問題を解くことによって理解を深めてゆきます。身近な例を用いて、わかりやすく説明します。例えば「学生は勉強が必要だが、教師は学生でないから、教師は勉強しなくてよい」？。これはどうして変なのか？ いかなる誤謬であるのかなど、いろいろな規則を学びます。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の出席を重視します。なるべく論理学（Ⅰ）と（Ⅱ）を通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	推理論 1	推理とは何か
2	変形による直接推理 1	換質法・問題演習
3	変形による直接推理 2	换位法・問題演習
4	変形による直接推理 3	換質・换位法・問題演習
5	定言三段論法 1	三段論法とは
6	定言三段論法 2	定言三段論法の公理と規則（1）
7	定言三段論法 3	定言三段論法の公理と規則（2）
8	定言三段論法 4	問題演習・定言三段論法の格と式
9	仮言三段論法 1	混合仮言三段論法・問題演習
10	仮言三段論法 2	純粋仮言三段論法・問題演習
11	選言三段論法	選言三段論法・問題演習
12	両刀論法	両刀論法・問題演習
13	記号論理学の基礎	記号論理学への導入
14	前期のまとめ	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。

【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共、梓出版、2013

【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃
『論理学講義』村上恭一著 成文堂

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）と学期末試験の成績（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧に分かりやすく面白い授業を心がける。授業中の私語は絶対に禁止なので、授業に集中できるように、徹底して私語を排除するよう努力する。板書の写メとスマホも禁止する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

PHL100LA

論理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅰ

2016 年度以前入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。論理学Ⅰでは、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

伝統的論理学における概念論から始め、判断論（命題論）、推理論の順で概説します。

授業は基本的に講義形式で行います。毎回授業の始めに、任意に指名した受講者に前回の内容を質問し答えてもらいます。授業の理解度と思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。受講者には、練習問題の解答作業を黒板上でもらうことがあります。また、復習のために宿題を出すことがあります。授業内容・練習問題で分からないことがあった場合は、すぐに直接質問に来るようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類
第 4 回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第 5 回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理：換質法・换位法 2. 練習問題

第 9 回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理: 換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1 (定言三段論法)	1. 間接推理 (三段論法) の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2 (定言三段論法)	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題 (初級)
第 12 回	推理論：間接推理 3 (定言三段論法・仮言三段論法)	1. 練習問題 (中級) 2. 仮言命題 (条件文) について 3. 純粋仮言三段論法 4. 練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4 (仮言三段論法)	1. 混合仮言三段論法: 前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第 14 回	まとめ・授業内試験	筆記試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

特に予習の必要はありませんが、復習は必ずしっかり行ってください。
(前回の授業内容を忘れた状態で、授業に臨まないで下さい。)
復習のため、練習問題を宿題として出す場合もあります。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末筆記試験の成績 (80%)、平常点 (20%) に基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に行う練習問題が学生の授業理解度を上げているようです。これから
も積極的に練習問題に取り組んで欲しいと思います。

【その他の重要事項】

論理的思考力の養成には時間がかかり、論理学Ⅱで扱う知識・技法も必要となるので、通年での履修を強く奨めます。

【Outline and objectives】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.
The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法 1 年 A～I / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理学Ⅱでは、アリストテレスに始まる伝統的論理学が修正・拡張されて成立したと見なされる現代論理学 (記号論理学) の基礎を学び、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識 (たとえば、論理学の基本的な規則・法則等) と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 現代論理学 (記号論理学) の学習の基本となる命題論理学を学び、日常文 (命題) を自分で記号化し、文の論理的構造を明確に理解する。
 2. 命題論理学における、妥当な推論を行うための基礎的な知識と技法とを自然演繹を通して習得し、基本的な推論問題 (命題証明問題) を自力で解く。
 3. 自然演繹の推論規則を順々に学んでいくことで、論理の世界がどのような構造になっているのかについても理解する。
- 上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

序論として、仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法 (ディレンマ) の学習を行った後、現代論理学 (命題論理学) に入ります。
命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までをまず学び、ここで一度、小テストを行います。
次に、自然演繹の推論規則を順々に学んでいき、学期内最後の授業において、二回目の小テストを行います。
授業は基本的に講義形式です。論理学Ⅰにおいてと同様、毎回授業の始めに、任意に指名した受講者に前回の授業内容を質問し答えてもらいます。授業の理解度と思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。受講者には、練習問題の解答作業を黒板上でもってもらうことがあります。また、復習のために宿題を出すこともあります。
授業内容・練習問題で分からないことがあったら、すぐに直接質問に来るようにして下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 (1) : 復習	1. 仮言命題 (条件文) : 逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法: 前件肯定式・後件否定式
第 2 回	序論 (2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第 3 回	命題論理学 (1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第 4 回	命題論理学 (2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第 5 回	命題論理学 (3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第 6 回	命題論理学 (4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第 7 回	命題論理学 (5)	1. 小テスト 2. 意味論と構文論
第 8 回	自然演繹 (1)	1. 含意の導入則と除去則 2. 練習問題
第 9 回	自然演繹 (2)	1. 連言の導入則と除去則 2. 練習問題

第 10 回	自然演繹 (3)	1. 選言の導入則と除去則 2. 練習問題
第 11 回	自然演繹 (4)	1. 否定の導入則と除去則 2. 練習問題 3. 矛盾律 4. 練習問題
第 12 回	自然演繹 (5)	1. 排中律 2. 練習問題 3. 排中律と二重否定除去法則
第 13 回	自然演繹 (6)	1. 二重否定除去法則と矛盾律 2. 練習問題
第 14 回	自然演繹 (7)	1. 命題論理の階層 2. 小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習の必要はありませんが、復習は必ずしっかり行ってください。
(前回の内容を忘れた状態で、授業に臨まないで下さい。)
復習のため、練習問題を宿題として出す場合もあります。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

【参考書】

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971年
野矢秀樹著『論理学』、東京大学出版会、1994年
野矢秀樹著『入門！論理学』、中公新書、2006年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

2回の小テスト（筆記試験）の成績（80%）と平常点（20%）に基づき評価。
2回の小テストにおいては、いずれも、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
小テストの採点基準は、授業中に指示した仕方では答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に行っている練習問題が学生の授業理解度を上げていると思えました。
これからも積極的に練習問題に取り組んで欲しいと思います。

【その他の重要事項】

春学期の論理学Ⅰを履修せずに、秋学期の論理学Ⅱから履修し単位を取得する学生も若干名いるのですが、この授業は基本的に、論理学Ⅰで論理学の基礎知識をある程度習得した学生を対象としているので、春学期の論理学Ⅰからの履修を推奨します。

【Outline and objectives】

This is a course to learn propositional logic (natural deduction).
The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid inferences.

PHL100LA

論理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅰ

2016 年度以前入学者

鶴澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文 1 年 L～N、環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学Ⅰの授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を扱い、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

①毎回授業プリントを配布して、学習内容の定着を図ります。
②プロジェクターを使います。
③教科書やプリントの練習問題を解いていきます。
④毎回の授業に関する課題プリントを配布し、次の授業に回収します。課題プリントは、採点され返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンスと思考の基礎	春学期講義全体（教員紹介、授業のテーマ、到達目標、方法、成績評価基準）、思考の3原則（同一律、矛盾律、排中律）
2	知識の成り立ち	概念、内包と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類
3	1. 判断・命題、2. オイラーの図、3. 命題の標準形式化	判断・命題の定義、定言命題の4種類（全称肯定、全称否定、特称肯定、特称否定）、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化
4	1. 推理の定義と分類、2. 対当推理	推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理（矛盾、反対、大小、小反対）
5	変形推理（1. 換質法、2. 換位法、3. 換質換位法、4. 戻換法）	換質法、換位法、換位不可能な命題、換質換位法、戻換法、直接推理の有用性
6	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法の概念、種類、定言三段論法
7	定言三段論法の規則	三段論法の導入、三つの一般原則、六つの規則と三つの派生規則
8	定言三段論法の判定、誤謬判定の練習問題、妥当性の判定の練習問題	誤謬判定の練習問題（設問1から設問6）、妥当性の判定の練習問題（設問8から11）
9	定言三段論法の格と式	定言三段論法の格（第1格、第2格、第3格、第4格）、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理（第1格）、差異の原理（第2格）、用例の原理（第3格）、逆の原理（第4格）
10	練習問題、仮言三段論法	練習問題の解答と解説、仮言三段論法の概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法（第1格から第4格）

11	仮言三段論法の復習と練習問題、選言三段論法	前件否定の誤謬、後件肯定の誤謬、選言三段論法概念と種類（肯定否定式、否定肯定式）、選択肢が三個以上の選言三段論法、選言三段論法の規則とその違反
12	両刀論法（ディレンマ）、規則、詭弁的両刀論法に対する反論	両刀論法概念と分類（単純構成的、単純破壊的、複合構成的、複合破壊的両刀論法）、両刀論法の規則、詭弁的両刀論法に対する反論
13	両刀論法、仮言・選言三段論法の練習問題	両刀論法の練習問題、教科書の練習問題、仮言三段論法の練習問題、選言三段論法の練習問題
14	課題プリントの復習と授業全体のまとめ	課題プリントの復習と授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。次回の内容についてテキストや参考書で見ておく。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013 年、2,100 円 (ISBN ISBN-10: 4872620321)

【参考書】

- ①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木石川訳、ちくま学芸文庫
- ②『論理学』、W. C. サモン著・山下正男訳、倍風館
- ③『論理学』、野矢茂樹著、東京大学出版会
- ④『新版 現代論理学』、坂本・坂井、東海大学出版会

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 % の割合で総合評価する。課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができているかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下) とし、合格は A+、A、B、C とします。

A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。

A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する理解が認められる。

B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。

C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。

D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

【学生の意見等からの気づき】

プロジェクターを用いて論理学を分かりやすく解説していきます。課題プリントは教員によって添削され、次の授業時に返却されます。受講者は、添削された課題プリントを見直すことで、授業内容をよりの確に理解することができます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用して、資料配布を行います。

【その他の重要事項】

授業支援システムのメーリングリストを使用して、受講生に連絡を取りますので、授業登録時に連絡可能なメールアドレスを記入してください。オフィスアワーについては、授業終了後に質問を受け付ける。なお、随時、メールでの質問も受け付ける。

【Outline and objectives】

本授業は、プロジェクターを使って学習内容を丁寧に解説し、さらに練習問題を解くことで、論理学の知識の定着をはかります。正しい推論の仕方を学ぶことで、これまで気がつかなかった誤りに気づいたり、あるいは、誤りを修正することができるようになります。

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

鶴澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
文 1 年 L～N、環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することにも役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学Ⅱの授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、論理学Ⅰ（伝統的論理学）で学習した内容を踏まえて、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

【到達目標】

- ①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
- ②真理表や帰謬法を用いて推論の妥当性を判定することができる。
- ③命題内部の論理構造を的確に把握することができる。
- ④仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ①毎回授業プリントを配布して、学習内容の定着を図ります。
- ②プロジェクターを使います。
- ③教科書やプリントの練習問題を解いていきます。
- ④毎回の授業に関する課題プリントを配布し、次の授業に回収します。課題プリントは、採点され返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび F・ペーコンの帰納法	秋学期セメスターの授業内容、授業の進め方など、F・ペーコンの帰納法論理（イドラ論と四つの表）
第 2 回	J・S・ミルの帰納法	ミルの論理学体系、一致法、差異法、一致差異併用法、剰余法、自然の斉一性の原理、ペーコンとミルの帰納法の共通点と相違点
第 3 回	デカルトとライブニッツの演繹法	デカルト（明晰判明な認識、直観および演繹の確実性）、ライブニッツ（定義論、結合法、根拠律）、両者の共通点と相違点
第 4 回	アンチノミーと弁証法	カントの超越論的論理（超越論的論理、分析論と弁証論、アンチノミー）、ヘーゲルの弁証法論理
第 5 回	文（命題）の真偽および論理的結合	文の真偽、論理的結合詞、真理関数、複合命題の真理値、否定
第 6 回	文の論理的結合	連言、両立的選言、排他的選言、条件（含意）、等値、ブール代数の考え方
第 7 回	文と文の論理的関係の具体相	同一命題の連言、同一命題の両立的選言、同一命題の排反的選言、論理代数のまとめ
第 8 回	つねに真である文と真理表	恒真命題。命題の恒真性を真理表で知る。テキストの問題を解く。
第 9 回	つねに真である文	テキストおよびプリントの問題を解く。
第 10 回	三段論法（推論）の妥当性	三段論法（推論）の妥当性。テキストの問題を解く。帰謬法の導入
第 11 回	帰謬法概念	教科書およびその他の練習問題を解く。
第 12 回	帰謬法の練習	プリントなどの練習問題、帰謬法を用いた推論の妥当性の検証
第 13 回	帰謬法のまとめ	プリント及び教科書の問題を解く。対偶律、両刀論法
第 14 回	述語論理学の導入	述語論理学の歴史、特徴、量化の考え方、量化記号

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。次回の内容についてテキストや参考書で見ておく。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013 年、2,100 円 (ISBN ISBN-10: 4872620321)

【参考書】

- ①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫
 ②『論理学』、W. C. サモン著・山下正男訳、倍風館
 ③『論理学』、野矢茂樹著、東京大学出版会
 ④『新版 現代論理学』、坂本・坂井、東海大学出版会

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題プリントの評価など）、②最後に行う秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 % の割合で総合評価します。

課題プリントと期末試験は、授業で示した方法に従って、正しい解答を導き出すことができるかどうかを基準にして評価します。成績評価の基準は、A+(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下)とし、合格は A+、A、B、C とします。

A+：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。

A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理学的思考の諸規則に関する理解が認められる。

B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理学的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。

C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理学的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。

D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

【学生の意見等からの気づき】

プロジェクターを用いて論理学を分かりやすく解説していきます。課題プリントは教員によって添削され、次の授業時に返却されます。受講者は、添削された課題プリントを見直すことで、授業内容をよりの確に理解することができます。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学授業支援システムを用い、授業で使用した教材や練習問題及びその解答などを随時ダウンロードできるようにします。したがって、学内外でパソコン、インターネット、プリンターなどを使用します。

【その他の重要事項】

授業支援システムのメーリングリストを使用して、受講生に連絡を取りますので、授業登録時に連絡可能なメールアドレスを必ず記入してください。オフィスアワーについては、授業終了後に質問を受け付ける。なお、随時、メールでの質問も受け付ける。

【Outline and objectives】

本授業は、プロジェクターを使って学習内容を丁寧に解説し、さらに練習問題を解くことで、論理学の知識の定着をはかります。正しい推論の仕方を学ぶことで、これまで気がつかなかった誤りに気づいたり、あるいは、誤りを修正することができるようになります。

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学 I

2016 年度以前入学者

大貫 義久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）していますが、多くの場合、その推理は誤っています。この講義は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいのかということを、基礎から順に学んでゆきます。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようにすることが、到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。教科書を使い、基礎から、多くの例を挙げて、できる限り理解しやすく説明してゆきます。また、論理的な思考が身につくようにするために、演習として練習問題に取り組みます。下の授業計画には、見慣れない多くの論理学用語が出てきますが、恐れることはありません。それら論理学用語の丁寧な説明から始めてゆき、その理解の上に立って、正しく思考し、表現することを、順に学んでゆきますから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の内容、論理学への導入
第 2 回	論理学の根本原理について	同一の原理、矛盾の原理、排中律の原理についての説明
第 3 回	概念について	概念の成り立ち、概念と判断についての説明
第 4 回	概念について	概念の内包と外延、概念の種類についての説明
第 5 回	区分と分類について	区分及び分類とは何か、区分の仕方、分類の仕方について
第 6 回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化についての説明
第 7 回	定言命題の 4 種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図と、概念の周延・不周延の説明。
第 8 回	判断の命題化（標準形式化）	判断を命題の形にする方法について説明し、練習問題を解く。
第 9 回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、命題の真偽と推理の妥当・非妥当等について。
第 10 回	演繹推理の直接推理について	矛盾・反対・大小・小反対のそれぞれの対当推理の説明。
第 11 回	命題の変形による直接推理について	換質法・换位法についての説明
第 12 回	命題の変形による直接推理について	換質换位法及び本格的な推理についての説明
第 13 回	練習問題で推理を身につけよう。	命題の変形による推理の練習問題を授業内で解き、その解説を行う。
第 14 回	授業内の学期末試験	論理的な正しい思考ができるかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初めて論理学を学ぶ学生は、特に学んだ事柄を教科書で復習し、次の授業の内容が理解できるようにしておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版 論理学の初歩』（梓出版社、2013 年）

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の取り組み（20 %）と学期末試験（80 %：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明してゆきます。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が「わかりやすい授業だった」、「問題演習もあってよかった、楽しかった」等、書いてくれていました。説明のスピードに配慮し、理解が進むよう授業を工夫します。

【Outline and objectives】

This course introduces the basics of the traditional formal logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

大貫 義久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なものにするのに大いに役立つことを、丁寧に説明してゆきます。例えば、いま私が「毎回出席したら単位は取れます」と言ったとします。この言い方は一見して正しいもののように思われますが、しかしこの言い方自体に曖昧さが含まれているのです。つまり「毎回出席しなくても単位が取れる」可能性は実は含んでしまっているのです。それでは、この言い方をどのように言い換えれば、正しい表現になるのでしょうか。そういった言語表現の正しい仕方を、この授業では学び、実際に身につくようにしてゆきます。本格的な推理である三段論法についても学び、最後に、現代論理学へと導きます。論理学は、分かってくると、とても面白くなります。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。試験では、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。教科書を使い、多くの例を挙げて、できる限り分かりやすく説明してゆきます。また、論理的思考を実際に身につけてもらうために、演習として練習問題を解いてゆきます。秋学期から初めて授業を受ける学生にも、春学期の復習をすることによって考慮します。安心して履修して下さい。出席すれば、理解が十分できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の目標や内容、授業の仕方、評価方法についての説明。秋学期の内容に進むにあたって必要な春学期内容の復習
第 2 回	演繹推理の直接推理について	判断の変形による直接推理:換質法・換位法についての説明
第 3 回	演繹推理の直接推理について（続き）	判断の変形による直接推理:練習問題の解法と説明
第 4 回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法について、その構造と規則について学ぶ。
第 5 回	定言三段論法についてのさらなる説明	定言三段論法の格と正しい式についての説明
第 6 回	練習問題で推理を身につけよう。	定言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第 7 回	仮言三段論法について	混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法についての説明
第 8 回	選言三段論法について	選言三段論法（肯定式・否定式）についての説明
第 9 回	練習問題で推理を身につけよう。	仮言三段論法と選言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第 10 回	両刀論法（ディレンマ）について	単純構成的両刀論法、単純破壊的両刀論法、複合構成的両刀論法、複合破壊的両刀論法についての説明
第 11 回	両刀論法と詭弁両刀論法について	詭弁両刀論法の反論について練習問題に取り組む。
第 12 回	現代論理学への導入	命題論理学と述語論理学について。特に命題論理学の説明
第 13 回	命題論理学の演習	問題の解答と説明
第 14 回	授業内の期末試験	複雑な論理的思考が正しくできるかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初めて論理学を学ぶ学生は、学んだ内容を教科書で復習し、次の授業内容が理解できるようにしておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版 論理学の初歩』（梓出版社・2013 年）

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（20 %）と学期末の授業内試験（80 %：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り授業に出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明してゆきます。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が授業について「わかりやすかった」、「推理に興味を持てた」と書いてくれました。内容をもっと理解しやすいものにするために、プリントと黒板を効率よく使って説明してゆきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basics of immediate inference to students taking this course. Then this course introduces syllogism to students. Lastly this course introduces symbolic logic to students taking this course.

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学 I

2016 年度以前入学者

滝口 清栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年 J～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝統的論理学が扱う内容を、概念に始まり、命題、命題間の関係、そして命題の変形、虚偽論というかたちで検討していきます。日本では、論理的思考力をメインにあつかう科目は、ようやく大学でとりあげられます。この機会を利用して、しっかりした論理的思考の訓練をしてください。

【到達目標】

人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていない。しかし、文法をよく知ることになれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、あるいは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくれればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。伝統的論理学の諸分野を扱います。各テーマごとに、練習問題を用意します。できるだけ多く問題を解くことによって、思考の訓練をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	論理的に考える一論理と接続詞	接続詞を通して、論理的な頭の体操をします。
2	論理学の原理	論理学の基本原則を学ぶ。同一律、矛盾律、排中律
3	概念とは何か？	ひとは概念を通して考え、判断をしている。概念の基本を学ぶ
4	定義と区分	分かるとははっきりと分けることができること。ものごとの道理をつかむ基本は定義と区分にある
5	概念、定義と区分—練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
6	判断とは何か？	判断を通して、私たちはものごとを知っていきます。その基本を学ぶ
7	判断とは何か？ 練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
8	対当推理	判断と判断の関係を扱うのが、対当推理です。ていねいに見ていきます
9	対当推理—練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
10	これまでの学習内容の確認のための試験と講評	第一回小テストをおこない、講評します
11	変形推理	一つの判断を、意味内容を同じしたままにして、判断を変形していきます。その基本問題を見ておきます
12	変形推理—練習問題を解く	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める
13	虚偽論	論理学を学ぶ意義の一つは、論理的にいかさまを見抜く力をつけることです。論理的虚偽の基本パターンをみます
14	虚偽論	練習問題を解いて、しっかりと理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を多く解きます。授業内で解くほかに、課題を出しますので、きちんとやってください。

【テキスト（教科書）】

大貫義久他著『論理学の初歩』梓出版社、2000 円

【参考書】

論理に親しむうえで、山下正男『論理的に考えること』（岩波ジュニア新書）はおもしろいでしょう。

【成績評価の方法と基準】

各学期のなかで、2 回の小テストをおこない、それらを総合して各学期の成績を出します（第一回小テスト、第二回小テスト、計90%）、授業への参加度 10%。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題を解くことで理解が深まるというコメントが多くみられます。本年も同じように練習問題を解きながら、理解を深めていきます。なお、論理学は積み重ねなので、欠席しないようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

私語は、他の人への迷惑、授業の障害。厳しく対処します。

【Outline and objectives】

This course introduces traditional logic, for example, concept, proposition, deformation reasoning, oppositions and fallaciousness fallacy. To deepen understanding this course gives participants many exercises.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

滝口 清栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年 J～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝統的論理学の、三段論法、両刀論法（ジレンマ）、科学的発見の論理としての帰納法、そして現代の記号論理学として命題論理学の初歩を扱う。

【到達目標】

人は毎日、言葉を用いて生活しています。人は、自分が文法にしたがって発話していると、とくに思っていない。しかし、文法をよく知ることになれば、言葉への関心や理解が深まり、言葉を通して、その人の能力もよりよく発揮されるようになるでしょう。論理についても同じことが言えます。論理的に考えるときに、そのさまざまな規則を学ぶことによって、人は自分の思考能力を高めたり、あるいは自分を表現し他者に伝達する力を身につけることができます。本講義は受講生のみなさんが論理学を学ぶことを通して、このようになってくれればと思っています。春学期と秋学期はつながっていますので、通年で受講することをすすめます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。ただし、できるだけ多く問題を解くことによって、思考の訓練をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	定言三段論法（1）	二つの前提から結論をひきだす三段論法の規則を学びます。論理的思考が深まるでしょう
2	定言三段論法（2）	三つの円を使って、正しいか間違っているかを判定する、ベン図による判定をおこないます
3	定言三段論法—練習問題	練習問題を通して、理解を深めます
4	仮言三段論法	ふだんの生活のなかで、ひっきりやすい仮言三段論法があります。この理解を通して、論理的センスを磨きます
5	仮言三段論法—練習問題を解く	練習問題を通して、理解を深めます
6	選言三段論法	選言三段論法のしくみを説明する
7	選言三段論法—練習問題を解く	練習問題を解いて、理解を深めます
8	定言三段論法、仮言三段論法、選言三段論法について確認の試験と講評をおこなう	これまで学んだ三つの三段論法についての定着度を見るために小テストおこない、講評する
9	両刀論法	これまでの三つの三段論法を総合した両刀論法のしくみを説明します
10	両刀論法—練習問題を解く	不完全な両刀論法をどう切り返すか？練習問題を解きます
11	ミルの帰納法—データをもとに規則を発見する。	近代では科学的発見の論理として、帰納法が重視されます。その基本を学びます
12	帰納法について練習問題を解く	これまでの科学的発見のなかで、どの方法がつかわれていたか、出題します
13	論理的な文を記号で表す	記号論理学のなかでも、命題論理学の初歩を学びます。命題を単位として、推理が妥当かどうかを見ていくものです。その手始めに、いろいろな推理を記号で表す練習をします
14	真理表を作り、真偽を判定する	そして、実際に表を作り、ある推理が妥当かどうかの判定をおこないます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を多く解きます。授業以外に、課題を出しますから、それを家でやってきてください。

【テキスト（教科書）】

大貫義久他著『論理学の初歩』梓出版社

【参考書】

【参考書】

論理に親しむうえで、山下正男『論理的に考えること』（岩波ジュニア新書）はおもしろいでしょう。

【成績評価の方法と基準】

各学期のなかで、2 回的小テストをおこない、それらを総合して各学期の成績を出します（第一回小テスト、第二回小テスト、計90%）、授業への参加度 10%。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題については、理解が深まるというコメントが多く寄せられますので、本年も同じく練習問題を通して理解を深めるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

練習問題を解くことで、理解が深まるという声を聞きます。こつこつと取り組むことから、得られることが多いと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces syllogism, inductive reasoning and propositional logic first steps. To deepen understanding this course gives participants many exercises.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学 I

2016 年度以前入学者

菅沢 龍文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の伝統的論理学の基礎 — 「思考の3原則」から「ジレンマ」まで — 古代ギリシア以来のアリストテレスの伝統的論理学を学びます。(1) 概念、(2) 判断、(3) 推理が三本柱となりますが、概念、判断を前提とする推理（三段論法）を中心に学びます。オイラー図やベン図を用いて考えることにより、数少ないシンプルな図形の組合せだけで推理の表現ができるので、覚えねばならないことは少なく、直観的に考える応用力が身につきます。

【到達目標】

- 《知識》正しい推理のための基礎的な知識を得る。
- 《態度》論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につける。
- 《技能》論理的に正しく推理する能力をつける。
- (1) 図形で即座に論理的に正しい判断や推理ができる。
- (2) 論理的に筋道の通った考え方ができる。
- (3) 論理的に相手を理解し、相手を説得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) 授業プリントを主として用い、テキストを参照します。
- (2) プロジェクターを使う講義です。
- (3) 毎回の授業について、課題プリントを提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテーションと思考の基礎	①授業の受け方 ②何をどのように学ぶのか ③思考の3原則
2	概念と判断	①概念 ②定義 ③判断（オイラー図）
3	直接推理（対当推理）	①存在判断から述定判断への変換 ②対当推理（オイラー図）
4	直接推理（変形推理）	①換質法 ②换位法 ③房換法（オイラー図）
5	間接推理（三段論法）	①三段論法の妥当性をオイラー図で考える。
6	三段論法の誤謬論	①量の公理 ②質の公理
7	三段論法の実践	①三段論法の問題を解く。
8	直接推理をベン図で考える	①存在仮定とベン図 ②対当推理をベン図で考える ③変形推理の房換法をベン図で考える
9	ベン図で三段論法	①三段論法の妥当性をベン図で調べる手順 ②三段論法の誤謬論をベン図で考える ③三段論法の問題をベン図で解く
10	ベン図で三段論法（実践）	①実例で三段論法の妥当性を判定する
11	仮言三段論法	①混合仮言三段論法 ②純粋仮言三段論法
12	選言三段論法	①純粋選言三段論法 ②混合選言三段論法
13	両刀論法（ジレンマ）	①両刀論法（ジレンマ） ②ジレンマから抜け出す方法
14	全体への振り返り	①試験問題を解く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

《復習》前回の授業内容を復習して理解を確実にしておく。
《予習》次回の内容についてテキストや参考書で概観しておく。

【テキスト（教科書）】

大貫・白根・菅沢・中釜『論理学の初歩』梓出版社

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点 (参加姿勢、確認プリントの評価など)
 (2) 全体についての春学期試験の点数
 (1) を 70 %、(2) を 30 % の割合で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
 (2) 授業内容は基礎的なものとはいえ多いので、できるだけ整理して、具体例も分かりやすくする。
 (3) 図形による説明とテキストとの関連がよく分かるようにする。

【Outline and objectives】

Elements of the European traditional logic: from the three principles of thinking to the dilemma

We learn the ancient Greek traditional logic of Aristotle. This logic is constituted by three parts: (1) concepts, (2) judgements, (3) reasoning and we learn mainly the reasoning which presupposes the concepts and the judgements. Using Euler diagrams and Venn diagrams, by simple combinations of the figures we can realize the reasoning. We don't have to learn so many things and we will think intuitively and get applied skill.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

菅沢 龍文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近代科学の論理、文の論理。

近代科学の知識がどのようにして成り立つのかについてベーコンやデカルトから始まる西洋の哲学者たちの論理を初歩的に学ぶ。そして、ブール論理学から始まる現代の命題論理学、そして述語論理の基礎を習得する。また、論理代数、真理表、ベン図などの多様な表現方法で理解を深めるようにする。これにより、近代科学の論理の本質について考えることができる。

【到達目標】

《知識》近代科学の知識の論理や現代論理学の初歩的な知識を得る。

《態度》科学的論理的に世界について考える態度を身につける。

《技能》論理的に物事を考える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストに加えてプリントを用い、プロジェクターも用います。
 (2) 授業内では、板書で問題を解きます。
 (3) 毎回理解を確認するためのプリントを提出します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション F・ベーコンの考えたこと	(1) 授業について (2) イドラ説 (3) 表を用いた帰納法
2	帰納法と演繹法	(1) ミルの帰納法 (2) 自然の斉一性 (3) デカルトと演繹法
3	哲学的論理	(1) ライプニッツ 充足理由律 (2) カント 超越論的論理学 (3) ヘーゲル 弁証法
4	命題論理学 — 命題の真偽・論理的結合・複合命題の真理値	(1) 命題 (2) 論理的結合子 (3) 真理表とベン図 —複合命題の真理値—
5	複合命題の真理値	(1) 否定 (2) 連言 —複合命題の真理値— (3) 選言 (4) 条件 (5) 等値 —論理代数を用いて考える—
6	問題を解く	テキストの 137 頁
7	恒真命題 (1)	(1) 恒真命題 (2) 恒偽命題・総合命題 (3) 恒真命題の判定 (真理表)
8	恒真命題 (2)	(1) 恒真命題の判定 (真理表と帰謬法)
9	恒真命題と推理の妥当性	(1) 恒真命題の判定 (帰謬法) (2) 推理の妥当性
10	G. フレーゲ、B. ラッセル	(1) クラス理論 (2) 嘘つきのパラドックス (3) タイプ理論
11	述語論理学のはじめ (I)	(1) 命題関数 (2) 限量記号 (3) 概念の述語化
12	述語論理学のはじめ (II)	(1) 対当推理を考える (2) 多項述語で考える
13	復習	秋学期全体について
14	問題を解く	試験問題を解いて到達度を確認する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

《復習》前回の授業内容を復習して理解を確実にしておく。

《予習》次回の内容についてテキストや参考書で概観しておく。

【テキスト（教科書）】

大貫・白根・菅沢・中釜著『論理学の初歩』（梓出版社）

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点（参加姿勢、確認プリントの評価など）、(2) 全体についての秋学期試験の点数、これら(1)を70%(2)を30%の割合で総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
- (2) 授業内容は基礎的なものとはいえ多いので、できるだけ整理して、具体例も分かりやすくする。
- (3) テキストから離れる部分もあるので、テキストとの関連がよく分かるようにする。

【Outline and objectives】

Logic of modern sciences, Logic of sentences.

At first we learn elementarily from modern European philosophers, beginning with F. Bacon and R. Descartes, in what way the knowledge of modern sciences is logically formed. In the second place we learn also elementarily the logic of our time, from the Boolean propositional logic down to the predicate logic. We use some means of expression like logical algebra, truth-chart and Venn diagram and apprehend the logic clearly. Through our learning we can examine the essential logic of modern sciences.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学 I

2016 年度以前入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

伝統的論理学における概念論から始め、判断論（命題論）、推理論の順で概説します。

授業は基本的に講義形式で行います。毎回授業の始めに、任意に指名した受講者に前回の内容を質問し答えてもらいます。授業の理解度と思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。受講者には、練習問題の解答作業を黒板上でしてもらったことがあります。また、復習のために宿題を出すことがあります。

授業内容・練習問題で分からないことがあった場合は、すぐに直接質問に来るようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類
第 4 回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第 5 回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理： 矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理： 小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理： 換質法・换位法 2. 練習問題

第 9 回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理: 換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1 (定言三段論法)	1. 間接推理 (三段論法) の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2 (定言三段論法)	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題 (初級)
第 12 回	推理論：間接推理 3 (定言三段論法・仮言三段論法)	1. 練習問題 (中級) 2. 仮言命題 (条件文) について 3. 純粋仮言三段論法 4. 練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4 (仮言三段論法)	1. 混合仮言三段論法: 前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第 14 回	まとめ・授業内試験	筆記試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

特に予習の必要はありませんが、復習は必ずしっかり行ってください。
(前回の授業内容を忘れた状態で、授業に臨まないで下さい。)
復習のため、練習問題を宿題として出す場合もあります。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末筆記試験の成績 (80%)、平常点 (20%) に基づき評価。
学期末筆記試験においては、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方と答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に行う練習問題が学生の授業理解度を上げているようです。これから
も積極的に練習問題に取り組んで欲しいと思います。

【その他の重要事項】

論理的思考力の養成には時間がかかり、論理学Ⅱで扱う知識・技法も必要となるので、通年での履修を強く奨めます。

【Outline and objectives】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

論理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理学Ⅱでは、アリストテレスに始まる伝統的論理学が修正・拡張されて成立したと見なされる現代論理学 (記号論理学) の基礎を学び、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識 (たとえば、論理学の基本的な規則・法則等) と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 現代論理学 (記号論理学) の学習の基本となる命題論理学を学び、日常文 (命題) を自分で記号化し、文の論理的構造を明確に理解する。
 2. 命題論理学における、妥当な推論を行うための基礎的な知識と技法とを自然演繹を通して習得し、基本的な推論問題 (命題証明問題) を自力で解く。
 3. 自然演繹の推論規則を順々に学んでいくことで、論理の世界がどのような構造になっているのかについても理解する。
- 上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

序論として、仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法 (ディレンマ) の学習を行った後、現代論理学 (命題論理学) に入ります。
命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までをまず学び、ここで一度、小テストを行います。
次に、自然演繹の推論規則を順々に学んでいき、学期内最後の授業において、二回目の小テストを行います。
授業は基本的に講義形式です。論理学Ⅰにおいてと同様、毎回授業の始めに、任意に指名した受講者に前回の授業内容を質問し答えてもらいます。授業の理解度と思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。受講者には、練習問題の解答作業を黒板上でもってもらうことがあります。また、復習のために宿題を出すこともあります。
授業内容・練習問題で分からないことがあったら、すぐに直接質問に来るようにして下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 (1) : 復習	1. 仮言命題 (条件文) : 逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法: 前件肯定式・後件否定式
第 2 回	序論 (2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第 3 回	命題論理学 (1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第 4 回	命題論理学 (2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第 5 回	命題論理学 (3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第 6 回	命題論理学 (4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第 7 回	命題論理学 (5)	1. 小テスト 2. 意味論と構文論
第 8 回	自然演繹 (1)	1. 含意の導入則と除去則 2. 練習問題
第 9 回	自然演繹 (2)	1. 連言の導入則と除去則 2. 練習問題

発行日：2019/5/1

第 10 回	自然演繹 (3)	1. 選言の導入則と除去則 2. 練習問題
第 11 回	自然演繹 (4)	1. 否定の導入則と除去則 2. 練習問題 3. 矛盾律 4. 練習問題
第 12 回	自然演繹 (5)	1. 排中律 2. 練習問題 3. 排中律と二重否定除去法則
第 13 回	自然演繹 (6)	1. 二重否定除去法則と矛盾律 2. 練習問題
第 14 回	自然演繹 (7)	1. 命題論理の階層 2. 小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習の必要はありませんが、復習は必ずしっかり行ってください。
(前回の内容を忘れた状態で、授業に臨まないで下さい。)
復習のため、練習問題を宿題として出す場合もあります。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

【参考書】

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971年
野矢秀樹著『論理学』、東京大学出版会、1994年
野矢秀樹著『入門！論理学』、中公新書、2006年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

2回の小テスト（筆記試験）の成績（80%）と平常点（20%）に基づき評価。
2回の小テストにおいては、いずれも、「到達目標」で記した事柄の理解度を
ためす問題を出す予定。
小テストの採点基準は、授業中に指示した仕方では答案を作成しているか、
そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に行っている練習問題が学生の授業理解度を上げていると思いました。
これからも積極的に練習問題に取り組んで欲しいと思います。

【その他の重要事項】

春学期の論理学Ⅰを履修せずに、秋学期の論理学Ⅱから履修し単位を取得する
学生も若干名いるのですが、この授業は基本的に、論理学Ⅰで論理学の基
礎知識をある程度習得した学生を対象としているので、春学期の論理学Ⅰか
らの履修を推奨します。

【Outline and objectives】

This is a course to learn propositional logic (natural deduction).

The main aim of this course is to help students acquire the basic
knowledge and skills needed to make valid inferences.

HIS100LA

東洋史Ⅰ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

東洋史Ⅰ

2016 年度以前入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 1 年 A～N、国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世
界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹と
して今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東ア
ジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理
解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科
： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文
学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、
キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とま
とめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of premodern China

Objectives:Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2016 年度以前入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 1 年 A～N、国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。また映画を通して現代中国への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of modern China

Objectives:Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

東洋史Ⅰ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

東洋史Ⅰ

2016 年度以前入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
法 1 年 S～Y、文 1 年 A～N／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of premodern China

Objectives:Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2016 年度以前入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
法 1 年 S～Y、文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。また映画を通して現代中国への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of modern China

Objectives:Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

東洋史Ⅰ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

東洋史Ⅰ

2016 年度以前入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 1 年 P～X、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of premodern China

Objectives:Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅱ	2016 年度以前入学者
板橋 暁子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金 5/Fri.5 文 1 年 P～X、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。また映画を通して現代中国への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of modern China

Objectives:Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA	
東洋史Ⅰ	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
東洋史Ⅰ	2016 年度以前入学者
齋藤 勝	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 1/Mon.1 営 1 年 A～J／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of premodern China

Objectives:Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2016 年度以前入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
 営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆
 歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。また映画を通して現代中国への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of modern China

Objectives:Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

東洋史Ⅰ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

東洋史Ⅰ

2016 年度以前入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 営 1 年 K～U、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大
 中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式によって進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Outline:Surveying the history of premodern China

Objectives:Considering how the traditional "China" had been formed

HIS100LA

東洋史Ⅱ

HIS100LA

東洋史Ⅱ

板橋 暁子

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】
現代中国の変動を知識として学ぶだけでなく、その時代を生きた人々を描いた映画を通じて、彼らの味わってきた苦しみや社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式によって進める。また映画を通して現代中国への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
Outline:Surveying the history of modern China
Objectives:Considering how politics had affected the life of people in China

HIS100LA

西洋史Ⅰ

HIS100LA

西洋史Ⅰ

中村 純

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
文 1 年 P～X、国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどうのようして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

【到達目標】
西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で行う予定です。
受講生の人数などにもよりますが、可能であれば、適宜、特定の課題について受講生による討論をしてもらうこともあるかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに。	授業の概要の説明。
第 2 回	西欧世界におけるギリシア文化の受容の過程。ギリシアの気候と風土。	地中海世界の自然環境と文化
第 3 回	ギリシアの文化 (1) 神話から理性へ	ギリシアの神話と哲学。
第 4 回	ギリシアの文化 (2) 古典劇。	アッティカの悲劇・喜劇
第 5 回	ギリシアの文化 (3) 建築と彫刻。	神殿、劇場などの遺跡。映像教材使用。
第 6 回	ギリシアの文化 (4) 古代のオリンピック。	オリンピック競技の概要。
第 7 回	古代ローマとギリシア文化 (1)	ホラティウスの言葉が物語ること。
第 8 回	古代ローマとギリシア文化 (2)	五賢帝時代のローマ。
第 9 回	ルネサンス (1)	概観。キケロ狂。ペトラルカからエラスムスまで。
第 10 回	ルネサンス (2)	アカデミア・プラトニカ。
第 11 回	ルネサンス (3)	エラスムスとトマスモア。
第 12 回	啓蒙の世紀 (1)	17 世紀科学革命。アリストテレス的世界観とニュートン力学。
第 13 回	啓蒙の世紀 (2)	新旧論争と進歩主義。
第 14 回	新古典主義	大博物館の時代。ヴィンケルマンの『ギリシア美術模倣論』の影響。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業についてある程度の予備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、参考書の中から自分が必要と思うものを選んで読んでおくとういでしょう。

【テキスト（教科書）】
担当教員の作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】
『ギリシアの古代』、R. オズボーン著、佐藤昇訳、刀水書房 2011。
『異境の発見』、樺山紘一著、東京大学出版会 1995。
『ギリシア文化の遺産』、藤縄謙三編、南窓社 1993。

【成績評価の方法と基準】
期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【Outline and objectives】

This course will introduce students to the culture of the western European countries, focusing on how they westerners receive ancient Greek culture.

Special attention will be given to the Roman empire, the Renaissance and the French revolution as a start point of the modern civil society.

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2016 年度以前入学者

中村 純

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
文 1 年 P～X、国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めていきます。

【到達目標】

古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行う予定です。
受講生の人数などにもよりますが、可能であれば、適宜、特定の課題について受講生による討論をしてもらうこともあるかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	デモクラシー：古代と近代	授業の概要についての説明
第 2 回	アテネ民主政概観、貴族政から民主政へ	ソロンからクレイステネスまで
第 2 回	デロス同盟とペリクレス時代のアテネ民主政	ペリクレス時代のアテネ民主政の特徴
第 4 回	アテネ民主政と近代の民主政	アテネ民主政のまとめと近代の市民革命の概要と背景
第 5 回	イギリスの場合 (1)	いわゆるピューリタン革命から責任内閣制の成立まで
第 6 回	イギリスの場合 (2)	選挙法改正の歩み
第 7 回	イギリスの場合 (3)	イギリスの自由主義
第 8 回	フランスの場合 (1)	大革命
第 9 回	フランスの場合 (2)	王政復古から第三共和政まで
第 10 回	フランスの場合 (3)	フランス革命と「民主政」
第 11 回	アメリカの場合 (1)	独立戦争から南北戦争まで
第 12 回	アメリカの場合 (2)	大統領権限と大きな政府 ニューディール以降
第 13 回	アメリカの場合 (3)	ポピュリズムをめぐって
第 14 回	総括	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業についてある程度の予備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、自分が必要と思うものを選んで読んでおくといよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

『民主主義—古代と近代』、M.I. フィンレイ著、柴田平三郎訳、刀水書房 1991。
『民主主義の源流』、橋場弦著、講談社学術文庫 2016。
『イギリス史 10 講』、近藤和彦著、岩波新書 2013。
『フランス史 10 講』、柴田三千雄著、岩波新書 2006。
『憲法で読むアメリカ史』、阿川尚之著、ちくま学芸文庫 2013。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価します。
受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course will look at the history of the democracy, focusing on some major western countries and comparing them with the “demokratia” of ancient Athens.

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史 I

2016 年度以前入学者

中村 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

文 1 年 A～N、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

【到達目標】

西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行う予定です。

受講生の人数などにもよりますが、可能であれば、適宜、特定の課題について受講生による討論をしてもらうこともあるかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに。	授業の概要の説明。
第 2 回	西欧世界におけるギリシア文化の受容の過程。ギリシアの気候と風土。	地中海世界の自然環境と文化
第 3 回	ギリシアの文化（1）神話から理性へ	ギリシアの神話と哲学。
第 4 回	ギリシアの文化（2）古典劇。	アッティカの悲劇・喜劇
第 5 回	ギリシアの文化（3）建築と彫刻。	神殿、劇場などの遺跡。映像教材使用。
第 6 回	ギリシアの文化（4）古代のオリンピック。	オリンピック競技の概要。
第 7 回	古代ローマとギリシア文化（1）	ホラティウスの言葉が物語ること。
第 8 回	古代ローマとギリシア文化（2）	五賢帝時代のローマ。
第 9 回	ルネサンス（1）	概観。キケロ狂。ペトラルカからエラスムスまで。
第 10 回	ルネサンス（2）	アカデミア・プラトニカ。
第 11 回	ルネサンス（3）	エラスムスとトマスモア。
第 12 回	啓蒙の世紀（1）	17 世紀科学革命。アリストテレス的世界観とニュートン力学。
第 13 回	啓蒙の世紀（2）	新旧論争と進歩主義。
第 14 回	新古典主義	大博物館の時代。ヴィンケルマンの『ギリシア美術模倣論』の影響。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業についてある程度の予備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、参考書の中から自分が必要と思うものを選んで読んでおくといでしょう。

【テキスト（教科書）】

担当教員の作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

『ギリシアの古代』、R. オズボーン著、佐藤昇訳、刀水書房 2011。
『異境の発見』、樺山紘一著、東京大学出版会 1995。
『ギリシア文化の遺産』、藤縄謙三編、南窓社 1993。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価します。

受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course will introduce students to the culture of the western European countries, focusing on how they westerners receive ancient Greek culture.

Special attention will be given to the Roman empire, the Renaissance and the French revolution as a start point of the modern civil society.

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2016 年度以前入学者

中村 純

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
文 1 年 A～N、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めていきます。

【到達目標】

古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行う予定です。
受講生の人数などにもよりますが、可能であれば、適宜、特定の課題について受講生による討論をしてもらうこともあるかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	デモクラシー：古代と近代	授業の概要についての説明
第 2 回	アテネ民主政概観、貴族政から民主政へ	ソロンからクレイステネスまで
第 2 回	デロス同盟とペリクレス時代のアテネ民主政	ペリクレス時代のアテネ民主政の特徴
第 4 回	アテネ民主政と近代の民主政	アテネ民主政のまとめと近代の市民革命の概要と背景
第 5 回	イギリスの場合 (1)	いわゆるピューリタン革命から責任内閣制の成立まで
第 6 回	イギリスの場合 (2)	選挙法改正の歩み
第 7 回	イギリスの場合 (3)	イギリスの自由主義
第 8 回	フランスの場合 (1)	大革命
第 9 回	フランスの場合 (2)	王政復古から第三共和政まで
第 10 回	フランスの場合 (3)	フランス革命と「民主政」
第 11 回	アメリカの場合 (1)	独立戦争から南北戦争まで
第 12 回	アメリカの場合 (2)	大統領権限と大きな政府 ニューディール以降
第 13 回	アメリカの場合 (3)	ポピュリズムをめぐって
第 14 回	総括	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業についてある程度の予備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、自分が必要と思うものを選んで読んでおくとい良いでしょう。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

『民主主義—古代と近代』、M.I. フィンレイ著、柴田平三郎訳、刀水書房 1991。
『民主主義の源流』、橋場弦著、講談社学術文庫 2016。
『イギリス史 10 講』、近藤和彦著、岩波新書 2013。
『フランス史 10 講』、柴田三千雄著、岩波新書 2006。
『憲法で読むアメリカ史』、阿川尚之著、ちくま学芸文庫 2013。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価します。

受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course will look at the history of the democracy, focusing on some major western countries and comparing them with the “demokratia” of ancient Athens.

HIS100LA

西洋史Ⅰ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅰ

2016 年度以前入学者

中村 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法 1 年 A～Y／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどうのようして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

【到達目標】

西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行う予定です。
受講生の人数などにもよりますが、可能であれば、適宜、特定の課題について受講生による討論をってもらうこともあるかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに。	授業の概要の説明。
第 2 回	西欧世界におけるギリシア文化の受容の過程。ギリシアの気候と風土。	地中海世界の自然環境と文化
第 3 回	ギリシアの文化 (1) 神話から理性へ	ギリシアの神話と哲学。
第 4 回	ギリシアの文化 (2) 古典劇。	アッティカの悲劇・喜劇
第 5 回	ギリシアの文化 (3) 建築と彫刻。	神殿、劇場などの遺跡。映像教材使用。
第 6 回	ギリシアの文化 (4) 古代のオリンピック。	オリンピック競技の概要。
第 7 回	古代ローマとギリシア文化 (1)	ホラティウスの言葉が物語ること。
第 8 回	古代ローマとギリシア文化 (2)	五賢帝時代のローマ。
第 9 回	ルネサンス (1)	概観。キケロ狂。ペトラルカからエラスムスまで。
第 10 回	ルネサンス (2)	アカデミア・プラトニカ。
第 11 回	ルネサンス (3)	エラスムスとトマスモア。
第 12 回	啓蒙の世紀 (1)	17 世紀科学革命。アリストテレス的世界観とニュートン力学。
第 13 回	啓蒙の世紀 (2)	新旧論争と進歩主義。
第 14 回	新古典主義	大博物館の時代。ヴィンケルマンの『ギリシア美術模倣論』の影響。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業についてある程度の予備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、参考書の中から自分が必要と思うものを選んで読んでおくとい良いでしょう。

【テキスト（教科書）】

担当教員の作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

『ギリシアの古代』、R. オズボーン著、佐藤昇訳、刀水書房 2011。
『異境の発見』、樺山紘一著、東京大学出版会 1995。
『ギリシア文化の遺産』、藤縄謙三編、南窓社 1993。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価します。

受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course will introduce students to the culture of the western European countries, focusing on how they westerners receive ancient Greek culture.

Special attention will be given to the Roman empire, the Renaissance and the French revolution as a start point of the modern civil society.

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2016 年度以前入学者

中村 純

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

法 1 年 A～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めていきます。

【到達目標】

古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行う予定です。
受講生の人数などにもよりますが、可能であれば、適宜、特定の課題について受講生による討論をしてもらうこともあるかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	デモクラシー：古代と近代	授業の概要についての説明
第 2 回	アテネ民主政概観、貴族政から民主政へ	ソロンからクレイステネスまで
第 2 回	デロス同盟とペリクレス時代のアテネ民主政	ペリクレス時代のアテネ民主政の特徴
第 4 回	アテネ民主政と近代の民主政	アテネ民主政のまとめと近代の市民革命の概要と背景
第 5 回	イギリスの場合 (1)	いわゆるピューリタン革命から責任内閣制の成立まで
第 6 回	イギリスの場合 (2)	選挙法改正の歩み
第 7 回	イギリスの場合 (3)	イギリスの自由主義
第 8 回	フランスの場合 (1)	大革命
第 9 回	フランスの場合 (2)	王政復古から第三共和政まで
第 10 回	フランスの場合 (3)	フランス革命と「民主政」
第 11 回	アメリカの場合 (1)	独立戦争から南北戦争まで
第 12 回	アメリカの場合 (2)	大統領権限と大きな政府 ニューディール以降
第 13 回	アメリカの場合 (3)	ポピュリズムをめぐって
第 14 回	総括	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業についてある程度の予備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、自分が必要と思うものを選んで読んでおくとういでしょう。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

『民主主義—古代と近代』、M.I. フィンレイ著、柴田平三郎訳、刀水書房 1991.

『民主主義の源流』、橋場弦著、講談社学術文庫 2016.

『イギリス史 10 講』、近藤和彦著、岩波新書 2013.

『フランス史 10 講』、柴田三千雄著、岩波新書 2006.

『憲法で読むアメリカ史』、阿川尚之著、ちくま学芸文庫 2013.

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価します。

受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course will look at the history of the democracy, focusing on some major western countries and comparing them with the “demokratia” of ancient Athens.

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史 I

2016 年度以前入学者

中村 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

営 1 年 A～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「近代西欧文明の起源」と目され、キリスト教とならぶ西欧文明の 2 大源流の一つとされてきた古代ギリシアの文化を、西欧世界の人々はどのようにして今日の西欧文化に取り込んできたのでしょうか。いくつかの画期を確かめながら、その歴史的経過を学んでいきます。

【到達目標】

西欧近代文明は、古代ギリシアの文化を古典と仰いで自らの文明を形成してきました。その過程を検討することによって、近代西欧文明を相対化する視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行う予定です。

受講生の人数などにもよりますが、可能であれば、適宜、特定の課題について受講生による討論をしてもらうこともあるかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに。	授業の概要の説明。
第 2 回	西欧世界におけるギリシア文化の受容の過程。ギリシアの気候と風土。	地中海世界の自然環境と文化
第 3 回	ギリシアの文化（1）神話から理性へ	ギリシアの神話と哲学。
第 4 回	ギリシアの文化（2）古典劇。	アッティカの悲劇・喜劇
第 5 回	ギリシアの文化（3）建築と彫刻。	神殿、劇場などの遺跡。映像教材使用。
第 6 回	ギリシアの文化（4）古代のオリンピック。	オリンピック競技の概要。
第 7 回	古代ローマとギリシア文化（1）	ホラティウスの言葉が物語ること。
第 8 回	古代ローマとギリシア文化（2）	五賢帝時代のローマ。
第 9 回	ルネサンス（1）	概観。キケロ狂。ペトラルカからエラスムスまで。
第 10 回	ルネサンス（2）	アカデミア・プラトニカ。
第 11 回	ルネサンス（3）	エラスムスとトマスモア。
第 12 回	啓蒙の世紀（1）	17 世紀科学革命。アリストテレス的世界観とニュートン力学。
第 13 回	啓蒙の世紀（2）	新旧論争と進歩主義。
第 14 回	新古典主義	大博物館の時代。ヴィンケルマンの『ギリシア美術模倣論』の影響。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業についてある程度の予備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、参考書の中から自分が必要と思うものを選んで読んでおくといでしょう。

【テキスト（教科書）】

担当教員の作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

『ギリシアの古代』、R. オズボーン著、佐藤昇訳、刀水書房 2011。
『異境の発見』、樺山紘一著、東京大学出版会 1995。
『ギリシア文化の遺産』、藤縄謙三編、南窓社 1993。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価します。

受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course will introduce students to the culture of the western European countries, focusing on how they westerners receive ancient Greek culture.

Special attention will be given to the Roman empire, the Renaissance and the French revolution as a start point of the modern civil society.

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2016 年度以前入学者

中村 純

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 営 1 年 A～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デモクラシー：古代と近代」というテーマで、民主政の起源とされる古典期アテネの民主政と近代の民主政の歴史的成り立ちとその特徴を学び、民主政のより良い姿を探る手掛かりを求めていきます。

【到達目標】

古代世界にあって異彩を放つアテネ民主政の根幹をなす、直接市民団全体の衆知を集めるという政治運営のあり方と、近代市民社会の形成にあたって社会の主役となった市民たちが、選挙を通じて政治に参加していく、議会制民主主義という形を比較検討することを通して、民主政下に生きる市民に必要な政治参加のあり方についての見識を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行う予定です。
 受講生の人数などにもよりますが、可能であれば、適宜、特定の課題について受講生による討論をしてもらうこともあるかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	デモクラシー：古代と近代	授業の概要についての説明
第 2 回	アテネ民主政概観、貴族政から民主政へ	ソロンからクレイステネスまで
第 2 回	デロス同盟とペリクレス時代のアテネ民主政	ペリクレス時代のアテネ民主政の特徴
第 4 回	アテネ民主政と近代の民主政	アテネ民主政のまとめと近代の市民革命の概要と背景
第 5 回	イギリスの場合 (1)	いわゆるピューリタン革命から責任内閣制の成立まで
第 6 回	イギリスの場合 (2)	選挙法改正の歩み
第 7 回	イギリスの場合 (3)	イギリスの自由主義
第 8 回	フランスの場合 (1)	大革命
第 9 回	フランスの場合 (2)	王政復古から第三共和政まで
第 10 回	フランスの場合 (3)	フランス革命と「民主政」
第 11 回	アメリカの場合 (1)	独立戦争から南北戦争まで
第 12 回	アメリカの場合 (2)	大統領権限と大きな政府 ニューディール以降
第 13 回	アメリカの場合 (3)	ポピュリズムをめぐって
第 14 回	総括	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業についてある程度の予備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、自分が必要と思うものを選んで読んでおくといよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

『民主主義—古代と近代』、M.I. フィンレイ著、柴田平三郎訳、刀水書房 1991。
 『民主主義の源流』、橋場弦著、講談社学術文庫 2016。
 『イギリス史 10 講』、近藤和彦著、岩波新書 2013。
 『フランス史 10 講』、柴田三千雄著、岩波新書 2006。
 『憲法で読むアメリカ史』、阿川尚之著、ちくま学芸文庫 2013。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価します。

受講生の人数によっては、レポート評価になるかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course will look at the history of the democracy, focusing on some major western countries and comparing them with the “demokratia” of ancient Athens.

HIS100LA

日本史Ⅰ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅰ

2016 年度以前入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会・経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一しょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス—東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制の地方支配のいきづまりと地方支配の転換について
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について

第 14 回 試験と解説 授業内容を総括、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（90 % 予定）。

平常点を考慮することもあります（10 % 予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果がまだ出ていないため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through various aspects of politics,economics,society and culture etc.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅱ

2016 年度以前入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 A～H／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的な歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス—世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実に基づいて検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。

第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（90 % 予定）。平常点を考慮することもあります（10 % 予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果がまだ出ていないため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from early modern to modern times, through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史 I

2016 年度以前入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

文 1 年 T～V、営 1 年 A～J、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なっており、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんといっしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が「時代区分論」で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制かで中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、纏てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。

発行日：2019/5/1

第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ありません。授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。

ただし事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布しておきますので、興味のある方はそれを活用しながら教科書を読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%予定）出席者数によっては平常点を考慮することもあります（5%予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66

2007 年、『「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録」のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅱ

2016 年度以前入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

文 1 年 T～V、営 1 年 A～J、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実に基づいて検討していきます。

第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ありません。授業のなかで完結するように講義を工夫して行います。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（95 % 予定）。出席者数によっては平常点を考慮することもあります（5 % 予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉
日本古代史・法制史・北方史・国際日本学
〈研究テーマ〉
日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史
〈主要研究業績〉
2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』
2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院
2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66
2007 年、『「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録」のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.
we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".
In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA	
日本史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史 I	2016 年度以前入学者
小口 雅史	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
文 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なっており、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんといっしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制かで中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、纏てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。

第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ありません。授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。

ただし事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布しておきますので、興味のある方はそれを活用しながら教科書を読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%予定）出席者数によっては平常点を考慮することもあります（5%予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66

2007 年、『「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録」のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅱ

2016 年度以前入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

文 1 年/法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実に基づいて検討していきます。

第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ありません。授業のなかで完結するように講義を工夫して行います。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付します。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（95 % 予定）。出席者数によっては平常点を考慮することもあります（5 % 予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉
日本古代史・法制史・北方史・国際日本学
〈研究テーマ〉
日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史
〈主要研究業績〉
2010 年、『古代末期・日本の境界ー城久遺跡群と石江遺跡群』
2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院
2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66
2007 年、『「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録」のその後ー FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢学文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.
we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".
In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA	
日本史 I	2017 年度以降入学者
HIS100LA	
日本史 I	2016 年度以前入学者
真辺 美佐	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金 1/Fri.1 法 1 年 I～Y / 法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学びます。その際、教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説します。最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	東アジアのなかの日本史とは何かを学問的に考えた上で、時代区分論の諸説を検討します。
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家前史としてのヤマト王権とその対外関係を考察します。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	大化の改新を中心にヤマト王権から律令国家への転換を国際環境のなかで位置づけます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	律令国家における古代家族と在地首長制の実態について考察します。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	皇位継承問題と藤原氏の台頭を中心に律令国家の展開とその終焉を考察します。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	中国の影響下で形成された日本文化の展開とその特徴を考察します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関期の国家の歴史的特徴を検討します。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	古代から中世への変容と院政期の特徴を考察し、併せて日宋貿易の役割についても考えます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生について、北方世界の動向を踏まえながら検討します。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	執権政治を概括した上で、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府と室町幕府を比較し、室町幕府が成立した背景を考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日明関係の影響を受けた室町文化の特徴を考察します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程と幕府の勢力地盤である関東地方の変化を考察します。
第 14 回	試験と解説	古代とは何か、中世とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の理解度を深めるために、復習を必ず必要とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配付します。

【参考書】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）
佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験の成績によって評価しますが、授業への積極的な貢献度（出席等）も参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese history during the Ancient and Medieval Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅱ

2016 年度以前入学者

真辺 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

法 1 年 1～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学びます。その際、教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説します。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス—世界のなかの近世・近代日本	世界における日本の近世・近代の時代区分に関する諸説を検討します。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	織田・豊臣政権から徳川政権への移行の歴史的背景とそれぞれの地域社会の特徴を説明します。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治の特徴を考察し、国際関係のなかで鎖国の意味を読み解きます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期の政治と社会・文化の特徴を検討します。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の運営と租税の特徴を概括した上で、他の時代と比較します。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概括した上で、現代に引き継がれている文化遺産の今を考えます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	政治状況のなかで近世社会がどのように変容して近代社会を形成していくのかを考察します。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	明治維新の概念を規定した上で、国家としての近代化の歩みを追います。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	国際環境のなかで近代化が進められた産業の展開を追います。
第 10 回	政党政治の展開	日本の政党政治の歴史的特徴を検討し、他国と比較します。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	国際状況のなかの二つの世界大戦に対する日本の対応を比較検討します。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の展開を概括した上で、今に残る東京の文化遺産について考えます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	国際社会における戦後日本の歴史について、今日的課題も踏まえながら考察します。
第 14 回	試験と解説	近世とは何か、近代とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の理解度を深めるために、復習を必ず必要とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配付します。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験の成績によって評価しますが、授業への積極的な貢献度（出席等）も参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This course introduces Japanese history during the Early Modern and Modern Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史 I

2016 年度以前入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

営 1 年 K～U、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なっており、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんといっしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制かで中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、纏てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。

発行日：2019/5/1

第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ありません。授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。

ただし事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布しておきますので、興味のある方はそれを活用しながら教科書を読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%予定）出席者数によっては平常点を考慮することもあります（5%予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的にとらえることができたかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、『近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって』『古文書研究』66

2007 年、『「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録」のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".

In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅱ

2016 年度以前入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

営 1 年 K～U、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実に基づいて検討していきます。

第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ありません。授業のなかで完結するように講義を工夫して行います。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（95 % 予定）。出席者数によっては平常点を考慮することもあります（5 % 予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉
日本古代史・法制史・北方史・国際日本学
〈研究テーマ〉
日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史
〈主要研究業績〉
2010 年、『古代末期・日本の境界ー城久遺跡群と石江遺跡群』
2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院
2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66
2007 年、『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録]のその後ー FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】

In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.
we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history".
In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史 I

2016 年度以前入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
国環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。
謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんといっしょに考えていきます。
高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス- 東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制的地方支配のいきづまりと地方支配の転換について
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徵について
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について

第 14 回 試験と解説 授業内容を総括、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（90 % 予定）。

平常点を考慮することもあります（10 % 予定）。

この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果が出ていないため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through various aspects of politics,economics,society and culture etc.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

HIS100LA

日本史Ⅱ

2016 年度以前入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

国環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実に基づいて検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。

第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントやノートを読み返し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養って欲しい。また、参考書に目を通し理解を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】
佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（論述問題）によって行います（90 %予定）。
平常点を考慮することもあります（10 %予定）。
この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果がまだ出ていないため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】
Considers the history of Japan from early modern to modern times,through various aspects of politics,economics,society and culture etc.

PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2017 年度以降入学者
PHL100LA	
宗教論Ⅰ	2016 年度以前入学者
若林 明彦	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
営国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「宗教」を「人間とは何か」という人間学的地平に置くことによって、人間の本性から生み出される一つの文化現象として宗教を理解することを学ぶ。

【到達目標】
人類史における宗教の発生とその形態について基本的な知識を学び、その延長線上にあるユダヤ教、キリスト教、仏教、イスラームといった主要な宗教への理解を深めていく。さらに、神道の形成史を辿ることによって、日本人の宗教観の根底にあるものを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。毎回リアクションペーパーを配布し、質問、感想など提出してもらい、次回にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		内容
回	テーマ	
第 1 回	ガイダンス	「宗教」を学ぶことの意義を考える。
第 2 回	宗教の起源	いったい、いつから人類は宗教的行為、宗教的観念をもつようになったのか。ホモ・サピエンス誕生にまで遡って考察する。
第 3 回	文明の誕生と宗教	オリエント文明、ギリシャ文明、黄河文明などの文明の誕生によって宗教はどのように洗練されていったかを知る。
第 4 回	ユダヤ教とは何か	オリエント文明の多神教世界を背景に生まれ、唯一神教という特性をもつに至ったユダヤ教について知る。
第 5 回	ユダヤ教、キリスト教、イスラームの関係	三つの唯一神教、ユダヤ教、キリスト教、イスラームの関係を旧約聖書、新約聖書、クルアーンを通して知る。
第 6 回	キリスト教の原点	イエスとは誰だったか、イエスが生まれた東地中海世界の政治社会的、宗教的背景について知る。
第 7 回	キリスト教の展開	イエスの死後、イエスの思想はどのように「キリスト教」へ展開し、さらに世界宗教へと発展していったかについて知る。
第 8 回	イスラームの誕生	アラビア半島になぜ新しい唯一神教は興ったか、ムハンマドとはどのような人間であったかについて知る。
第 9 回	イスラームの教え	イスラームの聖典「クルアーン」はどのように成立し、どのような教えをムハンマドに下したかを知る。
第 10 回	仏教の誕生	ブッダとは誰だったか、ブッダの教えとは何か、ブッダを生み出した古代インドの政治社会的、宗教的背景をもとに知る。
第 11 回	仏教の展開	仏教は東アジアへどのように伝播していったか、その際ブッダの教えはどのように変化したかについて知る。
第 12 回	日本人の宗教観の基層	アニミズム、山岳信仰などの民俗宗教が道教、儒教、仏教と習合することによって形成された日本人の宗教観の基層について知る。
第 13 回	神道とは何か	日本の民族宗教とされる神道とはどのように形成されたかについて知る。
第 14 回	まとめ	これまでの講義の総括とリアクションペーパーによって明らかになった疑問点を解消する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディアで報道される宗教関係の事件、話題に日頃から注視し、重要なものはファイルしておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。パワーポイントあるいは配付資料によって授業を進める。なおパワーポイント資料は授業支援システムにアップする。

【参考書】

石井研士著『プレスステップ 宗教学』（弘文堂）等

【成績評価の方法と基準】

期末試験

【学生の意見等からの気づき】

板書がごちゃごちゃしてノートに書き取れないとの指摘があったので、なるべくゆっくりと丁寧に板書することにする。

【Outline and objectives】

You can learn

1. the origin of religions and religious behavior in human history and
2. the history, the ideology and teaching of Judaism, Christianity, Islam, Buddhism and the Japanese religious tradition.

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2016 年度以前入学者

若林 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

営国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代宗教学の一分野である「宗教現象学」の初歩を学ぶ。制度宗教、民俗宗教、民間信仰を問わず、その中で私たちが「宗教」あるいは「宗教的なもの」と見なしている様々な「現れ」の意味を分析することによって宗教の本質を解明する。

【到達目標】

- ①宗教現象の中から「祈り」、「神話」、「世界観・他界観」、「儀礼」、「祝祭」を取り上げその意味と構造について知る。
- ②科学的合理主義の考え方に慣れ、またそれが正しいと信じる現代人にとって、①で見てきた宗教現象はどのような意味を持つのかについて知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次回にそのフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	宗教現象を信仰の立場ではなく、経験科学的に分析する学問としての「宗教学」について知る。
第 2 回	宗教の分類	宗教学は諸宗教を比較、分類することから始まる。「アニミズム」、「民族宗教」、「普遍宗教」などについて知る。
第 3 回	宗教現象学の方法	宗教現象の基準、尺度としての「聖と俗」という概念について知る。
第 4 回	「祈り」の諸相	俗なる人間が聖なるものに対してどのような特別な言葉（聖なる言葉）で接近、交わろうとするかについて知る。
第 5 回	「神話」とは何か（1）	「神話」という「聖なる言葉」における「物語」という人間固有の言語表現の意味について知る。
第 6 回	「神話」とは何か（2）	物語形式をとった「聖なる言葉」としての「神話」に真理があるとすればそれは何かについて知る。
第 7 回	宗教的世界観の諸相	「私たちはどこから来て、今どこに生き、死んだらどこへ行くのか」という問いに答えてきた宗教的世界観について知る。
第 8 回	儀礼とは何か	聖なるものへ接近、交わるための定式化された行為としての儀礼の意味と構造について知る。
第 9 回	通過儀礼の諸相	聖と俗の間の境界線を通過する際に課せられる「浄化儀礼」および人生の階梯における「通過儀礼」の諸相について知る。
第 10 回	「祭」の構造	祭儀の部分と祝祭的部分に分かれる「祭り」の構造とその意味について知る。
第 11 回	科学的合理主義の中の宗教現象（1）	「宗教」、「呪術」、「科学」、これら三つの精神文化相互の類似点と相違点について知る。
第 12 回	科学的合理主義の中の宗教現象（2）	合理主義の対極にあると思われる呪術の一形態のシャマニズムを取り上げ、その本質について知る。
第 13 回	科学的合理主義の中の宗教現象（3）	科学的合理主義の時代においてその反動として、宗教と呪術が復興しようとする現代の潮流（イスラム復興運動、新宗教運動）について知る。
第 14 回	まとめ	これまでの講義の総括とリアクションペーパーから明らかになった疑問点を解消する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディアで季節ネタとして報道される日本各地のお祭り、奇祭として紹介される世界各地のお祭り、あるいは日ごろから慣れ親しんでいる近所のお祭りに注目して、なぜそのような祭りをしているのか、その由来、儀式的意味について調べてみる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わない。パワーポイントあるいは配布資料によって授業を進める。なお、パワーポイント資料は授業支援システムにアップする。

【参考書】

芦名定道著『宗教学のエッセンス - 宗教・呪術・科学 - 』（北樹出版）等

【成績評価の方法と基準】

期末試験

【学生の意見等からの気づき】

板書内容をパワーポイント資料にして欲しいとの要望があったので、できる限り対応したい。

【Outline and objectives】

You can learn the elements of the "phenomenology of religion", which studies the various aspects of religious experience and rituals. This course deals with the meaning of "the sacred", "prayer and worship", "myth", "cosmology", "festival" and so on.

PHL100LA

宗教論 I

2017 年度以降入学者

PHL100LA

宗教論 I

2016 年度以前入学者

酒井 健

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

文営環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代エジプトの多神教に始まって、キリスト教、仏教、イスラム教などの宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、宗教の本質への理解を深めていく。

【到達目標】

宗教の基本を客観的に学んで、「生きるとは何か」「人間とは何か」という人文系の学問の大前提の問題へ理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回、授業の最後 20 分ほどを使って、論述形式のリアクション・ペーパーを書いてもらう。この点でかなりハードな授業だが、自分を成長させたい向上心を持つ学生にかなう授業になっている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明。	今学期の授業の内容と進め方の説明。宗教を学ぶことの意義を中心に。
第 2 回	宗教はなぜ生まれたか	宗教の発生を人類の起源に立ち返って考察する。
第 3 回	宗教にはどんな形態があるのか	宗教形態の基本的な問題（一神教と多神教、超越神崇拜と自然崇拜など）
第 4 回	世界の主要宗教（1）古代エジプトの宗教	多神教の代表的な例としてエジプトの神々の存在について考える。
第 5 回	世界の主要宗教（2）ユダヤ教	一神教の最古の例としてユダヤ教の発生と伸長について考える
第 6 回	世界の主要宗教（3）キリスト教第 1 回	ユダヤ教から派生して生まれた一神教としてキリスト教の誕生を考えていく。
第 7 回	世界の主要宗教（4）キリスト教第 2 回	パレスチナで生まれたキリスト教がヨーロッパ内陸で発展していくときの状況について考える。
第 8 回	世界の主要宗教（5）イスラム教第 1 回	三大一神教の最後を飾るイスラム教の発生について考える。
第 9 回	世界の主要宗教（6）イスラム教第 2 回	中世におけるイスラム世界の伸張と現代のイスラム教の状況について考える。
第 10 回	世界の主要宗教（7）仏教第 1 回	仏教の発生と根本の思想について考える。
第 11 回	世界の主要宗教（8）仏教第 2 回	大乘仏教と小乗仏教の違いについて考える。
第 12 回	日本の神道	日本古来からある神道について自然崇拜の視点から考える。
第 13 回	現代日本の問題	現代の日本人の宗教心について考える。
第 14 回	まとめ、試験	学期全体の授業内容の復習をかねて論述の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●毎回論述形式のレスポンス・ペーパーを書いて授業の最後に提出するが、そのなかで優秀な回答を次の授業の冒頭で数点紹介する。どこかすぐれているか指摘するので、これをもとにして授業時間外に授業内容と論述の仕方を各自学習してほしい。

【テキスト（教科書）】

担当教員の作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

石井研士著『プレスステップ 宗教学』（弘文堂）等

【成績評価の方法と基準】

「生きるとは何か」「人間とは何か」という基本的な問題をどの程度考察しているかによって成績評価をくだす。毎回のレスポンス・ペーパー（50%）と期末の論述試験（50%）が成績評価の具体的な目安になる。

【学生の意見等からの気づき】

板書が読みづらいということなので、できるだけパワーポイントに文言を載せて授業を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】
とくにない。

【その他の重要事項】
文章をかなり書かせる授業なので、その点の心構えをしっかりとっておいてほしい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn fundamental aspects of various religions such as Egyptian polytheism, christianism Islam boudhism and shantou, In the last 20 minutes of this course, students will be expected to write in Japanese their response.

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2016 年度以前入学者

酒井 健

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文営環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神（あるいはカミガミ）と人間の関係を中心に主要な宗教現象を学び、さらに古代から近代までの歴史のなかで宗教が果たした役割について考察していく。

【到達目標】

- ①宗教に対する基本的な見方（例えば「聖なるもの」と「俗なるもの」、「ハレ」と「ケ」）を学び、
- ②さらに世界の歴史に眼を向け宗教現象を広い視点で捉えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回、授業の最後 20 分ほどを使って、論述形式のリアクション・ペーパーを書いてもらう。この点でかなりハードな授業だが、自分を成長させたい向上心を持つ学生にかなう授業になっている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	今学期の授業の概要の説明。宗教論とは何か。
第 2 回	宗教の分類	世界宗教と民族宗教など。
第 3 回	基本的な視点	宗教現象の基本的な見方（聖と俗など）
第 4 回	聖なることば（1）	祈りを中心に
第 5 回	聖なることば（2）	神話を中心に
第 6 回	宗教的世界観	聖なる空間および他界について
第 7 回	聖なる行為（1）	祭りと儀礼
第 8 回	聖なる行為（2）	供儀が意味するもの
第 9 回	聖なる行為（3）	芸術表現との関係。音楽、舞踏、建築、彫刻、絵画と宗教の関係
第 10 回	理性と宗教（1）	宗教・呪術・科学
第 11 回	理性と宗教（2）	呪術と宗教
第 12 回	理性と宗教（3）	西洋占星術の起源から近代天文学の誕生へ
第 13 回	理性と宗教（4）	近代科学革命のなかで
第 14 回	試験、まとめ	この学期全体の復習をかねて論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●毎回論述形式のレスポンス・ペーパーを書いて授業の最後に提出するが、そのなかで優秀な回答を次回の授業の冒頭で数点紹介する。どこかすぐれているか指摘するので、これをもとにして授業時間外に授業内容と論述の仕方を各自学習してほしい。

【テキスト（教科書）】

担当教員の作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

芦名定道著『宗教学のエッセンス ― 宗教・呪術・科学 ― 』（北樹出版）等

【成績評価の方法と基準】

宗教の基本的な見方をどれだけ習得できたかに応じて成績評価を行う。毎回のレスポンス・ペーパー（50%）と期末の論述試験（50%）が成績評価の具体的目安になる。《到達目標との関係》＝上記①と②に関して期末の論述試験で到達の程度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

板書が読みづらいということなので、できるだけパワーポイントに文言をおこして授業を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】

文章をかなり書かせる授業なので、その点の心構えをしっかりとっておいてほしい。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to continue to learn fundamental aspects of various religions such as Egyptian polytheism, christianism, Islam, Buddhism and Shinto. In the last 20 minutes of this course, students will be expected to write in Japanese their response.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

ART100LA

芸術 I

2016 年度以前入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は「アヴァンギャルド芸術」の意味を学ぶことである。春学期は、キュビズムをアポリネールの著作から学び、ピカソからデュシャンまでのダダ・シュルレアリスムの作品をスライドを見て学ぶ。

【到達目標】

アヴァンギャルド芸術は、20 世紀初頭のキュビズム（立体主義）の運動から始まる。以後、ダダ・シュルレアリスムの運動へと展開していくこの流れの意味を、芸術家や批評家の証言や作品のスライドを通して理解できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

自作のプリントとスライドを用いて、講義形式で授業を行うが、ときに、自動書記やデッサンなどのアクティブ・ラーニングを行い、またリアクションペーパーなども利用して、理解を深めていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キュビズム美学的省察 1	アポリネール『キュビズムの画家たち』より 1 章。
第 2 回	キュビズム美学的省察 2	アポリネール『キュビズムの画家たち』より 2-4 章。
第 3 回	キュビズム美学的省察 3	アポリネール『キュビズムの画家たち』より 5-7 章。
第 4 回	キュビズムの画家 1	ピカソとブラックの作品。
第 5 回	キュビズムの画家 2	メツァンジェからデュシャンまでの作品。
第 6 回	キュビズムの彫刻家 1	デュシャン＝ヴィヨン、アーケペンコ、リブシッツの作品。
第 7 回	キュビズムの彫刻家 2	アンリ・ローランスの作品。
第 8 回	ダダイスム 1	チューリッヒ・ダダ、トリスタンツァラの「ダダ宣言」。
第 9 回	ダダイスム 2	パリ・ダダ、ブルトンの『文学』グループ。
第 10 回	シュルレアリスム 1	ブルトンの「シュルレアリスム宣言」。
第 11 回	シュルレアリスム 2	シュルレアリスムの理論 1：オートマティズム。
第 12 回	シュルレアリスム 3	シュルレアリスムの理論 2：野生の思考、プリコラージュ。
第 13 回	シュルレアリスム 4	遊びとしてのシュルレアリスムのおもしろさ。
第 14 回	期末試験	記述試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間を見つけて、美術館・博物館に足を運ぶことはもちろんだが、身に周りのシュルレアリスムなもの（強・現実）を見い出せるように意識的なこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、自作のプリントを配布する。

【参考書】

カーンワイラー『キュビズムへの道』（SD 選書、鹿島出版会）
ワルドベルク『シュルレアリスム』（巖谷訳、河出文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）と到達目標に関する記述試験（70 %）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to learn the significance of *avant-garde arts*. In the first semester we learn the cubism and Dada-surrealism by reading the book of Apollinaire and looking at the art-works(slides) from Picasso to Duchamp.

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

ART100LA

芸術 II

2016 年度以前入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術とは何か」を学ぶ。具体的にはさまざまな芸術のイメージと概念を通じて、芸術の意味を理解していくことが目的である。

【到達目標】

授業の目的でも述べた通り、「芸術とは何か」を問い、芸術の意味を理解することが目標である。実際には具体的な作品や専門用語を通してこの意味を理解していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

自作のプリントや映像を用いて、講義形式で授業を行うが、ときに、アクティブ・ラーニングやリアクションペーパーなどで学生諸君の理解度の確認を行うつもりである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	芸術の諸問題 1	ダイナミックなイメージ、舞踏、映像鑑賞。
第 2 回	芸術の諸問題 2	表現性について、映像鑑賞。
第 3 回	芸術の諸問題 3	創作について、映像鑑賞。
第 4 回	芸術の諸問題 4	生きた形式について、映像鑑賞。
第 5 回	芸術の諸問題 5	芸術的認識と自然の光について、映像鑑賞。
第 6 回	芸術の諸問題 6	誤った類推、芸術の見かけ上の関係と真の関係、映像鑑賞。
第 7 回	芸術とは何か 1	芸術の模倣と転換、映像鑑賞。
第 8 回	芸術とは何か 2	芸術の原理と創作技法、映像鑑賞。
第 9 回	芸術とは何か 3	芸術としてのシンボルと芸術の中のシンボル、映像鑑賞。
第 10 回	芸術とは何か 4	詩的創作、映像鑑賞。
第 11 回	芸術とは何か 5	芸術における抽象化の問題、映像鑑賞。
第 12 回	芸術とは何か 6	感情の問題、映像鑑賞。
第 13 回	芸術とは何か 7	芸術における愛と美、映像鑑賞。
第 14 回	期末試験	知識の整理と小論問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館・博物館に行つて、実際の芸術作品にふれること、またわれわれの日常の身のまわりに美を見つけたこと。

【テキスト（教科書）】

自作のプリントを配布する。

【参考書】

S. K. ランガー『芸術とは何か』（岩波新書）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）と到達目標に関する記述試験（70 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

We learn the essence of art: what is art. The objective of this subject is to understand the meaning of art through the images and terms of art.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

ART100LA

芸術 I

2016 年度以前入学者

小澤 慶介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

文国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史だけではなく、哲学思想や社会学、文化人類学など他の学問領域からも捉えることで、同時代を映し出すものとしての芸術について考える。それは、複雑で多様な現代の社会を捉える力を養うことでもある。

【到達目標】

近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。その過程で、近代社会や芸術の関係を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	芸術とは何か？	本授業において、どのようなものがある いはことを「芸術」と呼ぶかについて。
2	芸術の規則のようなもの	過去 200 年の芸術の歩みを振り返り、 芸術はどのように現代に見るように変 化してきたのかについて考える。
3	絵画の歩み	グスタフ・クールベやエドゥアール・ マネなど、絵画の可能性を切り開いた 芸術家の仕事および思考について。
4	眼から頭脳へ	マルセル・デュシャンとコンセプチュ アル・アートについて考える。
5	複製技術とアートの地殻 変動	写真術の誕生とそれが芸術に与えた衝 撃について考える。
6	写真は何を写し出してき たか	写真が芸術になるとき、それは世界の 何を切り取って伝えているのかについ て考える。
7	彫刻とは何か	彫刻の歩みについて、19 世紀末フラン スのオーギュスト・ロダンから眺める。
8	彫刻からインスタレー ションへ	台座から解放され、ときには美術館の 外に出てゆく彫刻の進化について考え る。
9	映像の誕生	19 世紀末フランスのリュミエール兄 弟やアメリカのエジソンが発明した映 像とそれが開く文化について考える。
10	映像が変えた 20 世紀	テレビジョンやインターネットの到来 と映像作品の関係を考える。
11	大正デモクラシーと太平 洋戦争期の芸術	自由の実践と権力への抵抗のかたちに ついて考える。
12	日本の戦後美術の歩み	「反芸術」と言われた戦後日本の前衛 芸術運動を紹介しながら、現代の日本 の芸術と時代との関係を考える。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出
14	多様化する現代の芸術	絵画や彫刻、写真、インスタレーショ ン、映像、デジタルテクノロジー、ま たそれらの組み合わせで成立する現代 の芸術について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行つて、実物
を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる
こと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典 <http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline and objectives】

This lecture series gives an overview of the history of art from the early 19th century to the present day while referring to other academic disciplines such as philosophy, sociology and anthropology. Students are encouraged to think about artworks and art practices in relation to the social conditions.

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

ART100LA

芸術 II

2016 年度以前入学者

小澤 慶介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

文国 1 年/法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990 年代以降加速したグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。政治や経済、福祉などと密接に関係するアートと場づくりをとらえて、芸術のみならず現代の社会の構えについて理解を深める。

【到達目標】

政治や経済と密接な関係をもつ現代アートのあり方と、時代の先行指標となり既存の価値に問いを投げかける現代美術のあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界とともに芸術の可能性を探る思考力と洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代美術の作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。また、必要に応じてテーマに関連する展覧会を訪ねよう促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	芸術の世界 1	美術界の仕組みと運動について概説する。現代の芸術をめぐる人、モノ、お金の巡りとアートマーケット。
2	芸術の世界 2	新自由主義によって変容する美術館とそれに関連する現象を考察する。
3	展覧会の歴史	時代や社会を鋭い視点で描き出した伝説的な展覧会を紹介する。
4	グローバリゼーションと多文化主義	1980 年代後半以降の展覧会と表象文化における議論を紹介する。
5	国際展の時代	ヴェネチア・ビエンナーレほか、1990 年代以降加速的に増加した国際展とその社会的機能について考察する。
6	「他者」とは誰か？ 1	植民地主義以降の文化間格差と芸術抱えてしまう課題について紹介し、検討する。
7	「他者」とは誰か？ 2	大地の魔術師たち展やドクメンタ 11 などとをとおして、他者の表象の移り変わりについて考える。
8	ドクメンタ 14 から見える世界	新自由主義が生み出してきた非対称な世界とドクメンタ 14 (2017) について考える。
9	地域社会と芸術祭	近年、全国各地で開催されるようになっていく芸術祭について、地域の特性と展示内容の関係を考える。
10	アーティスト・イン・レジデンスと地域社会	アークスプロジェクトの実践をとおして、先鋭的な芸術と地域社会を結ぶ回路作りを考える。
11	自己への配慮、他者への眼差し	アートはこれからどのようなものになってゆくのかということについて、いくつかの視点を投げかける。
12	キュレーターの職能	今、キュレーターは何を考えてどのように展覧会づくりに取り組んでいるのか。事例を紹介しながら解説する。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出
14	2020 年以降の芸術を考える	これからの芸術を想像し、自由に話合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行き、実物を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典 <http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施

【学生の意見等からの気づき】

授業前あるいは後に直接アポイントをとること。

【Outline and objectives】

This lecture series gives an overview of the relationship between art and globalization from the 1990's and students are encouraged to think about visual culture in relation to our complex and diversified social conditions.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

ART100LA

芸術 I

2016 年度以前入学者

中川 三千代

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
営国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芸術の中でも主に西洋絵画、加えて彫刻・装飾美術を取り上げ、ルネサンス以降の西洋美術史と欧米での近代的な美術館の成立について学びます。これを通して、美術が社会にどう関わってきたか、現在どう関わっているかについて考えます。

【到達目標】

- 1) ルネサンス以降の西洋絵画、彫刻・装飾美術に関する知識を深め、様々な視点から作品を鑑賞できる。
- 2) 西洋絵画が歴史的にどのような変遷をたどっていったかを学び、絵画の背景にある歴史を理解することができる。
- 3) 美術館の成立過程について、現代の美術館がどのように成立したか、歴史的な背景を含めて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。
また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・西洋美術史の流れ	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施。また、西洋美術史の大まかな流れについて触れる。
第 2 回	西洋絵画入門	西洋絵画におけるジャンル分けを解説し、主なジャンルの作品を紹介する。
第 3 回	風景画の成立	特に風景画について、ジャンルとしての成立から印象派に至るまでの流れを解説する。
第 4 回	ルネサンス・バロック美術	ルネサンス、バロック、ロココ美術の代表的な作家・作品を紹介し、その移り変わりを解説する。
第 5 回	新古典主義・ロマン主義	フランス革命期の絵画について、主題の変化や背景の理念等に触れながら作品を紹介する。
第 6 回	印象派	印象派の作家・作品およびその時代背景・技法について解説する。
第 7 回	ポスト印象派・新印象派	印象派に強く影響を受けた画家を中心に、作家・作品を紹介する。
第 8 回	世紀末から 20 世紀	世紀末から第一次世界大戦前までの西洋絵画の潮流・運動について概説する。
第 9 回	彫刻	西洋の彫刻について、ロダン及びロダン以降の近代彫刻を中心に概説する。
第 10 回	万博と装飾美術	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、及びこれらと関連の深い万国博覧会について解説する。
第 11 回	ルーヴル美術館の設立とフランスの美術館	西洋における美術館の成り立ちについて、ルーヴル美術館を一例として取り上げ、更に現在のフランスの美術館について解説する。
第 12 回	欧州の美術館	欧州の代表的な美術館をいくつか取り上げ、その成立や現在について解説する。
第 13 回	英米の美術館	英米の代表的な美術館をいくつか取り上げ、その成立や現在について解説する。
第 14 回	まとめ	授業を通しての総括を実施する。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。
また、授業外では、美術館やギャラリーを積極的に訪れ、多くの作品に接することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内レポート）：60 %
課題レポート：40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

昨年度の国際文化学部「社会と美術」（ART200GA）の履修者は、内容に重複があるので、履修をおすすめしません。

【Outline and objectives】

In this class, Western paintings will be mainly discussed, along with sculptures and decorative arts, in order to learn about the Western art history after the Renaissance, and the establishment of the art museums in the Western society. Students will learn about how art has contributed to the society.

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

ART100LA

芸術 II

2016 年度以前入学者

中川 三千代

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 営国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治・大正・昭和初期の日本における西洋美術の受容について、作家の視点と観衆の視点から学びます。また、日本の近代美術館の成立過程や歴史、現代の美術館の機能や役割について学びます。

【到達目標】

- 1) 江戸期から大正期の作家たちが西洋美術技法をどう取り入れたかを学ぶ。
- 2) 明治期から昭和初期にかけて、西洋美術作品がどう展覧されたかを学ぶ。
- 3) 美術館の機能と役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。
 また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。また、日本での西洋美術の受容の流れについて触れる。
第 2 回	伝統的な日本の絵画と洋風画	江戸時代までの日本の絵画が西洋絵画にどう影響されたかを解説する。
第 3 回	明治・大正期の日本の洋画	西洋絵画技法の導入により成立した明治・大正期の洋画について、その成立過程と初期の作品を解説する。
第 4 回	日本の近代彫刻	ロダン彫刻の需要を中心に、明治・大正期の日本における彫刻を取り上げる。
第 5 回	西洋で活躍した日本画家	藤田嗣治、国吉康雄、佐伯祐三など、西洋で活躍した日本人の画家を取り上げる。
第 6 回	西洋美術品の流入	大正から昭和にかけて西洋美術品の輸入を試みた活動をいくつか取り上げて解説する。
第 7 回	仏展・日仏芸術社	初期の西洋美術品流入におけるトピックとして、仏蘭西現代美術展およびその運営母体の日仏芸術社を取り上げる。
第 8 回	美術館設立運動	日本における美術館制度の成立過程を、展覧会および美術館設立への運動を中心に解説する。
第 9 回	黎明期の日本の美術館	黎明期の美術館として東京府美術館の設立過程を中心に解説する。
第 10 回	現在の日本の美術館	現在の特徴的な日本の美術館について、いくつかを例として取り上げる。
第 11 回	美術館の役割（保存修復・展示）	美術館の役割を規定した法律、及び美術館の役割である保存修復・展示について解説する。
第 12 回	美術館の役割（調査研究・教育普及）	調査研究、教育普及といった美術館の役割について、活動の例をあげて解説する。
第 13 回	美術館の外の美術	パブリックアート、アートプロジェクトなどの、美術館の外での芸術活動を取り上げる。
第 14 回	まとめ	授業を通しての総括を行う。また、各界で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。また、授業外では、美術館やギャラリーを積極的に訪れ、多くの作品に接することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内レポート）：60%
 課題レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

昨年度の国際文化学部「社会と美術」（ART200GA）の履修者は、内容に重複があるので、履修をおすすめしません。

【Outline and objectives】

In this class, how the Western art was introduced in Japan during the Meiji/Taisho/Showa era will be discussed from the artists' and people's point of view. The establishment process and history of art museums in Japan, and also the function and role of art museums today will be discussed.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学 I

2016 年度以前入学者

山本 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。法学の基礎を身につけ、日本国憲法の基本原則を理解し、法律との関連を理解することを目的とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
 ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
 ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
 ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。パワーポイントを用いる。
 授業支援システムを用いたレポート課題提出（ワード使用）がある。
 レジュメは授業支援システムで配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義
第 2 回	法とは何か	法の特徴と働き、法の学び方
第 3 回	法の仕組み	法源、成文法の分類
第 4 回	憲法 1（憲法の基礎）	日本国憲法の基本
第 5 回	憲法 2（国の統治機構 1）	三権分立、国会
第 6 回	憲法 3（国の統治機構 2）	裁判所、地方自治
第 7 回	憲法 3（基本的人権 1 平等権）	基本的人権の保障の基礎、平等権
第 8 回	憲法 4（基本的人権 2 精神的自由権）	自由権保障の基礎、精神的自由権
第 9 回	憲法 5（基本的人権 3 経済的自由権）	経済的自由権
第 10 回	憲法 6（基本的人権 4 人身の自由）	人身の自由と適正手続保障
第 11 回	憲法 7（基本的人権 5 生存権、教育権）	生存権、教育権
第 12 回	憲法 8（基本的人権 6 勤労権、労働基本権）	勤労権、労働基本権
第 13 回	裁判の仕組み 1	裁判の意義と機能
第 14 回	まとめ	法学の基礎、憲法のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所を事前の予習する。毎回の授業の後には判例百選等を用いて、扱った裁判例を復習する。授業支援システムで宿題を提出する。

【テキスト（教科書）】

大谷實編著『エッセンシャル法学』（第 7 版）（成文堂、2019 年春に発刊予定、価格未定）

【参考書】

中山政義、土屋茂、長谷川日出世、高岸直樹『法学-法の世界に学ぶ』（成文堂、2017 年、2016 円＋税）

【成績評価の方法と基準】

論述式の筆記試験の得点（80 %）と、授業期間中の課題、宿題の評価（20 %）とを総合して評価する。試験については、到達目標の①～③の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

100 分授業となったことを利用して、学生に授業内で課題を解いたり、資料をまとめたりすることを取り入れる。授業内でのビデオ視聴をもとにしたレポートについては、今年度も機会を増やす。裁判傍聴を奨励する。

【学生が準備すべき機器他】

事前に授業支援システムで配布した資料をプリントアウトして持参すること。

【Outline and objectives】

It aims to acquire the foundation of law, to understand the basic principles of the Japanese Constitution, and to understand the relationship with the law.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅱ

2016 年度以前入学者

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の基礎を身につける。民法、刑法、商法、労働法、社会保障法、医療法、情報法、国際法等の基礎を理解することを目的とする。

【到達目標】

学生が大学生として最低限必要な法に関する知識を身につけ、法的思考力（リーガルマインド）をつけていることを到達目標とする。
 民法、刑法、労働法、社会保障法、医療法、情報法、国際法等に関する課題を発見し、学説や判例を引いて、課題に関する自分の意見を論理的に述べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、パワーポイントを用いて授業を行う。ミニレポート、宿題の提出を求めることがある。法改正動向によって授業計画が変更されることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	財産と法 1	財産法の構造、債権法の基礎
2	財産と法 2	物権、法律行為の主体
3	経済取引と法 1	消費者契約法、消費者被害と法
4	経済取引と法 2	企業と法、経済と法
5	家族と法 1	家族法総論、夫婦と法
6	家族と法 2	親子と法、相続
7	犯罪と法	刑法の機能と基本原則
8	労働と法	労働基準法、労働基本権
9	事故と法	不法行為責任、被害者救済
10	社会保障と社会福祉	社会保障法、社会福祉制度
11	医療と法	医療訴訟、生命を巡る法律問題
12	情報化社会と法	情報の保護と法、アクセス権
13	国際社会と法	国際社会と国際法
14	まとめ	法改正情報等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

夏休み中に指定テキストの第 11 章から 20 章を通読しておくこと。毎回講義前にテキストの該当する箇所を通読し、レジュメをプリントアウトして予習し、疑問点をノートに書き出しておくこと。

【テキスト（教科書）】

大谷實編著『エッセンシャル法学（第 7 版）』成文堂、2019 年春発刊予定、価格未定

【参考書】

中山政義、土屋茂、長谷川日出世、高岸直樹『法学・法の世界に学ぶ』（成文堂、2017 年、2016 円＋税）

【成績評価の方法と基準】

論述式の筆記試験の得点（80 %）と、授業期間中の課題、宿題の評価（20 %）とを総合して評価する。試験については、授業で取り扱う諸法のうち 2 つの分野から出題し、設問に対し、法律条文を解釈し、学説や判例を引用したうえで自分の意見を論理的に述べるができるかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の際にノートを取るにあたっては山本泰嗣『最強の法律学習ノート術』（弘文堂、2012 年）が参考になる。必ず 9 月に発刊された最新六法を持参すること。
 講義内配布資料の再配付、授業内で視聴する VTR の DVD の貸し出し等はないので毎回授業に出てくること。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで事前にレジュメを配布するので、各自、プリントアウトして持参のこと。裁判傍聴を行うことを推奨している。

【Outline and objectives】

It aims to acquire the foundation of civil law, criminal law, commercial law, labor law, social security law, medical law, information law, international law.

LAW100LA

法学Ⅰ

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅰ

2016 年度以前入学者

榎 敬殷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
 法 1 年 I～N、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

【到達目標】

- ① 法学の基本的な概念を理解し、基本的な法律用語の読み方と意味が分かる。
- ② 法学の思考様式について総合的な認識を持つ。
- ③ 憲法、民法、刑法等、代表的な法分野の基本原則と特徴を把握する。
- ④ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
- ⑤ 生活をする中で経験する様々な法律行為について、民法で定めている内容を中心にその全体像を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

法学の初学者・法学を専門としない履修者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。憲法、刑法、民法などを中心にその基本原則を解説し、そこでの理念や基礎概念を理解する。授業は、進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	法学を学ぶにあたって	ガイダンス、法学を学ぶことの意義
第 2 回	法学における議論の特徴	①法規範の構造 ②法解釈の必要性とその意味
第 3 回	法解釈の諸方法	法解釈の出発点とその技術
第 4 回	法の体系と形式	①法の分類 ②制定法のいろいろ
第 5 回	法の適用	①裁判所と各種裁判手続 ②民事裁判手続 ③刑事裁判手続
第 6 回	判決	①判例の重要性 ②判決の読み方
第 7 回	憲法の仕組み	憲法の基本原則
第 8 回	憲法と基本権 (1)	憲法と人について考える:刑法からのアプローチ
第 9 回	憲法と基本権 (2)	憲法と人について考える:民法からのアプローチ
第 10 回	法律行為の主体	権利能力、意思能力、行為能力
第 11 回	法律行為の成立	契約の成立：申込みと承諾
第 12 回	法律行為の構成要素	意思表示：心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺、強迫
第 13 回	法律行為の代理 (1)	代理権、代理行為、代理の効果
第 14 回	法律行為の代理 (2)	無権代理、表見代理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容を復習し、そこで出てきた概念や論理を十分整理し理解するように努めること。興味を覚えた事例やトピックについては積極的に調べる姿勢を身につけてほしい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。毎回、レジュメや資料を配布して授業を行う。

【参考書】

末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣、2014 年）
 小野秀誠・良永和隆・山田創一・中川敏宏・中村肇『民法総則』（法律文化社、2011 年）
 池田真郎『スタートライン民法総論〔第 2 版〕』（日本評論社、2014 年）
 ボケット六法（出版社問わず、最新版が望ましい）

【成績評価の方法と基準】

満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 % の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。レポートを課した場合はその評価を加味する（試験の点数を基礎に、コメントの提出状況や内容に応じて 0～10 % 程度の範囲で加点・減点する場合がある）。

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁。授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。
毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to introduce the basics of the legal system to students in the law department as well as to majors in other faculties. This course will give students the opportunity to think about problems that occur in daily life from a legal perspective.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅱ

2016 年度以前入学者

榎 敬殷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

法 1 年 I～N、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識を習得・理解する。主に、次の内容を到達目標とする。

- ① 人と人との関係を規律するルールを学習する。
- ② 人と物との関係を規律するルールを学習する。
- ③ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
- ④ 国際関係についてのルールを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

法学Ⅰと同じく、授業毎に配布するレジュメを用いて行う。人と人が法律行為、特に契約を締結することによってその当事者間に発生する権利・義務関係や、それによって人が取得する物に対する権利について概観する。さらに、「法の支配」について国際的な観点から考える力を身につける。授業は、進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①財産法を学ぶことの意義 ②国際的な観点から見たルールの在り方
第 2 回	人と人との約束関係について (1)	契約の成立・効力・有効性
第 3 回	人と人との約束関係について (2)	契約の解除
第 4 回	人と人との約束関係について考える (3)	契約の種類：権利移転型の契約・貸借型の契約・労務提供型の契約
第 5 回	人とその所有する物との関係について (1)	物の概念
第 6 回	人とその所有する物との関係について (2)	所有権：内容、効力
第 7 回	人とその所有する物との関係について (3)	所有権：取得
第 8 回	人とその所有する物との関係について (4)	契約による不動産所有権の変動
第 9 回	人とその所有する物との関係について (5)	契約による動産所有権の変動
第 10 回	民事ルールの構成	物権と債権の区別
第 11 回	人（個人）と国との関係について考える	国籍、外国人、難民の問題について
第 12 回	人権の国際的保障について考える	人種差別、児童の権利について
第 13 回	人の生命について考える	戦争と平和について
第 14 回	まとめ	全体の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容を復習し、そこで出てきた概念や論理を十分整理し理解するように努めること。興味を覚えた事例やトピックについては積極的に調べる姿勢を身につけてほしい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。毎回、レジュメや資料を配布して授業を行う。

【参考書】

池田真郎『スタートライン民法総論〔第 2 版〕』（日本評論社、2014 年）
池田真朗『スタートライン債権法【第 5 版】』（日本評論社、2013 年）
内田貴『民法〔第 4 版〕』（東京大学出版会、2014 年）
ポケット六法（出版社問わず、最新版が望ましい）。
浅田正彦『国際法』（東信堂、2011 年）。

大森正仁『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 % の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。レポートを課した場合はその評価を加味する（試験の点数を基礎に、コメントの提出状況や内容に応じて 0～10 % 程度の範囲で加点・減点する場合がある）。

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心がける。

【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁。授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。

毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to introduce the basics of the legal system to students in the law department as well as to majors in other faculties. This course will give students the opportunity to think about problems that occur in daily life from a legal perspective.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学 I

2016 年度以前入学者

前川 佳夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18 世紀後半から 19 世紀にかけて、西ヨーロッパに端を発する産業革命の大きなうねりは、基本的人権保障を基軸とする「近代市民法」という新しい法システムを生み出した。やがて 1 世紀の時をへだててこの法システムは遠く東アジアに波及する。本講義では、工業化が進展する当時の欧米諸国に形成されてくる、自由権を基礎におく「近代市民法」の基本的特徴とその後の修正の動き（今年はワイマール憲法 1919 年にあたる）をまずおさえ、その上で日本国憲法を頂点とする現代日本の法システムの構造とその特質を検討する。

【到達目標】

1. 欧米諸国に誕生し、やがてアジア地域や世界の国々に波及する近代市民法の基本的特徴を理解する。
2. 戦後誕生する日本国憲法の基礎構造とその考え方を理解する。
3. 現代の市民生活を支える法システム（民法、刑法その他の実定法の構造、権利保障のしくみ、裁判制度の意義）を理解する。
4. 国際人権規約を基軸とする国際人権保障の特徴について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

近代憲法としての性質を色濃く示す日本国憲法（1947 年施行）を基軸とするわが国の法システムはいま、国内外のさまざまな政治、経済、社会情勢の変化をうけて、変貌しようとしている（第 3 の法制改革）。2017 年には、明治期の民法制定以来 120 年ぶりの大改正ともいわれる民法・債権法改正法が公布された。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、時事的なテーマもととりあげながら、講義形式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	近代市民法の構造	18 世紀から 19 世紀にかけて、欧米に誕生し、やがて日本に移入される近代市民法の特徴について論じる。
2	フランス人権宣言、フランス憲法、フランス民法の成立	明治期に G.E. ボアソナードが日本への導入に尽力したフランス法の意義について検討する。
3	日本の法を考える（1）	長い歴史をもつ日本法の歴史的变化の過程を概観し、近代日本法の 3 層構造について説明する。
4	日本の法を考える（2）	「第 3 の法改革」を中心に、環境保全、消費者保護、金融システムの再編など、現代の日本社会における法システムの果たす役割について検討する。
5	日本国憲法とその構造	第 3 章を中心に大きく 4 つの部分から構成される日本国憲法の基本構造と、各章の内容について検討する。
6	基本的人権の保障（1） - 自由権の構造 -	思想及び良心の自由（19 条）にはじまる自由権の基本的特徴について論じる。
7	基本的人権の保障（2） - 社会権の構造 -	生存権保障を基礎とする社会権の基本的特徴について論じる。
8	財産権の保障（憲法 29 条）と契約法システム	所有権を中心にすえた財産権保障の意義と「契約」法システムの特徴について論じる。
9	罪刑法定主義（憲法 31 条）と刑事責任の構造	罪刑法定主義はなぜ必要とされたのか、その現代的意義と刑事責任の特質について論じる。
10	立法権と行政権、司法権の所在	近代的な統治機構の重要な構成要素としての国会及び内閣の意義について検討する。
11	司法権の構造 - 特別裁判所の設置はなぜ禁止されたのか -	日本国憲法は特別裁判所の設置を禁止し、最高裁判所とその他の下級裁判所によるあたらしい裁判制度をつくった。その意義について検討する。

12	裁判員裁判の課題	2009 年 5 月にはじまった裁判員裁判が抱える諸課題、問題点について検討を加える。
13	法の支配と憲法尊重擁護義務（憲法 99 条）－憲法を尊重し擁護する義務を負うのはだれか－	近代社会とその法システムを基礎づける「法の支配」という考え方、そして憲法 99 条の意義について論じる。
14	国際人権規約の成立とグローバルな人権保障の課題	日本国憲法施行後約 20 年を経て国連で成立した国際人権規約の意義、および現代の国際人権保障の諸課題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に配布するプリントは、次回の授業までによく読んでおくようにしてください。また、図書館等を利用して、下記の参考文献や授業中に紹介する資料や文献等にできるだけ目を通すよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。テーマによって参考資料をコピーして配布します。（参考文献等もテーマごとにその都度紹介します。）

【参考書】

「法学講義」笹倉秀夫（東大出版会）
「憲法入門 5 訂版」樋口陽一（勁草書房）
「民法の基礎から学ぶ民法改正」山本敬三（岩波書店）
「法学の誕生－近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）
「新装版法学入門」末弘厳太郎（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

授業中の小テスト（場合によっては小レポート）20%、期末試験 80%。講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。板書の文字が読めないときや、内容が分かりにくいときもあるかと思いますが、そういうときは気軽に指摘してください。時間がゆるせば討論の時間も設けたいと思っています。お互いの力をあわせてよい授業にしていきたいと思います。

【Outline and objectives】

As the Industrial Revolution took place in the western European countries, a new legal system called "modern legal system" was born in the 19th century. This system was transplanted to East Asia about 100 years later. This course clarify the basic concepts of the modern Japanese legal system, especially Constitution of Japan 1947 and revised Civil Codes 2017, and we will also examine the role of the judiciary that supports modern civil society.

LAW100LA	
法学Ⅱ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅱ	2016 年度以前入学者
前川 佳夫	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990 年代にはじまる矢継ぎ早の法改革（福祉関連 8 法改正にはじまる高齢者保護及び介護保険制度の導入、消費者契約法、個人情報保護法の制定、障害者の自立支援法、労働契約法の新設その他）の動きは、ついに民法の根幹部分の改正にまで至った（2017 年民法・改正債権法公布－2020 年 4 月施行予定－）。本講義では、日本国憲法を頂点とするこの国の法システムはいまどう変わろうとしているのか、またどう変わるべきなのかについて、現代の日本社会が抱える喫緊の課題をとりあげながら検討する。

【到達目標】

1. 日本国憲法は現代日本の市民生活の向上にむけてどのような役割を果たしているかを理解する。
2. 憲法改正議論や改正債権法などとおして、近時の法改革の動向を理解する。
3. これからの日本社会や市民生活のなかで、近代市民法はどのような役割を果たしていくか（いくべきか）を論じる力をもつ。
4. 世界人権宣言をはじめする国際人権法の発展について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代の多面的な法改正や諸改革の動向に焦点をあて、現在の、そしてこれからの近代市民法の役割や機能について、消費者保護や雇用問題など、市民生活を支えるきわめて重要な事柄とりあげて講義形式で検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本国憲法と近代立憲主義のはたらき	立憲主義は現代の市民生活とどのように関わっているか、憲法その他諸法と市民生活との関わりについて論じる。
2	民法の役割と改正債権法の課題	1898 年の「明治民法」制定以来、戦後の家族法大改正を除き、抜本的な改正を経ずに現在に至った民法・債権法の改正をめぐる課題、また近時の相続法改正の動きについて検討する。
3	消費者契約法（2017 年改正）の意義と役割	消費者契約法（2000 年成立）、消費者基本法（2004 年）、消費者安全法（2009 年）の意義、これからの消費者保護のあり方について論じる。
4	働き方改革と労働法制の意義	戦後の労働法制の展開とその問題点を検討した上で、近時の雇用契約（労働契約）をめぐる諸課題を検討する。
5	男女共同参画社会基本法（2000 年）と改正男女雇用機会均等法（2017 年）の機能と役割	1985 年に成立した男女雇用機会均等法は、日本の雇用環境を大きく変化した。晩婚化、少子化が進行するなかでの法改正の動向、今後の課題について検討する。
6	個人情報保護法（2017 年改正）とプライバシーの保護	市民生活の基盤を支える個人の尊重とプライバシー保護をめぐる諸課題について、個人情報保護法の意義を中心に論じる。
7	児童、高齢者の権利保障と法の役割－戦後家族法制の展開のなかで－	「家制度」を廃止した戦後日本社会において家族関係は大きく変化してきた。ここでは、こどもの権利条約、新設された介護保険制度、児童および高齢者虐待防止法などを取上げ、これからの家族と家族法のあり方について論じる。
8	不法行為法システムと過失責任主義の機能－無過失責任主義の台頭－	20 世紀半ば以降、さまざまな局面で無過失責任主義が導入され、過失責任主義に基礎におく古典的な不法行為法システムは変容しつつある。この回では、現代における不法行為法システムのもつ意義、保険制度の役割、それらの将来像について検討する。

9	刑罰のしくみと犯罪被害者の救済+裁判員裁判の意義	刑事法システムの基本的特徴、及び犯罪被害者救済へむけたあたらしい制度の意義、及び裁判員制度のあり方について検討する。
10	環境保全における環境保護法制の役割	国境を越えて深刻化する気候変動や環境問題について、良好な環境の維持保全のために法とどんな役割を果たし得るかを検討する。
11	リスクや災害への法的対応と責任	現代社会におけるさまざまなリスク（危険）を取上げ、その管理や責任追求のあり方、賠償・補償問題について検討する。
12	グローバル化の進展と近代市民法の変容	グローバル経済の進展に伴う国際取引法の統一化の動き、諸国間で進められている FTA その他の協定締結をめぐる諸課題について検討する。
13	世界人権保障と国際人権法の働き	日本国憲法施行の翌年成立した世界人権宣言（1948 年）の意義、その後の国際人権保障の拡充、その現状、さらに日本国憲法 9 条との関わりについて論じる。
14	近代市民法の現代的意義とその可能性	18 世紀の欧米社会に誕生した近代市民法の現代的意義、これからの近代市民法の役割について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に配布するプリントは、次の授業までによく読んでおくようにしてください。
また、図書館等を利用して、下記の参考文献や授業中に紹介する資料や文献等にてできるだけ目を通すよう心がけてください。
【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。テーマによって参考資料をコピーして配布します。（参考文献等もテーマごとにその都度紹介します。）

【参考書】
「法学講義」笹倉秀夫（東大出版会）
「民法の基礎から学ぶ民法改正」山本敬三（岩波書店）
「消費者からみた民法改正」日弁連（民事法研究会）
「危機の憲法学」奥平康弘ほか編（弘文堂）
「法学の誕生－近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）
「新装版法学入門」末弘厳太郎（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】
授業中の小テスト（場合によっては小レポート）20％、期末試験 80％。講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。板書の文字が読めないときや、内容が分かりにくいときもあるかと思いますが、そういうときは気軽に指摘してください。時間がゆるせば討論の時間も設けたいと思っています。お互いの力をあわせてよい授業にしていきたいと思います。

【Outline and objectives】
The large-scale Japanese domestic law reform has continued since the early 1990s. This reform established the long-Term Care Insurance Act 1997, consumer contract act 1999, Act on the Protection of Personal Information 2003, Services and Supports for Persons with Disabilities Act 2006, labor contract act 2008 etc, and revised the fundamental part of the Civil Code. In this course, we will examine how Japanese legal systems are about to change, and discuss the current important legal issues of the contemporary Japanese society.

LAW100LA	
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者
権 敬殷	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 P～X、環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身に付けることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

【到達目標】
① 法学の基本的な概念を理解し、基本的な法律用語の読み方と意味が分かる。
② 法学の思考様式について総合的な認識を持つ。
③ 憲法、民法、刑法等、代表的な法分野の基本原則と特徴を把握する。
④ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
⑤ 生活をする中で経験する様々な法律行為について、民法で定めている内容を中心にその全体像を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
法学の初学者・法学を専門としない履修者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。憲法、刑法、民法などを中心にその基本原則を解説し、そこでの理念や基礎概念を理解する。授業は、進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
第 1 回	法学を学ぶにあたって	ガイダンス、法学を学ぶことの意義
第 2 回	法学における議論の特徴	①法規の構造 ②法解釈の必要性とその意味
第 3 回	法解釈の諸方法	法解釈の出発点とその技術
第 4 回	法の体系と形式	①法の分類 ②制定法のいろいろ
第 5 回	法の適用	①裁判所と各種裁判手続 ②民事裁判手続 ③刑事裁判手続
第 6 回	判決	①判例の重要性 ②判決の読み方
第 7 回	憲法の仕組み	憲法の基本原則
第 8 回	憲法と基本権 (1)	憲法と人について考える:刑法からのアプローチ
第 9 回	憲法と基本権 (2)	憲法と人について考える:民法からのアプローチ
第 10 回	法律行為 (1)	契約の主体：権利能力、意思能力、行為能力
第 11 回	法律行為 (2)	契約の成立：申込みと承諾
第 12 回	法律行為 (3)	意思表示：心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺、強迫
第 13 回	法律行為 (4)	代理：代理権、代理行為、代理の効果
第 14 回	まとめ	全体の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業内容を復習し、そこで出てきた概念や論理を十分整理し理解するように努めること。興味を覚えた事例やトピックについては積極的に調べる姿勢を身につけてほしい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使わない。毎回、レジュメや資料を配布して授業を行う。

【参考書】
末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣、2014 年）
小野秀誠・良永和隆・山田創一・中川敏宏・中村肇『民法総則』（法律文化社、2011 年）
池田真郎『スタートライン民法総論〔第 2 版〕』（日本評論社、2014 年）
ポケット六法（出版社問わず、最新版が望ましい）

【成績評価の方法と基準】

満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 % の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。レポートを課した場合はその評価を加味する（試験の点数を基礎に、コメントの提出状況や内容に応じて 0～10 % 程度の範囲で加点・減点する場合がある）。

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁。授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。
毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to introduce the basics of the legal system to students in the law department as well as to majors in other faculties. This course will give students the opportunity to think about problems that occur in daily life from a legal perspective.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅱ

2016 年度以前入学者

榎 敬殷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 P～X、環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身に付けることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識を習得・理解する。主に、次の内容を到達目標とする。

- ① 人と人との関係を規律するルールを学習する。
- ② 人と物との関係を規律するルールを学習する。
- ③ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
- ④ 国際関係についてのルールを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

法学Ⅰと同じく、授業毎に配布するレジュメを用いて行う。人と人が法律行為、特に契約を締結することによってその当事者間に発生する権利・義務関係や、それによって人が取得する物に対する権利について概観する。さらに、「法の支配」について国際的な観点から考える力を身につける。授業は、進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①財産法を学ぶことの意義 ②国際的な観点から見たルールの在り方
第 2 回	人と人との約束関係について (1)	契約の成立・効力・有効性
第 3 回	人と人との約束関係について (2)	契約の解除
第 4 回	人と人との約束関係について考える (3)	契約の種類：権利移転型の契約・貸借型の契約・労務提供型の契約
第 5 回	人とその所有する物との関係について (1)	物の概念
第 6 回	人とその所有する物との関係について (2)	所有権：内容、効力
第 7 回	人とその所有する物との関係について (3)	所有権：取得
第 8 回	人とその所有する物との関係について (4)	契約による不動産所有権の変動
第 9 回	人とその所有する物との関係について (5)	契約による動産所有権の変動
第 10 回	民事ルールの構成	物権と債権の区別
第 11 回	人（個人）と国との関係について考える	国籍、外国人、難民の問題について
第 12 回	人権の国際的保障について考える	人種差別、児童の権利について
第 13 回	人の生命について考える	戦争と平和について
第 14 回	まとめ	全体の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容を復習し、そこで出てきた概念や論理を十分整理し理解するように努めること。興味を覚えた事例やトピックについては積極的に調べる姿勢を身につけてほしい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。毎回、レジュメや資料を配布して授業を行う。

【参考書】

池田真郎『スタートライン民法総論〔第 2 版〕』（日本評論社、2014 年）
池田真朗『スタートライン債権法【第 5 版】』（日本評論社、2013 年）
内田貴『民法〔第 4 版〕』（東京大学出版会、2014 年）
ポケット六法（出版社問わず、最新版が望ましい）。
浅田正彦『国際法』（東信堂、2011 年）。

大森正仁『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 % の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。レポートを課した場合はその評価を加味する（試験の点数を基礎に、コメントの提出状況や内容に応じて 0～10 % 程度の範囲で加点・減点する場合がある）。

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心がける。

【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁。授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。
毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to introduce the basics of the legal system to students in the law department as well as to majors in other faculties. This course will give students the opportunity to think about problems that occur in daily life from a legal perspective.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学 I

2016 年度以前入学者

石川 澄雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
営 1 年 E～J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活上の身近な行為から企業間取引等に至るまで、法的な意味を持たないものはないと言えるほどに、我々は「法的な社会」に生きている。このようなものとして我々に関わる法について、歴史的な視点を踏まえながら法をめぐる今日的な諸問題に目を向け、法の意義や理念、目的、また役割や特質などを、他のルールと対比させながら探り、法というもののについての基本的な理解を得る。

【到達目標】

「法」は国家と密接不可分の関係にあるが、同時に、人々も「法」と密接に関わりながら日々を送っている。本講義では、とくに「法・国家・人間」のそれぞれの関係についての基本的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、法と人間との一般的な関係および「法律問題」の数々について考える。今日のトピックを多く取り上げることで、法と人間、さらには法と国家との関係をめぐる諸問題についての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指す。受講生の法意識を涵養（かんよう）すべく、できるだけ平易な講述を心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし / No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	①本科目履修の意義及び受講上の注意等（ガイダンス）。 ②法（または「ルール」とは何か。それらを設けることの意味や目的（その 1）	①履修者は当然ながら、専門外。の学生諸君であることから、高校までは学ぶことのなかった「法学」について、その履修の意義や受講上の注意等について述べる。 ②次いで「法（または「ルール」とは何か。…」につき講述。多かれ少なかれ人の自由を制限する法（ルール）を、なぜ人はあえて設けるのか。その意味や目的を探ることで、法（ルール）というものの「原点」に迫る。
第 2 回	法（または「ルール」とは何か。それらを設けることの意味や目的（その 2）	前回（②）の続き。
第 3 回	前回に関連して「校則」について考える	第 1・2 回で確認した法その他のルールを設ける目的に照らすと、「校則」の目的が概ねその逆のものであると評することができることに鑑み、「校則」をめぐる諸問題について多面的に考える。とくに「制定者の人権感覚」にも言及。
第 4 回	「校則」について（その 2）	前回の続き。
第 5 回	法とそれ以外の「ルール」との相違を探る	社会には「狭義の法（法律）」のほかに様々な「広義の法」が存在し、人の行動や関係を規律しているが、両者には何か違いがあるのか、あるとすればどのようなものか、等について考える。
第 6 回	法というもののついて、「権利」に焦点を当ててその特質を考える	法と他のルールとの基本的な相違の一つが「権利義務関係」成立の有無にあると考えられることから、おもに権利を基軸として法について考察する。
第 7 回	法というもののついて、「権利」に焦点を当ててその特質を考える（その 2）	前回の続き。
第 8 回	法と「道徳・慣習・習俗・文化等」との関係から法の特質を探る	道徳・慣習・習俗・文化等も、ある時代ある社会における規範（ルール）として人々の行動や関係を規律している。それらの規範を眺めるによって法の特質を探る。

第 9 回	法と「道徳・慣習・習俗・文化等」との関係から法の特質を探る（その 2）	前回の続き。
第 10 回	日本人の権利意識（法意識・訴訟意識）について	「権利義務関係成立の前提条件」を踏まえながら、「日本人の権利意識」について多角的にながめる。
第 11 回	「法の支配」について	我々の社会における「法（近代法）」、さらには「憲法（近・現代憲法）」について考える場合に「法の支配」の原則を抜きにはできない。これにつき検討し、併せて「憲法の原点」を確認する。
第 12 回	「法の支配」について（その 2）	前回の続き。および「近代憲法」の成立について。
第 13 回	憲法の基本原理（「国民主権」「基本的人権」「平和主義」）について	法を語る場合には憲法を抜きにできないので、ここで改めてその基本原理につき概要を述べる。
第 14 回	憲法の基本原理について（その 2）。および、まとめと質疑。	「基本的人権」——「人権宣言としての日本国憲法」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①授業後に、講述内容を思い出ししながら、テキスト（「講義レジュメ」）や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧めたいが、当然ながら予習とあわせれば効果的だろう。

②しばしば「何を覚えたらよいか」との質問を受けるが、大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないほしい。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを「批判的に、ながめ、かつ考察する」ということで、そのための「訓練の場」として本授業に臨んでほしいと思う。従って、本授業では「法を守れ！」式の話はしないので留意されたい。

【テキスト（教科書）】

「講義レジュメ（プリント）」および適宜配布する資料を使用。

【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①定期試験のみ（100%）により、レポートは課さない。

その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容が否かを評価ポイントとする。

基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点対象とする。

②定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム」に載せるか、場合によってはプリントにして配布するので、必ず目を通してほしい（授業中に事前に知らせる）。

【学生の意見等からの気づき】

理解が難しい場合には気軽に、遠慮せずに質問等声をかけてほしい。初心者にとって難しいことは当然なので、授業中でも構わないから「ガマン」せずに声を出してほしい。「訊くはいつときの恥…」などということわざがあるが、本科目の場合は恥でもなんでもないので、そんな「無益な」ことわざなどは振り払ってほしい。

【その他の重要事項】

授業中の「私語」は「絶対に、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害（聴講権の侵害）」となるゆえ。「法学」の授業での権利侵害は断じて認められない。「権利の尊重はお互いさま」は、権利を考え・語る上での基本と心得てほしい。私語する学生に対しては他の学生諸君も遠慮せずに注意してほしい。

【Outline and objectives】

Today we live in 'the legal society'. Because law is everywhere around us.

And so many legal problems do concern each of us. In each lecture we will learn the fundamental way of thinking about the various ideas and concepts that underlie legal issues.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅱ

2016 年度以前入学者

石川 澄雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

営 1 年 E～J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活上の身近な行為から企業間取引等に至るまで、法的な意味を持たないものはないと言えるほどに、我われは「法的な社会」に生きている。このようなものとして我われに関わる法について、歴史的な視点を踏まえながら法をめぐる今日的な諸問題を多く取り上げ、法の意義や理念、目的、また役割や特質などを、他のルールと対比させながら探り、法というもののについての基本的な理解を得る。とくに秋学期においては法学の中心でもある「法の解釈」を取り上げる。さらに上記を踏まえて憲法の基本および「国際社会と法」について言及する。

【到達目標】

「法的社会」の基本を眺めることを通じて、最小限ないし適度の法感覚や法意識、また法的思考（リーガルマインド・バランス感覚）等を養い、さらに我々がそのような社会で生活していることの意味をも知ることで、総じて受講生の「法を見る目を養う」ことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

受講生がおもに初学者であることから「特殊法技術的な講述」は極力避け、より多くの今日的なトピックや具体例を挙げて「法的社会」の諸相を眺めながら、「近代法」の諸原則や思想等との関連にも言及する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	①本科目履修の意義及び受講上の注意点等（ガイダンス）。 ②「法律問題」とは何か	①履修者は当然ながら「専門外」の学生諸君であるから、大学まで殆ど学ぶことのない「法学」について、その履修の意義や受講上の注意等について概要を述べる。併せて、「試験」についての問い合わせも毎回初日に多いので、試験形式や解答上の注意点なども述べる。
第 2 回	「民事事件」について	②次いで、「たんなる法的問題」ではなく「法律問題」とは何かについて、その特質等を指摘する。「法律問題」は、大きく「民事事件」、「刑事事件」、「行政事件」の 3 つに分けられる。そして、それぞれに「民事法（分野の各法律）」、「刑事法（分野の各法律）」、「行政法（分野の各法律）」に対応する。本講義ではこれらの各事件・法規等についてその基本事項を中心に述べる。まずは「民事事件（民事法）」を取り上げる。「裁判規範」としての民事法。
第 3 回	「民事事件」について（その 2）	前回の続き。民事事件（民事紛争）の解決には一連の「民事法」が適用される。この民事法の特徴・特質等について眺める。「民事法は裁判規範である」ということをきちんと理解する。このことの理解の有無が法の見方を大きく左右する。
第 4 回	「民事事件」について（その 3）	前回に関連して「任意法規」と「強行法規」について考える。これらの違いを知ることとも法の見方に大きな影響を与える。
第 5 回	「刑事事件」について	「国家の刑罰権」について考える。「犯罪は国家によって作られる」ということ。すなわち国家の介入なしに「犯罪」は成立しないということ。そのことの意味等を考える。

- 第 6 回 「刑事事件」について（その 2） 前回の続き。「無罪の推定」原則。「疑わしきは被告人の利益に」。「黙秘権」の意味。
- 第 7 回 「刑事事件」について（その 3） 前回に関連して、「起訴独占主義」について。それがもたらす問題点。「えん罪」事件について考える。日本国憲法が保障する「人身の自由」（基本的人権の一）についても言及。
- 第 8 回 「刑事事件」について（その 4） 前回の続き。および日本における「えん罪」の多発状況について考える。その発生原因・背景等を探る。
- 第 9 回 「行政事件」について 権利関係をめぐって、公権力を行使する「国家」（「行政庁」）と、その相手方である国民との間に生ずる紛争事件。相手が「行政庁」であることから、あまり身近な事件ではないような印象を受けるかも知れないが決してそうではない。具体例を挙げながら対応する諸法規につき眺める。
- 第 10 回 「行政事件」について（その 2） 前回の続き。および「行為規範」としての行政法規について。「行政事件」と「民事事件」の関係について。「国家の私経済的作用」。国および公共団体が「不法行為責任」を問われた場合。
- 第 11 回 「法と正義」をめぐって——「法の解釈」 現代日本の法状況を取り上げて「法と正義」をめぐらる問題考える。「改憲問題」／「死刑制度」をめぐらる論議／「人の死」をめぐって（心臓死と脳死）／「選択的夫婦別姓」問題、「男女平等」をめぐらる問題、等。法を語るには「正義」の問題を抜きにできない。ここではとくに「法的正義」についてその特質を探ることと併せて「法解釈」との関係にも言及する。さらには法解釈の実際や解釈技術等をもながめる。
- 第 12 回 憲法の基本原理 日本国憲法の基本原理について（「国民主権」「基本的人権の尊重」「永久平和主義」）。および「憲法の基本原理」のさらに「基本原理」としての憲法第 13 条（個人の尊重・幸福追求権）について。
- 第 13 回 国際社会と「国家・法および人間」 国際社会のルールとしての国際法をながめる。国際法の「法源」としての条約および国際慣習法について。「大国」と「小国」を結ぶもの。日本国憲法と条約について。
- 第 14 回 国際社会と「国家・法および人間」（その 2）——「国際人権法」について 「弱者保護目的」の様々な人権について考える（各種の「差別禁止条約」等を例に）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①授業後に、講述内容を思い出ししながら、テキスト（「講義レジュメ」）や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧めたいが、当然ながら予習とあわせれば効果的だろう。

②しばしば「何を覚えたらよいか」との質問を受けるが、大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないであらう。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを「批判的に、ながめ、かつ考察する」ということで、そのための「訓練の場」として本授業に臨んでほしいと思う。従って、本授業では「法を守れ！」式の話はしないので留意されたい。

【テキスト（教科書）】

「講義レジュメ（プリント）」および適宜配布する資料を使用。

【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①定期試験のみ（100%）により、レポートは課さない。

その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。

基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点対象とする。

②定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム」に載せるか、場合によってはプリントにして配布するので、必ず目を通してほしい（授業中に事前に知らせる）。

【学生の意見等からの気づき】

理解が難しい場合には気軽に、遠慮せずに質問等声をかけてほしい。初心者にとって難しいことは当然なので、授業中でも構わないから「ガマン」せずに声を出してほしい。「訊くはいつときの恥…」などということわざがあるが、本科目の場合は恥でもなんでもないので、そんな「無益な」ことわざなどは振り払ってほしい。

【その他の重要事項】

授業中の「私語」は「絶対に、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害（聴講権の侵害）」となるゆえ。「法学」の授業での権利侵害は断じて認められない。「権利の尊重はお互いさま」は、権利を考え・語る上での基本と心得てほしい。私語する学生に対しては他の学生諸君も遠慮せずに注意してほしい。

【Outline and objectives】

Today we live in 'the legal society'. Because law is everywhere around us.

And so many legal problems do concern each of us. In each lecture we will learn the fundamental way of thinking about the various ideas and concepts that underlie legal issues, and especially in autumn semester we will also learn 'the interpretation of law' that is the center of law (or jurisprudence). And further, we will briefly refer to the principles of the Constitution and the international law.

LAW100LA

法学Ⅰ 2017年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅰ 2016年度以前入学者

水野 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。契約法に関する基本的な概念を理解し、初歩的な法知識を取得することすることを第一の目的とする。これに加え、憲法の構造と基本原理、国際法に関して、条約の締結や EU 法についても学ぶ。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
 ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
 ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
 ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書、資料、パワーポイント、板書を用いて、講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	法の役割と法律の学び方
2	契約をすることと生活	生活における様々な活動と契約がどのように関係しているか考え、契約とは何かを学ぶ。
3	契約と権利義務	契約をすると、どのような義務が発生し、どのような権利を得るのか。
4	債権・債務関係	契約によって生じる権利義務関係について
5	債務不履行	契約が守られなかったとき、契約を締結した者はどのような対応を取ることができるか。
6	契約に拘束されない場合	契約を結んだにもかかわらず、契約に従わなくてもよい場合について
7	不法行為（1）	他人によって自分の権利を侵害された場合について
8	不法行為（2）	典型的な不法行為とその解決
9	憲法とは	憲法は何のためにあり、何を守るものか。
10	憲法と私人	憲法は何を保障するか。
11	憲法と統治機構	憲法が保障する基本的人権についてなぜ、権力を抑制する必要があるか。近年起きた事例をもとに検討する。
12	裁判制度	権力の一つである裁判制度を概観する
13	冤罪と司法改革	冤罪を防ぐためにどのような手法がとられているか
14	まとめ	主運気の重要な点について再度、検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、資料等の指摘されたところを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

池田・犬伏・野川・大塚『法の世界へ〔第7版〕』（有斐閣アルマ、2017 ページ年）

【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005 年）
 田中淳子・大野正博 編『法学入門』（成文堂、2015 年）
 ）
 末川博 編『法学入門〔第6版〕』（有斐閣双書、2009 年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第2版〕』（有斐閣、2006 年）など

【成績評価の方法と基準】

選択問題、マークシートを利用して行う期末試験の成績（80 %）、これに、授業内で行った小テスト（20 %）で評価する。これらの合計を 60 点～69 点を C、70 点から 79 点を B、80 点～89 点を A、90 点以上 A + とする。

【学生の意見等からの気づき】

近年の社会問題と関係のある事例についての関心が高いので、時事的な問題を今年度も取り扱う。

また、映像資料を講義内で利用する。

また、板書は楷書でこない、パワーポイントを利用する。

【Outline and objectives】

This lecture targets beginners in law and explains the basic knowledge of law. As a relationship between individuals, we aim to understand the basic concepts concerning the contract law and to acquire rudimentary legal knowledge. Furthermore, as a relationship between the nation and individual, we study the Constitution of Japan and fundamental human rights. Also, as a field related to international law, we also learn about the treaty and the EU law, which is the relation between nations.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅱ

2016 年度以前入学者

水野 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会は多くない。本講義では、働くこととかわる法律について、採用内定とその取り消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかわりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くことと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっている EU の仕組みなどを通じて、国際的な法律関係についても知識を深めることを目的とする。

【到達目標】

発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得る。これによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。

EU などの国際法的な関係についても、労働という視点から EU 指令、EU 裁判所制度、EU の社会保障制度などについても法的な理解を深める。

上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて、講義形式で授業を進める。必要に応じて、ドキュメンタリー、映画などの視聴覚資料を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方・テストなどについてのガイダンスと模擬授業
2	アルバイトを決める時に確認すること	労働契約を結び働く場合の法律関係について
3	働く場合の法律 労働時間	労働時間・時間外労働
4	働く場合の法律 休む	休憩・休息时间・休日・休暇について
5	仕事を辞める労働契約の終了について	採用内定の取り消し・解雇
6	働く場合の法律	最近の問題
7	ワークライフバランス	ワークライフバランスと少子高齢化
8	安全に働く	労働災害・過労死について知る
9	安全に働く	過労自殺・過労死の認定の問題
10	国と国の関係と働くこと	グローバル化の中で労働はどのように変わってきているのか
11	EU 諸国と働くこと	EU 市民と EU 加盟国はどのような関係にあるのか
12	EU の制度概略	EU 指令の制度、EU 加盟国の立法権、EU 裁判所の制度
13	働くことと憲法	労働について憲法に定められているされている権利
14	働くことと憲法	労働について憲法に定められているされている権利

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当する教科書のページを熟読すること。さらに、関連する新聞記事やニュースなどをフォローすること。

【テキスト（教科書）】

『法の世界へ 第 6 版』（有斐閣アルマ）池田 真朗、犬伏 由子、野川 忍、大塚 英明（改訂版が出た場合は最新のもの）

このほか 2016 年度の六法を用意すること。六法については初回の授業で詳しく紹介します。

【参考書】

『現代法学入門』（有斐閣双書）伊藤 正己、加藤 一郎

『ベーシック労働法』第 5 版（有斐閣アルマ）浜村 彰、唐津 博、青野 覚、奥田 香子

【成績評価の方法と基準】

選択問題、マークシートを利用して行う期末試験の成績（80%）、これに、授業内で行った小テスト（20%）で評価する。これらの合計を 60 点～69 点を C、70 点から 79 点を B、80 点～89 点を A、90 点以上 A+ とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体的に法学検定の問題を解くなどして、知識の確認と定着を図ることとしたい。

【Outline and objectives】

Even if you work as a regular employee, even students, there are close relationships between labor and law, such as when working part-time. However, there are not many opportunities to learn about law and labor in the age of students. In this lecture, we will consider the problems of labor and law related to students. Specifically, employment offer and cancellation, premium wage for overtime work, paid vacation, occupational accidents. Next, consider important issues such as wages, working hours, relocation, and dismissal. Also consider the Constitution related to labor. It aims to deepen knowledge about international legal relations through freedom of movement of workers in the EU, regulations on labor by EU directive, and so on.

LAW100LA

法学Ⅰ 2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅰ 2016 年度以前入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業支援システムを通じて配布するプリントに基づいて、講義形式で授業を行う。秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。授業計画は以下の予定だが、授業の進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。また、授業内容に関する意見や感想等を記述するリアクションペーパーを提出してもらうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法の分類	法の種類と体系
第 4 回	権利と義務	権利と義務の種類、権利の主体
第 5 回	裁判制度①：裁判の役割	裁判の意義と機能
第 6 回	裁判制度②：裁判の種類	裁判の種類と特徴、裁判の当事者、訴訟手続
第 7 回	裁判制度③：裁判上の基本原則	裁判公開の原則、当事者主義
第 8 回	法の解釈	法解釈の方法、法解釈の基準
第 9 回	法の歴史	大陸法と英米法
第 10 回	日本法の歴史①：近代以前	近代以前の日本法の特徴
第 11 回	日本法の歴史②：近代法の継受	近代憲法と近代民法の継受
第 12 回	日本法の歴史③：現代法の発展	社会法・経済法等の発展
第 13 回	立憲主義と憲法	憲法の基本原則としての立憲主義の意義
第 14 回	日本国憲法の内容	日本国憲法の構造と規定内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
田中淳子・大野正博（編）『法学入門』（成文堂、2015 年）
池田真朗・犬伏由子ほか『法の世界へ〔第 7 版〕』（有斐閣アルマ、2017 年）

末川博（編）『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）
松本恒雄・三枝令子（編）『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する（100 %）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内容に対する評価を 10 %程度加味することがある。

【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけでなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験に基づいて、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れる。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn the foundation of legal studies. The content of the lecture consists of general knowledge related to legal science and the basic principle of the Japanese Constitution.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅱ

2016 年度以前入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、民法、消費者法、労働法、刑法等の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
 ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
 ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
 ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
 ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業支援システムを通じて配布するプリントに基づいて、講義形式で授業を行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。授業計画は以下の予定だが、授業の進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。また、授業内容に関する意見や感想等を記述するリアクションペーパーを提出してもらうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	近代法と現代法	近代法の基本原則と現代法による修正について学ぶ。
第 3 回	民法①：民法の基礎	民法の構造、権利と義務の種類、権利の主体等について学ぶ。
第 4 回	民法②：契約法	契約法の基礎知識について学ぶ。
第 5 回	民法③：不法行為法	不法行為法の基礎知識について学ぶ。
第 6 回	民法④：物権法	物権法の基礎知識について学ぶ。
第 7 回	民法⑤：家族法	家族法の基礎知識について学ぶ。
第 8 回	民法⑥：相続法	相続法の基礎知識について学ぶ。
第 9 回	経済法	経済法の基礎知識について学ぶ。
第 10 回	労働法	労働法の基礎知識について学ぶ。
第 11 回	刑法①：刑法の基本原則	罪刑法定主義など刑法の基本原則について学ぶ。
第 12 回	刑法②：刑事手続と被疑者・被告人の権利	刑事手続の基本原則と被疑者・被告人の憲法上の権利について学ぶ。
第 13 回	国際法	国際法の基礎知識について学ぶ。
第 14 回	現代法の課題	授業全体のまとめと現代法の今後の課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
 田中淳子・大野正博（編）『法学入門』（成文堂、2015 年）
 池田真朗・犬伏由子ほか『法の世界へ〔第 7 版〕』（有斐閣アルマ、2017 年）
 末川博（編）『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

松本恒雄・三枝令子（編）『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～④の達成度を評価する（100 %）。ただし、リアクションペーパーの提出状況やその内容に対する評価を 10 %程度加味することがある。

【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけでなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れていく。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to give lectures on the foundation of jurisprudence, mainly for beginners of law. The contents of lecture contain basic knowledge of civil law, consumer law, labor law, criminal law and international law.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学 I

2016 年度以前入学者

権 敬殷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
 営 1 年 A～D / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

【到達目標】

- ① 法学の基本的な概念を理解し、基本的な法律用語の読み方と意味が分かる。
- ② 法学の思考様式について総合的な認識を持つ。
- ③ 憲法、民法、刑法等、代表的な法分野の基本原則と特徴を把握する。
- ④ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
- ⑤ 生活をする中で経験する様々な法律行為について、民法で定めている内容を中心にその全体像を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

法学の初学者・法学を専門としない履修者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。憲法、刑法、民法などを中心にその基本原則を解説し、そこでの理念や基礎概念を理解する。授業は、進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	法学を学ぶにあたって	ガイダンス、法学を学ぶことの意義
第 2 回	法学における議論の特徴	①法規の構造 ②法解釈の必要性和その意味
第 3 回	法解釈の諸方法	法解釈の出発点とその技術
第 4 回	法の体系と形式	①法の分類 ②制定法のいろいろ
第 5 回	法の適用	①裁判所と各種裁判手続 ②民事裁判手続 ③刑事裁判手続
第 6 回	判決	①判例の重要性 ②判決の読み方
第 7 回	憲法の仕組み	憲法の基本原則
第 8 回	憲法と基本権 (1)	憲法と人について考える:刑法からのアプローチ
第 9 回	憲法と基本権 (2)	憲法と人について考える:民法からのアプローチ
第 10 回	法律行為 (1)	契約の主体：権利能力、意思能力、行為能力
第 11 回	法律行為 (2)	契約の成立：申込みと承諾
第 12 回	法律行為 (3)	意思表示：心裡留保、虚偽表示、錯誤、詐欺、強迫
第 13 回	法律行為 (4)	代理：代理権、代理行為、代理の効果
第 14 回	まとめ	全体の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容を復習し、そこで出てきた概念や論理を十分整理し理解するように努めること。興味を覚えた事例やトピックについては積極的に調べる姿勢を身につけてほしい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。毎回、レジュメや資料を配布して授業を行う。

【参考書】

末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣、2014 年）
 小野秀誠・良永和隆・山田創一・中川敏宏・中村肇『民法総論』（法律文化社、2011 年）
 池田真郎『スタートライン民法総論〔第 2 版〕』（日本評論社、2014 年）
 ポケット六法（出版社問わず、最新版が望ましい）

【成績評価の方法と基準】

満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 % の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。レポートを課した場合はその評価を加味する（試験の点数を基礎に、コメントの提出状況や内容に応じて 0～10 % 程度の範囲で加減点する場合がある）。

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁。授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。
 毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to introduce the basics of the legal system to students in the law department as well as to majors in other faculties. This course will give students the opportunity to think about problems that occur in daily life from a legal perspective.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅱ

2016 年度以前入学者

権 敬殷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
 営 1 年 A～D / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者・法学を専門としない履修者が、法学の基本的な素養を身につけることを目的とする。それによって、日常生活中に生ずる問題を法学的な観点から考える契機を設けることで、リーガルマインドを養う。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識を習得・理解する。主に、次の内容を到達目標とする。

- ① 人と人との関係を規律するルールを学習する。
- ② 人と物との関係を規律するルールを学習する。
- ③ 日常生活および社会の中で生ずる諸問題を法学的な観点から考える能力を習得する。
- ④ 国際関係についてのルールを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

法学Ⅰと同じく、授業毎に配布するレジュメを用いて行う。人と人が法律行為、特に契約を締結することによってその当事者間に発生する権利・義務関係や、それによって人が取得する物に対する権利について概観する。さらに、「法の支配」について国際的な観点から考える力を身につける。授業は、進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①財産法を学ぶことの意義 ②国際的な観点から見たルールの在り方
第 2 回	人と人との約束関係について (1)	契約の成立・効力・有効性
第 3 回	人と人との約束関係について (2)	契約の解除
第 4 回	人と人との約束関係について考える (3)	契約の種類：権利移転型の契約・貸借型の契約・労務提供型の契約
第 5 回	人とその所有する物との関係について (1)	物の概念
第 6 回	人とその所有する物との関係について (2)	所有権：内容、効力
第 7 回	人とその所有する物との関係について (3)	所有権：取得
第 8 回	人とその所有する物との関係について (4)	契約による不動産所有権の変動
第 9 回	人とその所有する物との関係について (5)	契約による動産所有権の変動
第 10 回	民事ルールの構成	物権と債権の区別
第 11 回	人（個人）と国との関係について考える	国籍、外国人、難民の問題について
第 12 回	人権の国際的保障について考える	人種差別、児童の権利について
第 13 回	人の生命について考える	戦争と平和について
第 14 回	まとめ	全体の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容を復習し、そこで出てきた概念や論理を十分整理し理解するように努めること。興味を覚えた事例やトピックについては積極的に調べる姿勢を身につけてほしい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。毎回、レジュメや資料を配布して授業を行う。

【参考書】

池田真郎『スタートライン民法総論〔第 2 版〕』（日本評論社、2014 年）
 池田真朗『スタートライン債権法【第 5 版】』（日本評論社、2013 年）
 内田貴『民法〔第 4 版〕』（東京大学出版会、2014 年）
 ポケット六法（出版社問わず、最新版が望ましい）。
 浅田正彦『国際法』（東信堂、2011 年）。

大森正仁『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

満点 100 点中、リアクションペーパーに基づく平常点を 30 %、学期末の試験を 70 % の割合で採点し、合計点を最終成績として、60 点以上を単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

黒板の活用心がける。

【その他の重要事項】

授業中の私語は厳禁。授業の内容について、予習と復習をしてから参加することが望ましい。
 毎回レジュメが配布されるため、定期的に整理を行う必要がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to introduce the basics of the legal system to students in the law department as well as to majors in other faculties. This course will give students the opportunity to think about problems that occur in daily life from a legal perspective.

LAW100LA		
法学Ⅰ	2017 年度以降入学者	
LAW100LA		
法学Ⅰ	2016 年度以前入学者	
前川 佳夫		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火 2/Tue.2 国環 1 年／法文営国環キ 2～4 年		

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18 世紀後半から 19 世紀にかけて、西ヨーロッパに端を発する産業革命の大きなうねりは、基本的人権保障を基軸とする「近代市民法」という新しい法システムを生み出した。やがて 1 世紀の時をへだててこの法システムは遠く東アジアに波及する。本講義では、工業化が進展する当時の欧米諸国に形成されてくる、自由権を基礎におく「近代市民法」の基本的特徴とその後の修正の動き（今年はワイマル憲法 1919 年にあたる）をまずおさえ、その上で日本国憲法を頂点とする現代日本の法システムの構造とその特質を検討する。

【到達目標】

1. 欧米諸国に誕生し、やがてアジア地域や世界の国々に波及する近代市民法の基本的特徴を理解する。
2. 戦後誕生する日本国憲法の基礎構造とその考え方を理解する。
3. 現代の市民生活を支える法システム（民法、刑法その他の実定法の構造、権利保障のしくみ、裁判制度の意義）を理解する。
4. 国際人権規約を基軸とする国際人権保障の特徴について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

近代憲法としての性質を色濃く示す日本国憲法（1947 年施行）を基軸とするわが国の法システムはいま、国内外のさまざまな政治、経済、社会情勢の変化をうけて、変貌しようとしている（第 3 の法制改革）。2017 年には、明治期の民法制定以来 120 年ぶりの大改正ともいわれる民法・債権法改正法が公布された。本講義では、現代日本の法システムを理解するための基本事項を中心に、時事的なテーマもととりあげながら、講義形式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	近代市民法の構造	18 世紀から 19 世紀にかけて、欧米に誕生し、やがて日本に移入される近代市民法の特徴について論じる。
2	フランス人権宣言、フランス憲法、フランス民法の成立	明治期に G.E. ボアソナードが日本への導入に尽力したフランス法の意義について検討する。
3	日本の法を考える（1）	長い歴史をもつ日本法の歴史的変遷の過程を概観し、近代日本法の 3 層構造について説明する。
4	日本の法を考える（2）	「第 3 の法制改革」を中心に、環境保全、消費者保護、金融システムの再編など、現代の日本社会における法システムの果たす役割について検討する。
5	日本国憲法とその構造	第 3 章を中心に大きく 4 つの部分から構成される日本国憲法の基本構造と、各章の内容について検討する。
6	基本的人権の保障（1）- 自由権の構造 -	思想及び良心の自由（19 条）にはじまる自由権の基本的特徴について論じる。
7	基本的人権の保障（2）- 社会権の構造 -	生存権保障を基礎とする社会権の基本的特徴について論じる。
8	財産権の保障（憲法 29 条）と契約法システム	所有権を中心にすえた財産権保障の意義と「契約」法システムの特徴について論じる。
9	罪刑法定主義（憲法 31 条）と刑事責任の構造	罪刑法定主義はなぜ必要とされたのか、その現代的意義と刑事責任の特質について論じる。
10	立法権と行政権、司法権の所在	近代的な統治機構の重要な構成要素としての国会及び内閣の意義について検討する。
11	司法権の構造 - 特別裁判所の設置はなぜ禁止されたのか -	日本国憲法は特別裁判所の設置を禁止し、最高裁判所とその他の下級裁判所によるあたらしい裁判制度をつくった。その意義について検討する。

12	裁判員裁判の課題	2009 年 5 月にはじまった裁判員裁判が抱える諸課題、問題点について検討を加える。
13	法の支配と憲法尊重擁護義務（憲法 99 条）- 憲法を尊重し擁護する義務を負うのはだれか -	近代社会とその法システムを基礎づける「法の支配」という考え方、そして憲法 99 条の意義について論じる。
14	国際人権規約の成立とグローバルな人権保障の課題	日本国憲法施行後約 20 年を経て国連で成立した国際人権規約の意義、および現代の国際人権保障の諸課題について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に配布するプリントは、次回の授業までによく読んでおくようにしてください。また、図書館等を利用して、下記の参考文献や授業中に紹介する資料や文献等にできるだけ目を通すよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。テーマによって参考資料をコピーして配布します。（参考文献等もテーマごとにその都度紹介します。）

【参考書】

「法学講義」笹倉秀夫（東大出版会）
「憲法入門 5 訂版」樋口陽一（勁草書房）
「民法の基礎から学ぶ民法改正」山本敬三（岩波書店）
「法学の誕生 - 近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）
「新装版法学入門」末弘厳太郎（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

授業中の小テスト（場合によっては小レポート）20%、期末試験 80%。講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。板書の文字が読めないときや、内容が分かりにくいときもあるかと思いますが、そういうときは気軽に指摘してください。時間がゆるせば討論の時間も設けたいと思っています。お互いの力をあわせてよい授業にしていきたいと思います。

【Outline and objectives】

As the Industrial Revolution took place in the western European countries, a new legal system called "modern legal system" was born in the 19th century. This system was transplanted to East Asia about 100 years later. This course clarify the basic concepts of the modern Japanese legal system, especially Constitution of Japan 1947 and revised Civil Codes 2017, and we will also examine the role of the judiciary that supports modern civil society.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学Ⅱ

2016 年度以前入学者

前川 佳夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 国環 1 年/法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990 年代にはじまる矢継ぎ早の法改革（福祉関連 8 法改正にはじまる高齢者保護及び介護保険制度の導入、消費者契約法、個人情報保護法の制定、障害者の自立支援法、労働契約法の新設その他）の動きは、ついに民法の根幹部分の改正にまで至った（2017 年民法・改正債権法公布－2020 年 4 月施行予定－）。本講義では、日本国憲法を頂点とするこの国の法システムはいまどう変わろうとしているのか、またどう変わるべきなのかについて、現代の日本社会が抱える喫緊の課題をとりあげながら検討する。

【到達目標】

1. 日本国憲法は現代日本の市民生活の向上にむけてどのような役割を果たしているかを理解する。
2. 憲法改正論議や改正債権法などとおして、近時の法改革の動向を理解する。
3. これからの日本社会や市民生活のなかで、近代市民法はどのような役割を果たしていくか（いくべきか）を論じる力をもつ。
4. 世界人権宣言をはじめする国際人権法の発展について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代の多面的な法改正や諸改革の動向に焦点をあて、現在の、そしてこれからの近代市民法の役割や機能について、消費者保護や雇用問題など、市民生活を支えるきわめて重要な事柄とらえて講義形式で検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日本国憲法と近代立憲主義のはたらき	立憲主義は現代の市民生活とどのように関わっているか、憲法その他諸法と市民生活との関わりについて論じる。
2	民法の役割と改正債権法の課題	1898 年の「明治民法」制定以来、戦後の家族法大改正を除き、抜本的な改正を経ずに現在に至った民法・債権法の改正をめぐる課題、また近時の相続法改正の動きについて検討する。
3	消費者契約法（2017 年改正）の意義と役割	消費者契約法（2000 年成立）、消費者基本法（2004 年）、消費者安全法（2009 年）の意義、これからの消費者保護のあり方について論じる。
4	働き方改革と労働法制の意義	戦後の労働法制の展開とその問題点を検討した上で、近時の雇用契約（労働契約）をめぐる諸課題を検討する。
5	男女共同参画社会基本法（2000 年）と改正男女雇用機会均等法（2017 年）の機能と役割	1985 年に成立した男女雇用機会均等法は、日本の雇用環境を大きく変化させた。晩婚化、少子化が進行するなかでの法改正の動向、今後の課題について検討する。
6	個人情報保護法（2017 年改正）とプライバシーの保護	市民生活の基盤を支える個人の尊重とプライバシー保護をめぐる諸課題について、個人情報保護法の意義を中心に論じる。
7	児童、高齢者の権利保障と法の役割－戦後家族法制の展開のなかで－	「家制度」を廃止した戦後日本社会において家族関係は大きく変化してきた。ここでは、こどもの権利条約、新設された介護保険制度、児童および高齢者虐待防止法などを取上げ、これからの家族と家族法のあり方について論じる。
8	不法行為法システムと過失責任主義の機能－無過失責任主義の台頭－	20 世紀半ば以降、さまざまな局面で無過失責任主義が導入され、過失責任主義に基礎におく古典的な不法行為法システムは変容しつつある。この回では、現代における不法行為法システムのもつ意義、保険制度の役割、それらの将来像について検討する。

9	刑罰のしくみと犯罪被害者の救済＋裁判員裁判の意義	刑事法システムの基本的特徴、及び犯罪被害者救済へむけたあたらしい制度の意義、及び裁判員制度のあり方について検討する。
10	環境保全における環境保護法制の役割	国境を越えて深刻化する気候変動や環境問題について、良好な環境の維持保全のために法とどんな役割を果たし得るかを検討する。
11	リスクや災害への法的対応と責任	現代社会におけるさまざまなリスク（危険）を上げ、その管理や責任追求のあり方、賠償・補償問題について検討する。
12	グローバル化の進展と近代市民法の変容	グローバル経済の進展に伴う国際取引法の統一化の動き、諸国間で進められている FTA その他の協定締結をめぐる諸課題について検討する。
13	世界人権保障と国際人権法の働き	日本国憲法施行の翌年成立した世界人権宣言（1948 年）の意義、その後の国際人権保障の拡充、その現状、さらに日本国憲法 9 条との関わりについて論じる。
14	近代市民法の現代的意義とその可能性	18 世紀の欧米社会に誕生した近代市民法の現代的意義、これからの近代市民法の役割について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に配布するプリントは、次回の授業までによく読んでおくようにしてください。
 また、図書館等を利用して、下記の参考文献や授業中に紹介する資料や文献等のできるだけ目を通すよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。テーマによって参考資料をコピーして配布します。（参考文献等もテーマごとにその都度紹介します。）

【参考書】

「法学講義」笹倉秀夫（東大出版会）
 「民法の基礎から学ぶ民法改正」山本敬三（岩波書店）
 「消費者からみた民法改正」日弁連（民事法研究会）
 「危機の憲法学」奥平康弘ほか編（弘文堂）
 「法学の誕生－近代日本にとって『法』とは何であったか」内田貴（筑摩書房）
 「新装版法学入門」末弘厳太郎（日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

授業中の小テスト（場合によっては小レポート）20%、期末試験 80%。講義内容について理解するとともに、講義で取り上げたテーマについて、各自の関心に応じて、もう一歩先をいく学習（図書館等を利用した関連文献、関係資料の収集など）をするよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解しやすく、分かりやすい授業になるようにと思っています。板書の文字が読めないときや、内容が分かりにくいときもあるかと思いますが、そういうときは気軽に指摘してください。時間がゆるせば討論の時間も設けたいと思っています。お互いの力をあわせてよい授業にしていきたいと思います。

【Outline and objectives】

The large-scale Japanese domestic law reform has continued since the early 1990s. This reform established the long-Term Care Insurance Act 1997, consumer contract act 1999, Act on the Protection of Personal Information 2003, Services and Supports for Persons with Disabilities Act 2006, labor contract act 2008 etc, and revised the fundamental part of the Civil Code. In this course, we will examine how Japanese legal systems are about to change, and discuss the current important legal issues of the contemporary Japanese society.

LAW100LA

法学（日本国憲法） 2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学（日本国憲法） 2016 年度以前入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

主に初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家的市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業システムを通じて配布するプリントに沿って、講義形式で授業を進める。なお、リアクションペーパーの提出を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	履修の意義及び受講上の注意点等を説明する
第2回	社会規範としての法の意義	法の意義、種類、体系などについて学ぶ。
第3回	法体系における憲法の意義	立憲主義の意義について学ぶ。
第4回	憲法の構造	憲法の目的としての人権保障と、手段としての統治機構について学ぶ。
第5回	憲法の歴史①：憲法の成立	近代憲法の成立経緯について学ぶ。
第6回	憲法の歴史②：憲法の発展	近代憲法から現代憲法への移行について学ぶ。
第7回	日本国憲法の成立経緯①：明治憲法	明治憲法の成立経緯と特色について学ぶ。
第8回	日本国憲法の成立経緯②：現行憲法の制定過程	日本国憲法の成立経緯とそこに含まれる問題点について学ぶ。
第9回	人権保障①：人権の種類と特質	人権の類型とそれぞれの特質について学ぶ。
第10回	人権保障②：人権の制限	人権の制限原理としての公共の福祉について学ぶ
第11回	平和主義①：平和主義の内容	憲法が定める平和主義の内容について学ぶ。
第12回	平和主義②：平和主義をめぐる問題	憲法9条の解釈論について学ぶ。
第13回	統治機構①：日本国憲法が定める権力分立	日本国憲法上の統治機構について学ぶ。
第14回	統治機構②：行政国家・政党国家	権力分立の現代的課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に先立って、下記の参考書および配布プリントをよく読んで、疑問点や課題を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問点や課題が解明できたかを確認する。また、参考書を使って、自分なりに学習を深める。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはせず、授業支援システムを通じて配布するプリントを用いて授業を進める。

【参考書】

芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第6版〕』（岩波書店、2015年）
安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）
その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記到達目標が達成できたか否かを期末試験によって判定し、成績を評価する（100％）。期末試験では基本的な問題を60点分、応用的な問題を40点分出題し、60点以上で合格とする。なお、リアクションペーパーに対する評価を成績評価に加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

初学者が多いことに配慮して、基本的な知識に関する説明を丹念に行うように心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、授業では現実政治における憲法の意義や役割についても言及する。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to understand the basic principles of the Constitution of Japan. The pillars of the lecture are the following three; (1) Basic principles related to modern constitution such as constitutionalism and separation of powers; (2) Fundamental principles of the Constitution of Japan - Sovereignty of the People, Respect for Human Rights, Pacifism; (3) Mechanism of government. Considering that many of students are beginners of law, this lecture contains basic knowledge about jurisprudence.

LAW100LA

法学（日本国憲法） 2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学（日本国憲法） 2016 年度以前入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

主に初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家的市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業システムを通じて配布するプリントに沿って、講義形式で授業を進める。なお、リアクションペーパーの提出を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修の意義及び受講上の注意点等を説明する
第 2 回	社会規範としての法の意義	法の意義、種類、体系などについて学ぶ。
第 3 回	法体系における憲法の意義	立憲主義の意義について学ぶ。
第 4 回	憲法の構造	憲法の目的としての人権保障と、手段としての統治機構について学ぶ。
第 5 回	憲法の歴史①：憲法の成立	近代憲法の成立経緯について学ぶ。
第 6 回	憲法の歴史②：憲法の発展	近代憲法から現代憲法への移行について学ぶ。
第 7 回	日本国憲法の成立経緯①：明治憲法	明治憲法の成立経緯と特色について学ぶ。
第 8 回	日本国憲法の成立経緯②：現行憲法の制定過程	日本国憲法の成立経緯とそこに含まれる問題点について学ぶ。
第 9 回	人権保障①：人権の種類と特質	人権の類型とそれぞれの特質について学ぶ。
第 10 回	人権保障②：人権の制限	人権の制限原理としての公共の福祉について学ぶ
第 11 回	平和主義①：平和主義の内容	憲法が定める平和主義の内容について学ぶ。
第 12 回	平和主義②：平和主義をめぐる問題	憲法 9 条の解釈論について学ぶ。
第 13 回	統治機構①：日本国憲法が定める権力分立	日本国憲法上の統治機構について学ぶ。
第 14 回	統治機構②：行政国家・政党国家	権力分立の現代的課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に先立って、下記の参考書および配布プリントをよく読んで、疑問点や課題を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問点や課題が解明できたかを確認する。また、参考書を使って、自分なりに学習を深める。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはせず、授業支援システムを通じて配布するプリントを用いて授業を進める。

【参考書】

芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第 6 版〕』（岩波書店、2015 年）
安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿『憲法学読本〔第 3 版〕』（有斐閣、2018 年）
その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記到達目標が達成できたか否かを期末試験によって判定し、成績を評価する（100 %）。期末試験では基本的な問題を 60 点分、応用的な問題を 40 点分出題し、60 点以上で合格とする。なお、リアクションペーパーに対する評価を成績評価に加味する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

初学者が多いことに配慮して、基本的な知識に関する説明を丹念に行うように心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、授業では現実政治における憲法の意義や役割についても言及する。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to understand the basic principles of the Constitution of Japan. The pillars of the lecture are the following three; (1) Basic principles related to modern constitution such as constitutionalism and separation of powers; (2) Fundamental principles of the Constitution of Japan - Sovereignty of the People, Respect for Human Rights, Pacifism; (3) Mechanism of government. Considering that many of students are beginners of law, this lecture contains basic knowledge about jurisprudence.

LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2017 年度以降入学者
LAW100LA	
法学（日本国憲法）	2016 年度以前入学者
石川 澄雄	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金 4/Fri.4 法文堂国環キ 1～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として「法と国家・社会」との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を軸としてその基本的な理解を得ることに努める。憲法に対する理解が一般人のみならず学生や為政者（！）においてすなわ十分に浸透しているとはいえない状況にかんがみて、本講義ではその目的や理念等の「正確な理解」を得ることによって憲法を中心とした法体系の理解にまで及ぶ。

【到達目標】

日本国憲法を中心に、法というものについての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法社会」における様々な法関係に対して適切・妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（legal mind・法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者が初學者であることを踏まえて、「法および憲法」に関わる今日的なトピックをより多く取り上げることで抽象的な議論・講述に陥ることを避け、あくまでも基本的理解が得られるように授業を進めたい。もちろん、憲法を軸とした授業といっても、受講者が複数の学部にあたがっていることから、「専門科目の憲法」の授業とは一味ちがう。授業となることはいうまでもない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	①本科目履修の意義および受講上の注意点等（ガイダンス） ②「法と国家」との関係について（その 1）	①履修者は多くが複数の学部にあたがる新入生ということから、大学まで殆ど学ぶことがなかった「法学」について、その履修の意義や受講上の注意点等について概要をのべる。あわせて、「試験」についての問い合わせも毎回初日に多いので、試験形式や解答上の注意点などにも触れる。 ②次いで、法（または、広く「法を含む規範・ルール」とは何か、それらは国家とどのような関係にあるか等について考える。
2	法と国家との関係について（その 2）	前回（②）に続いて、法（または、広く「法を含む規範・ルール」とは何か、それらは国家とどのような関係にあるか等について考える。
3	法と「それ以外のルール」との関係について	法と「それ以外のルール」（すなわち「社会規範」——道徳・慣習・習俗・宗教規範等）との相違点等を探る。
4	法と法律について。憲法第 41 条（「国会の地位」および「立法権」）を中心に	「狭義の法、としての「法律」について。『唯一の立法機関』としての国会（および国会の地位）について。立法と「政党」の関係（「政党政治」）についても言及する。
5	法の特質について。「権利」を中心として	「権利」に焦点をあてて法の特質をながめる。「法律問題」とは何か。何が法律問題となり、あるいはそうならないか。法と国家との関係から考える。
6	法の特質について。「権利」を中心として（その 2）	「権利」に焦点をあてて法の特質をながめる。「法律問題」とは何か。何が法律問題となり、あるいはそうならないか。法と国家との関係から考える。
7	「法の支配」「立憲主義」および憲法の基本理念について——「憲法の原点」	「法の支配」とは何か。それと「立憲主義」との関係とは。それらを軸に「近・現代憲法の原点」に及ぶ。
8	「法の支配」「立憲主義」および憲法の基本理念について——「憲法の原点」（その 2）	「憲法の基本理念・原則（『個人の尊重』・国民主権・基本的人権の尊重・平和主義）について。

9	国家統治の基本原則について。「国民主権」	「個人の尊重」理念（憲法第 13 条）から日本国憲法の諸原則を考える。まずは国家統治の基本原則としての「国民主権」について考える。「主権」とは何か。
10	「権力分立」について	国家統治の基本原則としての「権力分立」について。あわせて「行政権と内閣（組織と機能）」・「司法権と裁判所（組織と機能）」に言及。
11	「権力分立」について（その 2）	国家統治の基本原則としての「権力分立」について。あわせて「行政権と内閣（組織と機能）」・「司法権と裁判所（組織と機能）」に言及。また「行政国家日本」についてもふれる。
12	「基本的人権」について	「人権宣言としての日本国憲法」。人権と「公共の福祉」との関係。これに関連して「権利の社会性」についても言及する。
13	「基本的人権」について（その 2）	前回の続き。および「人権規定」と現実とのギャップをながめる。「思想・良心の自由」「表現の自由と知る権利」「社会権（生存権）」等について。
14	①「平和主義」について ②改めて憲法第 13 条（『個人の尊重・幸福追求権』）について	①「平和主義」について。憲法を特徴づける第 9 条の背景と趣旨、および同条をめぐる（今日的）諸問題について。②おわりに日本国憲法の「最重要規定」でもある第 13 条について約言し、まとめに代える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①授業後に、講述内容を思い出ししながら、テキスト（『講義レジュメ』）や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧めたいが、当然ながら予習とあわせれば効果的だろう。
②しばしば「何を覚えたらよいか」との質問を受けるが、大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないほしい。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを「批判的に、ながめ、かつ考察するという」ことで、そのための「訓練の場」として本授業に臨んでほしいと思う。従って、本授業では「法を守れ！」式の話はしないので留意されたい。

【テキスト（教科書）】

『講義レジュメ（プリント）』および適宜配布する資料を使用。

【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①定期試験のみ（100%）により、レポートは課さない。その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。
基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点対象とする。
②定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム」に載せるか、場合によってはプリントにして配布するので必ず目を通してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

理解が難しい場合には気軽に、遠慮せずに質問等声をかけてほしい。初心者にとって難しいことは当然なので、授業中でも構わないから「ガマン」せずに声を出してほしい。「訊くはいつときの恥…」などということわざがあるが、本科目の場合は恥でもなんでもないので、そんな「無益な」ことわざなどは振り払ってほしい。

【その他の重要事項】

授業中の「私語」は「絶対に、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害（聴講権の侵害）」となるゆえ。「法学」の授業での権利侵害は断じて認められない。「権利の尊重はお互いさま」は、権利を考え・語る上での基本と心得てほしい。私語する学生に対しては他の学生諸君も遠慮せずに注意してほしい。本科目は「教職課程」も兼ねているので、教師を目指す者はなおのこと講義に集中して、「お友だち」とのおしゃべりは休み時間までつつしんでほしい。

【Outline and objectives】

In each lecture we will learn the basic point of view about the relations between the law (especially the Constitution) and the state or society. Not a few people even today don't understand the meaning of the Constitution ('Everything the government does is bound by the Constitution'). So we will get the correct and basic understanding and also make sense of the Constitution and other laws.

LAW100LA

法学（日本国憲法） 2017 年度以降入学者

LAW100LA

法学（日本国憲法） 2016 年度以前入学者

石川 澄雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
法文堂国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として「法と国家・社会」との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を軸としてその基本的な理解を得ることに努める。憲法に対する理解が一般人のみならず学生や為政者（！）においてすなわ十分に浸透しているとはいえない状況にかんがみて、本講義ではその目的や理念等の「正確な理解」を得ることに伴って憲法を中心とした法体系の理解にまで及ぶ。

【到達目標】

日本国憲法を中心に、法というものについての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法社会」における様々な法関係に対して適切・妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（legal mind・法的思考・バランス感覚）」の涵養を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者が初學者であることを踏まえて、「法および憲法」に関わる今日的なトピックをより多く取り上げることで抽象的な議論・講述に陥ることを避け、あくまでも基本的理解が得られるように授業を進めたい。もちろん、憲法を軸とした授業といっても、受講者が複数の学部にあたがっていることから、「専門科目の憲法」の授業とは一味ちがう。授業となることはいうまでもない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	①本科目履修の意義および受講上の注意点等（ガイダンス） ②「法と国家」との関係について（その 1）	①履修者は多くが複数の学部にあたがる新入生ということから、大学まで殆ど学ぶことがなかった「法学」について、その履修の意義や受講上の注意点等について概要をのべる。あわせて、「試験」についての問い合わせも毎回初日に多いので、試験形式や解答上の注意点などにも触れる。 ②次いで、法（または、広く「法を含む規範・ルール」とは何か、それらは国家とどのような関係にあるか等について考える。
2	法と国家との関係について（その 2）	前回（②）に続いて、法（または、広く「法を含む規範・ルール」とは何か、それらは国家とどのような関係にあるか等について考える。
3	法と「それ以外のルール」との関係について	法と「それ以外のルール」（すなわち「社会規範」——道徳・慣習・習俗・宗教規範等）との相違点等を探る。
4	法と法律について。憲法第 41 条（「国会の地位」および「立法権」）を中心に	「狭義の法、としての「法律」について。『唯一の立法機関』としての国会（および国会の地位）について。立法と「政党」の関係（「政党政治」）についても言及する。
5	法の特質について。「権利」を中心として	「権利」に焦点をあてて法の特質をながめる。「法律問題」とは何か。何が法律問題となり、あるいはそうならないか。法と国家との関係から考える。
6	法の特質について。「権利」を中心として（その 2）	「権利」に焦点をあてて法の特質をながめる。「法律問題」とは何か。何が法律問題となり、あるいはそうならないか。法と国家との関係から考える。
7	「法の支配」「立憲主義」および憲法の基本理念について——「憲法の原点」	「法の支配」とは何か。それと「立憲主義」との関係とは。それらを軸に「近・現代憲法の原点」に及ぶ。
8	「法の支配」「立憲主義」および憲法の基本理念について——「憲法の原点」（その 2）	「憲法の基本理念・原則（『個人の尊重』・国民主権・基本的人権の尊重・平和主義）について。

9	国家統治の基本原則について。「国民主権」	「個人の尊重」理念（憲法第 13 条）から日本国憲法の諸原則を考える。まずは国家統治の基本原則としての「国民主権」について考える。「主権」とは何か。
10	「権力分立」について	国家統治の基本原則としての「権力分立」について。あわせて「行政権と内閣（組織と機能）」・「司法権と裁判所（組織と機能）」に言及。
11	「権力分立」について（その 2）	国家統治の基本原則としての「権力分立」について。あわせて「行政権と内閣（組織と機能）」・「司法権と裁判所（組織と機能）」に言及。また「行政国家日本」についてもふれる。
12	「基本的人権」について	「人権宣言としての日本国憲法」。人権と「公共の福祉」との関係。これに関連して「権利の社会性」についても言及する。
13	「基本的人権」について（その 2）	前回の続き。および「人権規定」と現実とのギャップをながめる。「思想・良心の自由」「表現の自由と知る権利」「社会権（生存権）」等について。
14	①「平和主義」について ②改めて憲法第 13 条（『個人の尊重・幸福追求権』）について	①「平和主義」について。憲法を特徴づける第 9 条の背景と趣旨、および同条をめぐる（今日的）諸問題について。②おわりに日本国憲法の「最重要規定」でもある第 13 条について約言し、まとめに代える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①授業後に、講述内容を思い出ししながら、テキスト（『講義レジュメ』）や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧めたいが、当然ながら予習とあわせれば効果的だろう。
②しばしば「何を覚えたらよいのか」との質問を受けるが、大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないであらう。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを「批判的に。ながめ、かつ考察するという」ことで、そのための「訓練の場」として本授業に臨んでほしいと思う。従って、本授業では「法を守れ！」式の話はしないので留意されたい。

【テキスト（教科書）】

『講義レジュメ（プリント）』および適宜配布する資料を使用。

【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①定期試験のみ（100%）により、レポートは課さない。
その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。
基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点対象とする。
②定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム」に載せるか、場合によってはプリントにして配布するので、必ず目を通してほしい（授業中に事前に知らせる）。

【学生の意見等からの気づき】

理解が難しい場合には気軽に、遠慮せずに質問等声をかけてほしい。初心者にとって難しいことは当然なので、授業中でも構わないから「ガマン」せずに声を出してほしい。「訊くはいつときの恥…」などということわざがあるが、本科目の場合は恥でもなんでもないので、そんな「無益な」ことわざなどは振り払ってほしい。

【その他の重要事項】

授業中の「私語」は「絶対に。認めない。他の聴講生に対する「権利侵害（聴講権の侵害）」となるゆえ。「法学」の授業での権利侵害は断じて認められない。「権利の尊重はお互いさま」は、権利を考え・語る上での基本と心得てほしい。私語する学生に対しては他の学生諸君も遠慮せずに注意してほしい。本科目は「教職課程」も兼ねているので、教師を目指す者はなおのこと講義に集中して、「お友だち」とのおしゃべりは休み時間までつつしんでほしい。

【Outline and objectives】

In each lecture we will learn the basic point of view about the relations between the law (especially the Constitution) and the state or society. Not a few people even today don't understand the meaning of the Constitution ('Everything the government does is bound by the Constitution'). So we will get the correct and basic understanding and also make sense of the Constitution and other laws.

ECN100LA

経済学Ⅰ

2017 年度以降入学者

ECN100LA

経済学Ⅰ

2016 年度以前入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 1 年 A～N / 法文国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	需要、供給、および、政府の政策（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	企業行動と産業組織	競争市場における企業、独占、寡占等（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	開放経済のマクロ経済学	貿易収支、対外純投資（教科書、マクロ編第Ⅴ部）
第 12 回	短期の経済変動①	総需要と総供給、金融政策、財政政策（教科書、マクロ編第Ⅵ部）
第 13 回	短期の経済変動②	インフレ率と失業率（教科書、マクロ編第Ⅵ部）
第 14 回	おわりに（実社会の経済学）	資産運用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

受講態度 50%＋期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】

プレゼンテーション資料を作成するため、エクセルなどの表計算ソフト、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトなどに習熟することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course is intended to understand the logical background of economics and introduce the basics of interpreting major economic indicators and their implications.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

ECN100LA

経済学Ⅱ

2016 年度以前入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法 1 年 A～N / 法文国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第 2 回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第 3 回	社会保障②	我が国の私的年金制度
第 4 回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 5 回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 6 回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 8 回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 11 回	実務の経済学①	ポーフォリオ理論と分散投資
第 12 回	実務の経済学②	株式投資と債券投資
第 13 回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第 14 回	実務の経済学④	実社会における経済学上の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

受講態度 50% + 期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

プレゼンテーション資料を作成するため、エクセルなどの表計算ソフト、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトなどに習熟することが望ましい。

【Outline and objectives】

With reference to Economics I, this course addresses a selection of topics discussed in the real world and aims to understand theories and issues behind.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

ECN100LA

経済学 I

2016 年度以前入学者

西崎 文平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

国環キ 1 年／法文国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学 I はミクロ経済学の入門であり、個人や企業の意思決定、市場における需要と供給の調整などを学びます。経済学 II はマクロ経済学の入門であり、一国全体で生産される財の総量（GDP）や失業、インフレといった概念とその決まり方などを学びます。学生は、これらの授業を通じて、世の中を動かしている重要なメカニズムを理解し、人生において適切な意思決定をするための有力なツールを習得することができます。

【到達目標】

①基礎的な経済理論を参照して、さまざまな経済現象の背後にあるメカニズムを自分なりに推測できる。②経済政策に関するさまざまな議論を自分なりに評価できる。③経済指標の解説などのニュースに興味を感じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回の授業は、原則として、理論の説明、ケーススタディ（現実の問題への適用）、練習問題の順に進めます。図による説明を基本としますが、1 回だけ（11 回目の授業）、中学レベルの数式を使った経済学の理解の仕方をご紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎概念	経済学とは、消費者の効用と需要、生産者の費用と供給
第 2 回	市場における需要と供給	市場とは、需要曲線、供給曲線、市場均衡
第 3 回	市場均衡の変化	需要曲線のシフト、供給曲線のシフト、市場均衡の変化
第 4 回	価格弾力性	需要の価格弾力性、供給の価格弾力性、価格弾力性と均衡の変化
第 5 回	価格規制	上限価格規制、下限価格規制、割当て
第 6 回	租税	課税による均衡の変化、価格弾力性と税の帰着
第 7 回	市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡の効率性
第 8 回	市場の失敗	独占、外部性
第 9 回	分業の利益	トレードオフと機会費用、比較優位と交易の利益、絶対優位と比較優位
第 10 回	貿易政策	内外価格差と貿易、保護貿易
第 11 回	需要と供給の方程式	直線の方程式、関数記号による記述
第 12 回	ゲーム理論①	ゲームとは、ナッシュ均衡、有名なゲーム
第 13 回	ゲーム理論②	逐次手番ゲーム、コミットメント
第 14 回	まとめ	難しかった点の復習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特にありません。

【テキスト（教科書）】

なし。プリントを配布します。

【参考書】

「マンキュー 入門経済学」（第 2 版）、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題（50%）＋期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度と比べてテーマを大幅に絞り込む一方、ケーススタディや練習問題を充実することで、基礎をしっかりと身に付けていただくよう努めます。

【その他の重要事項】

内閣府において経済財政白書の作成等に携わった経験を活かし、現実の経済動向や政策運営を踏まえたケーススタディを紹介します。

【Outline and objectives】

Economics I will provide an introduction to microeconomics, which deals with the analysis of choices made by individual households and firms and of the market forces of demand and supply. Economics II, an introductory macroeconomics course, will discuss the determination of aggregate output (GDP), unemployment and inflation. The goal of the courses is to help students equipped with powerful tools to understand important mechanisms of how the world works and to make appropriate decisions in their life.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

ECN100LA

経済学Ⅱ

2016 年度以前入学者

西崎 文平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

国環キ 1 年／法文国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Ⅰはミクロ経済学の入門であり、個人や企業の意思決定、市場における需要と供給の調整などを学びます。経済学Ⅱはマクロ経済学の入門であり、一国全体で生産される財の総量（GDP）や失業、インフレといった概念とその決まり方などを学びます。学生は、これらの授業を通じて、世の中を動かしている重要なメカニズムを理解し、人生において適切な意思決定をするための有力なツールを習得することができます。

【到達目標】

①基礎的な経済理論を参照して、さまざまな経済現象の背後にあるメカニズムを自分なりに推測できる。②経済政策に関するさまざまな議論を自分なりに評価できる。③経済指標の解説などのニュースに興味を感じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回の授業は、原則として、理論の説明、ケーススタディ（現実の問題への適用）、練習問題の順に進めます。図と簡単な数式を使った説明を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロ経済学の考え方	ミクロ経済学とマクロ経済学、マクロ経済学と政策、貨幣と実体経済
第 2 回	GDP	GDP とは、実質 GDP と名目 GDP、変化率
第 3 回	経済成長	経済成長と生活水準、生活水準の決定要因
第 4 回	物価と利子率	物価とは、物価上昇率、利子率
第 5 回	貯蓄と投資	貯蓄と投資の関係、貸付資金市場モデル
第 6 回	貨幣	貨幣とは、貨幣市場の均衡、貨幣数量方程式
第 7 回	景気循環と失業	失業率、景気循環と GDP ギャップ、景気循環と失業
第 8 回	為替レート	為替レートの見方、購買力平価説、金利平価説
第 9 回	国際収支	貿易収支と経常収支、輸出入の決定要因
第 10 回	総需要曲線	総需要曲線とは、総需要曲線のシフト
第 11 回	総供給曲線	長期総供給曲線、短期総供給曲線
第 12 回	総需要と総供給	短期均衡と長期均衡、均衡の変化
第 13 回	財政乗数	消費関数、GDP の決定、乗数効果
第 14 回	まとめ	難しかった点の復習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特にありません。

【テキスト（教科書）】

なし。プリントを配布します。

【参考書】

「マンキュー 入門経済学」（第 2 版）、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題（50%）＋期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度と比べてテーマを大幅に絞り込む一方、ケーススタディや練習問題を充実することで、基礎をしっかりと身に付けていただくよう努めます。

【その他の重要事項】

内閣府において経済財政白書の作成等に携わった経験を活かし、現実の経済動向や政策運営を踏まえたケーススタディを紹介します。

【Outline and objectives】

Economics I will provide an introduction to microeconomics, which deals with the analysis of choices made by individual households and firms and of the market forces of demand and supply. Economics II, an introductory macroeconomics course, will discuss the determination of aggregate output (GDP), unemployment and inflation. The goal of the courses is to help students equipped with powerful tools to understand important mechanisms of how the world works and to make appropriate decisions in their life.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

ECN100LA

経済学 I

2016 年度以前入学者

梅溪 健児

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 S~Y / 法文国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして骨太な考え方を習得する。家計・企業・政府はどのような基準で経済活動の判断を行うのか、それらの取引により市場はどのような結果になるのかという観点に立って、経済社会の出来事を理解できるようにすることが目的である。

【到達目標】

目標は、①身の回りの出来事の背景にある合理的な判断を知ること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解すること、③日々のニュースの表面的な内容だけではなく深層にあるメカニズムに納得できることの3点である。これにより、経済社会の課題について柔軟に発言できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。現実問題の理解を深めるために、新聞・雑誌などからも教材を選択する。講義資料はパワーポイントで作成し、授業支援システムに掲載する。リアクションペーパーを4回予定し、経済学の基礎用語の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「経済学」と「政治経済」の違い	高校で学んだ「政治経済」とこれからの学ぶ「経済学」の違いを理解する
2	市場の取引	需要と供給により市場の取引が成立する全体像を理解する（教科書第1章、以下同じ）
3	消費者の行動（1）	需要曲線を学ぶ（第2章）
4	消費者の行動（2）	消費者余剰を学ぶ（第2章）
5	企業の行動（1）	供給曲線を学ぶ（第3章）
6	企業の行動（2）	生産者余剰を学ぶ（第3章）
7	市場競争と資源配分	価格メカニズムと余剰分析を学ぶ（第4章）
8	市場の失敗と政府の役割	外部効果と公共財を学ぶ（第6章）
9	不完全な情報	情報の不完全性と取引を学ぶ（第7章）
10	ゲームの理論	囚人のジレンマを学ぶ（第8章）
11	経済学と経済政策	競争政策や公共財に関する政策の考え方を学ぶ（第5章、第6章、第8章）
12	経済学と社会保障	医療の経済学的分析を学ぶ（第7章）
13	経済学と東京集中	人口移動の経済学的分析を学ぶ
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学の活用を確認する。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書
田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書
大竹文雄（2017）『競争社会の歩き方』中公新書
一橋大学経済学部編（2013）『教養としての経済学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

講義では基礎的な経済用語の習得を最優先に進めていく方針を続けます。慣れるまでとまどうかもしれませんが、スタンダードな入門レベルをマスターするとその後の学修は加速が可能です。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

就職活動にあたり経済学が要件になる学生が多い場合には、授業の教材を工夫する。重要用語については英語の教材も併せて配布する。オフィスアワーは、大学院政策創造研究科にて設ける。

【Outline and objectives】

This is a course for introductory microeconomics with an emphasis on understanding basic framework of economic theory: decision making of household, firms and government, economic consequences of economic transactions in the market. The course aims to enhance the ability to understand economic and social events based on the reasoning with microeconomics.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

ECN100LA

経済学Ⅱ

2016 年度以前入学者

梅溪 健児

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

法 1 年 S～Y / 法文国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業はマクロ経済学を取り上げる。GDP（国内総生産）による経済全体の把握、消費や投資などの有効需要、経済政策と政府の役割、海外との取引などについて、体系的に理解できるようになることが目的である。

【到達目標】

目標は、①経済が持続的に成長するために必要なこと、②政府が経済成長に果たす役割、③経済データを正確に理解しそれが示唆する政策的意味について、自ら考える素養を身につけることの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。その際、基礎理論の図表、因果関係のフローチャート、経済データの図表を教材として配布する。講義資料はパワーポイントで作成し、授業支援システムに掲載する。リアクションペーパーを4回予定し、マクロ経済学の重要用語が正しく理解できるかを試す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マクロ経済とは	GDP（国内総生産）を学ぶ（教科書第9章、以下同じ）
2	経済成長	持続的な経済成長を考える（第15章）
3	有効需要	マクロ経済の均衡を学ぶ（第10章）
4	マクロ経済政策	財政政策と金融政策を学ぶ（第12章）
5	景気対策	不況期の財政出動を学ぶ（第12章）
6	貨幣と金融政策	貨幣の機能と調節を学ぶ（第11章）
7	インフレとデフレ	物価の変動と経済への影響を学ぶ（第13章）
8	雇用と失業	労働市場の変動と要因を学ぶ（第13章）
9	高齢社会の財政運営	社会保障改革を学ぶ（第14章）
10	財政健全化	財政赤字の原因と対処を学ぶ（第14章）
11	成長モデル	成長会計と教育の役割を学ぶ（第15章）
12	為替レート	円高・円安の経済効果を学ぶ（第16章）
13	貿易と直接投資	比較優位の考え方を学ぶ（第16章）
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学の活用を確認する。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

吉川洋（2016）『人口と日本経済』中公新書
宮崎勇・本庄真・田谷禎三（2013）『日本経済図説』（第四版）岩波新書
一橋大学経済学部編（2013）『教養としての経済学』有斐閣
田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

マクロ経済学は日常生活ではなじみが薄い学問かもしれませんが、しかし、社会人となって経済全体を相手に仕事をする場合には、不可欠な内容です。辛抱強く履修を続けてください。重要用語については平易な英語でも理解ができるように引き続き取り組みます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

就職活動にあたり経済学が要件になる学生が多い場合には、授業の教材を工夫する。オフィスアワーは、大学院政策創造研究科にて設ける。

【Outline and objectives】

This is an introductory course for standard macroeconomics. Topics to be covered are GDP statistics, effective demand such as consumption and investment, role of government and economic policy, and goods and service trade and financial transaction. The course aims to help understand fundamental ideas of macroeconomic theory.

ECN100LA

経済学Ⅰ

2017 年度以降入学者

ECN100LA

経済学Ⅰ

2016 年度以前入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 A～X、国 1 年／法文国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

この授業の目標は、「経済学の理論と日本経済の制度的側面や経済指標の実際のデータを解説する部分のバランスを取ること、理論と実践を同時に身に付けられるようにする」ことにある。そして、自ら日本経済の問題や課題を見つけ、それに対してどうすればいいのかを考える力を取得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	需要、供給、および、政府の政策（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	企業行動と産業組織	競争市場における企業、独占、寡占等（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	開放経済のマクロ経済学	貿易収支、対外純投資（教科書、マクロ編第Ⅴ部）
第 12 回	短期の経済変動①	総需要と総供給、金融政策、財政政策（教科書、マクロ編第Ⅵ部）
第 13 回	短期の経済変動②	インフレ率と失業率（教科書、マクロ編第Ⅵ部）
第 14 回	おわりに（実社会の経済学）	資産運用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

受講態度 50%＋期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない。

【その他の重要事項】

プレゼンテーション資料を作成するため、エクセルなどの表計算ソフト、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトなどに習熟することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course is intended to understand the logical background of economics and introduce the basics of interpreting major economic indicators and their implications.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

ECN100LA

経済学Ⅱ

2016 年度以前入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

文 1 年 A～X、国 1 年／法文国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第 2 回	社会保障①	我が国の公的年金制度（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 3 回	社会保障②	我が国の私的年金制度（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 4 回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 5 回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 6 回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 8 回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 11 回	実務の経済学①	ポーターの理論と分散投資
第 12 回	実務の経済学②	株式投資と債券投資
第 13 回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第 14 回	実務の経済学④	実社会における経済学上の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

【成績評価の方法と基準】

受講態度 50%＋期末試験 50%。受講態度は、授業における発表と発表に備え準備したプレゼンテーション資料の提出により評価する。期末試験は、毎回の講義と受講生の発表を踏まえた記述式とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない。

【その他の重要事項】

プレゼンテーション資料を作成するため、エクセルなどの表計算ソフト、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトなどに習熟することが望ましい。

【Outline and objectives】

With reference to Economics I, this course addresses a selection of topics discussed in the real world and aims to understand theories and issues behind.

ECN100LA

マクロ経済学 I 2017 年度以降入学者

ECN100LA

マクロ経済学 I 2016 年度以前入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年 A～J / 営 2～4 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいのかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学 I）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。後期（マクロ経済学 II）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動、資産バブルといったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。折を見て、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパーの提出をお願いする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マクロ経済を観察する 1	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	マクロ経済を観察する 2	GDP の基本を学びます
3	マクロ経済を観察する 3	実質と名目と物価の関係を学びます
4	マクロ経済を観察する 4	物価統計と失業統計の基本的な特徴を理解します
5	マクロ経済を支える金融市場 1	金融と実体経済の関係を考察します
6	マクロ経済を支える金融市場 2	金利と金融市場の基礎を学びます
7	マネーの機能と中央銀行の役割 1	マネーとは何かを学びます
8	マネーの機能と中央銀行の役割 2	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	マネーの機能と中央銀行の役割 3	金融システムの安定化の意義を理解します
10	財政の仕組みと機能 1	財政の意義とその決まり方を把握します
11	財政の仕組みと機能 2	税制の基本を学びます
12	財政の仕組みと機能 3	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
13	為替レートの決まり方 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
14	復習	春学期の内容を復習します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、復習は必須です。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学：入門の「一歩前」から応用まで』（有斐閣）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+ a として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の 1 の通りです。

1. 単位の評価は 2 つの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。

【1】期末試験 100% + X%（授業への参加（発言、質問等）の 2 要素で成績評価を行います。取得可能な成績は A + ~ D です。

【2】よい成績を求めず、単位さえ手に入ればよい人向けです。問題数を絞った期末試験のみで成績評価を行います。取得可能な成績は C ~ D です。

2. 例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。なお、例年、単位を取れる学生は 9 割以上です。落第者の大半は殆ど授業に出席していない学生です。昨年度の場合、A+=18%、A=26%、B=25%、C=24%、D=8%でした。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to current economic issues and to basic macroeconomic principles and methods. I try to help you understand why they

can be so very powerful. Economics is a method of reasoning. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about the macroeconomic problems.

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ 2017 年度以降入学者

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ 2016 年度以前入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年 A～J / 営 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。後期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動、資産バブルといったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。折を見て、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパーの提出をお願いする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	消費と投資の決定メカニズム、政府と中央銀行の経済政策を学びます
2	GDP と金利の決まり方 2	IS-LM モデルを構築します
3	総需要・総供給と物価の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます
4	総需要・総供給と物価の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
5	総需要・総供給と物価の決まり方 3	物価と GDP の決まり方を考察します
6	総需要・総供給と物価の決まり方 4	経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	為替レートの決まり方 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます
10	為替レートの決まり方 3	開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長の意味を理解します
12	経済成長 2	経済成長モデルを使った分析を行います
13	景気変動	景気変動の要因を理解します
14	復習	秋学期の内容を復習します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、復習は必須です。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学：入門の「一歩前」から応用まで』（有斐閣）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)A+～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。昨年度の場合は、A+ 11%、A 27%、B 21%、C 36%、D 05%でした。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to current economic issues and to basic macroeconomic principles and methods. I try to help you understand why they can be so very powerful. Economics is a method of reasoning. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about the macroeconomic problems.

ECN100LA

マクロ経済学Ⅰ

2017 年度以降入学者

ECN100LA

マクロ経済学Ⅰ

2016 年度以前入学者

林 直嗣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 営 1 年 K～U / 営 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マクロ経済学は、所得や物価などマクロ的な集計量をベースに、一国経済全体の状態や動向を分析する。日本他アメリカなど 1 国全体の消費はどう決まるか、投資はどう行われるか、国民所得の決定はどう行われるか、貨幣の需要と供給はどう決まり、実体経済にどう影響するか、インフレやデフレは完全雇用や失業にどう影響するか、景気はどう変動するのか、経済成長はどう展開するのか、こうした経済のマクロ的な諸問題を易しく解説することを通じて、履修生がマクロ経済への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることがテーマである。

【到達目標】

日本経済や世界経済の諸問題を、一国全体のマクロ的視点から理解する力をつけることを目標とする。この授業をとることにより、皆さんはマクロ経済学の素養を体系的に身につけることができる。単に講義だけでなく主体的に問題演習を解くことによって、公務員試験、公認会計士試験、国税専門官、ファイナンシャルプランナー試験などの各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養うことができる。これらの試験には二次方程式や最大・最小などの数学Ⅰや微分などの数学Ⅱは必須であり、大学の入門授業は高校までの学習の上に行うべきものである。しかし高校によってはそれらをやらない場合もある。そこで数学Ⅱ迄の復習を易しく解説した上で、大学の入門授業を分かりやすく行う必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。マクロ経済学の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。また授業内では教員と学生との間で活き活きとした双方向のクイズを Q&A 方式で行い、学生参加型のアクティブ・ラーニングの授業を行う。またレポート提出や小テストなどを行い、履修生の理解を確実に深めていく方法を採用。期末には必ず試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、 経済とマクロ経済学 (1)	授業の概要説明。 マクロ経済学の基礎的な考え方を易しく解説する。
第 2 回	経済とマクロ経済学 (2)	マクロ経済学の基礎的概念を勉強する。
第 3 回	市場経済と貨幣 (1)	市場経済と貨幣について基礎的概念を解説する。
第 4 回	市場経済と貨幣 (2)	市場経済と貨幣について進んだ考え方を学ぶ。
第 5 回	国民所得と国民経済計算 (1)	国民所得と国民経済計算の基礎概念を勉強する。
第 6 回	国民所得と国民経済計算 (2)	国民所得と国民経済計算の進んだ問題を説明する。
第 7 回	消費と貯蓄 (1)	消費と貯蓄の基礎的理論を学ぶ。
第 8 回	消費と貯蓄 (2)	消費と貯蓄の進んだ考え方を説明する。
第 9 回	投資と資本 (1)	投資と資本の基礎理論を学習する。
第 10 回	投資と資本 (2)	投資と資本の応用理論を勉強する。
第 11 回	投資と資本 (3)	投資と資本の進んだ考え方を説明する。
第 12 回	均衡所得の決定と乗数機構 (1)	均衡所得の決定について基礎を学ぶ。
第 13 回	均衡所得の決定と乗数機構 (2)	均衡所得の決定について応用を学ぶ。
第 14 回	均衡所得の決定と乗数機構 (3)	乗数機構の理論を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか明確になるので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習を 30 時間、授業を 30 時間、復習を 30 時間、合計 90 時間を学修して 2 単位と定めているので、予習 2 時間 ⇒ 授業 2 時間 ⇒ 復習 2 時間の基本スタイルで主体的に学修しましょう。授業は勿論毎回の予習復習の学習教材としても、教科書や問題演習の指定は大学の規則上必要である。

【テキスト（教科書）】

林直嗣著『経済学入門』新世社（入門・初級の教科書）

林直嗣・福田慎共著『スタディガイド マクロ経済学』（入門のレジュメと問題集）

【参考書】

福岡正夫著『ゼミナール 経済学入門』第 4 版、2008 年、日本経済新聞社（初級の教科書）

【成績評価の方法と基準】

大学設置基準第 27 条に従って必ず定期試験を行った上で、授業への参加度（出席等）、授業内クイズ、レポート、小テストなどの合計点を基準として成績評価をする。また大学設置基準 25 条の 2 では、「客観的で厳格な（正確な）」成績評価を行うことが法定されている。すなわち客観的な正規分布に正確に一致するように、成績評価をする必要があり、過度に辛かったり甘い絶対評価は、正規分布とならず、主観的で歪んだ評価となるので、設置基準に違反する。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、板書を利用するとともに、プレゼンテーション用教材（Power Point による教材）をスクリーンに投影する。

【その他の重要事項】

公務員試験や会計士試験などの資格試験や就職試験では、経済学の出題傾向が専門化しているので、理論だけでなく問題演習もすることが望ましく、この授業をとることを特に勧める。

〔関連科目〕

マクロ経済学Ⅱ（基礎科目 2 群）、ミクロ経済学Ⅰ／Ⅱ（専門基礎科目 A 群）などを併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Macroeconomics analyzes the state and trend of the economy as a whole based on macroscopic aggregations such as income and prices. How Japan and as the United States decide macroeconomic consumption as a whole, how to make investment, how to determine equilibrium national income, how the supply and demand of money are decided, how they affect the real economy, how inflation and deflation affect full employment and unemployment, how the economy fluctuates, how economic growth develops? We will explain these macroeconomic problems as easily as possible so that students can understand them. The theme is to deepen interests and understanding and to make it available for daily life and future employment.

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2016 年度以前入学者

林 直嗣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 営 1 年 K～U / 営 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マクロ経済学は、所得や物価などマクロ的な集計量をベースに、一国経済全体の状態や動向を分析する。日本他アメリカなど 1 国全体の消費はどう決まるか、投資はどう行われるか、国民所得の決定はどう行われるか、貨幣の需要と供給はどう決まり、実体経済にどう影響するか、インフレやデフレは完全雇用や失業にどう影響するか、景気はどう変動するのか、経済成長はどう展開するのか、こうした経済のマクロ的な諸問題を易しく解説することを通じて、履修生がマクロ経済への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることがテーマである。

【到達目標】

日本経済や世界経済の諸問題を、一国全体のマクロ的視点から理解する力をつけることを目標とする。この授業をとることにより、皆さんはマクロ経済学の素養を体系的に身につけることができる。単に講義だけでなく主体的に問題演習を解くことによって、公務員試験、公認会計士試験、国税専門官、ファイナンシャルプランナー試験などの各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養うことができる。これらの試験には二次方程式や最大・最小などの数学Ⅰや微分などの数学Ⅱは必須であり、大学の入門授業は高校までの学習の上に行うべきものである。しかし高校によってはそれらをやらない場合もある。そこで数学Ⅱ迄の復習を易しく解説した上で、大学の入門授業を分かりやすく行う必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。マクロ経済学の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。また授業内では教員と学生との間で活き活きとした双方向のクイズを Q&A 方式で行い、学生参加型のアクティブ・ラーニングの授業を行う。またレポート提出や小テストなどを行い、履修生の理解を着実に深めていく方法を採用。期末には必ず試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	貨幣の供給と需要 (1)	貨幣の供給と需要について基礎的な説明をする。
第 2 回	貨幣の供給と需要 (2)	貨幣の供給と需要について進んだ理論を学ぶ。
第 3 回	同時均衡と金融・財政政策 (1)	財市場と貨幣市場の同時均衡を学ぶ。
第 4 回	同時均衡と金融・財政政策 (2)	完全雇用での金融・財政政策を学ぶ。
第 5 回	同時均衡と金融・財政政策 (3)	不況時と不完全雇用における金融・財政政策を学ぶ。
第 6 回	労働市場均衡と一般均衡 (1)	労働市場均衡について勉強する。
第 7 回	労働市場均衡と一般均衡 (2)	マクロ一般均衡について説明する。
第 8 回	インフレとデフレ、失業、合理的期待 (1)	インフレとデフレの基礎理論を学ぶ。
第 9 回	インフレとデフレ、失業、合理的期待 (2)	失業と雇用の基礎理論を学ぶ。
第 10 回	インフレとデフレ、失業、合理的期待 (3)	合理的期待と金融・財政政策の関連を勉強する。
第 11 回	景気循環 (1)	景気循環の基礎理論を勉強する。
第 12 回	景気循環 (2)	景気循環の進んだ理論を説明する。
第 13 回	経済成長 (1)	経済成長の基礎理論を勉強する。
第 14 回	経済成長 (2)	経済成長の応用理論を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか明確になるので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習を 30 時間、授業を 30 時間、復習を 30 時間、合計 90 時間を学修して 2 単位と定めているので、予習 2 時間 ⇒ 授業 2 時間 ⇒ 復習 2 時間の基本スタイルで主体的に学修しましょう。授業は勿論毎回の予習復習の学習教材としても、教科書や問題演習の指定は大学の規則上必要である。

【テキスト（教科書）】

林直嗣著『経済学入門』新世社（入門・初級の教科書）
 林直嗣・福田慎共著『スタディガイド マクロ経済学』（入門のレジュメと問題集）

【参考書】

福岡正夫著『ゼミナール 経済学入門』日本経済新聞社（初級の教科書）

【成績評価の方法と基準】

大学設置基準第 27 条に従って必ず定期試験を行った上で、授業への参加度（出席等）、授業内クイズ、レポート、小テストなどの合計点を基準として成績評価をする。また大学設置基準 25 条の 2 では、「客観的で厳格な（正確な）」成績評価を行うことが法定されている。すなわち客観的な正規得点分布に正確に一致するように、成績評価をする必要があり、過度に辛かったり甘い絶対評価は、正規分布とならず、主観的で歪んだ評価となるので、設置基準に違反する。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、板書を利用するとともに、プレゼンテーション用教材（Power Point による教材）をスクリーンに投影する。

【その他の重要事項】

公務員試験や会計士試験などの資格試験や就職試験では、経済学の出題傾向が専門化しているので、理論だけでなく問題演習もすることが望ましく、この授業をとることを特に勧める。

【関連科目】

マクロ経済学Ⅰ（基礎科目 2 群）、ミクロ経済学Ⅰ／Ⅱ（専門基礎科目 A 群）など

【Outline and objectives】

Macroeconomics analyzes the state and trend of the economy as a whole based on macroscopic aggregations such as income and prices. How Japan and the United States decide macroeconomic consumption as a whole, how to make investment, how to determine equilibrium national income, how the supply and demand of money are decided, how they affect the real economy, how inflation and deflation affect full employment and unemployment, how the economy fluctuates, how economic growth develops? We will explain these macroeconomic problems as easily as possible so that students can understand them. The theme is to deepen interests and understanding and to make it available for daily life and future employment.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学 I

2016 年度以前入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学 II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場で互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学 I」「心理学 II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に授業を行う。また、時折ビデオ／DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第 3 回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きの関連について考えていく。
第 4 回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障がい描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第 5 回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第 6 回	無意識の心理学（フロイト①）－精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。
第 7 回	無意識の心理学（フロイト②）－心理・性的発達理論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。
第 8 回	無意識の心理学（フロイト③）－精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。
第 9 回	無意識の心理学（ユング①）－無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第 10 回	無意識の心理学（ユング②）－無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第 11 回	アイデンティティの心理学（エリクソン①）－その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第 12 回	アイデンティティの心理学（エリクソン②）－心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第 13 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ「いいもんだよ、生きるって」 (TOPIC3)	夜回り先生・水谷修の DVD「いいもんだよ、生きるって」を観る。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。

【参考書】

平木典子・裴岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。

【Outline and objectives】

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. In addition, how students' daily experiences can be understood by the psychological theories introduced in this course will be discussed and explained throughout the course. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、「心理学Ⅰ」で取りあげたところの理論とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学をとりあげ、それぞれの理論がところをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達のモデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身に付けてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に授業を行う。また、時折ビデオ／DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるところの問題を映像として捉えてみたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第 3 回	行動主義心理学と行動療法 ①ー さまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとづくさまざまな学習理論を解説する。
第 4 回	行動主義心理学と行動療法 ②ー 行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづく、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第 5 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法 ①ー 基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。
第 6 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法 ②ー ゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第 7 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ 2「生きていてくれてありがとう」(TOPIC1)	夜回り先生・水谷修の DVD「生きていてくれてありがとう」を観る。
第 8 回	人間性心理学と心理療法 ①ー 来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第 9 回	人間性心理学と心理療法 ②ー 来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第 10 回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第 11 回	フロー理論と日常生活の充実感について ①ー 楽しさにもとづく人間発達のモデル	楽しさにもとづく人間発達のモデルとしてのフロー理論を解説する。
第 12 回	フロー理論と日常生活の充実感について ②ー 現代の子どもたちは本当の「楽しさ」を知っているのか	フロー理論の観点から、現代の子どもたちの生き方や行動を考える。
第 13 回	フロー理論と日常生活の充実感について ③ー 精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。

第 14 回 授業の総括

授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。

【参考書】

平木典子・巽岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）、会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』（学文社、1999 年）、浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』（学文社、2011 年）、今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』（世界思想社、2003 年）、チクセントミハイ著（浅川希洋志監訳）『クリエイティヴィティ』（世界思想社、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。

【Outline and objectives】

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. In addition, how students' daily experiences can be understood by the psychological theories introduced in this course will be discussed and explained throughout the course. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅰ

2016 年度以前入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法 1 年 I～N、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は DVD の視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第 3 回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第 4 回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第 5 回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第 6 回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとらえ方
第 7 回	ことば	言語発達の概要
第 8 回	知性	知能 思考
第 9 回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第 10 回	認知と思考	記憶
第 11 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 12 回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第 13 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力
第 14 回	まとめ	児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ－児童心理学入門』
櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）
有斐閣アルマ、2014 年
2,100 円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 桜井茂男著 誠信書房
『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、リアクションペーパー 30%

【学生の意見等からの気づき】

自分が小学生のときと、今の小学生を取り巻く環境が変化してきていることを改めて考える良い機会になった。
パワーポイントを使用すること、教科書の重要箇所を確認していくことが学生の理解を深めることに役立った。

【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法 1 年 I～N、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてる。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心であるが、テーマに基づく資料についてリアクションペーパーの提出を毎回求める。授業内容に即した DVD の視聴を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第 2 回	自分をよく知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第 6 回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第 10 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 11 回	ソーシャル・スキル・トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの DVD 視聴
第 12 回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第 13 回	遊戲療法	遊戲療法とは カウンセリング
第 14 回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみる。
- ・日頃から児童（子ども）を取り巻く現代環境に関心を持つ。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014 年新版、2100 円＋税

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、リアクションペーパー 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生自身が自分について振り返ることができた。自分自身が今まで集団社会のなかでどのように生きてきたか、改めて考える良い機会になったという学生が多かった。これから子どもと関わっていくうえで、授業が役に立つと感じたようである。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅰ

2016 年度以前入学者

小島 弥生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 S～Y、環／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっています。

【到達目標】

「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。また、受講者には心理学Ⅱを連続履修することを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講学生が一定人数を超えることが予想されるため、講義を基本とします。パワーポイントを使い講義内容をスライド表示させますが、スライドは講師の話聞くための視覚的補足資料であるため、スライドを書き写すことではなく、話を聞き、理解することに集中してほしいです。出席カードのコメント欄に授業内容に関するリアクションペーパーの記述を求める時もあります。講義内容に関する質問等も出席カードのコメント欄に記してください。翌週以降の授業で回答するように努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業ガイダンス：授業計画、授業のねらいなどの説明
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における人間観、「心の理論」は人間をどう捉えるか
第 3 回	見えの不思議（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
第 4 回	見えの不思議（2）	注意・バイアス、社会的知覚
第 5 回	学習の不思議	条件づけ、強化と消去、般化と分化、モデリング・社会的学習
第 6 回	記憶の不思議	短期記憶と長期記憶、感覚記憶、記憶と忘却
第 7 回	思考の不思議	思考と問題解決、創造的思考
第 8 回	動機づけ	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ
第 9 回	内発的動機づけと外的報酬	言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第 10 回	無気力	学習性無力感、達成目標と無気力
第 11 回	発達	遺伝も環境も影響、発達段階、生涯発達
第 12 回	性役割の獲得／青年の心理的特徴	性同一性・性役割、アイデンティティ
第 13 回	エイジング	成人期、高齢期
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

不定期に、授業内容と関連して簡単な宿題（小レポート）が課されます（例、授業内容に関連すると考える身の回りの出来事を説明する、など）。講師が宿題の提出を求めた場合に提出できるよう、受講学生は宿題の準備をする必要があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。教員が作成したプリントを適宜配布します。

【参考書】

平木典子・巖谷秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版）、榎本博明・古澤照幸編著『心理学概論』（おうふう）、藤本忠明他著『ワークショップ心理学』（ナカニシヤ出版）、櫻井茂男他著『子どものこころ—児童心理学入門』（有斐閣アルマ）

上に掲げられている書籍のうち、この授業で配布する授業プリントでは、榎本・古澤編著『心理学概論』（おうふう）の掲載ページを記載します。購入するのであればこの書籍の購入を推奨します。

【成績評価の方法と基準】

不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生からは概ね好評を得たと考えています。配付プリント（A4 サイズ両面印刷、1～2 回の授業に 1 枚を配布するペースで配付を予定）について、ページ番号をふってほしいという要望がありましたが、1 回に配るものは 1 枚なのでページ番号は不要と思います。なお、授業で表示するパワーポイントの内容を事前にプリントアウトして配布してほしいという要望がありますが、これは検討しません。自主的な学びができるよう画面で説明していることの内容は口頭での説明にこだわります。

【Outline and objectives】

In principle, this class will advance in a lecture style.I will ask for reaction paper on the contents of the class as appropriate, and will also provide feedback on it.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

小島 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 S～Y、環／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

【到達目標】

「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

受講学生が一定人数を超えることが予想されるため、講義を基本とします。パワーポイントを使い講義内容をスライド表示させますが、スライドは講師の話聞くための視覚的補足資料であるため、スライドを書き写すことではなく、話を聞き、理解することに集中してほしいです。出席カードのコメント欄に授業内容に関するリアクションペーパーの記述を求める時もあります。講義内容に関する質問等も出席カードのコメント欄に記してください。翌週以降の授業で回答するように努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第 2 回	自分を良く知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティの理解	類型論、特性論、状況論・相互作用論
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	友達・仲間関係の発達
第 6 回	社会性	向社会行動とは何か、向社会行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 10 回	心の問題にどう向き合うか（1）	様々な心理臨床のアプローチとその根底にある人間観
第 11 回	心の問題にどう向き合うか（2）	様々な心理臨床のアプローチとその根底にある人間観
第 12 回	不登校・いじめ	なぜ不登校、いじめは起こるのか
第 13 回	心理的ウェルビーイングを考える	精神的に健康で、充実した人生を生きるために
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

不定期に、授業内容と関連して簡単な宿題（小レポート）が課されます（例、授業内容に関連すると考える身の回りの出来事を説明する、など）。講師が宿題の提出を求めた場合に提出できるよう、受講学生は宿題の準備をする必要があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。教員が作成したプリントを適宜配布します。

【参考書】

平木典子・裴岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版）、榎本博明・古澤照幸編著『心理学概論』（おうふう）、藤本忠明他著『ワークショップ心理学』（ナカニシヤ出版）、櫻井茂男他著『子どものこころ—児童心理学入門』（有斐閣アルマ）

上に掲げられている書籍のうち、この授業で配布する授業プリントでは、榎本・古澤編著『心理学概論』（おうふう）の掲載ページを記載します。購入するのであればこの書籍の購入を推奨します。

【成績評価の方法と基準】

不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生からは概ね好評を得たと考えています。配付プリント（A4 サイズ両面印刷、1～2 回の授業に 1 枚を配布するペースで配付を予定）について、ページ番号をふってほしいという要望がありましたが、1 回に配るものは 1 枚なのでページ番号は不要と思います。なお、授業で表示するパワーポイントの内容を事前にプリントアウトして配布してほしいという要望がありますが、これは検討しません。自主的な学びができるよう画面で説明していることの内容は口頭での説明にこだわります。

【Outline and objectives】

In principle, this class will advance in a lecture style.I will ask for reaction paper on the contents of the class as appropriate, and will also provide feedback on it.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学 I

2016 年度以前入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 P～X、キ／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多岐にわたる心理学のなかでも、アカデミックな領域を概観します。計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。※参考：心理学Ⅱでは、認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野を学びます。

【到達目標】

心理学とはどのようなものを理解することが目標です。ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。「心」とは何か、といったことに関して、幾つかのキーワードを用いつつ、批判的に検討・検証し、記述できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。リアクションペーパーへのリプライやフィードバックも行います。

たいして難しくない分、あまり自由ではありません。〔難度=自由度：☆☆★☆☆〕

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の特徴やねらい、「授業計画」の説明など
2	「心」は目に見えない…	計量心理学〔テキスト序章①〕
3	「心」を測定する？	計量心理学〔テキスト序章②〕
4	目は「心」の一部？	知覚心理学〔テキスト第 1 章①〕
5	何を・どのように見ている？	知覚心理学〔テキスト第 1 章②〕
6	「心」は見えないが行動は見える？	学習心理学〔テキスト第 2 章①〕
7	刺激-反応-結果で説明できる？	学習心理学〔テキスト第 2 章②〕
8	ヒトの「心」の特徴は？	進化心理学〔テキスト第 3 章①〕
9	学び教える「心」	進化心理学〔テキスト第 3 章②〕
10	「心」は脳にある？	神経心理学〔テキスト第 4 章①〕
11	「心」は電気信号？	神経心理学〔テキスト第 4 章②〕
12	それぞれの人にそれぞれの心	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章①〕
13	試験（当日記述可）	レポート形式の小論文
14	知能は測定できる？	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章②〕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストその他に幾らかでも目を通す「準備学習」によって、理解を促します。講義後も、テキストなどを参照し、「復習」的に整理します。“何を覚えるか”ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

『ゼロからはじめる心理学・入門－人の心を知る科学（目に見えない「心」を科学する）』金沢 創ほか著 有斐閣
<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>〔この Web サイトで「立ち読み」できます！〕
必ず用意してください。初回からテキスト講読を進めます。

【参考書】

とくに指定しません。

【成績評価の方法と基準】

試験点（100 %）：自らテーマを定めて調査・研究した結果をまとめるレポート形式の小論文。

「出席点」や「平常点」はカウントしません。リアクションペーパーも任意です。試験当日（電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可）に記述できます。

事前の講義日および試験当日の提出、「追試」代替として最終回の講義日の提出までを認めます。

【学生の意見等からの気づき】

テキストを変更するときはもちろん、同じテキストを用いても、講義の内容や進め方、成績評価方法は変えています。

2018 年度は、「出席点」や「平常点」をカウントせず、レポートのみで評価し、リアクションペーパーの回数なども全く問わなかったためか、日ごろの意見を聴くことが不十分になりました。

しかし、興味・関心を抱き、集中して参加した学生の多くは、リアクションペーパーを活用して、「自分が・自分で考えることのトレーニング」をしているようでした。

そのような例の場合、正解がない and/or 不明な「心」に関し、自ら問題を立て、批判的に検討・検証して論じる、という試験課題の出来がよくなりました。

日常的な取り組みの姿勢・態度と課題の出来とが直結しているとは限りませんが、「授業改善アンケート」(匿名)で特徴的に表現されていた自由記述を「気づき」とします。

「リアクションペーパーへのリプライやフィードバックなどが丁寧だった」

「前回までの内容を繰り返し説明してくれたので、よく理解できた」

「とても奥が深く、周りへの視野の広さ、先を読んでいる一言など、とても 1 分 1 秒が新鮮な雰囲気の中で楽しかった」

【その他の重要事項】

(1) 心理学Ⅰ(春学期)と心理学Ⅱ(秋学期)は連動します。続けての履修を期待します。

心理学Ⅱ(秋学期)は、ガイダンスなしで、いきなり講述を始めます。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを(講義時の勝手気ままな言動などへの対応も同様に)変えます。

“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。

(4) オフィスアワー(Q&A タイム? なんでもお喋りタイム?)は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける見込みです。

同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

* Note: Psychology II, We learn areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

文 1 年 P～X、キ／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

多岐にわたる心理学のなかでも、アカデミックな領域を概観します。

認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野の基礎・基盤(ベーシック)を学びます。

※参考：心理学Ⅰでは、計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野を学びます。

【到達目標】

心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。

ヒト(心)について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。「心」とは何か、といったことに関して、幾つかのキーワードを用いつつ、批判的に検討・検証し、記述できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。リアクションペーパーへのリプライやフィードバックも行います。

たいして難しくない分、あまり自由ではありません。[難度=自由度：☆☆★☆☆]

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「心」は機械で置き換えられる?	認知心理学 [テキスト第 6 章①]
2	記憶はどこにある?	認知心理学 [テキスト第 6 章②]
3	ヒトは白紙で生まれてくる?	発達心理学 [テキスト第 7 章①]
4	発達にとって何が重要?	発達心理学 [テキスト第 7 章②]
5	表情から感情がわかる?	感情心理学 [テキスト第 8 章①]
6	感情の役割って?	感情心理学 [テキスト第 8 章②]
7	いい人? 悪い人?	社会心理学 [テキスト第 9 章①]
8	文化が違っても見るものは同じ?	社会心理学 [テキスト第 9 章②]
9	なんだかいやな気持ち/ストレスと欲求不満	臨床心理学 [テキスト第 10 章①]
10	ストレスへの対処	臨床心理学 [テキスト第 10 章②]
11	発達の「障害」とは?	発達の偏りと多様性: 臨床心理学 [テキスト第 11 章①]
12	種類と多様性	発達の偏りと多様性: 臨床心理学 [テキスト第 11 章②]
13	試験(当日記述可)	レポート形式の小論文
14	「心」の問題へのアプローチ	アセスメントと支援: 臨床心理学 [テキスト第 12 章]

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストその他に幾らかでも目を通す「準備学習」によって、理解を促します。講義後も、テキストなどを参照し、「復習」的に整理します。

“何を覚えるか”ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト(教科書)】

『ゼロからはじめる心理学・入門—人の心を知る科学(目に見えない「心」を科学する)』金沢 創ほか著 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225> [この Web サイトで「立ち読み」できます!]

必ず用意してください。初回からテキスト講読を進めます。

【参考書】

とくに指定しません。

【成績評価の方法と基準】

試験点(100%)：自らテーマを定めて調査・研究した結果をまとめるレポート形式の小論文。

「出席点」や「平常点」はカウントしません。リアクションペーパーも任意です。

試験当日(電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可)に記述できます。

事前の講義日および試験当日の提出、「追試」代替として最終回の講義日の提出までを認めます。

【学生の意見等からの気づき】

テキストを変更するときはもちろん、同じテキストを用いても、講義の内容や進め方、成績評価方法は変えています。

2018 年度は、「出席点」や「平常点」をカウントせず、レポートのみで評価し、リアクションペーパーの回数なども全く問わなかったためか、日ごろの意見を聴くことが不十分になりました。

しかし、興味・関心を抱き、集中して参加した学生の多くは、リアクションペーパーを活用して、「自分が・自分で考えることのトレーニング」をしているようでした。

そのような例の場合、正解がない and/or 不明な「心」に関し、自ら問題を立て、批判的に検討・検証して論じる、という試験課題の出来がよくなりました。

日常的な取り組みの姿勢・態度と課題の出来とが直結しているとは限りませんが、「授業改善アンケート」(匿名)で特徴的に表現されていた自由記述を「気づき」とします。

「リアクションペーパーへのリプライやフィードバックなどが丁寧だった」「前回までの内容を繰り返し説明してくれたので、よく理解できた」「とても奥が深く、周りへの視野の広さ、先を読んでいる一言など、とても 1 分 1 秒が新鮮な雰囲気であった」

【その他の重要事項】

(1) 心理学Ⅰ(春学期)と心理学Ⅱ(秋学期)は連動します。続けての履修を期待します。

心理学Ⅱ(秋学期)は、ガイダンスなしで、いきなり講述を始めます。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを(講義時の勝手気ままな言動などへの対応も同様に)変えます。

“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。

(4) オフィスアワー(Q&A タイム? なんでもお喋りタイム?)は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける見込みです。

同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

* Note: Psychology I, We learn areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅰ

2016 年度以前入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学Ⅱ」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学Ⅰ」「心理学Ⅱ」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に授業を行う。また、時折ビデオ／DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第 3 回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きの関連について考えていく。
第 4 回	描画テストにみる心の健康と健康障害(TOPIC1)	心の健康と健康障害が描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第 5 回	統合失調症について(TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第 6 回	無意識の心理学(フロイト①)ー精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。
第 7 回	無意識の心理学(フロイト②)ー心理・性的発達理論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。
第 8 回	無意識の心理学(フロイト③)ー精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。
第 9 回	無意識の心理学(ユング①)ー無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第 10 回	無意識の心理学(ユング②)ー無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第 11 回	アイデンティティの心理学(エリクソン①)ーその人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第 12 回	アイデンティティの心理学(エリクソン②)ー心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第 13 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ「いいもんだよ、生きるって」(TOPIC3)	夜回り先生・水谷修の DVD 「いいもんだよ、生きるって」を観る。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。

【参考書】

平本典子・袋岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。

【Outline and objectives】

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. In addition, how students' daily experiences can be understood by the psychological theories introduced in this course will be discussed and explained throughout the course. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、「心理学Ⅰ」で取りあげたところの理論とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学をとりあげ、それぞれの理論がところをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達のモデルとしてのフロア理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身に付けてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に授業を行う。また、時折ビデオ／DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるところの問題を映像として捉えてみたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第 3 回	行動主義心理学と行動療法 ①ー さまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとづくさまざまな学習理論を解説する。
第 4 回	行動主義心理学と行動療法 ②ー 行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづき、実際、どのように行なわれているかを解説する。
第 5 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法 ①ー 基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。
第 6 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法 ②ー ゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第 7 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ 2「生きていてくれてありがとう」(TOPIC1)	夜回り先生・水谷修の DVD「生きていてくれてありがとう」を観る。
第 8 回	人間性心理学と心理療法 ①ー 来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第 9 回	人間性心理学と心理療法 ②ー 来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第 10 回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第 11 回	フロア理論と日常生活の充実感について ①ー 楽しさにもとづく人間発達のモデル	楽しさにもとづく人間発達のモデルとしてのフロア理論を解説する。
第 12 回	フロア理論と日常生活の充実感について ②ー 現代の子どもたちは本当の「楽しさ」を知っているのか	フロア理論の観点から、現代の子どものたちの生き方や行動を考える。
第 13 回	フロア理論と日常生活の充実感について ③ー 精神的健康を促進するフロア経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロア経験の有用性を解説する。

第 14 回 授業の総括 授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。

【参考書】

平木典子・巽岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）、
会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』（学文社、1999 年）、浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フ
ロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』（学文社、2011 年）、今村浩明・
浅川希洋志編著『フロー理論の展開』（世界思想社、2003 年）、チクセントミ
ハイ著（浅川希洋志監訳）『クリエティヴィティ』（世界思想社、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試
験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップ
する。

【Outline and objectives】

This is an introductory course in psychology, where students will
learn how different psychological theories conceptualized human beings,
comparing with other theories. In addition, how students' daily
experiences can be understood by the psychological theories introduced
in this course will be discussed and explained throughout the course.
This autumn term course will mainly focus on psychological theories
of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most
important theories of positive psychology, namely flow theory, will be
introduced and discussed how we can attain psychological well-being.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学 I

2016 年度以前入学者

小島 弥生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を
用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に
関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも
行なっています。

【到達目標】

「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、
人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能
力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々の
ことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。また、
受講者には心理学 II を連続履修することを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科
： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文
学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、
キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

受講学生が一定人数を超えることが予想されるため、講義を基本とします。パ
ワーポイントを使い講義内容をスライド表示させますが、スライドは講師の
話を聞くための視覚的補足資料であるため、スライドを書き写すことではな
く、話を聞き、理解することに集中してほしいです。出席カードのコメン
ト欄に授業内容に関するリアクションペーパーの記述を求める時もあります。
講義内容に関する質問等も出席カードのコメント欄に記してください。翌週
以降の授業で回答するように努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業ガイダンス：授業計画、授業のね らいなどの説明
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における人間観、「心の理論」 は人間をどう捉えるか
第 3 回	見えの不思議（1）	視覚、形・空間・運動の知覚
第 4 回	見えの不思議（2）	注意・バイアス、社会的知覚
第 5 回	学習の不思議	条件づけ、強化と消去、般化と分化、 モデリング・社会的学習
第 6 回	記憶の不思議	短期記憶と長期記憶、感覚記憶、記憶 と忘却
第 7 回	思考の不思議	思考と問題解決、創造的思考
第 8 回	動機づけ	動機づけのメカニズム、学習への動機 づけ
第 9 回	内発的動機づけと外的報 酬	言語的報酬と物質的報酬、人間関係の 影響
第 10 回	無気力	学習性無力感、達成目標と無気力
第 11 回	発達	遺伝も環境も影響、発達段階、生涯発 達
第 12 回	性役割の獲得／青年の心 理的特徴	性同一性・性役割、アイデンティティ
第 13 回	エイジング	成人期、高齢期
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

不定期に、授業内容と関連して簡単な宿題（小レポート）が課されます（例。
授業内容に関連すると考える身の回りの出来事を説明する、など）。講師が宿
題の提出を求めた場合に提出できるよう、受講学生は宿題の準備をする必要
があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。教員が作成したプリントを適宜配布します。

【参考書】

平木典子・巽岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版）、榎本博明編・
古澤照幸著『心理学概論』（おうふう）、藤本忠明他著『ワークショップ心理学』
（ナカニシヤ出版）、櫻井茂男他著『子どものこころー児童心理学入門』（有斐
閣アルマ）

上に掲げられている書籍のうち、この授業で配布する授業プリントでは、榎
本・古澤編著『心理学概論』（おうふう）の掲載ページを記載します。購入す
るのであればこの書籍の購入を推奨します。

【成績評価の方法と基準】

不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生からは概ね好評を得たと考えています。配付プリント（A4 サイズ両面印刷、1～2 回の授業に 1 枚を配布するペースで配付を予定）について、ページ番号をふってほしいという要望がありましたが、1 回に配るものは 1 枚なのでページ番号は不要だと思います。なお、授業で表示するパワーポイントの内容を事前にプリントアウトして配布してほしいという要望がありますが、これは検討しません。自主的な学びができるよう画面で説明していることの内容は口頭での説明にこだわります。

【Outline and objectives】

In principle, this class will advance in a lecture style.I will ask for reaction paper on the contents of the class as appropriate, and will also provide feedback on it.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

小島 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的には講義形式により授業を進めていきます。また、時折、DVD 教材を用いて心の問題を映像で捉えてみたいと考えています。適宜、授業の内容に関するリアクションペーパーの提出を求め、それに対するフィードバックも行なっていきます。

【到達目標】

「心」とは何か、心理学とはどのようなものなのか、といったことを理解し、人間の健全な心の働きや発達をさまざまな切り口から捉えることのできる能力を身につけること、そして、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えることができるようになることを、本授業ではめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

受講学生が一定人数を超えることが予想されるため、講義を基本とします。パワーポイントを使い講義内容をスライド表示させますが、スライドは講師の話聞くための視覚的補足資料であるため、スライドを書き写すことではなく、話を聞き、理解することに集中してほしいです。出席カードのコメント欄に授業内容に関するリアクションペーパーの記述を求める時もあります。講義内容に関する質問等も出席カードのコメント欄に記してください。翌週以降の授業で回答するように努めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業計画、授業のねらいなどの説明
第 2 回	自分を良く知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティの理解	類型論、特性論、状況論・相互作用論
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	友達・仲間関係の発達
第 6 回	社会性	向社会行動とは何か、向社会行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 10 回	心の問題にどう向き合うか（1）	様々な心理臨床のアプローチとその根底にある人間観
第 11 回	心の問題にどう向き合うか（2）	様々な心理臨床のアプローチとその根底にある人間観
第 12 回	不登校・いじめ	なぜ不登校、いじめは起こるのか
第 13 回	心理的ウェルビーイングを考える	精神的に健康で、充実した人生を生きるために
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

不定期に、授業内容と関連して簡単な宿題（小レポート）が課されます（例、授業内容に関連すると考える身の回りの出来事を説明する、など）。講師が宿題の提出を求めた場合に提出できるよう、受講学生は宿題の準備をする必要があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。教員が作成したプリントを適宜配布します。

【参考書】

平木典子・袋岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版）、榎本博明・古澤照幸編著『心理学概論』（おうふう）、藤本忠明他著『ワークショップ心理学』（ナカニシヤ出版）、櫻井茂男他著『子どものこころ―児童心理学入門』（有斐閣アルマ）

上に掲げられている書籍のうち、この授業で配布する授業プリントでは、榎本・古澤編著『心理学概論』（おうふう）の掲載ページを記載します。購入するのであればこの書籍の購入を推奨します。

【成績評価の方法と基準】

不定期の宿題の提出状況、宿題の記述内容、期末試験の内容を総合的に判断して成績を評価します。宿題に関する事項の配分が 30%、期末試験の配分が 70%を予定していますが、受講学生の状況により配分を変更する可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生からは概ね好評を得たとらえています。配付プリント（A4 サイズ両面印刷、1～2 回の授業に 1 枚を配布するペースで配付を予定）について、ページ番号をふってほしいという要望がありましたが、1 回に配るものは 1 枚なのでページ番号は不要と思います。なお、授業で表示するパワーポイントの内容を事前にプリントアウトして配布してほしいという要望がありますが、これは検討しません。自主的な学びができるよう画面で説明していることの内容は口頭での説明にこだわります。

【Outline and objectives】

In principle, this class will advance in a lecture style.I will ask for reaction paper on the contents of the class as appropriate, and will also provide feedback on it.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学 I

2016 年度以前入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多岐にわたる心理学のなかでも、アカデミックな領域を概観します。計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。※参考：心理学Ⅱでは、認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野を学びます。

【到達目標】

心理学とはどのようなものを理解することが目標です。ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。「心」とは何か、といったことに関して、幾つかのキーワードを用いつつ、批判的に検討・検証し、記述できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。リアクションペーパーへのリプライやフィードバックも行います。

たいして難しい分、あまり自由ではありません。〔難度=自由度：☆☆★☆☆〕

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の特徴やねらい、「授業計画」の説明など
2	「心」は目に見えない…	計量心理学〔テキスト序章①〕
3	「心」を測定する？	計量心理学〔テキスト序章②〕
4	目は「心」の一部？	知覚心理学〔テキスト第 1 章①〕
5	何を・どのように見ている？	知覚心理学〔テキスト第 1 章②〕
6	「心」は見えないが行動は見える？	学習心理学〔テキスト第 2 章①〕
7	刺激-反応-結果で説明できる？	学習心理学〔テキスト第 2 章②〕
8	ヒトの「心」の特徴は？	進化心理学〔テキスト第 3 章①〕
9	学び教える「心」	進化心理学〔テキスト第 3 章②〕
10	「心」は脳にある？	神経心理学〔テキスト第 4 章①〕
11	「心」は電気信号？	神経心理学〔テキスト第 4 章②〕
12	それぞれの人にそれぞれの心	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章①〕
13	試験（当日記述可）	レポート形式の小論文
14	知能は測定できる？	パーソナリティ心理学〔テキスト第 5 章②〕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストその他に幾らかでも目を通す「準備学習」によって、理解を促します。講義後も、テキストなどを参照し、「復習」的に整理します。“何を覚えるか”ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

『ゼロからはじめる心理学・入門－人の心を知る科学（目に見えない「心」を科学する）』金沢 創ほか著 有斐閣
<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225>〔この Web サイトで「立ち読み」できます！〕
必ず用意してください。初回からテキスト講読を進めます。

【参考書】

とくに指定しません。

【成績評価の方法と基準】

試験点（100 %）：自らテーマを定めて調査・研究した結果をまとめるレポート形式の小論文。

「出席点」や「平常点」はカウントしません。リアクションペーパーも任意です。試験当日（電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可）に記述できます。

事前の講義日および試験当日の提出、「追試」代替として最終回の講義日の提出までを認めます。

【学生の意見等からの気づき】

テキストを変更するときはもちろん、同じテキストを用いても、講義の内容や進め方、成績評価方法は変えています。

2018 年度は、「出席点」や「平常点」をカウントせず、レポートのみで評価し、リアクションペーパーの回数なども全く問わなかったためか、日ごろの意見を聴くことが不十分になりました。

しかし、興味・関心を抱き、集中して参加した学生の多くは、リアクションペーパーを活用して、「自分が・自分で考えることのトレーニング」をしているようでした。

そのような例の場合、正解がない and/or 不明な「心」に関し、自ら問題を立て、批判的に検討・検証して論じる、という試験課題の出来がよくなりました。

日常的な取り組みの姿勢・態度と課題の出来とが直結しているとは限りませんが、「授業改善アンケート」（匿名）で特徴的に表現されていた自由記述を「気づき」とします。

「リアクションペーパーへのリプライやフィードバックなどが丁寧だった」

「前回までの内容を繰り返し説明してくれたので、よく理解できた」

「とても奥が深く、周りへの視野の広さ、先を読んでいる一言など、とても 1 分 1 秒が新鮮な雰囲気の中で楽しかった」

【その他の重要事項】

(1) 心理学Ⅰ（春学期）と心理学Ⅱ（秋学期）は連動します。続けての履修を期待します。

心理学Ⅱ（秋学期）は、ガイダンスなしで、いきなり講述を始めます。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを（講義時の勝手気ままな言動などへの対応も同様に）変えます。

“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3) 「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。

(4) オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける見込みです。

同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

* Note: Psychology II, We learn areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多岐にわたる心理学のなかでも、アカデミックな領域を概観します。

認知心理学、発達心理学、感情心理学、社会心理学、臨床心理学といった分野の基礎・基盤（ベーシック）を学びます。

※参考：心理学Ⅰでは、計量心理学、知覚心理学、学習心理学、進化心理学、神経心理学、パーソナリティ心理学といった分野を学びます。

【到達目標】

心理学とはどのようなものかを理解することが目標です。

ヒト（心）について、さまざまな切り口から捉える能力を身につけていきます。「心」とは何か、といったことに関して、幾つかのキーワードを用いつつ、批判的に検討・検証し、記述できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。リアクションペーパーへのリプライやフィードバックも行います。

たいして難しくない分、あまり自由ではありません。〔難度=自由度：☆☆★☆☆〕

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「心」は機械で置き換えられる？	認知心理学（テキスト第 6 章①）
2	記憶はどこにある？	認知心理学（テキスト第 6 章②）
3	ヒトは白紙で生まれてくる？	発達心理学（テキスト第 7 章①）
4	発達にとって何が重要？	発達心理学（テキスト第 7 章②）
5	表情から感情がわかる？	感情心理学（テキスト第 8 章①）
6	感情の役割って？	感情心理学（テキスト第 8 章②）
7	いい人？ 悪い人？	社会心理学（テキスト第 9 章①）
8	文化が違っても見るものは同じ？	社会心理学（テキスト第 9 章②）
9	なんだかいやな気持ち/ストレスと欲求不満	臨床心理学（テキスト第 10 章①）
10	ストレスへの対処	臨床心理学（テキスト第 10 章②）
11	発達の「障害」とは？	発達の偏りと多様性：臨床心理学（テキスト第 11 章①）
12	種類と多様性	発達の偏りと多様性：臨床心理学（テキスト第 11 章②）
13	試験（当日記述可）	レポート形式の小論文
14	「心」の問題へのアプローチ	アセスメントと支援：臨床心理学（テキスト第 12 章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストその他に幾らかでも目を通す「準備学習」によって、理解を促します。講義後も、テキストなどを参照し、「復習」的に整理します。

“何を覚えるか”ではなく、自分が・自分で考えることのトレーニングを重視します。

【テキスト（教科書）】

『ゼロからはじめる心理学・入門－人の心を知る科学（目に見えない「心」を科学する）』金沢 創ほか著 有斐閣

<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641150225> [この Web サイトで「立ち読み」できます！]

必ず用意してください。初回からテキスト講読を進めます。

【参考書】

とくに指定しません。

【成績評価の方法と基準】

試験点（100 %）：自らテーマを定めて調査・研究した結果をまとめるレポート形式の小論文。

「出席点」や「平常点」はカウントしません。リアクションペーパーも任意です。

試験当日（電子機器・情報機器を含むすべて持ち込み・参照可）に記述できます。

事前の講義日および試験当日の提出、「追試」代替として最終回の講義日の提出までを認めます。

【学生の意見等からの気づき】

テキストを変更するときはもちろん、同じテキストを用いても、講義の内容や進め方、成績評価方法は変えています。

2018 年度は、「出席点」や「平常点」をカウントせず、レポートのみで評価し、リアクションペーパーの回数なども全く問わなかったためか、日ごろの意見を聴くことが不十分になりました。

しかし、興味・関心を抱き、集中して参加した学生の多くは、リアクションペーパーを活用して、「自分が・自分で考えることのトレーニング」をしているようでした。

そのような例の場合、正解がない and/or 不明な「心」に関し、自ら問題を立て、批判的に検討・検証して論じる、という試験課題の出来がよくなりました。

日常的な取り組みの姿勢・態度と課題の出来とが直結しているとは限りませんが、「授業改善アンケート」(匿名)で特徴的に表現されていた自由記述を「気づき」とします。

「リアクションペーパーへのリプライやフィードバックなどが丁寧だった」「前回までの内容を繰り返し説明してくれたので、よく理解できた」「とても奥が深く、周りへの視野の広さ、先を読んでいる一言など、とても 1 分 1 秒が新鮮な雰囲気であって楽しかった」

【その他の重要事項】

(1) 心理学Ⅰ(春学期)と心理学Ⅱ(秋学期)は連動します。続けての履修を期待します。

心理学Ⅱ(秋学期)は、ガイダンスなしで、いきなり講述を始めます。

(2) 年度や受講生によって講義のスタイルを(講義時の勝手気ままな言動などへの対応も同様に)変えます。

“裏シラバス”や“クチコミ”を当てにしないでください。

(3)「臨床心理士」として、さまざまな方々と接してきたことの反映が多いかもしれません。

(4) オフィスアワー(Q&A タイム? なんでもお喋りタイム?)は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける見込みです。

同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

【Outline and objectives】

This subject is an introduction to psychology. We survey fundamentals of psychology in the academic areas such as cognitive psychology, developmental psychology, psychology of emotion, social psychology, and clinical psychology.

* Note: Psychology I, We learn areas such as psychometrics, perceptual psychology, psychology of learning, evolutionary psychology, neuro-psychology, and personality psychology.

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅰ

2016 年度以前入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

国環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

心理学のなかでも児童(子ども)の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は DVD の視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第 3 回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第 4 回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第 5 回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第 6 回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとらえ方
第 7 回	ことば	言語発達の概要
第 8 回	知性	知能 思考
第 9 回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第 10 回	認知と思考	記憶
第 11 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 12 回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第 13 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力
第 14 回	まとめ	児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。

【テキスト(教科書)】

『新版 子どもとこころー児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代(著)

有斐閣アルマ、2014 年

2,100 円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 桜井茂男著 誠信書房

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、リアクションペーパー 30%

【学生の意見等からの気づき】

自分が小学生のときと、今の小学生を取り巻く環境が変化してきていることを改めて考える良い機会になった。
パワーポイントを使用すること、教科書の重要箇所を確認していくことが学生の理解を深めることに役立った。

【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

PSY100LA

心理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

国環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてる。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心であるが、テーマに基づく資料についてリアクションペーパーの提出を毎回求める。授業内容に即した DVD の視聴を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第 2 回	自分をよく知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第 6 回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第 10 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 11 回	ソーシャル・スキル・トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの DVD 視聴
第 12 回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第 13 回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第 14 回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみる。
- ・日頃から児童（子ども）を取り巻く現代環境に関心を持つ。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014 年新版、2100 円＋税

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、リアクションペーパー 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生自身が自分について振り返ることができた。自分自身が今まで集団社会のなかでどのように生きてきたか、改めて考える良い機会になったという学生が多かった。これから子どもと関わっていくうえで、授業が役に立つと感じたようである。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

GEO100LA

地理学Ⅰ 2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

高木 正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないだろうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へー地理学の学問的性格
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	日本における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	世界における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	宗教からみる世界の多様性
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	現代世界の政治状況
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	観光と地域経済
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ 試験	試験＝論述形式

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業に配布したプリントを持参してください。プリントは予備がないので、跡で渡すことはできません。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
滑舌をよくします。

【Outline and objectives】
Main subjects:Regional or geographical issues in the modern world.

GEO100LA

地理学Ⅱ 2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

高木 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	地図の一般的説明とその観方
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計資料の紹介とその活用
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	新聞記事の紹介とその利用方法
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映像資料の紹介とその活用
第 7 回	現代世界の諸地域 (1)	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域 (2)	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域 (3)	人口
第 10 回	現代世界の諸地域 (4)	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域 (5)	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域 (6)	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	試験＝論述形式

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業で配布したプリントを持参してください。プリントの予備はないので、後で渡すことはできません。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
滑舌をよくします。

【Outline and objectives】
Main subjects : Regional or geographical issues in the modern world.

GEO100LA

地理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅰ

2016 年度以前入学者

前川 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないだろうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、高校の地理の暗記科目というイメージから、基礎的なリベラルアーツの入り口と位置付けています。各テーマにかかわるトピックやテーマの内容等を映像等も含めて紹介、考えていきます。高校時代に地理を学習していない受講生でも参加しやすいように、AL やフィールドワークも試みます、大学での地理学的な考え方をわかりやすく説明していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	餃子と環境・文化
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	グローバリゼーション
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	GIS RESAS AI
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 階	まとめ	試験あるいは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内および授業支援システムなどで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

人数によって異なりますが、基本的に授業内試験（60 %）、レポート・平常点（40 %）で評価いたします。詳細については最初の授業時などで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料（写真や DVD、映画など）は好評でしたので、いろいろと鑑賞する機会をもうけます。また、AL などの関係でグルーピングで授業を行うときもありますが、知り合いがいなくとも心配はまったくありません。むしろ、知り合いが増え、ネットワークが広がるという意見がありました。なんでも前向きに考えてみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組、新聞などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。また、支援システム等で資料などを提示する機会が多いので、慣れるようにしてください。

【その他の重要事項】

暗記科目からの脱却などから、春学期で問題意識や論理的思考からの学問への一歩ととらえ基礎的なリベラルアーツと位置付けています。これは教職や公務員志望の人も同様に論理的にどう考えるか、応用できるかで学びが変わると思います。秋学期のⅡはグローバルな地誌的な見方での応用が中心ですから、できるだけ通年でなくとも、Ⅰ、Ⅱを合わせて履修してみてください。なかなか一歩踏み出せない、柔軟な思考を持ちたいなどの人がかわるかもしれません。なお、担当者の地理学 LC、LD の発展編とは異なる予定です。このためⅠ、Ⅱの授業内容の詳細に関しては 4 月（9 月）に授業内で説明します。

【Outline and objectives】

In high school geography, it seems that the focus was "to memorize" various events around the world and Japan. However, in university geography, from the geographical keywords such as space, area, landscape and place, we deeply understand the various events of the modern world and learn the importance of what students themselves think logically.

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

前川 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で担当者の研究の関係等から日本、アジア、欧米を中心に扱います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？ ～共通性や法則性を考える
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	海外の地下鉄マップやGISなどから考える
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	GISやビックデータなど統計資料の紹介と分析を学ぶ
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	フェイクニュース、クールジャパン、カルチャー
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映画やネット動画を分析してみよう
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家をアメリカから考える
第 8 回	現代世界の諸地域	アジアの自然・資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	アジアの成長市場
第 10 回	現代世界の諸地域	世界と日本の都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパの生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパの民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

人数にもよりますが、原則的には、授業内試験（60 %） レポートおよびリアクションシートなど（40 %）で評価。これらについては、最初の授業時などで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料（写真や DVD, 映画など）は好評でしたので、いろいろと鑑賞する機会をもうけます。また、グルーピングで授業を行うときもありますが、知り合いがいなくとも心配はまったくありません。むしろ、たくさんの知り合いが増え、ネットワークが広がるという意見が多かったので今期も前向きに考えてみてください。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを教材や課題等で使用するので、慣れてほしい。

【その他の重要事項】

日本や世界の各地域の状況を理解するために、地理学Ⅰ同様に、様々な映像資料を使います。基礎的なリベラルアーツと位置付けですが、Ⅱではグローバルな地誌的な見方での応用を予定しており、できるだけ通年でなくともⅠ、Ⅱを合わせて履修してみてください。なお、担当者の地理学LC、LDの内容とは異なる予定ですので、Ⅰ同様にⅡの授業内容の詳細に関しては4月（9月）に授業内で説明します。なかなか一歩踏み出せない、柔軟な思考を持ちたいなどの人がかわるかもしれません。不安な人は先輩などこれまでの受講生に聞いてみるのも良いかもしれません。

【Outline and objectives】

We will compare various regions of the world and Japan based on various materials and learn that there are various regions and people in modern society. Besides, in the society in which globalization is prosperous, we will cultivate the students themselves to think about the importance of coexistence of diverse people.

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学 I

2016 年度以前入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

文 1 年 A～N、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシア・ヨーロッパの集落景観、民族と国家、観光などを中心に扱います。各テーマにかかわるトピックを紹介しながら、すすめていきます。高校時代に地理を学習していない受講生にも、大学での地理学的な考え方をわかりやすく説明していきます。高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像も見ていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明 ～集落景観と地理学
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方 ～法政大学周辺を地理学的に考える
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方 ～プラタモリにみる地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境～ロシア・ヨーロッパの地形・気候・土壌・植生
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境～日本の地形・気候・土壌・植生
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	ロシア・モスクワの都市生活・文化
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	ロシア・カフカス地方における紛争
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	ヨーロッパにおける世界遺産と歴史的景観保存
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？～日本の観光地理の現在
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として～現代日本におけるインバウンド観光と地域のあり方～京都・大阪
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？～ロシア・ヨーロッパにおける地域共同体の現在
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として～ロシア・ヨーロッパの民族と国家の関係
第 14 回	まとめ	授業内で試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『高等学校用地図帳』その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料（写真や DVD、映画など）は好評でしたので、いろいろと鑑賞する機会をもうけます。

【Outline and objectives】

This lecture examines various issues in contemporary world through academic key words of human geography.

GEO100LA

地理学Ⅱ 2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅱ 2016 年度以前入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
文 1 年 A～N、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当者の専門の関係から、主に日本・ロシアの地誌を扱います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？ ～地誌＝地域像・世界像の構築
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明～日本とロシアの地誌とは？
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	世界地図を眺め、どこにどのような国々があるのか、把握する
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計資料をもとに、ロシアと日本の現状を把握する
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日露関係をめぐるニュースや記事を取り上げる
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	北方領土問題に関する NHK スペシャルを見る
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家～ロシアと日本
第 8 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの人口問題
第 10 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために～日露関係の未来とは？
第 14 回	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各地の状況を理解するために、様々な映像資料を使います。

【Outline and objectives】

This lecture examines culture and people of various regions in the world through academic key words of topography.

GEO100LA

地理学Ⅰ 2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅰ 2016 年度以前入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
文 1 年 P～X、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに「海」に関わる事象を取り上げます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「海」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。環境問題、領海をめぐる問題など、海をめぐる様々な問題は陸域の人間社会のあり様が反映され生起している現象です。全 14 回により、「海」および「海に囲まれた島嶼生活空間」についての認識を深め、そうした諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	海洋をめぐる諸問題
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	国連海洋法条約と世界・日本の海洋政策
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	世界・日本の海洋教育
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください（できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います）。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を配布します。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）・期末試験（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識しながら授業に臨むようにしてください。

【Outline and objectives】

In the high school geography classes of Japan, we have memorized various phenomena in the world and Japan mainly. However, in the geography class of the university, we will understand the various phenomena of modern society and the importance of what we think logically from the viewpoint of space, region, landscape and place. The aim of this course is to study the various phenomena of the world's oceans and seas.

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

文 1 年 P～X、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では、とくに「海」を取り上げながら学びます。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。環境問題、領海問題など、海をめぐる様々な問題は陸域の人間社会のあり様が反映され生起している現象です。全 14 回を通して、「海」および「海に囲まれた地域＝島々」の個性や特徴を捉えていくとともに、私たちが生きている島嶼生活空間についての認識を深め、そこで生起している諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	瀬戸内海の開発とその問題
第 4 回	映像資料から世界・日本について考える	里海再生の取り組み
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	豊洲市場の移転問題
第 6 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	海洋産業の現状と課題
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください（できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います）。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を配布します。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）・期末試験（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識しながら授業に臨むようにしてください。

【Outline and objectives】

This course aims to study about the diversity of the region and people based on many materials of the world's oceans and seas. In this global contemporary society, we will consider the importance of people's coexistence in diverse regions.

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学 I

2016 年度以前入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに「島」を取り上げながら学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「島」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。「島」は、普遍的でダイナミックな性質を秘めた場所といえます。近年「島」に関する様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案に目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の島々で顕在化してきています。全 14 回により、私たちが生きる島嶼生活空間についての認識を深め、そこで生起する諸現象について、その全体的状況はどうか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにおける地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代社会の経済・社会・政治	「島嶼性」と日本・世界の島々
第 8 回	現代社会の情報・通信・観光	島々の歴史（豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭）
第 9 回	現代の人びとの生活・文化	島々の文化（戦後の図書館運動と島）
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください（できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います）。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を配布します。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）・期末試験（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識しながら授業に臨むようにしてください。

【Outline and objectives】

In the high school geography classes of Japan, we have memorized various phenomena in the world and Japan mainly. However, in the geography class of the university, we will understand the various phenomena of modern society and the importance of what we think logically from the viewpoint of space, region, landscape and place. The aim of this course is to study the various phenomena of the world and the Japanese islands.

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

GEO100LA

地理学Ⅱ

2016 年度以前入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では、とくに「島」を取り上げながら学びます。

【到達目標】

現代世界の諸地域、とくに「島」を地誌的に考察することを目標とします。「島」は、普遍的でダイナミックな性質を秘めた場所といえます。近年「島」に関する様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案に目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の島々で顕在化してきています。全 14 回を通して、島々の個性や特徴を捉えていくとともに、私たちが生きる島嶼生活空間についての認識を深め、そこで生起する諸現象について、その全体的状況はどうなのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	島の定義、「島嶼性」と島嶼ネットワーク
第 4 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	島々の産業の盛衰
第 5 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	戦後の島嶼政策の展開とその問題
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	島嶼コミュニティの力
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください（できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います）。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を配布します。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）・期末試験（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識しながら授業に臨むようにしてください。

【Outline and objectives】

This course aims to study about the diversity of the region and people based on many materials of the world and the Japanese islands. In this global contemporary society, we will consider the importance of people's coexistence in diverse regions.

SOC100LA

社会学Ⅰ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ

2016 年度以前入学者

菅野 摂子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

主として講義形式。講義内容に即したテーマで意見交換の機会もある。リアクションペーパーは毎回提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	「社会学」とはどのような学問か
第 2 回	自己と他者の社会学	相互行為と自己
第 3 回	行為と集団	行為の種類、群衆・公衆・大衆
第 4 回	公共空間と親密空間	電車の中の社会学
第 5 回	多様化する家族	誰を家族とするか
第 6 回	生殖という問題	リプロダクティブ・ヘルス/ライツと生命倫理
第 7 回	家族の中の人生	現代の家族をめぐる諸問題
第 8 回	セクシュアリティとジェンダー	性現象の見方、フェミニズム
第 9 回	職業労働と家事労働	ワーク・ライフ・バランス、男性学
第 10 回	福祉社会学の射程	社会福祉と福祉国家
第 11 回	貧困と社会的排除	日本における社会保障
第 12 回	健康と医療	医療社会学の基本概念
第 13 回	医療と自己決定	「病いの語り」を解釈する
第 14 回	薬害について考える	サリドマイド事件再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次回の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物（レジュメ）を授業にて配布する。

【参考書】

長谷川公一・浜 日出夫・藤原正之・町村敬志『社会学』有斐閣（2007 年）、松田健『テキスト現代社会学【第 3 版】』ミネルヴァ書房（2003 年）、盛山和夫・金 明秀・佐藤哲彦・難波功士『社会学入門』ミネルヴァ書房（2017 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

Using newspaper and video materials including teaching contents created by the teacher in charge, learning mainly focuses on lecture forms while taking up actual social phenomena.

In addition, for the purpose of acquisition the learning contents and applying it, there are times when we address the challenge and comment preparation within the class.

Students' submissions are fed back to the class as appropriate after paying attention to personal information.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ

2016 年度以前入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

法 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主として講義形式。講義内容に即したテーマで意見交換の機会もある。リアクションペーパーは毎回提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働の意味	就労をめぐる諸問題
第 2 回	消費社会を生きる	ポストフォードイズムと超越性
第 3 回	地域社会	コミュニティの形成と都市社会学
第 4 回	国家とグローバリゼーション	グローバル化、ネーション、ナショナルリズム
第 5 回	エスニシティ	エスニシティとは何か、同化主義、多文化主義
第 6 回	宗教と社会	社会学にける宗教研究、グローバル化と宗教対立
第 7 回	犯罪と逸脱	「犯罪とは何か」という問い
第 8 回	教育と社会	現代における教育、教育格差
第 9 回	社会秩序と権力	秩序維持のメカニズム、フリーライダー問題
第 10 回	社会運動と社会構想	市民活動と政治変革
第 11 回	マスメディケーション	マスメディアの効果・影響
第 12 回	ジャーナリズム	ニュースのつくられ方
第 13 回	メディア	公共性、メディア論の視点
第 14 回	総括	「個人と社会」再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物（レジュメ）を授業にて配布する。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤原正之・町村敬志『社会学』有斐閣（2007 年）、松田健『テキスト現代社会学【第 3 版】』ミネルヴァ書房（2003 年）、盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士『社会学入門』ミネルヴァ書房（2017 年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 70%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていくことが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

Using newspaper and video materials including teaching contents created by the teacher in charge, learning mainly focuses on lecture forms while taking up actual social phenomena.

In addition, for the purpose of acquisition the learning contents and applying it, there are times when we address the challenge and comment preparation within the class.

Students' submissions are fed back to the class as appropriate after paying attention to personal information.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学 I

2016 年度以前入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

営 1 年 K~U / 法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」を学びます。履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えて行くことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず、社会学の基礎的な概念を学びます。続いて、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の「題材」を使って、現代の社会について考えるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史 その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史 その 2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 9 回	メディアの歴史 その 3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史 その 4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 11 回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます。
第 12 回	現代の社会について考える 2	旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
第 13 回	現代の社会について考える 3	住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。
第 14 回	現代の社会について考える 4	今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます
- 4 自分が社会について考えるための題材を決めます
- 5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
- 7-10 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
11. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます
12. 学生は自分にとって、旅はどういうものなのかを考えます
13. 学生は自分にとって、家族はどういうものなのかを考えます
14. 学生はここまで自分が考えたてきたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年
https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

宿題（50 %）と、期末レポートまたは期末試験（50 %）によります。期末レポートまたは期末試験は、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、なるべく早めに相談できるようにします。

【Outline and objectives】

In sociology, students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society.

Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ

2016 年度以前入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の「題材」を使って、現在の社会について考えるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム（1）	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム（2）	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム（3）	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム（4）	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き（1）	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き（2）	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き（3）	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き（4）	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題（1）	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題（2）	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題（3）	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題（4）	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題（5）	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。
14	まとめ	今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-4 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 5 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 6-8 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 9 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 10 自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
- 11 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 12 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、情報と消費がどういうものになっているのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

使用しません

【成績評価の方法と基準】

宿題（50 %）と、期末レポート（50 %）によります。期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、なるべく早めに相談できるようにします。

【Outline and objectives】

In sociology, students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

SOC100LA

社会学Ⅰ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ

2016 年度以前入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」を学びます。履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えて行くことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず、社会学の基礎的な概念を学びます。続いて、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分の「題材」を使って、現代の社会について考えるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史 その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史 その 2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 9 回	メディアの歴史 その 3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史 その 4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 11 回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます。
第 12 回	現代の社会について考える 2	旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
第 13 回	現代の社会について考える 3	住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。
第 14 回	現代の社会について考える 4	今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます
- 4 自分が社会について考えるための題材を決めます
- 5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
- 7-10 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
11. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます
12. 学生は自分にとって、旅はどういうものなのかを考えます
13. 学生は自分にとって、家族はどういうものなのかを考えます
14. 学生はここまで自分が考えたてきたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年
https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

宿題（50 %）と、期末レポートまたは期末試験（50 %）によります。期末レポートまたは期末試験は、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、なるべく早めに相談できるようにします。

【Outline and objectives】

In sociology, students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society.

Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ

2016 年度以前入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分の「題材」を使って、現在の社会について考えるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム（1）	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム（2）	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム（3）	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム（4）	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き（1）	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き（2）	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き（3）	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き（4）	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題（1）	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題（2）	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題（3）	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題（4）	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題（5）	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。
14	まとめ	今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-4 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 5 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 6-8 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 9 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 10 自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
- 11 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 12 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、情報と消費がどういうものになっているのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

使用しません

【成績評価の方法と基準】

宿題（50 %）と、期末レポート（50 %）によります。期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、なるべく早めに相談できるようにします。

【Outline and objectives】

In sociology, students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学 I

2016 年度以前入学者

塚田 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に、レジュメを用いた講義形式で授業を進める。毎授業後に、コメントペーパー（小レポート）を提出してもらう。次の授業の初めに、そのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会学とはどのような学問か？	「私」から始まる社会学
第 2 回	社会変動	「組織」の変容
第 3 回	消費社会	戦後日本の消費社会
第 4 回	情報社会	情報コミュニケーションを再考する
第 5 回	メディア論の視点	「メディアはメッセージである」
第 6 回	都市社会学：空間の社会学	東京・渋谷はいかにして変容したのか
第 7 回	社会運動	米軍基地反対運動の展開：横須賀と福生
第 8 回	社会問題：現象の分節化・「問題」化	少年犯罪はどのように「問題」化されてきたのか
第 9 回	対抗文化	「ヤンキー文化」について
第 10 回	ジェンダー	本質主義と構築主義
第 11 回	「歴史社会学」の視点	「歴史社会学」と「歴史の社会学」
第 12 回	階層	「総中流社会」幻想の崩壊
第 13 回	ネーション（民族、国民）	「戦艦大和」イメージと戦後日本の自己意識
第 14 回	政治社会学の視点	世論／輿論の社会学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する参考文献や映像作品に、積極的に目を通してほしい。コメントペーパー（小レポート）にも真面目に取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎授業でパワーポイントのレジュメを配布する予定。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学』2007 年、有斐閣
佐藤健二・吉見俊哉編『文化の社会学』2007 年、有斐閣 その他、授業時に適宜参考文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席およびコメントペーパー）を 30%、中間および期末の 2 回のレポートを 70% として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

知的好奇心を持って授業を受けてほしい。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of sociology to students taking this course. It also enhances the development of students' skill in case study and self-regulated learning.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ

2016 年度以前入学者

塚田 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に、レジュメを用いた講義形式で授業を進める。毎授業後に、コメントペーパー（小レポート）を提出してもらう。次の授業の初めに、そのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	家族の変容	映画に見る家族イメージの変容
第 2 回	現代女性のライフコース	『逃げるは恥だが役に立つ』から考える現代女性のライフコース
第 3 回	個人化	個人化社会：バウマン理論からの接近
第 4 回	郊外（化）	郊外（化）の歴史と現在：国道 16 号線から考える
第 5 回	自己の社会学	自己と物語
第 6 回	現象学的社会学の視点：リアリティの変容	私たちの日常生活はいかにして成立しているのか
第 7 回	逸脱：犯罪社会学の視点	神戸連続児童殺傷事件をめぐる社会的考察
第 8 回	環境社会学の視点：公害	公害の表象と現実
第 9 回	開発と自然	高度経済成長期のエネルギー開発がもたらしたもの
第 10 回	少子高齢化と地域	限界集落について考える
第 11 回	「福祉社会」	戦後日本社会の包摂と排除
第 12 回	格差社会論	「下流社会」言説と 21 世紀の日本
第 13 回	国際社会学の視点：国境を超える「日本社会」	グローバル化する社会を考える
第 14 回	「近代社会」の変容	「近代」とはいかなる時代か？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する参考文献や映像作品に、積極的に目を通してほしい。コメントペーパー（小レポート）にも真面目に取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎授業でパワーポイントのレジュメを配布する予定。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学』2007 年、有斐閣
佐藤健二・吉見俊哉編『文化の社会学』2007 年、有斐閣
その他、授業時に適宜参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席およびコメントペーパー）を 30%、中間および期末の 2 回のレポートを 70% として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

知的好奇心を持って授業を受けてほしい。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of sociology to students taking this course. It also enhances the development of students' skill in case study and self-regulated learning.

SOC100LA

社会学Ⅰ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ

2016 年度以前入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 A～J、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進める。場合によっては、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。また数回、予習・復習の課題も課す予定であり、授業の終わりにリアクションペーパーを兼ねたミニテストを行う。この際出された質問や感想については、次の授業で質問に答え、感想を紹介する時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	社会学とはどのような学問か？	授業の趣旨、全体内容の概略的な説明
2 回	社会変動	近代化と社会変動について概略的に学ぶ
3 回	消費社会	J・ボードリヤールの「消費社会論」を通して、消費と社会的評価の関連について学ぶ
4 回	情報社会	D・ライアンによる情報社会と監視との関係性について学ぶ
5 回	メディア論の視点	M・マクルーハンの議論を中心にメディア論の基礎を学ぶ
6 回	都市社会学	空間の社会学
7 回	社会運動	1960 年代のフランスや日本の代表的な社会運動を取り上げて、その背景と影響について学ぶ
8 回	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9 回	対抗文化	T・ローザック『対抗文化の思想－若者は何を創りだすか』の一部講読
10 回	対抗文化	杉田米行監修『カウンターカルチャーのアメリカ』の一部講読
11 回	「歴史社会学」の視点	佐藤健二『歴史社会学の作法』の一部講読
12 回	階層	教士直紀編『社会意識からみた日本：階層意識の新次元』の一部講読
13 回	ネーション（民族、国民）	B・アンダーソン『想像の共同体』の議論を中心にネーション概念の歴史を学ぶ
14 回	政治社会学の視点	加藤秀治郎他『政治社会学』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では多くの内容を比較的短時間で扱うので、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、以下に挙げて参考書や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事である。受講生には「読書」（多読）をお薦めする。取り組もうとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要がある。時間とコストを惜しまず取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

『縮刷版 社会学事典』(弘文堂、1994 年)、『岩波小辞典 社会学』(岩波書店、2003 年)、『社会学小辞典』(有斐閣、2005 年)。その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) と論述型の期末試験 (60%) で評価する。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は「授業の到達目標」に応じて、かつ授業内容を踏まえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ①受講生の多角的な理解を図るために視聴覚教材も取り入れる。
- ②より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図る。

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ

2016 年度以前入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 A～J、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進める。場合によっては、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。また数回、予習・復習の課題も課す予定であり、授業の終わりにリアクションペーパーを兼ねたミニテストを行う。この際出された質問や感想については、次回の授業で質問に答え、感想を紹介する時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	家族の変容	家族の多様化を歴史的に学ぶ
2 回	現代女性のライフコース	ジェンダーによるライフコースの特徴を学ぶ
3 回	個人化	Z・バウマンや U・ベックの「個人化」に関する議論の特徴を学ぶ
4 回	郊外（化）	郊外化という社会現象を歴史的に学ぶ
5 回	自己の社会学	アイデンティティをめぐる現代社会学の議論を学ぶ
6 回	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7 回	逸脱	社会的規範や期待と逸脱の関係とその機能や意味を学ぶ
8 回	環境社会学の視点	環境問題の基本と「持続可能性」をめぐる議論を概略的に学ぶ
9 回	開発と自然	E・F・シュマツハー『スモールイズビューティフル』の一部講読
10 回	少子高齢化と地域	少子高齢化と地域地域コミュニティの現状と問題について学ぶ
11 回	「福祉社会」	正村公宏『福祉国家から福祉社会へ』の一部講読
12 回	格差社会論	新自由主義の登場と格差社会の関係を学ぶ
13 回	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14 回	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では多くの内容を比較的短時間で扱うので、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、以下に挙げて参考書や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事である。受講生には「読書」（多読）をお薦めする。取り組もうとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要がある。時間とコストを惜しまず取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

『縮刷版 社会学事典』(弘文堂、1994 年)、『岩波小辞典 社会学』(岩波書店、2003 年)、『社会学小辞典』(有斐閣、2005 年)。その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は「授業の到達目標」に応じて、かつ授業内容を踏まえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ①受講生の多角的な理解を図るために視聴覚教材も取り入れる。
- ②より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図る。

SOC100LA

社会学Ⅰ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ

2016 年度以前入学者

橋本 みゆき

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の問題関心、基本概念、論じ方を講義する。講義は教科書をもとに進めるが、実際の社会現象を取り上げたり、資料を配布して話題提供したりする。場合によってはディスカッションへの参加を求める。提出物に対しては適宜フィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

主として講義形式。意見交換やリアクションペーパー作成の機会もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会学とはどのような学問か？	イントロダクション、「社会学」とは
第 2 回	社会変動のなかで	社会学の古典的著作
第 3 回	「社会」の姿をつかむ方法	社会調査と社会科学
第 4 回	さまざまな社会調査	質問紙調査、インタビュー調査ほか
第 5 回	行為	「行為」と「行動」、行為の 4 類型
第 6 回	集団	I と me、集団、組織、大衆、バーチャル社会
第 7 回	地域社会学	コミュニティ、都市、農村
第 8 回	地域に関する諸問題	中央－地方、地球規模の地域関係
第 9 回	文化	規範と逸脱、社会化、地位・役割、準拠集団
第 10 回	階層	社会階層の理論
第 11 回	格差社会	日本の社会階層
第 12 回	暫定的なふりかえり	映像資料上映、意見交換
第 13 回	エスニシティ	ネーション（民族、国民）
第 14 回	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストによる予習・復習。テキスト各章末で、また授業時に紹介された関連文献を読む。日常生活やメディア報道の中で時折像を結ぶ「社会」を、日頃から意識して捉えてみよう。

【テキスト（教科書）】

松田健『テキスト現代社会学【第 3 版】』ミネルヴァ書房（2016 年、2800 円＋税）。また、担当教員が作成した印刷物を配布する。

【参考書】

『縮刷版 社会学事典』（弘文堂、1994 年）、『岩波小辞典 社会学』（岩波書店、2003 年）、『社会学小辞典』（有斐閣、2005 年）。その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

方面は多岐にわたるようだが、社会学ないし「自分が生きるこの社会」に対する関心がわいた受講生がいたようだ。せっかくの興味関心を生かせるよう、今回は教科書に沿うだけではなく、時事や受講生の話題提供などからリアルな社会生活をもう少し丁寧に取り上げてみたい。

【Outline and objectives】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ

2016 年度以前入学者

橋本 みゆき

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の問題関心、基本概念、論じ方を講義する。講義は教科書をもとに進めるが、実際の社会現象を取り上げたり、資料を配布して話題提供したりする。ディスカッションへの参加を求める場合もある。提出物に対しては適宜フィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主として講義形式。意見交換やリアクションペーパー作成の機会もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ジェンダー	イントロダクション、性の 3 要素
第 2 回	女性と労働	現代日本における女性の就労問題
第 3 回	家族（とその問題）の変容	多様化する家族、家事・育児、高齢化
第 4 回	教育	教育社会学、教育の問題
第 5 回	「政治」への視点	政治の概念・形態、服従、国際政治と日本の政治
第 6 回	産業・労働	大量生産、ポスト・フォードイズム、労働の諸問題
第 7 回	ここまでのふりかえり	意見交換と追加情報
第 8 回	宗教	宗教と社会
第 9 回	福祉	貧困、社会保障、福祉国家
第 10 回	メディア論の視点	コミュニケーションの理論
第 11 回	情報社会	情報技術、情報の利用と保護の問題
第 12 回	環境・災害	新しい社会問題としての環境と災害
第 13 回	ここまでのふりかえり	意見交換と追加情報
第 14 回	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストによる予習・復習。テキスト各章末で、また授業時に紹介された関連文献を読む。日常生活やメディア報道の中で時折像を結ぶ「社会」を、日頃から意識して捉えてみよう。

【テキスト（教科書）】

松田健『テキスト現代社会学 [第 3 版]』ミネルヴァ書房（2016 年、2800 円＋税）。また、担当教員が作成した印刷物を配布する。

【参考書】

『縮刷版 社会学事典』（弘文堂、1994 年）、『岩波小辞典 社会学』（岩波書店、2003 年）、『社会学小辞典』（有斐閣、2005 年）。その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

方面は多岐にわたるようだが、社会学ないし「自分が生きるこの社会」に対する関心がわいた受講生がいたようだ。せっかくの興味関心を生かせるよう、今回は教科書に沿うだけではなく、時事や受講生の話題提供などからリアルな社会生活をもう少し丁寧に取り上げてみたい。

【Outline and objectives】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

SOC100LA

社会学Ⅰ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ

2016 年度以前入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進める。場合によっては、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。また数回、予習・復習の課題も課す予定であり、授業の終わりにリアクションペーパーを兼ねたミニテストを行う。この際出された質問や感想については、次の授業で質問に答え、感想を紹介する時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	社会学とはどのような学問か？	授業の趣旨、全体内容の概略的な説明
2 回	社会変動	近代化と社会変動について概略的に学ぶ
3 回	消費社会	J・ボードリヤールの「消費社会論」を通して、消費と社会的評価の関連について学ぶ
4 回	情報社会	D・ライアンによる情報社会と監視との関係性について学ぶ
5 回	メディア論の視点	M・マクルーハンの議論を中心にメディア論の基礎を学ぶ
6 回	都市社会学	空間の社会学
7 回	社会運動	1960 年代のフランスや日本の代表的な社会運動を取り上げて、その背景と影響について学ぶ
8 回	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9 回	対抗文化	T・ローザック『対抗文化の思想—若者は何を創り出すか』の一部講読
10 回	対抗文化	杉田米行監修『カウンターカルチャーのアメリカ』の一部講読
11 回	「歴史社会学」の視点	佐藤健二『歴史社会学の作法』の一部講読
12 回	階層	数土直紀編『社会意識からみた日本：階層意識の新次元』の一部講読
13 回	ネーション（民族、国民）	B・アンダーソン『想像の共同体』の議論を中心にネーション概念の歴史を学ぶ
14 回	政治社会学の視点	加藤秀治郎他『政治社会学』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では多くの内容を比較的短時間で扱うので、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、以下に挙げて参考書や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事である。受講生には「読書」（多読）をお薦めする。取り組みようとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要がある。時間とコストを惜しまず取り組みでほしい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

『縮刷版 社会学事典』(弘文堂、1994 年)、『岩波小辞典 社会学』(岩波書店、2003 年)、『社会学小辞典』(有斐閣、2005 年)。その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) と論述型の期末試験 (60%) で評価する。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は「授業の到達目標」に応じて、かつ授業内容を踏まえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ①受講生の多角的な理解を図るために視聴覚教材も取り入れる。
- ②より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図る。

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ

2016 年度以前入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進める。場合によっては、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。また数回、予習・復習の課題も課す予定であり、授業の終わりにリアクションペーパーを兼ねたミニテストを行う。この際出された質問や感想については、次回の授業で質問に答え、感想を紹介する時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	家族の変容	家族の多様化を歴史的に学ぶ
2 回	現代女性のライフコース	ジェンダーによるライフコースの特徴を学ぶ
3 回	個人化	Z・バウマンや U・ベックの「個人化」に関する議論の特徴を学ぶ
4 回	郊外（化）	郊外化という社会現象を歴史的に学ぶ
5 回	自己の社会学	アイデンティティをめぐる現代社会学の議論を学ぶ
6 回	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7 回	逸脱	社会的規範や期待と逸脱の関係とその機能や意味を学ぶ
8 回	環境社会学の視点	環境問題の基本と「持続可能性」をめぐる議論を概略的に学ぶ
9 回	開発と自然	E・F・シュマツハー『スモールイズビューティフル』の一部講読
10 回	少子高齢化と地域	少子高齢化と地域地域コミュニティの現状と問題について学ぶ
11 回	「福祉社会」	正村公宏『福祉国家から福祉社会へ』の一部講読
12 回	格差社会論	新自由主義の登場と格差社会の関係を学ぶ
13 回	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14 回	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダンティ—』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では多くの内容を比較的短時間で扱うので、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、以下に挙げて参考書や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事である。受講生には「読書」（多読）をお薦めする。取り組もうとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要がある。時間とコストを惜しまず取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

『縮刷版 社会学事典』(弘文堂、1994 年)、『岩波小辞典 社会学』(岩波書店、2003 年)、『社会学小辞典』(有斐閣、2005 年)。その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は「授業の到達目標」に応じて、かつ授業内容を踏まえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ①受講生の多角的な理解を図るために視聴覚教材も取り入れる。
- ②より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図る。

SOC100LA

社会学Ⅰ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅰ

2016 年度以前入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行うが、可能な限り双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進める。場合によっては、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。また数回、予習・復習の課題も課す予定であり、授業の終わりにリアクションペーパーを兼ねたミニテストを行う。この際出された質問や感想については、次の授業で質問に答え、感想を紹介する時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	社会学とはどのような学問か？	授業の趣旨、全体内容の概略的な説明
2 回	社会変動	近代化と社会変動について概略的に学ぶ
3 回	消費社会	J・ボードリヤールの「消費社会論」を通して、消費と社会的評価の関連について学ぶ
4 回	情報社会	D・ライアンによる情報社会と監視との関係性について学ぶ
5 回	メディア論の視点	M・マクルーハンの議論を中心にメディア論の基礎を学ぶ
6 回	都市社会学	空間の社会学
7 回	社会運動	1960 年代のフランスや日本の代表的な社会運動を取り上げて、その背景と影響について学ぶ
8 回	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9 回	対抗文化	T・ローザック『対抗文化の思想—若者は何を創りだすか』の一部講読
10 回	対抗文化	杉田米行監修『カウンターカルチャーのアメリカ』の一部講読
11 回	「歴史社会学」の視点	佐藤健二『歴史社会学の作法』の一部講読
12 回	階層	数土直紀編『社会意識からみた日本：階層意識の新次元』の一部講読
13 回	ネーション（民族、国民）	B・アンダーソン『想像の共同体』の議論を中心にネーション概念の歴史を学ぶ
14 回	政治社会学の視点	加藤秀治郎他『政治社会学』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では多くの内容を比較的短時間で扱うので、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、以下に挙げて参考書や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事である。受講生には「読書」（多読）をお薦めする。取り組もうとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要がある。時間とコストを惜しまず取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

『縮刷版 社会学事典』(弘文堂、1994 年)、『岩波小辞典 社会学』(岩波書店、2003 年)、『社会学小辞典』(有斐閣、2005 年)。その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) と論述型の期末試験 (60%) で評価する。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は「授業の到達目標」に応じて、かつ授業内容を踏まえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ①受講生の多角的な理解を図るために視聴覚教材も取り入れる。
- ②より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図る。

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOC100LA

社会学Ⅱ

2016 年度以前入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進める。場合によっては、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。また数回、予習・復習の課題も課す予定であり、授業の終わりにリアクションペーパーを兼ねたミニテストを行う。この際出された質問や感想については、次回の授業で質問に答え、感想を紹介する時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	家族の変容	家族の多様化を歴史的に学ぶ
2 回	現代女性のライフコース	ジェンダーによるライフコースの特徴を学ぶ
3 回	個人化	Z・バウマンや U・ベックの「個人化」に関する議論の特徴を学ぶ
4 回	郊外（化）	郊外化という社会現象を歴史的に学ぶ
5 回	自己の社会学	アイデンティティをめぐる現代社会学の議論を学ぶ
6 回	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7 回	逸脱	社会的規範や期待と逸脱の関係とその機能や意味を学ぶ
8 回	環境社会学の視点	環境問題の基本と「持続可能性」をめぐる議論を概略的に学ぶ
9 回	開発と自然	E・F・シュマツハー『スモールイズビューティフル』の一部講読
10 回	少子高齢化と地域	少子高齢化と地域地域コミュニティの現状と問題について学ぶ
11 回	「福祉社会」	正村公宏『福祉国家から福祉社会へ』の一部講読
12 回	格差社会論	新自由主義の登場と格差社会の関係を学ぶ
13 回	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14 回	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では多くの内容を比較的短時間で扱うので、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、以下に挙げて参考書や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事である。受講生には「読書」（多読）をお薦めする。取り組もうとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要がある。時間とコストを惜しまず取り組んでほしい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

『縮刷版 社会学事典』(弘文堂、1994 年)、『岩波小辞典 社会学』(岩波書店、2003 年)、『社会学小辞典』(有斐閣、2005 年)。その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と論述型の期末試験（60%）で評価する。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパー、予習・復習の課題などで評価する。期末試験は「授業の到達目標」に応じて、かつ授業内容を踏まえながら論理的に書き述べているかを基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ①受講生の多角的な理解を図るために視聴覚教材も取り入れる。
- ②より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図る。

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学 I

2016 年度以前入学者

平良 好利

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、民主主義、選挙、政党、議会、内閣といった政治学にとって重要なテーマを、やや原理的に考察すると同時に、それを踏まえて日本の政治を考察してみたい。

【到達目標】

政治学の基礎的概念を日本政治に則して説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメに沿った講義形式であるが、適時、映像資料も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の全体的概要と授業の進め方を説明する。
2	古代ギリシャの直接民主政	古代ギリシャのアテネにおける民主政を考察する。
3	社会契約論	社会契約論の内容と意義を考える。
4	民主主義と共同防衛	民主主義と共同防衛について歴史的・原理的に考察する。
5	ネーションとは何か	ネーションとは何かについて多角的に考察する。
6	有権者の拡大	「有権者」の拡大の歴史と現代の課題について考察する。
7	代表とは何か	政治的代表とは何かについて多角的に考察する。
8	2つの民主主義理論	カール・シュミットとシュンペーターの民主主義理論を検討する。
9	日本政治と議会制民主主義	日本政治と議会制民主主義について検討する。
10	自民党システムとは	自民党システムについて考察する。
11	野党とは	議会制民主主義における野党の役割と意義について考察する。
12	リーダーシップ	戦後日本政治を振り返り、政治家のリーダーシップについて考える。
13	日本の国会	他国との比較のなかで日本の国会について考察する。
14	日本の内閣	日本の内閣制度を多角的に考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1、指定された文献等を事前に必ず読んでくること。2、授業が終わったら必ず復習をすること。3、レポートの作成を求める（3000～4000 字）。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）、レポート（30 %）、期末試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の効果的活用。

【Outline and objectives】

In this class, we will fundamentally examine the important themes of political science, such as democracy, elections, political parties, the parliament, and the cabinet, and at the same time, we will examine Japanese politics from multiple viewpoints based on that.

POL100LA	
政治学Ⅱ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016 年度以前入学者
平良 好利	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 5/Thu.5 法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、権力闘争、国力、ナショナリズム、政治と法、政治と道義、イデオロギー、軍縮、バランス・オブ・パワー、そして外交などにかかわる諸問題について、歴史を踏まえてやや原理的に考察し、戦争と平和の問題を考えてみたい。

【到達目標】

政治学、とりわけ国際政治学の基礎的概念について理解することができ、その基礎的概念を使って現実の政治を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメに沿った講義形式であるが、適時、映像資料も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の全体的概要と授業の進め方等を説明する。
2	現実主義と理想主義	政治学における現実主義と理想主義の問題を考察する。
3	権力とは	権力とは何か、また権力政治とは何かについて考察する。
4	権力闘争の現れ方①～力の維持～	力の維持と現状維持政策について考察する。
5	権力闘争の現れ方②～力の増大～	力の増大と現状打破政策について考察する。
6	権力闘争の現れ方③～力の誇示～	力の誇示と威信政策について考察する。
7	イデオロギー	政治的イデオロギーとは何か、その果たすべき機能とは何かについて考察する。
8	ナショナリズム	ナショナリズムとは何か、その果たすべき機能とは何かについて考察する。
9	国力の評価	国力とは何か、また国力評価の困難性について考察する。
10	バランス・オブ・パワーの諸問題	バランス・オブ・パワーとは何か、その問題点とは何かを考察する。
11	法と政治	国家権力の制限を図る上で法の果たす役割とその限界について考察する。
12	道義と政治	国家権力の制限を図る上で道義の果たす役割とその限界について考察する。
13	軍縮	軍縮の歴史的経緯とその課題、限界について考察する。
14	外交	外交について多角的に考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1、テキストの指定されたところを事前に必ず読んでくること。2、授業が終わったら必ず復習すること。3、レポートの作成を求める（3000～4000字）。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

モーゲンソー『国際政治』上・中・下（岩波文庫、2013年）
カー『危機の二十年』（岩波文庫、2011年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、レポート（30％）、期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の効果的活用。

【Outline and objectives】

In this class, we will fundamentally examine based on history, the issues related to power struggle, national power, nationalism, politics and law, politics and morality, ideology, disarmament, balance of power, and diplomacy, and examine the issue of war and peace.

POL100LA	
政治学Ⅰ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016 年度以前入学者
崔 先鎬	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水 5/Wed.5 法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【到達目標】

「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目では近代以降の政治学における時代性の抱える諸問題の学問的克服を目標とし、戦後の日本と世界で扱われてきた様々な政治学的理論と思想体系について、テキストを中心に真剣に考えて行きたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	デモクラシー論の設立背景について	「デモクラシー論」の設立背景における関連用語の紹介および説明
第 2 回	デモクラシーとネーションについて	「デモクラシーとネーション」における関連用語の紹介および説明
第 3 回	ネーションとエスニシティについて	「ネーションとエスニシティ」における関連用語の紹介および説明
第 4 回	ネーションとナショナリズムについて	「ネーションとナショナリズム」における関連用語の紹介および説明
第 5 回	多文化主義について	「多文化主義」における関連用語の紹介および説明
第 6 回	ヒューマニズムと政治理論について	「ヒューマニズムと政治理論」における関連用語の紹介および説明
第 7 回	国家と公共性について	「国家と公共性」における関連用語の紹介および説明
第 8 回	市民的公共性について	「市民的公共性」における関連用語の紹介および説明
第 9 回	リベラル的公共性について	「リベラル的公共性」における関連用語の紹介および説明
第 10 回	市民社会論について	「市民社会論」における関連用語の紹介および説明
第 11 回	市民社会論とデモクラシーについて	「市民社会論とデモクラシー」における関連用語の紹介および説明
第 12 回	グローバリゼーションについて	「グローバリゼーション」における関連用語の紹介および説明
第 13 回	政治的共同体について	「政治的共同体」における関連用語の紹介および説明
第 14 回	リベラリズムと伝統について	「リベラリズム」と「伝統」における関連用語の紹介および説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。）

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

参加度（＝レポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記。

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

The political science began with an ancient political idea. And it is the field that developed in earnest as the opportunity in the modern times period.

This lecture intends for people who want to study political science theoretically. Because the political science forms a great ratio in social science, must aim for what the application that there're many taking studies.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅱ

2016 年度以前入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【到達目標】

「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後各自の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この科目では近代以降の政治学における時代性の抱える諸問題の学問的克服を目標とし、戦後の日本と世界で扱われてきた様々な政治学的理論と思想体系について、テキストを中心に真剣に考えて行きたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	政治的側面の本質について	政治的側面の「本質」における関連用語の紹介および説明
第 2 回	政治的影響力としての権力と権威について	政治的影響力としての「権力」と「権威」における関連用語の紹介および説明
第 3 回	政治的存在としての市民について	政治的存在としての「市民」における関連用語の紹介および説明
第 4 回	政治的権力および経済的富の公正かつ公平な配分の問題について	政治的権力および経済的富の「公正かつ公平な配分」の問題における関連用語の紹介および説明
第 5 回	政治構造を形成する価値と文化について	政治構造を形成する「価値」および「文化」における関連用語の紹介および説明
第 6 回	政治的支配の様々な類型について	政治的「支配」の様々な類型における関連用語の紹介および説明
第 7 回	政治的影響力を形づける道徳の問題について	政治的影響力を形づける「道徳」の問題における関連用語の紹介および説明
第 8 回	市民的理性と自由の問題について	「市民的理性」と「自由」の問題における関連用語の紹介および説明
第 9 回	政治に内在する普遍的体系について	政治に内在する「普遍的体系」における関連用語の紹介および説明
第 10 回	政治的統合と分裂- 立憲君主制と共和制について	「立憲君主制」と「共和制」における関連用語の紹介および説明
第 11 回	ポリアーキーと非ポリアーキーについて	「ポリアーキー」および「非ポリアーキー」における関連用語の紹介および説明
第 12 回	政治参加と政治の人間について	「政治参加」と「政治の人間」における関連用語の紹介および説明
第 13 回	政治的志向の変化と多様性について	「政治的志向の変化」と「多様性」における関連用語の紹介および説明
第 14 回	政治的意識における価値の問題- 理性的合意と正義について	「理性的合意」と「正義」における関連用語の紹介および説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。
(授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。)

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著 『政治的思考』、東京、岩波書店 (岩波新書 1402)、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年

南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

参加度 (= レポートなどの提出物、30%) + 試験 (黒の油性ボールペンのみ使用可、70%)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができるとしています。

【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

The political science began with an ancient political idea. And it is the field that developed in earnest as the opportunity in the modern times period.

This lecture intends for people who want to study political science theoretically. Because the political science forms a great ratio in social science, must aim for what the application that there're many taking studies.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学 I

2016 年度以前入学者

平良 好利

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、民主主義、選挙、政党、議会、内閣といった政治学にとって重要なテーマを、やや原理的に考察すると同時に、それを踏まえて日本の政治を考察してみたい。

【到達目標】

政治学の基礎的概念を日本政治に則して説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメに沿った講義形式であるが、適時、映像資料も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の全体的概要と授業の進め方を説明する。
2	古代ギリシャの直接民主政	古代ギリシャのアテネにおける民主政を考察する。
3	社会契約論	社会契約論の内容と意義を考える。
4	民主主義と共同防衛	民主主義と共同防衛について歴史的・原理的に考察する。
5	ネーションとは何か	ネーションとは何かについて多角的に考察する。
6	有権者の拡大	「有権者」の拡大の歴史と現代の課題について考察する。
7	代表とは何か	政治的代表とは何かについて多角的に考察する。
8	2つの民主主義理論	カール・シュミットとシュンペーターの民主主義理論を検討する。
9	日本政治と議会制民主主義	日本政治と議会制民主主義について検討する。
10	自民党システムとは	自民党システムについて考察する。
11	野党とは	議会制民主主義における野党の役割と意義について考察する。
12	リーダーシップ	戦後日本政治を振り返り、政治家のリーダーシップについて考える。
13	日本の国会	他国との比較のなかで日本の国会について考察する。
14	日本の内閣	日本の内閣制度を多角的に考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1、指定された文献等を事前に必ず読んでくること。2、授業が終わったら必ず復習をすること。3、レポートの作成を求める（3000～4000 字）。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）、レポート（30 %）、期末試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の効果的活用。

【Outline and objectives】

In this class, we will fundamentally examine the important themes of political science, such as democracy, elections, political parties, the parliament, and the cabinet, and at the same time, we will examine Japanese politics from multiple viewpoints based on that.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅱ

2016 年度以前入学者

平良 好利

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、権力闘争、国力、ナショナリズム、政治と法、政治と道義、イデオロギー、軍縮、バランス・オブ・パワー、そして外交などにかかわる諸問題について、歴史を踏まえてやや原理的に考察し、戦争と平和の問題を考えてみたい。

【到達目標】

政治学、とりわけ国際政治学の基礎的概念について理解することができ、その基礎的概念を使って現実の政治を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメに沿った講義形式であるが、適時、映像資料も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の全体的概要と授業の進め方等を説明する。
2	現実主義と理想主義	政治学における現実主義と理想主義の問題を考察する。
3	権力とは	権力とは何か、また権力政治とは何かについて考察する。
4	権力闘争の現れ方①～力の維持～	力の維持と現状維持政策について考察する。
5	権力闘争の現れ方②～力の増大～	力の増大と現状打破政策について考察する。
6	権力闘争の現れ方③～力の誇示～	力の誇示と威信政策について考察する。
7	イデオロギー	政治的イデオロギーとは何か、その果たすべき機能とは何かについて考察する。
8	ナショナリズム	ナショナリズムとは何か、その果たすべき機能とは何かについて考察する。
9	国力の評価	国力とは何か、また国力評価の困難性について考察する。
10	バランス・オブ・パワーの諸問題	バランス・オブ・パワーとは何か、その問題点とは何かを考察する。
11	法と政治	国家権力の制限を図る上で法の果たす役割とその限界について考察する。
12	道義と政治	国家権力の制限を図る上で道義の果たす役割とその限界について考察する。
13	軍縮	軍縮の歴史の経緯とその課題、限界について考察する。
14	外交	外交について多角的に考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1、テキストの指定されたところを事前に必ず読んでくること。2、授業が終わったら必ず復習すること。3、レポートの作成を求める（3000～4000 字）。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

モーゲンソー『国際政治』上・中・下（岩波文庫、2013 年）
カー『危機の二十年』（岩波文庫、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）、レポート（30 %）、期末試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の効果的活用。

【Outline and objectives】

In this class, we will fundamentally examine based on history, the issues related to power struggle, national power, nationalism, politics and law, politics and morality, ideology, disarmament, balance of power, and diplomacy, and examine the issue of war and peace.

POL100LA

政治学Ⅰ

2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅰ

2016 年度以前入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法 1 年 I～N、環キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に政治制度とそれを支える原理、精神を中心にして政治学の基本を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

【到達目標】

- ①主要国で共有している政治制度についての知識を得る。
- ②政治制度がいかなる原理に基づいているかを理解する。
- ③日本の政治制度についての基本的知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストとレジュメに基づく講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義に関する予備情報
2	議会主義（1）	議会主義の基礎
3	議会主義（2）	議会について
4	議会主義（3）	日本の議会
5	議会主義（4）	委員会主義と本会議主義
6	議会主義と民主主義	議会主義と民主主義との違い
7	折り返し	前半を振り返る
8	民主主義（1）	自由主義と民主主義
9	民主主義（2）	契約論的基礎づけ
10	民主主義（3）	現代の民主主義
11	民主主義（4）	政党と民主主義
12	民主主義（5）	政党の構造
13	民主主義（6）	選挙と民主主義
14	春学期の総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。
復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

・期末に実施する選択肢型試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメはあくまで講義の「目次」として位置付けている。詳細は講義とテキストを参照してほしい。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。
- ③初回にシラバスのこの部分を持参せよ。

【Outline and objectives】

- ・ Studing politics mainly by understanding political institutes and its principles.
- ・ For biginer
- ・ Object to developped countries

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅱ

2016 年度以前入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法 1 年 I～N、環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に社会とそこにいる市民を中心にして政治学の基礎を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

【到達目標】

- ①社会における利益（団体）の果たす役割についての知識を習得する。
- ②世論と民主主義についてを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストとレジュメに基づいた講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義に関する予備情報
2	市民社会と利益（1）	支持団体と集票組織
3	市民社会と利益（2）	政党と利益団体
4	市民社会と利益（3）	利益団体と民主主義
5	市民社会と利益（4）	利益団体と他者
6	市民社会と利益（5）	物質的利益と非物質的利益
7	市民社会と利益（6）	新しい市民社会
8	折り返し	前半を振り返る
9	市民社会と世論（1）	メディアと政治
10	市民社会と利益（2）	政治的事実と報道
11	市民社会と利益（3）	大衆と市民
12	市民社会と利益（4）	政治的関心と全体主義
13	市民社会と利益（5）	経済社会と政治社会
14	秋学期の総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。

復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実なものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に実施する選択肢型試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメはあくまで講義の「目次」として位置付けている。詳細は講義とテキストを参照してほしい。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。
- ③初回にシラバスのこの部分を持参せよ。

【Outline and objectives】

- ・ Studing politics mainly by understanding civil society and citizen.
- ・ For begginer.
- ・ object to developped country.

POL100LA

政治学Ⅰ

2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅰ

2016 年度以前入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 P～X／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【到達目標】

「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目では近代以降の政治学における時代性の抱える諸問題の学問的克服を目標とし、戦後の日本と世界で扱われてきた様々な政治学的理論と思想体系について、テキストを中心に真剣に考えて行きたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	デモクラシー論の設立背景について	「デモクラシー論」の設立背景における関連用語の紹介および説明
第 2 回	デモクラシーとネーションについて	「デモクラシーとネーション」における関連用語の紹介および説明
第 3 回	ネーションとエスニシティについて	「ネーションとエスニシティ」における関連用語の紹介および説明
第 4 回	ネーションとナショナリズムについて	「ネーションとナショナリズム」における関連用語の紹介および説明
第 5 回	多文化主義について	「多文化主義」における関連用語の紹介および説明
第 6 回	ヒューマニズムと政治理論について	「ヒューマニズムと政治理論」における関連用語の紹介および説明
第 7 回	国家と公共性について	「国家と公共性」における関連用語の紹介および説明
第 8 回	市民的公共性について	「市民的公共性」における関連用語の紹介および説明
第 9 回	リベラルの公共性について	「リベラルの公共性」における関連用語の紹介および説明
第 10 回	市民社会論について	「市民社会論」における関連用語の紹介および説明
第 11 回	市民社会論とデモクラシーについて	「市民社会論とデモクラシー」における関連用語の紹介および説明
第 12 回	グローバリゼーションについて	「グローバリゼーション」における関連用語の紹介および説明
第 13 回	政治的共同体について	「政治的共同体」における関連用語の紹介および説明
第 14 回	リベラリズムと伝統について	「リベラリズム」と「伝統」における関連用語の紹介および説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。）

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

参加度（＝レポートなどの提出物、30%）＋試験（黒の油性ボールペンのみ使用可、70%）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

The political science began with an ancient political idea. And it is the field that developed in earnest as the opportunity in the modern times period.

This lecture intends for people who want to study political science theoretically. Because the political science forms a great ratio in social science, must aim for what the application that there're many taking studies.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅱ

2016 年度以前入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「政治学」とは、プラトンやアリストテレスなどの古代の政治哲学に始まり、「近代」という時代を契機として本格化した分野です。特に今日の日本においては、政治学は様々な問題意識を供与し続けています。政治学および政治思想・政治理論に興味ある人、これから政治学・社会科学を学んでいくことで理論的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【到達目標】

「政治学」とは社会科学の大きな柱を形成する学問分野です。この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後各自の専門分野に応用し実践していくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この科目では近代以降の政治学における時代性の抱える諸問題の学問的克服を目標とし、戦後の日本と世界で扱われてきた様々な政治学的理論と思想体系について、テキストを中心に真剣に考えて行きたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	政治的側面の本質について	政治的側面の「本質」における関連用語の紹介および説明
第 2 回	政治的影響力としての権力と権威について	政治的影響力としての「権力」と「権威」における関連用語の紹介および説明
第 3 回	政治的存在としての市民について	政治的存在としての「市民」における関連用語の紹介および説明
第 4 回	政治的権力および経済的富の公正かつ公平な配分の問題について	政治的権力および経済的富の「公正かつ公平な配分」の問題における関連用語の紹介および説明
第 5 回	政治構造を形成する価値と文化について	政治構造を形成する「価値」および「文化」における関連用語の紹介および説明
第 6 回	政治的支配の様々な類型について	政治的「支配」の様々な類型における関連用語の紹介および説明
第 7 回	政治的影響力を形づける道徳の問題について	政治的影響力を形づける「道徳」の問題における関連用語の紹介および説明
第 8 回	市民的理性と自由の問題について	「市民的理性」と「自由」の問題における関連用語の紹介および説明
第 9 回	政治に内在する普遍的体系について	政治に内在する「普遍的体系」における関連用語の紹介および説明
第 10 回	政治的統合と分裂- 立憲君主制と共和制について	「立憲君主制」と「共和制」における関連用語の紹介および説明
第 11 回	ポリアーキーと非ポリアーキーについて	「ポリアーキー」および「非ポリアーキー」における関連用語の紹介および説明
第 12 回	政治参加と政治の人間について	「政治参加」と「政治の人間」における関連用語の紹介および説明
第 13 回	政治的志向の変化と多様性について	「政治的志向の変化」と「多様性」における関連用語の紹介および説明
第 14 回	政治的意識における価値の問題- 理性的合意と正義について	「理性的合意」と「正義」における関連用語の紹介および説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。
(授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。)

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著 『政治的思考』、東京、岩波書店 (岩波新書 1402)、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年

南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

参加度 (= レポートなどの提出物、30%) + 試験 (黒の油性ボールペンのみ使用可、70%)

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline and objectives】

The political science began with an ancient political idea. And it is the field that developed in earnest as the opportunity in the modern times period.

This lecture intends for people who want to study political science theoretically. Because the political science forms a great ratio in social science, must aim for what the application that there're many taking studies.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学 I

2016 年度以前入学者

面 一也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

営 1 年 F~O / 法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、必ずしも政治学専攻でない学生向けに書かれた入門書を手がかりとしながら（教科書でなく参考書として）、現代政治の理論と現実を全般的に概観する。政治は生きものなので、書物には載っていない現在進行形のアクチュアルな諸問題も、可能なかぎり積極的に取り扱う。授業全体を通じて、現在の政治が直面している課題と、望ましい未来の政治のあり方について、批判的に考察を進めたい。なお本授業では、国内体制を中心に取り上げる。

【到達目標】

- 1 現代の政治理論と現実政治の動向を理解する。
- 2 アクチュアルな政治問題の争点を把握する。
- 3 現在の政治と未来の政治に関する批判的考察力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2～3 回）を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と進め方、教材などについて
第 2 回	権力と自由	政治学における最も基本的な枠組み
第 3 回	国家、集団、個人	三つの関係の問い直し、新たな国家の役割
第 4 回	法と政治	法との関係から見える、政治の位置
第 5 回	政治と非政治	非政治の領域から浮き彫りになる、政治の特性
第 6 回	デモクラシーの思想	古代と近代におけるデモクラシーの異同
第 7 回	リベラル・デモクラシーの発展	現代における多様な諸類型
第 8 回	福祉国家の諸問題	転換期にある現代国家の現状、または壊れゆく諸制度
第 9 回	非民主的体制	独裁、軍政、一党支配など、デモクラシーから取り残された人びと
第 10 回	政治教育	デモクラシーを担う人びとの育成のあり方
第 11 回	日本の政党政治	とくに現代日本の政党政治の問題
第 12 回	政治家と官僚	自民党長期政権の特徴、それに代わる政治構造の探求
第 13 回	政治参加と選挙	日本の有権者の投票行動
第 14 回	マス・メディアと政治	政権支持率や選挙結果への影響を中心に

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に多くの時間を割くことを推奨する。復習の際には、ノートや資料を見返しながら、授業の全体的な流れをまず把握して、総論から各論の確認へ向かうとよい。また、復習は次回授業の重要な土台になるため、予習の意味も兼ねて、次回授業までに復習を済ませると理想的である。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。代わりに、以下の参考書に基づく配布資料を適宜用いる。

【参考書】

荻部直、宇野重規、中本義彦『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（80 %）

リアクション・ペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果は、総じて良かったと思うものの、時間外学習に関する回答が振るわなかったため、この点の改善を目指したい。

【Outline and objectives】

In this course, we will overview the theory and practice of the contemporary politics in general, by using an introductory book for the students who are not necessarily major in political science (as a reference book rather than a textbook). Since politics is a kind of living thing, we will also treat the political issues which are currently in progress as often as possible. I will try some critical considerations on the present politics, and the political visions in the future. In this course, we focus on the domestic system.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅱ

2016 年度以前入学者

面 一也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

営 1 年 F～O / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、必ずしも政治学専攻でない学生向けに書かれた入門書を手がかりとしながら（教科書でなく参考書として）、現代政治の理論と現実を全般的に概観する。政治は生きものなので、書物には載っていない現在進行形のアクチュアルな諸問題も、可能なかぎり積極的に取り扱う。授業全体を通じて、現在の政治が直面している課題と、望ましい未来の政治のあり方について、批判的に考察を進めたい。なお本授業では、国内体制を中心に取り上げる。

【到達目標】

- 1 現代の政治理論と現実政治の動向を理解する。
- 2 アクチュアルな政治問題の争点を把握する。
- 3 現在の政治と未来の政治に関する批判的考察力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2～3回）を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と進め方、教材などについて
第 2 回	世界の中の日本	日本の外交史と直面する諸課題
第 3 回	戦後日本の政治学	現実政治との交錯
第 4 回	ウェストファリア体制	現在の国際システムの基礎：パランス・オブ・パワー（恐怖の均衡）と集団安全保障
第 5 回	ナショナリズム	国際秩序を形成するのか、妨害するのか
第 6 回	科学テクノロジーと政治	軍事テクノロジーの発展と奇襲：核兵器はなくせるか
第 7 回	デモクラティック・ピース？	民主国同士は戦争しないという仮説をめぐって
第 8 回	人道的介入	人権擁護のための軍事介入、平和のための戦争
第 9 回	地域政治 1 アメリカ	グローバリゼーションの光と影
第 10 回	地域 2 EU	移民問題から排他主義へ
第 11 回	戦争責任問題	日本の司法、政府、市民の対応を中心に：慰安婦、徴用工など
第 12 回	地域 3 ASEAN	日本の関わりと中国の台頭
第 13 回	環境問題と政治	関係主体や合意形成をめぐる諸困難
第 14 回	ジェンダーの政治	フェミニズムからマイノリティー全般の権利問題へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に多くの時間を割くことを推奨する。復習の際には、ノートや資料を見返しながら、授業の全体的な流れをまず把握して、総論から各論の確認へ向かうとよい。また、復習は次回授業の重要な土台になるため、予習の意味も兼ねて、次回授業までに復習を済ませると理想的である。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。代わりに、以下の参考書に基づく配布資料を適宜用いる。

【参考書】

荏部直、宇野重規、中本義彦『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（80 %）

リアクション・ペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果は、総じて良かったと思うものの、時間外学習に関する回答が振るわなかったため、この点の改善を目指したい。

【Outline and objectives】

In this course, we will overview the theory and practice of the contemporary politics in general, by using an introductory book for the students who are not necessarily major in political science (as a reference book rather than a textbook). Since politics is a kind of living thing, we will also treat the political issues which are currently in progress as often as possible. I will try some critical considerations on the present politics, and the political visions in the future. In this course, we focus on the international politics.

POL100LA

政治学Ⅰ

2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅰ

2016 年度以前入学者

岡崎 加奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 営 1 年 A～E / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの暮らす現代社会と政治との関係性とはいかなるものであり、私たちの生活にとって政治や政策はどのような意味や役割をもつのだろうか。本講義では、政治学の基礎的概念を身につけ、現代社会における政治的な事象についての基本的な理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

本講義では以下の点を到達目標とする。
 学生が現代社会の政治をめぐる制度や理論、歴史について、基本的な理解を得られること。
 学生が政治的な事象について自ら思考する力を身につけること。
 さらに、学習により得た知識や理解、思考を文章としてまとめ、表現する力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、現代日本における国会を中心とした政治制度やそのしくみについて、理論・制度・歴史を取り上げ多角的に講義をすすめる。さらに講義では、今日の社会における時事的な政治事象についても適宜取り上げていく。毎回の授業では、学生は意見や質問をまとめて提出し、次回の授業で全体でその内容について共有する。また、授業内でのレポート作成を複数回予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体のテーマと目標
第2回	現代社会における政策	現代社会の特徴と政策の関係について
第3回	権力	権力とは何か
第4回	民主主義と代表制	民主主義の概念と代表制
第5回	議会政治	近代議会政治の形成と発展
第6回	国会審議	国会の本会議・委員会の役割
第7回	立案過程	法案の立案過程に関する制度・運用
第8回	内閣の役割	内閣・官邸機能について
第9回	政党	政党の発展と役割
第10回	政党制	政党制と日本の政党政治の変容
第11回	選挙制度	衆・参議院の選挙制度の形成と変化
第12回	政治意識	現代市民の政治意識の特性
第13回	投票行動	現代社会における投票行動とポピュリズム
第14回	市民による政治参加	市民による政治参加の制度と新たな課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、①講義ごとにレジュメおよびノートにもとづき復習すること、②日ごろから政治的な事象に関心をもち新聞等をよく読むこと、③講義の中で紹介する参考文献や関連する書籍を読み進めること、以上の点について心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストなし。レジュメを用いて授業を行う。

【参考書】

授業内で適宜、参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(65%)と平常点(35%)により総合的に評価する。平常点は、授業内レポートおよび授業内の取り組みにより構成される。

【学生の意見等からの気づき】

現代に起こりうる政治的事象と講義の内容とを、関連付けて考える機会をより充実させていきたい。

【Outline and objectives】

This course introduce the fundamental principles of political science to students taking this course. This course deals with the basic concepts and principles of the history, the party system, and the Diet in Japan.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

POL100LA

政治学Ⅱ

2016 年度以前入学者

岡崎 加奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年 A～E / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会にはいかなる政治的な問題や課題があるのか。

本講義では、戦後の政党政治や自治体の政策について学ぶ中で、より具体的かつ身近な問題として政治を捉え、理解するとともに、社会におけるさまざまな問題を政治学的視点に基づき、制度・運用の両面から考察することを目指す。

【到達目標】

本講義では、以下の点を到達目標とする。

学生が現代社会における政治制度や歴史の変遷について、より深い知識と理解を得ること。

学生が今日の社会が直面している政治課題とは何か、自ら考察する力を養うこと。

自らの考察を表現し、文章化する能力を高めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義の前半では、戦後日本がたどってきた政党政治の変遷について取り上げ、政党政治の変化とともに今日までの社会がどのような特性をもってきたのか理解を深めていく。さらに後半では、自治体をめぐる分権化の流れや自治体における政策の現状と課題について広く取り上げる。社会と政策との関係性について政策的な視点から講義をすすめていく。

講義では、今日の社会における政治的な事象を考察していくとともに、時事的な政治事象についても適宜取り上げていく。また、複数回の授業内におけるレポート作成を予定している。毎回の授業で学生は、意見や質問をまとめて提出し、次の授業で全体でその内容について共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体のテーマと目標
第2回	55 年体制の成立	戦後の政党政治と「55 年体制」の成立
第3回	政党の多党化	高度成長期における政党の多党化
第4回	政治改革	政治改革論争と 55 年体制の終焉
第5回	90 年代以降の政党政治	細川政権の成立とその後の政党政治
第6回	自治体の現状	自治体の現状とその役割
第7回	地方分権改革	地方分権改革について
第8回	自治体財政のしくみ	自治体財政の制度・しくみについて
第9回	自治体の政策形成	自治体の政策と合意形成
第10回	市民の政治参加	政策過程への市民参加
第11回	政治意識	現代社会における政治意識と政治文化
第12回	世論とメディア	世論とメディアの影響
第13回	新たな政治の潮流	ポピュリズムの台頭と市民
第14回	まとめ	授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、①講義ごとにレジュメおよびノートにもとづき復習すること、②日ごろから政治的な事象に関心をもち新聞等をよく読むこと、③講義の中で紹介する参考文献や関連する書籍を読み進めること、以上の点について心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストなし。レジュメを用いて授業を行う。

【参考書】

授業内で適宜、参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (65%) および平常点 (35%) により、総合的に評価する。平常点は、授業内レポートおよび授業内の取り組みによる。

【学生の意見等からの気づき】

学生が、社会における政治的な問題について、自らの考えを養い表現できる機会を充実させていきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of fundamental principles of political science.

This course deals with the modern politics ,especially the party politics, the local politics and the political participation in Japan.

POL100LA	
政治学Ⅰ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅰ	2016 年度以前入学者
高橋 和則	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水 4/Wed.4 営 1 年 Q～U、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に政治制度とそれを支える原理、精神を中心にして政治学の基本を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

【到達目標】

- ①主要国で共有している政治制度についての知識を得る。
- ②政治制度がいかなる原理に基づいているかを理解する。
- ③日本の政治制度についての基本的知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストとレジュメに基づく講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義に関する予備情報
2	議会主義（1）	議会主義の基礎
3	議会主義（2）	議会について
4	議会主義（3）	日本の議会
5	議会主義（4）	委員会主義と本会議主義
6	議会主義と民主主義	議会主義と民主主義との違い
7	折り返し	前半を振り返る
8	民主主義（1）	自由主義と民主主義
9	民主主義（2）	契約論的基礎づけ
10	民主主義（3）	現代の民主主義
11	民主主義（4）	政党と民主主義
12	民主主義（5）	政党の構造
13	民主主義（6）	選挙と民主主義
14	春学期の総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。
復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

・期末に実施する選択肢型試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメはあくまで講義の「目次」として位置付けている。詳細は講義とテキストを参照してほしい。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。
- ③初回にシラバスのこの部分を持参せよ。

【Outline and objectives】

・ Studing politics mainly by understanding political institutes and its principles.
・ For begginer.
・ Object to developed countries.

POL100LA	
政治学Ⅱ	2017 年度以降入学者
POL100LA	
政治学Ⅱ	2016 年度以前入学者
高橋 和則	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水 4/Wed.4 営 1 年 Q～U、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に社会とそこにいる市民を中心にして政治学の基礎を学ぶ。各種資格試験の出題対象となっているようである。初学者が受講することを念頭に置いている。

【到達目標】

- ①社会における利益（団体）の果たす役割についての知識を習得する。
- ②世論と民主主義についてを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストとレジュメに基づいた講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義に関する予備情報
2	市民社会と利益（1）	支持団体と集票組織
3	市民社会と利益（2）	政党と利益団体
4	市民社会と利益（3）	利益団体と民主主義
5	市民社会と利益（4）	利益団体と他者
6	市民社会と利益（5）	物質的利益と非物質的利益
7	市民社会と利益（6）	新しい市民社会
8	折り返し	前半を振り返る
9	市民社会と世論（1）	メディアと政治
10	市民社会と利益（2）	政治的事実と報道
11	市民社会と利益（3）	大衆と市民
12	市民社会と利益（4）	政治的関心と全体主義
13	市民社会と利益（5）	経済社会と政治社会
14	秋学期の総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。

復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実にものに
する。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に実施する選択肢型試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメはあくまで講義の「目次」として位置付けている。詳細は講義とテキストを参照してほしい。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。
- ③初回にシラバスのこの部分を持参せよ。

【Outline and objectives】

・ Studing politics mainly understanding civil society and citizen.
・ For begginer.
・ Object to developed countries.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学 I

2016 年度以前入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法 1 年 A～H / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取り、随時映像などの資料を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代背景を踏まえた上で理解し、それに対する 1960 年代以降の批判を理解する。
第三回	親族論	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与・交換・再分配	文化人類学の理論の中核を成す、贈与・交換・再分配に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	構造主義と主体（行為主体性論）という人類学の理論を理解するための二つの見方を紹介する。
第六回	言語・記号論	ソシュール以降の記号論の展開、および人類学における言語行為論について学習する。
第七回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第八回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。
第九回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
第十回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十一回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構成主義的な考え方を理解する。
第十二回	オリエンタリズム批判とポストモダニズム	サイードの『オリエンタリズム』を中心に植民地主義における「他者」表象、ポストコロニアリズム批判を理解する。
第十三回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。
第十四回	試験	これまでの講義および授業外の学習を踏まえた記述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席および毎回のリアクションペーパー 40%、最終授業での記述式試験 60 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクション・ペーパーの提出を求め、毎回の授業の冒頭に前回のリアクション・ペーパーの紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【Outline and objectives】

This class aims basic understanding of cultural anthropology. Students should think what understanding of a culture is and how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学 I

2016 年度以前入学者

阿部 朋恒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 1 年 I～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化への理解を深めることを通じてものの考え方や暮らし方が多様であることを知り、自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。この授業では、そのために役立つ視点と具体的な事例を、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら学んでいく。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。授業数回分ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生業	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにある儀礼的行為とのつながりを考える。
7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日的な状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ	授業内容の総括と、期末試験についての説明を行う。
14	試験	筆記形式（選択問題および論述問題）の期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみる。その際、文化人類学の考え方を応用するとどのような発見があるのかを意識してほしい。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『文化人類学キーワード [改訂版]』山下晋司・船曳建夫（編）有斐閣、2008 年。上記の他にも、毎回の授業に関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、筆記形式の期末試験（60 %）により評価する。なお、期末試験は学生自身が作成した紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度がやや早く、とくに難解な概念や用語についての理解が追い付かないことがあったとの意見が複数あったため、今年度からは難易度に応じて緩急をつけたきめ細やかな解説を行いたい。また、教室内の気温や騒音など授業を受ける環境について改善を求める意見も受けている。学生がその場で気兼ねなく要望を伝えられるような雰囲気づくりを心掛け、空調設備や音響機器の調整にも気を配っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学 I

2016 年度以前入学者

岩原 紘伊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学の学問的系譜や基本的な概念を説明したうえで、アジアやその他地域の事例を紹介しつつ、親族、ジェンダー、経済、宗教などのトピックを取り上げ、人間の生活や文化の多様性と共通点を知る。

【到達目標】

- ①文化人類学の基本的な視座を理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、自己と異文化に生きる他者との間に何かしらの共通点や理解できる部分があるという考え方を身に付け、自己の文化について相対化してとらえられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文化人類学は、地球に生きる人間の様々な生のあり方を文化や社会に注目して理解することを目指す学問である。この授業では、文化人類学が対象とする個別のテーマを掘り下げることで、文化人類学の基礎的な考え方について解説する。毎回の授業では授業内容の理解度を確かめるためにコメントシートを記入してもらい、翌週には受講生のコメントの一部を取りあげて復習をしつつ、できるだけ質問に答えていく。なお、本授業では写真や映像資料を多用し、異なる文化や社会の様子を視覚的に理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画、成績評価など
2	文化人類学の歴史①	文化人類学の誕生と進化主義
3	文化人類学の歴史②	文化相対主義という考え方
4	フィールドワークと民族誌	文化人類学の調査・研究手法
5	人間と文化	文化とは何か
6	エスニシティ	エスニシティと民族、エスニシティと国家
7	親族①	家族と親子
8	親族②	結婚と社会
9	ジェンダーとセクシャリティ	男らしさと女らしさ
10	経済①	狩猟採集、牧畜、農耕
11	経済②	贈与交換と社会関係
12	宗教①	信仰の世界
13	宗教②	宗教と日本社会
14	授業内試験	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や参考書を読んで、予習復習する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回の授業でレジュメを配布する。

【参考書】

山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード（改訂版）』（有斐閣、2008 年）その他、授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートの内容（20 %）と期末試験の点数（80 %）により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

資料を授業支援システムにアップロードする際にファイル名を統一したり、具体的な事例を用いて理論を説明するように心がける。

【その他の重要事項】

文化人類学 L（秋学期開講）をあわせて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This class introduces you to the key concepts of cultural anthropology through focusing on the topics such as kinship, gender, economy and religion. By exploring the variety of cases related to the topics from the Asia and beyond, you will be deepen your critical thoughts on the differences and similarities of culture and human life.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学 I

2016 年度以前入学者

長沢 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
文 1 年 A～N、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解の学問である文化人類学の基本的な考え方や概念を、言語や文化、社会構造、環境問題といったさまざまなトピックを通して学ぶ。

【到達目標】

文化の多様性と普遍性について知る。異文化と自文化を理解する力を身に付ける。全体を通して、文化人類学的な物の見方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回異なった話題とテーマを取り上げ、文化人類学の方法論や概念を解説する。文化の概念、言語の多様性と構造的な特色、社会構造、日本の民俗、通過儀礼、宗教問題などを取り上げ、文化人類学の学問的意義、基本的発想、概念等について体系的かつ平易に解説する。なお、毎回の授業ではプリントを配り、それに沿って講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文化人類学とはなにか	文化人類学の概要を解説し、それを学ぶことの意義を説明する。
2	人間と文化	文化人類学の基本となる人間と文化について解説する。
3	言語（1）	言語人類学について解説する。
4	言語（2）	言語人類学について解説する。
5	言語（3）	言語人類学について解説する。
6	民俗社会	日本の民俗社会について考える。
7	社会構造	社会構造について解説する。
8	通過儀礼（1）	通過儀礼について解説する。
9	通過儀礼（2）	通過儀礼について解説する。
10	農耕	農耕と文化について解説する。
11	補足（1）	全体的な補足をおこなう。
12	補足（2）	全体的な補足をおこなう。
13	調査とレポート	文化人類学の調査方法と論文のまとめ方について解説する。
14	まとめ・試験	全体的なまとめをおこない、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、インターネット等を通して、授業テーマに関する情報に接するよう心がけること。また、授業では、しばしば過去の授業の内容に触れるので、復習をして授業内容に対する理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験の結果によって成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて適宜、授業の進度を変える。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学 I

2016 年度以前入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取り、随時映像などの資料を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代背景を踏まえた上で理解し、それに対する 1960 年代以降の批判を理解する。
第三回	親族論	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与・交換・再分配	文化人類学の理論の中核を成す、贈与・交換・再分配に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	構造主義と主体（行為主体性論）という人類学の理論を理解するための二つの見方を紹介する。
第六回	言語・記号論	ソシュール以降の記号論の展開、および人類学における言語行為論について学習する。
第七回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第八回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。
第九回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
第十回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十一回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構成主義的な考え方を理解する。
第十二回	オリエンタリズム批判とポストモダニズム	サイードの『オリエンタリズム』を中心に植民地主義における「他者」表象、ポストコロニアリズム批判を理解する。
第十三回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。
第十四回	試験	これまでの講義および授業外の学習を踏まえた記述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席および毎回のリアクションペーパー 40%、最終授業での記述式試験 60 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクション・ペーパーの提出を求め、毎回の授業の冒頭に前回のリアクション・ペーパーの紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【Outline and objectives】

This class aims basic understanding of cultural anthropology. Students should think what understanding of a culture is and how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学 I

2016 年度以前入学者

阿部 朋恒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化への理解を深めることを通じてものの考え方や暮らし方が多様であることを知り、自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。この授業では、そのために役立つ視点と具体的な事例を、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら学んでいく。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。授業各回ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生業	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにある儀礼的行為とのつながりを考える。
7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日的な状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ	授業内容の総括と、期末試験についての説明を行う。
14	試験	筆記形式（選択問題および論述問題）の期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみる。その際、文化人類学の考え方を応用するとどのような発見があるのかを意識してほしい。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業で関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

文化人類学キーワード〔改訂版〕山下晋司・船曳建夫（編）有斐閣、2008 年。上記の他にも、毎回の授業で関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、筆記形式の期末試験（60 %）により評価する。なお、期末試験は学生自身が作成した紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度がやや早く、とくに難解な概念や用語についての理解が追い付かないことがあったとの意見が複数あったため、今年度からは難易度に応じて緩急をつけたきめ細やかな解説を行いたい。また、教室内の気温や騒音など授業を受ける環境について改善を求める意見も受けている。学生がその場で気兼ねなく要望を伝えられるような雰囲気づくりを心掛け、空調設備や音響機器の調整にも気を配っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学 I

2016 年度以前入学者

阿部 朋恒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
営 1 年 K～O / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化への理解を深めることを通じてものの考え方や暮らし方が多様であることを知り、自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。この授業では、そのために役立つ視点と具体的な事例を、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら学んでいく。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。授業各回ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生業	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにある儀礼的行為とのつながりを考える。
7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日的な状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ	授業内容の総括と、期末試験についての説明を行う。
14	試験	筆記形式（選択問題および論述問題）の期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみる。その際、文化人類学の考え方を応用するとどのような発見があるのかを意識してほしい。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『文化人類学キーワード [改訂版]』山下晋司・船曳建夫（編）有斐閣、2008 年。上記の他にも、毎回の授業で関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、筆記形式の期末試験（60 %）により評価する。なお、期末試験は学生自身が作成した紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度がやや早く、とくに難解な概念や用語についての理解が追いつかないことがあったとの意見が複数あったため、今年度からは難易度に応じて緩急をつけたきめ細やかな解説を行いたい。また、教室内の気温や騒音など授業を受ける環境について改善を求める意見も受けている。学生がその場で気兼ねなく要望を伝えられるような雰囲気づくりを心掛け、空調設備や音響機器の調整にも気を配っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学 I

2016 年度以前入学者

岩原 紘伊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
営 1 年 Q～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学の学問的系譜や基本的な概念を説明したうえで、アジアやその他地域の事例を紹介しつつ、親族、ジェンダー、経済、宗教などのトピックを取り上げ、人間の生活や文化の多様性と共通点を知る。

【到達目標】

- ①文化人類学の基本的な視座を理解し、人に説明できるようにする。
②文化人類学を学ぶことで、自己と異文化に生きる他者の間に何かしらの共通点や理解できる部分があるという視点を身に付け、自己の文化について相対化してとらえられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文化人類学は、地球に生きる人間の様々な生のあり方を文化や社会に注目して理解することを目指す学問である。この授業では、文化人類学が対象とする個別のテーマを掘り下げることにより、文化人類学の基礎的な考え方について解説する。毎回の授業では授業内容の理解度を確かめるためにコメントシートを記入してもらい、翌週には受講生のコメントの一部を取りあげて復習をしつつ、できるだけ質問に答えていく。なお、本授業では写真や映像資料を多用し、異なる文化や社会の様子を視覚的に理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画、成績評価など
2	文化人類学の歴史①	文化人類学の誕生と進化的主義
3	文化人類学の歴史②	文化相対主義という考え方
4	フィールドワークと民族誌	文化人類学の調査・研究手法
5	人間と文化	文化とは何か
6	エスニシティ	エスニシティと民族、エスニシティと国家
7	親族①	家族と親子
8	親族②	結婚と社会
9	ジェンダーとセクシャリティ	男らしさと女らしさ
10	経済①	狩猟採集、牧畜、農耕
11	経済②	贈与交換と社会関係
12	宗教①	信仰の世界
13	宗教②	宗教と日本社会
14	授業内試験	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や参考書を読んで、予習復習する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回の授業でレジュメを配布する。

【参考書】

山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード（改訂版）』（有斐閣、2008 年）その他、授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートの内容（20 %）と試験の点数（80 %）により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

資料を授業支援システムにアップロードする際にファイル名を統一したり、具体的な事例を用いて理論を説明するように心がける。

【その他の重要事項】

文化人類学 L（秋学期開講）をあわせて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This class introduces you to the key concepts of cultural anthropology through focusing on the topics such as kinship, gender, economy and religion. By exploring the variety of cases related to the topics from the Asia and beyond, you will be deepen your critical thoughts on the differences and similarities of culture and human life.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学 I

2016 年度以前入学者

中島 成久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人種・民族問題入門、米欧編」というテーマで授業を行う。文化人類学を学ぶ上で、「人種・民族問題」をどのように考えるかは重要なイシューである。春学期は主に米欧における人種・民族問題を考える。

【到達目標】

グローバル化の現在、文化人類学を学ぶ上で、人種・民族へのスタンスの取り方は最も基本的な課題である。日本においては日常あまり意識することのないこの問題を世界の事例を通して学び、視野を広げることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。講義に関連する映画を 4 本見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	人種・民族問題への基礎知識、成績評価説明 公民権運動
第 2 回	アメリカ①	アファーマティブアクション
第 3 回	アメリカ②	ロス暴動
第 4 回	アメリカ③	映画「ドゥ・ザ・ライト・シング」①
第 5 回	アメリカ④	映画「ドゥ・ザ・ライト・シング」②
第 6 回	アメリカ⑤	アジア系移民①
第 7 回	アメリカ⑥	アジア系移民②
第 8 回	アメリカ⑦	映画「アメリカン・パス・タイム 俺たちの星条旗」
第 9 回	アメリカ⑧	ナチスの人種主義
第 10 回	ヨーロッパ①	優生主義とナチズム
第 11 回	ヨーロッパ②	「アンネの日記」
第 12 回	ヨーロッパ③	ハンナ・アーレントの人種論①
第 13 回	ヨーロッパ④	ハンナ・アーレントの人種論②
第 14 回	ヨーロッパ⑤	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストをよく読むこと。図書館などで関連する文献を調べ、視野を広げること。

【テキスト（教科書）】

中島成久（編著）『グローバリゼーションのなかの文化人類学案内』明石書店

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（70 %）＋平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

板書を丁寧に行うこと。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The topic of this class is Introduction to Race and Ethnic Relations in USA and Europe. Race and Ethnic Relations are one of the key issues on Cultural Anthropology. Case studies from USA and Europe are shown in Spring semester.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

CUA100LA

文化人類学 I

2016 年度以前入学者

阿部 朋恒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化への理解を深めることを通じてものの考え方や暮らし方が多様であることを知り、自分にとって当たり前だった発想や価値観を相対化し、見つめなおす契機を探る。この授業では、そのために役立つ視点と具体的な事例を、これまでに文化人類学の領域で培われてきた方法論を参照しながら学んでいく。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の記事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。授業各回ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいと進め方、成績評価の方法について説明する。
2	文化人類学のなりたち	文化人類学という学問の歴史と、時代ごとに果たしてきた意義を学ぶ。
3	フィールドワークと民族誌	人類学と社会科学における他の学問領域との方法論的な特徴の差異を確認する。
4	環境と生業	世界のさまざまな地域の環境と、それに適応して暮らす人々の生活の多様性を知る。
5	贈与と経済	貨幣を介さない交換の意味を学び、経済合理的な思考の有効性を捉え直す。
6	儀礼と宗教	さまざまな世界観に即した儀礼を知り、その役割を考える。また、われわれの身の回りにある儀礼的行為とのつながりを考える。
7	儀礼と宗教	宗教と世俗の境界について整理し、宗教とは何かを考える。
8	病（やまい）	各地の伝統医療・民族医療と近代医療との関係を学び、人が癒されるとはどういったことなのかを考える。
9	家族・親族・婚姻	家族と親族の範囲と役割、婚姻にまつわる規則の多様性について学ぶ。
10	エスニシティ	「人種」「民族」「先住民」などにまつわる現象を考えるための方法を学ぶ。
11	コミュニティ	地縁、血縁にもとづく関係からインターネットで結びつく関係まで、さまざまな社会関係を包括して理解する視座を学ぶ。
12	移動と文化	ヒト、モノ、情報の流動性が高まる今日的な状況における「文化」とは何かを考える。
13	まとめ	授業内容の総括と、期末試験についての説明を行う。
14	試験	筆記形式（選択問題および論述問題）の期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌のニュースに関心を払い、遠くの国や地域で生じた出来事であっても少しの時間を割いて考えてみる。また、身の回りで生じるさまざまな出来事について、異なる立場にある人の見方を想像してみる。その際、文化人類学の考え方を応用するとどのような発見があるのかを意識してほしい。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。ただし、毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてほしい。

【参考書】

『文化人類学キーワード [改訂版]』山下晋司・船曳建夫（編）有斐閣、2008 年。上記の他にも、毎回の授業に関連する基礎文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席率およびリアクションペーパーによる平常点（40 %）、筆記形式の期末試験（60 %）により評価する。なお、期末試験は学生自身が作成した紙媒体の資料のみ持ち込み可とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度がやや早く、とくに難解な概念や用語についての理解が追い付かないことがあったとの意見が複数あったため、今年度からは難易度に応じて緩急をつけたきめ細やかな解説を行いたい。また、教室内の気温や騒音など授業を受ける環境について改善を求める意見も受けている。学生がその場で気兼ねなく要望を伝えられるような雰囲気づくりを心掛け、空調設備や音響機器の調整にも気を配っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更する場合がある。

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想 I

2016 年度以前入学者

犬塚 元

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

文 1 年 E～N、T～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会思想」は、社会にかかわるさまざまな考えを学ぶ科目です。過去の思想や他人の思想を学ぶのは、賛成するか反対するかにかかわらず、わたしたち自身の社会思想を豊かにするためのひとつの方法です（この授業では、特定の思想を押しつけることはありません）。この「社会思想 I」のクラスでは、初学者にも学びやすいように、理想社会論（ユートピア論）をとりあげて、過去から現代までの社会思想を学んでいきます。

【到達目標】

（１）古代から現代までの代表的なユートピア論について理解を深めて、人類がこれまでにどのような理想社会を論じてきたかを理解する。（２）社会や共存にかかわる論点・争点を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。原則として 1 回に 1 作品（あるいは 1 テーマ）を採りあげて説明をおこないます。過去の実際のテキストに触れるために、配付資料を活用しますので、オンライン（授業支援システム）で配付する資料を印刷・持参することが必須です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要
第 2 回	プラトン『国家』	真理にもとづく政治
第 3 回	ユートピア思想としてのキリスト教	政治に無関心・無批判であってはいけないのか
第 4 回	モア『ユートピア』	平等という理想
第 5 回	ベーコン『ニューアトランティス』、カンパネラ『太陽の都』	コントロールされる性愛
第 6 回	ハリントン『オセアナ』	人ではなく制度を変えるアプローチ
第 7 回	カント『永遠平和のために』	国際社会の理想と現実
第 8 回	ユートピア思想としての社会主義	社会主義とはなんだったか
第 9 回	オーウェル『動物農場』	ユートピアからディストピアへ
第 10 回	オーウェル『1984 年』	政治と言葉 システムという権力
第 11 回	ハクスリー『すばらしい新世界』	主観的幸福のディストピア
第 12 回	現代のユートピア論（１）	ソルニット、ノージック、ローティ
第 13 回	現代のユートピア論（２）	宮崎駿
第 14 回	まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介した作品を一冊でも、最初から最後まで実際に自分で読んでみることを推奨します。

【テキスト（教科書）】

授業で用いる資料は「授業支援システム」で配布します。資料配付の方法や注意事項は、初回の講義で説明します。

【参考書】

授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（コメントペーパー、発言、貢献など。50 点）、期末試験（50 点）。授業への出席は単位修得の前提条件です。

【学生の意見等からの気づき】

できるかぎり一方向的な講義とならないように留意します。

【学生が準備すべき機器他】

「授業支援システム」を利用するための情報通信環境が必須です。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。

【Outline and objectives】

Explores history of utopian political theories from ancient Greece to contemporary Japan.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2016 年度以前入学者

犬塚 元

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
文 1 年 E～N、T～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会思想」は、社会にかかわるさまざまな考えを学ぶ科目です。過去の思想や他人の思想を学ぶのは、賛成するか反対するにかかわらず、わたしたち自身の社会思想を豊かにするためのひとつの方法です（この授業では、特定の思想を押しつけることはありません）。この「社会思想Ⅱ」のクラスでは、初学者にも学びやすいように、「女性／男性」をテーマにして、過去から現代までの社会思想において性や性差がどのように論じられてきたか、を学びます。

【到達目標】

（１）「社会思想史における女性／男性」について理解を深め、人類がこれまでにどのように女性／男性や性を論じてきたかを理解する。とくに、近代の法思想・政治思想がどのように性差を扱っているかを学ぶ。（２）ジェンダーやセクシャリティにかかわる論点・争点を理解する。（３）学術的文章（学術論文）を読む力、書く力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この「社会思想Ⅱ」では、読む力（古典や学術論文の読解力）と書く力（読解や分析をふまえて学術的文章を作成する力）のスキルアップをめざし、授業時間内に課題演習をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要（内容と方法）
第 2 回	ルソー『エミール』（１）	男女の違い
第 3 回	ルソー『エミール』（２）	女性の教育
第 4 回	ルソー『エミール』（３）	理想の女性像
第 5 回	ルソー『エミール』（４）	理想の結婚
第 6 回	ルソー『エミール』（５）	社会契約
第 7 回	同時代のルソー批判	ウルストンクラフト（１）
第 8 回	同時代のルソー批判	ウルストンクラフト（２）
第 9 回	現代のルソー批判	スーザン・オーキン
第 10 回	フランス人権宣言に対する批判	オラン・ドゥ・グージュ「女の権利の宣言」
第 11 回	社会契約説に対する批判（１）	キャロル・ベイトマン（１）
第 12 回	社会契約説に対する批判（２）	キャロル・ベイトマン（２）
第 13 回	学習の整理	授業内容のレビュー
第 14 回	まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では配布資料のすべてを読めない場合がありますので、そうした場合には復習が必要です。

【テキスト（教科書）】

資料配付にかかる注意事項は、初回の講義で説明します。ルソー『エミール（下）』岩波文庫、については購入・持参する必要があります。

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（コメントペーパー、発言、貢献など。50 点）、期末試験（50 点）。授業への出席は単位修得の前提条件です。

【学生の意見等からの気づき】

できるかぎり一方的な講義とならないように留意します。

【その他の重要事項】

担当教員は法学部政治学科所属。

【Outline and objectives】

Explores gender perceptions in the history of political thought.

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2016 年度以前入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 H～Y、キ 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ボリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ボリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ボリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を预示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテスの意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書を利用したオーソドックスな講義形式でおこなう。ただし、毎回質疑応答の機会をもうける。履修者による活発な授業への参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について
5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキャヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと 16 世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について

14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について 若干の所見
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。		
【テキスト（教科書）】 宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。		
【参考書】 川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。		
【成績評価の方法と基準】 レポート課題 30%、期末試験 70%		
【学生の意見等からの気づき】 可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。		
【学生が準備すべき機器他】 なし		
【その他の重要事項】 なし		

【Outline and objectives】
The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2017 年度以降入学者
SOS100LA	
社会思想Ⅱ	2016 年度以前入学者
村田 玲	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 H～Y、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を收拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】
本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書を利用したオーソドックスな講義形式でおこなう。ただし、毎回質疑応答の機会をもうける。履修者による活発な授業への参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホブズズの『リヴァイアサン』について
6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソウの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20 世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想 I

2016 年度以前入学者

洪 貴義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
文 1 年 P～R、営 1 年 A～H、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではヴァルター・ベンヤミン（1892 ～ 1940）の思想を学びます。ベンヤミンは 20 世紀という世界戦争と革命、破局の時代を生きたユダヤ系ドイツ人批評家です。堆積していく歴史の残骸のなかから意味ある破片を拾い集めることで過去を救出し、表層に現れる細部における意味の結晶核を未来へのユートピアとして読み解こうとするベンヤミンの批評は今も私たちの思考を刺激して止みません。この授業ではこのような方法を持つベンヤミンの批評を読みながら、それを通して私たちが生きる現代という時代の歴史的、思想的、文化的条件を考察します。

【到達目標】

テキスト読解や講義を通して 20 世紀という時代の歴史的意味を理解できる
テキスト読解や講義を通してベンヤミンの批評方法を理解できる
テキスト読解や講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。各回ともリアクションメールを提出してもらい、授業のなかで紹介しながら理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについての説明
2	導入	時代背景と批評の方法
3	歴史の概念	新海誠の『君の名は。』と歴史の概念について
4	複製技術	初音ミクとキズナアイ 複製技術時代の芸術作品
5	写真について	写真小史
6	演劇について	ブレヒトと叙事演劇
7	シュルレアリスム	眠りと目覚めのあいだ
8	パリのバサージュ (1)	パリ、19 世紀の首都 (1)
9	パリのバサージュ (2)	パリ、19 世紀の首都 (2)
10	都市という経験 (1)	ボードレールについて (1)
11	都市という経験 (2)	ボードレールについて (2)
12	アレゴリー	アレゴリーとバロック悲劇
13	文学	カフカとブルースト
14	言語論	言語一般および人間の言語について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業とも指定されたテキストのエッセイを事前に読んでおく授業の理解が進みます。

【テキスト（教科書）】

ヴァルター・ベンヤミン『ベンヤミン・コレクション 1 近代の意味』（ちくま学芸文庫）

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 パーセント

期末レポート 50 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

受講者のコメントを紹介することで他の受講者の理解を深めるようです。また、映像資料は授業の理解に資するので、映画や動画を使用する場合もあります。

【Outline and objectives】

This course introduces the ideas of Walter Benjamin to students taking this course. He is a peculiar German-Jewish critic of the 20's century that had experienced of world war, revolution and many catastrophes.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of essays of Benjamin and through that knowledge students will have thought about a historical and cultural condition of our modern age.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2016 年度以前入学者

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
文 1 年 P～R、営 1 年 A～H、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では現代イタリア人思想家ジョルジョ・アガンベン思想を学びます。哲学、神学、美学、文学、政治学など諸学を横断するその思考方法は、一見不統一な様に見えるながら、文献学的方法にもとづいて、哲学と詩学の不可能な統合を試みるものとなっています。この授業ではこの思考方法に注目しながら、『ホモ・サケル 主権権力と剥き出しの生』を読解し、主権、人権、難民、収容所を考察するアガンベン思想を学びます。

【到達目標】

テキスト読解や講義を通して哲学や政治学の基本概念を理解することができる
テキスト読解や講義を通して 20 世紀の歴史的出来事を理解することができる
テキスト読解や講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。各回ともリアクションメールを提出してもらい、授業のなかで紹介しながら理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の内容、授業の進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについての説明
2	導入	アガンベン思考方法
3	収容所	アウシュビッツ強制収容所とは何か
4	ホモ・サケル	ホモ・サケルプロジェクトの全貌
5	テキスト読解 (1)	主権の逆説
6	テキスト読解 (2)	主権者たるノモス
7	テキスト読解 (3)	潜勢力と法権利
8	テキスト読解 (4)	法の形式
9	テキスト読解 (5)	ホモ・サケル
10	テキスト読解 (6)	聖なるものの両義性
11	テキスト読解 (7)	聖なる生
12	テキスト読解 (8)	生殺与奪権
13	テキスト読解 (9)	主権の身体と聖なる身体
14	テキスト読解 (10)	締め出しと狼

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業ごとに指定されたテキストのページを事前に読んでおくことで理解が進みます。

【テキスト（教科書）】

授業中に配布します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 パーセント
期末レポート 50 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

受講者のコメントを授業中に紹介することで他の受講者の理解を促す良い刺激になるようです。また映像資料の視聴は理解を深めるのに資するので映画を利用する場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces the ideas of an Italian thinker Giorgio Agamben to students taking this course. A quality of his way of thinking is to cross over various field of disciplines, for example philosophy, theology, aesthetics, literature, politics, and so on. The aim of this course is to help students acquire an understanding of his way of thinking and the textbook "Homo Sacer : Sovereign Power and Bare Life".

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想 I

2016 年度以前入学者

網谷 杜介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 文 1 年 A～B、営 1 年 J～U、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では西欧の社会思想史を学びます。社会思想史とは、これまで人びとが、人間や社会、政治についてどのように考えてきたのか、その思想が織りなす歴史を研究する学問です。春学期は社会契約論という考え方を学びます。過去の思想を理解することで、私たちが「当たり前」だと思っている社会のあり方や制度について批判的に問い直す視座を獲得することが目的です。

【到達目標】

本講義は社会契約論という考え方をテーマに、主に 17 世紀から現代の思想家までを取り上げます。社会契約論とは「私たちの社会は契約によって成り立っている」という発想です。これは、ちょっとぎょっとする考え方かもしれませんが、どうして国家に服従しなければならないのか、政治はどのように行われるべきか、どんな社会が正しい社会なのかといった問題を考える際に、非常に重要なツールとなります。社会契約という発想は、歴史のなかで繰り返し登場しますが、それが登場する文脈は異なります。どのような発想が、どのような文脈で、なんのために用いられたのかを理解し、それを説明できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式で行われますが、授業内で実際に資料を読んでもらい、受講者同士で内容について議論する時間を設ける予定です。授業時間中にリアクションペーパーの提出を求めることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会思想史とはなにか
第 2 回	古代・中世の社会観	アリストテレス、ユダヤ・キリスト教
第 3 回	ホッブズ（1）	『リヴァイアサン』と宗教戦争
第 4 回	ホッブズ（2）	ホッブズとその批判者
第 5 回	ロック	『統治二論』と名誉革命
第 6 回	ヒューム	社会契約論批判
第 7 回	ルソー	一般意志の概念
第 8 回	カント（1）	道徳の基礎
第 9 回	カント（2）	革命の時代と理念としての社会契約
第 10 回	市民社会の誕生と批判	スミス、ヘーゲル、マルクス
第 11 回	ロールズ（1）	『正義論』とリベラリズム
第 12 回	ロールズ（2）	ロールズの批判者たち（リバタリアニズム、コミュニタリアニズム、フェミニズム）
第 13 回	現代的課題	国際的な社会契約は可能か？ / 契約からの排除
第 14 回	授業内試験	論述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で取り上げた著作を、自分で読んでみることを。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料を授業支援システムに事前にアップロードするか、授業中に配付します。

【参考書】

網谷杜介『カントの政治哲学入門：政治における理念とは何か』白澤社、2018 年。その他、講義中に提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 パーセント）＋期末試験（70 パーセント）

平常点はリアクションペーパーを中心に、授業内での発言や質問、聴講態度を考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間中になるべく学生同士で議論する時間を割きます。

【学生が準備すべき機器他】

「授業支援システム（エチュード）」を利用するための情報通信環境が必須です。

【Outline and objectives】

This course offers an introduction to history of western social and political thought, with special emphasis on the topics around social contract theory. The main objectives are to understand social thought in historical contexts and to gain a critical perspective on the social and political institutions which we take for granted today.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2016 年度以前入学者

網谷 杜介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

文 1 年 A～B、営 1 年 J～U、環 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では西欧の社会思想史を学びます。社会思想史とは、これまで人びとが、人間や社会、政治についてどのように考えてきたのか、その思想が織りなす歴史を研究する学問です。秋学期は公共性の歴史を考えます。過去の思想を理解することで、私たちが「当たり前」だと思っている社会のあり方や制度について批判的に問い直す視座を獲得することが目的です。

【到達目標】

本講義では公共性という概念を歴史の中で検討することで、「公」と「私」の関係の望ましいあり方を考えます。到達目標は、（１）古代と近代、現代で公共性概念にどのような違いが見られるか、（２）カント、アーレント、ハーバーマスの公共性概念とはどのようなものか、（３）現代の公共性の問題は何かを理解し、自分の言葉で説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式で行われますが、授業内で実際に資料を読み、受講生同士で議論する時間を設けます。また、リアクションペーパーの提出を求めることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要／「公共」の多義性
第 2 回	古代ギリシア・ローマの公共性	res publica と公共善
第 3 回	ストア派、キリスト教	市民的生と観想的・宗教的生
第 4 回	近世の絶対主義	君主と宮廷の公共性
第 5 回	近代市民社会	市民的公共性の理念
第 6 回	共和主義の伝統	公的活動と市民社会の概念
第 7 回	カント	「啓蒙とはなにか」を読む
第 8 回	自由主義と公共性の構造転換	ミル、トクヴィル、マルクスの市民的公共性批判
第 9 回	全体主義	ファシスト的公共性
第 10 回	アーレント	社会的なものと公的なもの
第 11 回	ハーバーマス	市民社会論と熟議デモクラシー
第 12 回	現代の公共性の課題（１）	公共圏からの排除（女性、黒人、少数民族、LGBT）
第 13 回	現代の公共性の課題（２）	インターネットとヘイトスピーチの問題
第 14 回	授業内試験	論述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で取り上げた著作を、授業後に自分で読んでみることを。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。資料を授業支援システムに事前にアップロードするか、授業中に配付します。

【参考書】

齋藤純一『公共性』岩波書店、2000 年
 ユルゲン・ハーバーマス、細谷貞雄・山田正行訳『公共性の構造転換：市民社会の一カテゴリーについての探究〔第 2 版〕』未来社、1994 年
 ハンナ・アーレント、志水速雄訳『人間の条件』ちくま学芸文庫、1994 年
 その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 パーセント）＋期末試験（70 パーセント）

平常点はリアクションペーパーを中心に、授業内での発言や質問、聴講態度を考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間中になるべく学生同士で議論する時間を割きます。

【学生が準備すべき機器他】

「授業支援システム（エテュード）」を利用するための情報通信環境が必須です。

【Outline and objectives】

This course offers an introduction to history of western social and political thought, with special emphasis on the topics around public and private sphere. The main objectives are to understand social thought in historical contexts and to gain a critical perspective on the social and political institutions which we take for granted today.

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2016 年度以前入学者

熊沢 敏之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会思想の形成・流通・普及の過程を、日本における人文書の興亡とジャーナリズムの展開のなかで考える。敗戦後の 1945 年から 1980 年代まで、もつとも精彩を放ちながら戦後日本をリードした思想家と人文書、および出版社に焦点を合わせ、その思想が社会に与えたインパクトと意味を析出する。現役の出版人による戦後出版通史、人文学史。

【到達目標】

いまや古典となりつつある基本的な参考文献を読み、社会と思想とメディアの機能について「批判的」「批評的」な思考を培うこと。戦後人文学の興亡を見極めながら、自主的な読書と研究を実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。パワーポイントの内容は、授業の前に「授業支援システム」の「教材」に掲げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／人文学の再定義	授業の進め方を提示しながら、人文書を読むことの意義を再確認する。
2	社会科学から人文学へ	社会科学と人文学は本質的にどこが違っているのか？ 戦後思想を考察するための基礎的な定義を試みる。
3	8 月 15 日からの出発――丸山眞男①	戦後直後の丸山眞男の華々しい登場を記録ビデオで確認し、現代的な丸山批判（赤木智弘）と交錯させる。
4	8 月 15 日からの出発――丸山眞男②	『世界』の創刊（1946 年）と丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を中心に、戦後ジャーナリズムの始まりを見る。
5	8 月 15 日からの出発――丸山眞男③	「超国家主義の論理と心理」を精読し、「抑圧移譲」など丸山政治学の基礎的発想の意味を再検討する。
6	60 年安保とマスコミ知識人――清水幾太郎①	戦後最大の大衆運動、60 年安保闘争の渦中に進出したマスコミ知識人たちの活動を、清水幾太郎らによる啓蒙に探る。
7	60 年安保闘争とマスコミ知識人――清水幾太郎②	清水幾太郎『現代思想』（1966 年）を参照しながら、清水の「転向」と 60 年安保以降の思想の転換点を探る。
8	戦後の終焉と日本民俗の再発見――柳田國男	戦後の終焉と高度経済成長の開始とともに見直された日本の民俗文化を、柳田國男『遠野物語』を中心に解説する。
9	在野思想家の顛覆戦略――吉本隆明	東京オリンピックを経た高度経済成長時代を挟み、既成知識人を圧倒した在野思想家吉本隆明の戦略を探る。
10	文化人類学と新しい知――山口昌男	山口昌男が唱えた「根に立ち還る運動」と、レヴィ＝ストロースの構造人類学がもたらした新しい知の誕生の成否を探る。
11	言語学と構造主義――ソシュール／小林英夫	ソシュール『一般言語学講義』（1972 年）における構造主義の衝撃と、訳者小林英夫の戦前からの仕事を再評価する。
12	伝統からの応答①国文学――西郷信綱	伝統的な人文学はいかに革新を果たしたのか？ 国文学者西郷信綱の著作をもとに、古典を読むことの意味を再発見する。
13	伝統からの応答②歴史学――網野善彦	伝統的な人文学はいかに革新を果たしたのか？ 日本史学者網野善彦の著作のなかに、新しい人文学誕生の可能性を見る。
14	まとめ	13 回分の講義を総復習して、春学期のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかでとりあげる参考文献を熟読する。

【テキスト（教科書）】

取り扱う思想家および文献が多岐にわたるため、テキスト（教科書）は指定しない。必要なものは適宜抜粋してコピーを配布する。

【参考書】

丸山眞男『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー）、清水幾太郎『現代思想』（岩波書店）、柳田國男『遠野物語』（ちくま文庫）、吉本隆明『共同幻想論』（角川ソフィア文庫）、山口昌男『山口昌男コレクション』（ちくま学芸文庫）、ソシュール／小林英夫訳『一般言語学講義』（岩波書店）、西郷信綱『古事記の世界』（岩波新書）、網野善彦『増補 無縁・公界・楽』（平凡社ライブラリー）など。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は期末試験のみ（100 %）。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。試験は筆記・論述。

【学生の意見等からの気づき】

材料不足によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【Outline and objectives】

This course introduces you to the process of formation and spread of social thought while we think about the rise and fall of books on humanities and the development of journalism in Japan. We focus on the thinkers, books on humanities and publishers that most remarkably influenced the postwar Japan from 1945 to the 1980s. We investigate the impact and meaning of those thoughts on our society. This is a lecture on the history of postwar publication and books on humanities by an active publisher.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2016 年度以前入学者

熊沢 敏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀のパリでは、成熟を始めた資本主義のもとで、ヨーロッパ随一の大都市文化が花開こうとしていた。20 世紀最高の思想家ヴァルター・ベンヤミンは、変貌するパリの根源的意味を問おうと、「パリ——十九世紀の首都」を書いた。この優れたエッセーを精読しながら、19 世紀パリに展開したさまざまなイメージを復元し、芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う、この変化の時代を思想的に読み解いていく。

【到達目標】

20 世紀最高のテキストを読み、社会と思想とメディアの機能、および文化と歴史の関連について、「批判的」「批評的」な思考を培うこと。とりわけ、論理とイメージが交錯する「エッセーの思想」の精髓に触れられるよう、パワーポイントの資料を見ながら忍耐強くテキストと向き合うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本テキストならびに配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。パワーポイントの内容は、授業の前に「授業支援システム」の「教材」に掲げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／ 20 世紀思想の星座	授業の進め方を提示しながら、あわせて概論として 20 世紀思想の翻訳の現場を紹介する。
2	ベンヤミンのパリ	19 世紀という変貌する時代における大都市パリの姿を提示し、加えてベンヤミンの伝記とその思想を概説する。
3	パリのパサージュ	パサージュのなかで絢爛たる消費文化が開花し、そこで芸術は商品に奉仕する（Ⅰ「フーリエあるいはパサージュ」①）。
4	鉄の構成	鉄とガラスを用いた建築がパサージュや駅、博覧会場として史上初めて登場する（Ⅰ「フーリエあるいはパサージュ」②）。
5	ユートピアのかたち	社会主義者フーリエはパサージュに触発され、具体的ユートピア像を構想する（Ⅰ「フーリエあるいはパサージュ」③）。
6	パノラマから写真へ	パノラマ画の大流行の後を受けて写真が発明され、芸術観を一変させる「（Ⅱ「ダゲールあるいはパノラマ」）。
7	商品という幻像	商品の幻像を展示する万国博覧会と、商品を描くグランヴィルのイメージ世界（Ⅲ「グランヴィルあるいは万国博覧会」）。
8	室内の痕跡	商品に抗うようにブルジョワジーの室内に蒐集品があふれ、そこから探偵小説が誕生する（Ⅳ「ルイ＝フィリップあるいは室内」）。
9	アレゴリカーの描くパリ ①	遊歩者はパサージュを創作の場所に変える。詩人ボードレールもその一人だった（Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」①）。
10	アレゴリカーの描くパリ ②	ボードレールはアレゴリーを用いて、パリという都市を初めて作品化する（Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」②）。
11	アレゴリカーの描くパリ ③	新しさの永遠回帰が近代の本質となる。ボードレール『悪の華』の画周期性（Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」③）。

12	パリ大改造	県知事オスマンのパリ改造計画が都市の姿を一新し、資本主義の世界が貫徹する（Ⅵ「オスマンあるいはパリケード」①）。
13	コミュニーの夢	広い街路にパリケードが造られ、パリ・コミュニーの夢が一瞬だけ実現するが……（Ⅵ「オスマンあるいはパリケード」②）。
14	まとめ	芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う変化の時代は、私たちに何を語りかけているか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかでとりあげる参考文献を熟読する。

【テキスト（教科書）】

ヴァルター・ベンヤミン「パリ——十九世紀の首都」（浅井健二郎編訳『ベンヤミン・コレクション 1』ちくま学芸文庫、1995 年、所収）を主に使用する。

【参考書】

引用文献は多岐にわたるため、適宜、コピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は期末試験のみ（100 %）講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。試験は筆記・論述。

【学生の意見等からの気づき】

材料不足によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【Outline and objectives】

In 19th century Paris where capitalism was beginning to mature, the best metropolitan culture in Europe was about to blossom. Walter Benjamin, one of the greatest thinkers of the 20th century, wrote "Paris: Capital of the Nineteenth Century" to find the true meaning of Paris which continued to change. Carefully reading this excellent essay, we restore various images developed in Paris at the time to understand the era of changes in which the world of art and thought competed with that of technology and commodities as a history of thought.

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2016 年度以前入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 1 年 A～G、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を预示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来の意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書を利用したオーソドックスな講義形式でおこなう。ただし、毎回質疑応答の機会をもうける。履修者による活発な授業への参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について
5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキャヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと 16 世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について

14 講義総括

社会思想の歴史的研究の意義について
若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2016 年度以前入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 1 年 A～G、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を收拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まづもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間的事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテスの意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書を利用したオーソドックスな講義形式でおこなう。ただし、毎回質疑応答の機会をもうける。履修者による活発な授業への参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会
3	宗教改革の思想②	分裂の思想的契機について 宗教改革の政治的帰結、ならびに王権
4	近代国家の形成①	神授説について 宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』
5	近代国家の形成②	と主権の概念 ピューリタン革命とホブズの『リ
6	市民革命の理論①	ヴァイアサン』について ロックの『統治二論』とイギリス名誉
7	市民革命の理論②	革命体制について ルソーの『社会契約論』、ならびに人
8	市民革命の理論③	民主権論について パークの『フランス革命の省察』、保
9	自由主義と社会主義①	守主義の近代について スミスの『国富論』から功利主義へ、
10	自由主義と社会主義②	自由概念の変容について マルクスの『共産党宣言』、ならびに
11	自由主義と社会主義③	社会主義の展開について ケインズ経済学と現代福祉国家、社会
12	現代政治①	民主主義について 20 世紀のアメリカ政治学、科学的政
13	現代政治②	治学の思想的基礎 ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治
		哲学の復権について

14 講義総括

社会思想の歴史的研究の意義について
若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 A

2016 年度以前入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法 1 年 A～G、文 1 年 E～I・P～V / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くするつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ。
第 9 回	巡回群	オイラーの定理について学ぶ。
第 10 回	連立合同式	異なる周期をもつ 2 つの事柄について考える。
第 11 回	連立合同式	異なる周期をもつ 3 つ以上の事柄について考える。
第 12 回	整数の理論の応用	2 つの素数の積について調べる。
第 13 回	整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第 14 回	整数の理論の応用	計算の効率について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価する。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 B

2016 年度以前入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法 1 年 A～G、文 1 年 E～I・P～V / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第 2 回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第 3 回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつながりについて考える。
第 4 回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第 5 回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第 6 回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。
第 7 回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第 8 回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第 9 回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第 10 回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。
第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第 12 回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第 13 回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価する。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 A

2016 年度以前入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

法 1 年 H～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くするつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ。
第 9 回	巡回群	オイラーの定理について学ぶ。
第 10 回	連立合同式	異なる周期をもつ 2 つの事柄について考える。
第 11 回	連立合同式	異なる周期をもつ 3 つ以上の事柄について考える。
第 12 回	整数の理論の応用	2 つの素数の積について調べる。
第 13 回	整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第 14 回	整数の理論の応用	計算の効率について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価する。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 B

2016 年度以前入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 1 年 H～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第 2 回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第 3 回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつながりについて考える。
第 4 回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第 5 回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第 6 回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。
第 7 回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第 8 回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第 9 回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第 10 回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。
第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第 12 回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第 13 回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価する。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 A

2016 年度以前入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

法 1 年 S~Y、国 1 年／法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとりつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績に出席状況、黒板で発表した回数、内容などを加味する。

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

教養数学 B 2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 B 2016 年度以前入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 S~Y、国 1 年／法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

教養数学 A 2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 A 2016 年度以前入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
文 1 年 A・B・L~N・W・X、国キ 1 年／法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいつかは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績に出席状況、黒板で発表した回数、内容などを加味する。

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 B

2016 年度以前入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

文 1 年 A・B・L～N・W・X、国キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

Aim of this class is that students feel the pleasures of mathematics by thinking deeply using hands and brains.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 A

2016 年度以前入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くするつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	効率的な着回し法を学ぶ。
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 B

2016 年度以前入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	包除原理	重なり合った集合の大きさ。
第 13 回	ネイピア数	有限のものを無限で近似する。
第 14 回	さまざまな応用	プレゼント交換で成功する回数。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 A

2016 年度以前入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	整数論の基礎	整数論の基本的な定義や用語を確認する。
第 03 回	ユークリッドの互除法	21 分と 50 分の砂時計を使って 1 分を計る方法を考える。
第 04 回	合同式	合同式の基本的な性質と計算方法を学ぶ。
第 05 回	連立合同式	合同式を利用して、上記例題の解法を修得する。
第 06 回	整数論の応用	整数論を利用した公開鍵暗号の仕組みを理解する。
第 07 回	エラトステネスの篩	素数表の作成法と素数分布の特徴を紹介する。
第 08 回	計算の一般化	行列の基本的な定義や用語を理解する。
第 09 回	行列の基本計算	行列の掛算と計算の意味を理解する。
第 10 回	行列計算の応用	日本の 2030 年人口の予測を行う。
第 11 回	隣接行列・確率行列	隣接行列・確率行列の応用例を学ぶ。
第 12 回	逆行列	逆行列の計算方法とその応用例を学ぶ。
第 13 回	項書換え系	項書換え系の基本的な定義を理解する。
第 14 回	項書換え系の応用	項書換え系を利用した代数問題の解法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、アンケートや普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

配布資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 B

2016 年度以前入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	動的計画法	動的計画法の基本的な考え方を理解する。
第 03 回	ナップサック問題	ナップサックに最も効率よく財宝を詰込む方法を求める。
第 04 回	予習時間計画問題	試験に対する最適な予習時間配分の求め方を紹介する。
第 05 回	編集距離	2つの文字列の類似度の測定方法を紹介する。
第 06 回	グラフ理論	グラフ理論の基礎となる定義と用語を理解する。
第 07 回	グラフ理論の応用例	グラフ理論の初歩的な活用事例を紹介する。
第 08 回	プリム法	東京 23 区役所の効率的なネットワーク配線法を求める。
第 09 回	集合場所の問題	最小コストで全員が集合できる駅を求める方法を学ぶ。
第 10 回	オイラーの定理	上記例題に答える為の定理を紹介する。
第 11 回	一筆書きの構成	一筆書き経路を具体的に作成する方法を学ぶ。
第 12 回	ダイキストラ法	町田から羽田空港への最短経路を求める。
第 13 回	組合せ論	順列と組合せの基本的な計算方法を学ぶ。
第 14 回	母関数	100 円の両替パターンの総数を求める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、アンケートや普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見はを柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 A

2016 年度以前入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。
そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。
疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々の整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジュの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジュの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 B

2016 年度以前入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定マッチング 1	安定結婚問題における Gale-Shapley のアルゴリズムについて学ぶ。
第 3 回	安定マッチング 2	Gale-Shapley のアルゴリズムの計算量について学ぶ。
第 4 回	数学のことは	文章の記号化を練習する。
第 5 回	アルゴリズム解析 1	計算量の定義について学ぶ。
第 6 回	アルゴリズム解析 2	種々の計算量について学ぶ。
第 7 回	無向グラフ 1	無向グラフの定義と記法を確認する。
第 8 回	無向グラフ 2	2 部グラフとケーニッヒの定理について学ぶ。
第 9 回	グラフアルゴリズム 1	木構造と幅優先探索アルゴリズムについて学ぶ。
第 10 回	グラフアルゴリズム 2	木構造と深さ優先探索アルゴリズムについて学ぶ。
第 11 回	データ構造	配列とリストについて学ぶ。
第 12 回	有向グラフ 1	有向グラフの定義と記法を確認する。
第 13 回	有向グラフ 2	トポロジカルソートについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 A

2016 年度以前入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 国環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
 2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
 3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。
 そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。
 疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々の整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially number theory and algebraic systems.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

MAT100LA

教養数学 B

2016 年度以前入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 国環キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定マッチング 1	安定結婚問題における Gale-Shapley のアルゴリズムについて学ぶ。
第 3 回	安定マッチング 2	Gale-Shapley のアルゴリズムの計算量について学ぶ。
第 4 回	数学のことは	文章の記号化を練習する。
第 5 回	アルゴリズム解析 1	計算量の定義について学ぶ。
第 6 回	アルゴリズム解析 2	種々の計算量について学ぶ。
第 7 回	無向グラフ 1	無向グラフの定義と記法を確認する。
第 8 回	無向グラフ 2	2 部グラフとケーニッヒの定理について学ぶ。
第 9 回	グラフアルゴリズム 1	木構造と幅優先探索アルゴリズムについて学ぶ。
第 10 回	グラフアルゴリズム 2	木構造と深さ優先探索アルゴリズムについて学ぶ。
第 11 回	データ構造	配列とリストについて学ぶ。
第 12 回	有向グラフ 1	有向グラフの定義と記法を確認する。
第 13 回	有向グラフ 2	トポロジカルソートについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、平常点で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially graph theory and combinatorics.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2016 年度以前入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 A・B / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみる事が求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^t$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2016 年度以前入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 A・B / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2016 年度以前入学者

松田 直祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年 F・G / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^t$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分のレベルにあった問題に取り組めるよう、いくつかのレベルの問題・資料を用意する。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2016 年度以前入学者

松田 直祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年 F・G / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分のレベルにあった問題に取り組めるよう、いくつかのレベルの問題・資料を用意する。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2016 年度以前入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年 H・J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^t$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2016 年度以前入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年 H・J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2016 年度以前入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年 K・L / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^t$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2016 年度以前入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年 K・L / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2016 年度以前入学者

松田 直祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年 O・Q / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^t$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分のレベルにあった問題に取り組めるよう、いくつかのレベルの問題・資料を用意する。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2016 年度以前入学者

松田 直祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年 O・Q / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分のレベルにあった問題に取り組めるよう、いくつかのレベルの問題・資料を用意する。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2016 年度以前入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年 T・U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^t$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2016 年度以前入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年 T・U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2016 年度以前入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 C・D・E / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^t$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

当科目は新規担当のため過去のアンケート等はありません。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2016 年度以前入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 C・D・E / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

当科目は新規担当のため過去のアンケート等はありません。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2016 年度以前入学者

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年 M・N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^t$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版（2011）

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2016 年度以前入学者

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年 M・N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2016 年度以前入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年 R・S / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけらる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^t$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

当科目は新規担当のため過去のアンケート等はありません。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2017 年度以降入学者
MAT100LA	
基礎数学Ⅱ	2016 年度以前入学者
江口 直日	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火 2/Tue.2 営 1 年 R・S / 法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみる事が求められる。質問歓迎。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

当科目は新規担当のため過去のアンケート等はありません。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

PHY100LA	
入門物理学 A	2017 年度以降入学者
PHY100LA	
原子から宇宙まで I	2016 年度以前入学者
石川 壮一	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 3/Thu.3 法 1 年 A～G、国 1 年 / 法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。
身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。
難しい数式はできるだけ避け、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	自然科学の中で物理学の研究対象や、本講義の内容について概観する
第 2 回	宇宙の力学	主にケプラーの法則を中心に、惑星の運動を解説する
第 3 回	地上の力学	落体の法則と慣性の法則について解説する
第 4 回	運動の記述	運動を記述する上で必要なデカルト座標、速度、加速度などについて解説する
第 5 回	ニュートンの運動の法則	運動の 3 法則について解説する
第 6 回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する
第 7 回	摩擦や空気抵抗のある運動	より現実的な、摩擦や空気抵抗のある場合の運動について具体例を示して解説する
第 8 回	運動量保存則	運動量保存則について解説する
第 9 回	仕事とエネルギー	物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する
第 10 回	エネルギー保存則	力学的エネルギー保存則について解説する
第 11 回	ロケットや人工衛星の運動	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する
第 12 回	円運動とコリオリ力	コリオリ力とその具体例について解説する
第 13 回	剛体の回転運動	剛体の回転運動と角運動量保存則について解説する
第 14 回	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、各回の学習内容の復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 80 % と平常点 20 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Recognize and recall the Newtonian laws of motion and universal gravitation
- ・ Discuss the similarities and differences in motions of objects on the Earth and in the universe
- ・ Explain the falling motion of objects
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ

2016 年度以前入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 A～G、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20 世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。本講義を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・ 光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・ 宇宙の始まりからこれまでの進化を理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。
難しい数式はできるだけ避け、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第 2 回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第 3 回	光の波動性	光の波としての性質を解説する
第 4 回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第 5 回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第 6 回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する
第 7 回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第 8 回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第 9 回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第 10 回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第 11 回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第 12 回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第 13 回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第 14 回	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、各回の学習内容を復習すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 80 % と平常点 20 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms
- ・ Explain the structure of atom focusing on the electron orbits
- ・ Explain the basic principles of the experiment that confirms the existence of the atomic nucleus
- ・ Recognize and recall the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations
- ・ Describe the scientific concept of elementary particles
- ・ Explain the energy source of the stars
- ・ Explain the Big Bang in the early universe

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙まで I

2016 年度以前入学者

吉瀬 好

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法 1 年 S～W / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な現象、惑星の運動、21 世紀中の実現を期待される新技術などを通して、それらの現象に関連する力学の法則を学習する。

【到達目標】

ガリレイ、ケプラー、ニュートンをはじめとする物理学者によって確立された運動の法則と力の性質を学習する。現代物理学への大きな流れをつかみ、物理用語などに親しみ、物理の法則が身近な生活とどのように関わっているかを知ることを第一の目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回配布するプリントを参考にしながら、基本から解説していく。ビデオ等の映像資料も可能な限り併用する。身近な例を多く取り上げる。式の使用も最小限とする。高校の物理の履修は必要としない。毎回、授業の最後にリアクションペーパーを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	導入	講義全体の概略説明と準備。
②	科学の研究法	科学の研究法とは。
③	ガリレイの実験 (1)	位置、速度、加速度。落下する物体の運動の実験。
④	ガリレイの実験 (2)	落下する物体の運動の法則の発見。
⑤	ガリレイの実験 (3)	投射した物体の運動。慣性の法則。
⑥	ニュートンの運動の法則	ニュートンの運動の法則と力。
⑦	身近な現象と力	身近な現象に関連する力。 摩擦力とは。
⑧	円運動する物体と力	円軌道上を一定の速さで運動する物体と力。
⑨	振動する物体と力	バネに取り付けられた物体の運動。
⑩	ケプラーの 3 法則	太陽の周りを公転する惑星の運動。
⑪	万有引力	ニュートンの万有引力の発見。
⑫	万有引力と潮の満ち干	1 日に 2 回満潮と干潮が起きる理由。
⑬	万有引力と宇宙への旅立ち	21 世紀の地球脱出の新技術。
⑭	試験	レポートと解答の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリント、およびノートの理解が不十分な点を洗い出し、質問状を提出できるように復習する。

【テキスト（教科書）】

授業時の配布プリント

【参考書】

参考文献を随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の最終授業時の試験と授業に臨む姿勢で評価する。ただし、試験問題中の 1 題は事前に出题する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ガリレイから未来まで

【Outline and objectives】

We will learn about mechanics while enjoying familiar phenomena. Mainly outlined the Galilei's and Newton's mechanics laws. And also universal gravitation.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ

2016 年度以前入学者

吉瀬 好

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

法 1 年 S~W / 法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

熱と光は身近な現象でありながら意外に知らないことも多い。本講義では熱と光に関する現象と性質を知って、熱と光に関連した技術についても学習することを目的とする。

【到達目標】

熱と光が身近な生活とどのように関わっているかを知ることが第一の目標とする。また、熱や光の技術に関連した新しい現象にも興味を持つことも期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、配布プリントを参考にしながら、基本から解説していく。可能な限りビデオ等の映像資料も併用する。式の使用は最小限とする。高校の物理の履修は必要としない。毎回、授業の最後にリアクションペーパーを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	熱と光の研究の歴史と概説	熱、光の法則と性質の発見の歴史の概説。
2	熱、温度、熱の移動	熱の伝わり方にはどのようなものがあるか。宇宙空間では熱はどのように伝わるか。
3	熱量の保存、熱と仕事	熱量の保存則、ジュールの研究。仕事とは。
4	気体、液体、固体の熱力学的性質	圧力とは何か。気体の膨張、圧縮の法則。断熱材とは何か。
5	熱の伝わり方と物質の色	物質の色と熱の伝わり方。
6	光電効果と光の粒子性	光は波、粒子？ 光電効果とアインシュタインの光量子仮説。
7	光の粒子性と身近な現象	光の粒子性に関係した身近な現象。
8	温室効果と赤外線	二酸化炭素はどのように地球温暖化に関わっているか。
9	光の屈折、全反射	屈折の法則。光ファイバーとは何か。
10	虹と太陽	虹の原理。虹はなぜ七色に見えるか。光の分散。
11	光の干渉	光の干渉。シャボン玉はなぜ色づいて見えるか。
12	アインシュタインの特殊相対性理論入門	特殊相対性理論とは何か。
13	時間と空間と光	特殊相対性理論 空間と時間
14	試験	レポートと解答の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを復習し、理解の不十分な点を洗い出し、質問状を提出できるようにする。

【テキスト（教科書）】

授業時の配布プリント。

【参考書】

参考文献を随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の最終授業時の試験で評価する。ただし、試験問題中の 1 題は事前に出题する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

熱と光、過去から未来まで。

【Outline and objectives】

We will learn about heat and light while enjoying familiar phenomena. Mainly outlined photoelectric effect and Einstein's theory.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙まで I

2016 年度以前入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

法 1 年 H～N・Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定である。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章、原子から宇宙まで	講義の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第 3 回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。
第 11 回	熱の法則と熱効率	熱に関係する法則と熱効率について解説する。
第 12 回	気体の法則、絶対零度	気体の法則について解説する。
第 13 回	気体分子の運動と温度	気体分子の運動と温度の関係について解説する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 80%と授業への積極的な貢献度 20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スライドに対応した配布プリントを用意して授業を進める。

【Outline and objectives】

This course teaches the physical phenomena, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ

2016 年度以前入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 1 年 H～N・Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定である。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	光の性質〈波動性〉	光（電磁波）の波動性について解説する。
第 2 回	光の性質〈粒子性〉	太陽電池に関係する、光の粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質〈二重性〉	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	水素ランプからの光	ランプから発せられる光の波長の法則について解説する。
第 5 回	原子の構造〈電子の発見〉	陰極線から電子の発見に至る研究について解説する。
第 6 回	原子の構造〈原子核の発見〉	原子の構造について解説する。
第 7 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 8 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 9 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 10 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 11 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。
第 12 回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第 13 回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第 14 回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 80%と授業への積極的な貢献度 20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特になかったが、コメントシート等を活用して疑問や質問に答えていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

This course teaches physics after the 20th century, such as light, elementary particles and the universe. It is the aim of this course to help students understand physical way of thinking to make an judgement on the merits and demerits of technology.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙まで I

2016 年度以前入学者

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物や自然の理（ことわり）の探求は、物にはたらく力と物の運動の法則を理解することから始まった。我々もそこから始めよう。入門物理学 A では自然を理解するための基礎である力学とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力学を学べば身近な物体の運動を理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。授業では、ビジュアルや日常感覚で物の理を理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力学によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動を予想（計算）出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

物理学を避けて学生生活を送ってきた人も多いと思う。物理学は難しい、理解不能だと思っている学生もいるかもしれない。ところが、物理学を楽しんでいる人も世の中にはいる。理解できれば楽しくなるのだ。楽しいと思えるまでいかなくとも、理解できれば満足感は大いにはずである。初心者が物理学（自然を記述する方法）を楽しめるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

授業は講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。黒板（板書）とプロジェクター（主に図や写真を表示）を併用して分かりやすく解説する。物理学の基礎知識がなくても理解できるように進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	首都高を等速度で走ることとは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自由に落下するとどうなるか	移動距離と速度が時間とともにどのように変化するのかを求める。
第 4 回	そっと投げたボールは放物線を描く	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	矢はなぜ飛ぶのか	同じ速さでまっすぐ進むことは静止していることと同じであることを学ぶ。
第 6 回	力は自分に跳ね返ってくる	力の作用とつり合いについて考える。
第 7 回	落下すると重力が消える	電車が発車したときや停止するときを感じる慣性力を理解する。
第 8 回	仕事をする能力の話	仕事とエネルギーの関係を学ぶ。
第 9 回	卵を割らずに受け止める方法	運動の勢いの表し方と扱い方について学ぶ。
第 10 回	二人が引き合う理由	全ての物体の間にはたらく万有引力を理解する。
第 11 回	人工衛星の速さを求める	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 12 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 13 回	走ると細く見えるのか？	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 14 回	走ると重くなるのだ	動く物体の質量が増加することを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。ノートをとることが難しい図などは授業支援システムにアップする。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論の ABC 福島肇（著）講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テストなど、配分 40 %）と期末試験（配分 60 %）で評価する。小テストと期末試験では配布プリントとノート、および指定資料の参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点の場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用したパワーポイントスライドなどの資料配布に授業支援システムを使用する。ただし、レポート提出には使わない。

【その他の重要事項】

授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。毎回出席調査を実施する。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、初回・2 回・3 回の授業時に配布するプリント「入門物理学 A 授業紹介」に示す。必ず出席してそのプリントを受け取ること。

【Outline and objectives】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ

2016 年度以前入学者

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
 文 1 年 A～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。ミクロの世界の代表である原子や馴染みのある光にかかわる現象と生活の役に立っている電気や磁気の話から、オーロラ、太陽の一生、ブラックホールなどの宇宙で起きている諸現象を解説する。宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。「入門物理学 A」と同様に、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子や光、電気と磁気と宇宙を楽しんでもらいたい。

授業は講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。黒板（板書）とプロジェクター（主に図や写真を表示）を併用して分かりやすく解説する。物理学の基礎知識がなくても理解できるように進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ナノよりも小さな世界	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	ビルの陰でスマホが使えない理由	波の基本と波のさまざまな性質を理解する。
第 4 回	電球と太陽の共通点	自然界で見られる光に関する現象と光のスペクトルを知る。
第 5 回	ネオンサインの光の正体	原子から光が放射される仕組みを理解する。
第 6 回	電子は回る	電気と磁気の基本事項を学ぶ。
第 7 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーの基本を学ぶ。
第 8 回	ラジオの電波は地球を回る	地球大気圏と電離層について学ぶ。
第 9 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏と惑星間空間や太陽圏について学ぶ。
第 10 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 11 回	太陽系は銀河系の郊外にある	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	太陽の一生	太陽の誕生から 50 億年後の姿までを学ぶ。
第 13 回	我々は宇宙の子だ	超新星爆発と我々との関係について学ぶ。
第 14 回	宇宙について考える	膨張宇宙と最新の宇宙論を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。ノートをとることが難しい図などは授業支援システムにアップする。

【参考書】

・高校の物理基礎・物理の教科書
 ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
 ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
 ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス

・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
 ・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
 ・やっかいな放射線と向き合っていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テストなど、配分 40 %）と期末試験（配分 60 %）で評価する。小テストと期末試験では配布プリントとノート、および指定資料の参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点の場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使ったパワーポイントスライドなどの資料配布に授業支援システムを使用する。ただし、レポート提出には使わない。

【その他の重要事項】

授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。毎回出席調査を実施する。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、初回・2 回の授業時に配布するプリント「入門物理学 B 授業紹介」に示す。必ず出席してそのプリントを受け取る。

【Outline and objectives】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe. It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth.

PHY100LA

入門物理学 A 2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙まで I 2016 年度以前入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、多岐にわたっている現代物理学の研究対象の中から、我々の身の回りで起こっている力とか運動に関係している現象を支配している法則（ニュートンの法則）とその応用について、歴史的側面を概観しながら、高校で物理を履修していなくても理解できるように解説する。
・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・高校で物理を履修していなくても理解できるように平易に（数式の使用は最小限度に止め、プリント、ビデオ等を活用し視覚的に理解できるように）講義を行う。
・講義内容の理解を深めるための演習問題を用意し、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章 (1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。
2	序章 (2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。
3	天界の法則と地上の法則 (1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。
4	天界の法則と地上の法則 (2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。
5	天界の法則と地上の法則 (3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。
6	運動法則 (1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。
7	運動法則 (2)	万有引力の法則について理解する。
8	運動法則 (3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。
9	色々な運動 (1)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
10	色々な運動 (2)	乗り物によっているときや自転している地球上での運動について考える。
11	色々な運動 (3)	我々の太陽系以外の惑星系の探索方法やその最近の成果について学ぶ。
12	色々な運動 (4)	宇宙における天体の運動の解析から知られるように暗黒物質などの最新のテーマについて学ぶ。
13	色々な運動 (5)	月や他の惑星に向かうための力学的条件について学ぶ。
14	まとめ	物体運動の予言性（決定論・非決定論）について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されるプリント、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。更に、新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）

・「物理学への招待」 大槻義彦著（培風館、1989）
・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版） J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」 アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 8 割程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of Newtonian mechanics, which is very fundamental filed of physics.
Students will learn how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙まで II

2016 年度以前入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 文 1 年 P～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（気候、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。
 ・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
 ・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・高校で物理を履修していなくても理解できるように平易に（数式の使用は最小限度に止め、プリント、ビデオ等を活用し視覚的に理解できるように）講義を行う。
 ・講義内容の理解を深めるための演習問題を用意し、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱 (1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱 (2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱 (3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱 (4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	光 (1)	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	光 (2)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	光 (3)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	光 (4)	光電効果など光の持っている粒子的性質を学ぶ。
10	光 (5)	原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。
12	粒子性と波動性	光の持っている”波動性”、”粒子性”について考える。
13	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。
14	まとめ	講義のまとめとして、”巨視的・微視的に見ること”および、”エネルギーの変換と保存”という観点から身の回りの現象を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されるプリント、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。更に、新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
 ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）

・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
 （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 8 割程度とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.
 Students will learn how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙まで I

2016 年度以前入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 営 1 年 A～J、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、現在の物理学や科学技術の基礎となっているニュートン力学について解説する。

身の回りの力学現象や天体の運動などがニュートン力学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。

難しい数式はできるだけ避け、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	自然科学の中で物理学の研究对象や、本講義の内容について概観する
第 2 回	宇宙の力学	主にケプラーの法則を中心に、惑星の運動を解説する
第 3 回	地上の力学	落体の法則と慣性の法則について解説する
第 4 回	運動の記述	運動を記述する上で必要なデカルト座標、速度、加速度などについて解説する
第 5 回	ニュートンの運動の法則	運動の 3 法則について解説する
第 6 回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する
第 7 回	摩擦や空気抵抗のある運動	より現実的な、摩擦や空気抵抗のある場合の運動について具体例を示して解説する
第 8 回	運動量保存則	運動量保存則について解説する
第 9 回	仕事とエネルギー	物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する
第 10 回	エネルギー保存則	力学的エネルギー保存則について解説する
第 11 回	ロケットや人工衛星の運動	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する
第 12 回	円運動とコリオリ力	コリオリ力とその具体例について解説する
第 13 回	剛体の回転運動	剛体の回転運動と角運動量保存則について解説する
第 14 回	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、各回の学習内容の復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 80 % と平常点 20 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Recognize and recall the Newtonian laws of motion and universal gravitation
- ・ Discuss the similarities and differences in motions of objects on the Earth and in the universe
- ・ Explain the falling motion of objects
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙までⅡ

2016 年度以前入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年 A～J、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20 世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。本講義を通して現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりからこれまでの進化を理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。

難しい数式はできるだけ避け、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第 2 回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第 3 回	光の波動性	光の波としての性質を解説する
第 4 回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第 5 回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第 6 回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する
第 7 回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第 8 回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第 9 回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第 10 回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第 11 回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第 12 回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第 13 回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第 14 回	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、各回の学習内容を復習すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績 80 % と平常点 20 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms
- ・ Explain the structure of atom focusing on the electron orbits
- ・ Explain the basic principles of the experiment that confirms the existence of the atomic nucleus
- ・ Recognize and recall the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations
- ・ Describe the scientific concept of elementary particles
- ・ Explain the energy source of the stars
- ・ Explain the Big Bang in the early universe

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙まで I

2016 年度以前入学者

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 営 1 年 K～U / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物や自然の理（ことわり）の探求は、物にはたらく力と物の運動の法則を理解することから始まった。我々もそこから始めよう。入門物理学 A では自然を理解するための基礎である力学とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力学を学べば身近な物体の運動を理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。授業では、ビジュアルや日常感覚で物の理を理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力学によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動を予想（計算）出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

物理学を避けて学生生活を送ってきた人も多いと思う。物理学は難しい、理解不能だと思っている学生もいるかもしれない。ところが、物理学を楽しんでいる人も世の中にはいる。理解できれば楽しくなるのだ。楽しいと思えるまでいかなくとも、理解できれば満足感は大いにはずである。初心者が物理学（自然を記述する方法）を楽しめるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

授業は講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。黒板（板書）とプロジェクター（主に図や写真を表示）を併用して分かりやすく解説する。物理学の基礎知識がなくても理解できるように進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	首都高を等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自由に落下するとどうなるか	移動距離と速度が時間とともにどのように変化するのかを求める。
第 4 回	そっと投げたボールは放物線を描く	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	矢はなぜ飛ぶのか	同じ速さでまっすぐ進むことは静止していることと同じであることを学ぶ。
第 6 回	力は自分に跳ね返ってくる	力の作用とつり合いについて考える。
第 7 回	落下すると重力が消える	電車が発車したときや停止するときを感じる慣性力を理解する。
第 8 回	仕事をする能力の話	仕事とエネルギーの関係を学ぶ。
第 9 回	卵を割らずに受け止める方法	運動の勢いの表し方と扱い方について学ぶ。
第 10 回	二人が引き合う理由	全ての物体の間にはたらく万有引力を理解する。
第 11 回	人工衛星の速さを求める	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 12 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 13 回	走ると細く見えるのか？	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 14 回	走ると重くなるのだ	動く物体の質量が増加することを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。ノートをとることが難しい図などは授業支援システムにアップする。

【参考書】

・高校の物理基礎・物理の教科書
 ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
 ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
 ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
 ・新装版 相対論の ABC 福島肇（著）講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テストなど、配分 40 %）と期末試験（配分 60 %）で評価する。小テストと期末試験では配布プリントとノート、および指定資料の参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点の場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用したパワーポイントスライドなどの資料配布に授業支援システムを使用する。ただし、レポート提出には使わない。

【その他の重要事項】

授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。毎回出席調査を実施する。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、初回・2 回・3 回の授業時に配布するプリント「入門物理学 A 授業紹介」に示す。必ず出席してそのプリントを受け取ること。

【Outline and objectives】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙まで II

2016 年度以前入学者

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

営 1 年 K~U / 法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。ミクロの世界の代表である原子や馴染みのある光にかかわる現象と生活の役に立っている電気や磁気の話から、オーロラ、太陽の一生、ブラックホールなどの宇宙で起きている諸現象を解説する。宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。「入門物理学 A」と同様に、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子や光、電気と磁気と宇宙を楽しんでもらいたい。

授業は講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。黒板（板書）とプロジェクター（主に図や写真を表示）を併用して分かりやすく解説する。物理学の基礎知識がなくても理解できるように進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ナノよりも小さな世界	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	ビルの陰でスマホが使え る理由	波の基本と波のさまざまな性質を理解する。
第 4 回	電球と太陽の共通点	自然界で見られる光に関する現象と光のスペクトルを知る。
第 5 回	ネオンサインの光の正体	原子から光が放射される仕組みを理解する。
第 6 回	電子は回る	電気と磁気の基本事項を学ぶ。
第 7 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーの基本を学ぶ。
第 8 回	ラジオの電波は地球を回 る	地球大気圏と電離層について学ぶ。
第 9 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏と惑星間空間や太陽圏について学ぶ。
第 10 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 11 回	太陽系は銀河系の郊外に ある	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	太陽の一生	太陽の誕生から 50 億年後の姿までを学ぶ。
第 13 回	我々は宇宙の子だ	超新星爆発と我々との関係について学ぶ。
第 14 回	宇宙について考える	膨張宇宙と最新の宇宙論を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。ノートをとることが難しい図などは授業支援システムにアップする。

【参考書】

・高校の物理基礎・物理の教科書
・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス

・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
・やっかいな放射線と向き合っていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テストなど、配分 40 %）と期末試験（配分 60 %）で評価する。小テストと期末試験では配布プリントとノート、および指定資料の参照可とする。試験では難しい数式を計算するような問題は出題しない。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみる試験である。平常評価が 0 点の場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使ったパワーポイントスライドなどの資料配布に授業支援システムを使用する。ただし、レポート提出には使わない。

【その他の重要事項】

授業に出席して講義を聴くことが何よりも重要である。毎回出席調査を実施する。やむを得ない理由により小テストを受験できなかった時の措置は、初回・2 回の授業時に配布するプリント「入門物理学 B 授業紹介」に示す。必ず出席してそのプリントを受け取る。

【Outline and objectives】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe. It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙まで I

2016 年度以前入学者

吉瀬 好

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な現象、惑星の運動、21 世紀中の実現を期待される新技術などを通して、それらの現象に関連する力学の法則を学習する。

【到達目標】

ガリレイ、ケプラー、ニュートンをはじめとする物理学者によって確立された運動の法則と力の性質を学習する。現代物理学への大きな流れをつかみ、物理用語などに親しみ、物理の法則が身近な生活とどのように関わっているかを知ることが第一の目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回配布するプリントを参考にしながら、基本から解説していく。ビデオ等の映像資料も可能な限り併用する。身近な例を多く取り上げる。式の使用も最小限とする。高校の物理の履修は必要としない。毎回、授業の最後にリアクションペーパーを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	導入	講義全体の概略説明と準備。
②	科学の研究法	科学の研究法とは。
③	ガリレイの実験 (1)	位置、速度、加速度。落下する物体の運動の実験。
④	ガリレイの実験 (2)	落下する物体の運動の法則の発見。
⑤	ガリレイの実験 (3)	投射した物体の運動。慣性の法則。
⑥	ニュートンの運動の法則	ニュートンの運動の法則と力。
⑦	身近な現象と力	身近な現象に関連する力。 摩擦力とは。
⑧	円運動する物体と力	円軌道上を一定の速さで運動する物体と力。
⑨	振動する物体と力	バネに取り付けられた物体の運動。
⑩	ケプラーの 3 法則	太陽の周りを公転する惑星の運動。
⑪	万有引力	ニュートンの万有引力の発見。
⑫	万有引力と潮の満ち干	1 日に 2 回満潮と干潮が起きる理由。
⑬	万有引力と宇宙への旅立ち	21 世紀の地球脱出の新技術。
⑭	試験	レポートと解答の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリント、およびノートの理解が不十分な点を洗い出し、質問状を提出できるように復習する。

【テキスト（教科書）】

授業時の配布プリント

【参考書】

参考文献を随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の最終授業時の試験と授業に臨む姿勢で評価する。ただし、試験問題中の 1 題は事前に出题する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ガリレイから未来まで

【Outline and objectives】

We will learn about mechanics while enjoying familiar phenomena. Mainly outlined the Galilei's and Newton's mechanics laws. And also universal gravitation.

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

PHY100LA

原子から宇宙まで II

2016 年度以前入学者

吉瀬 好

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

熱と光は身近な現象でありながら意外に知らないことも多い。本講義では熱と光に関する現象と性質を知って、熱と光に関連した技術についても学習することを目的とする。

【到達目標】

熱と光が身近な生活とどのように関わっているかを知ることが第一の目標とする。また、熱や光の技術に関連した新しい現象にも興味を持つことも期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、配布プリントを参考にしながら、基本から解説していく。可能な限りビデオ等の映像資料も併用する。式の使用は最小限とする。高校の物理の履修は必要としない。毎回、授業の最後にリアクションペーパーを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	熱と光の研究の歴史と概説	熱、光の法則と性質の発見の歴史の概説。
2	熱、温度、熱の移動	熱の伝わり方にはどのようなものがあるか。宇宙空間では熱はどのように伝わるか。
3	熱量の保存、熱と仕事	熱量の保存則、ジュールの研究。仕事とは。
4	気体、液体、固体の熱力学的性質	圧力とは何か。気体の膨張、圧縮の法則。断熱材とは何か。
5	熱の伝わり方と物質の色	物質の色と熱の伝わり方。
6	光電効果と光の粒子性	光は波、粒子？ 光電効果とアインシュタインの光量子仮説。
7	光の粒子性と身近な現象	光の粒子性に関係した身近な現象。
8	温室効果と赤外線	二酸化炭素はどのように地球温暖化に関わっているか。
9	光の屈折、全反射	屈折の法則。光ファイバーとは何か。
10	虹と太陽	虹の原理。虹はなぜ七色に見えるか。光の分散。
11	光の干渉	光の干渉。シャボン玉はなぜ色づいて見えるか。
12	アインシュタインの特殊相対性理論入門	特殊相対性理論とは何か。
13	時間と空間と光	特殊相対性理論空間と時間
14	試験	レポートと解答の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを復習し、理解の不十分な点を洗い出し、質問状を提出できるようにする。

【テキスト（教科書）】

授業時の配布プリント。

【参考書】

参考文献を随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の最終授業時の試験で評価する。ただし、試験問題中の 1 題は事前に出题する。レポート用紙に解答して、授業内試験の答案に添付して提出する。式の計算等の設問はない。また、出席も随時とる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

熱と光、過去から未来まで。

【Outline and objectives】

We will learn about heat and light while enjoying familiar phenomena.
Mainly outlined photoelectric effect and Einstein's theory.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学 I

2016 年度以前入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文
化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主として
ミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体作り上げられる
しくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生
活や社会に対してどのような影響をもたらしているのか明らかにしていきます。
生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方
にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は2つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に臆すること
無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らない
と、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだという言う段
階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙
する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従っ
て、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくよう
に授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科
： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文
学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、
キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

生命観の大きな変化をもたらした科学的発見・技術革新を毎回一つとりあげ、
①それについて歴史的背景、②それを理解するための基礎知識の解説、③そ
れが生命観にもたらした影響、以上3項目をたどって解説します。
授業は講義形式で、板書を多用します。毎回、授業の後半に 10～15 分程度
の映像教材を呈示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィン進化論	19 世紀に、地球上の多様な生命が単 一の起源から進化して生まれたとい う「進化論」を提唱したのがダーウィン です。この「進化論」は、現在でも生 物学の基本的な考え方「パラダイム」 として大きな影響力を持っています。 ダーウィン以降の生物学の進歩で、現 在「進化論」はどのように考えられて いるのか解説します。
第 2 回	メンデル遺伝学	「遺伝子」という考え方を 19 世紀に提 唱したのがメンデルです。その後、遺 伝子の正体が DNA であることが判り、 生物学は大きく進歩します。しかし、 相変わらず「遺伝子」という概念は、 今でも使われています。遺伝子を知る ことで何ができるようになったのか？ メンデル遺伝学の意義を考えます。
第 3 回	化学反応と酵素	今から 200 年ほど前に、「発酵」と いう生命現象は化学反応か、それとも 特殊な現象か、大きな論争が起こりま した。その結果、生物の中で化学反応 を引き起こす「酵素」が発見され、多 くの生命現象は「酵素」によってもた らされる化学反応であると考えられる ようになったのです。
第 4 回	微生物工場	単細胞生物は、増殖しながら新陳代謝 の産物をさかんに放出するので、結果 として環境汚染や逆に環境浄化を引き 起こします。この微生物の性質を利用 することで、発酵食品などの生産が可 能となりました。今では、人工的に作 られた微生物で大切な薬品の壊死像も 行われています。この微生物の特徴 と、その活用の歴史について学びます。

第 5 回	遺伝子の正体DNA	ワトソンとクリックが発見したDNAの二重らせん構造によって、メンデルが提唱した遺伝子がDNAであることが明らかになりました。DNAが遺伝子として働くために、どの様なしくみが存在しているのか解説します。
第 6 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	遺伝子の正体 DNA の発見以降、DNA を改変する事で新たな性質をもつ生物を生み出す手法が開発されました。DNA の改変によって何が可能になったかを学びます。
第 7 回	遺伝子改変生物の是非	人工的に遺伝子を改変された生物は、様々な恩恵をもたらしてくれましたが、一方で様々な社会問題も引き起こしています。遺伝子改変技術が内包する問題点を考えます。
第 8 回	ゲノム解読と遺伝子診断	DNA の塩基配列を読み取る技術が向上し、ヒトのDNAの全塩基配列をゲノムとして解読することが可能となりました。その結果、先天性の病気にとどまらず、生活習慣病のかかりやすさ等が明らかになる時代になりました。今後ゲノムデータとどの様につきあえば良いかを考えます。
第 9 回	遺伝子治療とエンハンスメント	遺伝子が原因で起きる病気は、遺伝子を改変することで治療が可能です。でも、遺伝子を改変すると、その影響は子孫にも引き継がれることとなります。その結果、遺伝子レベルで人間を強化することも夢ではありません。人間における遺伝子改変の是非について考えます。
第 10 回	単細胞生物と多細胞生物	多細胞生物の出現で、生物は細胞の寿命と個体の寿命という二つの寿命を持つこととなります。細胞が無限に増殖を続けると、個体は生きていくことができなくなります。従って、個体の寿命を延ばすためには、細胞の寿命をコントロールする必要があるわけです。しかし、細胞が死んでしまっても個体も生き続けることができます。細胞が多細胞生物を構築する過程で、個々の形態や役割がどの様に分化するのか、細胞の運命について考えます。
第 11 回	クローン技術と iPS 細胞	多細胞動物では、細胞の運命は一端決まると元に戻ることは有りません。この一端決まった細胞の運命を人工的に初期化する技術が「クローン技術」と「iPS 細胞技術」です。細胞を初期化することで何ができるようになるのか、考えてみましょう。
第 12 回	移植医療と再生医療	体の一部を修理部品として「移植」する事で、命をつなぐという「移植医療」が始まりました。その結果、移植臓器は慢性的な不足状態となります。クローン技術や iPS 細胞技術で細胞の運命をコントロールする事で、体のパーツを再生していくだけでも作れる時代に入ろうとしています。再生パーツを利用した「再生医療」の現状について解説します。
第 13 回	生命操作の是非	DNA から体が作られるしくみが判り、人工的に生命を操作することが可能となりつつあります。この技術は、人類にとってどの様な未来をもたらすのでしょうか？ 人工的に作られた作物で豊かな生活を送る日々が来るのでしょうか？ 或いは、人工的に改造された人間と、それ以外の人間の間でトラブルが発生することになるのでしょうか？ 生命操作の是非について、考えてみたいと思います。
第 14 回	まとめ	13回の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、新聞記事のうち、特に科学欄を読むように心がけて下さい。復習としては、授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

成績は、100 %提出された要約によって評価します。

春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。

携帯の撮影音がうるさいというご指摘を受けましたので、授業時間中の撮影は禁止とします。撮影することが、勉強の効率をあげるという効果も望めないと考えているからです。

板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology. The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

BIO100LA

入門生物学B

2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学Ⅱ

2016 年度以前入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
営 1 年 A～J / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。まず、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言うと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行い、板書多用します。毎回、個別の生命現象をとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10～15 分程度の映像教材を提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起こるのかと言う問題を扱う学問になります。進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 2 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。
第 3 回	共進化	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第 4 回	神経回路の可塑性	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか？ 神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。
第 5 回	本能行動	ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われていいます。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第 6 回	意識と神経	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。
第 7 回	ミームの進化	

第 8 回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。

第 9 回 社会

人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。

第 10 回 発生・分化

第 11 回 再生

iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。

第 12 回 生態学・生命観

生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。

第 13 回 種と多様性

現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。

第 14 回 まとめ

13 回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、新聞記事のうち、特に科学欄を読むように心がけて下さい。復習としては、授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、100 % 提出された要約によって評価します。春学期の授業支援システムでの入力 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

【学生の意見等からの気づき】

板書の見難さについてのご意見を頂いておりますので、改善を心がけます。また、私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。携帯の撮影音がうるさいという指摘を受けましたので、授業時間中の撮影は禁止とします。撮影することが、勉強の効率を上げるという効果も望めないと考えているからです。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへのアクセスが必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.

BIO100LA		
入門生物学 A	2017 年度以降入学者	
BIO100LA		
生命科学 I	2016 年度以前入学者	
植木 紀子		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火 5/Tue.5 営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。		
【到達目標】 本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に應ずること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1		
【授業の進め方と方法】 生命観の大きな変化をもたらした科学的発見・技術革新を毎回一つとりあげ、1 それについて歴史的背景、2 それを理解するための基礎知識の解説、3 それが生命観にもたらした影響、以上 3 項目をたどって解説します。授業は講義形式で、板書を多用します。毎回、授業の後半に 10～15 分程度の映像教材を呈示します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	生物学研究の現場から	生物は周囲の環境の変化を感知し、それに応じて行動を変化させます。この環境応答機構の研究の具体例を通じて、生物学の研究がどのように行われるのかを学びます。
第 2 回	ダーウィン進化論	19 世紀に、地球上の多様な生命が単一の起源から進化して生まれたという「進化論」を提唱したのがダーウィンです。この「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「バラダイム」として大きな影響力を持っています。ダーウィン以降の生物学の進歩で、現在「進化論」はどのように考えられているのか解説します。
第 3 回	メンデル遺伝学	「遺伝子」という考え方を 19 世紀に提唱したのがメンデルです。その後、遺伝子の正体が DNA であることが判り、生物学は大きく進歩します。しかし、相変わらず「遺伝子」という概念は、今でも使われています。遺伝子を知ることで何ができるようになったのか?メンデル遺伝学の意義を考えます。
第 4 回	化学反応と酵素	今から 200 年ほど前に、「発酵」という生命現象は化学反応か、それとも特殊な現象か、大きな論争が起こりました。その結果、生物の中で化学反応を引き起こす「酵素」が発見され、多くの生命現象は「酵素」によってもたらされる化学反応であると考えられるようになったのです。
第 5 回	微生物工場	単細胞生物は、増殖しながら新陳代謝の産物をさかんに放出するので、結果として環境汚染や逆に環境浄化を引き起こします。この微生物の性質を利用することで、発酵食品などの生産が可能となりました。今では、人工的に作られた微生物で大切な薬品の壊死像も行われています。この微生物の特徴と、その活用の歴史について学びます。
第 6 回	遺伝子の正体 DNA	ワトソンとクリックが発見した DNA の二重らせん構造によって、メンデルが提唱した遺伝子が DNA であることが明らかになりました。DNA が遺伝子として働くために、どのようなしくみが存在しているのか解説します。
第 7 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	遺伝子の正体 DNA の発見以降、DNA を改変する事で新たな性質をもつ生物を生み出す手法が開発されました。DNA の改変によって何が可能になったかを学びます。
第 8 回	遺伝子改変生物の是非	人工的に遺伝子を改変された生物は、様々な恩恵をもたらしてくれましたが、一方で様々な社会問題も引き起こしています。遺伝子改変技術が内包する問題点を考えます。
第 9 回	ゲノム解説と遺伝子診断	DNA の塩基配列を読み取る技術が向上し、ヒトの DNA の全塩基配列をゲノムとして解読することが可能となりました。その結果、先天性の病気にとどまらず、生活習慣病のかかりやすさ等が明らかになる時代になりました。今後ゲノムデータとどの様につきあえば良いかを考えます。
第 10 回	遺伝子治療とエンハンスメント	遺伝子が原因で起きる病気は、遺伝子を改変することで治療が可能です。でも、遺伝子を改変すると、その影響は子孫にも引き継がれることとなります。その結果、遺伝子レベルで人間を強化することも夢ではありません。人間における遺伝子改変の是非について考えます。
第 11 回	単細胞生物と多細胞生物	多細胞生物の出現で、生物は細胞の寿命と個体の寿命という二つの寿命を持つことになります。細胞が無限に増殖を続けると、個体は生きていくことができなくなります。従って、個体の寿命を延ばすためには、細胞の寿命をコントロールする必要があるわけです。
第 12 回	クローン技術と iPS 細胞	しかし、細胞が死んでしまっても個体も生き続けることができません。細胞が多細胞生物を構築する過程で、個々の形態や役割がどの様に分化するのか、細胞の運命について考えます。
第 13 回	移植医療と再生医療	多細胞動物では、細胞の運命は一端決まると元に戻ることは有りません。この一端決まった細胞の運命を人工的に初期化する技術が「クローン技術」と「iPS 細胞技術」です。細胞を初期化することで何ができるようになるのか、考えてみましょう。
第 14 回	生命操作の是非	体の一部を修理部品として「移植」する事で、命をつなぐという「移植医療」が始まりました。その結果、移植臓器は慢性的な不足状態となります。クローン技術や iPS 細胞技術で細胞の運命をコントロールする事で、体のパーツを再生していくだけでも作れる時代に入ろうとしています。再生パーツを利用した「再生医療」の現状について解説します。
		DNA から体が作られるしくみが判り、人工的に生命を操作することが可能となりつつあります。この技術は、人類にとってどのような未来をもたらすのでしょうか?人工的に作られた作物で豊かな生活を送る日々が来るのでしょうか?或いは、人工的に改造された人間と、それ以外の人間の間でトラブルが発生することになるのでしょうか?生命操作の是非について、考えてみたいと思います。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 受講生の皆さんは、新聞記事のうち、特に科学欄を読むように心がけて下さい。復習としては、授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。		
【テキスト（教科書）】 教科書は無し。		

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

成績は、100%提出された要約によって評価します。

春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology. The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学Ⅱ

2016 年度以前入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

営 1 年 K～U、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1+1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つあります。まず、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行い、板書を多用します。毎回、個別の生命現象を取りあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境と生物多様性は、約 38 億年前の生命の誕生以降、光合成生物、真核生物そして多細胞生物の誕生、カンブリア爆発、生命の陸上への進出といった大きなイベントを経て成り立っています。生物世界を時間軸で捉えることを目指し、地球史・生命進化史を概説します。
第 2 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第 3 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。
第 5 回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第 6 回	本能行動	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか?神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。

第 7 回	意識と神経	ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われていいます。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第 8 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。
第 9 回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。
第 10 回	社会	人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。
第 11 回	発生・分化	多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。
第 12 回	再生	iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。
第 13 回	生態学的生命観	生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。
第 14 回	種と多様性	現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、新聞記事のうち、特に科学欄を読むように心がけて下さい。復習としては、授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。
成績は、100%提出された要約によって評価します。
春学期の授業支援システムでの入力 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

- 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
- 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
- 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. The goal of this class is to understand the macro- mechanism of living organisms.

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
植木 紀子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水 5/Wed.5	
文 1 年 A～X、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどの様な影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に應すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

生命観の大きな変化をもたらした科学的発見・技術革新を毎回一つとりあげ、1 それについて歴史的背景、2 それを理解するための基礎知識の解説、3 それが生命観にもたらした影響、以上 3 項目をたどって解説します。授業は講義形式で、板書多用します。毎回、授業の後半に 10~15 分程度の映像教材を呈示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生物学研究の現場から	生物は周囲の環境の変化を感知し、それに応じて行動を変化させます。この環境応答機構の研究の具体例を通じて、生物学の研究がどのように行われるのかを学びます。
第 2 回	ダーウィン進化論	19 世紀に、地球上の多様な生命が単一の起源から進化して生まれたという「進化論」を提唱したのがダーウィンです。この「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。ダーウィン以降の生物学の進歩で、現在「進化論」はどのように考えられているのか解説します。
第 3 回	メンデル遺伝学	「遺伝子」という考え方を 19 世紀に提唱したのがメンデルです。その後、遺伝子の正体が DNA であることが判り、生物学は大きく進歩します。しかし、相変わらず「遺伝子」という概念は、今でも使われています。遺伝子を知ることで何ができるようになったのか?メンデル遺伝学の意義を考えます。
第 4 回	化学反応と酵素	今から 200 年ほど前に、「発酵」という生命現象は化学反応か、それとも特殊な現象か、大きな論争が起こりました。その結果、生物の中で化学反応を引き起こす「酵素」が発見され、多くの生命現象は「酵素」によってもたらされる化学反応であると考えられるようになったのでした。

第 5 回	微生物工場	単細胞生物は、増殖しながら新陳代謝の産物をさかんに放出するので、結果として環境汚染や逆に環境浄化を引き起こします。この微生物の性質を利用することで、発酵食品などの生産が可能となりました。今では、人工的に作られた微生物で大切な薬品の壊死像も行われています。この微生物の特徴と、その活用の歴史について学びます。ワトソンとクリックが発見した DNA の二重らせん構造によって、メンデルが提唱した遺伝子が DNA であることが明らかになりました。DNA が遺伝子として働くために、どのようなしくみが存在しているのか解説します。
第 6 回	遺伝子の正体 DNA	遺伝子の正体 DNA の発見以降、DNA を改変する事で新たな性質をもつ生物を生み出す手法が開発されました。DNA の改変によって何が可能になったかを学びます。
第 7 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を改変された生物は、様々な恩恵をもたらしてくれましたが、一方で様々な社会問題も引き起こしています。遺伝子改変技術が内包する問題点を考えます。
第 8 回	遺伝子改変生物の是非	DNA の塩基配列を読み取る技術が向上し、ヒトの DNA の全塩基配列をゲノムとして解読することが可能となりました。その結果、先天性の病気にとどまらず、生活習慣病のかかりやすさ等が明らかになる時代になりました。今後ゲノムデータとどの様につきあえば良いかを考えます。
第 9 回	ゲノム解読と遺伝子診断	遺伝子が原因で起きる病気は、遺伝子を改変することで治療が可能です。でも、遺伝子を改変すると、その影響は子孫にも引き継がれることになります。その結果、遺伝子レベルで人間を強化することも夢ではありません。人間における遺伝子改変の是非について考えます。
第 10 回	遺伝子治療とエンハンスメント	多細胞生物の出現で、生物は細胞の寿命と個体の寿命という二つの寿命を持つことになります。細胞が無限に増殖を続けると、個体は生きていくことができなくなります。従って、個体の寿命を延ばすためには、細胞の寿命をコントロールする必要があるわけです。
第 11 回	単細胞生物と多細胞生物	しかし、細胞が死んでしまっても個体も生き続けることができます。細胞が多細胞生物を構築する過程で、個々の形態や役割がどの様に分化するのか、細胞の運命について考えます。
第 12 回	クローン技術と iPS 細胞	多細胞動物では、細胞の運命は一端決まると元に戻ることは有りません。この一端決まった細胞の運命を人工的に初期化する技術が「クローン技術」と「iPS 細胞技術」です。細胞を初期化することで何ができるようになるのか、考えてみましょう。
第 13 回	移植医療と再生医療	体の一部を修理部品として「移植」する事で、命をつなぐという「移植医療」が始まりました。その結果、移植用臓器は慢性的な不足状態となります。クローン技術や iPS 細胞技術で細胞の運命をコントロールする事で、体のパーツを再生していくだけでも作れる時代に入ろうとしています。再生パーツを利用した「再生医療」の現状について解説します。
第 14 回	生命操作の是非	DNA から体が作られるしくみが判り、人工的に生命を操作することが可能となりつつあります。この技術は、人類にとってどのような未来をもたらすのでしょうか?人工的に作られた作物で豊かな生活を送る日々が来るのでしょうか?或いは、人工的に改造された人間と、それ以外の人間の間でトラブルが発生することになるのでしょうか?生命操作の是非について、考えてみたいと思います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、新聞記事のうち、特に科学欄を読むように心がけて下さい。復習としては、授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

成績は、100%提出された要約によって評価します。

春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。

3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology. The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

BIO100LA	
入門生物学B	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学Ⅱ	2016 年度以前入学者
植木 紀子	
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 曜日・時限：水 5/Wed.5	
文 1 年 A～X、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1+1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】
本授業の到達目標は 2 つ有ります。まず、「生物学」という言葉に臆すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式で行い、板書多用します。毎回、個別の生命現象をとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境と生物多様性は、約 38 億年前の生命の誕生以降、光合成生物、真核生物そして多細胞生物の誕生、カンブリア爆発、生命の陸上への進出といった大きなイベントを経て成り立っています。生物世界を時間軸で捉えることを目指し、地球史・生命進化史を概説します。
第 2 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 3 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共生進化について考えてみます。記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第 4 回	共進化	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか?神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。
第 5 回	神経回路の可塑性	
第 6 回	本能行動	

第 7 回	意識と神経	ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われていいます。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第 8 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。
第 9 回	群れ	人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。
第 10 回	社会	iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。
第 11 回	発生・分化	生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。
第 12 回	再生	現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。
第 13 回	生態学的生命観	
第 14 回	種と多様性	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、新聞記事のうち、特に科学欄を読むように心がけて下さい。復習としては、授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】
教科書は無し。

【参考書】
参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。
成績は、100%提出された要約によって評価します。
春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】
1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

【学生の意見等からの気づき】
本年度から始める授業になります。

【学生が準備すべき機器他】
単位取得には、授業支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】
メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】
In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. The goal of this class is to understand the macro- mechanism of living organisms.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学 I

2016 年度以前入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 1 年 A～G / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学の発展の歴史や科学技術などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、生物学の進歩が私たちの社会・暮らし・考え方にもたらした影響と共に、人間が生命というものをどのようにとらえてきた（とらえている）のかが見えてくると 생각합니다。

【到達目標】

本授業は、人間社会の発展や価値観に影響を及ぼした生物学的な基礎知識の取得し、その現代社会における重要性を理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大まかに、「細胞と細胞内の生命現象」、「重要な生物学的概念・発展」、「生命操作」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業は講義形式で、パワーポイントを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、地球の歴史において、生命はどのように誕生し進化してきたのかについても考えます。
第 2 回	細胞と生命	「生命の最小単位」であると認識されている細胞。その基本的な特徴について解説すると共に、そこに反映される生命観についても考えてみます。
第 3 回	細胞呼吸	生物は、呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象として、その仕組みを学びます。
第 4 回	生命活動を支える酵素	様々な化学反応が起きています。それらが全て常温で起きていることは驚くべきことです。これを可能にしている「酵素」について学びます。
第 5 回	進化論	ダーウィンの提唱した進化論は現在でも生物学の重要概念として認識されています。ダーウィン以前や現在の考え方を含めて進化論を解説します。
第 6 回	メンデル遺伝学	メンデルの研究成果は、その後の生物学の発展に大きく寄与するものでした。メンデルの研究とその意義について学びます。
第 7 回	DNA の構造と機能	現在では、「遺伝物質」と言えば「DNA」が情報分子としてごく当たり前に認識されています。そこに至る知識の積み上げと DNA の基本的構造・機能について学びます。
第 8 回	ゲノム分析	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を解析できれば、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノム分析はヒトをはじめとする生命について何を教えてくれるかを考えて見ます。
第 9 回	生命操作の技術：遺伝子組み換え	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術の原理を学ぶと共に、その発展について学びます。

第 10 回	生命操作の技術：クローニング	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは。iPS 細胞などの最新技術を含めて基本原理から解説します。
第 11 回	生命操作と生物利用 1：微生物	人間は、細菌類などの微生物を古代から活用してきましたが、遺伝子組み換え技術はそのあり方を大きく変えました。微生物利用の歴史と共に、現在の微生物技術についても学びます。
第 12 回	生命操作と生物利用 2：動植物	遺伝子組み換えやクローニング技術は、植物や動物にも適用されています。食料生産から衛生管理まで、開発・実用事例から現状を解説します。
第 13 回	生命倫理	生物学の進歩によって、人類は生命に干渉・介入する手段を次々と獲得してきました。それは、人類の未来にとって何を意味するのか。学習内容を振り返りながら考察します。
第 14 回	春学期期末試験	春学期の期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読。
復習として授業内容の要約の作成。
欠席時には授業支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト＝40%、期末試験＝50%、授業参加＝10%を基本とします。小テストは学期中に2回実施。期末試験は最終回の授業時間に実施します。

【学生の意見等からの気づき】

生物学の知識・関心にはばらつきがあり、配布資料や映像資料を充実させることで幅広く学生のニーズに対応することを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course provides an opportunity to learn basic biology in light of its impact on our lives and the view on life.

BIO100LA

入門生物学B

2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学Ⅱ

2016 年度以前入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 1 年 A～G / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的現象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるものと思います。

【到達目標】

本授業は、社会的に重要視されている種々の環境問題をよりよく理解するための生物学的基礎知識の取得と問題解決に向けて取得した知識の活用を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「生物同士の関係」「生態系」「生物多様性」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業は講義形式で、パワーポイントを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。「個体群」以上の階層構造を確認しながら、導入として生物の個体群の見せる数量的な振る舞い（個体群動態）の基礎を学びます。
第 2 回	生態系とは	生態系とはそもそも何なのか。概念としての発展経緯とともにその基礎的な成り立ちを学びます。
第 3 回	生態系を流れるエネルギー	光合成のメカニズムと食物連鎖によるエネルギーの受け渡しから生態系におけるエネルギー供給について学びます。
第 4 回	生態系を循環する物質	炭素・窒素・水を例に物質循環を学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第 5 回	生態系の安定性	生態系の保護・保全や持続可能な資源利用について考えるにあたり、「安定した生態系」とはどのようなものかを解説します。
第 6 回	生物同士の関係 1：種内関係と種間関係（捕食-被食）	生物同士の相互作用について、同種の個体同士の関係と異種間の「食う、食われる」の関係の例にして解説します。
第 7 回	生物同士の関係 2：競争と共生	生物同士の相互作用について、異種間の「競争」と「共生」を例にして解説します。
第 8 回	生物同士の関係 3：生物のコミュニティ	多数の生物が同時に複数種類の関係を持つ複雑な相互作用について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 9 回	生態系管理と森林資源	生物同士の関係や生態系の特徴を正しく理解することの重要性を、森林資源を管理をテーマに確認します。
第 10 回	生命進化と生物多様性	生物多様性への導入として。生命進化のプロセスを概観すると共に、新たな種が出現するメカニズムについても学びます。
第 11 回	生物多様性とは	そもそも生物多様性とは何か。その成り立ちや生態系機能との関係性について学びます。
第 12 回	生物多様性と人間社会	生物多様性はなぜ守らなければならないのか。人間社会にとっての生物多様性の重要性を「生態系サービス」の観点から解説します。

第 13 回 保全生態学

生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、保全の取り組み事例から基本的なアプローチと課題について学びます。

第 14 回 秋学期試験

秋学期の期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読。

復習として授業内容の要約の作成。

欠席時には授業支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト＝40 %、期末試験＝50 %、授業参加＝10%を基本とします。小テストは学期中に 2 回実施。期末試験は最終回の授業時間に実施します。

【学生の意見等からの気づき】

100 分授業より有効に活用するためにペース配分や映像資料の活用など、学生の関心を維持する工夫が必要とされる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may come in contact with in their daily life.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学 I

2016 年度以前入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学の発展の歴史や科学技術などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。そうすることで、生物学の進歩が私たちの社会・暮らし・考え方にもたらした影響と共に、人間が生命というものをどのようにとらえてきた（とらえている）のかが見えてくると 생각합니다。

【到達目標】

本授業は、人間社会の発展や価値観に影響を及ぼした生物学的な基礎知識の取得し、その現代社会における重要性を理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大まかに、「細胞と細胞内の生命現象」、「重要な生物学的概念・発展」、「生命操作」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業は講義形式で、パワーポイントを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、地球の歴史において、生命はどのように誕生し進化してきたのかについても考えます。
第 2 回	細胞と生命	「生命の最小単位」であると認識されている細胞。その基本的な特徴について解説すると共に、そこに反映される生命観についても考えてみます。
第 3 回	細胞呼吸	生物は、呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象として、その仕組みを学びます。
第 4 回	生命活動を支える酵素	様々な化学反応が起きています。それらが全て常温で起きていることは驚くべきことです。これを可能にしている「酵素」について学びます。
第 5 回	進化論	ダーウィンの提唱した進化論は現在でも生物学の重要概念として認識されています。ダーウィン以前や現在の考え方を含めて進化論を解説します。
第 6 回	メンデル遺伝学	メンデルの研究成果は、その後の生物学の発展に大きく寄与するものでした。メンデルの研究とその意義について学びます。
第 7 回	DNA の構造と機能	現在では、「遺伝物質」と言えば「DNA」が情報分子としてごく当たり前に認識されています。そこに至る知識の積み上げと DNA の基本的構造・機能について学びます。
第 8 回	ゲノム分析	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を解析できれば、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノム分析はヒトをはじめとする生命について何を教えてくれるかを考えて見ます。
第 9 回	生命操作の技術：遺伝子組み換え	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術の原理を学ぶと共に、その発展について学びます。

第 10 回	生命操作の技術：クローニング	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは。iPS 細胞などの最新技術を含めて基本原理から解説します。
第 11 回	生命操作と生物利用 1：微生物	人間は、細菌類などの微生物を古代から活用してきましたが、遺伝子組み換え技術はそのあり方を大きく変えました。微生物利用の歴史と共に、現在の微生物技術についても学びます。
第 12 回	生命操作と生物利用 2：動植物	遺伝子組み換えやクローニング技術は、植物や動物にも適用されています。食料生産から衛生管理まで、開発・実用事例から現状を解説します。
第 13 回	生命倫理	生物学の進歩によって、人類は生命に干渉・介入する手段を次々と獲得してきました。それは、人類の未来にとって何を意味するのか。学習内容を振り返りながら考察します。
第 14 回	春学期期末試験	春学期の期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読。
復習として授業内容の要約の作成。
欠席時には授業支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト＝40%、期末試験＝50%、授業参加＝10%を基本とします。小テストは学期中に2回実施。期末試験は最終回の授業時間に実施します。

【学生の意見等からの気づき】

生物学の知識・関心にはばらつきがあり、配布資料や映像資料を充実させることで幅広く学生のニーズに対応することを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course provides an opportunity to learn basic biology in light of its impact on our lives and the view on life.

BIO100LA

入門生物学B

2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学Ⅱ

2016 年度以前入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 S～Y / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。日常的に接する機会のある自然環境・資源関連のニュースなどの理解も深まるものと思います。

【到達目標】

本授業は、社会的に重要視されている種々の環境問題をよりよく理解するための生物学的基礎知識の取得と問題解決に向けて取得した知識の活用を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「生物同士の関係」「生態系」「生物多様性」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業は講義形式で、パワーポイントを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。「個体群」以上の階層構造を確認しながら、導入として生物の個体群の見せる数量的な振る舞い（個体群動態）の基礎を学びます。
第 2 回	生態系とは	生態系とはそもそも何なのか。概念としての発展経緯とともにその基礎的な成り立ちを学びます。
第 3 回	生態系を流れるエネルギー	光合成のメカニズムと食物連鎖によるエネルギーの受け渡しから生態系におけるエネルギー供給について学びます。
第 4 回	生態系を循環する物質	炭素・窒素・水を例に物質循環を学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第 5 回	生態系の安定性	生態系の保護・保全や持続可能な資源利用について考えるにあたり、「安定した生態系」とはどのようなものかを解説します。
第 6 回	生物同士の関係 1：種内関係と種間関係（捕食-被食）	生物同士の相互作用について、同種の個体同士の関係と異種間の「食う、食われる」の関係を例にして解説します。
第 7 回	生物同士の関係 2：競争と共生	生物同士の相互作用について、異種間の「競争」と「共生」を例にして解説します。
第 8 回	生物同士の関係 3：生物のコミュニティ	多数の生物が同時に複数種類の関係を持つ複雑な相互作用について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 9 回	生態系管理と森林資源	生物同士の関係や生態系の特徴を正しく理解することの重要性を、森林資源を管理をテーマに確認します。
第 10 回	生命進化と生物多様性	生物多様性への導入として。生命進化のプロセスを概観すると共に、新たな種が出現するメカニズムについても学びます。
第 11 回	生物多様性とは	そもそも生物多様性とは何か。その成り立ちや生態系機能との関係性について学びます。
第 12 回	生物多様性と人間社会	生物多様性はなぜ守らなければならないのか。人間社会にとっての生物多様性の重要性を「生態系サービス」の観点から解説します。

第 13 回 保全生態学

生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、保全の取り組み事例から基本的なアプローチと課題について学びます。

第 14 回 秋学期試験

秋学期の期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読。

復習として授業内容の要約の作成。

欠席時には授業支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト＝40 %、期末試験＝50 %、授業参加＝10%を基本とします。小テストは学期中に 2 回実施。期末試験は最終回の授業時間に実施します。

【学生の意見等からの気づき】

100 分授業より有効に活用するためにペース配分や映像資料の活用など、学生の関心を維持する工夫が必要とされる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may come in contact with in their daily life.

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学 I

2016 年度以前入学者

植木 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法 1 年 H～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に應ずること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

生命観の大きな変化をもたらした科学的発見・技術革新を毎回一つとりあげ、1 それについて歴史的背景、2 それを理解するための基礎知識の解説、3 それが生命観にもたらした影響、以上 3 項目をたどって解説します。授業は講義形式で、板書を多用します。毎回、授業の後半に 10～15 分程度の映像教材を呈示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生物学研究の現場から	生物は周囲の環境の変化を感知し、それに応じて行動を変化させます。この環境応答機構の研究の具体例を通じて、生物学の研究がどのように行われるのかを学びます。
第 2 回	ダーウィン進化論	19 世紀に、地球上の多様な生命が単一の起源から進化して生まれたという「進化論」を提唱したのがダーウィンです。この「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「バラダイム」として大きな影響力を持っています。ダーウィン以降の生物学の進歩で、現在「進化論」はどのように考えられているのか解説します。
第 3 回	メンデル遺伝学	「遺伝子」という考え方を 19 世紀に提唱したのがメンデルです。その後、遺伝子の正体が DNA であることが判り、生物学は大きく進歩します。しかし、相変わらず「遺伝子」という概念は、今でも使われています。遺伝子を知ることで何ができるようになったのか?メンデル遺伝学の意義を考えます。
第 4 回	化学反応と酵素	今から 200 年ほど前に、「発酵」という生命現象は化学反応か、それとも特殊な現象か、大きな論争が起こりました。その結果、生物の中で化学反応を引き起こす「酵素」が発見され、多くの生命現象は「酵素」によってもたらされる化学反応であると考えられるようになったのです。

第 5 回 微生物工場

第 6 回 遺伝子の正体 DNA

第 7 回 遺伝子組み換えとゲノム編集

第 8 回 遺伝子改変生物の是非

第 9 回 ゲノム解読と遺伝子診断

第 10 回 遺伝子治療とエンハンスメント

第 11 回 単細胞生物と多細胞生物

第 12 回 クローン技術と iPS 細胞

第 13 回 移植医療と再生医療

第 14 回 生命操作の是非

単細胞生物は、増殖しながら新陳代謝の産物をさかんに放出するので、結果として環境汚染や逆に環境浄化を引き起こします。この微生物の性質を利用することで、発酵食品などの生産が可能となりました。今では、人工的に作られた微生物で大切な薬品の壊死像も行われています。この微生物の特徴と、その活用の歴史について学びます。ワトソンとクリックが発見した DNA の二重らせん構造によって、メンデルが提唱した遺伝子が DNA であることが明らかになりました。DNA が遺伝子として働くために、どの様なしくみが存在しているのか解説します。遺伝子の正体 DNA の発見以降、DNA を改変する事で新たな性質をもつ生物を生み出す手法が開発されました。DNA の改変によって何が可能になったかを学びます。

人工的に遺伝子を改変された生物は、様々な恩恵をもたらしてくれましたが、一方で様々な社会問題も引き起こしています。遺伝子改変技術が内包する問題点を考えます。DNA の塩基配列を読み取る技術が向上し、ヒトの DNA の全塩基配列をゲノムとして解読することが可能となりました。その結果、先天性の病気にとどまらず、生活習慣病のかかりやすさ等が明らかになる時代になりました。今後ゲノムデータとどの様につきあえば良いかを考えます。

遺伝子が原因で起きる病気は、遺伝子を改変することで治療が可能です。でも、遺伝子を改変すると、その影響は子孫にも引き継がれることとなります。その結果、遺伝子レベルで人間を強化することも夢ではありません。人間における遺伝子改変の是非について考えます。

多細胞生物の出現で、生物は細胞の寿命と個体の寿命という二つの寿命を持つこととなります。細胞が無限に増殖を続けると、個体は生きていくことができなくなります。従って、個体の寿命を延ばすためには、細胞の寿命をコントロールする必要があるわけです。しかし、細胞が死んでしまっても個体も生き続けることができません。細胞が多細胞生物を構築する過程で、個々の形態や役割がどの様に分化するのか、細胞の運命について考えます。

多細胞動物では、細胞の運命は一端決まると元に戻ることは有りません。この一端決まった細胞の運命を人工的に初期化する技術が「クローン技術」と「iPS 細胞技術」です。細胞を初期化することで何ができるようになるのか、考えてみましょう。

体の一部を修理部品として「移植」する事で、命をつなぐという「移植医療」が始まりました。その結果、移植臓器は慢性的な不足状態となります。クローン技術や iPS 細胞技術で細胞の運命をコントロールする事で、体のパーツを再生していくらでも作れる時代に入ろうとしています。再生パーツを利用した「再生医療」の現状について解説します。

DNA から体が作られるしくみが判り、人工的に生命を操作することが可能となりつつあります。この技術は、人類にとってどの様な未来をもたらすのでしょうか?人工的に作られた作物で豊かな生活を送る日々が来るのでしょうか?或いは、人工的に改造された人間と、それ以外の人間の間でトラブルが発生することになるのでしょうか?生命操作の是非について、考えてみたいと思います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、新聞記事のうち、特に科学欄を読むように心がけて下さい。復習としては、授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

成績は、100%提出された要約によって評価します。

春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology. The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学Ⅱ

2016 年度以前入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

法 1 年 H～N / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1+1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つあります。まず、「生物学」という言葉に應ずること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだという言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行い、板書を多用します。毎回、個別の生命現象を取りあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境と生物多様性は、約 38 億年前の生命の誕生以降、光合成生物、真核生物そして多細胞生物の誕生、カンブリア爆発、生命の陸上への進出といった大きなイベントを経て成り立っています。生物世界を時間軸で捉えることを目指し、地球史・生命進化史を概説します。
第 2 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第 3 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。
第 5 回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第 6 回	本能行動	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか?神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。

発行日：2019/5/1

第 7 回	意識と神経	ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われていいます。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第 8 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。
第 9 回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。
第 10 回	社会	人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。
第 11 回	発生・分化	多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。
第 12 回	再生	iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。
第 13 回	生態学的生命観	生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。
第 14 回	種と多様性	現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、新聞記事のうち、特に科学欄を読むように心がけて下さい。復習としては、授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。
成績は、100%提出された要約によって評価します。
春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

- 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
- 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
- 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. The goal of this class is to understand the macro- mechanism of living organisms.

BIO100LA	
入門生物学 A	2017 年度以降入学者
BIO100LA	
生命科学 I	2016 年度以前入学者
植木 紀子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 3/Thu.3 国 1 年／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。春学期の「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代生物学の基礎知識を学びながら、生物学が私達の生活や社会に対してどの様な影響をもたらしているのか明らかにしていきます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりで無く、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることが判ってくることでしょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」という言葉に應すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

生命観の大きな変化をもたらした科学的発見・技術革新を毎回一つとりあげ、1 それについて歴史的背景、2 それを理解するための基礎知識の解説、3 それが生命観にもたらした影響、以上 3 項目をたどって解説します。授業は講義形式で、板書多用します。毎回、授業の後半に 10~15 分程度の映像教材を呈示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生物学研究の現場から	生物は周囲の環境の変化を感知し、それに応じて行動を変化させます。この環境応答機構の研究の具体例を通じて、生物学の研究がどのように行われるのかを学びます。
第 2 回	ダーウィン進化論	19 世紀に、地球上の多様な生命が単一の起源から進化して生まれたという「進化論」を提唱したのがダーウィンです。この「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。ダーウィン以降の生物学の進歩で、現在「進化論」はどのように考えられているのか解説します。
第 3 回	メンデル遺伝学	「遺伝子」という考え方を 19 世紀に提唱したのがメンデルです。その後、遺伝子の正体が DNA であることが判り、生物学は大きく進歩します。しかし、相変わらず「遺伝子」という概念は、今でも使われています。遺伝子を知ることで何ができるようになったのか?メンデル遺伝学の意義を考えます。
第 4 回	化学反応と酵素	今から 200 年ほど前に、「発酵」という生命現象は化学反応か、それとも特殊な現象か、大きな論争が起こりました。その結果、生物の中で化学反応を引き起こす「酵素」が発見され、多くの生命現象は「酵素」によってもたらされる化学反応であると考えられるようになったのでした。

第 5 回	微生物工場	単細胞生物は、増殖しながら新陳代謝の産物をさかんに放出するので、結果として環境汚染や逆に環境浄化を引き起こします。この微生物の性質を利用することで、発酵食品などの生産が可能となりました。今では、人工的に作られた微生物で大切な薬品の壊死像も行われています。この微生物の特徴と、その活用の歴史について学びます。
第 6 回	遺伝子の正体 DNA	ワトソンとクリックが発見した DNA の二重らせん構造によって、メンデルが提唱した遺伝子が DNA であることが明らかになりました。DNA が遺伝子として働くために、どのようなしくみが存在しているのか解説します。
第 7 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	遺伝子の正体 DNA の発見以降、DNA を改変する事で新たな性質をもつ生物を生み出す手法が開発されました。DNA の改変によって何が可能になったかを学びます。
第 8 回	遺伝子改変生物の是非	人工的に遺伝子を改変された生物は、様々な恩恵をもたらしてくれましたが、一方で様々な社会問題も引き起こしています。遺伝子改変技術が内包する問題点を考えます。
第 9 回	ゲノム解読と遺伝子診断	DNA の塩基配列を読み取る技術が向上し、ヒトの DNA の全塩基配列をゲノムとして解読することが可能となりました。その結果、先天性の病気にとどまらず、生活習慣病のかかりやすさ等が明らかになる時代になりました。今後ゲノムデータとどの様につきあえば良いかを考えます。
第 10 回	遺伝子治療とエンハンスメント	遺伝子が原因で起きる病気は、遺伝子を改変することで治療が可能です。でも、遺伝子を改変すると、その影響は子孫にも引き継がれることになります。その結果、遺伝子レベルで人間を強化することも夢ではありません。人間における遺伝子改変の是非について考えます。
第 11 回	単細胞生物と多細胞生物	多細胞生物の出現で、生物は細胞の寿命と個体の寿命という二つの寿命を持つことになります。細胞が無限に増殖を続けると、個体は生きていくことができなくなります。従って、個体の寿命を延ばすためには、細胞の寿命をコントロールする必要があるわけです。しかし、細胞が死んでしまっても個体も生き続けることができます。細胞が多細胞生物を構築する過程で、個々の形態や役割がどの様に分化するのか、細胞の運命について考えます。
第 12 回	クローン技術と iPS 細胞	多細胞動物では、細胞の運命は一端決まると元に戻ることは有りません。この一端決まった細胞の運命を人工的に初期化する技術が「クローン技術」と「iPS 細胞技術」です。細胞を初期化することで何ができるようになるのか、考えてみましょう。
第 13 回	移植医療と再生医療	体の一部を修理部品として「移植」する事で、命をつなぐという「移植医療」が始まりました。その結果、移植用臓器は慢性的な不足状態となります。クローン技術や iPS 細胞技術で細胞の運命をコントロールする事で、体のパーツを再生していくだけでも作れる時代に入ろうとしています。再生パーツを利用した「再生医療」の現状について解説します。
第 14 回	生命操作の是非	DNA から体が作られるしくみが判り、人工的に生命を操作することが可能となりつつあります。この技術は、人類にとってどのような未来をもたらすのでしょうか?人工的に作られた作物で豊かな生活を送る日々が来るのでしょうか?或いは、人工的に改造された人間と、それ以外の人間の間でトラブルが発生することになるのでしょうか?生命操作の是非について、考えてみたいと思います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、新聞記事のうち、特に科学欄を読むように心がけて下さい。復習としては、授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

成績は、100%提出された要約によって評価します。

春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

1. 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
2. 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
3. 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology. The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

BIO100LA

入門生物学B2017 年度以降入学者

BIO100LA

生命科学Ⅱ2016 年度以前入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1+1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。まず、「生物学」という言葉に聴すること無く、自分で調べる力を身につけることです。今まで「生物学」は判らないと、最初からあきらめている状態から、調べれば判りそうだと言う段階までステップアップする事をめざします。また、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、自然と文章力と論理的思考が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行い、板書多用します。毎回、個別の生命現象をとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境と生物多様性は、約 38 億年前の生命の誕生以降、光合成生物、真核生物そして多細胞生物の誕生、カンブリア爆発、生命の陸上への進出といった大きなイベントを経て成り立っています。生物世界を時間軸で捉えることを目指し、地球史・生命進化史を概説します。
第 2 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 3 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第 4 回	共進化	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか?神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。
第 5 回	神経回路の可塑性	
第 6 回	本能行動	

第 7 回意識と神経

第 8 回ミームの進化

第 9 回群れ

第 10 回社会

第 11 回発生・分化

第 12 回再生

第 13 回生態学的生命観

第 14 回種と多様性

ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われていいます。「意識」を作り出す背景について考えてみます。

神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。

人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。

iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。

生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。

現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、新聞記事のうち、特に科学欄を読むように心がけて下さい。復習としては、授業の要約を作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の要約を、それぞれ約 200 字で作成し、授業支援システムを通じて提出してもらいます。成績は、100%提出された要約によって評価します。春学期の授業支援システムでの入力は 5 月下旬以降になる予定です。

【成績に関わるルール】

- 単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。
- 授業中の私語は、他学生に対する授業妨害行為と見なし、成績上のペナルティーを課します。
- 授業中の写真撮影を禁じます。黒板を携帯電話などで撮影することも禁止です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、授業支援システムへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. The goal of this class is to understand the macro- mechanism of living organisms.

CHM100LA	
入門化学 A	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 I	2016 年度以前入学者
向井 知大	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水 3/Wed.3 法 1 年 I～N、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子や分子の構造や特徴、物質からエネルギーが得られるしくみについて、主に化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】

自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。重要なページはプリントで配布します。また、授業で理解しておいて欲しいところを問題にしたプリントも配布します。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	物質の進化	元素の生い立ちについて
第 3 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 4 回	原子固有の光	電子の軌道と光のエネルギーについて
第 5 回	同位体	放射性同位体の壊変と半減期について
第 6 回	放射線	放射線の種類と性質
第 7 回	放射線と生体	放射線の活用や生体に及ぼす影響について
第 8 回	化学結合	原子が結びつく仕組みについて
第 9 回	分子の立体構造	化学結合によってできる分子の形について
第 10 回	炭素材料	炭素原子のみでできた物質の種類と機能について
第 11 回	水と物質	物質に対する水の挙動について
第 12 回	燃焼と消火	物質と酸素の化学反応
第 13 回	電池	化学電池、特にリチウムイオン二次電池の構造と特徴
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します。(配分 100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces molecular structure and properties. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM100LA	
入門化学 B	2017 年度以降入学者
CHM100LA	
物質と環境 II	2016 年度以前入学者
向井 知大	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水 3/Wed.3 法 1 年 I～N、国 1 年／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

暮らしの中の物質と環境問題の原因について、化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】

現象や物質について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、複雑な記号に見える有機物質の化学構造式から、その性質をある程度読み取ることができるようになることを目標に設定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。重要なページはプリントで配布します。また、授業で理解しておいて欲しいところを問題にしたプリントも配布します。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	光の三原色	光の性質と発光物質について
第 3 回	色の三原色	色素分子の特徴とクロミック現象について
第 4 回	自然の色素	天然の色素分子と視物質の挙動について
第 5 回	ヨウ素の科学	ヨウ素分子とヨウ化物イオン、有機ヨウ素分子の違いとそれぞれの利用について
第 6 回	光の散乱	分子の振動と光を用いた物質の分析について
第 7 回	赤外線吸収	二酸化炭素の振動のしかたと赤外線吸収の関係について
第 8 回	キラリティー	分子の右手と左手の関係について
第 9 回	液晶の発見と構造色	物質の状態変化にともなう分子の配向、運動状態の変化について
第 10 回	液晶ディスプレイ	電気を流さない物質が電場から受ける影響について
第 11 回	高分子	天然高分子と化学繊維やプラスチックの違いについて
第 12 回	触媒	化学反応を促進する原理について
第 13 回	排煙の浄化	排気ガスの浄化や化学物質の合成における触媒の役割について
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します。(配分 100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces molecular structure and properties. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境 I

2016 年度以前入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法 1 年 S～W、文 1 年 P～V / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布プリント、プロジェクターを使用しながら、講義形式で進めます。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。受講者の質問や要望、理解度に応じて、必要と判断した場合は、以下の授業スケジュールを適宜修正する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要の説明、化学で使われる単位
第 2 回	物質を作るもの	原子と分子、原子の構造
第 3 回	原子の構造と化学的性質	原子の電子配置と化学的性質、周期表、化学結合
第 4 回	酸塩基反応について	酸・塩基とは、身近な中和反応
第 5 回	酸化還元反応について	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第 6 回	化学反応と熱について	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第 7 回	物質の状態について	気体・液体・固体間の変化と熱収支、溶液
第 8 回	放射能とは	放射性崩壊とは、放射線の種類
第 9 回	地球温暖化（1）	地球温暖化の仕組みと原因物質
第 10 回	地球温暖化（2）	地球温暖化の現状、予測、影響、対策
第 11 回	大気汚染	大気汚染物質、PM2.5 の発生源、オゾン層の破壊
第 12 回	水と土壌	表層水と海洋、土壌化学、土壌汚染
第 13 回	エネルギーと環境	化石燃料、原子力発電、再生可能エネルギー
第 14 回	試験	全講義内容（ノート等持込可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。プリントを配布します。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（10 %）、期末試験（ノート等持込可）（90%）

【学生の意見等からの気づき】

学生意見を反映し、昨年度よりスケジュールを変更して、放射化学については、後の方で取り扱うようにします。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions.

CHM100LA

入門化学 B

2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境 II

2016 年度以前入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
法 1 年 S～W、文 1 年 P～V / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習します。また、有害化学物質の管理について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布プリント、プロジェクターを使用しながら、講義形式で進めます。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。受講者の質問や要望、理解度に応じて、必要と判断した場合は、下記の授業スケジュールを適宜修正する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要の説明、原子・分子について
第 2 回	有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、表記法
第 3 回	官能基について	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第 4 回	親水性・疎水性	水への溶けやすさを決めるものとは。
第 5 回	酸性・塩基性	酸性・塩基性官能基
第 6 回	有機化合物の反応について	有機化合物の酸化
第 7 回	炭化水素について	重合反応
第 8 回	炭化水素について	炭化水素の構造と命名法、身近な炭化水素化合物
第 9 回	酸素・窒素含有化合物について	身近な酸素・窒素含有化合物の構造と性質
第 10 回	芳香族化合物について	身近な芳香族化合物の構造と性質
第 11 回	生体を作る有機化合物①	糖質とタンパク質について
第 12 回	生体を作る有機化合物②	脂質と核酸について
第 13 回	生体内の化学反応	酵素、代謝について
第 14 回	有害化学物質について	人体や生態系に有害な化学物質
第 15 回	化学物質と安全衛生	化学物質の有害性情報の見方、有害化学物質の管理について
第 16 回	試験	全講義内容（ノート等持込可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をし、理解できないところは積極的に質問してください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。プリントを配布します。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（10%）、期末試験（ノート等持込可）（90%）

【学生の意見等からの気づき】

有機化学の内容はわかりやすかったが、生化学が難しかった、という意見があったので、生化学については、生命を維持する仕組みの流れが大まかにとらえられるよう、昨年度内容より若干変更します。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonds, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms.

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境 I

2016 年度以前入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
文 1 年 A～N、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきた。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠である。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説する。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

【到達目標】

現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立している。しかしながら、一人当たりのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠である。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げる。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には板書を行いながら、講義形式で進める。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていくことが求められる。ノートはルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用すること。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について説明する。
第 2 回	環境問題の歴史	古代・近代の環境問題を概観し原因を議論する。
第 3 回	エネルギーと環境問題	環境問題・文明の盛衰がエネルギーと密接に関連していることを議論する。
第 4 回	エネルギーの性質	エネルギーに関する法則を解説しエネルギーの性質について学習する。
第 5 回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第 6 回	元素	原子の種類と表記法について講義する。
第 7 回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第 8 回	核反応	種々の放射性壊変の形式を演習を交えて学習する。
第 9 回	放射性核種	天然放射性核種および人工放射性核種の種類や反応について講義する。
第 10 回	核反応方程式	核反応の表記法やエネルギーの出入りについて講義する。
第 11 回	原子炉内の核分裂反応	実際に原子力発電所で利用されている核反応について詳細に検討する。
第 12 回	原子力発電所の構造	原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。
第 13 回	原子力発電所の種類	軽水炉、高速増殖炉、ブルサールなど発電所の種類を学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけ早い段階で、教科書を通読すること。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を勧める。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する。また、必要に応じてプリント教材を配布する。

書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進める。

【Outline and objectives】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境Ⅱ

2016 年度以前入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 文 1 年 A～N、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきた。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠である。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説する。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

【到達目標】

現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には板書を行いながら、講義形式で進める。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていくことが求められる。ノートはルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用すること。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第2回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第3回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第4回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第5回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第6回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。
第7回	炭化水素の H/C 比	炭化水素の H/C 比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第8回	CO ₂ の排出量	CO ₂ の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第9回	石炭	石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第10回	石油	石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第11回	天然ガス	天然ガスに関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題等を学習する。
第12回	その他の化石燃料	オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。
第13回	温暖化・酸性雨	化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけ早い段階で、教科書を通読すること。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を勧める。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する。また、必要に応じてプリント教材を配布する。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進める。

【Outline and objectives】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy consumption caused by the combustion of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境 I

2016 年度以前入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

営 1 年 K~U、環 1 年／法文営国環キ 2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきた。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠である。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説する。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

【到達目標】

現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立している。しかしながら、一人当たりのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠である。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げる。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には板書を行いながら、講義形式で進める。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていくことが求められる。ノートはルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用すること。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について説明する。
第 2 回	環境問題の歴史	古代・近代の環境問題を概観し原因を議論する。
第 3 回	エネルギーと環境問題	環境問題・文明の盛衰がエネルギーと密接に関連していることを議論する。
第 4 回	エネルギーの性質	エネルギーに関する法則を解説しエネルギーの性質について学習する。
第 5 回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第 6 回	元素	原子の種類と表記法について講義する。
第 7 回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第 8 回	核反応	種々の放射性壊変の形式を演習を交えて学習する。
第 9 回	放射性核種	天然放射性核種および人工放射性核種の種類や反応について講義する。
第 10 回	核反応方程式	核反応の表記法やエネルギーの出入りについて講義する。
第 11 回	原子炉内の核分裂反応	実際に原子力発電所で利用されている核反応について詳細に検討する。
第 12 回	原子力発電所の構造	原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。
第 13 回	原子力発電所の種類	軽水炉、高速増殖炉、ブルサールなど発電所の種類を学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけ早い段階で、教科書を通読すること。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を勧める。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する。また、必要に応じてプリント教材を配布する。

書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進める。

【Outline and objectives】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境Ⅱ

2016 年度以前入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 営 1 年 K～U、環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきた。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠である。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説する。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的である。

【到達目標】

現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられている。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料でもある。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には板書を行いながら、講義形式で進める。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていくことが求められる。ノートはルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用すること。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第2回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第3回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第4回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第5回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第6回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。
第7回	炭化水素の H/C 比	炭化水素の H/C 比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第8回	CO ₂ の排出量	CO ₂ の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第9回	石炭	石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第10回	石油	石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第11回	天然ガス	天然ガスに関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題等を学習する。
第12回	その他の化石燃料	オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。
第13回	温暖化・酸性雨	化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけ早い段階で、教科書を通読すること。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を勧める。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用する。また、必要に応じてプリント教材を配布する。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎
 出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価する。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進める。

【Outline and objectives】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy consumption caused by the combustion of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture.

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境 I

2016 年度以前入学者

赤羽 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
営 1 年 A～J、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「化学」という学問の視点から、自然界の物質やその構成要素である「分子」について学習します。地球上の物質そして生命体は、ほとんどすべて原子が2個以上結合してできた分子で作られています。この分子の、自然界、生命体、日常生活での役割について学びます。その理由は、私たちがより良く生きるためには、自然界を構成している物質や分子を理解することがとても大切だからです。

【到達目標】

物質の構成要素である分子について、以下のことを理解し、口頭または文章で表現できるようになること：

- 1) 分子は、物質や生命体の構成要素であること。
- 2) 原子の結合によって分子が生じ、その性質や数にはほとんど限りがないこと。
- 3) 分子は人類の生存に必要な「エネルギー」に関係していること。
- 4) 自然界や人間の日常の世界における分子の役割について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で行います。黒板のほか、パワーポイントも毎回使います。授業内での発表等、アクティブ・ラーニングの方法は取りません。しかし、学生の授業への実質的参加を促すため、授業中に質問をしたり、1回の授業内容を文章でまとめてもらったりしたいと思います。宿題も課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要	自然界と自然界にある物質、その構成要素である分子について、14回の授業に沿った概論的な話をします。
2	自然界と物質	物質は何でできているのだろうか。どんな状態にあるのだろうか。固体、液体、気体の性質を考えます。
3	物質と分子	物質はどこまで分けられるか？物質を構成するものは何だろうか。元素と同位元素、そして原子とは？
4	分子と原子	分子とは何だろうか。分子は原子から形成されていることを学びます。
5	分子と化合物、そしてイオン	原子が2個以上結合すると分子が生じますが、それは様々な性質や形を持つ化合物や電荷を持つイオンになります。
6	分子の数：その数え方	分子の変化（化学反応）を学ぶ基礎として、アボガドロ数とモルについて学びます。
7	分子と結合：共有結合とイオン結合	原子から分子が生成するときの、原子が他の原子と形成する結合の数と結合の仕方を学びます。
8	分子の大きさ：分子、巨大分子、高分子、そして超分子	分子1個はナノメートルサイズあるいはそれ以下です。しかし、その何千倍、何万倍の巨大分子や超分子も存在します。
9	分子は形をもつ	分子は特定の三次元的な形を持っていて、それが性質に大きく関わります。
10	分子は変化する：化学反応の世界	分子を加熱したり、光照射したりすると、結合が切断されて別の分子になります。これが化学反応で、物質に変化をもたらします。
11	分子と日常生活	食物、衣服、医薬品（薬）など、身の周りの物質はほとんどが分子から構成されています。
12	生命体を作る分子：タンパク質	私たちの体を作っているのも分子です。その代表格のタンパク質の基礎を学びます。

13	化学反応とエネルギー	化学反応が起こるとエネルギーの出入りがあります。その基礎と応用について学びます。
14	まとめ：実験はどうやるのだろうか。	ここまでのまとめと、分子を研究するための実験装置、器具、実験方法について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容には十分には十分には大学向けなので、予習としてまず教科書をよく読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容への「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。

【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017年5月（初版第4刷）、1600円＋税

【参考書】

1) 「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本21」編、化学同人；2) 分子のはたらきがわかる10話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3) 人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店。なお、この他にも授業中に紹介します。また、授業内容に関わるプリントも適宜配布します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、レポート一回30%。期末試験は内容の理解度、レポートは内容の程度と論述の仕方（文章表現）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

秋学期の入門化学 B（赤羽担当）へと内容が連続していくので、化学全般を理解するために、入門化学 B も履修することが望ましい。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の1)が、分子の性質や働きについては2)が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには3)が特に役に立つと思います。

【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the world of molecules that form materials in nature. The course will deal with: a) the molecules consist of atoms; b) a tiny molecule, the size of it is usually within the order of nm or less, may make giant molecules like proteins by using chemical bonds; c) chemical reactions of molecules may produce new molecules eventually leading to new materials that are not present until then. It will also point out important role of chemistry in everyday life, and will emphasize the vital relationship of chemistry with energy that mankind needs to live. The course will be designed for college students who will take chemistry course as a subject for the first time.

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境Ⅱ

2016 年度以前入学者

赤羽 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 営 1 年 A～J、キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の入門化学 A を基礎に、より進んだ段階の化学を扱います。具体的には、1) 身の回りにある物質に関係の深い有機化合物の化学とそれが起こす化学反応、2) 生体内反応で使われている酵素などのタンパク質の化学、そして、エネルギーと環境の観点から、3) 人間の生活に必要なエネルギーとその化学について、具体的には化石燃料の化学、太陽光エネルギー有効利用にかかわる有機化合物と光の相互作用とそれが起こす化学反応、について学びます。この授業は、21 世紀の社会に貢献するために、いかなる職業につこうとも必要となる自然科学（化学）の素養を形成します。

【到達目標】

分子の性質と化学反応、分子と光の相互作用、分子の持つエネルギーの利用可能性について、以下のことを理解し、口頭あるいは文章で表現できること。
 1) 基本的な有機化合物の構造と性質、および、それが起こす化学反応、2) 生体内化学反応に関与するタンパク質である酵素についての基礎的事柄、3) 化石燃料の利用、4) 有機化合物と光の相互作用、ならびに、光により起こる有機化合物の化学反応、5) 分子を利用したエネルギー変換について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で行います。黒板のほか、パワーポイントも毎回使います。授業内での発表等、アクティブ・ラーニングの方法は取りません。しかし、学生の授業への実質的参加を促すため、授業中に質問をしたり、1 回の授業内容を文章でまとめてもらったりしたいと思います。宿題も課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	有機化合物とは：その歴史と人間社会での役割	有機化合物とは何か、歴史も含めて、その基本を学びます。
2	有機化合物の構造と性質：官能基	有機化合物の性質を決める「官能基」を中心に、構造や反応性の基礎を学びます。
3	いろいろな有機化合物（1）炭化水素	炭素原子の結合の作り方を中心に、炭素と水素で作られている炭化水素の構造について学びます。
4	いろいろな有機化合物（2）アルコールとカルボン酸、エステル類	酸素原子を含む有機化合物について学びます。日常生活においても重要な化合物です。
5	有機化合物の立体化学：分子の不思議な関係	有機化合物には、「右手」と「左手」に相当する分子が存在します。その性質と意味について考えます。
6	アミノ酸の化学とタンパク質	タンパク質の構成成分であるアミノ酸や、生体内化学反応の「触媒」である酵素の基礎を学びます。
7	材料の有機化学	材料でもある衣服や紙など、日常的に使われている有機化合物の化学から最先端材料の化学までを学びます。
8	酸素の化学：有機化合物との相互作用	酸素がなければヒトは生きていけません。酸素と有機化合物の相互作用、酸化、燃焼について学びます。オゾンにも触れます。
9	光と分子：光は分子に何ができるか。	光の性質、そして、光と有機化合物の相互作用の仕方を学びます。
10	光と有機化合物：形の変化と反応	有機化合物は光を吸収して形を変えます。これで分子が持つエネルギーが変わります。
11	太陽光とクロロフィルの化学	光合成は生命の源です。何が起きているか、光と分子の観点から探ります。
12	エネルギーと有機化学：化石燃料	化石燃料とその利用について学びます。
13	太陽光有効利用と化学	エネルギーは人類生存に欠かせません。光が起こす有機化合物の反応からこの問題を考えます。

14 まとめ

これまでのまtoめとして、有機化合物、酸素、光、そして、エネルギーの関係を復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習として教科書をしっかり読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容の「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。

【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017 年 5 月（初版第 4 刷）、1600 円＋税

【参考書】

1) 「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本 21」編、化学同人；2) 分子のはたらきがわかる 10 話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3) 人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店；4) 有機化学の基本ー電子のやりとりから反応を理解するー、富岡秀雄ら著、化学同人；5) エネルギーの化学ー人類の未来に向けてー（第 2 版）、安井伸郎、三共出版。この他にも授業中に指定します。授業内容に関わるプリントも適宜配布します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、レポート一回 30%。期末試験は内容の理解度、レポートは内容の程度と論述の仕方（文章表現）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

春学期の入門化学 A（赤羽担当）の内容を基礎とするので、入門化学 A を履修していることが望ましい。しかし、初めてこの入門化学 B を取る学生にもわかりやすく、入門化学 A の内容にも時々触れながら授業を行います。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の 1) が、分子の性質や働きについては 2) が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには 3) が特に役に立つと思います。また、有機化学入門には 4) が、エネルギーの化学全般には 5) が有用です。

【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the structures, reactions, and utility of organic compounds. The compounds include hydrocarbons, alcohols, esters, proteins, compounds containing asymmetric carbons, and various organic materials such as dyes and other advanced materials. The course will also deal with unique role of molecular oxygen in living world, and typical organic transformation with molecular oxygen, including combustion of fossil fuels, will be explained. Finally, organic photochemistry, i.e., the interaction of light with organic compounds, will be described in terms of utilization of solar energy conversion as a promising energy conversion technology in 21st century.

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境 I

2016 年度以前入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 1 年 A～H・Y、文 1 年 W～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

配布プリント、プロジェクターを使用しながら、講義形式で進めます。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。受講者の質問や要望、理解度に応じて、必要と判断した場合は、以下の授業スケジュールを適宜修正する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要の説明、化学で使われる単位
第 2 回	物質を作るもの	原子と分子、原子の構造
第 3 回	原子の構造と化学的性質	原子の電子配置と化学的性質、周期表、化学結合
第 4 回	酸塩基反応について	酸・塩基とは、身近な中和反応
第 5 回	酸化還元反応について	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第 6 回	化学反応と熱について	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第 7 回	物質の状態について	気体・液体・固体間の変化と熱収支、溶液
第 8 回	放射能とは	放射性崩壊とは、放射線の種類
第 9 回	地球温暖化（1）	地球温暖化の仕組みと原因物質
第 10 回	地球温暖化（2）	地球温暖化の現状、予測、影響、対策
第 11 回	大気汚染	大気汚染物質、PM2.5 の発生源、オゾン層の破壊
第 12 回	水と土壌	表層水と海洋、土壌化学、土壌汚染
第 13 回	エネルギーと環境	化石燃料、原子力発電、再生可能エネルギー
第 14 回	試験	全講義内容（ノート等持込可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。プリントを配布します。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（10 %）、期末試験（ノート等持込可）（90%）

【学生の意見等からの気づき】

学生意見を反映し、昨年度よりスケジュールを変更して、放射化学については、後の方で取り扱うようにします。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions.

CHM100LA

入門化学 B

2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境 II

2016 年度以前入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 1 年 A～H・Y、文 1 年 W～X / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識を持って、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習します。また、有害化学物質の管理について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

配布プリント、プロジェクターを使用しながら、講義形式で進めます。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。受講者の質問や要望、理解度に応じて、必要と判断した場合は、下記の授業スケジュールを適宜修正する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要の説明、原子・分子について
第 2 回	有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、表記法
第 3 回	官能基について	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第 4 回	親水性・疎水性	水への溶けやすさを決めるものとは。
第 5 回	酸性・塩基性	酸性・塩基性官能基
第 6 回	有機化合物の反応について	有機化合物の酸化
第 7 回	炭化水素について	重合反応
第 8 回	炭化水素について	炭化水素の構造と命名法、身近な炭化水素化合物
第 9 回	炭化水素について	身近な炭素・窒素含有化合物の構造と性質
第 10 回	炭化水素について	身近な芳香族化合物の構造と性質
第 11 回	炭化水素について	糖質とタンパク質について
第 12 回	炭化水素について	脂質と核酸について
第 13 回	炭化水素について	酵素、代謝について
第 14 回	炭化水素について	人体や生態系に有害な化学物質
第 15 回	炭化水素について	化学物質の有害性情報の見方、有害化学物質の管理について
第 16 回	炭化水素について	全講義内容（ノート等持込可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をし、理解できないところは積極的に質問してください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。プリントを配布します。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（10%）、期末試験（ノート等持込可）（90%）

【学生の意見等からの気づき】

有機化学の内容はわかりやすかったが、生化学が難しかった、という意見があったので、生化学については、生命を維持する仕組みの流れが大まかにとらえられるよう、昨年度内容より若干変更します。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonds, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms.

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境 I

2016 年度以前入学者

赤羽 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文堂国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「化学」という学問の視点から、自然界の物質やその構成要素である「分子」について学習します。地球上の物質そして生命体は、ほとんどすべて原子が2個以上結合してできた分子で作られています。この分子の、自然界、生命体、日常生活での役割について学びます。その理由は、私たちがより良く生きるためには、自然界を構成している物質や分子を理解することがとても大切だからです。

【到達目標】

物質の構成要素である分子について、以下のことを理解し、口頭または文章で表現できるようになること：

- 1) 分子は、物質や生命体の構成要素であること。
- 2) 原子の結合によって分子が生じ、その性質や数にはほとんど限りがないこと。
- 3) 分子は人類の生存に必要な「エネルギー」に関係していること。
- 4) 自然界や人間の日常の世界における分子の役割について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で行います。黒板のほか、パワーポイントも毎回使います。授業内での発表等、アクティブ・ラーニングの方法は取りません。しかし、学生の授業への実質的参加を促すため、授業中に質問をしたり、1回の授業内容を文章でまとめてもらったりしたいと思います。宿題も課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要	自然界と自然界にある物質、その構成要素である分子について、14回の授業に沿った概論的な話をします。
2	自然界と物質	物質は何でできているのだろうか。どんな状態にあるのだろうか。固体、液体、気体の性質を考えます。
3	物質と分子	物質はどこまで分けられるか？ 物質を構成するものは何だろうか。元素と同位元素、そして原子とは？
4	分子と原子	分子とは何だろうか。分子は原子から形成されていることを学びます。
5	分子と化合物、そしてイオン	原子が2個以上結合すると分子が生じますが、それは様々な性質や形を持つ化合物や電荷を持つイオンになります。
6	分子の数：その数え方	分子の変化（化学反応）を学ぶ基礎として、アボガドロ数とモルについて学びます。
7	分子と結合：共有結合とイオン結合	原子から分子が生成するときの、原子が他の原子と形成する結合の数と結合の仕方を学びます。
8	分子の大きさ：分子、巨大分子、高分子、そして超分子	分子1個はナノメートルサイズあるいはそれ以下です。しかし、その何千倍、何万倍の巨大分子や超分子も存在します。
9	分子は形をもつ	分子は特定の三次元的な形を持っていて、それが性質に大きく関わります。
10	分子は変化する：化学反応の世界	分子を加熱したり、光照射したりすると、結合が切断されて別の分子になります。これが化学反応で、物質に変化をもたらします。
11	分子と日常生活	食物、衣服、医薬品（薬）など、身の周りの物質はほとんどが分子から構成されています。
12	生命体を作る分子：タンパク質	私たちの体を作っているのも分子です。その代表格のタンパク質の基礎を学びます。

13	化学反応とエネルギー	化学反応が起こるとエネルギーの出入りがあります。その基礎と応用について学びます。
14	まとめ：実験はどうやるのだろうか。	ここまでのまとめと、分子を研究するための実験装置、器具、実験方法について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容には十分には大学向けなので、予習としてまず教科書をよく読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容への「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。

【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017年5月（初版第4刷）、1600円＋税

【参考書】

1) 「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本21」編、化学同人；2) 分子のはたらきがわかる10話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3) 人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店。なお、この他にも授業中に紹介します。また、授業内容に関わるプリントも適宜配布します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、レポート一回30%。期末試験は内容の理解度、レポートは内容の程度と論述の仕方（文章表現）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

秋学期の入門化学 B（赤羽担当）へと内容が連続していくので、化学全般を理解するために、入門化学 B も履修することが望ましい。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の1) が、分子の性質や働きについては2) が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには3) が特に役に立つと思います。

【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the world of molecules that form materials in nature. The course will deal with: a) the molecules consist of atoms; b) a tiny molecule, the size of it is usually within the order of nm or less, may make giant molecules like proteins by using chemical bonds, c) chemical reactions of molecules may produce new molecules eventually leading to new materials that are not present until then. It will also point out important role of chemistry in everyday life, and will emphasize the vital relationship of chemistry with energy that mankind needs to live. The course will be designed for college students who will take chemistry course as a subject for the first time.

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

CHM100LA

物質と環境Ⅱ

2016 年度以前入学者

赤羽 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法文堂国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の入門化学 A を基礎に、より進んだ段階の化学を扱います。具体的には、1) 身の回りにある物質に関係の深い有機化合物の化学とそれが起こす化学反応、2) 生体内反応で使われている酵素などのタンパク質の化学、そして、エネルギーと環境の観点から、3) 人間の生活に必要なエネルギーとその化学について、具体的には化石燃料の化学、太陽光エネルギー有効利用にかかわる有機化合物と光の相互作用とそれが起こす化学反応、について学びます。この授業は、21 世紀の社会に貢献するために、いかなる職業につこうとも必要となる自然科学（化学）の素養を形成します。

【到達目標】

分子の性質と化学反応、分子と光の相互作用、分子の持つエネルギーの利用可能性について、以下のことを理解し、口頭あるいは文章で表現できること。
1) 基本的な有機化合物の構造と性質、および、それが起こす化学反応、2) 生体内化学反応に関与するタンパク質である酵素についての基礎的事柄、3) 化石燃料の利用、4) 有機化合物と光の相互作用、ならびに、光により起こる有機化合物の化学反応、5) 分子を利用したエネルギー変換について。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で行います。黒板のほか、パワーポイントも毎回使います。授業内での発表等、アクティブ・ラーニングの方法は取りません。しかし、学生の授業への実質的参加を促すため、授業中に質問をしたり、1 回の授業内容を文章でまとめてもらったりしたいと思います。宿題も課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	有機化合物とは：その歴史と人間社会での役割	有機化合物とは何か、歴史も含めて、その基本を学びます。
2	有機化合物の構造と性質：官能基	有機化合物の性質を決める「官能基」を中心に、構造や反応性の基礎を学びます。
3	いろいろな有機化合物（1）炭化水素	炭素原子の結合の作り方を中心に、炭素と水素で作られている炭化水素の構造について学びます。
4	いろいろな有機化合物（2）アルコールとカルボン酸、エステル類	酸素原子を含む有機化合物について学びます。日常生活においても重要な化合物です。
5	有機化合物の立体化学：分子の不思議な関係	有機化合物には、「右手」と「左手」に相当する分子が存在します。その性質と意味について考えます。
6	アミノ酸の化学とタンパク質	タンパク質の構成成分であるアミノ酸や、生体内化学反応の「触媒」である酵素の基礎を学びます。
7	材料の有機化学	材料でもある衣服や紙など、日常的に使われている有機化合物の化学から最先端材料の化学までを学びます。
8	酸素の化学：有機化合物との相互作用	酸素がなければヒトは生きていけません。酸素と有機化合物の相互作用、酸化、燃焼について学びます。オゾンにも触れます。
9	光と分子：光は分子に何ができるか。	光の性質、そして、光と有機化合物の相互作用の仕方を学びます。
10	光と有機化合物：形の変化と反応	有機化合物は光を吸収して形を変えます。これで分子が持つエネルギーが変わります。
11	太陽光とクロロフィルの化学	光合成は生命の源です。何が起きているか、光と分子の観点から探ります。
12	エネルギーと有機化学：化石燃料	化石燃料とその利用について学びます。
13	太陽光有効利用と化学	エネルギーは人類生存に欠かせません。光が起こす有機化合物の反応からこの問題を考えます。

14 まとめ

これまでのまともとして、有機化合物、酸素、光、そして、エネルギーの関係を復習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書は子供向け（children's books の一つ）とありますが、内容は、本質的には十分に大学向けなので、予習として教科書をしっかり読むことが大切です。授業は教科書にある話題の解説と、より進んだ段階の内容の「橋渡し」なので、必ず出席しなくてはなりません。「参考書」も適宜参考にして、授業理解に努めることが必要です。宿題、授業内の課題は必ず遂行します。

【テキスト（教科書）】

科学キャラクター図鑑「化学ー化けるの大好き!ー」、サイモン・バシャー（絵）、ダン・グリーン（文）、藤田千枝（訳）、玉川大学出版部、2017 年 5 月（初版第 4 刷）、1600 円＋税

【参考書】

1) 「化学」入門編ー身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみー、日本化学会化学教育協議会「グループ・化学の本 21」編、化学同人；2) 分子のはたらきがわかる 10 話、斎藤勝裕、岩波ジュニア新書、岩波書店；3) 人物で語る化学入門、竹内敬人、岩波新書、岩波書店；4) 有機化学の基本ー電子のやりとりから反応を理解するー、富岡秀雄ら著、化学同人；5) エネルギーの化学ー人類の未来に向けてー（第 2 版）、安井伸郎、三共出版。この他にも授業中に指定します。授業内容に関わるプリントも適宜配布します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、レポート一回 30%。期末試験は内容の理解度、レポートは内容の程度と論述の仕方（文章表現）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

春学期の入門化学 A（赤羽担当）の内容を基礎とするので、入門化学 A を履修していることが望ましい。しかし、初めてこの入門化学 B を取る学生にもわかりやすく、入門化学 A の内容にも時々触れながら授業を行います。予習と復習には、具体的事項の理解のためには参考書の 1) が、分子の性質や働きについては 2) が、化学の歴史や、化学という学問における歴史的人物などを知るには 3) が特に役に立つと思います。また、有機化学入門には 4) が、エネルギーの化学全般には 5) が有用です。

【Outline and objectives】

The present course will be an introductory chemistry course that describes the structures, reactions, and utility of organic compounds. The compounds include hydrocarbons, alcohols, esters, proteins, compounds containing asymmetric carbons, and various organic materials such as dyes and other advanced materials. The course will also deal with unique role of molecular oxygen in living world, and typical organic transformation with molecular oxygen, including combustion of fossil fuels, will be explained. Finally, organic photochemistry, i.e., the interaction of light with organic compounds, will be described in terms of utilization of solar energy conversion as a promising energy conversion technology in 21st century.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

ASR100LA

天文学 I

2016 年度以前入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

板書およびビデオ教材を用いて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
はじめに	宇宙と天文	宇宙と天文の字義から講義の全体像を説き起こす。
宇宙の姿	星、銀河などの実際の姿	すばる望遠鏡などの鮮明な画像、ひので太陽観測衛星による映像を紹介する。
太陽系 1	太陽と月、惑星と地球	太陽、月、地球について学習する。
太陽系 2	水星と金星、火星と生命	水星、金星、火星について学習する。
太陽系 3	木星と土星、天王星と海王星	木星、土星、天王星、海王星について学習する。
太陽系 4	冥王星、彗星、小惑星	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
望遠鏡	光学望遠鏡の発明と進歩、電波望遠鏡の仕組み	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
電磁波で探る宇宙	光および電波で見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
星の一生	恒星の誕生から死まで	恒星の一生について学ぶ。
銀河系	星団、銀河、銀河群	星およびガスの集まりである銀河および星団等について学ぶ。
宇宙の大構造	宇宙の階層構造とダークマター	宇宙全体の構造について学ぶ。
宇宙の初めと終わり	ビッグバンと宇宙膨張	宇宙の歴史について学ぶ。
ダークマター	銀河の回転曲線の謎	宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
ブラックホール	超新星の爆発と巨大ブラックホール	宇宙の中におけるブラックホールの役割を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の主要スライドは下記のホームページから無料で入手可能である。事前の予習を勧める。 https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100％）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポート等は全て自筆とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を持参することを勧める。

【Outline and objectives】

To study the wonder of the universe, especially to obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

ASR100LA

天文学 II

2016 年度以前入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

板書およびビデオ教材を用いて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ	斥力がない、長距離力である、対象を選ばない。
惑星の運動	惑星の運動の謎	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
天動説と地動説	天動説と地動説の論争	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
ケプラーの法則	ケプラーの3つの法則の由来と意味	大いなる現象論と物理三法則の初め
万有引力	ニュートンの重力理論	遠隔力、現実をよく説明。
彗星の運動	ニュートン力学による新しい示唆	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
地球の形状	英仏の大論争	フランス大探検隊の実測による決着
三体問題	解けない問題	現実問題の不可解性
天王星の発見	アマチュア天文学者ハーシェルの功績	計算から発見の時代へ
惑星を探せ	小惑星の発見	ティティウス・ボーデの法則の台頭
海王星の予言	理論的予言の勝利	ティティウス・ボーデの法則の滅亡
水星の運動の謎	水星の運動に残る微小な違い	未知惑星バルカンの探索
エーテルの否定	マックスウェル電磁気学とニュートン力学の矛盾	特殊相対論の誕生
光は曲がる	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の主要スライドは下記のホームページから無料で入手可能である。事前の予習を勧める。 https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_part_2_-_Enigma_of_Gravitation_-_in_Japanese

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100％）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポート等は全て自筆とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続できるスマホもしくは PC を持参することを勧める。

【Outline and objectives】

To study the efforts of scientists to solve the enigma of gravitation.

ASR100LA	
天文学 A	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 I	2016 年度以前入学者
福島 登志夫	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火 3/Tue.3 営キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

板書およびビデオ教材を用いて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
はじめに	宇宙と天文	宇宙と天文の字義から講義の全体像を説き起こす。
宇宙の姿	星、銀河などの実際の姿	すばる望遠鏡などの鮮明な画像、ひので太陽観測衛星による映像を紹介する。
太陽系 1	太陽と月、惑星と地球	太陽、月、地球について学習する。
太陽系 2	水星と金星、火星と生命	水星、金星、火星について学習する。
太陽系 3	木星と土星、天王星と海王星	木星、土星、天王星、海王星について学習する。
太陽系 4	冥王星、彗星、小惑星	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
望遠鏡	光学望遠鏡の発明と進歩、電波望遠鏡の仕組み	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
電磁波で探る宇宙	光および電波で見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
星の一生	恒星の誕生から死まで	恒星の一生について学ぶ。
銀河系	星団、銀河、銀河群	星およびガスの集まりである銀河および星団等について学ぶ。
宇宙の大構造	宇宙の階層構造とダークマター	宇宙全体の構造について学ぶ。
宇宙の初めと終わり	ビッグバンと宇宙膨張	宇宙の歴史について学ぶ。
ダークマター	銀河の回転曲線の謎	宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
ブラックホール	超新星の爆発と巨大ブラックホール	宇宙の中におけるブラックホールの役割を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の主要スライドは下記のホームページから無料で入手可能である。事前の予習を勧める。https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100％）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポート等は全て自筆とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を持参することを勧める。

【Outline and objectives】

To study the wonder of the universe, especially to obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

ASR100LA	
天文学 B	2017 年度以降入学者
ASR100LA	
天文学 II	2016 年度以前入学者
福島 登志夫	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火 3/Tue.3 営キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

板書およびビデオ教材を用いて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ	斥力がない、長距離力である、対象を選ばない。
惑星の運動	惑星の運動の謎	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
天動説と地動説	天動説と地動説の論争	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
ケプラーの法則	ケプラーの3つの法則の由来と意味	大いなる現象論と物理三法則の初め
万有引力	ニュートンの重力理論	遠隔力、現実をよく説明。
彗星の運動	ニュートン力学による新しい示唆	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
地球の形状	英仏の大論争	フランス大探検隊の実測による決着
三体問題	解けない問題	現実問題の不可解性
天王星の発見	アマチュア天文学者ハーシェルの功績	計算から発見の時代へ
惑星を探せ	小惑星の発見	ティティウス・ボーデの法則の台頭
海王星の予言	理論的予言の勝利	ティティウス・ボーデの法則の滅亡
水星の運動の謎	水星の運動に残る微小な違い	未知惑星バルカンの探索
エーテルの否定	マックスウェル電磁気学とニュートン力学の矛盾	特殊相対論の誕生
光は曲がる	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の主要スライドは下記のホームページから無料で入手可能である。事前の予習を勧める。https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_part_2_-_Enigma_of_Gravitation_-_in_Japanese

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100％）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポート等は全て自筆とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続できるスマホもしくは PC を持参することを勧める。

【Outline and objectives】

To study the efforts of scientists to solve the enigma of gravitation.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

ASR100LA

天文学 I

2016 年度以前入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 文国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

板書およびビデオ教材を用いて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
はじめに	宇宙と天文	宇宙と天文の字義から講義の全体像を説き起こす。
宇宙の姿	星、銀河などの実際の姿	すばる望遠鏡などの鮮明な画像、ひので太陽観測衛星による映像を紹介する。
太陽系 1	太陽と月、惑星と地球	太陽、月、地球について学習する。
太陽系 2	水星と金星、火星と生命	水星、金星、火星について学習する。
太陽系 3	木星と土星、天王星と海王星	木星、土星、天王星、海王星について学習する。
太陽系 4	冥王星、彗星、小惑星	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
望遠鏡	光学望遠鏡の発明と進歩、電波望遠鏡の仕組み	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
電磁波で探る宇宙	光および電波で見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
星の一生	恒星の誕生から死まで	恒星の一生について学ぶ。
銀河系	星団、銀河、銀河群	星およびガスの集まりである銀河および星団等について学ぶ。
宇宙の大構造	宇宙の階層構造とダークマター	宇宙全体の構造について学ぶ。
宇宙の初めと終わり	ビッグバンと宇宙膨張	宇宙の歴史について学ぶ。
ダークマター	銀河の回転曲線の謎	宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
ブラックホール	超新星の爆発と巨大ブラックホール	宇宙の中におけるブラックホールの役割を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の主要スライドは下記のホームページから無料で入手可能である。事前の予習を勧める。https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100％）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポート等は全て自筆とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能なスマホもしくは PC を持参することを勧める。

【Outline and objectives】

To study the wonder of the universe, especially to obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

ASR100LA

天文学 II

2016 年度以前入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 文国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

板書およびビデオ教材を用いて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ	斥力がない、長距離力である、対象を選ばない。
惑星の運動	惑星の運動の謎	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
天動説と地動説	天動説と地動説の論争	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
ケプラーの法則	ケプラーの3つの法則の由来と意味	大いなる現象論と物理三法則の初め
万有引力	ニュートンの重力理論	遠隔力、現実をよく説明。
彗星の運動	ニュートン力学による新しい示唆	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
地球の形状	英仏の大論争	フランス大探検隊の実測による決着
三体問題	解けない問題	現実問題の不可解性
天王星の発見	アマチュア天文学者ハーシェルの功績	計算から発見の時代へ
惑星を探せ	小惑星の発見	ティティウス・ボーデの法則の台頭
海王星の予言	理論的予言の勝利	ティティウス・ボーデの法則の滅亡
水星の運動の謎	水星の運動に残る微小な違い	未知惑星バルカンの探索
エーテルの否定	マックスウェル電磁気学とニュートン力学の矛盾	特殊相対論の誕生
光は曲がる	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の主要スライドは下記のホームページから無料で入手可能である。事前の予習を勧める。https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_part_2_-_Enigma_of_Gravitation_-_in_Japanese

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100％）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポート等は全て自筆とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続できるスマホもしくは PC を持参することを勧める。

【Outline and objectives】

To study the efforts of scientists to solve the enigma of gravitation.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

SHS100LA

科学史 I

2016 年度以前入学者

谷本 勉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 法国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

【到達目標】

今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

古代ギリシアの自然観の革命の変革の歴史を、毎回レジュメを配布し、適宜プリントを配布して、明らかにしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように学んでいくかを説明する
第 2 回	科学哲学的議論	自然認識の基盤にあるものを説明する
第 3 回	古代オリエントの神話的呪術的自然観	各文化に共通する自然観の典型として説明する
第 4 回	古代ギリシアにおける自然観の革命	なぜ西欧世界が近代科学を生み出し得たのかを考える
第 5 回	自然観革命（1）	根源のもの（アルケー）は何かを考える
第 6 回	自然観革命（2）	イオニアの自然観
第 7 回	自然観革命（3）	ヘラクレイトスとエレア派によるイオニアの自然観批判
第 8 回	自然観革命（4）	多元論者によるイオニアの自然観の再構築
第 9 回	自然観革命（5）	原子論的自然観の完成
第 10 回	自然観革命（6）	原子論的自然観とは根本的に異なる数学的自然観
第 11 回	自然観革命（7）	プラトンの数学的自然観
第 12 回	自然観革命（8）	アリストテレスの生物学的目的論的自然観 I
第 13 回	アレクサンドリア時代の科学	アリストテレスの自然観 II
第 14 回	ローマ時代の科学	ギリシアの自然観の具体的発展としての、ユークリッドやアルキメデスの科学
		古代科学と技術の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【Outline and objectives】

This lecture presents the history of scientific thinking from the ancient Orient period to the era of the ancient Roman Empire. Especially in this lecture, we aim to understand the history of three nature views created in ancient Greece, which is regarded as having great influence on the birth of modern science. Plato's mathematical view of nature, Aristotle's biological view of nature and Democritus's atomistic view of nature are that.

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

SHS100LA

科学史 II

2016 年度以前入学者

谷本 勉

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 法国 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

【到達目標】

現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

古代ギリシアの自然観に源をもつ流れが中世からルネサンスを経 16・17 世紀の科学革命にいたり、さらに近代科学の誕生にいたるまでの歴史を、毎回レジュメを配布し、適宜プリントを配布しながら、明らかにしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように学んでいくかを説明する
第 2 回	ペルシアとアラビアの科学	古代ギリシアの自然観と科学の受容の謎
第 3 回	12 世紀ルネサンス	西欧世界への古代ギリシアの自然観と科学の導入の謎
第 4 回	13 世紀の方法論革命とスコラ哲学	キリスト教とアリストテレスの関係
第 5 回	14 世紀のアリストテレス批判	近代科学誕生の序章としての力学の登場
第 6 回	神秘思想と近代科学	スコラ哲学を乗り越えるために必要だったもの
第 7 回	科学革命（1）	地球中心説からコペルニクスの太陽中心説への転換
第 8 回	科学革命（2）	崩壊したコスモスに秩序を与えたケプラーの天文学
第 9 回	科学革命（3）	新しい力学を数学的自然観と原子論的発想で形成したガリレオ
第 10 回	科学革命（4）	世界を機械論的自然観で説明しきれると考えたデカルト
第 11 回	科学革命（5）	ニュートンによる天の力学と地の力学の統一
第 12 回	啓蒙主義運動と 18 世紀の科学	ニュートン力学の受容と展開
第 13 回	産業革命と 19 世紀の科学	諸科学の登場と技術の関係
第 14 回	20 世紀の科学	現代科学の根本的特徴とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【Outline and objectives】

This lecture outlines the history of science from the death of the ancient West Roman Empire to the present age. Especially focusing on the 12th century Renaissance and the 17th century scientific revolution, we will clarify the situation that Western Europe produced modern science. The purpose of this lecture is to provide a viewpoint to think about the ideal form of science in the 21st century.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

SHS100LA

科学史 I

2016 年度以前入学者

大橋 由紀夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
文環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの伝統科学史について講義する。（科学史 A と B をあわせて、伝統科学と近代科学の全体を概観できることになる。）

【到達目標】

東アジアにおける社会と伝統科学の関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

東アジアの伝統科学史について講義する。中国科学史（特に天文学史）を中心とし、さらに、近代以前の日本科学史なども取り上げたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	科学史ガイダンス	日本とも関係の深い東アジアの伝統科学史について講義する。東アジアでは、中国で古くから科学・技術が発展しており、まず中国科学を理解することが基本となる。さらに、朝鮮半島、日本、ベトナムなどで東アジアの伝統科学が発展した。そのすべてについて半年で説明するのは困難であるが、日本科学史についてはできるだけ触れたい。
2 回	中国古代の科学（主に殷時代など）	中国古代の科学（主に殷時代など）
3 回	中国古代の科学（主に古代の自然観など）	中国古代の科学（主に古代の自然観など）
4 回	中国古代の科学（主に春秋戦国時代など）	中国古代の科学（主に春秋戦国時代など）
5 回	中国古代の科学（主に前漢時代など）	中国古代の科学（主に前漢時代など）
6 回	中国古代の科学（主に後漢時代など）	中国古代の科学（主に後漢時代など）
7 回	中国の科学（主に三国時代や晋時代など）	中国の科学（主に三国時代や晋時代など）
8 回	中国の科学（主に南北朝時代など）	中国の科学（主に南北朝時代など）
9 回	中国の科学（主に隋唐時代など）	中国の科学（主に隋唐時代など）
10 回	日本古代の科学など	日本古代の科学など
11 回	中国の科学（主に宋元時代など）	中国の科学（主に宋元時代など）
12 回	中国の科学（主に明清時代など）	中国の科学（主に明清時代など）
13 回	日本の江戸時代の科学など	日本の江戸時代の科学など
14 回	アジア諸地域の科学など	アジア諸地域の科学など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントをよく読むこと。

【テキスト（教科書）】
授業中にプリントを配布する。

【参考書】
プリントの中で示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポート。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施していない。質問や要望などがあれば、授業時に受け付ける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
A history of traditional sciences in Asia.

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

SHS100LA

科学史 II

2016 年度以前入学者

大橋 由紀夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
文環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代地中海世界・イスラーム世界・中世ヨーロッパの伝統科学史、および、近代科学成立発展史を講義する。（科学史 A と B をあわせて、伝統科学と近代科学の全体を概観できることになる。）

【到達目標】

近代科学の成立事情とともに、科学的な研究方法についても理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

古代地中海世界・イスラーム世界・中世ヨーロッパの伝統科学史、および、近代科学成立発展史を講義する。特に、コペルニクスからニュートンに至る近代科学成立期（科学革命の時代）に重点を置きたい。時間的余裕があれば、その後の現代にいたる科学の発展も概観したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	科学史ガイダンス	近代科学成立にいたる諸地域の伝統科学を概観し、さらに、コペルニクスからニュートンに至る近代科学成立期について重点的に扱う。伝統科学と近代科学の相違について、観測・実験技術の発展、数学をはじめとする理論の発展、さらに、帰納法・演繹法をはじめとする科学方法論の発展など、多面から「科学」についての理解を深めたい。
2 回	近代科学の源流としての古代中世の科学など	近代科学の源流としての古代中世の科学
3 回	古代地中海世界の科学など	古代地中海世界の科学など
4 回	古代ギリシャ科学の発展など	ギリシャ科学の発展など
5 回	古代ローマの科学など	古代ローマの科学など
6 回	イスラーム世界の科学など	イスラーム世界の科学など
7 回	ヨーロッパ中世の科学など	ヨーロッパ中世の科学など
8 回	ルネサンス時代、大航海時代の科学など	ルネサンス時代、大航海時代の科学など
9 回	コペルニクスなど	コペルニクスなど
10 回	ティコ・ブラーエなど	ティコ・ブラーエなど
11 回	ガリレオなど	ガリレオなど
12 回	ケプラーなど	ケプラーなど
13 回	ニュートンなど	ニュートンなど
14 回	近代科学成立後の発展	近代科学成立後の発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントをよく読むこと。

【テキスト（教科書）】
授業中にプリントを配布する。

【参考書】
プリントの中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポート。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施していない。質問や要望などがあれば、授業時に受け付ける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】

A history of sciences in Ancient Mediterranean World, Islamic World, Medieval Europe, and the formation and development of modern science.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

SHS100LA

科学史 I

2016 年度以前入学者

谷本 勉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
文環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

【到達目標】

今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

古代ギリシアの自然観の革命の変革の歴史を、毎回レジュメを配布し、適宜プリントを配布して、明らかにしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように学んでいくかを説明する
第 2 回	科学哲学的議論	自然認識の基盤にあるものを説明する
第 3 回	古代オリエントの神話的呪術的自然観	各文化に共通する自然観の典型として説明する
第 4 回	古代ギリシアにおける自然観の革命	なぜ西欧世界が近代科学を生み出し得たのかを考える
第 5 回	自然観革命（1）	根源のもの（アルケー）は何かを考える
第 6 回	自然観革命（2）	イオニア的自然観
第 7 回	自然観革命（3）	ヘラクレイトスとエレア派によるイオニア的自然観批判
第 8 回	自然観革命（4）	多元論者によるイオニア的自然観の再構築
第 9 回	自然観革命（5）	原子論的自然観の完成
第 10 回	自然観革命（6）	原子論的自然観とは根本的に異なる数学的自然観
第 11 回	自然観革命（7）	プラトンの数学的自然観
第 12 回	自然観革命（8）	アリストテレスの生物学的目的論的自然観 I
第 13 回	アレクサンドリア時代の科学	アリストテレスの自然観 II
第 14 回	ローマ時代の科学	ギリシアの自然観の具体的発展としての、ユークリッドやアルキメデス 古代科学と技術の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【Outline and objectives】

This lecture presents the history of scientific thinking from the ancient Orient period to the era of the ancient Roman Empire. Especially in this lecture, we aim to understand the history of three nature views created in ancient Greece, which is regarded as having great influence on the birth of modern science. Plato's mathematical view of nature, Aristotle's biological view of nature and Democritus's atomistic view of nature are that.

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

SHS100LA

科学史 II

2016 年度以前入学者

谷本 勉

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
文環 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

【到達目標】

現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

古代ギリシアの自然観に源をもつ流れが中世からルネサンスを経 16・17 世紀の科学革命にいたり、さらに近代科学の誕生にいたるまでの歴史を、毎回レジュメを配布し、適宜プリントを配布しながら、明らかにしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように学んでいくかを説明する
第 2 回	ペルシアとアラビアの科学	古代ギリシアの自然観と科学の受容の謎
第 3 回	12 世紀ルネサンス	西欧世界への古代ギリシアの自然観と科学の導入の謎
第 4 回	13 世紀の方法論革命とスコラ哲学	キリスト教とアリストテレスの関係
第 5 回	14 世紀のアリストテレス批判	近代科学誕生の序章としての力学の登場
第 6 回	神秘思想と近代科学	スコラ哲学を乗り越えるために必要だったもの
第 7 回	科学革命（1）	地球中心説からコペルニクスの太陽中心説への転換
第 8 回	科学革命（2）	崩壊したコスモスに秩序を与えたケプラーの天文学
第 9 回	科学革命（3）	新しい力学を数学的自然観と原子論的発想で形成したガリレオ
第 10 回	科学革命（4）	世界を機械論的自然観で説明しきれると考えたデカルト
第 11 回	科学革命（5）	ニュートンによる天の力学と地の力学の統一
第 12 回	啓蒙主義運動と 18 世紀の科学	ニュートン力学の受容と展開
第 13 回	産業革命と 19 世紀の科学	諸科学の登場と技術の関係
第 14 回	20 世紀の科学	現代科学の根本的特徴とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【Outline and objectives】

This lecture outlines the history of science from the death of the ancient West Roman Empire to the present age. Especially focusing on the 12th century Renaissance and the 17th century scientific revolution, we will clarify the situation that Western Europe produced modern science. The purpose of this lecture is to provide a viewpoint to think about the ideal form of science in the 21st century.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

SHS100LA

科学史 I

2016 年度以前入学者

谷本 勉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営キ 1 年／法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシアの三つの自然観の特徴を明らかにし、それらが現代科学の誕生と、どのように関わっているかを述べる。

【到達目標】

今日の科学的なものの見方考え方が、その基礎の多くをいかに古代ギリシアに負っているかを理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

古代ギリシアの自然観の革命的要因の歴史を、毎回レジュメを配布し、適宜プリントを配布して、明らかにしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように学んでいくかを説明する
第 2 回	科学哲学的議論	自然認識の基盤にあるものを説明する
第 3 回	古代オリエントの神話的呪術的自然観	各文化に共通する自然観の典型として説明する
第 4 回	古代ギリシアにおける自然観の革命	なぜ西欧世界が近代科学を生み出し得たのかを考える
第 5 回	自然観革命（1）	根源のもの（アルケー）は何かを考える
第 6 回	自然観革命（2）	イオニア的自然観
第 7 回	自然観革命（3）	ヘラクレイトスとエレア派によるイオニア的自然観批判
第 8 回	自然観革命（4）	多元論者によるイオニア的自然観の再構築
第 9 回	自然観革命（5）	原子論的自然観の完成
第 10 回	自然観革命（6）	原子論的自然観とは根本的に異なる数学的自然観
第 11 回	自然観革命（7）	プラトンの数学的自然観
第 12 回	自然観革命（8）	アリストテレスの生物学的目的論的自然観 I
第 13 回	アレクサンドリア時代の科学	アリストテレスの自然観 II
第 14 回	ローマ時代の科学	ギリシアの自然観の具体的発展としての、ユークリッドやアルキメデス、古代科学と技術の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【Outline and objectives】

This lecture presents the history of scientific thinking from the ancient Orient period to the era of the ancient Roman Empire. Especially in this lecture, we aim to understand the history of three nature views created in ancient Greece, which is regarded as having great influence on the birth of modern science. Plato's mathematical view of nature, Aristotle's biological view of nature and Democritus's atomistic view of nature are that.

SHS100LA	
科学史 B	2017 年度以降入学者
SHS100LA	
科学史 II	2016 年度以前入学者
谷本 勉	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 営キ 1 年/法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧世界における中世から現代にいたる科学の歴史を概観する。

【到達目標】

現代科学の基礎をなすデカルトの二元論哲学とニュートンの力学によって確立された機械論的自然観の基本的意味を歴史的に理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

古代ギリシアの自然観に源をもつ流れが中世からルネサンスを経 16・17 世紀の科学革命にいたり、さらに近代科学の誕生にいたるまでの歴史を、毎回レジュメを配布し、適宜プリントを配布しながら、明らかにしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の全体計画	何をどのように学んでいくかを説明する
第 2 回	ペルシアとアラビアの科学	古代ギリシアの自然観と科学の受容の謎
第 3 回	12 世紀ルネサンス	西欧世界への古代ギリシアの自然観と科学の導入の謎
第 4 回	13 世紀の方法論革命とスコラ哲学	キリスト教とアリストテレスの関係
第 5 回	14 世紀のアリストテレス批判	近代科学誕生の序章としての力学の登場
第 6 回	神秘思想と近代科学	スコラ哲学を乗り越えるために必要だったもの
第 7 回	科学革命（1）	地球中心説からコペルニクスの太陽中心説への転換
第 8 回	科学革命（2）	崩壊したコスモスに秩序を与えたケプラーの天文学
第 9 回	科学革命（3）	新しい力学を数学的自然観と原子論的発想で形成したガリレオ
第 10 回	科学革命（4）	世界を機械論的自然観で説明しきれると考えたデカルト
第 11 回	科学革命（5）	ニュートンによる天の力学と地の力学の統一
第 12 回	啓蒙主義運動と 18 世紀の科学	ニュートン力学の受容と展開
第 13 回	産業革命と 19 世紀の科学	諸科学の登場と技術の関係
第 14 回	20 世紀の科学	現代科学の根本的特徴とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と平常点（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【Outline and objectives】

This lecture outlines the history of science from the death of the ancient West Roman Empire to the present age. Especially focusing on the 12th century Renaissance and the 17th century scientific revolution, we will clarify the situation that Western Europe produced modern science. The purpose of this lecture is to provide a viewpoint to think about the ideal form of science in the 21st century.

NAS100LA	
サイエンス・ラボ A	2017 年度以降入学者
NAS100LA	
サイエンス・ラボ A	2016 年度以前入学者
石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 11 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。

第 12 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 11 週	火－燃焼－酸化－電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 12 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第 13 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 11 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。

第 12 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい授業になるように心がけます。

【Outline and objectives】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B 2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B 2016 年度以前入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
第 1 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 11 週	火－燃焼－酸化－電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 12 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第 13 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、色覚、立体視のしくみを学ぶ。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 11 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。

第 12 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、テーマごとに授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テーマごとに基礎の部分を丁寧に説明して課題・実験を行いたいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 11 週	火－燃焼－酸化－電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 12 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第 13 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるようなので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、色覚、立体視のしくみを学ぶ。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 11 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。

第 12 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、テーマごとに授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テーマごとに基礎の部分を丁寧に説明して課題・実験を行いたいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 11 週	火－燃焼－酸化－電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 12 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第 13 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるようなので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 11 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。

第 12 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 11 週	火－燃焼－酸化－電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 12 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第 13 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 14 週	燃焼ガスと灰の性質（化学）	酸素の名前の由来である酸の性質と、アルカリである灰の性質を実験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回日以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 11 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。

第 12 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 11 週	火－燃焼－酸化－電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 12 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第 13 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 14 週	燃焼ガスと灰の性質（化学）	酸素の名前の由来である酸の性質と、アルカリである灰の性質を実験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

西村 直美、島野 智之、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 11 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。

第 12 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【。特にありません。】
特にありません。

【Outline and objectives】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science, such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena, especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B 2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B 2016 年度以前入学者

西村 直美、島野 智之、吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電氣を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 11 週	火－燃焼－酸化－電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電氣の歴史と関係性を学ぶ
第 12 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第 13 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【特にありません。】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science, such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces the history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

西村 直美、島野 智之、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 11 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。

第 12 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【特にありません。】
特にありません。

【Outline and objectives】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science, such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena, especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B 2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B 2016 年度以前入学者

西村 直美、島野 智之、吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電氣を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 11 週	火－燃焼－酸化－電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電氣の歴史と関係性を学ぶ
第 12 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第 13 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【特にありません。】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science, such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces the history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 11 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。

第 12 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	物理学の世界（物理学）	超伝導に関する講義とデモンストレーション実験を行う。
第 11 週	火－燃焼－酸化－電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 12 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第 13 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 11 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。

第 12 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書の指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題の難易度を調整しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 11 週	火－燃焼－酸化－電池につながる理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 12 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第 13 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書の指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの難易度を調整しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 9 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 10 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 11 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 12 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 2 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 3 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 4 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 5 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 6 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 10 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。

第 14 週 現代の DNA 学 (生物学) 親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など
応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野
で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

※定員制 (事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) WEB サイト参照)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 9 週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 10 週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 11 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 12 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 2 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 3 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 4 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 5 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 6 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 10 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。

第 14 週 現代の DNA 学（生物学） 親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など
応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野
で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい授業になるように心がけます。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター
（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 9 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 10 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 11 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 12 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、色覚、立体視のしくみを学ぶ。
第 13 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -3-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、テーマごとに授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テーマごとに基礎の部分を丁寧に説明して課題・実験を行いたいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 2 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電氣を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 3 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 4 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電氣エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 5 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 6 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電氣の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 10 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。

第 14 週 現代の DNA 学（生物学） 親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など
応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 9 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 10 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 11 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 12 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、色覚、立体視のしくみを学ぶ。
第 13 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -3-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、テーマごとに授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テーマごとに基礎の部分を丁寧に説明して課題・実験を行いたいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 2 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電氣を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 3 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 4 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 5 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 6 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電氣の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 10 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。

第 14 週 現代の DNA 学（生物学） 親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など
応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 9 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 10 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 11 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 12 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるようなので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 2 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電氣を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 3 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 4 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 5 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 6 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃焼ガスと灰の性質（化学）	酸素の名前の由来である酸の性質と、アルカリである灰の性質を実験で確認します。
第 10 週	灰の利用（化学）	昔は灰を何にどのように使ってきたのかを学びます。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 9 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 10 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 11 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 12 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるようなので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 2 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電氣を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 3 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 4 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 5 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 6 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃焼ガスと灰の性質（化学）	酸素の名前の由来である酸の性質と、アルカリである灰の性質を実験で確認します。
第 10 週	灰の利用（化学）	昔は灰を何にどのように使ってきたのかを学びます。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。

第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

西村 直美、島野 智之、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 9 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 10 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 11 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 12 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

西村 直美、島野 智之、吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 2 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 3 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 4 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 5 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 6 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 10 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。

第 14 週 現代の DNA 学（生物学） 親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など
応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野
で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

西村 直美、島野 智之、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター
（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 9 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 10 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 11 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 12 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

西村 直美、島野 智之、吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 2 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 3 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 4 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 5 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 6 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 10 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。

第 14 週 現代の DNA 学（生物学） 親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など
応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野
で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター
（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 9 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 10 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 11 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 12 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

授業時間内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 2 週	熱の仕事当量の測定（物理学）	熱量の単位 cal（カロリー）とエネルギーの単位 J（ジュール）の換算関係について調べる。
第 3 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 4 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 5 週	物理学の世界（物理学）	超伝導に関する講義とデモンストレーション実験を行う。
第 6 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 10 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。

第 14 週 現代の DNA 学（生物学） 親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など
応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
授業時間内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野
で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを
参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っ
ています。

【Outline and objectives】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas
of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of
the course is to provide students with scientific interest and pleasure of
science. This course introduces history of science containing turning
point for each field. By learning established theory and historical
background, the students will learn the scientific viewpoint of the three
fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター
（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野
の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞ
れの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさ
を味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイ
エンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、
生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成さ
れています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触
れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発
芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々
な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験
を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の
発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光
の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の
構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光
と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科
学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科
： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文
学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、
キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。
初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれ
て、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あ
るいは 5 週単位で順次移動し、受講します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グルー プ分け
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色 との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光 のエネルギーが電気エネルギーに変換 する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物 理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍 光灯、水素ランプなどが放つ光の波長 を測定し、発光のメカニズムについて 学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物 理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光 を用いて調べ、目に見えない微細な構 造を知る仕組みや、光の最先端技術に ついて学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化 学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の 関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組 み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を 使って組み立てることで構造上の違い を理解する。
第 8 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合 成を実験で行う。
第 9 週	色素増感太陽電池の評価 （化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を 作成し、色素の違いによる効率の評価 を実験で確かめる。
第 10 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造 を観察する。

第 11 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 12 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書の指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの難易度を調整しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 2 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電氣を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 3 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 4 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 5 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ
第 6 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電氣の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 10 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。

第 14 週 現代の DNA 学 (生物学) 親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書の指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの難易度を調整しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

※定員制 (事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) WEB サイト参照)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 9 週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第 10 週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 11 週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

発行日：2019/5/1

第 12 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい実験を行いたいと思います。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 2 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 3 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 4 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 7 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 8 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 9 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 10 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 11 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 12 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 13 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 14 週 LED の実験（物理学） LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい実験を行いたいと思います。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 9 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 10 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 11 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 12 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい実験を行いたいと思います。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

石塚 芽具美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 2 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 3 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 4 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 7 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 8 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 9 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 10 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 11 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 12 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 13 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 14 週 LED の実験（物理学） LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい実験を行いたいと思います。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、色覚、立体視のしくみを学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し、その結果をレポートにまとめる。
第 10 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 11 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 12 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、テーマごとに授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テーマごとに基礎の部分を丁寧に説明して課題・実験を行いたいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 2 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 3 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 4 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 7 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 8 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 9 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 10 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 11 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 12 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 13 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 14 週 LED の実験（物理学） LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるようなので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、色覚、立体視のしくみを学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し、その結果をレポートにまとめる。
第 10 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 11 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 12 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は特に指定しないが、テーマごとに授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テーマごとに基礎の部分を丁寧に説明して課題・実験を行いたいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 2 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 3 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 4 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 7 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 8 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 9 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 10 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 11 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 12 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 13 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 14 週 LED の実験（物理学） LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるようなので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 9 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 10 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 11 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 12 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 2 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 3 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 4 週	燃焼ガスと灰の性質（化学）	酸素の名前の由来である酸の性質と、アルカリである灰の性質を実験で確認します。
第 5 週	灰の利用（化学）	昔は灰を何にどのように使ってきたのかを学びます。
第 6 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 7 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 8 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 9 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 10 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 11 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 12 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 13 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 14 週 LED の実験（物理学） LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるようなので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 9 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 10 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 11 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 12 週	光スペクトルの観察（物 理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍 光灯、水素ランプなどが放つ光の波長 を測定し、発光のメカニズムについて 学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物 理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光 を用いて調べ、目に見えない微細な構 造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世 界や宇宙の観察・観測の最近の成果、 オーロなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野
で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるようなので、実験に
入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas
of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of
the course is to provide students with scientific interest and pleasure of
science. This course introduces familiar natural phenomena especially
light as a common theme in each field. By learning the three fields in
one semester, the students will understand the differences between each
field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター
（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の
実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれ
の分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味
わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエ
ンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの
分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。
高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景と
ともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であること
の証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で
必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課
題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的
に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解
がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を
学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科
学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科
： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文
学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、
キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。
3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイ
エンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	物質観の変遷と燃焼理論 について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのよ うに修正されてきたのかを学ぶ。
第 2 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元 素変換ができないことを理解する。
第 3 週	マグネシウム金属の燃焼 実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属 灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 4 週	燃焼ガスと灰の性質（化 学）	酸素の名前の由来である酸の性質と、 アルカリである灰の性質を実験で確認 します。
第 5 週	灰の利用（化学）	昔は灰を何にどのように使ってきたの かを学びます。
第 6 週	遺伝子とは何か？（生物 学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見し たかについて学ぶ。
第 7 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎 となる染色体を観察する。
第 8 週	メンデル遺伝学から分子 遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明さ れるまでの歴史を学ぶ。
第 9 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 10 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など 応用も含めた DNA 研究の現状を知 る。
第 11 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変 換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 12 週	電気エネルギーと熱エネ ルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生さ せ、その変換と保存を調べる。
第 13 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子 を調べ、そこで起こっているエネ ルギーの変換と保存について調べる。

第 14 週 LED の実験（物理学） LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートから難しいと感じている人も少数ながらいるようなので、実験に入る前に基礎の部分を丁寧に説明したいと考えています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

西村 直美、島野 智之、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 9 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 10 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 11 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 12 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

西村 直美、島野 智之、吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 2 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 3 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 4 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 7 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 8 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 9 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 10 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 11 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 12 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 13 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 14 週 LED の実験（物理学） LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

西村 直美、島野 智之、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 9 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 10 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 11 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 12 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

西村 直美、島野 智之、吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 2 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 3 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 4 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 7 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 8 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 9 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 10 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 11 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 12 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 13 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 14 週 LED の実験（物理学） LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 9 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 10 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 11 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 12 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	物理学の世界（物理学）	He-Ne レーザーを使ったデモンストラーション実験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 2 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 3 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 4 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 7 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 8 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 9 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 10 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 11 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 12 週	熱の仕事当量の測定（物理学）	熱量の単位 cal（カロリー）とエネルギーの単位 J（ジュール）の換算関係について調べる。
第 13 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 14 週 LED の実験（物理学） LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年の実施結果をふまえて、内容の改善・改良を行っています。アンケートを参考にして学生の興味を把握しながら、実験・演習で扱う内容の改善を行っています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2016 年度以前入学者

向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノ・ワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスと事前登録を行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要とグループ分け	講義の概要説明を行なった後、グループ分け
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 9 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 10 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 11 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。

第 12 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 13 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 14 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロなど光の現象について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書の指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの難易度を調整しています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2016 年度以前入学者

向井 知大、小林 富美恵、島野 孝史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

※定員制（事前登録が必要、詳細は市ヶ谷リベラルアーツセンター（ILAC）WEB サイト参照）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	物質観の変遷と燃焼理論について（化学）	物質を構成する元素の考え方がどのように修正されてきたのかを学ぶ。
第 2 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 3 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 4 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 7 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 8 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 9 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 10 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 11 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 12 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 13 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 14 週 LED の実験（物理学） LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験毎にレポートが課されます。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書の指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの難易度の調整をしています。

【Outline and objectives】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

大須賀 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
4	トレーニング実習	トレーニングの意義と原理・原則について学習する（実習）。
5	講義	筋肉減少症（サルコペニア）の問題点と対処方法について学習する（講義）。
6	卓球	基本的な動作（サーブ、フォアハンド、バックハンド）を学習する（講義・演習）。
7	卓球	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
8	卓球	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
9	バスケットボール	基本的な動作（ドリブル、パス）を学習する（講義・演習）。
10	バスケットボール	ゲームを実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
11	バスケットボール	ゲームを実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。
12	バドミントン	基本的な動作（ラケットの操作方法、シャトルの当て方）を学習する（講義・演習）。
13	バドミントン	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
14	バドミントン	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義および演習では積極的な質問を通じた議論を歓迎します。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effects of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

大須賀 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
4	トレーニング実習	トレーニングの意義と原理・原則について学習する（実習）。
5	講義	筋肉減少症（サルコペニア）の問題点と対処方法について学習する（講義）。
6	卓球	基本的な動作（サーブ、フォアハンド、バックハンド）を学習する（講義・演習）。
7	卓球	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
8	卓球	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
9	バスケットボール	基本的な動作（ドリブル、パス）を学習する（講義・演習）。
10	バスケットボール	ゲームを実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
11	バスケットボール	ゲームを実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。
12	バドミントン	基本的な動作（ラケットの操作方法、シャトルの当て方）を学習する（講義・演習）。
13	バドミントン	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
14	バドミントン	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義・演習では積極的な質問を通じた議論を期待します。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effects of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

丸藤 祐子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンス、授業概要の説明（講義）
2	体力測定	体力測定の実践（講義と実習）
3	バスケットボールを学ぶ	バスケットボールのルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）
4	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）1
5	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）2
6	インディアカを学ぶ	インディアカのルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）
7	ソフトバレーを学ぶ	ソフトバレーのルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）1
8	ソフトバレーを学ぶ	ソフトバレーのルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）2
9	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法	トレーニングの理論および実践方法の理解（講義と実習）
10	ウォーキングを学ぶ	ウォーキングを実践することでウォーキングの楽しさを知る（講義と実習）
11	身体活動・運動・体力と健康について学ぶ	身体活動・運動・体力と健康との関連を学ぶ（講義）
12	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）1
13	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）2
14	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業における教員からの指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

2) 課題・レポート 40%、の配分として総合評価する。

この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、身体を動かすことだけでなく、他者とのコミュニケーションスキルの向上を目指した内容としたい。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

丸藤 祐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンス、授業概要の説明（講義）
2	体力測定	体力測定の実践（講義と実習）
3	バスケットボールを学ぶ	バスケットボールのルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）
4	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）1
5	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）2
6	インディアカを学ぶ	インディアカのルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）
7	ソフトバレーを学ぶ	ソフトバレーのルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）1
8	ソフトバレーを学ぶ	ソフトバレーのルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）2
9	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法	トレーニングの理論および実践方法の理解（講義と実習）
10	ウォーキングを学ぶ	ウォーキングを実践することでウォーキングの楽しさを知る（講義と実習）
11	身体活動・運動・体力と健康について学ぶ	身体活動・運動・体力と健康との関連を学ぶ（講義）
12	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）1
13	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）2
14	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、ゲームを実践する（講義と実習）3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業における教員からの指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

2) 課題・レポート 40%、の配分として総合評価する。

この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、身体を動かすことだけでなく、他者とのコミュニケーションスキルの向上を目指した内容としたい。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

雨宮 怜

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間コミュニケーションをとる。
- 3) 同時時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解し、実施する。 体力測定の結果を評価、考察する。 (講義及び実習)
3	卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。 (講義及び実習)
4	卓球	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。 (講義及び実習)
5	卓球	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
6	バレーボール	基礎技術やルールを学び、実践する。 (講義及び実習)
7	バレーボール	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。 (講義及び実習)
8	バレーボール	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
9	バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。 (講義及び実習)
10	ユニホック	基礎技術やニュースポーツの意義を学び、実践する。(講義及び実習)
11	ユニホック	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
12	身体トレーニング	筋力や身体トレーニングに関する基礎知識や機器の使用法について学ぶ
13	瞑想・ヨーガ	心身の自己調整法としての瞑想とヨーガの効果と実践法を学ぶ。(講義及び実習)
14	健康とスポーツについて学ぶ	心身の健康とスポーツについて学ぶ。(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本講義では、授業開始時に心身のセルフ・モニタリング法を実施し、より効果的な運動学習を行う。セルフ・モニタリング法は練習が必要であることから、実習のための課題を出す予定である。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中の活動に対する参画状況 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、第 1 回目の授業から出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が行いたい競技についても意見を聞きながら内容を適宜変更する

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

雨宮 怜

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間コミュニケーションをとる。
- 3) 同時時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解し、実施する。体力測定の結果を評価、考察する。（講義及び実習）
3	卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。（講義及び実習）
4	卓球	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。（講義及び実習）
5	卓球	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。（講義及び実習）
6	バレーボール	基礎技術やルールを学び、実践する。（講義及び実習）
7	バレーボール	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。（講義及び実習）
8	バレーボール	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。（講義及び実習）
9	バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。（講義及び実習）
10	ユニホック	基礎技術やニュースポーツの意義を学び、実践する。（講義及び実習）
11	ユニホック	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。（講義及び実習）
12	身体トレーニング	筋力や身体トレーニングに関する基礎知識や機器の使用法について学ぶ
13	瞑想・ヨーガ	心身の自己調整法としての瞑想とヨーガの効果と実践法を学ぶ。（講義及び実習）
14	健康とスポーツについて学ぶ	心身の健康とスポーツについて学ぶ。（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本講義では、授業開始時に心身のセルフ・モニタリング法を実施し、より効果的な運動学習を行う。セルフ・モニタリング法は練習が必要であることから、実習のための課題を出す予定である。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中の活動に対する参画状況 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、第 1 回目の授業から出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が行いたい競技についても意見を聞きながら内容を適宜変更する

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

辻 大士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	ソフトバレーボール・バレーボールのルールや技術を学び、実践する。
6	トレーニング演習: トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
7	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
8	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
9	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換を行う。
10	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
11	ウォーキングを学ぶ（講義および実習）	ウォーキングの理論を学び、大学周辺においてウォーキングを実践する。
12	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
13	ターゲットバードゴルフを学ぶ（講義および実習）	ターゲットバードゴルフのルールや技術を学び、実践する。
14	フライングディスクを学ぶ（講義および実習）	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

辻 大士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	ソフトバレーボール・バレーボールのルールや技術を学び、実践する。
6	トレーニング演習: トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
7	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
8	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
9	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換を行う。
10	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
11	ウォーキングを学ぶ（講義および実習）	ウォーキングの理論を学び、大学周辺においてウォーキングを実践する。
12	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
13	ターゲットバードゴルフを学ぶ（講義および実習）	ターゲットバードゴルフのルールや技術を学び、実践する。
14	フライングディスクを学ぶ（講義および実習）	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

門口 智泰

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要を説明する。
2	体力測定を行う（講義および実習）	体力測定の意義、自身の体力測定結果を理解し、考察する。
3	健康管理について学ぶ（講義）	様々な視点から健康管理について学び意見交換を行う。
4	バドミントンについて学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。1
5	バドミントンについて学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。2
6	ユニホックについて学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
7	フットサルについて学ぶ（講義および実習）	フットサルのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
8	ドッジボールについて学ぶ（講義および実習）	ドッジボールのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
9	マシンおよびフリーウェイトを用いた筋力トレーニングについて学ぶ（講義および実習）	マシンおよびフリーウェイトを用いた筋力トレーニング、有酸素トレーニングについて学び、実践する。
10	ドッジビーについて学ぶ（講義および実習）	フライングディスクを用いたドッジボール形式のゲームを実践する。
11	スポーツと疾患について学ぶ（講義）	スポーツと疾患（内科・外科）について学び、意見交換を行う。
12	運動生理学について学ぶ（講義）	運動生理学について学び、意見交換を行う。
13	卓球について学ぶ（講義および実習）	卓球のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。1
14	卓球について学ぶ（講義および実習）	卓球のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習が多いため、心身ともに不備のないよう各自体調管理を行い望むようにする。授業後に行うべき課題およびその後の準備等に関しては、各授業担当の担当教員の指示に従う。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・授業態度（60％）、レポート及び課題（40％）により総合的に評価する。また、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義に対する意見等があった場合、可能な範囲で講義に反映させ、より良い講義運営に努める。

【その他の重要事項】

状況により、予定している実技科目が変更になる可能性がある。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire the role and meaning of physical activity, health promotion and mental health through exercise and communication between people.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

門口 智泰

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要を説明する。
2	体力測定を行う（講義および実習）	体力測定の意義、自身の体力測定結果を理解し、考察する。
3	健康管理について学ぶ（講義）	様々な視点から健康管理について学び意見交換を行う。
4	バドミントンについて学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。1
5	バドミントンについて学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。2
6	ユニホックについて学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
7	フットサルについて学ぶ（講義および実習）	フットサルのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
8	ドッジボールについて学ぶ（講義および実習）	ドッジボールのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
9	筋力・有酸素トレーニングについて学ぶ（講義および実習）	マシンおよびフリーウェイトを用いた筋力トレーニング、有酸素トレーニングについて学び、実践する。
10	ドッジビーについて学ぶ（講義および実習）	フライングディスクを用いたドッジボール形式のゲームを実践する。
11	スポーツと疾患について学ぶ（講義）	スポーツと疾患（内科・外科）について学び、意見交換を行う。
12	運動生理学について学ぶ（講義）	運動生理学について学び、意見交換を行う。
13	卓球について学ぶ（講義および実習）	卓球のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。1
14	卓球について学ぶ（講義および実習）	卓球のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習が多いため、心身ともに不備のないよう各自体調管理を行い望むようにする。授業後に行うべき課題およびその後の準備等に関しては、各授業担当の担当教員の指示に従う。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・授業態度（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。また、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義に対する意見等があった場合、可能な範囲で講義に反映させ、より良い講義運営に努める。

【その他の重要事項】

状況により予定している実技科目が変更になることがある。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire the role and meaning of physical activity, health promotion and mental health through exercise and communication between people.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

大須賀 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
4	トレーニング実習	トレーニングの意義と原理・原則について学習する（実習）。
5	講義	筋肉減少症（サルコペニア）の問題点と対処方法について学習する（講義）。
6	卓球	基本的な動作（サーブ、フォアハンド、バックハンド）を学習する（講義・演習）。
7	卓球	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。1
8	卓球	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。2
9	バスケットボール	基本的な動作（ドリブル、パス）を学習する（講義・演習）。
10	バスケットボール	ゲームを実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。
11	バスケットボール	ゲームを実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。2
12	バドミントン	基本的な動作（ラケットの操作方法、シャトルの当て方）を学習する（講義・演習）。
13	バドミントン	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。1
14	バドミントン	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義・演習では積極的な質問を通じた活発な議論に期待します。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effects of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

大須賀 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法。
4	トレーニング実習	トレーニングの意義と原理・原則について学習する（実習）。
5	講義	筋肉減少症（サルコペニア）の問題点と対処方法について学習する（講義）。
6	卓球	基本的な動作（サーブ、フォアハンド、バックハンド）を学習する（講義・演習）。
7	卓球	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。1
8	卓球	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。2
9	バスケットボール	基本的な動作（ドリブル、パス）を学習する（講義・演習）。
10	バスケットボール	ゲームを実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。1
11	バスケットボール	ゲームを実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。2
12	バドミントン	基本的な動作（ラケットの操作方法、シャトルの当て方）を学習する（講義・演習）。
13	バドミントン	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。1
14	バドミントン	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義・実習では積極的な質問を通じた活発な議論に期待します。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effects of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

雨宮 怜

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間コミュニケーションをとる。
- 3) 同時時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解し、実施する。 体力測定の結果を評価、考察する。 (講義及び実習)
3	卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。 (講義及び実習)
4	卓球	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。 (講義及び実習)
5	卓球	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
6	バレーボール	基礎技術やルールを学び、実践する。 (講義及び実習)
7	バレーボール	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。 (講義及び実習)
8	バレーボール	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
9	バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。 (講義及び実習)
10	ユニホック	基礎技術やニュースポーツの意義を学び、実践する。(講義及び実習)
11	ユニホック	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
12	身体トレーニング	筋力や身体トレーニングに関する基礎知識や機器の使用法について学ぶ
13	瞑想・ヨーガ	心身の自己調整法としての瞑想とヨーガの効果と実践法を学ぶ。(講義及び実習)
14	健康とスポーツについて学ぶ	心身の健康とスポーツについて学ぶ。(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本講義では、授業開始時に心身のセルフ・モニタリング法を実施し、より効果的な運動学習を行う。セルフ・モニタリング法は練習が必要であることから、実習のための課題を出す予定である。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中の活動に対する参画状況 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、第 1 回目の授業から出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が行いたい競技についても意見を聞きながら内容を適宜変更する

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

雨宮 怜

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間コミュニケーションをとる。
- 3) 同時時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解し、実施する。体力測定の結果を評価、考察する。（講義及び実習）
3	卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。（講義及び実習）
4	卓球	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。（講義及び実習）
5	卓球	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。（講義及び実習）
6	バレーボール	基礎技術やルールを学び、実践する。（講義及び実習）
7	バレーボール	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。（講義及び実習）
8	バレーボール	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。（講義及び実習）
9	バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。（講義及び実習）
10	ユニホック	基礎技術やニュースポーツの意義を学び、実践する。（講義及び実習）
11	ユニホック	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。（講義及び実習）
12	身体トレーニング	筋力や身体トレーニングに関する基礎知識や機器の使用法について学ぶ
13	瞑想・ヨーガ	心身の自己調整法としての瞑想とヨーガの効果と実践法を学ぶ。（講義及び実習）
14	健康とスポーツについて学ぶ	心身の健康とスポーツについて学ぶ。（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本講義では、授業開始時に心身のセルフ・モニタリング法を実施し、より効果的な運動学習を行う。セルフ・モニタリング法は練習が必要であることから、実習のための課題を出す予定である。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中の活動に対する参画状況 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、第 1 回目の授業から出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が行いたい競技についても意見を聞きながら内容を適宜変更する

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

辻 大士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	ソフトバレーボール・バレーボールのルールや技術を学び、実践する。
6	トレーニング演習: トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
7	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
8	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
9	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換を行う。
10	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
11	ウォーキングを学ぶ（講義および実習）	ウォーキングの理論を学び、大学周辺においてウォーキングを実践する。
12	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
13	ターゲットバードゴルフを学ぶ（講義および実習）	ターゲットバードゴルフのルールや技術を学び、実践する。
14	フライングディスクを学ぶ（講義および実習）	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

辻 大士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	ソフトバレーボール・バレーボールのルールや技術を学び、実践する。
6	トレーニング演習: トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
7	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
8	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
9	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換を行う。
10	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
11	ウォーキングを学ぶ（講義および実習）	ウォーキングの理論を学び、大学周辺においてウォーキングを実践する。
12	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
13	ターゲットバードゴルフを学ぶ（講義および実習）	ターゲットバードゴルフのルールや技術を学び、実践する。
14	フライングディスクを学ぶ（講義および実習）	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

荒井 弘和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
4	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
5	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
6	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
7	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
8	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
9	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
10	フライングディスクを学ぶ（講義および実習）	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する。
11	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	ソフトバレーボール・バレーボールのルールや技術を学び、実践する。
12	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
13	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
14	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「私は体育の時間というものが好きではなかったので大学に行ってもでやるのが嫌でした。しかし、荒井先生は運動が苦手な人でも取り組みやすい競技を選んでくれたり、やりやすい環境を作ってくれたので嫌な思いをすることはありませんでした」「大学の授業に体育があることを知らず、知ったときには絶望しました。私は運動神経が全くよくありません。ですが終わってみれば、これまでの学校の体育の授業の中では、一番楽しい体育の授業だったと思います。なによりも、私が思っていた以上に周りの人たちがスポーツに積極的に取り組んでいたことが、第一の理由だと考えます。その人たちに置いていかれないように体を動かすにつれて、体育は実は楽しい授業だったのではないかなと思うようになりました。そしてこの積極的に取り組む姿勢は、緩すぎずキツすぎない、授業への参加はもちろん必要だが無理をしなくてもいいという、この授業全体のスタイルから生まれているのではないかと思います」などのポジティブな意見をもらいました。今後も、受講生との対話を大事にして、良い授業を行えるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

荒井 弘和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
4	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
5	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
6	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
7	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
8	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
9	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
10	フライングディスクを学ぶ（講義および実習）	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する。
11	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	ソフトバレーボール・バレーボールのルールや技術を学び、実践する。
12	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
13	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
14	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「私は体育の時間というものが好きではなかったので大学に行ってまでやるのが嫌でした。しかし、荒井先生は運動が苦手な人でも取り組みやすい競技を選んでくれたり、やりやすい環境を作ってくれたので嫌な思いをすることはありませんでした」「大学の授業に体育があることを知らず、知ったときには絶望しました。私は運動神経が全くよくありません。ですが終わってみれば、これまでの学校の体育の授業の中では、一番楽しい体育の授業だったと思います。なによりも、私が思っていた以上に周りの人たちがスポーツに積極的に取り組んでいたことが、第一の理由だと考えます。その人たちに置いていかれないように体を動かすにつれて、体育は実は楽しい授業だったのではないかなと思うようになりました。そしてこの積極的に取り組む姿勢は、緩すぎずキツすぎない、授業への参加はもちろん必要だが無理をしなくてもいいという、この授業全体のスタイルから生まれているのではないかと思います」などのポジティブな意見をもらいました。今後も、受講生との対話を大事にして、良い授業を行えるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

門口 智泰

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要を説明する。
2	体力測定を行う（講義および実習）	体力測定の意義、自身の体力測定結果を理解し、考察する。
3	健康管理について学ぶ（講義）	様々な視点から健康管理について学び意見交換を行う。
4	バドミントンについて学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。1
5	バドミントンについて学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。2
6	ユニホックについて学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
7	フットサルについて学ぶ（講義および実習）	フットサルのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
8	ドッジボールについて学ぶ（講義および実習）	ドッジボールのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
9	筋力・有酸素トレーニングについて学ぶ（講義および実習）	マシンおよびフリーウェイトを用いた筋力トレーニング、有酸素トレーニングについて学び、実践する。
10	ドッジビーについて学ぶ（講義および実習）	フライングディスクを用いたドッジボール形式のゲームを実践する。
11	スポーツと疾患について学ぶ（講義）	スポーツと疾患（内科・外科）について学び、意見交換を行う。
12	運動生理学について学ぶ（講義）	運動生理学について学び、意見交換を行う。
13	卓球について学ぶ（講義および実習）	卓球のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。1
14	卓球について学ぶ（講義および実習）	卓球のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習が多いため、心身ともに不備のないよう各自体調管理を行い望むようにする。

授業後に行うべき課題およびその後の準備等に関しては、各授業担当の担当教員の指示に従う。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・授業態度（60％）、レポート及び課題（40％）により総合的に評価する。また、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義に対する意見等があった場合、可能な範囲で講義に反映させ、より良い講義運営に努める。

【その他の重要事項】

状況により予定している実技科目が変更になることがある。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire the role and meaning of physical activity, health promotion and mental health through exercise and communication between people.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

門口 智泰

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	講義の概要を説明する。
2	体力測定を行う（講義および実習）	体力測定の意義、自身の体力測定結果を理解し、考察する。
3	健康管理について学ぶ（講義）	様々な視点から健康管理について学び意見交換を行う。
4	バドミントンについて学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。1
5	バドミントンについて学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。2
6	ユニホックについて学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
7	フットサルについて学ぶ（講義および実習）	フットサルのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
8	ドッジボールについて学ぶ（講義および実習）	ドッジボールのルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。
9	筋力・有酸素トレーニングについて学ぶ（講義および実習）	マシンおよびフリーウェイトを用いた筋力トレーニング、有酸素トレーニングについて学び、実践する。
10	ドッジビーについて学ぶ（講義および実習）	フライングディスクを用いたドッジボール形式のゲームを実践する。
11	スポーツと疾患について学ぶ（講義）	スポーツと疾患（内科・外科）について学び、意見交換を行う。
12	運動生理学について学ぶ（講義）	運動生理学について学び、意見交換を行う。
13	卓球について学ぶ（講義および実習）	卓球のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。1
14	卓球について学ぶ（講義および実習）	卓球のルール、基本技能、競技特性を学び、実践する。2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習が多いため、心身ともに不備のないよう各自体調管理を行い望むようにする。授業後に行うべき課題およびその後の準備等に関しては、各授業担当の担当教員の指示に従う。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・授業態度（60％）、レポート及び課題（40％）により総合的に評価する。また、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義に対する意見等があった場合、可能な範囲で講義に反映させ、より良い講義運営に努める。

【その他の重要事項】

状況により予定している実技科目が変更になることがある。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire the role and meaning of physical activity, health promotion and mental health through exercise and communication between people.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

雨宮 怜

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間コミュニケーションをとる。
- 3) 同時時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解し、実施する。 体力測定の結果を評価、考察する。 （講義及び実習）
3	卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。 （講義及び実習）
4	卓球	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。 （講義及び実習）
5	卓球	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。 （講義及び実習）
6	バレーボール	基礎技術やルールを学び、実践する。 （講義及び実習）
7	バレーボール	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。 （講義及び実習）
8	バレーボール	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。 （講義及び実習）
9	バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。 （講義及び実習）
10	ユニホック	基礎技術やニュースポーツの意義を学び、実践する。 （講義及び実習）
11	ユニホック	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。 （講義及び実習）
12	身体トレーニング	筋力や身体トレーニングに関する基礎知識や機器の使用法について学ぶ
13	瞑想・ヨーガ	心身の自己調整法としての瞑想とヨーガの効果と実践法を学ぶ。 （講義及び実習）
14	健康とスポーツについて学ぶ	心身の健康とスポーツについて学ぶ。 （講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本講義では、授業開始時に心身のセルフ・モニタリング法を実施し、より効果的な運動学習を行う。セルフ・モニタリング法は練習が必要であることから、実習のための課題を出す予定である。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中の活動に対する参画状況 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、第 1 回目の授業から出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が行いたい競技についても意見を聞きながら内容を適宜変更する

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

雨宮 怜

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割に加えて、自身の心身の特徴について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
- ⑥学生本人が自身の専門家として、自分の心や身体の特徴や状態を理解し、適切に対応することができるセルフ・レギュレーション能力の獲得を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。
なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間コミュニケーションをとる。
- 3) 同時時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定	体力測定の意義を理解し、実施する。 体力測定の結果を評価、考察する。 (講義及び実習)
3	卓球	基礎技術やルールを学び、実践する。 (講義及び実習)
4	卓球	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。 (講義及び実習)
5	卓球	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
6	バレーボール	基礎技術やルールを学び、実践する。 (講義及び実習)
7	バレーボール	基礎技術を活用し、ゲームを行なう。 (講義及び実習)
8	バレーボール	応用技術や戦術を学び、ゲームを行なう。(講義及び実習)
9	バドミントン	基礎技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
10	ユニホック	基礎技術やニュースポーツの意義を学び、実践する。(講義及び実習)
11	ユニホック	応用技術や戦術を学び、ゲームを行う。(講義及び実習)
12	身体トレーニング	筋力や身体トレーニングに関する基礎知識や機器の使用法について学ぶ
13	瞑想・ヨーガ	心身の自己調整法としての瞑想とヨーガの効果と実践法を学ぶ。(講義及び実習)
14	健康とスポーツについて学ぶ	心身の健康とスポーツについて学ぶ。(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本講義では、授業開始時に心身のセルフ・モニタリング法を実施し、より効果的な運動学習を行う。セルフ・モニタリング法は練習が必要であることから、実習のための課題を出す予定である。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中の活動に対する参画状況 60%、課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、第 1 回目の授業から出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が行いたい競技についても意見を聞きながら内容を適宜変更する

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn the significance and role of physical activity and understand your physical, mental, and social characteristics through sports activity.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン	歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習
4	バドミントン	自分たちでシングルスゲームができ、 審判もできること。 ダブルスゲーム 0
5	卓球	歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 ドライブ・サーブ等 シングルスゲーム
6	トレセン	トレーニング場を使用するための講習
7	バスケットボール	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする
8	フットサル	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする
9	救急処置	AED のビデオを見て実際に使い方を練習する。
10	ウォーキング	鼻血・捻挫・怪我の処置 実際に 8000 歩を歩き体力向上・脂肪燃焼
11	ユニホック	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
12	バドミントン	自分たちでダブルスゲームができ、審判もできること
13	卓球	自分たちでダブルスゲームができ、審判もできること
14	卓球	団体戦（3 複 4 単）を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ルールを守り、明るく・元気に自らの考えで行わせる。
- ・各種目の歴史とルールの説明を細かく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

DVD

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン	歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習
4	バドミントン	自分たちでシングルスゲームができ、審判もできること。 ダブルスゲーム 0
5	卓球	歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 ドライブ・サーブ等 シングルスゲーム
6	トレセン	トレーニング場を使用するための講習
7	バスケットボール	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする
8	フットサル	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする
9	救急処置	AED のビデオを見て実際に使い方を練習する。
10	ウォーキング	鼻血・捻挫・怪我の処置 実際に8000歩を歩き体力向上・脂肪燃焼
11	ユニホック	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
12	バドミントン	自分たちでダブルスゲームができ、審判もできること
13	卓球	自分たちでダブルスゲームができ、審判もできること
14	卓球	団体戦（3複4単）を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60%。

「2」課題・レポート 40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ルールを守り、明るく・元気に自らの考えで行わせる。
- ・各種目の歴史とルールの説明を細かく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

DVD

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

久保 賢師

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	体力測定	体力測定を実施する
第 3 回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第 5 回	講義及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 6 回	講義及びバレーボール	バレーボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第 7 回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第 8 回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第 9 回	講義及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 10 回	講義及びバドミントン	バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第 11 回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第 12 回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する
第 13 回	講義及びバスケットボール	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 14 回	講義及びフットサル まとめ	フットサルのゲーム及びリーダーシップについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

久保 賢師

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	講義及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	講義及びバレーボール	バレーボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	講義及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第10回	講義及びバドミントン	バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する
第13回	講義及びバスケットボール	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第14回	講義及びフットサル まとめ	フットサルのゲーム及びリーダーシップについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%

2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】
Message body
Outline and Objectives
This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA	
スポーツ総合演習	2017 年度以降入学者
HSS100LA	
スポーツ総合演習	2016 年度以前入学者
笠井 淳	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	体力測定の意義について講義 卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	講義及びバレーボール	スポーツと健康について講義 バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	講義及びバスケットボール	スポーツと健康について講義 バスケットボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	講義及びアルティメット	スポーツと健康について講義 アルティメットの基本技術の習得及びルールについて説明する
第10回	講義及びバドミントン	スポーツと健康について講義 バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する
第13回	講義及びフットサル	スポーツと健康について講義 フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第14回	授業の総括	生涯スポーツについて講義 ニューススポーツへの挑戦 レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
毎日の体重の管理、栄養摂取、睡眠時間について注意を払うこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況60%

2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore,students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical,mental and social health necessary throughout the students future of life.

Concretely,we will educate to maintain and promote their own health,to acquire important knowledge to self health care,and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める

②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る

④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	体力測定の意義について講義 卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	講義及びバレーボール	スポーツと健康について講義 バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	講義及びバスケットボール	スポーツと健康について講義 バスケットボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	講義及びアルティメット	スポーツと健康について講義 アルティメットの基本技術の習得及びルールについて説明する
第10回	講義及びバドミントン	スポーツと健康について講義 バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する
第13回	講義及びフットサル	スポーツと健康について講義 フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第14回	授業の総括	生涯スポーツについて講義 ニューススポーツへの挑戦 レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

毎日の体重の管理、栄養摂取、睡眠時間について注意を払うこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60%
 - 2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge for self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習＆講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	トレーニング演習（実習＆講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバック。
4	日常の食事の摂り方及び睡眠について（栄養学・睡眠講義）	資料を配布し、日常の食事の摂り方及び睡眠について注意すべき点を講義する。
5	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
6	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
7	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
10	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
11	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習＆講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
12	ドッジボールの実践（実習＆講義）	ドッジボールのルールを理解し、基本技術の習得をいた上で、ゲームを行う。
13	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	ストレスについての講義及びレポート作成・提出	ストレスについて資料を配布し、講義した後にレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、次週の授業を行う種目や健康テーマについての予備知識を各情報媒体で調べ、理解して授業に臨むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students'future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習＆講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	トレーニング演習（実習＆講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバック。
4	日常の食事の摂り方及び睡眠について（栄養学・睡眠講義）	資料を配布し、日常の食事の摂り方及び睡眠について注意すべき点を講義する。
5	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
6	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
7	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
10	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
11	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習＆講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
12	ドッジボールの実践（実習＆講義）	ドッジボールのルールを理解し、基本技術の習得をいた上で、ゲームを行う。
13	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	ストレスについての講義及びレポート作成・提出	ストレスについて資料を配布し、講義した後にレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、次週の授業を行う種目や健康テーマについての予備知識を各情報媒体で調べ、理解して授業に臨むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students'future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン	歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習
4	バドミントン	自分たちでシングルスゲームができ、審判もできること。 ダブルスゲーム 0
5	卓球	歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 ドライブ・サーブ等 シングルスゲーム
6	トレセン	トレーニング場を使用するための講習
7	バスケットボール	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする
8	フットサル	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする
9	救急処置	AED のビデオを見て実際に使い方を練習する。 鼻血・捻挫・怪我の処置
10	ウォーキング	実際に 8000 歩を歩き体力向上・脂肪燃焼
11	ユニホック	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
12	バドミントン	自分たちでダブルスゲームができ、審判もできること
13	卓球	自分たちでダブルスゲームができ、審判もできること
14	卓球	団体戦（3 複 4 単）を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・ルールを守り、明るく・元気に自らの考えで行わせる。

・各種目の歴史とルールの説明を細かく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

DVD

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン	歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習
4	バドミントン	自分たちでシングルスゲームができ、審判もできること。 ダブルスゲーム 0
5	卓球	歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 ドライブ・サーブ等 シングルスゲーム
6	トレセン	トレーニング場を使用するための講習
7	バスケットボール	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする
8	フットサル	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする
9	救急処置	AED のビデオを見て実際に使い方を練習する。
10	ウォーキング	鼻血・捻挫・怪我の処置 実際に8000歩を歩き体力向上・脂肪燃焼
11	ユニホック	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
12	バドミントン	自分たちでダブルスゲームができ、審判もできること
13	卓球	自分たちでダブルスゲームができ、審判もできること
14	卓球	団体戦（3 複 4 単）を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ルールを守り、明るく・元気に自らの考えで行わせる。
- ・各種目の歴史とルールの説明を細かく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

DVD

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

久保 賢師

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	講義及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	講義及びバレーボール	バレーボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	講義及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第10回	講義及びバドミントン	バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する
第13回	講義及びバスケットボール	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第14回	講義及びフットサル まとめ	フットサルのゲーム及びリーダーシップについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%

2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

久保 賢師

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	講義及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	講義及びバレーボール	バレーボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	講義及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第10回	講義及びバドミントン	バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する
第13回	講義及びバスケットボール	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第14回	講義及びフットサル まとめ	フットサルのゲーム及びリーダーシップについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%

2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

位高 駿夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容および手段を理解し、実践する（講義および実習）
第3回	レクリエーション	アイスブレイクを中心としたレクリエーション活動を体験しながら、将来実践できるように習得する（講義および実習）
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法の基礎的な事を理解する（講義および実習）
第5回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術及びゲームを行う（講義及び実習）
第6回	バドミントン	バドミントンのルールの理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第7回	運動と健康	授業の総括。健康増進のための運動に関するレポートを課すので、提出の後解説をする。（講義）
第8回	効果的なトレーニング方法について	現在の個人の体力レベルと課題を理解し、体力の保持増進や課題克服に向けて有効なトレーニング方法を学ぶ（講義）
第9回	ユニホック	ユニホックの基礎技術及びゲームを行う（講義及び実習）
第10回	フットサル	フットサルの技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う（講義及び実習）
第11回	卓球	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第12回	卓球	卓球の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第13回	バドミントン	バドミントンの基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第14回	ウォーキング	運動実施時の身体の変化について実習を通して理解し、運動実施時の注意点などについて学ぶ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業における教員からの指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

種目の得意・不得意や体力の有無など、多様なニーズに合わせて、時間を配分しながら授業を展開し、楽しさとともに学びや気づきの機会を増やすように授業を実施する。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educated to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

位高 駿夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容および手段を理解し、実践する（講義および実習）
第 3 回	レクリエーション	アイスブレイクを中心としたレクリエーション活動を体験しながら、将来実践できるように習得する（講義および実習）
第 4 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法の基礎的な事を理解する（講義および実習）
第 5 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術及びゲームを行う（講義及び実習）
第 6 回	バドミントン	バドミントンのルールの理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 7 回	運動と健康	授業の総括。健康増進のための運動に関するレポートを課すので、提出の後解説をする。（講義）
第 8 回	効果的なトレーニング方法について	現在の個人の体力レベルと課題を理解し、体力の保持増進や課題克服に向けて有効なトレーニング方法を学ぶ（講義）
第 9 回	ユニホック	ユニホックの基礎技術及びゲームを行う（講義及び実習）
第 10 回	フットサル	フットサルの技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う（講義及び実習）
第 11 回	卓球	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 12 回	卓球	卓球の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 13 回	バドミントン	バドミントンの基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 14 回	ウォーキング	運動実施時の身体の変化について実習を通して理解し、運動実施時の注意点などについて学ぶ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業における教員からの指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

種目の得意・不得意や体力の有無など、多様なニーズに合わせて、時間を配分しながら授業を展開し、楽しさとともに学びや気づきの機会を増やすように授業を実施する。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary througuout the students' future of life.

Concretely, we will educated to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習＆講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	トレーニング演習（実習＆講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバック。
4	日常の食事の摂り方及び睡眠について（栄養学・睡眠講義）	資料を配布し、日常の食事の摂り方及び睡眠について注意すべき点を講義する。
5	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
6	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
7	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
10	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
11	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習＆講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
12	ドッジボールの実践（実習＆講義）	ドッジボールのルールを理解し、基本技術の習得をいた上で、ゲームを行う。
13	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	ストレスについての講義及びレポート作成・提出	ストレスについて資料を配布し、講義した後にレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、次週の授業に行う種目や健康テーマについての予備知識を各情報媒体で調べ、理解して授業に臨むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students'future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習＆講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	トレーニング演習（実習＆講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバック。
4	日常の食事の摂り方及び睡眠について（栄養学・睡眠講義）	資料を配布し、日常の食事の摂り方及び睡眠について注意すべき点を講義する。
5	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
6	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
7	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
10	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
11	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習＆講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
12	ドッジボールの実践（実習＆講義）	ドッジボールのルールを理解し、基本技術の習得をいた上で、ゲームを行う。
13	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	ストレスについての講義及びレポート作成・提出	ストレスについて資料を配布し、講義した後にレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、次週の授業を行う種目や健康テーマについての予備知識を各情報媒体で調べ、理解して授業に臨むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students'future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン	歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習
4	バドミントン	自分たちでシングルスゲームができ、審判もできること。 ダブルスゲーム 0
5	卓球	歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 ドライブ・サーブ等 シングルスゲーム
6	トレセン	トレーニング場を使用するための講習
7	バスケットボール	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする
8	フットサル	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする
9	救急処置	AED のビデオを見て実際に使い方を練習する。 鼻血・捻挫・怪我の処置
10	ウォーキング	実際に 8000 歩を歩き体力向上・脂肪燃焼
11	ユニホック	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
12	バドミントン	自分たちでダブルスゲームができ、審判もできること
13	卓球	自分たちでダブルスゲームができ、審判もできること
14	卓球	団体戦（3 複 4 単）を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ルールを守り、明るく・元気に自らの考えで行わせる。
- ・各種目の歴史とルールの説明を細かく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

DVD

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン	歴史・道具・ルールの説明 基本のストロークの練習
4	バドミントン	自分たちでシングルスゲームができ、審判もできること。 ダブルスゲーム 0
5	卓球	歴史・道具・ルールの説明 基本ストロークの練習 ドライブ・サーブ等 シングルスゲーム
6	トレセン	トレーニング場を使用するための講習
7	バスケットボール	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする
8	フットサル	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 とゲームをする
9	救急処置	AED のビデオを見て実際に使い方を練習する。
10	ウォーキング	鼻血・捻挫・怪我の処置 実際に8000歩を歩き体力向上・脂肪燃焼
11	ユニホック	歴史・道具・ルールの説明 ドリブル・シュート等の練習 ゲームをする
12	バドミントン	自分たちでダブルスゲームができ、審判もできること
13	卓球	自分たちでダブルスゲームができ、審判もできること
14	卓球	団体戦（3複4単）を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60%。

「2」課題・レポート 40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ルールを守り、明るく・元気に自らの考えで行わせる。
- ・各種目の歴史とルールの説明を細かく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

DVD

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

久保 賢師

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	講義及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	講義及びバレーボール	バレーボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	講義及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第10回	講義及びバドミントン	バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する
第13回	講義及びバスケットボール	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第14回	講義及びフットサル まとめ	フットサルのゲーム及びリーダーシップについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

久保 賢師

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容について説明する
第2回	体力測定	体力測定を実施する
第3回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第5回	講義及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第6回	講義及びバレーボール	バレーボールのゲーム及びチームワーク・コミュニケーションについて説明する
第7回	体力について講義	体力測定の意義及び評価について説明する
第8回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論について説明する
第9回	講義及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第10回	講義及びバドミントン	バドミントンのゲーム及び運動の効果について説明する
第11回	講義及びバランス運動	フィットネスの講義及びバランスボール運動について説明する
第12回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の実践及び基礎理論を説明する
第13回	講義及びバスケットボール	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第14回	講義及びフットサル まとめ	フットサルのゲーム及びリーダーシップについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度60%

2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline and objectives】

Message body

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

位高 駿夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容および手段を理解し、実践する（講義および実習）
第3回	レクリエーション	アイスブレイクを中心としたレクリエーション活動を体験しながら、将来実践できるように習得する（講義および実習）
第4回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法の基礎的な事を理解する（講義および実習）
第5回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術及びゲームを行う（講義及び実習）
第6回	バドミントン	バドミントンのルールの理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第7回	運動と健康	授業の総括。健康増進のための運動に関するレポートを課すので、提出の後解説をする。（講義）
第8回	効果的なトレーニング方法について	現在の個人の体力レベルと課題を理解し、体力の保持増進や課題克服に向けて有効なトレーニング方法を学ぶ（講義）
第9回	ユニホック	ユニホックの基礎技術及びゲームを行う（講義及び実習）
第10回	フットサル	フットサルの技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う（講義及び実習）
第11回	卓球	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第12回	卓球	卓球の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第13回	バドミントン	バドミントンの基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第14回	ウォーキング	運動実施時の身体の変化について実習を通して理解し、運動実施時の注意点などについて学ぶ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業における教員からの指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

種目の得意・不得意や体力の有無など、多様なニーズに合わせて、時間を配分しながら授業を展開し、楽しさとともに学びや気づきの機会を増やすように授業を実施する。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educated to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

位高 駿夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容および手段を理解し、実践する（講義および実習）
第 3 回	レクリエーション	アイスブレイクを中心としたレクリエーション活動を体験しながら、将来実践できるように習得する（講義および実習）
第 4 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法の基礎的な事を理解する（講義および実習）
第 5 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術及びゲームを行う（講義及び実習）
第 6 回	バドミントン	バドミントンのルールの理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 7 回	運動と健康	授業の総括。健康増進のための運動に関するレポートを課すので、提出の後解説をする。（講義）
第 8 回	効果的なトレーニング方法について	現在の個人の体力レベルと課題を理解し、体力の保持増進や課題克服に向けて有効なトレーニング方法を学ぶ（講義）
第 9 回	ユニホック	ユニホックの基礎技術及びゲームを行う（講義及び実習）
第 10 回	フットサル	フットサルの技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う（講義及び実習）
第 11 回	卓球	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 12 回	卓球	卓球の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 13 回	バドミントン	バドミントンの基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 14 回	ウォーキング	運動実施時の身体の変化について実習を通して理解し、運動実施時の注意点などについて学ぶ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業における教員からの指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

種目の得意・不得意や体力の有無など、多様なニーズに合わせて、時間を配分しながら授業を展開し、楽しさとともに学びや気づきの機会を増やすように授業を実施する。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educated to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

大西 朋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
 - (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
 - (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
 - (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
 - (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る
- －具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好

- 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
- 2) 体力測定の意義を述べるができる
- 3) 体力測定結果を客観的に評価できる

2. 身体構造と運動：鈴木

- 1) 動作や運動について理解する
- 2) 随意運動について簡単な説明ができる
- 3) 遊びについて理解を深める
- 4) 効率的な動きについて理解を深める

3. スポーツと医学：大西

- 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
- 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する

4. スポーツと心理：草山

- 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
- 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
- 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
- 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる

5. スポーツと動作：三好

- 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
- 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
- 14) 自身のからだと意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題 2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
- 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
- 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 - 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が 10 回以上の者を対象**とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018 年度は 2017 年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

大西 朋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだ意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに
この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ
義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法
本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。
注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造（鈴木） 2：スポーツと医学（大西） 3：スポーツと心理（草山） 4：スポーツと動作（三好）

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内的動機づけと外的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準 ③集団による同調 ④社会的促進と社会的手抜き
10	スポーツと心理Ⅲ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題Ⅰ：体幹のセルフコントロール
11	スポーツと動作Ⅰ	動作課題Ⅱ：身体セルフリラクゼーション
12	スポーツと動作Ⅱ	身体動作への気づきと心身の健康
13	スポーツと動作Ⅲ	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する
14	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス1回目の授業で提示された課題に取り組み、2回目および3回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第1回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第2回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

- 鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が10回以上の者を対象とする**ので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018年度は2017年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016年度以前入学者

鈴木 良則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだを意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題 2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が 10 回以上の者を対象**とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018 年度は 2017 年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

鈴木 良則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだ意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに
この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間制（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ
義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法
本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。
注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造（鈴木） 2：スポーツと医学（大西） 3：スポーツと心理（草山） 4：スポーツと動作（三好）

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ	②達成動機と要求水準 ①集団による同調
11	スポーツと動作Ⅰ	②社会的促進と社会的手抜き ①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題Ⅰ：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題Ⅱ：身体セルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス1回目の授業で提示された課題に取り組み、2回目および3回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第1回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第2回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が10回以上の者を対象とする**ので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018年度は2017年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016年度以前入学者

草山 太一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好

- 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
- 2) 体力測定の意義を述べるができる
- 3) 体力測定結果を客観的に評価できる

2. 身体構造と運動：鈴木

- 1) 動作や運動について理解する
- 2) 随意運動について簡単な説明ができる
- 3) 遊びについて理解を深める
- 4) 効率的な動きについて理解を深める

3. スポーツと医学：大西

- 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
- 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する

4. スポーツと心理：草山

- 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
- 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
- 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
- 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる

5. スポーツと動作：三好

- 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
- 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
- 14) 自身のからだと意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題 2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が 10 回以上の者を対象**とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018 年度は 2017 年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

草山 太一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだ意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに
この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ
義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法
本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。
注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造（鈴木） 2：スポーツと医学（大西） 3：スポーツと心理（草山） 4：スポーツと動作（三好）

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内的動機づけと外的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準 ③集団による同調 ④社会的促進と社会的手抜き
10	スポーツと心理Ⅲ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題Ⅰ：体幹のセルフコントロール
11	スポーツと動作Ⅰ	動作課題Ⅱ：身体セルフリラクゼーション
12	スポーツと動作Ⅱ	身体動作への気づきと心身の健康
13	スポーツと動作Ⅲ	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する
14	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス1回目の授業で提示された課題に取り組み、2回目および3回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第1回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第2回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が10回以上の者を対象とする**ので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018年度は2017年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016年度以前入学者

三好 英次

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜ききの現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだと意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
- 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
- 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 - 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が 10 回以上の者を対象とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2019 年度は 2018 年度までの授業内容を踏襲する中で、学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

三好 英次

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだと意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに
この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間制（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ
義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法
本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。
注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造（鈴木） 2：スポーツと医学（大西） 3：スポーツと心理（草山） 4：スポーツと動作（三好）

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準 ③集団による同調 ④社会的促進と社会的手抜き
10	スポーツと心理Ⅲ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題Ⅰ：体幹のセルフコントロール
11	スポーツと動作Ⅰ	動作課題Ⅱ：身体セルフリラクゼーション
12	スポーツと動作Ⅱ	身体動作への気づきと心身の健康
13	スポーツと動作Ⅲ	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する
14	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス1回目の授業で提示された課題に取り組み、2回目および3回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第1回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第2回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

- 鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が10回以上の者を対象とする**ので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2019年度は2018年度までの授業内容を踏襲する中で、学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016年度以前入学者

大西 朋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
 - (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
 - (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
 - (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
 - (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る
- －具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好

- 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
- 2) 体力測定の意義を述べるができる
- 3) 体力測定結果を客観的に評価できる

2. 身体構造と運動：鈴木

- 1) 動作や運動について理解する
- 2) 随意運動について簡単な説明ができる
- 3) 遊びについて理解を深める
- 4) 効率的な動きについて理解を深める

3. スポーツと医学：大西

- 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
- 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する

4. スポーツと心理：草山

- 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
- 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
- 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
- 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる

5. スポーツと動作：三好

- 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
- 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
- 14) 自身のからだと意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題 2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
- 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
- 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 - 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が 10 回以上の者を対象**とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018 年度は 2017 年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

大西 朋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだ意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。
 注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造（鈴木） 2：スポーツと医学（大西） 3：スポーツと心理（草山） 4：スポーツと動作（三好）

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準 ③集団による同調
10	スポーツと心理Ⅲ	④社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題Ⅰ：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題Ⅱ：身体セルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス1回目の授業で提示された課題に取り組み、2回目および3回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第1回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第2回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

- 鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
 大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
 草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
 三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が10回以上の者を対象とする**ので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018年度は2017年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016年度以前入学者

鈴木 良則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
 - (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
 - (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
 - (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
 - (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る
- －具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜ききの現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだを意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認してください。
2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題 2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が 10 回以上の者を対象**とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018 年度は 2017 年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

鈴木 良則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだ意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに
この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間制（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ
義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法
本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。
注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造（鈴木） 2：スポーツと医学（大西） 3：スポーツと心理（草山） 4：スポーツと動作（三好）

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係
10	スポーツと心理Ⅲ	②達成動機と要求水準 ①集団による同調
11	スポーツと動作Ⅰ	②社会的促進と社会的手抜き ①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題Ⅰ：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題Ⅱ：身体セルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス1回目の授業で提示された課題に取り組み、2回目および3回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第1回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第2回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

- 鈴木：授業内評価20%＋試験80%
大西：授業内評価30%＋試験70%
草山：授業内評価40%＋試験60%
三好：授業内評価80%＋試験20%

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が10回以上の者を対象とする**ので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018年度は2017年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016年度以前入学者

草山 太一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べることができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだを意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題 2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が 10 回以上の者を対象**とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018 年度は 2017 年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

草山 太一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだ意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに
この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ
義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法
本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造（鈴木） 2：スポーツと医学（大西） 3：スポーツと心理（草山） 4：スポーツと動作（三好）

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内的動機づけと外的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準 ③集団による同調
10	スポーツと心理Ⅲ	④社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題Ⅰ：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題Ⅱ：身体セルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス1回目の授業で提示された課題に取り組み、2回目および3回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第1回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第2回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

- 鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が10回以上の者を対象とする**ので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018年度は2017年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016年度以前入学者

三好 英次

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- （1）身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
 - （2）豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
 - （3）自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
 - （4）卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
 - （5）就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る
- －具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好

- 1）大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
- 2）体力測定の意義を述べることができる
- 3）体力測定結果を客観的に評価できる

2. 身体構造と運動：鈴木

- 1）動作や運動について理解する
- 2）随意運動について簡単な説明ができる
- 3）遊びについて理解を深める
- 4）効率的な動きについて理解を深める

3. スポーツと医学：大西

- 5）身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 6）内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
- 7）生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する

4. スポーツと心理：草山

- 8）スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
- 9）スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
- 10）スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
- 11）集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる

5. スポーツと動作：三好

- 12）立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
- 13）基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
- 14）自身のからだを意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題 2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
- 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
- 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 - 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が 10 回以上の者を対象とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2019 年度は 2018 年度までの授業内容を踏襲する中で、学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

三好 英次

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだ意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに
この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間制（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ
義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法
本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。
注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造（鈴木） 2：スポーツと医学（大西） 3：スポーツと心理（草山） 4：スポーツと動作（三好）

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内的動機づけと外的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準 ③集団による同調
10	スポーツと心理Ⅲ	④社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題Ⅰ：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題Ⅱ：身体セルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス1回目の授業で提示された課題に取り組み、2回目および3回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第1回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第2回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

- 鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が10回以上の者を対象とする**ので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2019年度は2018年度までの授業内容を踏襲する中で、学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016年度以前入学者

大西 朋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
 - (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
 - (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
 - (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
 - (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る
- －具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好

- 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
- 2) 体力測定の意義を述べるができる
- 3) 体力測定結果を客観的に評価できる

2. 身体構造と運動：鈴木

- 1) 動作や運動について理解する
- 2) 随意運動について簡単な説明ができる
- 3) 遊びについて理解を深める
- 4) 効率的な動きについて理解を深める

3. スポーツと医学：大西

- 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
- 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する

4. スポーツと心理：草山

- 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
- 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
- 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
- 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜ききの現象について説明できる

5. スポーツと動作：三好

- 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
- 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
- 14) 自身のからだと意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題 2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が 10 回以上の者を対象**とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018 年度は 2017 年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

大西 朋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだ意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに
この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ
義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法
本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。
注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造（鈴木） 2：スポーツと医学（大西） 3：スポーツと心理（草山） 4：スポーツと動作（三好）

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準 ③集団による同調
10	スポーツと心理Ⅲ	④社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題Ⅰ：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題Ⅱ：身体セルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス1回目の授業で提示された課題に取り組み、2回目および3回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第1回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第2回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

- 鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が10回以上の者を対象とする**ので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018年度は2017年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016年度以前入学者

鈴木 良則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- （1）身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
 - （2）豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
 - （3）自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
 - （4）卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
 - （5）就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る
- －具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好

- 1）大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
- 2）体力測定の意義を述べるができる
- 3）体力測定結果を客観的に評価できる

2. 身体構造と運動：鈴木

- 1）動作や運動について理解する
- 2）随意運動について簡単な説明ができる
- 3）遊びについて理解を深める
- 4）効率的な動きについて理解を深める

3. スポーツと医学：大西

- 5）身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 6）内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
- 7）生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する

4. スポーツと心理：草山

- 8）スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
- 9）スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
- 10）スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
- 11）集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる

5. スポーツと動作：三好

- 12）立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
- 13）基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
- 14）自身のからだと意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が 10 回以上の者を対象**とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018 年度は 2017 年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

鈴木 良則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだと意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに
この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間制（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ
義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法
本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。
注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造（鈴木） 2：スポーツと医学（大西） 3：スポーツと心理（草山） 4：スポーツと動作（三好）

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践 身体活動とエネルギー消費 生活習慣病 内的および外的要因と運動 ①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ） ①内発的動機づけと外部報酬との関係
5	スポーツと医学Ⅰ	②達成動機と要求水準
6	スポーツと医学Ⅱ	①集団による同調
7	スポーツと医学Ⅲ	②社会的促進と社会的手抜き
8	スポーツと心理Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題Ⅰ：体幹のセルフコントロール 動作課題Ⅱ：身体セルフリラクゼーション 身体動作への気づきと心身の健康 各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する
9	スポーツと心理Ⅱ	
10	スポーツと心理Ⅲ	
11	スポーツと動作Ⅰ	
12	スポーツと動作Ⅱ	
13	スポーツと動作Ⅲ	
14	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス1回目の授業で提示された課題に取り組み、2回目および3回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第1回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第2回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が10回以上の者を対象とする**ので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018年度は2017年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016年度以前入学者

草山 太一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスと体力測定：鈴木・大西・草山・三好

- 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
- 2) 体力測定の意義を述べることができる
- 3) 体力測定結果を客観的に評価できる

2. 身体構造と運動：鈴木

- 1) 動作や運動について理解する
- 2) 随意運動について簡単な説明ができる
- 3) 遊びについて理解を深める
- 4) 効率的な動きについて理解を深める

3. スポーツと医学：大西

- 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
- 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する

4. スポーツと心理：草山

- 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
- 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
- 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
- 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜ききの現象について説明できる

5. スポーツと動作：三好

- 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
- 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
- 14) 自身のからだと意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するということです。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題 2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
- 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
- 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 - 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が 10 回以上の者を対象**とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018 年度は 2017 年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】**Outline and Objectives**

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

草山 太一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだ意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに
この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ
義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法
本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。
注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造（鈴木） 2：スポーツと医学（大西） 3：スポーツと心理（草山） 4：スポーツと動作（三好）

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準 ③集団による同調
10	スポーツと心理Ⅲ	④社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題Ⅰ：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題Ⅱ：身体セルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス1回目の授業で提示された課題に取り組み、2回目および3回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第1回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第2回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が10回以上の者を対象とする**ので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018年度は2017年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016年度以前入学者

三好 英次

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだと意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間割（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（＝教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔大西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
- 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
- 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 - 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員 3 人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、受験資格として出席が 10 回以上の者を対象とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2019 年度は 2018 年度までの授業内容を踏襲する中で、学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

三好 英次

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る

－具体的な授業の到達目標－

1. **ガイダンスと体力測定**：鈴木・大西・草山・三好
 - 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
 - 2) 体力測定の意義を述べるができる
 - 3) 体力測定結果を客観的に評価できる
2. **身体構造と運動**：鈴木
 - 1) 動作や運動について理解する
 - 2) 随意運動について簡単な説明ができる
 - 3) 遊びについて理解を深める
 - 4) 効率的な動きについて理解を深める
3. **スポーツと医学**：大西
 - 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
 - 6) 内的（加齢）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する
 - 7) 生活習慣病の基礎知識を学び、動脈硬化の危険因子を理解する
4. **スポーツと心理**：草山
 - 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
 - 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
 - 10) スポーツ活動における内的動機づけの重要性について説明できる
 - 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手抜き現象について説明できる
5. **スポーツと動作**：三好
 - 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
 - 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
 - 14) 自身のからだと意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は必修科目であり、「半期週1回」の授業です（再履修者も含む）。履修する時間制（学期・曜日・時限）は、学部・学科・所属クラスごとに指定されるため、**各学期の1回目の教場を掲示板で必ず確認**してください。
2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。
3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注）各クラスには単位認定を行う担任教員が配置されていますが、担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の3人が専門授業をリレーしていくことで12回（=教員4人×授業3回）の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造（鈴木） 2：スポーツと医学（大西） 3：スポーツと心理（草山） 4：スポーツと動作（三好）

本演習の授業回数は全14回です。1回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体構造と運動Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践Ⅰ
3	身体構造と運動Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体構造と運動Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準 ③集団による同調
10	スポーツと心理Ⅲ	④社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題Ⅰ：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題Ⅱ：身体セルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	身体動作への気づきと心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各オムニバス1回目の授業で提示された課題に取り組み、2回目および3回目の授業の準備をする
2. 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
3. 第1回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第2回の授業開始時に提出する

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 2. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 3. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 4. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD付）』主婦の友社
 5. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻878号
 6. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 7. 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 8. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの担任教員が他の教員3人から提示された評価を総合して単位を認定します。教員1人に配分される評価割合は25点ずつです。25点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各25点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
大西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのレポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が10回以上の者を対象とする**ので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2019年度は2018年度までの授業内容を踏襲する中で、学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で各オムニバスを受講します。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。また、授業内容やその運営に関する詳細は、春学期と秋学期の初回授業のガイダンスで説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館1F玄関に掲示されています。

なお、欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016年度以前入学者

千葉 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第2回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第3回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第4回	バドミントン①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第5回	バレーボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第6回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第7回	バレーボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第8回	バスケットボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第9回	バスケットボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第10回	バドミントン②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第11回	卓球①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第12回	卓球②	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第13回	ユニホック	ルールの理解とゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第14回	社会的スキル	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

① 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

② 課題・レポート 40%

の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【その他の重要事項】

① 授業の進捗状況や要望によって、授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業時にアナウンスする。

② 運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

千葉 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第 3 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第 4 回	バドミントン①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 5 回	バレーボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 6 回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第 7 回	バレーボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 8 回	バスケットボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 9 回	バスケットボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 10 回	バドミントン②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 11 回	卓球①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 12 回	卓球②	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第 13 回	ユニホック	ルールの理解とゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 14 回	社会的スキル	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

① 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

② 課題・レポート 40%

の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【その他の重要事項】

① 授業の進捗状況や要望によって、授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業時にアナウンスする。

② 運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

福井 邦宗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。

② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。

④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全授業共通。「ガイダンス」
2	体力測定	全授業共通。「体力測定」
3	フットサル	フットサルのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
4	バスケットボール	バスケットボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
5	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成を行う
6	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義及び実技）
7	バドミントン I	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
8	バドミントン II	バドミントンの応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
9	卓球 I	卓球のルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
10	卓球 II	卓球の応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
11	身体運動とコミュニケーション I	コミュニケーション能力の重要性と獲得方法を、受講生間でのグループワークを含む講義形式で学び、レポートを作成する
12	身体運動とコミュニケーション II	対人及びグループ間でのワークもしくは身体運動を通じて、コミュニケーション能力向上の効果を理解する（講義及び実技）
13	バレーボール	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
14	授業総括	授業全体の総括を行う（講義及び実技）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

次の基準により総合的に評価する。1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %（参画状況とは単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とすることの意味する）、2）課題・レポート 40 %。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。3）原則として欠席 3 回までを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

運動不足の解消や健康の維持増進に役立つことはもちろん、今後の継続した運動習慣獲得のための知識や技能習得に寄与出来るよう指導を行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

実技の際は運動に適した服装（靴含む）を各自で準備すること。また、講義の際には筆記用具を各自で準備すること

【その他の重要事項】

授業内容に関する詳細な説明を行うため、初回授業には必ず出席すること

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

福井 邦宗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全授業共通。「ガイダンス」
2	体力測定	全授業共通。「体力測定」
3	フットサル	フットサルのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
4	バスケットボール	バスケットボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
5	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成を行う
6	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義及び実技）
7	バドミントンⅠ	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
8	バドミントンⅡ	バドミントンの応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
9	卓球Ⅰ	卓球のルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
10	卓球Ⅱ	卓球の応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
11	身体運動とコミュニケーションⅠ	コミュニケーション能力の重要性と獲得方法を、受講生間でのグループワークを含む講義形式で学び、レポートを作成する
12	身体運動とコミュニケーションⅡ	対人及びグループ間でのワークもしくは身体運動を通じて、コミュニケーション能力向上の効果を理解する（講義及び実技）
13	バレーボール	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
14	授業総括	授業全体の総括を行う（講義及び実技）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

次の基準により総合的に評価する。1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %（参画状況とは単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするということの意味する）、2）課題・レポート 40 %。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。3）原則として欠席 3 回までを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

運動不足の解消や健康の維持増進に役立つことはもちろん、今後の継続した運動習慣獲得のための知識や技能習得に寄与出来るよう指導を行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

実技の際は運動に適した服装（靴含む）を各自で準備すること。また、講義の際には筆記用具を各自で準備すること

【その他の重要事項】

授業内容に関する詳細な説明を行うため、初回授業には必ず出席すること

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

高野 美穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する（講義および実習）
第 3 回	ドッジビー①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 4 回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成（講義）
第 5 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第 6 回	ドッジビー②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第 7 回	卓球①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 8 回	卓球②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第 9 回	心身の健康とスポーツ①	心身の健康とスポーツに関する講義およびレポートの作成（講義）
第 10 回	心身の健康とスポーツ②	心身の健康とスポーツに関する講義およびレポートの提出（講義）
第 11 回	バドミントン①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 12 回	バドミントン②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第 13 回	ソフトバレーボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 14 回	ソフトバレーボール②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concertely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

高野 美穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する（講義および実習）
第 3 回	ドッチビー①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 4 回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成（講義）
第 5 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第 6 回	ドッチビー②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第 7 回	卓球①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 8 回	卓球②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第 9 回	心身の健康とスポーツ①	心身の健康とスポーツに関する講義およびレポートの作成（講義）
第 10 回	心身の健康とスポーツ②	心身の健康とスポーツに関する講義およびレポートの提出（講義）
第 11 回	バドミントン①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 12 回	バドミントン②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第 13 回	ソフトバレーボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 14 回	ソフトバレーボール②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to imrove properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concertely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

飯村 周平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	授業概要の説明
体力測定	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する
健康と体力	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	体力測定のフィードバック及びレポートの作成
トレーニング演習	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ
スポーツ実習及び講義 1	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習及び講義（バドミントン 1）
スポーツ実習及び講義 2	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習及び講義（バドミントン 2）
スポーツと心理学 1	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	ウェルビーイングの向上に関する講義及びグループワーク 1

発行日：2019/5/1

スポーツ と心理学 2	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上に関する講義 及びグループワーク 2
スポーツ 実習及び 講義 3	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（ドッチビー 1）
スポーツ 実習及び 講義 4	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（ドッチビー 2）
スポーツ 実習及び 講義 5	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（バドミントン 3）
スポーツ 実習及び 講義 6	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（バドミントン 4）
スポーツ 実習及び 講義 7	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（卓球）
スポーツ と心理学 3	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	授業の総括、ウェルビーイングの向上 に関するレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
2. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
3. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。
3. 毎回の授業でリアクションペーパーや資料を配布するので、筆記用具を持参すること。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

飯村 周平

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	授業概要の説明
体力測定	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する
健康と体力	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	体力測定のフィードバック及びレポートの作成
トレーニング演習	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ
スポーツ実習及び講義 1	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習及び講義（バドミントン 1）
スポーツ実習及び講義 2	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習及び講義（バドミントン 2）
スポーツと心理学 1	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	ウェルビーイングの向上に関する講義及びグループワーク 1

スポーツ と心理学 2	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上に関する講義 及びグループワーク 2
スポーツ 実習及び 講義 3	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（ドッチビー 1）
スポーツ 実習及び 講義 4	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（ドッチビー 2）
スポーツ 実習及び 講義 5	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（バドミントン 3）
スポーツ 実習及び 講義 6	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（バドミントン 4）
スポーツ 実習及び 講義 7	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（卓球）
スポーツ と心理学 3	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	授業の総括、ウェルビーイングの向上 に関するレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
2. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
3. 授業内で学んだ知識を生かし、ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分と
して総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が
困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

1. 初回授業は授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。
3. 毎回の授業でリアクションペーパーや資料を配布するので、筆記用具を持参すること。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

千葉 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第 3 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第 4 回	バドミントン①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 5 回	バレーボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 6 回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第 7 回	バレーボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 8 回	バスケットボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 9 回	バスケットボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 10 回	バドミントン②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 11 回	卓球①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 12 回	卓球②	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第 13 回	ユニホック	ルールの理解とゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 14 回	社会的スキル	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

① 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

② 課題・レポート 40%

の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【その他の重要事項】

① 授業の進捗状況や要望によって、授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業時にアナウンスする。

② 運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

千葉 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。

② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。

④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第 3 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第 4 回	バドミントン①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 5 回	バレーボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 6 回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第 7 回	バレーボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 8 回	バスケットボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 9 回	バスケットボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 10 回	バドミントン②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 11 回	卓球①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 12 回	卓球②	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第 13 回	ユニホック	ルールの理解とゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 14 回	社会的スキル	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

① 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

② 課題・レポート 40%

の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【その他の重要事項】

① 授業の進捗状況や要望によって、授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業時にアナウンスする。

② 運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

福井 邦宗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全授業共通。「ガイダンス」
2	体力測定	全授業共通。「体力測定」
3	フットサル	フットサルのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
4	バスケットボール	バスケットボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
5	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成を行う
6	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義及び実技）
7	バドミントンⅠ	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
8	バドミントンⅡ	バドミントンの応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
9	卓球Ⅰ	卓球のルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
10	卓球Ⅱ	卓球の応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
11	身体運動とコミュニケーションⅠ	コミュニケーション能力の重要性と獲得方法を、受講生間でのグループワークを含む講義形式で学び、レポートを作成する
12	身体運動とコミュニケーションⅡ	対人及びグループ間でのワークもしくは身体運動を通じて、コミュニケーション能力向上の効果を理解する（講義及び実技）
13	バレーボール	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
14	授業総括	授業全体の総括を行う（講義及び実技）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

次の基準により総合的に評価する。1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %（参画状況とは単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするということの意味する）、2）課題・レポート 40 %。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。3）原則として欠席 3 回までを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

運動不足の解消や健康の維持増進に役立つことはもちろん、今後の継続した運動習慣獲得のための知識や技能習得に寄与出来るよう指導を行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

実技の際は運動に適した服装（靴含む）を各自で準備すること。また、講義の際には筆記用具を各自で準備すること。

【その他の重要事項】

授業内容に関する詳細な説明を行うため、初回授業には必ず出席すること

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

福井 邦宗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全授業共通。「ガイダンス」
2	体力測定	全授業共通。「体力測定」
3	フットサル	フットサルのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
4	バスケットボール	バスケットボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
5	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成を行う
6	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義及び実技）
7	バドミントンⅠ	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
8	バドミントンⅡ	バドミントンの応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
9	卓球Ⅰ	卓球のルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
10	卓球Ⅱ	卓球の応用的な技術・戦術を学び、試合を通じて対人関係能力向上の効果について理解を深める（講義及び実技）
11	身体運動とコミュニケーションⅠ	コミュニケーション能力の重要性と獲得方法を、受講生間でのグループワークを含む講義形式で学び、レポートを作成する
12	身体運動とコミュニケーションⅡ	対人及びグループ間での身体運動を通じて、コミュニケーション能力向上の効果を理解する（講義及び実技）
13	バレーボール	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義及び実技）
14	授業総括	授業全体の総括を行う（講義及び実技）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

次の基準により総合的に評価する。1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %（参画状況とは単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするということの意味する）、2）課題・レポート 40 %。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。3）原則として欠席 3 回までを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

運動不足の解消や健康の維持増進に役立つことはもちろん、今後の継続した運動習慣獲得のための知識や技能習得に寄与出来るよう指導を行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

実技の際は運動に適した服装（靴含む）を各自で準備すること。また、講義の際には筆記用具を各自で準備すること

【その他の重要事項】

授業内容に関する詳細な説明を行うため、初回授業には必ず出席すること

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

高野 美穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する（講義および実習）
第 3 回	ドッジビー①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 4 回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成（講義）
第 5 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第 6 回	ドッジビー②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第 7 回	卓球①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 8 回	卓球②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第 9 回	心身の健康とスポーツ①	心身の健康とスポーツに関する講義およびレポートの作成（講義）
第 10 回	心身の健康とスポーツ②	心身の健康とスポーツに関する講義およびレポートの提出（講義）
第 11 回	バドミントン①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 12 回	バドミントン②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第 13 回	ソフトバレーボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 14 回	ソフトバレーボール②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concertely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

高野 美穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する（講義および実習）
第 3 回	ドッチビー①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 4 回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成（講義）
第 5 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
第 6 回	ドッチビー②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第 7 回	卓球①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 8 回	卓球②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第 9 回	心身の健康とスポーツ①	心身の健康とスポーツに関する講義およびレポートの作成（講義）
第 10 回	心身の健康とスポーツ②	心身の健康とスポーツに関する講義およびレポートの提出（講義）
第 11 回	バドミントン①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 12 回	バドミントン②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）
第 13 回	ソフトバレーボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義および実習）
第 14 回	ソフトバレーボール②	試合を通じ、応用的技術の習得および戦術の理解（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concertely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）の実施（講義）
2	体力測定	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する（講義及び実習）
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成（講義）
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ（講義及び実習）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	スポーツと人間心理 1	受講生間の相互理解の促進を目的とした講義及びグループワーク
8	スポーツと人間心理 2	自己理解の促進を目的とした講義及び実習
9	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	集団スポーツを学ぶ 4	バレーボールを通じた社会的スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
12	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた社会的スキルの促進（講義及び実習）
13	個人スポーツを学ぶ 3	卓球を通じた協同活動の理解と実践、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施（講義及び実習）
14	スポーツと人間心理 3	授業の総括、社会的スキルに関するレポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習にあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中の活動に対する参画状況（60 %）、2. 課題・レポート（40 %）の配分として総合評価する。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、初回授業から出席すること。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味である。
4. この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 講義中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
2. 上記の授業計画は、受講者数等によって変更される場合がある。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）の実施（講義）
2	体力測定	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する（講義及び実習）
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポートの作成（講義）
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ（講義及び実習）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	スポーツと人間心理 1	受講生間の相互理解の促進を目的とした講義及びグループワーク
8	スポーツと人間心理 2	自己理解の促進を目的とした講義及び実習
9	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	集団スポーツを学ぶ 4	バレーボールを通じた社会的スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
12	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた社会的スキルの促進（講義及び実習）
13	個人スポーツを学ぶ 3	卓球を通じた協同活動の理解と実践、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施（講義及び実習）
14	スポーツと人間心理 3	授業の総括、社会的スキルに関するレポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習にあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業中の活動に対する参画状況（60 %）、2. 課題・レポート（40 %）の配分として総合評価する。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、初回授業から出席すること。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味である。
4. この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 講義中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
2. 上記の授業計画は、受講者数等によって変更される場合がある。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

千葉 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第 3 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第 4 回	バドミントン①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 5 回	バレーボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 6 回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第 7 回	バレーボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 8 回	バスケットボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 9 回	バスケットボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 10 回	バドミントン②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 11 回	卓球①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 12 回	卓球②	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第 13 回	ユニホック	ルールの理解とゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 14 回	社会的スキル	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

① 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

② 課題・レポート 40%

の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【その他の重要事項】

① 授業の進捗状況や要望によって、授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業時にアナウンスする。

② 運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

千葉 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第 3 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第 4 回	バドミントン①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 5 回	バレーボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 6 回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第 7 回	バレーボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 8 回	バスケットボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 9 回	バスケットボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 10 回	バドミントン②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 11 回	卓球①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 12 回	卓球②	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第 13 回	ユニホック	ルールの理解とゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 14 回	社会的スキル	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

① 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

② 課題・レポート 40%

の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【その他の重要事項】

① 授業の進捗状況や要望によって、授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業時にアナウンスする。

② 運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

飯村 周平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	授業概要の説明
体力測定	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する
健康と体力	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	体力測定のフィードバック及びレポートの作成
トレーニング演習	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ
スポーツ実習及び講義 1	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習及び講義（バドミントン 1）
スポーツ実習及び講義 2	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習及び講義（バドミントン 2）
スポーツ実習及び講義 3	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習及び講義（卓球）

発行日：2019/5/1

スポーツ と心理学 1	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上に関する講義 及びグループワーク
スポーツ 実習及び 講義 4	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（ドッチビー 1）
スポーツ 実習及び 講義 5	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（ドッチビー 2）
スポーツ 実習及び 講義 6	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（バドミントン 3）
スポーツ 実習及び 講義 7	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（バドミントン 4）
スポーツ 実習及び 講義 8	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（ドッチビー 3）
スポーツ と心理学 2	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	授業の総括、ウェルビーイングに関す るレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
2. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
3. 授業内で学んだ知識を生かし、心理的ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず初回授業に出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。
3. 毎回の授業でリアクションペーパーや資料を配布するので、筆記用具を持参すること。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

飯村 周平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	授業概要の説明
体力測定	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する
健康と体力	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	体力測定のフィードバック及びレポートの作成
トレーニング演習	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	トレーニングの理論と実践方法について学ぶ
スポーツ実習及び講義 1	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習及び講義（バドミントン 1）
スポーツ実習及び講義 2	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習及び講義（バドミントン 2）
スポーツ実習及び講義 3	身体や健康、スポーツに関連した様々な視点からの講義と複数のスポーツ・身体活動を主体とする実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したスポーツ実習及び講義（卓球）

スポーツ と心理学 1	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上に関する講義 及びグループワーク
スポーツ 実習及び 講義 4	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（ドッチビー 1）
スポーツ 実習及び 講義 5	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（ドッチビー 2）
スポーツ 実習及び 講義 6	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（バドミントン 3）
スポーツ 実習及び 講義 7	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（バドミントン 4）
スポーツ 実習及び 講義 8	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	ウェルビーイングの向上を目指したス ポーツ実習及び講義（ドッチビー 3）
スポーツ と心理学 2	身体や健康、スポーツに 関連した様々な視点から の講義と複数のスポー ツ・身体活動を主体とす る実習を行う。	授業の総括、ウェルビーイングに関す るレポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨む。
2. 授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は都度指示する。
3. 授業内で学んだ知識を生かし、心理的ウェルビーイングの向上を目指した取り組みを日常生活で実践することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明を行うため、可能なかぎり必ず初回授業に出席すること。
2. 授業の進捗状況によっては、授業内容を変更する場合がある。変更がある場合には、授業中にアナウンスする。
3. 毎回の授業でリアクションペーパーや資料を配布するので、筆記用具を持参すること。

【Outline and objectives】

This course will conduct to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則、学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間でコミュニケーションをとる。
- 3) 同時時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業展開評価方法のガイダンス
第 2 回	体力測定	体力測定の意義を理解し、実践する。
第 3 回	講義およびバドミントン	スポーツと健康について講義 バドミントンの基本技術の習得およびルールを説明する
第 4 回	講義およびバレーボール	スポーツと健康について講義 バレーボールの基本技術の習得、ルール及びチームワークを説明する
第 5 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について説明する
第 6 回	講義及びバスケットボール	スポーツと健康について講義 バスケットボールの基本技術習得 & ゲーム
第 7 回	講義及びフットサル	スポーツと健康について講義 フットサルの基本技術習得&ゲーム
第 8 回	講義及びアルティメット	スポーツと健康について講義 アルティメットの基本技術の習得及 & ゲーム
第 9 回	体力についての講義	体力及び体力測定の定義、評価について説明する
第 10 回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論を説明する
第 11 回	講義及びバレーボール	チームワークについて講義 バレーボールのゲーム
第 12 回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の効果について説明する (講義と実践)
第 13 回	講義及びバスケットボール	チームワークについて講義バスケットボールのゲーム
第 14 回	授業の総括	授業の総括及び生涯スポーツについて講義 レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員の指示に従って、以下のことを行うこと

- 1) 次回に取り組む授業計画の内容を調べる（技術やルール、マナー等）。
- 2) 日常生活（食事・運動・休養等）記録を取り、気づいたことを考察する。
- 3) 自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策をたて心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】

授業時に体力カード・資料を配布する

【参考書】

必要・希望に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60%
- 2) 課題・レポート内容 40% の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

運動意欲や参加意欲の高い学生が多いのがアンケートからわかる。日ごろの運動不足を少しでも解消できるように指導し色々な種目を体験し実施することで経験や習得した知識が、これからの学生が健康に生活していくために少しでも役立つように指導したい。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則、学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、受講の際の注意点は以下の通りである。

- 1) 実技授業時には必ず運動着と室内運動靴を着用する。
- 2) 受講生間でコミュニケーションをとる。
- 3) 同時時間帯に開講されている他の授業との調整のため授業計画が変更される可能性を理解しておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業展開評価方法のガイダンス
第 2 回	体力測定	体力測定の意義を理解し、実践する。
第 3 回	講義およびバドミントン	スポーツと健康について講義 バドミントンの基本技術の習得およびルールを説明する
第 4 回	講義およびバレーボール	スポーツと健康について講義 バレーボールの基本技術の習得、ルール及びチームワークを説明する
第 5 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法について説明する
第 6 回	講義及びバスケットボール	スポーツと健康について講義 バスケットボールの基本技術習得 & ゲーム
第 7 回	講義及びフットサル	スポーツと健康について講義 フットサルの基本技術習得 & ゲーム
第 8 回	講義及びアルティメット	スポーツと健康について講義 アルティメットの基本技術の習得及 & ゲーム
第 9 回	体力についての講義	体力及び体力測定の定義、評価について説明する
第 10 回	トレーニングについて講義	トレーニングの基礎理論を説明する
第 11 回	講義及びバレーボール	チームワークについて講義 バレーボールのゲーム
第 12 回	講義及び有酸素運動	有酸素運動の効果について説明する (講義と実践)
第 13 回	講義及びバスケットボール	チームワークについて講義 バスケットボールのゲーム
第 14 回	授業の総括	授業の総括及び生涯スポーツについて講義 レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員の指示に従って、以下のことを行うこと

- 1）次回に取り組み授業計画の内容を調べる（技術やルール、マナー等）。
- 2）日常生活（食事・運動・休養等）記録を取り、気づいたことを考察する。
- 3）自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策をたて心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】

授業時に体力カード・資料を配布する

【参考書】

必要・希望に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

- 1）授業中の活動に対する参画状況 60%
- 2）課題・レポート内容 40% の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

運動意欲や参加意欲の高い学生が多いのがアンケートからわかる。日ごろの運動不足を少しでも解消できるように指導し色々な種目を体験し実施することで経験や習得した知識が、これからの学生が健康に生活していくために少しでも役立つように指導したい。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 6/Mon.6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、法学部以外の学部再履修生および社会人（RSP 含む）学生を対象に行う。オータムセッション期間中に、多摩キャンパスにおいて、1～8 回まで2日間連続で行い、残りの9～14 回を市ヶ谷キャンパスで開講する。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。

授業はスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験およびレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

本講義の詳細については、各学部のガイダンスおよび再履修者ガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （講義） 体力測定 （講義および実習）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 文部科学省新体力テストに沿って実施する。
2	身体運動と健康 （講義）	体力測定フィードバックおよびレポート作成についての説明する。 運動が健康に及ぼす影響およびその効果について、また体力と健康との関わりについて説明する。
3	スポーツウォーキング （講義および実習）	スポーツウォーキングの身体へ及ぼす影響について説明し、基本的なウォーキング技術を習得しながら、多摩キャンパス内を実践する。
4	ヨガ （講義および実習）	ヨガについて概説し、基本のポーズを筋肉の解剖を理解しながら実践する。また呼吸法の実践により、ヨガの目的の一つである瞑想について理解を深める。
5	トレッキングⅠ （講義および実習）	多摩キャンパス近くにある高尾山に登り、野外活動の一つであるトレッキングを体験し、自然の中で活動する意義や身体に及ぼす影響について体感する。
6	トレッキングⅡ （講義および実習）	自然活動を行う際の基礎的な知識から、トレッキングなどの専門的な知識などを実践を通じて学習する。 また適切な水分摂取の方法や身体ケアの方法について習得する。
7	食事と健康 （講義）	各栄養素の役割と身体活動との関係を理解する。スポーツ栄養についての概要を説明する。

8	トレッキングⅢ (講義および実習)	高尾山の環境問題について意見を述べ合い、その対策などを確認しながら、トレッキングを実践する。総括として、自然活動のマナーやルールについて学生同士話し合いを行う。
9	トレーニング演習 (講義および実習)	トレーニング理論および実践方法を理解し、実際に機器を使ってトレーニングを行う。また、自重を用いたトレーニング方法を習得する。
10	コンディショニングⅠ (講義および実習)	ウォーミングアップ、クーリングダウンの重要性について説明する。特にストレッチの種類、正確なやり方については実践を通じて習得する。
11	コンディショニングⅡ (講義および実習)	スポーツ傷害について、発生要因と対処法を理解する。また温・冷療法における生体機能について説明する。
12	スポーツ実習〈卓球〉 (講義および実習)	卓球の基礎的技術であるファハンド、バックハンドでのラリー、またサーブを習得する。試合のルールに沿って簡易ゲームを行う。
13	スポーツ実習〈ニュースポーツ〉 (講義および実習)	ニュースポーツについて概説し、その一つであるソフトバレーを実践する。基本的なパス、レシーブ、サーブ練習を行った後に、チームに分かれてゲームを行う。
14	まとめ (講義)	授業全体を通じて、学んだこと、感じたことを振り返り、身体活動の意義や役割について、学生同士意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
- 3) 毎回授業の最後に次回の内容を伝達し、回りの準備にあてるよう工夫を行う。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

竹内 洋輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 6/Mon.6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う

13	得点形式スポーツを学ぶ IV (理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得 し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連 項目について理論を含め講義し、質問 や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。
授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。
教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

小谷 究

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
4	チームビルディング	チームビルディングのアクティビティを用いて、コミュニケーションの重要性及びについて理解する。
5	スポーツ実技 (バドミントン)	バドミントンの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
6	スポーツ実技 (バスケットボール)	バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う。1
7	スポーツ実技 (バスケットボール)	バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う。2
8	スポーツ実技 (バレーボール)	バレーボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手や人数に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う。
9	スポーツ実技 (バドミントン)	バドミントンの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
10	チームビルディング（コンセンサス）	コンセンサスゲームを用いて、チームスポーツ及びチームにおける合意の重要性を理解し、後に続くスポーツ実技への展開を考察する。
11	ニューススポーツ	ニューススポーツの意義を考え、その一つとしてユニホックについて、その歴史やルールを理解する。基礎的なパスやシュート練習を行った後にゲームを行う。

12	スポーツ実技 (バレーボール)	バレーボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手や人数に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う。
13	スポーツ実技 (卓球)	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
14	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

小谷 究

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法
4	チームビルディング	チームビルディングのアクティビティを用いて、コミュニケーションの重要性及びについて理解する。
5	スポーツ実技 (バドミントン)	バドミントンの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
6	スポーツ実技 (バスケットボール)	バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う。
7	スポーツ実技 (バスケットボール)	バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う。
8	スポーツ実技 (バレーボール)	バレーボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手や人数に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う。
9	スポーツ実技 (バドミントン)	バドミントンの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
10	チームビルディング（コンセンサス）	コンセンサスゲームを用いて、チームスポーツ及びチームにおける合意の重要性を理解し、後に続くスポーツ実技への展開を考察する。
11	ニュースポーツ	ニュースポーツの意義を考え、その一つとしてユニホックについて、その歴史やルールを理解する。基礎的なパスやシュート練習を行った後にゲームを行う。

12	スポーツ実技 (バレーボール)	バレーボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手や人数に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う。
13	スポーツ実技 (卓球)	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
14	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

竹内 洋輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う

13	得点形式スポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括 (講義)	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。

教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。

初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・傷害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定 (講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力 (講義)	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする (講義)
4	トレーニング演習 (講義及び実習)	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式 (ネット型) のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式 (ネット型) を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式 (ネット型) のスポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング (講義および実習)	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ (講義および実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式 (ネット型) のスポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	対戦形式 (ネット型) を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式 (ネット型) のスポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う

13	得点形式スポーツを学ぶ IV (理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。

教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。

初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体に関して体調・自身の傷害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

千葉 陽子

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring) | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目（クラス別授業と併せて選択科目としても履修可能）で、夏季休暇期間中に4日間の集中授業として市ヶ谷キャンパスで開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。授業はスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンスを行い、授業内容を理解する
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容を理解し、実施する
第 3 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実施方法
第 4 回	バスケットボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 5 回	バレーボール①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 6 回	健康と体力	体力測定のフィードバックおよびレポートの作成
第 7 回	バレーボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 8 回	ドッチボール・ドッチビー	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 9 回	バスケットボール②	ゲームを通してコミュニケーションの基礎を学び、実践する（講義及び実習）
第 10 回	バドミントン	ルールの理解と基礎的技術の習得およびゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第 11 回	卓球①	ルールの理解と基礎的技術の習得（講義及び実習）
第 12 回	卓球②	シングルス・ダブルスのゲームを通して相互理解を深める（講義及び実習）
第 13 回	社会的スキル①	社会的スキルの基礎知識について講義および実習を行う（講義及び実習）
第 14 回	社会的スキル②	社会的スキルの応用について講義および実習を行う（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

① 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%

② 課題・レポート 40%

の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに合わせて授業内容を変更する場合もある。その場合は、授業内で随時アナウンスする。

【その他の重要事項】

運動着・運動靴の忘れは、怪我等の安全面の配慮からゲーム等には参加できない場合がある。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the student's future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitude for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

位高 駿夫

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring) | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容および手段を理解し、実践する（講義および実習）
第 3 回	レクリエーション	アイスブレイクを中心としたレクリエーション活動を体験しながら、将来実践できるように習得する（講義および実習）
第 4 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法の基礎的な事を理解する（講義および実習）
第 5 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術及びゲームを行う（講義及び実習）
第 6 回	バドミントン	バドミントンのルールの理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 7 回	運動と健康	授業の総括。健康増進のための運動に関するレポートを課すので、提出の後解説をする。（講義）
第 8 回	効果的なトレーニング方法について	現在の個人の体力レベルと課題を理解し、体力の保持増進や課題克服に向けて有効なトレーニング方法を学ぶ（講義）
第 9 回	ユニホック	ユニホックの基礎技術及びゲームを行う（講義及び実習）
第 10 回	フットサル	フットサルの技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う（講義及び実習）
第 11 回	卓球	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 12 回	卓球	卓球の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 13 回	バドミントン	バドミントンの基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 14 回	ウォーキング	運動実施時の身体の変化について実習を通して理解し、運動実施時の注意点などについて学ぶ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業における教員からの指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

種目の得意・不得意や体力の有無など、多様なニーズに合わせて、時間を配分しながら授業を展開し、楽しさとともに学びや気づきの機会を増やすように授業を実施する。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

落合 久夫

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring) | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	体力測定	体力測定の意義、内容および手段を理解し、実践する（講義および実習）
第 3 回	レクリエーション	アイスブレイクを中心としたレクリエーション活動を体験しながら、将来実践できるように習得する（講義および実習）
第 4 回	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法の基礎的な事を理解する（講義および実習）
第 5 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 6 回	バレーボール	バレーボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 7 回	ウォーキング	運動実施時の身体の変化について実習を通して理解し、運動実施時の注意点などについて学ぶ（講義及び実習）
第 8 回	効果的なトレーニング方法について	現在の個人の体力レベルと課題を理解し、体力の保持増進や課題克服に向けて有効なトレーニング方法を学ぶ（講義）
第 9 回	バドミントン	バドミントンの基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 10 回	バドミントン	バドミントンの基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 11 回	卓球	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 12 回	卓球	卓球の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 13 回	フットサル	フットサルの技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う（講義及び実習）
第 14 回	運動と健康	授業の総括。健康増進のための運動に関するレポートを課すので、提出の後解説をする。（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業における教員からの指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2017 年度の後期より着任しており、アンケート結果を集約できていません。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

鈴木 良則

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring) | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
 - (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する
 - (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
 - (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける
 - (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る
- ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスと体力測定：伊藤

- 1) 大学における健康スポーツ科学的な教育の意義を述べることができる
- 2) 体力測定の意義を述べるができる
- 3) 体力測定結果を客観的に評価できる

2. スポーツとトレーニング：伊藤

- 1) トレーニングの原理・原則を説明できる
- 2) トレーニングを安全に行うための注意点を述べるができる
- 3) 運動強度を表す各種指標を説明できる
- 4) 運動の原則にしたがったトレーニング方法を選択することができる

3. スポーツと医学：大西

- 5) 身体組成やエネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 6) 生活習慣病の基礎知識を学び、危険因子や改善項目を理解する
- 7) 内的（加齢および男女差）および外的（環境）要因とスポーツについて理解する

4. スポーツと心理：草山

- 8) スポーツ活動における目標設定の意義について説明できる
- 9) スポーツ活動に関する動機づけの種類やそれらの特徴について説明できる
- 10) スポーツ活動における内発的動機づけの重要性について説明できる
- 11) 集団でスポーツを行なう際の社会的促進・社会的手拔きの現象について説明できる

5. スポーツと動作：三好

- 12) 立位姿勢のメカニズムを学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
- 13) 基礎的な動作課題を通じて自分のからだに対する気づきを高める
- 14) 自身のからだと意識的に向き合うことが、スポーツ活動や心身の健康に及ぼす影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1. はじめに

この授業は半期週1回の通常授業を履修しない**法学部学生のみを対象**に、夏季休暇中の指定された連続4日間に集中して行われます（再履修者も含む）。集中授業の希望者（秋学期履修を指定された者も含む）は**4月の再履修ガイダンス**に必ず出席してください。

2. 授業の位置づけ

義務教育課程や高等学校の保健体育科目では、スポーツを通じた学習が主たるものだったと思います。その過程で期待される効果には、発育発達と体力の保持増進に不可欠な運動による刺激だけでなく、自然発生的なコミュニケーションや協調性が育まれるなどの様々な副次的効果があります。そのため、保健体育科目は将来の社会性を養う上で重要だと一般に周知されています。そして、それらは大学においても同様です。しかし、卒業後の長い人生における加齢の過程を踏まえると、大学における授業内容は必然的に「健康を害する要因」の予防を重視すべきだと言えます。

3. 授業の進め方と方法

本演習の究極的な目的は「卒業後の人生をより良く生きる」ことです。このことから、スポーツのスキルを磨く事よりも、健康・体力づくり、あるいは生活習慣病対策に資する教材を提供し、それらの知識を深め、実践していく態度を養うことを目的に授業を展開します。

具体的には、演習内容を4つの専門領域に分け、各領域のスペシャリストである4人の教員がオムニバス形式の授業を展開します。4つの専門領域と担当者は以下の通りです。

注) 担任教員が全授業を一貫して行うわけではありません。すなわち、担任教員の授業の後に続けて別の 3 人が専門授業をリレーしていくことで 12 回 (=教員 4 人 × 授業 3 回) の授業を実施するという事です。

1：身体運動と構造〔鈴木〕 2：スポーツと医学〔太西〕 3：スポーツと心理〔草山〕 4：スポーツと動作〔三好〕

本演習の授業回数は全 14 回です。1 回目はガイダンスと体力測定を行い、2～13 回目までをオムニバス形式の授業を行います。そして、14 回目に期末試験を行い、総合的に評価した上で単位認定を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・体力測定	授業の意義と進め方、諸注意、体力測定、体力の分析と評価、レポートの書き方
2	身体運動と構造Ⅰ	①身体運動と動く仕組みの実践
3	身体運動と構造Ⅱ	①随意運動の仕組み 講義
4	身体運動と構造Ⅲ	①運動の構造や遊びにおける動作の実践
5	スポーツと医学Ⅰ	身体活動とエネルギー消費
6	スポーツと医学Ⅱ	生活習慣病
7	スポーツと医学Ⅲ	内外的および外的要因と運動
8	スポーツと心理Ⅰ	①目標設定技法 ②モチベーションの種類（内発的動機づけと外発的動機づけ）
9	スポーツと心理Ⅱ	①内発的動機づけと外部報酬との関係 ②達成動機と要求水準
10	スポーツと心理Ⅲ	①集団による同調 ②社会的促進と社会的手抜き
11	スポーツと動作Ⅰ	①立位姿勢の撮影と分析 ②動作課題 1：体幹のセルフコントロール
12	スポーツと動作Ⅱ	動作課題2：身体のセルフリラクゼーション
13	スポーツと動作Ⅲ	動作の学習と心身の健康
14	期末試験	各クラス共通の問題で試験（マークシート解答方式）を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各オムニバス 1 回目の授業で提示された課題に取り組み、2 回目および 3 回目の授業の準備をする
- 各授業に対するリアクションペーパーを提出する
- 第 1 回の「ガイダンスおよび体力測定」に関するレポートを第 2 回の授業時に提出する
- オムニバス 1 のスポーツと運動では、授業外に自主的なトレーニングを行う

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の授業支援システムから配付資料を各自でダウンロードするよう指示が出されます。

【参考書】

- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツの topics』八千代出版
 - 伊藤マモル（監修）『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- この他の参考資料は、各担当教員から必要に応じて紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

担当する 4 人の教員が持ち寄った各評価を総合して単位を認定します。教員 1 人に配分される評価割合は 25 点ずつです。25 点の評価の内訳は「授業内評価」と「試験評価」で構成されます。各 25 点の内訳は以下のように各教員で異なります。

鈴木：授業内評価 20 % + 試験 80 %
太西：授業内評価 30 % + 試験 70 %
草山：授業内評価 40 % + 試験 60 %
三好：授業内評価 80 % + 試験 20 %

なお、オムニバス 1 の「スポーツとトレーニング」では、授業外に行った自主的なトレーニングに関するレポートを評価に含めます。

授業内評価では、各分野別の授業で行われた実習体験などを通じて、本教科の意義を考察した内容、授業後の行動変容などが評価されます。また、授業内評価には授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習のためのリポートなど）やリアクションペーパーも含まれます。

試験の出題範囲は各分野別授業で扱った内容のすべてであり、各クラス共通問題で解答方法はマークシート方式です。ただし、**受験資格として出席が 10 回以上の者を対象**とするので注意してください（欠席および遅刻、早退は減点されます）。

【学生の意見等からの気づき】

授業で行ったリアクションペーパーや授業終了後のアンケートから、本教科の意義や授業内容を高く評価する意見、授業時間数の延長を希望する意見が多くなりました。しかし、オムニバス形式の授業に違和感を覚える者が少なからずいたことや、身体をもっと動かすための機会を本教科に求める意見が寄せられたのも事実です。これらの点については、学生諸君のほとんどがスポーツ実技主体の保健体育科目を経験してきたことが背景にあるのではないかと推察しています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いしていたのかもしれない。

本教科のような健康やスポーツに関する授業を受ける機会を増やしてほしいという要望に沿うためには、本学の授業制度を大幅に見直す必要があるため、2018 年度は 2017 年度の授業内容を踏襲する中で、身体を動かすオプションを加えたり、授業外に行うべき学習活動の充実を加えていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】

本演習では**法学部学生のみが対象**のオムニバス授業です。

選択にあたっては学部ガイダンスで受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

また、授業内容やその運営に関する詳細は、各学期の**初回授業のガイダンス**で説明するので必ず出席して下さい。その時の教場は、体育館 1 F 玄関に掲示されています。欠席および遅刻、早退は減点されるので注意すること。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

荒井 弘和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、「スポーツ総合演習（アダプテッド・コース）」というコースであることに注意されたい。

本コースでは、自らの心身の状況を考慮しつつ、自己に適した運動・スポーツを行うことを重視する。

本授業では、身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、市ヶ谷キャンパスで開講される。
授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
4	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
5	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
6	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
7	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
8	ウォーキングを学ぶ（講義および実習）	ウォーキングの理論を学び、大学周辺においてウォーキングを実践する。
9	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
10	フライングディスクを学ぶ（講義および実習）	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する。
11	ストレッチを学ぶ（講義および実習）	ストレッチの概要を学び、実践する。
12	ピラティスを学ぶ（講義および実習）	ピラティスの概要を学び、実践する。
13	ボッチャを学ぶ（講義および実習）	ボッチャのルールや技術を学び、実践する。
14	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「様々な理由でこの授業を履修している方がいると思いますが、ボッチャだけでなく違うパラスポーツも体験してみたいかったです。でも、スポーツに関して様々な観点から学べて充実していました」「運動を制限されている学生に対してもきちんとした対応がなされていてとても良かったです。コースの人と楽しくスポーツを一緒にできてとても嬉しかったです。障害者スポーツに興味を持つことができました。今後、注目をして見ていきたいと思います」「身体への配慮が行き届いていて、無理なく身体を動かすことができた。授業内でも意見を交換するなど、コミュニケーションを取る場面が多く、人の意見を聞いて勉強になることが多かった。おそらく（人生で）最後の体育になるが、スポーツへのイメージがあまり良くなかったのが、ガラッと変わったので履修して、本当に良かった」「講義はスポーツマンシップ、スポーツの意義を中心に、健康に対する考え方、ストレスへの対処など多岐にわたる。実技はさほど激しくなく、それぞれの障害に配慮した内容になっていて、安心して受講できる」などの意見をもらいました。今後も、受講生の心身の状況（疾患、負傷、障がいなど）に合わせて、授業を実施します。

【その他の重要事項】

アダプテッド・コースの受講者は、以下に示す条件を満たして、担当教員から受講が認められた者とする。

1. スポーツ総合演習の受講に影響のある疾患または障がいのある者。
 2. 負傷しており、所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習の受講が困難な者。
 3. 所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習を履修する者の中で、授業期間中に授業参加が困難なほどに負傷した者。
 4. その他、妥当だと判断される理由のある者。
 5. 「選択科目」としての履修は、原則として認めない。
 6. 「再履修」としての履修は認める。
- なお、負傷している、または、障がいのある者であっても、本コースのスポーツ総合演習を履修するかどうかは、本人の希望を尊重する。また、本コースの受講を検討している者は、原則として、受講を希望する年度の履修登録期間の前に、保健体育部（事務）に連絡をすること。その後、担当教員と面談や情報交換を行った上で、受講の可否が決定される。

【Outline and objectives】

Please note that this course is adapted course for students with serious illnesses and disabilities. In this course, while considering the physical and mental conditions of themselves, students will do exercise and sports suitable for themselves.

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

荒井 弘和

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring) | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、「スポーツ総合演習（アダプテッド・コース）」というコースであることに注意されたい。

本コースでは、自らの心身の状況を考慮しつつ、自己に適した運動・スポーツを行うことを重視する。

本授業では、身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、夏季休暇期間中に 4 日間の集中授業として、市ヶ谷キャンパスで開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
4	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
5	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
6	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
7	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
8	ウォーキングを学ぶ（講義および実習）	ウォーキングの理論を学び、大学周辺においてウォーキングを実践する。
9	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
10	フライングディスクを学ぶ（講義および実習）	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する。
11	ストレッチを学ぶ（講義および実習）	ストレッチの概要を学び、実践する。
12	ピラティスを学ぶ（講義および実習）	ピラティスの概要を学び、実践する。
13	ボッチャを学ぶ（講義および実習）	ボッチャのルールや技術を学び、実践する。
14	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「様々な理由でこの授業を履修している方がいると思いますが、ボッチャだけでなく違うバラスポーツも体験してみたいかったです。でも、スポーツに関して様々な観点から学べて充実していました」「運動を制限されている学生に対してもきちんとした対応がなされていてとても良かったです。コースの人と楽しくスポーツを一緒にできてとても嬉しかったです。障害者スポーツに興味を持つことができました。今後、注目をして見ていきたいと思います」「身体への配慮が行き届いていて、無理なく身体を動かすことができた。授業内でも意見を交換するなど、コミュニケーションを取る場面が多く、人の意見を聞いて勉強になることが多かった。おそらく（人生で）最後の体育になるが、スポーツへのイメージがあまり良くなかったのが、ガラッと変わったので履修して、本当に良かった」「講義はスポーツマンシップ、スポーツの意義を中心に、健康に対する考え方、ストレスへの対処など多岐にわたる。実技はさほど激しくなく、それぞれの障害に配慮した内容になっていて、安心して受講できる」などの意見をもらいました。今後も、受講生の心身の状況（疾患、負傷、障がいなど）に合わせて、授業を実施します。

【その他の重要事項】

アダプテッド・コースの受講者は、以下に示す条件を満たして、担当教員から受講が認められた者とする。

1. スポーツ総合演習の受講に影響のある疾患または障がいのある者。
 2. 負傷しており、所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習の受講が困難な者。
 3. 所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習を履修する者の中で、授業期間中に授業参加が困難なほどに負傷した者。
 4. その他、妥当だと判断される理由のある者。
 5. 「選択科目」としての履修は、原則として認めない。
 6. 「再履修」としての履修は認める。
- なお、負傷している、または、障がいのある者であっても、本コースのスポーツ総合演習を履修するかどうかは、本人の希望を尊重する。また、本コースの受講を検討している者は、原則として、受講を希望する年度の履修登録期間の前に、保健体育部（事務）に連絡をすること。その後、担当教員と面談や情報交換を行った上で、受講の可否が決定される。

【Outline and objectives】

Please note that this course is adapted course for students with serious illnesses and disabilities. In this course, while considering the physical and mental conditions of themselves, students will do exercise and sports suitable for themselves.

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習 S

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

国井 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者のコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

自由に選択履修できる週 1 回半期型授業（選択授業）

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位をする。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	講義の概要、実技のねらい 授業の進め方、注意事項の説明、到達目標などを説明する。
2 回目	バトミントン	ハイクリアー、スマッシュドロップなど基本の打ち方の練習。簡単なルール説明 シングルゲームの実践
3 回目	ストレッチ体操と軽いトレーニングの実践	柔軟性が不足しているので日常やれる種目を指導する。ウォーキングの型を指導する。
4 回目	講義	運動が健康に及ぼす影響を説明する。
5 回目	バトミントン	サーブ練習。ダブルスゲームの実践。
6 回目	卓球	ペン、シェイクの打ち方の違いの説明。フォアハンド、バックハンド、スマッシュなどの打ち方の練習。シングルゲームの実践。
7 回目	バスケットボール	パス、左右からのレイアップシュート、オフエンス、ディフェンスの動きを理解する。3 対 3 のゲーム
8 回目	卓球	ペン、シェイクの打ち方。フォアハンド、バックハンド、スマッシュ等の打ち方の練習。
9 回目	卓球	ルール説明、シングルゲームの実践
10 回目	バレーボール	パス、レシーブ、スパイク等の練習。 2 人・3 人・6 人での乱打練習。サーブ練習。
11 回目	バレーボール	サーブ練習、ゲームの実践

1 2 回目 卓球

サーブの順番等のルール説明。ダブルスゲームの実践

1 3 回目 ウォーキング

ウォーキングの良さを話し、実践をし理解する。脈拍を 100 拍を目標で歩く。

1 4 回目 まとめ

講義とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

【参考書】

「授業担当教員が必要に応じて紹介する。」

【成績評価の方法と基準】

「1）授業中の活動に対する参画状況 60 %、2）課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者にたいしては、個別に対応・評価する。」

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見・授業内での学習の様子を踏まえ、目標達成を念頭に置く。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習 S

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

国井 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で抽選可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	講義の概要、実技のねらい、進め方、注意事項、到達目標など説明する。
2 回目	バドミントン	ハイクリアー、スマッシュ、ドロップなど基本の打ち方、簡単なルール説明。シングルゲームの実践。
3 回目	ストレッチ体操	柔軟性が不足しているので日常やれる種目を指導する。ウォーキングの型を指導する。
4 回目	講義	運動が健康に及ぼす影響
5 回目	バドミントン	サーブの順番等のルール説明。ダブルスゲームの実践。
6 回目	バスケットボール	パス、左右からレイアップシュート、オフense、ディフェンスの動きを理解する。3対3ゲームの実践。
7 回目	バスケットボール	ゲームの実践。
8 回目	卓球	ベン、シェイクの打ち方、フォアハンド、バックハンド、スマッシュ等の打ち方の練習。
9 回目	卓球	シングルゲームの実践。
10 回目	バレーボール	パス、レシーブ、スパイク等の練習。2人・3人・6人での乱打練習。サーブ練習。
11 回目	バレーボール	パス、サーブ練習。ゲームの実践。
12 回目	卓球	ダブルスゲームの実践。
13 回目	ウォーキング	ウォーキングの良さを話し、実践をし理解する。脈拍100拍を目標で歩く。
14 回目	まとめ	講義とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員配布する。」

【参考書】

「授業担当教員が必要に応じて紹介する。」

【成績評価の方法と基準】

「1）授業中の活動に対する参画状況 60 %、2）課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。」

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見・授業内での学習の様子を踏まえ、目標達成を念頭に置く。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

国井 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

自由に選択履修できる週 1 回半期型授業（選択授業）

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位をする。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	講義の概要、実技のねらい 授業の進め方、注意事項の説明、到達目標などを説明する。
2 回目	体力測定	各測定の方法、注意事項の説明。各自で測定をし、各自体力を把握する。
3 回目	ストレッチ体操と軽いトレーニングの実践	柔軟性が不足しているので日常やれる種目を指導する。
4 回目	講義	各自で体力測定の評価する。運動が健康に及ぼす影響を説明。
5 回目	バトミントン	ハイクリアー、スマッシュドロップなど基本の打ち方の実践、簡単なルール説明。シングルゲームの実践
6 回目	卓球	ペン、シェイクの打ち方の違いの説明。フォアハンド、バックハンド、スマッシュなどの打ち方の練習。シングルゲームの実践。
7 回目	バトミントン	サーブ練習。ダブルスゲームの実践。
8 回目	バスケットボール	いろいろなパス、左右からレイアップシュート、オフense、ディフェンスの動きを理解する。3対3のゲームの実践。
9 回目	バスケットボール	ルール説明、ゲームの実践
10 回目	講義（体力と健康について）	運動が健康に及ぼす影響、ウォーキングの効果など

1 1 回目	ウォーキング	ウォーキングの効果を実践して理解する。みゃくはくを100拍を目標で歩く
1 2 回目	フットサル	パス、シュート（1人ドリブルシュート、2人でドリブルシュート）ゲーム
1 3 回目	卓球	サーブの順番などルール説明。ダブルスゲームの実践
1 4 回目	まとめ	講義とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業に行くべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

【参考書】

「授業担当教員が必要に応じて紹介する。」

【成績評価の方法と基準】

「1）授業中の活動に対する参画状況 60 %、2）課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者にたいしては、個別に対応・評価する。」

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見・授業内での学習の様子を踏まえ、目標達成を念頭に置く。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

国井 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

自由に選択履修できる週 1 回半期型授業（選択授業）

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位をする。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	講義の概要、実技のねらい 授業の進め方、注意事項の説明、到達目標などを説明する。
2 回目	体力測定	各測定の方法、注意事項の説明。各自で測定をし、各自体力を把握する。
3 回目	ストレッチ体操と軽いトレーニングの実践	柔軟性が不足しているので日常やれる種目を指導する。
4 回目	講義	各自で体力測定の評価する。運動が健康に及ぼす影響を説明。
5 回目	バトミントン	ハイクリアー、スマッシュドロップなど基本の打ち方の実践、簡単なルール説明。シングルゲームの実践
6 回目	卓球	ペン、シェイクの打ち方の違いの説明。フォアハンド、バックハンド、スマッシュなどの打ち方の練習。シングルゲームの実践。
7 回目	バトミントン	サーブ練習。ダブルスゲームの実践。
8 回目	バスケットボール	いろいろなパス、左右からレイアップシュート、オフENSE、ディフェンスの動きを理解する。3 対 3 のゲームの実践。
9 回目	バスケットボール	ルール説明、ゲームの実践
10 回目	講義（体力と健康について）	運動が健康に及ぼす影響、ウォーキングの効果など

1 1 回目	ウォーキング	ウォーキングの効果を実践して理解する。みゃくはくを 100 拍を目標で歩く
1 2 回目	フットサル	パス、シュート（1 人ドリブルシュート、2 人でドリブルシュート）ゲーム
1 3 回目	卓球	サーブの順番などルール説明。ダブルスゲームの実践
1 4 回目	まとめ	講義とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業に行くべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

「特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。」

【参考書】

「授業担当教員が必要に応じて紹介する。」

【成績評価の方法と基準】

「1）授業中の活動に対する参画状況 60 %、2）課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者にたいしては、個別に対応・評価する。」

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見・授業内での学習の様子を踏まえ、目標達製を念頭に置く。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習 2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習 2016 年度以前入学者

竹内 洋輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う

13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。授業当日、実技実施前後において、自身の身体に関して体調・自身の傷害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

HSS100LA

スポーツ総合演習

2016 年度以前入学者

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う

13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。授業当日、実技実施前後において、自身の身体に関して体調・自身の傷害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I 2016 年度以前入学者

中和 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Voice of America (VOA) を素材とした教科書を用い、英文を正確に、そして速く理解するためのリーディング・スキルを学ぶ。同時に、音声教材を活用して、音と文字と意味を適切に結び付けられるようにする。

読み物のジャンルやテーマは多様で、大学生の知的関心に十分に込められている内容である。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、意味のかたまり（センスグループ (SG)）を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
2. 平易な英語の文章を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
3. 読んで理解できる英文を、聞き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、英語で問いを立てたり、要約したり、コメントしたりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。
講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。
音声教材を用いて、テキストの聞き取りと音読の練習を行う。
各授業の最後に、理解を深めるためのリアクションペーパー（英語）を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業についての説明、センスグループ (SG) とは、辞典の使い方
2	Unit 1 Entertainment and Arts	text 1
3	Unit 1	text 2
4	Unit 2 Sports	text 1
5	Unit 2	text 2
6	Unit 3 Education	text 1
7	Unit 3	text 2
8	復習	前半： Unit 1～3 の復習、補足 後半： Unit 1～3 の復習試験
9	Unit 4 Technology	text 1
10	Unit 4	text 2
11	Unit 5 Health and Mind	text 1
12	Unit 6 Science	text 1
13	Unit 6	text 2
14	復習	前半： Unit 4～6 の復習、補足 後半： Unit 4～6 の復習試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須である。
本文 (各 text) を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や章末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。
予習用ワークシート（要約、作文などの課題）が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

Yasumasa Someya/ Yoshihiro Minamitsu, *Reading Powerhouse*, Kinseido, 2014.

【参考書】

高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を載せているものを選ぶこと。
予習に使用するほか、毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー、提出物など、計 30 %）および復習試験（全 2 回、計 70 %）の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の「学び合い」の時間を設けることが重要であるとわかったので、グループワークを効果的にとりいれたい。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening and summarizing skills. Using a textbook that consists of various articles on current topics from Voice of America (VOA), students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings quickly and accurately.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

中和 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Voice of America (VOA) を素材とした教科書を用い、英文を正確に、そして速く理解するためのリーディング・スキルを学ぶ。同時に、音声教材を活用して、音と文字と意味を適切に結び付けられるようにする。

読み物のジャンルやテーマは多様で、大学生の知的関心に十分に込められている内容である。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、意味のかたまり（センスグループ (SG)）を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
2. 平易な英語の文章を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
3. 読んで理解できる英文を、聞き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、英語で問いを立てたり、要約したり、コメントしたりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。

講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

音声教材を用いて、テキストの聞き取りと音読の練習を行う。

各授業の最後に、理解を深めるためのリアクションペーパー（英語）を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7 Politics & Economy	text 1, 補助教材
2	Unit 8 Business	text 1
3	Unit 8	text 2
4	Unit 9 World News: Japan	text 1
5	Unit 9	補助教材
6	Unit 10 World News: U.S.A	text 1, 補助教材
7	復習	前半： Unit 7～10 の復習、補足 後半： Unit 7～10 の復習試験
8	Unit 11 World News: Europe	text 1, 補助教材
9	Unit 11	text 2, 補助教材
10	Unit 11	補助教材
11	Unit 12 World News: Asia	text 1
12	Unit 12	text 2
13	Unit 13 World News: Africa and Middle East	text 2
14	復習	前半： Unit 11～13 の復習、補足 後半： Unit 11～13 の復習試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須である。

本文（各 text）を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所に印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や章末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

Unit によっては、教科書（2014 年刊）の情報を更新するための補助教材を用いることがある。

予習用ワークシート（要約、作文などの課題）が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

Yasumasa Someya/ Yoshihiro Minamitsu, *Reading Powerhouse*, Kinseido, 2014.

【参考書】

高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。

いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を載せているものを選ぶこと。

予習に使用するほか、毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー、提出物など、計 30 %）および復習試験（全 2 回、計 70 %）の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の「学び合い」の時間を設けることが重要であるとわかったので、グループワークを効果的にとりいれたい。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening and summarizing skills. Using a textbook that consists of various articles on current topics from Voice of America (VOA), students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings quickly and accurately.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I 2016 年度以前入学者

妻鹿 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。毎回、授業の最初に小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1	Well Suited for Royalty (listening)
3	Unit 1	Well Suited for Royalty (reading)
4	Unit 2	Never More Timely (listening)
5	Unit 2	Never More Timely (reading)
6	Unit 3	Miracle Transformer (listening)
7	Unit 3	Miracle Transformer (reading)
8	Unit 4	Lukewarm Welcome (listening)
9	Unit 4	Lukewarm Welcome (reading)
10	Unit 5	Otherworldly Genius (listening)
11	Unit 5	Otherworldly Genius (reading)
12	Unit 6	A Different London Tube (listening)
13	Unit 6	A Different London Tube (reading)
14	試験	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスクリプトと Judgments to Make を予習して下さい。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (20)』
(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、小テスト 20%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

授業で英和辞書と英英辞書を使用します。

【Outline and objectives】

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

English 1 II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II 2016 年度以前入学者

妻鹿 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。毎回、授業の最初に小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の講評
2	Unit 7	Where France Meets Arabia (listening)
3	Unit 7	Where France Meets Arabia (reading)
4	Unit 8	Storing It and Sharing It (listening)
5	Unit 8	Storing It and Sharing It (reading)
6	Unit 9	Dutch Ingenuity (listening)
7	Unit 9	Dutch Ingenuity (reading)
8	Unit 10	Putin's Soft Spot (listening)
9	Unit 10	Putin's Soft Spot (reading)
10	Unit 11	Neither One nor the Other (listening)
11	Unit 11	Neither One nor the Other (reading)
12	Unit 12	Giant Smog Trap (listening)
13	Unit 12	Giant Smog Trap (reading)
14	試験	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスクリプトと Judgments to Make を予習して下さい。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (20)』
(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、小テスト 20%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

授業で英和辞書と英英辞書を使用します。

【Outline and objectives】

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

English 1 I

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

吉川 太恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 技能統合型の総合英語教材をテキストブックに使用する。日本の大学生にとって身近な話題から社会問題まで扱った英文を読み、それぞれのユニットのタイトルについて、どの程度同意するか、タスク（listening, reading, writing, speaking）を通じて、自分の立ち位置を見極め、表現する力を身につけることを目指す。
メインのテキストブック、サブ・テキストブックの *A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* に加えて、新聞、雑誌、ウェブサイトからの記事を取り上げることで、時事問題などについての理解を深める。

【到達目標】
英語の文章を正確に読解すること、ある程度のスピードで英文を英語のままで理解するスキルを身につけることを目指す。また、学生は **writing** や **speaking** の技能を他の技能と共に総合的に向上させることができるようになる。学期末には、学生は今日的な話題について自分の意見を表現する力を身につけることで、英語によるコミュニケーション能力を高めることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
授業は学生がテキストブックに記載されている QR コードを用いた問題をスマートフォンを用いて予習してきたことを前提に行う。基本的に 1 ユニットの 2 回の授業でカバーする。
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、毎回リアクションペーパーの提出を求めることで理解度と、教師との意思の疎通をはかる。各ユニットの終わりには、学生の意見を問う設問があり、次の授業までの宿題として提出を求める場合や、プレゼンテーションの題材に用いるようにする。また、単語力増強のために、*A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* をサブ・テキストブックとして使用する。つぎに、隔週毎にリスニング力をつけるために語学教材ビデオを見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の進め方、出欠の取り扱い、テキストブック及び補助教材について、その他の注意点について。
2	Unit 1-1	We should keep early hours.(1); Step 0 - Step 9
3	Unit 1-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	We should keep early hours. (2); Step 10, Optional Step
4	Unit 2-1	College students should live alone.(1); Step 0 -Step 9
5	Unit 2-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	College students should live alone. (2); Step 10, Optional Step
6	Unit 3-1	Club activities should be banned at schools. (1); Step 0 - Step 9
7	Unit 3-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	Club activities should be banned at schools. (2); Step 10, Optional Step
8	Unit 4-1	Study abroad experience should be a requirement for university graduation.(1); Step 0- Step 9
9	Unit 4-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	Study abroad experience should be a requirement for university graduation.(2); Step 10, Optional Step
10	Unit 5-1	College students should study foreign languages more seriously in addition to English.(1); Step 0 - Step 9
11	Unit 5-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	College students should study foreign languages more seriously in addition to English.(2); Step10, Optional Step

12	Unit 6-1	College students should choose an occupation that suits them.(1); Step 0 - Step 9
13	Unit 6-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	College students should choose an occupation that suits them.(2); Step 10, Optional Step
14	期末試験	テキストブック、サブ・テキストブック、配布したプリントから出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストブックには各所に QR コードが載っていて、学生はスマートフォンからアクセスして、ディクテーションや朗読を聞くことができるようになっている。
予習として授業開始前までに、QR コードにスマートフォンをかざして、本文に関連した 3 つの英文を聞き取って書き取ることを義務付ける。サブ・テキストブックの予習も必須である。

【テキスト（教科書）】
1. *How Much Do You Agree? Evolving Opinions*, KOBAYASHI Toshihiko/Jeremie BOUCHARD、三修社、2019 年、2000 円
2.*A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* (5 分間 日常基本英単語・熟語 1000)、佐藤誠司、南雲堂、2018 年、700 円

【参考書】
テキストブックの音声ダウンロードサイト： <http://sanshusha.co.jp/onsei/isbn/9784384334869/> (参考まで)
『一億人の英文法』、大西泰斗、ポール・マクベイ、東進ブックス、2013 年、1800 円
『英語ライティング・ルールブック：正しく伝えるための文法・語法・句読法』、ディヴィッド・セイン、株式会社 DHC、2011 年、1800 円

【成績評価の方法と基準】
平常点 60%(授業態度、毎回の予習状況、提出物や小テスト、クラスでの発表)を重要視し、学期末試験 (40%) と合わせて総合評価する。成績評価は、100 点満点とした場合、60 点以上が合格となる。
必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上欠席した場合、単位を与えない。 授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなる。また、15 分以上の遅刻 2 回を欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、英語の辞書あるいは電子辞書。

【その他の重要事項】
教師から指示があった場合を除き、授業中にスマートフォンを辞書代わりに使用することを禁止する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to express themselves in English effectively through four skills (reading, writing, listening and speaking). The textbook will enable the students to discover certain topics which deal with comprehensive subjects such as college students' life and various issues about the society.
In addition to the main textbook and the book entitled *A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes*, articles from newspapers, magazines and web sites will be used as other references for the students to enhance and explore their understanding on current topics as well as to widen their vocabularies.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

吉川 太恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、4 技能統合型の総合英語教材をテキストブックを使用する。日本の大学生にとって身近な話題から社会問題まで扱った英文を読み、それぞれのユニットのタイトルについて、どの程度同意するか、タスク（reading, writing, listening, speaking）を通じて、自分の立ち位置を見極め、英語で表現する力を身につけることを目指す。メインのテキストブックに加えて、サブ・テキストブック及び新聞、雑誌、ウェブサイトからの記事を取り上げることで、時事問題などについての理解を深め、語彙力の増強を図る。

【到達目標】

英語の文章を正確に読解すること、ある程度のスピードで英文を英語のままで理解するスキルを身につけることを目指す。また、学生は writing や speaking の技能を他の技能と共に総合的に向上させることができるようになる。学期末には、学生は今日的な話題について、自分の意見を表現する力を身につけることで、英語によるコミュニケーション能力を高めることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は学生がテキストブックに記載されている QR コードを用いた問題を予習をしてきたことを前提に行う。基本的に 1 ユニットの 2 回の授業でカバーする。

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、毎回リアクションペーパーの提出を求めることで理解度と、教師との意思の疎通をはかる。各ユニットの終わりには、学生の意見を問う設問があり、次の授業までの宿題として提出を求める場合や、プレゼンテーションの題材に用いるようにする。また、単語力増強のために、*A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* をサブ・テキストブックと併用して使用する。つぎに、各週毎にリスニング力をつけるために語学教材ビデオを見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7-1	We should consider important rules and manners for online communication.(1); Step 0 - Step 9
2	Unit 7-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	We should consider important rules and manners for online communication.(2); Step 10, Optional Step
3	Unit 8 - 1	More Japanese companies should use English as their main language of business.(1); Step 0 - Step 9
4	Unit 8-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	More Japanese companies should use English as their main language of business.(2); Step 10, Optional Step
5	Unit 9 - 1	School and company uniforms should be abolished.(1); Step 0 - Step 9
6	Unit 9 - 2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	School and company uniforms should be abolished.(2); Step 10, Optional Step
7	Unit 10 - 1	We should promote private lodging more.(1); Step 0 - Step 9
8	Unit 10 - 2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	We should promote private lodging more.(2); Step 10, Optional Step
9	Unit 11 - 1	We should limit the number of tourists from abroad.(1); Step 0 - Step 9
10	Unit 11 - 2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	We should limit the number of tourists from abroad.(2); Step 10, Optional Step

11	Unit 12 - 1	Tobacco should become an illegal drug.(1); Step 0 - Step 9
12	Unit 12 - 2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	Tobacco should become an illegal drug.(2); Step 10, Optional Step
13	Unit 13	We should not let elementary school kids use smartphones.(1); Step 0 - Step 9
14	期末試験	テキストブック、サブ・テキストブック、配布したプリントから出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストブックには各所に QR コードが載っていて、学生はスマートフォンからアクセスして、ディクテーションや朗読を聞くことができるようになっている。

予習として授業開始前までに、QR コードにスマートフォンをかざして、本文に関連した 3 つの英文を聞き取って書き取ることを義務付ける。

【テキスト（教科書）】

1.*How Much Do You Agree? Evolving Opinions*, KOBAYASHI Toshihiko/Jeremie BOUCHARD、三修社、2019 年、2000 円

2.*A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* (5 分間 日常基本英単語・熟語 1000)、佐藤誠司、南雲堂、2018 年、700 円

【参考書】

テキストブックの音声ダウンロードサイト：<http://sanshusha.co.jp/onsei/isbn/9784384334869/> (参考まで)

『一億人の英文法』、大西泰斗、ポール・マクベイ、東進ブックス、2013 年、1800 円

『英語ライティング・ルールブック：正しく伝えるための文法・語法・句読法』、デイヴィッド・セイン、株式会社 DHC、2011 年、1800 円

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%(授業態度、毎回の予習状況、提出物や小テスト)を重要視し学期末試験(40%)と合わせて総合評価する。成績評価は、100 点満点とした場合、60 点以上が合格となる。必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上欠席した場合、たとえ期末試験を受けた場合でも単位を与えない。授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなる。また、15 分以上の遅刻 2 回を欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、英語の辞書あるいは電子辞書

【その他の重要事項】

教師から指示があった時を除き、授業中に携帯電話を辞書代わりに使用することを禁止する。

【Outline and objectives】

Following the Spring Semester, the same textbook which deals with comprehensive subjects such as college students' life and various issues about the society will be used. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to express themselves in English effectively through four skills (reading, writing, listening and speaking).

In addition to the main textbook and the book entitled *A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes*, articles from newspapers, magazines and web sites will be used as other references for the students to enhance and explore their understanding on current topics as well as to widen their vocabularies.

LANe100LA	
English 1 I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 I	2016 年度以前入学者
當麻 幸子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水 2/Wed.2	
法 1 年：英語 4 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの歴史や文化について読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】

英語の読解力、語彙力、聴解力、表現力を養う。また、アメリカの歴史や文化に関する知識を深める。アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、各章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確認する。予め担当者を決めておらず、アトラダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての説明
2	Lesson 1	Pochahontas
3	Lesson 1	Pochahontas
4	Lesson 2	Celebrating July Fourth at the Statue of Liberty
5	Lesson 2	Celebrating July Fourth at the Statue of Liberty
6	Lesson 3	Babe Ruth
7	Lesson 3	Babe Ruth
8	Lesson 4	Marilyn Monroe
9	Lesson 4	Marilyn Monroe
10	Lesson 5	American History
11	Lesson 5	American History
12	Lesson 6	US Civil Rights Icon Dies at Age 92
13	期末試験	春学期に学習した範囲から出題
14	まとめ	レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、発表の準備、レポートの準備。詳細はガイダンスで説明する。

【テキスト（教科書）】

People and Culture in America, 秋葉勉他編注、英宝社

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

欠席が 3 回を超えた者は単位修得を認めない。

詳細はガイダンスで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことはが学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【Outline and objectives】

We read the American history and culture. We learn what happened in the United States of America from the 16th century to the 21st century.

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 II	2016 年度以前入学者
當麻 幸子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水 2/Wed.2	
法 1 年：英語 4 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの歴史や文化について読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】

英語の読解力、語彙力、聴解力、表現力を養う。また、アメリカの歴史や文化に関する知識を深める。アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、各章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確認する。予め担当者を決めておらず、アトラダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の復習及び秋学期の授業についての説明
2	Lesson 7	This Is America
3	Lesson 7	This Is America
4	Lesson 8	Betty Friedan
5	Lesson 8	Betty Friedan
6	Lesson 9	Walt Disney
7	Lesson 9	Walt Disney
8	Lesson 10	Andy Warhol
9	Lesson 10	Andy Warhol
10	Lesson 11	This Is America
11	Lesson 11	This Is America
12	Lesson 12	Immigration Issues Shape the Experience of US Latinos
13	期末試験	秋学期に学習した範囲から出題
14	まとめ	レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、発表の準備、レポートの準備。詳細はガイダンスで説明する。

【テキスト（教科書）】

People and Culture in America, 秋葉勉他編注、英宝社

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

欠席が 3 回を超えた者は単位修得を認めない。

詳細はガイダンスで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことはが学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【Outline and objectives】

We read the American history and culture. We learn what happened in the United States of America from the 16th century to the 21st century.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

神 康介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。使用するテキストは日本の文化、教養、健康、そしてビジネス展開をテーマとし、それに関連した題材を学習する。いずれも現代人が今後快適な生活を送る上で不可欠なテーマばかりであり、英語学習者の興味が十分に満たされる。

【到達目標】

本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く **Exercises** で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Koshiro Matsumoto Akira Ikegami	日本の芸能等について学習する。
3	Kakuei Tanaka Barack Obama's Hiroshima Speech	日本の政治などについて学習する。
4	The Internet of Things(IoT)	日本の技術について学習する。
5	Fintech	現代の金融について学習する。
6	Environmental DNA	環境について学習する。
7	Camellia	日本の地方経済について学習する。
8	Rice	農業について学習する。
9	Stress Check	労働問題について学習する。
10	Generic Drug	医薬品について学習する。
11	Self-driving Cars	自動運転について学習する。
12	Renewable Energy	再生可能エネルギーについて学習する。
13	3D Printers	3D プリンターについて学習する。
14	期末試験	半期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の人数が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習しておくこと。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めることをお勧めする。

【テキスト（教科書）】

Japan Evolution 進化する日本 南雲堂

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの参加及び貢献度、提出物、小テスト（平常点）、期末試験の結果を総合的に判断する。クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。原則として 半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。この科目は習熟度編成をするため、評価に当たり、他のクラスとバランスを取る場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用する。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes. Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs.

This course offers English learners the opportunity to catch up on the latest information and ideas from Japanese culture and improve their language skills at the same time.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

神 康介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

使用するテキストは現代のアメリカ社会についての英文を取り上げ、英語力の向上を目指している。いずれも現代人が今後快適な生活を送る上で不可欠なテーマばかりであり、英語学習者の興味を本書が十分に満たすものと思われる。

【到達目標】

主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Laughing Matter	秋学期オリエンテーション ユーモア
2	A Spreading Problem Juneteenth	肥満について 7 月 10 日
3	Father's Day	父の日
4	Watch Your Language A New York States of Mind	言語 わが心のニューヨーク
5	Illegal	不法移民
6	Living with Animals	動物愛護
7	Speaking of Facebook	フェイスブック
8	What Men Want	男らしさ
9	Don't Shoot!	銃問題
10	Good Question	家庭教育
11	Making the Grade	学校教育
12	And Justice for All	司法
13	The U.S.A. at a Glance	未来
14	期末試験	半期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては、大学教養課程以上の単語や分りにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めることをお勧めする。

【テキスト（教科書）】

U.S.A Update いま、アメリカを読む 南雲堂

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの参加及び貢献度、提出物、小テスト（平常点）、期末試験の結果を総合的に判断する。クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。原則として 半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。この科目は習熟度編成をするため、評価にあたって他のレベルのクラスとバランスを取る場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes. Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. This course offers English learners the opportunity to catch up on the latest information and ideas from the United States today and update their language skills at the same time.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、1 回の授業で 1 つの Unit を扱う。Unit の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。Unit が終わるごとに復習の小テストを実施する。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1: Smart Phones Deserve Smart Users	賢い電話と依存症の利用者
3	Unit 2: The Animals in Our Lives	動物のいる生活
4	Unit: 3 Reforming Japan's Education System	日本の教育はどこへ行く？
5	英作文	記事に関して各自の意見を英語でまとめる
6	Unit 4: A Hungry Future	未来が飢えている
7	Unit 5: No More Unwelcome Advertisements	押し売りお断り！
8	Unit 6: A Living Wage	賃金の効果的な払い方
9	英作文	記事に関する各自の意見を英語でまとめる
10	Unit 7: Keeping Mothers on the Payroll	働くママを応援！
11	Unit 8: Slow Life	心豊かな生活
12	Unit 9: Volunteering	広まるボランティア活動と深まる疑問
13	Unit 10: Longevity: a Mixed Blessing	ご長寿万歳！
14	期末テストと解説	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、必ず予習をすること。
小テストを実施するので、予習時にわからなかった箇所を復習すること。

【テキスト（教科書）】

What's Going On in the World?

David Peaty 小林香保里 著、成美堂、2017 年、定価 1,900 円（税別）

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。

授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、1 回の授業で 1 つの Unit を扱う。Unit の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。Unit が終わるごとに復習の小テストを実施する。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方説明と英作文
2	Unit 11: The Importance of Biodiversity	生物の多様性が人類を救う
3	Unit 12: A Home for Endangered Storks	コウノトリに優しいまちづくり
4	Unit 13: Japan's Future Energy Supply	再生可能エネルギーの時代
5	英作文	記事に関して各自の意見を英語でまとめる
6	Unit 14: Green Transportation	持続可能な社会の乗り物
7	Unit 15: How Much Is Nature Worth?	あなたは自然にいくら払いますか
8	Unit 16: Business Can Be Green	環境に優しいビジネス
9	Unit 17: Storing Energy	エネルギーはためられない？
10	英作文	記事に関して各自の意見を英語でまとめる
11	Unit 18: A Dollar a Day	貧困を撲滅せよ
12	Unit 19: Beyond Fair Trade	フェアトレードと生産者の自立支援
13	Unit 20: Shrink the Economy, Not the Earth	経済発展は地球を減らす
14	期末テストと解説	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、必ず予習をすること。
小テストを実施するので、予習時にわからなかった箇所を復習すること。

【テキスト（教科書）】

What's Going On in the World?

David Peaty 小林香保里 著、成美堂、2017 年、定価 1,900 円（税別）

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。

授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

岡崎 真美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの一つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来ている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようにする。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1 UNIQUELO Aims High	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 1 UNIQUELO Aims High	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	第 1 回フィールドワーク準備	海外からの観光客に実施する英語のアンケート作成
第 4 回	第 1 回フィールドワーク（浅草寺）	海外からの観光客に異文化の視点からアンケート実施
第 5 回	Unit 2	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 3	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー

第 7 回	Unit 4	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 8 回	中間テスト	評価
第 9 回	Unit 5	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 5	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 6	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 7	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	春学期末試験	評価
第 14 回	春学期追試験・再試験	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストーリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting in to Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4. Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、など）をはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施するので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
¥2400(税抜き)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

【その他の重要事項】

授業の前夜、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in Journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devoting, and by the fieldwork at Sensoji Temple in Asakusa.

LANe100LA						The first field work		The questionnaires in English at Sensoji Temple	
English 1 II		2017 年度以降入学者		第 5 回目		Presentation		Presenting the result of the questionnaires Evaluation	
LANe100LA				第 6 回目		Unit 10		Unit 9 word test Critical Thinking Group Works Presentation	
English 1 II		2016 年度以前入学者		第 7 回目		Unit 11		Evaluation11 1 1 1 Unit 10 Word Test Unit 10 Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation	
岡崎 真美				第 8 回目		Mid-Term Test		Unit 11 Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation	
開講時期：秋学期授業/Fall		曜日・時限：水 2/Wed.2		第 9 回目		Unit 12		Unit 12 Word Test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation	
法 1 年：英語 7 組				第 10 回		Unit 13		Unit 13 の Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation 評価	
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】				第 11 回		Unit 13		追試験・再試験 評価	
DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。				第 12 回		Unit 14		秋学期期末試験 評価	
【到達目標】				第 13 回		秋学期期末試験			
昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。				第 14 回		追試験・再試験		評価	
DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようにする。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。				第 15 回		追試験・再試験		評価	
特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence)、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようにする。文法事項も詳しく解析する。				第 16 回		追試験・再試験		評価	
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				第 17 回		追試験・再試験		評価	
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3				第 18 回		追試験・再試験		評価	
【授業の進め方と方法】				第 19 回		追試験・再試験		評価	
DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。				第 20 回		追試験・再試験		評価	
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes				第 21 回		追試験・再試験		評価	
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes				第 22 回		追試験・再試験		評価	
【授業計画】				第 23 回		追試験・再試験		評価	
回	テーマ	内容		第 24 回		追試験・再試験		評価	
第 1 回目	Unit 9	Unit8 の復習 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions devating Evaluation		第 25 回		追試験・再試験		評価	
第 2 回目	Unit 9	Making questionnaires for the first field work at Sensoji Temple		第 26 回		追試験・再試験		評価	
第 3 回目	Preparations for the first field work at Sensoji Temple			第 27 回		追試験・再試験		評価	
第 4 回目	The first field work			第 28 回		追試験・再試験		評価	
第 5 回目	Presentation			第 29 回		追試験・再試験		評価	
第 6 回目	Unit 10			第 30 回		追試験・再試験		評価	
第 7 回目	Unit 11			第 31 回		追試験・再試験		評価	
第 8 回目	Mid-Term Test			第 32 回		追試験・再試験		評価	
第 9 回目	Unit 12			第 33 回		追試験・再試験		評価	
第 10 回	Unit 13			第 34 回		追試験・再試験		評価	
目				第 35 回		追試験・再試験		評価	
第 11 回	Unit 13			第 36 回		追試験・再試験		評価	
目				第 37 回		追試験・再試験		評価	
第 12 回	Unit 14			第 38 回		追試験・再試験		評価	
目				第 39 回		追試験・再試験		評価	
第 13 回	秋学期期末試験			第 40 回		追試験・再試験		評価	
目				第 41 回		追試験・再試験		評価	
第 14 回	追試験・再試験			第 42 回		追試験・再試験		評価	
目				第 43 回		追試験・再試験		評価	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】				第 44 回				追試験・再試験	
毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000TALK から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。				第 45 回				追試験・再試験	
【テキスト（教科書）】				第 46 回				追試験・再試験	
CBS News Break 2 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBNNN9784791960330 ￥2400+税				第 47 回				追試験・再試験	
【参考書】				第 48 回				追試験・再試験	
CBS News Break 3 (Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al. BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.				第 49 回				追試験・再試験	
【成績評価の方法と基準】				第 50 回				追試験・再試験	
秋学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。				第 51 回				追試験・再試験	
ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。				第 52 回				追試験・再試験	
【学生の意見等からの気づき】				第 53 回				追試験・再試験	
テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。				第 54 回				追試験・再試験	
PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。				第 55 回				追試験・再試験	
【学生が準備すべき機器他】				第 56 回				追試験・再試験	
USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。				第 57 回				追試験・再試験	
【その他の重要事項】				第 58 回				追試験・再試験	
授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。				第 59 回				追試験・再試験	
【Outline and objectives】				第 60 回				追試験・再試験	
We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in Journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devating, and by the fieldwork at Sensoji temple in Asakusa.				第 61 回				追試験・再試験	

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

鈴木 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生は世の中の動向に注視し、社会の様々な問題に関心を持つことが重要である。そのため、英字新聞のニュース・コラムを読むことによって、情報力及び英語力を身につけることをめざす。

【到達目標】

ニュースの情報力と英語の読解力・要約力・発表力を身につける。新聞ニュース記事の背景知識を把握し、新聞英語に見られる語彙・語法などの特徴を学習し、英字新聞を気軽に読めるようにする。また、英文をスムーズに音読し、英文を精読し、さらにどんな社会問題についても自分の意見を言えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、英字新聞にある政治・経済・社会・文化・スポーツなどの記事を取り上げ、語彙・語法をチェックした後、パラグラフごとに要約し、さらに記事の内容について各自の意見を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (授業概要の説明)	授業の内容・方針・成績評価などを説明する。
2	新聞の構成を学ぶ。	見出し・書き出し・本文を役割を説明する。
3	「見出し」の特徴を学ぶ。	ニュース記事の「見出し」の特徴を学び、演習する。
4	「書き出し」「本文」の特徴を学ぶ。	ニュース記事の「書き出し」「本文」の特徴を学び、演習する。
5	語彙・語法を学ぶ。(1)	ニュース記事で使われている独特な語彙・語法をチェックする。
6	語彙・語法を学ぶ。(2)	ニュース記事で使われている独特な語彙・語法をチェックする。
7	パラグラフの機能と社会問題を学ぶ。(1)	パラグラフを要約する。社会問題を考える。
8	パラグラフの機能と社会問題を学ぶ。(2)	パラグラフを要約する。社会問題を考える。
9	中間テスト	英文記事をパラグラフごとに訳す。
10	スキミング・スキニングを学ぶ(1)	スキミング・スキニングを実践演習する。
11	スキミング・スキニングを学ぶ(2)	スキミング・スキニングを実践演習する。
12	速読の方法を学ぶ。(1)	ニュース記事全体を速読し、内容把握の演習をする。
13	速読の方法を学ぶ。(2)	ニュース記事全体を速読し、内容把握の演習をする。
14	期末テスト	読解力をテストする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業直前 1 週間のニュースをチェックしておく。
前週に配布されたプリントを予習する。音読練習し、滑らかに発音できるようにする。また、英文を正確に訳せるように準備する。記事の問題点などについて自分の意見を発表できるように関連情報を調べ、自分の意見をまとめる。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

『現代用語の基礎知識』『2019 年の論点 100』ほか

【成績評価の方法と基準】

中間試験（45 点満点）と期末試験（45 点満点）を実施し、両試験の平均点を割り出し、その平均点に平常点（10 点満点）を加算した上で、100 点満点のうち 60 点以上を獲得した場合、合格とします。平常点の扱いに関しては初回授業等で明示します。また欠席を 4 回以上した場合、単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツなど様々な分野のニュース記事を取り上げ、社会の動向に関心を持てるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their reading and critical thinking skills. Students will read various topics in newspapers, including politics, economy, sports and social problems. Students will take a mid-term test and a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

鈴木 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英字新聞のニュース・コラムを取り上げ、速読（スキミング・スキニング）により記事全体を速く把握し、要約する力を身につける。さらに、社会問題について自分の意見を発表するため、ニュースの背景知識を学習し、批判力・批評力を身につけることをめざす。

【到達目標】

ニュースを読む語彙力と意見を発表できる力を身につける。英文を理解するための基本スキルである語彙力を定着するため、毎回語彙テストを実施する。また、発表力を養うために自分でニュース記事を選び、レジュメを準備して口頭発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、英字新聞からニュース・コラムを選び、語彙・語法・内容をチェックし、意見を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション（授業概要の説明）	授業の内容・方針・成績評価などを説明する。
2	語彙テスト（1） 「政治」のニュース・コラムを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体の内容把握と意見の発表をする。
3	語彙テスト（2） 「経済」のニュース・コラムを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体の内容把握と意見の発表をする。
4	語彙テスト（3） 「社会」のニュース・コラムを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体の内容把握と意見の発表をする。
5	語彙テスト（4） 「社会」のニュースコラムを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体を要約し、意見を発表する。
6	語彙テスト（5） 「スポーツ」のニュースを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体を要約し、意見を発表する。
7	中間テスト	記事全体を要約する。
8	語彙テスト（6） 「映画」のニュースを読む。	語彙テストを実施する。
9	語彙テスト（7） 「データ記事」を読む。（1）	語彙テストを実施する。 データを速読する。
10	語彙テスト（8） 「データ記事」を読む。（2）	語彙テストを実施する。 データを速読する。
11	語彙テスト（9） 「時事漫画」を読む。	語彙テストを実施する。 「時事漫画」の背景を理解する。
12	語彙テスト（10） 「写真ニュース」を読む。（1）	語彙テストを実施する。 「写真ニュース」の背景を理解する。
13	語彙テスト（11） 「写真ニュース」を読む。（2）	語彙テストを実施する。 「写真ニュース」の背景を理解する。
14	期末テスト	読解力をテストする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業直前 1 週間のニュースをチェックする。語彙テストに備える。発表のために、トピック選び、訳、問題点の解説、意見考察などレジュメ作成の準備をする。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

春学期と同じ

【成績評価の方法と基準】

中間試験（45 点満点）と期末試験（45 点満点）を実施し、両試験の平均点を割り出し、その平均点に平常点（10 点満点）を加算した上で、100 点満点のうちほぼ 60 点以上を獲得した場合、合格とします。平常点の扱いに関しては初回授業等で明示します。また欠席を 4 回以上した場合、単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

語彙力を養う語彙テストの方法を検討する。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their reading and critical thinking skills. Students will read about various topics in newspapers, including politics, economy, sports, and social problems. Students will take a mid-term test and final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I 2016 年度以前入学者

高 友希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で発信されたニュースを正確に理解し、グループで議論する。

【到達目標】

辞書を丹念に調べながら、ニュースを正確に理解し、自らの意見を発信できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

あらかじめ担当グループを決めた上で、テキストを読み進める。課題で理解度をチェックし、適宜、内容について議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	Sister Jean: Basketball Team's Secret Weapon	(B) Story 1 (F) Lesson 1
第 3 回	Blood Testing: Charged with Massive Fraud	(B) Story 2 (F) Lesson 2
第 4 回	Millionaire Millennial	(B) Story 3 (F) Lesson 3
第 5 回	Fighting Robocalls	(B) Story 4
第 6 回	The Blue World	(B) Story 5 (F) Lesson 4
第 7 回	Moment of Impact	(B) Story 6 (F) Lesson 5
第 8 回	Father's New Hand	(B) Story 7 (F) Lesson 6
第 9 回	Trump's Weapon Ban?	(B) Story 8 (F) Lesson 7
第 10 回	American Men's Bobsledding Team	(B) Story 9
第 11 回	Made in America: Recycling Discarded Water Bottles	(B) Story 10 (F) Lesson 8
第 12 回	The Children of Syria	(B) Story 11 (F) Lesson 9
第 13 回	Honoring Martin Luther King Jr	(B) Story 12 (F) Lesson 10
第 14 回	Inside the Drug Cartel	(B) Story 13

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習、復習

【テキスト（教科書）】

S. Yamane and K. Yamane, Broadcast: ABC World News Tonight, Kinseido (2019).
Y. Imai, H. Ueda and T. Otsuka, Fun IPA Transcription, Eihosha (2019).

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、平常点（授業への積極的参加）（30 %）
なお、欠席が 4 回以上の場合には、成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

【Outline and objectives】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English.

LANe100LA

English 1 II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II 2016 年度以前入学者

高 友希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で発信されたニュースを正確に理解し、グループで議論する。

【到達目標】

辞書を丹念に調べながら、ニュースの内容を正確に理解し、自らの意見を発信できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

あらかじめ担当グループを決めた上で、テキストを読み進める。課題で理解度をチェックし、適宜、内容について議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Repairing Big Ben	(B) Unit 1 (F) Lesson 11
第 2 回	Learning to Walk again	(B) Unit 2 (F) Lesson 12
第 3 回	A Secret Garden in London	(B) Unit 3 (F) Lesson 13
第 4 回	Unpaid Internships	(B) Unit 4
第 5 回	The Wedding Gallery	(B) Unit 5 (F) Lesson 14
第 6 回	A Modern Steam Train	(B) Unit 6 (F) Lesson 15
第 7 回	A T-shirt Exhibition	(B) Unit 7 (F) Lesson 16
第 8 回	Generation Z	(B) Unit 8 (F) Lesson 17
第 9 回	Veganuary	(B) Unit 9
第 10 回	Wind Power in Britain	(B) Unit 10 (F) Lesson 18
第 11 回	Preventing Transgender Bullying	(B) Unit 11 (F) Lesson 19
第 12 回	A Plastic Tenner	(B) Unit 12 (F) Lesson 20
第 13 回	How to Delay Ageing	(B) Unit 13
第 14 回	School Deal with Fake News	(B) Unit 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習、復習

【テキスト（教科書）】

T. Knowles, C. Lowe, M. Tamura, M. Tanaka and M. Nakamura, British News Update, Kinseido (2019).
Y. Imai, H. Ueda and T. Otsuka, Fun IPA Transcription, Eihosha (2019).

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、平常点（授業への積極的参加）（30 %）
なお、欠席が 4 回以上の場合には、成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

【Outline and objectives】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野の力を高めることを目的とした授業を、徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える、中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの英文の内容を、より速く、より正確に読み取る、聞き取る力を高めること。また、理解した内容に対する自分の意見を英語で表現する意欲を持つこと。そうした目標を達成するために必要とされる、基本的な文法事項を定着させること。目標の到達度は、授業内容に即した試験の出来によって測ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

英語の 4 技能を伸ばすことを目的とした、すべて英語で書かれたテキストを用います。問題量が豊富で、視野の広いテキストに、全員参加の演習スタイルでアクティブに取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要を説明する
2	Unit 1a	Learning from the past
3	Unit 1b	What makes us who we are?
4	Unit 1c	Immortal words
5	Unit 2a	Living off the sea
6	Unit 2b	Smokeyjumpers
7	Unit 2c	Daring, defiant, and free
8	中間試験	中間試験実施
9	Unit 3a	Town with character
10	Unit 3b	Compact living
11	Unit 3c	The Paper architect
12	Unit 4a	Shrink it, bend it, fold it
13	Unit 4c	The shoe giver
14	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース設定に即して授業を進めますが、科目の到達目標の達成に結びつくように、授業で用いるテキストを最大限活用する工夫が学生には求められます。テキストには、教室外での予習復習に役立つように、リスニング問題のスクリプト、音源がともに収録されているものを選びました。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life 6 (Second Edition)

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2019

価格: 2,950 円

【参考書】

<http://www.nationalgeographic.com/><http://www.ngllife.com/><https://www.npr.org/><https://www.bbc.co.uk/podcasts><http://www.bbc.co.uk/learningenglish/><https://www.bbc.com/news>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%

2. 授業内に行う 2 回のテストの成果 80%

学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。

また、30 分以上遅刻の場合は、受講は可能ですが、欠席扱いとします。

遅刻は 2 回で、1 回の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

授業のテンポ・アップのために、速読で読むべき部分と、精読で読むべき部分のメリハリをもっとつけること。また、また、授業に真剣に取り組む学生の学習意欲をより高めるためにも、毎回の予習内容をより具体的に伝えることに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野の力を高めることを目的とした授業を、徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える、中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの英文の内容を、より速く、より正確に読み取る、聞き取る力を高めること。また、理解した内容に対する自分の意見を英語で表現する意欲を持つこと。そうした目標を達成するために必要とされる、基本的な文法事項を定着させること。目標の到達度は、授業内容に即した試験の出来によって測ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

英語の 4 技能を伸ばすことを目的とした、すべて英語で書かれたテキストを用います。問題量が豊富で、視野の広いテキストに、全員参加の演習スタイルでアクティブに取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 5c	The adventures of Herge
2	Unit 6a	Exercise around the world
3	Unit 6c	The enigma of beauty
4	Unit 7a	Selfie world
5	Unit 8c	One love
6	Unit 8f	A biopic
7	中間試験	中間試験実施
8	Unit 9a	Dear little daughter
9	Unit 10a	A cooperative society
10	Unit 10c	Living free?
11	Unit 11a	Emotional Intelligence
12	Unit 11c	Who's working for who?
13	Unit 12c	Rise of the urban animal
14	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース設定に即して授業を進めますが、科目の到達目標の達成に結びつくように、授業で用いるテキストを最大限活用する工夫が学生には求められます。テキストには、教室外での予習復習に役立つように、リスニング問題のスクリプト、音源がともに収録されているものを選びました。

【テキスト（教科書）】

教科書：Life 6 (Second Edition)

著者：Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社：Cengage Learning

出版年：2019

価格：2,950 円

【参考書】

<http://www.nationalgeographic.com/><http://www.ngllife.com/><https://www.npr.org/><https://www.bbc.co.uk/podcasts><http://www.bbc.co.uk/learningenglish/><https://www.bbc.com/news>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%

2. 授業内に行う 2 回のテストの成果 80%

学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。

また、30 分以上遅刻の場合は、受講は可能ですが、欠席扱いとします。

遅刻は 2 回で、1 回の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

授業のテンポ・アップのために、速読で読むべき部分と、精読で読むべき部分のメリハリをもっとつけること。また、授業に真剣に取り組む学生の学習意欲をより高めるためにも、毎回の予習内容をより具体的に伝えることに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA	
English 1 I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 I	2016 年度以前入学者
保坂 嘉恵美	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水 2/Wed.2 法 1 年：英語 11 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーディング力&リスニング力のレベルアップ、および今日の私たちの社会が直面するグローバルな問題への理解と批判的考察を高める。

【到達目標】

- ①英語の幅広い語彙力を伸ばす
 - ②論理的な文章の読解力を強化し、一つの記事全体がどのような論理展開で構築されているか、パラグラフ単位で追えるようにする
 - ③グローバル・イシューについての理解と批判的考察力を養う
- またネットの（国際）動画ニュースから日々更新される最新の報道（CNN 10 など）を視聴して
- ④リスニング力を強化する
 - ⑤今世界で何が起きているかを知り、自分なりの考察ができるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業最初の 20～30 分を使って、ネットの最新（まさに昨日起こったといったような、ホットな）ニュース動画を視聴する。報道内容を活字におこした transcript を使用する場合もある。

リーディング教材としては、下欄に記載したテキストを使用する。下欄【授業計画】を参照してわかる通り、内容はチャプター毎にグローバル化・情報化が進む現代社会の様々な問題について論じられており、授業 2 回で 1 チャプター読了というペースで進めれば理想である。従って春学期で 6 チャプター読了予定。

語注は最低限しかついていないので、予習は、丹念に辞書を引いて知らない単語や語句を調べ、文章の意味内容を自分なりにとらえておくことが必須である。

英文読了後には、内容理解をチェックするための設問がある。英文の訳読や設問チェックはすべて学生をアトラダムに指名して進めるので、全員いつ指名されてもよいように毎回予習してることが、授業がスムーズに進む前提となる。なお、「授業計画」にどの回は特記していないが、テーマによっては各自深掘的な探求学習を行ってもらう予定。

※授業計画はあくまでも予定であり、進度や読むチャプターなど変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業方針・内容の説明
2	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える①	Chapter1. The Hollywood effect: How does popular entertainment influence society? ハリウッドに代表されるポップカルチャーは社会にどのような影響を与えているのか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
3	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える②	Chapter 2. Learning to learn: Why is university education important? 大学教育はなぜ重要なのか？ について書かれた エッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
4	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える③	
5	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える④	

6	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える⑤	Chapter 3. Competing worldviews: What causes group conflict? なぜ集団間での紛争は起きるのか？ について書かれたエッセイを精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
7	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える⑥	Chapter 4. Population changes: How does immigration change a country? 移民の受け入れは国をどう変えるのか？ について書かれたエッセイを精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
8	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える⑦	Chapter 5. A global language: How did the use of English become so widespread? グローバル言語として英語はなぜこれほど普及したのか？ について書かれたエッセイを精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
9	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える⑧	
10	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える⑨	
11	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える⑩	
12	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える①	Chapter 6. Natural wonders: Where is the most beautiful place on Earth? ユネスコの世界遺産に登録された自然の驚異および人間活動が及ぼすダメージについて書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
13	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える②	
14	期末試験	60 分程度の筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習＝辞書を引き、不明な事項は事典やインターネット検索で調べ、「自分なり」にテキストを読んで内容を把握してくる。各チャプター読了後には、復習として、全文を読み返し、内容の理解と新しい語彙が身についたかどうか確認する。

【テキスト（教科書）】

François de Soete, *Making Sense of the World:*

Wisdom Through Knowledge

邦題『現代世界を理解するための視点』（成美堂 2014 / ￥1900）

その他英字新聞や雑誌記事のプリントや最新動画ニュースの transcript のプリント等

【参考書】

必要な場合、授業内で適宜指示する。辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）＋用例豊富な英和中辞典。英英辞典の活用についても指導する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20% 期末試験 80% で判定する。平常の予習復習をしっかりやっていれば授業の理解度が上がり、結果として期末試験のスコアはよくなるという連動がある。欠席回数は原則 4 回以上で単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語力に合わせたテキストを選んでいるが、個人差もあると思われる。読み進むスピードなどは、学生の力に応じて適宜調整していきたい。

ポッドキャストニュース（とりわけ CNN 10）の最新動画ニュースは今世界で何が起きているかをリアルタイムで視聴できる教材として好評であった。教室のスクリーンをネットサイトにつなぎ、なるべく多く視聴する機会を作る予定。ホットな世界情勢に対する視野の拡大、リスニング力強化に役立つ。自分で力をつけたい学生には有益なネットサイトや携帯端末で視聴できるアプリを紹介する。

【Outline and objectives】

This course aims mainly to enhance students' English reading and listening skills. Students will develop their understanding and critical thinking of a diverse range of global issues facing our society today as well.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

保坂 嘉恵美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーディング力&リスニング力のレベルアップ、および今日の私たちの社会が直面するグローバルな問題への理解と批判的考察を高める。

【到達目標】

- ①英語の幅広い語彙力を伸ばす
 - ②論理的な文章の読解力を強化し、一つの記事全体がどのような論理展開で構築されているか、パラグラフ単位で追えるようにする
 - ③グローバル・イシューについての理解と批判的考察力を養う
- またネットの（国際）動画ニュースから日々更新される最新の報道（CNN 10 など）を視聴して
- ④リスニング力を強化する
 - ⑤今世界で何が起きているかを知り、自分なりの考察ができるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業最初の 20～30 分を使って、ネットの最新（まさに昨日起こったといったような、ホットな）ニュース動画を視聴する。報道内容を活字におこした transcript を使用する場合もある。

リーディング教材としては、下欄に記載したテキストを使用する。下欄【授業計画】を参照してわかる通り、内容はチャプター毎にグローバル化・情報化が進む現代社会の様々な問題について論じられており、授業 2 回で 1 チャプター読了というペースで進めれば理想である。従って春学期で 6 チャプター読了予定。

語注は最低限しかついていないので、予習は、丹念に辞書を引いて知らない単語や語句を調べ、文章の意味内容を自分なりにとらえておくことが必須である。

英文読了後には、内容理解をチェックするための設問がある。英文の訳読や設問チェックはすべて学生をアトラダムに指名して進めるので、全員いつ指名されてもよいように毎回予習しておくことが、授業がスムーズに進む前提となる。なお、「授業計画」にどの回は特記していないが、テーマによっては各自深掘的な探求学習を行ってもらう予定。

※授業計画はあくまでも予定であり、進度や読むチャプターなど変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える③	Chapter 7. Animal rights: Why do we treat different types of animals differently? 動物の権利について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
2	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える④	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
3	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える⑤	Chapter 8. The human impact: How much more environmental damage can Earth handle? 地球はこれ以上の環境破壊に耐え得るのか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
4	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える⑥	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。

5	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える⑦	Chapter 9. Renewable energy: When will we finally use only clean energy? 再生可能エネルギーについて書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
6	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える⑧	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
7	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える⑨	Chapter 10. The final frontier: Will people eventually travel to distant planets? 人間はいつか遠くの惑星（最後のフロンティアとして）へ旅するようになるのか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
8	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える⑩	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
9	Section III: International Relations and Politics 国際関係・国際政治について考える①	Chapter 11. Democratic government: What is democracy? 民主政治、民主主義とは何か？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
10	Section III: International Relations and Politics 国際関係・国際政治について考える②	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
11	Section III: International Relations and Politics 国際関係・国際政治について考える③	Chapter 15. Global governance: Will people one day create a world government? 世界政府は将来生まれるか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
12	Section III: International Relations and Politics 国際関係・国際政治について考える④	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
13	英文エッセイの構造と内容の効率的な把握	エッセイの構造を理解し、過不足のない「要約」の仕方を学ぶ。
14	期末試験	60 分程度の筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習＝辞書を引き、不明な事項は事典やインターネット検索で調べ、「自分なり」にテキストを読んで内容を把握してくる。各チャプター読了後には、復習として、全文を読み返し、内容の理解と新しい語彙が身についたかどうか確認する。

【テキスト（教科書）】

François de Soete, *Making Sense of the World: Wisdom Through Knowledge*

邦題『現代世界を理解するための視点』（成美堂 2014 / ￥1900）

その他英字新聞や雑誌記事のプリントや最新動画ニュースの transcript のプリント等

【参考書】

必要な場合、授業内で適宜指示する。辞書は『リダーズ英和辞典』（研究社）＋用例豊富な英和中辞典。英英辞典の活用についても指導する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20% 期末試験 80% で判定する。平常の予習復習をしっかりとやっていれば授業の理解度が上がり、結果として期末試験のスコアはよくなるという連動がある。欠席回数は原則 4 回以上で単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

ポッドキャストニュース（とりわけ CNN 10）の最新動画ニュースは今世界で何が起きているかをリアルタイムで視聴できる教材として好評であった。教室のスクリーンをネットサイトにつなぎ、なるべく多く視聴する機会を作る予定。ホットな世界情勢に対する視野の拡大、リスニング力強化に役立つ。自分で力をつけたい学生には有益なネットサイトや携帯端末で視聴できるアプリを紹介する。

【Outline and objectives】

This course aims mainly to enhance students' English reading and listening skills. Students will develop their understanding and critical thinking of a diverse range of global issues facing our society today as well.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「社会生活」・「環境と動物学」・「生命倫理と宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Unit 1	Phone Dirt Reveals Personal Data
第 3 回	Unit 2	Driverless Buses
第 4 回	Unit 3	Stealth Keys
第 5 回	Unit 1 ～ Unit 3 のまとめ	Unit 1 ～ Unit 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 4	Unfamiliar Sources of Energy
第 7 回	Unit 5	Delivery by Drone
第 8 回	Unit 6	Uber and its Future
第 9 回	Unit 7	Convenience Stores in Japan
第 10 回	Unit 4 ～ Unit 7 のまとめ	Unit 4 ～ Unit 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 8	Learn English with a Robot
第 12 回	Unit 9	Noise Level and Disease
第 13 回	Unit 10	Reading Faces
第 14 回	学期末試験	学期末試験（筆記試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。

【テキスト（教科書）】

Science in Our Daily Life (『科学の恩恵と私たちの暮らし』) (小林 敏彦・Bill Benfield 著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)、授業態度・授業内に課した課題（ライティング課題の提出と発表を重視）や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40 %) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していない。

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook (designated below). The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「社会生活」・「環境と動物学」・「生命倫理と宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	配布プリント	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Unit 11	Meditation and Sports
第 3 回	Unit 12	Digital Disabilities
第 4 回	Unit 13	Euglena Dietary Supplements
第 5 回	Unit 11 ～ Unit 13 のまとめ	Unit 11 ～ Unit 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 14	Facts about Koalas
第 7 回	Unit 15	Ants
第 8 回	Unit 16	Exotic Pets
第 9 回	Unit 17	Culling Feral Cats
第 10 回	Unit 14 ～ Unit 17 のまとめ	Unit 14 ～ Unit 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 18	When Do We Become "Old"?
第 12 回	Unit 19	Protecting Earth from Collisions
第 13 回	Unit 20	Migration to Mars
第 14 回	学期末試験	学期末試験（筆記試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。

【テキスト（教科書）】

Science in Our Daily Life (『科学の恩恵と私たちの暮らし』) (小林 敏彦・Bill Benfield 著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していない。

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook (designated below). The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation
6. Improve rapid reading skill.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I 2016 年度以前入学者

余田 亜希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 13 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスについて書かれた文章を集めたテキストを使用して、精読と速読の練習をする。英英辞典を活用し、語彙力を強化する。イギリスの社会や文化に関する知識を身につける。

【到達目標】

類義語、反意語の知識を増やす。英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにする。時事英語に関する一般常識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

予習していることを前提として進める。授業前半は教科書の読解を行う。その日の主題の背景となっている事柄や基礎知識を確認し、教科書の本文の文構造やパラグラフ構成に着目しながら日本語訳やパラフレーズの練習を行う。各章の終わりには復習の小テストを実施する。授業後半は時事問題や文化を扱った映像資料を用いてリスニングやディスカッションの練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明 単語ノートの作り方の紹介
2	Chapter 1 The United Kingdom? (1)	本文読解
3	Chapter 1 The United Kingdom? (2)	リスニング 本文読解 リスニング ディスカッション
4	Chapter 2 Multicultural Britain (1)	本文読解 リスニング
5	Chapter 2 Multicultural Britain (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
6	Chapter 3 The UK and the EU (1)	本文読解 リスニング
7	Chapter 3 The UK and the EU (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
8	"Brexiters" and "Remainers" (1)	新聞・雑誌記事の読解
9	"Brexiters" and "Remainers" (2)	新聞・雑誌記事の読解とディスカッション
10	Chapter 4 Tea	本文読解 リスニング ディスカッション
11	Chapter 5 Social class (1)	本文読解 リスニング
12	Chapter 5 Social class (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
13	まとめ	春学期授業内容のまとめ
14	期末試験	授業内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain 英国の＜いま＞を知りたい 改定新版』鶴見書店（1800 円＋税）

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な取り組み 10 %

授業内に行う小テスト 10 %

授業内での質疑応答 20 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていきたい。

【その他の重要事項】

授業中はスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading articles and essays on Britain to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of Britain.

LANe100LA

English 1 II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II 2016 年度以前入学者

余田 亜希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 13 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、イギリスについて書かれた文章を集めたテキストを使用して、精読と速読の練習をする。英英辞典を活用し、語彙力を強化する。イギリスの社会や文化に関する知識を身につける。

【到達目標】

類義語、反意語の知識を増やす。英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにする。時事英語に関する一般常識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

予習していることを前提として進める。授業前半は教科書の読解を行う。その日の主題の背景となっている事柄や基礎知識を確認し、教科書の本文の文構造やパラグラフ構成に着目しながら日本語訳やパラフレイズの練習を行う。各章の終わりには復習の小テストを実施する。授業後半は時事問題や文化を扱った映像資料を用いてリスニングやディスカッションの練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明 単語ノートの作り方の紹介
2	Chapter 6 Schools and education (1)	本文読解
3	Chapter 6 Schools and education (2)	リスニング 本文読解 リスニング ディスカッション
4	Chapter 7 University students and higher education (1)	本文読解 リスニング
5	Chapter 7 University students and higher education (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
6	Chapter 8 Women in society (1)	本文読解 リスニング
7	Chapter 8 Women in society (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
8	"Brexiters" and "Remainers" (3)	新聞・雑誌記事の読解
9	"Brexiters" and "Remainers" (4)	新聞・雑誌記事の読解とディスカッション
10	Chapter 9 Science, inventions and business	本文読解 リスニング ディスカッション
11	Chapter 10 Politics and government (1)	本文読解 リスニング
12	Chapter 10 Politics and government (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
13	まとめ	秋学期授業内容のまとめ
14	期末試験	授業内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain 英国の＜いま＞を知りたい 改定新版』鶴見書店（1800 円＋税）

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な取り組み 10 %

授業内を行う小テスト 10 %

授業内での質疑応答 20 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていきたい。

【その他の重要事項】

授業中はスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading articles and essays on Britain to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of Britain.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

深澤 清

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法 1 年：英語 14 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに学習したことを基盤として、総合的な英語力の獲得を目指す。英語によるコミュニケーション活動を通して、他者との相互理解を深める機会を得る。英語の学習を通して海外事情を知り、世界の中の日本、そして日本の中の世界を知る。様々なテーマを含む英語資料を理解し、クリティカルな分析をする能力を養う。

【到達目標】

- 1) コミュニケーション力を培うこと、自信を持って話せるようになることを目標とする。リスニング、リーディング、ライティングの課題をこなす。
 - 2) ペアワーク、グループワークに参加し、課題やプロジェクトを完成させる。
- 1) The goal is to improve communicative ability and confidence in speaking English. Students will be expected to perform listening, reading and writing tasks.
- 2) Students will be expected to take part in pair-work and group-work activities and to complete any assignments or projects set by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業展開をするので、あらかじめ予習をしてもらうこと。授業中に学習した短いフレーズは何度もドリル練習をする。語学学習は地道な努力が必要なので、プリントを使ったドリル練習が多くなる。英語の語彙力アップのため、毎回の授業では英単語の小テストを実施する。リアクションペーパーの提出をする。

Students should try to participate positively in discussion activities and complete all the tasks set by the teacher. Students should always bring a notebook and dictionary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 1	Introduction to Environmental Issues	Environmental issues covers problems related to nature and society. You understand how our habits impact our environment.
Unit 2	Climate Change	Climate change means changes in the climate of our planet or a region. You understand how humans affect climate change.
Unit 3	Energy	Energy is the power required to provide light, heat and to move machines. You understand how humans are dependable on energy.
Unit 4	Waste	Waste is anything that cannot be used or is not wanted anymore. You understand ways to minimize waste.
Unit 5	1-4 Review	Review of 1-4, based on TOEIC(R) Test Style.
Unit 6	Population Growth	Population growth is a raising issue. You understand high-level vocabulary related to population growth.
Unit 7	population	Environmental population is the introduction of harmful, unsafe or not suitable elements in the environment. You understand different type of pollution.
Unit 8	Water	Less than 3% of all water in our planet is drinkable. You understand how water scarcity impacts our future.

Unit 9	Deforestation	Deforestation happens when all trees in an area are cut down or burnt. You understand the importance of trees to the environment.
Unit 10	6-9 Review	Review of 6-9, based on TOEIC(R) Test Style.
Unit 11	Hydroelectricity	Hydroelectric power plants generate electricity from the flow of water. You understand some limitations of hydroelectric energy.
Unit 12	Solar Panels	Solar panels absorb high photo and transform it into electricity. You understand how solar panels work.
Unit 13	Wind Turbines	Wind turbines make electricity from the wind. You understand different types of wind turbines.
Unit 14	Nuclear Energy	Nuclear energy is a technology that has low CO2 emission. You understand and evaluate the risks posed by nuclear energy.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) コミュニケーション力を培うこと、自信を持って話せるようになることを目標とする。リスニング、リーディング、ライティングの課題をこなす。
- 2) ペアワーク、グループワークに参加し、課題やプロジェクトを完成させる。
- 1) The goal is to improve communicative ability and confidence in speaking English. Students will be expected to perform listening, reading and writing tasks.
- 2) Students will be expected to take part in pair-work and group-work activities and to complete any assignments or projects set by the teacher.

【テキスト（教科書）】

Textbook: Our World Today, 著者名: Adam Murray, Anderson Passos, Publisher: 南雲堂, ISBN: 978-4-523-17789-3 C0082

【参考書】

電子辞書又は本型の辞書等（機種、出版社等は不問）

【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria
50% = グループ活動、授業中の課題、宿題、発表 (Participation in group work, classroom activities, homework assignments, presentations)
50% = 筆記試験、口頭試験 (Written tests and/or speaking tests)
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

There seems to be no complaint about the course, however, we'll find the best way to improve students' English.

【学生が準備すべき機器他】

Will be announced in the classroom.

【その他の重要事項】

【授業について】積極的に授業のディスカッションに参加すること。すべての課題を完成させること。出席重視。ノートと英語辞典を持参すること。
Students should try to participate positively in discussion activities and complete all the tasks set by the teacher. Students should always bring a notebook and dictionary.

【Outline and objectives】

The goal of this course is to develop English oral and aural communication skills in a wide variety of real world situations, and emphasizing natural speech and vocabulary development. This course also gives students the opportunity to speak on general topics, to communicate in Business environment and to understand texts on business and finance in the English speaking world.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

深澤 清

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法 1 年：英語 14 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

しっかりとした自分の考えを持ち、英語という言葉によって円滑なコミュニケーションができるようにする。英会話と英作文のレベルアップを目指す。

【到達目標】

日常生活や現代社会の様々なトピックについて自分の意見を口頭、及び文章で表現する力を身につける。効果的に英語を聞き取り、意味をつかむ力を養う。特に、TOEIC(R) リスニング問題の得点率をアップさせる。複数のパラグラフからトピックセンテンスを見つけ、サマリーをまとめる力を身につける。
The goal is to improve communicative ability and confidence in speaking English. Students will be expected to perform listening, reading and writing tasks. Students will be expected to take part in pair-work and group-work activities and to complete any assignments or projects set by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

語彙力強化のため授業では英単語の小テストを行う。基本的な短い英文を暗記し、英語での会話や英作文に応用する。TOEIC(R)、英検等の資格試験対策も早期から取り組む。さらに、英字新聞等を読み、自分の意見を英語でまとめる練習をする

The pace and content of the lessons will vary according to the level of the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 1	Transportation	TOEIC(R) のリスニング対策問題 写真の構図について学習し、写真に込められた意味を理解する。
Unit 2	Travel	TOEIC(R) のリーディング対策 海外旅行で必要とされる知識を英文を通して身につけることを目的とする。
Unit 3	Train Station	TOEIC(R) のリスニング対策問題 切符の購入、旅行計画に関するリスニングを通して、得点アップの秘訣を知る。
Unit 4	Coffee Shop	TOEIC(R) のリーディング対策 サステナブルコーヒーに関する英文を通して、環境問題について理解する。
Unit 5	Restaurant	TOEIC(R) のリスニング対策 レストランで話される英語を理解し、得点アップを目指す。
Unit 6	Bank	TOEIC(R) のリーディング対策問題 物価安定目標値など、英語の経済用語を理解する。
Unit 7	Clinic, Medical	TOEIC(R) のリスニング対策 クリニックで使われる医学的な用語、英語表現を理解する。
Unit 8	Advertisement	TOEIC(R) のリーディング対策 広告文で特徴的な英語表現を理解する。
Unit 9	Sightseeing	TOEIC(R) のリスニング対策 観光地で耳にするであろう英語を理解する。
Unit 10	Weather Information	TOEIC(R) のリーディング対策 天気予報に関する英文を理解し、試験の得点アップを狙う。
Unit 11	Lost and Found	TOEIC(R) のリスニング対策 落とし物取扱所での会話を理解する。
Unit 12	Job Hunting	TOEIC(R) のリーディング対策問題 景気後退でも業績を伸ばすスキルに関する英文内容を理解する。
Unit 13	Booking	TOEIC(R) のリスニング対策 チケットの予約、キャンセルなど、英語で表現する練習をする。
Unit 14	Secret of Successful Business	TOEIC(R) のリーディング対策問題 ビジネスの成功の秘訣に関する英文を読み、そして理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では以下のような「授業時間外の学習」を求める。〔予習〕次回授業の範囲について事前にテキストを読み、疑問点を明確にしておくこと。〔復習〕授業内容について復習するため、テキストや配布資料等を読み返して知識の定着を図ること。〔宿題〕授業時に毎回配布する英語演習のプリントを完成させる。また、本学の授業支援システムを利用し、与えられた課題を提出すること。尚、質問等があれば E メールを使って問い合わせること。

【テキスト（教科書）】

Text: Preparation for the TOEIC (R) Test –Listening & Reading,
筆者名: Tyler Burden, 出版社: 南雲堂, ISBN: 9784523178309

【参考書】

Will be announced in the classroom.

【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria

60% = グループ活動、授業中の課題、出席、宿題、発表 (Participation in group work, classroom activities, attendance, homework assignments, presentations)

40% = 試験、口頭試験 (Written tests and/or speaking tests)

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

There seems to be no complaint about the course, however, we find the best way to improve students' English.

【学生が準備すべき機器他】

Will be announced in the classroom

【Outline and objectives】

The goal of this course is to develop English oral and aural communication skills in a wide variety of real world situations, and emphasizing natural speech and vocabulary development.

LANe100LA	
English 1 I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 I	2016 年度以前入学者
岡崎 真美	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：土 1/Sat.1	
法 1 年：英語 15 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来ている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようにする。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようにする。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 2 とフィールドワーク準備	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	第 1 回フィールドワーク（浅草寺）	フィールドワーク 海外からの観光客に英語でアンケート実施
第 5 回	フィールドワーク結果発表会	プレゼンテーション
第 6 回	Unit 3	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー

第 7 回	Unit 4	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 8 回	Unit 5	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 6	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 7	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 8	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 8	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	春学期末試験	評価
第 14 回	春学期追試験・再試験	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting in to Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4. Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、など）をはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施するので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
¥2400(税抜き)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキヤニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に付けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

【その他の重要事項】

授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in Journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devoting, and by the field work at Sensoji Temple in Asakusa.

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 II	2016 年度以前入学者
岡崎 真美	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：土 1/Sat.1	
法 1 年：英語 15 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来ている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようにする。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】	
回	テーマ
第 1 回目	Unit 9
	内容 Unit8 の復習 Unit 7 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Unit 8 Word Test Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions Evaluation Questionnaires for the field work
第 2 回目	Unit 9
第 3 回目	Preparation for the first field work at Sensoji Temple

第 4 回目	The first field work at Sensoji Temple	Questionnaires to the tourists from abroad at Sensoji Temple
第 5 回目	Presentation	The results of the questionnairesPresentation Evaluation
第 6 回目	Unit 10	Unit 9 Word Test Critical Thinking Group Works Presentation EvaLuation Unit 10 Word Test Unit 10 Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Unit 10 Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation Unit 11 Word Test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Unit 21 Word TEst Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation Unit 31 の Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation 評価
第 7 回目	Unit 11	
第 8 回目	Mid-Term Test	
第 9 回目	Unit 11	
第 10 回目	Unit 12	
第 11 回目	Unit13	
第 12 回目	Unit 14	
第 13 回目	秋学期期末試験	
第 14 回目	追試験・再試験	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000TALK から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が“Must”である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBNNN9784791960330 ￥2400+税

【参考書】

CBS News Break 3 (Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al. BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhguro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】

秋学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

【その他の重要事項】

授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study english in journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devating, anf by the field work at Sensoji Temple in Asakusa.

LANe100LA

English 1 I

LANe100LA

English 1 I

吉川 太恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 16 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 技能統合型の総合英語教材をテキストブックに使用する。日本の大学生にとって身近な話題から社会問題まで扱った英文を読み、それぞれのユニットのタイトルについて、どの程度同意するか、タスク（listening, reading, writing, speaking）を通じて、自分の立ち位置を見極め、表現する力を身につけることを目指す。
メインのテキストブック、サブ・テキストブックの *A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* に加えて、新聞、雑誌、ウェブサイトからの記事を取り上げることで、時事問題などについての理解を深める。

【到達目標】
英語の文章を正確に読解すること、ある程度のスピードで英文を英語のままで理解するスキルを身につけることを目指す。また、学生は **writing** や **speaking** の技能を他の技能と共に総合的に向上させることができるようになる。学期末には、学生は今日的な話題について自分の意見を表現する力を身につけることで、英語によるコミュニケーション能力を高めることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
授業は学生がテキストブックに記載されている QR コードを用いた問題をスマートフォンを用いて予習してきたことを前提に行う。基本的に 1 ユニットの 2 回の授業でカバーする。
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、毎回リアクションペーパーの提出を求めることで理解度と、教師との意思の疎通をはかる。各ユニットの終わりには、学生の意見を問う設問があり、次の授業までの宿題として提出を求める場合や、プレゼンテーションの題材に用いるようにする。また、単語力増強のために、*A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* をサブ・テキストブックとして使用する。つぎに、隔週毎にリスニング力をつけるために語学教材ビデオを見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の進め方、出欠の取り扱い、テキストブック及び補助教材について、その他の注意点について。
2	Unit 1-1	We should keep early hours.(1); Step 0 - Step 9
3	Unit 1-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	We should keep early hours.(2); Step 10, Optional Step
4	Unit 2-1	College students should live alone.(1); Step 0 - Step 9
5	Unit 2-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	College students should live alone.(2); Step 10, Optional Step
6	Unit 3-1	Club activities should be banned at schools.(1); Step 0 - Step 9
7	Unit 3-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	Club activities should be banned at schools.(2); Step 10, Optional Step
8	Unit 4-1	Study abroad experience should be a requirement for university graduation.(1); Step 0 - Step 9
9	Unit 4-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	Study abroad experience should be a requirement for university graduation.(2); Step 10, Optional Step
10	Unit 5-1	College students should study foreign languages more seriously in addition to English.(1); Step 0 - Step 9
11	Unit 5-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	College students should study foreign languages more seriously in addition to English.(2); Step 10, Optional Step

12	Unit 6-1	College students should choose an occupation that suits them.(1); Step 0 - Step 9
13	Unit 6-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	College students should choose an occupation that suits them.(2); Step 10, Optional Step
14	期末試験	テキストブック、サブ・テキストブック、配布したプリントから出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストブックには各所に QR コードが載っていて、学生はスマートフォンからアクセスして、ディクテーションや朗読を聞くことができるようになっていいる。
予習として授業開始前までに、QR コードにスマートフォンをかざして、本文に関連した 3 つの英文を聞き取って書き取ることを義務付ける。サブ・テキストブックの予習も必須である。

【テキスト（教科書）】
1. *How Much Do You Agree? Evolving Opinions*, KOBAYASHI Toshihiko/Jeremie BOUCHARD, 三修社、2019 年、2000 円
2. *A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* (5 分間 日常基本英単語・熟語 1000)、佐藤誠司、南雲堂、2018 年、700 円

【参考書】
テキストブックの音声ダウンロードサイト：<http://sanshusha.co.jp/onsei/isbn/9784384334869/>
(参考まで)
『一億人の英文法』、大西泰斗、ポール・マクベイ、東進ブックス、2013 年、1800 円
『英語ライティング・ルールブック：正しく伝えるための文法・語法・句読法』、ディヴィッド・セイン、株式会社 DHC、2011 年、1800 円

【成績評価の方法と基準】
平常点 60%(授業態度、毎回の予習状況、提出物や小テスト、クラスでの発表)を重要視し、学期末試験 (40%) と合わせて総合評価する。成績評価は、100 点満点とした場合、60 点以上が合格となる。
必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上欠席した場合、単位を与えない。授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなる。また、15 分以上の遅刻 2 回を欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、英語の辞書あるいは電子辞書。

【その他の重要事項】
教師から指示があった場合を除き、授業中にスマートフォンを辞書代わりに使用することを禁止する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to express themselves in English effectively through four skills (reading, writing, listening and speaking). The textbook will enable the students to discover certain topics which deal with comprehensive subjects such as college students' life and various issues about the society.
In addition to the main textbook and the book entitled *A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes*, articles from newspapers, magazines and web sites will be used as other references for the students to enhance and explore their understanding on current topics as well as to widen their vocabularies.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

吉川 太恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 16 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、4 技能統合型の総合英語教材をテキストブックを使用する。日本の大学生にとって身近な話題から社会問題まで扱った英文を読み、それぞれのユニットのタイトルについて、どの程度同意するか、タスク（reading, writing, listening, speaking）を通じて、自分の立ち位置を見極め、英語で表現する力を身につけることを目指す。メインのテキストブックに加えて、サブ・テキストブック及び新聞、雑誌、ウェブサイトからの記事を取り上げることで、時事問題などについての理解を深め、語彙力の増強を図る。

【到達目標】

英語の文章を正確に読解すること、ある程度のスピードで英文を英語のままで理解するスキルを身につけることを目指す。また、学生は writing や speaking の技能を他の技能と共に総合的に向上させることができるようになる。学期末には、学生は今日的な話題について、自分の意見を表現する力を身につけることで、英語によるコミュニケーション能力を高めることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は学生がテキストブックに記載されている QR コードを用いた問題を予習をしてきたことを前提に行う。基本的に 1 ユニットの 2 回の授業でカバーする。

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、毎回リアクションペーパーの提出を求めることで理解度と、教師との意思の疎通をはかる。各ユニットの終わりには、学生の意見を問う設問があり、次回の授業までの宿題として提出を求める場合や、プレゼンテーションの題材に用いるようにする。また、単語力増強のために、*A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* をサブ・テキストブックと併用して使用する。つぎに、各週毎にリスニング力をつけるために語学教材ビデオを見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7-1	We should consider important rules and manners for communication.(1); Ste0 0 - Step 9
2	Unit 7-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	We should consider important rules and manners for communication.(2); Step 10, Optional Step
3	Unit 8-1	More Japanese companies should use English as their main language of business.(1); Step 0 - Step 9
4	Unit 8-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	More Japanese companies should use English as their main language of business.(2); Step 10, Optional Step
5	Unit 9-1	School and company uniform should be abolished.(1); Step 0 - Step 9
6	Unit 9-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	School and company uniform should be abolished.(2); Step 10, Optional Step
7	Unit 10-1	We should promote private lodging more.(1); Step 0 - Step 9
8	Unit 10-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	We should promote private lodging more.(2); Step 10, Optional Step
9	Unit 11-1	We should limit the number of tourists from abroad.(1); Step 0 - Step 9
10	Unit 11-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	We should limit the number of tourists from abroad.(2); Step 10, Optional Step

11	Unit 12-1	Tobacco should become an illegal drug.(1); Step 0 - Step 9
12	Unit 12-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	Tobacco should become an illegal drug.(2); Step 10, Optional Step
13	Unit 13	We should not let elementary school kids use smartphones.(1); Step 0 - Step 9
14	期末試験	テキストブック、サブ・テキストブック、配布したプリントから出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストブックには各所に QR コードが載っていて、学生はスマートフォンからアクセスして、ディクテーションや朗読を聞くことができるようになっている。

予習として授業開始前までに、QR コードにスマートフォンをかざして、本文に関連した 3 つの英文を聞き取って書き取ることを義務付ける。

【テキスト（教科書）】

1.*How Much Do You Agree? Evolving Opinions*, KOBAYASHI Toshihiko/Jeremie BOUCHARD, 三修社、2019 年、2000 円

2.*A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* (5 分間 日常基本英単語・熟語 1000)、佐藤誠司、南雲堂、2018 年、700 円

【参考書】

テキストブックの音声ダウンロードサイト：<http://sanshusha.co.jp/onsei/isbn/9784384334869/> (参考まで)

『一億人の英文法』、大西泰斗、ポール・マクベイ、東進ブックス、2013 年、1800 円

『英語ライティング・ルールブック：正しく伝えるための文法・語法・句読法』、ディヴィッド・セイン、株式会社 DHC、2011 年、1800 円

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%(授業態度、毎回の予習状況、提出物や小テスト)を重要視し学期末試験 (40%) と合わせて総合評価する。成績評価は、100 点満点とした場合、60 点以上が合格となる。

必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上欠席した場合、たとえ期末試験を受けた場合でも単位を与えない。授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなる。また、15 分以上の遅刻 2 回を欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、英語の辞書あるいは電子辞書

【その他の重要事項】

教師から指示があった時を除き、授業中に携帯電話を辞書代わりに使用することを禁止する。

【Outline and objectives】

Following the Spring Semester, the same textbook which deals with comprehensive subjects such as college students' life and various issues about the society will be used. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to express themselves in English effectively through four skills (reading, writing, listening and speaking).

In addition to the main textbook and the book entitled *A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes*, articles from newspapers, magazines and web sites will be used as other references for the students to enhance and explore their understanding on current topics as well as to widen their vocabularies.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 17 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野の力を高めることを目的とした授業を、徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える、中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの英文の内容を、より速く、より正確に読み取る、聞き取る力を高めること。また、理解した内容に対する自分の意見を英語で表現する意欲を持つこと。そうした目標を達成するために必要とされる、基本的な文法事項を定着させること。目標の到達度は、授業内容に即した試験の出来によって測ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

英語の 4 技能を伸ばすことを目的とした、すべて英語で書かれたテキストを用います。問題量が豊富で、視野の広いテキストに、全員参加の演習スタイルでアクティブに取り組めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業内容の説明	授業内容の説明
2	Unit 1.1	One world
3	Unit 1.2	Surviving Siberia
4	Unit 1.4	Writing: Describing a place
5	Unit 2.1	Determination
6	Unit 2.2	Ken's blog: Osamu Tezuka
7	中間試験	中間試験実施
8	Unit 3.1	The Internet
9	Unit 3.2	World news
10	Unit 3.4	Writing: A TV programme review
11	Unit 4.1	Doctors without borders
12	Unit 4.2	Feed your mind
13	Unit 5.1	Islands
14	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の準備にどれだけの熱意と時間を注ぐことが出来るかが、この授業のみならず、受講者の英語力そのものを高める上での決め手となります。この準備段階で特に心がけたいのは、テキストの文章をきちんと声に出して読めるようにすることです。そのためには、発音に自信のもてない単語の発音記号は調べる必要があります。特に、アクセントの位置をしっかりとチェックしましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書: New Language Leader (Pre-Intermediate)
著者: Ian Lebeau/Gareth Rees
出版社: Pearson (2013 年)
価格: 2,646 円
ISBN: 978-1-4479-6152-9

【参考書】

<https://www.english.com/languagelead>
<http://www.bbc.co.uk/radio>
<https://www.bbc.com/news>
<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>
<http://www.npr.org/>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20 %
2. 授業内に行う 2 回のテストの成果 80 %
学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
また、30 分以上遅刻の場合は、受講は可能ですが、欠席扱いとします。
遅刻は 2 回で、1 回の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

授業のテンポ・アップのために、速読で読むべき部分と、精読で読むべき部分のメリハリをもっとつけること。また、授業に真剣に取り組む学生の学習意欲をより高めるためにも、毎回の予習内容を具体的に伝えることに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 17 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野の力を高めることを目的とした授業を、徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える、中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの英文の内容を、より速く、より正確に読み取る、聞き取る力を高めること。また、理解した内容に対する自分の意見を英語で表現する意欲を持つこと。そうした目標を達成するために必要とされる、基本的な文法事項を定着させること。目標の到達度は、授業内容に即した試験の出来によって測ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

英語の 4 技能を伸ばすことを目的とした、すべて英語で書かれたテキストを用います。問題量が豊富で、視野の広いテキストに、全員参加の演習スタイルでアクティブに取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 5.2	Animal invaders
2	Unit 6.1	Future opportunity
3	Unit 6.2	Germany: What future for the family?
4	Unit 6.3	Family matters
5	Unit 7.1	Crime lab
6	Unit 7.2	Stephen William Hawking
7	中間試験	中間試験実施
8	Unit 8.1	Sleep tight
9	Unit 8.2	Working in the dark
10	Unit 9.1	Employment
11	Unit 9.4	Writing: Describing a process
12	Unit 10.1	The United Nations
13	Unit 10.2	Growth of a global giant
14	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の準備にどれだけの熱意と時間を注ぐことが出来るかが、この授業のみならず、受講者の英語力そのものを高める上での決め手となります。この準備段階で特に心がけたいのは、テキストの文章をきちんと声に出して読めるようにすることです。そのためには、発音に自信のもてない単語の発音記号は調べる必要があります。特に、アクセントの位置をしっかりとチェックしましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書: New Language Leader (Pre-Intermediate)

著者: Ian Lebeau/Gareth Rees

出版社: Pearson (2013 年)

価格: 2,646 円

ISBN: 978-1-4479-6152-9

【参考書】

<https://www.english.com/languagelead>

<http://www.bbc.co.uk/radio>

<https://www.bbc.com/news>

<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/>

<http://www.npr.org/>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%
 2. 授業内に行う 2 回のテストの成果 80%
- 学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
- また、30 分以上遅刻の場合は、受講は可能ですが、欠席扱いとします。

遅刻は 2 回で、1 回の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

授業のテンポ・アップのために、速読で読むべき部分と、精読で読むべき部分のメリハリをもっとつけること。また、授業に真剣に取り組む学生の学習意欲をより高めるためにも、毎回の予習内容を具体的に伝えることに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA	
English 1 I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 I	2016 年度以前入学者
妻鹿 裕子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：土 2/Sat.2 法 1 年：英語 18 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。毎回、授業の最初に小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1	Well Suited for Royalty (listening)
3	Unit 1	Well Suited for Royalty (reading)
4	Unit 2	Never More Timely (listening)
5	Unit 2	Never More Timely (reading)
6	Unit 3	Miracle Transformer (listening)
7	Unit 3	Miracle Transformer (reading)
8	Unit 4	Lukewarm Welcome (listening)
9	Unit 4	Lukewarm Welcome (reading)
10	Unit 5	Otherworldly Genius (listening)
11	Unit 5	Otherworldly Genius (reading)
12	Unit 6	A Different London Tube (listening)
13	Unit 6	A Different London Tube (reading)
14	試験	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスク립トと Judgments to Make を予習して下さい。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (20)』
(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、小テスト 20%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

授業で英和辞書と英英辞書を使用します。

【Outline and objectives】

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 II	2016 年度以前入学者
妻鹿 裕子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：土 2/Sat.2 法 1 年：英語 18 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。毎回、授業の最初に小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の講評
2	Unit 7	Where France Meets Arabia (listening)
3	Unit 7	Where France Meets Arabia (reading)
4	Unit 8	Storing It and Sharing It (listening)
5	Unit 8	Storing It and Sharing It (reading)
6	Unit 9	Dutch Ingenuity (listening)
7	Unit 9	Dutch Ingenuity (reading)
8	Unit 10	Putin's Soft Spot (listening)
9	Unit 10	Putin's Soft Spot (reading)
10	Unit 11	Neither One nor the Other (listening)
11	Unit 11	Neither One nor the Other (reading)
12	Unit 12	Giant Smog Trap (listening)
13	Unit 12	Giant Smog Trap (reading)
14	試験	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスク립トと Judgments to Make を予習して下さい。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (20)』
(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、小テスト 20%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

授業で英和辞書と英英辞書を使用します。

【Outline and objectives】

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

神 康介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法 1 年：英語 19 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。使用するテキストは日本の文化、教養、健康、そしてビジネス展開をテーマとし、それに関連した題材を学習する。いずれも現代人が今後快適な生活を送る上で不可欠なテーマばかりであり、英語学習者の興味が十分に満たされる。

【到達目標】

本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く **Exercises** で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Koshiro Matsumoto Akira Ikegami	日本の芸能等について学習する。
3	Kakuei Tanaka Barack Obama's Hiroshima Speech	日本の政治などについて学習する。
4	The Internet of Things(IoT)	日本の技術について学習する。
5	Fintech	現代の金融について学習する。
6	Environmental DNA	環境について学習する。
7	Camellia	日本の地方経済について学習する。
8	Rice	農業について学習する。
9	Stress Check	労働問題について学習する。
10	Generic Drug	医薬品について学習する。
11	Self-driving Cars	自動運転について学習する。
12	Renewable Energy	再生可能エネルギーについて学習する。
13	3D Printers	3D プリンターについて学習する。
14	期末試験	半期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の人数が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習していただくこと。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めることをお勧めする。

【テキスト（教科書）】

Japan Evolution 進化する日本 南雲堂

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの参加及び貢献度、提出物、小テスト（平常点）、期末試験の結果を総合的に判断する。クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。原則として 半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。この科目は習熟度編成をするため、評価に当たり、他のクラスとバランスを取る場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用する。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes. Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs.

This course offers English learners the opportunity to catch up on the latest information and ideas from Japanese culture and improve their language skills at the same time.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

神 康介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法 1 年：英語 19 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

使用するテキストは現代のアメリカ社会についての英文を取り上げ、英語力の向上を目指している。いずれも現代人が今後快適な生活を送る上で不可欠なテーマばかりであり、英語学習者の興味を本書が十分に満たすものと思われる。

【到達目標】

主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Laughing Matter	秋学期オリエンテーション ユーモア
2	A Spreading Problem Juneteenth	肥満 7 月 10 日
3	Father's Day	父の日
4	Watch Your Language A New York States of Mind	言語 わが心のニューヨーク
5	Illegal	不法移民
6	Living with Animals	動物愛護
7	Speaking of Facebook	フェイスブック
8	What Men Want	男らしさ
9	Don't Shoot!	銃問題
10	Good Question	家庭教育
11	Making the Grade	学校教育
12	And Justice for All	司法
13	The U.S.A. at a Glance	未来
14	期末試験	半期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては、大学教養課程以上の単語や分りにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めることをお勧めする。

【テキスト（教科書）】

U.S.A Update いま、アメリカを読む 南雲堂

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの参加及び貢献度、提出物、小テスト（平常点）、期末試験の結果を総合的に判断する。クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。原則として 半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。この科目は習熟度編成をするため、評価にあたって他のレベルのクラスとバランスを取る場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes. Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. This course offers English learners the opportunity to catch up on the latest information and ideas from the United States today and update their language skills at the same time.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I 2016 年度以前入学者

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 20 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

reading と writing を主眼に英語スキルの向上を目指します。テキストとして、新聞・雑誌の記事をプリントして配布します。基本文法と語法を確認しながら文を読み、英語でまとめる練習をします。さまざまなジャンルと長さの英文を正確に読み取ることを目標に、流れに沿って論旨をつかみ、必要な情報を取り出しましょう。

【到達目標】

さまざまなジャンル・長さの英文を正確に読み取ることを目標に、パラグラフの流れに沿って論旨をつかみ、必要な情報を取り出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

新聞・雑誌記事のプリントを配布し、内容に関するクイズや要約作成をする。短き記事はその場で読んで回答してもらう。眺めの記事はあらかじめ配布するので、予習して読み込んでほしい。

秋期のプレゼンテーションテーマをしばらくこむために、興味ある記事を短くまとめて評価票に記入していただきます。（週に一篇で OK）予告なく提出していただきますので評価票は毎週携行してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	What's the Problem? 論旨のピックアップと要約文の作り方のフォームを配布して解説する。
2	Natural Environment	配布記事を読み、内容を確認するクイズに答える。
3	Natural Environment 2	記事を読み、要約を作成する。
4	Global Warming	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
5	Global Warming 2	記事を読み、要約を作成する。
6	Society	記事を読み、内容に関する駆使図に答える。
7	Society 2	記事を読み、要約を作成する。
8	Great Speeches	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
9	Great Speeches 2	記事を読み、要約を作成する。
10	Around Wars	記事を読み、内容に関する駆使図に答える。
11	Around Wars 2	記事を読み、要約を作成する。
12	Health	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
13	grammar review	文法と語法の復習プリントを配布する。
14	Review for Spring Term	春期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントをよく読みこんで、論旨、問題点をピックアップしておくこと。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

とくに指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%、授業時の提出物 50%、授業時の発表 20%として評価する。4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

評価票の提出について：レポートする記事の選択は「各自の興味あるもの」としていますが、秋期のプレゼンテーションの下準備で、各自の興味の方向性を示すことが目的です。単発でおわる記事ではなく、シリーズとして追いかけられそうなもの、続報が手に入りやすいトピックを選んでください。とくに、紹介記事などを扱う場合は、ほかにどんな切り口がありそうか、広く展開できそうなものかを考えて、レポートに取り上げるかどうかを判断するとよいでしょう。

【学生が準備すべき機器他】

授業には必ずハードコピーの辞書または電子辞書を携帯してください。通信機器は使用しないでください。

【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携行してください。

遅刻も回数に応じて欠席にカウントされるので、注意してください。

【Outline and objectives】

This class aims at enhancing your English-reading and writing skill. You'll be given various types of articles from newspapers or magazines. Try to pick out theme and support parts of the article and understand what the writer means.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 20 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

引き続きさまざまなテーマの英文に触れ、語彙を広げ、読解の基礎力を付けていきたいと思います。
英文を読み、論旨を英文でまとめたり、コメントを付ける練習をします。

【到達目標】

- *自分で設定したテーマに沿って資料を検索する。
- *theme/idea/opinion + support という形でのまとめを作る。
- *記事の原文そのままを抜き出してまとめるのではなく、全体の流れを把握したうえで、要点をじぶんの言葉で説明する。
- *記事の内容に関してじぶんの意見をまとめてみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

英文記事を読み、内容把握のためのチェックプリントを使って論旨をつかむ。配布プリントのほか、4 人程度のグループに分かれて、各自用意した記事をレポートしてもらう。グループ構成と記事のテーマは希望を取ったうえで、授業時に指定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Natural Science	配布した記事を読み、内容に関するクイズに答える。 各自プレゼンテーション用の記事を提出。
2	Natural Science 2	配布した記事を読み、要約を作成する。 プレゼンテーションのグループ分けとスケジュールを決定。
3	Medical Science	配布した記事を読み、内容に関するクイズに答える。レポート担当者は使用する記事のコピーをグループ内で配布する。
4	presentation 1	グループごとに担当者がレポートを行い、質問を出し合った後、クラス全員の前で発表してもらう。
5	On Japanese Culture	配布した記事を読み、要約する。次回レポーターは記事のコピーを配布のこと。
6	purepresentation 2	グループセッションのあと、クラスセッション。
7	Social problems	配布記事を読み、まとめを作成する。次回レポーターは記事のコピーを配布のこと。
8	presentation 3	グループセッションの後、クラスセッション。
9	Modern Technology	配布記事を読み、まとめを作成する。次回レポーターは、記事のコピーを配布のこと。
10	presentation 4	グループセッションの後、クラスセッション。
11	Crime	配布記事を読み、内容をまとめる。次回レポーターは記事のコピーを配布のこと。
12	presentation 5	グループセッションの後、クラスセッション。
13	Grammar Review	文法と語法の復習プリントを配布する。全員、プレゼンテーションのまとめレポートを提出のこと。
14	Review for Autumn Term	秋期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポートのテーマが同じ場合、レポートする記事もほかの発表者と重複することがあります。一つの分野でも、複数の記事に目を通し、いろいろな切り口からレポートできるように考えておきましょう。記事の長さなどは授業時に指定し、発表用のフォーム、提出用のフォームを配布しますので、しっかり準備して発表に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布

【参考書】

とくに指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%、授業時の提出物 50%、レポート発表 20%として評価する。4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションでは 800 語以上の記事を選ぶよう指示してありましたが、記事が短すぎ、急遽追加の記事を探す必要のあるかたが数人ありました。また、disputable point（論争となる問題点）を挙げてまとめてもらいましたが、状況説明に終始する記事を選んだため、指定されたまとめができなかった例もありました。
充実したプレゼンテーションを行うために、どんな記事が適しているかよく考えて選択してください。
春期に新聞記事のまとめを作っていたくのも、自分の興味がどこにあるかをあらかじめ考えていただきたいからです。
長期的に追いかけられるテーマを早い段階で明確にしておく必要があるでしょう。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない。

【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携行すること。
遅刻も回数に応じて欠席にカウントされるので、注意が必要。

【Outline and objectives】

You will make a presentation on an article of your choice. Try to explain clearly what is the problem and what the writer thinks of the problem through the group session and class session.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 21 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法文学部：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、1 回の授業で 1 つの Unit を扱う。Unit の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。Unit が終わるごとに復習の小テストを実施する。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1: Smart Phones Deserve Smart Users	賢い電話と依存症の利用者
3	Unit 2: The Animals in Our Lives	動物のいる生活
4	Unit: 3 Reforming Japan's Education System	日本の教育はどこへ行く？
5	英作文	記事に関して各自の意見を英語でまとめる
6	Unit 4: A Hungry Future	未来が飢えている
7	Unit 5: No More Unwelcome Advertisements	押し売りお断り！
8	Unit 6: A Living Wage	賃金の効果的な払い方
9	英作文	記事に関する各自の意見を英語でまとめる
10	Unit 7: Keeping Mothers on the Payroll	働くママを応援！
11	Unit 8: Slow Life	心豊かな生活
12	Unit 9: Volunteering	広まるボランティア活動と深まる疑問
13	Unit 10: Longevity: a Mixed Blessing	ご長寿万歳！
14	期末テストと解説	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、必ず予習をすること。

小テストを実施するので、予習時にわからなかった箇所を復習すること。

【テキスト（教科書）】

What's Going On in the World?

David Peaty 小林香保里 著、成美堂、2017 年、定価 1,900 円（税別）

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。

授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 21 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、1 回の授業で 1 つの Unit を扱う。Unit の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。Unit が終わるごとに復習の小テストを実施する。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方説明と英作文
2	Unit 11: The Importance of Biodiversity	生物の多様性が人類を救う
3	Unit 12: A Home for Endangered Storks	コウノトリに優しいまちづくり
4	Unit 13: Japan's Future Energy Supply	再生可能エネルギーの時代
5	英作文	記事に関して各自の意見を英語でまとめる
6	Unit 14: Green Transportation	持続可能な社会の乗り物
7	Unit 15: How Much Is Nature Worth?	あなたは自然にいくら払いますか
8	Unit 16: Business Can Be Green	環境に優しいビジネス
9	Unit 17: Storing Energy	エネルギーはためられない？
10	英作文	記事に関して各自の意見を英語でまとめる
11	Unit 18: A Dollar a Day	貧困を撲滅せよ
12	Unit 19: Beyond Fair Trade	フェアトレードと生産者の自立支援
13	Unit 20: Shrink the Economy, Not the Earth	経済発展は地球を減らす
14	期末テストと解説	期末テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、必ず予習をすること。
小テストを実施するので、予習時にわからなかった箇所を復習すること。

【テキスト（教科書）】

What's Going On in the World?

David Peaty 小林香保里 著、成美堂、2017 年、定価 1,900 円（税別）

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。

授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

岡崎 真美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 22 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの一つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来ている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動すること求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようにする。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1 UNIQUELO Aims High	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 1 UNIQUELO Aims High	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	第 1 回フィールドワーク準備	海外からの観光客に実施する英語のアンケート作成
第 4 回	第 1 回フィールドワーク（浅草寺）	海外からの観光客に異文化の視点からアンケート実施
第 5 回	Unit 2	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 3	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー

第 7 回	Unit 4	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 8 回	中間テスト	評価
第 9 回	Unit 5	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 5	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 6	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 7	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	春学期末試験	評価
第 14 回	春学期追試験・再試験	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストーリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting in to Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4. Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、など）をはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施すので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
¥2400(税抜き)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

【その他の重要事項】

授業の前夜、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in Journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devoting, and by the fieldwork at Sensoji Temple in Asakusa.

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 II	2016 年度以前入学者
岡崎 真美	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水 1/Wed.1	
法 1 年：英語 22 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】
昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来ている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようにする。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回目	Unit 9	Uni8 の復習 Unit 7 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions Evaluation
第 2 回目	Unit 9	
第 3 回目	Preparation for the field work	Making questionnaires in English planning for the field work English Composition Evaluation

第 4 回目	Field work at Sensoji Temple	Questionnaires for the sightseers from abroad Expressing Opinions Evaluation
第 5 回目	Presentation	The result of the field work Presentation Evaluation
第 6 回目	Unit 10	Unit 9 Word Test Critical Thinking Group Works Presentation Evaluation
第 7 回目	Unit 11	Unit10 Word Test Unit 10 Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Unit 11 Word Test0 Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Presentation Evaluation
第 8 回目	Unit 12	Unit 12 Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 9 回目	Unit 113	Unit 13 Word Test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Unit Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 10 回	Unit 14	Unit 14 の Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 11 回	Unit 14	Unit 14 の Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 12 回	Unit 15	Unit 15 の Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回	秋学期期末試験	評価
第 14 回	追試験・再試験	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000Talk から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。

【テキスト（教科書）】
CBS News Break 3 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al.
published by Seibido (成美堂) ISBNNN9784791960330 ￥2400+税

【参考書】
CBS News Break 3 (Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】
春学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】
USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

【その他の重要事項】

授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study English in journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devoting, and by a field work.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

鈴木 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 23 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生は世の中の動向を注視し、社会の様々な問題に関心を持つことが重要である。そのため、英字新聞のニュース・コラムを読むことによって、情報力及び英語力を身につけることをめざす。

【到達目標】

ニュースの情報力と英語の読解力・要約力・発表力を身につける。新聞ニュース記事の背景知識を把握し、英文に見られる英語の語彙・語法の特徴を学習し、英字新聞を気軽に読めるようにする。また、英文をスムーズに音読し、英文を正確に読解し、どんな問題についても自分の意見を言えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、英字新聞にある政治・経済・社会・文化・スポーツなどの記事を取り上げ、語彙・語法をチェックした後、パラグラフごとに要約し、さらに記事の内容について意見を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (授業概要の説明)	授業の内容・方針・成績評価などを説明する。
2	新聞の構成を学ぶ。	見出し・書き出し・本文を役割を説明する。
3	「見出し」の特徴を学ぶ。	ニュース記事の「見出し」の特徴を学び、演習する。
4	「書き出し」「本文」の特徴を学ぶ。	ニュース記事の「書き出し」「本文」の特徴を学び、演習する。
5	語彙・語法を学ぶ。	ニュース記事で使われている独特な語彙・語法をチェックする。
6	語彙・語法を学ぶ。	ニュース記事で使われている独特な語彙・語法をチェックする。
7	パラグラフの機能と社会問題を学ぶ。 (1)	パラグラフを要約する。 社会問題を考える。
8	パラグラフの機能と社会問題を学ぶ。 (2)	パラグラフを要約する。 社会問題を考える。
9	中間テスト	英文記事をパラグラフごとに訳す。
10	スキミング・スキヤニングを学ぶ。 (1)	スキミング・スキヤニングを 実践演習する。
11	スキミング・スキヤニングを学ぶ。 (2)	スキミング・スキヤニングを 実践演習する。
12	速読の方法を学ぶ。 (1)	ニュース記事全体を速読し、内容把握の演習をする。
13	速読の方法を学ぶ。 (2)	ニュース記事全体を速読し、内容把握の演習をする。
14	期末テスト	内容把握のテストをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業直前 1 週間のニュースをチェックしておく。
前週に配布されたプリントを予習する。英文をスムーズに音読できるようにしておく。英文の単語・語法を調べ、正確に訳せるように予習する。また、記事の問題について自分の意見が発表できるようにまとめておく。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

『現代用語の基礎知識』『2019 年の論点 100』ほか

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加・姿勢、欠席は 3 回まで）：30 %
中間・期末テスト：70 %

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ記事などさまざまなニュース記事を取り上げる。取り上げる記事の難易度に差ないように心がける。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve reading and critical thinking skills. Students will read about various topics in newspapers, including politics, economy, sports, and social problems. Students will take a midterm and a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

鈴木 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 23 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英字新聞のニュース・コラムを取り上げ、速読（スキミング・スキニング）により記事全体の内容を速く把握し、要約する力を身につける。さらに社会問題について自分の意見を発表するため、ニュースの背景知識を学習し、批判力・批評力を身につけることをめざす。

【到達目標】

ニュースを読む語彙力と意見を発表できる力を身につける。英文を理解するための基本スキルである語彙力を定着させるため、毎回語彙テストを実施する。また、発表力を養うために自分でニュース記事を選び、レジュメを準備して口頭発表できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、英字新聞からニュース・コラムを選び、語彙・語法・内容をチェックし、意見を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (授業概要の説明)	授業の内容・方針・成績評価などを説明する。
2	語彙テスト（1） 「政治」のニュース・コラムを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体の内容把握と意見の発表をする。
3	語彙テスト（2） 「経済」のニュース・コラムを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体の内容把握と意見の発表をする。
4	語彙テスト（3） 「社会」のニュース・コラムを読む。	語彙テストを実施する。 記事全体の内容把握と意見の発表をする。
5	語彙テスト（4）	語彙テストを実施する。 記事全体を要約し、意見を発表する。
6	語彙テスト（5）	語彙テストを実施する。 記事全体を要約し、意見を発表する。
7	中間テスト	記事全体を要約する。
8	語彙テスト（6）	語彙テストを実施する。
9	語彙テスト（7） 「データ記事」を読む。	語彙テストを実施する。 データを速読する。
10	語彙テスト（8）「データ記事」を読む。（2）	語彙テストを実施する。 データを速読する。
11	語彙テスト（9）「時事漫画」を読む。	語彙テストを実施する。 「時事漫画」の背景を理解する。
12	語彙テスト（10）「写真ニュース」を読む。（1）	語彙テストを実施する。 「写真ニュース」の背景を理解する。
13	語彙テスト（11）「写真ニュース」を読む。（2）	語彙テストを実施する。 「写真ニュース」の背景を理解する。
14	期末テスト	内容把握の理解度をテストする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業直前 1 週間のニュースをチェックする。語彙テストに備える。発表のために、トピック選び、訳、問題点の解説、意見考察などレジュメ作成の準備をする。

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

春学期と同じ

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加・姿勢・欠席は 3 回まで）： 30 %

語彙テスト： 20 %

テスト： 50 %

【学生の意見等からの気づき】

政治・経済以外のスポーツ・芸能など様々な分野のニュースを取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their reading and critical thinking skills. Students will read about various topics in newspapers, including politics, economy, sports, and social problems. Students will take a mid-term test and a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

高 友希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 24 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で発信されたニュースを正確に理解し、グループで議論する。

【到達目標】

辞書を丹念に調べながら、ニュースを正確に理解し、自らの意見を発信できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

あらかじめ担当グループを決めた上で、テキストを読み進める。課題で理解度をチェックし、適宜、内容について議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	Sister Jean: Basketball Team's Secret Weapon	(B) Story 1 (F) Lesson 1
第 3 回	Blood Testing: Charged with Massive Fraud	(B) Story 2 (F) Lesson 2
第 4 回	Millionaire Millennial	(B) Story 3 (F) Lesson 3
第 5 回	Fighting Robocalls	(B) Story 4
第 6 回	The Blue World	(B) Story 5 (F) Lesson 4
第 7 回	Moment of Impact	(B) Story 6 (F) Lesson 5
第 8 回	Father's New Hand	(B) Story 7 (F) Lesson 6
第 9 回	Trump's Weapon Ban?	(B) Story 8 (F) Lesson 7
第 10 回	American Men's Bobsledding Team	(B) Story 9
第 11 回	Made in America: Recycling Discarded Water Bottles	(B) Story 10 (F) Lesson 8
第 12 回	The Children of Syria	(B) Story 11 (F) Lesson 9
第 13 回	Honoring Martin Luther King Jr	(B) Story 12 (F) Lesson 10
第 14 回	Inside the Drug Cartel	(B) Story 13

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えること。

【テキスト（教科書）】

S. Yamane and K. Yamane, Broadcast: ABC World News Tonight, Kinseido (2019).

Y. Imai, H. Ueda and T. Otsuka, Fun IPA Transcription, Eihosha (2019).

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、平常点（授業への積極的参加）（30 %）
なお、欠席が 4 回以上の場合には、成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

【Outline and objectives】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

高 友希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 24 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で発信されたニュースを正確に理解し、グループで議論する。

【到達目標】
辞書を丹念に調べながら、ニュースの内容を正確に理解し、自らの意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
あらかじめ担当グループを決めた上で、テキストを読み進める。課題で理解度をチェックし、適宜、内容について議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Repairing Big Ben	(B) Unit 1 (F) Lesson 11
第 2 回	Learning to Walk again	(B) Unit 2 (F) Lesson 12
第 3 回	A Secret Garden in London	(B) Unit 3 (F) Lesson 13
第 4 回	Unpaid Internships	(B) Unit 4
第 5 回	The Wedding Gallery	(B) Unit 5 (F) Lesson 14
第 6 回	A Modern Steam Train	(B) Unit 6 (F) Lesson 15
第 7 回	A T-shirt Exhibition	(B) Unit 7 (F) Lesson 16
第 8 回	Generation Z	(B) Unit 8 (F) Lesson 17
第 9 回	Veganuary	(B) Unit 9 (F) Lesson 18
第 10 回	Wind Power in Britain	(B) Unit 10 (F) Lesson 19
第 11 回	Preventing Transgender Bullying	(B) Unit 11 (F) Lesson 20
第 12 回	A Plastic Tenner	(B) Unit 12 (F) Lesson 21
第 13 回	How to Delay Ageing	(B) Unit 13
第 14 回	School Deal with Fake News	(B) Unit 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えること。

【テキスト（教科書）】
T. Knowles, C. Lowe, M. Tamura, M. Tanaka and M. Nakamura, British News Update, Kinseido (2019).
Y. Imai, H. Ueda and T. Otsuka, Fun IPA Transcription, Eihosha (2019).

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70 %）、平常点（授業への積極的参加）（30 %）
なお、欠席が 4 回以上の場合には、成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】
グループ・ワークを継続する。

【Outline and objectives】
This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

余田 亜希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 25 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスについて書かれた文章を集めたテキストを使用して、精読と速読の練習をする。英英辞典を活用し、語彙力を強化する。イギリスの社会や文化に関する知識を身につける。

【到達目標】
類義語、反意語の知識を増やす。英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようになる。時事英語に関する一般常識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
予習していることを前提として進める。授業前半は教科書の読解を行う。その日の主題の背景となっている事柄や基礎知識を確認し、教科書の本文の文構造やパラグラフ構成に着目しながら日本語訳やパラフレーズの練習を行う。各章の終わりに復習の小テストを実施する。授業後半は時事問題や文化を扱った映像資料を用いてリスニングやディスカッションの練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明 単語ノートの作り方の紹介
2	Chapter 1 The United Kingdom? (1)	本文読解 リスニング
3	Chapter 1 The United Kingdom? (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
4	Chapter 2 Multicultural Britain (1)	本文読解 リスニング
5	Chapter 2 Multicultural Britain (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
6	Chapter 3 The UK and the EU (1)	本文読解 リスニング
7	Chapter 3 The UK and the EU (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
8	"Brexiters" and "Remainers" (1)	新聞・雑誌記事の読解
9	"Brexiters" and "Remainers" (2)	新聞・雑誌記事の読解とディスカッション
10	Chapter 4 Tea	本文読解 リスニング ディスカッション
11	Chapter 5 Social class (1)	本文読解 リスニング
12	Chapter 5 Social class (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
13	まとめ	春学期授業内容のまとめ
14	期末試験	授業内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

【テキスト（教科書）】
Tim Knight 著『Welcome to Britain 英国の<いま>を知りたい 改定新版』鶴見書店（1800 円+税）

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業に対する積極的な取り組み 10 %

授業内に行う小テスト 10 %

授業内での質疑応答 20 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていきたい。

【その他の重要事項】

授業中はスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading articles and essays on Britain to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of Britain.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

余田 亜希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 25 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、イギリスについて書かれた文章を集めたテキストを使用して、精読と速読の練習をする。英英辞典を活用し、語彙力を強化する。イギリスの社会や文化に関する知識を身につける。

【到達目標】

類義語、反意語の知識を増やす。英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにする。時事英語に関する一般常識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

予習していることを前提として進める。授業前半は教科書の読解を行う。その日の主題の背景となっている事柄や基礎知識を確認し、教科書の本文の文構造やパラグラフ構成に着目しながら日本語訳やパラフレーズの練習を行う。各章の終わりには復習の小テストを実施する。授業後半は時事問題や文化を扱った映像資料を用いてリスニングやディスカッションの練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明 単語ノートの作り方の紹介
2	Chapter 6 Schools and education (1)	本文読解 リスニング
3	Chapter 6 Schools and education (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
4	Chapter 7 University students and higher education (1)	本文読解 リスニング
5	Chapter 7 University students and higher education (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
6	Chapter 8 Women in society (1)	本文読解 リスニング
7	Chapter 8 Women in society (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
8	"Brexiters" and "Remainers" (3)	新聞・雑誌記事の読解
9	"Brexiters" and "Remainers" (4)	新聞・雑誌記事の読解とディスカッション
10	Chapter 9 Science, inventions and business	本文読解 リスニング ディスカッション
11	Chapter 10 Politics and government (1)	本文読解 リスニング
12	Chapter 10 Politics and government (2)	本文読解 リスニング ディスカッション
13	まとめ	秋学期授業内容のまとめ
14	期末試験	授業内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain 英国の<いま>を知りたい 改定新版』鶴見書店（1800 円+税）

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な取り組み 10 %

授業内に行う小テスト 10 %
授業内での質疑応答 20 %
期末試験 60 %
欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。
30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。
予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】
教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていききたい。

【その他の重要事項】
授業中はスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

【Outline and objectives】
This course will focus on reading articles and essays on Britain to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of Britain.

LANe100LA	
English 1 I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 I	2016 年度以前入学者
保坂 嘉恵美	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 26 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リーディング力&リスニング力のレベルアップ、および今日の私たちの社会が直面するグローバルな問題への理解と批判的考察を高める。

【到達目標】
①英語の幅広い語彙力を伸ばす
②論理的な文章の読解力を強化し、一つの記事全体がどのような論理展開で構築されているか、パラグラフ単位で追えるようにする
③グローバル・イシューについての理解と批判的考察力を養う
またネットの（国際）動画ニュースから日々更新される最新の報道（CNN 10 など）を視聴して
④リスニング力を強化する
⑤今世界で何が起きているかを知り、自分なりの考察ができるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
授業最初の 20～30 分を使って、ネットの最新（まさに昨日起こったといったような、ホットな）ニュース動画を視聴する。報道内容を活字におこした transcript を使用する場合もある。
リーディング教材としては、下欄に記載したテキストを使用する。下欄【授業計画】を参照してわかる通り、内容はチャプター毎にグローバル化・情報化が進む現代社会の様々な問題について論じられており、授業 2 回で 1 チャプター読了というペースで進めれば理想である。従って春学期で 6 チャプター読了予定。
語注は最低限しかついていないので、予習は、丹念に辞書を引いて知らない単語や語句を調べ、文章の意味内容を自分なりにとらえておくことが必須である。
英文読了後には、内容理解をチェックするための設問がある。英文の訳読や設問チェックはすべて学生をアトランダムに指名して進めるので、全員いつ指名されてもよいように毎回予習しておくことが、授業がスムーズに進む前提となる。なお、「授業計画」にどの回とは特記していないが、テーマによっては各自深掘的な探求学習を行ってもらう予定。
※授業計画はあくまでも予定であり、進度や読むチャプターなど変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	Introduction	授業方針・内容の説明
2	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える①	Chapter1. The Hollywood effect: How does popular entertainment influence society? ハリウッドに代表されるポップカルチャーは社会にどのような影響を与えているのか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
3	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える②	Chapter 2. Learning to learn: Why is university education important? 大学教育はなぜ重要なのか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
4	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える③	
5	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える④	

6	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える⑤	Chapter 3. Competing worldviews: What causes group conflict? なぜ集団間での紛争は起きるのか？ について書かれたエッセイを精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
7	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える⑥	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
8	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える⑦	Chapter 4. Population changes: How does immigration change a country? 移民の受け入れは国をどう変えるのか？ について書かれたエッセイを精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
9	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える⑧	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
10	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える⑨	Chapter 5. A global language: How did the use of English become so widespread? グローバル言語として英語はなぜこれほど普及したのか？ について書かれたエッセイを精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
11	Section I: Culture and Society 文化と社会について考える⑩	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
12	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える①	Chapter 6. Natural wonders: Where is the most beautiful place on Earth? ユネスコの世界遺産に登録された自然の驚異および人間活動が及ぼすダメージについて書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
13	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える②	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
14	期末試験	60 分程度の筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習＝辞書を引き、不明な事項は辞典やインターネット検索で調べ、「自分なり」にテキストを読んで内容を把握してくる。各チャプター読了後には、復習として、全文を読み返し、内容の理解と新しい語彙が身についたかどうか確認する。

【テキスト（教科書）】

François de Soete, *Making Sense of the World: Wisdom Through Knowledge*

邦題「現代世界を理解するための視点」(成美堂 2014/ ¥1900)

その他英字新聞や雑誌記事のプリントや最新動画ニュースの transcript のプリント等

【参考書】

必要な場合、授業内で適宜指示する。辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）＋用例豊富な英和中辞典。英英辞典の活用についても指導する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%期末試験 80%で判定する。平常の予習復習をしっかりやっていたら授業の理解度が上がり、結果として期末試験のスコアはよくなるという運動がある。欠席回数は原則 4 回以上で単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語力に合わせたテキストを選んでいるが、個人差もあると思われる。読み進むスピードなどは、学生の力に応じて適宜調整していきたい。

ポッドキャストニュース（とりわけ CNN 10）の最新動画ニュースは今世界で何が起きているかをリアルタイムで視聴できる教材として好評であった。教室のスクリーンをネットサイトにつなぎ、なるべく多く視聴する機会を作る予定。ホットな世界情勢に対する視野の拡大、リスニング力強化に役立つ。自分で力をつけたい学生には有益なネットサイトや携帯端末で視聴できるアプリを紹介する。

【Outline and objectives】

This course aims mainly to enhance students' English reading and listening skills. Students will develop their understanding and critical thinking of a diverse range of global issues facing our society today as well.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

保坂 嘉恵美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 26 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーディング力&リスニング力のレベルアップ、および今日の私たちの社会が直面するグローバルな問題への理解と批判的考察を高める。

【到達目標】

- ①英語の幅広い語彙力を伸ばす
- ②論理的な文章の読解力を強化し、一つの記事全体がどのような論理展開で構築されているか、パラグラフ単位で追えるようにする
- ③グローバル・イシューについての理解と批判的考察力を養う
またネットの（国際）動画ニュースから日々更新される最新の報道（CNN 10 など）を視聴して
- ④リスニング力を強化する
- ⑤今世界で何が起きているかを知り、自分なりの考察ができるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業最初の 20～30 分を使って、ネットの最新（まさに昨日起こったといったような、ホットな）ニュース動画を視聴する。報道内容を活字におこした transcript を使用する場合もある。

リーディング教材としては、下欄に記載したテキストを使用する。下欄【授業計画】を参照してわかる通り、内容はチャプター毎にグローバル化・情報化が進む現代社会の様々な問題について論じられており、授業 2 回で 1 チャプター読了というペースで進めれば理想である。従って春学期で 6 チャプター読了予定。

語注は最低限しかついていないので、予習は、丹念に辞書を引いて知らない単語や語句を調べ、文章の意味内容を自分なりにとらえておくことが必須である。

英文読了後には、内容理解をチェックするための設問がある。英文の訳読や設問チェックはすべて学生をアトラダムに指名して進めるので、全員いつ指名されてもよいように毎回予習しておくことが、授業がスムーズに進む前提となる。なお、「授業計画」にどの回とは特記していないが、テーマによっては各自深掘的な探求学習を行ってもらう予定。

※授業計画はあくまでも予定であり、進度や読むチャプターなど変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える③	Chapter 7. Animal rights: Why do we treat different types of animals differently? 動物の権利について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
2	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える④	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
3	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える⑤	Chapter 8. The human impact: How much more environmental damage can Earth handle? 地球はこれ以上の環境破壊に耐え得るのか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
4	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える⑥	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。

5	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える⑦	Chapter 9. Renewable energy: When will we finally use only clean energy? 再生可能エネルギーについて書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。 同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
6	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える⑧	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
7	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える⑨	Chapter10. The final frontier: Will people eventually travel to distant planets? 人間はいつか遠くの惑星（最後のフロンティアとして）へ旅するようになるのか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
8	Section II: People and the Environment 人間と環境について考える⑩	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
9	Section III: International Relations and Politics 国際関係・国際政治について考える①	Chapter11. Democratic government: What is democracy? 民主政治、民主主義とは何か？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
10	Section III: International Relations and Politics 国際関係・国際政治について考える②	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
11	Section III: International Relations and Politics 国際関係・国際政治について考える③	Chapter15. Global governance: Will people one day create a world government? 世界政府は将来生まれるか？ について書かれたエッセイの精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。
12	Section III: International Relations and Politics 国際関係・国際政治について考える④	同上チャプターの後半の精読。構文や語彙の理解のチェック、応用作文などの実践。エッセイ読了後、エッセイ全体を通してパラグラフ単位でのトピックの論理展開について確認。テキスト設問での質疑応答。
13	英文エッセイの構造と内容の効率的な把握	エッセイの構造を理解し、過不足のない「要約」の仕方を学ぶ。
14	期末試験	60 分程度の筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習＝辞書を引き、不明な事項は事典やインターネット検索で調べ、「自分なり」にテキストを読んで内容を把握してくる。各チャプター読了後には、復習として、全文を読み返し、内容の理解と新しい語彙が身についたかどうか確認する。

【テキスト（教科書）】

François de Soete, *Making Sense of the World: Wisdom Through Knowledge*

邦題『現代世界を理解するための視点』（成美堂 2014/ ¥1900）

その他英字新聞や雑誌記事のプリントや最新動画ニュースの transcript のプリント等

【参考書】

必要な場合、授業内で適宜指示する。辞書は『リーガーズ英和辞典』（研究社）＋用例豊富な英和中辞典。英英辞典の活用についても指導する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20% 期末試験 80% で判定する。平常の予習復習をしっかりとやっていれば授業の理解度が上がり、結果として期末試験のスコアはよくなるという連動がある。欠席回数は原則 4 回以上で単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

ポッドキャストニュース（とりわけ CNN 10）の最新動画ニュースは今世界で何が起きているかをリアルタイムで視聴できる教材として好評であった。教室のスクリーンをネットサイトにつなぎ、なるべく多く視聴する機会を作る予定。ホットな世界情勢に対する視野の拡大、リスニング力強化に役立つ。自分で力をつけたい学生には有益なネットサイトや携帯端末で視聴できるアプリを紹介する。

【Outline and objectives】

This course aims mainly to enhance students' English reading and listening skills. Students will develop their understanding and critical thinking of a diverse range of global issues facing our society today as well.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 27 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「社会生活」・「環境と動物学」・「生命倫理と宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Unit 1	Phone Dirt Reveals Personal Data
第 3 回	Unit 2	Driverless Buses
第 4 回	Unit 3	Stealth Keys
第 5 回	Unit 1 ～ Unit 3 のまとめ	Unit 1 ～ Unit 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 4	Unfamiliar Sources of Energy
第 7 回	Unit 5	Delivery by Drone
第 8 回	Unit 6	Uber and its Future
第 9 回	Unit 7	Convenience Stores in Japan
第 10 回	Unit 4 ～ Unit 7 のまとめ	Unit 4 ～ Unit 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 8	Learn English with a Robot
第 12 回	Unit 9	Noise Level and Disease
第 13 回	Unit 10	Reading Faces
第 14 回	学期末試験	学期末試験（筆記試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。

【テキスト（教科書）】

Science in Our Daily Life (『科学の恩恵と私たちの暮らし』)(小林 敏彦・Bill Benfield 著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)、授業態度・授業内に課した課題（ライティング課題の提出と発表を重視）や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していない。

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook (designated below). The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法 1 年：英語 27 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「社会生活」・「環境と動物学」・「生命倫理と宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	配布プリント	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Unit 11	Meditation and Sports
第 3 回	Unit 12	Digital Disabilities
第 4 回	Unit 13	Euglena Dietary Supplements
第 5 回	Unit 11 ～ Unit 13 のまとめ	Unit 11 ～ Unit 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 14	Facts about Koalas
第 7 回	Unit 15	Ants
第 8 回	Unit 16	Exotic Pets
第 9 回	Unit 17	Culling Feral Cats
第 10 回	Unit 14 ～ Unit 17 のまとめ	Unit 14 ～ Unit 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 18	When Do We Become “Old”?
第 12 回	Unit 19	Protecting Earth from Collisions
第 13 回	Unit 20	Migration to Mars
第 14 回	学期末試験	学期末試験（筆記試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。

【テキスト（教科書）】

Science in Our Daily Life (『科学の恩恵と私たちの暮らし』) (小林 敏彦・Bill Benfield 著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40 %) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していない。

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook (designated below). The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation
6. Improve rapid reading skill.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

深澤 清

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法 1 年：英語 28 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに学習したことを基盤として、総合的な英語力の獲得を目指す。英語によるコミュニケーション活動を通して、他者との相互理解を深める機会を得る。英語の学習を通して海外事情を知り、世界の中の日本、そして日本の中の世界を知る。様々なテーマを含む英語資料を理解し、クリティカルな分析をする能力を養う。

【到達目標】

- 1) コミュニケーション力を培うこと、自信を持って話せるようになることを目標とする。リスニング、リーディング、ライティングの課題をこなす。
 - 2) ペアワーク、グループワークに参加し、課題やプロジェクトを完成させる。
- 1) The goal is to improve communicative ability and confidence in speaking English. Students will be expected to perform listening, reading and writing tasks.
- 2) Students will be expected to take part in pair-work and group-work activities and to complete any assignments or projects set by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業展開をするので、あらかじめ予習をしてくること。授業中に学習した短いフレーズは何度もドリル練習をする。語学学習は地道な努力が必要なので、プリントを使ったドリル練習が多くなる。英語の語彙力アップのため、毎回の授業では英単語の小テストを実施する。リアクションペーパーの提出をする。

Students should try to participate positively in discussion activities and complete all the tasks set by the teacher. Attendance is important. Students should always bring a notebook and dictionary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 1	Introduction to Environmental Issues	Environmental issues covers problems related to nature and society. You understand how our habits impact our environment.
Unit 2	Climate Change	Climate change means changes in the climate of our planet or a region. You understand how humans affect climate change.
Unit 3	Energy	Energy is the power required to provide light, heat and to move machines. You understand how humans are dependable on energy.
Unit 4	Waste	Waste is anything that cannot be used or is not wanted anymore. You understand ways to minimize waste.
Unit 5	1-4 Review	Review of 1-4, based on TOEIC(R) Test Style.
Unit 6	Population Growth	Population growth is a raising issue. You understand high-level vocabulary related to population growth.
Unit 7	population	Environmental population is the introduction of harmful, unsafe or not suitable elements in the environment. You understand different type of pollution.
Unit 8	Water	Less than 3% of all water in our planet is drinkable. You understand how water scarcity impacts our future.

Unit 9	Deforestation	Deforestation happens when all trees in an area are cut down or burnt. You understand the importance of trees to the environment.
Unit 10	6-9 Review	Review of 6-9, based on TOEIC(R) Test Style.
Unit 11	Hydroelectricity	Hydroelectric power plants generate electricity from the flow of water. You understand some limitations of hydroelectric energy.
Unit 12	Solar Panels	Solar panels absorb high photo and transform it into electricity. You understand how solar panels work.
Unit 13	Wind Turbines	Wind turbines make electricity from the wind. You understand different types of wind turbines.
Unit 14	Nuclear Energy	Nuclear energy is a technology that has low CO2 emission. You understand and evaluate the risks posed by nuclear energy.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) コミュニケーション力を培うこと、自信を持って話せるようになることを目標とする。リスニング、リーディング、ライティングの課題をこなす。
 2) ペアワーク、グループワークに参加し、課題やプロジェクトを完成させる。
 1) The goal is to improve communicative ability and confidence in speaking English. Students will be expected to perform listening, reading and writing tasks.
 2) Students will be expected to take part in pair-work and group-work activities and to complete any assignments or projects set by the teacher.

【テキスト（教科書）】

Textbook: Our World Today, 著者名: Adam Murray, Anderson Passos, Publisher: 南雲堂, ISBN: 978-4-523-17789-3 C0082

【参考書】

電子辞書又は本型の辞書等（機種、出版社等は不問）

【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria

50% = グループ活動、授業中の課題、宿題、発表 (Participation in group work, classroom activities, homework assignments, presentations)
 50% = 筆記試験、口頭試験 (Written tests and/or speaking tests)
 各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

There seems to be no complaint about the course, however, we'll find the best way to improve students' English.

【学生が準備すべき機器他】

Will be announced in the classroom.

【その他の重要事項】

【授業について】積極的に授業のディスカッションに参加すること。すべての課題を完成させること。出席重視。ノートと英語辞典を持参すること。
 Students should try to participate positively in discussion activities and complete all the tasks set by the teacher. Students should always bring a notebook and dictionary.

【Outline and objectives】

The goal of this course is to develop basic English oral and aural communication skills in a wide variety of real world situations, and emphasizing natural speech and vocabulary development. This course also gives students the opportunity to speak on general topics, to communicate in Business environment and to understand texts on business and finance in the English speaking world.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

深澤 清

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
 法 1 年：英語 28 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

しっかりと自分の考えを持ち、英語という言葉によって円滑なコミュニケーションができるようにする。英会話と英作文のレベルアップを目指す。

【到達目標】

日常生活や現代社会の様々なトピックについて自分の意見を口頭、及び文章で表現する力を身につける。効果的に英語を聞き取り、意味をつかむ力を養う。特に、TOEIC(R) リスニング問題の得点率をアップさせる。
 複数のパラグラフからトピックセンテンスを見つけ、サマリーをまとめる力を身につける。The goal is to improve communicative ability and confidence in speaking English. Students will be expected to perform listening, reading and writing tasks. Students will be expected to take part in pair-work and group-work activities and to complete any assignments or projects set by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

語彙力強化のため授業では英単語の小テストを行う。基本的な短い英文を暗記し、英語での会話や英作文に応用する。TOEIC(R)、英検等の資格試験対策も早期から取り組む。さらに、英字新聞等を読み、自分の意見を英語でまとめる練習をする

The pace and content of the lessons will vary according to the level of the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 1	Transportation	TOEIC(R) のリスニング対策問題 写真の構図について学習し、写真に込められた意味を理解する。
Unit 2	Travel	TOEIC(R) のリーディング対策 海外旅行で必要とされる知識を英文を通して身につけることを目的とする。
Unit 3	Train Station	TOEIC(R) のリスニング対策問題 切符の購入、旅行計画に関するリスニングを通して、得点アップの秘訣を知る。
Unit 4	Coffee Shop	TOEIC(R) のリーディング対策 サステナブルコーヒーに関する英文を通して、環境問題について理解する。
Unit 5	Restaurant	TOEIC(R) のリスニング対策 レストランで話される英語を理解し、得点アップを目指す。
Unit 6	Bank	TOEIC(R) のリーディング対策問題 物価安定目標値など、英語の経済用語を理解する。
Unit 7	Clinic, Medical	TOEIC(R) のリスニング対策 クリニックで使われる医学的な用語、英語表現を理解する。
Unit 8	Advertisement	TOEIC(R) のリーディング対策 広告文で特徴的な英語表現を理解する。
Unit 9	Sightseeing	TOEIC(R) のリスニング対策 観光地で耳にするであろう英語を理解する。
Unit 10	Weather Information	TOEIC(R) のリーディング対策 天気予報に関する英文を理解し、試験の得点アップを狙う。
Unit 11	Lost and Found	TOEIC(R) のリスニング対策 落とし物取扱い所での会話を理解する。
Unit 12	Job Hunting	TOEIC(R) のリーディング対策問題 景気後退でも業績を伸ばすスキルに関する英文内容を理解する。
Unit 13	Booking	TOEIC(R) のリスニング対策 チケットの予約、キャンセルなど、英語で表現する練習をする。
Unit 14	Secret of Successful Business	TOEIC(R) のリーディング対策問題 ビジネスの成功の秘訣に関する英文を読み、そして理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では以下のような「授業時間外の学習」を求める。〔予習〕次回授業の範囲について事前にテキストを読み、疑問点を明確にしておくこと。〔復習〕授業内容について復習するため、テキストや配布資料等を読み返して知識の定着を図ること。〔宿題〕授業時に毎回配布する英語演習のプリントを完成させる。また、本学の授業支援システムを利用し、与えられた課題を提出すること。尚、質問等があれば E メールを使って問い合わせること。

【テキスト（教科書）】

Text: Preparation for the TOEIC (R) Test –Listening & Reading, Tyler Burden, 出版社: 南雲堂 ISBN: 9784523178309

【参考書】

Will be announced in the classroom.

【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria

50% = グループ活動、授業中の課題、出席、宿題、発表 (Participation in group work, classroom activities, attendance, homework assignments, presentations)

50% = 筆記試験、口頭試験 (Written tests and/or speaking tests)

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

There seems to be no complaint about the course, however, we find the best way to improve students' English.

【学生が準備すべき機器他】

Will be announced in the classroom

【Outline and objectives】

The goal of this course is to develop basic English oral and aural communication skills in a wide variety of real world situations, and emphasizing natural speech and vocabulary development.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

岡崎 真美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法 1 年：英語 29 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 1	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	第 1 回フィールドワーク準備	アンケート作成
第 4 回	第 1 回フィールドワーク	海外からの観光客にアンケートを実施
第 5 回	Unit 2 Texting & Driving	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 3 Texting & Driving	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 4 Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー

発行日：2019/5/1

第8回	Mid-Term Test	評価
第9回	Unit 5 Bringing Clean Water to the World through Charity: Water	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第10回	Unit 6 Bringing Clean Water to the World through Charity: Water	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第11回	Unit7 A Wave of Asian Immigrants	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第12回	Unit86 A Wave of Asian Immigrants	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション）プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第13回	春学期末試験	評価
第14回	春学期追試験・再試験	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットのDVDを前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの4. Getting in to Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたいうで）、4. Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、など）をはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施するので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじしするのて備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連したURLを紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
¥2400(税抜き)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、毎回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキヤニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

【その他の重要事項】

授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break and study English in journalism, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, devating, and by the fieldwork at Sensoji Temple in Asakusa.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

岡崎 真美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法 1 年：英語 29 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。（基礎的な単語を使用して）英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるように。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

DVD の視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回目	Unit 9	Unit8 の復習 Unit 7 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions Evaluation
第2回目	Unit 10	

第3回目	第1回フィールドワークの準備	Unit7 の Word Test Reading 8 Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork
第4回目	第1回フィールドワーク(浅草寺)	第1回フィールドワーク 海外からの観光客に異文化の視点から英語に世湯アンケート実施
第5回目	フィールドワーク結果発表会	フィールドワークのアンケート結果発表(っプレゼンテーション)
第6回目	Unit 11	Unit 10 word test Dictation shadowing comprehension tests

第7回目	Unit 12	Unit 11 Word Test Unit 10 Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第8回目	中間テスト	評価
第9回目	Unit 12	Unit 10 Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation Unit 11 Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Unit 11 Word TEst Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation Unit 11 の Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第10回目	Unit 13	
第11回目	Uni 13	
第12回目	Unit 1 3	
第13回目	秋学期期末試験	評価
第14回目	追試験・再試験	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000Talk から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3 Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
published by Seibido (成美堂) ISBN9784791960330 ￥2400+税

【参考書】

CBS News Break 4 (Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】

秋学期末テスト 40 %、シャドウイングテスト 20 %、単語テスト、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業に欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキヤニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー（中古品可）（ただし、CALL 教室の場合のみ）。

【その他の重要事項】

授業の前後、教室でご質問、ご相談を受け付けます。さらに、土曜日の午後、オフィスアワーとして、何でも受け付けます。特に、単語試験、小テストなどを欠席して追試験で受験したい方、各種資格試験に備えたい方、語学の履修相談などを受け付けます。

【Outline and objectives】

We are going to watch the CBS News Break 3 and study reading and listening English in Journalism, mainly by shadowing, reading comprehensions, expressing opinions, devating, and by the fieldwork at Sensoji temple in Asakusa.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

當麻 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 30 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの歴史や文化について読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】

英語の読解力、語彙力、聴解力、表現力を養う。また、アメリカの歴史や文化に関する知識を深める。アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、各章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当者を決めておらず、アトラダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての説明
2	Lesson 1	Pochahontas
3	Lesson 1	Pochahontas
4	Lesson 2	Celebrating July Fourth at the Statue of Liberty
5	Lesson 2	Celebrating July Fourth at the Statue of Liberty
6	Lesson 3	Babe Ruth
7	Lesson 3	Babe Ruth
8	Lesson 4	Marilyn Monroe
9	Lesson 4	Marilyn Monroe
10	Lesson 5	American History
11	Lesson 5	American History
12	Lesson 6	US Civil Rights Icon Dies at Age 92
13	期末試験	春学期に学習した範囲から出題
14	まとめ	レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、発表の準備、レポートの準備。詳細はガイダンスで説明する。

【テキスト（教科書）】

People and Culture in America, 秋葉勉他編注、英宝社

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

欠席が 3 回を超えた者は単位修得を認めない。

詳細はガイダンスで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことはが学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【Outline and objectives】

We read the American history and culture. We learn what happened in the United States of America from the 16th century to the 21st century.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

當麻 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 30 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの歴史や文化について読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】

英語の読解力、語彙力、聴解力、表現力を養う。また、アメリカの歴史や文化に関する知識を深める。アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、各章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当者を決めておらず、アトラダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の復習及び秋学期の授業についての説明
2	Lesson 7	This Is America
3	Lesson 7	This Is America
4	Lesson 8	Betty Friedan
5	Lesson 8	Betty Friedan
6	Lesson 9	Walt Disney
7	Lesson 9	Walt Disney
8	Lesson 10	Andy Warhol
9	Lesson 10	Andy Warhol
10	Lesson 11	This Is America
11	Lesson 11	This Is America
12	Lesson 12	Immigration Issues Shape the Experience of US Latinos
13	期末試験	秋学期に学習した範囲から出題
14	まとめ	レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、発表の準備、レポートの準備。詳細はガイダンスで説明する。

【テキスト（教科書）】

People and Culture in America, 秋葉勉他編注、英宝社

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

欠席が 3 回を超えた者は単位修得を認めない。

詳細はガイダンスで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことはが学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【Outline and objectives】

We read the American history and culture. We learn what happened in the United States of America from the 16th century to the 21st century.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I 2016 年度以前入学者

清水 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

American Vision が提供する DVD とテキストを学ぶことによって、アメリカ文化とアメリカの日常生活に映像と活字の双方から英語で迫る。学習内容は、Summer Baseball, Native American Culture, American Food, American English - Slang & Idioms, Cowboys, Disney Family Museum, Google innovation, Hollywood Love Stories, Elvis: King of Rock and Roll 等である。

加えて欧米文化理解の一環として、欧米文化理解を深める映像を前期と後期に一度は鑑賞したい。

【到達目標】

American Vision の DVD とテキストの学習によって、現代アメリカの文化と言語に対してより深く理解し、英語スキルの向上をはかり、国際感覚を磨くことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 2 回の授業で仕上げたい。まず重要な語句に注意しながら紹介となる英文を読んで理解し、次に DVD を見て、付随する練習問題の T/F Questions, リスニング による設問、Vocabulary Check の後、簡単な会話練習、そして最後に Extra Reading を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序/イントロダクション	本授業を履修する心構え、ルールとマナー
2	Unit 1	Summer Baseball 前半
3	Unit 1	Summer Baseball 後半
4	Unit 2	Native American Culture 前半
5	Unit 2	Native American Culture 後半
6	Unit 3	American Food 前半
7	Unit 3	American Food 後半
8	Unit 4	American English-Slang & Idioms 前半
9	Unit 4	American English-Slang & Idioms 後半
10	Unit 6	Cowboys 前半
11	Unit 6	Cowboys 後半
12	映像批判分析	映像対象については未定
13	映像批判分析 質疑応答	映像対象については未定 今学期学習したことの質疑応答+まとめテストの説明
14	授業内まとめのテストとその解説	内容は未定ならびに秘密事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。Reading の英文を読んでおく。

宿題:各チャプター内の練習問題

【テキスト（教科書）】

John S. Lander 著『*American Vision*/アメリカン・ヴィジョン』2015 年。ISBN978-4-255-15567-8 C1082 1,800 円+税

【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

【成績評価の方法と基準】

2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50 %) の総合判断による。60 点以上が合格点である。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn and explore in English a wide range of American culture through DVD-based text book *American Vision*. This textbook will help you understand both American culture and language: Summer Baseball, Native American Culture, American Food, American English - Slang & Idioms, Disney Family Museum, Google innovation, Hollywood Love Stories, Elvis: King of Rock and Roll.

We would also like to enjoy DVDs for understanding Western cultures both in the spring and the autumn term.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

清水 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

American Vision が提供する DVD とテキストを学ぶことによって、アメリカ文化とアメリカの日常生活に映像と活字の双方から英語で迫る。学習内容は、Summer Baseball, Native American Culture, American Food, American English - Slang & Idioms, Cowboys, Disney Family Museum, Google innovation, Hollywood Love Stories, Elvis: King of Rock and Roll 等である。

加えて欧米文化理解の一環として、欧米文化理解を深める映像を前期と後期に一度は鑑賞したい。

【到達目標】

American Vision の DVD とテキストの学習によって、現代アメリカの文化と言語に対してより深く理解し、英語スキルの向上をはかり、国際感覚を磨くことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 2 回の授業で仕上げたい。まず重要な語句に注意しながら紹介となる英文を読んで理解し、次に DVD を見て、付随する練習問題の T/F Questions, リスニング による設問、Vocabulary Check の後、簡単な会話練習、そして最後に Extra Reading を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序/イントロダクション	本授業を履修する心構え、ルールとマナー
2	Unit 7	Disney Family Museum 前半
3	Unit 7	Disney Family Museum 後半
4	Unit 8	Google Innovation 前半
5	Unit 8	Google Innovation 後半
6	Unit 9	The Blues 前半
7	Unit 9	The Blues 後半
8	Unit 11	American Superheroes 前半
9	Unit 11	American Superheroes 後半
10	Unit 15	Elvis: King of Rock and Roll 前半
11	Unit 15	Elvis: King of Rock and Roll 後半
12	映像批判分析	映像対象については未定
13	映像批判分析 質疑応答	映像対象については未定 今学期学習したことの質疑応答 + まとめテストの説明
14	授業内まとめのテストとその解説	内容は未定ならびに秘密事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。Reading の英文を読んでおく。

宿題:各チャプター内の練習問題

【テキスト（教科書）】

John S. Lander 著『*American Vision*/アメリカン・ヴィジョン』2015 年。ISBN978-4-255-15567-8 C1082 1,800 円 + 税

【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

【成績評価の方法と基準】

2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50 %) の総合判断による。60 点以上が合格点である。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn and explore in English a wide range of American culture through DVD-based text book *American Vision*. This textbook will help you understand both American culture and language: Summer Baseball, Native American Culture, American Food, American English - Slang & Idioms, Disney Family Museum, Google innovation, Hollywood Love Stories, Elvis: King of Rock and Roll.

We would also like to enjoy DVDs for understanding Western cultures both in the spring and the autumn term.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I 2016 年度以前入学者

大澤 岳彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

メディア英語の構成、語法をつかんだ上、リスニング力・語彙力の強化、記事の背景（世界情勢）が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

メディア英語の基本を理解することがこの授業の主眼である。英語を手段にして、メディアがいかなる情報を世界に発信しているのかを検討して欲しい。つまり、「英語を学ぶ」ことだけでなく、「英語から学ぶ」ことを目標としたい。受講生は教科書、映像素材、プリント等を通して、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方、テキストの紹介など
2	英語ニュースのきまり	英字新聞の読み方、テレビニュースの見方
3	Sanrio takes big risk with new strategy	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	New nine-year school category eyed	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Species going extinct up to 10,000 times faster than normal	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Mountain Day created as newest official public holiday	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Simplest animals may help cure brain disease	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
9	One-third of all people are now fat, and no country is immune: Study	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Superbug threat requires urgent world action: Scientist	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Japan neglecting wetlands: Ministry	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビニュースに継続してフォローしてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 4 刷 南雲堂
山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight" 金星堂

【参考書】

適宜、記事、資料プリントを配布する。
新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の提出物： 40%、授業への取組み： 20%、期末レポート： 40%
毎回の提出物、授業への取組み、期末レポートを考慮して総合的に評価します。
欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。学生が L 教室の機能を十二分に使い、積極的に演習できるような環境作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア LL 教室の機能を駆使した授業を展開する。

【Outline and objectives】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

大澤 岳彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

リスニング力・語彙力向上のほか、ニュースの核心（ニュースバリュー）を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期授業では、テレビニュースを積極的に活用してみたい。受講生は、自分の興味ある分野を選び、その関連するニュースについて検討することになる。メディア英語の理解には、背景知識や専門用語の理解など、不断の努力が必要である。積極的にリサーチすることを期待している。受講生は提出物、レポートなどを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、秋学期の進め方等	休暇中ニュースのフォローアップ
2	新聞、ニュース英語の共通点、相違点	英字新聞、テレビニュース英語の形式、構成の理解
3	WHO urged not to restrict e-cigarettes	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	Baby boomers becoming gray gang	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Feral cats causing extinction of unique Australian mammals	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Easier-to-use retro cellphones making a comeback	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
9	Tokyo to boost foreign-language signs, into ahead of 2020 Olympics	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Tea, wine stepped in shared history	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Evidence found of planet that hit Earth, made moon	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	Stunning pterosaur eggs found	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際の英字新聞を読むことにチャレンジする。各自興味あるテーマを選び、継続的にその関連記事をフォローしてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 4 刷 南雲堂
山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight" 金星堂

【参考書】

適宜、記事、資料プリントを配布する。
新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の提出物： 40%、授業への取組み： 20%、期末レポート： 40%
毎回の提出物、授業への取組み、期末レポートを考慮して総合的に評価します。欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。学生が LL 教室の機能を十二分に使い、積極的に演習できるような環境作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア LL 教室の機能を駆使した授業を展開する。

【Outline and objectives】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

竹内 晶子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界に流通する情報の中で、日本語だけを使って読めるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で書かれた膨大な情報に直接アクセスできるので、それをしない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりと覚えながら、実際の英語新聞記事を読んでいきます。また、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く訓練、記事をつかった聞き取りや発音の訓練なども行っています。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
- ・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
- ・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に類出する基本単語を習得する。
- ・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書を持ちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。リスニング後、全訳をノートに書いてくれることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。

授業時間中にはリスニング、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業紹介
2	unit 1-I: Can Babies Choose Between Good and Bad?	reading and listening
3	unit 1-II: Can Babies Choose Between Good and Bad?	reading and writing
4	unit 2-I: Half-Empty or Half-Full?	reading and listening
5	unit 2-II: Half-Empty or Half-Full?	reading and writing
6	unit 3-I: How to Pass a Test	reading and listening
7	unit 3-II: How to Pass a Test	reading and writing
8	Review Exam	units 1-3
9	unit 4-I: Soccer Brain Study	reading and listening
10	unit 4-II: Soccer Brain Study	reading and writing
11	unit 5-I: Google Glass for Firefighters	reading and listening
12	unit 5-II: Google Glass for Firefighters	reading and writing
13	unit 6: Women on Submarine	reading and listening
14	Review Exam	Units 4-6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト全訳をノートに書いてくれることが必須の予習です。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。英文ライティングの提出、リスニングの自習も課題となります。

【テキスト（教科書）】

『CNN Student News で学ぶ読解と作文演習 CNN Student News for Reading & Writing』朝日出版社、2018 年。

【参考書】

『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加（課題含む）： 40 パーセント
中間・期末テスト： 30 パーセントずつ

【学生の意見等からの気づき】

構文把握を丁寧に行います。

【その他の重要事項】

原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

【Outline and objectives】

Students will learn reading/listening/writing skills in English, using CNN Student News.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

竹内 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界に流通する情報の中で、日本語だけを使って読めるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で書かれた膨大な情報に直接アクセスできるのだから、それをしない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりおさえながら、実際の英語新聞記事を読んでいきます。また、読んだ記事を読み取りにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとめた意見を英語で論理的に書く訓練、記事をつかった聞き取りや発音の訓練なども行っています。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
- ・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
- ・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に類出する基本単語を習得する。
- ・書かれた内容を聞き取りにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書を持ちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。リスニング後、全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。

授業時間中にはリスニング、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7-I: iPhone Musician	reading and listening
2	Unit 7-II: iPhone Musician	reading and writing
3	Unit 8-I: Bringing People Back to Baseball	reading and listening
4	Unit 8-II: Bringing People Back to Baseball	reading and writing
5	Unit 9-I: Smell of Success	reading and listening
6	Unit 9-II: Smell of Success	reading and writing
7	Review Exam	Units 7-9
8	Unit 10-I: Octoapter	reading and listening
9	Unit 10-II: Octoapter	reading and writing
10	Unit 11-I: Staying Safe Online	reading and listening
11	Unit 11-II: Staying Safe Online	reading and writing
12	Unit 12-I: Air Pollution in Asian Cities	reading and listening
13	Unit 12-II: Air Pollution in Asian Cities	reading and writing
14	Review Exam	Units 10-12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。英文ライティングの提出、リスニングの自習も課題となります。

【テキスト（教科書）】

『CNN Student News で学ぶ読解と作文演習 CNN Student News for Reading & Writing』朝日出版社、2018 年。

【参考書】

『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加（課題含む）： 40 パーセント
中間・期末テスト： 30 パーセントずつ

【学生の意見等からの気づき】

構文把握を丁寧に行います。

【その他の重要事項】

原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

【Outline and objectives】

Students will learn reading/listening/writing skills in English, using CNN Student News.

LANe100LA

English 1 I2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I2016 年度以前入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。また、テレビ、インターネットなどのニュースにも十分に対応することができるように、リスニング能力も向上させます。

【到達目標】
速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
CD 付きの教材を使用し、リスニングの課題を出します。授業においては、内容の精読に加えて、大意を把握する速読を組み合わせます。また、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を解説し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	第1課	海外留学をめぐる議論
3	第1課	海外留学に対する各自の意見
4	第2課	原子力発電をめぐる議論
5	第2課	エネルギーに対する各自の意見
6	第3課	移民流入をめぐる議論
7	第3課	移民流入に対する各自の意見
8	第4課	セイフティネットをめぐる議論
9	第4課	セイフティネットに対する各自の意見
10	第5課	地球温暖化をめぐる議論
11	第5課	地球温暖化に対する各自の意見
12	第6課	男女雇用均等についての議論
13	第6課	男女雇用均等に対する各自の意見
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの英文を必ず毎回事前に読んでおいてください。また、リスニングの課題にも取り組むてください。

【テキスト（教科書）】
Michael Hood, Think Smart（金星堂）
その他、適宜プリントを使用します。

【参考書】
その都度授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、課題の提出 10 %
試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は国内研究のため授業を担当していません。

【Outline and objectives】
This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare studentst to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

LANe100LA

English 1 II2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II2016 年度以前入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期と同様です。

【到達目標】
春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
春学期の内容に加えて、章ごとのテーマに対して、各自英語で意見を表現してもらうため、パラグラフ・ライティング作業を組み合わせます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	第7課	教育についての議論
3	第7課	教育の役割に対する各自の意見
4	第8課	食品添加物についての議論
5	第8課	食品添加物の表示に対する各自の意見
6	第9課	デジタル社会の行方についての議論
7	第9課	デジタル社会のマナーに対する各自の意見
8	第10課	能力給についての議論
9	第10課	能力給に対する各自の意見
10	第11課	アメリカ軍基地についての議論
11	第11課	アメリカ軍基地に対する各自の意見
12	第12課	税制度についての議論
13	第12課	税金に対する各自の意見
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。各章ごとのリスニングの課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】
春学期と同様です。

【参考書】
適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、課題の提出 10 %
試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は国内研究のため授業を担当していません。

【Outline and objectives】
This course aims to improve reading and writing skills, and to prepare students to develop critical thinking ability through widely ranged English texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

大和久 悌一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

【到達目標】

- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていく。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱う。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Chapter 1	Chapter 1 Washoku on the rise 和食が人気に（精読）
3	Chapter 1	Chapter 1 Washoku on the rise 和食が人気に （再読、リスニング、質疑応答）
4	Chapter 2	Chapter 2 Female android helps men become fashionistas 女性型アンドロイドが男性をファッションistaに（精読）
5	Chapter 2	Chapter 2 Female android helps men become fashionistas 女性型アンドロイドが男性をファッションistaに（再読、リスニング、質疑応答）
6	Chapter 3	Chapter 3 Quarter of high schoolers net-dependent: study 高校生の 4 分の 1 がネット依存（精読）
7	Chapter 3	Chapter 3 Quarter of high schoolers net-dependent: study 高校生の 4 分の 1 がネット依存（再読、リスニング、質疑応答）
8	Chapter 4	Chapter 4 Japan local products 日本の地産品を世界へ（精読）
9	Chapter 4	Chapter 4 Japan local products 日本の地産品を世界へ（再読、リスニング、質疑応答）
10	Chapter 5	Chapter 5 Hachiko finally reunited with master ついに飼い主に会えたハチ公（精読）
11	Chapter 5	Chapter 5 Hachiko finally reunited with master ついに飼い主に会えたハチ公（再読、リスニング、質疑応答）
12	Chapter 6	Chapter 6 Hi-tech handrail aims to ease passage for the elderly 高齢者のてすり（精読）
13	Chapter 6	Chapter 6 Hi-tech handrail aims to ease passage for the elderly 高齢者のてすり（再読、リスニング、質疑応答）

14

Chapter 7

Chapter 7 26-year-old designs Honda's new sports car 26 歳がスポーツカーをデザイン（精読）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語については授業後に復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English 一日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017 年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験 40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only in classroom but also everyday life.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

大和久 悌一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

【到達目標】

- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていく。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱う。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Chapter 8	Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality 客室乗務員のおもてなしコンテスト（精読）
3	Chapter 8	Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality 客室乗務員のおもてなしコンテスト（再読、リスニング、質疑応答）
4	Chapter 9	Chapter 9 Japan unveils rescue robot 日本の災害救助ロボット（精読）
5	Chapter 9	Chapter 9 Japan unveils rescue robot 日本の災害救助ロボット（再読、リスニング、質疑応答）
6	Chapter 10	Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN 国連でお茶会（精読）
7	Chapter 10	Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN 国連でお茶会（再読、リスニング、質疑応答）
8	Chapter 11	Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests 全国の労働者にストレステスト（精読）
9	Chapter 11	Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests 全国の労働者にストレステスト（再読、リスニング、質疑応答）
10	Chapter 12	Chapter 12 New high-rise to tower over 都心に新構想のビルの発表（精読）
11	Chapter 12	Chapter 12 New high-rise to tower over 都心に新構想のビルの発表（再読、リスニング、質疑応答）
12	Chapter 13	Chapter 13 Historic festival kicks off In Nagasaki 長崎のおくんち、始まる（精読）
13	Chapter 13	Chapter 13 Historic festival kicks off In Nagasaki 長崎のおくんち、始まる（再読、リスニング、質疑応答）

14 Chapter 14

Chapter 14 UN Women opens Japan office 国連女性事務所を東京に開設（精読、リスニング、質疑応答）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に該当ページについては予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English 一日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017 年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験 40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only in classroom but also everyday life.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I 2016 年度以前入学者

吉川 太恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能統合型の総合英語教材をテキストブックに使用する。日本の大学生にとって身近な話題から社会問題まで扱った英文を読み、それぞれのユニットのタイトルについて、どの程度同意するか、タスク (listening, reading, writing, speaking) を通じて、自分の立ち位置を見極め、表現する力を身につけることを目指す。

メインのテキストブック、サブ・テキストブックの *A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* に加えて、新聞、雑誌、ウェブサイトからの記事を取り上げることで、時事問題などについての理解を深め、語彙力の増強を図る。

【到達目標】

英語の文章を正確に読解すること、ある程度のスピードで英文を英語のままで理解するスキルを身につけることを目指す。また、学生は **writing** や **speaking** の技能を他の技能と共に総合的に向上させることができるようになる。学期末には、学生は今日の話題について自分の意見を表現する力を身につけることで、英語によるコミュニケーション能力を高めることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は学生がテキストブックに記載されている QR コードを用いた問題を、スマートフォンを用いて予習してきたことを前提に行う。基本的に 1 ユニットの 2 回の授業でカバーする。

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、毎回アクションペーパーの提出を求めることで理解度と、教師との意思の疎通をはかる。各ユニットの終わりには、学生の意見を問う設問があり、次の授業までの宿題として提出を求める場合や、プレゼンテーションの題材に用いるようにする。また、単語力増強のために、*A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* をサブ・テキストブックとして使用する。つぎに、隔週毎にリスニング力をつけるために語学教材ビデオを見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の進め方、出欠の取り扱い、テキストブック及び補助教材について、その他の注意点について。
2	Unit 1-1	We should keep early hours.(1); Step 0 - Step 9
3	Unit 1-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	We should keep early hours.(2); Step 10, Optional Step
4	Unit 2-1	College students should live alone.(1); Step 0 - Step 9
5	Unit 2-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	College students should live alone.(2); Step 10, Optional Step
6	Unit 3-1	Club activities should be banned at schools. (1); Step 0 - Step 9
7	Unit 3-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	Club activities should be banned at schools.(2); Step 10, Optional Step
8	Unit 4-1	Study abroad experience should be a requirement for university graduation.(1); Step 0 - Step 9
9	Unit 4-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	Study abroad experience should be a requirement for university graduation.(2); Step 10, Optional Step
10	Unit 5-1	College students should study foreign languages more seriously in addition to English. (1); Step 0 - Step 9

1	Unit 5-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	College students should study foreign languages more seriously in addition to English.(2); Step 10, Optional Step
12	Unit 6-1	College students should choose an occupation that suits them.(1); Step 0 - Step 9
13	Unit 6-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	College students should choose an occupation that suits them.(2); Step 10, Optional Step
14	期末試験	テキストブック・サブ・テキストブック、配布したプリントから出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストブックには各所に QR コードが載っていて、学生はスマートフォンからアクセスして、ディクテーションや朗読を聞くことができるようになっている。

予習として授業開始までに、QR コードにスマートフォンをかざして、本文に関連した 3 つの英文を聞き取って書き取ることを義務付ける。サブ・テキストブックの予習も必須である。

【テキスト（教科書）】

1. *How Much Do You Agree? Evolving Opinions*, KOBAYASHI Toshihiko/Jeremie BOUCHARD, 三修社、2019 年、2000 円
2. *A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes*, 佐藤誠司、南雲堂、2018 年、700 円

【参考書】

テキストブックの音声ダウンロードサイト：

<http://sanshusha.co.jp/onsei/isbn/9784384334869/>
(参考まで)

『一億人の英文法』、大西泰斗、ポール・マクベイ、東進ブックス、2013 年、1800 円

『英語ライティング・ルールブック：正しく伝えるための文法、語法・句読法』、ディヴィッド・セイン、株式会社 DHC、2011 年、1800 円

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%(授業態度、毎回の予習状況、提出物や小テスト、クラスでの発表)を重要視し、学期末試験 (40%) と合わせて総合評価する。成績評価は、100 点満点とした場合、60 点以上が合格となる。

必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上欠席した場合、単位を与えない。授業時間から 30 分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなる。また、15 分以上の遅刻 2 回を欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、英語の辞書あるいは電子辞書。

【その他の重要事項】

教師から指示があった場合を除き、授業中にスマートフォンを辞書代わりに使用することを禁止する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to express themselves in English effectively through four skills (reading, writing, listening and speaking). The textbook will enable the students to discover certain topics which deal with comprehensive subjects such as college students' life and various issues about the society.

In addition to the main textbook and the book entitled *A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes*, articles from newspapers, magazines and web sites will be used as other references for the students to enhance and explore their understanding on current topics as well as to widen their vocabularies.

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
English 1 II	2016 年度以前入学者
吉川 太恵子	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、4 技能統合型の総合英語教材をテキストブックに使用する。日本の大学生にとって身近な話題から社会問題まで扱った英文を読み、それぞれのユニットのタイトルについて、どの程度同意するか、タスク (reading, writing, listening, speaking) を通じて、自分の立ち位置を見極め、英語で表現する力を身につけることを目指す。メインのテキストブックに加えて、サブ・テキストブック及び新聞、雑誌、ウェブサイトからの記事を取り上げることで、時事問題などについての理解を深め、語彙力の増強を図る。

【到達目標】

英語の文章を正確に読解すること、ある程度のスピードで英文を英語のままで理解するスキルを身につけることを目指す。また、学生は writing や speaking の技能を他の技能と共に総合的に向上させることが出来るようになる。学期末には、学生は今日的な話題について、自分の意見を表現する力を身につけることで、英語によるコミュニケーション能力を高めることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は学生がテキストブックに記載されている QR コードを用いた問題を予習をしてきたことを前提に行う。基本的に 1 ユニットの 2 回の授業でカバーする。ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れ、毎回アクションペーパーの提出を求めることで理解度と、教師との意思疎通をはかる。各ユニットの終わりには、学生の意見を問う設問があり、次の授業までの宿題として提出を求める場合や、プレゼンテーションの題材に用いるようにする。また、単語力の増強のために、*A shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* をサブ・テキストブックと併用して使用する。つぎに、隔週毎にリスニング力をつけるために語学教材ビデオを見る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7-1	We should consider important rules and manners for online communication.(1); Step 0 - Step 9
2	Unit 7-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	We should consider important rules and manners for online communication.(2); Step 10, Optional Step
3	Unit 8-1	More Japanese companies should use English as their main language of business.(1); Step 0 - Step 9
4	Unit 8-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	More Japanese companies should use English as their main language of business.(2); Step 10, Optional Step
5	Unit 9-1	School and company uniforms should be abolished.(1); Step 0 - Step 9
6	Unit 9-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	School and company uniforms should be abolished.(2); Step 10, Optional Step
7	Unit 10-1	We should promote private lodging more.(1); Step 0 - Step 9
8	Unit 10-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	We should promote private lodging more.(2); Step 10, Optional Step
9	Unit 11-1	We should limit the number of tourists from abroad.(1); Step 0 - Step 9
10	Unit 11-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	We should limit the number of tourists from abroad.(2); Step 10, Optional Step

11	Unit 12-1	Tobacco should become an illegal drug.(1); Step 0 - Step 9
12	Unit 12-2 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>	Tobacco should become an illegal drug.(2); Step 10, Optional Step
13	Unit 13	We should not let elementary school kids use smartphones.(1); Step 0 - Step 9
14	期末試験	テキストブック、サブ・テキストブック、配布したプリントから出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストブックには各所に QR コードが載っていて、学生はスマートフォンからアクセスして、ディクテーションや朗読を聞くことができるようになっている。

予習として授業開始前までに、QR コードにスマートフォンをかざして、本文に関連した 3 つの英文を聞き取って書き取ることを義務付ける。

【テキスト（教科書）】

- How Much Do You Agree? Evolving Opinions, KOBAYASHI Toshihiko/Jeremie BOUCHARD, 三修社、2019 年、2000 円
- A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes* (5 分間 日常基本英単語・熟語 1000)、佐藤誠司、南雲堂、2018 年、700 円

【参考書】

テキストブックの音声ダウンロードサイト：

<http://sanshusha.co.jp/onsei/isbn/9784384334869/>
(参考まで)

『一億人の英文法』、大西泰斗、ポール・マクベイ、東進ブックス、2013 年、1800 円

『英語ライティング・ルールブック：正しく伝えるための文法・語法・句読法』、ディヴィッド・セイン、株式会社 DHC、2011 年、1800 円

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%(授業態度、毎回の予習状況、提出物や小テスト) を重要視し、学期末試験 (40%) と合わせて総合評価する。成績評価は、100 点満点とした場合、60 点以上が合格となる。

必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上欠席した場合、たとえ期末試験を受けた場合でも単位を与えない。授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなる。また、15 分以上の遅刻 2 回を欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞やネットなどからの記事を適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、英語の辞書あるいは電子辞書

【その他の重要事項】

教師からの指示があった場合を除き、授業中に携帯電話を辞書代わりに使用することを禁止する。

【Outline and objectives】

Following the Spring Semester, the same textbook which deals with comprehensive subjects such as college students' life and various issues about the society will be used. The aim of the course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to express themselves in English effectively through four skills (reading, writing, listening and speaking).

In addition to the main textbook and the book entitled *A shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes*, articles from newspapers, magazines and web sites will be used as other references for the students to enhance and explore their understanding on current topics as well as to widen their vocabularies.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I 2016 年度以前入学者

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® など資格試験の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニング、ライティングに関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

超高齢社会、ロボットの進化と仕事の変化、大学と人種差別などに関する、世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは、各 Unit がニュースのスク립トと内容把握を目的とした問題から成っている。ニュースを聞き穴埋めをしたうえで、ある程度のまとまりで一人ずつあてて基本的にはスク립トを逐語訳してもらい、確認が必要な場合はこちらから質問をし、問題もあてて答えてもらう形式で進めていく。それに加え、毎回授業時間の一部を割いて、TOEIC® の対策問題集を使い、リスニングとライティングの演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	テキスト Unit 1 前半 + 資格試験問題演習	"Super-Aged" Societies のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
3	テキスト Unit 1 後半 + 資格試験問題演習	"Super-Aged" Societies の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
4	テキスト Unit 2 前半 + 資格試験問題演習	Toward Living on the Moon のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
5	テキスト Unit 2 後半 + 資格試験問題演習	Toward Living on the Moon の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
6	テキスト Unit 3 前半 + 資格試験問題演習	Dangerous Proposal のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
7	テキスト Unit 3 後半 + 資格試験問題演習	Dangerous Proposal の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
8	テキスト Unit 4 前半 + 資格試験問題演習	Automation Threatens Jobs のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
9	テキスト Unit 4 後半 + 資格試験問題演習	Automation Threatens Jobs の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
10	テキスト Unit 5 前半 + 資格試験問題演習	Harvard Accused of Racial Bias のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング

11	テキスト Unit 5 後半 + 資格試験問題演習	Harvard Accused of Racial Bias の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
12	テキスト Unit 6 前半 + 資格試験問題演習	Thought-Controlled Artificial Arms のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
13	テキスト Unit 6 後半 + 資格試験問題演習	Thought-Controlled Artificial Arms の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業についていくのが不安な場合はテキストの予習をしてください。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。この復習は必須とします。

【テキスト（教科書）】

CNN Short News Vol. 1, Seisuke Yasunami 他著, (朝日出版社, 2019 年), ¥1,200 + tax

New Steps to Success in the TOEIC® Test Listening Workbook 2, David E. Bramley 他著, (松伯社, 2012 年), ¥1,100 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 (70%) と平常点 (30%) とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てても、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるように、リスニングのテキストを副教材に選びました。

【Outline and objectives】

This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC[®] など資格試験の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニング、ライティングに関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

地球温暖化、環境汚染、最新技術による義肢の作成などに関する、世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは、各 Unit がニュースのスク립トと内容把握を目的とした問題から成っている。ニュースを聞き穴埋めをしたうえで、ある程度のまとまりで一人ずつあてて基本的にはスク립トを逐語訳してもらい、確認が必要な場合はこちらから質問をし、問題もあてて答えてもらう形式で進めていく。それに加え、毎回授業時間の一部を割いて、TOEIC[®] の対策問題集を使い、リスニングとライティングの演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	テキスト Unit 7 前半 + 資格試験問題演習	Guide to Modern Manners のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
3	テキスト Unit 7 後半 + 資格試験問題演習	Guide to Modern Manners の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
4	テキスト Unit 8 前半 + 資格試験問題演習	Ancient Cave Art in Indonesia のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
5	テキスト Unit 8 後半 + 資格試験問題演習	Ancient Cave Art in Indonesia の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
6	テキスト Unit 9 前半 + 資格試験問題演習	Heat Threat in the Middle East のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
7	テキスト Unit 9 後半 + 資格試験問題演習	Heat Threat in the Middle East の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
8	テキスト Unit 10 前半 + 資格試験問題演習	Growing Impact of Plastic on Seabirds のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
9	テキスト Unit 10 後半 + 資格試験問題演習	Growing Impact of Plastic on Seabirds の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング

10	テキスト Unit 11 前半 + 資格試験問題演習	China's Life-Shortening Air のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
11	テキスト Unit 11 後半 + 資格試験問題演習	China's Life-Shortening Air の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
12	テキスト Unit 12 前半 + 資格試験問題演習	Prosthetic Limbs From 3-D Printers のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
13	テキスト Unit 12 後半 + 資格試験問題演習	Prosthetic Limbs From 3-D Printers の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業についていくのが不安な場合はテキストの予習をしてください。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。この復習は必須とします。

【テキスト（教科書）】

CNN Short News Vol. 1, Seisuke Yasunami 他著, (朝日出版社, 2019 年), ¥1,200 + tax

New Steps to Success in the TOEIC[®] Test Listening Workbook 2, David E. Bramley 他著, (松伯社, 2012 年), ¥1,100 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 (70%) と平常点 (30%) とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てても、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるように、リスニングのテキストを副教材に選びました。

【Outline and objectives】

This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC[®] examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

菊池 かおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の記事やプレゼンテーションを日本語への逐語訳というステップを経なくとも、すばやく理解できる力を養います。そのために、パラグラフやエッセイ、そしてプレゼンテーションの構造に留意しながら論旨を把握し、必要な情報を素早く入手することに重点を置きます。また、得られ情報をもとに多角的視点から分析し、批判的思考力を養いながら、自分の意見を論理的に英語で書く練習も行います。

【到達目標】

未知語をすべて調べなくても、大意を把握できる。そして、得られた情報を鵜呑みにすることなく、内容を咀嚼するための論理的思考力と批判的思考力を身に付ける。さらに、その内容について、自分の意見を明確に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画は進捗状況によって柔軟に変化しますが、基本的には Reading と Watching、そして Writing を組み合わせながら進める実践演習型の授業です。授業では、適宜、グループワークやライティングを行い、リアクションペーパーの提出もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容、方針、成績評価などを説明する
2	タイトルとは？	タイトルからトピックと大まかな内容を把握する
3	パラグラフの構造を学ぶ（1）	パラグラフの構成を理解し、ヘディングをつける
4	パラグラフの構造を学ぶ（2）	パラグラフの構成を理解し、ライティングを行う
5	序論と結論の役割を学ぶ（1）	序論と結論から本文の内容を把握する
6	序論と結論の役割を学ぶ（2）	プレゼンテーションの導入を見て、内容を把握する
7	中間テスト	ここまで学んだことの理解度をチェックする
8	エッセイの構造を分析する（1）	エッセイの構造を理解した上で読解する
9	スキミングとスキヤニング（1）	スキミングとスキヤニングを理解する
10	スキミングとスキヤニング（2）	スキミングとスキヤニングの実践演習をする
11	リスニング演習と記事の読解（1）	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
12	エッセイの構造を分析する（2）	エッセイの構造を理解した上で要約する
13	リスニング演習と記事の読解（2）	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
14	期末テスト	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に配布するプリントの予習と復習。それ以外の課題がある場合は、授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業中に、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・課題・小テストなど） 40%・中間・期末テスト 60%
欠席が4回以上になった者は単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

ペア／グループワークを活用して、受講者が互いに教え合う環境、発言や質問のしやすい環境づくりに努めます。

【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their reading and listening skills. The course also aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

菊池 かおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の記事やプレゼンテーションを日本語への逐語訳というステップを経なくとも、すばやく理解することのできる力を養います。そのため、前期に学んだことを踏まえて、様々なエッセイ形式に留意しながら論旨を把握し、必要な情報を素早く入手することに重点を置きます。また、前期に引き続き、情報を多角的観点から分析し、批判的思考力を養いながら、自分の意見を論理的に英語で書く練習も行います。

【到達目標】

ことなるエッセイ形式に留意しながら素早く大意を把握できる。そして、得られた情報を鵜呑みにすることなく、内容を咀嚼するための論理的思考力と批判的思考力を身に着ける。さらに、その内容についての自分の意見を論理的に表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画は進捗状況によって柔軟に変化しますが、基本的には Reading と Watching、そして Writing を組み合わせながら進める実践演習型の授業です。授業では、適宜、グループワークやライティングを行い、リアクションペーパーの提出もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容、方針、成績評価などを説明する
2	エッセイの基本的な構造	基本的な構造について考える
3	Agree and Disagree (1)	Agree and Disagree のエッセイ形式を理解する
4	Agree and Disagree (2)	Agree and Disagree のエッセイ形式を理解する
5	リスニング演習と記事の読解 (1)	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
6	リスニング演習と記事の読解 (2)	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
7	中間テスト	ここまで学んだことの理解度をチェックする
8	Compare and Contrast(1)	Compare and Contrast のエッセイ形式を理解する
9	Compare and Contrast (2)	Compare and Contrast のエッセイ形式を理解する
10	リスニング演習と記事の読解 (3)	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
11	リスニング演習と記事の読解 (4)	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
12	Problem and Solution (1)	Problem and Solution のエッセイ形式を理解する
13	Problem and Solution (2)	Problem and Solution のエッセイ形式を理解する
14	期末テスト	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に配布するプリントの予習と復習。それ以外の課題がある場合は、授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業中に、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・課題・小テストなど）40%・中間・期末テスト 60%
欠席が4回以上になった者は単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

ペア／グループワークを活用して、受講者が互いに教え合う環境、発言や質問のしやすい環境づくりに努めます。

【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their reading and listening skills. The course also aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

本間 章郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、複数のパラグラフからなる英語の文章を的確に読むことのできる能力の育成を目指す。授業では英字新聞を中心とする、時事英語の教科書を使用します。前後のパラグラフの関連性を意識して、重要な情報を的確につかみ取り、内容を把握できるようになることを意識してください。同時に時事英語を理解する上で必要な単語や語句を覚えていきます。自分で英語の勉強を進める上で、英字新聞に限らず、さまざまなメディアの英語に接すると思いますが、授業で学んだ単語・語句、あるいは表現などを活用できるようにすることを期待します。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の技能の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 時事英語に頼り出す重要な単語・語句を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、英作文を提出してもらいます。また、数回、小テストをおこないます。小テストはリスニング、あるいは語彙の理解などを問う問題になります。授業の進捗と受講者の教科書の内容への理解に応じて、適宜、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
第 2 回	Chapter 1: 国内政治	問題演習及び読解
第 3 回	Chapter 1: 国内政治	問題演習及びリスニング
第 4 回	Chapter 2: 経済・ビジネス (1)	問題演習及び読解
第 5 回	Chapter 2: 経済・ビジネス (1)	問題演習及びリスニング
第 6 回	Chapter 3: 経済・ビジネス (2)	問題演習及び読解
第 7 回	Chapter 3: 経済・ビジネス (2)	問題演習及びリスニング
第 8 回	Chapter 4: 外交・国際会議	問題演習及び読解
第 9 回	Chapter 4: 外交・国際会議	問題演習及びリスニング
第 10 回	Chapter 5: 軍事	問題演習及び読解
第 11 回	Chapter 5: 軍事	問題演習及びリスニング
第 12 回	Chapter 6: 海外政治情勢	問題演習及び読解
第 13 回	Chapter 6: 海外政治情勢	問題演習及びリスニング
第 14 回	学期末試験	教科書の内容についてのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。該当する英文を読み、わからない単語・表現を調べて内容を把握し、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

English for Mass Communication 2019 Edition (『時事英語の総合演習 — 2019 年度版』)
堀江洋文他著 朝日出版社 2019 年 1600 円

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト (60%)、英作文 (20%)、小テスト (20%) から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) と (4) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から判断します。

なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位習得を認めないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度、新規に担当したのでアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to various contemporary issues of Japan and the World through news reports in English. The news topics help students realize how critical various problems facing Japan and the world are. By reading the news articles, students will keep in mind the logical relationships between paragraphs and get proper understanding of them. And students have to memorize frequently used words and phrases in English news reports. These words and phrases related with important topics are helpful for students willing to read or watch more news reports in English. I hope students can improve their English skills and get a better sense of various contemporary issues.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

本間 章郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、効果的な英語のリーディングのストラテジーを中心に学習します。また教科書のトピックに関して自分の意見を英語で話したり、書いたりすることも学びます。

【到達目標】

This course aims at two goals: 1) to learn reading strategies such as skimming, scanning, summarizing, paraphrasing or inferencing; and 2) to learn and practice summary writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- 1) You will learn reading skills, such as skimming, scanning, summarizing or paraphrasing.
- 2) You will develop your English vocabulary.
- 3) You will discuss the topic of each Chapter with your classmates.
- 4) You will have a lot of pair work and group work in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction/Setting Goals/Self-introduction	I will introduce this course. You will set your goals for this semester and this class. You will write your goals and self-introduction.
2	Self-Introduction	You will introduce yourself to your classmates. Chapter 2 You will learn about political correctness in Chapter 2.
3	Chapter 2	You will continue to study Chapter 2.
4	Chapter 3	You will learn the effect of your attitudes on your career.
5	Chapter 3	You will continue to study Chapter 3.
6	Chapter 4	You will learn diversity in human senses and think of the way to deal with diversity.
7	Chapter 4	You will continue to study Chapter 4.
8	Chapter 5	You will learn about creative thinking.
9	Chapter 5	You will continue to study Chapter 5.
10	Chapter 7	You will learn about typical American students' diet and think of wellness.
11	Chapter 7	You will continue to study Chapter 7.
12	Chapter 11	You will learn how you should be skillful readers.
13	Chapter 11 Review	You will continue to study Chapter 11.
14	Self-Reflection	You will reflect on your academic performance and set your goals for the next year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read every week reading assignment and look up words and phrases you don't know in the dictionary
- 2) to prepare for quizzes every week
- 3) to watch or listen to an English program regularly
- 4) to practice overshadowing text every week
- 5) to do assignments, submit them, and meet the deadline

【テキスト（教科書）】

Title: Select Readings (2nd Edition). Upper-Intermediate
Authors: Linder Lee, and Jean Bernard
Publisher: Oxford University Press
Publishing Year: 2011

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), weekly quizzes (10%), assignments (10%), and final examinations (60%)

*If you have four absences per semester without permission, do not make a presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Most of my students who took this course seemed to be satisfied with this class. I would like to make this course more effective for students' English learning.

【学生が準備すべき機器他】

Hosei's Educational Online Learning System (H'etude)

【その他の重要事項】

You are expected to participate in this class actively. Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class.

【Outline and objectives】

You will mainly learn effective English reading in this class. You will express (speak and write) your thought of topics in the textbook in English and exchange them with your classmates. This course aims to enhance your English holistically.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

中和 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。

使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15 の切り口から概観したエッセイ集である。大学生、とりわけ文学部生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができる。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。
講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。
音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。
毎回の授業の最後に、本文の理解を深めるためのリアクション・ペーパー（英語）を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習復習の仕方、辞書の活用法、などについて Unit 1 の冒頭を用いて説明する。
2	Unit 1 The Concept of Beauty 「美」の概念 ＜前半＞	第 1～3 パラグラフ、および練習問題
3	Unit 1 ＜後半＞	第 4～7 パラグラフ、および練習問題
4	Unit 2 Greek Mythology -- Stories of Gods and Humans ギリシア神話—— 神々と人間の物語 ＜前半＞	第 1～3 パラグラフ、および練習問題
5	Unit 2 ＜後半＞	第 4～7 パラグラフ、および練習問題
6	Unit 3 The Bible -- Mainstay of Christianity 聖書——キリスト教 の支柱 ＜前半＞	第 1～4 パラグラフ、および練習問題
7	Unit 3 ＜後半＞	第 5～6 パラグラフ、および練習問題
8	復習	前半：Unit 1～3 の復習、補足 後半：Unit 1～3 の復習試験
9	Unit 4 Renaissance -- Transcending Cultural Movements ルネサンス——ジャ ンルを横断するムーブ メント ＜前半＞	第 1～4 パラグラフ、および練習問題

10	Unit 4 ＜後半＞	第 5～6 パラグラフ、および練習問題
11	Unit 5 The Structure of Fictional Literature 物語の構造 ＜前半＞	第 1～3 パラグラフ、および練習問題
12	Unit 5 ＜後半＞	第 4～7 パラグラフ、および練習問題
13	Unit 6 The Theater and Acting / Unit 8 The Rise of Cities（各自ど ちらかを選択）	各自のレポートに基づく、グループ ワーク
14	復習	前半：Unit 4～6, 8 の復習、補足 後半：Unit 4, 5 の復習試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須である。
教科書の各 Unit を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や章末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。
予習用ワークシート（要約、作文などの課題）が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

Christopher Belton / 小田島恒志, *TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity*, Kinseido, 2017. [『多元文化論エッセイ 響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】

大学～一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。
毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー計 15%、提出物 10 %）および復習試験（第 1 回 45 %、第 2 回 30 %）の成績の総合評価。
4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の「学び合い」の時間を設けることが重要であるとわかったので、ペア／グループワークを効果的にとりいれたい。
質問・発言のしやすい環境を作る。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening and summarizing skills. Using a textbook which discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings. They will also attain knowledge necessary for their university studies.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

中和 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。

使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15 の切り口から概観したエッセイ集である。大学生、とりわけ文学部生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができるだろう。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。
講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。
音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。
毎回の授業の最後に、理解を深めるためのリアクションペーパー（英語）を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7 The English Language	全文、および練習問題
2	英語の変遷 Unit 9 Trusting in Recorded History 歴史という記録の信頼性 ＜前半＞	第 1～3 段落、および練習問題
3	Unit 9 ＜後半＞	第 4～8 段落、および練習問題
4	Unit 11 How Democracy Works 民主主義という制度＜前半＞	第 1～2 段落、および練習問題
5	Unit 11 ＜後半＞	第 3～6 段落、および練習問題
6	復習	前半：Unit 7, 9, 11 の復習、補足 後半：Unit 7, 9, 11 の復習試験
7	Unit 12 Marriage and the State 結婚と国家＜前半＞	第 1～3 段落、および練習問題
8	Unit 12＜後半＞	第 4～5 段落、および練習問題
9	Unit 13 The Meaning of Prayers 「祈り」のもつ意味＜前半＞	第 1～3 段落、および練習問題
10	Unit 13 ＜後半＞	第 4～5 段落、および練習問題
11	Unit 15 The Importance of Discipline 「しつけ＝規律」の重要性 ＜前半＞	第 1～3 段落、および練習問題
12	Unit 15 ＜後半＞	第 4～6 段落、および練習問題
13	復習	前半：Unit 12, 13, 15 の復習、補足 後半：Unit 12, 13, 15 の復習試験

14	・ Unit 10 Battles on Board Games 盤上の戦い——チェス／将棋／チャトランガ … ・ Unit 14 Mankind and Laughter 笑い人間 (各自どちらかを選択)	各自のレポートに基づく、グループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の各 Unit を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所を印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や巻末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

補助教材については、本文の予習のほか、予習用ワークシート（要約、作文などの課題）が課される場合がある。

【テキスト（教科書）】

Christopher Belton/小田島恒志, TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity, Kinseido, 2017. [「多元文化論エッセイ——響き合う文化たち」金星堂]

【参考書】

大学～一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。
毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー計 12%、提出物 10 %）および復習試験（第 1 回 39 %、第 2 回 39 %）の成績の総合評価。
4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

ペア／グループワークを活用して、受講者が互いに教え合う環境、発言や質問のしやすい環境を作る。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening and summarizing skills. Using a textbook which discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings. They will also attain knowledge necessary for their university studies.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I 2016 年度以前入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

世界のニュースを正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。基本文法事項や辞書の使い方についても理解を深め、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを中心に進める。扱うジャンルは社会、文化、政治経済、環境、スポーツなど様々だが、関連する情報やデータをネットで探して読み取る作業も行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の解説とプレテスト
第 2 回	Unit 1: Japan's demographic sweet spot	Reading & Exercise
第 3 回	Unit 2: The crisis in Pakistan's schools	Reading & Exercise
第 4 回	Unit 3: Showing Spine to the Censors, a Bookstore Flourishes	Reading & Exercise
第 5 回	Unit 4: Easier Taught Than Done? Most Popular Class Tackles Happiness	Reading & Exercise
第 6 回	Unit 5: The Case for 'American First' Economics	Reading & Exercise
第 7 回	Unit 7: Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control	Reading & Exercise
第 8 回	Unit 8: Sumo gender controversy flares anew	Reading & Exercise
第 9 回	Unit 9: How to Make A.I. Human-Friendly	Reading & Exercise
第 10 回	Unit 10: Hollywood's protest problem	Reading & Exercise
第 11 回	Unit 11: A Linguistic Melting Pot That Can Still Boil Over	Reading & Exercise
第 12 回	Unit 12: The Star who brought the cosmos within reach	Reading & Exercise
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめとポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

English through the News Media — 2019 Edition — (Asahi Press, 2019)

【参考書】

[i]Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition [i](Cambridge U. P., 2010)

[i]Practical English Usage [i](Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。チャンクリーディングと音読を中心に行ったが、その効果を実感し、読むスピードや発音などに変化を感じたというコメントが寄せられた。また、毎週授業の最初に行った洋楽のクイズは楽しんで取り組めたようである。授業の進め方が早かったとの指摘があったので改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

世界のニュースを正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。基本文法事項や辞書の使い方についても理解を深め、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを中心に進める。扱うジャンルは社会、文化、政治経済、環境、スポーツなど様々だが、関連する情報やデータをネットで探して読み取る作業も行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の解説とプレテスト
第 2 回	Unit 13: Van Gogh's obsession with Japan	Reading & Exercises
第 3 回	Unit 14: Maldives crisis may draw in India and China	Reading & Exercises
第 4 回	Unit 15: Fish Instead of Flamin' Hot Cheetos, and Feeling Lost	Reading & Exercises
第 5 回	Unit 16: Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut	Reading & Exercises
第 6 回	Unit 17: Nobel for effort to abolish nuclear bombs	Reading & Exercises
第 7 回	Unit 18: Saudi Arabia lightens up	Reading & Exercises
第 8 回	Unit 19: Irish Border Problem Remains A Thorn for Britain in Brexit	Reading & Exercises
第 9 回	Unit 20: Bitcoin comes to campus	Reading & Exercises
第 10 回	Unit 21: Horrors still await young Rohingya	Reading & Exercises
第 11 回	Unit 23: The wrong way for Germany to debate Islam	Reading & Exercises
第 12 回	Unit 26: Seoul OKs \$2.6 million to host Northerners	Reading & Exercises
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめとポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。

・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

English through the News Media — 2019 Edition — (Asahi Press, 2019)

【参考書】

[i]Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition [i](Cambridge U. P., 2010)

[ii]Practical English Usage [ii](Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。チャンクリーディングと音読を中心に行ったが、その効果を実感し、読むスピードや発音などに変化を感じたというコメントが寄せられた。また、毎週授業の最初に行った洋楽のクイズは楽しんで取り組めたようである。授業の進め方が早かったとの指摘があったので改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I 2016 年度以前入学者

利根川 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではリーディングを中心に勉強します。現代社会の幅広いトピックについて書かれたある程度の長さの文章を、パラグラフ構成に注意して、より良く速く読めるようになることを目指します。語彙力を高めていくことも目標のひとつです。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も養いましょう。

【到達目標】

1. アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2. パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
3. 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説を行なうほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の内容・進め方の説明
2 回目	Chapter 2. Health Care Megatrends: How Well Can Your Doctor Play Video Games? 導入	健康についての文章の大枠を把握する
3 回目	Chapter 2 詳細	健康についての文章の細部を理解する
4 回目	Chapter 6. Global Warming: Get Ready to Mitigate and Adapt 導入	環境についての文章の大枠を把握する
5 回目	Chapter 6 詳細	環境についての文章の細部を理解する
6 回目	Chapter 9. Personalization: The Megatrend that is Reshaping Marketing 導入	ビジネスについての文章の大枠を把握する
7 回目	Chapter 9 詳細	ビジネスについての文章の細部を理解する
8 回目	新聞・雑誌記事等 選択	各自が持ち寄った記事を紹介し、投票する
9 回目	Chapter 11. Urbanization: The Pros and Cons 導入	ライフスタイルについての文章の大枠を把握する
10 回目	Chapter 11 詳細	ライフスタイルについての文章の細部を理解する
11 回目	新聞・雑誌記事等 導入	投票で決めた記事の大枠を把握する
12 回目	新聞・雑誌記事等 詳細 & TED のスクリプト 導入	投票で決めた記事の細部を理解する & スクリプトの大枠を把握する
13 回目	TED のスクリプト 詳細	スクリプトの細部を理解する
14 回目	期末テストと補足	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。記事紹介に向けて、各自が関心のある記事を探して読み、提出課題を作成します。

【テキスト（教科書）】

Megatrends Shaping Our Future 『新たな時代を見据えて』（成美堂）

【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 45%、記事紹介課題関連 15%、期末テスト 40%。原則として欠席が 4 回以上になると受講資格がなくなります。遅刻・早退は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

【Outline and objectives】

This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. The textbook includes essays on real world issues, such as urbanization and health care trends. In addition to studying the textbook, each student will search independently for an interesting article in English newspapers and magazines and will become familiar with authentic materials offered in English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

利根川 真紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、パラグラフの理解や語彙力の向上に力を入れ、現代社会の幅広いトピックについて書かれた文章を正確に、そして速く読むことができるようにしていきます。読んだ内容をもとに、自分の意見を英語で書くことができるようになることも目指します。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、様々な英語の文体に慣れ、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も養いましょう。

【到達目標】

1. アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2. パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
3. 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説を行なうほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。なお、春学期の終わりに詳しく説明しますが、夏休み中に洋書を一冊読んでおいてください。秋学期の授業で、読んだ本について各自がプレゼンテーションを行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション、ブック・プレゼンテーションの準備	授業の内容・進め方の説明
2 回目	Chapter 4. The Globalization of Food: Advantages and Disadvantages 導入	健康についての文章の大枠を把握する
3 回目	Chapter 4 詳細	健康についての文章の細部を理解する
4 回目	Chapter 7. Deadly Natural Disasters: Dealing with Tsunamis 導入	環境についての文章の大枠を把握する
5 回目	Chapter 7 詳細	環境についての文章の細部を理解する
6 回目	ブック・プレゼンテーション（1～11）	夏休みに読んだ洋書のプレゼン（前半）とレスポンス
7 回目	ブック・プレゼンテーション（12～24）	夏休みに読んだ洋書のプレゼン（後半）とレスポンス
8 回目	ブックパッセージについてのフォローアップ	単語・イディオム・構文のチェック
9 回目	Chapter 10. Rethinking Regulation: Finance and Investment after the Subprime Loan Meltdown 導入	ビジネスについての文章の大枠を把握する
10 回目	Chapter 10 詳細	ビジネスについての文章の細部を理解する
11 回目	Chapter 12. Depopulation: Vanishing Villages in Rural Japan 導入	ライフスタイルについての文章の大枠を把握する
12 回目	Chapter 12 詳細	ライフスタイルについての文章の細部を理解する
13 回目	TED のスクリプト	スクリプトを理解する
14 回目	期末テストと補足	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。ブック・プレゼンテーションに向けて、クラスメートが選んだパッセージにもすべて目を通して課題を提出します。

【テキスト（教科書）】

Megatrends Shaping Our Future 『新たな時代を見据えて』（成美堂）

【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、プレゼンテーション課題関連 20%、期末テスト 40%。原則として欠席が 4 回以上になると受講資格がなくなります。遅刻・早退は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

【Outline and objectives】

This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. The textbook includes essays on real world issues, such as urbanization and health care trends. In addition to studying the textbook, each student will give a 5-minute presentation on an English book of his or her own choice.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I 2016 年度以前入学者

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 13 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平易な英文を速く正確に読解できるようにし、同時に、英文に用いられている語彙・表現を身につける。
異文化コミュニケーションを学ぶ。

【到達目標】

1. 英文を、一語ごとに立ち止まることなく、意味のかたまり（句や節）を意識しながら一定の速度で読むことができる。（フレーズ・リーディングの習得。）
2. パラグラフの構造・構成を意識して長文を正確に読み、内容を的確につかむことができる。（パラグラフ・リーディングの習得。）
3. 読んで理解できた英文を、日本語・英語の両方で要約できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

予習時に生じた疑問を解決し、授業内に確認していくことによって本文の理解を確実にすることが、授業で行うことの中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業について。フレーズ・リーディング、辞書の活用法について。
2	Unit 1	Unit1 の問題演習 1
3	Chapter 1	Unit1 の問題演習 2 小テスト
4	Chapter 1	Exercises
5	Chapter 2	Unit2 の問題演習 1
6	Chapter 2	Unit2 の問題演習 2 小テスト
7	Chapter 2	Exercises
8	Chapter 3	Unit3 の問題演習 1
9	Chapter 3	Unit3 の問題演習 2 小テスト
10	Chapter 3	Exercises
11	Chapter 4	Unit4 の問題演習 1
12	Chapter 4	Unit4 の問題演習 2 小テスト
13	Chapter 4	Exercises
14	review	1 から 14 回までの復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 準備学習は必須である。
- (1) 本文を読み、不明点を洗い出す
 - (2) 練習問題を解くことが必要。

【テキスト（教科書）】

1. The Powerful Reader 2nd Edition (Macmillan Language House)
 2. 英語辞書（英和、英英など）。
- 準備学習で使用するだけでなく、毎回の授業に必ず持参のこと。

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %
その他、授業への参加等での平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様に副教材として洋画等の DVD を英語字幕、英語音声で視聴することにより
身近な英語との接点を模索する予定であるが、本年度はより多岐にわたったジャンルやメディア等を使用する予定である。

【Outline and objectives】

This course introduces reading skill and useful vocabulary and phrases which help inter-cultural communication.

LANe100LA

English 1 II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II 2016 年度以前入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 13 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平易な英文を速く正確に把握（読解・聴解）できるようにし、同時に、英文に用いられている語彙・表現を身につける。

【到達目標】

1. 英文を、一語ごとに立ち止まることなく、意味のかたまり（句や節）を意識しながら一定の速度で読むことができる。（フレーズ・リーディングの習得。）
2. パラグラフの構造・構成を意識して長文を正確に読み、内容を的確につかむことができる。（パラグラフ・リーディングの習得。）
3. 読んで理解できた英文を、日本語・英語の両方で要約できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

予習時に生じた疑問を解決し、本文の理解を確実にすることが、授業で行うことの中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit II	Reading
2	Chapter 6	Exercises
3	Chapter 7	Reading
4	Chapter 7	Exercises
5	Chapter 8	Reading
6	Chapter 8	Exercises
7	Chapter 9	Reading
8	Chapter 9	Exercises
9	Chapter 10	Reading
10	Chapter 10	Exercises
11	Chapter 11	Reading
12	Chapter 11	Exercises
13	Chapter 12	Reading
14	Chapter 12	Exercises

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 準備学習は必須である。
- (1) 本文を読み、不明点を洗い出す
 - (2) 練習問題を解くことが必要。

【テキスト（教科書）】

1. The Powerful Reader 2nd Edition. Macmillan Language House
 2. 英語辞書（英和、英英など）。
- 準備学習で使用するだけでなく、毎回の授業に必ず持参のこと。

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%
授業への参加等 30%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様に視聴覚教材を用いた英語とのふれあいの機会を持ちたいと思っているがジャンル、メディアに関しては広くアンケートを取ったうえで検討する予定

【Outline and objectives】

This course introduces reading skill and useful vocabulary which help inter-cultural communication.

LANe100LA		
English 1 I		2017 年度以降入学者
LANe100LA		
English 1 I		2016 年度以前入学者
萩原 眞一		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金 2/Fri.2		
文 1 年：英語 14 組		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
大学生として必要とされる標準的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。		
授業は3技能（リーディング、ライティング、リスニング）およびグラマーの学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、3分程度の BBC News（英国放送協会のニュース）が 15 本精選され、それぞれに Understanding Check や Making a Summary などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴してもらい、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。		
また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ表現法の習得を目指します。		
【到達目標】		
学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ 60 点以上を獲得できること。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3		
【授業の進め方と方法】		
毎授業、講義と演習を繰り返します。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 "Repairing Big Ben"[沈黙するビッグ・ベン] ①	DVD を活用して News Story の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Unit 1 "Repairing Big Ben"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第 3 回	Unit 2 "Learning to Walk Again"[ロボット・スーツで歩行が可能に] ①	DVD を活用して News Story の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 4 回	Unit 2 "Learning to Walk Again"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第 5 回	Unit 3 "A Secret Garden in London"[都会の花園とインド独立との関係は？] ①	DVD を活用して News Story の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Unit 3 "A Secret Garden in London"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第 7 回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 8 回	Unit 4 "Unpaid Internships"[イギリスのインターンシップ事情] ①	DVD を活用して News Story の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 9 回	Unit 4 "Unpaid Internships"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第 10 回	Unit 5 "A Modern Steam Train"[蘇った蒸気機関車] ①	DVD を活用して News Story の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 11 回	Unit 5 "A Modern Steam Train"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第 12 回	Unit 6 "A T-shirt Exhibition"[T シャツに込められたメッセージ] ①	DVD を活用して News Story の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 13 回	Unit 6 "A T-shirt Exhibition"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
次回に行われる授業範囲を予習してください。適宜、宿題を出します。		
【テキスト（教科書）】		
Timothy Knowles 編著『映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース』（金星堂、2019 年）2600 円（税別）		
【参考書】		
なし		
【成績評価の方法と基準】		
中間試験（45 点満点）と期末試験（45 点満点）を実施し、両試験の平均点を割り出し、その平均点に平常点（10 点満点）を加算した上で、100 点満点のうちほぼ 60 点以上を獲得した場合、合格とします。平常点の扱いに関しては初回授業等で明示します。また欠席を 4 回以上した場合、単位修得を認めません。		
【学生の意見等からの気づき】		
直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。		
【Outline and objectives】		
The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of BBC News. Participants can live the stories and see Britain and the world widely and deeply, and learn about the historical, social, and cultural backgrounds of the videos. This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.		

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

萩原 眞一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文 1 年：英語 14 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる標準的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は3技能（リーディング、ライティング、リスニング）およびグラマーの学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、3分程度の BBC News（英国放送協会のニュース）が 15 本精選され、それぞれに Understanding Check や Making a Summary などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴してもらい、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。

また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ表現法の習得を目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点においては 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Unit 7 "Generation Z" [ジェネレーション Z とはどんな人たち?] ①	DVD を活用して News Story の項の聴解と読解を確実にものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第2回	Unit 7 "Generation Z" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。
第3回	Unit 8 "Wind Power in Btitaín" [風力発電は原発よりもお得?] ①	DVD を活用して News Story の項の聴解と読解を確実にものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第4回	Unit 8 "Wind Power in Btitaín" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。
第5回	Unit 9 "A Plastic Tnner" [プラスチック紙幣の使い心地は?] ①	DVD を活用して News Story の項の聴解と読解を確実にものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第6回	Unit 9 "A Plastic Tnner" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。
第7回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第8回	Unit 10 "How to Delay Aging" [スーパーエイジャーと長寿研究の最前線] ①	DVD を活用して News Story の項の聴解と読解を確実にものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第9回	Unit 10 "How to Delay Aging" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。
第10回	Unit 11 "Schools Deal with Fake News" [フェイクニュースにご注意] ①	DVD を活用して News Story の項の聴解と読解を確実にものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。

第11回	Unit 11 "Schools Deal with Fake News" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。
第12回	Unit 12 "Experiences of Sexual Harassment" [年配女性が語るかつての職場のセクハラ] ①	DVD を活用して News Story の項の聴解と読解を確実にものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第13回	Unit 12 "Experiences of Sexual Harassment" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。
第14回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。適宜、宿題を出します。

【テキスト（教科書）】

Timothy Knowles 編著『映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース』（金星堂、2019 年）2600 円（税別）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験（45 点満点）と期末試験（45 点満点）を実施し、両試験の平均点を割り出し、その平均点に平常点（10 点満点）を加算した上で、100 点満点のうち 60 点以上を獲得した場合、合格とします。平常点の扱いに関しては初回授業等で明示します。また欠席を 4 回以上した場合、単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業にするように心がけます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of BBC News. Participants can live the stories and see Britain and the world widely and deeply, and learn about the historical, social, and cultural backgrounds of the videos. This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.

LANe100LA

English 1 I

LANe100LA

English 1 I

村松 美映子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 15 組

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立つてとらえることができるようになることを目的としています。毎時間 NHK の「世界へ発信!SNS 英語術」を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、プレゼンテーション、英語による質疑応答、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

【到達目標】
1. 文章の段落を意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 英語の音声の特徴に注意を払いながら、プレゼンテーションができるようになる。
4. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
5. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
6. 授業外でも自律的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
1.NHK「世界へ発信！ SNS 英語術」
①指定のニュースをつかい 2 人が内容をまとめて英語でプレゼンテーションをします。発表には 5 枚から 7 枚のパワポを準備して頂きます。
②発表の内容について、英語で質疑応答をします。
③次のニュースを配布し、辞書を引きながら速読します。
④ニュースの解説
⑤単語の学習
2 テキストの学習
① Words& Phrases
② Before you Watch
③ Watch the News
④ Understand the News
⑤ News の読解
⑥ Review the Key Expressions
⑦ Writing
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】	
回	テーマ
1	最新のニュース テキストの学習
2	最新のニュース テキストの学習
3	最新のニュース テキストの学習
4	最新のニュース テキストの学習
5	最新のニュース テキストの学習
6	最新のニュース テキストの学習
7	最新のニュース テキストの学習
8	最新のニュース テキストの学習
9	最新のニュース テキストの学習
10	最新のニュース テキストの学習
11	最新のニュース テキストの学習
12	最新のニュース テキストの学習
13	最新のニュース テキストの学習

内容
Manga Message for the Young(語彙)
Manga Message for the Young (DVD)
Manga Message for the Young (訳読)
Manga Message for the Young (英作文)
Jumping for the Victory (語彙)
Jumping for the Victory (DVD)
Jumping for the Victory (訳読)
Jumping for the Victory (英作文)
Seeking Quality over Cost (語彙)
Seeking Quality over Cost (DVD)
Seeking Quality over Cost (訳読)
Seeking Quality over Cost (英作文)
Getting Dads Home Earlier (語彙)

14 期末テスト 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 準備学習（1 時間から 2 時間）テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。次のプレゼンテーションが当たっている学生は発表原稿を用意する。
2. 復習（1 時間から 2 時間）テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。ニュースは放送内容を聴き直し、語彙、訳読、シャドーイングをして単語テストの準備をしましょう。

【テキスト（教科書）】
Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki,& Erika C. Yamazaki.(2017) What's on Japan, Kinseido

【参考書】
VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 40 %、プレゼンテーション 30 %、平常点 30 %
原則として、欠席が 4 回以上の場合は、単位の認定はいたしません。
遅刻は 15 分まで

【学生の意見等からの気づき】
今年度より担当のため、特になし

【学生が準備すべき機器他】
英和、和英辞書を持参すること

【その他の重要事項】
上記のシラバスは、授業進行上、若干の変更を加えることがあります。
オフィスアワーは授業の前後教室または教授室

【Outline and objectives】
多言語多文化社会は進行中です。その中でグローバルに活躍することが期待されています。世界共通語としての英語を使い、日本文化を考え、世界を知り、分析、批判する能力を養っていきましょう。

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

村松 美映子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 15 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立つてとらえることができるようになることを目的としています。毎時間 NHK の「世界へ発信! SNS 英語術」を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、プレゼンテーション、英語による質疑応答、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

【到達目標】

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 英語の音声の特徴に注意を払いながら、プレゼンテーションができるようになる。
4. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
5. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
6. 授業外でも自律的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1.NHK「世界へ発信! SNS 英語術」

- ①指定のニュースをつかひ 2 人が内容をまとめて英語でプレゼンテーションをします。発表には 5 枚から 7 枚のパワポを準備して頂きます。
- ②発表の内容について、英語で質疑応答をします。
- ③次のニュースを配布し、辞書を引きながら速読します。
- ④ニュースの解説
- ⑤単語の学習

2 テキストの学習

- ① Words & Phrases
- ② Before you Watch
- ③ Watch the News
- ④ Understand the News
- ⑤ News の読解
- ⑥ Review the Key Expressions
- ⑦ Writing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (DVD)
2	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (訳読)
3	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (英作文)
4	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (語彙)
5	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (DVD)
6	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (訳読)
7	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (英作文)
8	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (語彙)
9	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (DVD)
10	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (訳読)
11	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (英作文)
12	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out (語彙)

13 最新のニュース Breaking Out (DVD)

テキストの学習

14 テキストの学習 Breaking Out(訳読 英作文)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 準備学習（1 時間から 2 時間）テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。次のプレゼンテーションが当たっている学生は発表原稿を用意する。
2. 復習（1 時間から 2 時間）テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。ニュースは放送内容を聴き直し、語彙、訳読、シャドーイングをして単語テストの準備をしましょう。

【テキスト（教科書）】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, & Erika C. Yamazaki.(2017) What's on Japan, Kinseido

【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 40 %、プレゼンテーション 30 %、単語テスト 20 %、平常点 10 %

原則として、欠席が 4 回以上の場合は、単位の認定はいたしません。

遅刻は 15 分まで

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

英和和英辞書

【その他の重要事項】

上記のシラバスは、授業進行上、若干の変更を加えることがあります。オフイスアワーは授業の前後教室または教授室

【Outline and objectives】

多言語多文化社会は進行中です。その中でグローバルに活躍することが期待されています。世界共通語としての英語を使い、日本文化を考え、世界を知り、分析、批判する能力を養っていきましょう。

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

竹内 晶子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 16 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界に流通する情報の中で、日本語だけを使って読めるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で書かれた膨大な情報に直接アクセスできるので、それをしない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりと覚えながら、実際の英語新聞記事を読んでいきます。また、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く訓練、記事をつかった聞き取りや発音の訓練なども行っています。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
- ・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
- ・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に類出する基本単語を習得する。
- ・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書を持ちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。リスニング後、全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。

授業時間中にはリスニング、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業紹介
2	unit 1-I: Can Babies Choose Between Good and Bad?	reading and listening
3	unit 1-II: Can Babies Choose Between Good and Bad?	reading and writing
4	unit 2-I: Half-Empty or Half-Full?	reading and listening
5	unit 2-II: Half-Empty or Half-Full?	reading and writing
6	unit 3-I: How to Pass a Test	reading and listening
7	unit 3-II: How to Pass a Test	reading and writing
8	Review Exam	units 1-3
9	unit 4-I: Soccer Brain Study	reading and listening
10	unit 4-II: Soccer Brain Study	reading and writing
11	unit 5-I: Google Glass for Firefighters	reading and listening
12	unit 5-II: Google Glass for Firefighters	reading and writing
13	unit 6: Women on Submarine	reading and listening
14	Review Exam	Units 4-6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。英文ライティングの提出、リスニングの自習も課題となります。

【テキスト（教科書）】

『CNN Student News で学ぶ読解と作文演習 CNN Student News for Reading & Writing』朝日出版社、2018 年。

【参考書】

『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加（課題含む）： 40 パーセント
中間・期末テスト： 30 パーセントずつ

【学生の意見等からの気づき】

構文把握を丁寧に行います。

【その他の重要事項】

原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

【Outline and objectives】

Students will learn reading/listening/writing skills in English, using CNN Student News.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

竹内 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 16 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界に流通する情報の中で、日本語だけを使って読めるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で書かれた膨大な情報に直接アクセスできるので、それをしない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりおさえながら、実際の英語新聞記事を読んでいきます。また、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く訓練、記事をつかった聞き取りや発音の訓練なども行っています。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
- ・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
- ・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に類出する基本単語を習得する。
- ・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書を持ちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。リスニング後、全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。

授業時間中にはリスニング、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7-I: iPhone Musician	reading and listening
2	Unit 7-II: iPhone Musician	reading and writing
3	Unit 8-I: Bringing People Back to Baseball	reading and listening
4	Unit 8-II: Bringing People Back to Baseball	reading and writing
5	Unit 9-I: Smell of Success	reading and listening
6	Unit 9-II: Smell of Success	reading and writing
7	Review Exam	Units 7-9
8	Unit 10-I: Octoapter	reading and listening
9	Unit 10-II: Octoapter	reading and writing
10	Unit 11-I: Staying Safe Online	reading and listening
11	Unit 11-II: Staying Safe Online	reading and writing
12	Unit 12-I: Air Pollution in Asian Cities	reading and listening
13	Unit 12-II: Air Pollution in Asian Cities	reading and writing
14	Review Exam	Units 10-12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。英文ライティングの提出、リスニングの自習も課題となります。

【テキスト（教科書）】

『CNN Student News で学ぶ読解と作文演習 CNN Student News for Reading & Writing』朝日出版社、2018 年。

【参考書】

『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加（課題含む）：40 パーセント
中間・期末テスト：30 パーセントずつ

【学生の意見等からの気づき】

構文把握を丁寧に行います。

【その他の重要事項】

原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

【Outline and objectives】

Students will learn reading/listening/writing skills in English, using CNN Student News.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I 2016 年度以前入学者

大澤 岳彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 17 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

メディア英語の構成、語法をつかんだ上、リスニング力・語彙力の強化、記事の背景（世界情勢）が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

メディア英語の基本を理解することがこの授業の主眼である。英語を手段にして、メディアがいかなる情報を世界に発信しているのかを検討して欲しい。つまり、「英語を学ぶ」ことだけでなく、「英語から学ぶ」ことを目標としたい。受講生は教科書、映像素材、プリント等を通して、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方、テキストの紹介など
2	英語ニュースのきまり	英字新聞の読み方、テレビニュースの見方
3	Sanrio takes big risk with new strategy	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	New nine-year school category eyed	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Species going extinct up to 10,000 times faster than normal	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Mountain Day created as newest official public holiday	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Simplest animals may help cure brain disease	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
9	One-third of all people are now fat, and no country is immune: Study	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Superbug threat requires urgent world action: Scientist	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Japan neglecting wetlands: Ministry	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビニュースに継続してフォローしてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 4 刷 南雲堂
山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight" 金星堂

【参考書】

適宜、記事、資料プリントを配布する。
新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の提出物： 40%、授業への取組み： 20%、期末レポート： 40%
毎回の提出物、授業への取組み、期末レポートを考慮して総合的に評価します。欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。学生が L 教室の機能を十二分に使い、積極的に演習できるような環境作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア LL 教室の機能を駆使した授業を展開する。

【Outline and objectives】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

大澤 岳彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 17 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

リスニング力・語彙力向上のほか、ニュースの核心（ニュースバリュー）を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期授業では、テレビニュースを積極的に活用してみたい。受講生は、自分の興味ある分野を選び、その関連するニュースについて検討することになる。メディア英語の理解には、背景知識や専門用語の理解など、不断の努力が必要である。積極的にリサーチすることを期待している。受講生は提出物、レポートなどを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、秋学期の進め方等	休暇中ニュースのフォローアップ
2	新聞、ニュース英語の共通点、相違点	英字新聞、テレビニュース英語の形式、構成の理解
3	WHO urged not to restrict e-cigarettes	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	Baby boomers becoming gray gang	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Feral cats causing extinction of unique Australian mammals	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Easier-to-use retro cellphones making a comeback	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
9	Tokyo to boost foreign-language signs, into ahead of 2020 Olympics	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Tea, wine stepped in shared history	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Evidence found of planet that hit Earth, made moon	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	Stunning pterosaur eggs found	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	レポート作成などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際の英字新聞を読むことにチャレンジする。各自興味あるテーマを選び、継続的にその関連記事をフォローしてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 4 刷 南雲堂
山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight" 金星堂

【参考書】

適宜、記事、資料プリントを配布する。
新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の提出物： 40%、授業への取組み： 20%、期末レポート： 40%
毎回の提出物、授業への取組み、期末レポートを考慮して総合的に評価します。欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。学生が LIL 教室の機能を十二分に使い、積極的に演習できるような環境作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア LL 教室の機能を駆使した授業を展開する。

【Outline and objectives】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

猪俣 佳瑞美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 18 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEIC テスト形式のテキストを使用しながら、英語運用能力を高めるために欠かすことのできない4つの力、「即座に反応できる語彙力」「理解を助ける文法力」「一度で聞き取れるリスニング力」「正確に読み取れるリーディング力」の養成を行う。また適時ハンドアウトを使用し、各学生が自分の考えを英語で他者に伝える練習も行う。

【到達目標】

前期・後期を通して、以下を目標とする。前期では、基礎力養成を重視する。1 分間 180words 程度のスピードで流れてくる英文を正確に聞き取れるようになる。

英文の構造を正しく分析し理解することができるようになる。

自分の考えをわかりやすく他者に英語で伝えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストの奇数ユニットではリスニング演習を、偶数ユニットではリーディング演習を中心に行う。

テキストの各ユニットで指定されている事前学習を必ず行ってから授業に参加すること。

毎回単語テストを行い、事前学習チェックも実施する。

授業は学生同士で行うペアワークも多用した参加型講義スタイルで行うため、積極的に取り組んで欲しい。

必ず辞書を持参すること。携帯電話を辞書として使用することは不可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	事前学習の方法、授業の進め方、成績評価等に関する説明
2	Unit 1 Shopping	「基本文型」リスニング演習
3	Unit 2 At a Restaurant	「名詞の修飾」リーディング演習
4	Unit 3 At an Airport	「文と文の接続」リスニング演習
5	Unit 1-3	Review
6	Unit 4 Entertainment	「知覚動詞」と「使役動詞」リーディング演習
7	Unit 5 At a Hotel	「助動詞」リスニング演習
8	Unit 6 Job Hunting	「その他の助動詞」と「助動詞+完了形」リーディング演習
9	Unit 4-6	Review
10	Unit 7 Telephoning	「時制」と「進行形」リスニング演習
11	Unit 8 Negotiating	「現在完了」リーディング演習
12	Unit 9 Giving a Presentation	「前置詞」リスニング演習
13	Unit 10 Appointments	「to 不定詞」リーディング演習
14	試験	TOEIC 形式などで行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストで指示されている事前学習を、授業に参加する前にノートに必ず行うこと。

授業内で紹介するリスニングトレーニングを、復習として授業後にも必ず行うこと。

意味を確実に覚えていない単語は、その語が含まれる文単位で暗記すること。

【テキスト（教科書）】

Raise Your Score 150 Plus on the TOEIC(R) Test / 『現スコアから 150 点アップを実現させる TOEIC(R) Test 総合演習』

松岡 昇／傍島一夫

松柏社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、単語テスト 25%、平常点 25%で評価を行う。遅刻は厳禁。授業開始時刻から 30 分を過ぎた場合は欠席扱い。公欠を除き、各学期 13 回めの授業までに 4 回以上欠席した場合、テストの受験資格を失い、単位取得が不可能になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必ず辞書を持参すること。携帯電話を辞書として使用することは不可。

【Outline and objectives】

English 1 is a reading and listening class in which students read passages of multiple paragraphs in various academic fields to develop English skills. The major focus will be placed on undertaking intensive reading in order to improve grammar knowledge and expand vocabulary so that they will be able to grasp the writer's precise intention and feelings. Additionally, this course also involves listening exercises using audio materials relevant to topics that students have previously learned so that they will be able to develop effective listening skills.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

猪俣 佳瑞美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 18 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEIC テスト形式のテキストを使用しながら、英語運用能力を高めるために欠かすことのできない 4 つの力、「即座に反応できる語彙力」「理解を助ける文法力」「一度で聞き取れるリスニング力」「正確に読み取れるリーディング力」の養成を行う。また適時ハンドアウトを使用し、各学生が自分の考えを英語で他者に伝える練習も行う。

【到達目標】

以下を目標とする。後期では、応用力養成を重視する。

1 分間 180words 程度のスピードで流れてくる英文を正確に聞き取れるようになる。

英文の構造を正しく分析し理解することができるようになる。

自分の考えをわかりやすく他者に英語で伝えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストの奇数ユニットではリーディング演習を、偶数ユニットではリスニング演習を中心に行う。

テキストの各ユニットで指定されている事前学習を必ず行ってから授業に参加すること。

毎回単語テストを行い、事前学習チェックも実施する。

授業は学生同士で行うペアワークも多用した参加型講義スタイルで行うため、積極的に取り組んで欲しい。

必ず辞書を持参すること。携帯電話を辞書として使用することは不可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	前期の理解度チェックなど
2	Unit 11 At a Bank	「仮定法過去」リーディング演習
3	Unit 12 On the Street	「仮定法過去完了」リスニング演習
4	Unit 13 Taking a Trip	「受動態」リーディング演習
5	Unit 11-13	Review
6	Unit 14 Dealing with Troubles	「動名詞」と「分詞構文」リスニング演習
7	Unit 15 Renting an Apartment	「関係代名詞」リーディング演習
8	Unit 16 Meetings	「関係副詞」リスニング演習
9	Unit 14-16	Review
10	Unit 17 Business Performance	「比較」リーディング演習
11	Unit 18 Handling Customer Complaints	「名詞」と「冠詞」リスニング演習
12	Unit 19 Advertising	「注意すべき名詞の数」と「数量形容詞」リーディング演習
13	Unit 20 Parties	「強調構文」と「倒置」リスニング演習
14	試験	TOEIC 形式などで行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストで指示されている事前学習を、授業に参加する前にノートに必ず行うこと。

授業内で紹介するリスニングトレーニングを、復習として授業後にも必ず行うこと。

意味を確実に覚えていない単語は、その語が含まれる文単位で暗記すること。

【テキスト（教科書）】

Raise Your Score 150 Plus on the TOEIC(R)Test / 『現スコアから 150 点アップを実現させる TOEIC(R) Test 総合演習』松岡 昇／傍島一夫 松柏社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50%、単語テスト 25%、平常点 25%で評価を行う。遅刻は厳禁。授業開始時刻から 30 分を過ぎた場合は欠席扱い。公欠を除き、各学期 13 回めの授業までに 4 回以上欠席した場合、テストの受験資格を失い、単位取得が不可能になるので注意すること

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

必ず辞書を持参すること。携帯電話を辞書として使用することは不可。

【Outline and objectives】

English 1 is a reading and listening class in which students read passages of multiple paragraphs in various academic fields to develop English skills. The major focus will be placed on undertaking intensive reading in order to improve grammar knowledge and expand vocabulary so that they will be able to grasp the writer's precise intention and feelings. Additionally, this course also involves listening exercises using audio materials relevant to topics that students have previously learned so that they will be able to develop effective listening skills.

LANe100LA

English 1 I2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I2016 年度以前入学者

岡村 由美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 19 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・英文の趣旨を正確に把握できる読解力を身に付ける。
- ・語彙を増やし、表現力を養う。
- ・英文法、英文構成を理解する。

【到達目標】

世界に視野を広げて、情報収集能力を身に付け、現代社会が抱える問題について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・文章のパラグラフ構成や論旨展開を把握し、精読することによって英文構成や表現法を学ぶ。
- ・内容把握に関した質問に英語で答える練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の説明。 速読の練習。
第 2 回	Chapter1	仮想水についての英語講読
第 3 回	Chapter1	講読と練習問題
第 4 回	Chapter2	外來種についての英語講読
第 5 回	Chapter2	講読と練習問題
第 6 回	Chapter3	森林破壊についての英語講読
第 7 回	Chapter3	講読と練習問題
第 8 回	Chapter4	海洋汚染についての英語講読
第 9 回	Chapter4	講読と練習問題
第 10 回	Chapter5	都市化の功罪についての英語講読
第 11 回	Chapter5	講読と練習問題
第 12 回	Chapter6	五感の世界についての英語講読
第 13 回	Chapter6	講読と練習問題
第 14 回	Chapter7	偽造医薬品問題についての英語講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で書かれたもの（新聞や書物等）をできるだけ読むようにすること。

【テキスト（教科書）】

Pathways to Knowledge 成美堂

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内での発表等） 30 %

期末試験 70 %

学期末記述試験の結果に、授業中の発表内容や出席状況を含めて、評価を出す。欠席は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を付け加える。

【Outline and objectives】

- ・ To acquire reading comprehension ability to accurately grasp the purpose of English sentences.
- ・ Increase vocabulary and cultivate expressiveness.
- ・ Understand English grammar and English composition.

LANe100LA

English 1 II2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II2016 年度以前入学者

岡村 由美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 19 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・英文の趣旨を正確に把握できる読解力を身に付ける。
- ・語彙を増やし、表現力を養う。
- ・英文法、英文構成を理解する。

【到達目標】

世界に視野を広げて、英語による情報収集能力を身に付け、現代社会が抱える問題について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・文章のパラグラフ構成や論旨展開を把握し、精読することによって英文構成や表現法を学ぶ。
- ・内容把握に関連した質問に英語で答える練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter7	講読と練習問題
第 2 回	Chapter8	ヘルス・ツーリズムについての英語講読
第 3 回	Chapter8	講読と練習問題
第 4 回	Chapter9	エイズの歴史と変化についての英語講読
第 5 回	Chapter9	講読と練習問題
第 6 回	Chapter10	音楽の癒しの力についての英語講読
第 7 回	Chapter10	講読と練習問題
第 8 回	Chapter11	スポーツ大国への道についての英語講読
第 9 回	Chapter11	講読と練習問題
第 10 回	Chapter12	第二外国語習得方法についての英語講読
第 11 回	Chapter12	講読と練習問題
第 12 回	Chapter13	進化するゲームについての英語講読
第 13 回	Chapter13	講読と練習問題
第 14 回	Chapter14	世界のファーストフードについての英語講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で書かれたもの（新聞や書物等）をできるだけ読むようにすること。

【テキスト（教科書）】

Pathways to Knowledge 成美堂

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内での発表等） 30 %

期末試験 70 %

学期末記述試験の結果に、授業中の発表内容や出席状況を含めて、評価を出す。欠席は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を付け加える。

【Outline and objectives】

- ・ To acquire reading comprehension ability to accurately grasp the purpose of English sentences.
- ・ Increase vocabulary and cultivate expressiveness.
- ・ Understand English grammar and English composition.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I 2016 年度以前入学者

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 20 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® など資格試験の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニング、ライティングに関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

超高齢社会、ロボットの進化と仕事の変化、大学と人種差別などに関する、世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは、各 Unit がニュースのスク립トと内容把握を目的とした問題から成っている。ニュースを聞き穴埋めをしたうえで、ある程度のまとまりで一人ずつあてて基本的にはスク립トを逐語訳してもらい、確認が必要な場合はこちらから質問をし、問題もあてて答えてもらう形式で進めていく。それに加え、毎回授業時間の一部を割いて、TOEIC® の対策問題集を使い、リスニングとライティングの演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	テキスト Unit 1 前半 + 資格試験問題演習	"Super-Aged" Societies のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
3	テキスト Unit 1 後半 + 資格試験問題演習	"Super-Aged" Societies の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
4	テキスト Unit 2 前半 + 資格試験問題演習	Toward Living on the Moon のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
5	テキスト Unit 2 後半 + 資格試験問題演習	Toward Living on the Moon の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
6	テキスト Unit 3 前半 + 資格試験問題演習	Dangerous Proposal のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
7	テキスト Unit 3 後半 + 資格試験問題演習	Dangerous Proposal の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
8	テキスト Unit 4 前半 + 資格試験問題演習	Automation Threatens Jobs のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
9	テキスト Unit 4 後半 + 資格試験問題演習	Automation Threatens Jobs の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
10	テキスト Unit 5 前半 + 資格試験問題演習	Harvard Accused of Racial Bias のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング

11	テキスト Unit 5 後半 + 資格試験問題演習	Harvard Accused of Racial Bias の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
12	テキスト Unit 6 前半 + 資格試験問題演習	Thought-Controlled Artificial Arms のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
13	テキスト Unit 6 後半 + 資格試験問題演習	Thought-Controlled Artificial Arms の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業についていくのが不安な場合はテキストの予習をしてください。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。この復習は必須とします。

【テキスト（教科書）】

CNN Short News Vol. 1, Seisuke Yasunami 他著, (朝日出版社, 2019 年), ¥1,200 + tax

New Steps to Success in the TOEIC® Test Listening Workbook 2, David E. Bramley 他著, (松伯社, 2012 年), ¥1,100 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 (70%) と平常点 (30%) とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てても、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるように、リスニングのテキストを副教材に選びました。

【Outline and objectives】

This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 20 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC[®] など資格試験の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニング、ライティングに関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

地球温暖化、環境汚染、最新技術による義肢の作成などに関する、世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは、各 Unit がニュースのスク립トと内容把握を目的とした問題から成っている。ニュースを聞き穴埋めをしたうえで、ある程度のまとまりで一人ずつあてて基本的にはスク립トを逐語訳してもらい、確認が必要な場合はこちらから質問をし、問題もあてて答えてもらう形式で進めていく。それに加え、毎回授業時間の一部を割いて、TOEIC[®] の対策問題集を使い、リスニングとライティングの演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	テキスト Unit 7 前半 + 資格試験問題演習	Guide to Modern Manners のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
3	テキスト Unit 7 後半 + 資格試験問題演習	Guide to Modern Manners の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
4	テキスト Unit 8 前半 + 資格試験問題演習	Ancient Cave Art in Indonesia のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
5	テキスト Unit 8 後半 + 資格試験問題演習	Ancient Cave Art in Indonesia の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
6	テキスト Unit 9 前半 + 資格試験問題演習	Heat Threat in the Middle East のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
7	テキスト Unit 9 後半 + 資格試験問題演習	Heat Threat in the Middle East の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
8	テキスト Unit 10 前半 + 資格試験問題演習	Growing Impact of Plastic on Seabirds のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
9	テキスト Unit 10 後半 + 資格試験問題演習	Growing Impact of Plastic on Seabirds の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング

10	テキスト Unit 11 前半 + 資格試験問題演習	China's Life-Shortening Air のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
11	テキスト Unit 11 後半 + 資格試験問題演習	China's Life-Shortening Air の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
12	テキスト Unit 12 前半 + 資格試験問題演習	Prosthetic Limbs From 3-D Printers のリスニング、リーディング + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
13	テキスト Unit 12 後半 + 資格試験問題演習	Prosthetic Limbs From 3-D Printers の問題演習 + 資格試験問題を使ったリスニング、ライティング
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業についていくのが不安な場合はテキストの予習をしてください。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。この復習は必須とします。

【テキスト（教科書）】

CNN Short News Vol. 1, Seisuke Yasunami 他著, (朝日出版社, 2019 年), ¥1,200 + tax

New Steps to Success in the TOEIC[®] Test Listening Workbook 2, David E. Bramley 他著, (松伯社, 2012 年), ¥1,100 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 (70%) と平常点 (30%) とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てても、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるように、リスニングのテキストを副教材に選びました。

【Outline and objectives】

This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC[®] examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I 2016 年度以前入学者

萩原 眞一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
文 1 年：英語 21 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は3技能（リーディング、ライティング、リスニング）およびグラマーの学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、米国の科学ニュースサイト **Inside Science** の映像付き記事から15トピックが精選され、それぞれに **Vocabulary Build-Up** や **Composition Exercise** などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中にDVDを視聴してもらい、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。

また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法の習得を目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。最終的には学生が100点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ60点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 "No Moon at All?" [月のない地球はいったいどうなる?] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第2回	Unit 1 "No Moon at All?" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第3回	Unit 2 "Tackling Violent Wildfires" [科学を武器に山火事と闘う] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第4回	Unit 2 "Tackling Violent Wildfires" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第5回	Unit 3 "The Beauty of Snowflakes" [雪の結晶に魅せられた写真家] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第6回	Unit 3 "The Beauty of Snowflakes" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第7回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第8回	Unit 4 "Coping with the Extreme Weather" [高度情報化社会における防災] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第9回	Unit 4 "Coping with the Extreme Weather" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第10回	Unit 5 "Self-Driving Future" [未来に向けたハイテク搭載車両] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。

第11回	Unit 5 "Self-Driving Future" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第12回	Unit 6 "No Needle, No Thread?" [自己修復する布の開発を目指して] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第13回	Unit 6 "No Needle, No Thread?" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第14回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。適宜、宿題を出します。

【テキスト（教科書）】

野崎嘉信他編著『Inside Science 映像で学ぶ 最新科学の深層』（金星堂、2019年）2000円（税別）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験と期末試験を実施し、100点満点に換算した基準点を割り出し、平常点を勘案した上で、ほぼ60点以上を獲得した場合、合格とします。平常点の扱いに関しては初回授業などで明示します。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of short-form news videos produced by the American Institute of Physics. Participants can learn about up-to-date research and development in science and technology. This course also aims to improve the basic academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 II	2016 年度以前入学者
萩原 眞一	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金 1/Fri.1	
文 1 年：英語 21 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は3技能（リーディング、ライティング、リスニング）およびグラマーの学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、米国の科学ニュースサイト **Inside Science** の映像付き記事から15トピックが精選され、それぞれに **Vocabulary Build-Up** や **Composition Exercise** などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中にDVDを視聴してもらい、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。

また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法の習得を目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。最終的には学生が100点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ60点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Unit 7 "Identifying Fake Drugs"[偽造薬を見破るアプリ] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第2回	Unit 7 "Identifying Fake Drugs"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。
第3回	Unit 8 "Sensory Judgement is Important"[ヒット商品の鍵を握るサイコロロジ] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第4回	Unit 8 "Sensory Judgement is Important"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。
第5回	Unit 9 "Dangerous Debris in Space"[ゴミのない安全な宇宙空間を] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第6回	Unit 9 "Dangerous Debris in Space"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。
第7回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第8回	Unit 10 "A Safer Mission to Mars"[火星の過酷なミッションを助ける新素材とは?] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第9回	Unit 10 "A Safer Mission to Mars"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。

第10回	Unit 11 "Birds Know How to Glide"[鳥から学ぶムダなき究極の飛行術] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第11回	Unit 11 "Birds Know How to Glide"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。
第12回	Unit 12 "Better Biofuels from Corn"[新局面を迎えたバイオ燃料開発] ①	DVDを活用して Watch の項の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第13回	Unit 12 "Better Biofuels from Corn"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習もします。
第14回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。適宜、宿題を出します。

【テキスト（教科書）】

野崎嘉信他編著『Inside Science 一映像で学ぶ 最新科学の深層』（金星堂、2019年）2000円（税別）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験と期末試験を実施し、100点満点に換算した基準点を割り出し、平常点を勘案した上で、ほぼ60点以上を獲得した場合、合格とします。平常点の扱いに関しては初回授業等で明示します。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業にできるように心がけます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of short-form news videos produced by the American Institute of Physics. Participants can learn about up-to-date research and development in science and technology. This course also aims to improve the basic academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

高井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 文 1 年：英語 22 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に読む力を養います。英文の読解には一定のスピードが必要とされます。つまり、分からない語彙が出てくるたびに止まっていたら、このスピードが疎外され、正確な読解の妨げになります。テンポよく英文を読解するのに効果的な学習法が音読です。本授業では、意味ごとのまとまりで区切りながら強弱をつけてリズムに乗って英文センテンスを音読する訓練を行います。この練習を繰り返すことにより、日本語とは異なる英語独自の思考法に親しみ、英文の読解力を涵養していきます。さらに、読んだ内容に対して、英語を用いて自分の言葉で再現するためのリテリングの学習も行ないます。これらの学習を通して、学生が与えられた英語情報に対して主体的に関わる能動的な読みの力を養います。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下に示すとおりです。

音読の目標

- ①意味ごとのまとまりを意識して英文センテンスを読めるようになる。
 - ②強弱をつけて、リズムによって英文を音読する。
 - ③音の繋がり・弱く読まれる子音に注意して英文を音読する。
- 読解の目標
- ④なるべく日本語を解さず、物語の流れを意識して英文を読む。
 - ⑤批判的に読む力を身につける。
 - ⑥読んだ内容に対して、英語を用いて自分の言葉で再現（リテリング）できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は、演習形式で行ないます。音読という学習の性質上、ペアワークや発表を重視します。学期末に授業内の筆記試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
4 月 8 日	イントロダクション	授業方針、内容の説明、音読トレーニングのポイントのガイダンス
4 月 15 日	Unit 1: There Is More than One Way to Be a Leader	読解、リスニング、音読、リテリング
4 月 22 日	Unit 2: A Cool Response to Food Waste	読解、リスニング、音読、リテリング
5 月 6 日	Unit 1, 2 のまとめ	Review Trial
5 月 13 日	Unit 3: Haiku - Having Fun with Words and Ideas	読解、リスニング、音読、リテリング
5 月 20 日	Unit 4: Could Your Face Cost You Your Privacy?	読解、リスニング、音読、リテリング
5 月 27 日	Unit 3, 4 のまとめ	Review Trial
6 月 3 日	Unit 5: Russia's City of the East	読解、リスニング、音読、リテリング
6 月 10 日	Unit 6: The Healing Power of Music	読解、リスニング、音読、リテリング
6 月 17 日	Unit 5, 6 のまとめ	Review Trial
6 月 24 日	Unit 7: Looking at Life through the Eyes of a Cat	読解、リスニング、音読、リテリング
7 月 1 日	Unit 7 のまとめ	Review Trial
7 月 8 日	期末テスト	夏学期の理解度確認のための筆記テスト実施
7 月 15 日	まとめ・復習	試験返却、解説、今後の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の最後に、次回の Unit の予習用シートを配布するので、予習としてやってください。特に語彙に関する予習はスムーズな英文読解のために不可欠です。予習用シートは毎回回収し、平常点として計上します。

【テキスト（教科書）】

テキスト： Pleasure in Reading Aloud and Retelling

著者： Anthony P. Newell, Takane Yamaguchi

出版社：金星堂

価格： 1800 円（税別）

【参考書】

参考書は特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、

平常点 40%

※平常点は、予習用シートの提出や、音読、ペア／グループワーク等における授業参加を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業では、使用したテキストの英文の語彙、文法のレベルが若干高すぎたために、語彙や文法の解説中心の授業となってしまう、授業の到達目標であったパラグラフ・リーディング、パラグラフ要約を十分に実践することができませんでした。本年度は、昨年度よりパラグラフ・リーディングに向けたテキストを選定しました。4～5 のパラグラフからなる、比較的平易な語で書かれた 300 語程度の英文エッセイを用いることにより、昨年度十分達成できなかったパラグラフ要約や批判的読解にも取り組む時間を増やす予定です。

【Outline and objectives】

This class intends to teach students the skills to read English articles consist of several paragraphs with accuracy. Accurate reading requires a constant speed. In other words, if you stop reading every time you have an unknown word, it will interrupt your reading speed, consequently will harm your understanding of the article. In order to cope with such kind of problem, this course will adopt the training of reading aloud. By learning the technique of reading aloud, you will have better access to English way of thinking which is totally different from that of Japanese. It will be a great help for you to increase your English reading skill. The goal of this course is to encourage students to work on various English reading tasks actively using practical and useful skills learned through the course.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

高井 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 22 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に読む力を養います。英文の読解には一定のテンポ感が必要とされます。つまり、分からない語彙が出てくるたびに止まっていたら、このテンポ感が疎外され、正確な読解の妨げになります。テンポよく英文を読解するのに効果的な学習法が音読です。本授業では、意味ごとのまとまりで区切りながら強弱をつけてリズムに乗って英文センテンスを音読する訓練を行います。この練習を繰り返すことにより、日本語とは異なる英語独自の思考法に親しみ、英文の読解力を涵養していきます。さらに、読んだ内容に対して、英語を用いて自分の言葉で再現するためのリテリングの学習も行ないます。これらの学習を通して、学生が与えられた英語情報に対して主体的に関わる能動的な読みの力を養います。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下に示すとおりです。

音読の目標

- ①意味ごとのまとまりを意識して英文センテンスを読めるようになる。
- ②強弱をつけて、リズムによって英文を音読する。
- ③音の繋がり・弱く読まれる子音に注意して英文を音読する。

読解の目標

- ④なるべく日本語を解さず、物語の流れを意識して英文を読む。
- ⑤批判的に読む力を身につける。
- ⑥読んだ内容に対して、英語を用いて自分の言葉で再現（リテリング）できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は、演習形式で行ないます。音読という学習の性質上、ペアワークや発表を重視します。学期末に授業内の筆記試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
9 月 23 日	Unit 8: Designing Solutions to Everyday Problems	読解、リスニング、音読、リテリング
9 月 30 日	Unit 9: Currying Favor in Britain and Japan	読解、リスニング、音読、リテリング
10 月 7 日	Unit 8, 9 のまとめ	Riview Traial
10 月 14 日	Unit10: Interacting with Others in a Globalized World	読解、リスニング、音読、リテリング
10 月 21 日	Unit 11: The Tragedy of Rana Plaza	読解、リスニング、音読、リテリング
10 月 28 日	Unit 10, 11 のまとめ	Riview Traial
11 月 11 日	Unit 12: The Age of Innocence	読解、リスニング、音読、リテリング
11 月 18 日	Unit 13: Kiribati: A Paradise on Earth – But for How Much Longer?	読解、リスニング、音読、リテリング
11 月 25 日	Unit 12, 13 のまとめ	Riview Traial
12 月 2 日	Unit 14: Two Great Painters...and a Stormy Friendship	読解、リスニング、音読、リテリング
12 月 9 日	Unit 15: What's in a Name?	読解、リスニング、音読、リテリング
12 月 16 日	Unit 14, 15 のまとめ	Riview Traial
12 月 23 日	期末試験	冬学期の理解度確認のための筆記試験
1 月 20 日	まとめ・復習	試験の返却、解説、今後の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の最後に、次回の Unit の予習用シートを配布するので、予習としてやってください。特に語彙に関する予習はスムーズな英文読解のために不可欠です。予習用シートは毎回回収し、平常点として計上します。

【テキスト（教科書）】

テキスト： Pleasure in Reading Aloud and Retelling
著者： Anthony P. Newell, Takane Yamaguchi
出版社：金星堂
価格： 1800 円（税別）

【参考書】

参考書は特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、
平常点 40%
※平常点は、予習用シートの提出や、音読、ペア／グループワーク等における授業参加を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業では、使用したテキストの英文の語彙、文法のレベルが若干高すぎたために、語彙や文法の解説中心の授業となってしまう、授業の到達目標であったパラグラフ・リーディング、パラグラフ要約を十分に実践することができませんでした。本年度は、昨年度よりパラグラフ・リーディングに向けたテキストを選定しました。4～5 のパラグラフからなる、比較的平易な語で書かれた 300 語程度の英文エッセイを用いることにより、昨年度十分達成できなかったパラグラフ要約や批判的読解にも取り組む時間を増やす予定です。

【Outline and objectives】

This class intends to teach students the skills to read English articles consist of several paragraphs with accuracy. Accurate reading requires a constant speed. In other words, if you stop reading every time you have an unknown word, it will interrupt your reading speed, consequently will harm your understanding of the article. In order to cope with such kind of problem, this course will adopt the training of reading aloud. By learning the technique of reading aloud, you will have better access to English way of thinking which is totally different from that of Japanese. It will be a great help for you to increase your English reading skill. The goal of this course is to encourage students to work on various English reading tasks actively using practical and useful skills learned through the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

菊池 かおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 23 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の記事やプレゼンテーションを日本語への逐語訳というステップを経なくとも、すばやく理解できる力を養います。そのために、パラグラフやエッセイ、そしてプレゼンテーションの構造に留意しながら論旨を把握し、必要な情報を素早く入手することに重点を置きます。また、得られ情報をもとに多角的視点から分析し、批判的思考力を養いながら、自分の意見を論理的に英語で書く練習も行います。

【到達目標】

未知語をすべて調べなくても、大意を把握できる。そして、得られた情報を鵜呑みにすることなく、内容を咀嚼するための論理的思考力と批判的思考力を身に付ける。さらに、その内容について、自分の意見を明確に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画は進捗状況によって柔軟に変化しますが、基本的には Reading と Watching、そして Writing を組み合わせながら進める実践演習型の授業です。授業では、適宜、グループワークやライティングを行い、リアクションペーパーの提出もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容、方針、成績評価などを説明する
2	タイトルとは？	タイトルからトピックと大まかな内容を把握する
3	パラグラフの構造を学ぶ（1）	パラグラフの構成を理解し、ヘディングをつける
4	パラグラフの構造を学ぶ（2）	パラグラフの構成を理解し、ライティングを行う
5	序論と結論の役割を学ぶ（1）	序論と結論から本文の内容を把握する
6	序論と結論の役割を学ぶ（2）	プレゼンテーションの導入を見て、内容を把握する
7	中間テスト	ここまで学んだことの理解度をチェックする
8	エッセイの構造を分析する（1）	エッセイの構造を理解した上で読解する
9	スキミングとスキヤニング（1）	スキミングとスキヤニングを理解する
10	スキミングとスキヤニング（2）	スキミングとスキヤニングの実践演習をする
11	リスニング演習と記事の読解（1）	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
12	エッセイの構造を分析する（2）	エッセイの構造を理解した上で要約する
13	リスニング演習と記事の読解（2）	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
14	期末テスト	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に配布するプリントの予習と復習。それ以外の課題がある場合は、授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業中に、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・課題・小テストなど） 40%・中間・期末テスト 60%
欠席が4回以上になった者は単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

ライティングの基礎が学べたという意見があったので、今年度もわかりやすく伝えられるように努めます。

【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their reading and listening skills. The course also aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

菊池 かおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 23 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の記事やプレゼンテーションを日本語への逐語訳というステップを経なくても、すばやく理解することのできる力を養います。そのため、前期に学んだことを踏まえて、様々なエッセイ形式に留意しながら論旨を把握し、必要な情報を素早く入手することに重点を置きます。また、前期に引き続き、情報を多角的観点から分析し、批判的思考力を養いながら、自分の意見を論理的に英語で書く練習も行います。

【到達目標】

ことなるエッセイ形式に留意しながら素早く大意を把握できる。そして、得られた情報を鵜呑みにすることなく、内容を咀嚼するための論理的思考力と批判的思考力を身に着ける。さらに、その内容についての自分の意見を論理的に表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画は進捗状況によって柔軟に変化しますが、基本的には Reading と Watching、そして Writing を組み合わせながら進める実践演習型の授業です。授業では、適宜、グループワークやライティングを行い、リアクションペーパーの提出もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容、方針、成績評価などを説明する
2	エッセイの基本的な構造	基本的な構造について考える
3	Agree and Disagree (1)	Agree and Disagree のエッセイ形式を理解する
4	Agree and Disagree (2)	Agree and Disagree のエッセイ形式を理解する
5	リスニング演習と記事の読解 (1)	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
6	リスニング演習と記事の読解 (2)	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
7	中間テスト	ここまで学んだことの理解度をチェックする
8	Compare and Contrast(1)	Compare and Contrast のエッセイ形式を理解する
9	Compare and Contrast (2)	Compare and Contrast のエッセイ形式を理解する
10	リスニング演習と記事の読解 (3)	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
11	リスニング演習と記事の読解 (4)	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
12	Problem and Solution (1)	Problem and Solution のエッセイ形式を理解する
13	Problem and Solution (2)	Problem and Solution のエッセイ形式を理解する
14	期末テスト	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に配布するプリントの予習と復習。それ以外の課題がある場合は、授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業中に、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・課題・小テストなど）40%・中間・期末テスト 60%
欠席が4回以上になった者は単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

ライティングの基礎が学べたという意見があったので、今年度もわかりやすく伝えられるように努めます。

【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their reading and listening skills. The course also aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

本間 章郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
文 1 年：英語 24 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、複数のパラグラフからなる英語の文章を的確に読むことのできる能力の育成を目指します。授業では英字新聞を中心とする、時事英語の教科書を使用します。前後のパラグラフの関連性を意識して、重要な情報を的確につかみ取り、内容を把握できるようになることを意識してください。同時に時事英語を理解する上で必要な単語や語句を覚えていきます。自分で英語の勉強を進める上で、英字新聞に限らず、さまざまなメディアの英語に接すると思いますが、授業で学んだ単語・語句、あるいは表現などを活用できるようにすることを期待します。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の技能の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 時事英語に頼り出す重要な単語・語句を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、英作文を提出してもらいます。また、数回、小テストをおこないます。小テストはリスニング、あるいは語彙の理解などを問う問題になります。授業の進捗と受講者の教科書の内容への理解に応じて、適宜、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
第 2 回	Chapter 1: 国内政治	問題演習及び読解
第 3 回	Chapter 1: 国内政治	問題演習及びリスニング
第 4 回	Chapter 2: 経済・ビジネス (1)	問題演習及び読解
第 5 回	Chapter 2: 経済・ビジネス (1)	問題演習及びリスニング
第 6 回	Chapter 3: 経済・ビジネス (2)	問題演習及び読解
第 7 回	Chapter 3: 経済・ビジネス (2)	問題演習及びリスニング
第 8 回	Chapter 4: 外交・国際会議	問題演習及び読解
第 9 回	Chapter 4: 外交・国際会議	問題演習及びリスニング
第 10 回	Chapter 5: 軍事	問題演習及び読解
第 11 回	Chapter 5: 軍事	問題演習及びリスニング
第 12 回	Chapter 6: 海外政治情勢	問題演習及び読解
第 13 回	Chapter 6: 海外政治情勢	問題演習及びリスニング
第 14 回	学期末試験	教科書の内容についてのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。該当する英文を読み、わからない単語・表現を調べて内容を把握し、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

English for Mass Communication 2019 Edition (『時事英語の総合演習 — 2019 年度版』)
堀江洋文他著 朝日出版社 2019 年 1600 円

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト (60%)、英作文 (20%)、小テスト (20%) から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) と (4) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から判断します。

なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位習得を認めないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度、新規に担当したのでアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

In this course, students will be introduced to various contemporary issues of Japan and the World through news reports in English. The news topics help students realize how critical various problems facing Japan and the world are. By reading the news articles, students will keep in mind the logical relationships between paragraphs and get proper understanding of them. And students have to memorize frequently used words and phrases in English news reports. These words and phrases related with important topics are helpful for students willing to read or watch more news reports in English. I hope students can improve their English skills and get a better sense of various contemporary issues.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

本間 章郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 24 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、効果的な英語のリーディングのストラテジーを中心に学習します。また教科書のトピックに関して自分の意見を英語で話したり、書いたりすることも学びます。

【到達目標】

This course aims at two goals: 1) to learn reading strategies such as skimming, scanning, summarizing, paraphrasing or inferencing; and 2) to learn and practice summary writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- 1) You will learn reading skills, such as skimming, scanning, summarizing or paraphrasing.
- 2) You will develop your English vocabulary.
- 3) You will discuss the topic of each Chapter with your classmates.
- 4) You will have a lot of pair work and group work in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction/Setting Goals/Self-introduction	I will introduce this course. You will set your goals for this semester and this class. You will write your goals and self-introduction.
2	Self-Introduction	You will introduce yourself to your classmates. Chapter 2 You will learn about political correctness in Chapter 2.
3	Chapter 2	You will continue to study Chapter 2.
4	Chapter 3	You will learn the effect of your attitudes on your career.
5	Chapter 3	You will continue to study Chapter 3.
6	Chapter 4	You will learn diversity in human senses and think of the way to deal with diversity.
7	Chapter 4	You will continue to study Chapter 4.
8	Chapter 5	You will learn about creative thinking.
9	Chapter 5	You will continue to study Chapter 5.
10	Chapter 7	You will learn about typical American students' diet and think of wellness.
11	Chapter 7	You will continue to study Chapter 7.
12	Chapter 11	You will learn how you should be skillful readers.
13	Chapter 11 Review	You will continue to study Chapter 11.
14	Self-Reflection	You will reflect on your academic performance and set your goals for the next year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read every week reading assignment and look up words and phrases you don't know in the dictionary
- 2) to prepare for quizzes every week
- 3) to watch or listen to an English program regularly
- 4) to practice overshadowing text every week
- 5) to do assignments, submit them, and meet the deadline

【テキスト（教科書）】

Title: Select Readings (2nd Edition). Upper-Intermediate
Authors: Linder Lee, and Jean Bernard
Publisher: Oxford University Press
Publishing Year: 2011

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), weekly quizzes (10%), assignments (10%), and final examinations (60%)

*If you have four absences per semester without permission, do not make a presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Most of my students who took this course seemed to be satisfied with this class. I would like to make this course more effective for students' English learning.

【学生が準備すべき機器他】

Hosei's Educational Online Learning System (H'etude)

【その他の重要事項】

You are expected to participate in this class actively. Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class.

【Outline and objectives】

You will mainly learn effective English reading in this class. You will express (speak and write) your thought of topics in the textbook in English and exchange them with your classmates. This course aims to enhance your English holistically.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I 2016 年度以前入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 25 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。また、テレビ、インターネットなどのニュースにも十分に対応することができるように、リスニング能力も向上させます。

【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

CD 付きの教材を使用し、リスニングの課題を出します。授業においては、内容の精読に加えて、大意を把握する速読を組み合わせます。また、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を解説し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	第1課	海外留学をめぐる議論
3	第1課	海外留学に対する各自の意見
4	第2課	原子力発電をめぐる議論
5	第2課	エネルギーに対する各自の意見
6	第3課	移民流入をめぐる議論
7	第3課	移民流入に対する各自の意見
8	第4課	セイフティネットをめぐる議論
9	第4課	セイフティネットに対する各自の意見
10	第5課	地球温暖化をめぐる議論
11	第5課	地球温暖化に対する各自の意見
12	第6課	男女雇用均等についての議論
13	第6課	男女雇用均等に対する各自の意見
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの英文を必ず毎回事前に読んでおいてください。また、リスニングの課題にも取り組むてください。

【テキスト（教科書）】

Michael Hood, Think Smart（金星堂）
その他、適宜プリントを使用します。

【参考書】

その都度授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 10 %
試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は国内研究のため授業を担当していません。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

LANe100LA

English 1 II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II 2016 年度以前入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 25 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期と同様です。

【到達目標】

春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期の内容に加えて、章ごとのテーマに対して、各自英語で意見を表現してもらうため、パラグラフ・ライティング作業を組み合わせます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	第7課	教育についての議論
3	第7課	教育の役割に対する各自の意見
4	第8課	食品添加物についての議論
5	第8課	食品添加物の表示に対する各自の意見
6	第9課	デジタル社会の行方についての議論
7	第9課	デジタル社会のマナーに対する各自の意見
8	第10課	能力給についての議論
9	第10課	能力給に対する各自の意見
10	第11課	アメリカ軍基地についての議論
11	第11課	アメリカ軍基地に対する各自の意見
12	第12課	税制度についての議論
13	第12課	税金に対する各自の意見
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。各章ごとのリスニングの課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

春学期と同様です。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 10 %
試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は国内研究のため授業を担当していません。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills, and to prepare students to develop critical thinking ability through widely ranged English texts.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I 2016 年度以前入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 26 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

世界のニュースを正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。基本文法事項や辞書の使い方についても理解を深め、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを中心に進める。扱うジャンルは社会、文化、政治経済、環境、スポーツなど様々だが、関連する情報やデータをネットで探して読み取る作業も行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の解説とプレテスト
第 2 回	Unit 1: Japan's demographic sweet spot	Reading & Exercises
第 3 回	Unit 2: The crisis in Pakistan's schools	Reading & Exercises
第 4 回	Unit 3: Showing Spine to the Censors, a Bookstore Flourishes	Reading & Exercises
第 5 回	Unit 4: Easier Taught Than Done? Most Popular Class Tackles Happiness	Reading & Exercises
第 6 回	Unit 5: The Case for 'American First' Economics	Reading & Exercises
第 7 回	Unit 7: Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control	Reading & Exercises
第 8 回	Unit 8: Sumo gender controversy flares anew	Reading & Exercises
第 9 回	Unit 9: How to Make A.I. Human-Friendly	Reading & Exercises
第 10 回	Unit 10: Hollywood's protest problem	Reading & Exercises
第 11 回	Unit 11: A Linguistic Melting Pot That Can Still Boil Over	Reading & Exercises
第 12 回	Unit 12: The Star who brought the cosmos within reach	Reading & Exercises
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめとポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

English through the News Media — 2019 Edition — (Asahi Press, 2019)

【参考書】

[i]Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition [i](Cambridge U. P., 2010)
[i]Practical English Usage [i](Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。チャンクリーディングと音読を中心に行ったが、その効果を実感し、読むスピードや発音などに変化を感じたというコメントが寄せられた。また、毎週授業の最初に行った洋楽のクイズは楽しんで取り組めたようである。授業の進め方が早かったとの指摘があったので改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 26 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

世界のニュースを正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。基本文法事項や辞書の使い方についても理解を深め、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを中心に進める。扱うジャンルは社会、文化、政治経済、環境、スポーツなど様々だが、関連する情報やデータをネットで探して読み取る作業も行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の解説とプレテスト
第 2 回	Unit 13: Van Gogh's obsession with Japan	Reading & Exercises
第 3 回	Unit 14: Maldives crisis may draw in India and China	Reading & Exercises
第 4 回	Unit 15: Fish Instead of Flamin' Hot Cheetos, and Feeling Lost	Reading & Exercises
第 5 回	Unit 16: Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut	Reading & Exercises
第 6 回	Unit 17: Nobel for effort to abolish nuclear bombs	Reading & Exercises
第 7 回	Unit 18: Saudi Arabia lightens up	Reading & Exercises
第 8 回	Unit 19: Irish Border Problem Remains A Thorn for Britain in Brexit	Reading & Exercises
第 9 回	Unit 20: Bitcoin comes to campus	Reading & Exercises
第 10 回	Unit 21: Horrors still await young Rohingya	Reading & Exercises
第 11 回	Unit 23: The wrong way for Germany to debate Islam	Reading & Exercises
第 12 回	Unit 26: Seoul OKs \$2.6 million to host Northerners	Reading & Exercises
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめとポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。

・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

English through the News Media — 2019 Edition — (Asahi Press, 2019)

【参考書】

[i]Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition [i](Cambridge U. P., 2010)

[ii]Practical English Usage [ii](Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。チャンクリーディングと音読を中心に行ったが、その効果を実感し、読むスピードや発音などに変化を感じたというコメントが寄せられた。また、毎週授業の最初に行った洋楽のクイズは楽しんで取り組めたようである。授業の進め方が早かったとの指摘があったので改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

利根川 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 27 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではリーディングを中心に勉強します。現代社会の幅広いトピックについて書かれたある程度の長さの文章を、パラグラフ構成に注意して、より良く速く読めるようになることを目指します。語彙力を高めていくことも目標のひとつです。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も養いましょう。

【到達目標】

1. アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2. パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
3. 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説を行なうほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の内容・進め方の説明
2 回目	Chapter 2. Health Care Megatrends: How Well Can Your Doctor Play Video Games? 導入	健康についての文章の大枠を把握する
3 回目	Chapter 2 詳細	健康についての文章の細部を理解する
4 回目	Chapter 6. Global Warming: Get Ready to Mitigate and Adapt 導入	環境についての文章の大枠を把握する
5 回目	Chapter 6 詳細	環境についての文章の細部を理解する
6 回目	Chapter 9. Personalization: The Megatrend that is Reshaping Marketing 導入	ビジネスについての文章の大枠を把握する
7 回目	Chapter 9 詳細	ビジネスについての文章の細部を理解する
8 回目	新聞・雑誌記事等 選択	各自が持ち寄った記事を紹介し、投票する
9 回目	Chapter 11. Urbanization: The Pros and Cons 導入	ライフスタイルについての文章の大枠を把握する
10 回目	Chapter 11 詳細	ライフスタイルについての文章の細部を理解する
11 回目	新聞・雑誌記事等 導入	投票で決めた記事の大枠を把握する
12 回目	新聞・雑誌記事等 詳細 & TED のスクリプト 導入	投票で決めた記事の細部を理解する & スクリプトの大枠を把握する
13 回目	TED のスクリプト 詳細	スクリプトの細部を理解する
14 回目	期末テストと補足	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。記事紹介に向けて、各自が関心のある記事を探して読み、提出課題を作成します。

【テキスト（教科書）】

Megatrends Shaping Our Future 『新たな時代を見据えて』（成美堂）

【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 45%、記事紹介課題関連 15%、期末テスト 40%。原則として欠席が 4 回以上になると受講資格がなくなります。遅刻・早退は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

【Outline and objectives】

This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. The textbook includes essays on real world issues, such as urbanization and health care trends. In addition to studying the textbook, each student will search independently for an interesting article in English newspapers and magazines and will become familiar with authentic materials offered in English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

利根川 真紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
文 1 年：英語 27 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、パラグラフの理解や語彙力の向上に力を入れ、現代社会の幅広いトピックについて書かれた文章を正確に、そして速く読むことができるようにしていきます。読んだ内容をもとに、自分の意見を英語で書くことができるようになることも目指します。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、様々な英語の文体に慣れ、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も養いましょう。

【到達目標】

1. アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2. パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
3. 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説を行なうほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。なお、春学期の終わりに詳しく説明しますが、夏休み中に洋書を一冊読んでおいてください。秋学期の授業で、読んだ本について各自がプレゼンテーションを行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション、ブック・プレゼンテーションの準備	授業の内容・進め方の説明
2 回目	Chapter 4. The Globalization of Food: Advantages and Disadvantages 導入	健康についての文章の大枠を把握する
3 回目	Chapter 4 詳細	健康についての文章の細部を理解する
4 回目	Chapter 7. Deadly Natural Disasters: Dealing with Tsunamis 導入	環境についての文章の大枠を把握する
5 回目	Chapter 7 詳細	環境についての文章の細部を理解する
6 回目	ブック・プレゼンテーション（1～11）	夏休みに読んだ洋書のプレゼン（前半）とレスポンス
7 回目	ブック・プレゼンテーション（12～24）	夏休みに読んだ洋書のプレゼン（後半）とレスポンス
8 回目	ブックパッセージについてのフォローアップ	単語・イディオム・構文のチェック
9 回目	Chapter 10. Rethinking Regulation: Finance and Investment after the Subprime Loan Meltdown 導入	ビジネスについての文章の大枠を把握する
10 回目	Chapter 10 詳細	ビジネスについての文章の細部を理解する
11 回目	Chapter 12. Depopulation: Vanishing Villages in Rural Japan 導入	ライフスタイルについての文章の大枠を把握する
12 回目	Chapter 12 詳細	ライフスタイルについての文章の細部を理解する
13 回目	TED のスクリプト	スクリプトを理解する
14 回目	期末テストと補足	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。ブック・プレゼンテーションに向けて、クラスメートが選んだパッセージにもすべて目を通して課題を提出します。

【テキスト（教科書）】

Megatrends Shaping Our Future 『新たな時代を見据えて』（成美堂）

【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、プレゼンテーション課題関連 20%、期末テスト 40%。原則として欠席が 4 回以上になると受講資格がなくなります。遅刻・早退は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

【Outline and objectives】

This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. The textbook includes essays on real world issues, such as urbanization and health care trends. In addition to studying the textbook, each student will give a 5-minute presentation on an English book of his or her own choice.

LANe100LA

English 1 I2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I2016 年度以前入学者

村松 美映子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 28 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立つてとらえることができるようになることを目的としています。毎時間 NHK の「世界へ発信! SNS 英語術」を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、プレゼンテーション、英語による質疑応答、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

【到達目標】

1. 文章の段落を意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 英語の音声の特徴に注意を払いながら、プレゼンテーションができるようになる。
4. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
5. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
6. 授業外でも自律的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1.NHK「世界へ発信！ SNS 英語術」

- ①指定のニュースをつかい 2 人が内容をまとめて英語でプレゼンテーションをします。発表には 5 枚から 7 枚のパワポを準備して頂きます。
- ②発表の内容について、英語で質疑応答をします。
- ③次のニュースを配布し、辞書を引きながら速読します。
- ④ニュースの解説
- ⑤単語の学習
- 2 テキストの学習
- ① Words& Phrases
- ② Before you Watch
- ③ Watch the News
- ④ Understand the News
- ⑤ News の読解
- ⑥ Review the Key Expressions
- ⑦ Writing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】	
回	テーマ 内容
1	最新のニュース テキストの学習 Manga Message for the Young（語彙）
2	最新のニュース テキストの学習 Manga Message for the Young (DVD)
3	最新のニュース テキストの学習 Manga Message for the Young (訳読)
4	最新のニュース テキストの学習 Manga Message for the Young（英作文）
5	最新のニュース テキストの学習 Jumping for Victory（語彙）
6	最新のニュース テキストの学習 Jumping for Victory (DVD)
7	最新のニュース テキストの学習 Jumping for Victory (訳読)
8	最新のニュース テキストの学習 Jumping for Victory（英作文）
9	最新のニュース テキストの学習 Seeking Quality ove Cost（語彙）
10	最新のニュース テキストの学習 Seeking Quality ove Cost (DVD)
11	最新のニュース テキストの学習 Seeking Quality ove Cost (訳読)
12	最新のニュース テキストの学習 Seeking Quality ove Cost（英作文）
13	最新のニュース テキストの学習 Getting Dads Home Earlier（語彙）

14 期末テスト 期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 準備学習（1 時間から 2 時間）テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。次のプレゼンテーションが当たっている学生は発表原稿を用意する。

2. 復習（1 時間から 2 時間）テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。ニュースは放送内容を聴き直し、語彙、訳読、シャドーイングをして単語テストの準備をしましょう。

【テキスト（教科書）】
Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki,& Erika C. Yamazaki.(2017) What's on Japan, Kinseido

【参考書】
VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 40 %、プレゼンテーション 30 %、平常点 30 %
原則として、欠席が 4 回以上の場合は、単位の認定はいたしません。
遅刻は 15 分まで

【学生の意見等からの気づき】
今年度より担当のため特になし

【学生が準備すべき機器他】
英和、和英辞書

【その他の重要事項】
上記のシラバスは、授業進行上、若干の変更を加えることがあります。
オフィスアワーは授業の前後教室または教授室

【Outline and objectives】
多言語多文化社会は進行中です。その中でグローバルに活躍することが期待されています。世界共通語としての英語を使い、日本文化を考え、世界を知り、分析、批判する能力を養っていきましょう。

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

村松 美映子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 28 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立つてとらえることができるようになることを目的としています。毎時間 NHK の「世界へ発信! SNS 英語術」を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、プレゼンテーション、英語による質疑応答、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

【到達目標】

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 英語の音声の特徴に注意を払いながら、プレゼンテーションができるようになる。
4. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
5. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
6. 授業外でも自律的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1.NHK「世界へ発信! SNS 英語術」

- ①指定のニュースをつかひ 2 人が内容をまとめて英語でプレゼンテーションをします。発表には 5 枚から 7 枚のパワポを準備して頂きます。
- ②発表の内容について、英語で質疑応答をします。
- ③次のニュースを配布し、辞書を引きながら速読します。
- ④ニュースの解説
- ⑤単語の学習

2 テキストの学習

- ① Words & Phrases
- ② Before you Watch
- ③ Watch the News
- ④ Understand the News
- ⑤ News の読解
- ⑥ Review the Key Expressions
- ⑦ Writing

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (DVD)
2	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier(訳読)
3	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (英作文)
4	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (語彙)
5	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (DVD)
6	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (訳読)
7	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (英作文)
8	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (語彙)
9	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (DVD)
10	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (訳読)
11	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (英作文)
12	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out (語彙)

13 最新のニュース Breaking Out (DVD)

テキストの学習

14 テキストの学習

Breaking Out (訳読 英作文)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 準備学習（1 時間から 2 時間）テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。次のプレゼンテーションが当たっている学生は発表原稿を用意する。
2. 復習（1 時間から 2 時間）テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。ニュースは放送内容を聴き直し、語彙、訳読、シャドーイングをして単語テストの準備をしましょう。

【テキスト（教科書）】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki,& Erika C. Yamazaki.(2017) What's on Japan, Kinseido

【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 40 %、プレゼンテーション 30 %、単語テスト 20 %、平常点 10 %

原則として、欠席が 4 回以上の場合は、単位の認定はいたしません。

遅刻は 15 分まで

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当のため、特になし

【学生が準備すべき機器他】

英和和英辞書

【その他の重要事項】

上記のシラバスは、授業進行上、若干の変更を加えることがあります。オフイスアワーは授業の前後教室または教授室

【Outline and objectives】

多言語多文化社会は進行中です。その中でグローバルに活躍することが期待されています。世界共通語としての英語を使い、日本文化を考え、世界を知り、分析、批判する能力を養っていきましょう。

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

清水 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 29 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Inside Science の DVD と教科書によって最新科学の世界を英語で学ぶ。AIP (American Institute of Physics, 米国物理学協会) が提供する最先端の 21 世紀科学に映像と活字の双方へと英語で迫る。

加えて欧米文化理解の一環として、欧米文化理解を深める映像を前期と後期に一度は鑑賞したい。

【到達目標】

Inside Text の DVD とテキストの学習によって、今我々人類が直面している様々な問題－宇宙、天文、エネルギー、気象、人工知能、脳科学、環境問題、健康とビジネス－について学び、英語スキルの向上をはかり、国際感覚を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 3～4 回の授業で仕上げたい。キーワードである Word-exercise と Pre-study を習得したうえで、DVD の 1st Watch を経て問題を解き、2nd Watch の Listening によって語句の穴埋めをこなし、内容の精緻な読解を目指す。さらに vocabulary, phrase、英作文、英語による映像要約による穴埋めを経て、最後に関連したテーマへの設問を考え、意見を交換する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序/イントロダクション	本授業を履修する心構え、ルールとマナー
2	Unit 1	No Moon At All? 前編
3	Unit 1	No Moon At All? 中編
4	Unit 1	No Moon At All? 後編
5	Unit 2	Tackling Violent Wildfires 前編
6	Unit 2	Tackling Violent Wildfires 中編
7	Unit 2	Tackling Violent Wildfires 後編
8	Unit 3	Check the Soil First 前編
9	Unit 3	Check the Soil First 中編
10	Unit 3	Check the Soil First 後編
11	Unit 4	The Beauty of Snowflakes 前編
12	Unit 4 + 映像批判分析	The Beauty of Snowflakes 残りの部分、映像対象については未定
13	映像批判分析 質疑応答	映像対象については未定 今学期学習したことの質疑応答 + まとめテストの説明
14	授業内まとめのテストとその解説	内容は未定ならびに秘密事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。Reading の英文を読んでおく。

宿題:各チャプター内の練習問題

【テキスト（教科書）】

Yoshinobu Nozaki 他。『*inside Science* 映像で学ぶ 最新科学の深層』2019 年。ISBN978-4-7647 - 4077 - 8 C1082 2,000 円 + 税

【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

【成績評価の方法と基準】

2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50 %) の総合判断による。60 点以上が合格点である。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn and explore in English “both the small corners and the broad vistas of the modern scientific landscape” through *Inside Science*. The stories *Inside Science* covers are science news supported by AIP (American Institute of Physics). With the high-qualified, insightful science news across the web and in print, we would hopefully be at the cutting edge of modern science of 21st century in English.

We would also like to enjoy DVDs for understanding Western cultures both in the spring and the autumn term.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

清水 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 29 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Inside Science の DVD と教科書によって最新科学の世界を英語で学ぶ。AIP (American Institute of Physics、米国物理学協会) が提供する最先端の 21 世紀科学に映像と活字の双方へと英語で迫る。

加えて欧米文化理解の一環として、欧米文化理解を深める映像を前期と後期に一度は鑑賞したい。

【到達目標】

Inside Text の DVD とテキストの学習によって、今我々人類が直面している様々な問題－宇宙、天文、エネルギー、気象、人工知能、脳科学、環境問題、健康とビジネス－について学び、英語スキルの向上をはかり、国際感覚を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 3～4 回の授業で仕上げたい。キーワードである Word-exercise と Pre-study を習得したうえで、DVD の 1st Watch を経て問題を解き、2nd Watch の Listening によって語句の穴埋めをこなし、内容の精緻な読解を目指す。さらに vocabulary, phrase、英作文、英語による映像要約による穴埋めを経て、最後に関連したテーマへの設問を考え、意見を交換する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序/イントロダクション	本授業を履修する心構え、ルールとマナー
2	Unit 5	Coping with the Extreme Weather 前編
3	Unit 5	Coping with the Extreme Weather 中編
4	Unit 5	Coping with the Extreme Weather 後編
5	Unit 6	Is Love an Addiction? 前編
6	Unit 6	Is Love an Addiction? 中編
7	Unit 6	Is Love an Addiction? 後編
8	Unit 7	Self-Driving Future 前編
9	Unit 7	Self-Driving Future 中編
10	Unit 7	Self-Driving Future 後編
11	Unit 8	No Needle, No Thread? 前編
12	Unit 8 + 映像批判分析	No Needle, No Thread? 残りの部分、映像対象については未定
13	映像批判分析 質疑応答	映像対象については未定 今学期学習したことの質疑応答 + まとめテストの説明
14	授業内まとめのテストとその解説	内容は未定ならびに秘密事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。Reading の英文を読んでおく。

宿題:各チャプター内の練習問題

【テキスト（教科書）】

Yoshinobu Nozaki 他。『*inside Science* 映像で学ぶ 最新科学の深層』2019 年。ISBN978-4-7647 - 4077 - 8 C1082 2,000 円 + 税

【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

【成績評価の方法と基準】

2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50 %) の総合判断による。60 点以上が合格点である。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn and explore in English “both the small corners and the broad vistas of the modern scientific landscape” through *Inside Science*. The stories *Inside Science* covers are science news supported by AIP (American Institute of Physics). With the high-qualified, insightful science news across the web and in print, we would hopefully be at the cutting edge of modern science of 21st century in English.

We would also like to enjoy DVDs for understanding Western cultures both in the spring and the autumn term.

LANe100LA

English 1 I

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 30 組

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
平易な英文を速く正確に読解できるようにし、同時に、英文に用いられている語彙・表現を身につける。
異文化コミュニケーションを学ぶ。

【到達目標】
1. 英文を、一語ごとに立ち止まることなく、意味のかたまり（句や節）を意識しながら一定の速度で読むことができる。（フレーズ・リーディングの習得。）
2. パラグラフの構造・構成を意識して長文を正確に読み、内容を的確につかむことができる。（パラグラフ・リーディングの習得。）
3. 読んで理解できた英文を、日本語・英語の両方で要約できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
予習時に生じた疑問を解決し、授業内に確認していくことによって本文の理解を確実にすることが、授業で行うことの中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業について。フレーズ・リーディング、辞書の活用法について。
2	Unit 1	Unit1 の問題演習 1
3	Chapter 1	Unit1 の問題演習 2
4	Chapter 1	Exercises
5	Chapter 2	Unit2 の問題演習 1
6	Chapter 2	Unit2 の問題演習 2
7	Chapter 2	Exercises
8	Chapter 3	Unit3 の問題演習 1
9	Chapter 3	Unit3 の問題演習 2
10	Chapter 3	Exercises
11	Chapter 4	Unit4 の問題演習 1
12	Chapter 4	Unit4 の問題演習 2
13	Chapter 4	Exercises
14	review	1 から 14 回までの復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は必須である。
(1) 本文を読み、不明点を洗い出す
(2) 練習問題を解く
ことが必要。

【テキスト（教科書）】
1. The Powerful Reader 2nd Edition (Macmillan Language House)
2. 英語辞書（英和、英英など）。
準備学習で使用するだけでなく、毎回の授業に必ず持参のこと。

【参考書】
指定しない。

【成績評価の方法と基準】
小テスト 50 %
その他、授業への参加等での平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度同様に副教材として洋画等の DVD を英語字幕、英語音声で視聴することにより
身近な英語との接点を模索する予定であるが、本年度はより多岐にわたったジャンルやメディア等を使用する予定である。

【Outline and objectives】
This course introduces reading skill and useful vocabulary and phrases which help inter-cultural communication.

LANe100LA

English 1 II

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 30 組

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
平易な英文を速く正確に把握（読解・聴解）できるようにし、同時に、英文に用いられている語彙・表現を身につける。

【到達目標】
1. 英文を、一語ごとに立ち止まることなく、意味のかたまり（句や節）を意識しながら一定の速度で読むことができる。（フレーズ・リーディングの習得。）
2. パラグラフの構造・構成を意識して長文を正確に読み、内容を的確につかむことができる。（パラグラフ・リーディングの習得。）
3. 読んで理解できた英文を、日本語・英語の両方で要約できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
予習時に生じた疑問を解決し、本文の理解を確実にすることが、授業で行うことの中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	Unit II	Reading
2	Chapter 6	Exercises
3	Chapter 7	Reading
4	Chapter 7	Exercises
5	Chapter 8	Reading
6	Chapter 8	Exercises
7	Chapter 9	Reading
8	Chapter 9	Exercises
9	Chapter 10	Reading
10	Chapter 10	Exercises
11	Chapter 11	Reading
12	Chapter 11	Exercises
13	Chapter 12	Reading
14	Chapter 12	Exercises

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は必須である。
(1) 本文を読み、不明点を洗い出す
(2) 練習問題を解く
ことが必要。

【テキスト（教科書）】
1. The Powerful Reader 2nd Edition. Macmillan Language House
2. 英語辞書（英和、英英など）。
準備学習で使用するだけでなく、毎回の授業に必ず持参のこと。

【参考書】
指定しない。

【成績評価の方法と基準】
小テスト 70%
授業への参加等 30%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度同様に視聴覚教材を用いた英語とのふれあいの機会を持ちたいと思っているがジャンル、メディアに関しては広くアンケートを取ったうえで検討する予定

【Outline and objectives】
This course introduces reading skill and useful vocabulary which help inter-cultural communication.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I 2016 年度以前入学者

中和 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 文 1 年：英語 31 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。

使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15 の切り口から概観したエッセイ集である。大学生、とりわけ文学部生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができる。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。
 講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。
 音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。
 毎回の授業の最後に、本文の理解を深めるためのリアクション・ペーパー（英語）を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習復習の仕方、辞書の活用法、などについて Unit 1 の冒頭を用いて説明する。
2	Unit 1 The Concept of Beauty 「美」の概念 ＜前半＞	第 1～3 パラグラフ、および練習問題
3	Unit 1 ＜後半＞	第 4～7 パラグラフ、および練習問題
4	Unit 2 Greek Mythology -- Stories of Gods and Humans ギリシア神話―― 神々と人間の物語 ＜前半＞	第 1～3 パラグラフ、および練習問題
5	Unit 2 ＜後半＞	第 4～7 パラグラフ、および練習問題
6	Unit 3 The Bible -- Mainstay of Christianity 聖書――キリスト教 の支柱 ＜前半＞	第 1～4 パラグラフ、および練習問題
7	Unit 3 ＜後半＞	第 5～6 パラグラフ、および練習問題
8	復習	前半：Unit 1～3 の復習、補足 後半：Unit 1～3 の復習試験
9	Unit 4 Renaissance -- Transcending Cultural Movements ルネサンス――ジャ ンルを横断するムーブ メント ＜前半＞	第 1～4 パラグラフ、および練習問題

10	Unit 4 ＜後半＞	第 5～6 パラグラフ、および練習問題
11	Unit 5 The Structure of Fictional Literature 物語の構造 ＜前半＞	第 1～3 パラグラフ、および練習問題
12	Unit 5 ＜後半＞	第 4～7 パラグラフ、および練習問題
13	Unit 6 The Theater and Acting / Unit 8 The Rise of Cities（各自ど ちらかを選択）	各自のレポートに基づく、グループ ワーク
14	復習	前半：Unit 4～6, 8 の復習、補足 後半：Unit 4, 5 の復習試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須である。
 教科書の各 Unit を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や章末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。
 予習用ワークシート（要約、作文などの課題）が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

Christopher Belton / 小田島恒志, *TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity*, Kinseido, 2017. [『多元文化論エッセイ 響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】

大学～一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。
 いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。
 毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー計 15%、提出物 10 %）および復習試験（第 1 回 45 %、第 2 回 30 %）の成績の総合評価。
 4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
 遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の「学び合い」の時間を設けることが重要であるとわかったので、ペア／グループワークを効果的にとりいれたい。
 質問・発言のしやすい環境を作る。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening and summarizing skills. Using a textbook which discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings. They will also attain knowledge necessary for their university studies.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

中和 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 31 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。

使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15 の切り口から概観したエッセイ集である。大学生、とりわけ文学部生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができる。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。
講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。
音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。
毎回の授業の最後に、理解を深めるためのリアクションペーパー（英語）を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7 The English Language	全文、および練習問題
2	英語の変遷 Unit 9 Trusting in Recorded History 歴史という記録の信頼性 ＜前半＞	第 1～3 段落、および練習問題
3	Unit 9 ＜後半＞	第 4～8 段落、および練習問題
4	Unit 11 How Democracy Works 民主主義という制度＜前半＞	第 1～2 段落、および練習問題
5	Unit 11 ＜後半＞	第 3～6 段落、および練習問題
6	復習	前半：Unit 7, 9, 11 の復習、補足 後半：Unit 7, 9, 11 の復習試験
7	Unit 12 Marriage and the State 結婚と国家＜前半＞	第 1～3 段落、および練習問題
8	Unit 12＜後半＞	第 4～5 段落、および練習問題
9	Unit 13 The Meaning of Prayers 「祈り」のもつ意味＜前半＞	第 1～3 段落、および練習問題
10	Unit 13 ＜後半＞	第 4～5 段落、および練習問題
11	Unit 15 The Importance of Discipline 「しつけ＝規律」の重要性 ＜前半＞	第 1～3 段落、および練習問題
12	Unit 15 ＜後半＞	第 4～6 段落、および練習問題
13	復習	前半：Unit 12, 13, 15 の復習、補足 後半：Unit 12, 13, 15 の復習試験

14	・ Unit 10 Battles on Board Gamess 盤上の戦い——チェス／将棋／チャトランガ … ・ Unit 14 Mankind and Laughters 笑い人間 (各自どちらかを選択)	各自のレポートに基づく、グループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の各 Unit を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や巻末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

補助教材については、本文の予習のほか、予習用ワークシート（要約、作文などの課題）が課される場合がある。

【テキスト（教科書）】

Christopher Belton/小田島恒志, TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity, Kinseido, 2017. [『多元文化論エッセイ——響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】

大学～一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。
毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー計 12%、提出物 10%）および復習試験（第 1 回 39%、第 2 回 39%）の成績の総合評価。
4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

ペア／グループワークを活用して、受講者が互いに教え合う環境、発言や質問のしやすい環境を作る。

【Outline and objectives】

English 1 focuses on developing reading, listening and summarizing skills. Using a textbook which discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings. They will also attain knowledge necessary for their university studies.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I 2016 年度以前入学者

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学習した知識を基礎として、総合的な英語力を養うことを目的とします。

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を身につけます。特に、パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりに留意しつつ、構造・論旨を把握し、必要な知識・情報をつかみとること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点をおきます。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的視点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行ないます。授業の一環として「聴く力」の育成も行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる
- ②これまでに培った文法・構文を復習し強化する
- ③目的に応じた速度で英文を読み、必要な情報をつかみとる
- ④書き手の感情や意図、論旨を正確に把握し、批判的に読んだ上で、自分の考えを英語で書くことができる
- ⑤英語辞書の効果的な使い方を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

現代の社会的・文化的な事項を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の構造や内容、注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらう場合が多いのでしっかりと予習しましょう。その後、文章の内容について批判的に考え、英語で表現する練習を行います。学期を通して何度かライティング課題を課します。

学習内容の理解を確認・復習するための中間・期末試験を実施します。

*進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明
2	Dessert Wisdom Unit1	文章の購読、エクササイズ、ライティング
3	Cell Phone Culture Unit3	文章の購読、エクササイズ、ライティング
4	Men are from Mars, Women are from Venus Unit4	文章の購読、エクササイズ、ライティング
5	The Beginning Part of Botchan Unit5	文章の購読、エクササイズ、ライティング
6	Guernica Unit 6	文章の購読、エクササイズ、ライティング
7	中間試験	試験の実施、解説・復習
8	The Art of Lying Unit 7	文章の購読、エクササイズ、ライティング
9	The Three Secrets to Persuasion Unit 9	文章の購読、エクササイズ、ライティング
10	Malala Youzafski Nobel Peace Prize Lecture Unit 10	文章の購読、エクササイズ、ライティング
11	Working Conditions, Death from Overwork Unit12	文章の購読、エクササイズ、ライティング
12	Emotional Robots Unit 13	文章の購読、エクササイズ、ライティング

13	Maslow's Hierarchy of Needs Unit 14	文章の購読、エクササイズ、ライティング
14	期末試験	試験の実施、解説・復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自辞書を丁寧にひきながら指定された資料を読み、エクササイズを解いてきて下さい。また、その英文に関するプリントを事前に配布するので、プリントの問題を解いた上で授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

Torikai Shinichiro, Suzuki Natsuyo and Inda Sachiko, English through Active Learning (2019 年、朝日出版 ¥1700)

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（グループ/ペアワークへの参加）15%、ライティング課題 15%、期末試験各 35%で評価します。

*欠席回数が 4 回以上で履修継続は不可となります。遅刻は 2 回で欠席とし、20 分以上の遅刻も欠席として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当につきフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, this course will help students foster critical thinking skills, instead of accepting an object unquestioningly. This course will also offer instruction and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 II	2016 年度以前入学者
遠藤 郁子	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校までに学習してした知識を基礎として、総合的な英語力を養うことを目的とします。
複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を身につけます。特に、パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりに留意しつつ、構造・論旨を把握し、必要な知識・情報をつかみとること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点をおきます。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的視点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行ないます。授業の一環として「聴く力」の育成も行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】
この授業は以下の5つを到達目標とします：
①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる
②これまでに培った文法・構文を復習し強化する
③目的に応じた速度で英文を読み、必要な情報をつかみとる
④書き手の感情や意図、論旨を正確に把握し、批判的に読んだ上で、自分の考えを英語で書くことができる
⑤英語辞書の効果的な使い方を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認しますが、教師が確認する場合がありますが、グループやペアワークで確認してもらう場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき2回授業を行い、2回目の授業でライティング課題を課します。
学習内容の理解を確認・復習するための試験を学期中に2回行います。
※進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション・導入	授業内容の説明・文章の構造
2	Security Cameras ① CHAPTER 2	文章の購読、エクササイズ、ライティング
3	Security Cameras ② CHAPTER 2	文章の購読、エクササイズ、ライティング
4	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ① CHAPTER 4	文章の購読、エクササイズ、ライティング
5	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ② CHAPTER 4	文章の購読、エクササイズ、ライティング
6	Womanomics ① CHAPTER 5	文章の購読、エクササイズ、ライティング
7	Womanomics ② CHAPTER 5	文章の購読、エクササイズ、ライティング
8	中間試験	試験の実施、解説・復習
9	Extreme Sports ① CHAPTER 6	文章の購読、エクササイズ、ライティング
10	Extreme Sports ② CHAPTER 6	文章の購読、エクササイズ、ライティング
11	Casinos and Gambling ① CHAPTER 7	文章の購読、エクササイズ、ライティング
12	Casinos and Gambling ② CHAPTER 7	文章の購読、エクササイズ、ライティング

13	Spouse Hunting CHAPTER 8	文章の購読、エクササイズ、ライティング
14	期末試験	試験の実施、解説・復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自辞書を丁寧にひきながら指定された資料を読み、エクササイズを解いてきて下さい。また、その英文に関するプリントを事前に配布するので、プリントの問題を解いた上で授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】
Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

【参考書】
英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献（グループ／ペアワークへの参加）15%、ライティング課題 15%、期末試験各 35%で評価します。＊欠席回数が 4 回以上で履修継続は不可となります。遅刻は 2 回で欠席とし、20 分以上の遅刻も欠席として扱います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当によりフィードバックできません

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, this course will help students foster critical thinking skills, instead of accepting an object unquestioningly. This course will also offer instruction and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA					
English 1 I		2017 年度以降入学者			
LANe100LA					
E n g l i s h 1 I		2016 年度以前入学者			
新宅 美樹					
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 1/Thu.1					
営 1 年：英語 2 組					
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】					
パラグラフの構造に留意して、高度な英文を速読・音読・精読する。書き手の意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。					
【到達目標】					
①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことができるようになる。					
②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力を修得することができるようになる。					
③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解できるようになる。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3					
【授業の進め方と方法】					
①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。					
②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。					
③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
あり / Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
なし / No					
【授業計画】					
回	テーマ	内容			
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価の方法などの説明。			
2	Chapter 1	Chapter 1 Progressive Era Protagonists ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。			
3	Chapter 1	Chapter 1 Progressive Era Protagonists ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。			
4	Chapter 2	Chapter 2 Progressive Era Protagonists ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。			
5	Chapter 2	Chapter 2 Progressive Era Protagonists ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。			
6	Chapter 3	Chapter 3 Honor Through Heterosexuality ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。			
7	Chapter 3	Chapter 3 Honor Through Heterosexuality ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。			
8	Chapter 4	Chapter 4 Reflecting on the Self ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。			
9	Chapter 4	Chapter 4 Reflecting on the Self ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。			
10	Chapter 5	Chapter 5 Making a Man ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。			
11	Chapter 5	Chapter 5 Making a Man ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。			
12	Chapter 6	Chapter 6 Performing Meerkat and Warthog ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。			
13	Chapter 6	Chapter 6 Performing Meerkat and Warthog ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。			
14	前期の復習試験	Chapter1～Chapter 6			
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】					
①予習をして授業に臨むこと。					
予習の際に、英文を速読して論旨を把握することに努めてください。					
その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。					
②復習の際に、授業内に作成した英作文などを通して、重要語彙をしっかりと身につけてください。					
注意：1 回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。					
【テキスト（教科書）】					
教科書：デイズニアアニメと多様化する社会					
著者：園友 万裕					
出版社：英宝社					
出版年：2019 年					
価格：2000 円					
【参考書】					
なし					
【成績評価の方法と基準】					
期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%					
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。					
欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。詳細についてはオリエンテーションで説明する。					
【学生の意見等からの気づき】					
この教科書は、長く難しい表現を含む英文がありますので、細かい点についてはきちんと把握できるように指導します。					
【学生が準備すべき機器他】					
電子辞書					
【Outline and objectives】					
This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.					

LANe100LA			8	Chapter 10	Chapter 10 Mean Ladies ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
English 1 II			9	Chapter 10	Chapter 10 Mean Ladies ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
LANe100LA			10	Chapter 11	Chapter 11 Mean Ladies ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
E n g l i s h 1 II			11	Chapter 11	Chapter 11 Mean Ladies ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
新宅 美樹			12	Chapter 12	Chapter 12 Mean Ladies ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 1/Thu.1			13	Chapter 12	Chapter 12 Mean Ladies ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
営 1 年：英語 2 組			14	後期復習 試験	Chapter7-Chapter 12
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
パラグラフの構成に留意して、英文の速読・音読・精読する。			①わからない単語を調べる。		
語り手の感情や意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。			②英文の構造・文法事項を確認する。		
【到達目標】			③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。		
①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。			【テキスト（教科書）】		
②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。			教科書：ディズニーと多様化する社会		
③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。			著者：岡友 万裕		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			出版社：英宝社		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3			出版年： 2019 年		
【授業の進め方と方法】			価格： 2000 円		
①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。			【参考書】		
②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。			なし		
③予習をしてきたことを前提に、授業内の発表を中心に授業を進めていく。			【成績評価の方法と基準】		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes			期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No			出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。		
【授業計画】			欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。詳細についてはオリエンテーションで説明する。		
回	テーマ	内容	【学生の意見等からの気づき】		
1	オリエンテーション	前期の振り返りなど	学生全員が積極的に授業にできるように、予習などの授業準備を徹底させる。		
2	Chapter 7	Chapter 7 "Hakuna Matata" ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。	【Outline and objectives】		
3	Chapter 7	Chapter 7 "Hakuna Matata" ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。	This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.		
4	Chapter 8	Chapter 8 "Hakuna Matata" ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。			
5	Chapter 8	Chapter 8 "Hakuna Matata" ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。			
6	Chapter 9	Chapter 9 "Carnivores! Oy!" ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。			
7	Chapter 9	Chapter 9 "Carnivores! Oy!" ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。			

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英文を読む。構文など、文法事項に関することを学ぶ。

速読や精読など目的に応じた速度で効果的に読む訓練をする。

必要な知識・情報を掘り取るを訓練をする。書き手の感情や意図、論旨を正確に把握する訓練をする。精読した英文の要旨や、それについてのコメントなどを英語で書く練習をする。英語辞書の効果的な使い方について学習する。

【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掘り取ること、また書き手の感情や意図を掘むことが出来る。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力を養うことが出来る。「聴く力」の育成も、授業の一環で行い、精読した英文の要旨や、それについての批判的コメントなどを英語で書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	1 年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1 年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseases (1)	Diseases (1) を学習する。
Chapter 5	Diseases (2)	Diseases (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter 12	Hospitals	Hospitals を学習する。
試験	試験を行う。	試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、音読と知らない単語を辞書で調べておくこと。授業後は、Ex.4 の 8 つの文は、重要なイディオムを含むので覚えること。

【テキスト（教科書）】

Life and Health (生活と健康) (鳳書房) 1,800 円 + 税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English (桐原書店)

【成績評価の方法と基準】

試験 70 %, 授業への積極性 10 %, 課題 20 %, セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として複数のパラグラフからなる英文を読めるようにする。速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来るようにする。必要な知識・情報を掘り取ることが出来るようにする。書き手の感情や意図を掴むことが出来るようにする。英語辞書の効果的な使い方が出来るようにする。

【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来る。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掘り取ること、また書き手の感情や意図を掴むことができる。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力が出来る。「聴く力」の育成出来る。また、精読した英文の要旨や、それについての批判的なコメントを英語で書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 1 England	pp.1-5 の England の地形、気候、政治、経済、文化についての読解を行う。
第 2 回	Chapter 2 Germany(1)	pp.7-11 の Germany(1) の地形、気候、政治、経済、文化についての読解を行う。
第 3 回	Chapter 2 Germany(2)	pp.13-17 の Germany(2) の歴史について読解を行う。
第 4 回	Chapter 3 France(1)	pp.19-22 の France(1) の地形、気候、政治、経済、文化についての読解を行う。
第 5 回	Chapter 3 France(2)	pp.23-27 の France(2) の歴史についての読解を行う。
第 6 回	Chapter 4 Italy	pp.29-33 の Italy の地形、気候、政治、経済、文化についての読解を行う。
第 7 回	Chapter 5 America(1)	pp.35-39 の America(1) の地形、気候、政治、経済、文化についての読解を行う。
第 8 回	Chapter 5 America(2)	pp.41-46 の America(2) の歴史について読解を行う。
第 9 回	Chapter 6	pp.47-52 の Canada の地形、気候、政治、経済、文化、歴史についての読解を行う。
第 10 回	Chapter 7	pp.53-58 の Russia の地形、気候、政治、経済、文化、歴史についての読解を行う。
第 11 回	Chapter 8	pp.59-64 の China の地形、気候、政治、経済、文化、歴史についての読解を行う。
第 12 回	Chapter 9	pp.65-70 の Japan の地形、気候、政治、経済、文化、歴史についての読解を行う。
第 13 回	ビデオ学習。	『ローマの休日』のビデオを観る。
第 14 回	試験。	pp.1-70 の試験を行う。語学の問題と、テキストに出てくる国々の政治・経済・文化など内容に関する質問もある。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、音読と知らない単語を辞書で調べておくこと。授業後は、Ex.4 の 8 つの文は、重要なイディオムを含むので覚えること。

【テキスト（教科書）】

Major Countries In The World (世界の主要国) 鳳書房 1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、課題 20 %、授業への積極性 10 %、1 セメスターで 4 回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。

英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。

授業中、スマホはカバンの中に入れておくこと。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

高橋 優身

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 営 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、内容理解に努め、「背景」を考察する。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容の説明、履修方法について説明
第 2 回	Don't let others influence you (Reading)	「人に流されるな」の読解
第 3 回	Don't let others influence you (Exercises)	「人に流されるな」の演習
第 4 回	Focus on what you like (Reading)	「自分が好きなことに集中しなさい」の読解
第 5 回	Focus on what you like (Exercises)	「自分が好きなことに集中しなさい」の演習
第 6 回	Common sense is not so common (Reading)	「常識はそれほど一般的なものではない」の読解
第 7 回	Common sense is not so common (Exercises)	「常識はそれほど一般的なものではない」の演習
第 8 回	Go and see the world! (Reading)	「世界を見に行きなさい」の読解
第 9 回	Go and see the world! (Exercises)	「世界を見に行きなさい」の演習
第 10 回	Learn philosophy, learn to "think" (Reading)	「哲学を、つまり『考える』ことを学びなさい」の読解
第 11 回	Learn philosophy, learn to "think" (Exercises)	「哲学を、つまり『考える』ことを学びなさい」の演習
第 12 回	It's the century of China, learn Mandarin! (Reading)	「中国の世紀、中国語を学びなさい」の読解
第 13 回	It's the century of China, learn Mandarin! (Exercises)	「中国の世紀、中国語を学びなさい」の演習
第 14 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から、世界を含めた自分の身の回りの出来事に関心を持って、それなりの勉強をすることが必要です。

【テキスト（教科書）】

Jim Rogers : A Gift to My Children
 未来を生きる 朝日出版社 2,000 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。出席点というものは無い。成績評価は期末試験 80 %、平常点 20 % を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。
 学生が予習済みであれば進度は速くなる。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading. Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

高橋 優身

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、内容理解に努め、「背景」を考察する。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Learn history! (Reading)	「歴史を学びなさい」の読解
第 2 回	Learn history! (Exercises)	「歴史を学びなさい」の演習
第 3 回	Know thyself (Reading)	「自分を知りなさい」の読解
第 4 回	Know thyself (Exercises)	「自分を知りなさい」の演習
第 5 回	Recognize changes and embrace them (Reading)	「変化を認識し、それを受け入れなさい」の読解
第 6 回	Recognize changes and embrace them (Exercises)	「変化を認識し、それを受け入れなさい」の演習
第 7 回	Look to the future! (Reading)	「未来に目を向けなさい！」の読解
第 8 回	Look to the future! (Exercises)	「未来に目を向けなさい！」の演習
第 9 回	Go against the tide (Reading)	「時流に逆らえ」の読解
第 10 回	Go against the tide (Exercises)	「時流に逆らえ」の演習
第 11 回	Lady Luck smiles on those who continue in their efforts (Reading)	「運命の女神は努力を続ける人に微笑む」の読解
第 12 回	Lady Luck smiles on those who continue in their efforts (Exercises)	「運命の女神は努力を続ける人に微笑む」の演習
第 13 回	調整日	進度の調整および試験前の質問に答える
第 14 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から、世界を含めた自分の身の回りの出来事に関心を持って、それなりの勉強をすることが必要です。

【テキスト（教科書）】

Jim Rogers : A Gift to My Children
未来を生きる 朝日出版社 2,000 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。出席点というものは無い。成績評価は期末試験 80 %、平常点 20 % を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。
学生が予習済みであれば進度は速くなる。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading. Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I 2016 年度以前入学者

杉 亜希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることで読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各自が予習していることを前提として、ペア（またはグループ）ワークを中心に内容を理解し大意をつかむ。内容把握後に音読することで英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにする。語彙・表現力上げる。各パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する。テンポよく授業を進めるために予習は必須であり、周りの人との協力によりアクティブな学習をしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	General briefing
2	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading One)	Comprehension; Building vocabulary
3	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading One)	Reviewing the context; Reading aloud
4	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary
5	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading Two)	Note-taking; Reviewing the context; Reading aloud
6	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
7	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
8	Unit 3: LINGUISTICS-Little Known Languages (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
9	Unit 3: LINGUISTICS-Little Known Languages (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
10	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud

11	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
12	Unit 5: SOCIAL PSYCHOLOGY-Teaching Tolerance (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building Vocabulary; Reading aloud
13	Unit 5: SOCIAL PSYCHOLOGY-Teaching Tolerance (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
14	Review Test	Review Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや配布プリントの予習・復習を行う。特にテキストの予習では筆者が「何を言いたいのか」を把握することに努めることが重要で、それを授業中にペア（またはグループ）で確認しあう。復習の際は、必ずフレーズを意識し、その表現が日本語を介さず理解できるようになるまで復唱して自分のものにする努力をする。本文以外で使われている自分にとって新しい語彙も、フレーズまたはセンテンスごとに積極的に覚えていこう。

【テキスト（教科書）】

Botcher, E., Longman Academic Reading Series 1 (Pearson, 2017, ¥3,000+税)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
 Britannica: www.britannica.com/

【成績評価の方法と基準】

授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけでなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity を中心とした授業中の英語への積極的な取り組みを重視する。予習は必須であるが、正解でないことで減点にはならない。）
 ユニットごとに行われる小テスト 20 %

Review text 50 %

適切な理由のない遅刻（授業開始から 30 分以内）は 2 回で欠席扱いとする。また各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業は皆さんの積極的な参加があるとテンポよく進みました。英語を英語で説明するのは苦労したようですが、次第に考える習慣が付き、最後まで英語での会話を続ける努力を続けていた生徒さんは英語を発話することに抵抗がなくなってきており、コミュニケーション力を上げていく基礎が身につけていました。ただ話はなんとなくできても、理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って説明するとなると簡単ではなく、適切な長さにまとめる練習が必要となりました。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく携帯やスマホのその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

【その他の重要事項】

ペアやグループで行う共同作業には大人として積極的な協力姿勢が求められる。

【Outline and objectives】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

杉 亜希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることで読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各自が予習していることを前提として、ペアワークを中心に内容を理解し大意をつかむ。語彙知識を増やす教科書の練習問題をこなし、必要に応じて文の構成を説明し、文法の練習問題も配布する。内容把握後に音読を徹底することで英語を口にするのに慣れ、重要なフレーズを自分のものにしていく。次第に全体の要旨を英語で説明するよう練習する。その他、各チャプターで紹介される読解のスキルを使った練習問題も取り入れていく。テンポよく授業を進めるために予習は必須であり、周りの人との協力によりアクティブな学習をしていく。トピックに関係して自分の意見を短いパラグラフで表現していこう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	General Briefing	General briefing
2	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading One)	Comprehension; Building Vocabulary; Reading aloud
3	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud
4	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading One&Two)	Reviewing; Writing
5	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
6	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud
7	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading One & Two)	Reviewing; Writing
8	Unit 8: GOVERNMENT- Interpreting the Law (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud

9	Unit 8: GOVERNMENT- Interpreting the Law (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
10	Unit 9: ECONOMICS- Bartering in the 21st Century (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
11	Unit 9: ECONOMICS- Bartering in the 21st Century (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
12	Unit 10: NEUROLOGY-The Brain (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
13	Unit 10: NEUROLOGY-The Brain (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
14	Review Test	Review Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや配布プリントの予習・復習を行う。特にテキストの予習では筆者が「何を言いたいのか」を把握することに努めることが重要で、それを授業中にペア（またはグループ）で確認しあう。復習の際は、必ずフレーズを意識し、その表現が日本語を介さず理解できるようになるまで復唱して自分のものにする努力をする。本文以外で使われている自分にとって新しい語彙も、フレーズまたはセンテンスごとに積極的に覚えていこう。

【テキスト（教科書）】

Botcher, E., Longman Academic Reading Series 1 (Pearson, 2017, ¥3,000+税)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけでなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity を中心とした授業中の英語への積極的な取り組みを重視する。予習は必須であるが、正解でないことで減点にはならない。）
ユニットごとに行われる小テスト 20%

Review Text 50%

適切な理由のない遅刻（授業開始から30分以内）は2回で欠席扱いとする。また各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業は皆さんの積極的な参加があるとテンポよく進みました。英語を英語で説明するのは苦労したようですが、次第に考える習慣がつき、最後まで英語での会話を続ける努力を続けていた生徒さんは英語を発話することに抵抗がなくなってきたおり、コミュニケーション力を上げていく基礎が身につけていました。ただ話はなんとなくできて、理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って説明するとなると簡単ではなく、適切な長さにまとめる練習が必要となりました。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく携帯やスマホのその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

【その他の重要事項】

ペアやグループで行う共同作業には大人として積極的な協力姿勢が求められる。

【Outline and objectives】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの 1 つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2 つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1 文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスニング力の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として 2～3 回の授業で 1 章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	Is it in your blood? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 3 回	Is it in your blood? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 4 回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 5 回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 6 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 7 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 8 回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第 9 回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 10 回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 11 回	Is netspeak harming the English language? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 12 回	Is netspeak harming the English language? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

- ・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)
- ・STRIKE UP THE TOEIC® TEST LISTENING 解法のコツを学ぶ TOEIC® テストリスニング演習, 塚田幸光 著, 金星堂, (¥ 1,500)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題（30%）、中間テストおよび期末テスト（70%）の配分で評価する。

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。

未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの 1 つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2 つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1 文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスニング力の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝えるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として 2～3 回の授業で 1 章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	Language and the world (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 3 回	Language and the world (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 4 回	Population crisis (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 5 回	Population crisis (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 6 回	The greatest show on earth (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 7 回	The greatest show on earth (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 8 回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第 9 回	Consumer beware: advertising techniques (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 10 回	Consumer beware: advertising techniques (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 11 回	For an effective interview (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 12 回	For an effective interview (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

- ・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)
- ・STRIKE UP THE TOEIC® TEST LISTENING 解法のコツを学ぶ TOEIC® テストリスニング演習, 塚田幸光 著, 金星堂, (¥ 1,500)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題 (30%)、中間テストおよび期末テスト (70%) の配分で評価する。

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。

未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I 2016 年度以前入学者

坂梨 健史郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】

・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてくること。
・各ユニットは4セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習していったらいい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容の説明等
2	Unit 1	読解：試験やアンケートに関する英文
3	Unit 1（続き）	文法：主語と目的語
4	Unit 2	読解：食生活に関する英文
5	Unit 2（続き）	文法：述部、付加語、補語
6	Unit 3	読解：サブカルチャーに関する英文
7	Unit 3（続き）	文法：様々な修飾
8	Unit 4	読解：映画に関する英文
9	Unit 4（続き）	文法：完了形
10	Unit 5	読解：社会制度に関する英文
11	Unit 5（続き）	文法：不定詞
12	Unit 6	読解：ポピュラーミュージックに関する英文
13	Unit 6（続き）	文法：動名詞および現在分詞
14	試験	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習すること。
・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
・READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
・ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフリーディング―正しい英語の読み方』金星堂

【参考書】

文法の参考書は
・『FOREST』桐原書店
を薦める。
英和辞典は

・『リーダーズ英和辞典＋リーダーズプラス』研究社

・『研究社英和大辞典』研究社

・『ランダムハウス英和大辞典』小学館

をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。携帯可能な小型の紙の辞書では
・『エクシード英和辞典』三省堂
が収録語数の多さやページの見やすさでお薦め。

【成績評価の方法と基準】

単位取得条件

・全ての授業に出席していること（ただし止むを得ない理由に限り3回まで欠席を認める）。
・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）。
・期末試験の結果が100点満点中60点以上であること。
以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験

・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

・期末試験 50 %
・学習態度および受講態度 50 %

遅刻の扱い

・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
・遅刻は分数を記録し、合計が60の倍数に達することに1回の欠席とする。記録は10分刻みとし、端数は切り上げる（1分の遅刻は10と記録する）。
・なお、中座（用便等の理由で一時的退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】

座席

・座席は指定する。

オフィスアワー

・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

English 1 II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II 2016 年度以前入学者

坂梨 健史郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてくること。
- ・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習していったらいい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7	読解：リサイクルに関する英文
2	Unit 7（続き）	文法：助動詞
3	Unit 8	読解：起業に関する英文
4	Unit 8（続き）	文法：関係詞
5	Unit 9	読解：伝統文化に関する英文
6	Unit 9（続き）	文法：it や there を用いる構文
7	Unit 10	読解：日本文化に関する英文
8	Unit 10（続き）	文法：受動文
9	Unit 11	読解：健康に関する英文
10	Unit 11（続き）	文法：比較の表現
11	Unit 12	読解：消費行動に関する英文
12	Unit 12（続き）	文法：名詞構文
13	Unit 13	読解：日本と西洋の文化比較に関する英文
14	試験	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 必ず予習すること。
- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】

Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフフリーディング―正しい英語の読み方 金星堂

【参考書】

- 文法の参考書は
- ・『FOREST』桐原書店を薦める。
- 英和辞典は

- ・『リーダーズ英和辞典＋リーダーズプラス』研究社
 - ・『研究社英和大辞典』研究社
 - ・『ランダムハウス英和大辞典』小学館
- をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。携帯可能な小型の紙の辞書では
- ・『エクシード英和辞典』三省堂
- が収録語数の多さやページの見やすさでお薦め。

【成績評価の方法と基準】

- 単位取得条件
 - ・全ての授業に出席していること（ただし止むを得ない理由に限り3回まで欠席を認める）。
 - ・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
 - ・期末試験の結果が 100 点満点中 60 点以上であること。
- 以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
- ・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験

- ・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

- ・期末試験 50 %
- ・学習態度および受講態度 50 %

遅刻の扱い

- ・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
- ・遅刻は分数を記録し、合計が 60 の倍数に達することに1回の欠席とする。記録は 10 分刻みとし、端数は切り上げる（1 分の遅刻は 10 と記録する）。
- ・なお、中座（用便等の理由で一時的退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】

- 座席
- ・座席は指定する。
- オフィスアワー
- ・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

田口 清一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 営 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】

以下の達成を主眼とする。
 ＊一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
 ＊英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
 ＊読解と表現に必要な文法を身に付ける。
 ＊英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説や理解度をチェックする質疑応答などを行ってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力をも高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する一般常識をも身に付けられれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間の授業についての説明
第 2 回	サンプル解説	英語の論理と考え方①
第 3 回	サンプル解説	英語の論理と考え方②
第 4 回	演習	Chapter1(四つの国)の演習①
第 5 回	演習	Chapter1 の演習②
第 6 回	演習	Chapter2(湖水地方)の演習①
第 7 回	演習	Chapter2 の演習②
第 8 回	演習	Chapter3(シェークスピアの故郷)の演習①
第 9 回	演習	Chapter3 の演習②
第 10 回	演習	Chapter4(ロンドンの歴史)の演習①
第 11 回	演習	Chapter4 の演習②
第 12 回	演習	Chapter5(トマス・ハーディの作品の舞台)の演習①
第 13 回	演習	Chapter5 の演習②
第 14 回	試験	春学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習形式をとるので、しっかりした予習を大前提とする。その際に、辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べること。

【テキスト（教科書）】

Cultural Walks in Britain(イギリス文化散策) 成美堂

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書（体系的にある程度詳しく記述されたもの）を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

平常の取り組み方を重視し、これに期末試験を加えて総合的に評価する。具体的には、「平常点」50 %、「試験」50 %で評価する。「平常点」では何よりも学問的意欲を評価するので、予習の質が重要である。到達目標に掲げた項目がどの程度達成されているかを重視する。尚、原則として欠席が 3 回を超えた場合は不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は多少難しく感じられたようだが、本質的理解を得るためには多少の困難は付き物である。真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もある。今年度は、重要な問題に関しては昨年以上に丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

田口 清一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】

- 以下の達成を主眼とする。
- * 一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
- * 英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
- * 読解と表現に必要な文法を身に付ける。
- * 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説や理解度をチェックする質疑応答などを行ってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する一般常識をも身に付けられれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	演習	Chapter6(アルフレッド大王の古都)の演習①
第 2 回	演習	Chapter6 の演習②
第 3 回	演習	文法演習：動詞の時制とアスペクト(相) ①
第 4 回	演習	文法演習：動詞の時制とアスペクト(相) ②
第 5 回	演習	Chapter7(大学町)の演習①
第 6 回	演習	Chapter7 の演習②
第 7 回	演習	Chapter8(イングランドの庭)の演習①
第 8 回	演習	Chapter8 の演習② Chapter9(カンタベリー大聖堂)の演習①
第 9 回	演習	Chapter9 の演習②
第 10 回	演習	Chapter10(産業革命発祥の地)の演習①
第 11 回	演習	Chapter10 の演習② Chapter11(シャーロック・ホームズ)の演習①
第 12 回	演習	Chapter11(シャーロック・ホームズ)の演習②
第 13 回	演習	Chapter17(北のアテネ)の演習
第 14 回	試験	秋学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習形式をとるので、しっかりした予習を大前提とする。その際に、辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べること。

【テキスト（教科書）】

Cultural Walks in Britain(イギリス文化散策) 成美堂

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書（体系的にある程度詳しく記述されたもの）を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

平常の取り組み方を重視し、これに期末試験を加えて総合的に評価する。具体的には、「平常点」50 %、「試験」50 %で評価する。平常点では何よりも学問的意欲を評価するので、予習の質が重要である。到達目標に掲げた項目がどの程度達成されているかを重視する。秋学期は春学期の習熟度も考慮する。尚、原則として欠席が 3 回を超えた場合は不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は多少難しく感じられたようだが、本質的理解を得るためには多少の困難は付き物である。真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もある。今年度は、重要な問題に関しては昨年以上に丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

岩下 弘史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 営 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにすること、またそれを音声としてもしっかり聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。またこれと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、シンプルなものので間違いのない英文が書けるようになる訓練をする機会も持ちます。この際にも辞書を含めた様々な媒体を用いて、より正確なものが書けるようになることが目標となります。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
- ・文法的に正確な英文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業のリアクションペーパーに関してのコメント
 - ・読解解説（指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です）
 - ・読んだテキストのリスニング（ディクテーション含む）
 - ・リアクションペーパーに学んだニュースの内容等について英語でコメント
- ※理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	具体的な授業の進め方について説明します。教科書を持参してください。
2	Unit1-1	Unit1 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit1-2	Unit1 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit2-1	Unit2 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit2-2	Unit2 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit3-1	Unit3 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
7	Unit3-2	Unit3 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit4-1	Unit4 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit4-2	Unit4 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit5-1	Unit5 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit5-2	Unit5 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit6-1	Unit6 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

13 Unit6-2

Unit6 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

14 まとめ（期末試験）

試験範囲、内容については授業内で説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読してくることは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってください。テキストのリスニングを行うことも求められます。

【テキスト（教科書）】

『15 章版：ニュースメディアの英語—演習と解説 2019 年度版』（朝日出版社、2019 年）

【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など） 35%
 期末試験 65%

公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容に関連した話題を展開し解説を深めることで、英語自体にもより興味が持てるという意見があり、なるべくそうした授業に努める。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every classes. This course will further give the students the opportunity to listen to the excerpts and other materials.

LANe100LA

English 1 II

LANe100LA

English 1 II

岩下 弘史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 9 組

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では秋学期も引き続き高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むことになりませんが、文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにすること、またそれを音声としてもしっかりと聴き取って理解できるようにすることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。これと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、ライティングの指導も行います。

- 【到達目標】
- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
 - ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
 - ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
 - ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
 - ・文法的に正確で、構造化した論理的な英文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
授業は以下の手順で進めます。
・前回の授業のリアクションペーパーに関するコメント（初回授業を除く）
・単語テスト（2 コマにつき 1 回）
・読解解説（指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です）
・読んだテキストのリスニング（ディクテーション含む）
・リアクションペーパーに学んだニュースの内容について英作文
※理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方について
2	Unit7-1	Unit7 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit7-2	Unit7 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit8-1	Unit8 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit8-2	Unit8 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit9-1	Unit9 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
7	Unit9-2	Unit9 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit10-1	Unit10 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit10-2	Unit10 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit11-1	Unit11 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit11-2	Unit11 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit12-1	Unit12 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

13	Unit12-2	Unit12 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ（期末試験）	Unit23 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
秋学期の授業でも引き続き精読してくることは必須です。分量は決して多くはないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。
テキストのリスニングを行うことも求められます。

【テキスト（教科書）】
『15 章版：ニュースメディアの英語—演習と解説 2019 年度版』（朝日出版社、2019 年）

【参考書】
「ジーニアス英和辞典」（大修館）
他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など） 35%
期末試験 65%
公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの内容に関連した話題を展開し解説を深めることで、英語自体にもより興味を持てるという意見があり、なるべくそうした授業に努める。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every classes. This course will further give the students the opportunity to listen to the excerpts and other materials.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

吉田 和久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】

上記の目的に少し手も近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイック）のスコアを上げることが目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。併せて、英語の発音の基本的な練習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションとブレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	トピック・センテンス①【主語】
3	テキストの演習	トピック・センテンス②【動詞】
4	テキストの演習	文と文の関係①【順接】
5	テキストの演習	文と文の関係②【逆接】
6	テキストの演習	文と文の関係③【付加、例示、その他】
7	テキストの演習	パラグラフの構造①
8	テキストの演習	パラグラフの構造②
9	テキストの演習	パラグラフの構造③
10	テキストの演習	エッセイの全体構造①【イントロダクション】
11	テキストの演習	エッセイの全体構造②【ボディ】
12	テキストの演習	エッセイの全体構造③【今クルージョン】
13	テキストの演習	全体のまとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことをおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。トイックの問題集（『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』）を買ってもらう予定です。

【参考書】

特にありません。辞書等は、自分で準備してください。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。

【学生の意見等からの気づき】

トイックとトフルの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トイックに絞ろうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

「トイックとトフルの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トイックに絞ろうと思う。」との記載は、English 1 は学部ごとに習熟度別クラス編成された必修科目であることと相容れない表現を含んでいる。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. Course materials will be mainly extracted from the workbooks for the TOEIC test. In addition, the basics of English pronunciation will be taught.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

吉田 和久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】

上記の目的に少しでも近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイック）のスコアを上げることが目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフ）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションとブレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	英単語の構造①【接頭辞】
3	テキストの演習	英単語の構造②【接尾辞】
4	テキストの演習	英単語の構造③【語幹・ラテン語系】
5	テキストの演習	英単語の構造④【語幹・ギリシャ語系】
6	テキストの演習	英単語の構造⑤【接尾辞】
7	テキストの演習	英単語の構造⑥【接尾辞】
8	テキストの演習	英語の発音①【母音】
9	テキストの演習	英語の発音②【母音】
10	テキストの演習	英語の発音③【子音】
11	テキストの演習	英語の発音④【子音】
12	テキストの演習	英語の発音⑤【子音】
13	テキストの演習	英語の発音【イントネーション】
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。トイックの問題集（『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』）を買ってもらう予定です。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。

【学生の意見等からの気づき】

トイックとトーフの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トイックに絞ろうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

「トイックとトーフの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トイックに絞ろうと思う。」との記載は、English 1 は学部ごとに習熟度別クラス編成された必修科目であることと相容れない表現を含んでいる。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. Course materials will be mainly extracted from the workbooks for the TOEIC test. In addition, the basics of English pronunciation will be taught.

LANe100LA

English 1 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I 2016 年度以前入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べるができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとめることができるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業においては、内容の精読に加えて、大意を把握する速読を組み合わせます。テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を解説し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で意見を表現してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	言語と文化（1）	異文化理解
3	言語と文化（2）	文化の衝突
4	言語と文化（3）	英語公用語化
5	社会と環境（1）	環境破壊
6	社会と環境（2）	民族差別
7	社会と環境（3）	移民流入
8	経済と社会（1）	南北問題
9	経済と社会（2）	国際紛争
10	経済と社会（3）	児童労働
11	技術と人間（1）	臓器移植
12	技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	技術と人間（3）	インターネット中毒
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの英文を必ず毎回事前に読んでおいてください。また、リスニングの課題にも取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用します。

【参考書】

その都度授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 10 %
試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は国内研究のため授業を担当していません。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare student to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

LANe100LA

English 1 II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II 2016 年度以前入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期と同様です。

【到達目標】

春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期と同様です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	環境と社会（1）	持続可能な社会
3	環境と社会（2）	ツーリズムと環境破壊
4	環境と社会（3）	世界遺産の保護
5	環境と社会（4）	動物保護
6	経済と社会（1）	経済格差
7	経済と社会（2）	経済格差と健康
8	経済と社会（3）	掲載格差と教育
9	経済と社会（4）	能力給
10	技術と人間（1）	デジタル時代のマナー
11	技術と人間（2）	フェイクニュース
12	技術と人間（3）	食品添加物
13	技術と人間（4）	原子力発電
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】

春学期と同様です。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 10 %
試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は国内研究のため授業を担当していません。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills, and to prepare students to develop critical thinking ability through widely ranged English texts.

LANe100LA	
English 1 I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 I	2016 年度以前入学者
新宅 美樹	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火 2/Tue.2	
営 1 年：英語 12 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パラグラフの構造に留意して、イギリスを代表する二大高級紙『タイムズ』と『ガーディアン』を速読・音読・精読する。書き手の意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】
①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価の方法などの説明。
2	Unit 1	Unit 1 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 1	unit 1 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 2	Unit 2 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 2	Unit 2 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Unit 3	Unit 3 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Unit 3	Unit 3 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 4	Unit 4 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Unit 4	Unit 4 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

10	Unit 5	Unit 5 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 5	Unit 5 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Unit 6	Unit 6 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 6	Unit 6 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	前期の復習試験	Unit 1～Unit 6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①予習をして授業に臨むこと。
予習の際に、Unit ごとに英文を速読をし、論旨を把握することに努めてください。
その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。
②復習の際に、授業内に作成した英作文などを通して、重要語彙をしっかりと身につけてください。
注意：1 回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書：『タイムズ』と『ガーディアン』で読む今日の世界
著者：田中孝信著
出版社：音羽書房鶴見書店
出版年：2009 年
価格：1800 円

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。
欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】
この教科書は、長く難しい表現を含む英文がありますので、細かい点についてはきちんと把握できるように指導します。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書

【Outline and objectives】
This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、英文の速読・音読・精読する。
語り手の感情や意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしてきたことを前提に、授業内の発表を中心に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返りなど
2	Unit 7	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 7	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 8	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 8	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Unit 9	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Unit 9	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 10	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Unit 10	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Unit 11	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 11	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

12	Unit 12	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 12	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	後期の復習試験	Unit 7-Unit 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①わからない単語を調べる。
- ②英文の構造・文法事項を確認する。
- ③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。

【テキスト（教科書）】

教科書：『タイムズ』と『ガーディアン』で読む今日の世界

著者：田中孝信

出版社：音羽書房鶴見書店

出版年：2009 年

価格：1800 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%

出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるように、予習などの授業準備を徹底させる。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 13 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野の力を高めることを目的とした授業を、徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える、中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの英文の内容を、より速く、より正確に読み取る、聞き取る力を高めること。また、理解した内容に対する自分の意見を英語で表現する意欲を持つこと。そうした目標を達成するために必要とされる、基本的な文法事項を定着させること。目標の到達度は、授業内容に即した試験の出来によって測ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

英語の 4 技能を伸ばすことを目的とした、すべて英語で書かれたテキストを用います。問題量が豊富で、視野の広いテキストに、全員参加の演習スタイルでアクティブに取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要を説明する
2	Unit 1a	Learning from the past
3	Unit 1b	What makes us who we are?
4	Unit 1c	Immortal words
5	Unit 2a	Living off the sea
6	Unit 2b	Smokeyjumpers
7	Unit 2c	Daring, defiant, and free
8	中間試験	中間試験実施
9	Unit 3a	Town with character
10	Unit 3b	Compact living
11	Unit 3c	The paper architect
12	Unit 4a	Shrink it, bend it, fold it
13	Unit 4c	The shoe giver
14	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース設定に即して授業を進めますが、科目の到達目標の達成に結びつくように、授業で用いるテキストを最大限活用する工夫が学生には求められます。テキストには、教室外での予習復習に役立つように、リスニング問題のスクリプト、音源がともに収録されているものを選びました。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life 6 (Second Edition)

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2019

価格: 2,950 円

【参考書】

<http://www.nationalgeographic.com/><http://www.ngllife.com/><https://www.npr.org/><https://www.bbc.co.uk/podcasts><http://www.bbc.co.uk/learningenglish/><https://www.bbc.com/news>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%

2. 授業内を行う 2 回のテストの成果 80%

学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。

また、30 分以上遅刻の場合は、受講は可能ですが、欠席扱いとします。

遅刻は 2 回で、1 回の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

授業のテンポ・アップのために、速読で読むべき部分と、精読で読むべき部分のメリハリをもっとつけること。また、また、授業に真剣に取り組む学生の学習意欲をより高めるためにも、毎回の予習内容をより具体的に伝えることに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 13 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野の力を高めることを目的とした授業を、徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える、中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの英文の内容を、より速く、より正確に読み取る、聞き取る力を高めること。また、理解した内容に対する自分の意見を英語で表現する意欲を持つこと。そうした目標を達成するために必要とされる、基本的な文法事項を定着させること。目標の到達度は、授業内容に即した試験の出来によって測ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

英語の 4 技能を伸ばすことを目的とした、すべて英語で書かれたテキストを用います。問題量が豊富で、視野の広いテキストに、全員参加の演習スタイルでアクティブに取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 5c	The adventures of Herge
2	Unit 6a	Exercise around the world
3	Unit 6c	The enigma of beauty
4	Unit 7a	Selfie world
5	Unit 8c	One love
6	Unit 8f	A biopic
7	中間試験	中間試験実施
8	Unit 9a	Dear little daughter
9	Unit 10a	A cooperative society
10	Unit 10c	Living free?
11	Unit 11a	Emotional Intelligence
12	Unit 11c	Who's working for who?
13	Unit 12c	Rise of the urban animal
14	期末試験	期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース設定に即して授業を進めますが、科目の到達目標の達成に結びつくように、授業で用いるテキストを最大限活用する工夫が学生には求められます。テキストには、教室外での予習復習に役立つように、リスニング問題のスクリプト、音源がともに収録されているものを選びました。

【テキスト（教科書）】

教科書：Life 6 (Second Edition)

著者：Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社：Cengage Learning

出版年：2019

価格：2,950 円

【参考書】

<http://www.nationalgeographic.com/><http://www.ngllife.com/><https://www.npr.org/><https://www.bbc.co.uk/podcasts><http://www.bbc.co.uk/learningenglish/><https://www.bbc.com/news>

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）20%

2. 授業内に行う 2 回のテストの成果 80%

学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。

また、30 分以上遅刻の場合は、受講は可能ですが、欠席扱いとします。

遅刻は 2 回で、1 回の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

授業のテンポ・アップのために、速読で読むべき部分と、精読で読むべき部分のメリハリをもっとつけること。また、授業に真剣に取り組む学生の学習意欲をより高めるためにも、毎回の予習内容をより具体的に伝えることに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後に受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

池田 しおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 14 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人の著者ジョン・H・ランドルが、イギリスとの新しい関係を保っているアイルランドや、統一後のドイツにおもむき、変わりつつある新しいヨーロッパの現在について述べているテキストを使用する。より多様で実際の英語の知識を学ぶことができる。

【到達目標】

テキストの本文（長文）、エクササイズ（会話文）のヒアリングを毎回行うことにより実践力を高める。

英作文を継続して学ぶことにより応用力を身につける。

文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

演習の形式で行い、あらかじめ次の授業で進むテキストの分担を決めておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Greece: The Cradle of European Civilization	ヨーロッパ文明の発祥の地であるギリシャはまたオリンピックが生まれた国でもある。
②	Unit 1 Greece: The Cradle of European Civilization	Unit 1 の Exercise を行う。
③	Unit 3 Florence and the Renaissance	ルネサンス芸術の都フィレンツェは、ウール産業でも発達した都市である。
④	Unit 3 Florence and the Renaissance	Unit 3 の Exercise を行う。
⑤	Unit 5 La Belle France	フランスの美しさは、フランス語、ファッション、料理の様々な分野で際立っている。
⑥	Unit 5 La Belle France	Unit 5 の Exercise を行う。
⑦	Unit 6 Paris Style	パリはまるで魔術にかけられたような町であり、古い文化遺産のノートルダム寺院やエッフェル塔がある一方で、新しいファッショナブルな街でもある。
⑧	Unit 6 Paris Style	Unit 6 の Exercise を行う。
⑨	Unit 8 Ireland: The Emerald Isle	アイルランドの国を象徴する色は緑であり、これはイギリスからの独立を意味する自由を表す色であった。3 月 17 日の聖パトリック祭には緑色のグズを身に付けた人々が街をパレードする。
⑩	Unit 8 Ireland: The Emerald Isle	Unit 8 の Exercise を行う。
⑪	Unit 9 The Clash of the Tartans	タータンチェックは、もとはスコットランドのクラン（氏族）の家紋であった。19 世紀にイングランドに入ってからファッションに取り入れられた。
⑫	Unit 9 The Clash of the Tartans	Unit 9 の Exercise を行う。
⑬	Unit 10 London: Open City	ロンドンには海外からの移住者が多く、非常に開かれた国際都市としての面を持つ。
⑭	試験日	試験範囲は授業で進んだ範囲とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各章とも Reading Comprehension, Exercise の [3] のそれぞれで、分担を前もって決めておき、次の週に発表をしてもらう。

【テキスト（教科書）】

Europe A Changing Continent (John H. Randle, Atsushi Mukuhira)
成美堂

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、平常点 40 % として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻を 3 回で欠席 1 とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持っていたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

【Outline and objectives】

Using the textbook that reflects the reality of European countries centering Britain, we can learn more diverse and practical English knowledge.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

池田 しおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年：英語 14 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人の著者ジョン・H・ランドルが、イギリスとの新しい関係を保っているアイルランドや、統一後のドイツにおもむき、変わりつつある新しいヨーロッパの現在について述べているテキストを使用する。より多様で実際の英英語の知識を学ぶことができる。

【到達目標】

テキストの本文（長文）、エクササイズ（会話文）のヒアリングを毎回行うことにより実践力を高める。
英作文を継続して学ぶことにより応用力を身につける。
文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習の形式で行い、あらかじめ次の授業で進むテキストの分担を決めておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 11 Brussels: A Question of Language	ブリュッセルにはNATOの本部があり、EUの中で大事な役割を果たしている。
②	Unit 11 Brussels: A Question of Language	Unit 11 の Exercise を行う。
③	Unit 12 Strasbourg and the European Parliament	ストラスブールはワインで有名なアルザス地方の中心都市であり、1952 年以降、ヨーロッパ議会の本拠地である。
④	Unit 12 Strasbourg and the European Parliament	Unit 12 の Exercise を行う。
⑤	Unit 14 Copenhagen and the Little Mermaid	The Little Mermaid のような悲しいテーマに着想を得た像が、コペンハーゲンのシンボルの一つであることは皮肉めいているかもしれない。というのは、デンマークの人々は「世界で最も幸福な人々」と認識されているからである。
⑥	Unit 14 Copenhagen and the Little Mermaid	Unit 14 の Exercise を行う。
⑦	Unit 15 Berlin and the New Germany	ベルリンは冷戦時代には東西に分裂していた都市ではあるが、統一後 20 年を迎えた現在では、新しい建造物のある町へと生まれ変わっている。
⑧	Unit 15 Berlin and the New Germany	Unit 15 の Exercise を行う。
⑨	Unit 16 The River Rhine	六つの国にまたがっているライン川はヨーロッパ最長の川である。スイスのバーゼルの工場の汚水が流されたことから一時汚染されたが、水を浄化するライン・アクションプランにより再生した。
⑩	Unit 16 The River Rhine	Unit 16 の Exercise を行う。
⑪	Unit 18 Vienna: City of Dreams	1 月 1 日にウィーンフィルハーモニー管弦楽団によって行われるニューイヤークンサートは、古いウィーンの町の魅力を彷彿させるものである。
⑫	Unit 18 Vienna: City of Dreams	Unit 18 の Exercise を行う。

⑬ Unit 19
Prague and the Velvet Revolution

プラハの市民は、1989 年のベルリンの壁崩壊の出来事に続き、政府に対して自由と民主主義を要求した。それがあまりに平和的に達成されたので、それは「ビロード革命」と呼ばれている。試験範囲は授業で進んだ範囲とする。

⑭ 試験日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各章とも Reading Comprehension, Exercise の [3] のそれぞれで、分担を前もって決めておき、次の週に発表をしてもらう。

【テキスト（教科書）】

Europe A Changing Continent (John H. Randle, Atsushi Mukuhira)
成美堂

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、平常点 40 %として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻 3 回で欠席 1 とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持っていたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

【Outline and objectives】

Using the textbook that reflects the reality of European countries centering Britain, we can learn more diverse and practical English knowledge.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年：英語 15 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスとアイルランドの文化について英語で学ぶテキスト『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

- テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
 - ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
 - ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Unit 1	"United" Kingdom and Ireland - How Different Are They?
3	Unit 2	"United" Kingdom and Ireland - Who Is the Most Patriotic?
4	Unit 3	"United" Kingdom and Ireland - King, Queen and Prince
5	Unit 4	British Cuisine - Eat Like Henry! + Modern British Cuisine
6	Unit 5	England - Elizabethan Theatre: Shakespeare and Marlowe
7	Unit 6	England - Nursery Rhymes as History
8	Unit 7	England - Peter Rabbit and Lake District
9	Unit 8	England - Lake District and William Wordsworth
10	Unit 9	England - Cotswolds
11	Unit 10	England(London) - Youth Culture & Fashion
12	Unit 11	England - Multi-racial Society "Immigration: If Someone Asks, I'm British, End of Story"
13	Unit 12	England(London) - Bend It Like Beckham
14	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

【テキスト（教科書）】

永田喜文、菅野智城『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』三修社、2,100 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要があります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 営 1 年：英語 15 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスとアイルランドの文化について英語で学ぶテキスト『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

- テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
 - ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
 - ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 13	Scotland - Difference Between Highlander and Lowlander + Bagpipe
2	Unit 14	Scotland - Kilt History
3	Unit 15	Scotland - The Scottish Independence Referendum and Football
4	Unit 16	Wales - How Has the Welsh Language Striven?
5	Unit 17	Welsh Music
6	Unit 18	Wales - Land of Legend and King Arthur
7	Unit 19	Country Cuisine - from Wales, Ireland and Scotland
8	Unit 20	Ireland - Land of Culture + Irish Music and Dance
9	Unit 21	Ireland - Fairy Tales
10	Unit 22	Ireland - Legendary Hero Cu Chulainn and G.P.O.
11	Unit 23	Northern Ireland - Belfast Then and Now
12	Unit 24	"Bloody Sunday" and After
13	Unit 25	United Kingdom - EU Referendum Results Fallout Explained: What We Know So Far After Britain Votes for Brexit
14	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

【テキスト（教科書）】

永田喜文、菅野智城『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』三修社、2,100 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要があります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

LANe100LA

English 1 I2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I2016 年度以前入学者

妻鹿 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年：英語 16 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なトピックに関する新聞記事を使い、読解力を養います。

【到達目標】
正確に英語の文章が読めるようになることを第一の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
毎回授業のはじめに予習を前提とした小テストを行い、その後本文を読んでもいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1	Japan's demographic sweet spot
3	Unit 2	The crisis in Pakistan's schools
4	Unit 3	Showing Spine to the Censors, a Bookstore Flourishes
5	Unit 4	Easier Taught Than Done? Yale's Most Popular Class Tackles Happiness
6	Unit 5	The Case for 'America First' Economics
7	復習	Unit 1-5 の復習
8	Unit 6	New pride in Paraguay's native language
9	Unit 7	Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control
10	Unit 8	Sumo gender controversy flares anew Women in a Sumo Ring? Not on Your Life.
11	Unit 9	How to Make A.I. Human-Friendly
12	Unit 10	Hollywood's protest problem
13	復習	Unit 6-10 の復習
14	試験	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習を前提として授業を行います。わからない単語や固有名詞は調べておきましょう。各 Unit の Multiple Choice と True or False を小テストとして出題します。

【テキスト（教科書）】
English through the News Media - 2019 Edition -
(朝日出版社)

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 50%、小テスト・提出物 20%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【Outline and objectives】
This class aims to help you develop your reading skill.

LANe100LA

English 1 II2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II2016 年度以前入学者

妻鹿 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
営 1 年：英語 16 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なトピックに関する新聞記事を使い、読解力を養います。

【到達目標】
正確に英語の文章が読めるようになることを第一の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
毎回授業のはじめに予習を前提とした小テストを行い、その後本文を読んでもいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の講評
2	Unit 11	A Linguistic Melting Pot Than Can Still Boil Over Language issue divides Northern Ireland
3	Unit 12	The star who brought the cosmos within reach
4	Unit 13	Van Gogh's obsession with Japan
5	Unit 14	Maldives crisis may draw in India and China
6	Unit 15	Fish Instead of Flamin' Hot Cheetos, and Feeling Lost
7	復習	Unit 11-15 の復習
8	Unit 16	Ohtani fans six, earns victory in MLB pitching debut Shogi showdown pits game's 'god' against its 'genius'
9	Unit 17	Nobel for effort to abolish nuclear bombs A Blue-Chip Writer of Graceful Restraint
10	Unit 18	Saudi Arabia lightens up
11	Unit 19	Irish Border Problem Remains A Thorn for Britain in Brexit
12	Unit 20	Bitcoin comes to campus
13	復習	Unit 16-20 の復習
14	試験	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習を前提として授業を行います。わからない単語や固有名詞は調べておきましょう。各 Unit の Multiple Choice と True or False を小テストとして出題します。

【テキスト（教科書）】
English through the News Media - 2019 Edition -
(朝日出版社)

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 50%、小テスト・提出物 20%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【Outline and objectives】
This class aims to help you develop your reading skill.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

滝沢 玄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 17 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外一流メディアの英語記事を読みこなす力をつけ、様々なビジネス業種の取り組みを通して社会の動向への知見を深める。

【到達目標】

社会で起きているさまざまなビジネスの動向について関心を持ち、自らの意見を英語で表明する。論理的な英文を読みこなすのに必要とされる語彙を増やし、論旨の進め方やパラグラフ構成の特徴をつかむ。英語の音声的傾向を体得し、リスニングの反射神経を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講者の予習を前提として進める。グループ分けに基づき、指定されたグループは各課のテーマに関連した簡単な英会話と、本文の音読と要約をそれぞれ順番で担当する。その他の単語、内容確認問題、リスニング会話練習は割りあてより自主的な発言を優先する。各課終わりの英語で意見を述べるセッションは、時おり作文に応用する。各課終了の翌週には小テストを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction : ガイダンス	授業の概要、テキストの内容等についての説明。時間があれば 1 に入る。
第 2 回	1.Zara	グループ会話、本文読解と発展問題
第 3 回	1.Zara	本文読解と発展問題
第 4 回	2. Airbnb	1 の小テスト、グループ会話、本文読解と発展問題
第 5 回	2. Airbnb	本文読解と発展問題
第 6 回	3. Facebook	2 の小テスト、グループ会話、本文読解と発展問題
第 7 回	3. Facebook	本文読解と発展問題
第 8 回	4. Adidas	3 の小テスト、グループ会話、本文読解と発展問題
第 9 回	4. Adidas/5.Toyota	本文読解と発展問題/グループ会話、本文読解
第 10 回	5.Toyota	4 の小テスト/本文読解と発展問題
第 11 回	6. Starbucks	5 の小テスト/グループ会話、本文読解と発展問題
第 12 回	6. Starbucks/7. McDonald	本文読解と発展問題/グループ会話、本文読解と発展問題
第 13 回	7. McDonald	6 の小テスト/本文読解と発展問題
第 14 回	Test	春学期授業を範囲とする筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当グループ以外でも、リーディング本文の単語や語句は事前に調べ、パラグラフごとに要点を説明できるように準備し、語句や読解問題は事前に解いたうえで授業にのぞむ。

【テキスト（教科書）】

Kayoko Shiomi et als., Challenges of Global Enterprises（金星堂, 2019）, ¥2100.

【参考書】

『エコノミスト』誌などの本格的な時事英語を読むので、『リーダーズ英和』レベルの英語辞書は欠かせない。スマホ使用は特に認めた場合を除き原則不可。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40 %、小テストと提出課題 20 %、グループ活動でのパフォーマンス 20%、平常点 20 %（予習と授業への積極的参加）。予習を怠る者や辞書不所持者の平常点は大幅にカットする。欠席が 4 回以上の者は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

一回分の授業時間が増えたので緩急を意識したが、ややメリハリを欠いたかもしれない。

【Outline and objectives】

To acquire higher reading skills with a view to being more conscious of trends in contemporary business enterprises

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

滝沢 玄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 17 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期と同じ。

【到達目標】
春学期のテーマを踏襲しつつ、さらに読みの精度を上げ、英文の細かなニュアンスへの対応力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
基本的に春学期と同じ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Review etc.	春学期試験のレビュー。残りの時間によってテキストに入るか、プリントを使用する。
第 2 回	8. TED	グループ会話、本文読解と発展問題
第 3 回	8. TED/9. Amazon	グループ会話、本文読解と発展問題
第 4 回	9. Amazon	8 の小テスト、本文読解と発展問題
第 5 回	10. Sony	9 の小テスト、グループ会話、本文読解と発展問題
第 6 回	10. Sony/11. IKEA	グループ会話、本文読解と発展問題
第 7 回	11. IKEA	10 の小テスト、本文読解と発展問題
第 8 回	12. Google	11 の小テスト、グループ会話、本文読解と発展問題
第 9 回	12. Google/13. Walmart	グループ会話、本文読解と発展問題
第 10 回	13. Walmart	12 の小テスト、本文読解と発展問題
第 11 回	14. Disney	13 の小テスト、グループ会話、本文読解と発展問題
第 12 回	14. Disney/15. GE	グループ会話、本文読解と発展問題
第 13 回	15. GE	14 の小テスト、本文読解と発展問題
第 14 回	Test	秋学期の授業を範囲とした筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期と同じ。

【テキスト（教科書）】
春学期と同じ。

【参考書】
春学期と同じ。

【成績評価の方法と基準】
春学期と同じ。

【学生の意見等からの気づき】
春学期と同じ。

【Outline and objectives】
Follow the previous term

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

菊池 かおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 18 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の記事やプレゼンテーションを日本語への逐語訳というステップを経なくても、すばやく理解できる力を養います。そのために、パラグラフやエッセイ、そしてプレゼンテーションの構造に留意しながら論旨を把握し、必要な情報を素早く入手することに重点を置きます。また、得られた情報を多角的観点から分析し、批判的思考力を養いながら、自分の意見を論理的に英語で書く練習も行います。

【到達目標】
未知語をすべて調べなくても、大意を把握できる。そして、得られた情報を鵜呑みにすることなく、内容を咀嚼するための論理的思考力と批判的思考力を身に付ける。さらに、その内容について、自分の意見を明確に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
以下の授業計画は進捗状況によって柔軟に変化しますが、基本的には **Reading** と **Watching**、そして **Writing** を組み合わせながら進める実践演習型の授業です。授業では、適宜、グループワークやライティングを行い、リアクションペーパーの提出もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容、方針、成績評価などを説明する
2	タイトルとは？	タイトルからトピックと大まかな内容を把握する
3	パラグラフの構造を学ぶ（1）	パラグラフの構成を理解し、ヘディングをつける
4	パラグラフの構造を学ぶ（2）	パラグラフの構成を理解し、ライティングを行う
5	序論と結論の役割を学ぶ（1）	序論と結論から本文の内容を把握する
6	序論と結論の役割を学ぶ（2）	プレゼンテーションの導入を見て、内容を把握する
7	中間テスト	ここまで学んだことの理解度をチェックする
8	エッセイの構造を分析する（1）	エッセイの構造を理解した上で読解する
9	スキミングとスキヤニング（1）	スキミングとスキヤニングを理解する
10	スキミングとスキヤニング（2）	スキミングとスキヤニングの実践演習をする
11	リスニング演習と記事の読解（1）	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
12	エッセイの構造を分析する（2）	エッセイの構造を理解した上で要約する
13	リスニング演習と記事の読解（2）	BBC などメディアニュースを題材としたリスニング問題演習と記事の読解
14	期末テスト	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に配布するプリントの予習と復習。それ以外の課題がある場合は、授業中に指示します。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
授業中に、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（予習・課題・小テストなど） 40%・中間・期末テスト 60%
欠席が 4 回以上になった者は単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their reading and listening skills. The course also aims to provide students with opportunities to think critically and express their opinions on a variety of topics.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

岩下 弘史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 18 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかり聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。またこれと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、シンプルなものでもよいので間違いのない英文が書けるようになる訓練をする機会も持ちます。この際にも辞書を含めた様々な媒体を用いて、より正確なものが書けるようになることが目標となります。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
- ・テキスト内に出てきた単語をしっかり暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかり理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
- ・文法的に正確な英文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は以下の手順で進めます。

- ・前回の授業のリアクションペーパーに関するコメント
 - ・読解解説（指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です）
 - ・読んだテキストのリスニング（ディクテーション含む）
 - ・リアクションペーパーに学んだニュースの内容等について英語でコメント
- ※理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	具体的な授業の進め方について説明します。教科書を持参してください。
2	Unit1-1	Unit1 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit1-1	Unit1 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit2-1	Unit2 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit2-2	Unit2 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit3-1	Unit3 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
7	Unit3-2	Unit3 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit4-1	Unit4 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit4-1	Unit4 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit5-1	Unit5 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit5-2	Unit5 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit6-1	Unit6 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

13	Unit6-2	Unit6 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ（期末試験）	試験範囲、内容については授業内で説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読していただくことは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。テキストのリスニングを行うことも求められます。

【テキスト（教科書）】

「15 章版：ニュースメディアの英語—演習と解説 2019 年度版」(朝日出版社、2019 年)

【参考書】

「ジーニアス英和辞典」(大修館)

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）35% 期末試験 65%

公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容に関連した話題を展開し解説を深めることで、英語自体にもより興味を持てるという意見があり、なるべくそうした授業に努める。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every classes. This course will further give the students the opportunity to listen to the excerpts and other materials.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

滝 沢 玄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 19 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

語彙や音声をつくめた総合的な英語力の発展。英語を通じた社会的関心と批評的視点の向上。

【到達目標】

社会で起きているさまざまな出来事を知り、自らの意見をもつ。論理的な英文を読みこなすのに必要とされる語彙を増やし、論旨の進め方やパラグラフ構成の特徴をつかむ。英語の音声的傾向を体得し、リスニングの反射神経を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各レッスンはリスニングとリーディングのパートに分かれている。リスニングは問題を解きながら、音声聞きとりのコツを学ぶ。リーディングはパラグラフごとに音読し、内容を要約し、関連した問題を解く。予習を前提としてランダムに当ててゆく。英語で意見を述べるセクションは、時おり作文にも応用する。各ユニット終了の翌週には語彙問題の小テストを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction : ガイダンス	授業の概要、テキストの内容等についての説明。時間があれば Unit 1 に入る。
第 2 回	Unit 1	リスニングと本文読解
第 3 回	Unit 1	本文読解と発展問題
第 4 回	Unit 2	リスニングと本文読解
第 5 回	Unit 2	本文読解と発展問題
第 6 回	Unit 3	リスニングと本文読解
第 7 回	Unit 3	本文読解と発展問題
第 8 回	Unit 4	リスニングと本文読解
第 9 回	Unit 4-5	本文読解と発展問題/リスニング
第 10 回	Unit 5	本文読解と発展問題
第 11 回	Unit 6	リスニングと本文読解
第 12 回	Unit 6-7	本文読解と発展問題/リスニング
第 13 回	Unit 7	本文読解と発展問題
第 14 回	Test	春学期授業を範囲とする筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディング本文の単語や語句は事前に調べ、パラグラフごとに要点を説明できるように準備し、問題は事前に解いておく。リスニング問題もふくめ音声はダウンロード可能なので、必ず事前に聴き、単語のアクセントやイントネーションを意識しながら音読の練習をする。

【テキスト（教科書）】

Masamichi Mochizuki et als., Ambitions (Pre-intermediate) (金星堂, 2018), ¥2000.

【参考書】

(言う必要もないことだが)『リーダーズ英和』(研究社) など英語辞書は必携。スマホ使用は原則不可。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テストと提出課題 30 %、平常点 20 % (予習や授業への積極的参加)。予習を怠る者や辞書不所持者の平常点は大幅にカットする。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

難易度設定は難しいが、丁度よいというのは減多にないので、調整次第かと思う。

【Outline and objectives】

The development of comprehensive responsiveness to English

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 II	2016 年度以前入学者
滝沢 玄	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火 1/Tue.1 営 1 年：英語 19 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期と同じ。

【到達目標】
春学期を踏襲しつつ、各ユニットのテーマについて問題意識を持ちながら読む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
基本的に春学期と同じ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】	
回	テーマ 内容
第 1 回	Review etc. 春学期試験レビュー/ 残り時間によってプリント使用、あるいはテキストに入る。
第 2 回	Unit 8 リスニングと本文読解
第 3 回	Unit 8-9 本文読解と発展問題/リスニング
第 4 回	Unit 9 本文読解と発展問題
第 5 回	Unit 10 リスニングと本文読解
第 6 回	Unit 10-11 本文読解と発展問題/リスニング
第 7 回	Unit 11 本文読解と発展問題
第 8 回	Unit 12 リスニングと本文読解
第 9 回	Unit 12-13 本文読解と発展問題/リスニング
第 10 回	Unit 13 本文読解と発展問題
第 11 回	Unit 14 リスニングと本文読解
第 12 回	Unit 14-15 本文読解と発展問題/リスニング
第 13 回	Unit 15 本文読解と発展問題
第 14 回	Test 秋学期授業を範囲とする筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期と同じ。

【テキスト（教科書）】
春学期と同じ。

【参考書】
春学期と同じ。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、小テストと提出課題 30 %、平常点 20 %（予習や授業への積極的参加）。予習を怠る者や辞書不所持者の平常点は大幅にカットする。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
春学期と同じ。

【Outline and objectives】
Follow the previous term

LANe100LA	
English 1 I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 I	2016 年度以前入学者
新宅 美樹	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 2/Thu.2 営 1 年：英語 20 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パラグラフの構造に留意して、高度な英文を速読・音読・精読する。書き手の意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】
①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことができるようになる。
②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力を修得することができるようになる。
③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価の方法などの説明。
2	Chapter 1	Chapter 1 Progressive Era Protagonists ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Chapter 1	Chapter 1 Progressive Era Protagonists ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Chapter 2	Chapter 2 Progressive Era Protagonists ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Chapter 2	Chapter 2 Progressive Era Protagonists ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Chapter 3	Chapter 3 Honor Through Heterosexuality ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Chapter 3	Chapter 3 Honor Through Heterosexuality ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

8	Chapter 4	Chapter 4 Reflecting on the Self ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Chapter 4	Chapter 4 Reflecting on the Self ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Chapter 5	Chapter 5 Making a Man ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Chapter 5	Chapter 5 Making a Man ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Chapter 6	Chapter 6 Performing Meerkat and Warthog ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Chapter 6	Chapter 6 Performing Meerkat and Warthog ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	前期の復習 試験	Chapter1～Chapter 6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①予習をして授業に臨むこと。
予習の際に、Unit ごとに速読をし、論旨を把握することに努めてください。
その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。
②復習の際に、授業内に作成した英作文などを通して、重要語彙をしっかりと身につけてください。
注意：1 回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書：ディズニースタディオと多様化する社会
著者：岡友 万裕
出版社：英宝社
出版年：2019 年
価格：2000 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。
欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。
詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

この教科書は、長く難しい表現を含む英文がありますので、細かい点についてはきちんと把握できるように指導します。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
English 1 II	2016 年度以前入学者
新宅 美樹	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 2/Thu.2	
営 1 年：英語 20 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、英文の速読・音読・精読する。
語り手の感情や意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】

①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを旨とする。
②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す。
③予習をしてきたことを前提に、授業内の発表を中心に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返りなど
2	Chapter 7	Chapter 7 "Hakuna Matata" ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Chapter 7	Chapter 7 "Hakuna Matata" ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Chapter 8	Chapter 8 "Hakuna Matata" ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Chapter 8	Chapter 8 "Hakuna Matata" ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Chapter 9	Chapter 9 "Carnivores! Oy!" ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Chapter 9	Chapter 9 "Carnivores! Oy!" ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

8	Chapter 10	Chapter 10 Mean Ladies ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Chapter 10	Chapter 10 Mean Ladies ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Chapter 11	Chapter 11 Mean Ladies ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Chapter 11	Chapter 11 Mean Ladies ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Chapter 12	Chapter 12 Mean Ladies ① Vocabulary ②速読・音読・内容把握。 ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Chapter 12	Chapter 12 Mean Ladies ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	後期復習 試験	Chapter7-Chaptere 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①わからない単語を調べる。
②英文の構造・文法事項を確認する。
③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。

【テキスト（教科書）】
教科書：ディズニーと多様化する社会
著者：岡友 万裕
出版社：英宝社
出版年：2019 年
価格：2000 円

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。
欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】
学生全員が積極的に授業にできるように、予習などの授業準備を徹底させる。

【Outline and objectives】
This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA	
English 1 I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 I	2016 年度以前入学者
田口 清一	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 2/Thu.2	
営 1 年：英語 21 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粹に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】
以下の達成を主眼とする。
*一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
*英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
*読解と表現に必要な文法を身に付ける。
*英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説や理解度をチェックする質疑応答などを行ってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠な文化的背景や英語を取り巻く諸事情に対する認識を、延いては人間の言語そのものに対する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間の授業についての説明
第 2 回	サンプル解説	英語の論理と考え方①
第 3 回	サンプル解説	英語の論理と考え方②
第 4 回	演習	Lesson1(言語の研究) の本文講読
第 5 回	演習	Lesson1 の本文講読 (続)
第 6 回	演習	Lesson1 の問題演習
第 7 回	演習	Lesson2(イギリス英語とアメリカ英語) の本文講読
第 8 回	演習	Lesson2 の本文講読 (続)
第 9 回	演習	Lesson2 の問題演習
第 10 回	演習	Lesson3(国際語としての英語) の本文講読
第 11 回	演習	Lesson3 の本文講読 (続)
第 12 回	演習	Lesson3 の問題演習
第 13 回	演習	Lesson4(言語の文化的面) の本文講読
第 14 回	試験	Lesson4 の本文講読 (続)
		Lesson4 の問題演習
		春学期の講評
		春学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は演習形式をとるので、しっかりした予習を大前提とする。その際に、辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べること。

【テキスト（教科書）】
Twenty-Three Short Essays on Engrish (英語についての 23 話) 英宝社

【参考書】
特に指定はしないが、必ず文法書 (体系的にある程度詳しく記述されたもの) を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

平常の取り組み方を重視し、これに期末試験を加えて総合的に評価する。具体的には、「平常点」50 %、「試験」50 %で評価する。「平常点」では何よりも学問的意欲を評価するので、予習の質が重要である。到達目標に掲げた項目がどの程度達成されているかを重視する。尚、原則として欠席が3回を超えた場合は不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は多少難しく感じられたようだが、本質的理解を得るためには多少の困難は付き物である。真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もある。今年度は、重要な問題に関しては昨年以上に丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】

年間を通してのレヴェル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

田口 清一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年：英語 21 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粹に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】

- 以下の達成を主眼とする。
- * 一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
 - * 英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
 - * 読解と表現に必要な文法を身に付ける。
 - * 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説や理解度をチェックする質疑応答などを行なってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語の論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠な文化的背景や英語を取り巻く諸事情に対する認識を、延いては人間の言語そのものに對する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	演習	Lesson5(言語使用域) の本文購読
第 2 回	演習	Lesson5 の本文講読 (続) Lesson5 の問題演習
第 3 回	演習	Lesson5 の問題演習 (続)
第 4 回	演習	Lesson5 の問題演習 (続)
第 5 回	演習	Lesson6(言語範疇化) の本文講読
第 6 回	演習	Lesson6 の本文講読 (続) Lesson6 の問題演習
第 7 回	演習	Lesson7(子供の言語習得) の本文講読
第 8 回	演習	Lesson7 の本文講読 (続) Lesson7 の問題演習
第 9 回	演習	Lesson8(音声の研究) の本文講読
第 10 回	演習	Lesson8 の本文講読 (続) Lesson8 の問題演習
第 11 回	演習	Lesson9(英語の名前) の本文講読
第 12 回	演習	Lesson9 の本文講読 (続)
第 13 回	演習	Lesson9 の問題演習
第 14 回	試験	年間の総評 秋学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習形式をとるので、しっかりした予習を大前提とする。その際に、辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べること。

【テキスト（教科書）】

Twenty-Three Short Essays on English (英語についての 23 話)
英宝社

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書 (体系的にある程度詳しく記述されたもの) を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

平常の取り組み方を重視し、これに期末試験を加えて総合的に評価する。具体的には、「平常点」50 %、「試験」50 %で評価する。平常点では何よりも学問的意欲を評価するので、予習の質が重要である。到達目標に掲げた項目がどの程度達成されているかを重視する。秋学期は春学期の習熟度も考慮する。尚、原則として欠席が3回を超えた場合は不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は多少難しく感じられたようだが、本質的理解を得るためには多少の困難は付き物である。真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もある。今年度は、重要な問題に関しては昨年以上に丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】

年間を通してのレヴェル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline and objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年：英語 22 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英文を読む。構文など、文法事項に関することを学ぶ。

速読や精読など目的に応じた速度で効果的に読む訓練をする。

必要な知識・情報を掴み取るを訓練をする。書き手の感情や意図、論旨を正確に把握する訓練をする。精読した英文の要旨や、それについてのコメントなどを英語で書く練習をする。英語辞書の効果的な使い方について学習する。

【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことが出来る。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力を養うことが出来る。「聴く力」の育成も、授業の一環で行い、精読した英文の要旨や、それについての批判的コメントなどを英語で書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	1 年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1 年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseases (1)	Diseases (1) を学習する。
Chapter 5	Diseases (2)	Diseases (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter 12	Hospitals	Hospitals を学習する。
試験	試験を行う。	試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English（桐原書店）

【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、授業への積極性 10 %、課題 20 %、セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 22 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として複数のパラグラフからなる英文を読めるようにする。速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来るようにする。必要な知識・情報を掘み取ることが出来るようにする。書き手の感情や意図を掘み取ることが出来るようにする。英語辞書の効果的な使い方が出来るようにする。

【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来る。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掘み取ること、また書き手の感情や意図を掘み取ることが出来る。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力が出来る。「聴く力」の育成出来る。また、精読した英文の要旨や、それについての批判的なコメントを英語で書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。
Chapter 9	Japan	Japan を学習する。
ビデオ 試験	ビデオを学習。 試験を行う。	ビデオ学習をする。 試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

Major Countries In The Woeld（世界の主要国） 風書房 1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、課題 20 %、授業への積極性 10 %、1 セメスターで 4 回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。
英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。
授業中、スマホはカバンの中にしまっておくこと。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

岩下 弘史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年：英語 23 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかり聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。またこれと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、サンプルのものでよいので間違いのない英文が書けるようになる訓練をする機会も持ちます。この際にも辞書を含めた様々な媒体を用いて、より正確なものが書けるようになることが目標となります。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
- ・テキスト内に出てきた単語をしっかり暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかり理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
- ・文法的に正確な英文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- 授業は以下の手順で進めます。
- ・前回の授業のリアクションペーパーに関するコメント
 - ・読解解説（指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です）
 - ・読んだテキストのリスニング（ディクテーション含む）
 - ・リアクションペーパーに学んだニュースの内容等について英語でコメント
- ※理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	具体的な授業の進め方について説明します。教科書を持参してください。
2	Unit1-1	Unit1 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit1-2	Unit1 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit2-1	Unit2 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit2-2	Unit2 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit3-1	Unit3 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
7	Unit3-2	Unit3 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit4-1	Unit4 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit4-2	Unit4 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit5-1	Unit5 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit5-2	Unit5 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit6-1	Unit6 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

13	Unit6-2	Unit6 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ（期末試験）	試験範囲、内容については授業内で説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読してくることは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。テキストのリスニングを行うことも求められます。

【テキスト（教科書）】

「15 章版：ニュースメディアの英語—演習と解説 2019 年度版」(朝日出版社、2019 年)

【参考書】

「ジーニアス英和辞典」(大修館)

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）35%
期末試験 65%

公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容に関連した話題を展開し解説を深めることで、英語自体にもより興味を持てるという意見があり、なるべくそうした授業に努める。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. In particular, students are required to read with a dictionary excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every classes. This course will further give the students the opportunity to listen to the excerpts and other materials.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

岩下 弘史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 23 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、効果的な英語のリーディングのストラテジーを中心に学習します。また教科書のトピックに関して自分の意見を英語で話したり、書いたりすることも学びます。

【到達目標】

This course aims at two goals: 1) to learn reading strategies such as skimming, scanning, summarizing, paraphrasing or inferencing; and 2) to learn and practice summary writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- 1) You will learn reading skills, such as skimming, scanning, summarizing or paraphrasing.
- 2) You will develop your English vocabulary.
- 3) You will discuss the topic of each Chapter with your classmates.
- 4) You will have a lot of pair work and group work in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction/Setting Goals/Self-introduction	I will introduce this course. You will set your goals for this semester and this class. You will write your goals and self-introduction.
2	Self-Introduction	You will introduce yourself to your classmates. Chapter 2 You will learn about political correctness in Chapter 2.
3	Chapter 2	You will continue to study Chapter 2.
4	Chapter 3	You will learn the effect of your attitudes on your career.
5	Chapter 3	You will continue to study Chapter 3.
6	Chapter 4	You will learn diversity in human senses and think of the way to deal with diversity.
7	Chapter 4	You will continue to study Chapter 4.
8	Chapter 5	You will learn about creative thinking.
9	Chapter 5	You will continue to study Chapter 5.
10	Chapter 7	You will learn about typical American students' diet and think of wellness.
11	Chapter 7	You will continue to study Chapter 7.
12	Chapter 11	You will learn how you should be skillful readers.
13	Chapter 11 Review	You will continue to study Chapter 11.
14	Self-Reflection	You will reflect on your academic performance and set your goals for the next year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read every week reading assignment and look up words and phrases you don't know in the dictionary
- 2) to prepare for quizzes every week
- 3) to watch or listen to an English program regularly
- 4) to practice overshadowing text every week
- 5) to do assignments, submit them, and meet the deadline

【テキスト（教科書）】

Title: Select Readings (2nd Edition). Upper-Intermediate
Authors: Linder Lee, and Jean Bernard
Publisher: Oxford University Press
Publishing Year: 2011

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), weekly quizzes (10%), assignments (10%), and final examinations (60%)

*If you have four absences per semester without permission, do not make a presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Most of my students who took this course seemed to be satisfied with this class. I would like to make this course more effective for students' English learning.

【学生が準備すべき機器他】

Hosei's Educational Online Learning System (H'etude)

【その他の重要事項】

You are expected to participate in this class actively. Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class.

【Outline and objectives】

You will mainly learn effective English reading in this class. You will express (speak and write) your thought of topics in the textbook in English and exchange them with your classmates. This course aims to enhance your English holistically.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

坂梨 健史郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 24 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてくること。
- ・各ユニットは4セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習していったほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容の説明等
2	Unit 1	読解：試験やアンケートに関する英文
3	Unit 1（続き）	文法：主語と目的語
4	Unit 2	読解：食生活に関する英文
5	Unit 2（続き）	文法：述部、付加語、補語
6	Unit 3	読解：サブカルチャーに関する英文
7	Unit 3（続き）	文法：様々な修飾
8	Unit 4	読解：映画に関する英文
9	Unit 4（続き）	文法：完了形
10	Unit 5	読解：社会制度に関する英文
11	Unit 5（続き）	文法：不定詞
12	Unit 6	読解：ポピュラーミュージックに関する英文
13	Unit 6（続き）	文法：動名詞および現在分詞
14	試験	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 必ず予習すること。
- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフフリーディング——正しい英語の読み方』 金星堂

【参考書】

文法の参考書は
・『FOREST』 桐原書店
を薦める。
英和辞典は

・『リーダーズ英和辞典＋リーダーズプラス』 研究社
・『研究社英和大辞典』 研究社
・『ランダムハウス英和大辞典』 小学館
をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。携帯可能な小型の紙の辞書では
・『エクシード英和辞典』三省堂
が収録語数の多さやページの見やすさでお薦め。

【成績評価の方法と基準】

単位取得条件
・全ての授業に出席していること（ただし止むを得ない理由に限り3回まで欠席を認める）。
・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）。
・期末試験の結果が100点満点中60点以上であること。
以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験

・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。
成績評価
・期末試験 50 %
・学習態度および受講態度 50 %
遅刻の扱い
・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
・遅刻は分数を記録し、合計が60の倍数に達することに1回の欠席とする。記録は10分刻みとし、端数は切り上げる（1分の遅刻は10と記録する）。
・なお、中座（用便等の理由で一時的退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】

座席
・座席は指定する。
オフィスアワー
・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

坂梨 健史郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 24 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】

・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしておくこと。
・各ユニットは4セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習していきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7	読解：リサイクルに関する英文
2	Unit 7（続き）	文法：助動詞
3	Unit 8	読解：起業に関する英文
4	Unit 8（続き）	文法：関係詞
5	Unit 9	読解：伝統文化に関する英文
6	Unit 9（続き）	文法：it や there を用いる構文
7	Unit 10	読解：日本文化に関する英文
8	Unit 10（続き）	文法：受動文
9	Unit 11	読解：健康に関する英文
10	Unit 11（続き）	文法：比較の表現
11	Unit 12	読解：消費行動に関する英文
12	Unit 12（続き）	文法：名詞構文
13	Unit 13	読解：日本と西洋の文化比較に関する英文
14	試験	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習すること。
・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
・READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
・ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフフリーディング―正しい英語の読み方』 金星堂

【参考書】

文法の参考書は
・『FOREST』 桐原書店
を薦める。
英和辞典は

・『リーダーズ英和辞典＋リーダーズプラス』研究社
・『研究社英和大辞典』研究社
・『ランダムハウス英和大辞典』小学館
をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。携帯可能な小型の紙の辞書では
・『エクシード英和辞典』三省堂
が収録語数の多さやページの見やすさでお薦め。

【成績評価の方法と基準】

単位取得条件
・全ての授業に出席していること（ただし止むを得ない理由に限り3回まで欠席を認める）。
・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
・期末試験の結果が100点満点中60点以上であること。
以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。
期末試験
・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

・期末試験 50 %
・学習態度および受講態度 50 %

遅刻の扱い

・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
・遅刻は分数を記録し、合計が60の倍数に達するごとに1回の欠席とする。記録は10分刻みとし、端数は切り上げる（1分の遅刻は10と記録する）。
・なお、中座（用便等の理由で一時的退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】

座席
・座席は指定する。
オフィスアワー
・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

岡村 由美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年：英語 25 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・英文の趣旨を正確に把握できる読解力を身に付ける。
・語彙を増やし、表現力を養う。
・英文法、英文構成を理解する。

【到達目標】

世界に視野を広げて、情報収集能力を身に付け、現代社会が抱える問題について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

・文章のパラグラフ構成や論旨展開を把握し、精読することによって英文構成や表現法を学ぶ。
・内容把握に関した質問に英語で答える練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の説明。 速読の練習。
第 2 回	Chapter1	仮想水についての英語講読
第 3 回	Chapter1	講読と練習問題
第 4 回	Chapter2	外来種についての英語講読
第 5 回	Chapter2	講読と練習問題
第 6 回	Chapter3	森林破壊についての英語講読
第 7 回	Chapter3	講読と練習問題
第 8 回	Chapter4	海洋汚染についての英語講読
第 9 回	Chapter4	講読と練習問題
第 10 回	Chapter5	都市化の功罪についての英語講読
第 11 回	Chapter5	講読と練習問題
第 12 回	Chapter6	五感の世界についての英語講読
第 13 回	Chapter6	講読と練習問題
第 14 回	Chapter7	偽造医薬品問題についての英語講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で書かれたもの（新聞や書物等）をできるだけ読むようにすること。

【テキスト（教科書）】

Pathways to Knowledge 成美堂

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内での発表等） 30 %
期末試験 70 %
学期末記述試験の結果に、授業中の発表内容や出席状況を含めて、評価を出す。欠席は3回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を付け加える。

【Outline and objectives】

・ To acquire reading comprehension ability to accurately grasp the purpose of English sentences.
・ Increase vocabulary and cultivate expressiveness.
・ Understand English grammar and English composition.

LANe100LA

English 1 II

LANe100LA

English 1 II

岡村 由美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 25 組

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・英文の趣旨を正確に把握できる読解力を身に付ける。
- ・語彙を増やし、表現力を養う。
- ・英文法、英文構成を理解する。

【到達目標】

世界に視野を広げて、英語による情報収集能力を身に付け、現代社会が抱える問題について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部 of ディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・文章のパラグラフ構成や論旨展開を把握し、精読することによって英文構成や表現法を学ぶ。
- ・内容把握に関連した質問に英語で答える練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter7	講読と練習問題
第 2 回	Chapter8	ヘルス・ツーリズムについての英語講読
第 3 回	Chapter8	講読と練習問題
第 4 回	Chapter9	エイズの歴史と変化についての英語講読
第 5 回	Chapter9	講読と練習問題
第 6 回	Chapter10	音楽の癒しの力についての英語講読
第 7 回	Chapter10	講読と練習問題
第 8 回	Chapter11	スポーツ大国への道についての英語講読
第 9 回	Chapter11	講読と練習問題
第 10 回	Chapter12	第二外国語習得方法についての英語講読
第 11 回	Chapter12	講読と練習問題
第 12 回	Chapter13	進化するゲームについての英語講読
第 13 回	Chapter13	講読と練習問題
第 14 回	Chapter14	世界のファーストフードについての英語講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語で書かれたもの（新聞や書物等）をできるだけ読むようにすること。

【テキスト（教科書）】

Pathways to Knowledge 成美堂

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内での発表等） 30 %

期末試験 70 %

学期末記述試験の結果に、授業中の発表内容や出席状況を含めて、評価を出す。欠席は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を付け加える。

【Outline and objectives】

- ・ To acquire reading comprehension ability to accurately grasp the purpose of English sentences.
- ・ Increase vocabulary and cultivate expressiveness.
- ・ Understand English grammar and English composition.

LANe100LA

English 1 I

LANe100LA

English 1 I

須藤 祐二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 26 組

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る英語の文章を正確に、かつある程度で読める力を養うことを目的とする。また、パラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掘り取ることに重点を置く。また、テキストの表現を使って基本的な英文を書く練習も取り入れる。テキストは日本の特徴的な会社に焦点を当てている。受講生は、英語運用能力の強化やビジネストレンドの理解だけでなく、経済学、経営学で使われる基本的語彙の習得や概念の理解も目指す。

【到達目標】

受講生は複数のパラグラフから成る英文を正確に読み且つ論旨をつかめるようにする。経済や経営に関わる記事や論文で頻繁に使われる基礎的な英語表現・語句も習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部 of ディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各授業の最初に予習度のチェックをする。その後、読解に移り、内容の確認を行う。また、教科書にでている表現を使ったライティング演習を配布プリントで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の授業概要の説明を行う。
第 2 回	Mazda（前半）	第 1 章（Mazda）の前半を演習。
第 3 回	Mazda（後半）	第 1 章（Mazda）の後半を演習。
第 4 回	House（前半）	第 2 章（House）の前半を演習。
第 5 回	House（後半）	第 2 章（House）の後半を演習。
第 6 回	配布プリントを用いた演習	時事問題を扱った英文記事を使っ
第 7 回	TOTO（前半）	第 3 章（TOTO）の前半を演習。
第 8 回	TOTO（後半）	第 3 章（TOTO）の後半を演習。
第 9 回	Shimano（前半）	第 4 章（Shimano）の前半を演習。
第 10 回	Shimano（後半）	第 4 章（Shimano）の後半を演習。
第 11 回	Mazda Design（前半）	第 5 章（Mazda Design）の前半を演習。
第 12 回	Mazda Design（後半）	第 5 章（Mazda Design）の後半を演習。
第 13 回	配布プリントを用いた演習	時事問題を扱った英文記事を使っ
第 14 回	学期のまとめ	学期のまとめと復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で行う内容は必ず予習をすること。また、有用と思われる英文資料を配布するので、その場合には、あらかじめ読んで授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Outstanding MOnozukuri Companies in Japan（『知られざる日本の「ものづくり」企業の世界』）（吉野成美他著、松柏社）

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業内に課した課題を含む平常評価（30%）によって総合評価する。4 回以上欠席した学生は成績評価の対象から外れる。また、欠席回数による減点もあるので注意すること。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していない。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to develop students' ability for reading passages of multiple paragraphs written in English correctly and at a speed suitable for different circumstances. Paying attention to the logical relationship between paragraphs, students should try to fully understand the structure and argument of passages and to garner insights or relevant information from them. Practices will also be given to students for writing sentences in English, based on textbook models. The textbook introduces companies unique to Japan. In this course, students should not only improve their English proficiency, but also become more aware of contemporary business trends, and acquire the fundamental vocabulary and knowledge commonly used in Economics and Business administration.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

須藤 祐二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 26 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフから成る英語の文章を正確に、かつある程度の速度で読める力を養うことを目的とする。また、パラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掘み取ることに重点を置く。また、テキストの表現を使って基本的な英文を書く練習も取り入れる。テキストは日本の特徴的な会社に焦点を当てている。受講生は、英語運用能力の強化やビジネストレンドの理解だけでなく、経済学、経営学で使われる基本的語彙の習得や概念の理解も目指す。

【到達目標】

受講生は複数のパラグラフから成る英文を正確に読み且つ論旨をつかめるようにする。経済や経営に関わる記事や論文で頻繁に使われる基礎的な英語表現・語句も習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各授業の最初に予習度のチェックをする。その後、読解に移り、内容の確認を行う。また、教科書にでている表現を使ったライティング演習を配布プリントで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	UCC（前半）	第 6 章 (UCC) の前半を演習する。
第 2 回	UCC（後半）	第 6 章 (UCC) の後半を演習する。
第 3 回	Daifuku（前半）	第 7 章 (Daifuku) の前半を演習する。
第 4 回	Daifuku（後半）	第 7 章 (Daifuku) の後半を演習する。
第 5 回	英文レポートの基本ルールの確認	英文レポートで多用される表現の確認とレポートの構成の学習。
第 6 回	Sakura Color Products（前半）	第 8 章 (Sakura Color Products) の前半を演習する。
第 7 回	Sakura Color Products（後半）	第 8 章 (Sakura Color Products) の後半を演習する。
第 8 回	Yanmar（前半）	第 9 章 (Yanmar) の前半を演習する。
第 9 回	Yanmar（後半）	第 9 章 (Yanmar) の後半を演習する。
第 10 回	英文レポート作成演習	時事問題の記事を読解後、簡単な英文レポートを作成する。
第 11 回	Otafuku Sauce（前半）	第 11 章 (Otafuku Sauce) の前半を演習する。
第 12 回	Otafuku Sauce（後半）	第 11 章 (Otafuku Sauce) の後半を演習する。
第 13 回	Tombow（前半）	第 12 章 (Tombow) の前半を演習する。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめと復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で行う内容は必ず予習をすること。また、有用と思われる英文資料を配布するので、その場合には、あらかじめ読んで授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Outstanding MOnozukuri Companies in Japan (『知られざる日本の「ものづくり」企業の世界』) (吉野成美他著、松柏社)
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%)、授業内に課した課題を含む平常評価 (30%) によって総合評価する。4 回以上欠席した学生は成績評価の対象から外れる。また、欠席回数による減点もあるので注意すること。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していない。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to develop students' ability for reading passages of multiple paragraphs written in English correctly and at a speed suitable for different circumstances. Paying attention to the logical relationship between paragraphs, students should try to fully understand the structure and argument of passages and to garner insights or relevant information from them. Practices will also be given to students for writing sentences in English, based on textbook models. The textbook introduces companies unique to Japan. In this course, students should not only improve their English proficiency, but also become more aware of contemporary business trends, and acquire the fundamental vocabulary and knowledge commonly used in Economics and Business administration.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

吉田 和久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年：英語 27 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】

上記の目的に少し手も近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイック）のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。併せて、英語の発音の基本的な練習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションとブレイスメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	トピック・センテンス①【主語】
3	テキストの演習	トピック・センテンス②【動詞】
4	テキストの演習	文と文の関係①【順接】
5	テキストの演習	文と文の関係②【逆接】
6	テキストの演習	文と文の関係③【付加、例示、その他】
7	テキストの演習	パラグラフの構造①
8	テキストの演習	パラグラフの全体構造②
9	テキストの演習	パラグラフの構造③
10	テキストの演習	エッセイの全体構造①【イントロダクション】
11	テキストの演習	エッセイの全体構造②【ボディ】
12	テキストの演習	エッセイの全体構造③【今クルージョン】
13	テキストの演習	全体のまとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。トイックの問題集（『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』）を買ってもらう予定です。

【参考書】

特になし。辞書等は、自分で準備してください。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。

【学生の意見等からの気づき】

トイックとトフルの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トイックに絞ろうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. Course materials will be mainly extracted from the workbooks for the TOEIC test. In addition, the basics of English pronunciation will be taught.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

吉田 和久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年：英語 27 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】

上記の目的に少しでも近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイック）のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセッションでは、TOEIC や TOEFL（トーフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセッションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションとブレイスメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	英単語の構造①【接頭辞】
3	テキストの演習	英単語の構造②【接尾辞】
4	テキストの演習	英単語の構造③【語幹・ラテン語系】
5	テキストの演習	英単語の構造④【語幹・ギリシャ語系】
6	テキストの演習	英単語の構造⑤【接尾辞】
7	テキストの演習	英単語の構造⑥【接尾辞】
8	テキストの演習	英語の発音①【母音】
9	テキストの演習	英語の発音②【母音】
10	テキストの演習	英語の発音③【子音】
11	テキストの演習	英語の発音④【子音】
12	テキストの演習	英語の発音⑤【子音】
13	テキストの演習	英語の発音【イントネーション】
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。トイックの問題集（『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』）を買ってもらう予定です。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。

【学生の意見等からの気づき】

トイックとトーフルの問題演習を行ったが、後者は本学の学生には少々難しすぎるようであった。今年度のクラスは経営学部オンリーなので、トイックに絞ろうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. Course materials will be mainly extracted from the workbooks for the TOEIC test. In addition, the basics of English pronunciation will be taught.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年：英語 28 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、イギリスを代表する二大高級紙『タイムズ』と『ガーディアン』を速読・音読・精読する。書き手の意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】

- ①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
- ②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
- ③句動詞、慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを目指す速読。
- ②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
- ③予習をしていることを前提に、授業内の発表などを中心に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価の方法などの説明。
2	Unit 1	Unit 1 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 1	unit 1 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 2	Unit 2 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 2	Unit2 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Unit 3	Unit 3 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Unit 3	Unit 3 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 4	Unit 4 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Unit 4	Unit 4 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

10	Unit 5	Unit 5 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 5	Unit 5 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
12	Unit 6	Unit 6 ①速読・音読・内容把握。 ②句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 6	Unit 6 ①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	前期の復習 試験	Unit 1～Unit 6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①予習をして授業に臨むこと。
予習の際に、英文を速読をして論旨を把握することに努めてください。
その後、辞書を使用して重要語彙の確認、精読などを行ってください。
②復習の際に、授業内に作成した英作文などを通して、重要語彙をしっかり身につけてください。
注意：1 回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書：『タイムズ』と『ガーディアン』で読む今日の世界
著者：田中孝信著
出版社：音羽書房鶴見書店
出版年：2009 年
価格：1800 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 10 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。
欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。
詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

この教科書は、長く難しい表現を含む英文がありますので、細かい点についてはきちんと把握できるように指導します。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 II	2016 年度以前入学者
新宅 美樹	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年：英語 28 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの構造に留意して、英文の速読・音読・精読する。
語り手の感情や意図を把握することに重点を置きながら、構文・論旨を正確に把握し、長文の英語を読み取る技術を身につけます。

【到達目標】

①高校までに学習した英語文法能力を基礎とし、認識語彙数・読解力など総合的な英語運用能力を養うことを目標とする。
②専門課程に進級後、あるいは社会に出た後、様々な英文を読み、正確に理解する読解力の向上を目指す。
③句動詞・慣用句・慣用表現、連語など英語独特の表現を理解・修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

①パラグラフ構成をつかみながら英文に即して読み進め、要旨を把握することを旨とする。
②文の構成や言葉の表現を味わいながら正確に内容を把握することを目指す精読。
③予習をしてきたことを前提に、授業内の発表を中心に授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返りなど
2	Unit 7	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの確認。
3	Unit 7	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
4	Unit 8	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの確認。
5	Unit 8	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
6	Unit 9	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの確認。
7	Unit 9	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
8	Unit 10	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの確認。
9	Unit 10	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
10	Unit 11	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの確認。
11	Unit 11	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞・慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。

12	Unit 12	①速読・音読・内容把握。 ②句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの確認。
13	Unit 12	①前回速読した箇所の精読。 ②授業内に説明した句動詞、慣用句・慣用表現、連語などの用法を電子辞書で確認し、例文をノートなどに書き出す。
14	後期の復習試験	Unit 7-Unit 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①わからない単語を調べる。
- ②英文の構造・文法事項を確認する。
- ③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。

【テキスト（教科書）】

教科書：『タイムズ』と『ガーディアン』で読む今日の世界
著者：田中孝信
出版社：音羽書房鶴見書店
出版年：2009年
価格：1800円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の10回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。
欠席が3回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。
詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるように、予習などの授業準備を徹底させる。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students' awareness of their own reading and thinking processes so that they can be successful in reading college-level texts.

LANe100LA	
English 1 I	2017年度以降入学者
LANe100LA	
English 1 I	2016年度以前入学者
北 文美子	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年：英語 29 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。また、テレビ、インターネットなどのニュースにも十分に対応することができるように、リスニング能力も向上させます。

【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

CD付きの教材を使用し、リスニングの課題を出します。授業においては、内容の精読に加えて、大意を把握する速読を組み合わせます。また、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を解説し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	第1課	海外留学をめぐる議論
3	第1課	海外留学に対する各自の意見
4	第2課	原子力発電をめぐる議論
5	第2課	エネルギーに対する各自の意見
6	第3課	移民流入をめぐる議論
7	第3課	移民流入に対する各自の意見
8	第4課	セイフティネットをめぐる議論
9	第4課	セイフティネットに対する各自の意見
10	第5課	地球温暖化をめぐる議論
11	第5課	地球温暖化に対する各自の意見
12	第6課	男女雇用均等についての議論
13	第6課	男女雇用均等に対する各自の意見
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの英文を必ず毎回事前に読んでおいてください。また、リスニングの課題にも取り組むてください。

【テキスト（教科書）】

Michael Hood, Think Smart（金星堂）
その他、適宜プリントを使用します。

【参考書】

その都度授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 10 %
試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は国内研究のため授業を担当していません。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare studentst to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年：英語 29 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期と同様です。

【到達目標】
春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律
学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部：
DP3

【授業の進め方と方法】

春学期の内容に加えて、章ごとのテーマに対して、各自英語で意見を表現し
てもらうため、パラグラフ・ライティング作業を組み合わせます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	第 7 課	教育についての議論
3	第 7 課	教育の役割に対する各自の意見
4	第 8 課	食品添加物についての議論
5	第 8 課	食品添加物の表示に対する各自の意見
6	第 9 課	デジタル社会の行方についての議論
7	第 9 課	デジタル社会のマナーに対する各自の 意見
8	第 10 課	能力給についての議論
9	第 10 課	能力給に対する各自の意見
10	第 11 課	アメリカ軍基地についての議論
11	第 11 課	アメリカ軍基地に対する各自の意見
12	第 12 課	税制度についての議論
13	第 12 課	税金に対する各自の意見
14	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。各章ごとのリスニング
の課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】

春学期と同様です。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 10 %
試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は国内研究のため授業を担当していません。

【Outline and objectives】

This course aims to improve reading and writing skills, and to prepare
students to develop critical thinking ability through widely ranged
English texts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年：英語 30 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの 1 つ目は、難解な
英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法
的構造を理解することです。2 つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日
本語にまとめて説明することです。1 文ずつの内容の把握だけではなく、よ
り長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授
業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスニング力
の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

【到達目標】

・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝えるような日本語で説明する
・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律
学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部：
DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として 2 ～ 3 回の授業で 1 章分というペースで進めることを
目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳
していくようなことはしません。適宜、グループワークを行い、参加者が自
ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示
された課題について考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明を します。
第 2 回	Is it in your blood?(前 半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 3 回	Is it in your blood?(後 半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 4 回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 5 回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 6 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 7 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 8 回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテ ストです。
第 9 回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 10 回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 11 回	Is netspeak harming the English language? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 12 回	Is netspeak harming the English language? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記 事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法 を考察する。
第 14 回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り 返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)
・ STRIKE UP THE TOEIC ® TEST LISTENING 解法のコツを学ぶ TOEIC ® テストリスニング演習, 塚田幸光 著, 金星堂, (¥ 1,500)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題（30%）、中間テストおよび期末テスト（70%）の配分で評価する。

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。

未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 30 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの 1 つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2 つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1 文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。また英語の各種試験・検定に向けてのリスニング力の向上を目的に、リスニングのテキストを用いて練習を行います。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝えるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として 2 ～ 3 回の授業で 1 章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	Language and the world（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 3 回	Language and the world（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 4 回	Population crisis（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 5 回	Population crisis（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 6 回	The greatest show on earth（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 7 回	The greatest show on earth（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 8 回	中間テスト	これまでに講読した記事を振り返るテストです。
第 9 回	Consumer beware: advertising techniques（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 10 回	Consumer beware: advertising techniques（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 11 回	For an effective interview（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 12 回	For an effective interview（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	期末テスト	中間テスト以降に講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)
・ STRIKE UP THE TOEIC ® TEST LISTENING 解法のコツを学ぶ TOEIC ® テストリスニング演習, 塚田幸光 著, 金星堂, (¥ 1,500)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点および課題（30%）、中間テストおよび期末テスト（70%）の配分で評価する。

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。

未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する意志がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

高橋 優身

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年：英語 31 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、内容理解に努め、「背景」を考察する。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容の説明、履修方法について説明
第 2 回	Don't let others influence you (Reading)	「人に流されるな」の読解
第 3 回	Don't let others influence you (Exercises)	「人に流されるな」の演習
第 4 回	Focus on what you like (Reading)	「自分が好きなことに集中しなさい」の読解
第 5 回	Focus on what you like (Exercises)	「自分が好きなことに集中しなさい」の演習
第 6 回	Common sense is not so common (Reading)	「常識はそれほど一般的なものではない」の読解
第 7 回	Common sense is not so common (Exercises)	「常識はそれほど一般的なものではない」の演習
第 8 回	Go and see the world! (Reading)	「世界を見に行きなさい」の読解
第 9 回	Go and see the world! (Exercises)	「世界を見に行きなさい」の演習
第 10 回	Learn philosophy, learn to “think” (Reading)	「哲学を、つまり『考える』ことを学びなさい」の読解
第 11 回	Learn philosophy, learn to “think” (Exercises)	「哲学を、つまり『考える』ことを学びなさい」の演習
第 12 回	It's the century of China, learn Mandarin! (Reading)	「中国の世紀、中国語を学びなさい」の読解
第 13 回	It's the century of China, learn Mandarin! (Exercises)	「中国の世紀、中国語を学びなさい」の演習
第 14 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から、世界を含めた自分の身の回りの出来事に関心を持って、それなりの勉強をすることが必要です。

【テキスト（教科書）】

Jim Rogers : A Gift to My Children
未来を生きる 朝日出版社 2,000 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80 %、平常点 20 % を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。
学生が予習済みであれば進度は速くなる。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading. Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

高橋 優身

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 31 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、内容理解に努め、「背景」を考察する。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Learn history! (Reading)	「歴史を学びなさい」の読解
第 2 回	Learn history! (Exercises)	「歴史を学びなさい」の演習
第 3 回	Know thyself (Reading)	「自分を知りなさい」の読解
第 4 回	Know thyself (Exercises)	「自分を知りなさい」の演習
第 5 回	Recognize changes and embrace them (Reading)	「変化を認識し、それを受け入れなさい」の読解
第 6 回	Recognize changes and embrace them (Exercises)	「変化を認識し、それを受け入れなさい」の演習
第 7 回	Look to the future! (Reading)	「未来に目を向けなさい！」の読解
第 8 回	Look to the future! (Exercises)	「未来に目を向けなさい！」の演習
第 9 回	Go against the tide (Reading)	「時流に逆らえ」の読解
第 10 回	Go against the tide (Exercises)	「時流に逆らえ」の演習
第 11 回	Lady Luck smiles on those who continue in their efforts (Reading)	「運命の女神は努力を続ける人に微笑む」の読解
第 12 回	Lady Luck smiles on those who continue in their efforts (Exercises)	「運命の女神は努力を続ける人に微笑む」の演習
第 13 回	調整日	進度の調整および試験前の質問に答える
第 14 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から、世界を含めた自分の身の回りの出来事に関心を持って、それなりの勉強をすることが必要です。

【テキスト（教科書）】

Jim Rogers : A Gift to My Children
未来を生きる 朝日出版社 2,000 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80 %、平常点 20 % を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。
学生が予習済みであれば進度は速くなる。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading, Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年：英語 32 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスとアイルランドの文化について英語で学ぶテキスト『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Unit 1	"United" Kingdom and Ireland -
3	Unit 2	How Different Are They?
4	Unit 3	"United" Kingdom and Ireland - Who Is the Most Patriotic?
5	Unit 4	"United" Kingdom and Ireland - King, Queen and Prince
6	Unit 5	British Cuisine - Eat Like Henry! + Modern British Cuisine
7	Unit 6	England - Elizabethan Theatre: Shakespeare and Marlowe
8	Unit 7	England - Nursery Rhymes as History
9	Unit 8	England - Peter Rabbit and Lake District
10	Unit 9	England - Lake District and William Wordsworth
11	Unit 10	England - Cotswolds
12	Unit 11	England(London) - Youth Culture & Fashion
13	Unit 12	England - Multi-racial Society
14	期末試験	"Immigration: If Someone Asks, I'm British, End of Story"
		England(London) - Bend It Like Beckham
		今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

【テキスト（教科書）】

永田喜文、菅野智城『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』三修社、2,100 円＋税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要があります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 32 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスとアイルランドの文化について英語で学ぶテキスト『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 13	Scotland - Difference Between Highlander and Lowlander + Bagpipe
2	Unit 14	Scotland - Kilt History
3	Unit 15	Scotland - The Scottish Independence Referendum and Football
4	Unit 16	Wales - How Has the Welsh Language Striven?
5	Unit 17	Welsh Music
6	Unit 18	Wales - Land of Legend and King Arthur
7	Unit 19	Country Cuisine - from Wales, Ireland and Scotland
8	Unit 20	Ireland - Land of Culture + Irish Music and Dance
9	Unit 21	Ireland - Fairy Tales
10	Unit 22	Ireland - Legendary Hero Cu Chulainn and G.P.O.
11	Unit 23	Northern Ireland - Belfast Then and Now
12	Unit 24	"Bloody Sunday" and After
13	Unit 25	United Kingdom - EU Referendum Results Fallout Explained: What We Know So Far After Britain Votes for Brexit
14	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

【テキスト（教科書）】

永田喜文、菅野智城『イギリス・アイルランド文化で英語を学ぶ Journey to "Multi-cultural" Great Britain and Ireland』三修社、2,100 円＋税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要があります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

杉 亜希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 33 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることで読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各自が予習していることを前提として、ペア（またはグループ）ワークを中心に内容を理解し大意をつかむ。内容把握後に音読することで英語を口にするに慣れ、重要なフレーズを自分のものにすることで、語彙・表現力を上げる。各パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する。テンポよく授業を進めるために予習は必須であり、周りの人との協力によりアクティブな学習をしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	General briefing
2	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading One)	Comprehension; Building vocabulary
3	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading One)	Reviewing the context; Reading aloud
4	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary
5	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading Two)	Note-taking; Reviewing the context; Reading aloud
6	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
7	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading One)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
8	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading Two)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
9	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing

10	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
11	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading One)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
12	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading Two)	Vocabulary test; Comprehension; Building Vocabulary; Reading aloud
13	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
14	Review Test	Review Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや配布プリントの予習・復習を行う。特にテキストの予習では筆者が「何を言いたいのか」を把握することが重要で、それを授業中にペア（またはグループ）で確認しあう。復習の際は、必ずフレーズを意識し、その表現が日本語を介さず理解できるようになるまで復唱して自分のものにする努力をする。本文以外で使われている自分にとって新しい語彙も、フレーズまたはセンテンスごとに積極的に覚えていこう。

【テキスト（教科書）】

Bottcher, E., Longman Academic Reading Series 1 (Pearson, 2017, ¥3,000+税)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.

<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
Britannica: www.britannica.com/

【成績評価の方法と基準】

授業態度・積極性 30 % (授業にただ参加するだけではなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に **oral activity** を中心とした授業中の英語への積極的な取り組みを重視する。予習は必須であるが、正解でないことで減点にはならない。)

ユニットごとに行われる小テスト 20 %

Review text 50 %

適切な理由のない遅刻（授業開始から30分以内）は2回で欠席扱いとする。また各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業は皆さんの積極的な参加があるとテンポよく進みました。英語を英語で説明するのは苦労したようですが、次第に考える習慣が付き、最後まで英語での会話を続ける努力を続けていた生徒さんは英語を発話することに抵抗がなくなってきたり、コミュニケーション力を上げていく基礎が身につけていました。ただ話はなんとなくできても、理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って説明するとなると簡単ではなく、適切な長さにとめる練習が必要となりました。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく携帯やスマホのその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

【その他の重要事項】

ペアやグループで行う共同作業には大人として積極的な協力姿勢が求められる。

【Outline and objectives】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

杉 亜希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 33 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることで読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各自が予習していることを前提として、ペア（またはグループ）ワークを中心に内容を理解し大意をつかむ。内容把握後に音読することで英語を口にするに慣れ、重要なフレーズを自分のものにしていく。各パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する。テンポよく授業を進めるために予習は必須であり、周りの人との協力によりアクティブな学習をしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	General Briefing	General Briefing
2	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading One)	Comprehension; Building Vocabulary; Reading aloud
3	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud
4	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading One and Two)	Reviewing; Writing
5	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading One)	Vocabulary test: Comprehension; Building Vocabulary; Reading aloud
6	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect(Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud
7	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect(Reading One & Two)	Reviewing; Writing
8	Unit 8: GOVERNMENT- Interpreting the Law (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
9	Unit 8: GOVERNMENT- Interpreting the Law (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing

10	Unit 9: ECONOMICS-Bartering in the 21st Century (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
11	Unit 9: ECONOMICS-Bartering in the 21st Century (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
12	Unit 10: NEUROLOGY-The Brain (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
13	Unit 10: NEUROLOGY-The Brain (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
14	Review Test	Review Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや配布プリントの予習・復習を行う。特にテキストの予習では筆者が「何を言いたいのか」を把握することに努めることが重要で、それを授業中にペア（またはグループ）で確認しあう。復習の際は、必ずフレーズを意識し、その表現が日本語を介さず理解できるようになるまで復唱して自分のものにする努力をする。本文以外で使われている自分にとって新しい語彙も、フレーズまたはセンテンスごとに積極的に覚えていこう。

【テキスト（教科書）】

Bottcher, E., Longman Academic Reading Series 1 (Pearson, 2017, ¥3,000+税)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/Thesaurus>: <http://thesauus.com/>
[Britannica](http://www.britannica.com/): www.britannica.com/

【成績評価の方法と基準】

授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけではなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に **oral activity** を中心とした授業中の英語への積極的な取り組みを重視する。予習は必須であるが、正解でないことで減点にはならない。）
ユニットごとに行われる小テスト 20%

Review Text 50%

適切な理由のない遅刻（授業開始から 3 0 分以内）は 2 回で欠席扱いとする。また各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業は皆さんの積極的な参加があるとテンポよく進みました。英語を英語で説明するのには苦勞したようですが、次第に考える習慣がつき、最後まで英語での会話を続ける努力を続けていた生徒さんは英語を発話することに抵抗がなくなってきており、コミュニケーション力を上げていく基礎が身につけていました。ただ話はなんとなくできても、理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って説明するとなると簡単ではなく、適切な長さにまとめる練習が必要となりました。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく携帯やスマホのその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

【その他の重要事項】

ペアやグループで行う共同作業には大人として積極的な協力姿勢が求められる。

【Outline and objectives】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

池田 しおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年：英語 34 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝統的なものに新しさを融合しているイギリスの現代の文化と、人々のライフスタイルを全章を通して学ぶ。より多様で実的な英語の知識を身につけることができる。

【到達目標】

テキストの本文（長文）、エクササイズ（会話文）のヒアリングを毎回行うことにより実践力を高める。

英作文を継続して学ぶことにより応用力を身につける。

文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習の形式で行い、あらかじめ次の授業で進むテキストの分担を決めておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Chapter1 Animals: Fictional and Real	イギリス人にとって非常に身近な存在である動物を取り上げ、実際の動物だけではなく A.A. ミルンやベアトリクス・ポターの作品の中の動物にも焦点を当てる。 Chapter1 の Exercise を行う。
②	Chapter1 Animals: Fictional and Real	
③	Chapter2 Exporting Sports	いま世界で行われている多くのスポーツはイギリスをその発祥国とし、これは 19 世紀の同国の産業の発展と密接な関係がある。 Chapter2 の Exercise を行う。
④	Chapter2 Exporting Sports	
⑤	Chapter3 Literature: The Reading Boom	イギリスの読書ブームの話。ヘイ・オン・ワイという町を活性化させるための古書店づくりがきっかけとなった。 Chapter3 の Exercise を行う。
⑥	Chapter3 Literature: The Reading Boom	
⑦	Chapter4 Eating Habits: Changing Tastes	イギリスの食事情。栄養価の高い伝統的な食事が敬遠され、学校給食にも一流シェフによるカロリーバランスを考えた食事が提供される。 Chapter4 の Exercise を行う。
⑧	Chapter4 Eating Habits: Changing Tastes	
⑨	Chapter5 Art: Attitudes and Anonymity	ターナーの名画がネット上で海外バイヤーに購入された。政府はネットで募金を募りその名画を買い戻した。 Chapter5 の Exercise を行う。
⑩	Chapter5 Art: Attitudes and Anonymity	
⑪	Chapter7 Antiques: Older Is Often Better	イギリス人は古いものほど価値があると考え人が多い。アンティーク・ロードショーという骨董品を鑑定する番組が人気だ。 Chapter7 の Exercise を行う。
⑫	Chapter7 Antiques: Older Is Often Better	
⑬	Chapter8 Smoke-free Britain	たばこ発祥の地イギリスでも禁煙が進んでいる。禁煙はすべての公共施設や仕事場に広がり、パブにも及んでいる。試験範囲は授業の進み具合によって決める。
⑭	試験日	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各章とも Reading Passage, Comprehension, Summary, Write Away のそれぞれで、分担を前もって決めておき、次の週に発表をしてもらう。

【テキスト（教科書）】

Insight into Britain (Anthony Allan, Tetsuya Iseki, Reiko Iseki) 金星堂

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、平常点 40 %として評価する。各学期欠席が 4 回 以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻を 3 回で欠席 1 とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持てたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

【Outline and objectives】

Using the textbook that reflects the reality of Britain, we can learn more diverse and practical English knowledge.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

池田 しおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 34 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伝統的なものに新しさを融合しているイギリスの現代の文化と、人々のライフスタイルを全章を通して学ぶ。より多様で実質的な英語の知識を身につけることができる。

【到達目標】

テキストの本文（長文）、エクササイズ（会話文）のヒアリングを毎回行うことにより実践力を高める。

英作文を継続して学ぶことにより応用力を身につける。

文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習の形式で行い、あらかじめ次の授業で進むテキストの分担を決めておく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Chapter9 Edinburgh: A City of Festivals	フェスティバルの町と呼ばれる、スコットランドの古都エディンバラを取り上げる。夏のエディンバラフェスティバルが有名だ。 Chapter9 の Exercise を行う。
②	Chapter9 Edinburgh: A City of Festivals	
③	Chapter10 Television: Reflecting Our Lives	イギリスのテレビではずっと家族ドラマの人気の高い。視聴者はドラマに自分たちの生活を重ねている。
④	Chapter10 Television: Reflecting Our Lives	Chapter10 の Exercise を行う。
⑤	Chapter11 Structures of the Millennium	ミレニアムを機にイギリスではモダン・ブリテンを掲げたいくつかの新しい建築物が建てられた。
⑥	Chapter11 Structures of the Millennium	Chapter11 の Exercise を行う。
⑦	Chapter12 Leisure: Indoor and Outdoor	イギリス人は仕事の後や日曜日を余暇の時間にあてて心の充足をはかっている。
⑧	Chapter12 Leisure: Indoor and Outdoor	Chapter12 の Exercise を行う。
⑨	Chapter13 Education in the UK	イギリスの大学生の約 10 %が海外からの留学生であり、現在の教育制度に変化をもたらしている。
⑩	Chapter13 Education in the UK	Chapter13 の Exercise を行う。
⑪	Chapter14 Superstition and Beliefs	イギリス社会には現在も迷信や信仰が生きていて、人々は生活の中に取り入れている。
⑫	Chapter14 Superstition and Beliefs	Chapter14 の Exercise を行う。
⑬	Chapter15 Pedal Power	イギリスでは現在、自転車に注目が集まっている。ヨークシャーのミレニアムブリッジには自転車専用道路が造られた。自転車人口が増えている。
⑭	試験日	試験範囲は授業の進み具合によって決める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各章とも Reading Passage, Comprehension, Summary, Write Away のそれぞれで、分担を前もって決めておき、次の週に発表をしてもらう。

【テキスト（教科書）】

Insight into Britain (Anthony Allan, Tetsuya Iseki, Reiko Iseki) 金星堂

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、平常点 40 %として評価する。各学期欠席が 4 回 以上の場合、原則として単位修得を認めない。遅刻を 3 回で欠席 1 とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持っていたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

【Outline and objectives】

Using the textbook that reflects the reality of Britain, we can learn more diverse and practical English knowledge.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

中垣 恒太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3
法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディベート型のトピック・エッセイを講読しながら、（１）パラグラフ・リーディングを軸とした「情報処理としての英文資料の読解方法」について学ぶ、（２）英文資料をもとに説得力をもって自分の意見を述べる訓練を行う（クリティカル・シンキング／アカデミック・スキルとしての英語）。

ディベート型講読教材『Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues』を教科書として、現代の社会問題にまつわるさまざまな論点に触れ、考え、自分の意見を表現する訓練を行う。「インターネット規制の是非」「遺伝子組み換え食品」「同性婚」「能力給か年功序列か？」「優秀な学生の飛び級を認めるかどうか？」などをめぐるトピックを素材に、「Pros（賛成）」「Against（反対）」の両論の見解に触れた上で、どのように自分の意見を表現できるのか。自分の意見と異なる視点や発想から視野を広げたり、相手の主張に反論しながら自説を強調する論理展開の技法などを学ぶ。随時、英字新聞やビデオ・リスニング演習なども導入する。

【到達目標】

（１）パラグラフ・リーディングを軸とした「情報処理としての英文資料の読解方法」について学ぶ
（２）英文資料をもとに説得力をもって自分の意見を述べる訓練を行う（クリティカル・シンキング／アカデミック・スキルとしての英語）。
（３）時事的／専門的な英語の文章に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回教科書の一章分を扱い一回完結型の演習を基本構成とし、本文の読解にまつわる報告・意見交換の演習を行う。パラグラフ・リーディングの基礎を身につけながら、英語文献の読解を踏まえた上で批評的に分析し、自説に繋げていくアカデミック・スキルの基礎を実践的に身につけることを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の運営方針／アカデミック・リーディングの方法について。
第 2 回	【概説講義】ディベート型思考——クリティカル・シンキング	【概説講義】ディベート型思考——クリティカル・シンキング
第 3 回	【概説講義】パラグラフ・リーディングとアカデミック・スキルとしての英語読解	【概説講義】パラグラフ・リーディングとアカデミック・スキルとしての英語読解
第 4 回	【Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues】講読演習（第 1 章）	Internet Safety or Freedom of Expression?
第 5 回	【Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues】講読演習（第 4 章）	Real Risk or Great Technology?
第 6 回	【Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues】講読演習（第 5 章）	Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
第 7 回	【Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues】講読演習（第 7 章）	Right to Die or Responsibility to Live?
第 8 回	ドキュメンタリー映画で探る社会時事問題（１）	ドキュメンタリーの現在～ビデオ・リスニング演習
第 9 回	【Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues】講読演習（第 9 章）	To Skip or Not to Skip?

第 10 回	『Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues』 講読演習（第 10 章）	Performance or Seniority?
第 11 回	『Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues』 講読演習（第 12 章）	Animal Rights or Human Profits?
第 12 回	ドキュメンタリー映画で 探る社会時事問題（2）	ドキュメンタリーとメディア社会～ビデオ・リスニング演習
第 13 回	『Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues』 講読演習（第 14 章）	Death Penalty or Human Rights?
第 14 回	総括	アカデミック・スキルとしてのクリティカル・リーディング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な時事問題を扱うことから時事的な関心を持つように心がけることが望ましい。意見交換を含む演習を通しての課題を復習として活かすことが期待される。

【テキスト（教科書）】

『Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues』
Ichizo Ueda, Toshiko Ueda, Chiaki Taoka, Eri Yoneoka（センゲージラーニング）

【参考書】

黒川裕一『論理的な英語力を鍛える』（ベレ出版、2013）

【成績評価の方法と基準】

試験: 30 %

平常点: 70 %（「パラグラフ・リーディング」にもとづく講読演習に基づく）

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため「なし」。

【その他の重要事項】

教科書は毎回必ず携行すること。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessity for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

中垣 恒太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3
法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術書を大学英語用に編纂した教材を講読しながら、（1）パラグラフ・リーディングを軸とした「情報処理としての英文資料の読解方法」について学ぶ、（2）英文資料をもとに説得力をもって自分の意見を述べる訓練を行う（クリティカル・シンキング／アカデミック・スキルとしての英語）。

講読教材『Ability and American Film（アビリティとアメリカン・フィルム）』を教科書として、階級・人種・ジェンダー・セクシュアリティ・障がいなどの要素がアメリカ映画の中でどのように描かれてきたかをめぐる論者の見解に触れた上で、どのように自分の意見を表現できるのか。英語文献を通じて歴史を学び新しい視点や発想から視野を広げながら自説を強調する論理展開の技法などを学ぶ。

【到達目標】

- （1）パラグラフ・リーディングを軸とした「情報処理としての英文資料の読解方法」について学ぶ
- （2）英文資料をもとに説得力をもって自分の意見を述べる訓練を行う（クリティカル・シンキング／アカデミック・スキルとしての英語）。
- （3）時事的／専門的な英語の文章に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に基づく演習を基本構成とし、本文の読解にまつわる報告・意見交換の演習を行う。パラグラフ・リーディングの基礎を身につけながら、英語文献の読解を踏まえた上で批評的に分析し、自説に繋げていくアカデミック・スキルの基礎を実践的に身につけることを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の運営方針／アカデミック・リーディングの方法について。
第 2 回	【概説講義】アメリカ映画と社会	異文化比較とクリティカル・シンキング
第 3 回	『Ability and American Film』演習 (Chapter 11 Saving Face, 2004)	講読テーマ「LGBT とアメリカ社会」
第 4 回	『Ability and American Film』演習 (Chapter 11 Saving Face, 2004)	講読テーマ「マイノリティとアメリカ社会」
第 5 回	『Ability and American Film』演習 (Chapter 11 Saving Face, 2004)	実践演習「読解からアカデミック・スキルとしてのクリティカル・リーディングへ」
第 6 回	『Ability and American Film』演習 (Chapter 7 Children of a Lesser God, 1986)	講読テーマ「障がいをどう描くか」
第 7 回	『Ability and American Film』演習 (Chapter 7 Children of a Lesser God, 1986)	講読テーマ「障がいと現代社会」
第 8 回	『Ability and American Film』演習 (Chapter 12 Crash, 2004)	講読テーマ「事故・医療をどう描くか」
第 9 回	『Ability and American Film』演習 (Chapter 12 Crash, 2004)	講読テーマ「差別とアメリカ社会」
第 10 回	『Ability and American Film』演習 (Brokeback Mountain, 2005)	講読テーマ「階級とアメリカ社会」
第 11 回	『Ability and American Film』演習 (Brokeback Mountain, 2005)	講読テーマ「移動労働者とアメリカ社会」
第 12 回	『Ability and American Film』演習 (Erin Brokovich, 2000)	講読テーマ「環境問題とアメリカ社会」

第 13 回	『Ability and American Film』 演習 (Erin Brokovich, 2000)	講読テーマ「企業倫理とアメリカ社会」
第 14 回	総括	英語「で」学ぶ〜クリティカル・リーディング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な社会問題を扱うことから社会的な関心を持つように心がけることが望ましい。意見交換を含む演習を通しての課題を復習として活かすことが期待される。

【テキスト（教科書）】

H.M.Benshoff and Sean Griffin『Ability and American Film（アビリティとアメリカン・フィルム）』 國友万裕・安田優編（英宝社）

【参考書】

大出敦『クリティカル・リーディング入門 人文系のための読書レッスン』（慶應義塾大学出版会、2015）。

【成績評価の方法と基準】

試験: 30 %

平常点: 70 %（「パラグラフ・リーディング」にもとづく講読演習に基づく）

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため「なし」。

【その他の重要事項】

教科書は毎回必ず携行すること。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessity for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 I

2016 年度以前入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3
法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごと（読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は映画教材を中心に進める。毎回映画を見ながらアメリカの社会や文化についての理解も深める。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。映画は『エリン・プロコピッチ』（3 人の子供を抱えるシングルマザーが企業の環境汚染を暴いた実話にもとづく映画）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	Unit 1 と映画視聴
第 2 回	Unit 2	Reading, Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use, Grammar for Production
第 3 回	Unit 2 & Unit 3	Reading Exercise, Audio Visual Learning
第 4 回	Unit 4	Reading, Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use, Grammar for Production
第 5 回	Unit 4 & Unit 5	Reading Exercise, Audio Visual Learning
第 6 回	Unit 6	Reading, Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use, Grammar for Production
第 7 回	Unit 6 & Unit 7	Reading Exercise, Audio Visual Learning
第 8 回	Unit 8	Reading, Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use, Grammar for Production
第 9 回	Unit 8 & Unit 9	Reading Exercise, Audio Visual Learning
第 10 回	Unit 10	Reading, Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use, Grammar for Production
第 11 回	Unit 10 & Unit 11	Reading Exercise, Audio Visual Learning
第 12 回	Unit 12	Reading, Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use, Grammar for Production
第 13 回	Unit 12 & Unit 13 & 発表	Reading Exercise, Audio Visual Learning, 口頭発表
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめとポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich (金星堂, 2015)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。チャンクリーディングと音読を中心に行ったが、どちらに対しても効果を実感したとのコメントがあった。また、コンピュータを使って行ったペア・ワークやグループ・ワーク、音声録音などに肯定的な意見が寄せられており、CALL 授業の機能性や面白みを感じてもらえたのではないかと考える。映画鑑賞はテキストの理解を助けるだけでなく、学習意欲にもつながるとの意見があり、今後のテキスト選定の参考になった。その一方で、授業の進め方が早かったとの指摘があったので改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 II

2016 年度以前入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は映画教材を中心に進める。毎回映画を観ながらアメリカの社会や文化についての理解も深める。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。扱う映画は『ブラダを着た悪魔』『スーパーサイズ・ミー』など 6 作品。（詳しくは授業計画を参照のこと）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	プレテストと映画視聴
第 2 回	Chapter 1: Kramer vs. Kramer(1)	Vocabulary, Reading
第 3 回	Chapter 1: Kramer vs. Kramer(2)	Comprehension, Grammar
第 4 回	Chapter 2: The Devil Wears Prada(1)	Vocabulary, Reading
第 5 回	Chapter 2: The Devil Wears Prada(2)	Comprehension, Grammar
第 6 回	Chapter 3: Super Size Me(1)	Vocabulary, Reading
第 7 回	Chapter 3: Super Size Me(2)	Comprehension, Grammar
第 8 回	Chapter 7: No Reservation(1)	Vocabulary, Reading
第 9 回	Chapter 7: No Reservation(2)	Comprehension, Grammar
第 10 回	Chapter 9: Seabiscuit(1)	Vocabulary, Reading
第 11 回	Chapter 9: Seabiscuit(2)	Comprehension, Grammar
第 12 回	Chapter 11: Everybody's Fine(1)	Vocabulary, Reading
第 13 回	Chapter 11: Everybody's Fine(2) & 発表	Comprehension, Grammar, 口頭発表
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめとポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。

・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

A Flavor of English: Cinema and Cuisine (朝日出版, 2015)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。チャンクリーディングと音読を中心に行ったが、どちらに対しても効果を実感したとのコメントがあった。また、コンピュータを使って行ったペア・ワークやグループ・ワーク、音声録音などに肯定的な意見が寄せられており、CALL 授業の機能性や面白みを感じてもらえたのではないかと考える。映画鑑賞はテキストの理解を助けるだけでなく、学習意欲にもつながるとの意見があり、今後のテキスト選定の参考になった。その一方で、テキストが易しすぎるとの指摘があった。易しい英語の重要性を伝えきれなかったこと、英語⇔日本語の変換練習が十分に行えなかったことは反省点である。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.
・ Students will learn to read efficiently.
・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.
・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 I

2016 年度以前入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 4/Sat.4
法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は映画教材を中心に進める。毎回映画を見ながらアメリカの社会や文化についての理解も深める。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。映画は『エリン・プロコピッチ』（3 人の子供を抱えるシングルマザーが企業の環境汚染を暴いた実話にもとづく映画）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	Unit 1 と映画視聴
第 2 回	Unit 2	Reading, Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use, Grammar for Production
第 3 回	Unit 2 & Unit 3	Reading Exercise, Audio Visual Learning
第 4 回	Unit 4	Reading, Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use, Grammar for Production
第 5 回	Unit 4 & Unit 5	Reading Exercise, Audio Visual Learning
第 6 回	Unit 6	Reading, Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use, Grammar for Production
第 7 回	Unit 6 & Unit 7	Reading Exercise, Audio Visual Learning
第 8 回	Unit 8	Reading, Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use, Grammar for Production
第 9 回	Unit 8 & Unit 9	Reading Exercise, Audio Visual Learning
第 10 回	Unit 10	Reading, Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use, Grammar for Production
第 11 回	Unit 10 & Unit 11	Reading Exercise, Audio Visual Learning
第 12 回	Unit 12	Reading, Vocabulary Check, Grasping the Outline, Vocabulary in Use, Grammar for Production
第 13 回	Unit 12 & Unit 13 発表	Reading Exercise, Audio Visual Learning, 口頭発表
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめとポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich (金星堂, 2015)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。チャンクリーディングと音読を中心に行ったが、どちらに対しても効果を実感したとのコメントがあった。また、コンピュータを使って行ったペア・ワークやグループ・ワーク、音声録音などに肯定的な意見が寄せられており、CALL 授業の機能性や面白みを感じてもらえたのではないかと考える。映画鑑賞はテキストの理解を助けるだけでなく、学習意欲にもつながるとの意見があり、今後のテキスト選定の参考になった。その一方で、授業の進め方が早かったとの指摘があったので改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 II

2016 年度以前入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 4/Sat.4

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行う。辞書の使い方を理解し、基礎文法や基本語彙を習得して、確実に読解力のレベルアップを図る。また、聴き取ったり読み取った内容について、自分の意見を平易な英語で書く練習も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は映画教材を中心に進める。毎回映画を観ながらアメリカの社会や文化についての理解も深める。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。扱う映画は『ブラダを着た悪魔』『スーパーサイズ・ミー』など 6 作品。（詳しくは授業計画を参照のこと）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	プレテストと映画視聴
第 2 回	Chapter 1: Kramer vs. Kramer(1)	Vocabulary, Reading
第 3 回	Chapter 1: Kramer vs. Kramer(2)	Comprehension, Grammar
第 4 回	Chapter 2: The Devil Wears Prada(1)	Vocabulary, Reading
第 5 回	Chapter 2: The Devil Wears Prada(2)	Comprehension, Grammar
第 6 回	Chapter 3: Super Size Me(1)	Vocabulary, Reading
第 7 回	Chapter 3: Super Size Me(2)	Comprehension, Grammar
第 8 回	Chapter 7: No Reservation(1)	Vocabulary, Reading
第 9 回	Chapter 7: No Reservation(2)	Comprehension, Grammar
第 10 回	Chapter 9: Seabiscuit(1)	Vocabulary, Reading
第 11 回	Chapter 9: Seabiscuit(2)	Comprehension, Grammar
第 12 回	Chapter 11: Everybody's Fine(1)	Vocabulary, Reading
第 13 回	Chapter 11: Everybody's Fine(2) & 発表	Comprehension, Grammar, 口頭発表
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめとポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習や音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

A Flavor of English: Cinema and Cuisine (朝日出版, 2015)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）60 % + 発表 20 % + 提出課題 10 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。欠席が4回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退3回で欠席1回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足を得られたようである。チャンクリーディングと音読を中心に行ったが、どちらに対しても効果を実感したとのコメントがあった。また、コンピュータを使って行ったペア・ワークやグループ・ワーク、音声録音などに肯定的な意見が寄せられており、CALL 授業の機能性や面白みを感じてもらえたのではないかと考える。映画鑑賞はテキストの理解を助けるだけでなく、学習意欲にもつながるとの意見があり、今後のテキスト選定の参考になった。その一方で、テキストが易しすぎるとの指摘があった。易しい英語の重要性を伝えきれなかったこと、英語⇔日本語の変換練習が十分に行えなかったことは反省点である。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include why man explores his own world and others and what makes us either fear or worship outsiders.

【到達目標】

This course focuses on helping students develop active listening and note taking skills as well as learning to speak in pairs, small groups and in front of the whole class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	A content based language course. Our Topic: Science Fiction. The literary heritage of S.F. Our Sub-topics: Exploration, Visitation, Transformation, Dystopia.	The origins of the Science Fiction Film: Georges Melies and A Trip to the Moon.
Week 2	Explorations Part I : Our World: Jules Verne: The father of science fiction. A look at the literary tradition. Exploring our world ; Journey to the Center of the Earth . Why does man explore? Women in S.F.	All class activity #1 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 3	Exploration; Optimism and Pessimism in the work of Jules Verne, 20,000 Leagues Under the Sea.	All Class activity #2. Pair work. Listening and Note Taking
Week 4	What Does the Future hold for Humanity? H.G. Wells" The Time Machine	All class activity #3 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 5	Early American Science Fiction and racism in the Flash Gordon Serials	All class activity #4 pair work, Listening and Note-taking
Week 6	Screening of Forbidden Planet and the Three mysteries of the film	While watching/listening note taking and information gap activities
Week 7	Solution to the mysteries and analysis of Forbidden Planet.	All class Activity #5 discussion and review
Week 8	Visitations Part I: Duper Analysis of F.P with a twist of Freud. Introduction to theme of visitation	All class activity #6 Speaking in small groups, Listening and Note-taking

Week 9	Our aliens and ourselves: are they projections of who we are?	All class activity #7 pair work, Listening and Note-taking
Week 10	H.G.Wells and The War of The Worlds: A metaphorical link with the times	All class activity #8 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 11	Screening The Thing Major themes in the Alien Invasion film	All Class activity #9 Close analysis. Speaking in small groups
Week 12	Earth Vs The Flying Saucers, It Conquered The World. The Cold War	All class activity #10 pair work, Listening and Note-taking
Week 13	Vistations ;Extra-terrestrial Messiahs The Day the Earth Stood Still, E.T., Close Encounters , Contact	All Class Activity #11 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 14	Visitations Part II Extra-terrestrial Immigrants: Alien Nation, Men In Black, K-Pax	All class activity #12 pair work, Listening and Note-taking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

All reading and writing assignment must be completed before each class and students must be prepared for in class discussions.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which students are required to keep in a well organised notebook. Students should have a good electronic dictionary in class.

【参考書】

Students should have a good dictionary in class

【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 8 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of your grade. The activities will be combined into one longer, comprehensive review activity in the last class which will give students an opportunity to raise their scores.

【学生の意見等からの気づき】

Because students have said that some of the films are more interesting and useful for discussion and study than others I have tried to give more time to the films students say they prefer

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include the ways in which science and technology transform human life and the world we live in and how our future may be an uncertain one if we do not learn how to use science and technology with wisdom and restraint

【到達目標】

This course focuses on helping students develop active listening and note taking skills as well as learning to speak in pairs, small groups and in front of the whole class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to Transformations; Experiments H.G. Wells' The Island of Dr. Moreau	review of previous themes, small group work and review of notes
week 2	Accidents: The Incredible Shrinking man and the Amazing Colossal Man	All class activity #1 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 3	Evolution: 2001 a Space Odyssey and The Time Machine	All Class activity #2. Pair work. Listening and Note Taking
week 4	Augmentations: Robocop and Johnny Mnemonic	All class activity #3 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 5	Artificial Intelligence: Colossus The Forbin Project and The Terminator	All class activity #4 pair work, Listening and Note-taking
week 6	2001: A Space Odyssey, Screening first part of Bladerunner	All class Activity #5 discussion and review
week 7	Screening Bladerunner, the mystery of the Unicorn	While watching/listening note taking and information gap activities
week 8	Close Analysis of Bladerunner	All class activity #6 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 9	Introduction to Dystopia: H.G. Wells Things to Come, Fritz Lang's Metropolis,	All class activity #7 pair work, Listening and Note-taking
week 10	Why Wells Hated Metropolis: Optimism and Pessimism again. Zamiatin's we and THX -!38	All class activity #8 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 11	Alders Huxley's Brave New World and Gattaca, first 12 minutes of 1984	All Class activity #9 Close analysis. Speaking in small groups
week 12	Screening of 1984	While watching/listening note taking and information gap activities

week 13	Close Analysis of 1984 and Anthony Burgess's A Clockwork Orange	All Class Activity #10 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 14	John Carpenter's They :I've and Ray Bradbury's Fahrenheit 451.	All class activity #11 pair work, Listening and Note-taking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

All reading and writing assignment must be completed before each class and students must be prepared for in class discussions.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which students are required to keep in a well organised notebook. Students should have a good electronic dictionary in class.

【参考書】

Students should have a good dictionary in class

【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 8 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of your grade. The activities will be combined into one longer, comprehensive review activity in the last class which will give students an opportunity to raise their scores.

【学生の意見等からの気づき】

Because students have said that some of the films are more interesting and useful for discussion and study than others I have tried to give more time to the films students say they prefer

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的としてはテーマに沿っていかに自分の意見を英語で話せるかをめざす。もちろん自分の意見のみならずクラスメートの意見をも聞き、色々な考えかたに接していくようにして行きたい。

【到達目標】

【授業の到達目標およびテーマ】

教科書を中心としながら様々な課題を英語でなるべく長い文章で自分の意見をまとめ、のべる。そしてまた他の学生の意見を聞きながら対応をしていくようにしていく。一年終了時には少しでも自分の意見、考えている事などを英語で話せる様にし、又リスニングの方も以前よりは聞ける様にして行きたい。英語に対して恐怖心という物を取り除き少しでも英語をより多く話せる様に行きたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書 Impact issues 2 に入る前に簡単なリスニングと会話をする。この教科書は様々なテーマを扱っているのでユニットごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対しその都度テーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにして行きたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。自分の意見をクラスの前で言える様にプレゼンテーションを授業内で多く行う。また、前期後期を各1回ずつ大きなプレゼンテーションをしてもらう。また夏季休暇には外国人にアンケートをとってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介並びに授業の紹介
2	Unit 1	First Impressions What are the first impressions of your classmates. What kind of opinions do you have to people who are different from you?
3	Unit 1	Group discussion What do you think about the local language?
4	Unit 1&3	Talk about whether the local language is necessary when people work in a different country.
5	Unit 3	Continuation of Unit 3. Unit 5. What do you think about marriage
6	Unit 3&5	What are the merits and demerits of being single or being married. Group discussion
7	Unit 5	Continuation of Unit 5. What is a friend to you?
8	Unit 5&6	What would you do for a friend? Group discussion
9	Unit 6	Continuation of Unit 6. Prepare for the presentation
10	Unit 6&7 Preparing for the presentation	What do you think about bullying? prepare for the presentation
11	Unit 7 Preparation for the presentation	What can you do to help your classmate who is been bullied. Prepare for the presentation.
12	Unit 7 Preparing for the presentation	Presentation of each group
13	Presentation	Test
14	Test	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備としては教科書を予習をし各ユニットのテーマに沿って自分の意見をまとめ口頭で述べられようにする。発表に準備をしっかりとする。夏期の宿題として外国人にアンケートをとってもらう。

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2
Pearson/Longman
Richard R Ray
Joseph Shaules
Junko Yamanaka

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験並びに授業参加度、課題に対する発表、出席など
試験 70 % その他 30 % (平常点、宿題、発表)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

よく教科書を読み自分の意見を英語でまとめられるようにする。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to express their opinions orally and be able to exchange various opinions with their class mates.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 II

2016 年度以前入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様英語を通して自分の意見を言えるようにする。またクラスメイトの意見にも英語で反応出来るようにし英語をただの言語としてとらえるのではなく道具として使えるようにして行く。

【到達目標】

教科書の題材のテーマを通してクラスメイト同士でコミュニケーションをはかりながら自分の意見を主張し反論出来るように授業を進めて行く。基本の reading, writing, speaking, listening を通して英語モードにして行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Impact Issues 2 を教科書として使用する。この教科書が様々なテーマが各ユニットで設けられそれにそり自分の意見、ならびにクラスメイトの意見を聞きながら対応をして行く。個人の発表ならびにグループのプレゼンテーションも多く取り入れる。英語の詩を読み自分自身で英語のを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presentation	夏季課題の発表
2	Reading a poem	Read "What Do I Remember of the Evacuation" and understand the poem
3	Reading a poem	Analyze and think of the symbols in the poem. Start writing your own poem.
4	Unit 10	Why go to school? What is your purpose of going to the university?
5	Unit 10	Continuation from the previous class. Group discussion.
6	Reciting one's own poem	Reciting your own poem
7	Unit 12	What do you think of global warming?
8	Unit 12	How can we stop global warming. Group discussion.
9	Unit 17	What do you think of refugees? Need we help them?
10	Unit 17 Preparing for the presentation	What is the merit in helping the refugees? Prepare for the presentation
11	Unit 20 Preparing for the presentation	What do you think about capital punishment? Prepare for the presentation
12	Unit 20 Preparing for the presentation	Are you for or against capital punishment? Prepare for the presentation
13	Presentation	Presentation by each group
14	Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読み内容を理解しておく事。宿題に出された課題をこなす。

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2
Longman Pearson 出版

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 % その他 30% (平常点、宿題、発表)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The students will further develop their abilities to effectively express their opinions in English and be able to give presentations and speeches.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

【到達目標】

誤字脱字、ケアレスミスをなくしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第 1 課 第 1 課 Learning How to Ask Questions	この教科書の使い方 第 1 課 (各課) リスニング・シャドーイング
4	第 1 課	第 1 課続き
5	第 2 課 Oceans Hold more Plastic than Fish by 2050	第 1 課小テスト 第 2 課続き
6	第 2 課～	第 2 課続き
7	第 3 課 第 3 課 Is Your Plan Sustainable?	第 2 課小テスト 第 3 課続き
8	第 3 課～	第 3 課続き
9	第 4 課 第 4 課 Saving Wild Areas May Have Unexpected Results	第 3 課小テスト 第 4 課続き
10	第 4 課～	第 4 課続き
11	第 5 課 第 5 課 Freedom House: Internet Continues to Become Less Free	第 4 課小テスト 第 5 課続き
12	第 5 課～	第 5 課続き
13	第 6 課 第 6 課 New Drones Could Improve Weather Predictions	第 5 課小テスト
14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語帳の作成、書き取り練習に毎日 1 時間充ててほしい。

【テキスト（教科書）】

VOA ラーニングイングリッシュで世界を読む 倉本 他著 2018 年 三修社 1700 円

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。妥当な理由なく 4 回連続欠席した者、学期半ばで 4 回以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

【到達目標】

誤字脱字、ケアレスミス、発音の間違いをなくしていく。
春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テスト返却 第 7 課	秋学期の授業の進め方など (各課) リスニング・シャドーイング
2	第 7 課	Artificial Intelligence: Helpful and Dangerous
3	第 7 課	続き
4	第 8 課	7 課小テスト Will Robots Replace Humans in Food Industry?
5	第 8 課～第 9 課	8 課続き
6	第 9 課	8 課小テスト Cell Phone Use among Friends? How Rude!
7	第 9 課～ 第 10 課	第 9 課続き
8	第 10 課	9 課小テスト Social Media Is Keeping Young Adults Awake
9	第 10 課～11 課	第 10 課続き
10	第 11 課	10 課小テスト How well Is English Spoken Worldwide?
11	第 11 課～第 12 課	第 11 課続き
12	第 12 課	第 11 課小テスト Scientists Find New Step in Brain Development
13	予備日	復習・発表など
14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語帳の作成、書き取り練習に毎日 1 時間充ててほしい。

【テキスト（教科書）】

VOA ラーニングイングリッシュで世界を読む 倉本 他 2018 年 三修社 1700 円

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。妥当な理由なく 4 回連続欠席した者、学期半ばで 4 回以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

中垣 恒太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどの演習をくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。
・パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して英語で表現する練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	シャドーイング入門	シャドーイング演習（シャドーイング入門）
3 回目	教科書 1 章	教科書に基づく演習（教科書 1 章）
4 回目	教科書 2 章	教科書に基づく演習（教科書 2 章）
5 回目	教科書 3 章	教科書に基づく演習（教科書 3 章）
6 回目	教科書 4 章	教科書に基づく演習（教科書 4 章）
7 回目	教科書 1～4 章（復習）	教科書 1～4 章の復習
8 回目	教科書 5 章	教科書に基づく演習（教科書 5 章）
9 回目	教科書 6 章	教科書に基づく演習（教科書 6 章）
10 回目	教科書 7 章	教科書に基づく演習（教科書 7 章）
11 回目	教科書 8 章	教科書に基づく演習（教科書 8 章）
12 回目	教科書 9 章	教科書に基づく演習（教科書 9 章）
13 回目	教科書 5～9 章（復習）	教科書 5～9 章の復習
14 回目	パラグラフ・ライティング演習	パラグラフ・ライティング演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習してほしい。

【テキスト（教科書）】

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級）』

【参考書】

門田修平・玉井健『決定版 英語シャドーイング（改定新版）』コスモピア、2017 年。

研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級）』。

スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。

森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ、ペレ出版。

遠田和子・岩渕デボラ『究極の英語ライティング』研究社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

教室での演習（40 %）、前の週の復習（40 %）、試験（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

音読演習を軸とする授業形態を大学で実施することに対し、はたしてどこまで実践してもらえるかどうかという不安もあるのだが、多くの受講生がしっかり取り組んでくれており充分な手ごたえを実感することができた。春学期・秋学期あわせて 1 年間で教科書を終わらせるのだが、同じやり方を 20 週くりかえすことにより途中でだれてしまいがちである。単調にならないように引き続き工夫していきたい。教室外での「シャドーイング演習」「瞬間英作文演習」を奨励しているのだが実際には個人差が大きく現れる。1 年間しっかり教科書に取り組んでもらうだけでも効果は十分に期待できるはずである。特に力点を置いているのが自主学習の方法の伝達であり、インプット・アウトプットをトレーニングするための手段は現代のメディア環境においては身のまわりに様々にありうる。自主学習の方法と習慣をより効果的に伝達できるように心がけたい。

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 II

2016 年度以前入学者

中垣 恒太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「English2 I」を継続する形で、定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどをくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。
・パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して、英語で表現する練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	教科書 10 章	教科書に基づく演習（教科書 10 章）
3 回目	教科書 11 章	教科書に基づく演習（教科書 11 章）
4 回目	教科書 12 章	教科書に基づく演習（教科書 12 章）
5 回目	教科書 13 章	教科書に基づく演習（教科書 13 章）
6 回目	教科書 14 章	教科書に基づく演習（教科書 14 章）
7 回目	教科書 10～14 章（復習）	教科書 10～14 章の復習
8 回目	教科書 15 章	教科書に基づく演習（教科書 15 章）
9 回目	教科書 16 章	教科書に基づく演習（教科書 16 章）
10 回目	教科書 17 章	教科書に基づく演習（教科書 17 章）
11 回目	教科書 18 章	教科書に基づく演習（教科書 18 章）
12 回目	教科書 19 章	教科書に基づく演習（教科書 19 章）
13 回目	教科書 15～19 章（復習）	教科書 15～19 章の復習
14 回目	インタビューを素材にしたシャドーイング演習／パラグラフ・ライティング演習	インタビューを素材にしたシャドーイング演習／パラグラフ・ライティング演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習してほしい。

【テキスト（教科書）】

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級）』

【参考書】

門田修平・玉井健『決定版 英語シャドーイング（改定新版）』コスモピア、2017 年。
研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級）』。
スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。
森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ、ペレ出版。
遠田和子・岩渕デボラ『究極の英語ライティング』研究社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

教室での演習（40 %）、前の週の復習（40 %）、試験（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

音読演習を軸とする授業形態を大学で実施することに対し、はたしてどこまで実践してもらえるかどうかという不安もあるのだが、多くの受講生がしっかり取り組んでくれており充分な手ごたえを実感することができた。春学期・秋学期あわせて 1 年間で教科書を終わらせるのだが、同じやり方を 20 週くりかえすことにより途中でだれてしまいがちである。単調にならないように引き続き工夫していきたい。教室外での「シャドーイング演習」「瞬間英作文演習」を奨励しているのだが実際には個人差が大きく現れる。1 年間しっかり教科書に取り組んでもらうだけでも効果は十分に期待できるはずである。特に力点を置いているのが自主学習の方法の伝達であり、インプット・アウトプットをトレーニングするための手段は現代のメディア環境においては身のまわりに様々にありうる。自主学習の方法と習慣をより効果的に伝達できるように心がけたい。

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	What makes a good paragraph	How to write a good paragraph (topic sentences, supporting sentences and concluding sentences)
第 3 回	Peer editing	A. Select a short article from http://www.voanews , highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. make groups for presentations selected from topic list provided by the instructor.
第 4 回	differences/ commonalities	Paragraph writing practice. Any academic theme acceptable. Group work on presentations
第 5 回	inside looking out	C. TED Talk, "Your Body Language May Shape Who You Are" (21:02) Q & A D. Work on presentations
第 6 回	Outline	A. Outline due for one page essay. Essay due on week 11. B. In class work on essay.
第 7 回	discussion	A. Select a short article from http://www.japantoday.com , highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. work on presentations
第 8 回	Peer editing	A. Peer editing on typed paragraphs B. Group work on presentations
第 9 回	Short speeches	Short speeches on what you are most passionate about (no digital games, anime etc.)
第 10 回	TED Talk	B. Tony Robbins TED Talk, "Why We Do What We Do" (21:45) C. Q & A
第 11 回	presentations	Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class. One page essay due.
第 12 回	presentations	2~3 group presentations + Q & A
第 13 回	get ready	2~3 group presentations + Q & A
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	Discuss what you did during your summer break.
第 2 回	Mistakes	How to avoid awkward expressions in writing and speaking https://blog.oxforddictionaries.com/2017/01/09/mistakes-learning-english/
第 3 回	Going global	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	writing	In class writing rough draft paragraph on globalization Typed paragraph due next week. Peer editing and discussion on globalization.
第 5 回	TED Talk	A. TED Talk, "The Habits of Happiness," Matthieu Ricard (20:54) B. Group work, Q & A C. Work on presentations
第 6 回	opinion	Outline due for one page essay. Essay due on week 11 In class work on essay selected from list provided by the instructor.
第 7 回	Group Discussion	A. Cultural taboos: discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.
第 8 回	Read and discuss	A. Select a short article from http://www.japantoday.com , highlight important points and discuss it in small groups. You must be prepared before class. B. work on presentations
第 9 回	Short speeches	A. Bring a small and meaningful item from home and give a short speech. B. Work on presentations.
第 10 回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第 11 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations. One page essay due.
第 12 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.

第 13 回 get ready

Group discussions selected from list provided by instructor. See <https://www.fluentu.com/blog/educator-english/esl-discussion-topics-for-adults/> active and fun conversation board game

第 14 回 conversation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class unless I say differently. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Time expressions. Comparative adjectives
11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough
13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

【参考書】

Use the CD Rom in the textbook and the English File app

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested less writing.

【学生が準備すべき機器他】

Please bring a good English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, must, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect or past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases
13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

Use the CD Rom in the textbook and the English File app

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more partner changes.

【学生が準備すべき機器他】

Bring an English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の様々な状況に対応できるライティング力とスピーキング力を身につける。

【到達目標】

平易な英語で自分の意見を正確に書き、それを効果的に伝えることを目標とする。辞書の使い方や基本文法を確認し、パラグラフの展開を理解して論理的構成を持った文章作成を目指す。また、聴き取った内容について、自分の意見を口頭で伝える練習も繰り返し行い、リスニング力、スピーキング力の向上も図る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを中心に進める。2 週間に一度英作文の課題を提出。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、さまざまな学習ツール（音声録音、グループワーク機能、音声&文字チャットなど）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	プレテスト・Unit 1: Let's Write on a Computer
第 2 回	Unit 2: Paragraph Structure(1)	Vocabulary, Exercise
第 3 回	Unit 2: Paragraph Structure(2)	Activity, Assignment
第 4 回	Unit 3: Narrative Paragraph(1)	Vocabulary, Exercise
第 5 回	Unit 3: Narrative Paragraph(2)	Activity, Assignment
第 6 回	Unit 4: Descriptive Paragraph(1)	Vocabulary, Exercise
第 7 回	Unit 4: Descriptive Paragraph(2)	Activity, Assignment
第 8 回	Unit 5: Reasoning(1)	Vocabulary, Exercise
第 9 回	Unit 5: Reasoning(2)	Activity, Assignment
第 10 回	Unit 6: Process(1)	Vocabulary, Exercise
第 11 回	Unit 6: Process(2)	Activity, Assignment
第 12 回	Unit7: Classification(1)	Vocabulary, Exercise
第 13 回	Unit7: Classification(2)	Activity, Assignment
第 14 回	プレゼンテーション	口頭発表&ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習と提出課題を行うことによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。

・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Working Up to Paragraph Writing (Asahi Press, 2011)

【参考書】

[i]Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition [i](Cambridge U. P., 2010)

[i]Practical English Usage [i](Oxford U. P., 2005)

[i]Longman Dictionary of Contemporary English Online[i]

[i]The Oxford Learner's Dictionaries[i]

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 60 % + 発表 20 % + 平常点 20 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

This course is designed to improve students' writing skills through understanding paragraph writing process, practicing different rhetorical mode, and reviewing grammar and sentence patterns. It also expects students to acquire abilities to understand others and express themselves effectively in English.

・ Students will learn to write a logically organized paragraph for each rhetorical pattern.

・ Students will develop greater grammatical accuracy in their writing.

・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics orally and in written form.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の様々な状況に対応できるライティング力とスピーキング力を身につける。

【到達目標】

平易な英語で自分の意見を正確に書き、それを効果的に伝えることを目標とする。辞書の使い方や基本文法を確認し、パラグラフの展開を理解して論理的構成を持った文章作成を目指す。今学期は、与えられたトピックに対して一定の時間内で構成パターンやアウトラインを考えながら書く練習や、複数のパラグラフから成る短いエッセイライティングの練習も行う。プレゼンテーションやスピーチの質疑応答などを通して伝える力と聴きとる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを中心に進める。2 週間に一度英作文の課題を提出。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、さまざまな学習ツール（音声録音、グループワーク機能、音声＆文字チャットなど）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 8: Comparison(1)	Vocabulary, Exercise
第 3 回	Unit 8: Comparison(2)	Activity, Assignment
第 4 回	Unit 9: Convincing(1)	Vocabulary, Exercise
第 5 回	Unit 9: Convincing(2)	Activity, Assignment
第 6 回	Unit10: Cause and Effect(1)	Vocabulary, Exercise
第 7 回	Unit10: Cause and Effect(2)	Activity, Assignment
第 8 回	Unit 12: From Paragraph to Essay(1)	Exercise
第 9 回	Unit 12: From Paragraph to Essay(2)	Assignment
第 10 回	Unit13: Opinion Essay(1)	Exercise
第 11 回	Unit13: Opinion Essay(2)	Assignment
第 12 回	Unit14: Writing for the TOEIC	Vocabulary, Exercise
第 13 回	Unit14: Writing for the TOEFL	Vocabulary, Assignment
第 14 回	プレゼンテーション	口頭発表&ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習と提出課題を行うことによって、自立的な学習習慣を身につけて欲しい。

・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Working Up to Paragraph Writing (Asahi Press, 2011)

【参考書】

[i]Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition [i](Cambridge U. P., 2010)

[i]Practical English Usage [i](Oxford U. P., 2005)

[i]Longman Dictionary of Contemporary English Online[i]

[i]The Oxford Learner's Dictionaries[i]

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 60 % + 発表 20 % + 平常点 20 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

This course is designed to improve students' writing skills through understanding paragraph writing process, practicing different rhetorical mode, and reviewing grammar and sentence patterns. It also expects students to acquire abilities to understand others and express themselves effectively in English.

・Students will learn to write a logically organized paragraph and a short essay with multiple paragraphs.

・Students will develop greater grammatical accuracy in their writing.

・Students will learn to express their opinions on a variety of topics orally and in written form.

・Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN ニュースを用いて、基礎的な英語運用能力を身につけることを目標とする。
効率的な電子辞書の使用方法を指導する。

【到達目標】

高校までに学習した英語・基本的な文法を理解することができる。
電子辞書を使用し、多彩なテーマの英語資料を理解し、必要な知識・情報を把握することができるようになる。
英文法・語彙知識が自然に身につくような、わかり易い授業を行うので、英語の基礎を再確認したい学生さんの受講を期待する。
更に社会に出た後、役に立つような英語運用能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ①各 Unit で使用される難解な語彙の用法などを確認し、その語彙を用いた例文などを口頭・文章で表現する。
- ②ニュースの英語を効果的に聞き取り、内容を把握する。
- ③ニュース内容の要約・あるいは自分の意見をまとめ、複数のパラグラフからなる短いレポートを書き、口頭発表などを行う。
- ④予習をしていることを前提に授業を進めて行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価基準についての説明
2	Unit 1	Well Suited for Royalty ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
3	Unit 1	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
4	Unit 2	Never Transformer ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
5	Unit 2	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
6	Unit 3	Miracle Transformer ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
7	Unit 3	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
8	Unit 4	Lukewarm Welcome ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
9	Unit 4	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
10	Unit 5	Otherwordly Genius ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in

11	Unit 5	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
12	Unit 6	A different London Tube ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
13	Unit 6	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
14	前期の復習試験	Unit 1-Unit 6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習①わからない単語を調べる。
②英文の構造・文法事項を確認する。
③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。
注意：1 回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書：CNN:ビデオで見る世界のニュース (20)

著者：関西大学 CNN 英語研究会

出版社：朝日出版社

出版年：2019 年

価格：1900 円

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%

出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 12 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。

欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるようにする。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students develop their abilities to effectively express their opinions and knowledge.

LANe100LA

English 2 II

LANe100LA

E n g l i s h 2 II

新宅 美樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN ニュースを用いて、基礎的なリスニング能力を身につけることを目標とする。
電子辞書の効率的な使用方法を指導する。

【到達目標】
高校までに学習した英語・基本的な文法の復習をする。
英文法・語彙知識が自然に身につくような、わかり易い授業を行うので、英語の基礎を再確認したい学生さんの受講を期待する。
更に社会に出た後、役に立つような英語運用能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
学生さんの積極的な授業参加を前提に授業を進めていく。
予習をして授業に臨むこと。
同義語・反意語、イディオム、連語などを授業内に確認するので、必ず辞書を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価基準についての説明
2	Unit 7	Where France Meets Arabia ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
3	Unit 7	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
4	Unit 8	Storing It and Sharing It ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
5	Unit 8	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
6	Unit 9	Dutch Ingenuity ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
7	Unit 9	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
8	Unit 10	Putin's Soft Spot ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
9	Unit 10	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
10	Unit 11	Neither One nor the Other ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
11	Unit 11	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz

12	Unit 12	Giant Smog Trap ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
13	Unit 12	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
14	後期の復習 試験	Unit 7-Unit 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習①わからない単語を調べる。
②英文の構造・文法事項を確認する。
③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。

【テキスト（教科書）】
教科書： CNN: ビデオで見る世界のニュース
著者： 関西大学 CNN 英語研究会
出版社： 朝日出版社
出版年： 2019 年
価格： 1900 円

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%
詳細についてはオリエンテーションで説明する。
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 12 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。
欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。

【学生の意見等からの気づき】
学生全員が積極的に授業にできるようにする。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students develop their abilities to effectively express their opinions and knowledge.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

マイケル マーフィー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

【到達目標】

Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge and experience, both orally and in writing. In addition, this course will also assist students in acquiring more effective listening skills so as enabling students to be more competent in interacting in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a greater emphasis on a variety of task based activities. The materials will be taken from the text as well as outside the text. There will also be occasional text related DVD showings with accompanying exercises, discussion, and reaction to the video.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation.	Introduction to the class, course guidelines and student expectations.
2	Personality types and qualities.	Describing personalities; expressing likes and dislikes.
3	Relationships: turn ons and turn offs	Agreeing and disagreeing. Writing a description of a best friend.
4	Jobs and job skills.	Describing jobs; discussing the positives and negative aspects of jobs.
5	Careers of the future.	Talking about possible careers. Writing about career advantages.
6	Unit Test 1	Units 1&2: Listening for details, reading comprehension.
7	Review of Unit test and introduction to Unit 3: Lend a hand	Making, accepting, declining requests.
8	Favors; formal and informal requests.	Listening and understanding indirect requests; requests with modals, if clauses and gerunds.
9	Borrowing and lending.	Interchange activity: Asking classmates to borrow, lend or refuse to lend something.
10	Unit 4: What happened?	Listening and reading about unusual news stories; notetaking
11	The media; top news stories on TV, radio and online.	Writing your own story; Groups: creating a news story.
12	Narrating a story; Describing events and experiences in the past.	Group presentations.
13	Units 3&4 test	Listening test plus grammar, vocabulary and reading.
14	Review of Semester 1	Units 3&4 test reviewed and feedback of Spring term.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be weekly assignments mainly from the text. Students are expected to come to class fully prepared, having completed the assigned homework and thus able to contribute to class activities.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards: Cambridge University Press 2017. ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Interchange Fifth Edition Online Self-Study.

【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is as follows:

Unit tests: 40%

Participation (including the timely completion of all homework assignments) 30%

Individual and small group presentations: 30%

*Attendance: Please note that in principle no more than three absences will be permitted in the term. Unless a valid reason is provided (i.e. emergency medical or family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

NA（新担当者のためなし）

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

マイケル マーフィー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 9 組

【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is based on:

Unit Tests: 40%

Participation: 30% (including the timely completion of homework assignments both written and reading); 30%

Performance in individual and group presentations: 30%

*In principle no more than 3 absences are permitted throughout the term. Without a valid reason, (i.e. medical emergency, family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

NA (新担当者のためなし)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

【到達目標】

Through textbook exercises, discussions and presentations, students will continue to develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience. There will be continued emphasis on listening and speaking as students gain greater fluency and communication skills in discussing various topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a strong emphasis on various task-based activities in pairs and groups. There will be periodic group presentations on topics from the text as well as discussion and reaction to listening and occasional DVD showings.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Fall term.	Course objectives/ student expectations.
2	Unit 5: Expanding your horizons	Living abroad; Exercises and discussion.
3	What's the custom?	Cultural differences; traveling abroad; learning about foreign customs.
4	Crossing cultures.	DVD: Culture shock Exercises and discussion.
5	Unit 6: That needs fixing.	Everyday problems; problems with electronics; listening for details.
6	Consumer complaints.	Describing problems, making complaints; explaining something that needs to be done.
7	Listening and reading	Units 5&6 test
8	Review of units 5 & 6 test. Introduction to Unit 7: The world we live in.	Listening and vocabulary about environmental issues. Exercises and practice.
9	Current issues.	Listening, identifying and describing environmental problems. Group discussion
10	Endangered animals and places.	DVD: Endangered islands. Exercises for material comprehension and reactions.
11	Environmental solutions	Group topic presentations on various environmental issues.
12	The past and the future. Historical events.	Talking about historical events and people. Exercises and practice.
13	Famous people in Japanese history.	Biography presentations: Famous person
14	Review of Units 7& 10.	Units 7& 10 test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to come to class fully prepared, having completed all assigned homework from the previous class, and thus able to participate in current class discussion.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards Cambridge University press, 2017. ¥ 2750

【参考書】

Interchange Fifth Edition Self-study DVD ROM Level 3.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

URBANOVA Jana

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parrotting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms – words with two different meanings
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/have got
Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life
Week 6	Unit 3 What's in the news?	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parrotting)
Week 7	Unit 3 What's in the news?	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parrotting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2

Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend
Week 11	Unit 5 Looking forward	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans
Week 12	Unit 5 Looking forward	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book and iTutor Pack (Fourth Edition), Oxford University Press, 2012. ISBN: 978-0-19-476966-2

【参考書】

English to English dictionary:
<https://dictionary.cambridge.org/>
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%
(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course)
- Writing assignments and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born
Week 4	Unit 7 Living history	Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Listening exercise: Frieda Hoffmann – archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect
Week 5	Unit 7 Living history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history
Week 6	Unit 8 Girls and boys	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Time for a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives

Week 12	Unit 10 Our interactive world	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book and iTutor Pack (Fourth Edition), Oxford University Press, 2012. ISBN: 978-0-19-476966-2

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

アンドリュー・チェン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation practice. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis is on speaking and listening and oral communication.

【到達目標】

The goal of this course is reach a level of proficiency in English Oral Communication that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English speaking society and to be able to exchange opinions, ideas, and information on various academic and social topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students' confidence will be developed through practice via pair/group discussions and guided/free conversations. The course is not a lecture course and students are expected to participate actively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	1A	Who's who?
②	1B	Who knows you better?
③	1C	At the Moulin Rouge
④	1D	The Devil's Dictionary
⑤	2A	Right place, wrong time
⑥	2B	A moment in time
⑦	2C	Fifty years of pop music
⑧	2D	One October evening
⑨	3A	Where are you going?
⑩	3B	The pessimist's phrase book
⑪	3C	I'll always love you
⑫	3D	I was only dreaming
⑬	4A	From rags to riches
⑭	4B	Family conflicts

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are asked to prepare for lessons before class by doing the dictionary work for new vocabulary and the reading section of each lesson. Students should review each lesson by doing the grammar exercises for each lesson after class.

【テキスト（教科書）】

American English File 2 by Oxford University Press 2008

ISBN-13: 978-0194774321

Handouts and worksheets for review and for TV drama videos will be provided by the instructor

【参考書】

American English File 2 Workbook with Multi-Rom (optional)

【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 40%

Homework 20% Tests, Quizzes, and Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」

「先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」

「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」「大変だけど、やりがいのある授業でした」

「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」

【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007.

Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an A+ or an A.

Students are required to come to class and will not receive credit/unit for the course with more than 2 unexcused absences. 2 times late to class will be counted as 1 absence. 30 minutes after class start time is counted as an absence.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

アンドリュー・チェン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce past grammar patterns learned and to introduce new grammar for English oral communication and conversation practice. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis is on speaking and listening and oral communication.

Additionally, introductory presentation skills will be covered. Students will be given opportunities to present information orally before the class.

【到達目標】

The goal of this course is reach a level of proficiency in English communication that enables one to engage in day-to-day English conversation as one living in an English speaking society and to be able to exchange opinions, ideas, and information on various academic and social topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students' confidence will be developed through practice via pair/group discussions and guided/free conversations. The course is not a lecture course and students are expected to participate actively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	5A	Are you a party animal?
②	5B	What makes you feel good?
③	5C	How much can you learn in a month?
④	5D	The name of the game
⑤	6A	If something bad can happen, it will
⑥	6B	Never smile at a crocodile
⑦	6C	Decisions, decisions
⑧	6D	What should I do?
⑨	7A	Famous fears and phobias?
⑩	7B	Born to direct
⑪	7C	I used to be a rebel
⑫	7D	The mothers of invention
⑬	8A	I hate weekends!
⑭	8B	How old is your body?
⑮	8C	Waking up is hard to do
⑯	8D	"I'm Jim." "So am I."

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are asked to prepare for lessons before class by doing the dictionary work for new vocabulary and the reading section of each lesson. Students should review each lesson by doing the grammar exercises for each lesson after class.

【テキスト（教科書）】

American English File 2 by Oxford University Press 2008
ISBN-13: 978-0194774321

Handouts and worksheets for review and for TV drama videos will be provided by the instructor

【参考書】

American English File 2 Workbook with Multi-Rom (optional)

【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 40%

Homework 20% Tests, Quizzes, and Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」「先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」

「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があつたのでやってよかった」「大変だけど、やりがいのある授業でした」「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」

【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007. Students who speak Japanese in this English language course, despite many reminders to use English, do not stand a good chance to receive an A+ or an A. Students are required to come to class and will not receive credit/unit for the course with more than 2 unexcused absences. 2 times late to class equates to 1 absence. Coming to class 30 minutes after class start time is counted as 1 absence.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

リチャード・バロース

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will look at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment.

【到達目標】

1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Elliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer. Each week students will prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10 minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned a variety of vocabulary exercises as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the previous lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Course Introduction
Weeks 2	Prejudice	Billy Elliot 1 (The Ballet Class): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 3	Prejudice	Billy Elliot 2 (The Private lesson): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review
Week 4	Prejudice	Billy Elliot 3 (Trouble at Home): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review
Week 5	Prejudice	Billy Elliot 4 (The Audition): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 6	Prejudice	Billy Elliot 5 (Leaving Home): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 7	Evaluation	Mid-Term Evaluation
Week 8	Gender Roles	Bend It Like Beckham 1: Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review
Week 9	Gender Roles	Bend It Like Beckham 2: Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review
Week 10	Gender Roles	Bend It Like Beckham 3: Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review
Week 11	Gender Roles	Bend It Like Beckham 4: Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review
Week 12	Gender Roles	Bend It Like Beckham 5: Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review
Week 13	Gender Roles	Bend It Like Beckham 6: Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review

Week 14 Evaluation

Final Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare vocabulary & review the previous lesson's material prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted

【テキスト（教科書）】

No set text is required. However, since students will be using photocopied handouts, they must bring an A4/B4 folder or binder to each lesson

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

- 30% - Participation & Punctuality
- 30% - Classroom & Homework Assignments
- 20% - Mid-term Written Assignment
- 20% - Final Evaluation

【学生の意見等からの気づき】

An in-class preview & review of the lesson will be included to reinforce points learned.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a printer & PC in order to print reports

【Outline and objectives】

As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 II

2016 年度以前入学者

リチャード・バロース

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Introductory Class
Week 2	Writing	Format & Process
Week 3	Writing	Pre-Writing
Week 4	Writing	The Structure of a Paragraph
Week 5	Writing	The Development of a Paragraph
Week 6	Writing	Descriptive Paragraphs
Week 7	Writing	Process Paragraphs
Week 8	Writing	Opinion Paragraphs
Week 9	Writing	The Thesis Statement
Week 10	Writing	Problem/Solution Paragraphs
Week 11	Writing	The Structure of an Essay
Week 12	Writing	Introductions & Conclusions
Week 13	Writing	Comparison & Contrast
Week 14	Writing	Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which must be printed on A4 paper. No more than 3 absences will be permitted

【テキスト（教科書）】

Writing Essays by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.
Publisher: Macmillan Language House

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be given individual evaluation & guidance after submitting each report

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to print reports.

【Outline and objectives】

This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法 1 年：英語 13 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a basic discussion course for first year university students.

There are four strands to the spring course:

Strand 1: Everyday speaking skills: reach basic communication level (quickly!)

Stand 2: Working with the textbook: learn discussion skills and practice

Strand 3: Research and writing good answers to discussion questions

Strand 4: Writing: Write a paragraph useful for the Eiken Level 2 (英検 2 級)

【到達目標】

1. Produce English effective speaking and writing
2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)
3. Develop learning skills (use of Internet for independent study, use of textbook website, planning own study schedule)
4. Develop skills for academic writing tasks
5. Develop student / social skills (See Grading #9 in this syllabus)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The first language of the course is English. I will always use English first, and in time students will always use English first. This includes practice, speaking tests, classroom language, and non-study related speaking with classmates. Japanese can only be used if necessary. (As in this syllabus)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction to the Course	Orientation to the course, rules, policies Basic English Skill 0 (BES 0) North American Greetings and Names Basic English Skill 1 (BES 1) Classroom Language
Lesson 2	Vacations I	BES 2 Classroom Group Language Distribute textbook Make groups Textbook: Overview of textbook, Unit 1 Vacations HW: Register for textbook website in class or for HW
Lesson 3	Vacations II	BES 3 Conversation Model and Practice Making Natural Sentences Textbook: Unit 1 Vacations Task 7 Vocabulary HW: 1. Complete Unit 2 online exercises 2. Write to support speaking skills
Lesson 4	Movies I	Unit 1 Practice Test -check in class BES 4 Yes / No Questions and Answer Forms Textbook: Unit 2 Movies

Lesson 5 Movies II

Lesson 6 Movies III

Lesson 7 Dating I

Lesson 8 Dating II

Lesson 9 Part-time Jobs I

Lesson 10 Part-time Jobs II

Lesson 11 Learning English I

Lesson 12 Testing and Evaluation

Lesson 13 Testing and Evaluation

Lesson 14 Course Wrap Up

Unit 1 Practice Test - check in class
BES 5 How to answer Yes/No questions effectively (Use extra-info)

Textbook: Unit2 Movies

Writing assignment intro (英検 2 級のような作文)

Prepare composition:

Outlines and short forms for outlines

HW: Write to support speaking skills Unit 2

Due: Unit 2 Write to support speaking skills

BES 6: WH Question and Answer Forms

Textbook: Unit 2 Movies

HW: Unit 3 Vocabulary

Unit 2 Practice Test - check in class
BES 7: How to Answer WH

Questions Effectively (Use extra-info)

Textbook: Unit 3 Dating

Writing Eiken Level 2 Composition continued - Outline to Paragraph

HW: Complete movie composition
Due: Movie Composition

BES 8: Follow-up Questions
Textbook: Unit 3 Dating

HW:

1. Unit 3 Write to support speaking skills

2. Unit 4 Vocabulary

Due: Unit 3 Write to support speaking skills

Unit 3 Practice Test - check in class
BES 9: Rebound Questions

Textbook: Unit 4 Part-time Jobs
BES 10 Pausing + BES 11

Reactions

Textbook: Unit 4 Part-time Jobs
HW: Unit 4 Write to support

speaking skills

Due: Unit 4: Write to support speaking skills

Unit 4 Live test - Collection and check by me

BES 12: Starting a Conversation
BES 13 Ending a Conversation

Textbook: Unit 5 Learning English
HW: Prepare Unit 5 independently

for Paper Test
Unit 5 Live Paper test

Prepare for the speaking discussion test.

Speaking Discussion Test

Grade Idea

Summer ideas

File check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework during the course:

1. Online exercises (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
2. Writing to support speaking activities (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
3. Preparation for role plays and presentations (once or twice per semester 1 hour with group members)
3. Eiken Level 2 type composition - 1 to 2 hours per semester

【テキスト（教科書）】

The textbook will be passed out in class.

【参考書】

A good English / Japanese Japanese / English Dictionary - Paper, Electronic or smartphone
Various applications required for Smartphones

【成績評価の方法と基準】

1. Print file (5%)
2. Homework completion checked by answering in class (5%)
3. Online HW Completion at the end of each unit (10%)
4. Task 7 Research and write short answers to discussion questions (10%)
5. Writing an Eiken composition (10%)
6. Unit Test (20%)
7. Discussion Test (25%)
8. Bonuses for superior performance on 1, 4, 5, 6, 7 (10%)
9. Goal 5: Adding value to the course with appropriate student skills (5%)

(asking questions during class, good attendance and punctuality, always being prepared for class with homework done and correct prints even if absent, helping classmates, being a group leader, if absent for test bring document)

【学生の意見等からの気づき】

I don't know what student comments are at this time. Many 2018 students had very, very limited speaking skills, so more practice has been introduced in the spring semester of 2019.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook will be distributed in the first or second class

Other standard equipment such as pens, pencils, dictionary (above)

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 II

2016 年度以前入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

法 1 年：英語 13 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a basic discussion course for first year university students.

There are five strands to the fall course:

Strand 1: Basic discussion skills: reach basic communication level

Strand 2: Working with the textbook: learn discussion skills and practice

Strand 3: Research and writing: Write good answers to discussion questions

Strand 4: Writing: Write a composition useful for the Eiken Level Pre 1 (英検準 1 級)

Strand 5: Prepare and give a group presentation

【到達目標】

Similar to the spring semester

1. Produce English effective speaking and writing

2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)

3. Develop learning skills (use of Internet for independent study, use of textbook website, planning own study schedule)

4. Develop skills for academic writing tasks

5. Develop effective presentation skills

6. Develop student / social skills (See Grading #9 in this syllabus)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Similar to the spring semester

The first language of the course is English. I will always use English first, and in time students will always use English first. This includes practice, speaking tests, classroom language, and non-study related speaking with classmates. Japanese can only be used if necessary. (As in this syllabus)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	FallIntroduction	Orientation to the fall semester, any new rules or policies Basic Discussion Skill (BDS) 00 Classroom Q and A Textbook: Introduction: Unit 6 Hopes and Dreams Plan for independent study: A plan to write the Eiken Level Pre-1 (準 1 級) essay will be given to students. The plan includes 'how-to' prints, and a schedule of tasks to be completely and when to submit them.
Lesson 2	Hopes and Dreams	BDS 1 Introduction to Discussion (Review Print) BDS 2 Topics and Issues - General Textbook: Unit 6 Hopes and Dreams Test/Assignment Due Next Class: Unit 6 Write to support discussion skills
Lesson 3	Hopes and Dreams	Collect HW BDS 3 Starting a Discussions / Thinking about the Issues Textbook: Unit 6 Hopes and Dreams
Lesson 4	Family	Unit 6 Practice Test in Class BDS 4 Giving Your Opinion and Specific Issues Textbook: Unit 9 Family

Lesson 5	Family	BDS 5 Reasons Textbook: Unit 9 Family Test/Assignment Due next class: Unit 9 Write to support speaking skills	【学生の意見等からの気づき】 Students should be better prepared assuming the spring semester changes were effective.
Lesson 6	SocialNetworking	Collect HW Unit 9 Practice Test in Class BDS 6: Support Textbook: Unit 10 Social Networking	【学生が準備すべき機器他】 Same as spring semester.
Lesson7	SocialNetworking	Presentation Skills - Posture Textbook: Unit 10 Social Networking Test/Assignment Due next class: Unit 10 Write to support speaking skills Unit 10 Practice Test	
Lesson 8	Interests	Presentation Skills: Sandwich Presentation Presentation / PC / PowerPoint Skills Collect HW Check Unit 10 Practice test in class Textbook: Unit 11 Interests *Because of presentations, students will have to do more on the last units as homework or by themselves.	
Lesson 9	Interests	Presentation / PC / PowerPoint Skills Textbook: Unit 11 Interests Test/Assignment Due: Unit 11 Write to support speaking skills	
Lesson10	Spending Money	Collect HW Unit 11 Interests Live Test - Collection and check by me PowerPoint Presentations Unit 6 Textbook: Unit 12 Spending Money	
Lesson 11	Spending Money	Unit 11 Interests Live Test back Presentations Units 9, 10 Textbook: Unit 12 Spending Money Test/Assignment Due: Unit 12 Write to support speaking skills	
Lesson 12	Presentations Unit 11, 12	Collect HW Unit 12 Live test - Collection and check by me Units 11, 12 Presentations Prepare for discussion test	
Lesson 13	Discussion Test	Discussion Test	
Lesson 14	Wrap up	Further English learning ideas Grade idea File check	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before the fall semester: Students should review textbook units from the spring semester. Students should also learn MS Word and MS PowerPoint skills. There are many tutorials on YouTube
[URL]https://www.youtube.com/results?search_query=MS+word+tutorial[URL]

During the course: The amount of work is similar to the spring semester.

1. Online exercises (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
2. Writing to support speaking activities (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
3. Preparation for role plays and presentations (once or twice per semester 1 hour with group members)
4. Preparation for presentation several hours outside of class
4. Eiken Level Pre 1 type composition - 2-3 hours per semester

【テキスト（教科書）】

Same as spring

【参考書】

We may add more apps to smartphones

【成績評価の方法と基準】

1. Print file (5%)
2. Homework completion checked by answering in class (5%)
3. Online HW Completion (5%)
4. Writing to support speaking activities (10%)
5. Unit Test (20%)
6. Group PowerPoint Sandwich Presentation (15%)
7. Discussion Test (25%)
8. Bonuses for superior performance on 1, 3, 4, 5, 7 (10%)
9. Adding value to the course (5%)
(asking questions during class, good attendance and punctuality, always being prepared for class with homework done and correct prints even if absent, helping classmates, being a group leader)

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

スティーブン モリス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 14 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will have the opportunity to develop and expand their writing and oral communication skills through a variety of structured activities and exercises.

【到達目標】

The goal of this course is to provide students with the ability to express and formulate their ideas and opinions especially in the written form. Students will study basic paragraph structure with the ultimate goal of producing an essay with multiple paragraphs. Students will also have the opportunity to present their ideas orally. Students will be expected to show an understanding of structure, logic and grammatical correctness.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will have extensive opportunities to develop and practice their communication and writing skills both in class and for homework through a variety of exercises and activities. Students will be expected to complete their home assignments as part of their preparation for their class work activities

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Introduction to Writing Concepts
2	Elements of Organization	Key Words and Ideas in Writing
3	The Writing Process	Analyzing the Preparation Steps to Write a Paragraph
4	Sentence Structure	Prewriting Activities Key Sentence Components
5	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
6	Introduction to Listing Order Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Clustering
7	Organizing a Listing Paragraph	Recognizing Key Paragraph Components: Topic and Supporting Sentences
8	Sentence Structure Practice	Construction of Simple and Compound Sentences Creating an Outline
9	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
10	Introduction to Instructional Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Listing
11	Organizing an Instructional Paragraph	Use of Topic Sentences and Transition Signals
12	Expanding an Outline	Creating an Outline from an Edited List
13	Term Writing Assignment	In Class Preparation
14	Submit Assignment	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review and Preparation for classwork
Writing homework based on specific grammar points

【テキスト（教科書）】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs
Author: Ann Hogue
Publisher: Pearson Longman 2014

【参考書】

Good Dictionary required

【成績評価の方法と基準】

Classwork & Homework 30%

Quizzes 35%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

【学生の意見等からの気づき】

Syllabus revised to include more basic writing skills

【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to change

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

スティーブン モリス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年：英語 14 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Using the techniques introduced in the first term, students will have the opportunity to enhance and broaden their overall communication skills through extensive practice both orally and in the written form.

【到達目標】

The goal of this course is to familiarize students with the process of writing clear and well-structured paragraphs. At the same time students will have the opportunity to combine their writing skills with their oral presentation skills. Attention will be focused on providing students with a solid foundation on which to build their writing and communication skills. There will be an increased emphasis on more in-depth writing and discussion in this part of the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Classwork activities and exercises will increasingly require students to initiate their own ideas and opinions. Students will be expected to produce more comprehensive and in-depth writing.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction and Review	Review activities will focus on covering key concepts covered in the first term
2	Sentence Structure Practice	Analyse Complex Sentences with Time Clauses Analyse Sentence Fragments
3	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation and Drafting
4	Understanding the Concept of Space Order in Writing	Practice Prewriting for Descriptive Paragraphs Using Supporting Sentences with Specific Details
5	Creating a Detailed Outline	Use of Adjectives and Prepositions
6	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation and Drafting
7	Paragraphs that Persuade	Prewriting Using Reasons and Examples to Support Ideas
8	Paragraph Development	Paragraph Development with Transition Signals that Introduce Reasons and Examples
9	Practice Sentence Structure	Using Complex Sentences with Reason and Condition Clauses
10	Writing Activities	Unit Quiz Preparation and Drafting
11	Term Writing Assignment	
12	Introduction to Presentation Techniques	Analyse Body Language, Voice, Gestures, Organization
13	Organizing a Presentation	Analyse Three-Part Structure
14	Presentation Practice	Students deliver short presentations
	Term Assignment	Term Assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review and Preparation as directed
Writing homework based on specific grammar points

【テキスト（教科書）】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs

Author: Ann Hogue

Publisher: Pearson Longman 2014

【参考書】

Good Dictionary required

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on the following:

Classwork & Homework 35%

Quizzes 30%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

【学生の意見等からの気づき】

Introduced more comprehensive writing component and overview of presentation skills

【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to change

【Outline and objectives】

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

マイケル マーフィー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 15 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a largely task-based course in which all four language skills are exercised. There will be an in-class emphasis on listening and speaking with outside work focussing on reading and writing. The overall objective is to assist in helping students acquire these critical language skills in order to be able to communicate at a minimal, but survivable level in the English speaking world.

【到達目標】

The goal is to introduce practical and current English to students so as they can develop competence, and thus the confidence to apply it in everyday situations in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The method is largely communicative based. Each class will have some lecture, but there will be a strong focus on student to student interaction/participation, namely speaking, in task-based activities in pairs and groups throughout the term. Weekly written, listening and speaking assignments taken from the text as well as occasional supplemental handouts will serve as the basis for the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English	Class policies/procedures; student expectations.
2	Meeting people.	Exchanging personal information. Listening for details.
3	Childhood memories.	Talking and writing about your childhood.
4	Transportation services.	Asking for and giving information.
5	Tourism campaign.	Group presentations.
6	Unit Test 1	Units 1&2
7	Houses and apartments.	Evaluations and comparisons. Writing an e-mail.
8	Lifestyle changes.	Talking about change; Expressing wishes.
9	Food and snacks.	Likes and dislikes. Talking about food.
10	Food recipes.	Presentations: Step by step. Describing how to make something.
11	Household chores.	Talking about family life; making requests.
12	Complaints, excuses, apologies.	Responding to complaints and requests. Asking for a favor.
13	Travel planning.	Describing vacation plans; giving travel advice.
14	Unit Test II	Units 3,4,5.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete all assignments and come to class fully prepared for discussion and class activities.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2, Fifth Edition Jack C Richards Cambridge University Press 2017 ¥ 2750

【参考書】

Interchange 2, Fifth Edition: Self-Study DVD-ROM Level 2.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation criteria for the course:

Participation: 30% (including the timely completion of all assignments, reading and written)

Mini presentations, paired and small group: 30%

Unit Tests, oral dictation and vocabulary quizzes: 40%

* Please be aware that, in principle, no more than 3 absences are permitted throughout the term. A fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

NA（新担当者のためなし）

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 II

2016 年度以前入学者

マイケル マーフィー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法 1 年：英語 15 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

All four language skills are exercised in this course with a classroom emphasis on listening and speaking. The main objective of this course is to facilitate in providing students with the necessary language skills to effectively communicate in the English speaking world.

【到達目標】

Students will continue developing competence in their abilities to communicate in English as they build vocabulary and fluency to interact and effectively express themselves in an English speaking environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The methodology will continue to be largely communicative based. Each class will have a minimal amount of lecture with a strong focus on task based activities in pairs and groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English Fall term.	Student expectations and objectives.
2	Technology: The world of computers	Talking about computer usage; computer vocabulary
3	Technological devices.	Giving instructions and suggestions. Writing: an instruction manual
4	Life in the past and present.	Talking about change; comparing time periods.
5	Life in the future; consequences	Describing a person's past, present and possible future.
6	Review of units 7&9	Unit 7&9 test
7	Abilities and skills.	Review of unit 7&9 test; describing skills and abilities; personality traits.
8	Careers and job preferences.	Writing: an online job application; Interchange activity: interviewing for a job
9	World landmarks and monuments.	Talking about modern wonders. Describing landmarks.
10	World knowledge: Cities and countries.	Discussing facts about cities and countries; Group presentations
11	Storytelling.	Describing recent past events and experiences.
12	Holidays and festivals	Describing holidays, festival and special events.
13	Review	Units 8,10 & 11 test.
14	Final review and course wrap-up.	Review of unit test; student evaluations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to have fully completed all written, reading and speaking preparation assignments prior to class.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 Fifth Edition, Jack C. Richards Cambridge University Press, 2017.

【参考書】

Interchange Fifth Edition: Online Self-Study, Level 2.

【成績評価の方法と基準】

Grading criteria for this course will be based on:
Class participation (including the timely completion of homework assignments) 30%, oral presentations, individual and small group: 30%, and Unit Tests 40%.

*Attendance is expected every class. No more than three absences are allowed throughout the term. Without a valid reason (i.e. a medical emergency or family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

NA（新担当者のためなし）

【学生が準備すべき機器他】

DVD video player for occasional use may be needed.

LANe100LA

English 2 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 I 2016 年度以前入学者

中垣 恒太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 16 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどの演習をくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。
・パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して英語で表現する練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	シャドーイング入門	シャドーイング演習（シャドーイング入門）
3 回目	教科書 1 章	教科書に基づく演習（教科書 1 章）
4 回目	教科書 2 章	教科書に基づく演習（教科書 2 章）
5 回目	教科書 3 章	教科書に基づく演習（教科書 3 章）
6 回目	教科書 4 章	教科書に基づく演習（教科書 4 章）
7 回目	教科書 1～4 章（復習）	教科書 1～4 章の復習
8 回目	教科書 5 章	教科書に基づく演習（教科書 5 章）
9 回目	教科書 6 章	教科書に基づく演習（教科書 6 章）
10 回目	教科書 7 章	教科書に基づく演習（教科書 7 章）
11 回目	教科書 8 章	教科書に基づく演習（教科書 8 章）
12 回目	教科書 9 章	教科書に基づく演習（教科書 9 章）
13 回目	教科書 5～9 章（復習）	教科書 5～9 章の復習
14 回目	パラグラフ・ライティング演習	パラグラフ・ライティング演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習してほしい。

【テキスト（教科書）】

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級）』

【参考書】

門田修平・玉井健『決定版 英語シャドーイング（改定新版）』コスモピア、2017 年。

研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級）』。

スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。

森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ、ペレ出版。

遠田和子・岩渕デボラ『究極の英語ライティング』研究社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

教室での演習（40 %）、前の週の復習（40 %）、試験（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

音読演習を軸とする授業形態を大学で実施することに対し、はたしてどこまで実践してもらえるかどうかという不安もあるのだが、多くの受講生がしっかり取り組んでくれており充分な手ごたえを実感することができた。春学期・秋学期あわせて 1 年間で教科書を終わらせるのだが、同じやり方を 20 週くりかえすことにより途中でだれてしまいがちである。単調にならないように引き続き工夫していきたい。教室外での「シャドーイング演習」「瞬間英作文演習」を奨励しているのだが実際には個人差が大きく現れる。1 年間しっかり教科書に取り組んでもらうだけでも効果は十分に期待できるはずである。特に力点を置いているのが自主学習の方法の伝達であり、インプット・アウトプットをトレーニングするための手段は現代のメディア環境においては身のまわりに様々にありうる。自主学習の方法と習慣をより効果的に伝達できるように心がけたい。

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

中垣 恒太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 16 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「English2 I」を継続する形で、定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどをくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。
・パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して、英語で表現する練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	教科書 10 章	教科書に基づく演習（教科書 10 章）
3 回目	教科書 11 章	教科書に基づく演習（教科書 11 章）
4 回目	教科書 12 章	教科書に基づく演習（教科書 12 章）
5 回目	教科書 13 章	教科書に基づく演習（教科書 13 章）
6 回目	教科書 14 章	教科書に基づく演習（教科書 14 章）
7 回目	教科書 10～14 章（復習）	教科書 10～14 章の復習
8 回目	教科書 15 章	教科書に基づく演習（教科書 15 章）
9 回目	教科書 16 章	教科書に基づく演習（教科書 16 章）
10 回目	教科書 17 章	教科書に基づく演習（教科書 17 章）
11 回目	教科書 18 章	教科書に基づく演習（教科書 18 章）
12 回目	教科書 19 章	教科書に基づく演習（教科書 19 章）
13 回目	教科書 15～19 章（復習）	教科書 15～19 章の復習
14 回目	インタビューを素材にしたシャドーイング演習／パラグラフ・ライティング演習	インタビューを素材にしたシャドーイング演習／パラグラフ・ライティング演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習してほしい。

【テキスト（教科書）】

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級）』

【参考書】

門田修平・玉井健『決定版 英語シャドーイング（改定新版）』コスモピア、2017 年。
研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級）』。
スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。
森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ、ペレ出版。
遠田和子・岩渕デボラ『究極の英語ライティング』研究社、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

教室での演習（40 %）、前の週の復習（40 %）、試験（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

音読演習を軸とする授業形態を大学で実施することに対し、はたしてどこまで実践してもらえるかどうかという不安もあるのだが、多くの受講生がしっかり取り組んでくれており充分な手ごたえを実感することができた。春学期・秋学期あわせて 1 年間で教科書を終わらせるのだが、同じやり方を 20 週くりかえすことにより途中でだれてしまいがちである。単調にならないように引き続き工夫していきたい。教室外での「シャドーイング演習」「瞬間英作文演習」を奨励しているのだが実際には個人差が大きく現れる。1 年間しっかり教科書に取り組んでもらうだけでも効果は十分に期待できるはずである。特に力点を置いているのが自主学習の方法の伝達であり、インプット・アウトプットをトレーニングするための手段は現代のメディア環境においては身のまわりに様々にありうる。自主学習の方法と習慣をより効果的に伝達できるように心がけたい。

【Outline and objectives】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

マイケル マーフィー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 17 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a largely task-based course in which all four language skills are exercised. There will be an in-class emphasis on listening and speaking with outside work focussing on reading and writing. The overall objective is to assist in helping students acquire these critical language skills in order to be able to communicate at a minimal, but survivable level in the English speaking world.

【到達目標】

The goal is to introduce practical and current English to students so as they can develop competence, and thus the confidence to apply it in everyday situations in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The method is largely communicative based. Each class will have some lecture, but there will be a strong focus on student to student interaction/participation, namely speaking, in task-based activities in pairs and groups throughout the term. Weekly written, listening and speaking assignments taken from the text as well as occasional supplemental handouts will serve as the basis for the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English	Class policies/procedures; student expectations.
2	Meeting people.	Exchanging personal information. Listening for details.
3	Childhood memories.	Talking and writing about your childhood.
4	Transportation services.	Asking for and giving information.
5	Tourism campaign.	Group presentations.
6	Unit Test 1	Units 1&2
7	Houses and apartments.	Evaluations and comparisons. Writing an e-mail.
8	Lifestyle changes.	Talking about change; Expressing wishes.
9	Food and snacks.	Likes and dislikes. Talking about food.
10	Food recipes.	Presentations: Step by step. Describing how to make something.
11	Household chores.	Talking about family life; making requests.
12	Complaints, excuses, apologies.	Responding to complaints and requests. Asking for a favor.
13	Travel planning.	Describing vacation plans; giving travel advice.
14	Unit Test II	Units 3,4,5.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete all assignments and come to class fully prepared for discussion and class activities.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2, Fifth Edition Jack C Richards Cambridge University Press 2017 ¥ 2750

【参考書】

Interchange 2, Fifth Edition: Self-Study DVD-ROM Level 2.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation criteria for the course:

Participation: 30% (including the timely completion of all assignments, reading and written)

Mini presentations, paired and small group: 30%

Unit Tests, oral dictation and vocabulary quizzes: 40%

* Please be aware that, in principle, no more than 3 absences are permitted throughout the term. A fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

NA（新担当者のためなし）

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

マイケル マーフィー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 17 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

All four language skills are exercised in this course with a classroom emphasis on listening and speaking. The main objective of this course is to facilitate in providing students with the necessary language skills to effectively communicate in the English speaking world.

【到達目標】

Students will continue developing competence in their abilities to communicate in English as they build vocabulary and fluency to interact and effectively express themselves in an English speaking environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The methodology will continue to be largely communicative based. Each class will have a minimal amount of lecture with a strong focus on task based activities in pairs and groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to English Fall term.	Student expectations and objectives.
2	Technology: The world of computers	Talking about computer usage; computer vocabulary
3	Technological devices.	Giving instructions and suggestions. Writing: an instruction manual
4	Life in the past and present.	Talking about change; comparing time periods.
5	Life in the future; consequences	Describing a person's past, present and possible future.
6	Review of units 7&9	Unit 7&9 test
7	Abilities and skills.	Review of unit 7&9 test; describing skills and abilities; personality traits.
8	Careers and job preferences.	Writing: an online job application; Interchange activity: interviewing for a job
9	World landmarks and monuments.	Talking about modern wonders. Describing landmarks.
10	World knowledge: Cities and countries.	Discussing facts about cities and countries; Group presentations
11	Storytelling.	Describing recent past events and experiences.
12	Holidays and festivals	Describing holidays, festival and special events.
13	Review	Units 8,10 & 11 test.
14	Final review and course wrap-up.	Review of unit test; student evaluations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to have fully completed all written, reading and speaking preparation assignments prior to class.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 Fifth Edition, Jack C. Richards Cambridge University Press, 2017.

【参考書】

Interchange Fifth Edition: Online Self-Study, Level 2.

【成績評価の方法と基準】

Grading criteria for this course will be based on:
Class participation (including the timely completion of homework assignments) 30%, oral presentations, individual and small group: 30%, and Unit Tests 40%.

*Attendance is expected every class. No more than three absences are allowed throughout the term. Without a valid reason (i.e. a medical emergency or family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

NA（新担当者のためなし）

【学生が準備すべき機器他】

DVD video player for occasional use may be needed.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 18 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes. Students will develop their analytical skills in English. Students develop listening and note taking skills as well as the ability to hold a discussion in English in a small group.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to Course methods, rules etc. Needs and desires: Excerpts from Phantom of the Opera and Nosferatu	Students make groups and exchange contact information, short discussions
week 2	Lon Chaney and the making of monsters; The penalty and the Hunchback of Notre Dame	All Class activity #1 active listening, note taking and Vocabulary development
week 3	Lon Chaney and The Phantom of The Opera	All class activity #2 pair work and small group problem solving
week 4	The Evil and the Ugly. The Historical Dracula, the Literary Dracula and the Making of Nosferatu; Merhage's Shadow of The Vampire	All Class Activity #3. Listening and note taking, vocabulary work.
week 5	The Universal Dracula and the revisionist Bram Stoker's Dracula	All Class activity #4; small group work and listening, note taking
week 6	The Creation and the Fall, the Garden and Forbidden fruit Interview with a Vampire. Evil as a choice	All Class activity #5, small group problem solving and vocabulary work.
week 7	Review of Vampire Choice, Dracula and and Bram Stoker's Dracula.	All class Activity #6 pair work, Lecture and listening activities
week 8	A Marxist Reading of Dracula? Shadow of The vampire, Blood for Dracula	All class activity #7. Listening and note taking
week 9	Screening of Frankenstein (1931)	While watching activities and information gap tasks
week 10	Biblical Allegory: Creation of Man, Greek Mythology: The Theft of Fire, The Wind Mill as Cross.	All Class activity #8, small group problem solving and vocabulary work.

week 11	The Monster: Guilty or Innocent?	All Class activity #9 Listening and lecture, information gap activities
week 12	Introduction to and screening of Part I of Dr. Jekyll and Mr Hyde	All Class activity #10, small group problem solving information gap activities
week 13	Close analysis of and Screening second part of Dr. Jekyll and Mr Hyde	All Class activity #11 Pair work and vocabulary activities.
week 14	Close analysis of Dr J and Mr. H. and the Freudian interpretation of the film	All Class activity #12, small group problem solving and vocabulary work.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be homework assigned each week which may include short reading assignments, short writing assignments or research on line.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which are to be kept for the entire class in a neat and well organized notebook

【参考書】

Students should have a good dictionary in class

【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on attendance and active participation in class. There will be between 10 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of the grade, however the comprehensive review activity at the end of the semester is an opportunity for students to improve their grade.

【学生の意見等からの気づき】

The content of this class has been changed, but the method and goals remain the same.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 18 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes. Students will develop their analytical skills in English. Students develop listening and note taking skills as well as the ability to hold a discussion in English in a small group.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Transformations: The Universal Wolfman	students make groups and exchange contact information, short discussions
week 2	The Style and new approach of John Braum's the Undying Monster	All Class activity #1 active listening, note taking and Vocabulary development
week 3	John Braum's The Lodger and the Real Jack	All class activity #2 pair work and small group problem solving
week 4	Screening of The Cat People	All Class Activity #3. Listening and note taking, vocabulary work.
week 5	Close Analysis of The cat People	All Class activity #4; small group work and listening, note taking
week 6	The Style and themes of Val Newton films: I walked with a Zombie	All Class activity #5, small group problem solving and vocabulary work.
week 7	The Style and Themes of Newton films part two: The Leopard Man	All class Activity #6 pair work, Lecture and listening activities
week 8	Robert wises The Haunting Part One	All class activity #7. Listening and note taking
week 9	Robert Wises The Haunting Part two	While watching activities and information gap tasks
week 10	The "baggage we carry, The haunting as psychological Trauma explained	All Class activity #8, small group problem solving and vocabulary work.
week 11	Whatever Happened to Baby Jane or the horror that dwells within the family.	All Class activity #9 Listening and lecture, information gap activities
week 12	Alfred Hitchcock Psycho Part One	All Class activity #10, small group problem solving information gap activities
week 13	Alfred Hitchcock's Psycho Part two	All Class activity #11 Pair work and vocabulary activities.
week 14	Close analysis of Psycho: The Style and content.	All Class activity #12, small group problem solving and vocabulary work.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be homework assigned each week which may include short reading assignments, short writing assignments or research on line.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which are to be kept for the entire class in a neat and well organized notebook

【参考書】

Students should have a good dictionary in class

【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on attendance and active participation in class. There will be between 10 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of the grade, however the comprehensive review activity at the end of the semester is an opportunity for students to improve their grade.

【学生の意見等からの気づき】

The content of this class has been changed, but the method and goals remain the same.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 19 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is to enhance on the speaking and listening. Students are required to state their opinions on the units that are done during the classes. Adding to that, the students are required to give a speech (about 2 minutes) in turns.

【到達目標】

The goal of this class is to have the students state their opinions and to ask their classmates questions in English. Further more, to have the students be more active in speaking in English outside the class room.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書 Impact issues 2 に入る前に簡単なリスニングと会話をする。この教科書は様々なテーマを扱っているのでユニットごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対しその都度テーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにして行きたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。自分の意見をクラスの前で言える様にプレゼンテーションを授業内で多く行う。また、前期後期を各 1 回ずつ大きなプレゼンテーションをしてもらう。また夏季休暇には外国人にアンケートをとってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介並びに授業の紹介
2	Unit 1	First Impressions What are the first impressions of your classmates.
3	Unit 1	What kind of opinions do you have to people who are different from you?
4	Unit 1&3	Group discussion What do you think about the local language?
5	Unit 3	Talk about whether the local language is necessary when people work in a different country.
6	Unit 3&5	Continuation of Unit 3. Unit 5. What do you think about marriage
7	Unit 5	What are the merits and demerits of being single or being married. Group discussion
8	Unit 5&6	Continuation of Unit 5. What is a friend to you?
9	Unit 6	What would you do for a friend? Group discussion
10	Unit 6&7 Preparing for the presentation	Continuation of Unit 6. Prepare for the presentation
11	Unit 7 Preparation for the presentation	What do you think about bullying? prepare for the presentation
12	Unit 7 Preparing for the presentation	What can you do to help your classmate who is being bullied. Prepare for the presentation.
13	Presentation	Presentation of each group
14	Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備としては教科書を予習をし各ユニットのテーマに沿って自分の意見をまとめ口頭で述べられようにする。発表に準備をしっかりとする。夏期の宿題として外国人にアンケートをとってもらう。

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2

Pearson/Longman

Richard R Ray

Joseph Shaules

Junko Yamanaka

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験並びに授業参加度、課題に対する発表、出席など
試験 70 % その他 30 %（平常点、宿題、発表）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

よく教科書を読み自分の意見を英語でまとめられるようにする。

【Outline and objectives】

This class is to enhance on the speaking and listening. Students are required to state their opinions on the units that are done during the classes. Adding to that, the students are required to give a speech (about 2 minutes) in turns.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 19 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様英語を通して自分の意見を言えるようにする。またクラスメイトの意見にも英語で反応出来るようにし英語をただの言語としてとらえるのではなく道具として使えるようにして行く。

【到達目標】

教科書の題材のテーマを通してクラスメイト同士でコミュニケーションをはかりながら自分の意見を主張し反論出来るように授業を進めて行く。基本の reading, writing, speaking, listening を通して英語モードにして行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Impact Issues 2 を教科書として使用する。この教科書が様々なテーマが各ユニットで設けられそれにそり自分の意見、ならびにクラスメイトの意見を聞きながら対応をして行く。個人の発表ならびにグループのプレゼンテーションも多く取り入れる。英語の詩を読み自分自身で英語のを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presentation	夏季課題の発表
2	Reading a poem	Read "What Do I Remember of the Evacuation" and understand the poem
3	Reading a poem	Analyze and think of the symbols in the poem. Start writing your own poem.
4	Unit 10	Why go to school? What is your purpose of going to the university?
5	Unit 10	Continuation from the previous class. Group discussion.
6	Reciting one's own poem	Reciting your own poem
7	Unit 12	What do you think of global warming?
8	Unit 12	How can we stop global warming. Group discussion.
9	Unit 17	What do you think of refugees? Need we help them?
10	Unit 17	What is the merit in helping the refugees?
11	Preparing for the presentation	Prepare for the presentation
12	Unit 20	What do you think about capital punishment?
13	Preparing for the presentation	Prepare for the presentation
14	Unit 20	Are you for or against capital punishment?
15	Preparing for the presentation	Prepare for the presentation
16	Presentation	Presentation by each group
17	Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読み内容を理解しておく事。宿題に出された課題をこなす。

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2

Longman Pearson 出版

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 % その他 30% (平常点、宿題、発表)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The students will further develop their abilities to effectively express their opinions in English and be able to give presentations and speeches.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 20 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Time expressions. Comparative adjectives
11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough
13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more songs.

【学生が準備すべき機器他】

Bring an English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法 1 年：英語 20 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, must, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect or past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases
13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

【参考書】

Use the CD Rom in the textbook and the English File app. Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more chances to listen to the CD.

【学生が準備すべき機器他】

Please bring a good English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

LANe100LA

English 2 I2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 I2016 年度以前入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 21 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

【到達目標】
誤字脱字、ケアレスミスなくしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第 1 課 第 1 課	この教科書の使い方 第 1 課 In-Flight Announcements
4	第 1 課	第 1 課続き
5	第 2 課	At Immigration and Customs
6	第 2 課～ 第 3 課	第 2 課続き
7	第 3 課	第 1 課小テスト
8	第 3 課～ 第 4 課	Getting to a Hotel 第 3 課続き
9	第 4 課	第 2 課小テスト Chacking into a Hotel
10	第 4 課～ 第 5 課	第 3 課小テスト 第 4 課続き
11	第 5 課	Checking in without a Reservation
12	第 5 課～ 第 6 課	第 4 課小テスト 第 5 課続き
13	第 6 課	At a Restaurant
14	授業時試験	第 5 課小テスト 授業で学んだことを試験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
単語帳の作成、書き取り練習に毎日 1 時間充ててほしい。

【テキスト（教科書）】
実用観光英語 -改訂新版- 島田 他著 2019 年 成美堂 1900 円

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。正当な理由なく 4 回連続欠席した者、学期半ばで 4 回以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

【学生の意見等からの気づき】
英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

【Outline and objectives】
The primary objective of this class is the development of English listening skills.

LANe100LA

English 2 II2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 II2016 年度以前入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 21 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

【到達目標】
誤字脱字、ケアレスミス、発音の間違いをなくしていく。
春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	テスト返却	秋学期の授業の進め方など
2	第 7 課	Taking the Subway
3	第 7 課	続き
4	第 8 課	At a Fast-Food Restaurant
5	第 8 課～第 9 課	7 課小テスト
6	第 9 課	8 課続き
7	第 9 課～ 第 10 課	Hotel Service 第 8 課小テスト
8	第 10 課	Booking a Tour
9	第 10 課～11 課	第 9 課小テスト
10	第 11 課	Health Care
11	第 11 課～第 12 課	第 10 課小テスト
12	第 12 課	Shopping
13	予備日	第 11 課小テスト
14	授業時試験	復習・発表など 授業で学んだことを試験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
単語帳の作成、書き取り練習に毎日 1 時間充ててほしい。

【テキスト（教科書）】
VOA ラーニングイングリッシュで世界を読む 倉本 他 2018 年 三修社 1700 円

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。正当な理由なく 4 回連続欠席した者、学期半ばで 4 回以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

【学生の意見等からの気づき】
英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

【Outline and objectives】
The primary objective of this class is the development of English listening skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 22 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の様々な状況に対応できるライティング力とスピーキング力を身につける。

【到達目標】

平易な英語で自分の意見を正確に書き、それを効果的に伝えることを目標とする。辞書の使い方や基本文法を確認し、パラグラフの展開を理解して論理的構成を持った文章作成を目指す。また、聴き取った内容について、自分の意見を口頭で伝える練習も繰り返し行い、リスニング力、スピーキング力の向上も図る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを中心に進める。2 週間に一度英作文の課題を提出。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、さまざまな学習ツール（音声録音、グループワーク機能、音声&文字チャットなど）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	プレテスト・Unit 1: Let's Write on a Computer
第 2 回	Unit 2: Paragraph Structure(1)	Vocabulary, Exercise
第 3 回	Unit 2: Paragraph Structure(2)	Activity, Assignment
第 4 回	Unit 3: Narrative Paragraph(1)	Vocabulary, Exercise
第 5 回	Unit 3: Narrative Paragraph(2)	Activity, Assignment
第 6 回	Unit 4: Descriptive Paragraph(1)	Vocabulary, Exercise
第 7 回	Unit 4: Descriptive Paragraph(2)	Activity, Assignment
第 8 回	Unit 5: Reasoning(1)	Vocabulary, Exercise
第 9 回	Unit 5: Reasoning(2)	Activity, Assignment
第 10 回	Unit 6: Process(1)	Vocabulary, Exercise
第 11 回	Unit 6: Process(2)	Activity, Assignment
第 12 回	Unit7: Classification(1)	Vocabulary, Exercise
第 13 回	Unit7: Classification(2)	Activity, Assignment
第 14 回	プレゼンテーション	口頭発表&ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習と提出課題を行うことによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。

・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Working Up to Paragraph Writing (Asahi Press, 2011)

【参考書】

[i]Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition [/i](Cambridge U. P., 2010)

[i]Practical English Usage [/i](Oxford U. P., 2005)

[i]Longman Dictionary of Contemporary English Online[/i]

[i]The Oxford Learner's Dictionaries[/i]

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 60 % + 発表 20 % + 平常点 20 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

This course is designed to improve students' writing skills through understanding paragraph writing process, practicing different rhetorical mode, and reviewing grammar and sentence patterns. It also expects students to acquire abilities to understand others and express themselves effectively in English.

・ Students will learn to write a logically organized paragraph for each rhetorical pattern.

・ Students will develop greater grammatical accuracy in their writing.

・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics orally and in written form.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 22 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の様々な状況に対応できるライティング力とスピーキング力を身につける。

【到達目標】

平易な英語で自分の意見を正確に書き、それを効果的に伝えることを目標とする。辞書の使い方や基本文法を確認し、パラグラフの展開を理解して論理的構成を持った文章作成を目指す。今学期は、与えられたトピックに対して一定の時間内で構成パターンやアウトラインを考えながら書く練習や、複数のパラグラフから成る短いエッセイライティングの練習も行う。プレゼンテーションやスピーチの質疑応答などを通して伝える力と聴きとる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストを中心に進める。2 週間に一度英作文の課題を提出。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、さまざまな学習ツール（音声録音、グループワーク機能、音声＆文字チャットなど）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 8: Comparison(1)	Vocabulary, Exercise
第 3 回	Unit 8: Comparison(2)	Activity, Assignment
第 4 回	Unit 9: Convincing(1)	Vocabulary, Exercise
第 5 回	Unit 9: Convincing(2)	Activity, Assignment
第 6 回	Unit10: Cause and Effect(1)	Vocabulary, Exercise
第 7 回	Unit10: Cause and Effect(2)	Activity, Assignment
第 8 回	Unit 12: From Paragraph to Essay(1)	Exercise
第 9 回	Unit 12: From Paragraph to Essay(2)	Assignment
第 10 回	Unit13: Opinion Essay(1)	Exercise
第 11 回	Unit13: Opinion Essay(2)	Assignment
第 12 回	Unit14: Writing for the TOEIC	Vocabulary, Exercise
第 13 回	Unit14: Writing for the TOEFL	Vocabulary, Assignment
第 14 回	プレゼンテーション	口頭発表&ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・テキストの予習と提出課題を行うことによって、自立的な学習習慣を身につけて欲しい。

・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Working Up to Paragraph Writing (Asahi Press, 2011)

【参考書】

[i]Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition [i](Cambridge U. P., 2010)

[i]Practical English Usage [i](Oxford U. P., 2005)

[i]Longman Dictionary of Contemporary English Online[i]

[i]The Oxford Learner's Dictionaries[i]

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

提出課題 60 % + 発表 20 % + 平常点 20 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline and objectives】

This course is designed to improve students' writing skills through understanding paragraph writing process, practicing different rhetorical mode, and reviewing grammar and sentence patterns. It also expects students to acquire abilities to understand others and express themselves effectively in English.

・Students will learn to write a logically organized paragraph and a short essay with multiple paragraphs.

・Students will develop greater grammatical accuracy in their writing.

・Students will learn to express their opinions on a variety of topics orally and in written form.

・Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

新宅 美樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 23 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN ニュースを用いて、基礎的な英語運用能力を身につけることを目標にします。
効率的な電子辞書の使用方法を指導する。

【到達目標】

高校までに学習した英語・基本的な文法を理解することができる。
電子辞書を使用し、多彩なテーマの英語資料を理解し、必要な知識・情報を把握することができるようになる。
英文法・語彙知識が自然に身につくような、わかり易い授業を行うので、英語の基礎を再確認したい学生さんの受講を期待する。
更に社会に出た後、役に立つような英語運用能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

学生さんの積極的な授業参加を前提に授業を進めていく。
予習をして授業に臨むこと。
同義語・反意語、イディオム、連語などを授業内に確認するので、必ず辞書を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価基準についての説明
2	Unit 1	Well Suited for Royalty ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
3	Unit 1	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
4	Unit 2	Never Transformer ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
5	Unit 2	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
6	Unit 3	Miracle Transformer ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
7	Unit 3	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
8	Unit 4	Lukewarm Welcome ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
9	Unit 4	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
10	Unit 5	Otherwordly Genius ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
11	Unit 5	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz

12 Unit 6

A different London Tube

① Warm up
② Words and Phrases to Study
③ Examples
④ Blanks to Fill in

13 Unit 6

① Judgments to Make
② Partial Composition
③ Practice Quiz

14 前期の復習
試験

Unit 1-Unit 6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習①わからない単語を調べる。
②英文の構造・文法事項を確認する。
③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。
注意：1 回目から授業を行うので、必ず教科書を購入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書：CNN:ビデオで見る世界のニュース (20)
著者：関西大学 CNN 英語研究会
出版社：朝日出版社
出版年：2019 年
価格：1900 円

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 12 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。
欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。
詳細についてはオリエンテーションで説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生全員が積極的に授業にできるようにする。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students develop their abilities to effectively express their opinions and knowledge.

LANe100LA	
English 2 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 II	2016 年度以前入学者
新宅 美樹	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 23 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN ニュースを用いて、基礎的なリスニング能力を身につけることを目標にします。
電子辞書の効率的な使用方法を指導する。

【到達目標】
高校までに学習した英語・基本的な文法の復習をする。
英文法・語彙知識が自然に身につくような、わかり易い授業を行うので、英語の基礎を再確認したい学生さんの受講を期待する。
更に社会に出た後、役に立つような英語運用能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
学生さんの積極的な授業参加を前提に授業を進めていく。
予習をして授業に臨むこと。
同義語・反意語、イディオム、連語などを授業内に確認するので、必ず辞書を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価基準についての説明
2	Unit 7	Where France Meets Arabia ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
3	Unit 7	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
4	Unit 8	Storing It and Sharing It ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
5	Unit 8	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
6	Unit 9	Dutch Ingenuity ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
7	Unit 9	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
8	Unit 10	Putin's Soft Spot ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
9	Unit 10	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
10	Unit 11	Neither One nor the Other ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
11	Unit 11	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz

12	Unit 12	Giant Smog Trap ① Warm up ② Words and Phrases to Study ③ Examples ④ Blanks to Fill in
13	Unit 12	① Judgments to Make ② Partial Composition ③ Practice Quiz
14	後期の復習 試験	Unit 7-Unit 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習①わからない単語を調べる。
②英文の構造・文法事項を確認する。
③授業中に発表（和訳）ができるように準備する。

【テキスト（教科書）】
教科書： CNN: ビデオで見る世界のニュース
著者：関西大学 CNN 英語研究会
出版社：朝日出版社
出版年： 2019 年
価格： 1900 円

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%・平常点 30%・小テスト 40%
詳細についてはオリエンテーションで説明する。
出席回数自体は、成績評価の対象にならないが、全授業回数の 12 回以上の出席を、単位取得のための必須条件とする。
欠席が 3 回を超える場合は、欠席の理由にかかわらず、単位を与えられない。

【学生の意見等からの気づき】
学生全員が積極的に授業にできるようにする。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to help students develop their abilities to effectively express their opinions and knowledge.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

マイケル マーフィー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
 法 1 年：英語 24 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

【到達目標】

Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge and experience, both orally and in writing. In addition, this course will also assist students in acquiring more effective listening skills so as enabling students to be more competent in interacting in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a greater emphasis on a variety of task based activities. The materials will be taken from the text as well as outside the text. There will also be occasional text related DVD showings with accompanying exercises, discussion, and reaction to the video.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation.	Introduction to the class, course guidelines and student expectations.
2	Personality types and qualities.	Describing personalities; expressing likes and dislikes.
3	Relationships: turn ons and turn offs	Agreeing and disagreeing. Writing a description of a best friend.
4	Jobs and job skills.	Describing jobs; discussing the positives and negative aspects of jobs.
5	Careers of the future.	Talking about possible careers. Writing about career advantages.
6	Unit Test 1	Units 1&2: Listening for details, reading comprehension.
7	Review of Unit test and introduction to Unit 3: Lend a hand	Making, accepting, declining requests.
8	Favors; formal and informal requests.	Listening and understanding indirect requests; requests with modals, if clauses and gerunds.
9	Borrowing and lending.	Interchange activity: Asking classmates to borrow, lend or refuse to lend something.
10	Unit 4: What happened?	Listening and reading about unusual news stories; notetaking
11	The media; top news stories on TV, radio and online.	Writing your own story; Groups: creating a news story.
12	Narrating a story; Describing events and experiences in the past.	Group presentations.
13	Units 3&4 test	Listening test plus grammar, vocabulary and reading.
14	Review of Semester 1	Units 3&4 test reviewed and feedback of Spring term.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be weekly assignments mainly from the text. Students are expected to come to class fully prepared, having completed the assigned homework and thus able to contribute to class activities.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards: Cambridge University Press 2017. ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Interchange Fifth Edition Online Self-Study.

【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is as follows:

Unit tests: 40%

Participation (including the timely completion of all homework assignments) 30%

Individual and small group presentations: 30%

*Attendance: Please note that in principle no more than three absences will be permitted in the term. Unless a valid reason is provided (i.e. emergency medical or family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

NA（新担当者のためなし）

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

マイケル マーフィー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法 1 年：英語 24 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

【到達目標】

Through textbook exercises, discussions and presentations, students will continue to develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience. There will be continued emphasis on listening and speaking as students gain greater fluency and communication skills in discussing various topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a strong emphasis on various task-based activities in pairs and groups. There will be periodic group presentations on topics from the text as well as discussion and reaction to Interchange DVD showings.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Fall term.	Course objectives/ student expectations.
2	Unit 5: Expanding your horizons	Living abroad; Exercises and discussion.
3	What's the custom?	Cultural differences; traveling abroad; learning about foreign customs.
4	Crossing cultures.	DVD: Culture shock Exercises and discussion.
5	Unit 6: That needs fixing.	Everyday problems; problems with electronics; listening for details.
6	Consumer complaints.	Describing problems, making complaints; explaining something that needs to be done.
7	Listening and reading	Units 5&6 test
8	Review of units 5 & 6 test. Introduction to Unit 7: The world we live in.	Reading and listening to environmental issues.
9	Current issues.	Listening, identifying and describing environmental problems. Exercises and practice.
10	Endangered animals and places.	DVD: Endangered islands. Exercises for material comprehension and reactions.
11	Environmental solutions	Group topic presentations on various issues.
12	The past and the future. Historical events.	Talking about historical events and people. Exercises and practice.
13	Famous people in Japanese history.	Biography presentations: Famous person
14	Review of Units 7& 10.	Units 7& 10 test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to come to class fully prepared, having completed all assigned homework from the previous class, and thus able to participate in current class discussion.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards Cambridge University press, 2017. ￥ 2750

【参考書】

Interchange Fifth Edition Self- study DVD ROM Level 3.

【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is based on:

Unit Tests: 40%

Participation: 30% (including *attendance and the timely completion of homework assignments both written and reading: 30%

Performance in individual and group presentations: 30%

*In principle no more than 3 absences are permitted throughout the term. Without a valid reason, (i.e. medical emergency, family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

NA（新担当者のためなし）

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 25 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a basic discussion course for first year university students.

There are four strands to the spring course:

Strand 1: Everyday speaking skills: reach basic communication level (quickly!)

Stand 2: Working with the textbook: learn discussion skills and practice

Strand 3: Research and writing good answers to discussion questions

Strand 4: Writing: Write a paragraph useful for the Eiken Level 2 (英検 2 級)

【到達目標】

1. Produce English effective speaking and writing
2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)
3. Develop learning skills (use of Internet for independent study, use of textbook website, planning own study schedule)
4. Develop skills for academic writing tasks
5. Develop student / social skills (See Grading #9 in this syllabus)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The first language of the course is English. I will always use English first, and in time students will always use English first. This includes practice, speaking tests, classroom language, and non-study related speaking with classmates. Japanese can only be used if necessary. (As in this syllabus)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction to the Course	Orientation to the course, rules, policies Basic English Skill 0 (BES 0) North American Greetings and Names Basic English Skill 1 (BES 1) Classroom Language
Lesson 2	Vacations I	BES 2 Classroom Group Language Distribute textbook Make groups Textbook: Overview of textbook, Unit 1 Vacations HW: Register for textbook website in class or for HW
Lesson 3	Vacations II	BES 3 Conversation Model and Practice Making Natural Sentences Textbook: Unit 1 Vacations Task 7 Vocabulary HW: 1. Complete Unit 2 online exercises 2. Write to support speaking skills
Lesson 4	Movies I	Unit 1 Practice Test -check in class BES 4 Yes / No Questions and Answer Forms Textbook: Unit 2 Movies

Lesson 5 Movies II

Lesson 6 Movies III

Lesson 7 Dating I

Lesson 8 Dating II

Lesson 9 Part-time Jobs I

Lesson 10 Part-time Jobs II

Lesson 11 Learning English I

Lesson 12 Testing and Evaluation

Lesson 13 Testing and Evaluation

Lesson 14 Course Wrap Up

Unit 1 Practice Test - check in class
BES 5 How to answer Yes/No questions effectively (Use extra-info)

Textbook: Unit2 Movies

Writing assignment intro (英検 2 級のような作文)

Prepare composition:

Outlines and short forms for outlines

HW: Write to support speaking skills Unit 2

Due: Unit 2 Write to support speaking skills

BES 6: WH Question and Answer Forms

Textbook: Unit 2 Movies

HW: Unit 3 Vocabulary

Unit 2 Practice Test - check in class
BES 7: How to Answer WH

Questions Effectively (Use extra-info)

Textbook: Unit 3 Dating

Writing Eiken Level 2 Composition continued - Outline to Paragraph

HW: Complete movie composition

Due: Movie Composition

BES 8: Follow-up Questions

Textbook: Unit 3 Dating

HW:

1. Unit 3 Write to support speaking skills

2. Unit 4 Vocabulary

Due: Unit 3 Write to support

speaking skills

Unit 3 Practice Test - check in class

BES 9: Rebound Questions

Textbook: Unit 4 Part-time Jobs

BES 10 Pausing + BES 11

Reactions

Textbook: Unit 4 Part-time Jobs

HW: Unit 4 Write to support

speaking skills

Due: Unit 4: Write to support

speaking skills

Unit 4 Live test - Collection and

check by me

BES 12: Starting a Conversation

BES 13 Ending a Conversation

Textbook: Unit 5 Learning English

HW: Prepare Unit 5 independently

for Paper Test

Unit 5 Live Paper test

Prepare for the speaking discussion

test.

Speaking Discussion Test

Grade Idea

Summer ideas

File check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework during the course:

1. Online exercises (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
2. Writing to support speaking activities (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
3. Preparation for role plays and presentations (once or twice per semester 1 hour with group members)
3. Eiken Level 2 type composition - 1 to 2 hours per semester

【テキスト（教科書）】

The textbook will be passed out in class.

【参考書】

A good English / Japanese Japanese / English Dictionary - Paper, Electronic or smartphone
Various applications required for Smartphones

【成績評価の方法と基準】

1. Print file (5%)
2. Homework completion checked by answering in class (5%)
3. Online HW Completion at the end of each unit (10%)
4. Task 7 Research and write short answers to discussion questions (10%)
5. Writing an Eiken composition (10%)
6. Unit Test (20%)
7. Discussion Test (25%)
8. Bonuses for superior performance on 1, 4, 5, 6, 7 (10%)
9. Goal 5: Adding value to the course with appropriate student skills (5%)

(asking questions during class, good attendance and punctuality, always being prepared for class with homework done and correct prints even if absent, helping classmates, being a group leader, if absent for test bring document)

【学生の意見等からの気づき】

I don't know what student comments are at this time. Many 2018 students had very, very limited speaking skills, so more practice has been introduced in the spring semester of 2019.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook will be distributed in the first or second class

Other standard equipment such as pens, pencils, dictionary (above)

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法 1 年：英語 25 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a basic discussion course for first year university students.

There are five strands to the fall course:

Strand 1: Basic discussion skills: reach basic communication level

Strand 2: Working with the textbook: learn discussion skills and practice

Strand 3: Research and writing: Write good answers to discussion questions

Strand 4: Writing: Write a composition useful for the Eiken Level Pre 1 (英検準 1 級)

Strand 5: Prepare and give a group presentation

【到達目標】

Similar to the spring semester

1. Produce English effective speaking and writing

2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)

3. Develop learning skills (use of Internet for independent study, use of textbook website, planning own study schedule)

4. Develop skills for academic writing tasks

5. Develop effective presentation skills

6. Develop student / social skills (See Grading #9 in this syllabus)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Similar to the spring semester

The first language of the course is English. I will always use English first, and in time students will always use English first. This includes practice, speaking tests, classroom language, and non-study related speaking with classmates. Japanese can only be used if necessary. (As in this syllabus)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	FallIntroduction	Orientation to the fall semester, any new rules or policies Basic Discussion Skill (BDS) 00 Classroom Q and A Textbook: Introduction: Unit 6 Hopes and Dreams Plan for independent study: A plan to write the Eiken Level Pre-1 (準 1 級) essay will be given to students. The plan includes 'how-to' prints, and a schedule of tasks to be completely and when to submit them.
Lesson 2	Hopes and Dreams	BDS 1 Introduction to Discussion (Review Print) BDS 2 Topics and Issues - General Textbook: Unit 6 Hopes and Dreams Test/Assignment Due Next Class: Unit 6 Write to support discussion skills
Lesson 3	Hopes and Dreams	Collect HW BDS 3 Starting a Discussions / Thinking about the Issues Textbook: Unit 6 Hopes and Dreams
Lesson 4	Family	Unit 6 Practice Test in Class BDS 4 Giving Your Opinion and Specific Issues Textbook: Unit 9 Family

Lesson 5	Family	BDS 5 Reasons Textbook: Unit 9 Family Test/Assignment Due next class: Unit 9 Write to support speaking skills	【学生の意見等からの気づき】 Students should be better prepared assuming the spring semester changes were effective.
Lesson 6	SocialNetworking	Collect HW Unit 9 Practice Test in Class BDS 6: Support Textbook: Unit 10 Social Networking	【学生が準備すべき機器他】 Same as spring semester.
Lesson7	SocialNetworking	Presentation Skills - Posture Textbook: Unit 10 Social Networking Test/Assignment Due next class: Unit 10 Write to support speaking skills Unit 10 Practice Test	
Lesson 8	Interests	Presentation Skills: Sandwich Presentation Presentation / PC / PowerPoint Skills Collect HW Check Unit 10 Practice test in class Textbook: Unit 11 Interests *Because of presentations, students will have to do more on the last units as homework or by themselves.	
Lesson 9	Interests	Presentation / PC / PowerPoint Skills Textbook: Unit 11 Interests Test/Assignment Due: Unit 11 Write to support speaking skills	
Lesson10	Spending Money	Collect HW Unit 11 Interests Live Test - Collection and check by me PowerPoint Presentations Unit 6 Textbook: Unit 12 Spending Money	
Lesson 11	Spending Money	Unit 11 Interests Live Test back Presentations Units 9, 10 Textbook: Unit 12 Spending Money Test/Assignment Due: Unit 12 Write to support speaking skills	
Lesson 12	Presentations Unit 11, 12	Collect HW Unit 12 Live test - Collection and check by me Units 11, 12 Presentations Prepare for discussion test	
Lesson 13	Discussion Test	Discussion Test	
Lesson 14	Wrap up	Further English learning ideas Grade idea File check	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before the fall semester: Students should review textbook units from the spring semester. Students should also learn MS Word and MS PowerPoint skills. There are many tutorials on YouTube
[URL]https://www.youtube.com/results?search_query=MS+word+tutorial[URL]

During the course: The amount of work is similar to the spring semester.

1. Online exercises (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
2. Writing to support speaking activities (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
3. Preparation for role plays and presentations (once or twice per semester 1 hour with group members)
4. Preparation for presentation several hours outside of class
4. Eiken Level Pre 1 type composition - 2-3 hours per semester

【テキスト（教科書）】

Same as spring

【参考書】

We may add more apps to smartphones

【成績評価の方法と基準】

1. Print file (5%)
2. Homework completion checked by answering in class (5%)
3. Online HW Completion (5%)
4. Writing to support speaking activities (10%)
5. Unit Test (20%)
6. Group PowerPoint Sandwich Presentation (15%)
7. Discussion Test (25%)
8. Bonuses for superior performance on 1, 3, 4, 5, 7 (10%)
9. Adding value to the course (5%)
(asking questions during class, good attendance and punctuality, always being prepared for class with homework done and correct prints even if absent, helping classmates, being a group leader)

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

アンドリュー・チェン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法 1 年：英語 26 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation practice. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis is on speaking and listening and oral communication.

【到達目標】

The goal of this course is reach a level of proficiency in English Oral Communication that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English speaking society and to be able to exchange opinions, ideas, and information on various academic and social topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students' confidence will be developed through practice via pair/group discussions and guided/free conversations. The course is not a lecture course and students are expected to participate actively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	1A	Who's who?
②	1B	Who knows you better?
③	1C	At the Moulin Rouge
④	1D	The Devil's Dictionary
⑤	2A	Right place, wrong time
⑥	2B	A moment in time
⑦	2C	Fifty years of pop music
⑧	2D	One October evening
⑨	3A	Where are you going?
⑩	3B	The pessimist's phrase book
⑪	3C	I'll always love you
⑫	3D	I was only dreaming
⑬	4A	From rags to riches
⑭	4B	Family conflicts

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are asked to prepare for lessons before class by doing the dictionary work for new vocabulary and the reading section of each lesson. Students should review each lesson by doing the grammar exercises for each lesson after class.

【テキスト（教科書）】

American English File 2 by Oxford University Press 2008

ISBN-13: 978-0194774321

Handouts and worksheets for review and for TV drama videos will be provided by the instructor

【参考書】

American English File 2 Workbook with Multi-Rom (optional)

【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 40%

Homework 20% Tests, Quizzes, and Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」

「先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」

「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」「大変だけど、やりがいのある授業でした」

「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」

【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007.

Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an A+ or an A.

Students are required to come to class and will not receive credit/unit for the course with more than 2 unexcused absences. 2 times late to class will be counted as 1 absence. 30 minutes after class start time is counted as an absence.

【Outline and objectives】

In Outlines and objectives the < return > space between 'use' and 'vocabulary' should be deleted. Also in Method(s) the < return > space between 'comprehension,' and 'taking' should be deleted.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

アンドリュー・チェン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年：英語 26 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce past grammar patterns learned and to introduce new grammar for English oral communication and conversation practice. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis is on speaking and listening and oral communication. Additionally, introductory presentation skills will be covered. Students will be given opportunities to present information orally before the class.

【到達目標】

The goal of this course is reach a level of proficiency in English communication that enables one to engage in day-to-day English conversation as one living in an English speaking society and to be able to exchange opinions, ideas, and information on various academic and social topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students' confidence will be developed through practice via pair/group discussions and guided/free conversations. The course is not a lecture course and students are expected to participate actively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	5A	Are you a party animal?
②	5B	What makes you feel good?
③	5C	How much can you learn in a month?
④	5D	The name of the game
⑤	6A	If something bad can happen, it will
⑥	6B	Never smile at a crocodile
⑦	6C	Decisions, decisions
⑧	6D	What should I do?
⑨	7A	Famous fears and phobias?
⑩	7B	Born to direct
⑪	7C	I used to be a rebel
⑫	7D	The mothers of invention
⑬	8A	I hate weekends!
⑭	8B	How old is your body?
⑮	8C	Waking up is hard to do
⑯	8D	"I'm Jim." "So am I."

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are asked to prepare for lessons before class by doing the dictionary work for new vocabulary and the reading section of each lesson. Students should review each lesson by doing the grammar exercises for each lesson after class.

【テキスト（教科書）】

American English File 2 by Oxford University Press 2008
ISBN-13: 978-0194774321

Handouts and worksheets for review and for TV drama videos will be provided by the instructor

【参考書】

American English File 2 Workbook with Multi-Rom (optional)

【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 40%

Homework 20% Tests, Quizzes, and Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」「先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」

「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」「大変だけど、やりがいのある授業でした」「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」

【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007. Students who speak Japanese in this English language course, despite many reminders to use English, do not stand a good chance to receive an A+ or an A. Students are required to come to class and will not receive credit/unit for the course with more than 2 unexcused absences. 2 times late to class equates to 1 absence. Coming to class 30 minutes after class start time is counted as 1 absence.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

スティーブン モリス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 27 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will have the opportunity to develop and expand their writing and oral communication skills through a variety of structured activities.

【到達目標】

The goal of this course is to provide students with the ability to express and formulate their ideas and opinions especially in the written form. Students will study basic paragraph structure with the ultimate goal of producing an essay with multiple paragraphs. Students will also have the opportunity to present their ideas orally. Students will be expected to show an understanding of structure, logic and grammatical correctness

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students will have extensive opportunities to develop and practice their communication and writing skills both in class and for homework through a variety of exercises and activities. Students will be expected to complete their home assignments as part of their preparation for their class work activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Introduction to Writing Concepts
2	Elements of Organization	Key Words and Ideas in Writing
3	The Writing Process	Analyzing the Preparation Steps to Write a Paragraph
4	Sentence Structure	Prewriting Activities Key Sentence Components
5	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
6	Introduction to Listing Order Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Clustering
7	Organizing a Listing Paragraph	Recognizing Key Paragraph Components: Topic and Supporting Sentences
8	Sentence Structure Practice	Construction of Simple and Compound Sentences Creating an Outline
9	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
10	Introduction to Instructional Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Listing
11	Organizing Instructional Paragraphs	Use of Topic Sentences and Transition Signals
12	Expanding an Outline	Creating an Outline from an Edited List
13	Term Writing Assignment	In Class Preparation
14	Submit Term Assignment	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Review and Preparation as directed

【テキスト（教科書）】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs
Author: Ann Hogue
Publisher: Pearson Longman 2014

【参考書】

Good Dictionary required

【成績評価の方法と基準】

Classwork & Homework 30%

Quizzes 35%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

【学生の意見等からの気づき】

Syllabus revised to include more basic writing skills

【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to change

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

スティーブン モリス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 27 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Using the techniques introduced in the first term students will have the opportunity to enhance and develop their overall communication skills through extensive practice both orally and in the written form.

【到達目標】

The goal of this course is to familiarize students with the process of writing clear and well-structured paragraphs. At the same time students will have the opportunity to combine their writing skills with their oral presentation skills. Attention will be focused on providing students with a solid foundation on which to build their writing and communication skills. There will be an increased emphasis on more in-depth writing and discussion in this part of the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Classwork activities and exercises will increasingly require students to initiate their own ideas and opinions. Students will be expected to produce more comprehensive and in-depth writing.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction and Review	Review activities will focus on covering key concepts covered in the first term
2	Sentence Structure Practice	Analyse Complex Sentences with Time Clauses Sequencing
3	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation and Drafting
4	Understanding the Concept of Space Order in Writing	Practice Prewriting for Descriptive Paragraphs Using Supporting Sentences with Specific Details
5	Creating a Detailed Outline	Use of Adjectives and Prepositions
6	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation and Drafting
7	Paragraphs that Persuade	Prewriting Using Reasons and Examples to Support Ideas
8	Paragraph Development	Paragraph Development with Transition Signals that Introduce Reasons and Examples
9	Practice Sentence Structure	Using Complex Sentences with Reason and Condition Clauses
10	Writing Activities Term Writing Assignment	Preparation and Drafting
11	Introduction to Presentation Techniques	Analyse Body Language, Voice, Gestures, Organization
12	Organising a Presentation	Analyse Three-Part Structure
13	Presentation Practice	Students deliver short presentations
14	Term Assignment	Term Assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review and Preparation as directed
Writing homework based on specific grammar points

【テキスト（教科書）】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs

Author: Ann Hogue

Publisher: Pearson Longman 2014

【参考書】

Good Dictionary required

【成績評価の方法と基準】

Classwork & Homework 35%

Quizzes 30%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

【学生の意見等からの気づき】

Introduced more comprehensive writing component and overview of presentation skills

【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to change

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

リチャード・バロース

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 28 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment.

【到達目標】

1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Elliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer. Each week students will prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10 minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned a variety of vocabulary exercises as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the previous lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation	Course Introduction
Weeks 2	Speaking & Listening	Billy Elliot 1 (The Ballet Class): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening	Billy Elliot 2 (The Private Lesson): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening	Billy Elliot 3 (Trouble at Home): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening	Billy Elliot 4 (The Audition): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 5	Speaking & Listening	Billy Elliot 5 (Leaving Home): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review, Evaluation
Week 6	Writing	
Week 7	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,

Week 12 Speaking & Listening Bend It Like Beckham 5 (The Final Match): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,

Week 13 Speaking & Listening Bend It Like Beckham 6 (Going to America): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review, Evaluation

Week 14 Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare vocabulary & review the previous lesson's material prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted

【テキスト（教科書）】

No set text is required. However, since students will be using photocopied handouts, they must bring an A4/B4 folder or binder to each lesson

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

30% - Classroom & Homework Assignments

40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

An in-class preview & review of the lesson will be included to reinforce points learned, time permitting.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a printer & PC in order to print reports

【Outline and objectives】

As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

リチャード・バロース

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 28 組

【Outline and objectives】

This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Introductory Class
Week 2	Writing	Format & Process
Week 3	Writing	Pre-Writing
Week 4	Writing	The Structure of a Paragraph
Week 5	Writing	The Development of a Paragraph
Week 6	Writing	Descriptive Paragraphs
Week 7	Writing	Process Paragraphs
Week 8	Writing	Opinion Paragraphs
Week 9	Writing	The Thesis Statement
Week 10	Writing	Problem/Solution Paragraphs
Week 11	Writing	The Structure of an Essay
Week 12	Writing	Introductions & Conclusions
Week 13	Writing	The Thesis Statement
Week 14	Writing	Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which must be printed on A4 paper. No more than 3 absences will be permitted.

【テキスト（教科書）】

Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.
Publisher: Macmillan Language House

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be given individual evaluation & guidance after submitting each report

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to print reports.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
法 1 年：英語 29 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	What makes a good paragraph	How to write a good paragraph (topic sentences, supporting sentences and concluding sentences)
第 3 回	Peer editing	A. Select a short article from http://www.voanews , highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. make groups for presentations selected from topic list provided by the instructor
第 4 回	differences/ commonalities	Paragraph writing practice. Any academic theme acceptable. Group work on presentations
第 5 回	inside looking out	C. TED Talk, "Your Body Language May Shape Who You Are" (21:02) Q & A D. Work on presentations
第 6 回	Outline	A. Outline due for one page essay. Essay due on week 11. B. In class work on essay.
第 7 回	discussion	A. Select a short article from http://www.japantoday.com , highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. work on presentations
第 8 回	Peer editing	A. Peer editing on typed paragraphs B. Group work on presentations
第 9 回	Short speeches	Short speeches on what you are most passionate about (no digital games, anime etc.)
第 10 回	TED Talk	B. Tony Robbins TED Talk, "Why We Do What We Do" (21:45) C. Q & A
第 11 回	presentations	Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class. One page essay due.
第 12 回	presentations	2~3 group presentations + Q & A
第 13 回	get ready	2~3 group presentations + Q & A
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

法 1 年：英語 29 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	Discuss what you did during your summer break.
第 2 回	Mistakes	How to avoid awkward expressions in writing and speaking https://blog.oxforddictionaries.com/2017/01/09/mistakes-learning-english/
第 3 回	Going global	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	writing	In class writing rough draft paragraph on globalization Typed paragraph due next week. Peer editing and discussion on globalization.
第 5 回	TED Talk	A. TED Talk, "The Habits of Happiness," Matthieu Ricard (20:54) B. Group work, Q & A C. Work on presentations
第 6 回	opinion	Outline due for one page essay. Essay due on week 11 In class work on essay selected from list provided by the instructor.
第 7 回	Group Discussion	A. Cultural taboos: discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.
第 8 回	Read and discuss	A. Select a short article from http://www.japantoday.com , highlight important points and discuss it in small groups. You must be prepared before class. B. work on presentations
第 9 回	Short speeches	A. Bring a small and meaningful item from home and give a short speech. B. Work on presentations.
第 10 回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第 11 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations. One page essay due.
第 12 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.

第 13 回 get ready

Group discussions selected from list provided by instructor. See <https://www.fluentu.com/blog/educator-english/esl-discussion-topics-for-adults/> active and fun conversation board game

第 14 回 conversation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class unless I say differently. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ウォルター カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法 1 年：英語 30 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

Common English that students can use everyday

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, video activities, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of syllabus general class rules	syllabus recount and rules
Week 2	Starting conversations	Greetings, name usage, personal titles
Week 3	Keeping the conversation going	use of questions and understanding answers
Weeks 4	Identifying objects	in the classroom and office
Weeks 5	Identifying objects quiz review	outside elements - public and family homes
Weeks 6	quiz on greetings and objects language and grammar exercises	greetings- hellos and goodbyes
week 7	Nationalities and geography in Asia Oral Presentation Preparation Discussions	Thailand, Japan, Korea, Vietnam Discussion of presentation themes
week 8	Nationalities and geography in North America Presentation - structure	Canada, Mexico, USA Structure- Introduction/Body/Conclusion
week 9	Nationalities and geography in Western Europe Presentation - physical elements	France, Germany, The UK, Italy, Switzerland body language, use of voice
week 10	Clothing styles Presentation - visual elements	formal clothing types visual aids
week 11	Clothing styles	informal clothing review
week 12	Oral Presentations on social themes	speeches on social trends
week 13	Oral Presentations on cultural themes	speeches on cultural differences
week 14	Oral Presentations	speeches on academic trends

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation preparation, homework

【テキスト（教科書）】

Interchange intro fifth Jack Richards
9781316620113

【参考書】

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%

Homework 33%

Oral presentation and Quizzes 34%

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, paper, writing material

【その他の重要事項】

Contact email

kadmarsensri@gmail.com

【Outline and objectives】

Students will learn English using the 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ウォルター カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法 1 年：英語 30 組

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing material, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Email contact
kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

Students will learn English using 4 skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Welcome back -Review	Review of first semester themes
Week 2	What are you doing?	activities, time
Week 3	time Family, Neighborhoods, Quiz	telling time relations ,places, functions of place,etc., Quiz -activities, time
Week 4	work commute Apartments and houses	rooms, appliances, and furniture
Week 5	places people live	types- suburbs/countryside/cities
Week 6	Oral presentation preparation- structure Script review I	main points introduction/body/conclusion
Week 7	Script review II Presentation - physical elements	support body language and voice
Week 8	Where people live I Presentation - slide work	apartments backgrounds
week 9	Where people live II Presentation- visuals I	houses fonts
week 10	Work habits Presentation - visuals II	images
week 11	Job types	outdoor, indoor
week 12	Oral Presentations on commuting	public transport, car, on foot
week 13	Oral Presentations on living places	houses, apartments, rooms
week 14	Oral Presentations on where our parents work	companies, hotels, restaurants, stores, government

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, oral preparation

【テキスト（教科書）】

Interchange Intro fifth Edition by Jack Richards
9781316620113

【参考書】

Handouts and text

【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%

Oral presentation and quiz 33%

Homework 34%

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

石原 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using paragraph writing. You will become aware of some social issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Before class you must work on some listening exercises, study the vocabulary, and do the online exercises independently. In class we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) and group work.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	The effects of advertising (Unit 1): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	The effects of advertising (Unit 1): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
4	Extreme sports (Unit 2): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
5	Extreme sports (Unit 2): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
6	Our aging population (Unit 3): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Our aging population (Unit 3): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
8	Robots in the home (Unit 4): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
9	Robots in the home (Unit 4): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
10	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
12	The online information database (Unit 6): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	The online information database (Unit 6): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
14	Final exam	Vocabulary, listening, comprehension, speaking, writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You must finish some reading/listening tasks and learn the vocabulary online before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Review your lesson thoroughly after class.

【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments, homework, and quizzes (30%)
- 3) Final exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught entirely or mostly in English. You are encouraged to participate actively, express your ideas clearly, and explain logically.

【その他の重要事項】

Course Rules and Expectations

- 1) Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.
- 2) If you have a good reason for your absence, you are responsible for informing me in person or by e-mail in a timely manner. When you miss class, it is your responsibility to find out what course material and homework you missed. If you are absent on a test day, you will not be allowed a make-up test.
- 3) Come to class on time. Two latenesses beyond 10 minutes equal one absence, except in extreme circumstances. If you are late, come to me after class for the record of your attendance.
- 4) You are expected to study course material before class and participate actively. Respect each other and others' learning opportunity. Work hard, make mistakes, and have fun!

【Outline and objectives】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

石原 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using multiple paragraphs. You will become aware of some issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Before class you must work on some listening exercises, study the vocabulary, and do the online exercises independently. In class we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) and group work.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, warm-up activities
2	Online advertising (Unit 7): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	Online advertising (Unit 7): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
4	Winning at any cost (Unit 8): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
5	Winning at any cost (Unit 8): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
6	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
8	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
9	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
10	Treatment of animals (Unit 11): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Treatment of animals (Unit 11): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
12	Who owns the news? (Unit 12): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	Who owns the news? (Unit 12): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
14	Final exam - 1	Review test on vocabulary, listening, comprehension, speaking, writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before coming to class, complete some reading/listening tasks and learn the vocabulary online. You must come to class ready to discuss the topic of the week. Review your lesson thoroughly after class.

【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments, assignments, and quizzes (40%).
- 3) Final exam (40%)

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught entirely/mostly in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【その他の重要事項】

Course Rules and Expectations

- 1) Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.
- 2) If you have a good reason for your absence, you are responsible for informing me in person or by e-mail. When you miss class, it is your responsibility to find out what course material and homework you missed. If you are absent on a test day, you will not be allowed a make-up test.
- 3) Come to class on time. Two latenesses beyond 10 minutes equal one absence, except in extreme circumstances. If you are late, come to me after class for the record of your attendance.
- 4) You are expected to study course material before class and participate actively. Respect each other and others' learning opportunity. Work hard, make mistakes, and have fun!

【Outline and objectives】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

English 2 I

LANe100LA

English 2 I

岩崎 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リスニング、スピーチ（プレゼンテーション）、ライティングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによつて、リスニング能力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを口頭で効果的に伝える方法を学ぶ。英語エッセイの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を学ぶ。

【到達目標】
文を暗唱することの重要性を理解する。
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようにする。
英語エッセイの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセイを作成できるようになる。
効果的なスピーチのやり方を習得する。
英文のパラグラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグラフを作成できるようになる。
辞書の使い方を学び、英文を作成するとき辞書を活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力向上のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させ、また、先を予測する能力を身に付ける。さらに、シャドーイングというリスニング学習法を実践する。教材は毎回作成する。
テキスト内のトピックについて、自分の意見を簡単な英語で表現する練習をする。
様々なトピックについて、短いパラグラフを作成する。
テキスト掲載のエッセイをモデルにして、様々な形式のエッセイを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	英語ニュースの聞き取りとシャドーイングを行う。
2	1. Conclusions/Reason	クラスの前で英語で自己紹介を行う。 意見サポート型（結論・理由）のエッセイの構造を理解する。
3	1. Cconclusions/Reason	自己紹介を行う。 意見サポート型（分析）のエッセイの和訳をする。
4	1. Cconclusions/Reason	アメリカ人肥満化のニュースを聞く。 自己紹介を行う。 意見サポート型（分析）のエッセイを書く。
5	2. Analysis	東日本大震災の被災地の現状を伝えるニュースを聞く。 自己紹介を行う。 意見サポート型（分析）のエッセイの構造を理解する。
6	2. Analysis	筋トレ老化防止貢献に関するニュースを聞く。 自己紹介を行う。 意見サポート型（分析）のエッセイを書く。
7	2. Analysis	イラクの問題を扱うニュースを聞く。
8	3. Theory/Proof	自己紹介を行う。 意見サポート型（理論・結論）のエッセイの構造を理解する。 健康問題を扱うニュースを聞く。 自己紹介を行う。 意見サポート型（理論・結論）のエッセイの構造を理解する。

9	3. Theory/Proof	健康問題を扱うニュースを聞く。 自己紹介を行う。 意見サポート型（理論・結論）のエッセイを和訳する。
10	3. Theory/Proof	女性の銃所有者増大の自己紹介を行う。 意見サポート型（理論・結論）のエッセイを書く。
11	4. Controversy	喫煙の問題を扱うニュースを聞く。 自己紹介を行う。 列挙比較型（論争）のエッセイの構造を理解する。
12	4. Controversy	。テロ事件のニュースを聞く。 自己紹介を行う。 列挙比較型（論争）のエッセイを和訳する。
13	4. Controversy	テロ事件のニュースを聞く。 自己紹介を行う。 列挙比較型（論争）のエッセイを書く。
14	5. Comparison/Contrast	アメリカの同性愛者の現状に関するニュースを聞く。 自己紹介を行う。 列挙比較型（比較）のエッセイの構造を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（春学期に一度）。
テキストの予習。
英文エッセイの作成。

【テキスト（教科書）】
石谷由美子他、『Skills for Better Writing—構造で書く英文エッセイ』（南雲堂）

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
授業参加 50 パーセント、レポート・スピーチ・試験 50 パーセントの比率で評価する。
一度休むごとに平常点から 2 点ずつ引いていく。
4 回以上欠席した場合単位取得の意思がないものとみなす。

【学生の意見等からの気づき】
リスニング教材をより興味深いものにする。
ライティングの比重を高くする。
英語で発言する機会を増やす。

【その他の重要事項】
この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。辞書を持参して下さい。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】
This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds dictionaries useful for writing good English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 II

2016 年度以前入学者

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニング、ライティング、スピーキングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。ライティングではパラグラフの構造を理解し、パラグラフライティングを実践する。スピーキングでは、効果的なスピーチの技術を学ぶ。最終的には、この授業で扱う様々な学習法を習得することによって、総合的な英語学習能力の獲得を目指す。

【到達目標】

外国語を学ぶとき、発音することの重要性を理解する。

英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。

英語らしい発音ができるようになる。

リスニング能力が向上する。

シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようになる。論理的なパラグラフの構造を理解し、効果的なパラグラフが作成できる。

エッセイ作成のための手順を実践できる。

辞書がなんであるかを理解する。

英文を作成する際辞書が活用できるようになる。

4パラグラフからなるエッセイを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力向上のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させ、また、先を予測する能力を身につける。さらに、シャドーイングというリスニング学習法を実践する。教材は毎回作成する。テキスト内のトピックについて、自分の意見を簡単な英語で表現する練習をする。様々なトピックについて、短いパラグラフを作成する。テキスト掲載のエッセイをモデルにして、様々な形式のエッセイを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comparison & Contrast 比較と対照	2 人の人や 2 つの物事の類似点、相違点をわかりやすく書けるようにする。
2	Comparison & Contrast 比較と対照	類似点や相違点を表す表現を覚える。
3	Cause & Effect 原因と結果	物事の原因と結果を理解して、書けるようにする。
4	Cause & Effect 原因と結果	原因、結果を表す語（句）を覚える。
5	Problems & Solutions 問題と解決策	問題を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるようにする。
6	Problems & Solutions 問題と解決策	問題と解決策を書く時には、この 2 つを連結する動詞（句）や前置詞の使い方を身につける。
7	Process 手続き・手順を説明する	指示・助言などを表す助動詞の使い方を身につける。 First や Second など順序を表すつなぎ言葉を覚える。
8	Your Opinion Agree 賛成意見を述べる	ある事象に対して、賛成する自分の意見をまとめて書けるようにする。
9	Your Opinion Agree 賛成意見を述べる	賛成意見を述べる時、どのくらいの程度で賛成かを入れる。 何について賛成か、なぜ賛成かを明確に表現する。

10	Your Opinion Disagree 反対意見を述べる	反対意見を述べる時、はっきりと反対であることを言う。 あまり強くなり過ぎないように、相手に失礼にならないようにする。 何について反対か、なぜ反対かを論理的に説明する。
11	Your Opinion Disagree 反対意見を述べる	ある事象に対して、反対する自分の意見をまとめて書けるようにする。
12	Data Analysis データ分析	集計結果をグラフや表を使用してわかりやすく書けるようにする。
13	Data Analysis データ分析	グラフや表で良く使われる動詞表現、名詞表現、比較表現を覚える。
14	Email Writing 英文 E メール・英文レター	基礎的な Eメールの形、表現を学び、英文 Eメールを書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（春学期に一度）。

テキストの予習。

パラグラフの作成。

【テキスト（教科書）】

仲谷都他著『Smart Writing-Active Approach to Paragraph Writing（はじめのパラグラフ・ライティング）』（成美堂）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 50 パーセント、レポート・スピーチ・試験 50 パーセントの比率で評価する。

一度休むごとに平常点から 2 点ずつ引いていく。

4 回以上欠席した場合単位取得の意思がないものとみなす。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材をより興味深いものにする。ライティングの比重を高くする。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。

特に、授業中にスマホを机の上に出すことは禁止します。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

Kregg Johnston

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English communication skills

【到達目標】

This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation of class requirements, tasks, goals.	Explanation of class requirements, tasks, goals.
Week 2	Unit 1 Describing the past & explaining personal information	Introducing yourself, Using used to for habitual actions
Week 3	Unit 1 Describing the past & explaining personal information	Asking about and explaining childhood experiences
Week 4	Unit 2 Transportation and Transportation problems	Talking about Transportation and its problems, Evaluating city services
Week 5	Unit 2 Transportation and Transportation problems	Asking for and giving information, Asking indirect questions
Week 6	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes	Quiz Units 1-2 Presentation #1 Describing positive and negative features, making comparisons, Asking about and stating wishes. Using "too", "enough", and "as...as"
Week 7	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes	
Week 8	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions	Talking about food. Stating likes and dislikes
Week 9	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions	Contrasting simple past with present perfect Using sequence adverbs to signal steps
Week 10	Unit 5 Going places	Quiz Units 3-4 Presentation #2 Describing vacation plans
Week 11	Unit 5 Going Places	Giving travel advice Explaining future plans Using modals for necessity & suggestion
Week 12	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies	Making requests Accepting and refusing
Week 13	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies	Complaining, apologizing, making excuses
Week 14	Unit 7 Environmental and world issues	Quiz units 5-6 Presentation #3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

【参考書】

Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Workbook

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ><https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion skills

【Outline and objectives】

In this course, students learn to develop their communicative competence in both speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English communication skills

【到達目標】

This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Unit 7 What's this for?	Describing technology and its uses Giving instructions
Week 2	Unit 7 What's this for?	Giving suggestions Using imperatives
Week 3	Unit 8 Let's celebrate	Describing holidays, festivals, and customs
Week 4	Unit 8 Let's celebrate	Using relative clauses of time. Giving advice and suggestions
Week 5	Evaluation	Quiz Units 7-8 Presentation #1
Week 6	Unit 9 Describing change	Contrasting time: past, present, future Describing possibilities
Week 7	Unit 9 Describing change	Using conditional sentences, Explaining future consequences
Week 8	Unit 10 Stating opinions w/ gerunds	Describing abilities and skills
Week 9	Unit 10 Stating opinions w/ gerunds	Describing personality traits Giving reasons for opinions
Week 10	Evaluation	Quiz Units 9-10 Presentation #2
Week 11	Unit 11 Places worth seeing	Talking about landmarks, monuments Describing countries
Week 12	Unit 11 Places worth seeing	Offering and discussing facts Using passive voice without "by" phrase
Week 13	Unit 12 Narrating past events	Using past continuous with simple past Talking about someone's past
Week 14	Unit 12 Narrating past events	Describing recent experiences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

【参考書】

Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Workbook

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ><https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation and attendance.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the course.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion skills

【Outline and objectives】

In this course, students learn to develop their communicative competence in both speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 I 2016 年度以前入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語のハ`ラク`ラフを書き、また、口頭で`それを発表する。ステップバイステップでこの目標に向かう。まずは一つのハ`ラク`ラフを作ることを目指し、最終的には複数のハ`ラク`ラフからなる短いエッセイ（小論文）を書けるようになる。授業の最初の段階では、題材にふさわしい英語表現と内容を選択して短い文章を書き、口頭で発表する。フ`レセ`ンテーション（口頭の発表）は原則として聴衆に顔を向けて話すものた`から、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音で`フ`レセ`ンテーションで`きるようになる。そのために、発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・ハ`ラク`ラフの形式で英文を書ける。
- ・その内容を口頭で発表できる。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリス`ムで`話せる。
- ・自分の意見を形成し筋道立てて述べ`ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- テキストの各章を進めながらパラグラフ形式で書くことの意味、メリットを理解する。授業の各回でグループワークと個人作業を織り交ぜる。補助資料を使ってライティング`/スピー`キング`の題材を提供する。それに基づいて実際にハ`ラク`ラフを作り、フ`レセ`ンテーションを行う。
- ・テキストを使い、ハ`ラク`ラフライティング`の基礎的なアイデアを学ぶ。
- ・ハ`ラク`ラフライティング`の実践。内容を構想し、最初の草稿を作成し、他の学生や講師のフィードバックを受けて改稿し、最終的に仕上げ`るまで`のフ`ロセスを実際に辿る。
- ・資料と練習素材を使って子音、母音の発音を一つ一つ練習する。英文を発音する際のアクセント、イントネーション、リズムを練習する。
- ・作成したハ`ラク`ラフをフ`レセ`ンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明、導入	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。英語に対する関心、苦手意識のアンケート
2	Chapter 1 (1) Introducing Yourself	Pre-writing processes -Task 1-7
3	Chapter 1 (2) Introducing Yourself	Writing processes -Introducing Yourself -Group work
4	Chapter 1 (3) Introducing Yourself	Short presentation -Group work Pre-writing processes -Task 1-7
5	Chapter 2 (1) Writing a Story by Yourself	Writing processes -Writing a Story by Yourself -Group work
6	Chapter 2 (3) Writing a Story by Yourself	Short presentation -Introducing Yourself -Group work -Feedback
7	Chapter 4 (1) Different Varieties of English	Pre-writing processes -Task 1-8
8	Chapter 4 (2) Different Varieties of English	Writing processes -Task 9-12 -Brainstorming -Writing a paragraph

9	Chapter 4 (3) Different Varieties of English	Writing processes -Rewriting a paragraph
10	Chapter 4 (4) Different Varieties of English	Writing processes -Finishing a paragraph Pre-writing processes -Task 1-4
11	Chapter 5 (1) Describing Interesting People and Places	Pre-writing processes -Task 5-9 (Ch.5) -Task 1-10 (Ch.6)
12	Chapter 6 (1) Expressing Your Feelings	Writing processes -Group work -Brainstorming -Writing a paragraph
13	Chapter 7 (1) Introducing Your Hometown	Pre-writing processes -Understanding what and how you write Writing processes -Group work -Rewriting a paragraph
14	Chapter 7 (2) Introducing Your Hometown	Writing processes -Group work -Finishing a paragraph

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。ハ`ラク`ラフの草稿作成を宿題として課された場合、提出か`義務つ`けられる。パラグラフの作成は改稿作業が必須であるから、授業中に受けたコメントを草稿に反映させる時間も必要になる。

【テキスト（教科書）】

熊本たま、大井恭子、上村妙子、Kim Marie Sano、松本佳穂子、『Writing Frontiers -英語で発想するライティング』、金星堂、2010 年、2000 円（税別）

【参考書】

綿貫陽、マーク・ヒ`ーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォート`英語類語活用辞典』、オックスフォート`大学出版局、2008 年、4700 円（税別）

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題への取り組み、グループワークでの貢献、授業内課題の出来、等）30%、提出課題 40%、口頭発表 30%
欠席が`4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィード`ハ`ックを行う。

【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation of the same material with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph, and finally a short essay (consisting of several paragraphs). You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で短いエッセーを書き、また、口頭でそれを発表する。プレゼンテーション（口頭の発表）は原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションできるようにする。そのために、発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・選択した題材について、複数のパラグラフからなる短いエッセーを書ける。
- ・その内容を口頭で発表できる。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリズムで話せる。
- ・書いたエッセーを他の学生に向けて、正しい発音で発表できる。
- ・自分の意見を形成し筋道立てて述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキストの各章を進めながらパラグラフ形式で書くことの意味、メリットを理解する。授業の各回でグループワークと個人作業を織り交ぜる。補助資料を使ってライティング/スピーキングの題材を提供する。それに基づいて実際にエッセーを作り、プレゼンテーションを行う。
- ・パラグラフ作成で身につけた技術を応用・拡張し、エッセー作成に必要なアイデアを学ぶ。
- ・短いエッセーを作る。内容を構想し、最初の草稿を作成し、他の学生や講師のフィードバックを受けて改稿し、最終的に仕上げられるまでのプロセスを実際に辿る。
- ・資料と練習素材を使って子音、母音の発音を一つ一つ練習する。英文を発音する際のアクセント、イントネーション、リズムを練習する。
- ・作成したエッセーをプレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。春学期のフィードバック。英語を実用する具体的目標の設定、克服したい英語の苦手部分の意識化。
2	Chapter 8 (1) Studying More about the World 分類	Pre-writing process -Task 1-7
3	Chapter 8 (2) Studying More about the World 分類 Chapter 9 (1) Why Are They So Popular? 理由	Writing process -Task 8-11 (Ch.8) -Group work Pre-writing process -Task 1-7 (Ch.9)
4	Chapter 9 (2) Why Are They So Popular? 理由 Chapter 10 (1) Why Have Fast Food Shops Become Popular in Japan? 原因と結果	Writing process -Task 8-10 (Ch.9) -Group work Pre-writing process -Task 1-7 (Ch.10)

5	Chapter 10 (2) Why Have Fast Food Shops Become Popular in Japan? 原因と結果 Chapter 7 (1) Introducing Your Hometown プロセス・ライティングとは	Writing process -Task 8-12 (Ch.10) -Group work Pre-writing process -Task 1-3 (Ch.7)
6	Chapter 7 (2) Introducing Your Hometown プロセス・ライティングとは	Writing process -Task 4-11 (Ch.11) -Group work
7	Writing a short essay 1	Writing process -Understanding what and how you write -Group work -Deciding a theme through the QFT method -Brainstorming
8	Writing a short essay 2 Preparation for presentation 1	Writing process -Group work -Idea Generation Presentation -Speaking Practice
9	Writing a short essay 3 Preparation for presentation 2	Writing process -Group work -Organization Presentation -Speaking Practice
10	Writing a short essay 4 Preparation for presentation 3	Writing process -Group work -Outlining Presentation -Speaking Practice -Mini presentation
11	Writing a short essay 5 Preparation for presentation 4	Writing process -Group work -Submitting an outline -First Draft Presentation -Speaking Practice
12	Writing a short essay 6 Preparation for presentation 5	Writing process -Group work -First Draft -Pia Review -Rewriting Presentation -Speaking Practice
13	Writing a short essay 7 Preparation for presentation 6	Writing process -Group work -Pia Review -Rewriting Presentation -Speaking Practice
14	口頭発表、エッセーの提出	Writing process -Submission Presentation -Group work

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。エッセーの草稿作成を宿題として課された場合、提出が義務づけられる。パラグラフ作成の時と同様に、エッセーの作成も改稿作業が必須であるから、授業中に受けたコメントを草稿に反映させる時間にも必要になる。

【テキスト（教科書）】

熊本たま、大井恭子、上村妙子、Kim Marie Sano、松本佳穂子、『Writing Frontiers ー英語で発想するライティング』、金星堂、2010 年、2000 円（税別）

【参考書】

綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008 年、4700 円（税別）

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題への取り組み、グループワークでの貢献、授業内課題の出来、等）30%、提出課題 35% 口頭発表 35%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ頻繁に学生からのフィードバックを行う。

【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion on a certain topic in the form of paragraphs. And you make a presentation of the same material with correct English pronunciation and accent. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You write down a short essay and make a presentation.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

榎原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活・現代社会での興味あるトピックについて、自分の考えを書いたり、口頭で発表する英語運用能力を養う。ライティングに関しては、パラグラフライティングの構成を学び、トピックごとに英文で書く力の習得を目指す。さらに、プレゼンテーションによって、実際に口頭で発表する場を設け、スピーキングの強化も図る。そのためにも、正確な発音は不可欠な要素となるので、発音矯正指導は平行して実施。リスニングも当然この段階で組み込まれる。この授業を通して、読む、書く、聞く、話すの4技能を習得する。

【到達目標】

パラグラフライティング・エッセイライティングを習得。プレゼンテーションの習得、人前で話すことに慣れ、英語で考える習慣をつけるために毎回の授業で **one-minute-speech** を実行。テキストの DVD を字幕なしで理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の始めに、**one-minute speech** を実施。学生は自分の身近な話題について自由に話す。文法的なことなどをあまり気にせず、とにかく英語で話すことに集中する。教科書に関しては CD、DVD を駆使し、重要な **vocabulary, phrases** を音から学び意味と音、そして文字を結合させ脳にインプットして定着を図る。さらに、ペアワークで、実際に発音することでアウトプットの機会を増やす。また、ディクテーションにより正確な発音の定着度を確認し、スペリングと発音との関連性を認識させていく。

paragraph writing に関しては、課題についての英文をパラグラフにまとめて提出する。その翌週に添削されて返却される。**presentation** は自分の書いたパラグラフを正確な発音で口頭で発表する。この際、原稿は見ないで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Japan: Unusual rental universe	In each class hour, after dealing with text book, pronunciation practice will be given using DVD (Reading aloud involved)
2	to follow the 1st session.	summary and conversation action
3	paragraph writing Is coffee the secret to a longer life?	reading the text through slash reading method. CD and DVD will be used efficiently.
4	to follow the 3rd session.	summary and conversation in action
5	paragraph writing Lost in translation	What's wrong with the English translations?
6	to follow the 5th session.	summary and conversation in action
7	Lack of sleep costs Americans billions of dollars each year	What will happen to your body when you don't get enough sleep?
8	to follow the 7th session.	public speech based on the paragraph
9	presentation Your smartphone is making your workplace slacker	What might happen to you if you use your smartphone while working?
10	to follow the 9th session.	summary and conversation in action
11	Do happy people live long?	Do you believe that happy people live long?
12	to follow 11th session.	summary and conversation in action
13	final test	review the previous units
14	the final presentation	the topic to be given

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

paragraph writing の課題を宿題とする。学生はレポート用紙に正式な様式に従って英文を書き提出。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 Stephen Timson
SEIBIDO 2,400

【参考書】

not use

【成績評価の方法と基準】

試験点 (60%)、平常点 (40%) 平常点には、presentation/paragraph writing も含まれる。

各学期の欠席回数が4回以上の場合、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

とにかく英語でしゃべる機会の多いクラス。

【学生が準備すべき機器他】

USB,PC など発表に使用することを推奨。

【その他の重要事項】

演習中心の授業。欠席・遅刻に注意。

【Outline and objectives】

This class focuses on enhancing speaking and writing skills mainly. As for writing, they're supposed to be able to write a paragraph and then an essay eventually. Along with the writing activities, they make a speech based on their writing. Furthermore, through the text book, they'll challenge to understand the DVD without the subtitles (in doing so, reading technique and pronunciation checks involved)

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

榎原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の paragraph writing から essay writing に展開する。さらなるスピーキング能力を向上させるためにも、one-minute speech を充実させる。話す、聞く、書く、読むの 4 技能の習得。

【到達目標】

パラグラフライティング、さらに、エッセイライティングの習得。

プレゼンテーションのレベルアップ。one-minute speech をさらに充実させる。

DVD を字幕なしに理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回の音読／ slash reading から本文の理解をする。

CD/DVD を使用して音声から理解を薦める。

ライティング課題を各トピックについて提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The power of music	Why does music therapy work?
2	to complete the unit	vacabulary/ comprehension check
3	How microfibers in clothes are polluting our ocean?	Why does synthetic clothing contaminate marine life?
	write an essay	
4.	to complete the unit	summary and comprehension quiz
5.	The joy of cleaning	the life-changing magic of tidying up
6.	to complete the unit	summary and comprehension quiz
	write an essay	
7.	High schooler's "Sit With Us" app tackles bullying	How to stop bullying.
8.	to complete the unit	summary and comprehension check
	presentation	
9.	Japan battles population decline with robots	What is Japan doing to find a solution to this problem?
10.	to complete the unit	summary and comprehension check
11.	Please come in	Brick and mortar stores look for new ways to lure customers.
		summary and comprehension check
12.	to complete the unit	summary and comprehension check
13.	final test	review the previous units
14.	final presentation	wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

エッセイライティングの課題を自宅で仕上げて提出。

各ユニットの音声の確認とスピーチの準備

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 Stephen Timson SEIBIDO 2019 2,400

【参考書】

no

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)・プレゼンテーション・ライティング 平常点 (40%)

各学期の欠席回数が4回以上の場合は、原則として単位習得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英語でとにかくしゃべることに慣れる。

【学生が準備すべき機器他】

If you present your speech, you can use USB, CP and so on.

【Outline and objectives】

The students are supposed to write an essay after knowing how to write a paragraph sufficiently. Making a speech will also be strengthened through activating one minute speech. They are encouraged to speak about what's happened in their daily lives as specifically as possible with a word they've already known.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

大槻 美春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の経験と社会のトピックについての意見と考えを、明確で簡潔な英語で表現することを目的とする。
BBC 教材の DVD を聞き、ニュース内容を英語表現と共に理解し、知識を高めるために自分で取材する。
また、様々なテーマで自分の経験、意見、取材した内容を発表する。グループワークでスピーチなどの練習をする。

【到達目標】

到達目標は、英作文の基本プロセス、パラグラフの概念を理解し、パラグラフを意識した構成の英文を書けるようにすること。
学期末には到達目標に達した英文レポートの提出がある。秋学期には複数のパラグラフからなるレポートの提出が求められるので、そのために必要な知識も身に着ける。
毎回のスピーチとグループワークでの英会話練習が、書く英語の表現につながる内容となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

予習がなされていることを前提に BBC ドキュメンタリーの映像を見る。教材内容に関する質疑応答、聞き取り、表現演習などをする。
毎回のスピーチ会話練習がある。教材の予習、発表の事前準備は必須であり、学生の積極参加を前提とした授業である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	シラバスの内容を具体的に説明。次回からの英語発表の例を示す。英語パラグラフについてのハンドアウト配布、説明。
2	Amber	琥珀の神話
3	Material World	話題の掘り起こし 服地の世界 取材の方法
4	The Maori	マオリ人 情報の交換と予備知識の共有
5	Manatees	マナatee 情報の整理
6	Followers of Fashion	同じ服を着る人たち 語句の辞書の意味確認
7	Food	食べ物 英語の文法知識整理
8	Water	水 疑問文と対話
9	The Marsh Arabs	マーシュ・アラブ人 対話を作り、ペア練習
10	Stepping Out	自分をよく見せるとは トピックを変えて対話
11	Medicine	薬 内容把握
12	The Saami	サーミ 選択の理由
13	Penguin Feather Fabric	地球温暖化対策 表現の類似と相違
14	Comuter Mouse Trap	人物認証マウス 文章構造の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予定箇所のテキストを音読し、単語の意味を調べ、練習問題を事前に解く。スピーチ、発表の原稿を用意する。
毎回のスピーチには事前の用意が必要です。この予習にかかる時間が英文を書く力につながると思ってください。また、DVD の英語内容理解にはテキストの事前学習が必要です。
復習では、授業中にチェックした事前学習のミスを再確認し、重要な英語表現は覚えておく。

【テキスト（教科書）】

BBC Short Clips on DVD

『やさしい英語で学ぶ BBC ドキュメンタリー』

成美堂

ISBN4-7979-1038-9

【参考書】

文法復習のために

”Essential Grammar in Use” by Raymond Murphy, Cambridge University Press.

トピックの取材のために

BBC Learning English <http://www.bbc.uk/learningenglish/>

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40 %） 授業時発表を含む平常点（50 %） レポート（10 %）
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分を超える遅刻は欠席扱いとなる。

【学生の意見等からの気づき】

「毎回の授業発表が英文を書く自信となった」という意見が寄せられています。英語レポートの完成度が高くなるようスピーチ原稿についてアドバイスしますが、失敗を恐れず積極的な授業参加を期待し、英語発表を大いに評価します。

【Outline and objectives】

Learning Goals

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively give presentations and speeches. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

大槻 美春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の経験と社会のトピックについての意見と考えを、明確で簡潔な英語で表現することを目的とする。

BBC 教材の DVD を聞き、内容を英語表現と共に理解し、知識を高めるために自分で取材する。

また、様々なテーマで自分の経験、意見、取材した内容を発表する。グループワークでスピーチなどの練習をする。

【到達目標】

到達目標は作文の基本的プロセス、パラグラフの概念などを理解し、パラグラフを意識した構成の英文を書けるようにすること。複数のパラグラフからなる英作文を書くためにも、必要な知識を身に着ける。

毎回のスピーチとグループワークでの英会話練習は、書く英語の表現につながる。英語を話すことで、英語を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

予習がなされていることを前提に BBC ドキュメンタリーの映像を見る。教材内容に関する質疑応答、聞き取り、表現演習などをする。

毎回、スピーチ、会話練習がある。教材の予習、発表の事前準備は必須であり、学生の積極的な参加を前提とした授業である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	シラバスの内容を具体的に説明。次回からの英語発表の例を示す。英語パラグラフについてのハンドアウト確認、説明。
2	心に残る人	文から文章へ 聞こえるように、見えるように、理解できるように。
3	毎日の大学生活	形式の 3 原則
4	ホームタウン	読み、聞き、メモする
5	最近読んだ本	言いたいことをひとつに絞る
6	大学で学びたいこと	段落と形式
7	行ってみたい国	introduction, body, conclusion とは
8	美術館、博物館紹介	Topic sentence とは
9	理想の家	Supporting sentence とは
10	日本の文化紹介	起承転結との違い
11	最近のニュースから	より自然な表現を意識する
12	環境問題：水	同意語、言い換えのチェック
13	食について	ノートを見ずに自分の言葉で
14	別れの経験	段落のつなぎ、文章構造を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予定箇所のテキストを音読し、単語の意味を調べ、練習問題を事前に解く。スピーチ、発表の原稿を用意する。

毎回のスピーチには事前の用意が必要です。この予習にかかる時間が英文を書く力につながると思ってください。また、DVD の英語理解にはテキストの事前学習が必要です。

復習では、授業で学習したテキストの英語と知識を使えるようにする。

【テキスト（教科書）】

BBC Short Clips on DVD

『やさしい英語で学ぶ BBC ドキュメンタリー』

成美堂

ISBN4-7979-1038-9

ハンドアウト教材

【参考書】

文法復習のために

”Essential Grammar in Use” by Raymond Murphy, Cambridge University Press.

トピック取材のために

BBC Learning English <http://www.bbc.uk/learningenglish/>

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40 %） 授業時発表を含む平常点（50 %） レポート（10 %）

欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分を超える遅刻は欠席扱いとなる。

【学生の意見等からの気づき】

「毎回の授業発表が英文を書く自信となった」という意見が寄せられています。積極的な授業発表を大いに評価します。

【Outline and objectives】

Learning Goals

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively give presentations and speeches. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 I

2016 年度以前入学者

Kregg Johnston

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English communication skills

【到達目標】

This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation of class requirements, tasks, goals.	Explanation of class requirements, tasks, goals.
Week 2	Unit 1 Describing the past & explaining personal information	Introducing yourself, Using used to for habitual actions
Week 3	Unit 1 Describing the past & explaining personal information	Asking about and explaining childhood experiences
Week 4	Unit 2 Transportation and Transportation problems	Talking about Transportation and its problems, Evaluating city services
Week 5	Unit 2 Transportation and Transportation problems	Asking for and giving information, Asking indirect questions
Week 6	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes	Quiz Units 1-2 Presentation #1 Describing positive and negative features, making comparisons, Asking about and stating wishes. Using "too", "enough", and "as...as"
Week 7	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes	
Week 8	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions	Talking about food. Stating likes and dislikes
Week 9	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions	Contrasting simple past with present perfect Using sequence adverbs to signal steps
Week 10	Unit 5 Going places	Quiz Units 3-4 Presentation #2 Describing vacation plans
Week 11	Unit 5 Going Places	Giving travel advice Explaining future plans Using modals for necessity & suggestion
Week 12	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies	Making requests Accepting and refusing
Week 13	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies	Complaining, apologizing, making excuses
Week 14	Unit 7 Environmental and world issues	Quiz units 5-6 Presentation #3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

【参考書】

Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Workbook

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ><https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation. Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion skills

【Outline and objectives】

In this course, students learn to develop their communicative competence in both speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English communication skills

【到達目標】

This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Unit 7 What's this for?	Describing technology and its uses
Week 2	Unit 7 What's this for?	Giving instructions
Week 3	Unit 8 Let's celebrate	Giving suggestions
Week 4	Unit 8 Let's celebrate	Using imperatives
Week 5	Evaluation	Describing holidays, festivals, and customs
Week 6	Unit 9 Describing change	Using relative clauses of time.
Week 7	Unit 9 Describing change	Giving advice and suggestions
Week 8	Unit 10 Stating opinions w/ gerunds	Quiz Units 7-8
Week 9	Unit 10 Stating opinions w/ gerunds	Presentation #1
Week 10	Evaluation	Contrasting time: past, present, future
Week 11	Unit 11 Places worth seeing	Describing possibilities
Week 12	Unit 11 Places worth seeing	Using conditional sentences, Explaining future consequences
Week 13	Unit 12 Narrating past events	Describing abilities and skills
Week 14	Unit 12 Narrating past events	Describing personality traits
		Giving reasons for opinions
		Quiz Units 9-10
		Presentation #2
		Talking about landmarks, monuments
		Describing countries
		Offering and discussing facts
		Using passive voice without "by" phrase
		Using past continuous with simple past
		Talking about someone's past
		Describing recent experiences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

【参考書】

Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Workbook

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the course.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion skills

【Outline and objectives】

In this course, students learn to develop their communicative competence in both speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 I

2016 年度以前入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

Students will develop their analytical skills in English. Students develop listening and note taking skills as well as the ability to hold a discussion in English in a small group .

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to Course methods, rules etc. Needs and desires: Excerpts from Phantom of the Opera and Nosferatu	Students make groups and exchange contact information, short discussions
week 2	Lon Chaney and the making of monsters; The penalty and the Hunchback of Notre Dame	All Class activity #1 active listening, note taking and Vocabulary development
week 3	Lon Chaney and The Phantom of The Opera	All class activity #2 pair work and small group problem solving
week 4	The Evil and the Ugly. The Historical Dracula, the Literary Dracula and the Making of Nosferatu; Merhage's Shadow of The Vampire	All Class Activity #3. Listening and note taking, vocabulary work.
week 5	The Universal Dracula and the revisionist Bram Stoker's Dracula	All Class activity #4; small group work and listening , note taking
week 6	The Creation and the Fall, the Garden and Forbidden fruit Interview with a Vampire. Evil as a choice	All Class activity #5 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 7	Review of Vampire Choice, Dracula and and Bram Stoker's Dracula .	All class Activity #6 pair work , Lecture and listening activities
week 8	A Marxist Reading of Dracula? Shadow of The vampire, Blood for Dracula	All class activity #7. Listening and note taking
week 9	Screening of Frankenstein (1931)	While watching activities and information gap tasks
week 10	Biblical Allegory : Creation of Man, Greek Mythology: The Theft of Fire, The Wind Mill as Cross.	All Class activity #8 ,small group problem solving and vocabulary work.

week 11	The Monster: Guilty or Innocent?	All Class activity #9 Listening and lecture, information gap activities
week 12	Introduction to and screening of Part I of Dr. Jekyll and Mr Hyde	All Class activity #10 ,small group problem solving information gap activities
week 13	Close analysis of and Screening second part of Dr. Jekyll and Mr Hyde	All Class activity #11 Pair work and vocabulary activities.
week 14	Close analysis of Dr J and Mr. H. and the Freudian interpretation of the film	All Class activity #12 ,small group problem solving and vocabulary work.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be homework assigned each week which may include short reading assignments, short writing assignments or research on line.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which are to be kept for the entire class in a neat and well organized notebook

【参考書】

Students should have a good dictionary in class

【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 10 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of the grade, however the comprehensive review activity at the end of the semester is an opportunity for students to improve their grade.

【学生の意見等からの気づき】

The content of this class has been changed, but the method and goals remain the same .

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

Students will develop their analytical skills in English. Students develop listening and note taking skills as well as the ability to hold a discussion in English in a small group .

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Transformations: The Universal Wolfman	students make groups and exchange contact information, short discussions
week 2	The Style and new approach of John Braum's the Undying Monster	All Class activity #1 active listening, note taking and Vocabulary development
week 3	John Braum's The Lodger and the Real Jack	All class activity #2 pair work and small group problem solving
week 4	Screening of The Cat People	All Class Activity #3. Listening and note taking, vocabulary work.
week 5	Close Analysis of The cat People	All Class activity #4; small group work and listening , note taking
week 6	The Style and themes of Val Newton films: I walked with a Zombie	All Class activity #5 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 7	The Style and Themes of Newton films part two: The Leopard Man	All class Activity #6 pair work , Lecture and listening activities
week 8	Robert Wises The Haunting Part One	All class activity #7. Listening and note taking
week 9	Robert Wises The Haunting Part two	While watching activities and information gap tasks
week 10	The "baggage we carry, The haunting as psychological Trauma explained	All Class activity #8 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 11	Whatever Happened to Baby Jane or the horror that dwells within the family.	All Class activity #9 Listening and lecture, information gap activities
week 12	Alfred Hitchcock Psycho Part One	All Class activity #10 ,small group problem solving information gap activities
week 13	Alfred Hitchcock's Psycho Part two	All Class activity #11 Pair work and vocabulary activities.
week 14	Close analysis of Psycho: The Style and content.	All Class activity #12 ,small group problem solving and vocabulary work.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be homework assigned each week which may include short reading assignments, short writing assignments or research on line.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which are to be kept for the entire class in a neat and well organized notebook

【参考書】

Students should have a good dictionary in class

【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 10 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of the grade, however the comprehensive review activity at the end of the semester is an opportunity for students to improve their grade.

【学生の意見等からの気づき】

The content of this class has been changed, but the method and goals remain the same.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome.	Getting to know you.
2	Q & A	Talking about you.
3	Q & A	Talking about the word you live in.
4	How do you do that?	Verbs of instruction.
5	Sing your heart out.	Pronunciation.
6	Want to hear a good story?	Starting a story.
7	Finish that story.	The middle and the end.
8	Get into shape.	The language of exercise.
9	Another song.	Pronunciation.
10	Shopping	Finding your way around the department store.
11	What do you call it?	Guessing that meaning.
12	It's a wild world.	The language of the jungle.
13	Songs	Pronunciation.
14	Dictation	Listening and writing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%
Passing scores are 60% and above.

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Grammar Time.	Basic grammar.
2	Quiz master.	Questions and answers.
3	Cooking for the ones you love.	A recipe.
4	Your world.	Presentation.
5	your world.	Presentation.
6	You know what I mean.	Guessing the meaning of words.
7	What if...?	What would you do if....?
8	Sing that song out loud.	Pronunciation.
9	Dictation.	Listening and writing.
10	Story telling.	Make it better.
11	Story telling.	Getting the ending right.
12	Tell me what they look like.	Talking about what people look like.
13	Winter food.	A recipe.
14	Question master.	In the hot seat answering questions.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%
Passing scores are 60% and above.

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include why man explores his own world and others and what makes us either fear or worship outsiders.

【到達目標】

This course focuses on helping students develop active listening and note taking skills as well as learning to speak in pairs, small groups and in front of the whole class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	A content based language course. Our Topic: Science Fiction. The literary heritage of S.F. Our Sub-topics: Exploration, Visitation, Transformation, Dystopia.	The origins of the Science Fiction Film: Georges Melies and A Trip to the Moon.
Week 2	Explorations Part I : Our World: Jules Verne: The father of science fiction. A look at the literary tradition. Exploring our world ; Journey to the Center of the Earth . Why does man explore? Women in S.F.	All class activity #1 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 3	Exploration; Optimism and Pessimism in the work of Jules Verne, 20,000 Leagues Under the Sea.	All Class activity #2. Pair work. Listening and Note Taking
Week 4	What Does the Future hold for Humanity? H.G. Wells" The Time Machine	All class activity #3 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 5	Early American Science Fiction and racism in the Flash Gordon Serials	All class activity #4 pair work, Listening and Note-taking
Week 6	Screening of Forbidden Planet and the Three mysteries of the film	While watching/listening note taking and information gap activities
Week 7	Solution to the mysteries and analysis of Forbidden Planet.	All class Activity #5 discussion and review
Week 8	Visitations Part I: Duper Analysis of F.P with a twist of Freud.Introduction to theme of visitation	All class activity #6 Speaking in small groups, Listening and Note-taking

Week 9	Our aliens and ourselves: are they projections of who we are?	All class activity #7 pair work, Listening and Note-taking
Week 10	H.G.Wells and The War of The Worlds: A metaphorical link with the times	All class activity #8 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 11	Screening The Thing Major themes in the Alien Invasion film	All Class activity #9 Close analysis. Speaking in small groups
Week 12	Earth Vs The Flying Saucers, It Conquered The World. The Cold War	All class activity #10 pair work, Listening and Note-taking
Week 13	Vistations ;Extra-terrestrial Messiahs The Day the Earth Stood Still, E.T., Close Encounters , Contact	All Class Activity #11 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 14	Visitations Part II Extra-terrestrial Immigrants: Alien Nation, Men In Black, K-Pax	All class activity #12 pair work, Listening and Note-taking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

All reading and writing assignment must be completed before each class and students must be prepared for in class discussions.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which students are required to keep in a well organised notebook. Students should have a good electronic dictionary in class.

【参考書】

Students should have a good dictionary in class

【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 8 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of your grade. The activities will be combined into one longer, comprehensive review activity in the last class which will give students an opportunity to raise their scores.

【学生の意見等からの気づき】

Because students have said that some of the films are more interesting and useful for discussion and study than others I have tried to give more time to the films students say they prefer

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include the ways in which science and technology transform human life and the world we live in and how our future may be an uncertain one if we do not learn how to use science and technology with wisdom and restraint

【到達目標】

This course focuses on helping students develop active listening and note taking skills as well as learning to speak in pairs, small groups and in front of the whole class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to Transformations; Experiments H.G. Wells' The Island of Dr. Moreau	review of previous themes, small group work and review of notes
week 2	Accidents: The Incredible Shrinking man and the Amazing Colossal Man	All class activity #1 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 3	Evolution: 2001 a Space Odyssey and The Time Machine	All Class activity #2. Pair work. Listening and Note Taking
week 4	Augmentations: Robocop and Johnny Mnemonic	All class activity #3 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 5	Artificial Intelligence: Colossus The Forbin Project and The Terminator	All class activity #4 pair work, Listening and Note-taking
week 6	2001: A Space Odyssey, Screening first part of Bladerunner	All class Activity #5 discussion and review
week 7	Screening Bladerunner, the mystery of the Unicorn	While watching/listening note taking and information gap activities
week 8	Close Analysis of Bladerunner	All class activity #6 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 9	Introduction to Dystopia: H.G. Wells Things to Come, Fritz Lang's Metropolis,	All class activity #7 pair work, Listening and Note-taking
week 10	Why Wells Hated Metropolis: Optimism and Pessimism again. Zamiatin's we and THX -!38	All class activity #8 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 11	Alders Huxley's Brave New World and Gattaca, first 12 minutes of 1984	All Class activity #9 Close analysis. Speaking in small groups
week 12	Screening of 1984	While watching/listening note taking and information gap activities

week 13	Close Analysis of 1984 and Anthony Burgess's A Clockwork Orange	All Class Activity #10 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 14	John Carpenter's They :I've and Ray Bradbury's Fahrenheit 451.	All class activity #11 pair work, Listening and Note-taking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

All reading and writing assignment must be completed before each class and students must be prepared for in class discussions.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which students are required to keep in a well organised notebook. Students should have a good electronic dictionary in class.

【参考書】

Students should have a good dictionary in class

【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 8 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of your grade. The activities will be combined into one longer, comprehensive review activity in the last class which will give students an opportunity to raise their scores.

【学生の意見等からの気づき】

Because students have said that some of the films are more interesting and useful for discussion and study than others I have tried to give more time to the films students say they prefer

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ロバート・D・ヒント

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions, understanding the course goals, student information	Basic information about procedure
Week 2	Culture study - focus on New York	Brainstorming and learning about New York City
Week 3	Personality scales survey	Brainstorming and learning about New York City
Week 4	Personality presentation	Student presentations
Week 5	American justice system	A study of judges and courts in USA
Week 6	Crime and punishment	A study of judges and courts in USA
Week 7	Survival in nature	Students will take a survival quiz
Week 8	Survival in society	Techniques for surviving
Week 9	Survival in differing environments	Dealing with culture shock
Week 10	Learning about Tokyo	Students will discover areas of interest in Tokyo
Week 11	Tokyo critique presentation	Student presentations
Week 12	Group work for study of the culture of a foreign country	Students will do research about the culture/society of a foreign country and create a poster
Week 13	Poster presentation session	Presentations
Week 14	Poster presentation session	Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

【テキスト（教科書）】

No text book is required.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Weekly homework (40%), classroom participation (20%), presentations (20%), quizzes and examinations (20%)

【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ロバート・D・ヒント

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Holiday	Students will do an interactive activity about their holiday
Week 2	Culture study - focus Australia	Students will collect information about Australia from a travel documentary
Week 3	American icon - Oprah Winfrey	Information search about this icon
Week 4	Oprah Winfrey - a biography of success	Students will learn more about this Oprah and start their research project
Week 5	Icon research project	Student will prepare for presentations, peer feedback
Week 6	Icon presentations	Student presentations
Week 7	Film critique/review	How to write a critique/review
Week 8	Group work on film critique	Students will work in groups to prepare for presentations
Week 9	Group presentations	Group presentations
Week 10	Race relations in USA	Students will learn about different ethnic groups in USA
Week 11	Stereotyping	How stereotyping occurs and related issue
Week 12	Culture differences	Students will do a simulation activity
Week 13	Mass media	How stereotyping occurs and related issue
Week 14	Commercials	Students will evaluate the appeal of commercials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Student grades will be determined by weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ロジャー エドウィン パティモア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a basic discussion course for first year university students.

There are four strands to the spring course:

Strand 1: Everyday speaking skills: reach basic communication level (quickly!)

Strand 2: Working with the textbook: learn discussion skills and practice

Strand 3: Research and writing good answers to discussion questions

Strand 4: Writing: Write a paragraph useful for the Eiken Level 2 (英検 2 級)

【到達目標】

1. Produce English effective speaking and writing
2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)
3. Develop learning skills (use of Internet for independent study, use of textbook website, planning own study schedule)
4. Develop skills for academic writing tasks
5. Develop student / social skills (See Grading #9 in this syllabus)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The first language of the course is English. I will always use English first, and in time students will always use English first. This includes practice, speaking tests, classroom language, and non-study related speaking with classmates. Japanese can only be used if necessary. (As in this syllabus)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction to the Course	Orientation to the course, rules, policies Basic English Skill 0 (BES 0) North American Greetings and Names Basic English Skill 1 (BES 1) Classroom Language
Lesson 2	Vacations I	BES 2 Classroom Group Language Distribute textbook Make groups Textbook: Overview of textbook, Unit 1 Vacations HW: Register for textbook website in class or for HW
Lesson 3	Vacations II	BES 3 Conversation Model and Practice Making Natural Sentences Textbook: Unit 1 Vacations Task 7 Vocabulary HW: 1. Complete Unit 2 online exercises 2. Write to support speaking skills
Lesson 4	Movies I	Due: Unit 1 Write to support speaking skills Unit 1 Practice Test -check in class BES 4 Yes / No Questions and Answer Forms Textbook: Unit 2 Movies

Lesson 5	Movies II	Unit 1 Practice Test - check in class BES 5 How to answer Yes/No questions effectively (Use extra-info) Textbook: Unit2 Movies Writing assignment intro (英検 2 級 ような作文) Prepare composition: Outlines and short forms for outlines HW: Write to support speaking skills Unit 2 Due: Unit 2 Write to support speaking skills BES 6: WH Question and Answer Forms Textbook: Unit 2 Movies HW: Unit 3 Vocabulary Unit 2 Practice Test - check in class BES 7: How to Answer WH Questions Effectively (Use extra-info) Textbook: Unit 3 Dating Writing Eiken Level 2 Composition continued - Outline to Paragraph HW: Complete movie composition Due: Movie Composition BES 8: Follow-up Questions Textbook: Unit 3 Dating HW: 1. Unit 3 Write to support speaking skills 2. Unit 4 Vocabulary Due: Unit 3 Write to support speaking skills Unit 3 Practice Test - check in class BES 9: Rebound Questions Textbook: Unit 4 Part-time Jobs BES 10 Pausing + BES 11 Reactions Textbook: Unit 4 Part-time Jobs HW: Unit 4 Write to support speaking skills Due: Unit 4: Write to support speaking skills Unit 4 Live test - Collection and check by me BES 12: Starting a Conversation BES 13 Ending a Conversation Textbook: Unit 5 Learning English HW: Prepare Unit 5 independently for Paper Test Unit 5 Live Paper test Prepare for the speaking discussion test. Speaking Discussion Test
Lesson 6	Movies III	
Lesson 7	Dating I	
Lesson 8	Dating II	
Lesson 9	Part-time Jobs I	
Lesson 10	Part-time Jobs II	
Lesson 11	Learning English I	
Lesson 12	Testing and Evaluation	
Lesson 13	Testing and Evaluation	
Lesson 14	Course Wrap Up	Grade Idea Summer ideas File check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework during the course:

1. Online exercises (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
2. Writing to support speaking activities (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
3. Preparation for role plays and presentations (once or twice per semester 1 hour with group members)
3. Eiken Level 2 type composition - 1 to 2 hours per semester

【テキスト（教科書）】

The textbook will be passed out in class.

【参考書】

A good English / Japanese Japanese / English Dictionary - Paper, Electronic or smartphone
Various applications required for Smartphones

【成績評価の方法と基準】

1. Print file (5%)
2. Homework completion checked by answering in class (5%)
3. Online HW Completion at the end of each unit (10%)
4. Task 7 Research and write short answers to discussion questions (10%)
5. Writing an Eiken composition (10%)
6. Unit Test (20%)
7. Discussion Test (25%)
8. Bonuses for superior performance on 1, 4, 5, 6, 7 (10%)
9. Goal 5: Adding value to the course with appropriate student skills (5%)

(asking questions during class, good attendance and punctuality, always being prepared for class with homework done and correct prints even if absent, helping classmates, being a group leader, if absent for test bring document)

【学生の意見等からの気づき】

I don't know what student comments are at this time. Many 2018 students had very, very limited speaking skills, so more practice has been introduced in the spring semester of 2019.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook will be distributed in the first or second class
Other standard equipment such as pens, pencils, dictionary (above)

【学生の意見等からの気づき】
Students should be better prepared assuming the spring semester changes were effective.
【学生が準備すべき機器他】
Same as spring semester.

LANe100LA
English 2 I 2017 年度以降入学者
LANe100LA
English 2 I 2016 年度以前入学者
中田 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文 1 年：英語 13 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、英語で口頭および文章で表現する力を養う。特に、topic sentence, supporting sentences, concluding sentence 等のパラグラフ構成を意識し、一貫した英文を作成する能力を育成する。

【到達目標】
1) 指定のトピックに関するまとまった英文を読んだり聞いたりして、口頭および文章で要約したり、自分の意見を英語で効果的に表現することができる。
2) パラグラフやエッセイの構成を意識し、一貫した英文を作成することができる。
3) アイコンタクト、ジェスチャー、視覚資料等を効果的に活用し、英語で自分の意見を効果的に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
日常生活や現代社会のさまざまなトピックに関する英文を読んだり聞いたりした後、その要約や自分の意見を書く。また、プレゼンテーションやグループディスカッションなどを通して、口頭で効果的に表現する練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	Introduction	成績・評価、授業運営等の説明
2	Chapter 1	Introducing Yourself
3	Chapter 1	定義
4	Chapter 2	Writing a Story by Yourself
5	Chapter 2	出来事や経験を語る
6	Presentation practice	Enhancing Eye Contact
7	Review	Mid-term Presentations
8	Chapter 3	Writing Your Own Recipe
9	Chapter 3	手続きや手順の説明
10	Chapter 4	Different Varieties of English
11	Chapter 4	パラグラフの書き方
12	Chapter 5	Describing Interesting People and Places
13	Review	Final Presentations
14	Review	Final Presentations & Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英作文の課題が授業中に終わらない場合には、授業時間外に完成させておく。また、プレゼンテーションの際には、原稿を読み上げるのではなく、聴衆とアイコンタクトをとりながら発表できるように練習しておく。

【テキスト（教科書）】
熊本たま、大井恭子、上村妙子、Kim Marie Sano、松本佳穂子、『Writing Frontiers 一英語で発想するライティング』、金星堂

【参考書】
Just the Word (<http://www.just-the-word.com/>) や YouGlish (<http://youglish.com/>) 等の web サイトを積極的に活用し、コロケーション・語法・発音を調べることを推奨する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、プレゼンテーション 40 %、小テスト・英作文 30 %
4 回以上欠席した場合は、原則として単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき該当なし。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to prepare students for success in writing and speaking English in academic settings. To this end, students will read or listen to English texts on a variety of topics, and practice summarizing and discussing issues related to topics covered in the texts.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

中田 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
文 1 年：英語 13 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、英語で口頭および文章で表現する力を養う。特に、topic sentence, supporting sentences, concluding sentence 等のパラグラフ構成を意識し、一貫した英文を作成する能力を育成する。

【到達目標】

- 1) 指定のトピックに関するまとまった英文を読んだり聞いたりして、口頭および文章で要約したり、自分の意見を英語で効果的に表現することができる。
- 2) パラグラフやエッセイの構成を意識し、一貫した英文を作成することができる。
- 3) アイコンタクト、ジェスチャー、視覚資料等を効果的に活用し、英語で自分の意見を効果的に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックに関する英文を読んだり聞いたりした後に、その要約や自分の意見を書く。また、プレゼンテーションやグループディスカッションなどを通して、口頭で効果的に表現する練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 6	Expressing Your Feelings
第 2 回	Chapter 6	例を挙げる
第 3 回	Chapter 7	Introducing Your Hometown
第 4 回	Chapter 7	プロセス・ライティングとは
第 5 回	Chapter 8	Studying More about the World
第 6 回	Chapter 8	分類
第 7 回	Review	Mid-term Presentations
第 8 回	Chapter 9	Why Are They So Popular?
第 9 回	Chapter 9	理由
第 10 回	Chapter 10	Why Have Fast Food Shops Become Popular in Japan?
第 11 回	Chapter 10	原因と結果
第 12 回	Chapter 11	Comparing Shogi and Chess
第 13 回	Review	Final Presentations
第 14 回	Review	Final Presentations & Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英作文の課題が授業中に終わらない場合には、授業時間外に完成させておく。また、プレゼンテーションの際には、原稿を読み上げるのではなく、聴衆とアイコンタクトをとりながら発表できるように練習しておく。

【テキスト（教科書）】

熊本たま、大井恭子、上村妙子、Kim Marie Sano、松本佳穂子、『Writing Frontiers ー英語で発想するライティング』、金星堂

【参考書】

Just the Word (<http://www.just-the-word.com/>) や YouGlish (<http://youglish.com/>) 等の web サイトを積極的に活用し、コロケーション・語法・発音を調べることを推奨する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、プレゼンテーション 40 %、小テスト・英作文 30 %
4 回以上欠席した場合は、原則として単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき該当なし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to prepare students for success in writing and speaking English in academic settings. To this end, students will read or listen to English texts on a variety of topics, and practice summarizing and discussing issues related to topics covered in the texts.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

クリス マシオ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
文 1 年：英語 14 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication techniques open up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice their speaking and writing. Attention will also be given to developing the skills students require to be independent language learners.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Speaking and writing task: features you look for when you meet someone.
3	Unit 1 First Impressions	Presentation: what I look for in a person.
4	Unit 2 Big or small?	Speaking and writing task: ideas about living in a big city or a small town.
5	Unit 2 Big or small?	Presentation: what I like about where I live.
6	Unit 3 The Good Language Learner	Speaking and writing task: pros and cons of living in another country.
7	Unit 3 The Good Language Learner	Presentation: an international adventure.
8	Mid-semester test.	Review of the semester thus far.
9	Unit 6 What are friends for?	Speaking and writing task: things close friends do for each other.
10	Unit 6 What are friends for?	Presentation: a friend I really like.
11	Unit 7 What's for lunch?	Speaking and writing task: deciding which foods are healthy.
12	Unit 7 What's for lunch?	Presentation: what I eat.
13	Semester review	Review of the semester thus far.
14	Final test	Feedback on the course and reflection.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)
ISBN 9789813134386
Pearson
¥ 3,316

【参考書】

Worksheet handouts

【成績評価の方法と基準】

On-going evaluation of in-class participation (25%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (20%)

Final test (25%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and the internet in class.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class.

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice combined with activities and tasks for expanding their vocabulary. Additionally, students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

クリス マシオ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

文 1 年：英語 14 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication techniques open up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice their speaking and writing. Attention will also be given to developing the skills students require to be independent language learners.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 8 Your Online Past	Introduction to the course, students and teacher. Speaking and writing task: your digital literacy skills. Presentation: my digital life.
2	Unit 8 Your Online Past	Presentation: my digital life.
3	Unit 10 My Student Life	Speaking and writing task: important reasons to go to university.
4	Unit 10 My Student Life	Presentation: how to be a happy student.
5	Unit 12 Create another future	Speaking and writing task: ways to save the environment.
6	Unit 12 Create another future	Presentation: how to make the world a better place.
7	Mid-semester test.	Review of the semester thus far.
8	Unit 14 Government Control	Speaking and writing task: how much control do you want in your life?
9	Unit 14 Government Control	Presentation: decisions in my life.
10	Unit 16 What makes you happy?	Speaking and writing task: what makes a person happy?
11	Unit 16 What makes you happy?	Presentation: my ideas for happiness.
12	Unit 17 Who will help them?	Speaking and writing task: what are the world's biggest problems?
13	Unit 17 Who will help them?	Presentation: who needs help in your country, city or neighborhood?
14	Final test	Feedback on the course and reflection.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

¥ 3,316

【参考書】

Worksheet handouts

【成績評価の方法と基準】

On-going evaluation of in-class participation (25%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (20%)

Final test (25%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and the internet.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class.

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice combined with activities and tasks for expanding their vocabulary. Additionally, students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

文 1 年：英語 15 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome.	Getting to know you.
2	Q & A	Talking about you.
3	Q & A	Talking about the word you live in.
4	How do you do that?	Verbs of instruction.
5	Sing your heart out.	Pronunciation.
6	Want to hear a good story?	Starting a story.
7	Finish that story.	The middle and the end.
8	Get into shape.	The language of exercise.
9	Another song.	Pronunciation.
10	Shopping	Finding your way around the department store.
11	What do you call it?	Guessing that meaning.
12	It's a wild world.	The language of the jungle.
13	Songs	Pronunciation.
14	Dictation	Listening and writing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%
Passing scores are 60% and above.

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA	
English 2 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 II	2016 年度以前入学者
フィル・ケニー	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金 2/Fri.2 文 1 年：英語 15 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Grammar Time.	Basic grammar.
2	Quiz master.	Questions and answers.
3	Cooking for the ones you love.	A recipe.
4	Your world.	Presentation.
5	your world.	Presentation.
6	You know what I mean.	Guessing the meaning of words.
7	What if...?	What would you do if.....?
8	Sing that song out loud.	Pronunciation.
9	Dictation.	Listening and writing.
10	Story telling.	Make it better.
11	Story telling.	Getting the ending right.
12	Tell me what they look like.	Talking about what people look like.
13	Winter food.	A recipe.
14	Question master.	In the hot seat answering questions.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%
Passing scores are 60% and above.

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA	
English 2 I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 I	2016 年度以前入学者
ロジャー エドウィン パティモア	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 2/Mon.2 文 1 年：英語 16 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a basic discussion course for first year university students.

There are four strands to the spring course:

Strand 1: Everyday speaking skills: reach basic communication level (quickly!)

Stand 2: Working with the textbook: learn discussion skills and practice

Strand 3: Research and writing good answers to discussion questions

Strand 4: Writing: Write a paragraph useful for the Eiken Level 2 (英検 2 級)

【到達目標】

1. Produce English effective speaking and writing
2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)
3. Develop learning skills (use of Internet for independent study, use of textbook website, planning own study schedule)
4. Develop skills for academic writing tasks
5. Develop student / social skills (See Grading #9 in this syllabus)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The first language of the course is English. I will always use English first, and in time students will always use English first. This includes practice, speaking tests, classroom language, and non-study related speaking with classmates. Japanese can only be used if necessary. (As in this syllabus)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction to the Course	Orientation to the course, rules, policies Basic English Skill 0 (BES 0) North American Greetings and Names Basic English Skill 1 (BES 1) Classroom Language
Lesson 2	Vacations I	BES 2 Classroom Group Language Distribute textbook Make groups Textbook: Overview of textbook, Unit 1 Vacations HW: Register for textbook website in class or for HW
Lesson 3	Vacations II	BES 3 Conversation Model and Practice Making Natural Sentences Textbook: Unit 1 Vacations Task 7 Vocabulary HW: 1. Complete Unit 2 online exercises 2. Write to support speaking skills
Lesson 4	Movies I	Due: Unit 1 Write to support speaking skills Unit 1 Practice Test -check in class BES 4 Yes / No Questions and Answer Forms Textbook: Unit 2 Movies

Lesson 5	Movies II	Unit 1 Practice Test - check in class BES 5 How to answer Yes/No questions effectively (Use extra-info) Textbook: Unit2 Movies Writing assignment intro (英検 2 級 ような作文) Prepare composition: Outlines and short forms for outlines HW: Write to support speaking skills Unit 2 Due: Unit 2 Write to support speaking skills BES 6: WH Question and Answer Forms Textbook: Unit 2 Movies HW: Unit 3 Vocabulary Unit 2 Practice Test - check in class BES 7: How to Answer WH Questions Effectively (Use extra-info) Textbook: Unit 3 Dating Writing Eiken Level 2 Composition continued - Outline to Paragraph HW: Complete movie composition Due: Movie Composition BES 8: Follow-up Questions Textbook: Unit 3 Dating HW: 1. Unit 3 Write to support speaking skills 2. Unit 4 Vocabulary Due: Unit 3 Write to support speaking skills Unit 3 Practice Test - check in class BES 9: Rebound Questions Textbook: Unit 4 Part-time Jobs BES 10 Pausing + BES 11 Reactions Textbook: Unit 4 Part-time Jobs HW: Unit 4 Write to support speaking skills Due: Unit 4: Write to support speaking skills Unit 4 Live test - Collection and check by me BES 12: Starting a Conversation BES 13 Ending a Conversation Textbook: Unit 5 Learning English HW: Prepare Unit 5 independently for Paper Test Unit 5 Live Paper test Prepare for the speaking discussion test. Speaking Discussion Test
Lesson 6	Movies III	
Lesson 7	Dating I	
Lesson 8	Dating II	
Lesson 9	Part-time Jobs I	
Lesson 10	Part-time Jobs II	
Lesson 11	Learning English I	
Lesson 12	Testing and Evaluation	
Lesson 13	Testing and Evaluation	
Lesson 14	Course Wrap Up	Grade Idea Summer ideas File check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework during the course:

1. Online exercises (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
2. Writing to support speaking activities (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
3. Preparation for role plays and presentations (once or twice per semester 1 hour with group members)
3. Eiken Level 2 type composition - 1 to 2 hours per semester

【テキスト（教科書）】

The textbook will be passed out in class.

【参考書】

A good English / Japanese Japanese / English Dictionary - Paper, Electronic or smartphone
Various applications required for Smartphones

【成績評価の方法と基準】

1. Print file (5%)
2. Homework completion checked by answering in class (5%)
3. Online HW Completion at the end of each unit (10%)
4. Task 7 Research and write short answers to discussion questions (10%)
5. Writing an Eiken composition (10%)
6. Unit Test (20%)
7. Discussion Test (25%)
8. Bonuses for superior performance on 1, 4, 5, 6, 7 (10%)
9. Goal 5: Adding value to the course with appropriate student skills (5%)

(asking questions during class, good attendance and punctuality, always being prepared for class with homework done and correct prints even if absent, helping classmates, being a group leader, if absent for test bring document)

【学生の意見等からの気づき】

I don't know what student comments are at this time. Many 2018 students had very, very limited speaking skills, so more practice has been introduced in the spring semester of 2019.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook will be distributed in the first or second class

Other standard equipment such as pens, pencils, dictionary (above)

LANe100LA	
English 2 II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 2 II	2016 年度以前入学者
ロジャー エドウィン パティモア	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 2/Mon.2	
文 1 年：英語 16 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a basic discussion course for first year university students.

There are five strands to the fall course:

Strand 1: Basic discussion skills: reach basic communication level

Strand 2: Working with the textbook: learn discussion skills and practice

Strand 3: Research and writing: Write good answers to discussion questions

Strand 4: Writing: Write a composition useful for the Eiken Level Pre 1 (英検準 1 級)

Strand 5: Prepare and give a group presentation

【到達目標】

Similar to the spring semester

1. Produce English effective speaking and writing

2. Develop critical thinking skills (批判的思考スキル)

3. Develop learning skills (use of Internet for independent study, use of textbook website, planning own study schedule)

4. Develop skills for academic writing tasks

5. Develop effective presentation skills

6. Develop student / social skills (See Grading #9 in this syllabus)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Similar to the spring semester

The first language of the course is English. I will always use English first, and in time students will always use English first. This includes practice, speaking tests, classroom language, and non-study related speaking with classmates. Japanese can only be used if necessary. (As in this syllabus)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Fall Introduction	Orientation to the fall semester, any new rules or policies Basic Discussion Skill (BDS) 00 Classroom Q and A Textbook: Introduction: Unit 6 Hopes and Dreams Plan for independent study: A plan to write the Eiken Level Pre-1 (準 1 級) essay will be given to students. The plan includes 'how-to' prints, and a schedule of tasks to be completely and when to submit them.
Lesson 2	Hopes and Dreams	BDS 1 Introduction to Discussion (Review Print) BDS 2 Topics and Issues - General Textbook: Unit 6 Hopes and Dreams Test/Assignment Due Next Class: Unit 6 Write to support discussion skills
Lesson 3	Hopes and Dreams	Collect HW BDS 3 Starting a Discussions / Thinking about the Issues Textbook: Unit 6 Hopes and Dreams
Lesson 4	Family	Unit 6 Practice Test in Class BDS 4 Giving Your Opinion and Specific Issues Textbook: Unit 9 Family

Lesson 5	Family	BDS 5 Reasons Textbook: Unit 9 Family Test/Assignment Due next class: Unit 9 Write to support speaking skills
Lesson 6	Social Networking	Collect HW Unit 9 Practice Test in Class BDS 6: Support Textbook: Unit 10 Social Networking
Lesson 7	Social Networking	Presentation Skills - Posture Textbook: Unit 10 Social Networking Test/Assignment Due next class: Unit 10 Write to support speaking skills
Lesson 8	Interests	Unit 10 Practice Test Presentation Skills: Sandwich Presentation Presentation / PC / PowerPoint Skills Collect HW Check Unit 10 Practice test in class Textbook: Unit 11 Interests *Because of presentations, students will have to do more on the last units as homework or by themselves.
Lesson 9	Interests	Presentation / PC / PowerPoint Skills Textbook: Unit 11 Interests Test/Assignment Due: Unit 11 Write to support speaking skills
Lesson 10	Spending Money	Collect HW Unit 11 Interests Live Test - Collection and check by me PowerPoint Presentations Unit 6 Textbook: Unit 12 Spending Money
Lesson 11	Spending Money	Unit 11 Interests Live Test back Presentations Units 9, 10 Textbook: Unit 12 Spending Money Test/Assignment Due: Unit 12 Write to support speaking skills
Lesson 12	Presentations Unit 11, 12	Collect HW Unit 12 Live test - Collection and check by me Units 11, 12 Presentations Prepare for discussion test
Lesson 13	Discussion Test	Discussion Test
Lesson 14	Wrap up	Further English learning ideas Grade idea File check

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before the fall semester: Students should review textbook units from the spring semester. Students should also learn MS Word and MS PowerPoint skills. There are many tutorials on YouTube [URL]https://www.youtube.com/results?search_query=MS+word+tutorial[URL]

During the course: The amount of work is similar to the spring semester.

1. Online exercises (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
2. Writing to support speaking activities (5) (20 - 30 minutes every two weeks)
3. Preparation for role plays and presentations (once or twice per semester 1 hour with group members)
4. Preparation for presentation several hours outside of class
4. Eiken Level Pre 1 type composition - 2-3 hours per semester

【テキスト（教科書）】

Same as spring

【参考書】

We may add more apps to smartphones

【成績評価の方法と基準】

1. Print file (5%)
 2. Homework completion checked by answering in class (5%)
 3. Online HW Completion (5%)
 4. Writing to support speaking activities (10%)
 5. Unit Test (20%)
 6. Group PowerPoint Sandwich Presentation (15%)
 7. Discussion Test (25%)
 8. Bonuses for superior performance on 1, 3, 4, 5, 7 (10%)
 9. Adding value to the course (5%)
- (asking questions during class, good attendance and punctuality, always being prepared for class with homework done and correct prints even if absent, helping classmates, being a group leader)

【学生の意見等からの気づき】

Students should be better prepared assuming the spring semester changes were effective.

【学生が準備すべき機器他】

Same as spring semester.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 I

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 17 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome.	Getting to know you.
2	Q & A	Talking about you.
3	Q & A	Talking about the word you live in.
4	How do you do that?	Verbs of instruction.
5	Sing your heart out.	Pronunciation.
6	Want to hear a good story?	Starting a story.
7	Finish that story.	The middle and the end.
8	Get into shape.	The language of exercise.
9	Another song.	Pronunciation.
10	Shopping	Finding your way around the department store.
11	What do you call it?	Guessing that meaning.
12	It's a wild world.	The language of the jungle.
13	Songs	Pronunciation.
14	Dictation	Listening and writing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%
Passing scores are 60% and above.

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
文 1 年：英語 17 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Grammar Time.	Basic grammar.
2	Quiz master.	Questions and answers.
3	Cooking for the ones you love.	A recipe.
4	Your world.	Presentation.
5	your world.	Presentation.
6	You know what I mean.	Guessing the meaning of words.
7	What if...?	What would you do if....?
8	Sing that song out loud.	Pronunciation.
9	Dictation.	Listening and writing.
10	Story telling.	Make it better.
11	Story telling.	Getting the ending right.
12	Tell me what they look like.	Talking about what people look like.
13	Winter food.	A recipe.
14	Question master.	In the hot seat answering questions.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%
Passing scores are 60% and above.

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

クリス マシオ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
文 1 年：英語 18 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication techniques open up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice their speaking and writing. Attention will also be given to developing the skills students require to be independent language learners.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Speaking and writing task: features you look for when you meet someone.
3	Unit 1 First Impressions	Presentation: what I look for in a person.
4	Unit 2 Big or small?	Speaking and writing task: ideas about living in a big city or a small town.
5	Unit 2 Big or small?	Presentation: what I like about where I live.
6	Unit 3 The Good Language Learner	Speaking and writing task: pros and cons of living in another country.
7	Unit 3 The Good Language Learner	Presentation: an international adventure.
8	Mid-semester test.	Review of the semester thus far.
9	Unit 6 What are friends for?	Speaking and writing task: things close friends do for each other.
10	Unit 6 What are friends for?	Presentation: a friend I really like.
11	Unit 7 What's for lunch?	Speaking and writing task: deciding which foods are healthy.
12	Unit 7 What's for lunch?	Presentation: what I eat.
13	Semester review	Review of the semester thus far.
14	Final test	Feedback on the course and reflection.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

¥ 3,316

【参考書】

Worksheet handouts

【成績評価の方法と基準】

On-going evaluation of in-class participation (25%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (20%)

Final test (25%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and the internet in class.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class.

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice combined with activities and tasks for expanding their vocabulary. Additionally, students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

クリス マシオ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 18 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication techniques open up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice their speaking and writing. Attention will also be given to developing the skills students require to be independent language learners.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 8 Your Online Past	Introduction to the semester. Speaking and writing task: your digital literacy skills.
2	Unit 8 Your Online Past	Presentation: my digital life.
3	Unit 10 My Student Life	Speaking and writing task: important reasons to go to university.
4	Unit 10 My Student Life	Presentation: how to be a happy student.
5	Unit 12 Create another future	Speaking and writing task: ways to save the environment.
6	Unit 12 Create another future	Presentation: how to make the world a better place.
7	Mid-semester test.	Review of the semester thus far.
8	Unit 14 Government Control	Speaking and writing task: how much control do you want in your life?
9	Unit 14 Government Control	Presentation: decisions in my life.
10	Unit 16 What makes you happy?	Speaking and writing task: what makes a person happy?
11	Unit 16 What makes you happy?	Presentation: my ideas for happiness.
12	Unit 17 Who will help them?	Speaking and writing task: what are the world's biggest problems?
13	Unit 17 Who will help them?	Presentation: who needs help in your country, city or neighborhood?
14	Final test	Feedback on the course and reflection

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

¥ 3,316

【参考書】

Worksheet handouts

【成績評価の方法と基準】

On-going evaluation of in-class participation (25%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (20%)

Final test (25%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and the internet.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice combined with activities and tasks for expanding their vocabulary. Additionally, students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

榊原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 19 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活・現代社会での興味あるトピックについて、自分の考えを書いたり、口頭で発表する英語運用能力を養う。ライティングに関しては、パラグラフライティングの構成を学び、トピックごとに英文で書く力の習得を目指す。さらに、プレゼンテーションによって、実際に口頭で発表する場を設け、スピーキングの強化を図る。そのためには、正確な発音は不可欠な要素となるので、発音矯正指導は平行して実施。リスニングも当然この段階で組み込まれる。この授業を通して、読む、書く、聞く、話すの4技能を習得する。

【到達目標】

パラグラフライティング・エッセイライティングを習得。プレゼンテーションの習得、人前で話すことに慣れ、英語で考える習慣をつけるために毎回の授業で one-minute-speech を実行。テキストの DVD を字幕なしで理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の始めに、one-minute speech を実施。学生は自分の身近な話題について自由に話す。文法的なことなどをあまり気にせず、とにかく英語で話すことに集中する。教科書に関しては CD,DVD を駆使し、重要な vocabulary, phrases を音から学び意味と音、そして文字を結合させ脳にインプットして定着を図る。さらに、ペアワークで、実際に発音することでアウトプットの機会を増やす。また、ディクテーションにより正確な発音の定着度を確認し、スピーキングと発音との関連性を認識させていく。

paragraph writing に関しては、課題についての英文をパラグラフにまとめて提出する。その翌週に添削されて返却される。presentation は自分の書いたパラグラフを正確な発音で口頭で発表する。この際、原稿は見ないで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Japan: Unusual rental universe	In each class hour, after dealing with text book,pronunciation practice will be given using DVD (Reading aloud involved)
2	to follow the 1st session.	summary and convesation action
3	paragraph writing Is coffee the secret to a longer life?	reading the text through slash reading method. CD and DVD will be used efficiently.
4	to follow the 3rd session.	summary and conversation in action
5	paragraph writing Lost in translation	What's wrong with the English tranlations?
6	to follow the 5th session.	summary and conversation in action
7	Lack of sleep costs Americans billions of dollars each year	What will happen to your body when you don't get enough sleep?
8	to follow the 7th session.	public speech based on the paragraph
9	presentation Your smartphone is making your workplace slacker	What might happen to you if you use your smartphone while working?
10	to follow the 9th session.	summary and conversation in action
11	Do happy people live long?	Do you believe that happy people live long?
12	to follow 11th session.	summary and conversation in action
13	final test	review the previous units
14	the final presentation	the topic to be given

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

paragraph writing の課題を宿題とする。学生はレポート用紙に正式な様式に従って英文を書き提出。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 Stephen Timson
SEIBIDO 2,400

【参考書】

not use

【成績評価の方法と基準】

試験点 (60%)、平常点 (40%) 平常点には、presentation/paragraph writing も含まれる。
各学期の欠席回数が4回以上の場合、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

とにかく英語でしゃべる機会の多いクラス。

【学生が準備すべき機器他】

USB,PC など発表に使用することを推奨。

【その他の重要事項】

演習中心の授業。欠席・遅刻に注意。

【Outline and objectives】

This class focuses on enhancing speaking and writing skills mainly. As for writing, they're supposed to be able to write a paragraph and then an essay eventually. Along with the writing activities, they make a speech based on their writing. Furthermore, through the text book, they'll challenge to understand the DVD without the subtitles (in doing so, reading technique and pronunciation checks involved)

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

榊原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 19 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の paragraph writing から essay writing に展開する。さらなるスピーキング能力を向上させるためにも、one -minute speech を充実させる。話す、聞く、書く、読むの 4 技能の習得。

【到達目標】

パラグラフライティング、さらに、エッセイライティングの習得。
プレゼンテーションのレベルアップ。one-minute speech をさらに充実させる。
DVD を字幕なしに理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回の音読／ slash reading から本文の理解をする。
CD/DVD を使用して音声から理解を薦める。
ライティング課題を各トピックについて提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The power of music	Why does music therapy work?
2	to complete the unit	vacabulary/ comprehension check
3	How microfibers in clothes are polluting our ocean?	Why does synthetic clothing contaminate marine life?
	write an essay	
4.	to complete the unit	summary and comprehension quiz
5.	The joy of cleaning	the life -changing magic of tidying up
6.	to complete the unit	summary and comprehension quiz
	write an essay	
7.	High schooler's "Sit With Us" app tackles bullying	How to stop bullying.
8.	to complete the unit	summary and comprehension check
	presentation	
9.	Japan battles population decline with robots	What is Japan doing to find a solution to this problem?
10.	to complete the unit	summary and comprehension check
11.	Please come in	Brick and mortar stores look for new ways to lure customers.
	to complete the unit	summary and comprehension check
12.	final test	review the previous units
13.	final presentation	wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

エッセイライティングの課題を自宅で仕上げて提出。
各ユニットの音声の確認とスピーチの準備

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 Stephen Timson SEIBIDO 2019 2,400

【参考書】

no

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)・プレゼンテーション・ライティング 平常点 (40%)
各学期の欠席回数が4回以上の場合は、原則として単位習得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英語でとにかくしゃべることに慣れる。

【学生が準備すべき機器他】

If you present your speech, you can use USB, PC and so on.

【Outline and objectives】

The students are supposed to write an essay after knowing how to write a paragraph sufficiently. Making a speech will also be strengthened through activating one minute speech. They are encouraged to speak about what's happened in their daily lives as specifically as possible with a word they've already known.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

岩崎 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
文 1 年：英語 20 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニング、ライティング、スピーキングの基本的な技術を習得することを目指す。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。ライティングではパラグラフの構造を理解し、パラグラフライティングを実践する。スピーキングでは、効果的なスピーチの技術を学ぶ。最終的には、この授業で扱う様々な学習法を習得することによって、総合的な英語学習能力の獲得を目指す。

【到達目標】

外国語を学ぶとき、発音することの重要性を理解する。
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。
英語らしい発音ができるようになる。
リスニング能力が向上する。
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようになる。
論理的なパラグラフの構造を理解し、効果的なパラグラフが作成できる。
エッセイ作成のための手順を実践できる。
辞書がなんであるかを理解する。
英文を作成する際辞書が活用できるようになる。
4パラグラフからなるエッセイを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力向上のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させ、また、先を予測する能力を身につける。さらに、シャドーイングというリスニング学習法を実践する。教材は毎回作成する。テキスト内のトピックについて、自分の意見を簡単な英語で表現する練習をする。様々なトピックについて、短いパラグラフを作成する。テキスト掲載のエッセイをモデルにして、様々な形式のエッセイを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明	音声の練習をした後、シャドーイングを行う。
2	What Is a Paragraph? パラグラフとは何か	パラグラフの基本構造を覚える。
3	What Is a Paragraph? パラグラフとは何か	パラグラフを実際に作成する。
4	Narration 出来事を語る	相手に伝えたい出来事の内容を時間の流れに沿って、わかりやすく物語風に書けるようにする。
5	Narration 出来事を語る	過去形の使い方を身に付ける。 2つの出来事をつなぐ接続詞や前置詞を覚える。
6	Process 手続き・手順を説明する	手続きや手順を相手にわかりやすく、正確に伝えられるように書けるようにする。
7	Process 手続き・手順を説明する	指示・助言などを表す助動詞の使い方を身に付ける。 First や Second など順序を表すつなぎ言葉を覚える。
8	Description of Feelings 感情を描写する	自分の思ったこと、感じたことを書けるようにする。
9	Description of Feelings 感情を描写する	感情や感想を表す形容詞や決まった言い回しを覚える。
10	Description of People 人を描写する	人物の外見、性格、気質などを書けるようにする。
11	Description of People 人を描写する	場所、場面の特徴をわかりやすく書けるようにする。
12	Description of Places & Locations 場所を描写する	位置関係を表す副詞表現を覚える。 存在を描写する動詞の使い方を身に付ける。

13	Description of Places & Locations 場所を描写する	感情を表す形容詞を使って短い文を書く。
14	Definition 人物や物事を定義する	人物や物事を定義し、詳しく説明できるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（春学期に一度）。
テキストの予習。
パラグラフの作成。

【テキスト（教科書）】

仲谷都他著『Smart Writing—Active Approach to Paragraph Writing（はじめてのパラグラフ・ライティング）』（成美堂）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 50 パーセント、レポート・スピーチ・試験 50 パーセントの比率で評価する。
一度休むごとに平常点から 2 点ずつ引いていく。
4 回以上欠席した場合単位取得の意思がないものとみなす。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材をより興味深いものにする。ライティングの比重を高くする。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。

特に、授業中にスマホを机の上に出すことは禁止します。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds dictionaries useful for writing good English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 20 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニング、ライティング、スピーキングの基本的な技術を習得することを目指す。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。ライティングではパラグラフの構造を理解し、パラグラフライティングを実践する。スピーキングでは、効果的なスピーチの技術を学ぶ。最終的には、この授業で扱う様々な学習法を習得することによって、総合的な英語学習能力の獲得を目指す。

【到達目標】

外国語を学ぶとき、発音することの重要性を理解する。
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。
英語らしい発音ができるようになる。
リスニング能力が向上する。
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようになる。
論理的なパラグラフの構造を理解し、効果的なパラグラフが作成できる。
エッセー作成のための手順を実践できる。
辞書がなんであるかを理解する。
英文を作成する際辞書が活用できるようになる。
4 パラグラフからなるエッセーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力向上のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させ、また、先を予測する能力を身につける。さらに、シャドーイングというリスニング学習法を実践する。教材は毎回作成する。テキスト内のトピックについて、自分の意見を簡単な英語で表現する練習をする。様々なトピックについて、短いパラグラフを作成する。テキスト掲載のエッセーをモデルにして、様々な形式のエッセイを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Comparison & Contrast 比較と対照	2 人の人や 2 つの物事の類似点、相違点をわかりやすく書けるようにする。
2	Comparison & Contrast 比較と対照	類似点や相違点を表す表現を覚える。
3	Cause & Effect 原因と結果	物事の原因と結果を理解して、書けるようにする。
4	Cause & Effect 原因と結果	原因、結果を表す語（句）を覚える。
5	Problems & Solutions 問題と解決策	問題を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるようにする。
6	Problems & Solutions 問題と解決策	問題と解決策を書く時には、この 2 つを連結する動詞（句）や前置詞の使い方を身につける。
7	Process 手続き・手順を説明する	指示・助言などを表す助動詞の使い方を身に付ける。 First や Second など順序を表すつなぎ言葉を覚える。
8	Your Opinion Agree 賛成意見を述べる	ある事象に対して、賛成する自分の意見をまとめて書けるようにする。
9	Your Opinion Agree 賛成意見を述べる	賛成意見を述べる時、どのくらいの程度で賛成かを入れる。 何について賛成か、なぜ賛成かを明確に表現する。

10	Your Opinion Disagree 反対意見を述べる	反対意見を述べる時、はっきりと反対であることを言う。 あまり強くなり過ぎないように、相手に失礼にならないようにする。 何について反対か、なぜ反対かを論理的に説明する。
11	Your Opinion Disagree 反対意見を述べる	ある事象に対して、反対する自分の意見をまとめて書けるようにする。
12	Data Analysis データ分析	集計結果をグラフや表を使用してわかりやすく書けるようにする。
13	Data Analysis データ分析	グラフや表で良く使われる動詞表現、名詞表現、比較表現を覚える。
14	Email Writing 英文 E メール・英文レター	基礎的な Eメールの形、表現を学び、英文 Eメールを書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（春学期に一度）。
テキストの予習。
パラグラフの作成。

【テキスト（教科書）】

仲谷都他著『Smart Writing-Active Approach to Paragraph Writing（はじめてのパラグラフ・ライティング）』（成美堂）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 50 パーセント、レポート・スピーチ・試験 50 パーセントの比率で評価する。
一度休むごとに平常点から 2 点ずつ引いていく。
4 回以上欠席した場合単位取得の意思がないものとみなす。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材をより興味深いものにする。
ライティングの比重を高くする。
英語で話す機会を増やす。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。授業中私語をするなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。
特に、授業中にスマホを机の上に出すことは禁止します。教師と学生の対話を通して、適度楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline and objectives】

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English.

LANe100LA	English 2 I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	English 2 I	2016 年度以前入学者
クリス マシオ		

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 21 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication techniques open up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice their speaking and writing. Attention will also be given to developing the skills students require to be independent language learners.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation	Introduction to the course, students and teacher.
2	Unit 1 First Impressions	Speaking and writing task: features you look for when you meet someone.
3	Unit 1 First Impressions	Presentation: what I look for in a person.
4	Unit 2 Big or small?	Speaking and writing task: ideas about living in a big city or a small town.
5	Unit 2 Big or small?	Presentation: what I like about where I live.
6	Unit 3 The Good Language Learner	Speaking and writing task: pros and cons of living in another country.
7	Unit 3 The Good Language Learner	Presentation: an international adventure.
8	Mid-semester test.	Review of the semester thus far.
9	Unit 6 What are friends for?	Speaking and writing task: things close friends do for each other.
10	Unit 6 What are friends for?	Presentation: a friend I really like.
11	Unit 7 What's for lunch?	Speaking and writing task: deciding which foods are healthy.
12	Unit 7 What's for lunch?	Presentation: what I eat.
13	Semester review	Review of the semester thus far.
14	Final test	Feedback on the course and reflection.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)
ISBN 9789813134386
Pearson
¥ 3,316

【参考書】

Worksheet handouts

【成績評価の方法と基準】

On-going evaluation of in-class participation (25%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (20%)

Final test (25%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and the internet.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class.

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice combined with activities and tasks for expanding their vocabulary. Additionally, students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

クリス マシオ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 21 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication techniques open up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice their speaking and writing. Attention will also be given to developing the skills students require to be independent language learners.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with the writing process.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

The instructor will act as a facilitator and provide support to ensure students successfully achieve the goals of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 8 Your Online Past	Introduction to the semester. Speaking and writing task: your digital literacy skills.
2	Unit 8 Your Online Past	Presentation: my digital life.
3	Unit 10 My Student Life	Speaking and writing task: important reasons to go to university.
4	Unit 10 My Student Life	Presentation: how to be a happy student.
5	Unit 12 Create another future	Speaking and writing task: ways to save the environment.
6	Unit 12 Create another future	Presentation: how to make the world a better place.
7	Mid-semester test.	Review of the semester thus far.
8	Unit 14 Government Control	Speaking and writing task: how much control do you want in your life?
9	Unit 14 Government Control	Presentation: decisions in my life.
10	Unit 16 What makes you happy?	Speaking and writing task: what makes a person happy?
11	Unit 16 What makes you happy?	Presentation: my ideas for happiness.
12	Unit 17 Who will help them?	Speaking and writing task: what are the world's biggest problems?
13	Unit 17 Who will help them?	Presentation: who needs help in your country, city or neighborhood?
14	Final test	Feedback on the course and reflection

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets. They are also required to keep a learning journal of what they read and listen to outside of class.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 (3rd Edition)

ISBN 9789813134386

Pearson

¥ 3,316

【参考書】

Worksheet handouts

【成績評価の方法と基準】

On-going evaluation of in-class participation (25%)

Homework completion (30%)

Mid-semester test (20%)

Final test (25%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Occasional use of computers and the internet.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【Outline and objectives】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice combined with activities and tasks for expanding their vocabulary. Additionally, students will be given opportunities to develop their writing skills within the context of the course material.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

山崎 亮介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 22 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 技能を組み合わせる効果的なコミュニケーションの送受信ができる英語力の養成を目標にした授業です。単に英文を読んで訳すといった学習にとどまらず、授業内において学んだ文法や語彙の運用が積極的にできるような学習者参加型の活動を取り入れた授業を行います。また自身の考えを英語で表現するという目標に基づいて、英語によるセンテンスやパラグラフなどの文章作成も練習していきます。

【到達目標】

1. テキストの学習内容を理解したうえで、内容について自分なりの意見を構築し、それを表現できる。
2. ペア・ワークやグループ・ディスカッションに積極的に参加することを通して、受講生同士で意見や情報を伝え合うことができる。
3. 授業内のディスカッションにおいて、自身の考えを論理的に発せられるようになることに加え、他の受講生の意見についても丁寧に耳を傾ける姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の各 Unit を 2 週かけて学習していきます。授業内で進めていく学習と、事前の予習に基づいた学習があるため、指定された箇所の予習は必ず事前に済ませておくことは必須です。予習箇所については、前の週ごとにこちらから指示を出します。

四つの基礎技能の学習において、文法の理解ならびに語彙の獲得は重要な共通項であるため、各 Unit の終了時に小テスト（計 6 回を予定）を実施し、習熟の程度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半期の授業の進め方について：導入アクティビティ
2	Unit 1: Food from the Earth (1)	Introduction of the Unit, Grammar, Listening, and Conversation
3	Unit 1: Food from the Earth (2)	Reading, Writing, and the Comprehensive Activities Watching the Video
4	Unit 2: Express Yourself (1)	Introduction of the Unit, Grammar, Listening, and Conversation
5	Unit 2: Express Yourself (2)	Reading, Writing, and the Comprehensive Activities Watching the Video
6	Unit 3: Cities (1)	Introduction of the Unit, Grammar, Listening, and Conversation
7	Unit 3: Cities (2)	Reading, Writing, and the Comprehensive Activities Watching the Video
8	Unit 4: The Body (1)	Introduction of the Unit, Grammar, Listening, and Conversation
9	Unit 4: The Body (2)	Reading, Writing, and the Comprehensive Activities Watching the Video
10	Unit 5: Challenges (1)	Introduction of the Unit, Grammar, Listening, and Conversation
11	Unit 5: Challenges (2)	Reading, Writing, and the Comprehensive Activities Watching the Video
12	Unit 6: Transitions (1)	Introduction of the Unit, Grammar, Listening, and Conversation
13	Unit 6: Transitions (2)	Reading, Writing, and the Comprehensive Activities Watching the Video
14	期末テスト	学期内で学習した習熟度を確認するための試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、指定された箇所の予習は必須です（例：各ユニットの 2 回目における Reading 内容についてあらかじめ読んでくること）。予習範囲で分からない単語も事前に調べておきましょう。
予習段階で分からない内容があっても構いませんが、「何が」「どこが」分からなかったのかを明確にし、授業内で質問できるようにしてきてください。

【テキスト（教科書）】

テキスト：World English 2 (second edition)

出版社：Cengage Learning

出版年：2015 年

価格：¥ 3,000 + 税

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 %（授業への貢献度：授業内での発言、学習への熱心な取り組み、ペアワークやグループ・ディスカッションなどへの積極的参加度）
 2. 各ユニットの小テスト 30%
 3. 期末試験 40%
- ※ 欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
※ 3 回の遅刻（授業開始時刻から 15 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目によりアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

毎時、必ず辞書を持参すること。辞書の形式は電子辞書でも紙媒体でも、形式は問いません。スマートフォンや携帯電話などの外部と通信できる機能を有するものは、原則辞書として認めません。

【Outline and objectives】

This course focuses on basic and academic English for practical purposes and aims to help students to present their ideas in English. In order to achieve the goal, students will have several opportunities to communicate with other students through pair work and small group discussion. Furthermore, this course sets the writing of sentences and paragraphs in English as one of the important academic skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

山崎 亮介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 22 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 技能を組み合わせる効果的なコミュニケーションの送受信ができる英語力の養成を目標にした授業です。単に英文を読んで訳すといった学習にとどまらず、授業内において学んだ文法や語彙の運用が積極的にできるような学習者参加型の活動を取り入れた授業を行います。また自身の考えを英語で表現するという目標に基づいて、英語によるセンテンスやパラグラフなどの文章作成も練習していきます。

【到達目標】

1. テキストの学習内容を理解したうえで、内容について自分なりの意見を構築し、それを表現できる。
2. ペア・ワークやグループ・ディスカッションに積極的に参加することを通して、受講生同士で意見や情報を伝え合うことができる。
3. 授業内のディスカッションにおいて、自身の考えを論理的に発せられるようになることに加え、他の受講生の意見についても丁寧に耳を傾ける姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の各 Unit を 2 週かけて学習していきます。授業内で進めていく学習と、事前の予習に基づいた学習があるため、指定された箇所の予習は必ず事前に済ませておくことは必須です。予習箇所については、前の週ごとにこちらから指示を出します。
四つの基礎技能の学習において、文法の理解ならびに語彙の獲得は重要な共通項であるため、各 Unit の終了時に小テスト（計 6 回を予定）を実施し、習熟の程度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	後期ガイダンス	前期の復習：後期の学習内容確認：アクティビティ
2	Unit 7: Luxuries (1)	Introduction of the Unit, Grammar, Listening, and Conversation
3	Unit 7: Luxuries (2)	Reading, Writing, and the Comprehensive Activities Watching the Video
4	Unit 8: Nature (1)	Introduction of the Unit, Grammar, Listening, and Conversation
5	Unit 8: Nature (2)	Reading, Writing, and the Comprehensive Activities Watching the Video
6	Unit 9: Life in the Past (1)	Introduction of the Unit, Grammar, Listening, and Conversation
7	Unit 9: Life in the Past (2)	Reading, Writing, and the Comprehensive Activities Watching the Video
8	Unit 10: Travel (1)	Introduction of the Unit, Grammar, Listening, and Conversation
9	Unit 10: Travel (2)	Reading, Writing, and the Comprehensive Activities Watching the Video
10	Unit 11: Careers (1)	Introduction of the Unit, Grammar, Listening, and Conversation
11	Unit 11: Careers (2)	Reading, Writing, and the Comprehensive Activities Watching the Video
12	Unit 12: Celebrations (1)	Introduction of the Unit, Grammar, Listening, and Conversation
13	Unit 12: Celebrations (2)	Reading, Writing, and the Comprehensive Activities Watching the Video
14	期末テスト	学期内で学習した習熟度を確認するための試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、指定された箇所の予習は必須です（例：各ユニットの 2 回目における Reading 内容についてあらかじめ読んでくること）。予習範囲で分からない単語も事前に調べておきましょう。
予習段階で分からない内容があっても構いませんが、「何が」「どこが」分からなかったのかを明確にし、授業内で質問できるようにしてきてください。

【テキスト（教科書）】

テキスト：World English 2 (second edition)
出版社：Cengage Learning
出版年：2015 年
価格：¥ 3,000 + 税

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 %（授業への貢献度：授業内での発言、学習への熱心な取り組み、ペアワークやグループ・ディスカッションなどへの積極的参加度）
 2. 各ユニットの小テスト 30%
 3. 期末試験 40%
- ※ 欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
※ 3 回の遅刻（授業開始時刻から 15 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

毎時、必ず辞書を持参すること。辞書の形式は電子辞書でも紙媒体でも、形式は問いません。スマートフォンや携帯電話などの外部と通信できる機能を有するものは、原則辞書として認めません。

【Outline and objectives】

This course focuses on basic and academic English for practical purposes and aims to help students to present their ideas in English. In order to achieve the goal, students will have several opportunities to communicate with other students through pair work and small group discussion. Furthermore, this course sets the writing of sentences and paragraphs in English as one of the important academic skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

Kregg Johnston

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 23 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English communication skills

【到達目標】

This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among 5 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied. Students will give a short presentation at the end of the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation of class requirements, tasks, goals.	Explanation of class requirements, tasks, goals.
Week 2	Unit 1 Introductions, greetings, names, nationalities	Introducing yourself; "Be" verbs in questions & statements
Week 3	Unit 1 Introductions, greetings, names, nationalities	Exchanging personal information; Starting & ending a conversation; Subject pronouns & possessive adjectives
Week 4	Unit 2 Jobs, workplaces, daily schedules	Asking for & giving opinions; Simple present wh- questions
Week 5	Unit 2 Jobs, workplaces, daily schedules	Describing daily schedules; prepositions of time
Week 6	Quiz Unit 1-2	Quiz
Week 7	Unit 3 Shopping; Prices; colors; material	Talking about prices; Giving opinions; Discussing preferences
Week 8	Unit 3 Shopping; Prices; colors; material	Comparing with adjectives; How much/Which questions
Week 9	Unit 4 Music; Movies; Entertainment	Questions with "do"; Talking about likes & dislikes;
Week 10	Unit 4 Music; Movies; Entertainment	Giving opinions; making invitations & excuses
Week 11	Quiz Unit 3-4	Quiz
Week 12	Unit 5 Families & relationships	Talking about family & family members; Present continuous questions
Week 13	Unit 5 Families & relationships	Using quantifiers; Exchanging information about the present
Week 14	Quiz Unit 5	Quiz Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

【テキスト（教科書）】

Interchange 1(5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62031-1

【参考書】

Self Study online

Interchange 1 Workbook, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

<http://www.cambridge.org/interchangeacademy/>

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion skills

【Outline and objectives】

In this course, students learn to develop their communicative competence in both speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 II

2016 年度以前入学者

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 23 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English communication skills

【到達目標】

This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among 5 units from the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied. Students will give a short presentation at the end of the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Begin Unit 7 Free time & weekend activities	Explanation of class Questions-simple past
Week 2	Unit 7 Free time & weekend activities	Talking about past events; Giving opinions about past experiences
Week 3	Unit 8 Stores & places in a city	Asking about and describing locations; Prepositions of place
Week 4	Unit 8 Stores & places in a city	Asking about quantity; How much/how many with nouns
Week 5	Quiz Unit 7-8	Quiz
Week 6	Unit 9 Appearance, Style, People	Asking about& describing appearance
Week 7	Unit 9 Appearance, Style, People	Identifying people; Questions for describing people; Modifiers with participles & prepositions
Week 8	Unit 10 Past experience, Unusual activities	Describing past experiences; Asking questions using the present perfect tense
Week 9	Unit 10 Past experience, Unusual activities	Using "already" and "yet" with the present perfect. Contrasting present perfect with simple past tense
Week 10	Quiz Unit 9-10	Quiz
Week 11	Unit 11 Cities, Hometowns, Countries	Asking about and describing cities; Using conjunctions in sentences
Week 12	Unit 11 Cities, Hometowns, Countries	Asking for & giving suggestions; Talking about travel; using modals "can" and "should"
Week 13	Unit 12 Health problems, medication & remedies	Talking about health problems; Asking for and giving advice; Making requests
Week 14	Quiz Unit 11-12	Quiz Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

【テキスト（教科書）】

Interchange 1(5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62031-1

【参考書】

Self Study online

Interchange 1 Workbook, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

<http://www.cambridge.org/interchangeacademy/>

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion skills

【Outline and objectives】

In this course, students learn to develop their communicative competence in both speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 I

2016 年度以前入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

文 1 年：英語 24 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include why man explores his own world and others and what makes us either fear or worship outsiders.

【到達目標】

This course focuses on helping students develop active listening and note taking skills as well as learning to speak in pairs, small groups and in front of the whole class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	A content based language course. Our Topic: Science Fiction. The literary heritage of S.F. Our Sub-topics: Exploration, Visitation, Transformation, Dystopia.	The origins of the Science Fiction Film: Georges Melies and A Trip to the Moon.
Week 2	Explorations Part I : Our World: Jules Verne: The father of science fiction. A look at the literary tradition. Exploring our world ; Journey to the Center of the Earth . Why does man explore? Women in S.F.	All class activity #1 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 3	Exploration; Optimism and Pessimism in the work of Jules Verne, 20,000 Leagues Under the Sea.	All Class activity #2. Pair work. Listening and Note Taking
Week 4	What Does the Future hold for Humanity? H.G. Wells" The Time Machine	All class activity #3 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 5	Early American Science Fiction and racism in the Flash Gordon Serials	All class activity #4 pair work, Listening and Note-taking
Week 6	Screening of Forbidden Planet and the Three mysteries of the film	While watching/listening note taking and information gap activities
Week 7	Solution to the mysteries and analysis of Forbidden Planet.	All class Activity #5 discussion and review
Week 8	Visitations Part I: Duper Analysis of F.P with a twist of Freud.Introduction to theme of visitation	All class activity #6 Speaking in small groups, Listening and Note-taking

Week 9	Our aliens and ourselves: are they projections of who we are?	All class activity #7 pair work, Listening and Note-taking
Week 10	H.G.Wells and The War of The Worlds: A metaphorical link with the times	All class activity #8 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 11	Screening The Thing Major themes in the Alien Invasion film	All Class activity #9 Close analysis. Speaking in small groups
Week 12	Earth Vs The Flying Saucers, It Conquered The World. The Cold War	All class activity #10 pair work, Listening and Note-taking
Week 13	Vistations ;Extra-terrestrial Messiahs The Day the Earth Stood Still, E.T., Close Encounters , Contact	All Class Activity #11 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
Week 14	Visitations Part II Extra-terrestrial Immigrants: Alien Nation, Men In Black, K-Pax	All class activity #12 pair work, Listening and Note-taking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

All reading and writing assignment must be completed before each class and students must be prepared for in class discussions.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which students are required to keep in a well organised notebook. Students should have a good electronic dictionary in class.

【参考書】

Students should have a good dictionary in class

【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 8 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of your grade. The activities will be combined into one longer, comprehensive review activity in the last class which will give students an opportunity to raise their scores.

【学生の意見等からの気づき】

Because students have said that some of the films are more interesting and useful for discussion and study than others I have tried to give more time to the films students say they prefer

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 24 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the Science Fiction film. We try to understand why people both enjoy and need these films. Topics studied include the ways in which science and technology transform human life and the world we live in and how our future may be an uncertain one if we do not learn how to use science and technology with wisdom and restraint

【到達目標】

This course focuses on helping students develop active listening and note taking skills as well as learning to speak in pairs, small groups and in front of the whole class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to Transformations; Experiments H.G. Wells' The Island of Dr. Moreau	review of previous themes, small group work and review of notes
week 2	Accidents: The Incredible Shrinking man and the Amazing Colossal Man	All class activity #1 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 3	Evolutions: 2001 a Space Odyssey and The Time Machine	All Class activity #2. Pair work. Listening and Note Taking
week 4	Augmentations: Robocop and Johnny Mnemonic	All class activity #3 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 5	Artificial Intelligence: Colossus The Forbin Project and The Terminator	All class activity #4 pair work, Listening and Note-taking
week 6	2001: A Space Odyssey, Screening first part of Bladerunner	All class Activity #5 discussion and review
week 7	Screening Bladerunner, the mystery of the Unicorn	While watching/listening note taking and information gap activities
week 8	Close Analysis of Bladerunner	All class activity #6 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 9	Introduction to Dystopia: H.G. Wells Things to Come, Fritz Lang's Metropolis,	All class activity #7 pair work, Listening and Note-taking
week 10	Why Wells Hated Metropolis: Optimism and Pessimism again. Zamiatin's we and THX -!38	All class activity #8 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 11	Alders Huxley's Brave New World and Gattaca, first 12 minutes of 1984	All Class activity #9 Close analysis. Speaking in small groups
week 12	Screening of 1984	While watching/listening note taking and information gap activities

week 13	Close Analysis of 1984 and Anthony Burgess's A Clockwork Orange	All Class Activity #10 Speaking in small groups, Listening and Note-taking
week 14	John Carpenter's They :I've and Ray Bradbury's Fahrenheit 451.	All class activity #11 pair work, Listening and Note-taking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

All reading and writing assignment must be completed before each class and students must be prepared for in class discussions.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which students are required to keep in a well organised notebook. Students should have a good electronic dictionary in class.

【参考書】

Students should have a good dictionary in class

【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on active participation in class. There will be between 8 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of your grade. The activities will be combined into one longer, comprehensive review activity in the last class which will give students an opportunity to raise their scores.

【学生の意見等からの気づき】

Because students have said that some of the films are more interesting and useful for discussion and study than others I have tried to give more time to the films students say they prefer

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 25 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

Students will develop their analytical skills in English. Students develop listening and note taking skills as well as the ability to hold a discussion in English in a small group .

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to Course methods, rules etc. Needs and desires: Excerpts from Phantom of the Opera and Nosferatu	Students make groups and exchange contact information, short discussions
week 2	Lon Chaney and the making of monsters; The penalty and the Hunchback of Notre Dame	All Class activity #1 active listening, note taking and Vocabulary development
week 3	Lon Chaney and The Phantom of The Opera The Evil and the Ugly.	All class activity #2 pair work and small group problem solving
week 4	The Historical Dracula, the Literary Dracula and the Making of Nosferatu; Merhage's Shadow of The Vampire	All Class Activity #3. Listening and note taking, vocabulary work.
week 5	The Universal Dracula and the revisionist Bram Stoker's Dracula	All Class activity #4; small group work and listening , note taking
week 6	The Creation and the Fall, the Garden and Forbidden fruit Interview with a Vampire. Evil as a choice	All Class activity #5 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 7	Review of Vampire Choice, Dracula and and Bram Stoker's Dracula .	All class Activity #6 pair work , Lecture and listening activities
week 8	A Marxist Reading of Dracula? Shadow of The vampire, Blood for Dracula	All class activity #7. Listening and note taking
week 9	Screening of Frankenstein (1931)	While watching activities and information gap tasks
week 10	Biblical Allegory : Creation of Man, Greek Mythology: The Theft of Fire, The Wind Mill as Cross.	All Class activity #8 ,small group problem solving and vocabulary work.

week 11	The Monster: Guilty or Innocent?	All Class activity #9 Listening and lecture, information gap activities
week 12	Introduction to and screening of Part I of Dr. Jekyll and Mr Hyde	All Class activity #10 ,small group problem solving information gap activities
week 13	Close analysis of and Screening second part of Dr. Jekyll and Mr Hyde	All Class activity #11 Pair work and vocabulary activities.
week 14	Close analysis of Dr J and Mr. H. and the Freudian interpretation of the film	All Class activity #12 ,small group problem solving and vocabulary work.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be homework assigned each week which may include short reading assignments, short writing assignments or research on line.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which are to be kept for the entire class in a neat and well organized notebook

【参考書】

Students should have a good dictionary in class

【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on attendance and active participation in class. There will be between 10 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of the grade, however the comprehensive review activity at the end of the semester is an opportunity for students to improve their grade.

【学生の意見等からの気づき】

The content of this class has been changed, but the method and goals remain the same .

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ジェフリー タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 25 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include taboos and cultural universals, iconography, the history of Western moral values and the especially the emergence of psychoanalysis.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

Students will develop their analytical skills in English. Students develop listening and note taking skills as well as the ability to hold a discussion in English in a small group .

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, and work in pairs and small groups in order to develop their speaking skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Transformations: The Universal Wolfman	students make groups and exchange contact information, short discussions
week 2	The Style and new approach of John Braum's the Undying Monster	All Class activity #1 active listening, note taking and Vocabulary development
week 3	John Braum's The Lodger and the Real Jack	All class activity #2 pair work and small group problem solving
week 4	Screening of The Cat People	All Class Activity #3. Listening and note taking, vocabulary work.
week 5	Close Analysis of The cat People	All Class activity #4; small group work and listening , note taking
week 6	The Style and themes of Val Newton films: I walked with a Zombie	All Class activity #5 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 7	The Style and Themes of Newton films part two: The Leopard Man	All class Activity #6 pair work , Lecture and listening activities
week 8	Robert Wises The Haunting Part One	All class activity #7. Listening and note taking
week 9	Robert Wises The Haunting Part two	While watching activities and information gap tasks
week 10	The "baggage we carry, The haunting as psychological Trauma explained	All Class activity #8 ,small group problem solving and vocabulary work.
week 11	Whatever Happened to Baby Jane or the horror that dwells within the family.	All Class activity #9 Listening and lecture, information gap activities
week 12	Alfred Hitchcock Psycho Part One	All Class activity #10 ,small group problem solving information gap activities
week 13	Alfred Hitchcock's Psycho Part two	All Class activity #11 Pair work and vocabulary activities.
week 14	Close analysis of Psycho: The Style and content.	All Class activity #12 ,small group problem solving and vocabulary work.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be homework assigned each week which may include short reading assignments, short writing assignments or research on line.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be provided by the instructor which are to be kept for the entire class in a neat and well organized notebook

【参考書】

Students should have a good dictionary in class

【成績評価の方法と基準】

20 % of the grade is based on attendance and active participation in class. There will be between 10 and 12 graded in class exercises during the semester which may include reading or writing or listening tasks. The average of all but the two lowest scores will count for 80% of the grade, however the comprehensive review activity at the end of the semester is an opportunity for students to improve their grade.

【学生の意見等からの気づき】

The content of this class has been changed, but the method and goals remain the same.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ロバート・D・ヒント

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 26 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions, understanding the course goals, student information	Basic information about procedure
Week 2	Culture study - focus New York	Brainstorming and learning about New York City
Week 3	Personality scales survey	Brainstorming and learning about New York City
Week 4	Personality presentation	Student presentations
Week 5	American justice system	A study of judges and courts in USA
Week 6	Crime and punishment	Students will decide what punishments are appropriate for crimes
Week 7	survival in nature	Students will take a survival quiz
Week 8	Survival in society	Techniques for surviving
Week 9	Survival in differing environments	Dealing with culture shock
Week 10	Learning about Tokyo	Students will discover areas of interest in Tokyo
Week 11	Tokyo critique presentation	Student presentations
Week 12	Group work for study of the culture of a foreign country	Students will do research about the culture/society of a foreign country and create a poster
Week 13	Poster presentation session	Student presentations
Week 14	Poster presentation session	Student presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ロバート・D・ヒント

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 26 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Holiday	Students will do an interactive activity about their holiday
Week 2	Culture study - focus on Australia	Students will collect information about Australia from a travel documentary
Week 3	American icon - Oprah Winfrey	Information search about this icon
Week 4	Oprah Winfrey - a biography of success	Students will learn more about this Oprah and start their research project
Week 5	Icon research project	Student will prepare for presentations, peer feedback
Week 6	Icon presentations	Student presentations
Week 7	Film review/ critique	How to write a critique/review
Week 8	Group work on film critique	Students will work in groups to prepare for presentations
Week 9	Group presentations	Group presentations
Week 10	Race relations in America	Students will learn about different ethnic groups in USA
Week 11	Stereotypes	How stereotyping occurs and related issue
Week 12	Culture differences	Students will do a culture simulation activity
Week 13	Mass media	How stereotyping occurs and related issue
Week 14	Commercials	Students will evaluate the appeal of various commercials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline and objectives】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 27 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome.	Getting to know you.
2	Q & A	Talking about you.
3	Q & A	Talking about the word you live in.
4	How do you do that?	Verbs of instruction.
5	Sing your heart out.	Pronunciation.
6	Want to hear a good story?	Starting a story.
7	Finish that story.	The middle and the end.
8	Get into shape.	The language of exercise.
9	Another song.	Pronunciation.
10	Shopping	Finding your way around the department store.
11	What do you call it?	Guessing that meaning.
12	It's a wild world.	The language of the jungle.
13	Songs	Pronunciation.
14	Dictation	Listening and writing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%
Passing scores are 60% and above.

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
文 1 年：英語 27 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Grammar Time.	Basic grammar.
2	Quiz master.	Questions and answers.
3	Cooking for the ones you love.	A recipe.
4	Your world.	Presentation.
5	your world.	Presentation.
6	You know what I mean.	Guessing the meaning of words.
7	What if...?	What would you do if....?
8	Sing that song out loud.	Pronunciation.
9	Dictation.	Listening and writing.
10	Story telling.	Make it better.
11	Story telling.	Getting the ending right.
12	Tell me what they look like.	Talking about what people look like.
13	Winter food.	A recipe.
14	Question master.	In the hot seat answering questions.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%
Passing scores are 60% and above.

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

中田 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
文 1 年：英語 28 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、英語で口頭および文章で表現する力を養う。特に、topic sentence, supporting sentences, concluding sentence 等のパラグラフ構成を意識し、一貫した英文を作成する能力を育成する。

【到達目標】

- 1) 指定のトピックに関するまとまった英文を読んだり聞いたりして、口頭および文章で要約したり、自分の意見を英語で効果的に表現することができる。
- 2) パラグラフやエッセイの構成を意識し、一貫した英文を作成することができる。
- 3) アイコンタクト、ジェスチャー、視覚資料等を効果的に活用し、英語で自分の意見を効果的に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックに関する英文を読んだり聞いたりした後に、その要約や自分の意見を書く。また、プレゼンテーションやグループディスカッションなどを通して、口頭で効果的に表現する練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	成績・評価、授業運営等の説明
2	Chapter 1	Introducing Yourself
3	Chapter 1	定義
4	Chapter 2	Writing a Story by Yourself
5	Chapter 2	出来事や経験を語る
6	Presentation practice	Enhancing Eye Contact
7	Review	Mid-term Presentations
8	Chapter 3	Writing Your Own Recipe
9	Chapter 3	手続きや手順の説明
10	Chapter 4	Different Varieties of English
11	Chapter 4	パラグラフの書き方
12	Chapter 5	Describing Interesting People and Places
13	Review	Final Presentations
14	Review	Final Presentations & Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英文の課題が授業中に終わらない場合には、授業時間外に完成させておく。また、プレゼンテーションの際には、原稿を読み上げるのではなく、聴衆とアイコンタクトをとりながら発表できるように練習しておく。

【テキスト（教科書）】

熊本たま、大井恭子、上村妙子、Kim Marie Sano、松本佳穂子、『Writing Frontiers 一語で発想するライティング』、金星堂

【参考書】

Just the Word (<http://www.just-the-word.com/>) や YouGlish (<http://youglish.com/>) 等の web サイトを積極的に活用し、コロケーション・語法・発音を調べることを推奨する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、プレゼンテーション 40 %、小テスト・英作文 30 %
4 回以上欠席した場合は、原則として単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき該当なし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to prepare students for success in writing and speaking English in academic settings. To this end, students will read or listen to English texts on a variety of topics, and practice summarizing and discussing issues related to topics covered in the texts.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 II

2016 年度以前入学者

中田 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
文 1 年：英語 28 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、英語で口頭および文章で表現する力を養う。特に、topic sentence, supporting sentences, concluding sentence 等のパラグラフ構成を意識し、一貫した英文を作成する能力を育成する。

- 【到達目標】
- 1) 指定のトピックに関するまとまった英文を読んだり聞いたりして、口頭および文章で要約したり、自分の意見を英語で効果的に表現することができる。
 - 2) パラグラフやエッセイの構成を意識し、一貫した英文を作成することができる。
 - 3) アイコンタクト、ジェスチャー、視覚資料等を効果的に活用し、英語で自分の意見を効果的に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
日常生活や現代社会のさまざまなトピックに関する英文を読んだり聞いたりした後に、その要約や自分の意見を書く。また、プレゼンテーションやグループディスカッションなどを通して、口頭で効果的に表現する練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 6	Expressing Your Feelings
第 2 回	Chapter 6	例を挙げる
第 3 回	Chapter 7	Introducing Your Hometown
第 4 回	Chapter 7	プロセス・ライティングとは
第 5 回	Chapter 8	Studying More about the World
第 6 回	Chapter 8	分類
第 7 回	Review	Mid-term Presentations
第 8 回	Chapter 9	Why Are They So Popular?
第 9 回	Chapter 9	理由
第 10 回	Chapter 10	Why Have Fast Food Shops Become Popular in Japan?
第 11 回	Chapter 10	原因と結果
第 12 回	Chapter 11	Comparing Shogi and Chess
第 13 回	Review	Final Presentations
第 14 回	Review	Final Presentations & Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英作文の課題が授業中に終わらない場合には、授業時間外に完成させておく。また、プレゼンテーションの際には、原稿を読み上げるのではなく、聴衆とアイコンタクトをとりながら発表できるように練習しておく。

【テキスト（教科書）】
熊本たま、大井恭子、上村妙子、Kim Marie Sano、松本佳穂子、『Writing Frontiers ―英語で発想するライティング』、金星堂

【参考書】
Just the Word (<http://www.just-the-word.com/>) や YouGlish (<http://youglish.com/>) 等の web サイトを積極的に活用し、コロケーション・語法・発音を調べることを推奨する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、プレゼンテーション 40 %、小テスト・英作文 30 %
4 回以上欠席した場合は、原則として単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき該当なし。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to prepare students for success in writing and speaking English in academic settings. To this end, students will read or listen to English texts on a variety of topics, and practice summarizing and discussing issues related to topics covered in the texts.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 I

2016 年度以前入学者

トビー トラブ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
文 1 年：英語 29 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for communicating in a global society.

【到達目標】
This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Getting to Know Each Other Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	handout discussion activities Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Unit 1 Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
4	The Way we Live Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Unit 2 Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

6	Unit 2 Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course. Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade. 【学生の意見等からの気づき】 Not applicable 【学生が準備すべき機器他】 Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary.
7	Research report/ mini-Presentations Connecting the dots Love and Loss Death	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	【その他の重要事項】 This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course.
8	Unit 3: Global thinking Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	【Outline and objectives】 This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of the world with an emphasis on American social, political, and popular culture.
9	Unit 3: Seize the day Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	
10	Unit 3: Swim against the stream. Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	
11	Unit 4: What will your verse be? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	
12	The road less traveled. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	
13	Quiz Song lesson	Quiz Song lesson	
14	Wrap-up	Go over quiz Speaking activity	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete a writing assignment every week in preparation for discussion. This writing assignment will usually require research.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Handouts will be given in class.

【参考書】

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>

<https://www.japantimes.co.jp/news/>

<https://www.yahoo.com/news/>

<http://www.bbc.com/news>

<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%

Quizzes, writing assignments, presentations:60%

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

トビー トラブ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 29 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for communicating in a global society.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome back	What I did over summer break. Recent happenings in the news. Research and writing assignment.
2	Homelessness Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Art and War Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
4	Human Compassion Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.

6	Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
7	Introduce big presentation. Create teams. Go over expectations.	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
8	Presentation topics due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
9	Outline of presentations due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
10	Draft of words of presentations due. Current events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
11	5 Powerpoints due Christmas/holiday comprehension skill building activity. Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
12	Presentation Day.	Tips for the Quiz
13	Song lesson	Song lesson Discussion activity. No homework except to study for big quiz.
14	Big quiz	Thank you.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are given a writing assignment almost every week.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Handouts will be given in class.

【参考書】

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>
<https://www.japantimes.co.jp/news/>
<https://www.yahoo.com/news/>
<http://www.bbc.com/news>
<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%

Quizzes, writing assignments, presentations: 60%

Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course.

Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary.

【その他の重要事項】

This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course.

【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

石原 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 30 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using paragraph writing. You will become aware of some social issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Before class you must work on some listening exercises, study the vocabulary, and do the online exercises independently. In class we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) and group work.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	The effects of advertising (Unit 1): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	The effects of advertising (Unit 1): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
4	Extreme sports (Unit 2): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
5	Extreme sports (Unit 2): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
6	Our aging population (Unit 3): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Our aging population (Unit 3): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
8	Robots in the home (Unit 4): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
9	Robots in the home (Unit 4): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
10	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
12	The online information database (Unit 6): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	The online information database (Unit 6): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
14	Final exam	Vocabulary, listening, comprehension, speaking, writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You must finish some reading/listening tasks and learn the vocabulary online before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Review your lesson thoroughly after class.

【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments, homework, and quizzes (30%)
- 3) Final exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught entirely or mostly in English. You are encouraged to participate actively, express your ideas clearly, and explain logically.

【その他の重要事項】

Course Rules and Expectations

- 1) Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.
- 2) If you have a good reason for your absence, you are responsible for informing me in person or by e-mail in a timely manner. When you miss class, it is your responsibility to find out what course material and homework you missed. If you are absent on a test day, you will not be allowed a make-up test.
- 3) Come to class on time. Two latenesses beyond 10 minutes equal one absence, except in extreme circumstances. If you are late, come to me after class for the record of your attendance.
- 4) You are expected to study course material before class and participate actively. Respect each other and others' learning opportunity. Work hard, make mistakes, and have fun!

【Outline and objectives】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

石原 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 30 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using multiple paragraphs. You will become aware of some issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Before class you must work on some listening exercises, study the vocabulary, and do the online exercises independently. In class we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) and group work.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, warm-up activities
2	Online advertising (Unit 7): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	Online advertising (Unit 7): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
4	Winning at any cost (Unit 8): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
5	Winning at any cost (Unit 8): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
6	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
8	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
9	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
10	Treatment of animals (Unit 11): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Treatment of animals (Unit 11): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
12	Who owns the news? (Unit 12): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	Who owns the news? (Unit 12): Day 2	Discussion, critical thinking, essay structure and writing
14	Final exam - 1	Review test on vocabulary, listening, comprehension, speaking, writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before coming to class, complete some reading/listening tasks and learn the vocabulary online. You must come to class ready to discuss the topic of the week. Review your lesson thoroughly after class.

【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook and loose sheets of paper.

【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments, assignments, and quizzes (40%).
- 3) Final exam (40%)

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught entirely/mostly in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【その他の重要事項】

Course Rules and Expectations

- 1) Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.
- 2) If you have a good reason for your absence, you are responsible for informing me in person or by e-mail. When you miss class, it is your responsibility to find out what course material and homework you missed. If you are absent on a test day, you will not be allowed a make-up test.
- 3) Come to class on time. Two latenesses beyond 10 minutes equal one absence, except in extreme circumstances. If you are late, come to me after class for the record of your attendance.
- 4) You are expected to study course material before class and participate actively. Respect each other and others' learning opportunity. Work hard, make mistakes, and have fun!

【Outline and objectives】

In this course, you will read and listen to articles on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

Kregg Johnston

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 31 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English communication skills

【到達目標】

This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation of class requirements, tasks, goals.	Explanation of class requirements, tasks, goals.
Week 2	Unit 1 Describing personality & relationships	Agreeing, Disagreeing, expressing likes and dislikes,
Week 3	Unit 1 Describing personality & relationships	Complaining, Describing personality types, Relative clauses
Week 4	Unit 2 Jobs, career skills	Comparing with gerund phrases,
Week 5	Unit 2 Jobs, career skills	Strategies for keeping your job. Expressing advantages and disadvantages.
Week 6	Unit 3 Favors, requests, messages	Quiz Units 1-2 Accepting and declining requests, Making requests
Week 7	Unit 3 Favors, requests, message	Leaving messages Making indirect requests
Week 8	Unit 4 Narrating a story	Describing events in the past Using past verb forms
Week 9	Unit 4 Narrating a story	Listen to news broadcasts React to news
Week 10	Unit 5 Comparing different cultures	Quiz Units 3-4 Describing customs Giving advice
Week 11	Unit 5 Comparing different cultures	Giving advice Using modals of necessity
Week 12	Unit 6 Describing problems	Making complaints Describing problems with household items
Week 13	Unit 6 Describing problems	Using the passive voice to emphasize result of action Offering solutions to problems
Week 14	Unit 7 Environmental and world issues	Quiz units 5-6 Unit 7 (Identifying, describing problems, coming up with solutions)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

【テキスト（教科書）】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press) ISBN: 978-1-316-62051-9
Students' book

【参考書】

Self-study online
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Workbook
Vocabulary development:
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 40%
Speech/Presentation 20%
* Students must attend 80% of the classes in order to pass
Students missing more than 3 classes will fail the class

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion skills

【Outline and objectives】

In this course, students learn to develop their communicative competence in both speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

文 1 年：英語 31 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English communication skills

【到達目標】

This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Unit 8. Learning and education	Ice-breakers/ Review Describing preferences, Talking about learning methods
Week 2	Unit 8. Learning and education	Discussing pros and cons Asking questions of choice
Week 3	Unit 9 Self-improvement	Quiz Units 7-8 Describing things that need to be done Asking advice
Week 4	Unit 9 Self-improvement	Giving suggestions Making inferences
Week 5	Unit 10 The past and future	Talking about historic events Giving opinions on the future
Week 6	Unit 10 The past and future	Using time adverbs & prepositions
Week 7	Unit 11 Lessons in life	Quiz Units 9-10 Talking about milestones, past regrets
Weeks 8	Unit 11 Lessons in life	Using time clauses Discussing turning points
Week 9	Unit 12 The right stuff	Describing purpose Giving reasons, qualities for success
Week 10	Unit 12 The right stuff	Infinitives of purpose Talking about ads
Week 11	Unit 13 That's a possibility	Quiz Units 11-12 Explaining hypothetical events Drawing conclusions
Week 12	Unit 13 That's a possibility	Using past modals of certainty Giving opinions and advice
Week 13	Unit 14 Behind the Scenes	Describing how something is done or made Describing media careers
Week 14	Unit 14 Behind the Scenes	Describing a process Using relative clauses

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

【テキスト（教科書）】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Self-Study online

Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Workbook

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion skills

【Outline and objectives】

In this course, students learn to develop their communicative competence in both speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

アネッテ・グルーパー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Time expressions. Comparative adjectives
11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough
13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation: 40%

Test after each chapter: 60%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested listening tracks to be repeated more.

【学生が準備すべき機器他】

Dictionary

【Outline and objectives】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

アネッテ・グルーパー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, must, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect of past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases
13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 40%

Test after each chapter 60%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】
Students requested easier listening exercises.

【Outline and objectives】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in small groups. Both the instructor and the peer partner(s) will read each student's work. This course will emphasize "writing as a process."

【到達目標】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format, to a given audience. The course will cover paragraph development, organization, essay writing, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introductions Course overview Assessment Classroom Management
2.	Process Writing	Six Steps of Academic Writing. Using outlines
3.	Getting ready	Choosing a Topic Brainstorming Editing
4.	Paragraph structure	Topic Sentence Supporting sentences Concluding sentence
5.	Paragraph Development	Styles of support Detail, Explanation, Example
6.	Peer editing	Give constructive feedback using on-line sharing
7.	Descriptive Writing	Using Adjectives:describing people and places
8.	Descriptive Paragraphs	Describing a process using connectors
9.	Organising ideas	Keeping ideas connected and in order
10.	Opinion Paragraphs	Introduce opinion v.s. fact, opinion paragraphs discussion, homework
11.	Opinion Paragraphs	Persuade your readers to accept your opinion
12.	Modal Auxiliary Verbs	Grammar Review
13.	Using Causal Adverbs	Describing cause and effect ideas
14.	Presentation	Present your paragraphs to your peers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 (or 4) short Homework assignments
All assignments written in digital format and submitted via Gmail.
To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays: From Paragraph to Essay" by Dorothy E Zemach and Lisa A Ghuldu MACMILLAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework Assignments:30%

Worksheet Assignments: 30%

Participation: 20%

Presentation:20%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A portable electronic device with a Word Processing capability.

Access to a Cloud computing service will be useful

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on Gmail with a photograph of their name (in English) and their student number. Please download Google Classroom to your device before our first class. Course code is: a0eatq

【Outline and objectives】

Students will participate in pair and group activities to practice speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion. Students will then practice preparing a short essay with multiple paragraphs that are logically connected.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a required course for first year students. Students will practice speaking and listening skills but the focus of this course is on effectively expressing opinions, knowledge and experiences in the written form. Students will be able to apply these skills to any other subjects that they study in their university studies and in future work environments.

【到達目標】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Listening and speaking

Students will be required to participate in pair and group discussions of issues related to their everyday opinions, knowledge and experience.

Writing

Students will be taught the basic structure of Academic style paragraphs and essays: Topic Sentence, Supporting Sentences and Conclusion sentences. Grammatical devices will be taught, as appropriate, for different paragraph types to achieve Unity.

Students will then prepare an essay outline With an Introduction and Thesis statement, 2-3 body paragraphs and a Concluding paragraph.

Students may be required to prepare a short presentation in which they demonstrate their understanding of the correct format for an Academic Essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction	Review of Semester 1 Objectives and achievements. Join Classroom
Class 2	Comparing and Contrasting	Using comparative structures
Class 3	Similarities and Differences	Block versus Point by Point format
Class 4	Advantages and Disadvantages	Prepare and share paragraphs
Class 5	Problem and Solution Paragraphs	Using 5 Conditional Structures
Class 6	Problem and Solution Paragraphs	Linking Problems with solutions for coherence
Class 7	The structure of an Essay	Introduction, Body Conclusion Thesis statement
Class 8	Writing thesis statements	Thesis statement and conclusion
Class 9	Essay Outlines	Using software functions to prepare an outline for an essay
Class 10	Essay Development	Putting the flesh onto the outline. Use standard software functions to
Class 11	Peer Review	Peer Review an Essay. Check for Cohesion and Unity

Class 12 Presentation	Present the structure of Essay to the class to demonstrate understanding of the correct Essay structure.
Class 13 Presentation	Present the structure of Essay to the class to demonstrate understanding of the correct Essay structure.
Class 14 Review	Review the course objectives and student achievements.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

Writing Essays: from paragraph to Essay, Dorothy E. Zemach, Lisa A. Ghulldu, Macmillan Writing Series

【参考書】

To be advised during course

【成績評価の方法と基準】

3 homework assignments each worth 10% of overall assessment = 30%
 3 worksheet assignments each worth 10% of overall assessment = 30%
 2 Student Self Evaluations of pair and group discussion participation each worth 10% = 20%
 1 Presentation of Final Essay structure 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring their e-devices to class. A smartphone is acceptable but a tablet or laptop device is strongly encouraged. Students should have access to Japanese English and English - English e-dictionaries. Paper and pens/pencils might be required for mind-mapping and preparing diagrams.

【その他の重要事項】

We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom” and will be required to change their profile on Gmail with a photograph of their name (in English) and their student number.

【Outline and objectives】

Students will participate in pair and group activities to practice speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion. Students will then practice preparing a short essay with multiple paragraphs that are logically connected. Peer editing, using standard word processor software, will be practiced.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

門馬 義幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を書くことを目標とします。円安により、また東京オリンピックを控え、多くの外国人が日本を訪れるようになりました。困っている外国人を見かけることも多くなり、そのような人たちに英語で話しかけ、手助けできる会話力を身につけましょう。

【到達目標】

この授業では、日常生活において、私たちが使うあたりの表現を学びます。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいますので、基礎的な実用英語と e-mail や手紙の書き方の習得を目指します。日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テープを使いリスニングに力を入れながら、授業を進めていきます。予習はしなくてけっこうですが、復習は必ず行ってください。英会話に必要な基礎的な表現ばかりですので、指定した会話文はすべて暗記する必要があります。授業では毎回、出席している学生全員を指名していければと考えています。各章終了後に確認テストを行います。

私が実際に英米人とやり取りしている e-mail から英文を取り出し、e-mail の書き方や文章の論理的な構成等も説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の方針を説明	Chapter 1 Hi! How are you?
2	Chapter 1	Hi! How are you?
3	Chapter 2	What's your major?
4	Chapter 2	What's your major?
5	Chapter 3	What did she look like?
6	Chapter 3	What did she look like?
7	Chapter 4	Let's take a trip!
8	Chapter 4	Let's take a trip!
9	Chapter 5	How about going out for dinner?
10	Chapter 5	How about going out for dinner?
11	Chapter 6	Let's go shopping!
12	Chapter 6	Let's go shopping!
13	春学期復習	Chapter1-6
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習してください

【テキスト（教科書）】

Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
 Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】

必要な資料、参考書については授業で紹介します

【成績評価の方法と基準】

学期末試験と平常点を成績評価基準とします。それぞれの配分は期末試験（70 %）、確認テストを含む平常点（30 %）です。4 回以上欠席した場合には原則として単位は認めません。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

目標を持って英会話の習得を目指しましょう

【Outline and objectives】

Let's acquire basic English conversation and logical English sentences. Through listening exercises and learning the patterns used in daily life, you will make yourself understood in English.

LANe100LA

English 2 II

LANe100LA

English 2 II

門馬 義幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期と同じ

【到達目標】
春学期と同じ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
春学期と同じ

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】	
回	テーマ
1	Chapter7
2	Chapter7
3	Chapter8
4	Chapter8
5	Chapter9
6	Chapter9
7	Chapter10
8	Chapter10
9	Chapter11
10	Chapter12
11	Chapter12
12	Chapter13
13	秋学期復習
14	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期と同じ

【テキスト（教科書）】
春学期と同じ

【参考書】
春学期と同じ

【成績評価の方法と基準】
春学期と同じ

【学生の意見等からの気づき】
春学期と同じ

【学生が準備すべき機器他】
春学期と同じ

【その他の重要事項】
春学期と同じ

【Outline and objectives】
春学期と同じ

LANe100LA

English 2 I

LANe100LA

English 2 I

パワー トーマス G

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This English 2 course is entitled “Presenting Different Opinions in English: Part 1.” The aim of this course is to provide students with opportunities to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

【到達目標】
Students will read short articles and dialogues on various topics and will learn to gather information and impart their findings in short paragraphs; they will also research a wider topic, adopt a point of view and express their ideas in a multi-paragraph essay. In addition, students will learn how to research a topic and present their findings in small groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
This course is divided into four parts. (a) Students will read out loud short articles and dialogues in a pairwork exercise followed by a teacher-led dictation to test comprehension. (b) Students will learn how to gather information and write the results of their findings in short logically organized paragraphs. (c) Students will learn how to write and format a multi-paragraph composition on a pre-selected topic. (d) Students will learn how to research topics and to present their findings in small groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Aims of the class; distribution of class materials; organizing class groups; class structure and grading.
Week 2	Topic: Education 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 3	Topic: Travel and Culture 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 4	Topic: Health & Environment 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 5	Topic: Society 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 6	Topic: Relationships 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 7	Topic: Media and Technology 1	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.

Week 8	Topic: Education 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 9	Topic: Travel and Culture 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 10	Topic: Health & Environment 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 11	Topic: Society 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 12	Topic: Relationships 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 13	Topic: Media and Technology 2	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 14	Final Remarks and Discussion	Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. All student presentations are to be researched outside class and reflect students' research. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】

Richard McMahon (2017). Presenting Different Opinions. Nan'un-do Co., Ltd. ISBN4-523-17413-X, JPY 2,200.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries in preparation for the weekly reading/dialogue session. References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. The instructor will make research suggestions.

【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:
Participation and regular attendance 20%
Homework and written reports 40%
Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

パワー トーマス G

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English 2 course is entitled "Presenting Different Opinions in English: Part 2." The aim of this course is to provide students with opportunities to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

【到達目標】

Students will express their opinions in written reports, short presentations, and small group discussions. They will read short articles and dialogues on various topics and will learn to gather information and impart their findings in short paragraphs; they will also research a wider topic, adopt a point of view and express their ideas in a multi-paragraph essay. In addition, students will learn how to research a topic and present their findings in small groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is divided into four parts. (a) Students will read out loud short articles and dialogues in a pairwork exercise followed by a teacher-led dictation to test comprehension. (b) Students will learn how to gather information and write the results of their findings in short logically organized paragraphs. (c) Students will learn how to write and format a multi-paragraph composition on a pre-selected topic. (d) Students will learn how to research topics and to present their findings in small groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Aims of the class; distribution of class materials; organizing class groups; class structure and grading.
Week 2	Topic: Education 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 3	Topic: Travel and Culture 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 4	Topic: Health & Environment 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 5	Topic: Society 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 6	Topic: Relationships 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 7	Topic: Media and Society 3	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.

Week 8	Topic: Education 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 9	Topic: Travel and Culture 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 10	Topic: Health & Environment 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 11	Topic: Society 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 12	Topic: Relationships 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 13	Topic: Media and Society 4	Reading pairwork; information gathering session and short paragraph writing; multi-paragraph writing; student presentations.
Week 14	Final Remarks and Discussion	Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. All student presentations are to be researched outside class and reflect students' research. Most presentations will have both a written and visual component.

【テキスト（教科書）】

Richard McMahon (2017). Presenting Different Opinions. Nan'un-do Co., Ltd. ISBN4-523-17413-X, JPY 2,200.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries in preparation for the weekly reading/dialogue session. References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. The instructor will make research suggestions.

【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:
Participation and regular attendance 20%
Homework and written reports 40%
Presentations 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での **speaking**、**writing**、**listening** の練習をすることで、情報収集や **paragraph writing**、**discussion** に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、**speaking** や **writing** で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各 Unit の進め方としては、1つの Unit を前半と後半に分け、2週にわたって1つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の復習やテキストを中心に **listening**、**speaking**、**writing** の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには **reading** のセクションもありますので、内容を確実に理解し、意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、**speaking** のパフォーマンステストや語彙テストなども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業説明、アクティビティー
2	Unit 1 (1) I Love Making Jewelry!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 1 (2) I Love Making Jewelry!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 2 (1) How Long Have You Been Playing Cricket?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 2 (2) How Long Have You Been Playing Cricket?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 3 (1) You Could Ask for Advice.	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 3 (2) You Could Ask for Advice.	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 4 (1) The Koala Was Taken to a Shelter.	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 4 (2) The Koala Was Taken to a Shelter.	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 5 (1) How Was It Formed?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 5 (2) How Was It Formed?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 6 (1) Look at That Narwhal!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 6 (2) Look at That Narwhal!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading, そして語彙に関するテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で行う前には **Language Focus** の発声練習を、各 Unit の (2) を授業で行う前には「**Reading** の予習」を行ってください。「**Reading** の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・**Comprehension** の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておくことを奨励します。

授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：Time Zones Student Book 4 (Second Edition)

著者：Bohlke, D. and Wilkin, J.

出版社：Cengage Learning

出版年：2016 年

価格：2170 円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 %（授業中の活動・単語テスト）
2. 予習 20%
3. 期末試験 50%
 - ・欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
 - ・3 回の遅刻（授業開始時刻から 10 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。
 - ・遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
 - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【その他の重要事項】

授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。携帯電話等のアプリ等、通信可能な機器の使用は認めません。通信可能な電子辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with the classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build their vocabulary knowledge needed to gather information to write paragraphs and have a discussion in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での **speaking**、**writing**、**listening** の練習をすることで、情報収集や **essay writing**、**discussion** に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、**speaking** や **writing** で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各 Unit の進め方としては、1 つの Unit を前半と後半に分け、2 週にわたって 1 つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の復習やテキストを中心に **listening**、**speaking**、**writing** の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには **reading** のセクションもありますので、内容を確実に理解し、意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、**speaking** のパフォーマンステストや語彙テストなども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm-up	春学期の復習、アクティビティー
2	Unit 7 (1) It Might Have Been a Temple.	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 7 (2) It Might Have Been a Temple.	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 8 (1) It's Taller than the Eiffel Tower!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 8 (2) It's Taller than the Eiffel Tower!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 9 (1) He's a Great Director, Isn't He?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 9 (2) He's a Great Director, Isn't He?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 10 (1) I Wish I Could Be an Athlete!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 10 (2) I Wish I Could Be an Athlete!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 11 (1) What Would You Do?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 11 (2) What Would You Do?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 12 (1) You Should Eat More Fruit!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 12 (2) You Should Eat More Fruit!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading, そして語彙に関するテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で行う前には **Language Focus** の発声練習を、各 Unit の (2) を授業で行う前には「**Reading** の予習」を行ってください。「**Reading** の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・**Comprehension** の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておくことを奨励します。

授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：Time Zones Student Book 4 (Second Edition)

著者：Bohlke, D. and Wilkin, J.

出版社：Cengage Learning

出版年：2016 年

価格：2170 円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 %（授業中の活動・単語テスト）
2. 予習 20%
3. 期末試験 50%
 - ・欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
 - ・3 回の遅刻（授業開始時刻から 10 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。
 - ・遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
 - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【その他の重要事項】

授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。携帯電話等のアプリ等、通信可能な機器の使用は認めません。通信可能な電子辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with the classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build their vocabulary knowledge needed to gather information to write an essay and have a discussion in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的としてはテーマに沿っていかに自分の意見を英語で話せるかをめざす。もちろん自分の意見のみならずクラスメートの意見をも聞き、色々な考えかたに接していくようにして行きたい。

【到達目標】

【授業の到達目標およびテーマ】

教科書を中心としながら様々な課題を英語でなるべく長い文章で自分の意見をまとめ、のべる。そしてまた他の学生の意見を聞きながら対応をしていくようにしていく。一年終了時には少しでも自分の意見、考えている事などを英語で話せる様にし、又リスニングの方も以前よりは聞ける様にして行きたい。英語に対して恐怖心という物を取り除き少しでも英語をより多く話せる様に行きたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書 Impact issues 2 に入る前に簡単なリスニングと会話をする。この教科書は様々なテーマを扱っているのでユニットごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対しその都度テーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにして行きたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。自分の意見をクラスの前で言える様にプレゼンテーションを授業内で多く行う。また、前期後期を各 1 回ずつ大きなプレゼンテーションをしてもらう。また夏季休暇には外国人にアンケートをとってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介並びに授業の紹介
2	Unit 1	First Impressions What are the first impressions of your classmates.
3	Unit 1	What kind of opinions do you have to people who are different from you?
4	Unit 1&3	Group discussion What do you think about the local language?
5	Unit 3	Talk about whether the local language is necessary when people work in a different country.
6	Unit 3&5	Continuation of Unit 3. Unit 5. What do you think about marriage
7	Unit 5	What are the merits and demerits of being single or being married. Group discussion
8	Unit 5&6	Continuation of Unit 5. What is a friend to you?
9	Unit 6	What would you do for a friend? Group discussion
10	Unit 6&7 Preparing for the presentation	Continuation of Unit 6. Prepare for the presentation
11	Unit 7 Preparation for the presentation	What do you think about bullying? prepare for the presentation
12	Unit 7 Preparing for the presentation	What can you do to help your classmate who is been bullied. Prepare for the presentation.
13	Presentation	Presentation of each group
14	Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備としては教科書を予習をし各ユニットのテーマに沿って自分の意見をまとめ口頭で述べられようにする。発表に準備をしっかりとする。夏期の宿題として外国人にアンケートをとってもらう。

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2
Pearson/Longman
Richard R Ray
Joseph Shaules
Junko Yamanaka

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験並びに授業参加度、課題に対する発表、出席など
試験 70 % その他 30 % (平常点、宿題、発表)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

よく教科書を読み自分の意見を英語でまとめられるようにする。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to express their opinions orally and be able to exchange various opinions with their class mates.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様英語を通して自分の意見を言えるようにする。またクラスメイトの意見にも英語で反応出来るようにし英語をただの言語としてとらえるのではなく道具として使えるようにして行く。

【到達目標】

教科書の題材のテーマを通してクラスメイト同士でコミュニケーションをはかりながら自分の意見を主張し反論出来るように授業を進めて行く。基本の reading, writing, speaking, listening を通して英語モードにして行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Impact Issues 2 を教科書として使用する。この教科書が様々なテーマが各ユニットで設けられそれにそり自分の意見、ならびにクラスメイトの意見を聞きながら対応をして行く。個人の発表ならびにグループのプレゼンテーションも多く取り入れる。英語の詩を読み自分自身で英語を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presentation	夏季課題の発表
2	Reading a poem	Read "What Do I Remember of the Evacuation" and understand the poem
3	Reading a poem	Analyze and think of the symbols in the poem. Start writing your own poem.
4	Unit 10	Why go to school? What is your purpose of going to the university?
5	Unit 10	Continuation from the previous class. Group discussion.
6	Reciting one's own poem	Reciting your own poem
7	Unit 12	What do you think of global warming?
8	Unit 12	How can we stop global warming. Group discussion.
9	Unit 17	What do you think of refugees? Need we help them?
10	Unit 17 Preparing for the presentation	What is the merit in helping the refugees? Prepare for the presentation
11	Unit 20 Preparing for the presentation	What do you think about capital punishment? Prepare for the presentation
12	Unit 20 Preparing for the presentation	Are you for or against capital punishment? Prepare for the presentation
13	Presentation	Presentation by each group
14	Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読み内容を理解しておく事。宿題に出された課題をこなす。

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2
Longman Pearson 出版

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 % その他 30% (平常点、宿題、発表)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The students will further develop their abilities to effectively express their opinions in English and be able to give presentations and speeches.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語のハ・ラク・ラフを書き、また、口頭でそれを発表する。ステップバイステップでこの目標に向かう。まずは一つのハ・ラク・ラフを作ることを目指し、最終的には複数のハ・ラク・ラフからなる短いエッセー（小論文）を書けるようになる。授業の最初の段階では、題材にふさわしい英語表現と内容を選択して短い文章を書き、口頭で発表する。フ・レセ・ンテーション（口頭の発表）は原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でフ・レセ・ンテーションでできるようにする。そのために、発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・ハ・ラク・ラフの形式で英文を書ける。
- ・その内容を口頭で発表できる。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリス・ムで話せる。
- ・自分の意見を形成し筋立てて述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキストの各章を進めながらパラグラフ形式で書くことの意味、メリットを理解する。授業の各回でグループワークと個人作業を織り交ぜる。補助資料を使ってライティング / スピーキングの題材を提供する。それに基づいて実際にハ・ラク・ラフを作り、フ・レセ・ンテーションを行う。
- ・テキストを使い、ハ・ラク・ラフライティングの基礎的なアイデアを学ぶ。
- ・ハ・ラク・ラフライティングの実践。内容を構想し、最初の草稿を作成し、他の学生や講師のフィードバックを受けて改稿し、最終的に仕上げめるまでのプロセスを実際に辿る。
- ・資料と練習素材を使って子音、母音の発音を一つ一つ練習する。英文を発音する際のアクセント、イントネーション、リズムを練習する。
- ・作成したハ・ラク・ラフをフ・レセ・ンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明、導入	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。英語に対する関心、苦手意識のアンケート
2	Chapter 1 (1) Introducing Yourself 言葉を定義する	Pre-writing processes -Task 1-7
3	Chapter 1 (2) Introducing Yourself 言葉を定義する	Writing processes -Introducing Yourself -Group work
4	Chapter 1 (3) Introducing Yourself 言葉を定義する	Short presentation -Group work Pre-writing processes -Task 1-7
5	Chapter 2 (1) Writing a Story by Yourself 出来事や経験を語る	Writing processes -Writing a Story by Yourself -Group work
6	Chapter 2 (2) Writing a Story by Yourself 出来事や経験を語る	Writing processes -Writing a Story by Yourself -Group work
7	Chapter 2 (3) Writing a Story by Yourself 出来事や経験を語る	Short presentation -Introducing Yourself -Group work -Feedback
8	Chapter 4 (1) Different Varieties of English 手続きや手順の説明	Pre-writing processes -Task 1-8
9	Chapter 4 (2) Different Varieties of English 手続きや手順の説明	Writing processes -Task 9-12 -Brainstorming -Writing a paragraph

9	Chapter 4 (3) Different Varieties of English 手続きや手順の説明	Writing processes -Rewriting a paragraph
10	Chapter 4 (4) Different Varieties of English 手続きや手順の説明 Chapter 5 (1) Describing Interesting People and Places 描写	Writing processes -Finishing a paragraph Pre-writing processes -Task 1-4
11	Chapter 5 (2) Describing Interesting People and Places 描写 Chapter 6 (1) Expressing Your Feelings 例を挙げる	Pre-writing processes -Task 5-9 (Ch.5) -Task 1-10 (Ch.6)
12	Chapter 7 (1) Introducing Your Hometown プロセスライティングとは	Pre-writing processes -Understanding what and how you write Writing processes -Group work -Brainstorming -Writing a paragraph
13	Chapter 7 (2) Introducing Your Hometown プロセスライティングとは	Writing processes -Group work -Rewriting a paragraph
14	Chapter 7 (3) Introducing Your Hometown プロセスライティングとは	Writing processes -Group work -Finishing a paragraph

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。ハ゜ラク゜ラフの草稿作成を宿題として課された場合、提出かゝ義務つゞけられる。パラグラフの作成は改稿作業が必須であるから、授業中に受けたコメントを草稿に反映させる時間にも必要になる。

【テキスト（教科書）】

熊本たま、大井恭子、上村妙子、Kim Marie Sano、松本佳穂子、『Writing Frontiers ―英語で発想するライティング』、金星堂、2010 年、2000 円（税別）

【参考書】

綿貫陽、マーク・ピ゜ーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）

『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォートゝ英語類語活用辞典』、オックスフォートゝ大学出版局、2008 年、4700 円（税別）

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題への取り組み、グループワークでの貢献、授業内課題の出来、等）30%、提出課題 40%、口頭発表 30%
欠席かゝ 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードゝハ゜ックを行う。

【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation of the same material with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph, and finally a short essay (consisting of several paragraphs). You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で短いエッセーを書き、また、口頭でゝそれを発表する。フゝレセゝンテーション（口頭の発表）は原則として聴衆に顔を向けて話すものたゝから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でゝフゝレセゝンテーションでゝきるようになる。そのために、発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・選択した題材について、複数のパラグラフからなる短いエッセーを書ける。
- ・その内容を口頭で発表できる。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリスゝムでゝ話せる。
- ・書いたエッセーを他の学生に向けて、正しい発音で発表できる。
- ・自分の意見を形成し筋道立てて述べゝることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキストの各章を進めながらパラグラフ形式で書くことの意味、メリットを理解する。授業の各回でグループワークと個人作業を織り交ぜる。補助資料を使ってライティングゝ/スビゝーキングゝの題材を提供する。それに基づいて実際にエッセーを作り、フゝレセゝンテーションを行う。
- ・パラグラフ作成で身についた技術を応用ゝ拡張し、エッセー作成に必要なアイデアを学ぶゝ。
- ・短いエッセーを作る。内容を構想し、最初の草稿を作成し、他の学生や講師のフィードバックを受けて改稿し、最終的に仕上げゝるまでゝのフゝロセスを実際に辿る。
- ・資料と練習素材を使って子音、母音の発音を一つ一つ練習する。英文を発音する際のアクセント、イントネーション、リズムを練習する。
- ・作成したエッセーをフゝレセゝンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。春学期のフィードバック。英語を実用する具体的目標の設定、克服したい英語の苦手部分の意識化。
2	Chapter 8 (1) Studying More about the World	Pre-writing process -Task 1-7
3	Chapter 8 (2) Studying More about the World 分類 Chapter 9 (1) Why Are They So Popular? 理由	Writing process -Task 8-11 (Ch.8) -Group work Pre-writing process -Task 1-7 (Ch.9)
4	Chapter 9 (2) Why Are They So Popular? 理由 Chapter 10 (1) Why Have Fast Food Shops Become Popular in Japan? 原因と結果	Writing process -Task 8-10 (Ch.9) -Group work Pre-writing process -Task 1-7 (Ch.10)

5	Chapter 10 (2) Why Have Fast Food Shops Become Popular in Japan? 原因と結果 Chapter 7 (1) Introducing Your Hometown プロセス・ライティング とは	Writing process -Task 8-12 (Ch.10) -Group work Pre-writing process -Task 1-3 (Ch.7)
6	Chapter 7 (2) Introducing Your Hometown プロセス・ライティング とは	Writing process -Task 4-11 (Ch.11) -Group work
7	Writing a short essay 1	Writing process -Understanding what and how you write -Group work -Deciding a theme through the QFT method -Brainstorming
8	Writing a short essay 2 Preparation for presentation 1	Writing process -Group work -Idea Generation Presentation -Speaking Practice
9	Writing a short essay 3 Preparation for presentation 2	Writing process -Group work -Organization Presentation -Speaking Practice
10	Writing a short essay 4 Preparation for presentation 3	Writing process -Group work -Outlining Presentation -Speaking Practice -Mini presentation
11	Writing a short essay 5 Preparation for presentation 4	Writing process -Group work -Submitting an outline -First Draft Presentation -Speaking Practice
12	Writing a short essay 6 Preparation for presentation 5	Writing process -Group work -First Draft -Pia Review -Rewriting Presentation -Speaking Practice
13	Writing a short essay 7 Preparation for presentation 6	Writing process -Group work -Pia Review -Rewriting Presentation -Speaking Practice -Group work
14	口頭発表、エッセーの提 出	Writing process -Submission Presentation -Group work

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。エッセーの草稿作成を宿題として課された場合、提出が義務づけられる。パラグラフ作成の時と同様に、エッセーの作成も改稿作業が必須であるから、授業中に受けたコメントを草稿に反映させる時間もある必要がある。

【テキスト（教科書）】

熊本たま、大井恭子、上村妙子、Kim Marie Sano、松本佳穂子、『Writing Frontiers ―英語で発想するライティング』、金星堂、2010 年、2000 円（税別）

【参考書】

綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008 年、4700 円（税別）

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題への取り組み、グループワークでの貢献、授業内課題の出来、等）30%、提出課題 35% 口頭発表 35%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ頻繁に学生からのフィードバックを行う。

【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion on a certain topic in the form of paragraphs. And you make a presentation of the same material with correct English pronunciation and accent. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You write down a short essay and make a presentation.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ウォルター カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

Common English that students can use everyday

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, video activities, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of syllabus general class rules	syllabus recount and rules
Week 2	Starting conversations	Greetings, name usage, personal titles
Week 3	Keeping the conversation going	use of questions and understanding answers
Weeks 4	Identifying objects	in the classroom and office
Weeks 5	Identifying objects quiz review	outside elements - public and family homes
Weeks 6	quiz on greetings and objects language and grammar exercises	greetings- hellos and goodbyes
week 7	Nationalities and geography in Asia Oral Presentation Preparation Discussions	Thailand, Japan, Korea, Vietnam Discussion of presentation themes
week 8	Nationalities and geography in North America Presentation - structure	Canada, Mexico, USA Structure- Introduction/Body/Conclusion
week 9	Nationalities and geography in Western Europe Presentation - physical elements	France, Germany, The UK, Italy, Switzerland body language, use of voice
week 10	Clothing styles Presentation - visual elements	formal clothing types visual aids
week 11	Clothing styles	informal clothing review
week 12	Oral Presentations on social themes	speeches on social trends
week 13	Oral Presentations on cultural themes	speeches on cultural differences
week 14	Oral Presentations	speeches on academic trends

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation preparation, homework

【テキスト（教科書）】

Interchange intro fifth Jack Richards
9781316620113

【参考書】

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%

Homework 33%

Oral presentation and Quizzes 34%

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, paper, writing material

【その他の重要事項】

Contact email

kadmersensri@gmail.com

【Outline and objectives】

Students will learn English using the 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ウォルター カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Welcome back -Review	Review of first semester themes
Week 2	What are you doing?	activities, time
Week 3	time Family, Neighborhoods, Quiz	telling time relations ,places, functions of place,etc., Quiz -activities, time
Week 4	work commute Apartments and houses	rooms, appliances, and furniture
Week 5	places people live	types- suburbs/countryside/cities
Week 6	Oral presentation preparation- structure Script review I	main points introduction/body/conclusion
Week 7	Script review II Presentation - physical elements	support body language and voice
Week 8	Where people live I Presentation - slide work	apartments backgrounds
week 9	Where people live II Presentation- visuals I	houses fonts
week 10	Work habits Presentation - visuals II	images
week 11	Job types	outdoor, indoor
week 12	Oral Presentations on commuting	public transport, car, on foot
week 13	Oral Presentations on living places	houses, apartments, rooms
week 14	Oral Presentations on where our parents work	companies, hotels, restaurants, stores, government

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, oral preparation

【テキスト（教科書）】

Interchange Intro fifth Edition by Jack Richards
9781316620113

【参考書】

Handouts and text

【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%

Oral presentation and quiz 33%

Homework 34%

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing material, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Email contact

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

Students will learn English using 4 skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

榊原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活・現代社会での興味あるトピックについて、自分の考えを書いたり、口頭で発表する英語運用能力を養う。ライティングに関しては、パラグラフライティングの構成を学び、トピックごとに英文で書く力の習得を目指す。さらに、プレゼンテーションによって、実際に口頭で発表する場を設け、スピーキングの強化も図る。そのためにも、正確な発音は不可欠な要素となるので、発音矯正指導は平行して実施。リスニングも当然この段階で組み込まれる。この授業を通して読む、書く、聞く、話すという 4 技能を習得する。

【到達目標】

パラグラフライティング・エッセイライティングを習得。
プレゼンテーションの習得、人前で話すことに慣れ、英語で考える習慣をつけるために毎回の授業で one-minute-speech を実行。
テキストの DVD を字幕なしで理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、one minute speech を実施する。理由はとにかく文法などを気にせず、自分の言いたいことを人前で英語で話すことに慣れることが、このクラスで可能になる実績があるからである。授業はテキストを中心に進められ、重要な vocabulary, phrases を音から学び意味と音、最終的には DVD を字幕なしで理解できるようになることを目指す。paragaph writing に関しては、課題についての英文をパラグラフにまとめ提出する。その翌週に添削されて返却される。
presentation は自分の書いたパラグラフを正確な発音で口頭で発表する。この際、原稿は見ないで行う。このためには、準備練習が必要なのはもとより、視覚的な情報と共に発表することで presentation をさらに効果的なものにする。(USB, PC 等)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	A burger for a fine dining experience	In each class hour, after dealing with text book, pronunciation practice will be given using DVD (Reading aloud involved)
2	to follow the 1st session.	summary and comprehension questions including grammar& dictation.
3	paragraph writing Hold me	reading the text through slash reading method. CD and DVD will be used efficiently.
4	to follow the 3rd session.	summary and comprehension quiz
5	paragraph writing Spies are everywhere	Track your data on Internet.
6	to follow the 5th session.	summary and comprehension check
7	Glaciers come, glaciers go.	the change of glaciers is shot by some photographers.
8	to follow the 7th session.	public speech based on the paragraph
9	presentation Picking up language in the womb	How humans learn languages is a big puzzle.
10	to follow the 9th session.	summary and comprehension check
11	The end of space travel?	Whatis the future space mission of The U.S.?
12	to follow 11th session.	summary and comprehension check
13	final test	review the previous units
14	the final presentation	the topic to be given

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

paragraph writing の課題を宿題とする。学生はレポート用紙に正式な様式に従って英文を書き提出。

【テキスト（教科書）】

VOA News Clip Collection Richard S. Lavin SEIBIDO 2014 2,400

【参考書】

not use

【成績評価の方法と基準】

試験 (60%)、平常点 (40%) 平常点には、presentation/paragraph writing も含まれる。
各学期、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

とにかく英語でしゃべられるクラス。

【学生が準備すべき機器他】

USB, CPand so on will be recommended for presentation

【その他の重要事項】

演習中心の授業。欠席・遅刻に注意。

【Outline and objectives】

This class focuses on enhancing speaking and writing skills mainly. As for writing, they're supposed to come to be able to write a paragraph and then an essay eventually. Along with the writing activities, they'll make a speech based on their writing. Further more, through the text book, they'll challeng to understand the DVD without the subtitles (in doing so, reading technique and pronunciation checks involved)

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

榊原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の paragraph writing から essay writing に展開する。さらなるスピーキング能力を向上させるためにも、one-minute speech を充実させる。読む、書く、聞く、話すの 4 技能を習得する。

【到達目標】

パラグラフライティング、さらに、エッセイライティングの習得。
プレゼンテーションのレベルアップ。one-minute speech をさらに充実させる。
DVD を字幕なしに理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回の音読 / slash reading から本文の理解をする。
CD/DVD を使用して音声から理解を薦める。
ライティング課題を各トピックについて提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	A talent blossoms	children who have an amazing talents.
2	to complete the unit	vacabulary/ comprehension check
3	Robots for everyday use write an essay	Robots have many possibilities to dedicate to humans.
4.	to complete the unit	summary and comprehension quiz
5.	Video games as a career	Video games technology makes the industry more attractive to the young.
6.	to complete the unit write an essay	summary and comprehension check
7.	How the Internet began.	How the internet has come around us?
8.	to complete the unit presentation	summary and comprehension check
9.	Social networking and productivity	Social network, like Facebook and Twitter, really contributes our society?
10.	to complete the unit	summary and comprehension check
11.	All the world's books online?	What kinds of advantages of e-book and buying them online?
12.	to complete the unit	summary and comprehension check
13.	final test	review the previous units
14.	final presentation	wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

エッセイライティングの課題を自宅で仕上げて提出。
各ユニットの音声の確認とスピーチの準備

【テキスト（教科書）】

VOA News Clip Collection Richard S.Lavin SEIBIDO 2014 2,400

【参考書】

no

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)・プレゼンテーション・ライティング (40%)
各学期の欠席回数が 4 回以上の場合、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

とにかくしゃべらされる英語のクラス。

【学生が準備すべき機器他】

If you present your speech, you can use USB, CP and so on.

【Outline and objectives】

The students are supposed to write an essay after acquiring how to write a paragraph sufficiently. Making a speech will also be strengthened through activating one minute speech. They are encouraged to speak about what happens in their daily lives as specifically as possible with a word they've already known.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

溝部 敦子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 営 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どんな場面や状況で誰に向かって書くのかなど、具体的な設定に沿って書くことで、コミュニケーションの基本であり、SNS の発達に伴い需要が増えてきているライティングのスキルを伸ばしていく。また、テキストとあわせてプリント教材も使い、文法の復習と聴解力の強化を行うとともにパラグラフの基本構造を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 目的や相手に合わせ、平易な英語で自己表現できる。
- (2) パラグラフの基本構造に基づき、短い論理的な文章が書ける。
- (3) 基本的な文法を確実に習得する。
- (4) 英語の音声に慣れ、ポイントとなる部分の聞き取りが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

リスニング演習を交えつつ、ステップを踏みながらライティングのスキルを身につけていきます。各ユニットには何を書くのかテーマが明示されており、「自分について書く」「意見や主張を表明する」など、3つのユニットで1つの大きなスキル－全部で5つ－を学習する構成になっています。ステップを重ねる過程で目的に沿った英語表現や必要な文法事項も学びます。なお、テキスト以外の練習問題を追加することがあります。さらに、テキストの合間にパラグラフライティングの基本についての説明を行い、最終的にはその実践としてワンパラグラフの論理的な文章を書いてもらう予定です。ほかに、テキストとは別にリスニング演習（テスト形式）も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容や英語学習のポイントなどについて説明 Self-introduction Activity
2	Writing & Listening Practice	Units 1 & 2 友人/先生にメールを書く
3	Writing & Listening Practice	Units 2 & 3 苦情のメールを書く
4	Writing & Listening Practice	Unit 4 自分の紹介文を書く パラグラフの基本構造について
5	Writing & Listening Practice	Units 5 & 6 自分の趣味と夢について書く
6	Writing & Listening Practice	Units 6 & 7 出来事を説明する
7	Writing & Listening Practice	Units 7 & 8 写真や絵の説明 Topic Sentence について
8	Writing & Listening Practice	Unit 9 思い出について書く
9	Writing & Listening Practice	Units 10 & 11 グラフや図を説明/アンケートをまとめる
10	Writing & Listening Practice	Unit 12 調査の結果を踏まえて意見を述べる 「Good Writing の条件」+つなぎの言葉
11	Writing & Listening Practice	Unit 13 賛成/反対を表明する Opinion Paragraph について
12	Writing & Listening Practice	Units 13 & 14 自分の要望を述べる
13	Writing & Listening Practice	Unit 15 自分の将来像を描く
14	期末テスト	Listening Comprehension + Guided Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された箇所の予習を行う。テキストの音声はダウンロードできるので、主体的に予習・復習に活用する。文法演習を宿題にすることがある。

【テキスト（教科書）】

工藤洋路ほか *Have Fun Writing!* - 楽しく学ぶ英文ライティング入門 (2017 金星堂)

【参考書】

綿貫 陽 『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社）

【成績評価の方法と基準】

期末の Listening Test と Guided Writing (40%)、テキストの 'Final Step' の英作文 (20%)、Listening や文法などの演習問題 (20%)、平常点（授業態度、テキストの演習問題の出来具合など）(20%) の割合で総合的に評価します。ただし、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

文法やフィードバックの説明は出来るだけわかりやすく丁寧に行い、ペアやグループワークの時間は増やすようにします。

【Outline and objectives】

Writing skill is becoming increasingly important because it is the basis for communication and now a major skill necessary when using SNS. This course helps students improve their writing skill by writing for a specific scene or purpose given in each unit, such as writing a text message to a friend, describing an event or expressing themselves. Furthermore, they will be given some extra exercises to review important grammar points and develop confidence in listening. They will also learn the basics of paragraph writing and, at the end of the semester, are expected to write an opinion paragraph in plain English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

石原 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will listen to and speak about everyday topics, practice the language, and exchange your ideas related to the topics. We will focus on the development of frequently-used expressions and general fluency in listening, speaking, and writing. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to build on your knowledge of English and develop communicative skills in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on everyday listening and speaking, but you will also practice writing in paragraphs. You will become able to more comfortably and confidently interact with other speakers of English. You will also gain an enhanced understanding of English-speaking cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Before class you must work on some listening exercises, study the vocabulary, and do the textbook exercises independently. In class you review the new material, practice the language in pairs, and discuss your experiences in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) and group work.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction, Home and neighborhood (Unit 8): - Day 1	Course information, warm-up activities, describing neighborhood
2	Home and neighborhood (Unit 8): - Day 2	Vocabulary review, speaking activities, describing homes, writing
3	Activities and plans (Unit 9): - Day 1	Core vocabulary, grammar, and pronunciation, describing weather and plans
4	Activities and plans (Unit 9): - Day 2	Vocabulary review, speaking activities, describing activities, writing
5	Food (Unit 10): - Day 1	Core vocabulary, grammar, and pronunciation, describing ingredients for a recipe, offering and asking for foods
6	Food (Unit 10): - Day 2	Vocabulary review, speaking activities, inviting someone to a meal, writing
7	Past events (Unit 11): Day 1	Core vocabulary, grammar, and pronunciation, describing past activities
8	Past events (Unit 11): Day 2	Vocabulary review, speaking activities, describing your weekend, writing
9	Appearance and health (Unit 12): Day 1	Core vocabulary, grammar, and pronunciation, describing appearance
10	Appearance and health (Unit 12): Day 2	Vocabulary review, speaking activities, suggesting a remedy, writing
11	Abilities and Requests (Unit 13): Day 1	Core vocabulary, grammar, and pronunciation, describing abilities, declining an invitation
12	Abilities and Requests (Unit 13): Day 2	Vocabulary review, speaking activities, making a request, writing

13	Life events and plans (Unit 14): Day 1	Core vocabulary, grammar, and pronunciation, discussing life stories and plans
14	Life events and plans (Unit 14): Day 2	Vocabulary review, speaking activities, sharing your dreams for the future, writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Before coming to class, complete some tasks and learn the vocabulary in the textbook. Use your dictionary when necessary. You must come to class ready to discuss the topic of the week. Review your lesson thoroughly after class.

【テキスト（教科書）】

Top Notch Fundamentals B (2015) by Saslow & Ascher. Pearson Education.

【参考書】

Handouts related to the course content to be distributed in class. Bring a notebook or loose sheets of paper.

【成績評価の方法と基準】

You will receive a formal evaluation of your work at the end of the term. The grade on a late assignment will be lowered. You will be graded on:

- 1) Participation (20%)
- 2) Weekly assignments (20%)
- 3) Quizzes (30%)
- 4) Writing assignments (30%)

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught entirely/mostly in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【その他の重要事項】

Course Rules and Expectations

- 1) Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.
- 2) If you have a good reason for your absence, you are responsible for informing me in person or by e-mail. When you miss class, it is your responsibility to find out what course material and homework you missed. If you are absent on a test day, you will not be allowed a make-up test.
- 3) Come to class on time. Two latenesses beyond 10 minutes equal one absence, except in extreme circumstances. If you are late, come to me after class for the record of your attendance.
- 4) You are expected to study course material before class and participate actively. Respect each other and others' learning opportunity. Work hard, make mistakes, and have fun!

【Outline and objectives】

In this course, you will listen to and speak about everyday topics, practice the language, and exchange your ideas related to the topics. We will focus on the development of frequently-used expressions and general fluency in listening, speaking, and writing. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ドノヴァン マイケル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 営 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

【到達目標】

Each week the class will introduce a language point and topic and proceed to controlled practice and finish up with an opportunity to use the language in a practical, useful manner. Students will work in pairs and groups and complete a task using English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practiced and then used in freer, interactive activities in pairs and groups and sometimes as an individual presentation. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductory activities.	Course overview. Classroom language.
2	Introductions.	Teacher and student introductions. Student introductions, mini presentations. Common introductory questions and answers.
3	Communication Game.	Team work information exchange activity using classroom language and everyday questions, and answers, clarifying, agreeing, disagreeing etc.
4	Picture Stories.	Narrative. Telling Stories. Pair preparation. Individual presentation
5	Picture story presentations.	Individual presentations. Extension activities.
6	British culture.	Q&A Question formation. Pair preparation. Team quiz.
7	Letter Writing activity.	Form and content. Composition and error correction. Working together and alone.
8	Newspapers.	Question and answer. Scanning a newspaper for information.
9	Romance picture story.	Question formation. Pair work. Same pictures, different order, different story. Work in pairs. Arrange the pictures, create and write a story.
10	Building a better mousetrap.	Switch partners, tell the story. Describing systems and processes. Passive forms. Work in pairs, design and individually present.
11	Problems and solutions.	Explaining a problem and giving advice for possible solutions. 2nd conditional.
12	Communication Game - baseball.	General knowledge team question and answer game. Using question and answer forms.

13	English and Japanese superstitions.	1st conditional sentences. Origins, purpose and explanation.
14	Jokes, riddles and puzzles.	Telling a joke. Understanding humour.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each class may include a homework assignment to consolidate class work and/or preparation for the next class. If a student is absent please check with classmates to copy class notes and handouts and also find out if any homework or preparation is required.

【テキスト（教科書）】

Materials for the class will be distributed in class by the teacher.

【参考書】

No other reference books are required.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and classwork produced. 50%

Assignments. 25%

Quizzes and tests. 25%

【学生の意見等からの気づき】

If a student misses more than 3 classes in a term he/she will fail.

Regular late attendance will also be penalised.

【学生が準備すべき機器他】

Students need an A4 folder complete with plenty of lined A4 writing paper, pencil, eraser and dictionary. Additional materials will be handed out by the teacher in class. Please keep these and any class notes in your A4 folder.

【その他の重要事項】

Don't panic! Relax, enjoy and improve your English.

If you have any problems or questions, please talk to me in class.

Good luck!

【Outline and objectives】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ドノヴァン マイケル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

【到達目標】

Each week the class will introduce a language point and topic and proceed to controlled practice and finish up with an opportunity to use the language in a practical, useful manner. Students will work in pairs and groups and complete a task using English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practiced and then used in freer, interactive activities in pairs and groups. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Holiday questionnaire.	Talking about the holidays. Q&A.
2	Cultural differences.	An American in Tokyo. Giving advice. Modal verbs of obligation.
3	What Went Wrong?	Cultural differences case studies. Pairwork, explaining and speculating.
4	Who Killed Harrison?	Pair work detective, info. exchange game. Passives/question and answer forms. Speculating and explaining.
5	Comparisons, superlatives.	Pairwork preparation. Individual presentation. Comparing, agreeing and disagreeing.
6	How They Met.	Listening. Couples discussing how they first met. Info. exchange. Similarity and difference.
7	UFO stories.	Work in pairs, use a picture sequence to create a story about a UFO sighting. Tell the story, listening and reacting to a story.
8	Telephoning.	Basic telephoning skills and language. Leaving a message. Numbers.
9	Information Exchange game.	Teamwork information exchange. Everyday language of agreeing and disagreeing.
10	Mini presentations. Preparation. Pair and individual preparation.	Presentation language and content. Explaining and discussing interests.
11	Mini presentations. In class individual presentations.	Presentation language, content and style, Listening, Q@A.
12	Mini presentations. In class individual presentations.	Listening, question and answer.
13	General knowledge quiz.	Q@A. Question formation. Team game.
14	Picture stories.	Creating a telling a story. Relating experiences. Listening and reacting.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each class may include a homework assignment to consolidate class work and/or preparation for the next class. If a student is absent please check with classmates to copy class notes and handouts and find out if any homework or preparation is required.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed by the teacher in class.

【参考書】

No other reference books are required.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and classwork 50%

Assignments 25%

Quizzes and tests 25%

【学生の意見等からの気づき】

The course is altered according to what could be improved in terms of student engagement and enjoyment, and also in terms of which topics are presented and how they are presented.

【学生が準備すべき機器他】

Students need an A4 folder with lined A4 writing paper, pencil, eraser and dictionary. Additional materials will be handed out by the teacher in class. Please keep these and any class notes in your A4 folder.

【その他の重要事項】

Don't panic! Relax, enjoy and improve your English.

If you have any problems or questions, please talk to me in class.

Good luck!

【Outline and objectives】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

リチャード・バロース

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 営 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment.

【到達目標】

1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Elliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer. Each week students will prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10 minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned a variety of vocabulary exercises as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the previous lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation	Course Introduction
Weeks 2	Speaking & Listening	Billy Elliot 1 (the Ballet Class): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening	Billy Elliot 2 (The Private Lesson): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening	Billy Elliot 3 (Family Trouble): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening	Billy Elliot 4 (The Audition): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 5	Speaking & Listening	Billy Elliot 5 (Leaving Home): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 6	Writing	Evaluation
Week 7	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules) : Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,

Week 12	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 5 (The Final Match): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 6 (Going to America) : Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 14	Writing	Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare vocabulary & review the previous lesson's material prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted

【テキスト（教科書）】

No set text is required. However, since students will be using photocopied handouts, they must bring an A4/B4 folder or binder to each lesson

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

30% - Classroom & Homework Assignments

40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

An in-class preview & review of the lesson will be included to reinforce points learned, time permitting.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a printer & PC in order to print reports

【Outline and objectives】

As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

リチャード・バロース

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Introductory Class
Week 2	Writing	Format & Process
Week 3	Writing	Pre-Writing
Week 4	Writing	The Structure of a Paragraph
Week 5	Writing	The Development of a Paragraph
Week 6	Writing	Descriptive Paragraphs
Week 7	Writing	Process Paragraphs
Week 8	Writing	Opinion Paragraphs
Week 9	Writing	The Thesis Statement
Week 10	Writing	Problem/Solution Paragraphs
Week 11	Writing	The Structure of an Essay
Week 12	Writing	Introductions & Conclusions
Week 13	Writing	Comparison & Contrast
Week 14	Writing	Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which must be printed on A4 paper. No more than 3 absences will be permitted.

【テキスト（教科書）】

Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.

Publisher: Macmillan Language House

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be given individual evaluation & guidance after submitting each report

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to print reports.

【Outline and objectives】

This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 営 1 年：英語 13 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome.	Getting to know you.
2	Q & A	Talking about you.
3	Q & A	Talking about the word you live in.
4	How do you do that?	Verbs of instruction.
5	Sing your heart out.	Pronunciation.
6	Want to hear a good story?	Starting a story.
7	Finish that story.	The middle and the end.
8	Get into shape.	The language of exercise.
9	Another song.	Pronunciation.
10	Shopping	Finding your way around the department store.
11	What do you call it?	Guessing that meaning.
12	It's a wild world.	The language of the jungle.
13	Songs	Pronunciation.
14	Dictation	Listening and writing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%
 Passing scores are 60% and above.

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 営 1 年：英語 13 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Grammar Time.	Basic grammar.
2	Quiz master.	Questions and answers.
3	Cooking for the ones you love.	A recipe.
4	Your world.	Presentation.
5	your world.	Presentation.
6	You know what I mean.	Guessing the meaning of words.
7	What if...?	What would you do if.....?
8	Sing that song out loud.	Pronunciation.
9	Dictation.	Listening and writing.
10	Story telling.	Make it better.
11	Story telling.	Getting the ending right.
12	Tell me what they look like.	Talking about what people look like.
13	Winter food.	A recipe.
14	Question master.	In the hot seat answering questions.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%
 Passing scores are 60% and above.

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

Kregg Johnston

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 14 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English communication skills

【到達目標】

This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation of class requirements, tasks, goals.	Explanation of class requirements, tasks, goals.
Week 2	Unit 1 Describing personality & relationships	Agreeing, Disagreeing, expressing likes and dislikes,
Week 3	Unit 1 Describing personality & relationships	Complaining, Describing personality types, Relative clauses
Week 4	Unit 2 Jobs, career skills	Comparing with gerund phrases,
Week 5	Unit 2 Jobs, career skills	Strategies for keeping your job. Expressing advantages and disadvantages.
Week 6	Unit 3 Favors, requests, messages	Quiz Units 1-2 Accepting and declining requests, Making requests
Week 7	Unit 3 Favors, requests, message	Leaving messages Making indirect requests
Week 8	Unit 4 Narrating a story	Describing events in the past Using past verb forms
Week 9	Unit 4 Narrating a story	Listen to news broadcasts React to news
Week 10	Unit 5 Comparing different cultures	Quiz Units 3-4 Describing customs Giving advice
Week 11	Unit 5 Comparing different cultures	Giving advice Using modals of necessity
Week 12	Unit 6 Describing problems	Making complaints Describing problems with household items
Week 13	Unit 6 Describing problems	Using the passive voice to emphasize result of action Offering solutions to problems
Week 14	Unit 7 Environmental and world issues	Quiz units 5-6 Unit 7 (Identifying, describing problems, coming up with solutions)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

【テキスト（教科書）】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press) ISBN: 978-1-316-62051-9
Students' book

【参考書】

Self-study online
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Workbook
Vocabulary development:
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion skills

【Outline and objectives】

In this course, students learn to develop their communicative competence in both speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 14 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English communication skills

【到達目標】

This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Unit 8. Learning and education	Ice-breakers/ Review Describing preferences, Talking about learning methods
Week 2	Unit 8. Learning and education	Discussing pros and cons Asking questions of choice
Week 3	Unit 9 Self-improvement	Quiz Units 7-8 Describing things that need to be done
Week 4	Unit 9 Self-improvement	Asking advice Giving suggestions
Week 5	Unit 10 The past and future	Making inferences Talking about historic events
Week 6	Unit 10 The past and future	Giving opinions on the future Using time adverbs & prepositions
Week 7	Unit 11 Lessons in life	Quiz Units 9-10 Talking about milestones, past regrets
Weeks 8	Unit 11 Lessons in life	Using time clauses Discussing turning points
Week 9	Unit 12 The right stuff	Describing purpose Giving reasons, qualities for success
Week 10	Unit 12 The right stuff	Infinitives of purpose Talking about ads
Week 11	Unit 13 That's a possibility	Quiz Units 11-12 Explaining hypothetical events Drawing conclusions
Week 12	Unit 13 That's a possibility	Using past modals of certainty Giving opinions and advice
Week 13	Unit 14 Behind the Scenes	Describing how something is done or made Describing media careers
Week 14	Unit 14 Behind the Scenes	Describing a process Using relative clauses

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, class preparation, Written assignments-paragraphs

【テキスト（教科書）】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Self-Study online

Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Workbook

<https://quizlet.com/KreggJ><https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 40%

Speech/Presentation 20%

* Students must attend 80% of the classes in order to pass

Students missing more than 3 classes will fail the class

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on discussion skills

【Outline and objectives】

In this course, students learn to develop their communicative competence in both speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

川澄 亜岐子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 15 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class will encourage students to confidently express their opinions about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand spoken English regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). By interacting with other students, they will improve their ability to think logically, convey their thoughts to others, and make effective arguments. In addition, they will be given opportunities to improve their ability to write an effective composition. They will study and learn the structure and function of a paragraph, learn how to compose a short essay, and write a short essay composed of paragraphs. (身近な話題についての自分の知識、経験、意見などを英語で表現できることを目指します。英語でのディスカッションに加え、春学期には、英語で書かれた文章の構造を理解し、英文を論理的に書く練習をします。)

【到達目標】

Students will be able to:

- express their opinion, knowledge, and experience on daily life using oral communication
- express their opinion, knowledge, and experience on daily life in written English
- listen to spoken English and understand the main points
- understand the basic construction of an essay written in English
- write a short essay composed of paragraphs

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This course emphasizes writing and speaking skills. Students will be given opportunities to practice listening and writing English through pair work and group activities. In spring semester, the class will also focus on the composition of an essay and prepare for a writing assignment (short essay)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course overview, Self-introduction
2	Unit 1-A: People	Introducing a person to someone else/ Responding to introductions
3	Unit 1-B: Lessons Learned	Write about something you learned
4	Unit 2-A: Foods We Like	Making suggestions/ Responding to suggestions
5	Unit 2-B: Eating Well	Write a restaurant review
6	Unit 3-A: You're in Luck!	Talking about possibility
7	Unit 3-B: Unsolved Mysteries	Research and write about an issue
8	Unit 4-A: Lifestyle Trends	Disagreeing
9	Unit 4-B: Fashion Trends	Give fashion advice to someone looking for a job
10	Unit 5-A: Running Errands	Making appointments
11	Unit 5-B: My Neighborhood	Write about your neighborhood
12	Unit 6-A: Starting Out	Responding to bad news/ Offering to help
13	Unit 6-B: After Graduation	Write about your college experience
14	Review	Review Unit 1-6/ Submission of short essays

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students in this course are expected to pre-read units, check vocabulary, and complete assignments.

【テキスト（教科書）】

Susan Stempleski, Nancy Douglas, James R. Morgan, Kristin L. Johannsen, Andy Curtis, World Link 2 (3rd ed.), Cengage, ¥2,710.

【参考書】

Additional materials will be distributed by the instructor when necessary.

【成績評価の方法と基準】

The final grade will be based on participation in class activities, quizzes (60%), and the essay (40%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline and objectives】

This class will encourage students to confidently express their opinions about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand spoken English regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). By interacting with other students, they will improve their ability to think logically, convey their thoughts to others, and make effective arguments. In addition, they will be given opportunities to improve their ability to write an effective composition. They will study and learn the structure and function of a paragraph, learn how to compose a short essay, and write a short essay composed of paragraphs.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

川澄 亜岐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 営 1 年：英語 15 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class will encourage students to confidently express their opinions about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand spoken English regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). By interacting with other students, they will improve their ability to think logically, convey their thoughts to others, and make effective arguments. In addition, they will be given opportunities to improve their ability to write an effective composition. They will practice and learn the skills necessary to compose a text regarding their experiences, knowledge, and opinions about various issues. In addition, presentation skills will be introduced during the autumn semester. Students will be expected to prepare and deliver an effective, interactive presentation.

（春学期に引き続き、身近な話題についての自分の知識、経験、意見などを英語で表現できることを目指します。秋学期には、自分の意見を相手に論理的に伝える練習として、プレゼンテーションに取り組みます。）

【到達目標】

Students will be able to:

- express their opinion, knowledge, and experience on daily life using oral communication
- express their opinion, knowledge, and experience on daily life in written English
- listen to spoken English and understand the main points
- write a short essay
- prepare and deliver a presentation

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This course emphasizes listening and writing skills. Students will be given opportunities to practice listening and writing English through pair work and group activities. In autumn semester, the class will prepare and deliver a presentation. Students will compose a presentation that is both logically constructed and persuasive.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course overview
2	Unit 7-A: Parties	Inviting/ invitation
3	Unit 7-B: Festivals and Holidays	Write about a holiday or festival
4	Unit 8-A: What's the Story About?	Keeping a story going
5	Unit 8-B: Modern Fairy Tales	Write an email about a previous event
6	Unit 9-A: Workplace Traits	Interviewing for a job
7	Unit 9-B: Dream Jobs	Write a presentation about an interesting career
8	Unit 10-A: Using the Telephone	Using the telephone
9	Unit 11-B: Making Life Better	Compare products
10	Unit 12-A: Before You Go	Saying you've forgotten something
11	Unit 12-B: Adventures in Traveling	Correspond with a homeshare host
12	Preparation for Presentations (1)	Making groups, deciding topics, tips for a good presentation
13	Preparation for Presentations (2)	Peer-reading and editing the speech draft, rehearsal
14	Presentation	Group presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students in this course are expected to pre-read units, check vocabulary, and complete assignments.

【テキスト（教科書）】

Susan Stempleski, Nancy Douglas, James R. Morgan, Kristin L. Johannsen, Andy Curtis, World Link 2 (3rd ed.), Cengage, ¥2,710.

【参考書】

Additional materials will be distributed by the instructor when necessary.

【成績評価の方法と基準】

The final grade will be based on participation in class activities, quizzes (50%), and the presentation (50%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【Outline and objectives】

This class will encourage students to confidently express their opinions about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand spoken English regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). By interacting with other students, they will improve their ability to think logically, convey their thoughts to others, and make effective arguments. In addition, they will be given opportunities to improve their ability to write an effective composition. They will practice and learn the skills necessary to compose a text regarding their experiences, knowledge, and opinions about various issues. In addition, presentation skills will be introduced during the autumn semester. Students will be expected to prepare and deliver an effective, interactive presentation.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 16 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1. Reading articles from book.
2. Listening and watching audio/video.
3. Speaking and Role play in Pair & Groups.
4. Individual Presentations about a topic.
5. Writing paragraphs and short essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Good memories	Pair & group work. Grammar explanation.
3	Unit 1: Reading about Frida Kahlo	Pair & Group work on what you have in common
4	Unit 2: Life in the city	Pair write about your hometown. Grammar Explanation
5	Unit 2: Listen to audio and pair work.	Group work about your hometown. Reading about the Happiest Cities
6	Unit 3: Making change	Pair & Group work. Grammar explanation.
7	Unit 3: Discuss your neighbors	Pair work on comparisons. Write an email to your friend.
8	Midterm on Units 1-3	Written test on grammar and vocabulary.
9	Unit 4: Have you ever tried it?	Pair work about food. Grammar explanation
10	Unit 4: Presentations	Presentations about your favorite food/how to make it.
11	Unit 5: Hit the road!	Pair & Group work about vacation. Grammar explanation.
12	Unit 5: comparison essay due.	Reading about vacations. Give advice Grammar 7.
13	Unit 6: Sure! I'll do it!	Unit 6: Pair & Group work about your family. 2 part verbs.
14	Final Exam	Written test about grammar & vocabulary.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. Students should also practice listening with the CD-Rom provided in the text. More detailed explanation will be given during the class period.

【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards: Interchange Level 2 (5th Edition). Cambridge University Press

【参考書】

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework. References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%
Final Exam 25%
Writing Assignments 25%
Presentation & Effort 25%

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【Outline and objectives】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

営 1 年：英語 16 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7: What do you use this for?	Pair Work about technology. Grammar Explanation
2	Unit 7	Listening Writing 11. Write a message to your roommate.
3	Unit 8: Time to celebrate!	Pair work. Grammar Explanation
4	Unit 8	Role Play about holidays. Pair & Group Work Vocabulary
5	Unit 9: Only time will tell.	Write about your favorite trip. Pair Work & Listening about services. Grammar Explanation
6	Unit 9	Word Power 10 Pair & Group Work Discuss cause/effect.
7	Midterm 7-9	Reading 13 Grammar and Vocabulary Test.
8	Unit 10: I like working with people.	Pair & Group Work Prepare biographical presentation on a famous person.
9	Unit 10	Presentation due in front of class.
10	Unit 11: Its really worth seeing!	Pair & Group work Grammar Explanation
11	Unit 11	Listening Word Power
12	Unit 13: Movies	Pair & Group Work on Disney. Pair & Group Work about Movies. Grammar Explanation
13	Unit 13	Word Power Role Play
14	Final Exam on 10,11 & 13	Write a movie review. Grammar & Vocabulary Test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. Students should also practice listening with the CD-Rom provided in the text. More detailed explanation will be given during the class period.

【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards: Interchange Level 2 (5th Edition). Cambridge University Press

【参考書】

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework. 【参考書】

References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentation & Effort 25%

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【Outline and objectives】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

スティーブン モリス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

営 1 年：英語 17 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will have the opportunity to develop and expand their writing and oral communication skills through a variety of structured activities and exercises.

【到達目標】

The goal of this course is to provide students with the ability to express and formulate their ideas and opinions especially in the written form. Students will study basic paragraph structure with the ultimate goal of producing an essay with multiple paragraphs. Students will also have the opportunity to present their ideas orally. Students will be expected to show an understanding of structure, logic and grammatical correctness.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will have extensive opportunities to develop and practice their communication and writing skills both in class and for homework through a variety of exercises and activities. Students will be expected to complete their home assignments as part of their preparation for their class work activities

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Introduction to Writing Concepts
2	Elements of Organization	Key Words and Ideas in Writing
3	The Writing Process	Analyzing the Preparation Steps to Write a Paragraph
4	Sentence Structure	Prewriting Activities Key Sentence Components
5	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
6	Introduction to Listing Order Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Clustering
7	Organizing a Listing Paragraph	Recognizing Key Paragraph Components: Topic and Supporting Sentences
8	Sentence Structure Practice	Construction of Simple and Compound Sentences Creating an Outline
9	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
10	Introduction to Instructional Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Listing
11	Organizing an Instructional Paragraph	Use of Topic Sentences and Transition Signals
12	Expanding an Outline	Creating an Outline from an Edited List
13	Term Writing Assignment	In Class Preparation
14	Submit Assignment	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review and Preparation for classwork

Writing homework based on specific grammar points

【テキスト（教科書）】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs

Author: Ann Hogue

Publisher: Pearson Longman 2014

【参考書】

Good Dictionary required

【成績評価の方法と基準】

Classwork & Homework 30%

Quizzes 35%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

【学生の意見等からの気づき】

Syllabus revised to include more basic writing skills

【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to change

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

スティーブン モリス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 営 1 年：英語 17 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Using the techniques introduced in the first term, students will have the opportunity to enhance and broaden their overall communication skills through extensive practice both orally and in the written form.

【到達目標】

The goal of this course is to familiarize students with the process of writing clear and well-structured paragraphs. At the same time students will have the opportunity to combine their writing skills with their oral presentation skills. Attention will be focused on providing students with a solid foundation on which to build their writing and communication skills. There will be an increased emphasis on more in-depth writing and discussion in this part of the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Classwork activities and exercises will increasingly require students to initiate their own ideas and opinions. Students will be expected to produce more comprehensive and in-depth writing.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction and Review	Review activities will focus on covering key concepts covered in the first term
2	Sentence Structure Practice	Analyse Complex Sentences with Time Clauses Analyse Sentence Fragments
3	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation and Drafting
4	Understanding the Concept of Space Order in Writing	Practice Prewriting for Descriptive Paragraphs Using Supporting Sentences with Specific Details
5	Creating a Detailed Outline	Use of Adjectives and Prepositions
6	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation and Drafting
7	Paragraphs that Persuade	Prewriting Using Reasons and Examples to Support Ideas
8	Paragraph Development	Paragraph Development with Transition Signals that Introduce Reasons and Examples
9	Practice Sentence Structure	Using Complex Sentences with Reason and Condition Clauses
10	Writing Activities Term Writing Assignment	Unit Quiz Preparation and Drafting
11	Introduction to Presentation Techniques	Analyse Body Language, Voice, Gestures, Organization
12	Organizing a Presentation	Analyse Three-Part Structure
13	Presentation Practice	Students deliver short presentations
14	Term Assignment	Term Assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review and Preparation as directed
 Writing homework based on specific grammar points

【テキスト（教科書）】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs

Author: Ann Hogue

Publisher: Pearson Longman 2014

【参考書】

Good Dictionary required

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on the following:

Classwork & Homework 35%

Quizzes 30%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

【学生の意見等からの気づき】

Introduced more comprehensive writing component and overview of presentation skills

【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to change

【Outline and objectives】

LANe100LA

English 2 I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 I 2016 年度以前入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年：英語 18 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での speaking, writing, listening の練習をすることで、情報収集や paragraph writing, discussion に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、speaking や writing で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各 Unit の進め方としては、1つの Unit を前半と後半に分け、2週にわたって1つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の復習やテキストを中心に listening, speaking, writing の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには reading のセクションもありますので、内容を確実に理解し、意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、speaking のパフォーマンステストや語彙テストなども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業説明、アクティビティー
2	Unit 1 (1) I Love Making Jewelry!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 1 (2) I Love Making Jewelry!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 2 (1) How Long Have You Been Playing Cricket?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 2 (2) How Long Have You Been Playing Cricket?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 3 (1) You Could Ask for Advice.	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 3 (2) You Could Ask for Advice.	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 4 (1) The Koala Was Taken to a Shelter.	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 4 (2) The Koala Was Taken to a Shelter.	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 5 (1) How Was It Formed?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 5 (2) How Was It Formed?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 6 (1) Look at That Narwhal!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 6 (2) Look at That Narwhal!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading, そして語彙に関するテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で行う前には Language Focus の発声練習を、各 Unit の (2) を授業で行う前には「Reading の予習」を行ってください。「Reading の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehension の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れおくことを奨励します。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：Time Zones Student Book 4 (Second Edition)
著者：Bohlke, D. and Wilkin, J.
出版社：Cengage Learning
出版年：2016 年
価格：2170 円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 %（授業中の活動・単語テスト）
 2. 予習 20%
 3. 期末試験 50%
 - ・欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
 - ・3 回の遅刻（授業開始時刻から 10 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。
- 遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
- 授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【その他の重要事項】

授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。携帯電話等のアプリ等、通信可能な機器の使用は認めません。通信可能な電子辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with the classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build their vocabulary knowledge needed to gather information to write paragraphs and have a discussion in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
 営 1 年：英語 18 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での speaking, writing, listening の練習をすることで、情報収集や essay writing, discussion に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、speaking や writing で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各 Unit の進め方としては、1 つの Unit を前半と後半に分け、2 週にわたって 1 つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の復習やテキストを中心に listening, speaking, writing の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには reading のセクションもありますので、内容を確実に理解し、意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、speaking のパフォーマンステストや語彙テストなども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm-up	春学期の復習、アクティビティー
2	Unit 7 (1) It Might Have Been a Temple.	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 7 (2) It Might Have Been a Temple.	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 8 (1) It's Taller than the Eiffel Tower!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 8 (2) It's Taller than the Eiffel Tower!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 9 (1) He's a Great Director, Isn't He?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 9 (2) He's a Great Director, Isn't He?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 10 (1) I Wish I Could Be an Athlete!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 10 (2) I Wish I Could Be an Athlete!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 11 (1) What Would You Do?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 11 (2) What Would You Do?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 12 (1) You Should Eat More Fruit!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 12 (2) You Should Eat More Fruit!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading, そして語彙に関するテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で行う前には Language Focus の発声練習を、各 Unit の (2) を授業で行う前には「Reading の予習」を行ってください。「Reading の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehension の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れおくことを奨励します。

授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：Time Zones Student Book 4 (Second Edition)

著者：Bohlke, D. and Wilkin, J.

出版社：Cengage Learning

出版年：2016 年

価格：2170 円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 %（授業中の活動・単語テスト）
2. 予習 20%
3. 期末試験 50%
 - ・欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
 - ・3 回の遅刻（授業開始時刻から 10 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。
 - ・遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
 - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【その他の重要事項】

授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。携帯電話等のアプリ等、通信可能な機器の使用は認めません。通信可能な電子辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with the classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build their vocabulary knowledge needed to gather information to write an essay and have a discussion in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

アネッテ・グルーパー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 営 1 年：英語 19 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Time expressions. Comparative adjectives
11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough
13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation: 40%

Test after each chapter: 60%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested listening tracks to be repeated more.

【学生が準備すべき機器他】

Dictionary

【Outline and objectives】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

アネット・グルーパー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 19 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect and past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases
13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 3rd Edition, Pre-Intermediate Student Book with itutor Pack, Oxford University Press, 2012.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 40%

Test after each chapter 60%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested easier listening exercises.

【Outline and objectives】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 20 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in small groups. Both the instructor and the peer partner(s) will read each student's work. This course will emphasize "writing as a process."

【到達目標】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format, to a given audience. The course will cover paragraph development, organization, essay writing, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introductions Course overview Assessment Classroom Management
2.	Process Writing	Six Steps of Academic Writing. Using outlines
3.	Getting ready	Choosing a Topic Brainstorming Editing
4.	Paragraph structure	Topic Sentence Supporting sentences Concluding sentence
5.	Paragraph Development	Styles of support Detail, Explanation, Example
6.	Peer editing	Give constructive feedback using on-line sharing
7.	Descriptive Writing	Using Adjectives:describing people and places
8.	Descriptive Paragraphs	Describing a process using connectors
9.	Organising ideas	Keeping ideas connected and in order
10.	Opinion Paragraphs	Introduce opinion v.s. fact, opinion paragraphs discussion, homework
11.	Opinion Paragraphs	Persuade your readers to accept your opinion
12.	Modal Auxiliary Verbs	Grammar Review
13.	Using Causal Adverbs	Describing cause and effect ideas
14.	Presentation	Present your paragraphs to your peers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3 (or 4) short Homework assignments

All assignments written in digital format and submitted via Gmail.

To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays: From Paragraph to Essay" by Dorothy E Zemach and Lisa A Ghulldu MACMILLAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework Assignments:30%

Worksheet Assignments: 30%

Participation: 20%

Presentation:20%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A portable electronic device with a Word Processing capability.

Access to a Cloud computing service will be useful

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on Gmail with a photograph of their name (in English) and their student number. Please download Google Classroom to your device before our first class. Course code is: a0eatqq

【Outline and objectives】

Students will participate in pair and group activities to practice speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion. Students will then practice preparing a short essay with multiple paragraphs that are logically connected.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
 営 1 年：英語 20 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a required course for first year students. Students will practice speaking and listening skills but the focus of this course is on effectively expressing opinions, knowledge and experiences in the written form. Students will be able to apply these skills to any other subjects that they study in their university studies and in future work environments.

【到達目標】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Listening and speaking

Students will be required to participate in pair and group discussions of issues related to their everyday opinions, knowledge and experience.

Writing

Students will be taught the basic structure of Academic style paragraphs and essays: Topic Sentence, Supporting Sentences and Conclusion sentences. Grammatical devices will be taught, as appropriate, for different paragraph types to achieve Unity.

Students will then prepare an essay outline With an Introduction and Thesis statement, 2-3 body paragraphs and a Concluding paragraph.

Students may be required to prepare a short presentation in which they demonstrate their understanding of the correct format for an Academic Essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction	Review of Semester 1 Objectives and achievements. Join Classroom
Class 2	Comparing and Contrasting	Using comparative structures
Class 3	Similarities and Differences	Block versus Point by Point format
Class 4	Advantages and Disadvantages	Prepare and share paragraphs
Class 5	Problem and Solution Paragraphs	Using 5 Conditional Structures
Class 6	Problem and Solution Paragraphs	Linking Problems with solutions for coherence
Class 7	The structure of an Essay	Introduction, Body Conclusion Thesis statement
Class 8	Writing thesis statements	Thesis statement and conclusion
Class 9	Essay Outlines	Using software functions to prepare an outline for an essay
Class 10	Essay Development	Putting the flesh onto the outline.
Class 11	Peer Review	Use standard software functions to Peer Review an Essay. Check for Cohesion and Unity
Class 12	Presentation	Present the structure of Essay to the class to demonstrate understanding of the correct Essay structure.

Class 13 Presentation

Present the structure of Essay to the class to demonstrate understanding of the correct Essay structure.

Class 14 Review

Review the course objectives and student achievements.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

Writing Essays: from paragraph to Essay, Dorothy E. Zemach, Lisa A. Ghulldu, Macmillan Writing Series

【参考書】

To be advised during course

【成績評価の方法と基準】

3 homework assignments each worth 10% of overall assessment = 30%

3 worksheet assignments each worth 10% of overall assessment = 30%
 2 Student Self Evaluations of pair and group discussion participation each worth 10% = 20%

1 Presentation of Final Essay structure 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring their e-devices to class. A smartphone is acceptable but a tablet or laptop device is strongly encouraged. Students should have access to Japanese English and English - English e-dictionaries. Paper and pens/pencils might be required for mind-mapping and preparing diagrams.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom" and will be required to change their profile on Gmail with a photograph of their name (in English) and their student number.

【Outline and objectives】

Students will participate in pair and group activities to practice speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion. Students will then practice preparing a short essay with multiple paragraphs that are logically connected. Peer editing, using standard word processor software, will be practiced.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

井上 紗央里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 21 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で使用されているニュース教材を使用し、リーディング、スピーキング、リスニング、ライティングの演習を行います。

【到達目標】

海外のニュースを音声と映像で理解できるようになることを目標とします。さらに、ニュースを通して国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト Seeing the World through the News 5 を使用して授業をすすめます。テキスト内の演習問題を使用して、語彙の確認、リスニング練習を行います。その後ニュースの内容を受講者全員で確認し、Summary を使用した単語テストを行います。ニュースに関する自分の意見、感想等の英作文、ディスカッションも行います。授業には必ず辞書を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction, Unit 1 Battle of Hastings Anniversary 前半	授業の進め方の説明 英作文についての説明 Unit1 のリスニング
2	Unit 1 Battle of Hastings Anniversary 後半	テキスト P6 Summary のリスニング テキスト P1～6 会話練習
3	Unit 2 Slippers Help Children Study	テキスト P12 Summary のリスニング テキスト P7～12 会話練習
4	Unit 3 Vintage DJs	テキスト P18 Summary のリスニング テキスト P13～18 会話練習
5	Unit 4 Colorful Crossings in Brixton	テキスト P24 Summary のリスニング テキスト P19～24 会話練習
6	前半のまとめと英作文 1、ディスカッション	これまで扱ったニュースに関する意見等の英作文
7	中間試験とまとめ	第 1 回から第 6 回までの授業内容を試験範囲とします。
8	Unit 5 A High Heels Dress Code	テキスト P30 Summary のリスニング テキスト P25～30 会話練習
9	Unit 6 Community Languages	テキスト P36 Summary のリスニング テキスト P31～36 会話練習
10	Unit 7 Virtual Reality for Mental Health	テキスト P42 Summary のリスニング テキスト P37～42 会話練習
11	Unit 8 Solving Problems of Farmed Salmon 前半	テキスト P42 Summary のリスニング テキスト P43～48 会話練習
12	Unit 8 Solving Problems of Farmed Salmon 後半	テキスト P42 Summary のリスニング テキスト P43～48 会話練習
13	後半のまとめと英作文 2、ディスカッション	これまで扱ったニュースに関する意見等の英作文
14	期末試験とまとめ	第 8 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストにニュース映像閲覧用のパスワードが記載されているので、それを使用して事前にネット上のニュース映像を見て、News Story の英文を事前に読んでください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの Making a Summary のリスニングの小テストをユニットの最後に行いますので、問題を事前に解いておいてください。

【テキスト（教科書）】

Seeing the World through the News 5（金星堂 2018）¥2,500（+ Tax）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

2 回の試験の平均点 60 %、平常点（授業内での発言等の貢献度、提出物など）25 %、小テストの点数 15 %で総合的に評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。欠席と遅刻は減点となり、30 分以上の遅刻は欠席分の減点がつきます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士のディスカッションなどの機会を増やしたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

井上 紗央里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
 営 1 年：英語 21 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外で使用されているニュース教材を使用し、リーディング、スピーキング、リスニング、ライティングの演習を行います。

【到達目標】

海外のニュースを音声と映像で理解できるようになることを目標とします。さらに、ニュースを通して国際社会への意識を高め、自分の意見を英語でアウトプットすることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト Seeing the World through the News 5 を使用して授業をすすめます。テキスト内の演習問題を使用して、語彙の確認、リスニング練習を行います。その後ニュースの内容を受講者全員で確認し、Summary を使用した単語テストを行います。ニュースに関する自分の意見、感想等の英作文、ディスカッションも行います。授業には必ず辞書を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Unit9 前半	授業についての説明と Unit9 のリスニング
2	Unit9 DNA Tests to Reveal Heritage 後半	テキスト P54 Summary のリスニング テキスト P49～54 会話練習
3	Unit10 Social Mobility	テキスト P60 Summary のリスニング テキスト P55～60 会話練習
4	Unit11 London Mayor's Brexit Warning	テキスト P66 Summary のリスニング テキスト P61～66 会話練習
5	Unit12 Brompton Bikes and the Brexit Challenge	テキスト P72 Summary のリスニング テキスト P67～72 会話練習
6	英作文 1 回目	これまでのニュースについての意見等を英作文してもらいます
7	中間試験と前半のまとめ	第 1 回から第 6 回までの授業内容を試験範囲とします。
8	Unit 13 The Price of a Cuppa Will Rise	テキスト P78 Summary のリスニング テキスト P73～78 会話練習
9	Unit14 The Stiring Prize for Architecture 前半	テキスト P84 Summary のリスニング テキスト P79～84 会話練習
10	Unit14 The Stiring Prize for Architecture 後半	テキスト P84 Summary のリスニング テキスト P79～84 会話練習
11	Unit15 The Great Barrire Reef is Dying 前半	テキスト P90 Summary のリスニング テキスト P85～90 会話練習
12	Unit15 The Great Barrire Reef is Dying 後半	テキスト P90 Summary のリスニング テキスト P85～90 会話練習
13	英作文 2 回目	これまでのニュースについての意見等を英作文してもらいます
14	期末試験と内容のまとめ	第 8 回から 14 回までの内容を試験範囲とします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストにニュース映像閲覧用のパスワードが記載されているので、それを使用して事前にネット上のニュース映像を見て、News Story の英文を事前に読んできて下さい。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの Making a Summary のリスニングの小テストをユニットの最後に行いますので、問題を事前に解いておいてください。

【テキスト（教科書）】

Seeing the World through the News 5（金星堂 2018）¥2,500（+ Tax）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

2 回の試験の平均点 60 %、平常点（授業内での発言等の貢献度、グループワーク、提出物など）25 %、リスニングの点数 15 %で総合的に評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。遅刻と欠席の回数に応じて減点になります。30 分以上の遅刻は欠席分の減点がつきます。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士のディスカッションの機会を増やしたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 22 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的としてはテーマに沿っていかに自分の意見を英語で話せるかをめざす。もちろん自分の意見のみならずクラスメートの意見をも聞き色々な考えかたに接していくようにしていきたい。

【到達目標】

【授業の到達目標およびテーマ】

教科書を中心としながら様々な課題を英語でなるべく長い文章で自分の意見をまとめ、のべる。そしてまた他の学生の意見を聞きながら対応をしていくようにしていく。一年終了時には少しでも自分の意見、考えている事などを英語で話せる様にし、又リスニングの方も以前よりは聞ける様にしていって行きたい。英語に対して恐怖心という物を取り除き少しでも英語をより多く話せる様にしていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書 Impact issues 2 に入る前に簡単なリスニングと会話をする。この教科書は様々なテーマを扱っているのでユニットごとにそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対しその都度テーマに関して自分の意見が言えるようにする。教科書の課題を読み英語でまとめられるようにしていきたい。又各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。自分の意見をクラスの前で言える様にプレゼンテーションを授業内で多く行う。また、前期後期を各 1 回ずつ大きなプレゼンテーションをしてもらう。また夏季休暇には外国人にアンケートをとってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介並びに授業の紹介
2	Unit 1	First Impressions What are the first impressions of your classmates.
3	Unit 1	What kind of opinions do you have to people who are different from you?
4	Unit 1&3	Group discussion What do you think about the local language?
5	Unit 3	Talk about whether the local language is necessary when people work in a different country.
6	Unit 3&5	Continuation of Unit 3. Unit 5. What do you think about marriage
7	Unit 5	What are the merits and demerits of being single or being married. Group discussion
8	Unit 5&6	Continuation of Unit 5. What is a friend to you?
9	Unit 6	What would you do for a friend? Group discussion
10	Unit 6&7 Preparing for the presentation	Continuation of Unit 6. Prepare for the presentation
11	Unit 7 Preparation for the presentation	What do you think about bullying? prepare for the presentation
12	Unit 7 Preparing for the presentation	What can you do to help your classmate who is been bullied. Prepare for the presentation.
13	Presentation	Presentation of each group
14	Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備としては教科書を予習をし各ユニットのテーマに沿って自分の意見をまとめ口頭で述べられようにする。発表に準備をしっかりとする。夏期の宿題として外国人にアンケートをとってもらう。

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2
Pearson/Longman
Richard R Ray
Joseph Shaules
Junko Yamanaka

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験並びに授業参加度、課題に対する発表、出席など
試験 70 % その他 30 % (平常点、宿題、発表)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

よく教科書を読み自分の意見を英語でまとめられるようにする。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to express their opinions orally and be able to exchange various opinions with their class mates.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 22 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様英語を通して自分の意見を言えるようにする。またクラスメイトの意見にも英語で反応出来るようにし英語をただの言語としてとらえるのではなく道具として使えるようにして行く。

【到達目標】

教科書の題材のテーマを通してクラスメイト同士でコミュニケーションをはかりながら自分の意見を主張し反論出来るように授業を進めて行く。基本の reading, writing, speaking, listening を通して英語モードにして行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Impact Issues 2 を教科書として使用する。この教科書が様々なテーマが各ユニットで設けられそれにそり自分の意見、ならびにクラスメイトの意見を聞きながら対応をして行く。個人の発表ならびにグループのプレゼンテーションも多く取り入れる。英語の詩を読み自分自身で英語のを書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presentation	夏季課題の発表
2	Reading a poem	Read "What Do I Remember of the Evacuation" and understand the poem
3	Reading a poem	Analyze and think of the symbols in the poem. Start writing your own poem.
4	Unit 10	Why go to school? What is your purpose of going to the university?
5	Unit 10	Continuation from the previous class. Group discussion.
6	Reciting one's own poem	Reciting your own poem
7	Unit 12	What do you think of global warming?
8	Unit 12	How can we stop global warming. Group discussion.
9	Unit 17	What do you think of refugees? Need we help them?
10	Unit 17	What is the merit in helping the refugees?
11	Preparing for the presentation	Prepare for the presentation
12	Unit 20	What do you think about capital punishment?
13	Preparing for the presentation	Prepare for the presentation
14	Unit 20	Are you for or against capital punishment?
15	Preparing for the presentation	Prepare for the presentation
16	Presentation	Presentation by each group
17	Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読み内容を理解しておく事。宿題に出された課題をこなす。

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2

Longman Pearson 出版

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 % その他 30% (平常点、宿題、発表)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The students will further develop their abilities to effectively express their opinions in English and be able to give presentations and speeches.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 I

2016 年度以前入学者

門馬 義幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 23 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を書くことを目標とします。円安により、また東京オリンピックを控え、多くの外国人が日本を訪れるようになりました。困っている外国人を見かけることも多くなり、そのような人たちに英語で話しかけ、手助けできる会話力を身につけましょう。

【到達目標】
この授業では、日常生活において、私たちが使うあたりまえの表現を学びます。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいますので、基礎的な実用英語と e-mail や手紙の書き方の習得を目指します。日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
テーブを使いリスニングに力を入れながら、授業を進めていきます。予習はしなくてけっこうですが、復習は必ず行ってください。英会話に必要な基礎的な表現ばかりですので、指定した会話文はすべて暗記する必要があります。授業では毎回、出席している学生全員を指名していければと考えています。各章終了後に確認テストを行います。私が実際に英米人とやり取りしている e-mail から英文を取り出し、e-mail の書き方や文章の論理的な構成等も説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の方針を説明 Chapter 1	Hi! How are you?
2	Chapter 1	Hi! How are you?
3	Chapter 2	What's your major?
4	Chapter 2	What's your major?
5	Chapter 3	What did she look like?
6	Chapter 3	What did she look like?
7	Chapter 4	Let's take a trip!
8	Chapter 4	Let's take a trip!
9	Chapter 5	How about going out for dinner?
10	Chapter 5	How about going out for dinner?
11	Chapter 6	Let's go shopping!
12	Chapter 6	Let's go shopping!
13	春学期復習	chapter1-6
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習をしてください

【テキスト（教科書）】
Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】
必要な参考書、資料等については授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験と平常点を成績評価基準とします。それぞれの配分は期末試験（70 %）、確認テスト等平常点（30 %）です。4 回以上欠席した場合には原則として単位は認めません。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
目標を持って英会話の習得を目指しましょう

【Outline and objectives】
Let's acquire basic English conversation and logical English sentences. Through listening exercises and learning the patterns used in daily life, you will make yourself understood in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 II

2016 年度以前入学者

門馬 義幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 23 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期と同じ

【到達目標】
春学期と同じ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
春学期と同じ

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter 7	How are you feeling?
2	Chapter 7	How are you feeling?
3	Chapter 8	Hello? Can I speak Mary?
4	Chapter 8	Hello? Can I speak Mary?
5	Chapter 9	I'm so busy.
6	Chapter 9	I'm so busy.
7	Chapter 10	What do you do?
8	Chapter 10	What do you do?
9	Chapter 11	Let's watch sports!
10	Chapter 11	Let's watch sports!
11	Chapter 12	Let's celebrate!
12	Chapter 12	Let's celebrate!
13	秋学期復習	Let's stay healthy!
14	試験	Chapter 7-12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期と同じ

【テキスト（教科書）】
春学期と同じ

【参考書】
春学期と同じ

【成績評価の方法と基準】
春学期と同じ

【学生の意見等からの気づき】
春学期と同じ

【学生が準備すべき機器他】
春学期と同じ

【その他の重要事項】
春学期と同じ

【Outline and objectives】
春学期と同じ

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
 営 1 年：英語 24 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語のハ・ラク・ラフを書き、また、口頭でそれを発表する。ステップバイステップでこの目標に向かう。まずは一つのハ・ラク・ラフを作ることを目指し、最終的には複数のハ・ラク・ラフからなる短いエッセイ（小論文）を書けるようになる。授業の最初の段階では、題材にふさわしい英語表現と内容を選択して短い文章を書き、口頭で発表する。フ・レセ・ンテーション（口頭の発表）は原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でフ・レセ・ンテーションでできるようにする。そのために、発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・ハ・ラク・ラフの形式で英文を書ける。
- ・その内容を口頭で発表できる。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリス・ムで話せる。
- ・自分の意見を形成し筋道立てて述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- テキストの各章を進めながらパラグラフ形式で書くことの意味、メリットを理解する。授業の各回でグループワークと個人作業を織り交ぜる。補助資料を使ってライティング・/スピーキングの題材を提供する。それに基づいて実際にハ・ラク・ラフを作り、フ・レセ・ンテーションを行う。
- テキストを使い、ハ・ラク・ラフライティングの基礎的なアイデアを学ぶ。
- ハ・ラク・ラフライティングの実践。内容を構想し、最初の草稿を作成し、他の学生や講師のフィードバックを受けて改稿し、最終的に仕上げのまてのプロセスを実際に辿る。
- 資料と練習素材を使って子音、母音の発音を一つ一つ練習する。英文を発音する際のアクセント、イントネーション、リズムを練習する。
- 作成したハ・ラク・ラフをフ・レセ・ンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の説明、導入	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。英語に対する関心、苦手意識のアンケート
2	Chapter 1 (1) Introducing Yourself	Pre-writing processes -Task 1-7
3	Chapter 1 (2) Introducing Yourself	Writing processes -Introducing Yourself -Group work
4	Chapter 1 (3) Introducing Yourself	Short presentation -Group work
	Chapter 2 (1) Writing a Story by Yourself	Pre-writing processes -Task 1-7
5	Chapter 2 (2) Writing a Story by Yourself	Writing processes -Writing a Story by Yourself -Group work
6	Chapter 2 (3) Writing a Story by Yourself	Short presentation -Introducing Yourself -Group work
7	Chapter 4 (1) Different Varieties of English	Feedback Pre-writing processes -Task 1-8
8	Chapter 4 (2) Different Varieties of English	Writing processes -Task 9-12 -Brainstorming
	手続きや手順の説明	-Writing a paragraph

9	Chapter 4 (3) Different Varieties of English	Writing processes -Rewriting a paragraph
10	Chapter 4 (4) Different Varieties of English	Writing processes -Finishing a paragraph Pre-writing processes -Task 1-4
	Chapter 5 (1) Describing Interesting People and Places	手続きや手順の説明 描写
11	Chapter 5 (2) Describing Interesting People and Places	Pre-writing processes -Task 5-9 (Ch.5) -Task 1-10 (Ch.6)
	Chapter 6 (1) Expressing Your Feelings	描写
12	Chapter 7 (1) Introducing Your Hometown	Pre-writing processes -Understanding what and how you write Writing processes -Group work -Brainstorming -Writing a paragraph
13	Chapter 7 (2) Introducing Your Hometown	Writing processes -Group work -Rewriting a paragraph
14	Chapter 7 (3) Introducing Your Hometown	Writing processes -Group work -Finishing a paragraph

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。ハ・ラク・ラフの草稿作成を宿題として課された場合、提出が義務づけられる。パラグラフの作成は改稿作業が必須であるから、授業中に受けたコメントを草稿に反映させる時間にも必要になる。

【テキスト（教科書）】

熊本たま、大井恭子、上村妙子、Kim Marie Sano、松本佳穂子、『Writing Frontiers -英語で発想するライティング』、金星堂、2010 年、2000 円（税別）

【参考書】

綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
 『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008 年、4700 円（税別）

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題への取り組み、グループワークでの貢献、授業内課題の出来、等）30%、提出課題 40%、口頭発表 30%
 欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation of the same material with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph, and finally a short essay (consisting of several paragraphs). You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

LANe100LA

English 2 II

LANe100LA

English 2 II

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 24 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で短いエッセーを書き、また、口頭でそれを発表する。プレゼンテーション（口頭の発表）は原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションでできるようになる。そのために、発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

- 【到達目標】
- ・選択した題材について、複数のパラグラフからなる短いエッセーを書ける。
 - ・その内容を口頭で発表できる。
 - ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリズムで話せる。
 - ・書いたエッセーを他の学生に向けて、正しい発音で発表できる。
 - ・自分の意見を形成し筋道立てて述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

- 【授業の進め方と方法】
- テキストの各章を進めながらパラグラフ形式で書くことの意味、メリットを理解する。授業の各回でグループワークと個人作業を織り交ぜる。補助資料を使ってライティング/スピーキングの題材を提供する。それに基づいて実際にエッセーを作り、プレゼンテーションを行う。
- ・パラグラフ作成で身につけた技術を応用・拡張し、エッセー作成に必要なアイデアを学ぶ。
 - ・短いエッセーを作る。内容を構想し、最初の草稿を作成し、他の学生や講師のフィードバックを受けて改稿し、最終的に仕上げられるまでのプロセスを実際に辿る。
 - ・資料と練習素材を使って子音、母音の発音を一つ一つ練習する。英文を発音する際のアクセント、イントネーション、リズムを練習する。
 - ・作成したエッセーをプレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。春学期のフィードバック。英語を実用する具体的目標の設定、克服したい英語の苦手部分の意識化。
2	Chapter 8 (1) Studying More about the World	Pre-writing process -Task 1-7
3	Chapter 8 (2) Studying More about the World Chapter 9 (1) Why Are They So Popular?	Writing process -Task 8-11 (Ch.8) -Group work Pre-writing process -Task 1-7 (Ch.9)
4	Chapter 9 (2) Why Are They So Popular? Chapter 10 (1) Why Have Fast Food Shops Become Popular in Japan?	Writing process -Task 8-10 (Ch.9) -Group work Pre-writing process -Task 1-7 (Ch.10)
	理由 原因と結果	

5	Chapter 10 (2) Why Have Fast Food Shops Become Popular in Japan? 原因と結果 Chapter 7 (1) Introducing Your Hometown プロセス・ライティングとは	Writing process -Task 8-12 (Ch.10) -Group work Pre-writing process -Task 1-3 (Ch.7)
6	Chapter 7 (2) Introducing Your Hometown プロセス・ライティングとは	Writing process -Task 4-11 (Ch.11) -Group work
7	Writing a short essay 1	Writing process -Understanding what and how you write -Group work -Deciding a theme through the QFT method -Brainstorming
8	Writing a short essay 2 Preparation for presentation 1	Writing process -Group work -Idea Generation Presentation -Speaking Practice
9	Writing a short essay 3 Preparation for presentation 2	Writing process -Group work -Organization Presentation -Speaking Practice
10	Writing a short essay 4 Preparation for presentation 3	Writing process -Group work -Outlining Presentation -Speaking Practice -Mini presentation
11	Writing a short essay 5 Preparation for presentation 4	Writing process -Group work -Submitting an outline -First Draft Presentation -Speaking Practice
12	Writing a short essay 6 Preparation for presentation 5	Writing process -Group work -First Draft -Pia Review -Rewriting Presentation -Speaking Practice
13	Writing a short essay 7 Preparation for presentation 6	Writing process -Group work -Pia Review -Rewriting Presentation -Speaking Practice
14	口頭発表、エッセーの提出	Writing process -Submission Presentation -Group work

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。エッセーの草稿作成を宿題として課された場合、提出が義務づけられる。パラグラフ作成の時と同様に、エッセーの作成も改稿作業が必須であるから、授業中に受けたコメントを草稿に反映させる時間にも必要になる。

【テキスト（教科書）】
熊本たま、大井恭子、上村妙子、Kim Marie Sano、松本佳穂子、『Writing Frontiers ー英語で発想するライティング』、金星堂、2010 年、2000 円（税別）

【参考書】
綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008 年、4700 円（税別）

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題への取り組み、グループワークでの貢献、授業内課題の出来、等）30%、提出課題 35% 口頭発表 35%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方については、定期的かつ頻繁に学生からのフィードバックを行う。

【Outline and objectives】

You write up your experience and/or opinion on a certain topic in the form of paragraphs. And you make a presentation of the same material with correct English pronunciation and accent. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You write down a short essay and make a presentation.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ウォルター カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年：英語 25 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

Common English that students can use everyday

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, video activities, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of syllabus	syllabus recount and rules
Week 2	Starting conversations	Greetings, name usage, personal titles
Week 3	Keeping the conversation going	use of questions and understanding answers
Weeks 4	Identifying objects	in the classroom and office
Weeks 5	Identifying objects	outside elements - public and family homes
Weeks 6	quiz review	greetings- hellos and goodbyes
Weeks 6	quiz on greetings and objects	
	language and grammar exercises	
week 7	Nationalities and geography in Asia	Thailand, Japan, Korea, Vietnam
	Oral Presentation Preparation	Discussion of presentation themes
week 8	Nationalities and geography in North America	Canada, Mexico, USA
	Presentation - structure	Structure- Introduction/Body/Conclusion
week 9	Nationalities and geography in Western Europe	France, Germany, The UK, Italy, Switzerland
	Presentation - physical elements	body language, use of voice
week 10	Clothing styles	formal clothing types
	Presentation - visual elements	visual aids
week 11	Clothing styles	informal clothing review
week 12	Oral Presentations on social themes	speeches on social trends
week 13	Oral Presentations on cultural themes	speeches on cultural differences
week 14	Oral Presentations	speeches on academic trends

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation preparation, homework

【テキスト（教科書）】

Interchange intro fifth edition Jack Richards
9781316620113

【参考書】

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%

Homework 33%

Oral presentation and Quizzes 34%

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

No comment

【Outline and objectives】

Students will learn English using the 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ウォルター カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 25 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Welcome back -Review	Review of first semester themes
Week 2	What are you doing?	activities, time
Week 3	time Family, Neighborhoods, Quiz	telling time relations ,places, functions of place,etc., Quiz -activities, time
Week 4	work commute Apartments and houses	rooms, appliances, and furniture
Week 5	places people live	types- suburbs/countryside/cities
Week 6	Oral presentation preparation- structure Script review I	main points introduction/body/conclusion
Week 7	Script review II Presentation - physical elements	support body language and voice
Week 8	Where people live I Presentation - slide work	apartments backgrounds
week 9	Where people live II	houses
week 10	Presentation- visuals I Work habits Presentation - visuals II	fonts images
week 11	Job types	outdoor, indoor
week 12	Oral Presentations on commuting	public transport, car, on foot
week 13	Oral Presentations on living places	houses, apartments, rooms
week 14	Oral Presentations on where our parents work	companies, hotels, restaurants, stores, government

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, oral preparation

【テキスト（教科書）】

Interchange Intro fifth Edition by Jack Richards

9781316620113

【参考書】

Handouts and text

【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%

Oral presentation and quiz 33%

Homework 34%

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

No comment

【Outline and objectives】

Students will learn English using 4 skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

榎原 益子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 26 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活・現代社会での興味あるトピックについて、自分の考えを書いたり、口頭で発表する英語運用能力を養う。ライティングに関しては、パラグラフライティングの構成を学び、トピックごとに英文で書く力の習得を目指す。さらに、プレゼンテーションによって、実際に口頭で発表する場を設け、スピーキングの強化も図る。そのためには、正確な発音は不可欠な要素となるので、発音矯正指導は平行して実施。リスニングも当然この段階で組み込まれる。この授業を通して読む、書く、聞く、話すという 4 技能を習得する。

【到達目標】

パラグラフライティング・エッセイライティングを習得。プレゼンテーションの習得、人前で話すことに慣れ、英語で考える習慣をつけるために毎回の授業で **one-minute-speech** を実行。テキストの DVD を字幕なしで理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、**one minute speech** を実施する。理由はとにかく文法などを気にせず、自分の言いたいことを人前で英語で話すことに慣れることが、このクラスで可能になる実績があるからである。授業はテキストを中心に進められ、重要な **vocabulary, phrases** を音から学び意味と音、最終的には DVD を字幕なしで理解できるようになることを目指す。**paragaraph writing** に関しては、課題についての英文をパラグラフにまとめ提出する。その翌週に添削されて返却される。

presentation は自分の書いたパラグラフを正確な発音で口頭で発表する。この際、原稿は見ないで行う。このためには、準備練習が必要なのはもとより、視覚的な情報と共に発表することで **presentation** をさらに効果的なものにする。(USB, PC 等)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	A burger for a fine dining experience	In each class hour, after dealing with text book,pronunciation practice will be given using DVD (Reading aloud involved)
2	to follow the 1st session.	summary and comprehension questions including grammar& dictation.
3	paragraph writing Hold me	reading the text through slash reading method. CD and DVD will be used efficiently.
4	to follow the 3rd session.	summary and comprehension quiz
5	paragraph writing Spies are everywhere	Track your data on Internet.
6	to follow the 5th session.	summary and comprehension check
7	Glaciers come, glaciers go.	the change of glaciers is shot by some photographers.
8	to follow the 7th session.	public speech based on the paragraph
9	presentation Picking up language in the womb	How humans learn languages is a big puzzle.
10	to follow the 9th session.	summary and comprehension check
11	The end of space travel?	What is the future space mission of The U.S.?
12	to follow 11th session.	summary and comprehension check
13	final test	review the previous units
14	the final presentation	the topic to be given

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

paragraph writing の課題を宿題とする。学生はレポート用紙に正式な様式に従って英文を書き提出。

【テキスト（教科書）】
VOA News Clip Collection Richard S. Lavin SEIBIDO 2014 2,400

【参考書】
not use

【成績評価の方法と基準】
試験 (60%)、平常点 (40%) 平常点には、presentation/paragraph writing も含まれる。
各学期、欠席が4回以上の場合は、原則として単位習得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
とにかく英語でしゃべらされるクラス。

【学生が準備すべき機器他】
USB,CPand so on will be recommended for presentation

【その他の重要事項】
演習中心の授業。欠席・遅刻に注意。

【Outline and objectives】
This class focuses on enhancing speaking and writing skills mainly. As for writing, they're supposed to come to be able to write a paragraph and then an essay eventually. Along with the writing activities, they'll make a speech based on their writing. Further more, through the text book, they'll challenge to understand the DVD without the subtitles (in doing so, reading technique and pronunciation checks involved)

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

榊原 益子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年：英語 26 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の paragraph writing から essay writing に展開する。さらなるスピーキング能力を向上させるためにも、one-minute speech を充実させる。読む、書く、聞く、話すの4技能を習得する。

【到達目標】
パラグラフライティング、さらに、エッセイライティングの習得。
プレゼンテーションのレベルアップ。one-minute speech をさらに充実させる。
DVD を字幕なしに理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
毎回の音読／ slash reading から本文の理解をする。
CD/DVD を使用して音声から理解を薦める。
ライティング課題を各トピックについて提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
1	A talent blossoms	children who have an amazing talents.
2	to complete the unit	vacabulary/ comprehension check
3	Robots for everyday use write an essay	Robots have many possibilities to dedicate to humans.
4.	to complete the unit	summary and comprehension quiz
5.	Video games as a career	Video games technology makes the industry more attractive to the young.
6.	to complete the unit wrtie an essay	summary and comprehension check
7.	How the Internet began.	How the internet has come around us?
8.	to complete the unit presentation	summary and comprehension check
9.	Social networking and productivity	Social network, like Facebook and Twitter, really contributes our society?
10.	to complete the unit	summary and comprehension check
11.	All the world's books online?	What kinds of advantages of e-book and buying them online?
12.	to complete the unit	summary and comprehension check
13.	final test	review the previous units
14.	final presentation	wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
エッセイライティングの課題を自宅で仕上げて提出。
各ユニットの音声の確認とスピーチの準備

【テキスト（教科書）】
VOA News Clip Collection Richard S.Lavin SEIBIDO 2014 2,400

【参考書】
no

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (60%)・プレゼンテーション・ライティング (40%)
各学期の欠席回数が4回以上の場合、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
とにかくしゃべらされる英語のクラス。

【学生が準備すべき機器他】
If you present your speech, you can use USB, CP and so on.

【Outline and objectives】

The students are supposed to write an essay after acquiring how to write a paragraph sufficiently. Making a speech will also be strengthen through activating one minute speech. They are encouraged to speak about what happens in their daily lives as specifically as possible with a word they've already known.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

溝部 敦子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年：英語 27 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを使って基礎的な英語によるロールプレイや簡単な自己表現を繰り返し行い、平易な会話のスキルを身につける。また、プリント教材も使い、文法の復習と聴解力、語彙力の強化も行う。

【到達目標】

- 1) 英語の音声に慣れ、ポイントとなる部分の聞き取りができる。
- 2) 基本的な文法を確実に習得する。
- 3) 自然な発話の感覚を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「話す」「書く」両面からの発信力強化を目的としたテキストを使います。まず、モデルダイアログを使い、ペアでロールプレイするなど、繰り返し発話練習することで自然な会話の感覚を身につけていきます。また、クラスメイトから情報を収集し、結果を平易な英語で発信する練習も行います。さらに、テキストだけでなくプリント教材も使って基礎文法の復習を行い、**Vocabulary Test** を 2～3 回実施して基本的な語彙を増やしていく予定です。各ユニットの最後ではパラグラフライティングの基礎を学びます。ほかに、テキストとは別にリスニング演習（主にテスト形式）も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容や英語学習のポイントなどについて説明 Self-introduction Activity
2	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 1 文法：文型①
3	Listening & Speaking Practice	Units 1 & 2
4	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 2 文法：文型②
5	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 3 文法：準動詞①
6	Listening & Speaking Practice	Units 3 & 4
7	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 4 文法：準動詞②
8	Listening & Speaking Practice	Unit 5
9	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 5 文法：冠詞
10	Listening & Speaking Practice	Unit 6
11	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 6 文法：受動態
12	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 7 文法：比較表現
13	Listening & Speaking Practice	Unit 7
14	期末テスト	Listening Comprehension & Grammar

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Listening と Reading のセクションは予習が前提。未知の単語などは事前に調べ、疑問点はチェックしておくこと。（ただし、Reading については和訳の必要はない。）また、テキストの音声はダウンロードできるので予習・復習に活用する。その他、指定された予習を行う。文法の宿題あり。

【テキスト（教科書）】

表谷純子ほか *English Beams: Essential Skills for Talking and Writing* (2016 金星堂)

【参考書】

綿貫 陽 『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社）

【成績評価の方法と基準】

期末の Listening & Grammar Test (50%)、Vocabulary Test (20%)、平常点（授業態度、リスニング演習や文法の練習問題、その他課題の出来具合など）(30%) の割合で総合的に評価します。ただし、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

文法などの説明はできるだけわかりやすく丁寧に行い、ペアやグループワークによる発話練習の時間は増やすようにします。

【Outline and objectives】

This course helps students improve their basic conversation skill and strengthen their fluency by repeatedly role-playing, explaining something, and exchanging information or opinions in plain English. Furthermore, they will be given some extra exercises to review grammar and develop confidence in listening and also a few tests to encourage vocabulary building.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

溝部 敦子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 27 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストやプリント教材を使った会話力の向上及び聴解力と語彙力の強化。さらに、パラグラフの基本構造を踏まえて、平易な英語を使った Writing 演習を行う。

【到達目標】

- 1) 耳にした順に自然な流れの中で平易な日常会話が大体理解できる。
- 2) 基礎的な英語を使って内容のある会話が出来る。
- 3) パラグラフの基本構造に基づき、短い論理的な文章が書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に春学期と同じで、テキスト後半の 8 ユニットが対象となりますが、文法の復習に加えて春学期に学習したパラグラフの基本構造にのっとったワンパラグラフの自由作文を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 8 文法：時制①
2	Listening & Speaking Practice	Units 8 & 9
3	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 9 文法：時制②
4	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 10 文法：関係詞①
5	Listening & Speaking Practice	Units 10 & 11
6	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 11 文法：関係詞②
7	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 12 文法：助動詞①
8	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 12 文法：助動詞②
9	Listening & Speaking Practice	Unit 13
10	Writing Listening & Speaking Practice	ワンパラグラフの作文 Unit 14
11	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 14 文法：名詞
12	Listening & Speaking Practice Grammar Review	Unit 15 文法：仮定法
13	Listening & Speaking Practice	Unit 15
14	期末テスト	Listening Comprehension & Grammar

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期同様、授業を円滑に進めるため、指定されたところは必ず予習する。

【テキスト（教科書）】

表谷純子ほか *English Beams: Essential Skills for Talking and Writing* (2016 金星堂)

【参考書】

綿貫 陽 『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社）

【成績評価の方法と基準】

期末の Listening & Grammar Test (50%)、自由作文 (20%)、Vocabulary Test 及び平常点 (授業態度、リスニング演習や文法の練習問題の出来具合など) (30%) の割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

文法などの説明はできるだけわかりやすく丁寧に行い、ペアやグループワークによる発話練習の時間は増やすようにします。

【Outline and objectives】

More speaking and listening practice helps students further develop their conversation and listening skills. As in the spring semester, students' efforts for vocabulary building are also encouraged by some tests. Furthermore, students continue to learn the basics of paragraph writing and are expected to write a paragraph on a given theme in plain English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

リチャード・バロース

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年：英語 28 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment.

【到達目標】

1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Elliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer. Each week students will prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10 minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned a variety of vocabulary exercises as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the previous lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Explanation	Course Introduction
Weeks 2	Speaking & Listening	Billy Elliot 1 (The Ballet Class) : Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening	Billy Elliot 2: (The Private Lesson): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening	Billy Elliot 3 (Trouble at Home): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening	Billy Elliot 4 (The Audition) : Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 5	Speaking & Listening	Billy Elliot 5 (leaving Home) : Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 6	Writing	Evaluation
Week 7	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family): Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team) : Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany) : Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules) : Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,

Week 12 Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 5 (The Final Match) : Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 13 Speaking & Listening	Bend It Like Beckham 6 (Going to America) : Preview, Vocabulary, Listening Comprehension x 2, Review,
Week 14 Writing	Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare vocabulary & review the previous lesson's material prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted

【テキスト（教科書）】

No set text is required. However, since students will be using photocopied handouts, they must bring an A4/B4 folder or binder to each lesson

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

30% - Classroom & Homework Assignments

40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

An in-class preview & review of the lesson will be included to reinforce points learned, time permitting.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a printer & PC in order to print reports

【Outline and objectives】

As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

リチャード・バロース

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 28 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill and the approach, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must be typed on A4 paper.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Introductory Class
Week 2	Writing	Format & Process
Week 3	Writing	Pre-Writing
Week 4	Writing	The Structure of a Paragraph
Week 5	Writing	The Development of a Paragraph
Week 6	Writing	Descriptive Paragraphs
Week 7	Writing	Process Paragraphs
Week 8	Writing	Opinion Paragraphs
Week 9	Writing	The Thesis Statement
Week 10	Writing	Problem/Solution Paragraphs
Week 11	Writing	The Structure of an Essay
Week 12	Writing	Introductions & Conclusions
Week 13	Writing	Comparison & Contrast
Week 14	Writing	Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which must be printed on A4 paper. No more than 3 absences will be permitted.

【テキスト（教科書）】

'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.

Publisher: Macmillan Language House

【参考書】

An electronic dictionary or smartphone is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be given individual evaluation & guidance after submitting each report

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to print reports.

【Outline and objectives】

This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ドノヴァン マイケル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年：英語 29 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

【到達目標】

Each week the class will introduce a language point and topic and proceed to controlled practice and finish up with an opportunity to use the language in a practical, useful manner. Students will work in pairs and groups and complete a task using English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practiced and then used in freer, interactive activities in pairs and groups and sometimes as an individual presentation. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductory activities.	Course overview. Classroom language.
2	Introductions.	Teacher and student introductions. Student introductions, mini presentations. Common introductory questions and answers.
3	Communication Game.	Team work information exchange activity using classroom language and everyday questions, and answers, clarifying, agreeing, disagreeing etc.
4	Picture Stories.	Narrative. Telling Stories. Pair preparation. Individual presentation
5	Picture story presentations.	Individual presentations. Extension activities.
6	British culture.	Q&A Question formation. Pair preparation. Team quiz.
7	Letter Writing.	Form and content. Composition and error correction.
8	Newspapers.	Question and answer. Scanning a newspaper for information. Question formation. Pair work.
9	Romance picture story.	Same pictures, different order, different story. Work in pairs. Arrange the pictures, create and write a story. Switch partners, tell the story.
10	Building a better mousetrap.	Describing systems and processes. Passive forms. Work in pairs, design and individually present.
11	Problems and solutions.	Explaining a problem and giving advice for possible solutions. 2nd conditional.
12	Communication Game - baseball.	General knowledge team question and answer game. Using question and answer forms.

13	English and Japanese superstitions.	1st conditional sentences. Origins, purpose and explanation.
14	Jokes, riddles and puzzles.	Telling a joke. Understanding humour.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each class may include a homework assignment to consolidate class work and/or preparation for the next class. If a student is absent please check with classmates to copy class notes and handouts and also find out if any homework or preparation is required.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed by the teacher in class.

【参考書】

No other reference books are required.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and classwork produced. 50%

Assignments. 25%

Quizzes and tests. 25%

【学生の意見等からの気づき】

If a student misses more than 3 classes in a term he/she will fail.

Regular late attendance will also be penalised.

【学生が準備すべき機器他】

Students need an A4 folder complete with plenty of lined A4 writing paper, pencil, eraser and dictionary. Additional materials will be handed out by the teacher in class. Please keep these and any class notes in your A4 folder.

【その他の重要事項】

Don't panic! Relax, enjoy and improve your English.

If you have any problems or questions, please talk to me in class.

Good luck!

【Outline and objectives】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ドノヴァン マイケル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 29 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

【到達目標】

Each week the class will introduce a language point and topic and proceed to controlled practice and finish up with an opportunity to use the language in a practical, useful manner. Students will work in pairs and groups and complete a task using English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practiced and then used in freer, interactive activities in pairs and groups. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Holiday questionnaire.	Talking about the holidays. Q&A.
2	Cultural differences.	An American in Tokyo. Giving advice. Modal verbs of obligation.
3	What Went Wrong?	Cultural differences case studies. Pairwork, explaining and speculating.
4	Who Killed Harrison?	Pair work detective, info. exchange game. Passives/question and answer forms. Speculating and explaining.
5	Comparisons, superlatives.	Pairwork preparation. Individual presentation. Comparing, agreeing and disagreeing.
6	How They Met.	Listening. Couples discussing how they first met. Info. exchange. Similarity and difference.
7	UFO stories.	Work in pairs, use a picture sequence to create a story about a UFO sighting. Tell the story, listening and reacting to a story.
8	Telephoning.	Basic telephoning skills and language. Leaving a message. Numbers.
9	Information Exchange game.	Teamwork information exchange. Everyday language of agreeing and disagreeing.
10	Books and movies.	Explaining and discussing interests.
11	Mini presentations.	Presentation Language and content. Preparing in pairs and alone.
12	Mini Presentations. In class presentations.	Making a presentation. Listening to a presentation. Question and answer session.
13	General knowledge quiz.	Q@A. Question formation. Team game.
14	Picture stories.	Creating a telling a story. Relating experiences. Listening and reacting.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each class may include a homework assignment to consolidate class work and/or preparation for the next class. If a student is absent please check with classmates to to copy class notes and handouts and find out if any homework or preparation is required.

【テキスト（教科書）】

Materials are distributed in class by the teacher.

【参考書】

No other reference books are required.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and classwork 50%

Assignments 25%

Quizzes and tests 25%

【学生の意見等からの気づき】

The course is altered according to what could be improved in terms of student engagement and enjoyment, and also in terms of which topics are presented and how they are presented.

【学生が準備すべき機器他】

Students need an A4 folder with lined A4 writing paper, pencil, eraser and dictionary. Additional materials will be handed out by the teacher in class. Please keep these and any class notes in your A4 folder.

【その他の重要事項】

Don't panic! Relax, enjoy and improve your English.

If you have any problems or questions, please talk to me in class.
Good luck!

【Outline and objectives】

This course will improve students' ability to understand and use natural English expressions, vocabulary, and grammar, both written and spoken, focusing on communicative competence through task based activities.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

斎藤 昇

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 30 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では日常生活や現代社会のトピックを英語で表現する力を養います。適宜、様々な日常生活のトピックを授業で提示し、それを適切な英語でプレゼンします。またアメリカの短篇小説を講読して文化的な比較も行います。

【到達目標】

日常生活のトピックを英語で表現する力を養い、短編小説の講読を通して読む力と知識を養います。それによって受講生の英語を書くスキルと講読力の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

必要なプリントなどを提示しながらアメリカ短編小説を読み、適宜、日常生活のトピックを英語表現することを授業で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(1)
2 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (2)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(2)
3 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (3)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(3) 小テストを実施。
4 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (4)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(4)
5 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (5)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(5)
6 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (6)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(5) 小テストを実施。
7 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (7)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(6)
8 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (8)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(7) 小テストを実施。
9 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (9)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(8)
10 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(9)
11 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (10)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(10) 小テストを実施。
12 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (11)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(11)
13 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(12)
14 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (12)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。(13) 小テストを実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読んで、全体の文脈の把握をする。また、様々な日常生活のトピック英語に接する。

【テキスト（教科書）】

O.Henry: The Best Short Stories by J.Suzuki and N.Saito (松柏社)

【参考書】

授業時に指示する

【成績評価の方法と基準】

毎週の授業のプレゼンの評価と適宜実施する小テストの評価と出席率を総合的に考慮して成績評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

この授業では適宜、様々な日常生活のトピックを授業で提示し、それを適切な英語でプレゼンします。またアメリカの短篇小説を講読して文化的な比較も行います。

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

斎藤 昇

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 30 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では日常生活や現代社会のトピックを英語で表現する力を養います。適宜、様々な日常生活のトピックを授業で提示し、それを適切な英語でプレゼンします。またアメリカの短篇小説を講読して文化的な比較も行います。

【到達目標】

日常生活のトピックを英語で表現する力を養い、短編小説の講読を通して読む力と知識を養います。それによって受講生の英語を書くスキルと講読力の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

必要な教材を活用してアメリカ短編小説を講読し、その文化的背景と英語表現を習得します。と同時に日常生活のトピックを英語表現できるスキルを養います。それらを授業でプレゼンしてもらいます。それには丁寧な予習と日ごろの英文文脈の把握の努力が必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(1)
2 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (2)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(2)
3 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (3)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(3) 授業内小テスト実施。
4 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (4)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(4)
5 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (5)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(5) 授業内小テスト実施。
6 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (6)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(6)
7 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (7)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(7) 授業内小テスト実施。
8 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (8)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(8)
9 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (9)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(9) 授業内小テスト実施。
10 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (10)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(10)
11 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (11)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(11) 授業内小テスト実施。
12 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (12)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(12)
13 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (13)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(13)
14 回	テキスト講読とに津城生活トピックの英語表現 (14)	O・ヘンリーの短篇小説の精読と愛護費用減スキルの養い。(14) 授業内小テスト実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

丁寧なテキスト精読と日常生活のトピック英文の文脈把握に努力すること。

【テキスト（教科書）】

O.Henry : The Best Short Stories by J.Suzuki and N. Saito (松柏社)とプリント配布。

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎週の授業のプレゼンの評価と適宜実施する小テストの評価と出席率を総合的に判断して成績評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

この授業では適宜、様々な日常生活のトピックを授業で提示し、それを適切な英語で日常生活のトピックを英語で表現する力を養い、短編小説の講読を通して読む力と知識を養います。それによって受講生の英語を書くスキルと講読力の習得を目指します。

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 I

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 31 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome.	Getting to know you.
2	Q & A	Talking about you.
3	Q & A	Talking about the word you live in.
4	How do you do that?	Verbs of instruction.
5	Sing your heart out.	Pronunciation.
6	Want to hear a good story?	Starting a story.
7	Finish that story.	The middle and the end.
8	Get into shape.	The language of exercise.
9	Another song.	Pronunciation.
10	Shopping	Finding your way around the department store.
11	What do you call it?	Guessing that meaning.
12	It's a wild world.	The language of the jungle.
13	Songs	Pronunciation.
14	Dictation	Listening and writing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10% Passing scores are 60% and above.

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
 営 1 年：英語 31 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Grammar Time.	Basic grammar.
2	Quiz master.	Questions and answers.
3	Cooking for the ones you love.	A recipe.
4	Your world.	Presentation.
5	your world.	Presentation.
6	You know what I mean.	Guessing the meaning of words.
7	What if...?	What would you do if.....?
8	Sing that song out loud.	Pronunciation.
9	Dictation.	Listening and writing.
10	Story telling.	Make it better.
11	Story telling.	Getting the ending right.
12	Tell me what they look like.	Talking about what people look like.
13	Winter food.	A recipe.
14	Question master.	In the hot seat answering questions.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Two essays will be required. They must be handed in on time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%
 Passing scores are 60% and above.

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

川澄 亜岐子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
 営 1 年：英語 32 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class will encourage students to confidently express their opinions about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand spoken English regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). By interacting with other students, they will improve their ability to think logically, convey their thoughts to others, and make effective arguments. In addition, they will be given opportunities to improve their ability to write an effective composition. They will study and learn the structure and function of a paragraph, learn how to compose a short essay, and write a short essay composed of paragraphs. (身近な話題についての自分の知識、経験、意見などを英語で表現できることを目指します。英語でのディスカッションに加え、春学期には、英語で書かれた文章の構造を理解し、英文を論理的に書く練習をします。)

【到達目標】

Students will be able to:

- express their opinion, knowledge, and experience on daily life using oral communication
- express their opinion, knowledge, and experience on daily life in written English
- listen to spoken English and understand the main points
- understand the basic construction of an essay written in English
- write a short essay composed of paragraphs

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This course emphasizes writing and speaking skills. Students will be given opportunities to practice listening and writing English through pair work and group activities. In spring semester, the class will also focus on the composition of an essay and prepare for a writing assignment (short essay).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course overview, Self-introduction
2	Unit 1-A: People	Introducing a person to someone else/ Responding to introductions
3	Unit 1-B: Lessons Learned	Write about something you learned
4	Unit 2-A: Foods We Like	Making suggestions/ Responding to suggestions
5	Unit 2-B: Eating Well	Write a restaurant review
6	Unit 3-A: You're in Luck!	Talking about possibility
7	Unit 3-B: Unsolved Mysteries	Research and write about an issue
8	Unit 4-A: Lifestyle Trends	Disagreeing
9	Unit 4-B: Fashion Trends	Give fashion advice to someone looking for a job
10	Unit 5-A: Running Errands	Making appointments
11	Unit 5-B: My Neighborhood	Write about your neighborhood
12	Unit 6-A: Starting Out	Responding to bad news/ Offering to help
13	Unit 6-B: After Graduation	Write about your college experience
14	Review	Review Unit 1-6/ Submission of short essays

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students in this course are expected to pre-read units, check vocabulary, and complete assignments.

【テキスト（教科書）】

Susan Stempleski, Nancy Douglas, James R. Morgan, Kristin L. Johannsen, Andy Curtis, World Link 2 (3rd ed.), Cengage, ¥2,710.

【参考書】

Additional materials will be distributed by the instructor when necessary.

【成績評価の方法と基準】

The final grade will be based on participation in class activities, quizzes (60%), and the essay (40%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【Outline and objectives】

This class will encourage students to confidently express their opinions about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand spoken English regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). By interacting with other students, they will improve their ability to think logically, convey their thoughts to others, and make effective arguments. In addition, they will be given opportunities to improve their ability to write an effective composition. They will study and learn the structure and function of a paragraph, learn how to compose a short essay, and write a short essay composed of paragraphs.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

川澄 亜岐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 32 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class will encourage students to confidently express their opinions about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand spoken English regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). By interacting with other students, they will improve their ability to think logically, convey their thoughts to others, and make effective arguments. In addition, they will be given opportunities to improve their ability to write an effective composition. They will practice and learn the skills necessary to compose a text regarding their experiences, knowledge, and opinions about various issues. In addition, presentation skills will be introduced during the autumn semester. Students will be expected to prepare and deliver an effective, interactive presentation.

（春学期に引き続き、身近な話題についての自分の知識、経験、意見などを英語で表現できることを目指します。秋学期には、自分の意見を相手に論理的に伝える練習として、プレゼンテーションに取り組みます。）

【到達目標】

Students will be able to:

- express their opinion, knowledge, and experience on daily life using oral communication
- express their opinion, knowledge, and experience on daily life in written English
- listen to spoken English and understand the main points
- write a short essay
- prepare and deliver a presentation

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course emphasizes listening and writing skills. Students will be given opportunities to practice listening and writing English through pair work and group activities. In autumn semester, the class will prepare and deliver a presentation. Students will compose a presentation that is both logically constructed and persuasive.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course overview
2	Unit 7-A: Parties	Inviting/ invitation
3	Unit 7-B: Festivals and Holidays	Write about a holiday or festival
4	Unit 8-A: What's the Story About?	Keeping a story going
5	Unit 8-B: Modern Fairy Tales	Write an email about a previous event
6	Unit 9-A: Workplace Traits	Interviewing for a job
7	Unit 9-B: Dream Jobs	Write a presentation about an interesting career
8	Unit 10-A: Using the telephone	Using the telephone
11	Unit 11-B: Making Life Better	Compare products
10	Unit 12-A: Before You Go	Saying you've forgotten something
11	Unit 12-B: Adventures in Traveling	Correspond with a homeshare host
12	Preparation for Presentations (1)	Making groups, deciding topics, tips for a good presentation
13	Preparation for Presentations (2)	Peer-reading and editing the speech draft, rehearsal
14	Presentation	Group presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students in this course are expected to pre-read units, check vocabulary, and complete assignments.

【テキスト（教科書）】

Susan Stempleski, Nancy Douglas, James R. Morgan, Kristin L. Johannsen, Andy Curtis, World Link 2 (3rd ed.), Cengage, ¥2,710.

【参考書】

Additional materials will be distributed by the instructor when necessary.

【成績評価の方法と基準】

The final grade will be based on participation in class activities, quizzes (50%), and the presentation (50%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【Outline and objectives】

This class will encourage students to confidently express their opinions about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand spoken English regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). By interacting with other students, they will improve their ability to think logically, convey their thoughts to others, and make effective arguments. In addition, they will be given opportunities to improve their ability to write an effective composition. They will practice and learn the skills necessary to compose a text regarding their experiences, knowledge, and opinions about various issues. In addition, presentation skills will be introduced during the autumn semester. Students will be expected to prepare and deliver an effective, interactive presentation.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 33 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1. Reading articles from book.
2. Listening and watching audio/video.
3. Speaking and Role play in Pair & Groups.
4. Individual Presentations about a topic.
5. Writing paragraphs and short essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Good memories	Pair & group work. Grammar explanation.
3	Unit 1: Reading about Frida Kahlo	Pair & Group work on what you have in common.
4	Unit 2: Life in the city	Grammar explanation Discuss and write about your hometown.
5	Unit 2: Listening	Reading about the Happiest Cities.
6	Unit 3: Making changes	Pair & Group work. Grammar explanation.
7	Unit 3: Discuss your neighbors	Pair & Group work on comparisons. Write an email.
8	Midterm on Units 1-3	Written test on grammar and vocabulary.
9	Unit 4: Have you ever tried it?	Grammar explanation. Pair work about food.
10	Unit 4: Presentations	Presentations about your favorite food and how to make it.
11	Unit 5: Hit the road!	Listening and Group work. Grammar explanation.
12	Unit 5: comparison essay due	Listening & Pair Work about families. Grammar explanation.
13	Unit 6: Sure! Ill do it!	Unit 6: Pair work. Grammar explanation.
14	Final Exam	Written test about grammar & vocabulary.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. Students should also practice listening with the CD-Rom provided in the text. More detailed explanation will be given during the class period.

【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards: Interchange Level 2 (5th Edition). Cambridge University Press

【参考書】

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework. References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentation & Effort 25%

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【Outline and objectives】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

営 1 年：英語 33 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7: What do you use this for?	Pair Work about Technology. Grammar Explanation
2	Unit 7	Listening Writing 11. Write a message to your roommate.
3	Unit 8: Time to celebrate!	Pair work Grammar Explanation Role play about Holidays.
4	Unit 8	Pair & Group Work Vocabulary Write about something your favorite trip.
5	Unit 9: Only time will tell.	Pair Work & Listening about services. Grammar Explanation Word Power 10
6	Unit 9	Pair & Group Work Discuss cause/effect Reading 13
7	Midterm 7-9	Grammar and Vocabulary Test.
8	Unit 10: I like working with people.	Pair & Group Work Prepare biographical presentation on a famous person.
9	Unit 10	Presentation due in front of class.
10	Unit 11: Its really worth seeing!	Pair & Group work Grammar Explanation
11	Unit 11	Listening Word Power Pair & Group Work Reading
12	Unit 13: Movies	Pair & Group Work about Movies. Grammar Explanation
13	Unit 13	Role Play Write a movie review
14	Final Exam	Grammar & Vocabulary Test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. Students should also practice listening with the CD-Rom provided in the text. More detailed explanation will be given during the class period.

【テキスト（教科書）】

Jack C. Richards: Interchange Level 2 (5th Edition). Cambridge University Press

【参考書】

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework. 【参考書】

References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentation & Effort 25%

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【Outline and objectives】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

スティーブン モリス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 34 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will have the opportunity to develop and expand their writing and oral communication skills through a variety of structured activities.

【到達目標】

The goal of this course is to provide students with the ability to express and formulate their ideas and opinions especially in the written form. Students will study basic paragraph structure with the ultimate goal of producing an essay with multiple paragraphs. Students will also have the opportunity to present their ideas orally. Students will be expected to show an understanding of structure, logic and grammatical correctness.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students will have extensive opportunities to develop and practice their communication and writing skills both in class and for homework through a variety of exercises and activities. Students will be expected to complete their home assignments as part of their preparation for their class work activities

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Introduction to Writing Concepts
2	Elements of Organization	Key Words and Ideas in Writing
3	The Writing Process	Analyzing the Preparation Steps to Write a Paragraph
4	Sentence Structure	Prewriting Activities Key Sentence Components
5	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
6	Introduction to Listing	Prewriting Techniques;
7	Order Paragraphs	Brainstorming and Clustering
7	Organizing a Listing Paragraph	Recognizing Key Paragraph Components: Topic and Supporting Sentences
8	Sentence Structure Practice	Construction of Simple and Compound Sentences Creating an Outline
9	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation Activities Drafting
10	Introduction to Instructional Paragraphs	Prewriting Techniques; Brainstorming and Listing
11	Organizing an Instructional Paragraph	Use of Topic Sentences and Transition Signals
12	Expanding an Outline	Creating an Outline from an Edited List
13	Term Writing Assignment	In Class Preparation
14	Submit Assignment	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review and Preparation for classwork

Writing homework based on specific grammar points

【テキスト（教科書）】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs

Author: Ann Hogue

Publisher: Pearson Longman 2014

【参考書】

Good Dictionary required

【成績評価の方法と基準】

Classwork & Homework 30%

Quizzes 35%

Final Assessment 35%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

【学生の意見等からの気づき】

Syllabus revised to include more basic writing skills

【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to change

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016 年度以前入学者

スティーブン モリス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

営 1 年：英語 34 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Using the techniques introduced in the first term students will have the opportunity to enhance and broaden their overall communication skills through extensive practice both orally and in the written form.

【到達目標】

The goal of this course is to familiarize students with the process of writing clear and well-structured paragraphs. At the same time students will have the opportunity to combine their writing skills with their oral presentation skills. Attention will be focused on providing students with a solid foundation on which to build their writing and communication skills. There will be an increased emphasis on more in-depth writing and discussion in this part of the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Classwork activities and exercises will increasingly require students to initiate their own ideas and opinions. Students will be expected to produce more comprehensive and in-depth writing.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction and Review	Review activities will focus on covering key concepts covered in the first term
2	Sentence Structure Practice	Analyse Complex Sentences with Time Clauses Analyse Sentence Fragments
3	Writing Assignment	Unit Quiz Preparation and Drafting
4	Understanding the Concept of Space Order in Writing	Practice Prewriting for Descriptive Paragraphs Using Supporting Sentences with Specific Details
5	Creating a Detailed Outline	Use of Adjectives and Prepositions
6	Writing Assignment Expansion Activities	Unit Quiz Preparation and Drafting
7	Informative Presentations Paragraphs that Persuade	Organizing and Presenting Information Prewriting Using Reasons and Examples to Support Ideas
8	Paragraph Development	Paragraph Development with Transition Signals that Introduce Reasons and Examples
9	Practice Sentence Structure	Using Complex Sentences with Reason and Condition Clauses
10	Writing Activities Term Writing Assignment	Unit Quiz Preparation and Drafting
11	Introduction to Presentation Techniques	Analyse Body Language, Voice, Gestures, Organization
12	Organizing a Presentation	Analyse Three-Part Structure
13	Presentation Practice	Students deliver short presentations
14	Term Assignment	Term Assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review and Preparation as directed
Writing homework based on specific grammar points

【テキスト（教科書）】

Title: Longman Academic Writing Series 2: Paragraphs

Author: Ann Hogue
Publisher: Pearson Longman 2014

【参考書】
Good Dictionary required

【成績評価の方法と基準】
Classwork & Homework 35%
Quizzes 30%
Final Assessment 35%
The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

【学生の意見等からの気づき】
Introduced more comprehensive writing component and overview of presentation skills

【学生が準備すべき機器他】
Writing materials; notebook

【その他の重要事項】
Above schedule is subject to change

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

鈴木 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3
法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語が使われている社会・文化を理解し、語彙と表現を覚え、英語で聞き、話すことができるスキルを身につける。ペアワークやプレゼンにより、コミュニケーション力を向上させる。

【到達目標】
日常生活や現代社会に関するトピックについて相手の考えを聞いて理解し、自分の考えを話し、Essay を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
演習形式、ペアワーク、プレゼン、エッセイ提出などを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容・方針・成績評価の方法などについて説明する。
第 2 回	Unit 1 Family	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 3 回	Unit 2 Friends	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 4 回	Unit 3 Culture	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 5 回	Unit 4 Education	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 6 回	「College 大学」について学ぶ	語彙・表現を学び、Essay を提出する。
第 7 回	Unit 5 Sports	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 8 回	Unit 6 Work	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 9 回	Unit 7 Food	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 10 回	Unit 8 Studying English	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 11 回	Unit 9 Health	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 12 回	Unit 10 Clothes	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 13 回	テスト	Unit1～10 について到達度テストを実施する。
第 14 回	まとめ：成果と課題	テストの返却・解説、春授業を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの各 Unit の Exercise について事前準備をする

【テキスト（教科書）】
English Listening and Speaking Patterns (2)
Andrew E. Bennett
2017 年
南雲堂
2000 円＋税

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加度、欠席は 3 回まで）： 30 %

Essay・レポート： 20 %

テスト： 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their listening and speaking skills. Students will talk about various topics, including family, culture, education, and studying English. Students will write several essays and take a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 II

2016 年度以前入学者

鈴木 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語が使われている社会・文化を理解し、語彙と表現を覚え、英語で聞き、話すことができるスキルを身につける。ペアワークやプレゼンにより、コミュニケーション力を向上させる。

【到達目標】

日常生活や現代社会に関するトピックについて相手の考えを聞いて理解し、自分の考えを話し、Essay を書くことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式、発表、ペアワークを实践、エッセイ提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容・方針・成績評価ポイントについて説明する。
第 2 回	Unit 11 Traveling	語彙・リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを实践する。
第 3 回	Traveling 旅行について学ぶ	Travelin 旅行に関する語彙・表現を学び、Essay を書く。
第 4 回	Unit 12 Music	語彙・リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを实践する。
第 5 回	Unit 13 Movies	語彙・リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを实践する。
第 6 回	Unit 14 Shopping	語彙・リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを实践する。
第 7 回	Unit 15 Internet	語彙・リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを实践する。
第 8 回	Unit 16 Weather	語彙・リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを实践する。
第 9 回	Unit 17 Feelings	語彙・リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを实践する。
第 10 回	Unit 18 Government	語彙・リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを实践する。
第 11 回	プリント使用	トピックについて Essay を書く
第 12 回	Unit 20 The Future	語彙・リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを实践する。
第 13 回	テスト	Unit 10 から～Unit20 までの到達度を確認するテストを行う。
第 14 回	まとめ	テストの返却・解説と秋学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の Unit について予習する。

【テキスト（教科書）】

< English Listening and Speaking Patterns (2) >

Andrew E. Bennett

南雲堂

2017 年

2000 円＋税

【参考書】

参考書は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参画度）： 30 % （欠席は 3 回まで）

Essay・レポート：20 %
テスト：50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
英語の辞書

【Outline and objectives】
This course aims to help students improve their listening and speaking skills. Students will talk about various topics, including traveling, music, movies and government. Students must write several essays and take a final written test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 I

2016 年度以前入学者

鈴木 俊二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 4/Sat.4
法（Y 除く）文営 2～3 年：補講 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語が使われている社会・文化を理解し、語彙と表現を覚え、英語で聞き、話すことができるスキルを身につける。ペアワークやプレゼンによりコミュニケーション力を向上させる。

【到達目標】
日常生活や現代社会に関するトピックについて相手の考えを聞いて理解し、自分の考え話し、**Essay** を書くことができるようにする。
授業に積極的に参加し、Q & A をスムーズに実践、英語で自己表現（口頭・文書）できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】
演習形式により、**Exercise**、ペアワークを実践、**Essay** 発表・提出する。
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容・方針・成績方法などについて説明する。
第 2 回	Unit 1 Family	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 3 回	Unit 2 Friends	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 4 回	Unit 3 Culture	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 5 回	Unit 4 Education	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 6 回	College「大学」について学ぶ	語彙・表現を学び、 Essay を提出する。
第 7 回	Unit 5 Sports	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 8 回	Unit 6 work	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 9 回	Unit 7 Food	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 10 回	Unit 8 Studying English	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 11 回	Unit 9 Health	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 12 回	Unit 10 Clothes	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第 13 回	テスト	Unit 1 から Unit10 について到達度テストを行う。
第 14 回	まとめ・振り返り	テストの返却・解説をし、春学期授業の成果と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次週の各 Unit を事前学習する。

【テキスト（教科書）】
< English Listening and Speaking Patterns(2) >
Andrew E. Bennett
南雲堂
2017 年
2000 円＋税

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加度、欠席は3回まで）：30%

Essay・レポート:20%

テスト：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve listening and speaking skills. Students will talk about various topics, including family, culture, education, and studying English. Students must write several essays and take a final test. Active participation is encouraged.

LANe100LA

English 2 II

2017年度以降入学者

LANe100LA

English 2 II

2016年度以前入学者

鈴木 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 4/Sat.4

法（Y除く）文営2～3年：補講2組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語が使われている社会・文化を理解し、語彙・表現を覚え、英語で聞き、話すことができるスキルを身につける。ペアワークやプレゼン（口頭発表）により、コミュニケーション力を向上をめざす。

【到達目標】

日常生活や現代社会に関するトピックについて相手の考えを聞いて理解し、自分の考えを話し、Essayを書くことができるようにする。
積極的に授業に参加し、英語でQ&Aがスムーズにでき、英語で自己表現（口頭・文書）ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式による、発音、Q&A、スピーチの発表、課題（Essay・レポート）を提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容・方針・成績評価方法などを説明する。
第2回	Unit 11 Traveling	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第3回	Traveling「旅行」について学ぶ。	Traveling「旅行」に関する語彙・表現を学び、Essayを書き、提出する。
第4回	Unit 12 Music	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第5回	Unit 13 Movies	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第6回	Unit 14 Shopping	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第7回	Unit 15 Internet	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第8回	Unit 16 Weather	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第9回	Unit 17 Feelings	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第10回	Unit 18 Government	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第11回	社会問題について考える。プリント使用	あるトピックについて Essay を書く。
第12回	Unit 20 The Future	語彙、リスニング、ディクテーション、内容把握の演習をし、ペアワークを実践する。
第13回	テスト（筆記）	Unit11～Unit18、Unit 20 について到達度テストを行う。
第14回	まとめ・振り返り	テストの返却・解説、授業の成果と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週のUnitについて事前準備をする。

【テキスト（教科書）】

English Listening and Speaking Patterns (2)

Andrew E. Bennett

南雲堂

2017年

2000円+税

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業の参加度、欠席は 3 回まで）： 30 %

Essay、レポート： 20 %

テスト： 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書

【Outline and objectives】

This course aims to help students improve their listening and speaking skills. Students will talk about various topics, including music, travel, Internet and government. Students must write several essays and take a final test.

Active participation is encouraged.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1

2016 年度以前入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。

②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになる。

③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。

④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。

⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、基本的に 1 つの Unit を 2 回の授業に分けて読む。春学期は英文を正確に読むことに主眼を置く。授業冒頭ではテキストから作成したリスニング問題を実施する。続いて単語・熟語・文法事項等を確認しながら訳読し、トピックセンテンスやサポートセンテンスなどパラグラフ構造に注意し、全体の理解を図る。Unit ごとに 2 度小テストを行なう。また、適宜、記事に対する意見を英語でまとめる時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1-1 Goodbye, Maldives	「さらば、モルディブ」前半講読
3	Unit 1-2 Goodbye, Maldives	「さらば、モルディブ」後半講読
4	Unit 2-1 Sustainable Communities	「持続可能なコミュニティ」前半講読
5	Unit 2-2 Sustainable Communities	「持続可能なコミュニティ」後半講読
6	Unit 1-2 のまとめと英作文	Unit 1-2 の事柄に関する英作文
7	Unit 3-1 Economic Inequality: the Growing Gap	「経済的不平等—広がる格差」前半講読
8	Unit 3-2 Economic Inequality: the Growing Gap	「経済的不平等—広がる格差」後半講読
9	Unit 4-1 Dilemmas for a Responsible Tourist	「『責任ある観光客』のジレンマ」前半講読
10	Unit 4-2 Dilemmas for a Responsible Tourist	「『責任ある観光客』のジレンマ」後半講読
11	Unit 3-4 のまとめと英作文	Unit 3-4 の事柄に関する英作文
12	Unit 5-1 Learning from Nature	「自然からの学び」前半講読
13	Unit 5-2 Learning from Nature	「自然からの学び」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、わからない語句を辞書で調べて来ること。

Unit ごとに 2 回、小テストを実施するので、必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

Issues That Matter
(David Peaty, 川田潤 著, 金星堂 2018 年 1800 円＋税別)

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %
欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 3

2016 年度以前入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を速く読み、理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、基本的に 1 つの Unit を 2 回の授業に分けて読む。秋学期は英文を速読に主眼を置く。春学期同様、授業冒頭でテキストから作成したリスニング問題を実施する。続いてトピックセンテンスやサポートセンテンスなどパラグラフ構造に注意し、全体の理解を図る。Unit ごとに 2 回小テストを行なう。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の実施の仕方の説明と英作文
2	Unit 6-1 We can't Live Without Water	「水がなければ生きていけない」前半講読
3	Unit 6-2 We can't Live Without Water	「水がなければ生きていけない」後半講読
4	Unit 7-1 Protecting World Heritage	「世界遺産を守れ」前半講読
5	Unit 7-2 Protecting World Heritage	「世界遺産を守れ」後半講読
6	Unit 6-7 のまとめと英作文	Unit 6-7 の事柄に関する英作文
7	Unit 8-1 The War on Sugar	「砂糖をめぐる争い」前半講読
8	Unit 8-2 The War on Sugar	「砂糖をめぐる争い」後半講読
9	Unit 9-1 Energy for a Stable Climate	「安定した気候のためのエネルギー」前半講読
10	Unit 9-2 Energy for a Stable Climate	「安定した気候のためのエネルギー」後半講読
11	Unit 8-9 のまとめと英作文	Unit 8-9 の事柄に関する英作文
12	Unit 10-1 Yasuni: A Dream of the Future?	「ヤスニー未来の夢？」前半講読
13	Unit 10-2 Yasuni: A Dream of the Future?	「ヤスニー未来の夢？」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、わからない語句を辞書で調べて来ること。

Unit ごとに 2 回小テストを実施するので、必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

Issues That Matter
(David Peaty, 川田潤 著, 金星堂 2018 年 1800 円＋税別)

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。

授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1

2016 年度以前入学者

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は長文の英語を正確に読み取る訓練を行います。大学入学までにみなさんが身につけた語彙や文法、発音を復習・補強すると同時に、それらを利用して英語の資料を読みとく能力を培うことを目指します。しっかりと辞書をひいて英文を一文一文読む力だけでなく、辞書に頼らずに内容をできるだけ正確に推測する能力を身につけましょう。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①高校時代に培った文法・語彙・発音を復習し強化する
- ②長文の英語を正確に読みとる力を身につける
- ③現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要とされる語彙力を増やす
- ④わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に内容を推測できる
- ⑤継続的に英語学習を続けるための手段を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひき、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらった場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき2回授業を行い、2回目の授業で復習の小テストを行います。

学習内容の理解を確認・復習するための試験を学期中に2回行います。

※進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明
2	Security Cameras ① CHAPTER 2	文法・語彙・発音の確認
3	Security Cameras ② CHAPTER 2	記事の購読、小テスト
4	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ① CHAPTER 4	文法・語彙・発音の確認
5	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ② CHAPTER 4	記事の購読、小テスト
6	Womanomics ① CHAPTER 5	文法・語彙・発音の確認
7	Womanomics ② CHAPTER 5	記事の購読、小テスト
8	中間試験	試験の実施、解説、復習
9	Extreme Sports ① CHAPTER 6	文法・語彙・発音の確認
10	Extreme Sports ② CHAPTER 6	記事の購読、小テスト
11	Casinos and Gambling ① CHAPTER 7	文法・語彙・発音の確認
12	Casinos and Gambling ② CHAPTER 7	記事の購読、小テスト
13	Spouse Hunting CHAPTER 8	文法・語彙・発音の確認
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のために辞書をしていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。定期試験は普段の予習と、テスト前の復習をしっかりすれば確実に得点できるはずです。

【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント

*授業には必ず辞書を持参してください。

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（グループ／ペアワークへの参加）15%、小テスト 15%、中間・期末試験各 35%で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位修得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

文法や本文内容について講師が説明する時間を前年度より少し長くし、学生の理解を促します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire English reading skills. Students will review and reinforce English vocabulary, pronunciation, and grammar they learned in high school. Students will also learn how to read passages of multiple paragraphs without using a dictionary, guessing the meanings of unknown words from the context.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 3

2016 年度以前入学者

遠藤 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は英語 1 からのステップアップとして、より長い英語の文章を速く正確に読み取る訓練を行います。これまで学んだ語彙や文法を利用して英語の資料を読みとくだけでなく、Introduction/Body/ Conclusion Paragraph, Thesis Statement, Topic Sentence といった英文の構成をすばやく把握する能力を身につけます。また、読んだ英文を要約し、関連するトピックに対する意見を簡潔な英文で表現するパラグラフ・ライティングの練習を行います。

【到達目標】

この授業は以下の 6 つを到達目標とします：

- ①長文の英語を正確にかつ速く読みとることができる
- ②現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要な語彙力を増やす
- ③わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に推測することができる
- ④英語の文章の構成をすばやく把握する能力を習得する
- ⑤英文の内容を要約する方法を身につける
- ⑥読んだ英文に関連するトピックに関する自分の意見を簡潔な英文で表現する方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読みます。ひとつの文章につき 2 回の授業を行います。1 回目は文章の構成や内容、注意すべき文法事項などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらう場合もあるのでしっかり予習しましょう。2 回目は読んだ文章を要約したり、トピックに対する自分の意見を短い英文にまとめたりする訓練を行い、ライティング課題を課します。グループやペアワークが中心となりますが、講師が適宜説明やアドバイスをを行います。

学習内容の理解を確認・復習するための試験を学期中に 2 回行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Becoming a World Heritage Site ① CHAPTER10	記事の購読、英語の文章の構成
2	Becoming a World Heritage Site ② CHAPTER10	記事の購読、Thesis Statement
3	Driverless Cars ① CHAPTER11	記事の購読、Main Point
4	Driverless Cars ② CHAPTER11	記事の購読、Topic Sentence
5	The Lay-Judge System in Japan ① CHAPTER12	記事の購読、Supporting Sentence
6	The Lay-Judge System in Japan ② CHAPTER12	記事の購読、Concluding Sentence
7	中間試験	試験の実施、解説、復習
8	Artificial Intelligence ① CHAPTER13	記事の購読、要約
9	Artificial Intelligence ② CHAPTER13	記事の購読、要約
10	Life-prolonging Treatment ① CHAPTER14	記事の購読、意見を表現する
11	Life-prolonging Treatment ② CHAPTER14	記事の購読、意見を表現する
12	Trusting Statistics ① CHAPTER15	記事の購読、要約、意見を表現する
13	Trusting Statistics ② CHAPTER15	記事の購読、要約、意見を表現する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のために辞書をひきながらテキストを読み、設問に答えてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。また、講師の指示に従って授業で読んだ英文の要約や、そのトピックに関する意見を短い英文で書いてきてもらうこともあります。

期末試験は普段の予習と、テスト前の復習をしっかりすれば確実に得点できるはずです。

【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント *授業には必ず辞書を持参してください。

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献(グループ/ペアワークへの参加) 15%、ライティング課題 15%、中間・期末試験各 35%で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位修得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

講師による文法事項や本文内容の解説に昨年度よりも少し長い時間をかけ、学生の理解を促します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire English reading skills. Students will learn paragraph structure (e.g. Introduction/Body/Conclusion, Thesis Statement, and Topic Sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1

2016 年度以前入学者

宇治谷 義英

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「カルチュラル・スタディーズ」の文章を集めた教材を使って英文を読んでまとめると同時に、文化多元主義と言われる中で文化を学ぶ際に必要な考え方を身につける。

【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること、(2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること、(3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します。それ以外に事前に割り当てたグループに英字新聞、雑誌の記事を基にした発表をしてもらいます。内容は要旨、自分の意見、そして議論すべきトピックの提供です。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (04/11)	イントロ（席決めを含む）	ウォームアップを含めて授業の内容説明、グループ、発表の順番決め、『リスニング・ハンドブック』の説明、ニュースのリスニング練習。
2 (04/18)	"Living Cultures and Killing Cultures"	精読、割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。
3 (04/25)	"Living Cultures and Killing Cultures"(前回の続き)	精読、割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。
4 (05/09)	"From Cultures of Death to Cultures of Life"	精読、割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。
5 (05/16)	"From Cultures of Death to Cultures of Life"(前回の続き)	精読、割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。
6 (05/23)	"Globalization as Genocide against Farmers"	精読、割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。
7 (05/30)	"Globalization as Genocide against Farmers"(前回の続き)	精読、割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。
8 (06/06)	"Globalization and Crimes against Women"	割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。
9 (06/13)	"Globalization and Crimes against Women"(前回の続き)	精読、割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。
10 (06/20)	"Representations of Whiteness in the Black Imagination"	精読、割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。
11 (06/27)	"Representations of Whiteness in the Black Imagination"(前回の続き)	精読、割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。
12(07/04)	"The Black Gaze"	精読、割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。
13 (07/11)	"The Black Gaze"(前回の続き)	精読、割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。
14 (07/18)	"The Journeying of Black People"	精読、割り当てられたグループによる発表、ニュースのリスニング練習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では要約、自身のコメントを英語で発表して、議論すべきトピックを提供する。また、与えられたトピックについての英作文の課題にも取り組む。

【テキスト（教科書）】

『原書で読むカルチュラル・スタディーズ』, 山田雄三他編注（英宝社, 2014）.

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社, 1999）, および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます.

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%), 課題 (15%) と試験 (70%) から総合的に評価します. あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合, 正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります. 病気などのやむを得ない事情を除いて, 原則として全授業出席する必要があります. 病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います. 未予習での出席は欠席扱いとし, 授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し, その日は欠席扱いとします. 遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが, 2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします. 朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます. 電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します.

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います.

【Outline and objectives】

In this course, students learn how to study cultures using the textbook which contains articles of "Cultural Studies".

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 3

2016 年度以前入学者

宇治谷 義英

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期科目「英語 1」に引き続いて, カルチュラル・スタディーズの文献の抜粋を使って英文を読んでまとめると同時に文化の読み方を身につける.

【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること, (2) 英語のみならず, その背景にある問題を調べて把握すること, (3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち, 以下に関連している. 国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します. それ以外に事前に割り当てたグループに英字新聞, 雑誌の記事を基にした発表をしてもらいます. 内容は要旨, 自分の意見, そして議論すべきトピックの提供です. また, ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (9/26)	イントロ（席決めを含む）	ウォームアップを含めて授業の内容説明, グループ, 発表の順番決め.
2 (10/3)	"The Journeying of Black People" (前回の続き)	精読. 割り当てられたグループによる発表
3 (10/10)	"Associations of Whiteness with Terror"	精読. 割り当てられたグループによる発表.
4 (10/17)	"Associations of Whiteness with Terror" (前回の続き)	精読. 割り当てられたグループによる発表.
5 (10/24)	"Techniques of TV (1)"	精読. 割り当てられたグループによる発表.
6 (10/31)	"Techniques of TV (1)" (前回の続き)	精読. 割り当てられたグループによる発表.
7 (11/7)	"Techniques of TV (2)"	精読. 割り当てられたグループによる発表.
8 (11/14)	"Techniques of TV (2)" (前回の続き)	割り当てられたグループによる発表.
9 (11/21)	"Culture is Ordinary (1)"	精読. 割り当てられたグループによる発表.
10 (11/28)	"Culture is Ordinary (1)" (前回の続き)	精読. 割り当てられたグループによる発表.
11 (12/5)	"Culture is Ordinary (2)"	精読. 割り当てられたグループによる発表.
12 (12/12)	"Culture is Ordinary (1)" (前回の続き)	精読. 割り当てられたグループによる発表.
13 (12/19)	「多文化共生社会とは何か」	課題作文のフィードバック.
14 (1/9)	「多文化共生社会とは何か」 (前回の続き)	グループによるディスカッション.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙, 表現をできる限り調べ, 授業に臨むこと. 発表については, 事前に資料を準備, 授業では要約, 自身のコメントを英語で発表して, 議論すべきトピックを提供する. また, 与えられたトピックについての英作文の課題にも取り組む.

【テキスト（教科書）】

『原書で読むカルチュラル・スタディーズ』, 山田雄三他編注（英宝社, 2014）.

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社, 1999）, および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます.

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%)、課題 (15%) と試験 (70%) から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students learn how to read cultures, using the textbook which contains articles of "Cultural Studies".

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1

2016 年度以前入学者

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することあれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

長文の英語を正確に読み取る力を身につけます。なるべく辞書に頼らないで新聞・雑誌を読む力を養うことが目標です。
この授業で皆さんは、
・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文体・語彙・熟語の面でも対応できるようにする
・高校までの文法のおさらいをしつつ、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する
・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める
ことを目指して下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。
語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。
当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	このシラバスに書かれた内容の説明だけでなく、学期中・授業中の注意点や、次回以降の授業に必要な課題についても言及しますので、必ず出席して下さい。出席数にもカウントされます。
2	Unit 2 (1)	パキスタンで学校危機
3	Unit 2 (2)	The crisis in Pakistan's schools (前回の続き)
4	Unit 3 (1)	English as the medium of instruction (and its consequences) 幸福になるよりも「幸福になる方法」の講義を受ける方が簡単か？ 学生殺到
5	Unit 3 (2)	Easier Taught than Done? Yale's Most Popular Class Tackles Happiness (前回の続き)
6	Unit 4 (1)	The fewer requirements, the better! 「米国第一」経済の問題点 The Case for 'America First' Economics

7	Unit 4 (2)	(前回の続き) Trump: The Un-American President
8	Unit 5 (1)	銃規制の実行を求めて数千人が教室から街頭行進へ Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control
9	Unit 5 (2)	(前回の続き) What is the N.R.A.?
10	Unit 6 (1)	収拾が付かない多言語国家 言語問題で北アイルランドが分裂 A Linguistic Melting Pot That Can Still Boil Over
11	Unit 6 (2)	Language issue divides Northern Ireland (前回の続き) Culture War Over Beloved Dish Grips Quebec
12	Unit 8 (1)	チートスの激辛味が食べられずに魚ばかりで喪失感を味わう Fish Instead of Flamin' Hot Cheetos, and Feeling Lost
13	Unit 8 (2)	(前回の続き) Food culture among refugees
14	筆記試験（期末）	単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。 授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをのぞく、筆記試験の問題だけをのぞく、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。
この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することによって一番の時間を割いて下さい。

具体的には、

- ・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くささらずにこまめに辞書を引かなければいけません。
- ・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
- ・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずです。
- もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2019 Edition —（15 章版：ニュースメディアの英語 — 演習と解説 2019 年度版—）』、朝日出版社、2019 年、1200 円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。
『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が 70 %、後者が 30 % を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、**Summary** と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。

・欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。

高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートすること 1 年間こそが最も大切だとも言えます。

せっかく国際文化学部に入學したのでから、ただごまかし続けて 1 年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day. Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe100LA	
英語 3	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 3	2016 年度以前入学者
永井 大輔	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 1/Thu.1 国 1 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあるが、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向ける必要があります。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

英語 1 からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけることを目標とします。
加えて今学期は、英文パラグラフ・ライティングについての初歩的な知識を身につけ、SA や語学認定試験に備えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には英語 1 と変わりません。
ただし、英語 1 からの「ステップアップ」であるため、英語 1 で指摘したポイントについて、同じだけの時間を費やして繰り返すことはしません。そのため、教科書の進行速度が上がって時間的な余裕が生まれる可能性があります。その場合は別のリーディングもしくはリスニング教材（実物の記事やニュース）を用意して挑戦してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 10 (1)	サウジアラビアで規制緩和 Saudi Arabia lightens up (前回の続き)
2	Unit 10 (2)	The Prince and the Saudi economy ビットコインがキャンパスに Bitcoin comes to campus (前回の続き)
3	Unit 11 (1)	Weak measures led to NEM hack ロヒンギャの若者には今も恐怖が Horror still await young Rohingya (前回の続き)
4	Unit 11 (2)	Rohingya find nowhere left to turn サッカーの元スター選手がリベリアの 正当な新大統領に Liberia Hails New President: A Soccer Star, Duly Elected (前回の続き)
5	Unit 12 (1)	Poverty and corruption (and civil wars) イスラム教についてのドイツのやり方は間違い The wrong way for Germany to debate Islam (前回の続き)
6	Unit 12 (2)	Religion and civil society 紛争でヨーロッパの時計が遅れている Dispute slows Europe's clocks (前回の続き)
7	Unit 13 (1)	Balkan states and power systems in Europe 学期中に進行が遅れていた場合はこの 回で調整します。 また、パラグラフ・ライティングの指 導も行ないます。
8	Unit 13 (2)	いずれにせよ、必ず出席して下さい。 実施の要領は英語 1 の時と同じです。
9	Unit 14 (1)	
10	Unit 14 (2)	
11	Unit 15 (1)	
12	Unit 15 (2)	
13	予備日	
14	筆記試験（期末）	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい。

具体的には、
・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。
・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。
もしそうなら、どこかで読み間違えているはずです。
もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っているような人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2019 Edition — （15 章版：ニュースメディアの英語— 演習と解説 2019 年度版— ）』、朝日出版社、2019 年、1200 円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。
『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。
前者が 70 %、後者が 30 % を占めます。
筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。
読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。
また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。
平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。
・欠席および遅刻について
学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。
高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの 1 年間こそが最も大切だとも言えます。
せっかく国際文化学部に入学したのでしたら、ただごまかし続けて 1 年間で無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day. Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.
In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1

2016 年度以前入学者

栗飯原 文子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をととして、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
- ・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
- ・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は基本的に教科書にそって進めていくが、その他の教材も用いて、さまざまな文章に触れる。
- ・学期の半ばで、読みたい英文記事を提出してもらい、互いに批評する。
- ・定期的に小テストをおこなう。
- ・学期最後の授業において期末試験をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション と自己紹介	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。ひとりずつ英語で自己紹介をおこなう。
第 2 回	Unit 1 Why is God So Quiet?	Unit 1 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 1 Why is God So Quiet の 続き BBC Learning English で学ぶ	Unit 1 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 4 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke	Unit 2 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke の続き 新聞を読む① The Japan Times	Unit 2 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars	Unit 3 の精読。補助教材による速読の練習。
第 7 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars 新聞を読む② The Asahi Shimbun	Unit 3 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 8 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do?	Unit 4 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do? の続き VOA Learning English で学ぶ	Unit 4 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 10 回	Unit 5 You Can Always Reach Me	Unit 5 の精読。補助教材による速読の練習。
第 11 回	Unit 5 You Can Always Reach Me の続き News in Levels で学ぶ	Unit 5 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。

第 12 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath	Unit 6 の精読。補助教材による速読の練習。
第 13 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath の続き 春学期の復習	Unit 6 の練習問題。春学期の復習をおこなう。
第 14 回	期末試験とまとめ	春学期で学んだ教科書の範囲から期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、予習は必ずおこなうこと。
- ・定期的に小テストを実施するので、入念に準備すること。
- ・期末試験は学期中に学んだ教科書の範囲内から出題する。

毎回しっかりと問題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。

【テキスト（教科書）】

Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 10 %
- ・小テスト・課題の提出 30 %
- ・期末テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生が積極的に授業に参加できるよう、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リーディング中心の授業ではあるが、リスニングの練習も増やしたい。

【その他の重要事項】

- ・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。
- ・また、大幅な遅刻は欠席とみなす。
- ・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。

なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline and objectives】

This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 3

2016 年度以前入学者

栗飯原 文子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をととして、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
- ・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全文の内容をつかむ力を伸ばす。
- ・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。
- ・後半の授業では 4 度にわたり、パラグラフ・ライティングを学び、課題としてワンパラグラフ（100 語程度）の作文に取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は基本的に教科書にそって進めていくが、その他の教材も用いて、さまざまな文章に触れる。
- ・定期的に小テストをおこなう。
- ・学期最後の授業において期末試験をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションとプレゼンテーション	秋学期の授業の概要と進め方について説明。各自、短いプレゼンテーションをおこなう。
第 2 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!	Unit 7 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!の続き BBC Learning English で学ぶ	Unit 7 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 4 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?	Unit 8 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?の続き 新聞を読む① The Japan Times	Unit 8 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 9 Fighting is Good for You	Unit 9 の精読。補助教材による速読の練習。
第 7 回	Unit 9 Fighting is Good for You の続き 新聞を読む② The Japan News	Unit 9 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 8 回	Unit 10 Food is Cruel	Unit 10 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 10 Food is Cruel の続き VOA Learning English で学ぶ	Unit 10 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 10 回	Unit 11 But It's the Right Answer! パラグラフ・ライティング①	Unit 11 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。

第 11 回	Unit 11 But It's the Right Answer!の続き News in Levels で学ぶ、 パラグラフ・ライティング②	Unit 11 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 12 回	Unit 12 University is a Waste of Time パラグラフ・ライティング③	Unit 12 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 13 回	Unit 12 University is a Waste of Time の続き パラグラフ・ライティング④、全体の復習	Unit 12 の練習問題。パラグラフ・ライティングを学ぶ。秋学期の復習をおこなう。
第 14 回	期末試験とまとめ	秋学期で学んだ教科書の範囲から期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、予習は必ずおこなうこと。
 - ・定期的に小テストを実施するので、入念に準備すること。
 - ・期末試験は学期中に学んだ教科書の範囲内から出題する。
- 毎回しっかりと問題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。

【テキスト（教科書）】

Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 10 %
- ・小テスト・課題の提出 30 %
- ・期末テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生が積極的に授業に参加できるよう、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リスニングの練習を増やし、ライティング課題へのフィードバックをより丁寧におこなうよう心がけたい。

【その他の重要事項】

- ・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。
 - また、大幅な遅刻は欠席とみなす。
 - ・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。
- なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline and objectives】

This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course.

LANe100LA	
英語 1	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 1	2016 年度以前入学者
吉田 季実子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 1/Thu.1 国 1 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニーをモチーフにして社会を分析する映画論を読み解いていくことで、学習者は読解力だけでなく、高度な言語運用に欠かせない分析力や批判的思考力を身につけ、考えを深化することを目指す。

【到達目標】

語彙、表現、議論のレベルを高めつつ、身近な話題の中の問題性について英語テキストを通して考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト精読、内容に関係のある映像での学習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	introduction	授業の進め方についての説明
2	Chapter1	Chapter1 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
3	Chapter1	Chapter2 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
4	Chapter2	Chapter3 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
5	Chapter2	Chapter4 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
6	Chapter3	Chapter5 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
7	Chapter3	Chapter6 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
8	Chapter4	Chapter1～6 のまとめ
9	Chapter4	
10	Chapter5	
11	Chapter5	
12	Chapter6	
13	Chapter6	
14	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書内で使用されているテキストについての概要を把握する
また授業内で読む箇所についての和訳等の予習を行うこと

【テキスト（教科書）】

「ディズニーアニメと多様化する社会」"Disney Films and Secret Messages Race, Ethnicity, Gender, Sexuality, and Disability"
Johnson Cheu 編 國友万裕／安田優 編注（松本恵美 井上裕子 轟 里香 村上裕美 船本弘史 須田久美子）英宝社 2000 円＋税

【参考書】

都度指示します

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20 %

提出物 50 %

小テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the analytic and understanding ability needed to achieve a better performance in their university studies, by reviewing Disney movies.

LANe100LA	
英語 3	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 3	2016 年度以前入学者
吉田 季実子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 1/Thu.1 国 1 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニーをモチーフにして社会を分析する映画論を読み解いていくことで、学習者は読解力だけでなく、高度な言語運用に欠かせない分析力や批判的思考力を身につけ、考えを深化することを目指す。

【到達目標】

語彙、表現、議論のレベルを高めつつ、身近な話題の中の問題性について英語テキストを通して考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト精読、内容に関係のある映像での学習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter7	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
2	Chapter7	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
3	Chapter8	Chapter9 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
4	Chapter8	Chapter10 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
5	Chapter9	Chapter11 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
6	Chapter9	Chapter12 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
7	Chapter10	Chapter13 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
8	Chapter10	
9	Chapter11	
10	Chapter11	
11	Chapter12	
12	Chapter12	
13	Chapter13	
14	Chapter13	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書内で使用されているテキストについての概要を把握する
また授業内で読む箇所についての和訳等の予習を行うこと

【テキスト（教科書）】

「ディズニーアニメと多様化する社会」"Disney Films and Secret Messages Race, Ethnicity, Gender, Sexuality, and Disability"
Johnson Cheu 編 國友万裕／安田優 編注（松本恵美 井上裕子 轟 里香 村上裕美 船本弘史 須田久美子）英宝社 2000 円＋税

【参考書】

特に指定なし

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20 %

提出物 50 %

小テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the analytic and understanding ability needed to achieve a better performance in their university studies, by reviewing Disney movies.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1

2016 年度以前入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、基本的に 1 つの Unit を 2 回の授業に分けて読む。春学期は英文を正確に読むことに主眼を置く。授業冒頭ではテキストから作成したリスニング問題を実施する。続いて単語・熟語・文法事項等を確認しながら訳読し、トピックセンテンスやサポートセンテンスなどパラグラフ構造に注意し、全体の理解を図る。Unit ごとに 2 度小テストを行なう。また、適宜、記事に対する意見を英語でまとめる時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1-1 Goodbye, Maldives	「さらば、モルディブ」前半講読
3	Unit 1-2 Goodbye, Maldives	「さらば、モルディブ」後半講読
4	Unit 2-1 Sustainable Communities	「持続可能なコミュニティ」前半講読
5	Unit 2-2 Sustainable Communities	「持続可能なコミュニティ」後半講読
6	Unit 1-2 のまとめと英作文	Unit 1-2 の事柄に関する英作文
7	Unit 3-1 Economic Inequality: the Growing Gap	「経済的不平等—広がる格差」前半講読
8	Unit 3-2 Economic Inequality: the Growing Gap	「経済的不平等—広がる格差」後半講読
9	Unit 4-1 Dilemmas for a Responsible Tourist	「『責任ある観光客』のジレンマ」前半講読
10	Unit 4-2 Dilemmas for a Responsible Tourist	「『責任ある観光客』のジレンマ」後半講読
11	Unit 3-4 のまとめと英作文	Unit 3-4 の事柄に関する英作文
12	Unit 5-1 Learning from Nature	「自然からの学び」前半講読
13	Unit 5-2 Learning from Nature	「自然からの学び」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、わからない語句を辞書で調べて来ること。

Unit ごとに 2 回、小テストを実施するので、必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

Issues That Matter

(David Peaty, 川田潤 著, 金星堂 2018 年 1800 円+税別)

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %

欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。

授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 3

2016 年度以前入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
国 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を速く読み、理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式を取り、基本的に 1 つの Unit を 2 回の授業に分けて読む。秋学期は英文を速読に主眼を置く。春学期同様、授業冒頭でテキストから作成したリスニング問題を実施する。続いてトピックセンテンスやサポートセンテンスなどパラグラフ構造に注意し、全体の理解を図る。Unit ごとに 2 回小テストを行なう。また、記事に対する意見を英作文する時間も取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の実施の仕方の説明と英作文
2	Unit 6-1 We can't Live Without Water	「水がなければ生きていけない」前半 講読
3	Unit 6-2 We can't Live Without Water	「水がなければ生きていけない」後半 講読
4	Unit 7-1 Protecting World Heritage	「世界遺産を守れ」前半講読
5	Unit 7-2 Protecting World Heritage	「世界遺産を守れ」後半講読
6	Unit 6-7 のまとめと英作文	Unit 6-7 の事柄に関する英作文
7	Unit 8-1 The War on Sugar	「砂糖をめぐる争い」前半講読
8	Unit 8-2 The War on Sugar	「砂糖をめぐる争い」後半講読
9	Unit 9-1 Energy for a Stable Climate	「安定した気候のためのエネルギー」 前半講読
10	Unit 9-2 Energy for a Stable Climate	「安定した気候のためのエネルギー」 後半講読
11	Unit 8-9 のまとめと英作文	Unit 8-9 の事柄に関する英作文
12	Unit 10-1 Yasuni: A Dream of the Future?	「ヤスニー未来の夢？」前半講読
13	Unit 10-2 Yasuni: A Dream of the Future?	「ヤスニー未来の夢？」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、わからない語句を辞書で調べて来ること。

Unit ごとに 2 回小テストを実施するので、必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

Issues That Matter
(David Peaty, 川田潤 著, 金星堂 2018 年 1800 円+税別)

【参考書】

英語系辞書

【成績評価の方法と基準】

授業での発表 10 % 小テスト 40 % 試験 50 %
欠席回数が 3 回を超える場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱いとなる。遅刻 2 回で欠席 1 回となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline and objectives】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1

2016 年度以前入学者

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は長文の英語を正確に読み取る訓練を行います。大学入学までにみなさんが身につけた語彙や文法、発音を復習・補強すると同時に、それらを利用して英語の資料を読みとく能力を培うことを目指します。しっかりと辞書をひいて英文を一文一文読むだけでなく、辞書に頼らずに内容をできるだけ正確に推測する能力を身につけましょう。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①高校時代に培った文法・語彙・発音を復習し強化する
- ②長文の英語を正確に読みとる力を身につける
- ③現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要とされる語彙力を増やす
- ④わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に内容を推測できる
- ⑤継続的に英語学習を続けるための手段を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひき、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらった場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき2回授業を行い、2回目の授業で復習の小テストを行います。

学習内容の理解を確認・復習するための試験を学期中に2回行います。
※進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明
2	Security Cameras ① CHAPTER 2	文法・語彙・発音の確認
3	Security Cameras ② CHAPTER 2	記事の購読、小テスト
4	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ① CHAPTER 4	文法・語彙・発音の確認
5	Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks ② CHAPTER 4	記事の購読、小テスト
6	Womanomics ① CHAPTER 5	文法・語彙・発音の確認
7	Womanomics ② CHAPTER 5	記事の購読、小テスト
8	中間試験	試験の実施、解説、復習
9	Extreme Sports ① CHAPTER 6	文法・語彙・発音の確認
10	Extreme Sports ② CHAPTER 6	記事の購読、小テスト
11	Casinos and Gambling ① CHAPTER 7	文法・語彙・発音の確認
12	Casinos and Gambling ② CHAPTER 7	記事の購読、小テスト
13	Spouse Hunting CHAPTER 8	文法・語彙・発音の確認
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。定期試験は普段の予習と、テスト前の復習をしっかりすれば確実に得点できるはずです。

【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント

*授業には必ず辞書を持参してください。

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献(グループ/ペアワークへの参加) 15%、小テスト 15%、中間・期末試験各 35%で評価します。欠席回数が4回以上で単位修得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

文法や本文内容について講師が説明する時間を前年度より少し長くし、学生の理解を促します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire English reading skills. Students will review and reinforce English vocabulary, pronunciation, and grammar they learned in high school. Students will also learn how to read passages of multiple paragraphs without using a dictionary, guessing the meanings of unknown words from the context.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 3

2016 年度以前入学者

遠藤 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は英語 1 からのステップアップとして、より長い英語の文章を速く正確に読み取る訓練を行います。これまで学んだ語彙や文法を利用して英語の資料を読みとくだけでなく、Introduction/Body/ Conclusion Paragraph, Thesis Statement, Topic Sentence といった英文の構成をすばやく把握する能力を身につけます。また、読んだ英文を要約し、関連するトピックに対する意見を簡潔な英文で表現するパラグラフ・ライティングの練習を行います。

【到達目標】

この授業は以下の 6 つを到達目標とします：

- ①長文の英語を正確にかつ速く読みとることができる
- ②現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要な語彙を増やす
- ③わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に推測することができる
- ④英語の文章の構成をすばやく把握する能力を習得する
- ⑤英文の内容を要約する方法を身につける
- ⑥読んだ英文に関連するトピックに関する自分の意見を簡潔な英文で表現する方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読みます。ひとつの文章につき 2 回の授業を行います。1 回目は文章の構成や内容、注意すべき文法事項などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらう場合もあるのでしっかり予習しましょう。2 回目は読んだ文章を要約したり、トピックに対する自分の意見を短い英文にまとめたりする訓練を行い、ライティング課題を課します。グループやペアワークが中心となりますが、講師が適宜説明やアドバイスをを行います。

学習内容の理解を確認・復習するための試験を学期中に 2 回行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Becoming a World Heritage Site ① CHAPTER10	記事の購読、英語の文章の構成
2	Becoming a World Heritage Site ② CHAPTER10	記事の購読、Thesis Statement
3	Driverless Cars ① CHAPTER11	記事の購読、Main Point
4	Driverless Cars ② CHAPTER11	記事の購読、Topic Sentence
5	The Lay-Judge System in Japan ① CHAPTER12	記事の購読、Supporting Sentence
6	The Lay-Judge System in Japan ② CHAPTER12	記事の購読、Concluding Sentence
7	中間試験	試験の実施、解説、復習
8	Artificial Intelligence ① CHAPTER13	記事の購読、要約
9	Artificial Intelligence ② CHAPTER13	記事の購読、要約
10	Life-prolonging Treatment ① CHAPTER14	記事の購読、意見を表現する
11	Life-prolonging Treatment ② CHAPTER14	記事の購読、意見を表現する
12	Trusting Statistics ① CHAPTER15	記事の購読、要約、意見を表現する
13	Trusting Statistics ② CHAPTER15	記事の購読、要約、意見を表現する

14 期末試験

試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のために辞書をひきながらテキストを読み、設問に答えてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。また、講師の指示に従って授業で読んだ英文の要約や、そのトピックに関する意見を短い英文で書いてきてもらうこともあります。

期末試験は普段の予習と、テスト前の復習をしっかりすれば確実に得点できるはずです。

【テキスト（教科書）】

Mark Jewel, Taking Sides: Opinions For and Against (2017 年、朝日出版 ¥1800)

その他、配布プリント * 授業には必ず辞書を持参してください。

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献 (グループ/ペアワークへの参加) 15%、ライティング課題 15%、中間・期末試験各 35% で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位修得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

講師による文法事項や本文内容の解説に昨年度よりも少し長い時間をかけ、学生の理解を促します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire English reading skills. Students will learn paragraph structure (e.g. Introduction/Body/Conclusion, Thesis Statement, and Topic Sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1

2016 年度以前入学者

宇治谷 義英

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「カルチュラル・スタディーズ」の文章を集めた教材を使って英文を読んでまとめると同時に、文化多元主義と言われる中で文化を学ぶ際に必要な考え方を身につける。

【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること、(2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること、(3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します。それ以外に事前に割り当てたグループに英字新聞、雑誌の記事を基にした発表をしてもらいます。内容は要旨、自分の意見、そして議論すべきトピックの提供です。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (04/11)	イントロ（席決めを含む）	ウォームアップを含めて授業の内容説明。グループ、発表の順番決め、『リスニング・ハンドブック』の説明。ニュースのリスニング練習。
2 (04/18)	"Living Cultures and Killing Cultures"	精読。割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。
3 (04/25)	"Living Cultures and Killing Cultures"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。
4 (05/09)	"From Cultures of Death to Cultures of Life"	精読。割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。
5 (05/16)	"From Cultures of Death to Cultures of Life"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。
6 (05/23)	"Globalization as Genocide against Farmers"	精読。割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。
7 (05/30)	"Globalization as Genocide against Farmers"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。
8 (06/06)	"Globalization and Crimes against Women"	割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。
9 (06/13)	"Globalization and Crimes against Women"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。
10 (06/20)	"Representations of Whiteness in the Black Imagination"	精読。割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。
11 (06/27)	"Representations of Whiteness in the Black Imagination"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。
12(07/04)	"The Black Gaze"	精読。割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。
13 (07/11)	"The Black Gaze"(前回の続き)	精読。割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。
14 (07/18)	"The Journeying of Black People"	精読。割り当てられたグループによる発表。ニュースのリスニング練習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では要約、自身のコメントを英語で発表して、議論すべきトピックを提供する。また、与えられたトピックについての英作文の課題にも取り組む。

【テキスト（教科書）】

『原書で読むカルチュラル・スタディーズ』, 山田雄三他編注（英宝社, 2014）。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社, 1999）、および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%)、課題 (15%) と試験 (70%) から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students learn how to study cultures using the textbook which contains articles of "Cultural Studies".

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 3

2016 年度以前入学者

宇治谷 義英

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期科目「英語 1」に引き続いて、カルチュラル・スタディーズの文献の抜粋を使って英文を読んでまとめると同時に文化の読み方を身につける。

【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること、(2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること、(3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します。それ以外に事前に割り当てたグループに英字新聞、雑誌の記事を基にした発表をしてもらいます。内容は要旨、自分の意見、そして議論すべきトピックの提供です。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 (9/26)	イントロ（席決めを含む）	ウォームアップを含めて授業の内容説明、グループ、発表の順番決め。
2 (10/3)	"The Journeying of Black People"(前回の続き)	精読、割り当てられたグループによる発表
3 (10/10)	"Associations of Whiteness with Terror"	精読、割り当てられたグループによる発表。
4 (10/17)	"Associations of Whiteness with Terror"(前回の続き)	精読、割り当てられたグループによる発表。
5 (10/24)	"Techniques of TV (1)"	精読、割り当てられたグループによる発表。
6 (10/31)	"Techniques of TV (1)"(前回の続き)	精読、割り当てられたグループによる発表。
7 (11/7)	"Techniques of TV (2)"	精読、割り当てられたグループによる発表。
8 (11/14)	"Techniques of TV (2)"(前回の続き)	割り当てられたグループによる発表。
9 (11/21)	"Culture is Ordinary (1)"	精読、割り当てられたグループによる発表。
10 (11/28)	"Culture is Ordinary (1)"(前回の続き)	精読、割り当てられたグループによる発表。
11 (12/5)	"Culture is Ordinary (2)"	精読、割り当てられたグループによる発表。
12 (12/12)	"Culture is Ordinary (1)"(前回の続き)	精読、割り当てられたグループによる発表。
13 (12/19)	「多文化共生社会とは何か」	課題作文のフィードバック。
14 (1/9)	「多文化共生社会とは何か」(前回の続き)	グループによるディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では要約、自身のコメントを英語で発表して、議論すべきトピックを提供する。また、与えられたトピックについての英作文の課題にも取り組む。

【テキスト（教科書）】

『原書で読むカルチュラル・スタディーズ』, 山田雄三他編注（英宝社, 2014）。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社, 1999）, および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%)、課題 (15%) と試験 (70%) から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席する必要があります。病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。

【Outline and objectives】

In this course, students learn how to read cultures, using the textbook which contains articles of "Cultural Studies".

LANe100LA	
英語 1	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 1	2016 年度以前入学者
永井 大輔	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 2/Thu.2 国 1 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向かなければなりません。重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

長文の英語を正確に読み取る力を身につけます。なるべく辞書に頼らないで新聞・雑誌を読む力を養うことが目標です。この授業で皆さんは、
・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文体・語彙・熟語の面に対応できるようにする
・高校までの文法のおさらいをしつつ、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する
・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める
ことを目指して下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	このシラバスに書かれた内容の説明だけでなく、学期中・授業中の注意点や、次回以降の授業に必要な課題についても言及しますので、必ず出席して下さい。出席数にもカウントされます。
2	Unit 2 (1)	パキスタンで学校危機
3	Unit 2 (2)	The crisis in Pakistan's schools (前回の続き) English as the medium of instruction (and its consequences)
4	Unit 3 (1)	幸福になるよりも「幸福になる方法」の講義を受ける方が簡単か？ 学生殺到 Easier Taught than Done? Yale's Most Popular Class Tackles Happiness
5	Unit 3 (2)	(前回の続き) The fewer requirements, the better!
6	Unit 4 (1)	「米国第一」経済の問題点 The Case for 'America First' Economics

7	Unit 4 (2)	(前回の続き) Trump: The Un-American President
8	Unit 5 (1)	銃規制の実行を求めて数千人が教室から街頭行進へ Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control
9	Unit 5 (2)	(前回の続き) What is the N.R.A.?
10	Unit 6 (1)	収拾が付かない多言語国家 言語問題で北アイルランドが分裂 A Linguistic Melting Pot That Can Still Boil Over
11	Unit 6 (2)	Language issue divides Northern Ireland (前回の続き) Culture War Over Beloved Dish
12	Unit 8 (1)	Grips Quebec チートスの激辛味が食べられずに魚ばかりで喪失感を味わう Fish Instead of Flamin' Hot
13	Unit 8 (2)	Cheetos, and Feeling Lost (前回の続き) Food culture among refugees
14	筆記試験（期末）	単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。 授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい。具体的には、
・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。
・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずです。
もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2019 Edition —』（15 章版：ニュースメディアの英語— 演習と解説 2019 年度版— ）、朝日出版社、2019 年、1200 円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。前者が 70 %、後者が 30 % を占めます。筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。
・欠席および遅刻について
学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。
高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの1年間こそが最も大切だとも言えます。
せっかく国際文化学部に入學したのでから、ただごまかし続けて1年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day. Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.
In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 3

2016 年度以前入学者

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することあれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。
重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。
この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

英語 1 からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけることを目標とします。
加えて今学期は、英文パラグラフ・ライティングについての初歩的な知識を身につけ、SA や語学認定試験に備えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には英語 1 と変わりません。
ただし、英語 1 からの「ステップアップ」であるため、英語 1 で指摘したポイントについて、同じだけの時間を費やして繰り返すことはしません。そのため、教科書の進行速度が上がって時間的な余裕が生まれる可能性があります。その場合は別のリーディングもしくはリスニング教材（実物の記事やニュース）を用意して挑戦してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 10 (1)	サウジアラビアで規制緩和 Saudi Arabia lightens up (前回の続き)
2	Unit 10 (2)	The Prince and the Saudi economy
3	Unit 11 (1)	ビットコインがキャンパスに Bitcoin comes to campus (前回の続き)
4	Unit 11 (2)	Weak measures led to NEM hack
5	Unit 12 (1)	ロヒンギャの若者には今も恐怖が Horrors still await young Rohingya (前回の続き)
6	Unit 12 (2)	Rohingya find nowhere left to turn
7	Unit 13 (1)	サッカーの元スター選手がリベリアの 正当な新大統領に Liberia Hails New President: A Soccer Star, Duly Elected (前回の続き)
8	Unit 13 (2)	Poverty and corruption (and civil wars)
9	Unit 14 (1)	イスラム教についてのドイツのやり方は間違い The wrong way for Germany to debate Islam (前回の続き)
10	Unit 14 (2)	Religion and civil society
11	Unit 15 (1)	紛争でヨーロッパの時計が遅れている Dispute slows Europe's clocks (前回の続き)
12	Unit 15 (2)	Balkan states and power systems in Europe
13	予備日	学期中に進行が遅れていた場合はこの 回で調整します。 また、パラグラフ・ライティングの指導も行ないます。 いずれにせよ、必ず出席して下さい。 実施の要領は英語 1 の時と同じです。
14	筆記試験（期末）	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい。

具体的には、

- ・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。
- ・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
- ・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうになっていたら、どこかで読み間違えているはずです。
- もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っているような人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『15 Selected Units of English through the News Media — 2019 Edition —（15 章版：ニュースメディアの英語— 演習と解説 2019 年度版— ）』、朝日出版社、2019 年、1200 円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が 70 %、後者が 30 % を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。

・欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。

高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にはほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの 1 年間こそが最も大切だとも言えます。せっかく国際文化学部に入學したのですから、ただごまかし続けて 1 年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

【Outline and objectives】

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day. Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1

2016 年度以前入学者

栗飯原 文子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をととして、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
- ・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
- ・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は基本的に教科書にそって進めていくが、その他の教材も用いて、さまざまな文章に触れる。
- ・学期の半ばで、読みたい英文記事を提出してもらい、互いに批評する。
- ・定期的に小テストをおこなう。
- ・学期最後の授業において期末試験をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション と自己紹介	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。ひとりずつ英語で自己紹介をおこなう。
第 2 回	Unit 1 Why is God So Quiet?	Unit 1 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 1 Why is God So Quiet の 続き BBC Learning English で学ぶ	Unit 1 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 4 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke	Unit 2 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke の続き 新聞を読む① The Japan Times	Unit 2 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars	Unit 3 の精読。補助教材による速読の練習。
第 7 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars 新聞を読む② The Asahi Shimbun	Unit 3 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 8 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do?	Unit 4 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do? の続き VOA Learning English で学ぶ	Unit 4 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 10 回	Unit 5 You Can Always Reach Me	Unit 5 の精読。補助教材による速読の練習。
第 11 回	Unit 5 You Can Always Reach Me の続き News in Levels で学ぶ	Unit 5 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。

第 12 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath	Unit 6 の精読。補助教材による速読の練習。
第 13 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath の続き 春学期の復習	Unit 6 の練習問題。春学期の復習をおこなう。
第 14 回	期末試験とまとめ	春学期で学んだ教科書の範囲から期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎週、予習は必ずおこなうこと。
・定期的に小テストを実施するので、入念に準備すること。
・期末試験は学期中に学んだ教科書の範囲内から出題する。
毎回しっかりと問題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。

【テキスト（教科書）】

Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 10 %
・小テスト・課題の提出 30 %
・期末テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生が積極的に授業に参加できるよう、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リーディング中心の授業ではあるが、リスニングの練習も増やしたい。

【その他の重要事項】

・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。
また、大幅な遅刻は欠席とみなす。
・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。
なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline and objectives】

This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 3

2016 年度以前入学者

栗飯原 文子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をととして、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

【到達目標】

・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全文の内容をつかむ力を伸ばす。
・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。
・後半の授業では 4 度にわたり、パラグラフ・ライティングを学び、課題としてワンパラグラフ（100 語程度）の作文に取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・授業は基本的に教科書にそって進めていくが、その他の教材も用いて、さまざまな文章に触れる。
・定期的に小テストをおこなう。
・学期最後の授業において期末試験をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションとプレゼンテーション	秋学期の授業の概要と進め方について説明。各自、短いプレゼンテーションをおこなう。
第 2 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!	Unit 7 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!の続き BBC Learning English で学ぶ	Unit 7 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 4 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?	Unit 8 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?の続き 新聞を読む① The Japan Times	Unit 8 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 9 Fighting is Good for You	Unit 9 の精読。補助教材による速読の練習。
第 7 回	Unit 9 Fighting is Good for You の続き 新聞を読む② The Japan News	Unit 9 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 8 回	Unit 10 Food is Cruel	Unit 10 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 10 Food is Cruel の続き VOA Learning English で学ぶ	Unit 10 の練習問題。補助教材による速読とリスニングの練習。
第 10 回	Unit 11 But It's the Right Answer! パラグラフ・ライティング①	Unit 11 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。

第 11 回	Unit 11 But It's the Right Answer!の続き News in Levels で学ぶ、 パラグラフ・ライティン グ②	Unit 11 の練習問題。補助教材による 速読とリスニングの練習。パラグラ フ・ライティングを学ぶ。
第 12 回	Unit 12 University is a Waste of Time パラグラフ・ライティン グ③	Unit 12 の精読。パラグラフ・ライ ティングを学ぶ。
第 13 回	Unit 12 University is a Waste of Time の続き パラグラフ・ライティン グ④、全体の復習	Unit 12 の練習問題。パラグラフ・ラ イティングを学ぶ。秋学期の復習をお こなう。
第 14 回	期末試験とまとめ	秋学期で学んだ教科書の範囲から期末 試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週、予習は必ずおこなうこと。
・定期的に小テストを実施するので、入念に準備すること。
・期末試験は学期中に学んだ教科書の範囲内から出題する。
毎回しっかりと問題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。

【テキスト（教科書）】
Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 10 %
・小テスト・課題の提出 30 %
・期末テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生が積極的に授業に参加できるよう、教材や授業の進め方について工夫
をおこないたい。リスニングの練習を増やし、ライティング課題へのフィード
バックをより丁寧におこなうよう心がけたい。

【その他の重要事項】
・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。
また、大幅な遅刻は欠席とみなす。
・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。
なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline and objectives】
This course aims to help students acquire advanced reading skills
through a wide range of reading materials of different genres and styles.
Intensive and extensive reading, listening and writing activities and
vocabulary development will be important elements of the course.

LANe100LA	
英語 1	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 1	2016 年度以前入学者
吉田 季実子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 2/Thu.2 国 1 年	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ディズニーをモチーフにして社会を分析する映画論を読み解いていくことで、
学習者は読解力だけでなく、高度な言語運用に欠かせない分析力や批判的思
考力を身に付け、考えを深化することを目指す。

【到達目標】
語彙、表現、議論のレベルを高めつつ、身近な話題の中の問題性について
英語テキストを通して考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部
： DP1

【授業の進め方と方法】
テキスト精読、内容に関係のある映像での学習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
1	introduction	授業の進め方についての説明
2	Chapter1	Chapter1 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
3	Chapter1	Chapter2 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
4	Chapter2	Chapter3 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
5	Chapter2	Chapter4 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
6	Chapter3	Chapter5 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
7	Chapter3	Chapter6 についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
8	Chapter4	Chapter1～6 のまとめ
9	Chapter4	
10	Chapter5	
11	Chapter5	
12	Chapter6	
13	Chapter6	
14	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書内で使用されているテキストについての概要を把握する
また授業内で読む箇所についての和訳等の予習を行うこと

【テキスト（教科書）】
「ディズニーアニメと多様化する社会」"Disney Films and Secret Messages
Race, Ethnicity, Gender, Sexuality, and Disability"
Johnson Cheu 編 國友万裕／安田優 編注（松本恵美 井上裕子 轟 里香
村上裕美 船本弘史 須田久美子）英宝社 2000 円＋税

【参考書】
都度指示します

【成績評価の方法と基準】
授業への参加 20 %
提出物 50 %
小テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the analytic and
understanding ability needed to achieve a better performance in their
university studies, by reviewing Disney movies.

LANe100LA

英語 3 2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 3 2016 年度以前入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニーをモチーフにして社会を分析する映画論を読み解いていくことで、学習者は読解力だけでなく、高度な言語運用に欠かせない分析力や批判的思考力を身につけ、考えを深化することを目指す。

【到達目標】

語彙、表現、議論のレベルを高めつつ、身近な話題の中の問題性について英語テキストを通して考える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト精読、内容に関係のある映像での学習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Chapter7	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
2	Chapter7	
3	Chapter8	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
4	Chapter8	
5	Chapter9	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
6	Chapter9	
7	Chapter10	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
8	Chapter10	
9	Chapter11	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
10	Chapter11	
11	Chapter12	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
12	Chapter12	
13	Chapter13	Chapter についての語彙、文法 チェック テキスト精読 前週の復習、内容に関するまとめ
14	Chapter13	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書内で使用されているテキストについての概要を把握する
また授業内で読む箇所についての和訳等の予習を行うこと

【テキスト（教科書）】

「ディズニーアニメと多様化する社会」"Disney Films and Secret Messages Race, Ethnicity, Gender, Sexuality, and Disability"
Johnson Cheu 編 國友万裕／安田優 編注（松本恵美 井上裕子 轟 里香 村上裕美 船本弘史 須田久美子）英宝社 2000 円＋税

【参考書】

特に指定なし

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20 %

提出物 50 %

小テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the analytic and understanding ability needed to achieve a better performance in their university studies, by reviewing Disney movies.

LANe100LA

英語 2 2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2 2016 年度以前入学者

スティーブン モリス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to enable students to develop and expand their overall communication skills with an emphasis on spoken and listening English. In addition, students will be given an opportunity to develop their writing skills within the context of the course material

【到達目標】

The goals of this course are to help students to become more confident and proficient in using English in a wide variety of situations. Students will practice the skills necessary to develop their communication skills in speaking, listening, reading, and writing. It is hoped that the study of practical and topical materials will encourage students to become more independent language learners and practitioners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Course content will include extensive listening and speaking practice. Students will have many opportunities to improve their general fluency in English through pair work and group activities. There will also be opportunities for students to practice their reading, writing and analytical skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Introduction
2	Unit 1 – People & Places	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
3	Unit 1 – Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussions
4	Unit 1 – Themed Reading & Listening Topics	Video Journal; Quiz; Writing Points
5	Unit 2 – The Mind	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
6	Unit 2 – Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussion
7	Unit 2 – Themed Reading & Listening Topics	Video Journal; Quiz; Writing Points
8	Unit 3 – Planet	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
9	Unit 3 – Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussion
10	Unit 3 – Themed Reading & Listening Topics	Video Journal; Quiz; Writing Points
11	Unit 4 – Money	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
12	Unit 4 – Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussion
13	Exam	Essay on Reader
14	Exam	Multiple choice exam on term textbook

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Unit Preparation as directed
Specific homework exercises
Reader: Read and prepare stories/chapters for quiz in class

Other Assignments as directed

【テキスト（教科書）】

World English 3 (Combo Split 3A) by Kristen Johannsen and Rebecca Chase
Heinle Cengage Learning 2015
Reader: Spring - Desert, Mountain Sea by Sue Leather
Oxford 2001

【参考書】

Good Dictionary

【成績評価の方法と基準】

Class Activities & Homework 25%

In Class Quizzes 35%

Final Exams 40%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

【学生の意見等からの気づき】

Introduced new text with topical themes for discussion and writing

【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to change

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 4

2016 年度以前入学者

スティーブン モリス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to expand and develop students' overall communication skills by building on the themes and techniques introduced in English 2. There will be an increased emphasis on writing and discussion in this part of the course.

【到達目標】

The goals of this course are to help students to become more confident and proficient in using English in a wide variety of situations. Students will continue to practice the skills necessary to develop their communication skills in speaking, listening, reading, and writing. It is hoped that the study of practical and topical materials will encourage students to become more independent language learners and practitioners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Course content will include extensive listening and discussion practice. Students will also have many opportunities to improve their general fluency in English through pair work and group activities. There will also be more in depth opportunities for students to practice their reading and writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Term and Goals Introduction	Reader Introduction Review Unit 4
2	Unit 5 - Survival	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
3	Unit 5 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Analysis
4	Unit 5 - Themed Reading & Listening; Discussion Topics	Video Journal; Quiz; Writing Points
5	Unit 6 - Art	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
6	Unit 6 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Analysis
7	Unit 6 - Themed Reading & Listening; Discussion Topics	Video Journal; Quiz; Writing Points
8	Writing Program	Introduction of Key Concepts; Organization
9	Introduction of Paragraph Components	Analysing Topic sentences with Controlling Ideas
10	Building Paragraphs	Analysing Supporting Sentences for Unity and Relevance; Using Transitions
11	Planning Paragraphs	Developing an Outline and Editing
12	Timed Writing	In class writing on selected topic
13	Exam	Essay on Reader
14	Exam	Multiple choice exam on term textbook

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Unit Preparation as directed

Specific homework exercises

Reader: Read and prepare stories/chapters for quiz in class

Other Assignments as directed

【テキスト（教科書）】

World English 3 (Combo Split 3A) by Kristen Johannsen and Rebecca Chase
Heinle Cengage Learning 2015
Reader Fall: Nelson Mandela by Rowena Akinyemi
Oxford

【参考書】

Dictionary required

【成績評価の方法と基準】

Class Activities & Homework 30%

In Class Quizzes 30%

Final Exams 40%

The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

【学生の意見等からの気づき】

Updated to include a larger writing component

【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to review

【Outline and objectives】

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2

2016 年度以前入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	my major	paper: Why I chose my major
第 3 回	culture	A. handout: What is Culture? How is living in a different culture a challenge? B. make groups for presentations related to student's SA experience.
第 4 回	differences/ commonalities	paper: differences and commonalities between Japanese students and students in your host country.
第 5 回	inside looking out	A. handout: How the U.S. is viewed from an international perspective. B. work on presentations
第 6 回	employment	paper: how studying abroad will set your employment apart from other students.
第 7 回	Social life	A. Discuss the social life that you would like to have while broad. B. work on presentations
第 8 回	childhood experiences	paper: write about several of your favorite childhood experiences.
第 9 回	traveling	A. discuss places that you have been & places that you would like to travel to B. Work on presentations.
第 10 回	final group presentation preparation	Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class.
第 11 回	presentations	groups of 4 to 5 students will give presentations
第 12 回	presentations	groups of 4 to 5 students will give presentations
第 13 回	get ready	paper: Preparation to study abroad, getting visa, researching host country etc.
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40% Papers = 35% Presentations = 25%
There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

【学生の意見等からの気づき】

None

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 4

2016 年度以前入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【到達目標】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	discuss what you did during your summer break.
第 2 回	my major	paper: what I expect from the SA program
第 3 回	culture	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	loneliness	paper: homesickness while abroad
第 5 回	safety	A. handout: common sense safety while abroad B. work on presentations
第 6 回	opinion	paper: open topic
第 7 回	cultural taboos	A. Discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.
第 8 回	food	paper: Write about different food and the Japanese food that you will miss while abroad
第 9 回	traveling	A. Discuss places that you have been & places that you would like to travel to. B. Work on presentations.
第 10 回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第 11 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 12 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 13 回	get ready	paper: open topic (student choice)
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40%, Papers = 35%, Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

【学生の意見等からの気づき】
None

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2

2016 年度以前入学者

ジョナサン・エーブル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Themes and situations relevant to the students’ needs and experiences will be explored in order to promote comprehension and responsiveness. An awareness of foreign cultures and the ability to communicate ones own are central to the process.

【到達目標】

The goal of this course is to give the student confidence in their practical English skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

The emphasis is on confidence building through practise. Students will be given varied opportunities to communicate in English with each other and the teacher. A textbook covering all the English language skills provides an anchor for studies, but extensive extra materials will also be used. Students will give small-group presentations in class in the middle of the semester on topics relevant to study abroad.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Familiarising with the course and teacher.
2	Self-introduction	How to present yourself in class and outside.
3	Language	Looking at the English language and its place in the world.
4	Numbers	A variety of uses for numbers and how we express them.
5	Locations	How to explain and use locations from small to global.
6	Time	The various expressions and importance of time.
7	Preparation for presentations	Topics, group formation and planning for the following week.
8	Presentations	Group presentations given in class.
9	Relationships	Exploring family and other relationships across cultures.
10	Animals	A different set of relationships.
11	Home	Where we live and how it compares with other cultures.
12	Food	What we eat, why and how we eat it.
13	Sport	What, How and Why we play.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Pre-reading texts. Preparation of specific grammar and vocabulary. Presentation preparation.

【テキスト（教科書）】

Global Pre-Intermediate. MacMillan Pub.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 35%
Writing tasks: 20%
Presentation : 20%
Final interview test 25%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】

Themes and situations relevant to the students’ needs and experiences will be explored in order to promote comprehension and responsiveness.

An awareness of foreign cultures and the ability to communicate ones own are central to the process.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 4

2016 年度以前入学者

ジョナサン・エーブル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Building on the experience of 英語 2, this semester's classes will aim to broaden the students' communicative scope.

Once again the emphasis is on confidence through practise.

【到達目標】

The goal is to achieve confident communication across cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In these classes students will address the wider world, communicating their own opinions and responding to those of others.

Continuing with the same basic text we will also use other media from host countries to explore daily life and cultural context.

There will be small-group presentations in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of course content including writing example.
2	Entertainment	Movies, TV, Games and how we use them.
3	News	How we get our news. Writing week.
4	Work	Jobs in Japan and across the world.
5	Skills	What we can and can't do. Writing week.
6	Education	Learning in different cultures.
7	Presentation preparation	Forming groups, choosing topics and planning for next class.
8	Presentations	Group presentations given in class.
9	People	Examining how we feel about particular people. Writing week.
10	Weather	The seasons and weather as cultural phenomena.
11	Travelling	Good and bad experiences. Writing week.
12	Life events	Examining rites of passage.
13	Life on earth	Discussing nature. Writing week.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Pre-reading texts. Preparation of specific grammar and vocabulary. Presentation preparation.

【テキスト（教科書）】

Global Pre-Intermediate. MacMillan Pub.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 35%

Writing tasks: 20%

Presentation : 20%

Final interview test 25%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

Building on the experience of 英語 2, this semester's classes will aim to broaden the students' communicative scope.

Once again the emphasis is on confidence through practise.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2

2016 年度以前入学者

棚木 玲子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The theme of this course is “understanding others, and making yourself understood in English.” In other words, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions verbally or in written sentences.

【到達目標】

The goal of this course is for students to develop their English communication skills that are necessary in dealing with various situations. At the same time, students will attain a deep understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. All in all, you will be using all four language skills: reading, writing, listening and speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course orientation – What to expect
2	Being descriptive (1)	Using adjectives
3	Being descriptive (2)	Describing yourself and others
4	Asking Questions (1)	Asking for the 5W1H
5	Asking Questions (2)	Flow and continuance
6	Format (1)	How to write an academic essay
7	Discussion (1)	Being clear and persuasive – structure
8	Discussion (2)	Being clear and persuasive – support
9	Format (2)	Evaluation /Peer editing
10	Summarizing (1)	How to relate a certain topic
11	Summarizing (2)	Diagramming, para-phrasing, quoting
12	Presentation (1)	stress / pronunciation / intonation
13	Presentation (2)	voice control / body language / effective audio-visual materials
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(reading the material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Specific instructions will be given in class.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided in class or posted on the course website.

【参考書】

Reference books will be suggested by instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time – 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 4

2016 年度以前入学者

棚木 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The theme of this course is “understanding others, and making yourself understood in English.” In other words, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions verbally or in written sentences.

【到達目標】

The goal of this course is for students to develop their English communicative skills that are necessary in dealing with various situations. At the same time, students will attain a deep understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. All in all, you will be using all four language skills: reading, writing, listening and speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Interview / presentation	Reviewing summer
2	Pronunciation exercise (1)	vowels / stress / intonation
3	Pronunciation exercise (2)	consonants / stress / intonation
4	Introducing Japan(1)	Religion and annual events
5	Introducing Japan(2)	Religion and annual events – Comparing with other countries
6	Introducing Japan(3)	Visiting a “power spot”
7	Format (3)	Academic essay –review
8	Introducing Japan(4)	Choosing 5 typical Japanese food
9	Introducing Japan(5)	Food presentation
10	Introducing Japan(6)	Customs and manners at the table
11	Culture (1)	Image and associations
12	Culture (2)	Origin of the word, a broader interpretation
13	Culture (3)	What is “intercultural communication”
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(reading the material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Specific instructions will be given in class.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided in class or posted on the course website.

【参考書】

Reference books will be suggested by the instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time – 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2

2016 年度以前入学者

URBANOVA Jana

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Passions	Listening to dialogue; Talking about favourites, pair & group work; Grammar explanation and practice: present simple
Week 3	Unit 1 Passions	Reading assignment; Watching video (TED Talks); Writing: introducing yourself by email
Week 4	Unit 2 Spending Money	Talking about shopping; Listening: How I spend my money; Grammar explanation and practice: adverbs, expressions of frequency
Week 5	Unit 2 Spending Money	Reading: creative ways to obtain new things; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 3 Jobs	Listening and speaking practice: talking about jobs, pair & group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 Jobs	Watching video (TED Talks); Reading: A dancer's dream; Writing: describing a dream job
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Talents	Listening and speaking practice: talking about abilities, pair & group work; Grammar explanation and practice: can and can't, be good at sth.
Week 10	Unit 4 Talents	Watching video (TED Talks); Reading: Pro gaming as a dream career; Vocabulary review
Week 11	Unit 5 Technology	Listening and speaking exercise: talking about gadgets; Grammar: much, many, a lot of

Week 12 Unit 5 Technology

Reading with comprehension: Flying like a bird; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)

Week 13 Presentation No. 2

Students' presentations No. 2: Describing someone you know

Week 14 Course wrap up

Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book + Online Workbook ISBN: 978-1-337-38869-6

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 4

2016 年度以前入学者

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Challenges	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Unit 6 Challenges	Reading assignment: Living without fear; Watching video (TED Talks); Writing assignment: making suggestions
Week 4	Unit 7 Wild places	Watching model presentation; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Talking about places; Grammar explanation and practice: comparatives and superlatives
Week 5	Unit 7 Wild places	Reading: An otherworldly place; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 8 Confidence	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair & group work; Grammar: modifying adverbs
Week 7	Unit 8 Confidence	Watching video (TED Talks); Reading: The pressure to be 'perfect'; Discussion: asking opinion
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 9 Achievements	Listening and speaking practice: talking about personal achievements, pair & group work; Grammar explanation and practice: past simple; Language focus: talking about the past

Week 10	Unit 9 Achievements	Watching video (TED Talks); Reading: From Pole to Pole; Vocabulary review
Week 11	Unit 10 Creative cities	Listening and speaking exercise: talking about one's neighbourhood; Grammar: should and shouldn't
Week 12	Unit 10 Creative cities	Reading with comprehension: Reshaping a city; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2: Describing your favourite place
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book + Online Workbook ISBN: 978-1-337-38869-6

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2

2016 年度以前入学者

リチャード シーハン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
国 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The aim of this course is for students to develop the communicative skills necessary to deal with situations they may experience while traveling overseas or studying abroad in an English-speaking country.

【到達目標】

This course will focus on developing students ability to grasp the meaning and content of English conversations and to communicate their ideas either verbally or in written form on a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will combine short lectures, class discussions and individual/team presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course overview / Student expectations	Review of course expectations / student introductions
2	Identifying & taking notes on main ideas & details	Unit 1 "The Brain" listening & reading practice
3	Identifying a speaker's point of view / Expressing personal opinions	Unit 1 "The Brain" group activity-sharing opinions on selected topics
4	Summarizing main ideas & details (verbally & in writing)	Unit 2 "Lying" individual speaking & writing practice
5	Identifying a speaker's attitude (feeling) / Supporting personal opinions	Unit 2 "Lying" group activity-debating a current issue
6	Communicating in front of an audience	Individual 3-minute presentations
7	Initiating & maintaining a conversation	Unit 3 "Personality" pair work-describing someone's personality
8	Connecting problems & solutions	Unit 3 "Personality" group role play
9	Understanding how culture affects communication	Unit 4 "Cross-cultural Insights" Discussion of high vs low context cultures
10	Identifying cultural differences	Unit 4 "Cross-cultural Insights" Introduction of the Hofstede 6D model
11	Application of units 1-4	Selected video viewing
12	Application of units 1-4	Students share feedback & opinions on video (verbally & in writing)
13	Review / Developing vocabulary	Word up group practice
14	Final evaluation	Final exam units 1-4 Individual assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete two reading (outside news articles) & two listening (TED Talks) assignments.

【テキスト（教科書）】

Northstar 5 Listening & Speaking (fourth edition)
Frances Boyd / Carol Numrich
Pearson Publishing

【参考書】

No references

【成績評価の方法と基準】

30% Class Participation

40% Class Assignments

30% Final Exam

More than 3 unexcused absences will result in failing the course.

【学生の意見等からの気づき】

None required

【Outline and objectives】

The aim of this course is for students to develop the communicative skills necessary to deal with situations they may experience while traveling overseas or studying abroad in an English-speaking country.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 4

2016 年度以前入学者

リチャード シーハン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is for students to further develop the communicative skills necessary to deal with a wide range of situations they may experience while traveling overseas or studying abroad in an English-speaking country.

【到達目標】

This course will focus on developing students ability to grasp the meaning and content of English conversations and to communicate their ideas either verbally or in written form on wide variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will combine short lectures, class discussions and individual/team presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course overview / Student expectations	Review of course expectations / student interviews
2	Agreeing & Disagreeing	Unit 5 "Business" Debate preparation
3	Making counterarguments	Unit 5 "Business" Class debates
4	Building & expanding on others' ideas	Unit 6 "Social Media" Group discussion on pros & cons of social media
5	Making inferences	Unit 6 "Social Media" Social media role play
6	Vocabulary Development	Word Up group practice & competition
7	Recognizing & using synonyms & antonyms	Unit 7 "The Arts" Students will collectively create a story narrative
8	Distinguishing between literal & figurative speech	Unit 7 "The Arts" Meeting simulation
9	Paraphrasing key points	Unit 8 "Poverty" Group discussion of income gaps in society
10	Using summary statements to show understanding	Unit 8 "Poverty" Recommending policy changes at Hosei
11	Analysis of a country's educational system	Finalize team presentations
12	Analysis of a country's educational system	Team presentations(2)
13	Analysis of a country's educational system	Team presentations(2)
14	Final evaluation	Final exam units 5-8 Individual assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to interview three non-Japanese on a particular issue & write up their findings

【テキスト（教科書）】

NorthStar 5 Listening & Speaking (fourth edition)

Frances Boyd / Carol Numrich

Pearson Publishing

【参考書】

No references

【成績評価の方法と基準】

30% Participation

40% Class Assignments

30% Final Exam

More than 3 unexcused absences will result in failing the course.

【学生の意見等からの気づき】

No changes

【Outline and objectives】

The aim of this course is for students to further develop the communicative skills necessary to deal with a wide range of situations they may experience while traveling overseas or studying abroad in an English-speaking country.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2

2016 年度以前入学者

スティーブン モリス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
国 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course is designed to enable students to develop and expand their overall communication skills with an emphasis on spoken and listening English. In addition, students will be given an opportunity to develop their writing skills within the context of the course material

【到達目標】

The goals of this course are to help students to become more confident and proficient in using English in a wide variety of situations. Students will practice the skills necessary to develop their communication skills in speaking, listening, reading, and writing. It is hoped that the study of practical and topical materials will encourage students to become more independent language learners and practitioners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Course content will include extensive listening and speaking practice. Students will have many opportunities to improve their general fluency in English through pair work and group activities. There will also be opportunities for students to practice their reading, writing and analytical skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Introduction
2	Unit 1 - People & Places	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
3	Unit 1 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussions
4	Unit 1 - Themed Reading & Listening Topics	Video Journal; Quiz; Writing Points
5	Unit 2 - The Mind	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
6	Unit 2 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussion
7	Unit 2 - Themed Reading & Listening Topics	Video Journal; Quiz; Writing Points
8	Unit 3 - Planet	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
9	Unit 3 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussion
10	Unit 3 - Themed Reading & Listening Topics	Video Journal; Quiz; Writing Points
11	Unit 4 - Money	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
12	Unit 4 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Discussion
13	Exam	Essay on Reader
14	Exam	Multiple choice exam on term textbook

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Unit Preparation as directed
Specific homework exercises
Reader: Read and prepare stories/chapters for quiz in class

Other Assignments as directed

【テキスト（教科書）】

World English 3 (Combo Split 3A) by Kristen Johannsen and Rebecca Chase
Heinle Cengage Learning 2015
Reader: Spring - Desert, Mountain Sea by Sue Leather
Oxford 2001

【参考書】

Good Dictionary

【成績評価の方法と基準】

Class Activities & Homework 25%
In Class Quizzes 35%
Final Exams 40%
The pass mark is 60%
Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

【学生の意見等からの気づき】

Introduced new text with topical themes for discussion and writing

【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to change

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 4

2016 年度以前入学者

スティーブン モリス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to expand and develop students' overall communication skills by building on the themes and techniques introduced in English 2. There will be an increased emphasis on writing and discussion in this part of the course.

【到達目標】

The goals of this course are to help students to become more confident and proficient in using English in a wide variety of situations. Students will continue to practice the skills necessary to develop their communication skills in speaking, listening, reading, and writing. It is hoped that the study of practical and topical materials will encourage students to become more independent language learners and practitioners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Course content will include extensive listening and discussion practice. Students will also have many opportunities to improve their general fluency in English through pair work and group activities. There will also be more in depth opportunities for students to practice their reading and writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Term and Goals Introduction	Reader Introduction Review Unit 4
2	Unit 5 - Survival	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
3	Unit 5 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Analysis
4	Unit 5 - Themed Reading & Listening Topic for Discussion	Video Journal; Quiz; Writing Points
5	Unit 6 - Art	Introducing Key Vocabulary and Grammar Points; Contextual Themes
6	Unit 6 - Communication Activities	Speaking and Listening Practice; Focused Listening & Analysis
7	Unit 6 - Themed Reading & Listening Topic for Discussion	Video Journal; Quiz; Writing Points
8	Writing Program	Introduction of Key Concepts; Organization
9	Introduction of Paragraph Components	Analysing Topic sentences with Controlling Ideas
10	Building Paragraphs	Analysing Supporting Sentences for Unity and Relevance; Using Transitions
11	Planning Paragraphs	Developing an Outline and Editing
12	Timed Writing	In class writing on selected topic
13	Exam	Essay on Reader
14	Exam	Multiple choice exam on term textbook

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Unit Preparation as directed
Specific homework exercises
Reader: Read and prepare stories/chapters for quiz in class
Other Assignments as directed

【テキスト（教科書）】

World English 3 (Combo Split 3A) by Kristen Johannsen and Rebecca Chase
Heinle Cengage Learning 2015
Reader Fall: Nelson Mandela by Rowena Akinyemi
Oxford

【参考書】

Dictionary required

【成績評価の方法と基準】

Class Activities & Homework 30%
In Class Quizzes 30%
Final Exams 40%
The pass mark is 60%

Students who are absent more than three times without a valid excuse will not be eligible to pass the course

【学生の意見等からの気づき】

Updated to include a larger writing component

【学生が準備すべき機器他】

Writing materials; notebook

【その他の重要事項】

Above schedule is subject to review

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2

2016 年度以前入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
国 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【到達目標】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	my major	paper: Why I chose my major
第 3 回	culture	A. handout: What is Culture? How is living in a different culture a challenge? B. make groups for presentations related to student's SA experience.
第 4 回	differences/ commonalities	paper: differences and commonalities between Japanese students and students in your host country.
第 5 回	inside looking out	A. handout: How the U.S. is viewed from an international perspective. B. work on presentations
第 6 回	employment	paper: how studying abroad will set your employment apart from other students.
第 7 回	Social life	A. Discuss the social life that you would like to have while abroad. B. work on presentations
第 8 回	childhood experiences	paper: write about several of your favorite childhood experiences.
第 9 回	traveling	A. discuss places that you have been & places that you would like to travel to B. Work on presentations.
第 10 回	final group presentation preparation	Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class.
第 11 回	presentations	groups of 4 to 5 students will give presentations
第 12 回	presentations	groups of 4 to 5 students will give presentations
第 13 回	get ready	paper: Preparation to study abroad, getting visa, researching host country etc.
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40%, Papers = 35%, Presentations = 25%
There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

【学生の意見等からの気づき】

None

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 4

2016 年度以前入学者

ジェイソン・ポール・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【到達目標】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	discuss what you did during your summer break.
第 2 回	my major	paper: what I expect from the SA program
第 3 回	culture	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	loneliness	paper: homesickness while abroad
第 5 回	safety	A. handout: common sense safety while abroad B. work on presentations
第 6 回	opinion	paper: open topic
第 7 回	cultural taboos	A. Discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.
第 8 回	food	paper: Write about different food and the Japanese food that you will miss while abroad
第 9 回	traveling	A. Discuss places that you have been & places that you would like to travel to. B. Work on presentations.
第 10 回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第 11 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 12 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 13 回	get ready	paper: open topic (student choice)
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40%, Papers = 35%, Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

【学生の意見等からの気づき】

None

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2

2016 年度以前入学者

URBANOVA Jana

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Passions	Listening to dialogue; Talking about favourites, pair & group work; Grammar explanation and practice: present simple
Week 3	Unit 1 Passions	Reading assignment; Watching video (TED Talks); Writing: introducing yourself by email
Week 4	Unit 2 Spending Money	Talking about shopping; Listening: How I spend my money; Grammar explanation and practice: adverbs, expressions of frequency
Week 5	Unit 2 Spending Money	Reading: creative ways to obtain new things; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 3 Jobs	Listening and speaking practice: talking about jobs, pair & group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 Jobs	Watching video (TED Talks); Reading: A dancer's dream; Writing: describing a dream job
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Talents	Listening and speaking practice: talking about abilities, pair & group work; Grammar explanation and practice: can and can't, be good at sth.
Week 10	Unit 4 Talents	Watching video (TED Talks); Reading: Pro gaming as a dream career; Vocabulary review
Week 11	Unit 5 Technology	Listening and speaking exercise: talking about gadgets; Grammar: much, many, a lot of

Week 12 Unit 5 Technology

Reading with comprehension: Flying like a bird; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)

Week 13 Presentation No. 2

Students' presentations No. 2: Describing someone you know

Week 14 Course wrap up

Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book + Online Workbook ISBN: 978-1-337-38869-6

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 4

2016 年度以前入学者

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Challenges	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Unit 6 Challenges	Reading assignment: Living without fear; Watching video (TED Talks); Writing assignment: making suggestions
Week 4	Unit 7 Wild places	Watching model presentation; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Talking about places; Grammar explanation and practice: comparatives and superlatives
Week 5	Unit 7 Wild places	Reading: An otherworldly place; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 8 Confidence	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair & group work; Grammar: modifying adverbs
Week 7	Unit 8 Confidence	Watching video (TED Talks); Reading: The pressure to be 'perfect'; Discussion: asking opinion
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 9 Achievements	Listening and speaking practice: talking about personal achievements, pair & group work; Grammar explanation and practice: past simple; Language focus: talking about the past

Week 10	Unit 9 Achievements	Watching video (TED Talks); Reading: From Pole to Pole; Vocabulary review
Week 11	Unit 10 Creative cities	Listening and speaking exercise: talking about one's neighbourhood; Grammar: should and shouldn't
Week 12	Unit 10 Creative cities	Reading with comprehension: Reshaping a city; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2: Describing your favourite place
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

【テキスト（教科書）】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book + Online Workbook ISBN: 978-1-337-38869-6

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Since the course is being led by the current instructor for the first time, there are no student comments.

【学生が準備すべき機器他】

Textbook. Students should also bring a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【Outline and objectives】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2

2016 年度以前入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ Explore the practical use of English.
- ・ Learn how to think critically and discuss with others in English.
- ・ Acquire skills for paragraph writing and effective presentation.

【到達目標】

The goal of this course is to help students gain skills for communication and critical thinking that enable them to talk and write about certain topics in English. Students will learn the practical methods of paragraph writing and effective presentation on cultural or social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・ Emphasis is on reading, writing, and critical thinking.
- ・ Vocabulary building, grammar checks, speaking activities are also included.
- ・ Students will write two essays on given topics during the semester. They will also present their essays in class in order to gain presentation skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	About the course. Warm up.
2	Unit1: Travel, Trust, and Tourism(1)	A podcast about study-abroad programs/ Hitchhiking/Evaluating ideas
3	Unit1: Travel, Trust, and Tourism(2)	TED Talk: How Airbnb designs for trust/A review: adding comments
4	Unit2: The Business of Technology(1)	A lecture about young entrepreneurs/Online Crime/Interpreting data
5	Unit2: The Business of Technology(2)	TED Talk: This is what happens when you reply to spam email/A persuasive article: getting people's attention
6	Unit3: Faster, Higher, Stronger(1)	Four people talking about athletes they admire/Olympic Gold/Supporting arguments
7	Unit3: Faster, Higher, Stronger(2)	TED Talk: Are athletes getting really faster, better, stronger?/A survey: Describing statistics
8	Midterm presentation	3-5 minute group presentation
9	Unit4: Cultural Transformation(1)	A podcast about art projects/A System That's Leading the Way/Understanding and evaluating ideas
10	Unit4: Cultural Transformation(2)	TED Talk: Building a park in the sky/A for and against essay/Introducing arguments
11	Unit5: It's Not Rocket Science(1)	A radio program about life hacks/Back to the Future/Asking critical questions
12	Unit5: It's Not Rocket Science(2)	TED Talk: Science is for everyone, kids included/A scientific method/Describing a process
13	Final presentation(1)	3-5 minute individual presentation(1)
14	Final Presentation(2)	3-5 minute individual presentation(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly reading/writing assignment. Preparation for presentation.

【テキスト（教科書）】

Hugh Dellar, Andrew Walkley, Lewis Lansford, Daniel Barber, Amanda Jeffries. PERSPECTIVES 3. Student Book. Cengage Learning.

【参考書】

Turnball, Joanna, ed. Oxford Advanced Learner's Dictionary. 8th edition. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Attendance and participation: 30%
- ・ Classroom presentation: 30%
- ・ Final paper: 40%

Students are allowed only three absences throughout the semester without penalty.

【学生の意見等からの気づき】

No specific comments.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 4

2016 年度以前入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・ Explore the practical use of English.
- ・ Learn how to think critically and discuss with others in English.
- ・ Acquire skills for essay writing and formal presentation.

【到達目標】

The goal of this course is to help students develop skills for communication and critical thinking that they are supposed to gain in the previous semester. Students will learn the practical methods of essay writing and formal presentation on cultural or social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・ Emphasis is on reading, writing, and critical thinking.
- ・ Vocabulary building, grammar checks, speaking activities are also included.
- ・ Students will write two essays on given topics during the semester. They will also present their essays in class in order to improve presentation skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 6: Adapt to Survive(1)	An interview with a conservationist about extinction/Help Save the Endangered Pacific Northwest Tree Octopus/Assessing information
2	Unit6: Adapt to Survive(2)	TED Talk: You have no idea where camels really come from/A problem solving essay: topic sentence
3	Unit7: Outside the Box(1)	A podcast about the importance of creativity/Testing Creative Thinking/Fact and Opinion
4	Unit7: Outside the Box(2)	TED Talk: Go ahead, make up new words!/A report: cohesion
5	Unit8: Common Ground(1)	An interview with a girl about intercultural communication/A Place to Be/Understanding other perspectives
6	Unit8: Common Ground(2)	TED Talk: Why I keep speaking up, even when people mock my accent/A complaint: using appropriate tone
7	Midterm Presentation	3-5 minute group presentation
8	Unit9: Lend a Helping Hand(1)	A radio program about crisis mapping/Shouting Out for the Young/Detecting bias
9	Unit9: Lend a Helping Hand(2)	TED Talk: (Re)Touching Lives through Photos/A letter of application: structuring an application
10	Unit10: Life-changing(1)	A radio program about inspiring movies/Avoiding the Antibiotic Apocalypse/Thinking through the consequences
11	Unit10: Life-changing(2)	TED Talk:A Broken Body Isn't a Broken Person/A success story: Using descriptive verbs
12	Final Presentation(1)	3-5 minute individual presentation (1)
13	Final Presentation(2)	3-5 minute individual presentation (2)
14	Review	Reviewing writing methods: workshop for final paper

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly reading/writing assignment. Preparation for presentation.

【テキスト（教科書）】

Hugh Dellar, Andrew Walkley, Lewis Lansford, Daniel Barber, Amanda Jeffries. PERSPECTIVES 3. Student Book. Cengage Learning.

【参考書】

Turnball, Joanna, ed. Oxford Advanced Learner's Dictionary. 8th edition. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Attendance and participation: 30%
- ・ Classroom presentation: 30%
- ・ Essays:40%

Students are allowed only three absences throughout the semester without penalty.

【学生の意見等からの気づき】

No specific comments.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2

2016 年度以前入学者

リチャード シーハン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
国 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The aim of this course is for students to develop the communicative skills necessary to deal with situations they may experience while traveling overseas or studying abroad in an English-speaking country.

【到達目標】

This course will focus on developing students ability to grasp the meaning and content of English conversations and to communicate their ideas either verbally or in written form on a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will combine short lectures, class discussions and individual/team presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Course overview / Student expectations	Review of course expectations / student introductions
Class 2	Identifying & taking notes on main ideas & details	Unit 1 "The Brain" Listening & reading practice
Class 3	Identifying a speaker's point of view / expressing personal opinions	Unit 1 "The Brain" group activity-sharing opinions on selected topics
Class 4	Summarizing main ideas & details (verbally and in writing)	Unit 2 "Lying" Individual speaking & writing practice
Class 5	Identifying a speaker's attitude (feeling)	Unit 2 "Lying" group activity-debating a current issue
Class 6	Communicating in front of an audience	Individual 3-minute presentations
Class 7	Initiating & maintaining a conversation	Unit 3 "Personality" pair work-describing someone's personality
Class 8	Connecting problems & solutions	Unit 3 "Personality" group role play
Class 9	Understanding how culture affects communication	Unit 4 "Cross-cultural Insights" Discussion of high vs low context cultures
Class 10	Identifying cultural differences	Unit 4 "Cross-cultural Insights" Introduction to the Hofstede 6D model
Class 11	Application of units 1-4	Selected video viewing
Class 12	Application of units 1-4	Students share feedback & opinions on video (verbally & in writing)
Class 13	Review / Developing vocabulary	Word Up group practice
Class 14	Final evaluation	Final exam units 1-4 Individual assignments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete two reading (outside news articles) & two listening (TED Talks) assignments

【テキスト（教科書）】

NorthStar 5 Listening & Speaking (fourth edition)
Frances Boyd / Carol Numrich
Pearson Publishing

【参考書】

No references

【成績評価の方法と基準】

30% Class Participation
40% Class Assignments
30% Final Exam

More than 3 unexcused absences will result in failing the course.

【学生の意見等からの気づき】

No changes

【Outline and objectives】

The aim of this course is for students to develop the communicative skills necessary to deal with situations they may experience while traveling overseas or studying abroad in an English-speaking country.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 4

2016 年度以前入学者

リチャード シーハン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is for students to further develop the communicative skills necessary to deal with a wide range of situations that they may experience while traveling overseas or studying abroad in an English-speaking country.

【到達目標】

This course will focus on developing students ability to grasp the meaning and content of English conversations and to communicate their ideas either verbally or in written form on a wide variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will combine short lectures, class discussions and individual/team presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Course overview / Student expectations	Review of course expectations / student interviews
Class 2	Agreeing & Disagreeing	Unit 5 "Business" Debate preparation
Class 3	Making counterarguments	Unit 5 "Business" Class debates
Class 4	Building & expanding on others' ideas	Discussion of the pros & cons of using social media
Class 5	Making inferences	Social media role play (positive & negative) application
Class 6	Vocabulary Development	Word Up group practice & competition
Class 7	Recognizing & using synonyms & antonyms	Unit 7 "The Arts" Students will collectively create a story narrative
Class 8	Distinguishing between literal & figurative speech	Unit 7 "The Arts" Meeting simulation
Class 9	Paraphrasing key points	Unit 8 "Poverty" Group discussion of income gaps in society
Class 10	Using summary statements to show understanding	Unit 8 "Poverty" Recommending policy changes at Hosei
Class 11	Analysis of a country's educational system	Finalize team presentation
Class 12	Analysis of a country's educational system	Team presentations(2)
Class 13	Analysis of a country's educational system	Team presentations(2)
Class 14	Final evaluation	Final exam units 5-8 Individual assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to interview three non-Japanese on a particular issue and write up their findings

【テキスト（教科書）】

NorthStar 5 Listening & Speaking (fourth edition)
Frances Boyd / Carol Numrich

【参考書】

No references

【成績評価の方法と基準】

30% Participation
40% Class Assignments
30% Final Exam

More than 3 unexcused absences will result in failing the course.

【学生の意見等からの気づき】

No changes

【Outline and objectives】

The aim of this course is for students to further develop the communicative skills necessary to deal with a wide range of situations that they may experience while traveling overseas or studying abroad in an English-speaking country.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2

2016 年度以前入学者

棚木 玲子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
国 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The theme of this course is “understanding others, and making yourself understood in English.” In other words, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions verbally or in written sentences.

【到達目標】

The goal of this course is for students to develop their English communication skills that are necessary in dealing with various situations. At the same time, students will attain a deep understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. All in all, you will be using all four language skills: reading, writing, listening and speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course orientation – What to expect
2	Being descriptive (1)	Using adjectives
3	Being descriptive (2)	Describing yourself and others
4	Asking Questions (1)	Asking for the 5W1H
5	Asking Questions (2)	Flow and continuance
6	Format (1)	How to write an academic essay
7	Discussion (1)	Being clear and persuasive – structure
8	Discussion (2)	Being clear and persuasive – support
9	Format (2)	Evaluation /Peer editing
10	Summarizing (1)	How to relate a certain topic
11	Summarizing (2)	Diagramming, para-phrasing, quoting
12	Presentation (1)	stress / pronunciation / intonation
13	Presentation (2)	voice control / body language / effective audio-visual materials
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation (reading the material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Specific instructions will be given in class.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided in class or posted on the course website.

【参考書】

Reference books will be suggested by instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time – 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 4

2016 年度以前入学者

棚木 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
国 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The theme of this course is “understanding others, and making yourself understood in English.” In other words, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions verbally or in written sentences.

【到達目標】

The goal of this course is for students to develop their English communicative skills that are necessary in dealing with various situations. At the same time, students will attain a deep understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. All in all, you will be using all four language skills: reading, writing, listening and speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Interview / presentation	Reviewing summer
2	Pronunciation exercise (1)	vowels / stress / intonation
3	Pronunciation exercise (2)	consonants / stress / intonation
4	Introducing Japan(1)	Religion and annual events
5	Introducing Japan(2)	Religion and annual events – Comparing with other countries
6	Introducing Japan(3)	Visiting a “power spot”
7	Format (3)	Academic essay –review
8	Introducing Japan(4)	Choosing 5 typical Japanese food
9	Introducing Japan(5)	Food presentation
10	Introducing Japan(6)	Customs and manners at the table
11	Culture (1)	Image and associations
12	Culture (2)	Origin of the word, a broader interpretation
13	Culture (3)	What is “intercultural communication”
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(reading the material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Specific instructions will be given in class.

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided in class or posted on the course website.

【参考書】

Reference books will be suggested by the instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time – 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 5

2016 年度以前入学者

トビー トラブ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for communicating in a global society.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines. handout discussion activities
2	Unit 1: Getting to Know Each Other Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Unit 1 Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
4	The Way we Live Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Unit 2 Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

6	Unit 2 Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
7	Research report/ mini-Presentations Connecting the dots Love and Loss Death	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
8	Unit 3: Global thinking Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
9	Unit 3: Seize the day Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
10	Unit 3: Swim against the stream. Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
11	Unit 4: What will your verse be? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
12	The road less traveled. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
13	Quiz Song lesson	Quiz Song lesson
14	Wrap-up	Go over quiz Speaking activity

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete a writing assignment every week in preparation for discussion. This writing assignment will usually require research.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Handouts will be given in class.

【参考書】

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>
<https://www.japantimes.co.jp/news/>
<https://www.yahoo.com/news/>
<http://www.bbc.com/news>
<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%

Quizzes, writing assignments, presentations:60%

Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course.

Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used for purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary.

【その他の重要事項】

This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course.

【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of the world with an emphasis on American social, political, and popular culture.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 6

2016 年度以前入学者

トビー トラブ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for communicating in a global society.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome back	What I did over summer break. Recent happenings in the news. Research and writing assignment.
2	Homelessness Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Art and War Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
4	Human Compassion Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.

6	Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
7	Introduce big presentation. Create teams. Go over expectations.	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
8	Presentation topics due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
9	Outline of presentations due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
10	Draft of words of presentations due. Current events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
11	5 Powerpoints due Christmas/holiday comprehension skill building activity. Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
12	Presentation Day.	Tips for the Quiz
13	Song lesson	Song lesson Discussion activity. No homework except to study for big quiz.
14	Big quiz	Thank you.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are given a writing assignment almost every week.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Handouts will be given in class.

【参考書】

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>

<https://www.japantimes.co.jp/news/>

<https://www.yahoo.com/news/>

<http://www.bbc.com/news>

<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%

Quizzes, writing assignments, presentations: 60%

Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course.

Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used for purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary.

【その他の重要事項】

This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course.

【Outline and objectives】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture.

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 5

2016 年度以前入学者

ラスカイル・ハウザー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

国 1 年

【学生の意見等からの気づき】

This year, a new textbook has been chosen, and a heavier emphasis will be placed on written work.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 5: Academic writing and presentation skills.

【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductions	Students introduce themselves in short presentations.
2	Language and Learning 1	Writing a descriptive essay about how to learn a language. Recognizing idioms.
3	Language and Learning 2	Essay form and function. Using graphic organizers to visualize main ideas and details.
4	Danger and Daring 1	Writing and informal essay about an explorer. Brainstorming.
5	Danger and Daring 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
6	Gender and Relationships 1	A descriptive essay comparing communication style differences between men and women.
7	Gender and Relationships 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
8	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
9	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
10	Beauty and Aesthetics 1	A cause and effect essay on an aspect of personal aesthetics.
11	Beauty and Aesthetics 2	Types of supporting materials. Using a timeline.
12	Essay peer editing.	Students work in groups to edit and improve each other's essays.
13	Transitions 1	An informal essay that describes and analyzes a rite of passage.
14	Transitions 2	Organizing supporting material. Analyzing a well-developed paragraph.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations 20%

Essays and written assignments: 40%

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 6

2016 年度以前入学者

ラスカイル・ハウザー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

国 1 年

Group presentations 20%

Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】

This year, a new textbook has been chosen, and a heavier emphasis will be placed on written work.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 6: Academic Writing and Presentations Skills

【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of English 5	A review of the ideas and concepts of 英語 5.
2	The Mind 1	An analysis essay that describes and interprets a dream.
3	The Mind 2	Paragraph organization: levels of generalization. Gathering information.
4	Working 1	An analysis essay on the qualities that contribute to success at work.
5	Working 2	Causal relationships: Analyzing causes and effects.
6	Breakthroughs 1	A definition essay that describes an important energy conservation development.
7	Breakthroughs 2	Using a graphic organizer to summarize advantages and disadvantages.
8	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
9	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
10	Peer essay review	Students review and editing of each others' essays.
11	Art and Entertainment 1	An interpretation essay that describes a work of art and what it says about the artist or the artist's culture.
12	Art and Entertainment 2	Interpreting images. Using a graphic organizer to make comparisons.
13	Conflict and Reconciliation 1	An argument essay that explains a problem and presents one or more solutions.
14	Conflict and Reconciliation 2	Discussing problems and solutions. Using consensus to solve a problem.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Additional materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 20%

Homework: 20%

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 5

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
国 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Welcome.	Getting to know you.
2	Q & A	Talking about you.
3	Q & A	Talking about the word you live in.
4	How do you do that?	Verbs of instruction.
5	Sing your heart out.	Pronunciation.
6	Want to hear a good story?	Starting a story.
7	Finish that story.	The middle and the end.
8	Get into shape.	The language of exercise.
9	Another song.	Pronunciation.
10	Shopping	Finding your way around the department store.
11	What do you call it?	Guessing that meaning.
12	It's a wild world.	The language of the jungle.
13	Songs	Pronunciation.
14	Dictation	Listening and writing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Outside the class you will work in a small group to produce one short presentation to give to the class.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 6

2016 年度以前入学者

フィル・ケニー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
国 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

To give you the opportunity to use and improve your English.

【到達目標】

To help you integrate your English speaking and listening skills with your reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

We will use materials from the real world: newspapers, magazines, film, advertising, crosswords, etc in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. There will be some note taking to help you review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Grammar Time.	Basic grammar.
2	Quiz master.	Questions and answers.
3	Cooking for the ones you love.	A recipe.
4	Your world.	Presentation.
5	your world.	Presentation.
6	You know what I mean.	Guessing the meaning of words.
7	What if...?	What would you do if....?
8	Sing that song out loud.	Pronunciation.
9	Dictation.	Listening and writing.
10	Story telling.	Make it better.
11	Story telling.	Getting the ending right.
12	Tell me what they look like.	Talking about what people look like.
13	Winter food.	A recipe.
14	Question master.	In the hot seat answering questions.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Outside the class you will work in a small group to produce one short presentation to give to the class.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

A good learners dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

In-Class Performance 30% Participation 30% Notes 30% Oral exam 10%

【学生の意見等からの気づき】

We listen to student comments very carefully to ensure that this course meets your needs.

【その他の重要事項】

NB Lesson order may change.

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 5

2016 年度以前入学者

ウォルター カズマー開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
国 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Students will be able to use English to talk about various topics.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher. Students should be willing and able to research outside of class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; scripted debate, drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, blog commenting, web research, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	explanation of course work and related activities
Week 2	Japanese Food	regional dishes and snacks/ health issues
Week 3	Other Asian food	different varieties of food
Week 4	Western food	differences, cooking styles
Week 5	Family trends - single parents	divorces, legal separations, visitation rights
Week 6	Family trends -same sex parents Presentation preparation-structure	gay issues, coming out Introduction/body/conclusion
Week 7	Family trends -divided families Presentation preparation - physical elements	splitting time with parents body language and voice
Week 8	Errands Presentation preparation-visual elements I	errands and chores slide backgrounds
week 9	Neighborhoods Presentation preparation- visual elements II	suburban, countryside, metro slide fonts
week 10	Parties types Presentation preparation script practice	types- wedding, house warming, birthday, showers using a script to speak
week 11	Parties- venues Presentation preparation notes usage	places- amusement parks, hotels, restaurants practice using notes
week 12	Presentations on food	Japanese, Asian, Western
week 13	Presentations on errands/ neighborhoods	suburbs, countryside, and metro areas
week 14	Presentations on parties	from weddings to graduation parties

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and written), and Internet research

【テキスト（教科書）】World Link Book 2 (Cengage Learning) 3rd edition
978-1-3056-4774-9**【参考書】**

textbook, handouts, class blog, selected websites

【成績評価の方法と基準】Participation 34%
Homework 33%
Group Presentation 33%**【学生の意見等からの気づき】**

More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

No comment

【Outline and objectives】

Students will learn English using four skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 6

2016 年度以前入学者

ウォルター カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class builds on skills gained in the first semester class with additional language skills being added.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus primarily on speaking and listening skills. These include; drama, blog commenting, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, storytelling, group presenting etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and review	outline main class contents and give overview of some activities from last semester
Week 2	Japanese festivals	holidays, customs and celebrations, etc.
Week 3	Foreign festivals	famous festivals in Europe, the US and in Asia
Week 4	Japanese Fables and stories	famous area tales and their morals
Week 5	Foreign Fables and stories	Aesops and others
Week 6	Presentation preparation Jobs	examining jobs in the technology and travel industries
Week 7	Presentation preparation- structure elements of work	Introduction/body/conclusion looking at jobs abroad
Week 8	Presentation preparation- physical elements telecommunications	use of voice and body language land lines, smartphones
Week 9	Presentation preparation- visual elements I Telecommunications II	slide backgrounds Internet websites
Week 10	Presentation preparation- visual elements II Travel in Japan	font usage
Week 11	Presentation preparation- scripts Travel outside Japan	Areas of Japan Using a script for a speech
Week 12	Presentation preparation- notes usage Presentations on fables	Some of the areas of the world Europe, N. America, Asia
Week 13	Presentation preparation- jobs we do: inside and outside	using notes to make a speech natural
Week 14	Presentation preparation- Internet, smartphones, and landlines	stories from Japan and elsewhere

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and regular), group presentation preparation

【テキスト（教科書）】

World link Book 2 (Cengage Learning) 3rd edition
978-1-3056-4774-9

【参考書】

textbook, handouts, blog website, other websites

【成績評価の方法と基準】

Participation 34%
Homework 33%
Group presentation 33%

【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

No comment

【Outline and objectives】

Students study English using four skill areas (listening, speaking, reading, and writing).

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 5

2016 年度以前入学者

マーク・フィールド開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
国 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course is for first year Intercultural Communication students with a strong desire to improve their language skills before studying abroad in an English-speaking country. The course will focus on helping students acquire the learning skills and strategies necessary for students to become more effective communicators (readers, writers, & speakers).

【到達目標】

The goal of the course is to develop students' receptive (listening and reading) and interactive (speaking and writing) abilities by learning techniques and strategies that help students relate ideas to personal experiences, respond to texts and photos, and synthesize information to overcome limitations. Course content will include extensive reading, listening and vocabulary development, as well as, extensive practice in using spoken and written English in various activities and assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to actively participate in classroom activities, prepare weekly homework assignments, and review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Class Orientation:	Requirements of the all-English Classroom
2 回	Introductory Strategy:	When in Doubt Ask the Instructor
3 回	Happiness Part 1:	Understanding Meaning from Context
4 回	Happiness Part 2:	Analyzing and Discussing Information
5 回	Happiness Part 3:	Paragraph Writing
6 回	Big Ideas Part 1:	Identifying Key Ideas
7 回	Big Ideas Part 2:	Identifying Part of Speech from Context
8 回	Big Ideas Part 3:	Writing a Descriptive Paragraph
9 回	Connected Lives Part 1:	Skimming for Gist
10 回	Connected Lives Part 2:	Interpreting Maps
11 回	Connected Lives Part 3:	Writing an Opinion Paragraph
12 回	Deep Trouble Part 1:	Understanding Meaning from Context
13 回	Deep Trouble Part 2:	Interpreting Visual Information
14 回	Deep Trouble Part 3:	Writing a Paragraph that Explains a Chart

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly paper-based homework assignments at home, do internet-based homework assignments by assigned deadlines, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】

Laurie Blass, Mari Vargo & Keith S. Folse, Pathways 2: Reading, Writing and Critical Thinking 2nd edition, Cengage Learning, 2019, ISBN: 978-1-33-762511-1

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination

**Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】

This course is for first year Intercultural Communication students with a strong desire to improve their language skills before studying abroad in an English-speaking country. The course will focus on helping students acquire the learning skills and strategies necessary for students to become more effective communicators (readers, writers, & speakers).

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 6

2016 年度以前入学者

マーク・フィールド

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is for first year Intercultural Communication students with a strong desire to improve their language skills before studying abroad in an English-speaking country. The course will focus on helping students acquire the learning skills and strategies necessary for students to become more effective communicators (readers, writers, & speakers).

【到達目標】

Building on what was studied in the first semester, the goal of the course is to further develop students' ability to interact more successfully in English. Course content will include extensive reading, listening and vocabulary development, as well as, extensive practice in using spoken and written English in various activities and assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The instructor's roles will be that of a co-communicator, facilitator, guide and helper. Students will be expected to actively participate in classroom activities, prepare weekly homework assignments, and review lessons at home.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Class Reorientation:	How to Become a More Independent Language Learner
2 回	Learning Strategy:	Knowing What You Don't Know
3 回	Dangerous Cures Part 1:	Identifying Pros & Cons
4 回	Dangerous Cures Part 2:	Analyzing and Organizing Information into an Outline
5 回	Dangerous Cures Part 3:	Writing a Persuasive Paragraph
6 回	Nature's Fury Part 1:	Identifying Sequences
7 回	Nature's Fury Part 2:	Synthesizing Information
8 回	Nature's Fury Part 3:	Writing a Process Paragraph
9 回	Building Wonders Part 1:	Scanning for Specific Information
10 回	Building Wonders Part 2:	Using Prior Knowledge to Reflect on Context
12 回	Building Wonders Part 3:	Writing a Comparison Paragraph
12 回	Mobile Revolution Part 1:	Analyzing and Discussing Information
13 回	Mobile Revolution Part 2:	Identifying Problems and Solutions
14 回	Mobile Revolution Part 3:	Writing a Problem Solution Paragraph

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare weekly paper-based homework assignments at home, do internet-based homework assignments by assigned deadlines, and review lessons at home to enhance their participation in classroom activities and discussions.

【テキスト（教科書）】

Laurie Blass, Mari Vargo & Keith S. Folse, Pathways 2: Reading, Writing and Critical Thinking 2nd edition, Cengage Learning, 2019, ISBN: 978-1-33-762511-1

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

40% In Class Evaluation

20% Homework

40% Final Examination

**Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. Course materials are reviewed periodically and updated when necessary to maintain relevance.

The instructor always welcomes comments and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary.

【Outline and objectives】

This course is for first year Intercultural Communication students with a strong desire to improve their language skills before studying abroad in an English-speaking country. The course will focus on helping students acquire the learning skills and strategies necessary for students to become more effective communicators (readers, writers, & speakers).

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 5

2016 年度以前入学者

ラスカイル・ハウザー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 5: Academic writing and presentation skills.

【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductions	Students introduce themselves in short presentations.
2	Language and Learning 1	Writing a descriptive essay about how to learn a language. Recognizing idioms.
3	Language and Learning 2	Essay form and function. Using graphic organizers to visualize main ideas and details.
4	Danger and Daring 1	Writing and informal essay about an explorer. Brainstorming.
5	Danger and Daring 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
6	Gender and Relationships 1	A descriptive essay comparing communication style differences between men and women.
7	Gender and Relationships 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
8	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
9	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
10	Beauty and Aesthetics 1	A cause and effect essay on an aspect of personal aesthetics.
11	Beauty and Aesthetics 2	Types of supporting materials. Using a timeline.
12	Essay peer editing.	Students work in groups to edit and improve each other's essays.
13	Transitions 1	An informal essay that describes and analyzes a rite of passage.
14	Transitions 2	Organizing supporting material. Analyzing a well-developed paragraph.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

【テキスト（教科書）】

Blass, Laurie and Meredith Pike-Baky, Mosaic 2 - Writing. McGraw Hill. ISBN: 978-007-125847-0

【参考書】

Materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations 20%

Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】

This year, a new textbook has been chosen, and a heavier emphasis will be placed on written work.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 6

2016 年度以前入学者

ラスカイル・ハウザー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

国 1 年

Group presentations 20%

Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】

This year, a new textbook has been chosen, and a heavier emphasis will be placed on written work.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 6: Academic Writing and Presentations Skills

【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of English 5	A review of the ideas and concepts of 英語 5.
2	The Mind 1	An analysis essay that describes and interprets a dream.
3	The Mind 2	Paragraph organization: levels of generalization. Gathering information.
4	Working 1	An analysis essay on the qualities that contribute to success at work.
5	Working 2	Causal relationships: Analyzing causes and effects.
6	Breakthroughs 1	A definition essay that describes an important energy conservation development.
7	Breakthroughs 2	Using a graphic organizer to summarize advantages and disadvantages.
8	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
9	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
10	Peer essay review	Students review and editing of each others' essays.
11	Art and Entertainment 1	An interpretation essay that describes a work of art and what it says about the artist or the artist's culture.
12	Art and Entertainment 2	Interpreting images. Using a graphic organizer to make comparisons.
13	Conflict and Reconciliation 1	An argument essay that explains a problem and presents one or more solutions.
14	Conflict and Reconciliation 2	Discussing problems and solutions. Using consensus to solve a problem.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Additional materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 20%

Homework: 20%

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 5

2016 年度以前入学者

ウォルター カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will be able to use English to talk about various topics.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher. Students should be willing and able to research outside of class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; scripted debate, drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, blog commenting, web research, etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	explanation of course work and related activities
Week 2	Japanese Food	regional dishes and snacks/ health issues
Week 3	Other Asian food	different varieties of food
Week 4	Western food	differences, cooking styles
Week 5	Family trends - single parents	divorces, legal separations, visitation rights
Week 6	Family trends -same sex parents Presentation preparation- structure	gay issues, coming out Introduction/body/conclusion
Week 7	Family trends -divided families Presentation preparation - physical elements	splitting time with parents body language and voice
Week 8	Errands Presentation preparation- visual elements I	errands and chores slide backgrounds
week 9	Neighborhoods Presentation preparation- visual elements II	suburban, countryside, metro slide fonts
week 10	Parties types Presentation preparation script practice	types- wedding, house warming, birthday, showers using a script to speak
week 11	Parties- venues Presentation preparation notes usage	places- amusement parks, hotels, restaurants practice using notes
week 12	Presentations on food	Japanese, Asian, Western
week 13	Presentations on errands/ neighborhoods	suburbs, countryside, and metro areas
week 14	Presentations on parties	from weddings to graduation parties

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and written), and Internet research

【テキスト（教科書）】

World Link Book 2 (Cengage Learning) 3rd edition
978-1-3056-4774-9

【参考書】

textbook, handouts, class blog, selected websites

【成績評価の方法と基準】

Participation 34%
Homework 33%
Group Presentation 33%

【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

No comment

【Outline and objectives】

Students will learn English using four skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 6

2016 年度以前入学者

ウォルター カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class builds on skills gained in the first semester class with additional language skills being added.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus primarily on speaking and listening skills. These include; drama, blog commenting, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, storytelling, group presenting etc.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and review	outline main class contents and give overview of some activities from last semester
Week 2	Japanese festivals	holidays, customs and celebrations, etc.
Week 3	Foreign festivals	famous festivals in Europe, the US and in Asia
Week 4	Japanese Fables and stories	famous area tales and their morals
Week 5	Foreign Fables and stories	Aesops and others
Week 6	Presentation preparation Jobs	examining jobs in the technology and travel industries
Week 7	Presentation preparation- structure elements of work	Introduction/body/conclusion looking at jobs abroad
Week 8	Presentation preparation- physical elements telecommunications	use of voice and body language land lines, smartphones
Week 9	Presentation preparation- visual elements I Telecommunications II	slide backgrounds Internet websites
Week 10	Presentation preparation- visual elements II Travel in Japan	font usage
Week 11	Presentation preparation- scripts Travel outside Japan	Areas of Japan Using a script for a speech
Week 12	Presentation preparation- notes usage Presentations on fables	Some of the areas of the world Europe, N. America, Asia
Week 13	Presentations on work	using notes to make a speech natural
Week 14	Presentations on telecommunications	stories from Japan and elsewhere jobs we do: inside and outside

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and regular), group presentation preparation

【テキスト（教科書）】

World link Book 2 (Cengage Learning) 3rd edition
978-1-3056-4774-9

【参考書】

textbook, handouts, blog website, other websites

【成績評価の方法と基準】

Participation 34%
Homework 33%
Group presentation 33%

【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing instrument, paper

【その他の重要事項】

No comment

【Outline and objectives】

Students study English using four skill areas (listening, speaking, reading, and writing).

LANe100LA

English 1 - I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 - I 2016 年度以前入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

You, Me and the World という教科書を通して世界でどのような問題が起こっているか、並びに環境に関する様々な問題について勉強をして行く。

【到達目標】

専門知識を生かしながらそれぞれの興味のある環境問題を通して英語で話せるようにして行きたい。読み書きはもちろんの事リスニング、スピーキングに重点を置きながら教科書の各ユニットを進める上でその課題をはなせるようにして行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に入る前にリスニングの練習をする。教科書に関してはよく読み問題を解いて行く。またそのユニットにでてくる問題などを英語でグループに分かれながら discussion などを行って行く。学期末にはパワーポイントを使いながら presentation を行う。グループワークを多く取り入れて行く上でコミュニケーションスキルを上達させて行く。夏季休暇に外国人にアンケートを取り秋学期に発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテーション	自己紹介、一年間の計画説明など。
2	Unit 1	Waste and Recycling についてどのように日頃ゴミ問題に向き合っているかなど。
3	Unit 1	ゴミ問題への対策、リサイクル問題への対策
4	Unit 1	ゴミ問題、リサイクルはどのように温暖化対策になるのか
5	Unit 2	Endangered Species について勉強して行く。なぜ絶滅危惧種が増えているかを探る。
6	Unit 2	国内外の絶滅危惧種
7	Unit 2	環境がどのように絶滅危惧種を増加させているか
8	Unit 3	何故 Rainforests が消えて行くのか。問題点は何かを探る。
9	Unit 3	上記の続き
10	Unit 3	雨林の減少の原因 Presentation の準備
11	Unit 3	企業の雨林保護活動 Presentation の準備
12	Unit 3	雨林の再生化は可能か Presentation の準備
13	Presentation	それぞれのグループ発表
14	Test	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各ユニットをよく読み、理解を深め宿題をこなす。

【テキスト（教科書）】
You, Me and the World
by David Peaty
Kinseido

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 70%, その他 30% （平常点、宿題、発表など）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Through the text book, "You, Me and the World" students will have a better understanding of the problems surrounding us on earth.

LANe100LA

English 1 - II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 - II 2016 年度以前入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様環境問題について考えていく。

【到達目標】

専門知識を活かしながら環境問題を英語で話せるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

春学期同様にリスニングを行いそれぞれのユニットの勉強をして行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presentation	夏季休暇のグループ発表
2	Unit 4	温暖化について考える
3	Unit 4	温暖化の原因、影響を探る
4	Unit 4	温暖化は止められるか グループディスカッション
5	Unit 4 & 6	続き 発展途上国について考える
6	Unit 6	どのような問題があるか
7	Unit 6	どのように発展途上国に援助ができるか
8	Unit 6	NGO, NPO の働き
9	Unit 7	人権問題について
10	Unit 7	極刑に関して
11	Presentation の準備 Unit 7 Presentation の準備	Presentation の準備 世界においてどのような人権が侵されているか Presentation の準備
12	Unit 11 Presentation の準備	続き Presentation の準備
13	Presentation	各グループの発表
14	Test	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書をよく読み内容を理解し宿題をきちんとして来る。

【テキスト（教科書）】
春学期同様

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 70%, その他 30% （平常点（授業態度、参加度、課題及び宿題の提出など）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】

Students will further develop their opinions on global warming and other problems relating to it.

LANe100LA

English 1 - I2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 - I2016 年度以前入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

環 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

【到達目標】
英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。また、基本的な英文を書けるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】
演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	1 年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1 年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読む、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseases (1)	Diseases (1) を学習する。
Chapter 5	Diseases (2)	Diseases (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter 12	Hospitals	Hospitals を学習する。
試験	試験を行う。	試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。

【テキスト（教科書）】
Life and Health (生活と健康) (鳳書房) 1,800 円 + 税

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English (桐原書店)

【成績評価の方法と基準】
試験 70 %、授業への積極性 10 %、課題 20 %、セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
気力が感じられる授業を心がけます。

【Outline and objectives】
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 - II2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 - II2016 年度以前入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

環 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

【到達目標】
英文を正しく、早く読めるようにする。また、基本的な英作文を出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】
演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 3	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 4	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 5	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 6	Italy	Italy を学習する。
Chapter 7	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 8	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 9	Canada	Canada を学習する。
Chapter 10	Russia	Russia を学習する。
Chapter 11	China	China を学習する。
Chapter 12	Japan	Japan を学習する。
ビデオ	ビデオを学習。	ビデオ学習をする。
試験	試験を行う。	試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。

【テキスト（教科書）】
Major Countries In The Woeld (世界の主要国) 鳳書房 1,800 円 + 税

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】
試験 70 %、課題 20 %、授業への積極性 10 %、1 セメスターで 4 回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
気力を感じられる授業をするように心がけます。

【Outline and objectives】
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 - I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 - I 2016 年度以前入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの様々な事象について英語で学ぶテキスト『鼓動するイギリス Britain at a Watershed』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

- テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
 - ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
 - ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキスト『鼓動するイギリス Britain at a Watershed』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Unit 1	The Brexit Referendum
3	Unit 2	The New Mayor of London
4	Unit 3	Brits on Bikes
5	Unit 4	Oxford and Cambridge: Looking to the Future
6	Unit 5	A Profile of Cornwall
7	Unit 6	The Cost of Being Young Today
8	Unit 7	It All Began at Rugby School
9	Unit 8	Britain and the Sea
10	Unit 9	Images of Scotland
11	Unit 10	"The New Look": Beards and Tattoos
12	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
13	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
14	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

【テキスト（教科書）】

John H. Randle, Atsushi Mukuhira『鼓動するイギリス Britain at a Watershed』成美堂、1,900 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要があります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

LANe100LA

English 1 - II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 - II 2016 年度以前入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

環 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの様々な事象について英語で学ぶテキスト『鼓動するイギリス Britain at a Watershed』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

- テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
 - ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
 - ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキスト『鼓動するイギリス Britain at a Watershed』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 11	The Japanese in Britain
2	Unit 12	Health Matters
3	Unit 13	The House of Windsor: Crisis and Continuity
4	Unit 14	The Changing London Skyline
5	Unit 15	Women's Rights: A Look through History
6	Unit 16	Women in Britain Today: A Report
7	Unit 17	The White Roses of York
8	Unit 18	Charles Dickens: Childhood and Christmas
9	Unit 19	The Great British Bake Off
10	Unit 20	Brits Abroad
11	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
12	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
13	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
14	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

【テキスト（教科書）】

John H. Randle, Atsushi Mukuhira『鼓動するイギリス Britain at a Watershed』成美堂、1,900 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

LANe100LA

English 1 - I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 - I 2016 年度以前入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

環 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。また、要約やコメントの英文 Writing を随時行い、添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening, Active Reading と Critical Thinking について	Lesson 1 Language を解説しながら、テキスト構成、授業内容、評価等に関する説明を行う
第 2 回	Listening 小テスト 1 Lesson 3 Higher Education	Office 聴解 Can the Humanities be Saved? 英文読解、コメント Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 Lesson 3 Higher Education	Restaurant 聴解 Can the Humanities be Saved? 語彙問題と Listening&Dictation
第 4 回	Listening 小テスト 3 Lesson 2 Social Psychology	Department Store 聴解 How Far Will People Go? 英文読解、コメント Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 Lesson 2 Social Psychology	Airport 聴解 How Far Will People Go? 語彙問題と Listening&Dictation
第 6 回	Listening 小テスト 5 Lesson 4 Musical Theater	Bank 聴解 Yellowface 英文読解、コメント Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 Lesson 4 Musical Theater	Duty-free Shop 聴解 Yellowface 語彙問題と Listening&Dictation
第 8 回	Listening 小テスト 7 Lesson 5 The Environment	Travel 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 英文読解、コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 Lesson 5 The Environment	Rent-a-Car 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 語彙問題と Listening&Dictation
第 10 回	Listening 小テスト 9 環境問題の英文読解	Fitness Center 聴解 追加プリントによる英文読解
第 11 回	Listening 小テスト 10 Lesson 6 Anthropology/Paleontology	Job Training 聴解 Not So Stupid After All 英文読解、コメント Writing
第 12 回	Listening 小テスト 11 Lesson 6 Anthropology/Paleontology	Review Test1・2 聴解 Not So Stupid After All 語彙問題と Listening&Dictation
第 13 回	パラグラフ論理展開学習	Paragraph Writing を通して英語の論理展開を学ぶ

第 14 回 期末試験

学習内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するために予習が必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。

【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. Jim Knudsen 著. Nan'un-do. ¥2,300
Listening Promoter for the TOEIC ® Test, SEIBIDO. 石井隆之ほか. ¥1,100

【参考書】

特に指定しないが、必ず辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書サイト等を使うのは許可しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、Writing・和訳などの課題 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点とし、60% 以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度使用したテキスト英文がやや破格の文法や口語的表現が多かったため、より標準的でアカデミックな英語によるものにした。これによって「教科書に書いてあるのと同じ書き方をしたのに Writing では好ましくないといわれた」という事態の発生はなくなると思う。とはいえ、このために語彙レベルがやや上がってしまったが、辞書を使って読み、より語彙力を強化してほしい。

【Outline and objectives】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class. Students are required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs. They can cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future.

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
今井 澄子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 1/Mon.1	
環 1 年：英語 4 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 **Essay** 読解を通して **Active Reading** と **Critical-thinking** のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】
800 語程度の英文 **Essay** を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、**Listening&Dictation** 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 **Essay** 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】
毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の **Listening&Dictation** を行う。また、要約やコメントの英文 **Writing** を随時行い、添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	Listening 小テスト 1 Lesson 7 Neuroscience	Business Trip 聴解 Mapping the Brain 英文読解、コメント Writing
第 2 回	Listening 小テスト 2 Lesson 7 Neuroscience	Vacation 聴解 Mapping the Brain 語彙問題と Listening&Dictation
第 3 回	Listening 小テスト 3 Lesson 8 Military History	Pay 聴解 No Shoot! 英文読解、コメント Writing
第 4 回	Listening 小テスト 4 Lesson 8 Military History	Exhibition 聴解 No Shoot! 語彙問題と Listening&Dictation
第 5 回	Listening 小テスト 5 Lesson 9 Technology	Shopping 聴解 The Reality of Virtual Reality 英文読解、コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 6 Lesson 9 Technology	Hospital 聴解 The Reality of Virtual Reality 語彙問題と Listening&Dictation
第 7 回	Listening 小テスト 7 Lesson 10 Literature	Train Station 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 英文読解、コメント Writing
第 8 回	Listening 小テスト 8 Lesson 10 Literature	Presentation 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 語彙問題と Listening&Dictation
第 9 回	Listening 小テスト 9 Lesson 11 Art Appreciation	Lecture 聴解 Accounting for Taste 英文読解、コメント Writing
第 10 回	Listening 小テスト 10 Lesson 11 Art Appreciation	Contract 聴解 Accounting for Taste 語彙問題と Listening&Dictation
第 11 回	Listening 小テスト 11 Lesson 12 Cybercrime	Review Test1・2 聴解 The Dark Tetrad 英文読解、コメント Writing
第 12 回	Lesson 12 Cybercrime 英文エッセイの構成と書き方	The Dark Tetrad 語彙問題と Listening&Dictation プリントによる説明
第 13 回	エッセイ論理展開学習	読んだものへの意見を述べる Essay Writing を通して英語長文の論理展開を学ぶ

第 14 回 期末試験 学習内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するために予習が必要。教科書にある **Listening&Dictation** 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。**Writing** も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。

【テキスト（教科書）】
Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. Jim Knudsen 著. Nan'un-do. ¥2,300
Listening Promoter for the TOEIC ® Test, SEIBIDO. 石井隆之ほか. ¥1,100

【参考書】
特に指定しないが、必ず辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書サイト等を使うのは許可しない。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、**Writing**・和訳などの課題 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点とし、60% 以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度使用したテキスト英文がやや破格の文法や口語的表現が多かったため、より標準的でアカデミックな英語によるものにした。これによって「教科書に書いてあるのと同じ書き方をしたのに **Writing** では好ましくないといわれた」という事態の発生はなくなると思う。とはいえ、このために語彙レベルがやや上がってしまったが、辞書を使って読み、より語彙力を強化してほしい。

【Outline and objectives】
This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class. Students are required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs. They can cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future.

LANe100LA

English 1 - I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 - I 2016 年度以前入学者

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Unit 1	Digital Amnesia
第 3 回	Unit 2	Sleep Paralysis
第 4 回	Unit 3	Why Are Some People Better at Learning Languages?
第 5 回	Unit 1 ～ Unit 3 のまとめ	Unit 1 ～ Unit 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 4	The McCollough Effect
第 7 回	Unit 5	The Healthiest Drink?
第 8 回	Unit 6	Health Advice for Fashion Lovers
第 9 回	Unit 7	Live to Be 120
第 10 回	Unit 4 ～ Unit 7 のまとめ	Unit 4 ～ Unit 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 8	A New Antibiotic Found in the Soil
第 12 回	Unit 9	The World's Oldest Creature?
第 13 回	Unit 10	Lazy Ants
第 14 回	学期末試験	学期末試験（筆記試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。

【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円(税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)、授業態度・授業内に課した課題（ライティング課題の提出と発表を重視）や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。その際に、復習・定着のため、テキストで使用されている表現や単語を使うよう促していく。

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook (designated below). The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 - II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 - II 2016 年度以前入学者

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	配布プリント	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Unit 11	(Almost) Vegetarian Bears
第 3 回	Unit 12	Animals and Earthquakes
第 4 回	Unit 13	LiquiGlide
第 5 回	Unit 11 ～ Unit 13 のまとめ	Unit 11 ～ Unit 13 の中のいずれかに ついて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 14	Unbreakable Glass
第 7 回	Unit 15	Robots Are Winning
第 8 回	Unit 16	Li-Fi
第 9 回	Unit 17	Enceladus
第 10 回	Unit 14 ～ Unit 17 のまとめ	Unit 14 ～ Unit 17 の中のいずれかに ついて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 18	The Ninth Planet
第 12 回	Unit 19	Dyson Sphere
第 13 回	Unit 20	When Will We See a Great Comet?
第 14 回	学期末試験	学期末試験（筆記試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。

【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。その際に、復習・定着のため、テキストで使われている表現や単語を使うよう促していく。

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook (designated below). The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation
6. Improve rapid reading skill.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 - I

2016 年度以前入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

環 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本で起こったことについての英文を読み、現代の問題を読み解いていく。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

予習して来た事を確認するために、アットランダムに学生を指し、英文を音読し、日本語に訳す、あるいは問いの答えを言うという作業をしてもらう。その後、難しい箇所は説明を加えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	シラバスの記載事項について、確認し、辞書の使い方等を指示する。
2 回目	Unit 1 Hello Kitty Is Not a Cat	知られざるキティちゃんの生き様について学ぶ。
3 回目	Unit 2 From Base of Social Pyramid, Only Way Is UP	ヤマハの BOP ビジネスについて学ぶ。
4 回目	Unit 3 The Complexities of Living Too Close to Tokyo	東京と近すぎる地方【北関東】について学ぶ。
5 回目	Unit 4 Subaru's Hometown Transformed by Foreign Workers	多文化な街、群馬県太田の風景について考える。
6 回目	Unit 5 Mount Fuji Has Long Been an Icon	「富士山」に重ねられてきた文化的な眼差しについて学ぶ。
7 回目	Unit 6 The Making of Asian America	アジア系アメリカ人の軌跡について学ぶ。
8 回目	Unit 7 Corporate Drama Series 'Shitamachi Rocket' Hits Close to Home	ドラマ『下町ロケット』が映し出す中小企業の底力について学ぶ。
9 回目	Unit 8 Aiming for More than Medals	メダル以上のものを目標にすることについて学ぶ。
10 回目	Unit 9 Shinkansen Cleaning Theater	新幹線の「おもてなし」、清掃係の 7 分間の勝負について学ぶ。
11 回目	Unit 10 Green Shoots of Recovery	葉っぱビジネスが再生させた没落集落について学ぶ。
12 回目	Unit 11 Shigeru Mizuki, Influential Japanese Cartoonist, Dies at 93	水木しげるさんの追悼記事を読む。
13 回目	Unit 12 Can Big Names Help the Plight of Small Factories	職人技に現代の意味を与えるデザイン の役割について考える。
14 回目	まとめと試験	復習の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Matching Words and Phrases を行い、テキストのリーディングの部分と、辞書を活用して予習し、各問題に答えておく。

【テキスト（教科書）】

宮本文、『15 Things Happening in Japan 2』松柏社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 85%、平常点を 15% で計算します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Reading a textbook called 15 Things Happening in Japan 2, develop English reading skills and consider what has happened in recent Japan.

LANe100LA

English 1 - II2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 - II2016 年度以前入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

環 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の食文化についての英文を読み、食の多様性を読み解いていながら、英語の読解力アップを目指す。

【到達目標】
本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】
各授業で予習をしてきたことを確認するため、英文を正しく声を出して読み、日本語に訳すという作業を、順不同に学生を差してやってもらい、難しい箇所は説明を加えていきます。各章の最後のリスニングセクションは、予習なしで、授業中にリスニングを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	シラバスの記載事項について、確認し、辞書の使い方等を指示する。
2 回目	Chapter 1 Eden	オーストラリアの食について学ぶ。
3 回目	Chapter 2 Water at the Wadi	チャドの水道事情、食について学ぶ。
4 回目	Chapter 3 Cusp	中国の変化する食について学ぶ。
5 回目	Chapter 4 Still Afloat	キューバの食について学ぶ。
6 回目	Chapter 5 Hypermarket Fever	変化するフランスの食について学ぶ。
7 回目	Chapter 6 Bio Logic	ドイツの食生活について学ぶ。
8 回目	Chapter 7 Bacon at the Bees'	変わりゆくイギリスの食生活について学ぶ。
9 回目	Chapter 8 Indigenous Spirits	トルティーヤに代表されるグアテマラの食について学ぶ。
10 回目	Chapter 9 Poha Breakfast	インドのスパイスに満ちた食生活について学ぶ。
11 回目	Chapter 10 Oil for Food	クウェートの食文化について学ぶ。
12 回目	Chapter 11 Wanted: Living Wage	メキシコについての食について学ぶ。
13 回目	Chapter 12 Hungry for Change	モンゴルの食について学ぶ。
14 回目	復習 テスト	復習のテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading を辞書を活用して予習し、True/False, Questions and Answers などの質問に答えておく。

【テキスト（教科書）】
Faith D'Aluisio 鶴岡公幸他『Hungry Planet: What the World Eats』松柏社

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験を 85%、平常点を 15% で計算します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
辞書

【Outline and objectives】
Reading a textbook called Hungry Planet:What the World Eats, develop English reading skills and come to know what each country eats.

LANe100LA

English 1 - I2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 - I2016 年度以前入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

環 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
You, Me and the World という教科書を通して世界でどのような問題が起こっているか、並びに環境に関する様々な問題について勉強をして行く。

【到達目標】
専門知識を生かしながらそれぞれの興味のある環境問題を通して英語で話せるようにして行きたい。読み書きはもちろんの事リスニング、スピーキングに重点を置きながら教科書の各ユニットを進める上でその課題をはなせるようにして行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】
教科書に入る前にリスニングの練習をする。教科書に関してはよく読み問題を解いて行く。またそのユニットにでてる問題などを英語でグループに分かれながら discussion などを行って行く。学期末にはパワーポイントを使いながら presentation を行う。グループワークを多く取り入れて行く上でコミュニケーションスキルを上達させて行く。夏季休暇に外国人にアンケートを取り来秋学期に発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテーション	自己紹介、一年間の計画説明など。
2	Unit 1	Waste and Recycling についてどのように日頃ゴミ問題に向き合っているかなど。
3	Unit 1	ゴミ問題への対策、リサイクル問題への対策
4	Unit 1	ゴミ問題、リサイクルはどのように温暖化対策になるのか
5	Unit 2	Endangered Species について勉強して行く。なぜ絶滅危惧種が増えているかを探る。
6	Unit 2	国内外の絶滅危惧種
7	Unit 2	環境がどのように絶滅危惧種を増加させているか
8	Unit 3	何故 Rainforests が消えて行くのか。問題点は何かを探る。
9	Unit 3	上記の続き
10	Unit 3	雨林の減少の原因
11	Unit 3	Presentation の準備 企業の雨林保護活動
12	Unit 3	Presentation の準備 雨林の再生化は可能か
13	Presentation	Presentation の準備 それぞれのグループ発表
14	Test	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各ユニットをよく読み、理解を深め宿題をこなす。

【テキスト（教科書）】
You, Me and the World
by David Peaty
Kinseido

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 70%、その他 30%（平常点、宿題、発表など）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
Through the text book, "You, Me and the World" students will have a better understanding of the problems surrounding us on earth.

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
北原 ルック 明子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 2/Mon.2	
環 1 年：英語 7 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様環境問題について考えていく。

【到達目標】

専門知識を活かしながら環境問題を英語で話せるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

春学期同様にリスニングを行いそれぞれのユニットの勉強をして行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Presentation	夏季休暇のグループ発表
2	Unit 4	温暖化考える
3	Unit 4	温暖化の原因、影響を語る
4	Unit 4	温暖化は止められるか グループディスカッション
5	Unit 4 & 6	続き 発展途上国について考える
6	Unit 6	どのような問題があるか
7	Unit 6	どのように発展途上国に援助ができるか
8	Unit 6	NGO, NPO の働き
9	Unit 7	人権問題について
10	Unit 7	極刑に関して
	Presentation の準備	Presentation の準備
11	Unit 7	世界においてどのような人権が侵されているか
	Presentation の準備	Presentation の準備
12	Unit 11	続き
	Presentation の準備	Presentation の準備
13	Presentation	各グループの発表
14	Test	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読み内容を理解し宿題をきちんとして来る。

【テキスト（教科書）】

春学期同様

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 70 %、その他 30 % （平常点（授業態度、参加度、課題及び宿題の提出など）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Students will further develop their opinions on global warming and other problems relating to it.

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
小泉 和弘	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 2/Mon.2	
環 1 年：英語 8 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

【到達目標】

英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。また、基本的な英文を書けるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	1 年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1 年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter Growth and Development	1	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter Human Body / Sleep	2	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter Health and fitness / Allergies	3	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter Diseases (1)	4	Diseases (1) を学習する。
Chapter Diseases (2)	5	Diseases (2) を学習する。
Chapter Immunity / AIDS	6	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter Smoking / Cancer	7	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter Medicine	8	Medicine を学習する。
Chapter Complementary medicine	9	Complementary medicine を学習する。
Chapter First Aids / Doctors	10	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter Nightingale, Florence / Nurses	11	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter Hospitals	12	Hospitals を学習する。
試験	試験を行う。	試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English（桐原書店）

【成績評価の方法と基準】

試験 70 %、授業への積極性 10 %、課題 20 %、セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 - II2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 - II2016 年度以前入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

環 1 年：英語 8 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

【到達目標】
英文を正しく、早く読めるようにする。また、基本的な英作文を出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】
演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。
Chapter 9	Japan	Japan を学習する。
ビデオ	ビデオを学習。	ビデオ学習をする。
試験	試験を行う。	試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。

【テキスト（教科書）】
Major Countries In The Woeld（世界の主要国） 鳳書房 1,800 円＋税

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】
試験 70 %、課題 20 %、授業への積極性 10 %、1 セメスターで 4 回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
気力を感じられる授業をするように心がけます。

【Outline and objectives】
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure and the logical relationship between paragraphs. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

English 1 - I2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 - I2016 年度以前入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

環 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスの様々な事象について英語で学ぶテキスト『鼓動するイギリス Britain at a Watershed』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】
テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】
テキスト『鼓動するイギリス Britain at a Watershed』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Unit 1	The Brexit Referendum
3	Unit 2	The New Mayor of London
4	Unit 3	Brits on Bikes
5	Unit 4	Oxford and Cambridge: Looking to the Future
6	Unit 5	A Profile of Cornwall
7	Unit 6	The Cost of Being Young Today
8	Unit 7	It All Began at Rugby School
9	Unit 8	Britain and the Sea
10	Unit 9	Images of Scotland
11	Unit 10	"The New Look": Beards and Tattoos
12	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
13	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
14	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

【テキスト（教科書）】
John H. Randle, Atsushi Mukuhira『鼓動するイギリス Britain at a Watershed』成美堂、1,900 円＋税

【参考書】
必要の際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 - II

2016 年度以前入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの様々な事象について英語で学ぶテキスト『鼓動するイギリス Britain at a Watershed』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

- テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
 - ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
 - ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキスト『鼓動するイギリス Britain at a Watershed』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 11	The Japanese in Britain
2	Unit 12	Health Matters
3	Unit 13	The House of Windsor: Crisis and Continuity
4	Unit 14	The Changing London Skyline
5	Unit 15	Women's Rights: A Look through History
6	Unit 16	Women in Britain Today: A Report
7	Unit 17	The White Roses of York
8	Unit 18	Charles Dickens: Childhood and Christmas
9	Unit 19	The Great British Bake Off
10	Unit 20	Brits Abroad
11	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
12	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
13	イギリスに関するそのほかのテキスト	こちらでプリントを準備します
14	期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

【テキスト（教科書）】

John H. Randle, Atsushi Mukuhira 『鼓動するイギリス Britain at a Watershed』成美堂、1,900 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価。欠席が4回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が4回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。
テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 - I

2016 年度以前入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは1パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。また、要約やコメントの英文 Writing を随時行い、添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Listening, Active Reading と Critical Thinking について	Lesson 1 Language を解説しながら、テキスト構成、授業内容、評価等に関する説明を行う
第2回	Listening 小テスト 1 Lesson 3 Higher Education	Office 聴解 Can the Humanities be Saved?英文読解、コメント Writing
第3回	Listening 小テスト 2 Lesson 3 Higher Education	Restaurant 聴解 Can the Humanities be Saved?語彙問題と Listening&Dictation
第4回	Listening 小テスト 3 Lesson 2 Social Psychology	Department Store 聴解 How Far Will People Go?英文読解、コメント Writing
第5回	Listening 小テスト 4 Lesson 2 Social Psychology	Airport 聴解 How Far Will People Go?語彙問題と Listening&Dictation
第6回	Listening 小テスト 5 Lesson 4 Musical Theater	Bank 聴解 Yellowface 英文読解、コメント Writing
第7回	Listening 小テスト 6 Lesson 4 Musical Theater	Duty-free Shop 聴解 Yellowface 語彙問題と Listening&Dictation
第8回	Listening 小テスト 7 Lesson 5 The Environment	Travel 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 英文読解、コメント Writing
第9回	Listening 小テスト 8 Lesson 5 The Environment	Rent-a-Car 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 語彙問題と Listening&Dictation
第10回	Listening 小テスト 9 環境問題の英文読解	Fitness Center 聴解 追加プリントによる英文読解
第11回	Listening 小テスト 10 Lesson 6 Anthropol-ogy/Paleontology	Job Training 聴解 Not So Stupid After All 英文読解、コメント Writing
第12回	Listening 小テスト 11 Lesson 6 Anthropol-ogy/Paleontology	Review Test1・2 聴解 Not So Stupid After All 語彙問題と Listening&Dictation
第13回	パラグラフ論理展開学習	Paragraph Writing を通して英語の論理展開を学ぶ

第 14 回 期末試験 学習内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するために予習が必要。教科書にある **Listening&Dictation** 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。**Writing** も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。

【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. Jim Knudsen 著. Nan'un-do. ¥2,300
Listening Promoter for the TOEIC ® Test, SEIBIDO. 石井隆之ほか. ¥1,100

【参考書】

特に指定しないが、必ず辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書サイト等を使うのは許可しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、**Writing**・和訳などの課題 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点とし、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度使用したテキスト英文がやや破格の文法や口語的表現が多かったため、より標準的でアカデミックな英語によるものにした。これによって「教科書に書いてあるのと同じ書き方をしたのに **Writing** では好ましくないといわれた」という事態の発生はなくなると思う。とはいえ、このために語彙レベルがやや上がってしまったが、辞書を使って読み、より語彙力を強化してほしい。

【Outline and objectives】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class. Students are required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs. They can cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 - II

2016 年度以前入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 **Essay** 読解を通して **Active Reading** と **Critical-thinking** のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】

800 語程度の英文 **Essay** を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、**Listening&Dictation** 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 **Essay** 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の **Listening&Dictation** を行う。また、要約やコメントの英文 **Writing** を随時行い、添削指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening 小テスト 1 Lesson 7 Neuroscience	Business Trip 聴解 Mapping the Brain 英文読解、コメント Writing
第 2 回	Listening 小テスト 2 Lesson 7 Neuroscience	Vacation 聴解 Mapping the Brain 語彙問題と Listening&Dictation
第 3 回	Listening 小テスト 3 Lesson 8 Military History	Pay 聴解 No Shoot! 英文読解、コメント Writing
第 4 回	Listening 小テスト 4 Lesson 8 Military History	Exhibition 聴解 No Shoot! 語彙問題と Listening&Dictation
第 5 回	Listening 小テスト 5 Lesson 9 Technology	Shopping 聴解 The Reality of Virtual Reality 英文読解、コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 6 Lesson 9 Technology	Hospital 聴解 The Reality of Virtual Reality 語彙問題と Listening&Dictation
第 7 回	Listening 小テスト 7 Lesson 10 Literature	Train Station 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 英文読解、コメント Writing
第 8 回	Listening 小テスト 8 Lesson 10 Literature	Presentation 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 語彙問題と Listening&Dictation
第 9 回	Listening 小テスト 9 Lesson 11 Art Appreciation	Lecture 聴解 Accounting for Taste 英文読解、コメント Writing
第 10 回	Listening 小テスト 10 Lesson 11 Art Appreciation	Contract 聴解 Accounting for Taste 語彙問題と Listening&Dictation
第 11 回	Listening 小テスト 11 Lesson 12 Cybercrime	Review Test1・2 聴解 The Dark Tetrad 英文読解、コメント Writing
第 12 回	Lesson 12 Cybercrime 英文エッセイの構成と書き方	The Dark Tetrad 語彙問題と Listening&Dictation プリントによる説明
第 13 回	エッセイ論理展開学習	読んだものへの意見を述べる Essay Writing を通して英語長文の論理展開を学ぶ

第 14 回 期末試験 学習内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するために予習が必要。教科書にある **Listening&Dictation** 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。**Writing** も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。

【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. Jim Knudsen 著. Nan'un-do. ¥2,300
Listening Promoter for the TOEIC ® Test, SEIBIDO. 石井隆之ほか. ¥1,100

【参考書】

特に指定しないが、必ず辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参し、スマートフォン等でインターネット上の辞書サイト等を使うのは許可しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、**Writing**・和訳などの課題 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点とし、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度使用したテキスト英文がやや破格の文法や口語的表現が多かったため、より標準的でアカデミックな英語によるものにした。これによって「教科書に書いてあるのと同じ書き方をしたのに **Writing** では好ましくないといわれた」という事態の発生はなくなると思う。とはいえ、このために語彙レベルがやや上がってしまったが、辞書を使って読み、より語彙力を強化してほしい。

【Outline and objectives】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class. Students are required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs. They can cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 - I

2016 年度以前入学者

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。**Unit** が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Unit 1	Digital Amnesia
第 3 回	Unit 2	Sleep Paralysis
第 4 回	Unit 3	Why Are Some People Better at Learning Languages?
第 5 回	Unit 1 ～ Unit 3 のまとめ	Unit 1 ～ Unit 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 4	The McCollough Effect
第 7 回	Unit 5	The Healthiest Drink?
第 8 回	Unit 6	Health Advice for Fashion Lovers
第 9 回	Unit 7	Live to Be 120
第 10 回	Unit 4 ～ Unit 7 のまとめ	Unit 4 ～ Unit 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 8	A New Antibiotic Found in the Soil
第 12 回	Unit 9	The World's Oldest Creature?
第 13 回	Unit 10	Lazy Ants
第 14 回	学期末試験	学期末試験（筆記試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 **Unit** の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。

【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60%)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40%) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。その際に、復習・定着のため、テキストで使われている表現や単語を使うよう促していく。

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook (designated below). The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 - II

2016 年度以前入学者

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

環 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を配布プリントで行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	配布プリント	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Unit 11	(Almost) Vegetarian Bears
第 3 回	Unit 12	Animals and Earthquakes
第 4 回	Unit 13	LiquiGlide
第 5 回	Unit 11 ～ Unit 13 のまとめ	Unit 11 ～ Unit 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 14	Unbreakable Glass
第 7 回	Unit 15	Robots Are Winning
第 8 回	Unit 16	Li-Fi
第 9 回	Unit 17	Enceladus
第 10 回	Unit 14 ～ Unit 17 のまとめ	Unit 14 ～ Unit 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 18	The Ninth Planet
第 12 回	Unit 19	Dyson Sphere
第 13 回	Unit 20	When Will We See a Great Comet?
第 14 回	学期末試験	学期末試験（筆記試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。

【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (40 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。その際に、復習・定着のため、テキストで使われている表現や単語を使うよう促していく。

【Outline and objectives】

This course is held based on the textbook (designated below). The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation
6. Improve rapid reading skill.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 1 - I

2016 年度以前入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

環 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

賛否両論の社会問題を読んで聞き、論理的な思考力と読解力を養う。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

各授業で予習をしてきたことを確認するため、英文を正しく声を出して読み、日本語に訳すという作業を、順不同に学生を差してやってもらい、難しい箇所は説明を加えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1 ガイダンス	シラバスの記載事項について、確認し、辞書の使い方等を指示する。
2	Unit 1 SNS のメリットとは？ リスクは？	SNS のメリットとリスクの両面の意見を読んで、自分の考えを言えるようにする。
3	Unit 2 女性専用車両は不平等？	女性専用車両についての賛否両論を読んで、考える。
4	Unit 3 Eco or Ego?	エコ活動は誰のためのものか、考える。
5	Unit 4 オンラインゲームは有意義な娯楽？ 時間の無駄？	オンラインゲームの擁護派と反対派の意見を読んで考察する。
6	Unit 5 民主主義は最良の政治体制か？	民主主義について読んで考える。
7	Unit 6 カジノ合法化への期待と恐れ	カジノ擁護派と反対派の意見を読んで、考察する。
8	Unit 7 高校時代のアルバイトの是非	高校時代のアルバイトについて、賛否両論を読み、考える。
9	Unit 8 グローバリゼーションの光と影	グローバリゼーションがもたらす利益と功罪について読んで、考える。
10	Unit 9 AI は人間を超える？	人工知能の急速な発展と人間の能力について読んで考える。
11	Unit 12 ホームレスは自己責任か？	ホームレスになる人の背後に迫る。
12	Unit 13 少年を大人と同じように罰するべきか？	少年犯罪の処罰について読んで学ぶ。
13	Unit 14 移民を積極的に受け入れるべきか？	移民問題を考える。
14	復習 試験	復習の意味で試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Case を辞書を活用して予習し、Vocabulary Check を解き、Read On で、賛否両論の意見を読み、Listen to Model Opinions で、穴埋め問題を解き、時間があればディスカッションをする。

【テキスト（教科書）】

Ichizo Uchida/ Toshihiko Ueda ほか『Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2』センテージラーニング

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験を85%、平常点を15%で計算します。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Reading a text called Take a Stance, and develop English reading skills.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 - II

2016 年度以前入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

環 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた関西から起業した日本の企業についての紹介文を読み、企業の多様性と企業のさまざまな取り組みを読み解いていく。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

各授業で予習をしてきたことを確認するため、英文を正しく声を出して読み、日本語に訳すという作業を、順不同に学生を差してやってもらい、難しい箇所は説明を加えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ガイダンス	シラバスの記載事項について、確認し、辞書の使い方等を指示する。
2 回目	Chapter 1 サント Chapter 5 青いバラの開発	水と生きるをモットーとする企業の実情に迫る。青いバラをなぜサントリーが開発できたか学ぶ。
3 回目	Chapter 2 ナベル	卵の選別、パッキングをする企業について学ぶ。
4 回目	Chapter 3 象印マホービン	象印マホービンのこれまでの歴史を学ぶ。
5 回目	Chapter 4 竹中工務店	竹中工務店の思いを形にする建設事業について学ぶ。
6 回目	Chapter 6 コクヨ	コクヨの歴史について学ぶ。
7 回目	Chapter 7 紀州技研工業	紀州技研工業のインクについて学ぶ。
8 回目	Chapter 8 コーナン	DIY ショップから住まいの総合店へ発展して来たコーナンの歴史について学ぶ。
9 回目	Chapter 9 モンベル	山に挑む、機能美の追求について学ぶ。
10 回目	Chapter 11 トタニ技研工業	技術を磨いて来た製袋業について学ぶ。
11 回目	Chapter 12 サンスター	健康の増進と生活向上に奉仕する会社について学ぶ。
12 回目	Chapter 13 武田薬品工業	薬づくりの王道を行く企業について学ぶ。
13 回目	Chapter 14 江崎グリコ	グリコのキャラメルがどうしてできたかなど会社の歴史と現状を読む。
14 回目	復習 テスト	復習のテストを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Vocabulary Question で本文に出てくる単語の確認を行い、Reading を辞書を活用して予習し、True/False, Questions and Answers を解き、Comprehension Check で、本文の内容と合っているか見つけ出し、Composition を解き、Chronological Table を完成させる。

【テキスト（教科書）】

井上治/住谷和子ほか『A Visit to Amazing Kansai-based Companies 英語で見る日本の企業秘話』松柏社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 85%、平常点を 15% で計算します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

企業のテキストは人気のようなので、また選びました。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Reading a textbook called A Visit to Kansai-based Companies, develop

English reading skills and come to know what each company has done.

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - I	2016 年度以前入学者
青山 恵子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 1/Mon.1	
環 1 年：上級クラス	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幅広いトピックの英文テキストを多読する。さらに、アカデミック・ライティングの基礎を学び、インプットをアウトプットに接続していく

【到達目標】

- 1 各テキストのテーマと論旨を正確に理解できるようになること
- 2 理解した内容についての要約と各自の意見を英語で書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1 リーディング・プラクティス（パラグラフ・リーディング）
- 2 音読トレーニング（リテンション／シャドーイング）
- 3 ライティング・ワークショップ（アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Self-introduction and explanation of the course
2	Critical Thinking and Reading	Paragraph reading / Listening and Shadowing
3	Essay types and strategies	Learning Paragraph Structure
4	Writing Workshop #1	Writing Topic Sentences
5	What is soft power?	Paragraph reading / Learning the Development of a Paragraph
6	What is soft power?	Reading / Learning Comparison-Contrast Paragraphs
7	Writing Workshop #2	From Paragraph to Essay
8	The decline of America's soft power	Reading / Learning Descriptive Paragraph
9	The decline of America's soft power	Listening and Reading
10	Writing Workshop #3	Using English-English dictionaries
11	Military Keynesianism	Reading / Learning Opinion Paragraphs
12	Military Keynesianism	Listening and Reading
13	Writing Workshop #4	Comparison-Contrast Essay
14	Semester Final Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 Weekly reading or writing home assignment
- 2 Preparation for writing Workshops
- 3 Online TED watching assignments <https://www.ted.com>

【テキスト（教科書）】

Handout

【参考書】

参考とすべき英英辞典などについては授業中に指示します

【成績評価の方法と基準】

Active class participation (10%); Home assignment (20%); and final test (70%)

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの積極的授業参加が授業の質を高めてきたと実感しています。本年度の授業もそうなることを希望します。

【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary; English-English dictionary is necessary.

【Outline and objectives】

In this advanced English reading and writing class, you will practice skills connected to analytical reading and well-organized writing. There will be also Writing Workshops focusing on learning paragraph writing and multi-paragraph essays patterns.

LANe100LA	
English 1 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
E n g l i s h 1 - II	2016 年度以前入学者
青山 恵子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 1/Mon.1	
環 1 年：上級クラス	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語を読む」から「英語で読む」への転換を図りながら、引き続きインプットとアウトプットを接続する

【到達目標】

- 1 幅広い分野のトピックを「英語で読む」ことができるようになること
- 2 論理的構成を持つ複数のパラグラフが書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1 リーディング・プラクティス（多読／速読／精読）
- 2 音読トレーニング
- 3 ライティング・ワークショップ

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Meeting and Workshop	Exchange of information and discussion about this course of the semester
2	Universal Declaration of Human Rights	Learning Human Rights in English
3	Writing Workshop #1	How to Write a Good Summary
4	Religious Diversity and Freedom	Listening and Reading
5	The End of Poverty	Listening and Reading
6	The End of Poverty	Reading / Thesis Statements & Transition Signals
7	Writing Workshop #2	Argumentative Essays
8	The End of Slavery	Listening and Reading
9	The End of Slavery	Reading / Writing a Summary
10	Writing Workshop #3	Using Parallel Structure
11	Refugee issues	Listening and Reading
12	Refugee issues	Writing an essay
13	Refugee issues	Writing an essay
14	semester final test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 Weekly reading or writing home assignments
- 2 Preparation for Writing Workshops
- 3 Online TED watching assignments <https://www.ted.com>

【テキスト（教科書）】

Handout

【参考書】

必要に応じて指示します

【成績評価の方法と基準】

Active class participation (10%); Writing assignment (20%); and final test (70%)

【学生の意見等からの気づき】

だんだんハードになってくるとは思いますが、励まし合いながらさらなるレベルアップを図りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary; English-English dictionary is necessary.

【Outline and objectives】

This is a content-based English learning class focusing on human rights aspects of a wide range of global issues. You will read texts about human rights issues and practice writing a well-organized multi-paragraph essay on a specific human rights issue.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 - I

2016 年度以前入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年：上級クラス

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幅広いトピックの英文テキストを多読する。さらに、アカデミック・ライティングの基礎を学び、インプットをアウトプットに接続していく

【到達目標】

- 1 各テキストのテーマと論旨を正確に理解できるようになること
- 2 理解した内容についての要約と各自の意見を英語で書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1 リーディング・プラクティス（パラグラフ・リーディング）
- 2 音読トレーニング（リテンション／シャドーイング）
- 3 ライティング・ワークショップ（アカデミック・ライティングの基礎を学ぶ）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Self-introduction and explanation of the course
2	Critical Thinking and Reading	Paragraph reading / Listening and Shadowing
3	Essay types and strategies	Learning Paragraph Structure
4	Writing Workshop #1	Writing Topic Sentences
5	What is soft power?	Paragraph reading / Learning the Development of a Paragraph
6	What is soft power?	Reading / Learning Comparison-Contrast Paragraphs
7	Writing Workshop #2	From Paragraph to Essay
8	The decline of America's soft power	Reading / Learning Descriptive Paragraph
9	The decline of America's soft power	Listening and Reading
10	Writing Workshop #3	Using English-English dictionaries
11	Military Keynesianism	Reading / Learning Opinion Paragraphs
12	Military Keynesianism	Listening and Reading
13	Writing Workshop #4	Comparison-Contrast Essay
14	Semester Final Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 Weekly reading or writing home assignment
- 2 Preparation for writing Workshops
- 3 Online TED watching assignments <https://www.ted.com>

【テキスト（教科書）】

Handout

【参考書】

参考とすべき英英辞典などについては授業中に指示します

【成績評価の方法と基準】

Active class participation (10%); Home assignment (20%); and final test (70%)

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの積極的授業参加が授業の質を高めてきたと実感しています。本年度の授業もそうなることを希望します。

【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary; English-English dictionary is necessary.

【Outline and objectives】

In this advanced English reading and writing class, you will practice skills connected to analytical reading and well-organized writing. There will be also Writing Workshops focusing on learning paragraph writing and multi-paragraph essays patterns.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 1 - II

2016 年度以前入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年：上級クラス

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語を読む」から「英語で読む」への転換を図りながら、引き続きインプットとアウトプットを接続する

【到達目標】

- 1 幅広い分野のトピックを「英語で読む」ことができるようになること
- 2 論理的構成を持つ複数のパラグラフが書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1 リーディング・プラクティス（多読／速読／精読）
- 2 音読トレーニング
- 3 ライティング・ワークショップ

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Meeting and Workshop	Exchange of information and discussion about this course of the semester
2	Universal Declaration of Human Rights	Learning Human Rights in English
3	Writing Workshop #1	How to Write a Good Summary
4	Religious Diversity and Freedom	Listening and Reading
5	The End of Poverty	Listening and Reading
6	The End of Poverty	Reading / Thesis Statements & Transition Signals
7	Writing Workshop #2	Argumentative Essays
8	The End of Slavery	Listening and Reading
9	The End of Slavery	Reading / Writing a Summary
10	Writing Workshop #3	Using Parallel Structure
11	Refugee issues	Listening and Reading
12	Refugee issues	Writing an essay
13	Refugee issues	Writing an essay
14	semester final test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 Weekly reading or writing home assignments
- 2 Preparation for Writing Workshops
- 3 Online TED watching assignments <https://www.ted.com>

【テキスト（教科書）】

Handout

【参考書】

必要に応じて指示します

【成績評価の方法と基準】

Active class participation (10%); Writing assignment (20%); and final test (70%)

【学生の意見等からの気づき】

だんだんハードになってくるとは思いますが、励まし合いながらさらなるレベルアップを図りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Electric dictionary; English-English dictionary is necessary.

【Outline and objectives】

This is a content-based English learning class focusing on human rights aspects of a wide range of global issues. You will read texts about human rights issues and practice writing a well-organized multi-paragraph essay on a specific human rights issue.

LANe100LA

English 2- I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2- I 2016 年度以前入学者

小堀 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。
具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。
単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス クラスメート紹介	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 クラスメートにインタビューし、それをまとめて発表する。
第2 回	尊敬する人・好きな人	自分が尊敬する人・好きな人は誰かを考えて、その理由などをまとめてみる。
第3 回	リスニング	プレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第4 回	リスニング	プレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第5 回	プレゼンテーション原稿の作成	自分が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションの原稿を書く。
第6 回	プレゼンテーション	各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第7 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第8 回	ツアー・休暇の過ごし方を提案する	自分が思う最高・最良のツアーや休暇の過ごし方を考え、話し合う。
第9 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第10 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第11 回	プレゼンテーション原稿の作成	ツアーや休暇の過ごし方を提案するプレゼンテーションの原稿を作成する。
第12 回	プレゼンテーション	各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。

第13 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第14 回	授業内試験	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んでおく。授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第3 版、ケンブリッジ大学出版。英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（30%）、授業内プレゼンテーション（70%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation. First, you will understand the way of organizing a presentation. This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation. Then, you will make and give a presentation on a specific topic. By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically. In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

LANe100LA

English 2-II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2-II 2016 年度以前入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年：英語 1 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 今時の若者	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 自分たちのライフスタイルなどに関するインタビューを考え、クラスメートにインタビューし、それをまとめる。
第 2 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのイントロとコンクリーションを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 3 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのボディ部分を読み、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	プレゼンテーション	各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 5 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 6 回	説明しよう！	自分が知らないことについて考え、調べ、まとめる。
第 7 回	リスニング	物事を説明するプレゼンテーションを聞き、理解して、その構成を学ぶ。
第 8 回	プレゼンテーション	各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 9 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 10 回	自分の意見をいう	何かに対して賛成か反対か、自分の態度を決め、その理由を述べるために考える。
第 11 回	リスニング	自分の意見を述べているプレゼンテーションを聞き、理解して、その構成を学ぶ。
第 12 回	プレゼンテーション	各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。

第 13 回 英会話

クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。

第 14 回 授業内試験

これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んでおく。授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（30%）、授業内プレゼンテーション（70%）の合計で評価します。

60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。

毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。

学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。

皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。

授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly listening and speaking ability.

specifically, you will learn how to give a presentation.

First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.

Then, you will make and give a presentation on a specific topic.

By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.

In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

LANe100LA

English 2 - I

LANe100LA

English 2 - I

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語ニュースの映像を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。CNN News を教材にして世界を視野に取めながら、再生エネルギー、環境問題、移民問題などのホットなテーマについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】
・時事問題に関する英語情報にアクセスする基礎的な能力を持つ。
・そうした情報から自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力が養われている。
・幅広いニュースソースに当たる必要を理解し、関連する情報リテラシーも身につけている。(これは、同じトピックがいかに異なって伝えられるかを知ってもらうことを通して理解される。よって、CNN 以外のニュースソースも授業では扱う。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】
3回の授業でひとつの Unit を学習する。まずは Unit のエクササイズを一通りこなす。次いで、用意される補助教材を読み（あるいは聞き）、トピックにより馴染むと同時に、それについて複数の視点から考えることができるようになる。最後にグループワークも取り入れながら意見を形成し、英語でそれを発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。テキストの説明。英語に対する関心、苦手意識のアンケート
2	Unit1 (1) Well Suited for Royalty	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
3	Unit1 (2) Well Suited for Royalty	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
4	Unit1 (3) Well Suited for Royalty	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
5	Unit3 (1) Miracle Transformer	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
6	Unit3 (2) Miracle Transformer	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
7	Unit3 (3) Miracle Transformer	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
8	Unit4 (1) Lukewarm Welcome	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
9	Unit4 (2) Lukewarm Welcome	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work

10	Unit4 (3) Lukewarm Welcome	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
11	Unit6 (1) A Different London Tube	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
12	Unit6 (2) A Different London Tube	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
13	Unit6 (3) A Different London Tube	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
14	期末試験	テキストの扱われた Unit から、スピーキングを除く 3 つの技能に関して問題を出題する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。付属の CD やウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示）を聴いておく。語彙の予習。

【テキスト（教科書）】
『CNN ビデオで見る世界のニュース（20）』、朝日出版社、2019 年、1900 円（税別）

【参考書】
・『LINKS 1500 ー大学生のためのトピック別必修英単語ー』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
・綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1444 円（税込）
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題への取り組み、授業内課題）30%、プレゼンテーション 35%、期末試験 35%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
授業では DVD を使う。
授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【その他の重要事項】
辞書を必ず持ってくる。

【Outline and objectives】
You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN news are the main learning materials. They talk about various hot topics such as renewable energy, environmental problems, immigration issues, etc. You are required to form your opinions about these topics to speak out in English.

LANe100LA

English 2 - II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - II 2016 年度以前入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年：英語 2 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語ニュースの映像を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。CNN News を教材にして世界を視野に取めながら、再生エネルギー、環境問題、移民問題などのホットなテーマについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】

・時事問題に関する英語情報にアクセスする基礎的な能力を持つ。
・そうした情報から自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力が養われている。
・幅広いニュースソースに当たる必要を理解し、関連する情報リテラシーも身につけている。(これは、同じトピックがいかに異なって伝えられるかを知ってもらうことを通して理解される。よって、CNN 以外のニュースソースも授業では扱う。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

3 回の授業でひとつの Unit を学習する。まずは Unit のエクササイズを一通りこなす。次いで、用意される補助教材を読み（あるいは聞き）、トピックにより馴染むと同時に、それについて複数の視点から考えることができるようになる。最後にグループワークも取り入れながら意見を形成し、英語でそれを発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの確認	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての確認。テキストの確認。
2	Unit7 (1) Where France Meets Arabia	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
3	Unit7 (2) Where France Meets Arabia	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
4	Unit7 (3) Where France Meets Arabia	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
5	Unit8 (1) Storing It and Sharing It	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
6	Unit8 (2) Storing It and Sharing It	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
7	Unit8 (3) Storing It and Sharing It	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
8	Unit9 (1) Dutch Ingenuity	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
9	Unit9 (2) Dutch Ingenuity	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
10	Unit9 (3) Dutch Ingenuity	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations

11	Unit12 (1) Giant Smog Trap	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
12	Unit12 (2) Giant Smog Trap	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
13	Unit12 (3) Giant Smog Trap	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
14	期末試験	テキストの扱われた Unit から、スピーキングを除く 3 つの技能に関して問題を出題する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。付属の CD やウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示）を聴いておく。語彙の予習。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース（20）』、朝日出版社、2019 年、1900 円（税別）

【参考書】

・『LINKS 1500 —大学生のためのトピック別必修英単語—』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
・綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題への取り組み、授業内課題）30%、プレゼンテーション 35%、期末試験 35%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業では DVD を使う。
授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline and objectives】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN news are the main learning materials. They talk about various hot topics such as renewable energy, environmental problems, immigration issues, etc. You are required to form your opinions about these topics to speak out in English.

LANe100LA

English 2 - I

LANe100LA

English 2 - I

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年：英語 3 組

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN International シリーズ 2019 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

【到達目標】
タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に着けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】
ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の T, F 問題を小テストに充てる。最終的にはニュースの内容に対して、グループワークで意見を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要とテキストの説明 プリント教材
2	Unit 1 英王室新時代！ ハリー王子とメーガンさん婚約	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 1 英王室新時代！ ハリー王子とメーガンさん婚約	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 2 ノーベル平和賞に ICAN 核兵器禁止条約の採択に貢献	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 2 ノーベル平和賞に ICAN 核兵器禁止条約の採択に貢献	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 3 チャーチルそっくりの特殊メイクで辻一弘氏、アカデミー賞受賞	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 3 チャーチルそっくりの特殊メイクで辻一弘氏、アカデミー賞受賞	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 4 昨年認定はわずか 28 人 難民に門戸を閉ざす均質社会日本	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
9	Unit 4 昨年認定はわずか 28 人 難民に門戸を閉ざす均質社会日本	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 5 車いすの天才物理学者 逝く ホーキング博士からのメッセージ	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 5 車いすの天才物理学者 逝く ホーキング博士からのメッセージ	Reading, Judgments to Make, Partial Composition

12

Unit 6
ロンドン地下の「郵便鉄道」が新たな観光路線として復活

Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples

13

Unit 6
ロンドン地下の「郵便鉄道」が新たな観光路線として復活

Reading, Judgments to Make, Partial Composition

14

期末試験

期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
音声ダウンロードして聴いておく。
語彙の予習。

【テキスト（教科書）】
CNN ビデオで見る世界のニュース（20）
朝日出版 1900 円 + 税

【参考書】
辞書必携

【成績評価の方法と基準】
提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】
Unit に関連したプリント教材を配布する。
板書の文字を見やすくする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。
授業では DVD と CD を使う。

【その他の重要事項】
辞書を必ず持ってくる。
欠席は 3 回までとする。
遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
遅刻 20 以上は欠席とする。

【Outline and objectives】
The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

English 2 - II 2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - II 2016 年度以前入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年：英語 3 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2019 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の T, F 問題を小テストに充てる。最終的にはニュースの内容に対して、グループワークで意見を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm-Up	プリント教材
2	Unit 7 ダヴィンチの傑作を展示 ルーブル・アブダビついに開館	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 7 ダヴィンチの傑作を展示 ルーブル・アブダビついに開館	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 8 電力の訳 80% を再エネで賄う！ 独の住宅用蓄電池システム	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 8 電力の訳 80% を再エネで賄う！ 独の住宅用蓄電池システム	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 9 国土の約 4 分の 1 が海面下 オランダが世界に誇る洪水対策	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 9 国土の約 4 分の 1 が海面下 オランダが世界に誇る洪水対策	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 10 実は無類の動物好き！ こわもてブーチンの懐柔法	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
9	Unit 10 実は無類の動物好き！ こわもてブーチンの懐柔法	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 11 返還から 20 年 中国の統制強化 VS. 民主化要求で分断する香港	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 11 返還から 20 年 中国の統制強化 VS. 民主化要求で分断する香港	Reading, Judgments to Make, Partial Composition

12	Unit 12 中国の大気汚染を救う？ スモッグを食べる巨大空気清浄機	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
13	Unit 12 中国の大気汚染を救う？ スモッグを食べる巨大空気清浄機	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声ダウンロードして聴いておく。
語彙の予習。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース（20）
朝日出版 1900 円 + 税

【参考書】

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。
板書の文字を見やすくする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

授業では、DVD および CD を使用する。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。
欠席は 3 回までとする。
遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
遅刻 20 以上は欠席とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - I

2016 年度以前入学者

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像を楽しみながら、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を伸ばす土台を作る。効果的に英語を聞き取り意味をつかむ力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。論理的な構成を持つパラグラフを書く力・文化教養・言語知識の習得を行なう。

【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でそれなりに楽しむことができる。短い会話、ニュース、アナウンス、ナレーションなどが聞きとれ、自分の意思を伝える表現力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、通年で鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。講義と演習に加えて、学生の皆さんには授業内での発表をしてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Andy Meets Miranda (1)	ミランダの面接／レポーターの指名
②	Unit 1 Andy Meets Miranda (2)	ミランダの面接／レポーターの発表
③	Unit 2 Andy's First Day at Runway (1)	アンディの初出勤／レポーターの指名
④	Unit 2 Andy's First Day at Runway (2)	アンディの初出勤／レポーターの発表
⑤	Unit 3 Miranda, the Almighty (1)	すべてはミランダの手の中に／レポーターの指名
⑥	Unit 3 Miranda, the Almighty (2)	すべてはミランダの手の中に／レポーターの発表
⑦	Unit 4 Andy's Metamorphosis (1)	アンディの変身／レポーターの指名
⑧	Unit 4 Andy's Metamorphosis (2)	アンディの変身／レポーターの発表
⑨	Unit 5 Andy Performs a Miracle (1)	アンディ奇跡を起こす／レポーターの指名
⑩	Unit 5 Andy Performs a Miracle (2)	アンディ奇跡を起こす／レポーターの発表
⑪	Intermission The Princess Diaries (1)	アン・ハサウェイが主演する他の作品の一部を鑑賞し、彼女の発音とアクセントに慣れてきたかチェックする。
⑫	Intermission The Princess Diaries (2)	前回に引き続き『プリティ・プリンセス』の一部を鑑賞し、『ブラダを着た悪魔』と比較する。
⑬	復習と期末試験の説明	Unit 1 から Unit 5 の問題演習
⑭	期末試験	試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『ブラダを着た悪魔』、Aline Brosh McKenna, 松柏社、ISBN978-4-88198-636-3, 2200 円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)、宿題 (20%)、平常点 (20%)、授業に対する主体的な参加と貢献 (20%) などを総合して評価する。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心をさらに持ってもらえるように努力します。

【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 - II

2016 年度以前入学者

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年：英語 4 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、音声上の英語運用能力と論理的に構成されたパラグラフを書く力に主眼を置いて、映像を楽しみつつ、4 技能をバランス良く伸ばすための基礎力の仕上げにかかる。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でも楽しむことができる。映画の背景にあるアメリカの文化に関する知識が深まる。通常会話であれば、要点を理解し、適切に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、引き続き鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。講義と演習に加えて、学生の皆さんには授業内での発表をしてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Guidance/ テストの返却	テストの返却
②	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (1)	アンディ株上昇／レポーターの指名
③	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (2)	アンディ株上昇／レポーターの発表
④	Unit 7 Andy's Dilemma (1)	アンディのジレンマ／レポーターの指名
⑤	Unit 7 Andy's Dilemma (2)	アンディのジレンマ／レポーターの発表
⑥	Unit 8 A Night in Paris (1)	パリでの初日／レポーターの指名
⑦	Unit 8 A Night in Paris (2)	パリでの初日／レポーターの発表
⑧	Unit 9 A Plot against Miranda (1)	陰謀／レポーターの指名
⑨	Unit 9 A Plot against Miranda (2)	陰謀／レポーターの発表
⑩	Unit 10 Andy's Final Choice (1)	最後の選択／レポーターの指名
⑪	Unit 10 Andy's Final Choice (2)	最後の選択／レポーターの発表
⑫	Post feminism in popular culture	論文の抜粋を読む。
⑬	復習と期末試験の説明	Unit 6 から Unit 10 の問題演習
⑭	期末試験	試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

春学期と同じ。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)、宿題 (20%)、平常点 (20%)、授業に対する主体的参加と貢献 (20%) などを総合して評価する。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回の授業に参加すること。欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心を持ってもらえるようにさらに努力します。

【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.

2. To promote the development of effective listening skills.

3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.

4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

LANe100LA

English 2 - I2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - I2016 年度以前入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

【到達目標】
誤字脱字、ケアレスミスをなくしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第 1 課	この教科書の使い方 第 1 課 In-Flight Announcements
4	第 1 課	第 1 課続き
5	第 2 課	At Immigration and Customs
6	第 2 課～ 第 3 課	第 2 課続き 第 1 課小テスト
7	第 3 課	Getting to a Hotel
8	第 3 課～ 第 4 課	第 3 課続き 第 2 課小テスト
9	第 4 課	Chacking into a Hotel
10	第 4 課～ 第 5 課	第 3 課小テスト 第 4 課続き
11	第 5 課	Checking in without a Reseration
12	第 5 課～ 第 6 課	第 4 課小テスト 第 5 課続き
13	第 6 課	At a Restaurant
14	授業時試験	第 5 課小テスト 授業で学んだことを試験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
単語帳の作成、書き取り練習に毎日 1 時間充ててほしい。

【テキスト（教科書）】
実用観光英語 -改訂新版- 島田 他著 2019 年 成美堂 1900 円

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。妥当な理由なく 4 回連続欠席した者、学期半ばで 4 回以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

【学生の意見等からの気づき】
英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

【Outline and objectives】
The primary objective of this class is the development of English listening skills.

LANe100LA

English 2 - II2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - II2016 年度以前入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年：英語 5 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語ライティングを学習しながら、自己考察することが求められます。ライティング中心ですが、リーディング、スピーキング、リスニングも学習します。また他の学習者と私と共に、より良い学習環境を構築していくことを目標とします。E メールもクラス外のコミュニケーションで使います。今学期は、narrative essay（物語的なエッセイ）と expository essay（説明的なエッセイ）の二つのタイプのエッセイの書き方を中心に学習します。学期末には、それぞれの自分史を英語で書きます。

【到達目標】
The goal of this course is to give you an opportunity to know and understand yourself better through the process of English writing. This course also aims to enhance your English holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】
1)You will learn writing skills and strategies, learning about topic sentences, English writing organization, or summarizing.
2)You will discuss each topic of your writing with your classmates.
3)You will have a lot of pair work and group work in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	Introduction Setting Goals Self-introduction	I will introduce this course. You will set your goals for this semester and this class. You will write your goals and self-introduction.
2	Japanese English Writers' Typical Writing Patterns Personal Essay (To know yourself)	I will explain Japanese English writers' typical writing patterns. You will write about your self-introduction.
3	Organization Expository Essay (Something you recommend)	I will explain the organization of English academic writing and you will write an expository essay.
4	Cohesion Narrative Writing	You will learn about cohesion and write about your university life.
5	Personal Essay Thank-you Letter	You will learn how to write a letter in English and write a thank-you letter.
6	Translation of your Favorite Japanese Poem or Song into English	You will translate your favorite Japanese poem or song into English and introduce it to your classmates.
7	Business Letters	You will learn how to write a business letter and write your CV.
8	E-mail Writing	You will learn how to write an e-mail in English.
9	The Test of Written English (TWE)'s Essay (TOEFL)	You will write the Test of Written English's essay in the TOEFL.
10	The Process of Writing Essays Brain-storming	You will learn the process of writing essays and do brain-storming for your final essay.
11	Make an Outline of your Final Essay	You will make an outline of your final essay.
12	Peer Revision	You will revise your final paper with your classmate.
13	Self-Revision	You will revise your final paper by yourself.
14	Reflection	You will reflect on your academic achievement in this semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1)to watch or listen to an English program regularly

2)to do assignments, submit them, and meet the deadline

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (30%), weekly, assignments (30%), and final paper (40%)

*If you have four absences per semester without permission or do not submit your final paper, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Nothing in particular, since I did not teach this course last year.

【学生が準備すべき機器他】

Hosei's Educational Online Learning System (H'etude)

【その他の重要事項】

You are expected to participate in this class actively. Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class.

【Outline and objectives】

The goal of this course is to give you an opportunity to know and understand yourself better through the process of English writing. You will write essays in various genres. This course also aims to enhance your English holistically. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

We will use e-mail as means of communication outside the classroom.

In this semester, you will learn narrative and expository essays. You will write your personal history as a final paper at the end of the semester.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 - I

2016 年度以前入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】

さまざまな職業生活に関するインタビューを収録した DVD 教材や、TOEIC®形式のリスニングテスト教材を使い、聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成することで、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキング、発音訓練を行い、スピーチ力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と発音練習によりスピーチに備える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	リスニング、スピーキングと英語プレゼンテーションについて	授業の進め方。成績評価の基準などを説明する
第 2 回	Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	Office 聴解 Unit 1 PR Specialist コメント Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Restaurant 聴解 Unit 2 Advertising Sales Agent 文法問題
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Department Store 聴解 Unit 3 Merchandise Manager 英作文問題
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Airport 聴解 Unit 4 Market Manager コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Bank 聴解 Unit 5 Office Manager 文法問題
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Duty-free Shop 聴解 Unit 6 Sports and Fitness Manager 英作文問題
第 8 回	Listening 小テスト 7 DVD による Dictation 7	Travel 聴解 Unit 7 Fashion Designer コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 写真説明 Speaking 1 プレゼンテーションの方法	Rent-a-Car 聴解 Speaking & Writing TOEIC®写真問題 1 英語 Speech 実演 DVD 視聴 1
第 10 回	Listening 小テスト 9 写真説明 Speaking 2 英文原稿の論理構成	Fitness Center 聴解 Speaking & Writing TOEIC®写真問題 2 原稿作成に備えたプリントによる学習
第 11 回	Listening 小テスト 10 写真説明 Speaking 3 プレゼンテーション原稿作成（1）	Job Training 聴解 Speaking & Writing TOEIC®写真問題 3 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test1・2 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成

第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応答
第 14 回	期末試験	学習内容に関する筆記試験（含リスニング）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Dictation に使うテキストには学生用 DVD がついているので、事前に自宅で聴いて準備ができる。また、テキストは英文スクリプト空欄補充問題なので、文字化されている部分の単語を調べ、読んでくることで、概略をつかむことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認められない。

【テキスト（教科書）】

Career Design on DVD「プロフェッショナルに学ぶキャリアデザイン」塩見佳代子ほか、SEIBIDO.¥2,400

Listening Promoter for the TOEIC® Test, SEIBIDO. 石井隆之ほか、¥1,900

Writing、Presentation、発音についてのプリントを適宜配布する。

【参考書】

「ENGLISH あいうえお」静哲人、文芸春秋。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%）、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50点、平常点 50点で、合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0 点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

DVD が一般人のインタビュー音声なので、口調や言いよどみのせいで聴くのが難しいという意見は毎年出る。しかし、研修などで実生活の英語に触れたり、学内でも英語による講義に対応する必要があるので、こういった音声を利用しての学習は欠かせない。授業はさまざまなヒントを提供して自然に聴解できるよう工夫し、グループで答えをまとめる進め方なので心配はいらない。

【Outline and objectives】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of fifteen interview scripts and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to an interview in a DVD. The DVD has fifteen interviewees of different occupations such as PR Specialist, Advertising Sales Agent, Merchandise Manager, Marketing Manager, Office Manager, Sports and Fitness Manager, Fashion Designer, Recreation-Worker, Pre-School Teacher, Hotel Manager, Interior Designer, Photographer, and so on. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation. This enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - II

2016 年度以前入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年：英語 6 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】

さまざまな職業生活に関するインタビューを収録した DVD 教材や、TOEIC®形式のリスニングテスト教材を使い、聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成することで、自分の言いたいことを英語表現力を高める。また、写真説明スピーキング、発音訓練を行い、スピーチ力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と発音練習によりスピーチに備える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の話し言葉と書き言葉	スピーチ原稿からレポート、エッセイへ
第 2 回	英文を書くときの形式 Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	レポート作成 Business Trip 聴解 Unit 8 Recreation Worker コメント Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Vacation 聴解 Unit 9 Pre-School Teacher 文法問題
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Pay 聴解 Unit 10 Hotel Manager 英作文問題
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Exhibition 聴解 Unit 11 Interior Designer コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Shopping 聴解 Unit 12 Video Editor 文法問題
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Hospital 聴解 Unit 13 Desktop Publishing 英作文問題
第 8 回	Listening 小テスト 7 DVD による Dictation 7	Train Station 聴解 Unit 14 Event Planner コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 DVD による Dictation 8	Presentation 聴解 Unit 15 Photographer コメント Writing
第 10 回	Listening 小テスト 9 写真説明 Speaking	Lecture 聴解 Speaking & Writing TOEIC®写真問題 発音練習 1
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原稿作成（1）	Contract 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 発音練習 2
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test3・4 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 発音練習 3
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Dictation に使うテキストには学生用 DVD がついているので、事前に自宅で聴いて準備ができる。また、テキストは英文スクリプト空欄補充問題なので、文字化されている部分の単語を調べ、読んでくことで、概略をつかむことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認められない。

【テキスト（教科書）】

Career Design on DVD「プロフェッショナルに学ぶキャリアデザイン」塩見佳代子ほか、SEIBIDO.¥2,400

Listening Promoter for the TOEIC® Test, SEIBIDO. 石井隆之ほか、¥1,900

Writing、Presentation、発音についてのプリントを適宜配布する。

【参考書】

「ENGLISH あいうえお」静哲人、文芸春秋。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%）、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50点、平常点 50点で、合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

DVD が一般人のインタビュー音声なので、口調や言いよどみのせいで聴くのが難しいという意見は毎年出る。しかし、研修などで実生活の英語に触れたり、学内でも英語による講義に対応する必要があるので、こういった音声を利用した学習は欠かせない。授業はさまざまなヒントを提供して自然に聴解できるよう工夫し、グループで答えをまとめる進め方なので心配はいらない。

【Outline and objectives】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of fifteen interview scripts and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to an interview in a DVD. The DVD has fifteen interviewees of different occupations such as PR Specialist, Advertising Sales Agent, Merchandise Manager, Marketing Manager, Office Manager, Sports and Fitness Manager, Fashion Designer, Recreation-Worker, Pre-School Teacher, Hotel Manager, Interior Designer, Photographer, and so on. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation. This enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - I

2016 年度以前入学者

小堀 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1 年：英語 7 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話することができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス クラスメート紹介	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 クラスメートにインタビューし、それをまとめて発表する。
第 2 回	尊敬する人・好きな人	自分が尊敬する人・好きな人は誰かを考えて、その理由などをまとめてみる。
第 3 回	リスニング	プレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	リスニング	プレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 5 回	プレゼンテーション原稿の作成	自分が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションの原稿を書く。
第 6 回	プレゼンテーション	各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 7 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 8 回	ツアー・休暇の過ごし方を提案する	自分が思う最高・最良のツアーや休暇の過ごし方を考え、話し合う。
第 9 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 10 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 11 回	プレゼンテーション原稿の作成	ツアーや休暇の過ごし方を提案するプレゼンテーションの原稿を作成する。
第 12 回	プレゼンテーション	各自がプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。

第13回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第14回	授業内試験	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んでおく。授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第3版、ケンブリッジ大学出版。英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（30%）、授業内プレゼンテーション（70%）の合計で評価します。60点以上で合格です。

4回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation. First, you will understand the way of organizing a presentation. This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation. Then, you will make and give a presentation on a specific topic. By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically. In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

LANe100LA

English 2-II

2017年度以降入学者

LANe100LA

English 2-II

2016年度以前入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1年：英語 7組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言葉の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 今時の若者	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 自分たちのライフスタイルなどに関するインタビューを考え、クラスメートにインタビューし、それをまとめる。
第2回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第3回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第4回	プレゼンテーション	今時の若者に関するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第5回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第6回	説明しよう！	自分が知らないことについて考え、調べ、まとめる。
第7回	リスニング	物事を説明するプレゼンテーションを聞き、理解して、その構成を学ぶ。
第8回	プレゼンテーション	各自が関心を持っている事を説明するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第9回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第10回	自分の意見をいう	何かに対して賛成か反対か、自分の態度を決め、その理由を述べるために考える。
第11回	リスニング	自分の意見を述べているプレゼンテーションを聞き、理解して、その構成を学ぶ。

第12回	プレゼンテーション	自分の意見を述べるプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第13回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。また、日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第14回	授業内試験	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験(エッセイ・ライティング)を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んでおく。授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第3版、ケンブリッジ大学出版。英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（30%）、授業内プレゼンテーション（70%）の合計で評価します。60点以上で合格です。

4回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。

毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。

学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。

皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。

授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly listening and speaking ability.

specifically, you will learn how to give a presentation.

First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.

Then, you will make and give a presentation on a specific topic.

By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.

In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

LANe100LA

English 2 - I

2017年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - I

2016年度以前入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1年：英語 8組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語ニュースの映像を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。CNN Newsを教材にして世界を視野に取めながら、再生エネルギー、環境問題、移民問題などのホットなテーマについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】

・時事問題に関する英語情報にアクセスする基礎的な能力を持つ。

・そうした情報から自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力が養われている。

・幅広いニュースソースに当たる必要を理解し、関連する情報リテラシーも身につけている。(これは、同じトピックがいかに異なって伝えられるかを知ってもらうことを通して理解される。よって、CNN以外のニュースソースも授業では扱う。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

3回の授業でひとつのUnitを学習する。まずはUnitのエクササイズを一通りこなす。次いで、用意される補助教材を読み(あるいは聞き)、トピックにより馴染むと同時に、それについて複数の視点から考えることができるようになる。最後にグループワークも取り入れながら意見を形成し、英語でそれを発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。テキストの説明。英語に対する関心、苦手意識のアンケート
2	Unit1 (1) Well Suited for Royalty	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
3	Unit1 (2) Well Suited for Royalty	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
4	Unit1 (3) Well Suited for Royalty	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
5	Unit3 (1) Miracle Transformer	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
6	Unit3 (2) Miracle Transformer	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
7	Unit3 (3) Miracle Transformer	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
8	Unit4 (1) Lukewarm Welcome	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
9	Unit4 (2) Lukewarm Welcome	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work

10	Unit4 (3) Lukewarm Welcome	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations Text
11	Unit6 (1) A Different London Tube	-Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in Text
12	Unit6 (2) A Different London Tube	-Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
13	Unit6 (3) A Different London Tube	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
14	期末試験	テキストの扱われた Unit から、スピーキングを除く 3つの技能に関して問題を出題する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。付属の CD やウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示）を聴いておく。語彙の予習。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース（20）』、朝日出版社、2019 年、1900 円（税別）

【参考書】

・『LINKS 1500 ―大学生のためのトピック別必修英単語―』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）

・綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）

・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）

その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題への取り組み、授業内課題）30%、プレゼンテーション 35%、期末試験 35%

欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業では DVD を使う。

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline and objectives】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN news are the main learning materials. They talk about various hot topics such as renewable energy, environmental problems, immigration issues, etc. You are required to form your opinions about these topics to speak out in English.

LANe100LA	
English 2 - II	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
English 2 - II	2016 年度以前入学者
森永 豊	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：木 1/Thu.1
環 1 年：英語 8 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語ニュースの映像を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。CNN News を教材にして世界を視野に取めながら、再生エネルギー、環境問題、移民問題などのホットなテーマについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】

・時事問題に関する英語情報にアクセスする基礎的な能力を持つ。

・そうした情報から自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力が養われている。

・幅広いニュースソースに当たる必要を理解し、関連する情報リテラシーも身につけている。（これは、同じトピックがいかに異なって伝えられるかを知ってもらうことを通して理解される。よって、CNN 以外のニュースソースも授業では扱う。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

3回の授業でひとつの Unit を学習する。まずは Unit のエクササイズを一通りこなす。次いで、用意される補助教材を読み（あるいは聞き）、トピックにより馴染むと同時に、それについて複数の視点から考えることができるようになる。最後にグループワークも取り入れながら意見を形成し、英語でそれを発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの確認	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての確認。テキストの確認。
2	Unit7 (1) Where France Meets Arabia	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
3	Unit7 (2) Where France Meets Arabia	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
4	Unit7 (3) Where France Meets Arabia	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
5	Unit8 (1) Storing It and Sharing It	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
6	Unit8 (2) Storing It and Sharing It	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
7	Unit8 (3) Storing It and Sharing It	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
8	Unit9 (1) Dutch Ingenuity	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
9	Unit9 (2) Dutch Ingenuity	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
10	Unit9 (3) Dutch Ingenuity	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations

11	Unit12 (1) Giant Smog Trap	Text -Warm Up, Words and Phrases to Study, Blanks to Fill in
12	Unit12 (2) Giant Smog Trap	Text -Judgments to Make, Partial Composition Sub Materials -Read and Listen Forming Your Opinion -Group Work
13	Unit12 (3) Giant Smog Trap	Forming Your Opinion -Group Work -Short Presentations
14	期末試験	テキストの扱われた Unit から、スピーキングを除く 3 つの技能に関して問題を出題する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。付属の CD やウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示）を聴いておく。語彙の予習。

【テキスト（教科書）】

「CNN ビデオで見る世界のニュース（20）」、朝日出版社、2019 年、1900 円（税別）

【参考書】

・「LINKS 1500 ―大学生のためのトピック別必修英単語―」、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
・綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
・「Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード英語類語活用辞典」、オックスフォード大学出版局、2008 年、4700 円（税別）
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題への取り組み、授業内課題）30%、プレゼンテーション 35%、期末試験 35%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業では DVD を使う。
授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持つてくる。

【Outline and objectives】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN news are the main learning materials. They talk about various hot topics such as renewable energy, environmental problems, immigration issues, etc. You are required to form your opinions about these topics to speak out in English.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - I

2016 年度以前入学者

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2019 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の T, F 問題を小テストに充てる。最終的にはニュースの内容に対して、グループワークで意見を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要およびテキストの説明 プリント教材
2	Unit 1 英王室新時代！ ハリー王子とメーガンさん婚約	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 1 英王室新時代！ ハリー王子とメーガンさん婚約	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 2 ノーベル平和賞に ICAN 核兵器禁止条約の採択に貢献	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 2 ノーベル平和賞に ICAN 核兵器禁止条約の採択に貢献	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 3 チャーチルそっくりの特殊メイクで辻一弘氏、アカデミー賞受賞	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 3 チャーチルそっくりの特殊メイクで辻一弘氏、アカデミー賞受賞	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 4 昨年の認定はわずか 28 人 難民に門戸を閉ざす均質社会日本	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
9	Unit 4 昨年の認定はわずか 28 人 難民に門戸を閉ざす均質社会日本	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 5 車いすの天才物理学者 逝く ホーキング博士からのメッセージ	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 5 車いすの天才物理学者 逝く ホーキング博士からのメッセージ	Reading, Judgments to Make, Partial Composition

12	Unit 6 ロンドン地下の「郵便鉄 道」が新たな観光路線と して復活	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
13	Unit 6 ロンドン地下の「郵便鉄 道」が新たな観光路線と して復活	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声ダウンロードして聴いておく。
語彙の予習。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース（20）
朝日出版 1900 円 + 税

【参考書】

特になし
辞書必携

【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。
板書の文字を見やすくする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
授業では DVD と CD を使う。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。
欠席は 3 回までとする。
遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
遅刻 20 分以上は欠席とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - II

2016 年度以前入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1 年：英語 9 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2019 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の T, F 問題を小テストに充てる。最終的にはニュースの内容に対して、グループワークで意見を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warming up	プリント教材
2	Unit 7 ダヴィンチの傑作を展示 ループル・アブダビついに開館	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 7 ダヴィンチの傑作を展示 ループル・アブダビついに開館	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 8 電力の訳 80% を再エネで賄う！ 独の住宅用蓄電池システム	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 8 電力の訳 80% を再エネで賄う！ 独の住宅用蓄電池システム	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 9 国土の約 4 分の 1 が海面下 オランダが世界に誇る洪水対策	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 9 国土の約 4 分の 1 が海面下 オランダが世界に誇る洪水対策	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 10 実は無類の動物好き！ こわもてプーチンの懐柔法	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
9	Unit 10 実は無類の動物好き！ こわもてプーチンの懐柔法	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 11 返還から 20 年 中国の統制強化 VS. 民主化要求で分断する香港	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 11 返還から 20 年 中国の統制強化 VS. 民主化要求で分断する香港	Reading, Judgments to Make, Partial Composition

12	Unit 12 中国の大気汚染を救う？ スモッグを食べる巨大空 気清浄機	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
13	Unit 12 中国の大気汚染を救う？ スモッグを食べる巨大空 気清浄機	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声ダウンロードして聴いておく。
語彙の予習。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース（20）
朝日出版 1900 円 + 税

【参考書】

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。
板書の文字を見やすくする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
授業では、DVD および CD を使用する。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持つてくる。
欠席は 3 回までとする。
遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
遅刻 20 分以上は欠席とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - I

2016 年度以前入学者

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像を楽しみながら、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を伸ばす土台を作る。効果的に英語を聞き取り意味をつかむ力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。論理的な構成を持つパラグラフを書く力・文化教養・言語知識の習得を行なう。

【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でそれなりに楽しむことができる。短い会話、ニュース、アナウンス、ナレーションなどが聞きとれ、自分の意思を伝える表現力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、通年で鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。講義と演習に加えて、学生の皆さんには授業内での発表をしてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Andy Meets Miranda (1)	ミランダの面接／レポーターの指名
②	Unit1 Andy Meets Miranda (2)	ミランダの面接／レポーターの発表
③	Unit 2 Andy's First Day at Runway (1)	アンディの初出勤／レポーターの指名
④	Unit 2 Andy's First Day at Runway (2)	アンディの初出勤／レポーターの発表
⑤	Unit 3 Miranda, the Almighty (1)	すべてはミランダの手の中に／レポーターの指名
⑥	Unit 3 Miranda, the Almighty (2)	すべてはミランダの手の中に／レポーターの発表
⑦	Unit 4 Andy's Metamorphosis (1)	アンディの変身／レポーターの指名
⑧	Unit 4 Andy's Metamorphosis (2)	アンディの変身／レポーターの発表
⑨	Unit 5 Andy Performs a Miracle (1)	アンディ奇跡を起こす／レポーターの指名
⑩	Unit 5 Andy Performs a Miracle (2)	アンディ奇跡を起こす／レポーターの発表
⑪	Intermission The Princess Diaries (1)	アン・ハサウェイが主演する他の作品の一部を鑑賞し、彼女の発音とアクセントに慣れてきたかチェックする。
⑫	Intermission The Princess Diaries (2)	前回に引き続き『プリティ・プリンセス』の一部を鑑賞し、『ブラダを着た悪魔』と比較する。
⑬	復習と期末試験の説明	Unit 1 から Unit 5 の問題演習
⑭	期末試験	試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『ブラダを着た悪魔』、Aline Brosh McKenna, 松柏社、ISBN978-4-88198-636-3, 2200 円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)、宿題 (20%)、平常点 (20%)、授業に対する主体的な参加と貢献 (20%) などを総合して評価する。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心をさらに持ってもらえるように努力します。

【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - II

2016 年度以前入学者

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1 年：英語 10 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、音声上の英語運用能力と論理的に構成されたパラグラフを書く力に主眼を置いて、映像を楽しみつつ、4 技能をバランス良く伸ばすための基礎力の仕上げにかかる。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でも楽しむことができる。映画の背景にあるアメリカの文化に関する知識が深まる。通常会話であれば、要点を理解し、適切に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、引き続き鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。講義と演習に加えて、学生の皆さんには授業内での発表をしてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Guidance/ テストの返却	テストの返却
②	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (1)	アンディ株上昇／レポーターの指名
③	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (2)	アンディ株上昇／レポーターの発表
④	Unit 7 Andy's Dilemma (1)	アンディのジレンマ／レポーターの指名
⑤	Unit 7 Andy's Dilemma (2)	アンディのジレンマ／レポーターの発表
⑥	Unit 8 A Night in Paris (1)	パリでの初日／レポーターの指名
⑦	Unit 8 A Night in Paris (2)	パリでの初日／レポーターの発表
⑧	Unit 9 A Plot against Miranda (1)	陰謀／レポーターの指名
⑨	Unit 9 A Plot against Miranda (2)	陰謀／レポーターの発表
⑩	Unit 10 Andy's Final Choice (1)	最後の選択／レポーターの指名
⑪	Unit 10 Andy's Final Choice (2)	最後の選択／レポーターの発表
⑫	Post feminism in popular culture	論文の抜粋を読む。
⑬	復習と期末試験の説明	Unit 6 から Unit 10 の問題演習
⑭	期末試験	試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。

【テキスト（教科書）】

春学期と同じ。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)、宿題 (20%)、平常点 (20%)、授業に対する主体的参加と貢献 (20%) などを総合して評価する。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に参加すること。欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心を持ってもらえるようにさらに努力します。

【Outline and objectives】

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.

- 2. To promote the development of effective listening skills.
- 3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
- 4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

LANe100LA

English 2- I

LANe100LA

English 2- I

高橋 佳江

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
環 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニングではカタカナ英語とネイティブの発音の違いを学び、実際に発音できるようにする。また、5 文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。

【到達目標】

時事英語、ニュースの英語を聴いて大意がわかるようになる。また、英文を書く際には、誤字脱字、ケアレスミスをなくしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する。 基本、1 回半で 1 課進む。1 課が終わるごとに小テストを行う。 従って、新しい課に入る前に前の課の小テストを行うことになる。
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第 1 課 Learning How to Ask Questions	この教科書の使い方 第 1 課 (各課) リスニング・シャドーイング
4	第 1 課	第 1 課続き
5	第 2 課 Oceans Hold more Plastic than Fish by 2050	第 1 課小テスト 第 2 課続き
6	第 2 課～	第 2 課続き
7	第 3 課 Is Your Plan Sustainable?	第 2 課小テスト 第 3 課続き
8	第 3 課～	第 3 課続き
9	第 4 課 Saving Wild Areas May Have Unexpected Results	第 3 課小テスト 第 4 課続き
10	第 4 課～	第 4 課続き
11	第 5 課 Freedom House: Internet Continues to Become Less Free	第 4 課小テスト 第 5 課続き
12	第 5 課～	第 5 課続き
13	第 6 課 New Drones Could Improve Weather Predictions	第 5 課小テスト
14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語帳の作成、書き取り練習に毎日 1 時間充ててほしい。

【テキスト（教科書）】

VOA ラーニングイングリッシュで世界を読む 倉本 他著 2018 年 三修社 1700 円

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %・小テスト・レポート課題 10 %・平常点 10 %。欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。妥当な理由なく 4 回連続欠席した者、学期半ばで 4 回以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - II

2016 年度以前入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1 年：英語 11 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語ライティングを学習しながら、自己考察することが求められます。ライティング中心ですが、リーディング、スピーキング、リスニングも学習します。また他の学習者と私と共に、より良い学習環境を構築していくことを目標とします。E メールもクラス外のコミュニケーションで使います。今学期は、**narrative essay**（物語的なエッセイ）と **expository essay**（説明的なエッセイ）の二つのタイプのエッセイの書き方を中心に学習します。学期末には、それぞれの自分史を英語で書きます。

【到達目標】

The goal of this course is to give you an opportunity to know and understand yourself better through the process of English writing. This course also aims to enhance your English holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

- 1)You will learn writing skills and strategies, learning about topic sentences, English writing organization, or summarizing.
- 2)You will discuss each topic of your writing with your classmates.
- 3)You will have a lot of pair work and group work in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Setting Goals Self-introduction	I will introduce this course. You will set your goals for this semester and this class. You will write your goals and self-introduction.
2	Japanese English Writers' Typical Writing Patterns Personal Essay (To know yourself)	I will explain Japanese English writers' typical writing patterns. You will write about your self-introduction.
3	Organization Expository Essay (Something you recommend)	I will explain the organization of English academic writing and you will write an expository essay.
4	Cohesion	You will learn about cohesion and write about your university life.
5	Narrative Writing Personal Essay Thank-you Letter	You will learn how to write a letter in English and write a thank-you letter.
6	Translation of your Favorite Japanese Poem or Song into English	You will translate your favorite Japanese poem or song into English and introduce it to your classmates.
7	Business Letters	You will learn how to write a business letter and write your CV.
8	E-mail Writing	You will learn how to write an e-mail in English.
9	The Test of Written English (TWE)'s Essay (TOEFL)	You will write the Test of Written English's essay in the TOEFL.
10	The Process of Writing Essays Brain-storming	You will learn the process of writing essays and do brain-storming for your final essay.
11	Make an Outline of your Final Essay	You will make an outline of your final essay.
12	Peer Revision	You will revise your final paper with your classmate.
13	Self-Revision	You will revise your final paper by yourself.
14	Reflection	You will reflect on your academic achievement in this semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1)to watch or listen to an English program regularly

2)to do assignments, submit them, and meet the deadline

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (30%), weekly, assignments (30%), and final paper (40%)

*If you have four absences per semester without permission or do not submit your final paper, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Nothing in particular, since I did not teach this course last year.

【学生が準備すべき機器他】

Hosei's Educational Online Learning System (H'etude)

【その他の重要事項】

You are expected to participate in this class actively. Good manners and collaborative learning are important in this class. You need to contact me when you are absent from class.

【Outline and objectives】

The goal of this course is to give you an opportunity to know and understand yourself better through the process of English writing. You will write essays in various genres. This course also aims to enhance your English holistically. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

We will use e-mail as means of communication outside the classroom.

In this semester, you will learn narrative and expository essays. You will write your personal history as a final paper at the end of the semester.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 - I

2016 年度以前入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】

さまざまな職業生活に関するインタビューを収録した DVD 教材や、TOEIC®形式のリスニングテスト教材を使い、聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成することで、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキング、発音訓練を行い、スピーチ力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と発音練習によりスピーチに備える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	リスニング、スピーキングと英語プレゼンテーションについて	授業の進め方。成績評価の基準などを説明する
第 2 回	Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	Office 聴解 Unit 1 PR Specialist コメント Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Restaurant 聴解 Unit 2 Advertising Sales Agent 文法問題
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Department Store 聴解 Unit 3 Merchandise Manager 英作文問題
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Airport 聴解 Unit 4 Market Manager コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Bank 聴解 Unit 5 Office Manager 文法問題
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Duty-free Shop 聴解 Unit 6 Sports and Fitness Manager 英作文問題
第 8 回	Listening 小テスト 7 DVD による Dictation 7	Travel 聴解 Unit 7 Fashion Designer コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 写真説明 Speaking 1 プレゼンテーションの方法	Rent-a-Car 聴解 Speaking & Writing TOEIC®写真問題 1 英語 Speech 実演 DVD 視聴 1
第 10 回	Listening 小テスト 9 写真説明 Speaking 2 英文原稿の論理構成	Fitness Center 聴解 Speaking & Writing TOEIC®写真問題 2 原稿作成に備えたプリントによる学習
第 11 回	Listening 小テスト 10 写真説明 Speaking 3 プレゼンテーション原稿作成（1）	Job Training 聴解 Speaking & Writing TOEIC®写真問題 3 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test1・2 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成

第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応答
第 14 回	期末試験	学習内容に関する筆記試験（含リスニング）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Dictation に使うテキストには学生用 DVD がついているので、事前に自宅で聴いて準備ができる。また、テキストは英文スクリプト空欄補充問題なので、文字化されている部分の単語を調べ、読んでくることで、概略をつかむことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認められない。

【テキスト（教科書）】

Career Design on DVD「プロフェッショナルに学ぶキャリアデザイン」塩見佳代子ほか、SEIBIDO.¥2,400

Listening Promoter for the TOEIC® Test, SEIBIDO. 石井隆之ほか、¥1,900

Writing、Presentation、発音についてのプリントを適宜配布する。

【参考書】

「ENGLISH あいうえお」静哲人、文芸春秋。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%）、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50点、平常点 50点で、合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0 点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

DVD が一般人のインタビュー音声なので、口調や言いよどみのせいで聴くのが難しいという意見は毎年出る。しかし、研修などで実生活の英語に触れたり、学内でも英語による講義に対応する必要があるので、こういった音声を利用しての学習は欠かせない。授業はさまざまなヒントを提供して自然に聴解できるよう工夫し、グループで答えをまとめる進め方なので心配はいらない。

【Outline and objectives】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of fifteen interview scripts and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to an interview in a DVD. The DVD has fifteen interviewees of different occupations such as PR Specialist, Advertising Sales Agent, Merchandise Manager, Marketing Manager, Office Manager, Sports and Fitness Manager, Fashion Designer, Recreation-Worker, Pre-School Teacher, Hotel Manager, Interior Designer, Photographer, and so on. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation. This enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing.

LANe100LA

English 2-II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2-II

2016 年度以前入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1 年：英語 12 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】

さまざまな職業生活に関するインタビューを収録した DVD 教材や、TOEIC®形式のリスニングテスト教材を使い、聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成することで、自分の言いたいことを英語表現力を高める。また、写真説明スピーキング、発音訓練を行い、スピーチ力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と発音練習によりスピーチに備える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の話し言葉と書き言葉	スピーチ原稿からレポート、エッセイへ
第 2 回	英文を書くときの形式 Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	レポート作成 Business Trip 聴解 Unit 8 Recreation Worker コメント Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Vacation 聴解 Unit 9 Pre-School Teacher 文法問題
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Pay 聴解 Unit 10 Hotel Manager 英作文問題
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Exhibition 聴解 Unit 11 Interior Designer コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Shopping 聴解 Unit 12 Video Editor 文法問題
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Hospital 聴解 Unit 13 Desktop Publishing 英作文問題
第 8 回	Listening 小テスト 7 DVD による Dictation 7	Train Station 聴解 Unit 14 Event Planner コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 DVD による Dictation 8	Presentation 聴解 Unit 15 Photographer コメント Writing
第 10 回	Listening 小テスト 9 写真説明 Speaking	Lecture 聴解 Speaking & Writing TOEIC®写真問題 発音練習 1
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原稿作成（1）	Contract 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 発音練習 2
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test3・4 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 発音練習 3
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Dictation に使うテキストには学生用 DVD がついているので、事前に自宅で聴いて準備ができる。また、テキストは英文スクリプト空欄補充問題なので、文字化されている部分の単語を調べ、読んでくることで、概略をつかむことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したものの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認められない。

【テキスト（教科書）】

Career Design on DVD「プロフェッショナルに学ぶキャリアデザイン」塩見佳代子ほか、SEIBIDO.¥2,400
Listening Promoter for the TOEIC® Test, SEIBIDO. 石井隆之ほか、¥1,900
Writing、Presentation、発音についてのプリントを適宜配布する。

【参考書】

「ENGLISH あいうえお」静哲人、文芸春秋。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%（授業参加度10%、Listening 小テスト平均点10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声10%、その他授業内課題10%）、期末試験50%。よって、評価点は試験50点、平常点50点で、合計100点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も0点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。なお、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

DVD が一般人のインタビュー音声なので、口調や言いよどみのせいで聴くのが難しいという意見は毎年出る。しかし、研修などで実生活の英語に触れたり、学内でも英語による講義に対応する必要がある中で、こういった音声を利用した学習は欠かせない。授業はさまざまなヒントを提供して自然に聴解できるよう工夫し、グループで答えをまとめる進め方なので心配はいらない。

【Outline and objectives】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of fifteen interview scripts and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to an interview in a DVD. The DVD has fifteen interviewees of different occupations such as PR Specialist, Advertising Sales Agent, Merchandise Manager, Marketing Manager, Office Manager, Sports and Fitness Manager, Fashion Designer, Recreation-Worker, Pre-School Teacher, Hotel Manager, Interior Designer, Photographer, and so on. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation. This enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - I

2016 年度以前入学者

ストックウェル・エスター

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年：上級クラス

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the text book, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course	Overview of English 2-I subject and explaining online activities
Unit 1	Greetings & small talk	Listening for greetings and introduction
Unit 2	Making weekend plans	Listening for gist and time and number
Unit 3	Making complains	Listening for jobs, gist and details
Unit 4	Asking for reasons	Listening for reasons and details
Unit 5	Talking about people	Listening for praise or criticism and gist
Unit 6	Travel stories	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 2 to week 7 / After testing, check the test content
Unit 7	Talking about housing	Listening for negative and positive information
Unit 8	Telling stories	Listening for gist and details
Unit 9	Invitations	Listening for gist and details
Unit 10	Giving opinions	Listening for agreement and disagreement
Unit 11	Talking about a vacation City improvement	Listening for gist and details Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 9 to week 13 / After the test, check the test content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class.

【テキスト（教科書）】

書 名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)
著者名: Jack C. Richards with Grant Trew
発行所: Oxford University Press

【参考書】

Listening website for this class:
www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%).

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class and if they miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - II

2016 年度以前入学者

ストックウェル・エスター

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年：上級クラス

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the text book, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 13	Talking about celebrations	Overview of English 2-II subject and Listening for gist, details, likes and dislikes
Unit 14	Describing clothes, time and numbers	Listening for gist and time and number
Unit 15	Asking about preferences	Listening for agreement and disagreement
Unit 16	Leaving messages	Listening for topics and details
Unit 17	Talking about time	Listening for sequence and making predictions
Unit 18	Talking about vacations	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 1 to week 6 / After testing, check the test content
Unit 19	Talking about current events	Listening for topics and details
Unit 20	Expressing your views	Listening for gist, details, opinions and reasons
Unit 21	Famous lives	Listening for gist, detail and sequence
Unit 22	Eating habits	Listening for suggestions and sequence
Unit 23	Talking about difficult situations	Listening for details and attitudes
Unit 24	Talking about problems	Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 8 to week 13 / After testing, check the test content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class.

【テキスト（教科書）】

書 名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

【参考書】

Listening website for this class:

www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%).

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class and if they miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

E n g l i s h 2 - I

2016 年度以前入学者

ストックウェル・エスター

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
環 1 年：上級クラス

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the text book, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course	Overview of English 2-I subject and explaining online activities
Unit 1	Greetings & small talk	Listening for greetings and introduction
Unit 2	Making weekend plans	Listening for gist and time and number
Unit 3	Making complains	Listening for jobs, gist and details
Unit 4	Asking for reasons	Listening for reasons and details
Unit 5	Talking about people	Listening for praise or criticism and gist
Unit 6	Travel stories	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 2 to week 7 / After testing, check the test content
Unit 7	Talking about housing	Listening for negative and positive information
Unit 8	Telling stories	Listening for gist and details
Unit 9	Invitations	Listening for gist and details
Unit 10	Giving opinions	Listening for agreement and disagreement
Unit 11	Talking about a vacation	Listening for gist and details
	City improvement	Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 9 to week 13 / After the test, check the test content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class.

【テキスト（教科書）】

書 名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

【参考書】

Listening website for this class:

www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%).

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class and if they miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

English 2 - II

2016 年度以前入学者

ストックウェル・エスター

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1 年：上級クラス

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the text book, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Unit 13	Talking about celebrations	Overview of English 2-II subject and Listening for gist, details, likes and dislikes
Unit 14	Describing clothes, time and numbers	Listening for gist and time and number
Unit 15	Asking about preferences	Listening for agreement and disagreement
Unit 16	Leaving messages	Listening for topics and details
Unit 17	Talking about time	Listening for sequence and making predictions
Unit 18	Talking about vacations	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 1 to week 6 / After testing, check the test content
Unit 19	Talking about current events	Listening for topics and details
Unit 20	Expressing your views	Listening for gist, details, opinions and reasons
Unit 21	Famous lives	Listening for gist, detail and sequence
Unit 22	Eating habits	Listening for suggestions and sequence
Unit 23	Talking about difficult situations	Listening for details and attitudes
Unit 24	Talking about problems	Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 8 to week 13 / After testing, check the test content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class.

【テキスト（教科書）】

書 名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

【参考書】

Listening website for this class:

www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%).

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class and if they miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

【Outline and objectives】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

LANe100LA

英語 1－I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1－I

2016 年度以前入学者

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

キ 1 年：英語 a 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The New York Times の記事を題材として、経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、発表などを通して、教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では **exercise** を解きながら精読し、トピックを選んで自分の意見を英文でまとめるところまで行う。グループワークで進めることが多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	テキストの説明 および 授業の進め方の説明
2	Unit 2 Japan's Pollution Diet	Key words, Reading
3	Unit 2 Japan's Pollution Diet	Exercises
4	Unit 3 Without Babies, Can Japan Survive?	Key words, Reading
5	Unit 3 Without Babies, Can Japan Survive?	Exercises
6	Unit 4 Safe Food for Japan	Key words, Reading
7	Unit 4 Safe Food for Japan	Exercises
8	Unit 5 Timing a Rise in Sea Level	Key words, Reading
9	Unit 5 Timing a Rise in Sea Level	Exercises
10	Unit 6 What to Make of a Warming Plateau	Key words, Reading
11	Unit 6 What to Make of a Warming Plateau	Exercises
12	Unit 7 The Decline of E-Empires	Key words, Reading
13	Unit 7 The Decline of E-Empires	Exercises
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙の予習

【テキスト（教科書）】

Reading The New York Times 2
ニューヨークタイムズで高める英語と国際教養
成美堂 2100 円＋税

【参考書】

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。
板書の文字を見やすくする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。授業では CD を使用する。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。
欠席は 3 回までとする。
遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
遅刻 20 分以上は欠席とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through The New York Times.

LANe100LA

英語 1 – II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 – II

2016 年度以前入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

キ 1 年：英語 a 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The New York Times の記事を題材として、経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、発表などを通して、教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DPI1

【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では **exercise** を解きながら精読し、トピックを選んで自分の意見を英文でまとめるところまで行う。グループワークで進めることが多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm-Up	プリント教材
2	Unit 8 Abu Dhabi Company Searches for Greener method of Desalination	Key Words, Reading
3	Unit 8 Abu Dhabi Company Searches for Greener method of Desalination	Exercises
4	Unit 9 British employers see Value in Europe-Wide Labor Pool	Key Words, Reading
5	Unit 9 British employers see Value in Europe-Wide Labor Pool	Exercises
6	Unit 10 Hopes for Renewal in Japan, but Also a Host of Challengers	Key Words, Reading
7	Unit 10 Hopes for Renewal in Japan, but Also a Host of Challengers	Exercises
8	Unit 11 Madrid and Istanbul Respond Differently to Rejection by Olympics	Key Words, Reading
9	Unit 11 Madrid and Istanbul Respond Differently to Rejection by Olympics	Exercises
10	Unit 12 Need a Job? Invent It	Key Words, Reading
11	Unit 12 Need a Job? Invent It	Exercises
12	Unit 14 Myanmar's educators Reach Out to the World	Key Words, Reading
13	Unit 14 Myanmar's educators Reach Out to the World	Exercises
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙の予習

【テキスト（教科書）】

Reading The New York Times 2

ニューヨークタイムズで高める英語と国際教養
成美堂 2100 円＋税

【参考書】

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。
板書の文字を見やすくする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

授業では CD を使用する予定。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

欠席は 3 回までとする。

遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

遅刻 20 分以上は欠席とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through The New York Times.

LANe100LA

英語 1 － I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 － I

2016 年度以前入学者

高橋 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

キ 1 年：英語 b 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、内容理解に努め、「背景」を考察する。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容、授業の進め方および履修の方法を説明
第 2 回	Waking up to the media (Reading)	「身の回りに『情報』が溢れていること」の読解
第 3 回	Waking up to the media (exercises)	「身の回りに『情報』が溢れていること」の演習
第 4 回	Introducing the Media Jungle (Reading)	「『情報』理解の大切さについて」の読解
第 5 回	Introducing the Media Jungle (exercises)	「『情報』理解の大切さについて」の演習
第 6 回	“The Truth, the Whole Truth, and Nothing but the Truth” (Reading)	「『情報』は常に正しいのか」の読解
第 7 回	“The Truth, the Whole Truth, and Nothing but the Truth” (Exercises)	「『情報』は常に正しいのか」の演習
第 8 回	In Praise of Books (Reading)	「書物の重要性について」の読解
第 9 回	In Praise of Books (Exercises)	「書物の重要性について」の演習
第 10 回	“The News and Nothing but the News” (Reading)	「『新聞』の公平性について」の読解
第 11 回	“The News and Nothing but the News” (Exercises)	「『新聞』の公平性について」の演習
第 12 回	Watching Television: Is Seeing Believing? (Reading)	「テレビは真実を映しているのか」の読解
第 13 回	Watching Television: Is Seeing Believing? (Exercises)	「テレビは真実を映しているのか」の演習
第 14 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英単語調べおよび英文下読み以外にも、世界を含む自分の身の回りの出来事に関心を持って学習し、そのための準備をしておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】

John Bray 他: Cutting through the Media Jungle
(メディア社会を生きる)

成美堂 1,800 円＋税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80 %、平常点 20 %を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading. Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

英語 1 — II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 — II

2016 年度以前入学者

高橋 優身

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

キ 1 年：英語 b 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、内容理解に努め、「背景」を考察する。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	The Internet and the Information Age(Reading)	「情報化時代の華-インターネット」の読解
第 2 回	The Internet and the Information Age(Exercises)	「情報化時代の華-インターネット」の演習
第 3 回	Bullies, Mobile Phones and the Internet(Reading)	「インターネット上のイジメに抗して」の読解
第 4 回	Bullies, Mobile Phones and the Internet(Exercises)	「インターネット上のイジメに抗して」の演習
第 5 回	Reading British Newspaper(Reading)	「イギリスの新聞を読む」の読解
第 6 回	Reading British Newspaper(Exercises)	「イギリスの新聞を読む」の演習
第 7 回	Lies, Half-truths and Propaganda(Reading)	「プロパガンダを解剖する」の読解
第 8 回	Lies, Half-truths and Propaganda(Exercises)	「プロパガンダを解剖する」の演習
第 9 回	Freedom and Censorship(Reading)	「自由と検閲のせめぎ合い」の読解
第 10 回	Freedom and Censorship(Exercises)	「自由と検閲のせめぎ合い」の演習
第 11 回	NGOs and Campaign Groups: Providing a Voice for the Voiceless(Reading)	「声なき声の代弁者 NGO」の読解
第 12 回	NGOs and Campaign Groups: Providing a Voice for the Voiceless(Exercises)	「声なき声の代弁者 NGO」の演習
第 13 回	Bridging the Digital Divide(Reading)	「デジタル格差を埋めるには」の読解
第 14 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英単語調べおよび英文下読み以外にも、世界を含む自分の身の回りの出来事に関心を持って学習し、そのための準備をしておくことが必要です。

【テキスト（教科書）】

John Bray 他: Cutting through the Media Jungle

（メディア社会を生きる）

成美堂 1,800 円 + 税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80 %、平常点 20 %を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading. Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

英語 1 — I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 — I

2016 年度以前入学者

宮本 正和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
キ 1 年：英語 c 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として、読解力向上を主眼としています。

【到達目標】

辞書を使わなくとも、ある程度の内容を把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	学習の進め方について説明する
2	文型	歌舞伎を革新する松本幸四郎
3	文型	「歌舞伎を革新する松本幸四郎」の読解展開
4	時制	日本の知性
5	助動詞	傑物
6	名詞・代名詞	オバマ広島スピーチ
7	名詞・代名詞	「オバマ広島スピーチ」の読解展開
8	形容詞	多様化する IoT
9	形容詞	「多様化する IoT」の読解展開
10	副詞	金融効率化
11	副詞	「金融効率化」の読解展開
12	比較	癌の救世主
13	比較	「癌の救世主」の読解展開
14	復習	内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課の単語を調べて、意味を取る予習をしてください。

【テキスト（教科書）】

進化する日本 南雲堂

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト。小テスト 60%

平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】

学生は、ゆっくりの進度を希望している

【Outline and objectives】

Primarily we are going to learn reading skill. And we study fundamental grammar through 'Grammar Review.'

LANe100LA

英語 1 – II2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 – II2016 年度以前入学者

宮本 正和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
キ 1 年：英語 c 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主として、読解力向上に主眼を置いている

【到達目標】
辞書を使わなくても、ある程度、理解できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学生に発表してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受動態	生態系を解析
2	受動態	「生態系を解析」の読解展開
3	分詞	北限の椿
4	分詞	「北限の椿」の読解展開
5	動名詞	至上の米
6	動名詞	「至上の米」の読解展開
7	不定詞	「働き方改革のストレスチェック」
8	不定詞	「働き方改革のストレスチェック」の読解展開
9	前置詞	リーズナブルなジェネリック医薬品
10	前置詞	「リーズナブルなジェネリック医薬品」の読解展開
11	接続詞	夢の自動運転車
12	接続詞	「夢の自動運転車」の読解展開
13	仮定法	無限の再生可能エネルギー
14	復習	内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各課の単語を調べて、意味を取る予習をしてください。

【テキスト（教科書）】
進化する日本 南雲堂

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
期末テスト・小テスト 60%
平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】
学生はゆっくりした進度を望んでいる

【Outline and objectives】
Primarily we are going to learn reading skill. And we study fundamental grammar through 'Grammar Review.'

LANe100LA

英語 1 – I2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 – I2016 年度以前入学者

溝部 敦子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
キ 1 年：英語 d 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の課題である人種・ジェンダー・セクシュアリティなどを切り口にアメリカ映画を論じた *America on Film* (2009 Second Edition) から 'Ability' を視点に据えた Part VI を読み、様々な社会問題について考える。また、精読を通して論理的な英語の文章を読むために必要な読解力を強化し、リスニング演習で英語の音声に慣れる。

【到達目標】
(1) 単語の意味をつないで適当に文章を類推するのではなく、文の構造や修飾関係を正確に把握した上で内容が理解できる。
(2) 英語の音声に慣れ、ポイントとなる部分の聞き取りが出来る。
(3) 現代社会のいくつかの問題について自分の意見を論理的に述べる事が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストは全部で 15 章から成っていますので、春学期は前半の 8 章を扱います。訳読が中心となりますが、意味や構文の取りにくい文に特に注意を払いながら読んでいきたいと思います。そのため、プリント教材による読解演習を追加する予定です。また、精読するのは 3～4 章とし、残りは速読の対象とします。内容をより深く理解するため、取り上げられている映画のうち 1 つを鑑賞します。（時間に余裕があれば、2 本目を追加するかもしれません。）各章に Discussion/Writing のセクションがありますので、そのうちいくつかを取り上げ、グループで話し合ってもらいます。そのために短い作文（英文）を準備してもらいます。さらに、テキストとは別にリスニング演習を 2～3 回に 1 回程度の割合で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容や英語読解のポイントなどについて説明 Self-introduction Activity
2	Reading Practice	Chapter 1 What is Ability?
3	Reading & Listening Practice	Chapter 1 Listening 演習 (1)
4	Reading Practice	Chapter 2 Cinematic Images of (Dis)Ability
5	Reading Practice	Chapter 2 パラグラフの構造について
6	Reading & Listening Practice	Chapter 3 <i>Queen Christina</i> (速読) Listening 演習 (2)
7	Reading & Listening Practice	Group Talk 「普通」とは何か？ Chapter 5 <i>The Gang's All Here</i> (速読) Listening 演習 (3)
8	Reading Practice	Chapter 5 「異性愛規範」について考える
9	Watching a Movie	<i>Erin Brochovich</i> (1)
10	Listening Practice	Listening 演習 (4)
11	Watching a Movie	<i>Erin Brochovich</i> (2)
12	Reading Practice	Chapter 8 <i>Erin Brochovich</i>
13	Reading & Listening Practice	Chapter 8 Listening 演習 (5)
14	Reading Practice	Chapter 8 Group Talk 家父長制と女性
15	Reading Practice	Chapter 6 <i>A Patch of Blue</i> (速読)
16	期末テスト	読解の復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading の予習は必須。未知の単語を調べるのは勿論のこと、すぐに答えられるよう、きちんと訳しておく。また、文の構造や文意についても自分の頭でよく考え、疑問点があれば洗い出しておく。グループワークに備え、リサーチを行い、短い英語の文章を用意する。

【テキスト（教科書）】
Harry M. Benshoff & Sean Griffin, *Ability and American Film* (2013 英宝社)

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%)、Listening 及び Reading 演習の結果 (20%)、平常点 (英作文などの提出物、授業態度、予習が出来ているかどうか、など) (20%) の割合で総合的に評価します。ただし、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

説明には板書を活用し、グループトークの時間を十分取るようにします。

【Outline and objectives】

In this course students will read Chapter VI from *America on Film* (2009 Second Edition), a book on the representation of race, class, gender and sexuality in American films, each of which is an important issue in modern society. The chapter, divided into 15 chapters in the textbook, focuses on the concept of 'Ability'. By reading it carefully, students are expected to develop the reading skills necessary to accurately grasp the structure of complex sentences. They will also think and talk about various types of discrimination in society. In order to understand more deeply what they have read, they will see one of the films referred to in the textbook. Furthermore, they will be given some extra exercises to develop confidence in listening.

LANe100LA

英語 1 – II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 – II

2016 年度以前入学者

溝部 敦子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

キ 1 年：英語 d 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000 年代に作られた新しい映画を素材に格差社会やセクシュアリティなど、より現代的な課題について考察する。また、引き続き、読解力の強化と聴解力の向上を目指す。

【到達目標】

- (1) Reading, Listening とも、英語の語順通りに意味を取ることができる。
- (2) 速読のコツを掴み、効率的な読み方が出来る。
- (3) グループトークを通し、現代社会の課題についてより深く批判的な考察ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に春学期と同じで、テキスト後半の Chapter 9 からを対象とします。今学期は読む章の数を減らし、映画を 2 本取り上げる予定です。ただし、学生の予習が不十分で予定通りに進まなかった場合は 1 本になる可能性もあります。また、Skimming や Scanning などの代表的な速読方法を学び、より効率的な速読が出来るようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Reading Skill Listening Practice	Skimming について Listening 演習 (1) アメリカ社会における 'Rugged Individualism' について
2	Reading Practice	Chapter 9 8 Mile
3	Reading Skill Reading & Listening Practice	Scanning について Chapter 9 Listening 演習 (2)
4	Reading Practice Group Talk	Chapter 13 The Prize Winner of Defiance, Ohio 格差社会について
5	Watching a Movie Listening Practice	Crash (1) Listening 演習 (3)
6	Watching a Movie Reading Practice	Crash (2) Chapter 12 Crash
7	Reading Practice Group Talk	Chapter 12 移民を巡る問題
8	Reading & Listening Practice	Chapter 12 Listening 演習 (4)
9	Reading Practice Group Talk	Chapter 14 Brokeback Mountain 人種差別と性差別
10	Watching a Movie Reading Practice	Brokeback Mountain 又は TransAmerica (1) Chapter 14
11	Watching a Movie Reading Practice	Brokeback Mountain 又は TransAmerica (2) Chapter 14
12	Reading & Listening Practice	Chapter 14 Listening 演習 (5)
13	Reading Practice Group Talk	Chapter 10 Better Luck Tomorrow 性的マイノリティについて
14	期末テスト	読解の復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期同様、Reading の予習は必須。ほかに、グループトークに備えたりサーチャイや英作文など。

【テキスト（教科書）】

Harry M. Benshoff & Sean Griffin, *Ability and American Film* (2013 英宝社)

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%)、Listening 及び Reading 演習 (20%)、平常点 (英作文などの提出物、授業態度、予習が出来ているかどうか、など) (20%) の割合で総合的に評価します。ただし、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

説明には板書を活用し、グループワークに十分な時間を割くようにします。

【Outline and objectives】

By reading about more recent films made after 2000 students are expected to further consider, write and exchange opinions about contemporary issues such as sexuality and disparities in society. They will see one, or possibly two, of the films referred to in the textbook as in the spring semester. Also, the course continues to help students develop their reading and listening skills.

LANe100LA

英語 1 — I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 — I

2016 年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
キ 1 年：英語 e 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言を英文で読みながら、人口問題、温暖化等の環境問題について考える。

【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてもらうこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	環境問題の背景
第 2 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事 その①
第 3 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事 その②
第 4 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事 その③
第 5 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事 その④
第 6 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事 その⑤
第 7 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事 その⑥
第 8 回	ストックホルム宣言	宣言文その①
第 9 回	ストックホルム宣言	宣言文その②
第 10 回	ストックホルム宣言	宣言文その③
第 11 回	ストックホルム宣言	宣言文その④
第 12 回	ストックホルム宣言	宣言文その⑤
第 13 回	ストックホルム宣言	宣言文その⑥
第 14 回	総復習	13 回までの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】

環境問題に関する基本的英文の理解力を試す。

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading skill on environment can be devejoped.

LANe100LA

英語 1 ー II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 ー II

2016 年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
キ 1 年：英語 e 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言を英文で読みながら。温暖化、酸性雨、森林伐採等の環境問題について考える。

【到達目標】

受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてもらうこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その①
第2回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その②
第3回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その③
第4回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その④
第5回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑤
第6回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑥
第7回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑦
第8回	東京宣言	宣言文その①
第9回	東京宣言	宣言文その②
第10回	東京宣言	宣言文その③
第11回	東京宣言	宣言文その④
第12回	東京宣言	宣言文その⑤
第13回	東京宣言	宣言文その⑥
第14回	総復習	13回までの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading skill on environment can be developed.

LANe100LA

英語 1 ー I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 ー I

2016 年度以前入学者

鈴木 博雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
キ 1 年：英語 f 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学1年次生が読解するのに相応しい日常的な英語を読むことにより、専門課程に進級したり、社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、さまざまな文体や話題の英文を主体的に読むための基礎力を養成する。

【到達目標】

日常的なテーマを扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語読解力を応用して、リスニングやスピーキングの基礎的なスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・英語の文章の構造を踏まえながら、精読、速読の作業を並行して行う。
・質疑応答により、予習や復習の状況を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テキスト Unit 1 前半	The amazing flying chair ①
2	テキスト Unit 1 後半	The amazing flying chair ②
3	テキスト Unit 2 前半	Dropping out of high school ①
4	テキスト Unit 2 後半	Dropping out of high school ②
5	テキスト Unit 3 前半	Bad medical advice?①
6	テキスト Unit 3 後半	Bad medical advice?②
7	テキスト Unit 4 前半	The Colonel's bad luck ①
8	テキスト Unit 4 後半	The Colonel's bad luck ②
9	テキスト Unit 5 前半	A world without birds ①
10	テキスト Unit 5 後半	A world without birds ②
11	テキスト Unit 6 前半	The great invention ①
12	テキスト Unit 6 後半	The great invention ②
13	テキスト Unit 7 前半	Garlic, wonder root ①
14	テキスト Unit 7 後半	Garlic, wonder root ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を活用しながら、テキストを精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。

【テキスト（教科書）】

『Premium Reader』（金星堂）

【ISBN：978-4-7647-3909-3】

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど）（60%）、期末試験点（40%）を総合的に判断して評価する。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

・英語を読むことの楽しさを味わいながら、大学英語の基礎力の充実を図りたい。
・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

【Outline and objectives】

(1)To obtain the ability to read ordinary English the difficulty of which is adequate for the freshmen.

(2)By the ability in (1), we mean the basic practical skill of reading English of various kinds of style which is required when the students go up to juniors and seniors or get out into the world after they graduate.

LANe100LA

英語 1 ― II2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 ― II2016 年度以前入学者

鈴木 博雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
キ 1 年：英語 f 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、日常的なテーマを扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語読解力を応用して、リスニングやスピーキングの基礎的なスキルを向上させる。

【到達目標】
春学期に養成した学力を踏まえ、大学 1 年次生が読解するのに相応しい日常的な英語を読むことにより、専門課程に進級したり、社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、さまざまな文体や話題の英文を主体的に読むための基礎力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・英語の文章の構造を踏まえながら、春学期よりも一層高度な精読、速読の作業を並行して行う。
・英文内容についての質疑応答を行い、予習、復習の状況を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	Unit 8 前半	John Chapman, a strange, but heroic man ①
2	Unit 8 後半	John Chapman, a strange, but heroic man ②
3	Unit 9 前半	Baseball curses ①
4	Unit 9 後半	Baseball curses ②
5	Unit 10 前半	Untimely death ①
6	Unit 10 後半	Untimely death ②
7	Unit 11 前半	Train gropers ①
8	Unit 11 後半	Train gropers ②
9	Unit 12 前半	Japan saves an anime star ①
10	Unit 12 後半	Japan saves an anime star ②
11	Unit 13 前半	Seeing red ①
12	Unit 13 後半	Seeing red ②
13	Unit 14 前半	What's your wish?①
14	Unit 14 後半	What's your wish?②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
辞書を活用しながら、テキストを精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。

【テキスト（教科書）】
『Premium Reader』（金星堂）
【ISBN：978-4-7647-3909-3】

【参考書】
適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど）（60％）、期末試験点（40％）を総合的に判断して評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
・英語を読むことの楽しさを味わいながら、大学英語の基礎力の充実を図りたい。
・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

【Outline and objectives】
(1)To obtain the ability to read ordinary English the difficulty of which is adequate for the freshmen after learning English in the spring semester.
(2)By the ability in (1), we mean the basic practical skill of reading English of various kinds of style which is required when the students go up to juniors and seniors or get out into the world after they graduate.

LANe100LA

英語 1 ― I2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 ― I2016 年度以前入学者

高橋 優身

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
キ 1 年：英語 g 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

【到達目標】
英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを中心に、内容理解に努め、「背景」を考察する。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容の説明、履修方法について説明
第 2 回	Japan's demographic sweet spot	「日本は人口統計学的スイート・スポット」の読解
第 3 回	The crisis in Pakistan's school	「パキスタンで学校危機」の読解
第 4 回	Showing Spine to the Censors, a Bookstore Flourishes	「検閲に抗し、勇気を示す本屋が繁盛」の読解
第 5 回	Easier Taught Than Done? Yale's Most Popular Class Tackles Happiness	「幸福になるよりも「幸福になる方法」の講義を受ける方が簡単か？ 学生殺到」の読解
第 6 回	The Case for 'America First' Economics	「『米国第一』経済の問題点」の読解
第 7 回	New pride in Paraguay's native language	「パラグアイ ネイティブ言語を初めて誇りに思う」の読解
第 8 回	Thousands Walk Out of Class, Urging Action on Gun Control	「銃規制の実行を求めて数千人が教室から街頭行進へ」の読解
第 9 回	Sumo gender controversy flares anew	「土俵と女性を巡る論争が再熱」の読解
第 10 回	Women in a Sumo Ring? Not on Your Life.	「土俵の上に女性が？ 絶対にダメだ」の読解
第 11 回	How to Make A.I. Human-Friendly	「AI を人に優しくさせる方法」の読解
第 12 回	Hollywood's protest problem	「米映画界でのセクハラ抗議問題」の読解
第 13 回	A Linguistic Melting Pot That Can Still Boil Over	「収拾が付かない多言語国家」の読解
第 14 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から、世界を含めた自分の身の回りの出来事に関心を持って、それなりの勉強をすることが必要です。

【テキスト（教科書）】
伊藤 他編著
English through the News Media 2019 Edition
（ニュースメディアの英語 2019 年度版）
朝日出版社 1,700 円＋税

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80％、平常点 20％を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の授業に臨む態度をより重要視する。

学生が予習済みであれば進度は速くなる。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading, Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

英語 1 – II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 – II

2016 年度以前入学者

高橋 優身

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
キ 1 年：英語 g 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で語られた様々なもの（講義・放送・演劇・公演など）を正確に、そして迅速に理解する。

【到達目標】

英語運用能力の改善だけでなく、世界の出来事およびそれらの「情報」について考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、内容理解に努め、「背景」を考察する。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	The star who brought the cosmos within reach	「宇宙を身近なものにした巨星」の読解
第 2 回	Van Gogh's obsession with Japan	「ゴッホの日本熱」の読解
第 3 回	Maldives crisis may draw in India and China	「危機状態のモルディブにインドと中国が触手を伸ばすか？」の読解
第 4 回	Fish Instead of Flamin' Hot Cheetos, and Feeling Lost	「チートスの激辛味が食べられずに魚ばかりで喪失感を味わう」の読解
第 5 回	Nobel for effort to abolish nuclear bombs	「核兵器廃絶運動でノーベル」の読解
第 6 回	A Blue-Chip Writer of Graceful Restraint	「抑制の効いた優雅な文体の超一流作家」の読解
第 7 回	Saudi Arabia lightens up	「サウジアラビアで規制緩和」の読解
第 8 回	Irish Border Problem Remains A Thorn for Britain in Brexit	「EU 離脱を目指す英国にとってアイルランドとの国境問題が依然として悩みの種」の読解
第 9 回	Bitcoin comes to campus	「ビットコインが学内に」の読解
第 10 回	Horrors still await young Rohingya	「ロヒンギャの若者には今も恐怖が」の読解
第 11 回	Liberia Hails New President: A Soccer Star, Duly Elected	「サッカーの元スター選手がリベリアの正当な新大統領に」の読解
第 12 回	The wrong way for Germany to debate Islam	「イスラム教について議論するドイツのやり方は間違い」の読解
第 13 回	Dispute slows Europe's clocks	「紛争でヨーロッパの時計が遅れている」の読解
第 14 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から、世界を含めた自分の身の回りの出来事に関心を持って、それなりの勉強をすることが必要です。

【テキスト（教科書）】

伊藤 他編著

English through the News Media 2019 Edition
（ニュースメディアの英語 2019 年度版）
朝日出版社 1,700 円＋税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80 %、平常点 20 %を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

学生が予習済みであれば進度は速くなる。

【Outline and objectives】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading, Attention should be paid to paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence) and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

LANe100LA

英語 1 — I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 — I

2016 年度以前入学者

亀岡 浩一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
キ 1 年：英語 h 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた複数の段落からなる文章の内容を正確に理解する。また、本文の全体的な構成にも注意を払い、必要な情報や要旨をつかみ取る。

【到達目標】

英文の修飾関係を正しく説明できる。本文の趣旨を自らの言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代社会における諸問題をテーマにした英文を講読することによって読解力を高めると同時に、文章を細部に至るまで深く読み進んでいく。その過程においては、ひとつひとつの語句の意味を慎重に捉えたうえで文章全体の内容を適切に読み取っていく。また、構文などを基にして英文法の復習も適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスと Unit 1	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。ガイダンス後に Unit 1 に入る。
2	語彙の確認と内容の把握	日本は人口統計学的スイート・スポット—読解による内容理解
3	構文の理解と練習問題	日本は人口統計学的スイート・スポット—練習問題と構文の確認
4	語彙の確認と内容の把握	パキスタンで学校危機—読解による内容理解
5	構文の理解と練習問題	パキスタンで学校危機—練習問題と構文の確認
6	語彙の確認と内容の把握	幸福になるよりも「幸福になる方法」の講義を受ける方が簡単か?学生殺到—読解による内容理解
7	構文の理解と練習問題	幸福になるよりも「幸福になる方法」の講義を受ける方が簡単か?学生殺到—練習問題と構文の確認
8	語彙の確認と内容の把握	「米国第一」経済の問題点—読解による内容理解
9	構文の理解と練習問題	「米国第一」経済の問題点—練習問題と構文の確認
10	語彙の確認と内容の把握	銃規制の実行を求めて数千人が教室から街頭行進へ—読解による内容理解
11	構文の理解と練習問題	銃規制の実行を求めて数千人が教室から街頭行進へ—練習問題と構文の確認
12	語彙の確認と内容の把握	収拾が付かない多言語国家・言語問題で北アイルランドが分裂—読解による内容理解
13	構文の理解と練習問題	収拾が付かない多言語国家・言語問題で北アイルランドが分裂—練習問題と構文の確認
14	理解度の確認	筆記形式による試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に本文の単語を調べ文脈を追い、授業後に内容を確認する。その後、授業前に自ら読み取った内容との相違点があれば改めて考察する。

【テキスト（教科書）】

15 Selected Units of English through the News Media -2019-
朝日出版社、2019 年 1 月

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%と平常点 30%に基づいて評価する。

原則として欠席が 4 回になった段階で再履修になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行を急がずに、各ユニットの内容を着実に消化させる。

【その他の重要事項】

英和辞典か電子辞書を毎回持参すること。私語は授業妨害とみなし減点の対象とする。
初回の授業からテキストを使用するので、初回授業までに大学内のテキスト売り場にて上記テキストを入手し持参すること。

【Outline and objectives】

The aim of this subject is to help students understand the contents of articles consisting of some paragraphs written in English and pay attention to the overall composition of the text.

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2016 年度以前入学者

亀岡 浩一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
キ 1 年：英語 h 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた複数の段落からなる文章の内容を正確に理解する。また、本文の全体的な構成にも注意を払い、必要な情報や要旨をつかみ取る。

【到達目標】

英文の修飾関係を正しく説明できる。本文の趣旨を自らの言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

現代社会における諸問題をテーマにした英文を講読することによって読解力を高めると同時に、文章を細部に至るまで深く読み進んでいく。その過程においては、ひとつひとつの語句の意味を慎重に捉えたうえで文章全体の内容を適切に読み取っていく。また、構文などを基にして英文法の復習も適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスと Unit 7	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。ガイダンス後に Unit 7 に入る。
2	語彙の確認と内容の把握	ゴッホの日本熱—読解による内容理解
3	構文の理解と練習問題	ゴッホの日本熱—練習問題と構文の確認
4	語彙の確認と内容の把握	チートスの激辛味が食べられずに魚ばかりで喪失感を味わう—読解による内容理解
5	構文の理解と練習問題	チートスの激辛味が食べられずに魚ばかりで喪失感を味わう—練習問題と構文の確認
6	語彙の確認と内容の把握	大谷選手の大リーグ初登板 6 奪三振で勝利投手・将棋の世界で「神様」対「天才」の頂上対決—読解による内容理解
7	構文の理解と練習問題	大谷選手の大リーグ初登板 6 奪三振で勝利投手・将棋の世界で「神様」対「天才」の頂上対決—練習問題と構文の確認
8	語彙の確認と内容の把握	サウジアラビアで規制緩和—読解による内容理解
9	構文の理解と練習問題	サウジアラビアで規制緩和—練習問題と構文の確認
10	語彙の確認と内容の把握	ビットコインがキャンパスに—読解による内容理解
11	構文の理解と練習問題	ビットコインがキャンパスに—練習問題と構文の確認
12	語彙の確認と内容の把握	ロヒンギャの若者には今も恐怖が—読解による内容理解
13	構文の理解と練習問題	ロヒンギャの若者には今も恐怖が—練習問題と構文の確認
14	理解度の確認	筆記形式による試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に本文の単語を調べ文脈を追ひ、授業後に内容を確認する。その後、授業前に自ら読み取った内容との相違点があれば改めて考察する。

【テキスト（教科書）】

15 Selected Units of English through the News Media -2019-
朝日出版社、2019 年 1 月

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%と平常点 30%に基づいて評価する。
原則として欠席が 4 回になった段階で再履修になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行を急がずに、各ユニットの内容を着実に消化させる。

【その他の重要事項】

英和辞典か電子辞書を毎回持参すること。私語は授業妨害とみなし減点の対象とする。
初回の授業からテキストを使用するので、初回授業までに大学内のテキスト売り場にて上記テキストを入手し持参すること。

【Outline and objectives】

The aim of this subject is to help students understand the contents of articles consisting of some paragraphs written in English and pay attention to the overall composition of the text.

LANe100LA

英語 1－I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1－I

2016 年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
キ 1 年：英語 i 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの文化、宗教、言語、人種等の様々な問題について学ぶ。

【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解し、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	試験的に和訳し進度等を説明する。
第 2 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその①
第 3 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその②
第 4 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその③
第 5 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその④
第 6 回	Gateway to the USA	確認テスト
第 7 回	the Melting Pot	人種のるつぼその①
第 8 回	the Melting Pot	人種のるつぼその②
第 9 回	the Melting Pot	人種のるつぼその③
第 10 回	the Melting Pot	人種のるつぼその④
第 11 回	the Melting Pot	確認テスト
第 12 回	the American Character	アメリカ人の特質その①
第 13 回	the American Character	アメリカ人の特質その②
第 14 回	総復習	13 回までの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。

【テキスト（教科書）】

Background to the USA（金星堂）

【参考書】

概説アメリカ史（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

アメリカに関する基本的な英文を理解する力を試す。平常点 20 %、期末試験 80 % 各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your reading skill on America can be developed.

LANe100LA

英語 1－Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1－Ⅱ 2016 年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
キ 1 年：英語 i 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの文化、宗教、言語、人種等の様々な問題について学ぶ。

【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解し、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	American English	アメリカ英語その①
第 2 回	American English	アメリカ英語その②
第 3 回	American English	アメリカ英語その③
第 4 回	American English	アメリカ英語その④
第 5 回	American English	確認テスト
第 6 回	Blacks and Whites	人種問題その①
第 7 回	Blacks and Whites	人種問題その②
第 8 回	Blacks and Whites	人種問題その③
第 9 回	Blacks and Whites	人種問題その④
第 10 回	Blacks and Whites	確認テスト
第 11 回	The American Indians	インディアン問題その①
第 12 回	The American Indians	インディアン問題その②
第 13 回	The American Indians	インディアン問題その③
第 14 回	総復習	13 回までの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。

【テキスト（教科書）】

Background to the USA（金星堂）

【参考書】

概説アメリカ史（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

アメリカに関する基本的な英文を理解する力を試す。平常点 20 %、期末試験 80 % 各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明する。

【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading skill on America can be developed.

LANe100LA

英語 1－Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1－Ⅰ 2016 年度以前入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
キ 1 年：英語 j 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。また、グループ学習に慣れる練習をします。

【到達目標】

大学生として抑えておきたい科学技術的な知識を含んだ英文が理解できるよう基礎力をつけることです。また、グループ学習に慣れることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります。また、自分の意見を英語で述べる練習もします。中盤以降は、グループで学習し、発表ができるように学んでいきます。授業時の指示は、状況に応じて、日本語と英語で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	授業に関するガイダンス
第 2 講	発音ドリル	発音の確認
第 3 講	Lesson 1(1) What Is Business Psychology?	内容の講読
第 4 講	Lesson 1(2) What Is Business Psychology?	内容の要約と意見のまとめ
第 5 講	Lesson 2 (2)The Psychology of the Job Search	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 6 講	Lesson 2 The Psychology of the Job Search	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 7 講	Lesson 3 Rest Assured	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 8 講	Lesson 4 Working with Robots	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 1
第 9 講	Lesson 5 It's a Man's World, Part 1	内容の理解、要約、意見のまとめグループ学習 2
第 10 講	Lesson 5 It's a Man's World, Part 2	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 3
第 11 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 1	グループ・プレゼンテーション 1
第 12 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 2	グループ・プレゼンテーション 2
復習	全体の復習	全体の復習
総括	総括	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の予習、復習。詳細は、教場指示とします。

【テキスト（教科書）】

Mind Matters -The Psychology of Business and Work- Jim Knudsen 著
南雲堂
ISBN 978-4-523-17859-0

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の教場練習への参加程度 (10%)、プレゼンテーション (30%) と各種レポート等 (10%) 及び期末試験 (50%) を全て考慮し、評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスの人数が多いため、なかなか発言の機会が与えられないという苦情が毎年あり、本当に残念に思っていますが、必ず一度以上はプレゼンテーションの機会を設けてありますので、ぜひみなさんには頑張っていたいただきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じて、DVD や CD などを使用します。

【その他の重要事項】

授業時以外の時間の学習が必要です。また、プレゼンテーションでは、グループ性と、一人1分以上の英語を原稿なしで話すことが求められます。

【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students reading and outputting ability in English. Especially it is going to be essentially important for Japanese university students to strongly improve their English skills in order to successfully function in the future as the members of the society of the internet era. I hope that this course will help guide all of my class students to get used to joining in group working activities.

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2016 年度以前入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

キ 1 年：英語 j 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。また、グループ学習に慣れる練習をします。

【到達目標】

大学生として抑えておきたい科学技術的な知識を含んだ英文が理解できるような基礎力をつけることです。また、グループ学習に慣れることも目標とします。グループ・プレゼンテーションでは、英語で自分の意見を言えるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります。また、自分の意見を英語で述べる練習もします。中盤以降は、グループで学習し、英語で発表ができるように学んでいきます。授業時の指示は、状況に応じて、日本語と英語で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	授業に関するガイダンス
第 2 講	夏休みの出来事を書く	夏休みの出来事をテンプレートを用いて書く
第 3 講	夏休みの予定を書く	夏休みの予定をテンプレートを用いて書く
第 4 講	Lesson 7 Me, Myself, and I	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 5 講	Lesson 8 Give and Take	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 6 講	Lesson 9 What a Troublemaker : The Office Gossip	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 7 講	Lesson 10 What a Troublemaker : The Office Control Freak	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 8 講	Lesson 11 Handsome Is As Handsome Does	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 1
第 9 講	Lesson 12 My Space, Your Space	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 2
第 10 講	Lesson 13 So You Want to Be An Entrepreneur	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 3
第 11 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 3	グループ・プレゼンテーション 3
第 12 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 4	グループ・プレゼンテーション 4
復習	全体の復習	全体の復習
総括	総括	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習、復習。詳細は、教場指示とします。

【テキスト（教科書）】

Mind Matters - The Psychology of Business and Work - Jim Knudsen 著
南雲堂 2017 年 ISBN 978-4-523-17859-0

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習への参加程度 (10%)、プレゼンテーション (30%) と各種レポート等 (10%) 及び期末試験 (50%) を全て考慮し、評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスの人数が多いため、なかなか発言の機会が与えられないという苦情が毎年あり、本当に残念に思っていますが、必ず一度以上はプレゼンテーションの機会を設けてありますので、ぜひみなさんには頑張ってくださいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じて、DVD や CD などを使用します。

【その他の重要事項】

授業時以外の時間の学習が必要です。

【Outline and objectives】

The target of this course will be to improve students reading and outputting ability in English. Especially it is going to be essentially important for Japanese university students to strongly improve their English skills in order to successfully function in the future as the members of the society of the internet era. I hope that this course will help guide all of my class students to get used to joining in group working activities.

LANe100LA

英語 1－I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1－I

2016 年度以前入学者

宮本 和恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

キ 1 年：英語 k 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として、読解力向上を主眼としています。

【到達目標】

辞書を使わなくとも、ある程度の内容を把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	学習の進め方について説明する
2	文型	歌舞伎を革新する松本幸四郎
3	文型	「歌舞伎を革新する松本幸四郎」の読解展開
4	時制	日本の知性
5	助動詞	傑作
6	名詞・代名詞	オバマ広島スピーチ
7	名詞・代名詞	「オバマ広島スピーチ」の読解展開
8	形容詞	多様化する IoT
9	形容詞	「多様化する IoT」の読解展開
10	副詞	金融効率化
11	副詞	「金融効率化」の読解展開
12	比較	癌の救世主
13	比較	「癌の救世主」の読解展開
14	復習	内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課の単語を調べて、意味を取る予習をしてください。

【テキスト（教科書）】

進化する日本 南雲堂

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト。小テスト 60%

平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】

学生は、ゆっくりの進度を希望している

【Outline and objectives】

Primarily we are going to learn reading skill. And we study fundamental grammar through 'Grammar Review.'

LANe100LA

英語 1 ― II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 ― II

2016 年度以前入学者

宮本 和恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
キ 1 年：英語 k 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主として、読解力向上に主眼を置いている

【到達目標】
辞書を使わなくても、ある程度、理解できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学生に発表してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受動態	生態系を解析
2	受動態	「生態系を解析」の読解展開
3	分詞	北限の椿
4	分詞	「北限の椿」の読解展開
5	動名詞	至上の米
6	動名詞	「至上の米」の読解展開
7	不定詞	「働き方改革のストレスチェック」
8	不定詞	「働き方改革のストレスチェック」の読解展開
9	前置詞	リーズナブルなジェネリック医薬品
10	前置詞	「リーズナブルなジェネリック医薬品」の読解展開
11	接続詞	夢の自動運転車
12	接続詞	「夢の自動運転車」の読解展開
13	仮定法	無限の再生可能エネルギー
14	復習	内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各課の単語を調べて、意味を取る予習をしてください。

【テキスト（教科書）】
進化する日本 南雲堂

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
期末テスト・小テスト 60%
平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】
学生はゆっくりした進度を望んでいる

【Outline and objectives】
Primarily we are going to learn reading skill. And we study fundamental grammar through 'Grammar Review.'

LANe100LA

英語 1 ― I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1 ― I

2016 年度以前入学者

福井 令恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
キ 1 年：英語 l 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の基本的な読解力・語彙力の向上をはかると同時に、様々な内容の英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につける。特にパラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりに留意し、書かれていることの意味や情報を正確につかむようにする。

【到達目標】
― 幅広いトピックについて書かれた英文を理解できるようになる。
― 構造を意識しながら英文を読むことができる。
― 語彙力が向上する。
― 効果的に辞書を使うことができる。
― リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
英語の文章の内容を的確につかむこと目的に速読と精読を組み合わせる。指定のテキストの他、新聞記事なども扱う。リスニングの課題やグループワークなども行う予定である。
【注】 授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明と自己紹介。 現在のリーディング力を診断する。
第 2 回	英文の内容を予測する。	知らない単語を推測する。辞書の効果的な使い方。
第 3 回	メインアイデアを理解する。	英文の内容を予測する。 (トピック：社会――仮想水)
第 4 回	メインアイデアを理解する。	英文の内容を予測する。 (トピック：文化――イギリス王室)
第 5 回	メインアイデアを理解する。	メインアイデアを理解する。 (トピック：科学――生物と科学技術)
第 6 回	メインアイデアを理解する。	メインアイデアを理解する。 (トピック：文化――ポピュラーカルチャー)
第 7 回	メインアイデアを理解する。	トピックセンテンスを参考に長文の要約をする。
第 8 回	メインアイデアを理解する。	メインアイデアを理解する。 (トピック：科学――涙の味)
第 9 回	詳細情報を理解する。	メインアイデアを理解する。 (トピック：社会――日本の企業と企業の取り組み)
第 10 回	シグナルワードを理解する。	メインアイデアを理解する。 (トピック：社会・科学――オリンピックと水着の開発技術)
第 11 回	シグナルワードを理解する。	メインアイデアを理解する。 (トピック：医学――心臓移植と感情)
第 12 回	シグナルワードを理解する。	メインアイデアを理解する。 (トピック：社会・文化――セールストーク)
第 13 回	シグナルワードを理解する。	メインアイデアを理解する。 (トピック：社会――知的財産)
第 14 回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておくこと。
また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。
その他、授業内で指示する。

【テキスト（教科書）】
Reader's Ark Basic(金星堂)
その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】
適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題、課題等を含む）30%、期末テスト 70%

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リーディング中心の授業ですが、リスニングの練習も増やします。

【その他の重要事項】

4回欠席の場合、単位取得の資格を失うので注意すること。
遅刻3回で欠席1扱い。原則として30分以上の遅刻は欠席扱いです。
辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline and objectives】

This course develops students' reading skills in English and widens their knowledge by understanding main ideas of a variety of different texts while enhancing their vocabulary. Students are expected to become aware of the structure of the texts, when reading. This course also uses listening text to help students improve their listening skills.

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2016 年度以前入学者

福井 令恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
キ 1 年：英語Ⅰ組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基本的な読解力・語彙力の向上をはかると同時に、様々な内容の英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につける。特にパラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりに留意し、書かれていることの意味や情報を正確につかむようにする。

【到達目標】

- 幅広いトピックについて書かれた英文を理解できるようになる。
- 構造を意識しながら英文を読むことができる。
- 語彙力が向上する。
- 効果的に辞書を使うことができる。
- リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

英語の文章の内容を的確につかむこと目的に速読と精読を組み合わせる。指定のテキストの他、新聞記事なども扱う。リスニングの課題やグループワークなども行う予定である。

【注】授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明。前期の復習。
第 2 回	指示語を理解する。	メインアイデアを理解する。 (トピック：文化——小説)
第 3 回	指示語を理解する。	メインアイデアを理解する。 (トピック：文化——音楽)
第 4 回	指示語を理解する。	メインアイデアを理解する。 (トピック：文化——言葉)
第 5 回	指示語を理解する。	メインアイデアを理解する。 (トピック：社会——カモフラージュ)
第 6 回	パラグラフ構造を学ぶ。	「比較」と「対照」の理解。 (トピック：文化——休暇)
第 7 回	パラグラフ構造を学ぶ。	「比較」と「対照」の理解。 (トピック：科学——生物学と分類)
第 8 回	パラグラフ構造を学ぶ。	「原因」と「結果」の理解。 (トピック：心理学——精神と病)
第 9 回	パラグラフ構造を学ぶ。	「原因」と「結果」の理解。 (トピック：社会——ゲーム理論)
第 10 回	パラグラフ構造を学ぶ。	「時間順序」の理解。 (トピック：文化——料理)
第 11 回	パラグラフ構造を学ぶ。	「時間順序」の理解。 (トピック：文化——ミッキーマウスの誕生)
第 12 回	パラグラフ構造を学ぶ。	「問題解決」の理解。 (トピック：砂漠でのサバイバル術)
第 13 回	パラグラフ構造を学ぶ。	分類型のパラグラフ構造の理解。
第 14 回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておくこと。
また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。
その他、授業内で指示する。

【テキスト（教科書）】

Reader's Ark Basic (金星堂)
その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題、課題等を含む）30%、期末テスト70%

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リーディング中心の授業ですが、リスニングの練習も増やします。

【その他の重要事項】

4回欠席の場合、単位取得の資格を失うので注意すること。
遅刻3回で欠席1扱い。原則として30分以上の遅刻は欠席扱いです。
辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline and objectives】

This course develops students' reading skills in English and widens their knowledge by understanding main ideas of a variety of different texts while enhancing their vocabulary. Students are expected to become aware of the structure of the texts, when reading.
This course also uses listening text to help students improve their listening skills.

LANe100LA

英語 1－I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1－I

2016 年度以前入学者

小堀 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
キ 1 年：英語 m 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語音楽を通じて主に英語の読解力と文法力、リスニング力を高めると共に、それぞれの楽曲にまつわる英文を読むことで英語圏文化について学びます。

【到達目標】

英語音楽の歌詞と英語圏文化に関する簡単な英文を日本語に訳せるようになり、またそれらに含まれる重要な文法事項を習得することができます。さらに、楽曲やアーティストに関する文化的背景等を学び、英米の文化を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、基本的に毎回学生の皆さんが英語を日本語に訳し、英文等の内容に関する問題を解きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 『タイタニック』	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 映画『タイタニック』のあらすじと時代背景を理解する。
第2回	'My Heart Will Go On' Celine Dion	Celine Dion 'My Heart Will Go On' を聞いて、その歌詞を訳す。
第3回	リスニング (TOEIC・写真描写問題)	TOEIC 形式の写真描写問題を解く。
第4回	リーディング (ナショナル・アイデンティティの和訳)	カナダのナショナル・アイデンティティに関する英文を日本語に訳す。
第5回	リーディング (ナショナル・アイデンティティの内容理解)	ナショナル・アイデンティティにまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第6回	Maroon 5 'Sugar'	Maroon 5 'Sugar' を聞いて、その歌詞を訳す。
第7回	リスニング (TOEIC・応答問題)	TOEIC 形式の応答問題を解く。
第8回	リーディング (結婚文化の和訳)	欧米の結婚に関する英文を日本語に訳す。
第9回	リーディング (結婚文化の内容理解)	欧米の結婚にまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第10回	『ズートピア』	映画『ズートピア』のあらすじと背景を理解する。
第11回	'Try Everything'	'Try Everything' を聞いて、その歌詞を訳す。
第12回	リーディング (迷信の和訳)	欧米の迷信にまつわる英文を日本語に訳す。
第14回	リーディング (迷信の内容理解)	欧米の迷信にまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第14回	授業内試験	春学期に学んだ内容に関する筆記試験 (リスニング問題を含む) を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト等を事前に読んでおく。授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。

【テキスト（教科書）】

English with Hit Songs(New Edition) (『ポップスで学ぶ総合英語』) . 角山照彦, Simon Capper, 成美堂. ISBN9784791930869

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』(中級編) 第3版、ケンブリッジ大学出版。英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 (20%) と期末試験 (80%) の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられないので注意してください。

毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly reading and listening abilities. Specifically, you listen to pop songs and understand the lyrics. You also read short essays on western culture so you learn not only how to read English, but also how to read western culture and its point of view.

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2016 年度以前入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
キ 1 年：英語 m 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語音楽を通じて主に英語の読解力と文法力、リスニング力を高めると共に、それぞれの楽曲にまつわる英文を読むことで英語圏文化について学びます。

【到達目標】

英語音楽の歌詞と英語圏文化に関する簡単な英文を日本語に訳せるようになり、またそれらに含まれる重要な文法事項を習得することができます。さらに、楽曲やアーティストに関する文化的背景等を学び、英米の文化を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、基本的に毎回学生の皆さんが英語を日本語に訳し、英文等の内容に関する問題を解きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 『アナと雪の女王』	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 『アナと雪の女王』のあらすじと背景を理解する。
第 2 回	'Let It Go'	'Let It Go' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 3 回	リスニング（TOEIC・会話問題）	TOEIC 形式の会話問題を解く。
第 4 回	リーディング（ディズニー・和訳）	ディズニーに関する英文を日本語に訳す。
第 5 回	リーディング（ディズニー・内容理解）	ディズニーにまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 6 回	Bruno Mars 'Just The Way You Are'	Bruno Mars 'Just The Way You Are' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 7 回	リスニング（説明文問題）	TOEIC 形式の説明文問題を解く。
第 8 回	『ハリーポッター』	映画『ハリーポッター』のあらすじと背景を理解する。
第 9 回	リーディング（ハリーポッター・和訳）	『ハリー・ポッター』に関する英文を日本語に訳す。
第 10 回	リーディング（ハリーポッター・内容理解）	『ハリー・ポッター』にまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 11 回	Ariana Grande 'Santa Tell Me'	Ariana Grande 'Santa Tell Me' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 12 回	リーディング（クリスマス・和訳）	クリスマスに関する英文を訳して、その内容を理解する。
第 13 回	リーディング（クリスマス・内容理解）	クリスマスにまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 14 回	授業内試験	春学期に学んだ内容に関する筆記試験（リスニング問題を含む）を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト等を事前に読んでおく。授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。

【テキスト（教科書）】

English with Hit Songs(New Edition)（『ポップスで学ぶ総合英語』）角山照彦, Simon Capper, 成美堂, ISBN9784791930869

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

授業参加（20%）と期末試験（80%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。

毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。

皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline and objectives】

In this class, you develop mainly reading and listening abilities.
Specifically, you listen to pop songs and understand the lyrics.
You also read short essays on western culture so you learn not only how to read English, but also how to read western culture and its point of view.

LANe100LA

英語 2－I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2－I

2016 年度以前入学者

高橋 優身

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
キ 1 年：英語 a 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語によるコミュニケーションのための、様々な文章における能力を養う。

【到達目標】

英語の表現や文章の意味内容を正確に聞き取る能力を養う。また自己の考えや意思を、口頭の英語で的確に表現し伝達し得る力を養う。さらに自己の考えや意思を、英語を書くことで簡潔に表現し、文章を通して伝達する力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、リスニングおよびディクテーションの練習をする。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容についての説明、及び履修の仕方を説明
第 2 回	Nice to Meet You!(Reading)	「挨拶」についての読解
第 3 回	Nice to Meet You!(Listening Exercises)	「挨拶」についてのリスニング演習
第 4 回	Don't Be Late(Reading)	海外渡航についての読解
第 5 回	Don't Be Late (Listening Exercises)	海外渡航についてのリスニング演習
第 6 回	What Sports Do You Like? (Reading)	「スポーツ」についての読解
第 7 回	What Sports Do You Like? (Listening Exercises)	「スポーツ」についてのリスニング演習
第 8 回	Which Hotel Do You Recommend? (Reading)	「宿泊施設」についての読解
第 9 回	Which Hotel Do You Recommend?(Listening Exercises)	「宿泊施設」についてのリスニング演習
第 10 回	Let's See the Sights! (Reading)	「観光」と「冒険」についての読解
第 11 回	Let's See the Sights! (Listening Exercises)	「観光」と「冒険」についてのリスニング演習
第 12 回	Can I Take Your Order? (Reading)	「食事」についての読解
第 13 回	Can I Take Your Order? (Listening Exercises)	「食事」についてのリスニング演習
第 14 回	期末試験	リスニングおよび筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語の単語下調べ、および英文素読以外にも、日頃から英語の「音」に慣れることが必要です

【テキスト（教科書）】

J.S.Landor 著 『ハーフ・アンド・ハーフ』 朝日出版社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。教科書を持参しない場合、出席とは扱わない。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80 %、小テスト 10 %、平常点 10 % を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2 - II

2016 年度以前入学者

高橋 優身

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
キ 1 年：英語 a 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語 2 - I を踏まえ、リスニングにおいては、より速い聞き取り能力が身に付くための反復練習を行う。

【到達目標】

口頭表現においては、発音と発声、個々の表現の正確な意味内容を理解し、日常生活の会話等の場面の中での表現を練習する。文章表現においては、前提的な知識として基本的な重要構文が記憶されている必要があり、その知識を繰り返し確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、リスニングおよびディクテーションの練習をする。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Cash or Charge? (Reading)	「買い物」についての読解
第 2 回	Cash or Charge? (Listening Exercises)	「買い物」についてのリスニング演習
第 3 回	Entertainment (Reading)	「娯楽」についての読解
第 4 回	Entertainment (Listening exercises)	「娯楽」についてのリスニング演習
第 5 回	Can You Tell Me the Way (Reading)	「町歩き」についての読解
第 6 回	Can You Tell Me the Way (Listening Exercises)	「町歩き」についてのリスニング演習
第 7 回	Would You Like to Go Out? (Reading)	「デート」についての読解
第 8 回	Would You Like to Go Out? (Listening Exercises)	「デート」についてのリスニング演習
第 9 回	Home Sweet Home (Reading & Listening exercises)	「住まい」についての読解およびリスニング演習
第 10 回	Health and Safety (Reading)	「健康と安全」についての読解
第 11 回	Health and Safety (Listening Exercises)	「健康と安全」についてのリスニング演習
第 12 回	Communications and the Internet (Reading)	「インターネット」についての読解
第 13 回	Communications and the Internet (Listening exercises)	「インターネット」についてのリスニング演習
第 14 回	期末試験	リスニングおよび筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から英語の「音」とその速度に慣れ親しむこと

【テキスト（教科書）】

J.S.Landor 著 『ハーフ・アンド・ハーフ』 朝日出版社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。教科書を持参しない場合、出席とは扱わない。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80 %、小テスト 10 %、平常点 10 % を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

英語 2－I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2－I

2016 年度以前入学者

亀岡 浩一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
キ 1 年：英語 b 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語による構文を正しく理解して自分の考えを英語で表現できるようになることを目指す。また、語彙力を高めて効果的に情報を発信できるようにする。

【到達目標】

さまざまな場面において英語で状況を適切に表現できる。自分の意見を正しい英文法に基づいて英語で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

英文の仕組みを主語と述語の関係で捉え、さまざまな種類の練習問題や演習をとおして単語や語群の配列を詳細に検討していく。また、英語による表現力を高めるために、状況に応じて基本となる英文法の復習と確認なども行ないながら、それぞれの場面にふさわしい表現を検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスおよび Unit 1	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。授業ガイダンス後に Unit 1 に入る。
2	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	文型
3	英作文演習と構文の理解	文の要素
4	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	動詞の特性
5	英作文演習と構文の理解	動詞の種類と文型の関係
6	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	句と節
7	英作文演習と構文の理解	単文と複文
8	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	助動詞の認識的用法
9	英作文演習と構文の理解	助動詞の非認識的用法
10	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	現在形と過去形
11	英作文演習と構文の理解	時制
12	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	進行形
13	英作文演習と構文の理解	分詞構文
14	理解度の確認	筆記形式による試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本となる単語の意味を調べて表現形式を具体的にまとめる。授業で扱った語句や練習問題の解答を復習し、その表現内容と構文を確認する。

【テキスト（教科書）】

English Indicator 4

南雲堂

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%と平常点 30%に基づいて評価する。
原則として欠席が 4 回になった段階で再履修となるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの表現に必要な文法項目を絞る。

【その他の重要事項】

英和辞典か電子辞書を毎回持参すること。私語は授業妨害とみなし減点の対象とする。
初回の授業からテキストを使用するので、初回授業までに大学内のテキスト売り場にて上記テキストを入手し持参すること。

【Outline and objectives】

The aim of this subject is to help students express their own thoughts in English through understanding English syntax correctly. In addition, the students gradually enhance vocabulary skills for dissemination of information.

LANe100LA

英語 2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2－Ⅱ

2016 年度以前入学者

亀岡 浩一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
キ 1 年：英語 b 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語による構文を正しく理解して自分の考えを英語で表現できるようになることを目指す。また、語彙力を高めて効果的に情報を発信できるようにする。

【到達目標】

さまざまな場面において英語で状況を適切に表現できる。自分の意見を正しい英文法に基づいて英語で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

英文の仕組みを主語と述語の関係で捉え、さまざまな種類の練習問題や演習をととして単語や語群の配列を詳細に検討していく。また、英語による表現力を高めるために、状況に応じて基本となる英文法の復習と確認なども行ないながら、それぞれの場面にふさわしい表現を検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスおよび Unit 8	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。授業ガイダンス後に Unit 8 に入る。
2	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	疑問詞
3	英作文演習と構文の理解	自動詞・他動詞
4	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	能動態・受動態
5	英作文演習と構文の理解	現在時制・過去時制・未来時制
6	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	動詞＋前置詞・動詞＋副詞
7	英作文演習と構文の理解	不定詞
8	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	現在完了形・過去完了形
9	英作文演習と構文の理解	未来完了形・現在完了進行形
10	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	動名詞
11	英作文演習と構文の理解	名詞・冠詞
12	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	代名詞
13	英作文演習と構文の理解	形容詞・副詞
14	理解度の確認	筆記形式による試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本となる単語の意味を調べて表現形式を具体的にまとめる。授業で扱った語句や練習問題の解答を復習し、その表現内容と構文を確認する。

【テキスト（教科書）】

English Indicator 4

南雲堂

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%と平常点 30%に基づいて評価する。
原則として欠席が 4 回になった段階で再履修となるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの表現に必要な文法項目を絞る。

【その他の重要事項】

英和辞典か電子辞書を毎回持参すること。私語は授業妨害とみなし減点の対象とする。
初回の授業からテキストを使用するので、初回授業までに大学内のテキスト売り場にて上記テキストを入手し持参すること。

【Outline and objectives】

The aim of this subject is to help students express their own thoughts in English through understanding English syntax correctly. In addition, the students gradually enhance vocabulary skills for dissemination of information.

LANe100LA

英語 2－Ⅰ

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2－Ⅰ

2016 年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
キ 1 年：英語 c 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生諸君が英語表現に慣れその表現を使えるようにする。

【到達目標】

簡単な英語を聞き取り、自分でも英語で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの対話文を聞き、リスニング力を養成し、聞いた表現を用いて簡単な会話の練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	What's New?	紹介その①
第 2 回	What's New?	紹介その②
第 3 回	What's New?	紹介その③
第 4 回	What's New?	紹介その④
第 5 回	Major	専攻その①
第 6 回	Major	専攻その②
第 7 回	Major	専攻その③
第 8 回	Major	専攻その④
第 9 回	Fun to Play	遊びその①
第 10 回	Fun to Play	遊びその②
第 11 回	Fun to Play	遊びその③
第 12 回	Fun to Play	遊びその④
第 13 回	リスニング	プリント使用
第 14 回	リスニング	プリント使用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を必ずして多くの表現を覚える。

【テキスト（教科書）】

アメリカ口語表現一初級用（研究者）

【参考書】

英会話フレーズ道具箱（旺文社）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your basic communicative English skill can be developed.

LANe100LA	
英語 2－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 2－Ⅱ	2016 年度以前入学者
光野 昭雄	
開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 曜日・時限：火 2/Tue.2 キ 1 年：英語 c 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生諸君が英語表現に慣れその表現を使えるようにする。

【到達目標】
簡単な英語を聞き取り、自分でも英語で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
できるだけ多くの対話文を聞き、リスニング力を養成し、聞いた表現を用いて簡単な会話の練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
第 1 回	A Modern Home(解説)	Presentation を聞き、その内容について質問する。
第 2 回	A Modern Home（導入）	Dialogue を聞く。
第 3 回	A Modern Home（応用）	Dialogue を読む。
第 4 回	A Modern Home（実践）	Dialogue の表現を用いて会話をする。
第 5 回	Micky's Home Town（解説）	Presentation を聞き、その内容について質問する。
第 6 回	Micky's Home Town（導入）	Dialogue を聞く。
第 7 回	Micky's Home Town（応用）	Dialogue を読む。
第 8 回	Micky's Home Town（実践）	Dialogue の表現を用いて会話をする。
第 9 回	Two Successful Men（解説）	Presentation を聞き、その内容について質問をする。
第 10 回	Two Successful Men（導入）	Dialogue を聞く。
第 11 回	Two Successful Men（応用）	Dialogue の表現を用いて会話をする。
第 12 回	Two Successful Men	二人の成功者その④
第 13 回	リスニング初級	やさしい英文を聞く。
第 14 回	リスニング中級	やや長めの英文を聞く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習を行いより多くの表現を覚えるようにする事。

【テキスト（教科書）】
アメリカ口語教本一初級用（研究者）

【参考書】
英会話フレーズ道具箱（旺文社）

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】
This class will show you how your basic communicative English skill can be developed.

LANe100LA	
英語 2－Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 2－Ⅰ	2016 年度以前入学者
戸嶋 まゆみ	
開講時期：春学期授業/Spring ｜ 曜日・時限：火 2/Tue.2 キ 1 年：英語 d 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニケーションを英語で行うことを目的とし、ロール・プレイングやインタビュー、その他のアウトプットをすることで英語で意味のあるやりとりができるようになることを目標とします。グループ・プレゼンテーションの方法も学びます。

【到達目標】
英語で簡単なやり取りができるようになることが到達目標です。グループ・プレゼンテーションが英語で行えるような練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
英語と日本語で書かれたテキストを読み、内容等についてやりとりができるように演習を行います。グループ・プレゼンテーションを効果的に行う方法も学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	ガイダンス
第 2 講	発音練習	発音の練習をする
第 3 講	New Zealand Week 1	新しい生活について
第 4 講	New Zealand Week 2	滞在地の状況
第 5 講	New Zealand Week 3	ファームステイ
第 6 講	New Zealand Week 4	バーベキュー
第 7 講	New Zealand Week 5	人助け
第 8 講	New Zealand Week 6	現地の人々との交流
第 9 講	New Zealand Week 7	アウトドア・アクティビティー
第 10 講	New Zealand Week 8	現地のことを学ぶ
第 11 講	グループ・プレゼンテーション 1	グループ・プレゼンテーション 1
第 12 講	グループ・プレゼンテーション 2	グループ・プレゼンテーション 2
復習	復習	全体の復習
総括	総括	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習とクラス外で自己練習が必要です。

【テキスト（教科書）】
おとなの基礎英語 Season 2 松本茂監修 主婦の友社 2014 年 ISBN 978-4-07-293166-0

【参考書】
英和・和英辞書

【成績評価の方法と基準】
授業時の発言 (10%)、グループ発表 (30%)、自主レポート (10%) およびバーベテスト (50%) の合算で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
学生のみなさんが毎年とても頑張って成長していくのを楽しみにしています。ちょっと勇気を出せば、この講座は百倍楽しくなります

【学生が準備すべき機器他】
DVD およびプロジェクタを使用する場合があります。

【その他の重要事項】
グループ・プレゼンテーションでは、グループ性を重んじます。また、発表では、一人 1 分以上英語で原稿なしで話をすることが求められます。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop English communication abilities, including role playing, interviewing, writing brief notes, draft writing and group presentations.

LANe100LA	
英語 2－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 2－Ⅱ	2016 年度以前入学者
戸嶋 まゆみ	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
キ 1 年：英語 d 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニケーションを英語で行うことを目的とし、ロール・プレイングやインタビュー、その他のアウトプットをすることで英語で意味のあるやりとりができるようになることを目標とします。グループ・プレゼンテーションの方法も学びます。

【到達目標】
英語で簡単なやり取りができるようになることが到達目標です。また、グループでプレゼンテーションを英語で行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
英語と日本語で書かれたテキストを読み、内容等についてやりとりができるように演習を行います。また、グループでプレゼンテーションを英語で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	ガイダンス
第 2 講	発音クリニック	発音の確認
第 3 講	Malaysia Week 10	困った状況
第 4 講	Malaysia Week 11	文化の違い
第 5 講	Malaysia Week 12	友人宅
第 6 講	Malaysia Week 13	仕事
第 7 講	Malaysia Week 14	自分の気持ち
第 8 講	Malaysia Week 15	体験レッスン
第 9 講	Malaysia Week 16	自分の体験
第 10 講	グループ・プレゼンテーション 3	グループ・プレゼンテーション 3
第 11 講	グループ・プレゼンテーション 4	グループ・プレゼンテーション 4
第 12 講	グループ・プレゼンテーション 5	グループ・プレゼンテーション 5
復習	復習	全体の復習
総括	総括	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習とクラス外で自己練習が必要です。

【テキスト（教科書）】
おとなの基礎英語 Season 2 松本茂監修 主婦の友社 2014 年 ISBN 978-4-07-293166-0

【参考書】
英和・和英辞書

【成績評価の方法と基準】
授業時の発言 (10%)、グループ発表 (30%)、自主レポート (10%) およびペーパーテスト (50%) の合算で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
学生のみなさんが毎年とても頑張って成長していくのを楽しみにしています。ちょっと勇気を出せば、この講座は百倍楽しくなります

【学生が準備すべき機器他】
DVD およびプロジェクタを使用する場合があります。

【その他の重要事項】
グループ・プレゼンテーションでは、春学期からのバージョン・アップが求められます。

【Outline and objectives】
This course is designed to develop English communication abilities, including role playing, interviewing, writing brief notes, draft writing and group presentations.

LANe100LA	
英語 2－Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 2－Ⅰ	2016 年度以前入学者
宮本 和恵	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：火 2/Tue.2 キ 1 年：英語 e 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日英のニュアンスや発想上の違いについて、学習する

【到達目標】

一歩進んだ英語を習得することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらいます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 月	導入	授業の進め方について説明
2	名詞（1）	メガネは glass か glasses か
3	名詞（1）	メガネは glass か glasses か
4	名詞（2）	「お客」は常に guest だろうか
5	名詞（2）	「お客」は常に guest だろうか
6	冠詞	by an hour と by the hour の違い
7	冠詞	by an hour と by the hour の違い
8	動詞（1）	marry him と marry with him はどちらが正しいか
9	動詞（1）	marry him と marry with him はどちらが正しいか
1 0	動詞（2）	「寝る」は常に sleep か
1 1	動詞（2）	「寝る」は常に sleep か
1 2	助動詞	shall, will, may の違い
1 3	時制	動詞は「時」とともに変化する
1 4	復習	内容理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスを参考に予習する

【テキスト（教科書）】

Write it Right! 鶴見書店

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト・小テスト 6 0 %

平常点 4 0 %

【学生の意見等からの気づき】

学生は緩やかな進度を希望している

【Outline and objectives】

We are going to learn about the difference of nuance between Japanese and English through English composition.

LANe100LA	
英語 2－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 2－Ⅱ	2016 年度以前入学者
宮本 和恵	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火 2/Tue.2 キ 1 年：英語 e 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日英のニュアンスや発想の違いについて学習する

【到達目標】

一歩進んだ英語を習得することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらう

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	準動詞	「泳ぎに行く」は go to swim か go swimming か
2	準動詞	「泳ぎに行く」は go to swim か go swimming か
3	形容詞（1）	「とても美味しい」は very delicious か
4	形容詞	「とても美味しい」は very delicious か
5	形容詞（2）	「狭い」はいつも narrow だろうか
6	形容詞（2）	「狭い」はいつも narrow だろうか
7	副詞	ago と before のちがいは
8	副詞	ago と before のちがいは
9	比較	多様な比較表現を学習する
1 0	関係詞	「場所」の後がいつも where か
1 1	関係詞	「b 所」の後がいつも where か
1 2	接続詞	日本語の「と」や「が」はいつも and と but ではない
1 3	接続詞	野本後の「と」や「が」はいつも and と but ではない
1 4	復習	内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスを参考に予習する

【テキスト（教科書）】

Write it Right 鶴見書店

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト・小テスト 6 0 %

平常点 4 0 %

【学生の意見等からの気づき】

学生はゆっくりした進度を希望しています

【Outline and objectives】

We are going to learn about the difference of nuance between Japanese and English through English composition.

LANe100LA

英語 2－Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2－Ⅰ 2016 年度以前入学者

福井 令恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
キ 1 年：英語 f 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の構成を理解すると同時に、語彙力の向上を目指し、表現力の拡充をはかる。英語で表現する力を養う。またリスニングの訓練も行う。

【到達目標】

- 総合的な英語力の向上。
- 論理的な英文を書くために必要な基礎知識を身につける。
- 英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。
- 語彙力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

異なるトピックと、そのトピックに関連した論理展開の方法を学びます。構成を意識しながら、英文を読み、それを踏まえ、自分で表現するトレーニングをします。配布資料を用いて、リスニング及びディクテーションの練習をおこないます。時事問題等の記事を適宜読むこともあります。

【注】 授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明と自己紹介。 辞書の使い方。
第 2 回	自己紹介①	定義の仕方を学ぶ。 (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 3 回	自己紹介②	定義を加えながら表現する。 (Guided Writing)
第 4 回	定義を用いた説明	アイディア・マップを使い 考えを整理をしながら、文を書く。 (Extended Activities)
第 5 回	出来事や経験を語る①	時系列で書く。 (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 6 回	出来事や経験を語る②	つながりの言葉を学ぶ。 (Guided Writing)
第 7 回	物語の要約	順序を表す表現を使い表現する。 (Extended Activities)
第 8 回	手続きや手順の説明①	料理のレシピを読み、手順 を示す文章の特徴を学ぶ。 (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 9 回	手続きや手順の説明②	順序、時間を表す表現を学ぶ。(Guided Writing)
第 10 回	自分の関心のあるプロジェクト	これまで自分がしたこと、やりたいことについての 手続きを英語で書き、発表する。 (Extended Activities)
第 11 回	パラグラフの書き方①	パラグラフの基本構造を学ぶ。 (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 12 回	パラグラフの書き方②	パラグラフの分析をする。 (Guided Writing)
第 13 回	訪れてみたい国	訪れてみたい国について、文章の構成 を考え表現する。 (Extended Activities)
第 14 回	期末試験、まとめ	期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ライティングの課題などが出された場合はそれをしてることが、次回授業を進める上での前提となる。
指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておく。
その他、授業内で指示する。

【テキスト（教科書）】

Writing Frontiers(金星堂)
その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題、課題等を含む）30%、期末テスト70%

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リスニングの練習も増やそうにします。

【その他の重要事項】

4 回欠席の場合、単位取得の資格を失うので注意すること。
遅刻 3 回で欠席 1 回扱い。原則として 30 分以上の遅刻は欠席扱いです。
辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline and objectives】

This course aims to improve writing and listening skills in English. In the class, students will understand the structure of the text in English, enhance their vocabulary, and apply it when they write sentences /produce short paragraph(s). Students are also expected to improve their listening skills.

LANe100LA

英語 2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2－Ⅱ

2016 年度以前入学者

福井 令恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
キ 1 年：英語 f 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の構成を理解すると同時に、語彙力の向上を目指し、表現力の拡充をはかる。英語で表現する力を養う。またリスニングの訓練も行う。

【到達目標】

- 総合的な英語力の向上。
- 論理的な英文を書くために必要な基礎知識を身につける。
- 英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。
- 語彙力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

異なるトピックと、そのトピックに関連した論理展開の方法を学びます。構成を意識しながら、英文を読み、それを踏まえ、自分で表現するトレーニングをします。配布資料を用いて、リスニング及びディクテーションの練習をおこないます。時事問題等の記事を適宜読むこともあります。

【注】授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明 春学期の復習
第 2 回	描写①	興味深い人物についてまとめた文を読み、構成・表現を学ぶ。 (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 3 回	描写②	場所・空間について書かれた文章読み、構成・表現を学ぶ。 (Guided Writing)
第 4 回	場所の表現	文章でまとめ、口頭で発表する。 (Extended Activities)
第 5 回	例を挙げる①	例を挙げて感情について示す文章を読み、構成・表現を学ぶ。 (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 6 回	例を挙げる②	アウトラインをつくり、具体例を加える。 (Guided Writing)
第 7 回	作品などの感想	Topic Sentence Concluding sentence を含んだ文章を書く。 (Extended Activities)
第 8 回	プロセス・ライティング①	市町村を紹介する文章を読みパラグラフについて学ぶ。 (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 9 回	プロセス・ライティング②	アイディアマップとパラグラフのアウトラインを書く。 (Guided Writing)
第 10 回	名所の紹介	Topic Sentence, Concluding Sentence を含んだ文章を書く。 (Extended Activities)
第 11 回	分類①	様々な基準を設定し、分類・説明した文章を読む。 (Pre-writing, Integrated Tasks)
第 12 回	分類②	分類を示すパラグラフに用いられる表現を学ぶ。 (Guided Writing)
第 13 回	世界遺産についての説明	データをもとにした説明をする。 (Extended Activities)
第 14 回	期末試験、まとめ	期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ライティングの課題などが出された場合はそれをしてることが、次回授業を進める上での前提となる。
指定された暗記暗唱用例文の定着を授業外でも確実にしておく。
その他、授業内で指示する。

【テキスト（教科書）】

Writing Frontiers(金星堂)
その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題、課題等を含む）30%、期末テスト70%

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リスニングの練習も増やそうにします。

【その他の重要事項】

4 回欠席の場合、単位取得の資格を失うので注意すること。
遅刻 3 回で欠席 1 回扱い。原則として 30 分以上の遅刻は欠席扱いです。
辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline and objectives】

This course aims to improve writing and listening skills in English. In the class, students will understand the structure of the text in English, enhance their vocabulary, and apply it when they write sentences /produce short paragraph(s). Students are also expected to improve their listening skills.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2 - I

2016 年度以前入学者

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
キ 1 年：英語 g 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2019 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に着けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の T, F 問題を小テストに充てる。最終的にはニュースの内容に対して、グループワークで意見を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要とテキストの説明。およびプリント教材
2	Unit 1 英王室新時代！ ハリー王子とメーガンさん婚約	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 1 英王室新時代！ ハリー王子とメーガンさん婚約	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 2 ノーベル平和賞に ICAN 核兵器禁止条約の採択に貢献	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 2 ノーベル平和賞に ICAN 核兵器禁止条約の採択に貢献	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 3 チャーチルそっくりの特殊メイクで辻一弘氏、アカデミー賞受賞	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 3 チャーチルそっくりの特殊メイクで辻一弘氏、アカデミー賞受賞	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 4 昨年認定はわずか 28 人 難民に門戸を閉ざす均質社会日本	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
9	Unit 4 昨年認定はわずか 28 人 難民に門戸を閉ざす均質社会日本	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 5 車いすの天才物理学者 逝く ホーキング博士からのメッセージ	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 5 車いすの天才物理学者 逝く ホーキング博士からのメッセージ	Reading, Judgments to Make, Partial Composition

12	Unit 6 ロンドン地下の「郵便鉄道」が新たな観光路線として復活	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
13	Unit 6 ロンドン地下の「郵便鉄道」が新たな観光路線として復活	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声ダウンロードして聴いておく。
語彙の予習。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース（20）
朝日出版 1900 円 + 税

【参考書】

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。
板書の文字を見やすくする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
授業では DVD と CD を使う。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。
欠席は 3 回までとする。
遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
遅刻 20 以上は欠席とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

英語 2 – II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2 – II

2016 年度以前入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

キ 1 年：英語 g 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN International シリーズ 2019 年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

【到達目標】
タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ほぼ 2 回で 1 つの Unit を学習する。Unit 1 つごとにある exercise, judgments to make の T, F 問題を小テストに充てる。最終的にはニュースの内容に対して、グループワークで意見を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Warm Up	プリント教材
2	Unit 7 ダヴィンチの傑作を展示 ルーブル・アブダビついに開館	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
3	Unit 7 ダヴィンチの傑作を展示 ルーブル・アブダビついに開館	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
4	Unit 8 電力の訳 80% を再エネで賄う！ 独の住宅用蓄電池システム	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
5	Unit 8 電力の訳 80% を再エネで賄う！ 独の住宅用蓄電池システム	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
6	Unit 9 国土の約 4 分の 1 が海面下 オランダが世界に誇る洪水対策	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
7	Unit 9 国土の約 4 分の 1 が海面下 オランダが世界に誇る洪水対策	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
8	Unit 10 実は無類の動物好き！ こわもてブーチンの懐柔法	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
9	Unit 10 実は無類の動物好き！ こわもてブーチンの懐柔法	Reading, Judgments to Make, Partial Composition
10	Unit 11 返還から 20 年 中国の統制強化 VS. 民主化要求で分断する香港	Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples
11	Unit 11 返還から 20 年 中国の統制強化 VS. 民主化要求で分断する香港	Reading, Judgments to Make, Partial Composition

12

Unit 12
中国の大気汚染を救う？
スモッグを食べる巨大空気清浄機

Warm Up, Words and Phrases to Study, Examples

13

Unit 12
中国の大気汚染を救う？
スモッグを食べる巨大空気清浄機

Reading, Judgments to Make, Partial Composition

14

期末試験

期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
音声ダウンロードして聴いておく。
語彙の予習。

【テキスト（教科書）】
CNN ビデオで見る世界のニュース（20）
朝日出版 1900 円 + 税

【参考書】
辞書必携

【成績評価の方法と基準】
提出物 20% 小テスト 20% 期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】
Unit に関連したプリント教材を配布する。
板書の文字を見やすくする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。
授業では、DVD および CD を使用する。

【その他の重要事項】
辞書を必ず持ってくる。
欠席は 3 回までとする。
遅刻 3 回で欠席 1 回とする。
遅刻 20 以上は欠席とする。

【Outline and objectives】
The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

英語 2－I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2－I

2016 年度以前入学者

高橋 優身

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

キ 1 年：英語 h 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語によるコミュニケーションのための、様々な文章における能力を養う。

【到達目標】

英語の表現や文章の意味内容を正確に聞き取る能力を養う。また自己の考えや意思を、口頭の英語で的確に表現し伝達し得る力を養う。さらに自己の考えや意思を、英語を書くことで簡潔に表現し、文章を通して伝達する力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、リスニングおよびディクテーションの練習をする。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容についての説明、及び履修の仕方を説明
第 2 回	Nice to Meet You!(Reading)	「挨拶」についての読解
第 3 回	Nice to Meet You!(Listening Exercises)	「挨拶」についてのリスニング演習
第 4 回	Don't Be Late(Reading)	海外渡航についての読解
第 5 回	Don't Be Late (Listening Exercises)	海外渡航についてのリスニング演習
第 6 回	What Sports Do You Like? (Reading)	「スポーツ」についての読解
第 7 回	What Sports Do You Like? (Listening Exercises)	「スポーツ」についてのリスニング演習
第 8 回	Which Hotel Do You Recommend? (Reading)	「宿泊施設」についての読解
第 9 回	Which Hotel Do You Recommend?(Listening Exercises)	「宿泊施設」についてのリスニング演習
第 10 回	Let's See the Sights! (Reading)	「観光」と「冒険」についての読解
第 11 回	Let's See the Sights! (Listening Exercises)	「観光」と「冒険」についてのリスニング演習
第 12 回	Can I Take Your Order? (Reading)	「食事」についての読解
第 13 回	Can I Take Your Order? (Listening Exercises)	「食事」についてのリスニング演習
第 14 回	期末試験	リスニングおよび筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語の単語下調べ、および英文素読以外にも、日頃から英語の「音」に慣れることが必要です

【テキスト（教科書）】

J.S.Landor 著 『ハーフ・アンド・ハーフ』 朝日出版社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。教科書を持参しない場合、出席とは扱わない。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80 %、小テスト 10 %、平常点 10 %を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

英語 2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2－Ⅱ

2016 年度以前入学者

高橋 優身

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

キ 1 年：英語 h 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語 2－Ⅰを踏まえ、リスニングにおいては、より速い聞き取り能力が身に付くための反復練習を行う。

【到達目標】

口頭表現においては、発音と発声、個々の表現の正確な意味内容を理解し、日常生活の会話等の場面の中での表現を練習する。文章表現においては、前提的な知識として基本的な重要構文が記憶されている必要があり、その知識を繰り返し確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを中心に、リスニングおよびディクテーションの練習をする。毎回、出欠の確認をする。出席には予習が前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Cash or Charge? (Reading)	「買い物」についての読解
第 2 回	Cash or Charge? (Listening Exercises)	「買い物」についてのリスニング演習
第 3 回	Entertainment (Reading)	「娯楽」についての読解
第 4 回	Entertainment (Listening exercises)	「娯楽」についてのリスニング演習
第 5 回	Can You Tell Me the Way (Reading)	「町歩き」についての読解
第 6 回	Can You Tell Me the Way (Listening Exercises)	「町歩き」についてのリスニング演習
第 7 回	Would You Like to Go Out? (Reading)	「デート」についての読解
第 8 回	Would You Like to Go Out? (Listening Exercises)	「デート」についてのリスニング演習
第 9 回	Home Sweet Home (Reading & Listening exercises)	「住まい」についての読解およびリスニング演習
第 10 回	Health and Safety (Reading)	「健康と安全」についての読解
第 11 回	Health and Safety (Listening Exercises)	「健康と安全」についてのリスニング演習
第 12 回	Communications and the Internet (Reading)	「インターネット」についての読解
第 13 回	Communications and the Internet (Listening exercises)	「インターネット」についてのリスニング演習
第 14 回	期末試験	リスニングおよび筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英単語の下調べ、および英文の下読み以外にも、日頃から英語の「音」とその速度に慣れ親しむこと

【テキスト（教科書）】

J.S.Landor 著 『ハーフ・アンド・ハーフ』 朝日出版社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

欠席が多いと（4 回以上）、期末試験を受験できないので注意すること。教科書を持参しない場合、出席とは扱わない。出席点というものはない。成績評価は期末試験 80 %、小テスト 10 %、平常点 10 %を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業に臨む態度をより重要視する。

【Outline and objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

The course will also help students acquire effective listening skills.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2 - I

2016 年度以前入学者

大和久 悌一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 キ 1 年：英語 i 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な社会問題・日常生活においても英語でのコミュニケーション能力の向上は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

【到達目標】

英語での表現や文章を正確に読解し、また聞き取る能力を養う。また、コミュニケーションにおいて用いられる表現を使い、情報の伝達や議論などを英語で簡潔に提示する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを用いて、リスニング及びディクテーションとプレゼンテーションの練習をおこなう。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱う。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Unit 1	Unit 1: 空港で / 文型 1（精読、内要理解）
3	Unit 1	Unit 1: 空港で / 文型 1（再読、リスニング、質疑応答）
4	Unit 2	Unit 2: マンションに到着 / 文型 2（精読、内要理解）
5	Unit 2	Unit 2: マンションに到着 / 文型 2（再読、リスニング、質疑応答）
6	Unit 3	Unit 3: お客様を迎える / 不定詞 1、動名詞（精読、内容理解）
7	Unit 3	Unit 3: お客様を迎える / 不定詞 1、動名詞（再読、リスニング、質疑応答）
8	Unit 4	Unit 4: デパートでお買い物 / 不定詞 2（精読、内要理解）
9	Unit 4	Unit 4: デパートでお買い物 / 不定詞 2（再読、リスニング、質疑応答）
10	Unit 5	Unit 5: お花見 / 分詞（精読、内要理解）
11	Unit 5	Unit 5: お花見 / 分詞（再読、リスニング、質疑応答）
12	Unit 6	Unit 6: 浅草へ行こう! / 接続詞 1（精読、内要理解）
13	Unit 6	Unit 6: 浅草へ行こう! / 接続詞 1（再読、リスニング、質疑応答）
14	Unit 7	Unit 7: 秋葉原を散策 / 接続詞 2（精読、内要理解）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

愛甲ゆかり、池田有花著、『初級英語で紹介するニッポン！ -続・イングリッシュ・ワンズ・モア！- Introduce Japan in Easy English-English Once More! II-』朝日出版社、2016 年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験 40% で評価します。30 分以上の遅刻は欠席とみなし、また 3 回の遅刻は 1 回の欠席とみなします。4 回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only in classroom but also everyday life.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2 - II

2016 年度以前入学者

大和久 悌一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

キ 1 年：英語 i 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な社会問題・日常生活においても英語でのコミュニケーション能力の向上は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

【到達目標】

英語での表現や文章を正確に読解し、また聞き取る能力を養う。また、コミュニケーションにおいて用いられる表現を使い、情報の伝達や議論などを英語で簡潔に提示する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを用いて、リスニング及びディクテーションとプレゼンテーションの練習をおこなう。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱う。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読むこととする。毎回出欠の確認をする。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Unit 8	Unit 8: 平和への祈り / 過去完了形（精読、内容理解）
3	Unit 8	Unit 8: 平和への祈り / 過去完了形（再読、リスニング、質疑応答）
4	Unit 9	Unit 9: 京都旅行（新幹線の旅） / 話法 1（精読、内容理解）
5	Unit 9	Unit 9: 京都旅行（新幹線の旅） / 話法 1（再読、リスニング、質疑応答）
6	Unit 10	Unit 10: 茶道初体験 / 話法 2（精読、内容理解）
7	Unit 10	Unit 10: 茶道初体験 / 話法 2（再読、リスニング、質疑応答）
8	Unit 11	Unit 11: 京都の思い出 / 関係代名詞 1（精読、内容理解）
9	Unit 11	Unit 11: 京都の思い出 / 関係代名詞 1（再読、リスニング、質疑応答）
10	Unit 12	Unit 12: 日本滞在最後の日（築地市場～上野公園） / 関係代名詞 2（精読、内容理解）
11	Unit 12	Unit 12: 日本滞在最後の日（築地市場～上野公園） / 関係代名詞 2（再読、リスニング、質疑応答）
12	Unit 13	Unit 13: 日本の事象を英語で説明 / 関係副詞（精読、内容理解）
13	Unit 13	Unit 13: 日本の事象を英語で説明 / 関係副詞（再読、リスニング、質疑応答）
14	Unit 14	Unit 14: 最後の晩餐 / 仮定法 1（精読、リスニング、質疑応答）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

愛甲ゆかり、池田有花著、『初級英語で紹介するニッポン！ -続- イングリッシュ・ワンス・モア！ -Introduce Japan in Easy English-English Once More! II-』朝日出版社、2016 年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only in classroom but also everyday life.

LANe100LA

英語 2 - I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2 - I 2016 年度以前入学者

溝部 敦子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
キ 1 年：英語 j 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画を通して異文化理解を深め、視野を広げるとともに、リスニング演習も加えて英語の音声に慣れる。また、パラグラフライティングの基礎を身につけて平易な英語を使った説明や自己表現を行う。

【到達目標】

- 1) ナチュラルスピードの英語に慣れ、ポイントとなる部分の聞き取りが出来る。
- 2) 平易な英語で簡単な説明をしたり、自分の考えや感想を述べたりすることが出来る。
- 3) 異文化についての理解を深め、社会的な視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

映画を何回かに分けて鑑賞し、ペア又はグループによる内容確認や感想を述べ合う発話練習を行います。また、英語の字幕で使われている英語表現を確認し、その応用練習もする予定です。さらに、プリント教材をもとにパラグラフライティングの基礎を学習した上で、その実践としてまとめた内容の英文を書く Writing 演習を 2 回実施します。うち 1 回は鑑賞した映画が題材となります。ほかに、聴解力の強化のため、サブテキストを使った Listening 演習（テスト形式）を間にはさみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容や英語学習のポイントなどについて説明 Self-Introduction Activity
2	Writing Skill	パラグラフの基本構造 (1)
	Listening Practice	Listening 演習 (1)
3	Writing Skill	パラグラフの基本構造 (2)
	Listening Practice	Listening 演習 (2)
4	Writing Skill	Process Writing について
	Listening Practice	Listening 演習 (3)
5	Listening Practice	Listening 演習 (4)(5)
	Guided Writing (1)	ワンパラグラフの作文
6	Listening Practice	Listening 演習 (6): Review
	Watching a Film	英語字幕で映画を見る (1)
7	Listening Practice	Listening 演習 (7)
	Watching a Film	英語字幕で映画を見る (2)
	Speaking Practice	英語表現の確認と応用 (1)
8	Listening Practice	Listening 演習 (8)
	Watching a Film	英語表現の確認と応用 (2) + ここまでの内容確認
	Speaking Practice	Listening 演習 (9)
9	Listening Practice	英語字幕で映画を見る (3)
	Watching a Film	英語字幕で映画を見る (4)
10	Watching a Film	英語表現の確認と応用 (3)
	Speaking & Listening Practice	Listening 演習 (10)
11	Speaking Practice	英語表現の確認と応用 (4) + 後半の内容確認
	Writing Skill & Group Work	Telling a Story: Time Order
12	Listening Practice	Listening 演習 (11)
	Writing Skill & Group Work	Describing People
13	Listening Practice	Listening 演習 (12): Review
	Writing Skill & Group Work	Discussing the Film
14	Guided Writing (2)	映画を題材に作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Writing や調べ物の宿題を出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

松本恵美子 ほか Quick Mastery of the TOEIC(R) Listening Test (2018 成美堂)

【参考書】

Collins COBUILD English Language Dictionary

【成績評価の方法と基準】

作文 2 回分 (60%)、Listening 演習及び Class Performance (作文以外の提出物、授業態度など) (40%) の割合で総合的に評価します。所謂期末テストは実施しません。ただし、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は Speaking に十分な時間が取れなかったため、発話練習の時間を確保するようにしたいと思います。そのため、若干計画を変更することがあるかもしれません。

【Outline and objectives】

In this course you will be given opportunities to watch a film attentively so that you can understand different cultures more deeply and thereby expand your horizons, and also get used to natural-speed English. Furthermore, you will learn the basics of paragraph writing and some useful writing skills. Then you are expected to write two one-paragraph passages - one is short, and the other longer - on given themes in plain English. Also, the listening practice in this course helps you develop confidence in listening.

LANe100LA

英語 2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2－Ⅱ

2016 年度以前入学者

溝部 敦子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

キ 1 年：英語 j 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

引き続き、映画鑑賞やリスニング演習を通して聴解力の向上を目指すとともに、グループトークや作文で英語運用力の強化を図る。また、エッセイの基本構造について学び、複数のパラグラフから成るより長い文章に取り組む。

【到達目標】

- 1) 中級程度の英語を使って意思の伝達や自己表現ができる。
- 2) 耳にした順に英語の語順で内容を追うことができる。
- 3) エッセイライティングの基礎を身につけ、より長い論理的な文章が書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に春学期と同じですが、映画は2本取り上げる予定です。2本目は何らかの形で学生の皆さんの希望を取り入れたいと思っています。また、パラグラフからエッセイへの展開のしかたを確認した上で複数のパラグラフからなるエッセイを2回書いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Writing Skill Listening Practice	Good Writing の条件 Guidelines for Writing under Time Pressure Listening 演習 (1)(2)
2	Listening Practice Writing Skill	Listening 演習 (3) Paragraph から Essay へ (1)
3	Watching a Film Watching a Film	Film I 鑑賞 (1) Film I 鑑賞 (2)
4	Writing Skill Listening Practice Watching a Film	Paragraph から Essay へ (2) Listening 演習 (4)(5) Film I 鑑賞 (3)
5	Group Talk Writing Skill	Film II 候補作の紹介 Discussing Film I < Comparison & Contrast >
6	Listening Practice Guided Writing (1)	Listening 演習 (6): Review Film I について作文
7	Listening Practice Writing Skill	Listening 演習 (7) < Cause & Effect >
8	Listening Practice Watching a Film	Listening 演習 (8)(9) Film II の鑑賞 (1)
9	Listening Practice Watching a Film Speaking Practice	Listening 演習 (10) Film II の鑑賞 (2) 英語表現と内容の確認 (1)
10	Watching a Film Writing Skill	Film II の鑑賞 (3) < Persuasion >
11	Watching a Film Writing Skill	Film II の鑑賞 (4) 無生物主語を使う
12	Listening Practice Speaking Practice Writing Skills	Listening 演習 (11) 英語表現と内容の確認 (2) 名詞構文を使う Essay Outline について
13	Listening & Speaking Practice Writing Skill	Listening 演習 (12): Review Discussing Film II 単文から複文へ
14	Guided Writing (2)	Film II について作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期同様、Writing や調べ物の宿題を出すことがあります。

【テキスト（教科書）】

松本恵美子 ほか Quick Mastery of the TOEIC(R) Listening Test (2018 成美堂)

【参考書】

Collins COBUILD English Language Dictionary

【成績評価の方法と基準】

作文 2 回分 (60%)、Listening 演習及び Class Performance (作文以外の提出物、授業態度など)(40%) の割合で総合的に評価します。所謂期末テストはありませんが、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は Speaking に十分な時間が取れなかったので、発話練習の時間を確保するようにしたいと思います。そのため、若干計画を変更することがあるかもしれません。

【Outline and objectives】

As in the spring semester, this course helps you enhance your abilities to communicate in English by giving you listening practice and opportunities for group talk. You will watch, hopefully, two films in this semester. One of them will be chosen by yourselves. You will also learn the basics of essay writing and are expected to write, following the instructions, two essays consisting of several paragraphs.

LANe100LA

英語 2－Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2－Ⅰ 2016 年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
キ 1 年：英語 k 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宣言文を英文で読みながら温暖化、酸性雨、森林伐採等の環境問題について考える。

【到達目標】

受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する記事を英文で読みながら、その中の表現を用いてリスニング、ディクテーション、会話、英作文等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	環境問題の背景
第 2 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その①
第 3 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その②
第 4 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その③
第 5 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その④
第 6 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑤
第 7 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑥
第 8 回	ストックホルム宣言	内容についての英語での質疑応答
第 9 回	ストックホルム宣言	内容文を用いてのディクテーション
第 10 回	ストックホルム宣言	宣言文その①
第 11 回	ストックホルム宣言	宣言文その②
第 12 回	ストックホルム宣言	宣言文その③
第 13 回	ストックホルム宣言	内容についての英語での質疑応答
第 14 回	ストックホルム宣言	内容文を用いてのディクテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading, writing, speaking, listening skill on environment can be developed.

LANe100LA

英語 2－Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2－Ⅱ 2016 年度以前入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
キ 1 年：英語 k 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言文を読みながら、スモッグ、酸性雨等の問題について考える。reading,listening,writing,speaking の力を同時に養成する。

【到達目標】

受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。学生諸君が主体的に読み、書き、聞き、話すことが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する記事を英文で読む。テキスト内の表現を利用して英文を書き、それを基に会話をする。テキスト以外の環境問題に関する英文を聞く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その①
第 2 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その②
第 3 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その③
第 4 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その④
第 5 回	東京宣言	内容についての英語での質疑応答
第 6 回	東京宣言	内容表現を用いてのディクテーション
第 7 回	東京宣言	宣言文その①
第 8 回	東京宣言	宣言文その②
第 9 回	東京宣言	宣言文その③
第 10 回	東京宣言	宣言文その④
第 11 回	東京宣言	宣言文その⑤
第 12 回	東京宣言	内容についての英語での質疑応答
第 13 回	スモッグ	リスニング
第 14 回	酸性雨	リスニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】

簡易な英文を聞き、理解し、自分の意見を表現する力を試す。
平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】

This class will show you how your English reading, writing, speaking, listening skill on environment can be developed.

LANe100LA	
英語 2－Ⅰ	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 2－Ⅰ	2016 年度以前入学者
宮本 正和	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 2/Mon.2 キ 1 年：英語Ⅰ組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日英のニュアンスや発想上の違いについて、学習する

【到達目標】

一歩進んだ英語を習得することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらいます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 月	導入	授業の進め方について説明
2	名詞（1）	メガネは glass か glasses か
3	名詞（1）	メガネは glass か glasses か
4	名詞（2）	「お客」は常に guest だろうか
5	名詞（2）	「お客」は常に guest だろうか
6	冠詞	by an hour と by the hour の違い
7	冠詞	by an hour と by the hour の違い
8	動詞（1）	marry him と marry with him はどちらが正しいか
9	動詞（1）	marry him と marry with him はどちらが正しいか
10	動詞（2）	「寝る」は常に sleep か
11	動詞（2）	「寝る」は常に sleep か
12	助動詞	shall, will, may の違い
13	時制	動詞は「時」とともに変化する
14	復習	内容理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスを参考に予習する

【テキスト（教科書）】

Write it Right! 鶴見書店

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト・小テスト 60%

平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】

学生は緩やかな進度を希望している

【Outline and objectives】

We are going to learn about the difference of nuance between Japanese and English through English composition.

LANe100LA	
英語 2－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 2－Ⅱ	2016 年度以前入学者
宮本 正和	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 2/Mon.2 キ 1 年：英語Ⅰ組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日英のニュアンスや発想の違いについて学習する

【到達目標】

一歩進んだ英語を習得することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生に発表してもらう

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	準動詞	「泳ぎに行く」は go to swim か go swimming か
2	準動詞	「泳ぎに行く」は go to swim か go swimming か
3	形容詞（1）	「とても美味しい」は very delicious か
4	形容詞	「とても美味しい」は very delicious か
5	形容詞（2）	「狭い」はいつも narrow だろうか
6	形容詞（2）	「狭い」はいつも narrow だろうか
7	副詞	ago と before のちがいは
8	副詞	ago と before のちがいは
9	比較	多様な比較表現を学習する
10	関係詞	「場所」の後がいつも where か
11	関係詞	「b 所」の後がいつも where か
12	接続詞	日本語の「と」や「が」はいつも and と but ではない
13	接続詞	野本後の「と」や「が」はいつも and と but ではない
14	復習	内容確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスを参考に予習する

【テキスト（教科書）】

Write it Right 鶴見書店

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト・小テスト 60%

平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】

学生はゆっくりした進度を希望しています

【Outline and objectives】

We are going to learn about the difference of nuance between Japanese and English through English composition.

LANe100LA

英語 2－Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANe100LA

英語 2－Ⅰ 2016 年度以前入学者

吉川 太恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
キ 1 年：英語 m 組

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

手紙文と E メール文を素材に、基礎的な文法事項をチェックしながら、簡易なセンテンスからパラグラフ・エッセイへ至るライティング・スキルの向上をめざす。
ライティングと並行して、自分の考えを英語でまとめて発表することが学生には求められる。発音、イントネーションの指導も含まれるため、学生は積極的に授業に参加することすることになる。また、表現力の増強に加えて、情報を受け取る能力、すなわちリスニング力を高めることで、英語の総合的な能力を高める。

【到達目標】

- ・構文・語彙を正確に理解する。
- ・リスニング教材やビデオ教材のある程度の長さの文章を聞き取ることができる。
- ・文法的に正しい、短いセンテンスやパラグラフ文を英文で書くことができる。
- ・英語で自分の意見をディスカッションなどで表明し、プレゼンテーションで発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ライティング・スキル養成のためのテキストを使用し、一つのユニットを二回に分けて学習する。前半では、単語のチェック、収録されている手紙文やメールを読み、それを音読することにより、発音、イントネーションのチェックを行う。次にエッセイ作成の基礎ともなる、文法のチェックを行う。後半は、宿題として出した Writing 1 から Writing 5 のチェックを、クラス全体で行う。トピックスを用いてパートナーとディスカッションをする場合もある。Writing 6 は、クラス内で時間を設定して書く。書いた用紙を提出してもらった場合と、それをプレゼンテーション用に用いる場合がある。次にリスニングの練習として、プリント及び語学ビデオを使用する。学生の積極的な参加を求める。（平常点に反映される。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、出欠の取り扱い、教科書及びリスニング教材についての説明、自己紹介、その他の注意点について。
2	Unit 1 Masashi's Letter (1)-1	(現在形) 読解、文法、発音・イントネーション チェック
3	Unit 1 Masashi's Letter (1)-2	(現在形) Writing 1 - 6、リスニング (ディスカッション)
4	Unit 2 Jack's Letter (1)-1	(過去形) 読解、文法、発音・イントネーション チェック
5	Unit 2 Jack's Letter (1)-2	(過去形) Writing 1 - 6、リスニング (ディスカッション)
6	Unit 3 Masashi's Letter (2)-1	(未来形) 読解、文法、発音・イントネーション チェック
7	Unit 3 Masashi's Letter (2)-2	(未来形) Writing 1 - 6、リスニング (ディス カッション)
8	Unit 4 Jack's Letter (2)-1	(進行形) 読解、文法、発音・イントネーション チェック
9	Unit 4 Jack's Letter (2)-2	(進行形) Writing 1 - 6、リスニング (ディスカッション)
10	Unit 5 Masashi's Letter (3)-1	(完了形) 読解、文法、発音・イントネーション チェック

11	Unit 5 Masashi's Letter (3)-2	(完了形) Writing 1 - 6、リスニング (ディスカッション)
12	Unit 6 Jack's Letter (3)-1	(法助動詞) 読解、文法、発音・イントネーション チェック
13	Unit 6 Jack's Letter (3)-2	(法助動詞) Writing 1 - 6、リスニング (ディスカッション)
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の宿題として、予習を義務付ける。ライティングは、課題をしっかりと行うことでさまざまな表現を活用することができるようになるため、予習は必須である。授業内で学んだ語彙や表現は、時々行う小テストでチェックするため、いつ出されてもいように、学生は日ごろから勉強の時間を確保すること。

【テキスト（教科書）】

New Friends - On the Way to Writing Fluency, Hiroshi Ozono, Andrew Zitzmann、南雲堂、2017 年、1900 円
リスニング用の教材は、プリントを配布。

【参考書】

(参考まで)
『一億人の英文法』、大西泰斗、ポール・マクベイ、東進ブックス、2013 年、1800 円
『英語ライティング・ルールブック：正しく伝えるための文法・語法・句読法』、デイヴィッド・セイン、株式会社 DHC、2011 年、1800 円

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%(授業への参加、毎回の予習、提出物や小テスト、クラスでの発表)を重要視し、学期末試験 (40%) と合わせて総合評価する。
欠席は 3 回までとし、4 回以上欠席した場合は単位を与えない。授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなる。また、遅刻 2 回を欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当するため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書（電子辞書）を持参のこと。

【その他の重要事項】

授業中に携帯電話を辞書代わりに使用することを禁止する。

【Outline and objectives】

By using examples of letters and e-mails, this course will help students improve their English communication skills by starting with writing simple sentences and preparing organized essays. Basic grammar study is also included in the textbook.

Alongside with developing their writing skills, students will be expected to present their opinions in the class. In addition, this class will also assist students to enhance their listening and speaking skills (pronunciation and intonation). Students' active participation will also be required.

LANe100LA	
英語 2－Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANe100LA	
英語 2－Ⅱ	2016 年度以前入学者
吉川 太恵子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 2/Mon.2	
キ 1 年：英語 m 組	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、手紙文と E メール文を素材に、基礎的な文法事項をチェックしながら、簡易なセンテンスからパラグラフ・エッセイへ至るライティング・スキルズの向上をめざす。
ライティングと並行して、自分の考えを英語でまとめて発表することが学生には求められる。発音、イントネーションの指導も含まれるため、学生は積極的に授業に参加することになる。また、表現力の増強に加えて、情報を受け取る能力、すなわちリスニング力を高めることで、英語の総合的な能力を高める。

【到達目標】
・構文・語彙を正確に理解する。
・リスニング教材やビデオ教材のある程度の長さの文章を聞き取ることができる。
・文法的に正しい、短いセンテンスやパラグラフ文を英文で書くことができる。
・英語で自分の意見をディスカッションなどで表明し、プレゼンテーションで発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ライティング・スキル養成のためのテキストを使用し、一つのユニットを二回に分けて学習する。前半では、単語のチェック、収録されている手紙文やメールを読み、それを音読することにより、発音、イントネーションのチェックを行う。次にエッセイ作成の基礎ともなる、文法のチェックを行う。後半は、宿題として出した Writing 1 から Writing 5 のチェックを、クラス全体で行う。トピックスを用いてパートナーとディスカッションをする場合もある。Writing 6 は、クラス内で時間を設定して書く。書いた用紙を提出してもらった場合と、それをプレゼンテーション用に用いる場合がある。次にリスニングの練習として、プリント及び語学ビデオを使用する。学生の積極的な参加を求める。（平常点に反映される。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	Unit 7 Masashi's Letter (4)-1	(動詞・名詞・代名詞) 読解、文法、発音、イントネーション チェック
2	Unit 7 Masashi's Letter (4)-2	(動詞・名詞・代名詞) Writing 1 -6、リスニング（ディス カッション）
3	Unit 8 Jack's Letter (4)-1	(形容詞、副詞、前置詞) 読解、文法、発音、イントネーション チェック
4	Unit 8 Jack's Letter (4)-2	(形容詞、副詞、前置詞) Writing 1 -6、リスニング（ディス カッション）
5	Unit 9 E-mail Exchange (1)-1	(接続詞 1) 読解、文法、発音、イントネーション チェック
6	Unit 9 E-mail Exchange (1)-2	(接続詞 1) Writing 1 -6、リスニング（ディス カッション）
7	Unit 10 E-mail Exchange (2)-1	(接続詞 2) 読解、文法、発音、イントネーション チェック
8	Unit 10 E-mail Exchange (2)-2	(接続詞 2) Writing 1 -6、リスニング（ディス カッション）
9	Unit 11 E-mail Exchange (3)	(関係詞) 読解、文法、発音、イントネーション チェック、Writing 1 -6、リスニング （ディスカッション）
10	Unit 12 E-mail Exchange (4)	(問投詞) 読解、文法、発音、イントネーション チェック、Writing 1 -6、リスニング （ディスカッション）

11	Unit 13 E-mail Exchange (5)	(比較) 読解、文法、発音、イントネーション チェック、Writing 1 -6、リスニング （ディスカッション）
12	Unit 14 E-mail Exchange (6)	(仮定) 読解、文法、発音、イントネーション チェック、Writing 1 -6、リスニング （ディスカッション）
13	総復習	Reading, Comprehension Questions, Vocabulary Review, Grammar Review, Paragraph & Essay Review
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の宿題として、予習を義務付ける。ライティングは、課題をしっかりと行うことでさまざまな表現を活用できるようになるため、予習は必須である。授業内で学んだ語彙や表現は、時々行う小テストでチェックするため、いつ出されてもいように、学生は日ごろから勉強の時間を確保すること。

【テキスト（教科書）】
New Friends - On the Way to Writing Fluency, Hiroshi Ozono, Andrew Zitzmann, 南雲堂、2017 年、1900 円
リスニング用の教材は、プリントを配布。

【参考書】
（参考まで）
『一億人の英文法』、大西泰斗、ポール・マクベイ、東進ブックス、2013 年、1800 円
『英語ライティング・ルールブック：正しく伝えるための文法・語法・句読法』、ディヴィッド・セイン、株式会社 DHC、2011 年、1800 円

【成績評価の方法と基準】
平常点 60%(授業への参加、毎回の予習、提出物や小テスト、クラスでの発表)を重要視し、学期末試験(40%)と合わせて総合評価する。
欠席は 3 回までとし、4 回以上欠席した場合は単位を与えない。授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、たとえ出席しても欠席扱いとなる。また、遅刻 2 回を欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
今年度から担当するため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】
英語辞書（電子辞書）を持参のこと。

【その他の重要事項】
授業中に携帯電話を辞書代わりに使用することを禁止する。

【Outline and objectives】
By using examples of letters and e-mails, this course will help students improve their English communication skills by starting with writing simple sentences and preparing organized essays. Basic grammar study is also included in the textbook.
Alongside with developing their writing skills, students will be expected to present their opinions in the class. In addition, this class will also assist students to enhance their listening and speaking skills (pronunciation and intonation). Students' active participation will also be required.

LANe100LA

補講英語 1・2－Ⅰ

2017 年度以降入学者

宮本 正和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、文法の基本的な重要事項を確認し、読解および表現を通して、英語の構文を正確に把握することを目指す。

【到達目標】

基本的な英語の文章の読解および文章表現ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを配布し、様々な文章を読んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	品詞	基本的な英語の文章を読みながら、名詞、形容詞、動詞等の様々な品詞の用法を理解する。
2	文・節・句	基本的な英語の文章を読みながら、文、そして文の中の単語の様々なつながりについて理解する。
3	5 文型 (1)	基本的な英語の文章を読みながら、第 1 文型を学ぶ。
4	5 文型 (2)	基本的な英語の文章を読みながら、第 2 文型を学ぶ。
5	5 文型 (3)	基本的な英語の文章を読みながら、第 3 文型を学ぶ。
6	5 文型 (4)	基本的な英語の文章を読みながら、第 4 文型を学ぶ。
7	5 文型 (5)	基本的な英語の文章を読みながら、第 5 文型とその他の文型を学ぶ。
8	単文	基本的な英語の文章を読みながら、単文を学ぶ。
9	複文	基本的な英語の文章を読みながら、複文を学ぶ。
10	重文	基本的な英語の文章を読みながら、重文を学ぶ。
11	肯定文（平叙文）	基本的な英語の文章を読みながら、肯定文（平叙文）を学ぶ。
12	否定文	基本的な英語の文章を読みながら、否定文を学ぶ。
13	疑問文と感嘆文	基本的な英語の文章を読みながら、疑問文と感嘆文を学ぶ。
14	まとめとふりかえり	春学期の授業をふりかえり、基本的な文法事項をもとに、英語の重要構文を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重要な文法事項の復習をして、英語の構文を把握できるようにする。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは用いず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点と学期末の試験により総合的に評価する。重要度は、平常点が 50%、学期末試験が 50%。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

履修生それぞれの実力に合わせて指導する。

【Outline and objectives】

Studying fundamental English grammar and English reading and composition.

LANe100LA

補講英語 1・2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

宮本 正和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、文法の基本的な重要事項を確認し、読解および表現を通して、英語の構文を正確に把握することを目指す。

【到達目標】

基本的な英語の文章の読解および文章表現ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを配布し、様々な文章を読んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	品詞	基本的な英語の文章を読みながら、名詞、形容詞、動詞等の様々な品詞の用法を理解する。
2	文・節・句	基本的な英語の文章を読みながら、文、そして文の中の単語の様々なつながりについて理解する。
3	5 文型 (1)	基本的な英語の文章を読みながら、第 1 文型を学ぶ。
4	5 文型 (2)	基本的な英語の文章を読みながら、第 2 文型を学ぶ。
5	5 文型 (3)	基本的な英語の文章を読みながら、第 3 文型を学ぶ。
6	5 文型 (4)	基本的な英語の文章を読みながら、第 4 文型を学ぶ。
7	5 文型 (5)	基本的な英語の文章を読みながら、第 5 文型とその他の文型を学ぶ。
8	単文	基本的な英語の文章を読みながら、単文を学ぶ。
9	複文	基本的な英語の文章を読みながら、複文を学ぶ。
10	重文	基本的な英語の文章を読みながら、重文を学ぶ。
11	肯定文（平叙文）	基本的な英語の文章を読みながら、肯定文（平叙文）を学ぶ。
12	否定文	基本的な英語の文章を読みながら、否定文を学ぶ。
13	疑問文と感嘆文	基本的な英語の文章を読みながら、疑問文と感嘆文を学ぶ。
14	まとめとふりかえり	秋学期の授業をふりかえり、基本的な文法事項をもとに、英語の重要構文を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重要な文法事項の復習をして、英語の構文を把握できるようにする。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは用いず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点と学期末の試験により総合的に評価する。重要度は、平常点が 50%、学期末試験が 50%。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

履修生それぞれの実力に合わせて指導する。

【Outline and objectives】

Studying fundamental English grammar and English reading and composition.

LANe100LA

補講英語 1・2－Ⅰ

2017 年度以降入学者

宮本 正和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、文法の基本的な重要事項を確認し、読解および表現を通して、英語の構文を正確に把握することを目指す。

【到達目標】

基本的な英語の文章の読解および文章表現ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを配布し、様々な文章を読んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	品詞	基本的な英語の文章を読みながら、名詞、形容詞、動詞等の様々な品詞の用法を理解する。
2	文・節・句	基本的な英語の文章を読みながら、文、そして文の中の単語の様々なつながりについて理解する。
3	5 文型 (1)	基本的な英語の文章を読みながら、第 1 文型を学ぶ。
4	5 文型 (2)	基本的な英語の文章を読みながら、第 2 文型を学ぶ。
5	5 文型 (3)	基本的な英語の文章を読みながら、第 3 文型を学ぶ。
6	5 文型 (4)	基本的な英語の文章を読みながら、第 4 文型を学ぶ。
7	5 文型 (5)	基本的な英語の文章を読みながら、第 5 文型とその他の文型を学ぶ。
8	単文	基本的な英語の文章を読みながら、単文を学ぶ。
9	複文	基本的な英語の文章を読みながら、複文を学ぶ。
10	重文	基本的な英語の文章を読みながら、重文を学ぶ。
11	肯定文（平叙文）	基本的な英語の文章を読みながら、肯定文（平叙文）を学ぶ。
12	否定文	基本的な英語の文章を読みながら、否定文を学ぶ。
13	疑問文と感嘆文	基本的な英語の文章を読みながら、疑問文と感嘆文を学ぶ。
14	まとめとふりかえり	春学期の授業をふりかえり、基本的な文法事項をもとに、英語の重要構文を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重要な文法事項の復習をして、英語の構文を把握できるようにする。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは用いず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点と学期末の試験により総合的に評価する。重要度は、平常点が 50%、学期末試験が 50%。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

履修生それぞれの実力に合わせて指導する。

【Outline and objectives】

Studying fundamental English grammar and English reading and composition.

LANe100LA

補講英語 1・2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

宮本 正和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、文法の基本的な重要事項を確認し、読解および表現を通して、英語の構文を正確に把握することを目指す。

【到達目標】

基本的な英語の文章の読解および文章表現ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回プリントを配布し、様々な文章を読んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	品詞	基本的な英語の文章を読みながら、名詞、形容詞、動詞等の様々な品詞の用法を理解する。
2	文・節・句	基本的な英語の文章を読みながら、文、そして文の中の単語の様々なつながりについて理解する。
3	5 文型 (1)	基本的な英語の文章を読みながら、第 1 文型を学ぶ。
4	5 文型 (2)	基本的な英語の文章を読みながら、第 2 文型を学ぶ。
5	5 文型 (3)	基本的な英語の文章を読みながら、第 3 文型を学ぶ。
6	5 文型 (4)	基本的な英語の文章を読みながら、第 4 文型を学ぶ。
7	5 文型 (5)	基本的な英語の文章を読みながら、第 5 文型とその他の文型を学ぶ。
8	単文	基本的な英語の文章を読みながら、単文を学ぶ。
9	複文	基本的な英語の文章を読みながら、複文を学ぶ。
10	重文	基本的な英語の文章を読みながら、重文を学ぶ。
11	肯定文（平叙文）	基本的な英語の文章を読みながら、肯定文（平叙文）を学ぶ。
12	否定文	基本的な英語の文章を読みながら、否定文を学ぶ。
13	疑問文と感嘆文	基本的な英語の文章を読みながら、疑問文と感嘆文を学ぶ。
14	まとめとふりかえり	秋学期の授業をふりかえり、基本的な文法事項をもとに、英語の重要構文を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

重要な文法事項の復習をして、英語の構文を把握できるようにする。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは用いず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点と学期末の試験により総合的に評価する。重要度は、平常点が 50%、学期末試験が 50%。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

履修生それぞれの実力に合わせて指導する。

【Outline and objectives】

Studying fundamental English grammar and English reading and composition.

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカに旅行で出かける日本人のストーリーで、臨場感のあるリスニングと旅行を疑似体験できるリーディングの練習をして、英語力の充実を目指す。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、各シチュエーションでのリスニングを聞き取り、英文の内容をきちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

予習して来た事を確認するために、アットランダムに学生を指し、英文を音読し、日本語に訳す、あるいは問いの答えを言うという作業をしてもらう。その後、難しい箇所は説明を加えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション、ガイダンス	辞書の使い方や、授業の進め方について説明し、提出用シートを配布する。
2 回目	Lesson 1 機内	飛行機の機内での会話、税関申請書などのリーディングを行う
3 回目	Lesson 2 到着	アメリカの空港に到着した時のリスニングと、e-mail のリーディングなどを行う
4 回目	Lesson 3 ケイトと再会	ケイトの家での会話のリスニング、天気予報のリーディングなどを行う
5 回目	Lesson 4 自由の女神	一人で自由の女神を観光するリスニング、自由の女神観光のチケット、説明のリーディングを行う
6 回目	Lesson 5 メトロポリタン美術館	メトロポリタン美術館を観光するリスニング、フロア地図や美術館の説明のリーディングを行う
7 回目	Lesson 6 レストラン	レストランでの注文のリスニング、レストランのレシート、メニューのリーディングを行う
8 回目	Lesson 7 ミュージカル	ミュージカルを話題にした会話のリスニング、ミュージカルのチケット、パンフレットのリーディングを行う
9 回目	Lesson 8 体調不良	具合が悪くなった時の会話、薬局での会話、薬の箱や保健センターの説明のリーディングを行う
10 回目	Lesson 9 スーパーでの買い物	スーパーで買い物する会話のリスニング、クーポン、スーパーでの広告のリーディングを行う
11 回目	Lesson 10 スポーツ観戦	スポーツ観戦に向かう会話、スポーツについての会話のリスニング、試合のチケット、ヤンキースの歴史についてのリーディングを行う
12 回目	Lesson 11 ワシントン DC へ	ケイトとの別れの会話、ワシントン DC へ行く時の会話、看板やワシントン DC の説明のリーディングを行う
13 回目	Lesson 12 ホテル	ホテルでの会話、ホテルの客室のアンケート、案内のリーディングを行う
14 回目	まとめと試験	復習の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書添付の CD を聞き、リスニングの問題に答え、本文については、辞書を引いて読み、本文についての各問題を解いてくる。

【テキスト（教科書）】

Hiroko Nishikage, Itsuko Haginoya ほか『Let's Go Abroad! Takeshi's journey to the U.S.』センテージラーニング

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

各時間の授業の発表を 30%、期末試験を 70% で採点する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

このテキストは初めて使うので、授業改善アンケートの情報がありません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Develop reading and listening skills through a text book named Let's Go Abroad!: Takeshi's Journey to the U.S.

LANe100LA

補講英語 1・2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人が日本滞在中に感じた、イギリスと日本の違いについての Reading を読み、TOEIC 方式の問題を含む問題を解いて、英語力の充実を目指す。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

予習して来た事を確認するために、アットランダムに学生を指し、英文を音読し、日本語に訳す、あるいは問いの答えを言うという作業をしてもらう。その後、難しい箇所は説明を加えていく。また、問いの答えは、各時間に答え合わせしてからシートを回収し、成績の中に入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション、ガイダンス	辞書の使い方や、授業の進め方について説明し、提出用シートを配布する。
2 回目	Lesson 1 Heights	背も高いと良くないこともあるというエッセイを読む。
3 回目	Lesson 2 Seasons	季節の移ろいに感じることを綴ったエッセイを読む。
4 回目	Lesson 3 Be careful with your licence	運転免許証の扱い方の日英での違いを学ぶ。
5 回目	Lesson 4 Doctors	英国の長く待たされて受ける治療について学ぶ。
6 回目	Lesson 5 Business Hours	時間の考え方に日英で違いがあることを学ぶ。
7 回目	Lesson 6 Public Holidays	本当の休暇については何かについて読んで考える。
8 回目	Lesson 7 Your Transport, My Transport	公共交通機関で見られる日英の違いについて読んで学ぶ。
9 回目	Lesson 8 Convenience Store	コンビニが生活に与える影響について読み考える。
1 0 回目	Lesson 9 Is it a good noise?	雑音、それとも心地よい音について、日英の違いについて読んで学ぶ。
1 1 回目	Lesson 10 Fireworks	日英で花火の季節が異なる背景を学ぶ。
1 2 回目	Lesson 11 Public or Private?	英国人の目から見るとプライベートなものが公然と行われていることへの驚きのエッセイを読む。
1 3 回目	Lesson 12 Technology	自動音声サービスの不手際について学ぶ。
1 4 回目	まとめと試験	復習の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書添付の CD を聞き、リスニングの問題に答え、本文については、辞書を引いて読み、本文についての各問題、TOEIC 方式の問題、ポキャブラリーについての問題に答え、配布シートに答えを転記する。

【テキスト（教科書）】

Terry O'Brien, Kei Mihara ほか、『Viewpoints: Japan and England』、南雲堂

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

毎回回収するシートを 40%、期末試験を 6 0 % で採点する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの情報がないので、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline and objectives】

Develop English skills using a textbook on the differences between England and Japan through reading each chapter's reading section and questions based on TOEIC

LANe100LA

Academic English I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

Academic English I

2016 年度以前入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1, 水 2/Wed.2

法 Y 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate powerful ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk a lot about your own opinions and experiences with classmates.

【到達目標】

You will practise speaking, listening, reading and writing about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations, short talks and write a variety of texts in order to build both your confidence in English and your ability to express yourself. You will get used to English spoken by people from all over the world. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

You will watch and listen to six inspiring and thought-provoking TED Talks. We will look at the topics from various angles while building vocabulary and becoming more knowledgeable about the issues. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will have many opportunities to communicate and improve your English. You will make individual and group presentations on topics related to what we study in class. You will practise a number of valuable academic skills including, note-taking, identifying key points, summarizing, gathering ideas, researching, organising ideas logically, arranging visuals, and giving critical feedback. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation. Getting to know you	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Necessities.	Watch TED Talk. Vocabulary - prefixes. Pronunciation - relaxed pronunciation.
3	Unit 1.	Presentation skills - speech aims & using props.
4	Unit 1.	Presentation performance. Grammar - perfect aspect. Speaking - luxury or necessity? Reading - Why do we sleep? Writing - stating opinions.
5	Unit. 1	Watch TED Talk. Pronunciation - different accents. Presentation skills - using humor.
6	Unit 2. Image and identity.	Grammar - comparisons and amounts. Speaking - evaluating data.
7	Unit 2.	Vocabulary - clothing. Reading - image and identity.
8	Unit 2.	Speaking - making suggestions. Writing - being diplomatic.
9	Unit 2.	Review of units 1 and 2.
10	Unit 1 & 2 quiz.	Watch TED Talk. Listening skills - discourse markers. Presentation skills - being relatable.
11	Unit 3. Harmony.	Presentation performance - my skill. Grammar - cleft sentences. Speaking - evaluating teamwork.
12	Unit 3.	Presentation performance - teamwork versus individual genius.
13	Unit 3.	

14	Unit 3.	Reading - groupthink. Speaking - groupthink. Vocabulary - conformity and non-conformity.
15	Unit 3.	Listening - disagreeing. Writing - disagreeing in emails.
16	Unit 4. Challenges.	Vocabulary building. Collaborative listening. Watch TED Talk.
17	Unit 4.	Presentation skills - controlling nerves. Grammar - approximation. Speaking - approximation.
18	Unit 4.	Reading - names and branding. Speaking - talking about sales, clarifying and repeating.
19	Unit 3 and 4 quiz.	Writing - instructions. Review of units 3 and 4.
20	Unit 5. Inspiration.	Listening skills - elision. Watch TED Talk.
21	Unit 5.	Presentation skills - repeating key ideas. Presentation performance.
22	Unit 5.	Grammar - unreal past. Speaking - life experiences and choices.
23	Unit 5.	Listening and Speaking - getting ideas and planning a party.
24	Unit 6. Solutions.	Vocabulary - keywords. Listening skills - signposts. Watch TED Talk.
25	Unit 6.	Presentation skills - demonstrating a process. Grammar - purpose. Speaking - talking about why things are useful.
26	Unit 6.	Speaking - solving problems, discussing options.
27	Unit 6.	Review of units 5 and 6.
28	Review of units 1- 6.	Discussion and listening diary report.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include reading, writing and preparation tasks for class speaking activities. You will have homework after every class. You will be asked to keep a listening diary of other Ted Talks and things that interest you.

【テキスト（教科書）】

Keynote Advanced Student's Book by Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson.

【参考書】

Ted Talks website. The textbook DVD-ROM.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 45%

Presentations 15%

Quizzes 30%

Reports 10%

*In principle, students can be absent a maximum of 4 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested less homework.

【学生が準備すべき機器他】

An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

LANe100LA

Academic English II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

Academic English II

2016 年度以前入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1, 水 2/Wed.2
法 Y 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate powerful ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk a lot about your own opinions and experiences with classmates.

【到達目標】

You will practise speaking, listening, reading and writing about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations, short talks and write a variety of texts in order to build both your confidence in English and your ability to express yourself. You will get used to English spoken by people from all over the world. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

You will watch and listen to six inspiring and thought-provoking TED Talks. We will look at the topics from various angles while building vocabulary and becoming more knowledgeable about the issues. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will have many opportunities to communicate and improve your English. You will make individual and group presentations on topics related to what we study in class. You will practise a number of valuable academic skills including, note-taking, identifying key points, summarizing, gathering ideas, researching, organising ideas logically, arranging visuals, and giving critical feedback.

Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation. Semester 1 review. Unit 7. Imagination. Unit 7.	Presentation of summer homework. Listening skills - inferring meaning from content. Watch TED Talk. Watch TED Talk. Presentation skills - being authentic, your accomplishments.
3	Unit 7.	Grammar - the continuous aspect. Speaking - the advantages and disadvantages of daydreaming. Reading and speaking - the power of visualization.
4	Unit 7.	Listening - speculating. Speaking - speculating.
5	Unit 7.	Writing - writing a news story.
6	Unit 8. Working together.	Watch TED Talk. Listening skills - understanding contrastive sentences. Presentation skills - using visuals.
7	Unit 8.	Grammar - cause and result. Speaking - cause and result relationships.
8	Unit 8.	Vocabulary - teams and teamwork. Reading - how not to motivate people.
9	Unit 8.	Speaking - work issues and taking part in meetings. Writing - questionnaires.
10	Unit 7 & 8 quiz.	Review of units 7 and 8.
11	Unit 9. Stress and relaxation.	Watch TED Talk. Listening skills - understanding mid-sentence changes in direction. Presentation skills - understanding the speaker's technique and thinking about your audience.

12	Unit 9.	Presentation performance - dealing with stress. Grammar - intensifying adjectives. Speaking - hints for a stress-free holiday.
13	Unit 9.	Presentation performance. Reading - can stress be good for you?
14	Unit 9.	Reading - groupthink. Speaking - groupthink. Vocabulary - conformity and non-conformity.
15	Unit 9.	Listening - dealing with awkward situations and having difficult situations.
16	Unit 10. Risk.	Pronunciation - polite and assertive intonation. Listening skills - avoiding frustration.
17	Unit 10.	Critical thinking skills - analogies. Watch TED Talk.
18	Unit 10.	Presentation skills - pace and emphasis. Grammar - passive reporting verbs. Speaking - a TV news story.
19	Unit 9 and 10 quiz.	Reading - understanding risk. Speaking - travel risks, informing and advising. Listening - assessing risk.
20	Unit 11. Vision.	Writing - memos and consumer reviews. Review of units 9 and 10.
21	Unit 11.	Listening skills - dealing with accents and different stress patterns. Watch TED Talk.
22	Unit 11.	Presentation skills - varying your tone of voice. Presentation performance.
23	Unit 11.	Grammar - subordinate clauses. Speaking - geotourism and looking after what matters. Reading - visionaries.
24	Unit 12. The future.	Listening and Speaking - life coaching. Writing - endorsing someone.
25	Unit 12.	Listening skills - grammatical chunks. Watch TED Talk. Critical thinking - the speaker's motivation.
26	Unit 12.	Presentation skills - being concise. Grammar - future in the past. Speaking - past views of the present.
27	Units 11 and 12 quiz.	Listening and Speaking - making arrangements. Writing - group emails.
28	Review of units 7 - 12.	Review of units 11 and 12. Discussion and listening diary report. Wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include reading, writing and preparation tasks for class speaking activities. You will have homework after every class. You will be asked to keep a listening diary of other Ted Talks and things that interest you.

【テキスト（教科書）】

Keynote Advanced Student's Book by Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson.

【参考書】

Ted Talks website. The textbook DVD-ROM.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 45%

Presentations 15%

Quizzes 30%

Reports 10%

*In principle, students can be absent a maximum of 4 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested less homework.

【学生が準備すべき機器他】

An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

LANe100LA

Academic English I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

Academic English I

2016 年度以前入学者

トビー トラブ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1, 水 2/Wed.2

法 Y 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to get students to use the English they already know as a tool to study other topics.

【到達目標】

The goal of the course is to help students to improve their academic English skills for success in university studies through the reading and of materials about the history, government, culture, and values of American people, as well as touching on social issues of countries around the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

In this course, students will read and discuss textbook readings and other articles about the United States. The focus of the first semester will be on the issues and challenges to the founding and expansion of the United States from the late 18th century to the end of the 19th century. Class activities will include: weekly homework, discussions in pairs, speaking and listening activities, reading and writing exercises, analysis of socially relevant films, and student presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Course Overview Presentation Skills	Overview/Student Introductions.
Class 2	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 The Foundations of Government	Notebook/textbook Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 3	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 4	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 Summary writing A Balance of Power / Three Branches of Government	Reading for the Main Ideas. Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 5	Reading/ Writing/ Speaking /Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.

Class 6	Reading/ Writing/ Speaking /Listening Unit 1 Introduction to the Bill of Rights Thinking about the topic.	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.	Class 17	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment. .
Class 7	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.	Class 18	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 8	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 Constitutional Issues Today	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.	Class 19	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 Second Amendment and gun control.	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 9	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment. .	Class 20	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 10	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.	Class 21	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 11	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 Freedom of Expression, how far does it go?	Summary exercise Movie Part1 Students must take notes during the movie.	Class 22	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 Security Versus Civil Liberty/the Fourth Amendment and Limits on Government Power	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 12	Movie Unit 1	Movie part2 Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.	Class 23	Research for presentation & essay Reading/ Writing/ Speaking /Listening	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 13	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.	Class 24	Research for presentation & essay	Movie: Fog of War Part One
Class 14	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 Freedom of Religion	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.	Class 25	Presentation skills	Movie: Fog of War Part Two
Class 15	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment. .	Class 26	Quiz/presentation prep	Quiz/presentation prep
Class 16	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.	Class 27	Final Presentations	Final Presentations
			Class 28	Wrap-up	Bonus quiz turn in all homework short video.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare homework for each class. Students are encouraged to develop critical thinking skills, writing skills, and communicative skills. The course schedule is tentative, and subject to revision.

【テキスト（教科書）】

Academic Encounters: American Studies 2, Reading and Writing textbook, 2nd Edition, by Jessica Williams, Cambridge University Press.

【参考書】

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>
<https://www.japantimes.co.jp/news/>
<https://www.yahoo.com/news/>
<http://www.bbc.com/news>
<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on:
Participation in class (40%) (of course, participation requires attendance)
Homework & Papers (30%)
Presentations (20%)
Final quiz (10%)

The Department of Global Politics' policy states that more than 4 absences in one semester will result in automatic failure of the course.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students are required to have a dictionary in class. You may use a phone app. Translation software is different than a dictionary. Translation software is strictly forbidden. Phones may ONLY be used as a dictionary. Students must bring a notebook, or loose paper every day to class.

【その他の重要事項】

This syllabus is tentative and subject to revision.

【Outline and objectives】

This is a CLIL course which means you will be tested mostly on the content, rather than the vocabulary, grammar and rules of the English language.

LANe100LA

Academic English II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

Academic English II

2016 年度以前入学者

トビー トラブ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1, 水 2/Wed.2
法 Y 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a CLIL course which means you will be tested mostly on the content, rather than the vocabulary, grammar and rules of the English language.

【到達目標】

The goal of the course is to help students to improve their academic English skills for success in university studies through the reading and discussion of materials about the history, government, culture, and values of American people, as well as touching on social issues of countries around the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

In this course, students will read and discuss textbook readings and other articles about the United States. The focus of the first semester will be on the issues and challenges to the founding and expansion of the United States from the late 18th century to the end of the 19th century. Class activities will include: weekly homework, discussions in pairs, speaking and listening activities, reading and writing exercises, analysis of socially relevant films, and student presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Welcome back/discussion Unit 2	Talking about Summer break Reading assignment Discussion Preparation writing assignment.
Class 2	America's First People Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 2	Discussion of homework. Current events handout. Discussion Preparation writing assignment.
Class 3	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 2	Discussion of homework. Current events handout. Discussion
Class 4	Topic: Slavery Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 2	Preparation writing assignment. Discussion of homework. Current events handout and discussion. Discussion Preparation writing assignment.
Class 5	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of Homework Discussion of homework. Discussion Preparation writing assignment.
Class 6	Civil War Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of Homework Read and discuss current events handout Discussion Preparation writing assignment.
Class 7	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 Reconstruction	Discussion of Homework Read and discuss current events handout Discussion Preparation writing assignment. Discussion Preparation writing assignment.
Class 8	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of Homework Read and discuss current events handout Discussion Preparation writing assignment.

Class 9	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 13th Amendment 14th Amendment 15th Amendment	Discussion of Homework Read and discuss current events handout Discussion Preparation writing assignment. Discussion Preparation writing assignment.
Class 10	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of Homework Read and discuss current events handout Discussion Preparation writing assignment.
Class 11	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of homework Movie Part1
Class 12	Movie	Movie part2 Discussion Preparation writing assignment.
Class 13	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 14	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 The Legacy of the Civil War / Abraham Lincoln	Discussion of Homework Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 15	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 16	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 The Civil Rights MovementRosa Parks/and segregation	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 17	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 3	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 18	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 19	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 Equal Rights and Protection for All	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 20	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 21	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 Reverse Discrimination Equal Opportunity versus Equal outcomes	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 22	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment. Presentation outline/assignment given
Class 23	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 4 Roots of American Values. Research for presentation	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment. Presentation topic due
Class 24	Reading/ writing/ speaking/ listening Research for presentation	Movie: Cats of Mirikitani Draft of presentation due. Words only.
Class 25	Presentation skills	Movie: Cats of Mirikitani Part Two Current events handout and discussion Presentation Powerpoint due.

Class 26	Quiz presentation prep	Quiz presentation prep
Class 27	Final Presentations	Final Presentations
Class 28	Wrap-up	Bonus quiz turn in all homework short video.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare homework for each class. Students are encouraged to develop critical thinking skills, writing skills, and communicative skills. The course schedule is tentative, and subject to revision.

【テキスト（教科書）】

Academic Encounters: American Studies 2, Reading and Writing textbook, 2nd Edition, by Jessica Williams, Cambridge University Press.

【参考書】

<https://japantoday.com/>
<https://www.japantimes.co.jp/news/>
<https://www.yahoo.com/news/>
<http://www.bbc.com/news>
<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on:
Participation in class (40%) (of course, participation requires attendance)
Homework & Papers (30%)
Presentations (20%)
Final quiz (10%)

Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students seemed to appreciate the discussions, because this was the thing they felt the least confident about. This is an Academic English course, and meant to support studying abroad, I have managed to integrate more discussion because the students may be required to participate in discussions with foreign students, in the classroom, when studying overseas. Also, they will need to interact with their teacher, and they need to have the confidence to do this. I did this little or no sacrifice to the amount of required reading, and writing in the course. The discussions are on topics that are relevant to the global political and social environment.

【学生が準備すべき機器他】

Students are required to have a dictionary in class. You may use a phone app. Translation software is different than a dictionary. Translation software is strictly forbidden. Phones may ONLY be used as a dictionary. Students must bring a notebook, or loose paper every day to class.

【その他の重要事項】

This syllabus is tentative. This may be revised at any time.

LANe100LA

Academic English I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

Academic English I 2016 年度以前入学者

コートランド D スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1, 水 2/Wed.2

法Y 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets twice a week, will cover all four skill areas; reading, listening, writing and speaking. Monday classes will be devoted to reading and writing while Wednesday lessons will focus on listening and speaking.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1
2	Introduction/Overview	Lesson 1
3	Basic Presentation Skills	Lesson 2
4	Basic Presentation Skills	Lesson 2
5	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3
6	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3
7	Presentation I / Listening Skills	Lesson 4
8	Presentation I / Listening Skills	Lesson 4
9	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 5
10	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 5
11	Presentation II.1	Lesson 6
12	Presentation II.1	Lesson 6
13	Topic Sentences / Support 1	Lesson 7
14	Topic Sentences / Support 1	Lesson 7
15	Presentation II.2	Lesson 8
16	Presentation II.2	Lesson 8
17	Topic Sentences / Support II	Lesson 9
18	Topic Sentences / Support II	Lesson 9
19	Presentation II.3	Lesson 10
20	Presentation II.3	Lesson 10
21	Paragraph Writing (comparison/contrast 1)	Lesson 11
22	Paragraph Writing (comparison/contrast 1)	Lesson 11

23	Listening Skills / Note-taking	Lesson 12
24	Listening Skills / Note-taking	Lesson 12
25	Paragraph Writing (comparison/contrast 2)	Lesson 13
26	Paragraph Writing (comparison/contrast 2)	Lesson 13
27	Presentation III.1	Lesson 14
28	Presentation III.1	Lesson 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials. Homework recordings and other downloads are available at: <http://groups.yahoo.com/group/aief56/>

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. Students absent 5 times or more without proper reasons may not be able to obtain credit for the class.

【学生の意見等からの気づき】

None

【その他の重要事項】

Active Learning: No, Probably should be Active Learning: Yes. In Textbooks the < return > space between 'are' and 'available' should be deleted.

【Outline and objectives】

このコースは週 2 回開催され、4 つのスキル分野すべてを網羅します。読む、聞く、書く、話す。月曜日の授業は読み書きに専念し、水曜日の授業はリスニングとスピーキングに焦点を当てます。

LANe100LA

Academic English II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

Academic English II

2016 年度以前入学者

コートランド D スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1, 水 2/Wed.2
法 Y 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets twice a week, will cover all four skill areas; reading, listening, writing and speaking. Monday classes will be devoted to reading and writing while Wednesday lessons will focus on listening and speaking. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1
2	Introduction / Overview	Lesson 1
3	Writing Skills: Review	Lesson 2
4	Writing Skills: Review	Lesson 2
5	Presentation Skills: Review	Lesson 3
6	Presentation Skills: Review	Lesson 3
7	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 4
8	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 4
9	Academic Presentation I.1	Lesson 5
10	Academic Presentation I.1	Lesson 5
11	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 6
12	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 6
13	Academic Presentation I.2	Lesson 7
14	Academic Presentation I.2	Lesson 7
15	Essay Writing (order 1)	Lesson 8
16	Essay Writing (order 1)	Lesson 8
17	Academic Discussion Skills I.1	Lesson 9
18	Academic Discussion Skills I.1	Lesson 9
19	Essay Writing (order 2)	Lesson 10
20	Essay Writing (order 2)	Lesson 10
21	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 11
22	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 11

23	Essay Writing (argumentation 1)	Lesson 12
24	Essay Writing (argumentation 1)	Lesson 12
25	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 13
26	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 13
27	Essay Writing (argumentation 2)	Lesson 14
28	Essay Writing (argumentation 2)	Lesson 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials. Homework recordings and other downloads are available at: <http://groups.yahoo.com/group/aief56/>

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. Students absent 5 times or more without proper reasons may not be able to obtain credit for the class.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

Active Learning: No, Probably should be Active Learning: Yes. In Textbooks the < return > space between 'are' and 'available' should be deleted.

【Outline and objectives】

このコースは週 2 回開催され、4 つのスキル分野すべてを網羅します。読む、聞く、書く、話す。月曜日の授業は読み書きに専念し、水曜日の授業はリスニングとスピーキングに焦点を当てます。このコースの 2 学期では、学生は様々なタイプの短いエッセイを書くこと、ディスカッションに参加すること、そして学術テーマについてスピーチをすることを学ぶでしょう。

LANe100LA

Academic English I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

Academic English I

2016 年度以前入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2, 水 1/Wed.1

法Y 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate powerful ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk a lot about your own opinions and experiences with classmates.

【到達目標】

You will practise speaking, listening, reading and writing about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations, short talks and write a variety of texts in order to build both your confidence in English and your ability to express yourself. You will get used to English spoken by people from all over the world. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

You will watch and listen to six inspiring and thought-provoking TED Talks. We will look at the topics from various angles while building vocabulary and becoming more knowledgeable about the issues. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will have many opportunities to communicate and improve your English. You will make individual and group presentations on topics related to what we study in class. You will practise a number of valuable academic skills including, note-taking, identifying key points, summarizing, gathering ideas, researching, organising ideas logically, arranging visuals, and giving critical feedback. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation. Getting to know you	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Necessities.	Watch TED Talk. Vocabulary - prefixes. Pronunciation - relaxed pronunciation.
3	Unit 1.	Presentation skills - speech aims & using props.
4	Unit 1.	Presentation performance. Grammar - perfect aspect. Speaking - luxury or necessity?
5	Unit. 1	Reading - Why do we sleep? Writing - stating opinions.
6	Unit 2. Image and identity.	Watch TED Talk. Pronunciation - different accents. Presentation skills - using humor.
7	Unit 2.	Grammar - comparisons and amounts. Speaking - evaluating data.
8	Unit 2.	Vocabulary - clothing. Reading - image and identity.
9	Unit 2.	Speaking - making suggestions. Writing - being diplomatic.
10	Unit 2 & 3 quiz.	Review of units 1 and 2.
11	Unit 3. Harmony.	Watch TED Talk. Listening skills - discourse markers. Presentation skills - being relatable.
12	Unit 3.	Presentation performance - my skill. Grammar - cleft sentences. Speaking - evaluating teamwork.
13	Unit 3.	Presentation performance - teamwork versus individual genius.

14	Unit 3.	Reading - groupthink. Speaking - groupthink. Vocabulary - conformity and non-conformity.
15	Unit 3.	Listening - disagreeing. Writing - disagreeing in emails.
16	Unit 4. Challenges.	Vocabulary building. Collaborative listening. Watch TED Talk.
17	Unit 4.	Presentation skills - controlling nerves. Grammar - approximation. Speaking - approximation.
18	Unit 4.	Reading - names and branding. Speaking - talking about sales, clarifying and repeating.
19	Unit 3 and 4 quiz.	Writing - instructions. Review of units 3 and 4.
20	Unit 5. Inspiration.	Listening skills - elision. Watch TED Talk.
21	Unit 5.	Presentation skills - repeating key ideas. Presentation performance.
22	Unit 5.	Grammar - unreal past. Speaking - life experiences and choices.
23	Unit 5.	Listening and Speaking - getting ideas and planning a party.
24	Unit 6. Solutions.	Vocabulary - keywords. Listening skills - signposts. Watch TED Talk.
25	Unit 6.	Presentation skills - demonstrating a process. Grammar - purpose. Speaking - talking about why things are useful.
26	Unit 6.	Speaking - solving problems, discussing options.
27	Unit 6.	Review of units 5 and 6.
28	Review of units 1- 6.	Discussion and listening diary report.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include reading, writing and preparation tasks for class speaking activities. You will have homework after every class. You will be asked to keep a listening diary of other Ted Talks and things that interest you.

【テキスト（教科書）】

Keynote Advanced Student's Book by Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson.

【参考書】

Ted Talks website. The textbook DVD-ROM.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 45%

Presentations 15%

Quizzes 30%

Reports 10%

*In principle, students can be absent a maximum of 4 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested less homework.

【学生が準備すべき機器他】

An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

LANe100LA

Academic English II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

Academic English II

2016 年度以前入学者

ナダー ジャミリア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2, 水 1/Wed.1
法 Y 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate powerful ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk a lot about your own opinions and experiences with classmates.

【到達目標】

You will practise speaking, listening, reading and writing about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations, short talks and write a variety of texts in order to build both your confidence in English and your ability to express yourself. You will get used to English spoken by people from all over the world. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

You will watch and listen to six inspiring and thought-provoking TED Talks. We will look at the topics from various angles while building vocabulary and becoming more knowledgeable about the issues. In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will have many opportunities to communicate and improve your English. You will make individual and group presentations on topics related to what we study in class. You will practise a number of valuable academic skills including, note-taking, identifying key points, summarizing, gathering ideas, researching, organising ideas logically, arranging visuals, and giving critical feedback.

Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation. Semester 1 review. Unit 7. Imagination.	Presentation of summer homework. Listening skills - inferring meaning from content. Watch TED Talk.
2	Unit 7.	Watch TED Talk. Presentation skills - being authentic, your accomplishments.
3	Unit 7.	Grammar - the continuous aspect. Speaking - the advantages and disadvantages of daydreaming. Reading and speaking - the power of visualization.
4	Unit 7.	Listening - speculating. Speaking - speculating.
5	Unit 7.	Writing - writing a news story.
6	Unit 8. Working together.	Watch TED Talk. Listening skills - understanding contrastive sentences. Presentation skills - using visuals.
7	Unit 8.	Grammar - cause and result. Speaking - cause and result relationships.
8	Unit 8.	Vocabulary - teams and teamwork. Reading - how not to motivate people.
9	Unit 8.	Speaking - work issues and taking part in meetings. Writing - questionnaires.
10	Unit 7 & 8 quiz.	Review of units 7 and 8.
11	Unit 9. Stress and relaxation.	Watch TED Talk. Listening skills - understanding mid-sentence changes in direction. Presentation skills - understanding the speaker's technique and thinking about your audience.

12	Unit 9.	Presentation performance - dealing with stress. Grammar - intensifying adjectives. Speaking - hints for a stress-free holiday.
13	Unit 9.	Presentation performance. Reading - can stress be good for you?
14	Unit 9.	Reading - groupthink. Speaking - groupthink. Vocabulary - conformity and non-conformity.
15	Unit 9.	Listening - dealing with awkward situations and having difficult situations.
16	Unit 10. Risk.	Pronunciation - polite and assertive intonation. Listening skills - avoiding frustration.
17	Unit 10.	Critical thinking skills - analogies. Watch TED Talk. Presentation skills - pace and emphasis. Grammar - passive reporting verbs. Speaking - a TV news story.
18	Unit 10.	Reading - understanding risk. Speaking - travel risks, informing and advising. Listening - assessing risk.
19	Unit 9 and 10 quiz.	Writing - memos and consumer reviews. Review of units 9 and 10.
20	Unit 11. Vision.	Listening skills - dealing with accents and different stress patterns. Watch TED Talk.
21	Unit 11.	Presentation skills - varying your tone of voice. Presentation performance.
22	Unit 11.	Grammar - subordinate clauses. Speaking - geotourism and looking after what matters. Reading - visionaries.
23	Unit 11.	Listening and Speaking - life coaching. Writing - endorsing someone.
24	Unit 12. The future.	Listening skills - grammatical chunks. Watch TED Talk. Critical thinking - the speaker's motivation.
25	Unit 12.	Presentation skills - being concise. Grammar - future in the past. Speaking - past views of the present.
26	Unit 12.	Listening and Speaking - making arrangements. Writing - group emails.
27	Units 11 and 12 quiz.	Review of units 11 and 12.
28	Review of units 7 - 12.	Discussion and listening diary report. Wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include reading, writing and preparation tasks for class speaking activities. You will have homework after every class. You will be asked to keep a listening diary of other Ted Talks and things that interest you.

【テキスト（教科書）】

Keynote Advanced Student's Book by Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson.

【参考書】

Ted Talks website. The textbook DVD-ROM.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 45%

Presentations 15%

Quizzes 30%

Reports 10%

*In principle, students can be absent a maximum of 4 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested less homework.

【学生が準備すべき機器他】

An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

LANe100LA

Academic English I 2017 年度以降入学者

LANe100LA

Academic English I 2016 年度以前入学者

トビー トラブ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2, 水 1/Wed.1

法Y 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to get students to use the English they already know as a tool to study other topics.

【到達目標】

The goal of the course is to help students to improve their academic English skills for success in university studies through the reading and of materials about the history, government, culture, and values of American people, as well as touching on social issues of countries around the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

In this course, students will read and discuss textbook readings and other articles about the United States. The focus of the first semester will be on the issues and challenges to the founding and expansion of the United States from the late 18th century to the end of the 19th century. Class activities will include: weekly homework, discussions in pairs, speaking and listening activities, reading and writing exercises, analysis of socially relevant films, and student presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Course Overview Presentation Skills	Overview/Student Introductions.
Class 2	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 The Foundations of Government	Notebook/textbook Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 3	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 4	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 Summary writing A Balance of Power / Three Branches of Government	Reading for the Main Ideas. Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 5	Reading/ Writing/ Speaking /Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.

Class 6	Reading/ Writing/ Speaking /Listening Unit 1 Introduction to the Bill of Rights Thinking about the topic.	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 7	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 8	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 Constitutional Issues Today	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 9	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 10	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 11	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 Freedom of Expression, how far does it go?	Summary exercise Movie Part1 Students must take notes during the movie.
Class 12	Movie Unit 1	Movie part2 Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 13	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 14	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 Freedom of Religion	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 15	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 16	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.

Class 17	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment. . Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 18	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 19	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 Second Amendment and gun control.	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 20	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 21	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 22	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 1 Security Versus Civil Liberty/the Fourth Amendment and Limits on Government Power	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 23	Research for presentation & essay Reading/ Writing/ Speaking /Listening	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Homework: Conversation preparation writing assignment.
Class 24	Research for presentation & essay	Movie: Fog of War Part One
Class 25	Presentation skills	Movie: Fog of War Part Two
Class 26	Quiz/presentation prep	Quiz/presentation prep
Class 27	Final Presentations	Final Presentations
Class 28	Wrap-up	Bonus quiz turn in all homework short video.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare homework for each class. Students are encouraged to develop critical thinking skills, writing skills, and communicative skills. The course schedule is tentative, and subject to revision.

【テキスト（教科書）】

Academic Encounters: American Studies 2, Reading and Writing textbook, 2nd Edition, by Jessica Williams, Cambridge University Press.

【参考書】

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>
<https://www.japantimes.co.jp/news/>
<https://www.yahoo.com/news/>
<http://www.bbc.com/news>
<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on:
 Participation in class (40%) (of course, participation requires attendance)
 Homework & Papers (30%)
 Presentations (20%)
 Final quiz (10%)

The Department of Global Politics' policy states that more than 4 absences in one semester will result in automatic failure of the course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students are required to have a dictionary in class. You may use a phone app. Translation software is different than a dictionary. Translation software is strictly forbidden. Phones may ONLY be used as a dictionary. Students must bring a notebook, or loose paper every day to class.

【その他の重要事項】

This syllabus is tentative and subject to revision.

【Outline and objectives】

This is a CLIL course which means you will be tested mostly on the content, rather than the vocabulary, grammar and rules of the English language.

LANe100LA

Academic English II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

Academic English II

2016 年度以前入学者

トビー トラブ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2, 水 1/Wed.1
法 Y 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a CLIL course which means you will be tested mostly on the content, rather than the vocabulary, grammar and rules of the English language.

【到達目標】

The goal of the course is to help students to improve their academic English skills for success in university studies through the reading and discussion of materials about the history, government, culture, and values of American people, as well as touching on social issues of countries around the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

In this course, students will read and discuss textbook readings and other articles about the United States. The focus of the first semester will be on the issues and challenges to the founding and expansion of the United States from the late 18th century to the end of the 19th century. Class activities will include: weekly homework, discussions in pairs, speaking and listening activities, reading and writing exercises, analysis of socially relevant films, and student presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Welcome back/discussion Unit 2 America's First People	Talking about Summer break Reading assignment Discussion Preparation writing assignment.
Class 2	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 2	Discussion of homework. Current events handout. Discussion Preparation writing assignment.
Class 3	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 2 Topic: Slavery	Discussion of homework. Current events handout. Discussion Preparation writing assignment.
Class 4	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 2	Discussion of homework. Current events handout and discussion. Discussion Preparation writing assignment.
Class 5	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 Civil War	Discussion of Homework Discussion of homework. Discussion Preparation writing assignment.
Class 6	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of Homework Read and discuss current events handout Discussion Preparation writing assignment.
Class 7	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 Reconstruction	Discussion of Homework Read and discuss current events handout Discussion Preparation writing assignment. Discussion Preparation writing assignment.
Class 8	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of Homework Read and discuss current events handout Discussion Preparation writing assignment.

Class 9	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 13th Amendment 14th Amendment 15th Amendment	Discussion of Homework Read and discuss current events handout Discussion Preparation writing assignment. Discussion Preparation writing assignment.
Class 10	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of Homework Read and discuss current events handout Discussion Preparation writing assignment.
Class 11	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of homework Movie Part1
Class 12	Movie	Movie part2 Discussion Preparation writing assignment.
Class 13	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 14	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 The Legacy of the Civil War / Abraham Lincoln	Discussion of Homework Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 15	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 16	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 The Civil Rights Movement Rosa Parks/and segregation	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 17	Reading/ Writing/ Speaking/ Listening Unit 3	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 18	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 19	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 Equal Rights and Protection for All	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 20	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 21	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3 Reverse Discrimination Equal Opportunity versus Equal outcomes	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment.
Class 22	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 3	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment. Presentation outline/assignment given
Class 23	Reading/ writing/ speaking/ listening Unit 4 Roots of American Values. Research for presentation	Discussion of writing assignment. Current events handout with discussion Discussion Preparation writing assignment. Presentation topic due
Class 24	Reading/ writing/ speaking/ listening Research for presentation	Movie: Cats of Mirikitani Draft of presentation due. Words only.
Class 25	Presentation skills	Movie: Cats of Mirikitani Part Two Current events handout and discussion Presentation Powerpoint due.

Class 26	Quiz presentation prep	Quiz presentation prep
Class 27	Final Presentations	Final Presentations
Class 28	Wrap-up	Bonus quiz turn in all homework short video.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare homework for each class. Students are encouraged to develop critical thinking skills, writing skills, and communicative skills. The course schedule is tentative, and subject to revision.

【テキスト（教科書）】

Academic Encounters: American Studies 2, Reading and Writing textbook, 2nd Edition, by Jessica Williams, Cambridge University Press.

【参考書】

<https://japantoday.com/>
<https://www.japantimes.co.jp/news/>
<https://www.yahoo.com/news/>
<http://www.bbc.com/news>
<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on:
 Participation in class (40%) (of course, participation requires attendance)
 Homework & Papers (30%)
 Presentations (20%)
 Final quiz (10%)

The Department of Global Politics policy states that more than 4 absences in one semester will result in automatic failure of the course.

【学生の意見等からの気づき】

Students seemed to appreciate the discussions, because this was the thing they felt the least confident about. This is an Academic English course, and meant to support studying abroad, I have managed to integrate more discussion because the students may be required to participate in discussions with foreign students, in the classroom, when studying overseas. Also, they will need to interact with their teacher, and they need to have the confidence to do this. I did this little or no sacrifice to the amount of required reading, and writing in the course. The discussions are on topics that are relevant to the global political and social environment.

【学生が準備すべき機器他】

Students are required to have a dictionary in class. You may use a phone app. Translation software is different than a dictionary. Translation software is strictly forbidden. Phones may ONLY be used as a dictionary. Students must bring a notebook, or loose paper every day to class.

【その他の重要事項】

This syllabus is tentative. This may be revised at any time.

LANe100LA

Academic English I

2017 年度以降入学者

LANe100LA

Academic English I

2016 年度以前入学者

コートランド D スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2, 水 1/Wed.1

法 Y 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets twice a week, will cover all four skill areas; reading, listening, writing and speaking. Monday classes will be devoted to reading and writing while Wednesday lessons will focus on listening and speaking.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1
2	Introduction/Overview	Lesson 1
3	Basic Presentation Skills	Lesson 2
4	Basic Presentation Skills	Lesson 2
5	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3
6	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3
7	Presentation I / Listening Skills	Lesson 4
8	Presentation I / Listening Skills	Lesson 4
9	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 5
10	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 5
11	Presentation II.1	Lesson 6
12	Presentation II.1	Lesson 6
13	Topic Sentences / Support 1	Lesson 7
14	Topic Sentences / Support 1	Lesson 7
15	Presentation II.2	Lesson 8
16	Presentation II.2	Lesson 8
17	Topic Sentences / Support II	Lesson 9
18	Topic Sentences / Support II	Lesson 9
19	Presentation II.3	Lesson 10
20	Presentation II.3	Lesson 10
21	Paragraph Writing (comparison/contrast 1)	Lesson 11
22	Paragraph Writing (comparison/contrast 1)	Lesson 11

23	Listening Skills / Note-taking	Lesson 12
24	Listening Skills / Note-taking	Lesson 12
25	Paragraph Writing (comparison/contrast 2)	Lesson 13
26	Paragraph Writing (comparison/contrast 2)	Lesson 13
27	Presentation III.1	Lesson 14
28	Presentation III.1	Lesson 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials. Homework recordings and other downloads are available at: <http://groups.yahoo.com/group/aief56/>

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. Students absent 5 times or more without proper reasons may not be able to obtain credit for the class.

【学生の意見等からの気づき】

None

【その他の重要事項】

Active Learning: No, Probably should be Active Learning: Yes. In Textbooks the < return > space between 'are' and 'available' should be deleted.

【Outline and objectives】

このコースは週 2 回開催され、4 つのスキル分野すべてを網羅します。読む、聞く、書く、話す。月曜日の授業は読み書きに専念し、水曜日の授業はリスニングとスピーキングに焦点を当てます。

LANe100LA

Academic English II

2017 年度以降入学者

LANe100LA

Academic English II

2016 年度以前入学者

コートランド D スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2, 水 1/Wed.1
法 Y 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets twice a week, will cover all four skill areas; reading, listening, writing and speaking. Monday classes will be devoted to reading and writing while Wednesday lessons will focus on listening and speaking. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1
2	Introduction / Overview	Lesson 1
3	Writing Skills: Review	Lesson 2
4	Writing Skills: Review	Lesson 2
5	Presentation Skills: Review	Lesson 3
6	Presentation Skills: Review	Lesson 3
7	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 4
8	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 4
9	Academic Presentation I.1	Lesson 5
10	Academic Presentation I.1	Lesson 5
11	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 6
12	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 6
13	Academic Presentation I.2	Lesson 7
14	Academic Presentation I.2	Lesson 7
15	Essay Writing (order 1)	Lesson 8
16	Essay Writing (order 1)	Lesson 8
17	Academic Discussion Skills I.1	Lesson 9
18	Academic Discussion Skills I.1	Lesson 9
19	Essay Writing (order 2)	Lesson 10
20	Essay Writing (order 2)	Lesson 10
21	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 11
22	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 11

23	Essay Writing (argumentation 1)	Lesson 12
24	Essay Writing (argumentation 1)	Lesson 12
25	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 13
26	Academic Discussion Skills I.2	Lesson 13
27	Essay Writing (argumentation 2)	Lesson 14
28	Essay Writing (argumentation 2)	Lesson 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time.

【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials. Homework recordings and other downloads are available at: <http://groups.yahoo.com/group/aief56/>

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. Students absent 5 times or more without proper reasons may not be able to obtain credit for the class.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

Active Learning: No, Probably should be Active Learning: Yes. In Textbook section the < return > space between 'are' and 'available' should be deleted.

【Outline and objectives】

このコースは週 2 回開催され、4 つのスキル分野すべてを網羅します。読む、聞く、書く、話す。月曜日の授業は読み書きに専念し、水曜日の授業はリスニングとスピーキングに焦点を当てます。このコースの 2 学期では、学生は様々なタイプの短いエッセイを書くこと、ディスカッションに参加すること、そして学術テーマについてスピーチをすることを学ぶでしょう。

LANj100LA

日本語 1 I

2017 年度以降入学者

LANj100LA

日本語 1 - I

2016 年度以前入学者

板井 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

法キ 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が大学の講義や口頭発表を聞くために必要な日本語の聴解能力を養成する。学生は、ある程度の長さのスクリプトを聴き、ポイントをつかみ、メモを作成する。教材の Q&A、穴埋めなどを行い、情報の中で重要な部分を聞き取る訓練を行った後で、要約文を書く。

【到達目標】

1. 学生は、講義や発表の概要をつかめるようになる。
2. 学生は、ノートテイキングができるようになる。
3. 学生は、聞いたことの要約ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- i. スクリプト全体を聞く
- ii. 大意をつかみながらメモを作成
- iii. Q&A、穴埋め問題に解答
- IV. 要約を作成
- v. ディスカッション

授業では、聞き取り、要約文を書き、理解した内容について討論を行い、自分の意見を発表することで、聴解力、文章力、発表する力を伸ばす練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	導入
第 2 回	社会問題 1	導入
第 3 回	社会問題 2	発展
第 4 回	社会問題 3	応用
第 5 回	社会問題 4	まとめ
第 6 回	日本事情 1	導入
第 7 回	日本事情 2	発展
第 8 回	日本事情 3	応用
第 9 回	日本事情 4	まとめ
第 10 回	日本の文化 1	導入
第 11 回	日本の文化 2	発展
第 12 回	日本の文化 3	応用
第 13 回	日本の文化 4	まとめ
第 14 回	総まとめ	総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習型の授業。授業後に学生は練習問題で間違った箇所を再度チェックすること。
2. 要約文は、リライトをし、翌週の授業で提出。

【テキスト（教科書）】

コピー教材

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：授業への積極的取り組みなど（30%）
課題：ノートテイキング、穴埋め、Q&A、要約など（50%）
期末試験（20%）

※4 回以上欠席した場合は、原則として単位は出さない。

※課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

本授業で学んだことをもとに応用力をつけていってほしいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

1. 授業開始と同時に聴解を行うので、遅刻しないよう心がけてください。
2. 教室でスマホは使用不可とするので、辞書を持参してください。
3. 課題がある場合は、授業終了直後に課題を提出します。遅れて提出した場合、評価点は与えられません。

※最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

【Outline and objectives】

Undergraduate listening class -this class will help listening skill of students improve by listening to a script. They will be required to write a summary based on what they have heard and notes they have written.

LANj100LA

日本語 1 II

2017 年度以降入学者

LANj100LA

日本語 1 ー II

2016 年度以前入学者

板井 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

法キ 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の講義やゼミの受講に必要な日本語の聴解・読解能力を養成する。学生は、ある程度の長さのニュース番組などを聴き、ポイントをつかみ、メモを作成する。教材の Q&A、穴埋めなどを行い、情報の中で重要な部分を聞き取る訓練を行う。聞き取り練習で扱ったトピックに関する読み物を読み、読みのスキルも同時に養成する。

【到達目標】

1. 学生は、講義やゼミの受講に必要な聴解・読解力がつく。
2. 学生は、ノートテイキングができるようになる。
3. 学生は、理解した内容について自分の意見を発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- i. ニュース全体を聞く
- ii. 大意をつかみながらメモを作成する
- iii. Q&A、穴埋め問題に解答する
- IV. 要約を作成する
- v. 討論と発表1
- vi. ニュースのトピックについての文章を読む
- vii. 討論と発表2

授業では、聞き取り理解した内容について討論を行い、さらに文章を読み、自分の意見を発表することで、聴解力、読解力、プレゼンテーション力を伸ばす練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	導入
第2回	社会問題1	導入
第3回	社会問題2	発展
第4回	社会問題3	応用
第5回	社会問題4	まとめ
第6回	日本事情1	導入
第7回	日本事情2	発展
第8回	日本事情3	応用
第9回	日本事情4	まとめ
第10回	日本の文化1	導入
第11回	日本の文化2	発展
第12回	日本の文化3	応用
第13回	日本の文化4	まとめ
第14回	総まとめ	総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習型の授業。授業後は、学生は練習問題で間違った箇所を再度チェックし、きちんと復習することで、授業で学んだことを消化する。

【テキスト（教科書）】

教材・資料を毎回配布。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：授業への積極的取り組みなど（30%）
課題：ノートテイキング、穴埋め、Q&A、要約など（50%）
期末試験（20%）

※4回以上欠席した場合は、原則として単位は出さない。

※課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

本授業で学んだことをもとに応用力をつけてほしいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

1. 授業開始と同時に聴解を行うので、遅刻しないよう心がけてほしい。

2. 教室でスマホは使用不可とするので、辞書を持参してください。
3. 課題がある場合は、授業終了後に課題を提出します。遅れて提出した場合、評価点は与えられません。
- ※最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is students will be able to listen to the lectures, grasp the point, take a note, and write a summary.

LANj100LA

日本語 1 I

2017 年度以降入学者

LANj100LA

日本語 1 – I

2016 年度以前入学者

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
営環 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。
また、読解や聴解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

【到達目標】

- (1) ノート・テイキングができるようになること
- (2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
- (3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- 1. 前回の授業の復習（小テストを行う場合もあり）
- 2. メモを取りながら読解または聴解を行う
- 3. メモをもとにアウトラインを作成する
- 4. 読解または聴解のトピックに関してディスカッションを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	聴解・読解練習 1	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
3	聴解・読解練習 2	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
4	聴解・読解練習 3	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
5	聴解・読解練習 4	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
6	聴解・読解練習 5	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
7	聴解・読解練習 6	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
8	聴解・読解練習 7	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
9	聴解・読解練習 8	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。

10	聴解・読解練習 9	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
11	聴解・読解練習 10	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
12	聴解・読解練習 11	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
13	聴解・読解練習 12	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
14	期末試験	読解および聴解試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 30 %、課題（発表、提出物）40 %、試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

日本語 1 II

2017 年度以降入学者

LANj100LA

日本語 1 – II

2016 年度以前入学者

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

営環 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。
また、読解や聴解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

【到達目標】

- (1) ノート・テイキングができるようになること
- (2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
- (3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業の復習（小テストを行う場合もあり）
2. メモを取りながら読解または聴解を行う
3. メモをもとにアウトラインを作成する
4. 読解または聴解のトピックに関してディスカッションを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	聴解・読解練習 1	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
3	聴解・読解練習 2	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
4	聴解・読解練習 3	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
5	聴解・読解練習 4	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
6	聴解・読解練習 5	メモを取りながらスクメモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
7	聴解・読解練習 6	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
8	聴解・読解練習 7	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
9	聴解・読解練習 8	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。

発行日：2019/5/1

10	聴解・読解練習 9	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
11	聴解・読解練習 10	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
12	聴解・読解練習 11	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
13	聴解・読解練習 12	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。 概要を口頭で説明する。 トピックについて議論する。
14	期末試験	読解および聴解試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中にハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 30 %、課題（発表、提出物）40 %、試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

日本語 2 I

2017 年度以降入学者

LANj100LA

日本語 2－I

2016 年度以前入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法キ 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の学部レポート作成に必要な作文技能を習得する。
対象は日本語を母語としない学部 1 年の学生を基本とする。

【到達目標】

アカデミック・ライティングの基礎となる語彙、表現の知識を持ち、必要に応じてこれが使え。各学科のレポート作成にあたり、レポート文の構成や論理展開、資料の扱いなど、必要な基礎的知識もつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書に沿った課題演習を中心に行う。第 1～5 回は説明と演習中心、6 回目以降は一部読解が含まれる。学期末に、2000 字程度のレポートの提出がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	レポートに使われる語彙と文体	文末表現をはじめ、副詞や接続詞などを含む文語表現の確認
第 2 回	文の基本 (1)	・自動詞／他動詞と受け身 ・助詞「は」と「が」の使い分け
第 3 回	文の基本 (2)	・語や文の名詞化 ・首尾一貫した文 ・指示詞「こ」と「そ」
第 4 回	・句読点の打ち方と各種記号の使い方 ・引用の仕方	・インデント、句読点の使い方。 ・原稿用紙の使い方と、ワープロ書きのときの注意。 ・引用の様々な形式と参考文献の書き方
第 5 回	・第 1 回～第 4 回の復習 ・引用と要約	・復習まとめタスク ・要約の仕方
第 6 回	段落 レポートの構成	・段落の分け方と構成 ・レポートの構成 ・最終課題の提示
第 7 回	仕組みの説明	組織や物事の仕組みの分析と描写
第 8 回	歴史的な経過の説明	時系列的な説明の仕方
第 9 回	分類と定義	何らかの基準に基づいて分類し、その各々お要素を説明する方法。また、定義対象のカテゴリー分けと特徴の説明。定義づけ。
第 10 回	比較・対照	二つ以上のものを比べ、その正確・性質を明らかにする。
第 11 回	因果関係	原因・理由と結果の表現
第 12 回	論説文	論説文の構成とその特徴的な表現について。
第 13 回	資料の利用	資料を選択する時の留意点と、資料を活用する際によく使われる表現
第 14 回	レポートの書き方	レポート・論説文の種類と書き方のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・宿題を出すので、翌週に必ず提出すること。
宿題は主に、練習問題プリント、または 400 字程度の作文。
・授業始めに、前週の学習内容について、小テストを行うことがあるので、復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

二通信子・佐藤不二子 『留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

【参考書】

①友松悦子『中級日本語学習者対象 小論文への 12 のステップ』スリーエーネットワーク
②浜田麻里『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版
①は基礎、②はより上級の文章作成技術を対象としている。

【成績評価の方法と基準】

提出物：40% 小テスト：30%
 平常点：30%

★欠席4回以上で履修資格を失うので注意すること。

★遅刻（授業開始後20分まで）3回で欠席1回として扱う。

★提出物を遅れて提出した場合、評価点は与えられないので、期日を守ること。

【学生の意見等からの気づき】

学部1年生は、前期末の各教科の各種レポートの作成に不安や戸惑いがあるので、前期終了段階で基礎的なレポート作成の目安がほしいとの声が多かった。そのため、本授業では、前期終了少し前にはレポート作成技術のある程度習得し、学生のニーズに応えられるように努める。

【Outline and objectives】

This course will provide students with basic skills of academic writing in Japanese. It is basically designed for first-year students, who learn Japanese as their second language.

LANj100LA

日本語Ⅱ

2017年度以降入学者

LANj100LA

日本語ⅡーⅡ

2016年度以前入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

法キ1年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない、学部1年生の日本語作文。
 様々な実用的なテーマに沿って、簡潔かつ適切な文の書き方を身につける。

【到達目標】

日本語での文章作成が必要とされる様々な場面に対応して簡潔かつ適切な文章表現ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書を用いた演習。
 各テーマごとに、問題点を話し合い、その後各自あるいはグループで、与えられた状況に応じた文章の作成を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	お知らせのメール①	同窓会への招待
第2回	お知らせのメール②	長期欠席の通知
第3回	問い合わせのメール①	サークル活動
第4回	問い合わせのメール②	資料の問い合わせ
第5回	注意書きやサービス案内	わかりやすい掲示物（注意書き・案内）の書き方
第6回	お願いのメール①	本の貸し出し依頼 期限の延期願いなど
第7回	お願いのメール②	アドバイスを求めるなど
第8回	マニュアルを書く	手順のわかりやすい説明方法
第9回	掲示板やメーリングリストを使う	掲示板の利用とトラブル回避
第10回	掲示板やメーリングリストを使う	メーリングリストの使い方
第11回	レポートや論文を書く	題名のつけかた・序論など
第12回	レポートや論文を題名のつけかた・序論など書く	調査法・序文・本文・要旨など
第13回	自己アピールをする①	奨学金などへの応募
第14回	自己アピールをする②	就職・転職活動をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、毎回の授業の終わりに課題が与えられるので、期日（授業の次の金曜日 21:00）までにメールで課題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

野田尚史・森口稔 『日本語を書くトレーニング』 ひつじ書房

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

提出物：60% 平常点：40%

★欠席4回以上で履修資格を失うので注意すること。

★遅刻（授業開始後20分まで）3回で欠席1回として扱う。

★課題を遅れて提出した場合、評価点は与えられないので、提出期限を守ること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・トピックによって、グループ活動を行う。
- ・また、学生の作文の添削作業を一部クラス内で参加者全員で行う。
 （昨年度後半から学生の意見により導入したところ、好評だったため）

【学生が準備すべき機器他】

スマートホン、タブレット、ノートPCなどがあれば便利。

【Outline and objectives】

This course is basically designed for the first-year students who use Japanese as second language. It provides students with basic knowledge of writing for practical uses, such as e-mails, application forms, reports, etc.

LANj100LA

日本語 2 I 2017 年度以降入学者

LANj100LA

日本語 2 ー I 2016 年度以前入学者

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、レポートや論文執筆などの学術的な文章作成に必要な知識と技術の習得を目的とする。

【到達目標】

1. レポートや論文などを書くために必要な基本的な作文技術を習得する。
2. 的確な表現を使い、論理的な文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教員が課した課題に学生は個人またはグループで取り組む。

その後、課題に関連した発表を行う場合もある。

文章作成課題を課す場合は、授業内に時間を設ける。時間内に終わらなかった場合は、次の授業までの宿題とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	導入、実力診断作文
第 2 回	論理的コミュニケーション（論証）の基礎①	「論理的コミュニケーション（論証）」とは何か
第 3 回	論理的コミュニケーション（論証）の基礎②	「論理的コミュニケーション（論証）」のプロトタイプ（根拠と主張）を理解する
第 4 回	論理的コミュニケーション（論証）の基礎③	「論拠」について理解する
第 5 回	パラグラフ・ライティングの基礎①	段落を「構成する」ことの重要性を理解する
第 6 回	パラグラフ・ライティングの基礎②	段落の基本構造を理解する
第 7 回	パラグラフ・ライティングの基礎③	「論証する」ために段落を「構成する」ことができる
第 8 回	パラグラフ・ライティングの基礎④	文と文、段落と段落を関連づける、メタ言語の役割を理解する
第 9 回	要約文①	文章の要約を通して、文章の概要（アウトライン）を把握する
第 10 回	要約文②	論文の構造を把握し、論文の概要（アウトライン）を把握する
第 11 回	レポートを書く①	レポートの基本的な書式と形式
第 12 回	レポートを書く②	序論の展開について理解する
第 13 回	レポートを書く③	本論と結論の展開について理解する
第 14 回	総括	今学期の内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員が提起した問題、あるいは、課した課題に学生は個人でないしグループで取り組む。

文章作成課題を課す場合は、授業内に時間を設けるが、書き終わらなかった場合は、次回までに完成し提出する。

【テキスト（教科書）】

- ・毎回、プリントを配布する。
- ・補助教材プリントは順番にファイルにとじて、毎回授業に必ず持ってくる

【参考書】

適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（30 %）
- ・各授業の課題（40 %）
- ・期末課題（30 %）

※ 4 回以上欠席した場合は、原則として単位を出さない。

※ 課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

学術的な文章を書くことは容易ではありませんが、課題を通して「書き方」を意識化することができるようになると思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業計画は学期途中で一部変更することがあります。

※ 最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

【Outline and objectives】

The objective of the class is to develop students' ability of writing for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

日本語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANj100LA

日本語 2－Ⅱ

2016 年度以前入学者

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

文国 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、レポートや論文執筆などの学術的な文章作成に必要な知識と技術の習得を目的とする。

【到達目標】

1. レポートや論文などを書くために必要な基本的な作文技術を習得する。
2. 的確な表現を使い、論理的な文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教員が課した課題に学生は個人またはグループで取り組む。

その後、課題に関連した発表を行う場合もある。

文章作成課題を課す場合は、授業内に時間を設ける。時間内に終わらなかった場合は、次の授業までの宿題とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の復習
第2回	レポートを見直す①	春学期に提出したレポートを見直し、修正すべき点を検討する
第3回	レポートを見直す②	春学期に提出したレポートを見直し、修正を加える
第4回	レポートを見直す③	修正したレポートを再度見直す
第5回	ミニレポート①	提示されたテーマについて、ミニレポートを作成する
第6回	ミニレポート①見直し	作成したミニレポート①を見直し、修正点を検討する
第7回	ミニレポート②	提示されたテーマについて、ミニレポートを作成する
第8回	ミニレポート②	作成したミニレポート②を見直し、修正点を検討する
第9回	論文①	論文を読み、レジュメを作成する
第10回	論文①	論文を読み、要約を作成する
第11回	論文②	論文を読み、レジュメを作成する
第12回	論文②	論文を読み、要約を作成する
第13回	最終課題	論文①②を引用しつつ、ミニレポートを作成する（レポートの構成を考える）
第14回	最終課題	論文①②を引用しつつ、ミニレポートを作成する（レポートを執筆する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員が提起した問題、あるいは、課した課題に学生は個人でないグループで取り組む。

文章作成課題を課す場合は、授業内に時間を設けるが、書き終わらなかった場合は、次回までに完成し提出する。

【テキスト（教科書）】

- ・ 毎回、プリントを配布する。
- ・ 補助教材プリントは順番にファイルにとじて、毎回授業に必ず持ってくる

【参考書】

適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 平常点（30 %）
- ・ 各授業の課題（40 %）
- ・ 期末課題（30 %）

※ 4 回以上欠席した場合は、原則として単位を出さない。

※ 課題の未提出が多い場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

学術的な文章を書くことは容易ではありませんが、課題を通して「書き方」を意識化することができるようになると思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業計画は学期途中で一部変更することがあります。

※ 最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

【Outline and objectives】

The objective of the class is to develop students' ability of writing for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANj100LA

日本語 2 I 2017 年度以降入学者

LANj100LA

日本語 2 - I 2016 年度以前入学者

小宮 修太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

営環 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期・秋学期を通じて、論理的な文章を書くための日本語作文能力を伸ばすことを目的とする授業を行う。春学期は説明文や意見文の書き方、文レベルの書き方の基本を学ぶ。

【到達目標】

1. 説明文をわかりやすい文と論理的な展開で書くことができる。
2. 意見文をわかりやすい文と論理的な展開で書くことができる。
3. 文法・表現・文字等の間違いが少ない文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の本文の読み合わせをし、教師の補足説明を聞く。練習問題に取り組み、必要なスキルを習得する。練習に出てくるテーマについて日本語で話し合う。最後にその課の課題作文を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション、プリント1課「物語文」	「物語文」を書く練習（1）
②	プリント1課「物語文」	「物語文」を書く練習（2）
③	プリント2課「説明文」	前回作文の反省点、「説明文」を書く練習（1）
④	プリント2課「説明文」	「説明文」を書く練習（2）
⑤	プリント3課「意見文」	前回作文の反省点、「意見文」を書く練習（1）
⑥	プリント3課「意見文」	「意見文」を書く練習（2）
⑦	フィードバック、追加の練習	前回までの作文から気づいた問題点の説明、追加の練習
⑧	教科書1課「レポートの文体」	「である体」の練習
⑨	教科書1課、「レポートの文体」	「である体」で意見文を書く練習
⑩	教科書2課（1）「自動詞と受身文」	前回作文の反省点、「自動詞と受身文」の練習
⑪	教科書2課（2）「は」と「が」	助詞「は」「が」の使い分けの練習
⑫	教科書2課（3）「名詞化」	「名詞化」の練習、「の」「こと」の使い分けの練習
⑬	教科書2課（4）「首尾一貫した文」	正しい文構造の文を書く練習
⑭	期末テスト	テスト実施、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【宿題】1. 授業中に書き終わらなかった作文を仕上げてくること。2. 提出した作文で「直す」のマークが付けられたところを自分で考えて直してくること。

【テキスト（教科書）】

二通信子ほか「留学生のための論理的作文の書き方」（スリーエーネットワーク）

【参考書】

倉八順子「日本語の作文技術 中・上級」（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、宿題提出率（25%）、期末試験の結果（25%）の合計による。60%以上の出席率を単位取得の条件とし、60%未満の場合は試験を受けられない。

【学生の意見等からの気づき】

評価の方法がよくわからないという学生もいたので、十分に説明しようと思う。

【その他の重要事項】

授業計画は一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to teach how to make Japanese writings in logical way. In spring semester, students learn how to make writings of explanation or opinion and how to make Japanese sentences collectly.

LANj100LA

日本語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANj100LA

日本語 Ⅱ

2016 年度以前入学者

小宮 修太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

営環 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期・秋学期を通じて論理的な文章を書くための日本語作文能力を伸ばすことを主な目的とする。秋学期は、レポートの書き方、段落の作り方、各種の表現文型などを学ぶ。

【到達目標】

1. レポートをわかりやすい文と論理的な展開で書くことができる。
2. 論理的な文章に合う作り方と各段落を書くことができる。
3. 文法・表現・文字等の間違いが少ない文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書本文の読み合わせをして、教師の補足説明を聞く。練習に取り組み、必要なスキルを習得する。練習に出てくるテーマについて日本語で話し合う。最後にその課の課題作文を書く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション、第2部第1課「段落」	論理的な構成の段落の作り方の練習
②	教科書第2部第1課「段落」	論理的な構成の段落を書く練習
③	プリント4課「報告文の段落」	報告文の段落を書く練習
④	教科書第2部第1課「段落」	1課の課題作文
⑤	第2部第2課「仕組みの説明」	前回作文の反省点、2課の練習
⑥	第2部第3課「歴史的経過の説明」	3課の練習と課題作文
⑦	第2部第4課「分類」	前回作文の反省点、4課の練習と課題作文
⑧	第2部第5課「定義」	前回作文の反省点、5課の練習
⑨	第2部第7課「比較・対照」	7課の練習、課題作文
⑩	第2部第8課「因果関係」	前回作文の反省点、8課の練習
⑪	第2部第6課「要約」	6課の練習、新聞の社説を要約する
⑫	第2部第11課「レポートの作成」	レポート作成の手順を学ぶ、モデル文章の読み合わせ
⑬	第2部10課「資料の利用」	文章構成メモを作る練習、資料の利用のし方を学ぶ
⑭	期末テスト	作文の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【宿題】 1. 授業中に書き終わらなかった作文を仕上げてくること。2. 提出した作文で「直す」のマークが付けられたところを自分で考え直してくること。

【テキスト（教科書）】

二通信子ほか「留学生のための論理的な文章の書き方」（スリーエーネットワーク）

【参考書】

アカデミック・ジャパニーズ研究会「留学生の日本語④論文作成編」（アルク）

【成績評価の方法と基準】

宿題の提出率（25%）、テストの結果（25%）、平常点（50%）の合計による。

60%以上の出席率を単位取得の条件とし、60%未満の場合は試験を受けられない。

【学生の意見等からの気づき】

評価の方法がよくわからないという学生もいたので、十分に説明しようと思う。

【その他の重要事項】

授業計画は、一部変更することもある。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to teach how to make Japanese writings in logical way. In autumn semester, students learn how to make writings of research or academic report and how to make paragraphs in logical way, and learn various sentence patterns for writing.

LANd100LA

ドイツ語 1 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 I 2016 年度以前入学者

内田 俊一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発音練習から始め、身近な問かけの表現を繰り返し練習することによって、ドイツ語の基礎知識の習得を目指します。

【到達目標】

ドイツ語の基本能力―読む・聞く・表現する―を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の各課は〈文法コーナー〉〈表現コーナー〉〈練習コーナー〉〈テキスト〉の 4 部からできています。

まず〈文法コーナー〉で説明した後で、〈表現コーナー〉では書き取りの練習を行い、〈練習コーナー〉の練習問題を解いてもらった後で、〈テキスト〉の簡単な会話を読んでもらいます。〈テキスト〉は、その課に出た単語や練習問題を参考にすれば、スムーズに理解できるようにできています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	発音練習	発音練習
第 3 回	動詞の現在人称変化 (1)	規則動詞の現在人称変化を使用した表現の練習
第 4 回	発音の確認	発音の確認
第 5 回	名詞の性と冠詞	冠詞を使用した表現の練習
第 6 回	冠詞の格変化・複数	冠詞の格変化と複数を使用した表現の練習
第 7 回	動詞の現在人称変化 (2)	不規則動詞の現在人称変化を使用した表現の練習
第 8 回	前置詞	前置詞を使用した表現の練習
第 9 回	数字	数字を使用した表現の練習
第 10 回	冠詞グループの格変化・人称代名詞	冠詞グループと人称代名詞を使用した表現の練習
第 11 回	形容詞の格変化	形容詞の格変化を使用した表現の練習
第 12 回	話法の助動詞	話法の助動詞を使用した表現の練習
第 13 回	総復習	総復習
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。なお、この教科書には CD が付いていますから、それを使って自宅で予習・復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

大谷弘道/Ursula Otani 著『CD [MP3] 付き 問いかけるドイツ語 [新版] (三修社)、2600 円＋税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に試験を行います。授業への参加状況（練習問題や教授者の質問に熱心に取り組んだかどうか）も平常点として評価します。成績評価基準：試験 50 %＋平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけたつもりですが、いくつかわかりにくい点が残ってしまったかもしれません。さらにわかりやすい説明に努めます。

LANd100LA

ドイツ語 1 II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 II 2016 年度以前入学者

内田 俊一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、ドイツ語の基本知識を学習します。秋学期は、簡単な文章が読める程度の文法知識の習得を目指します。

【到達目標】

ドイツ語の基本能力―読む・聞く・表現する―を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期と同じです。

秋学期は、学習内容が春学期よりも相当複雑になります。どうか甘く見ないでください。

なお、秋学期の最初の授業日に、春学期の復習を兼ねて、基礎動詞表現の書き取り小テストを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習・書き取り小テスト	春学期の復習・書き取り小テスト
第 2 回	動詞の三基本形	動詞の過去形を使用した表現の練習
第 3 回	現在完了	現在完了を使用した表現の練習
第 4 回	受動	受動を使用した表現の練習
第 5 回	再帰動詞	再帰動詞を使用した表現の練習
第 6 回	zu 不定句	zu 不定句を使用した表現の練習
第 7 回	定関係代名詞	定関係代名詞を使用した表現の練習
第 8 回	命令形	命令形を使用した表現の練習
第 9 回	不定関係代名詞	不定関係代名詞を使用した表現の練習
第 10 回	接続法第 2 式	接続法第 2 式を使用した表現の練習
第 11 回	接続法第 1 式	接続法第 1 式を使用した表現の練習
第 12 回	序数・時刻の表現など	序数や時刻の表現などを使用した表現の練習
第 13 回	総復習	総復習
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。なお、この教科書には CD が付いていますから、それを使って自宅で予習・復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

大谷弘道/Ursula Otani 著『CD [MP3] 付き 問いかけるドイツ語 [新版] (三修社)、2600 円＋税

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業最終日に試験を行います。授業への参加状況（練習問題や教授者の質問に熱心に取り組んだかどうか）も平常点として評価します。成績評価基準：試験 50 %＋平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけたつもりですが、いくつかわかりにくい点が残ってしまったかもしれません。さらにわかりやすい説明に努めます。

LANd100LA	
ドイツ語 1 I	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 1：表現 I	2016 年度以前入学者
山下 敦	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 3/Thu.3 法 1 年 B	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて学ぶドイツ語という言葉について、文法を中心に練習問題を繰り返しながら、発音のルール、基礎的な文法事項を修得し、ドイツ語の表現と語順に慣れ親しむ授業です。辞書の用い方を学び、初歩的な表現や文章が理解できるようにすることを目指します。

【到達目標】

ドイツ語文法の二つの基本事項として（１）名詞の格という概念を把握し、冠詞の格変化の仕方を身につけます。（２）主語に対応して動詞の語尾が様々な変化し、主語と動詞の対応によって文が成立することを学び、現在形と過去形における人称変化を自在に用いられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の文法が過不足なく明瞭に理解でき、簡単な文章で文法事項の使い方を確認できるテキストを用います。折にふれて練習問題を配布し、学んだ知識の定着を図ります。この授業で学んだ文法の知識を十分に活用して、ドイツ語 2 の授業ではより内容の豊富な文章を読んで言葉を身につけるを試みをしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベート・発音と挨拶	ABC の読み方・発音の仕方・挨拶・数字
2	Lektion 1	動詞の現在人称変化
3	Lektion 1	自己紹介
4	Lektion 2	sein・haben の現在人称変化 並列の接続詞
5	Lektion 2	ドイツとドイツ語
6	Lektion 3	定冠詞と不定冠詞・否定冠詞
7	Lektion 3	Klaus の部屋
8	Lektion 4	名詞の複数形・人称代名詞
9	Lektion 4	市場での会話
10	Lektion 5	不定冠詞類・定冠詞類
11	Lektion 5	Klaus の兄弟 曜日と月名
12	Lektion 6	不規則動詞の現在人称変化と命令形
13	Lektion 6	Familie Bauer
14	春学期の復習	基礎文法再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業の内容を確実に身につけ、次回授業のための準備をする。テキストの予習を行ない、未知の単語は、独和辞典を引いて意味と用法を確認しておく。
課題は決して怠らないように。宿題は次回授業までに解答を出し、提出が求められた場合に備える。添削後に返却された答案は、再度間違いと正答を確認し、正しい知識を身につける。

【テキスト（教科書）】

新倉真矢子他『ゲナウ！ グラマティック ノイ』第三書房 ¥2,200 + 税

【参考書】

授業時にプリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業時における平常点 (30%) と内容の理解度を問う学期末の筆記試験 (70%) によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

独和辞書は持参すること

【Outline and objectives】

Elementary class of German language. Students learn the rules of pronunciation and the German grammar with many exercises. Also learn the everyday German expressions and reading comprehension of the plain texts with the textbook.

LANd100LA	
ドイツ語 1 II	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 1：表現 II	2016 年度以前入学者
山下 敦	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 3/Thu.3 法 1 年 B	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて学ぶドイツ語という言葉について、文法を中心に練習問題を繰り返しながら、発音のルール、基礎的な文法事項を修得し、ドイツ語の表現と語順に慣れ親しむ授業です。辞書の用い方を学び、初歩的な表現や文章が理解できるようにすることを目指します。

【到達目標】

助動詞・分離動詞・不定詞・関係代名詞等、主にドイツ語の文章の根幹をなす特色の一つである枠構造に関する文法事項を学びます。さらに、現在形の展開形態として現在完了形・未来形等の時制の変化を、最後に、非現実の事柄が表現できる接続法について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の文法が過不足なく明瞭に理解できるテキストを用います。折にふれて練習問題を配布し、学んだ知識の定着を図ります。文法事項の修得が進むにつれて、次第に複雑で深みのあるドイツ語表現の理解が可能になります。この授業で学んだ文法の知識を十分に活用して、ドイツ語 2 の授業でまとまった文章を通じて言葉を身につけるを試みをしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 7	話法の助動詞・未来形
2	Lektion 7	ドイツの交通機関 従属の接続詞と副文 前置詞
3	Lektion 8	再帰代名詞・再帰動詞
4	Lektion 8	分離動詞と非分離動詞
5	Lektion 9	zu 不定詞・従属の接続詞
6	Lektion 9	動詞の 3 基本形・過去形
7	Lektion 10	現在完了形
8	Lektion 10	受動態
9	Lektion 11	ドイツの現代史
10	Lektion 11	形容詞の変化・比較
11	Lektion 12	関係代名詞
12	Lektion 12	接続法
13	ステップアップ	ドイツ語文法再確認
14	秋学期の復習	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業の内容を確実に身につけ、次回授業のための準備をする。テキストの予習を行ない、未知の単語は独和辞典を引いて意味と用法を確認しておく。
課題は決して怠らないように。宿題は次回授業までに解答を出し、提出が求められた場合に備える。添削後に返却された答案は、再度間違いと正答を確認し、正しい知識を身につける。

【テキスト（教科書）】

新倉真矢子他『ゲナウ！ グラマティック ノイ』第三書房 ¥2,200 + 税

【参考書】

授業時にプリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業時における平常点 (30%) と内容の理解度を問う学期末の筆記試験 (70%) によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

独和辞書は持参すること

【Outline and objectives】

Elementary class of German language. Students learn the rules of pronunciation and the German grammar with many exercises. Also learn the everyday German expressions and reading comprehension of the plain texts with the textbook.

LANd100LA

ドイツ語 1 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 I 2016 年度以前入学者

岡本 雅克

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 1 年 CD

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級文法の教科書を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】

未来形までの初級文法を学習することによって、後期の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 15 課からなり、各課とも文法、練習問題から構成されている。まず文法の説明をし、それから練習問題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット
2	発音 1	発音の原則、母音の発音
3	発音 2	子音の発音
4	Lektion 1	動詞の現在人称変化
5	Lektion 2	名詞の性／冠詞の格変化
6	Lektion 3	不規則変化動詞／命令形
7	Lektion 4	定冠詞類・不定冠詞類
8	Lektion 5	複数形／人称代名詞
9	Lektion 6	前置詞の格支配①
10	Lektion 6	前置詞の格支配②
11	Lektion 7	形容詞の格変化①
12	Lektion 7	形容詞の格変化②
13	Lektion 8	話法の助動詞
14	Lektion 8	未来形

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】

上野成利、本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [三訂版]』（白水社）ISBN9784560064207 ¥2,300

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を 60 %、平常点を 40 % の合計で評価する。平常点は、授業中に練習問題にしっかり取り組むこと、あるいは、与えられた課題について予習をしてきた形跡が認められることを標準とする。全時間の 3 分の 2 以上の出席が、期末試験を受験するための条件である。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

ドイツ語 1 II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 II 2016 年度以前入学者

岡本 雅克

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 1 年 CD

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級文法の教科書を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】

接続法までの初級文法を一通り学習することによって、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）4、3 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 15 課からなり、各課とも文法、練習問題から構成されている。まず文法の説明をし、それから練習問題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 9	分離動詞
2	Lektion 9	接続詞と副文
3	Lektion 10	zu 不定詞
4	Lektion 10	再帰代名詞
5	Lektion 11	動詞の 3 基本形
6	Lektion 11	過去形
7	Lektion 12	現在完了形
8	Lektion 12	非人称表現
9	Lektion 13	受動態
10	Lektion 13	比較表現
11	Lektion 14	関係代名詞
12	Lektion 14	関係副詞
13	Lektion 15	接続法①
14	Lektion 15	接続法②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】

上野成利、本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [三訂版]』（白水社）ISBN9784560064207 ¥2,300

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を 60 %、平常点を 40 % の合計で評価する。平常点は、授業中に練習問題にしっかり取り組むこと、あるいは、与えられた課題について予習をしてきた形跡が認められることを標準とする。全時間の 3 分の 2 以上の出席が、期末試験を受験するための条件である。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA	
ドイツ語 1 I	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 1：表現 I	2016 年度以前入学者
渡辺 広佐	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 4/Mon.4 法 1 年 E・S	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎ドイツ語文法を学ぶ（その前半）

【到達目標】
ドイツ語の基礎的な文章構造を理解する。
辞書を使えば相当レベルのドイツ語が読めるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
一方的に説明を聞くだけでは身につくものではない。重要な語形変化はいうにおよばず、基本的で身近な文を選んで、くりかえし（とくに口頭で）練習すると同時に、小テストも実施する。時間の許す限り、ドイツ語圏の文化、社会状況などにも触れ、ドイツ語への関心を高めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、発音	発音の規則、数詞など
第 2 回	発音、Lektion 1 動詞の現在人称変化 (1)	規則的動詞の現在人称変化、sein, haben, werden など
第 3 回	Lektion 1 (つづき)	復習と練習問題
第 4 回	Lektion 2 名詞と冠詞	名詞の性、格、定冠詞、不定冠詞など
第 5 回	Lektion 2 (つづき)、Lektion 3 複数形	Lektion 2 の復習と練習問題、名詞の複数形など
第 6 回	Lektion 3 (つづき)	復習と練習問題
第 7 回	Lektion 4 動詞の現在人称変化 (2)、命令	幹母音が変わる名詞、命令など
第 8 回	Lektion 4 (つづき)	復習と練習問題
第 9 回	Lektion 5 冠詞類、人称代名詞	定冠詞類、不定冠詞類、人称代名詞など
第 10 回	Lektion 5 (つづき)	復習と練習問題
第 11 回	Lektion 6 前置詞、従属の接続詞	前置詞、従属の接続詞と副文など
第 12 回	Lektion 6 (つづき)	復習と練習問題
第 13 回	Lektion 7 話法の助動詞、未来形	話法の助動詞の用法、未来形の作り方など
第 14 回	Lektion 7 (つづき)	復習と練習問題 春学期の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
くりかえし音読してから、予習・復習すること。

【テキスト（教科書）】
森／渡辺『クヴェレ・ドイツ文法』（新訂版）同学社

【参考書】
特になし。必要とあれば、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。学期 4 回欠席した者は原則として評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
とくに変更しなければならぬような指摘はないので、従来どおりおこなうが、要望があれば、アンケートを待たないで、その都度提案するように。

【Outline and objectives】
Basic German grammar (The first half)

LANd100LA	
ドイツ語 1 II	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 1：表現 II	2016 年度以前入学者
渡辺 広佐	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 4/Mon.4 法 1 年 E・S	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎ドイツ語文法を学ぶ（その後半）

【到達目標】
ドイツ語の基礎的な文章構造を理解する。
辞書を使えば相当レベルのドイツ語が読めるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
一方的に説明を聞くだけでは身につくものではない。重要な語形変化はいうにおよばず、基本的で身近な文を選んで、くりかえし（とくに口頭で）練習すると同時に、小テストも実施する。時間の許す限り、ドイツ語圏の文化、社会状況などにも触れ、ドイツ語への関心を高めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
第 1 回	後期オリエンテーション、Lektion 8 複合動詞、再帰、非人称の主語 es	分離動詞、非分離動詞など
第 2 回	Lektion 8 (つづき)	復習と練習問題
第 3 回	Lektion 9 形容詞	形容詞の格変化、比較など
第 4 回	Lektion 10 動詞の 3 基本形、過去人称変化	規則動詞、不規則動詞動詞の 3 基本形、過去形など
第 5 回	Lektion 10 (つづき)	復習と練習問題
第 6 回	Lektion 11 完了形	現在完了形、過去完了形など
第 7 回	Lektion 11 (つづき)	復習と練習問題
第 8 回	Lektion 12 受動態、zu 不定詞、分詞	動作受動、状態受動など
第 9 回	Lektion 12 (つづき)	復習と練習問題
第 10 回	Lektion 13 指示代名詞、関係代名詞	定関係代名詞、不定関係代名詞など
第 11 回	Lektion 13 (つづき)	復習と練習問題
第 12 回	Lektion 14 接続法	第 1 式、第 2 式の作り方、用法など
第 13 回	Lektion 14 (つづき)	復習と練習問題
第 14 回	試験	秋学期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
くりかえし音読してから、予習・復習すること。

【テキスト（教科書）】
森／渡辺『クヴェレ・ドイツ文法』（新訂版）同学社

【参考書】
特になし。必要とあれば、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。学期 4 回欠席した者は原則として評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
とくに変更しなければならぬような指摘はないので、従来どおりおこなうが、要望があれば、アンケートを待たないで、その都度提案するように。

【Outline and objectives】
Basic German grammar (the second half)

LANd100LA

ドイツ語 1 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 I 2016 年度以前入学者

渡辺 国彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文 1 年 A～E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を使いこなすためのドイツ語文法前半の習得を目的とする。

【到達目標】

簡単な文法事項に慣れ、使いこなしができる。発音のルールを知り、初めて見るドイツ語の単語が正しく発音できるようになる。簡単なドイツ語の文章を辞書を用いて読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

できるだけたくさん問題を解き、発表してもらう。積極的な態度で授業に参加すること。重要な文法項目前半部分はすべて学習するので、欠席は極力避けること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 教科書、学習方法の説明	学習の仕方 ドイツ語のアルファベット 簡単なドイツ語の表現
2	Lektion 1	規則動詞・定形の位置
3	Lektion 2	名詞の性・格変化
4	Lektion 3	複数形・冠詞類・疑問代名詞・男性弱変化名詞
5	Lektion 4	sein・haben・人称代名詞・並列接続詞・否定疑問文の説明と練習
6	Lektion 4	sein・haben・人称代名詞・並列接続詞・否定疑問文の応用問題
7	Lektion 5	不規則動詞・命令形の説明と練習
8	Lektion 5	不規則動詞・命令形の応用問題
9	Lektion 6	前置詞の説明と練習
10	Lektion 6	前置詞の応用問題
11	Lektion 7	分離動詞・非分離動詞・zu 不定詞・es の用法
12	Lektion 7	分離動詞・非分離動詞・zu 不定詞・es の用法の応用問題
13	Lektion 8	話法の助動詞・未来形・従属接続詞・man の説明と練習
14	春学期での習得した知識の確認	今まで習得した文法事項の確認と応用力のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を行い、わからないことがあれば、次の授業で質問すること。

【テキスト（教科書）】

『グーテン・モルゲン』渡辺国彦（DTP 出版）その他教室で指示したもの。

【参考書】

テキストは参考書と違い説明は最小限である。既習事項があやふやになってきた場合の自習用として、「ゼロから始めるドイツ語一文法中心」在間進、三修社等の参考書は役に立つ。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（60%）と授業での発表等の平常点（40%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

様々な学生への配慮

【Outline and objectives】

The purpose of this course is learning the first half of German grammar to understand German.

LANd100LA

ドイツ語 1 II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 II 2016 年度以前入学者

渡辺 国彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文 1 年 A～E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ文法後半の学び、春学期に学んだ知識と合わせて、基本的なドイツ語文法全般を習得する。

【到達目標】

基本的なドイツ語文法の習得を終了し、辞書を使って様々な文章を読むことができる。簡単なドイツ語の文章が作れるようになる。さらなるドイツ語の学習のための準備段階を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

できるだけたくさん問題を練習してもらう。積極的な態度で授業に参加すること。重要な文法項目は、すべて学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書、学習方法の説明
2	Lektion 9	形容詞の説明
3	Lektion 9	形容詞の練習
4	Lektion 10	比較・序数・曜日・月の説明
5	Lektion 10	比較・序数・曜日・月の練習
6	Lektion 11	再帰代名詞・再帰動詞・相互代名詞・使役の助動詞の説明
7	Lektion 11	再帰代名詞・再帰動詞・相互代名詞・使役の助動詞の練習
8	Lektion 12	動詞の三基本形・過去形・現在分詞
9	Lektion 13	完了形の練習
10	Lektion 14	関係代名詞・指示代名詞・関係副詞の説明
11	Lektion 14	関係代名詞・指示代名詞・関係副詞の練習
12	Lektion 15	受動態
13	Lektion 16	接続法
14	秋学期での習得した知識の確認	今まで習得した文法事項の確認と応用力のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を行い、わからないことがあれば、次の授業で質問すること。

【テキスト（教科書）】

『グーテン・モルゲン』渡辺国彦（DTP 出版）その他教室で指示したもの。

【参考書】

テキストは参考書と違い説明は最小限である。既習事項があやふやになってきた場合の自習用として、「ゼロから始めるドイツ語一文法中心」在間進、三修社等の参考書は役に立つ。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（60%）と授業での発表等の平常点（40%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

様々な学生への対応。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is learning the second half of German grammar to understand German.

LANd100LA

ドイツ語 1 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 I 2016 年度以前入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
文 1 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象である。
ドイツ語文法の基礎を学ぶ。
日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学ぶ。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得する。
日常的によく使われる語彙、表現を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明する（講義形式）。
担当者を決めて練習問題を行う（演習形式）。
ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化する（リアクションペーパー）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 発音 Lektion1	発音の仕方 綴りの基本 動詞の現在人称変化
第 2 回	Lektion1 ドイツ語の動詞について	du,ihr,Sie について
第 3 回	Lektion2 ドイツ語の主語について	疑問詞
第 4 回	Lektion2 ドイツ語の名詞について	名詞の性と格
第 5 回	Lektion2 ドイツ語の複数形について	複数形と冠詞の使い方
第 6 回	Lektion3 ドイツ語の疑問文について	決定疑問文の答え方
第 7 回	Lektion3 ドイツ語の不規則動詞について	重要な不規則動詞の変化
第 8 回	Lektion4 ドイツ語の前置詞について	数字 前置詞の格支配
第 9 回	Lektion4 ドイツ語の融合形について	前置詞と冠詞の融合形
第 10 回	Lektion5 ドイツ語の es について	非人称の es を用いた表現
第 11 回	Lektion5 ドイツ語の代名詞について	人称代名詞の 3・4 格
第 12 回	Lektion6 ドイツ語の冠詞類について	定冠詞・不定冠詞
第 13 回	Lektion7 ドイツ語の助動詞について	話法の助動詞の用法 nicht と kein の用法
第 14 回	Lektion7 ドイツ語の未来形について	未来と推量の助動詞 man の用法
第 15 回	春学期の文法項目の要点とまとめ 期末試験	春学期の文法のまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行う。
次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みておく（予習）。
自分の訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。

【テキスト（教科書）】

「仕組みのわかるドイツ語初級文法」 櫻井麻美 三修社

【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）
参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %
平常点（課題の提出、授業への積極的参加） 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liebral Arts Center Program.
This course provides elementary German grammar for beginners.

LANd100LA

ドイツ語 1 II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 II 2016 年度以前入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
文 1 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象である。
春学期で得たドイツ語文法の知識を踏まえて、引き続きドイツ語文法の基礎を学ぶ。
日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学ぶ。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得する。
日常的によく使われる語彙、表現を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明する（講義形式）。
担当者を決めて練習問題を行う（演習形式）。
ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化する（リアクションペーパー）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion8 ドイツ語の分離動詞について	分離・非分離動詞
第 2 回	Lektion8 ドイツ語の従属接続詞について	副文 間接疑問文
第 3 回	Lektion9 ドイツ語の過去形について	動詞の 3 基本形
第 4 回	Lektion9 ドイツ語の現在完了形について	現在完了形と過去形
第 5 回	Lektion10 ドイツ語の過去人称変化について	過去人称変化とその用法
第 6 回	Lektion10 ドイツ語の受動態について	受動態の作り方と用法
第 7 回	Lektion11 ドイツ語の再帰代名詞について	再帰動詞・代名詞
第 8 回	Lektion11 ドイツ語の zu 不定詞について	zu 不定詞と用法
第 9 回	Lektion12 ドイツ語の形容詞について	形容詞の格変化
第 10 回	Lektion12 ドイツ語の比較級・最上級について	比較級・最上級の用法 序数
第 11 回	Lektion13 ドイツ語の関係代名詞について	関係代名詞
第 12 回	Lektion13 ドイツ語の関係副詞について	関係副詞と命令形
第 13 回	Lektion14 ドイツ語の接続法について	接続法第 1 式、第 2 式
第 14 回	ドイツ文法の要点とまとめ 期末試験	ドイツ文法総覧 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行う。

次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みしておく（予習）。
自分の訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。

【テキスト（教科書）】

「仕組みのわかるドイツ語初級文法」 櫻井麻美 三修社

【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）
参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明する（講義形式）。
担当者を決めて練習問題を行う（演習形式）。
ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化する（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

German for Ichigaya Liebral Arts Center Program.
This course provides elementary German grammar for beginners.

LANd100LA

ドイツ語 ⅠⅠ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 Ⅰ：表現Ⅰ

2016 年度以前入学者

外山 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

文 1 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の発音のルールを知って、初見の単語でも発音できるようにする。
ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。

【到達目標】
発音、動詞の現在形、名詞、前置詞、接続詞、代名詞、冠詞類を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
ドイツについての豆知識、すぐに役立つ表現も学びながら、教科書を使って、文法は形容詞まで習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	導入とアルファベット	導入とアルファベット
2	つづりの読み方と発音	発音練習
3	発音練習	前回の続き
4	第 1 課：動詞の人称変化	動詞の人称変化について学ぶ
	動詞の現在人称変化	動詞の現在人称変化、不定詞句と平叙文、疑問文について学ぶ
5	第 2 課：名詞の性、数、格	名詞の性、複数形についてについて学ぶ
6	名詞の格変化	名詞の格変化と格の用法について学ぶ
7	第 3 課：前置詞、接続詞	前置詞の格支配 前置詞と冠詞の融合形について学ぶ
8	従属接続詞と副文	従属接続詞と副文、不規則動詞について学ぶ
9	第 4 課：人称代名詞、再帰代名詞、再帰動詞	人称代名詞の格変化 不定冠詞類 再帰代名詞、再帰動詞について学ぶ
10	第 5 課：冠詞類	定冠詞類の格変化 不定冠詞類の格変化について学ぶ
11	命令の表現	命令の表現と提案の表現
12	第 6 課：形容詞の格変化、比較変化	形容詞の格変化、比較変化、比較の表現について学ぶ
13	春学期のおさらい	春学期に学んだことをおさらいする
14	春学期のおさらい	春学期に学んだことをおさらいする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業の復習と随時出される課題。

【テキスト（教科書）】
『異文化理解のための初級ドイツ語文法』大藪正彦著 朝日出版社

【参考書】
『ドイツ文法の要点』本郷健治著 三修社

【成績評価の方法と基準】
平常点 20%、試験 80% を総合的に評価する。ただし出席が不足している場合には受験資格はない。

【学生の意見等からの気づき】
今年度も楽しく、真剣に学びましょう。

【その他の重要事項】
授業中はパソコン、モバイルはカバンにしまっておくこと。2 回目以降は毎回教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を持参すること。やむを得ず板書したものを写真にとるときは、教員に許可を求めること。

【Outline and objectives】
To master the pronunciation of German and the basic grammar.

LANd100LA

ドイツ語 ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 Ⅰ：表現Ⅱ

2016 年度以前入学者

外山 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

文 1 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。

【到達目標】
動詞と助動詞の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
ドイツについての豆知識、すぐに役立つ表現も学びながら、分離動詞から接続法までの文法を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期に学んだことを復習する。
2	第 7 課：分離動詞	分離動詞、非分離動詞について学ぶ
3	分離・非分離前綴り	分離・非分離前綴りについて学ぶ
4	第 8 課：話法の助動詞	話法の助動詞の変化、話法の助動詞の各種用法について学ぶ
5	助動詞 werden, lassen	助動詞 werden,lassen について学ぶ
6	第 9 課：過去形	動詞の 3 基本形、過去形について学ぶ
7	現在完了形	現在完了形について学ぶ
8	第 10 課：受動態	受動態、状態受動、能動態と受動態について学ぶ
9	受動態の機能	受動態の機能について学ぶ
10	第 11 課：関係文	定関係代名詞、関係文、不定関係代名詞について学ぶ
11	関係副詞、指示代名詞	関係副詞、指示代名詞について学ぶ
12	第 12 課：接続法	接続法の変化、接続法第 1 式について学ぶ
13	接続法第 2 式	接続法第 2 式について学ぶ
14	復習	秋学期に学んだことについての復習と補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業の復習と随時出される課題。

【テキスト（教科書）】
『異文化理解のための初級ドイツ語文法』大藪正彦著 朝日出版社

【参考書】
『ドイツ文法の要点』本郷健治著 三修社

【成績評価の方法と基準】
授業に取り組む姿勢、授業時の課題提出など 20%、試験 80%などを総合的に評価する。ただし、出席がたりないときには受験資格はない。

【学生の意見等からの気づき】
ますます好奇心をもって授業にのぞんでもらえるように頑張ります。

【その他の重要事項】
春学期と同じ。パソコンとモバイルはカバンにしまっておくこと。毎回教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を持参し、使用すること。やむを得ず板書したものを写真にとるときは、教員に許可を求めること。

【Outline and objectives】
To master the basic grammar.

LANd100LA

ドイツ語 Ⅰ Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 Ⅰ：表現Ⅰ 2016 年度以前入学者

高木 葉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
文 1 年 P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な文法事項の習得・平易なテキストの読解・簡単な会話表現の練習

【到達目標】

基本的な文法事項を習得し、平易なテキストを読解、さらに簡単な会話表現を学びます。また、DVD 映像を使用して、ドイツ語圏の社会・歴史・文化を多角的に紹介していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は主に次の 3 点から構成されます。

1. 講義
2. 実習（各自で問題をやってもらったり、ペア練習を行います）
3. 映像鑑賞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	自己紹介 授業の進め方 ドイツ語とドイツ語圏について
2.	つづりの読み方と発音	発音と簡単な挨拶の口頭練習
3.	第 1 課（1）	動詞の現在人称変化（1）
4.	第 1 課（2）	sein と haben の現在人称変化 語順
5.	第 2 課（1）	定冠詞と名詞の格変化
6.	第 2 課（2）	不定冠詞と名詞の格変化
7.	第 2 課（3）	名詞の複数形 男性弱変化名詞
8.	第 1 回テスト	テストによるこれまでの復習（1）
9.	第 3 課（1）	動詞の現在人称変化（2） 命令形
10.	第 3 課（2）	人称代名詞 非人称の es
11.	第 4 課（1）	定冠詞類
12.	第 4 課（2）	不定冠詞類
13.	第 5 課	前置詞の格支配
14.	第 2 回テスト	テストによるこれまでの復習（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 宿題となった練習問題
- 2) テキスト和訳の予習

【テキスト（教科書）】

前田・高木『ドイツ語ナビゲーション 2.0』朝日出版社

【参考書】

授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

以下の 3 点を総合して評価します。

- 1) 第 1 回テスト 35%
- 2) 第 2 回テスト 35%
- 3) 平常点（出席状況と受講態度）30%

【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許すかぎり、個別の質問にできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】

4 月の第 1 回日の授業時に、詳しいガイダンスを行います。教科書を購入してもってきてください。

LANd100LA

ドイツ語 Ⅰ Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 Ⅰ：表現Ⅱ 2016 年度以前入学者

高木 葉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
文 1 年 P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、基本的な文法事項の習得・平易なテキストの読解・簡単な会話表現の練習

【到達目標】

春学期に引き続き、基本的な文法事項を習得し、平易なテキストを読解、さらに簡単な会話表現を練習します。また、DVD 映像を使用して、ドイツ語圏の社会・歴史・文化を多角的に紹介していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は以下の 3 点から構成されます。

1. 講義
2. 実習（各自で問題をやってもらったり、ペア練習を行います）
3. 映像鑑賞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	第 6 課（1）	話法の助動詞 未来形
2.	第 6 課（2）	分離動詞・非分離動詞 接続詞
3.	第 7 課（1）	動詞の三基本形
4.	第 7 課（2）	過去形
5.	第 7 課（3）	現在完了形
6.	第 8 課（1）	再帰表現
7.	第 1 回テスト	テストによるこれまでの復習（1）
8.	第 8 課（2）	zu 不定詞
9.	第 9 課（1）	形容詞の格変化
10.	第 9 課（2）	形容詞・副詞の比較表現
11.	第 10 課（1）	受動態（1）
12.	第 10 課（2）	受動態（2）
13.	第 11 課	関係代名詞
14.	第 2 回テスト	テストによるこれまでの復習（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 宿題となった練習問題
- 2) テキスト和訳の予習

【テキスト（教科書）】

前田・高木『ドイツ語ナビゲーション 2.0』朝日出版社

【参考書】

授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

次の 3 点を総合して評価します。

- 1) 第 1 回テスト 35%
- 2) 第 2 回テスト 35%
- 3) 平常点（出席状況と受講態度）30%

【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許すかぎり、個別の質問にできるだけ丁寧に対応していきます。

LANd100LA

ドイツ語 1 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 I 2016 年度以前入学者

高橋 泰雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 T～W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツ語のしくみの基礎を学んでいきます。少し難しいという印象が強いドイツ語ですが、この時間ではやさしい言葉で説明しゆっくりと練習を進めていきます。「読む」能力だけでなく、それと並行してコミュニケーションに役立つように「聞き取る」「話す」能力を身に着けることも目指していきます。

【到達目標】

到達目標は2年次以降に学ぶ「ドイツ語3」の授業に対応できるだけの能力を身につけることです。そのためにはまず正しい発音を覚え、簡単な短文から次第に複雑な分も理解できるようにするために、動詞と名詞の変化やドイツ語独特の枠構造を確実に理解することが必要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語のしくみを誰でも無理なく学べるように授業を進めていきます。予習、復習をするときには教科書の中のドイツ語の単語や文章を何度も声を出して読むようにしてください。毎時間少しずつ新しい項目と表現を学ぶことになりますから、休まないで授業に参加するようにしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ドイツ語の世界へようこそ	ドイツ語とはこんな言葉です 発音はむずかしくありません
第2回	動詞（規則動詞）の変化	動詞の形は変わります 主語によって動詞の形が変化することを学びます
第3回	語順に気をつけましょう	動詞の場所は決まっています 動詞の位置は2番目です
第4回	冠詞と名詞の変化	冠詞と名詞の形も変わります 定冠詞と不定冠詞の役割を理解します
第5回	冠詞の仲間たち	冠詞とよく似た変化をする冠詞類の使い方
第6回	動詞（不規則動詞）の変化	母音が変わる動詞があります 不規則な動詞の変化を学びます
第7回	読章 ドイツ人の休暇	少しまとまった文章を理解できるようにします
第8回	人称代名詞の格変化	ich du er などにも3格・4格の形があります 代名詞の役割と使い方を理解します
第9回	前置詞の使い方	前置詞には決まった相手がいいます 前置詞を使った表現の約束について学びます
第10回	読章 ドイツの水事情	少し長めの文章に挑戦します
第11回	クロスワードパズル I	ことわざをヒントにしたパズルを解いてみましょう
第12回	形容詞の付加語的用法	形容詞にも語尾がつきます 付加語的に形容詞を使うときの語尾の形を学びます
第13回	形容詞の名詞化	形容詞は名詞に変われます 形容詞を名詞として使うことができます
第14回	期末試験とその解説	春学期の学習内容を確認します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

外国語学習では繰り返して練習することが大切です。学んだ学習項目を定着させるためにしっかり復習してください。毎回の授業でならったページのドイツ語文と単語は必ず声を出して読むようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

「ハンサムドイツ」（高橋・城間著）朝日出版社 2400 円

【参考書】

辞典の紹介

- 「アクセス独和辞典」 三修社
- 「アボロン独和辞典」 同学社

ポケット型の独和辞典は買わないようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点 30% 授業での発表
- ②授業態度 30% 礼儀作法を特に重視します
- ③期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

毎回新しい項目を少しずつ学ぶことになります。欠席すると授業内容についていけなくなります。ドイツ語の基礎を身につけるため授業には休まずに出席しましょう。授業には必ず独和辞典を持ってくるようにしてください。

【Outline and objectives】

In this class we learn grammar and express of the German language. The aim of a lesson is to understand German grammar and to read basic sentences. We are aiming at not only the skill of reading but also the skill of listening and speaking. Also we need to study European culture and history. Every week we learn new rules of German grammar and make exercises. Practice makes perfect.

LANd100LA

ドイツ語 1 II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 II 2016 年度以前入学者

高橋 泰雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 T～W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツ語のしくみの基礎を学んでいきます。少し難しいという印象が強いドイツ語ですが、この時間ではやさしい言葉で説明しゆっくりと練習を進めていきます。「読む」能力だけでなく、それと並行してコミュニケーションに役立つように「聞き取る」「話す」能力を身に着けることも目指していきます。

【到達目標】

到達目標は2年次以降に学ぶ「ドイツ語3」の授業に対応できるだけの能力を身につけることです。そのためにはまず正しい発音を覚え、簡単な短文から次第に複雑な分も理解できるようにするために、動詞と名詞の変化やドイツ語独特の枠構造を確実に理解することが必要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語のしくみを誰でも無理なく学べるように授業を進めていきます。予習、復習をするときには教科書の中のドイツ語の単語や文章を何度も声を出して読むようにしてください。毎時間少しずつ新しい項目と表現を学ぶことになりますから、休まないで授業に参加するようにしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	話法の助動詞	助動詞を使った文の語順に気をつけましょう
第2回	分離動詞とは何か	助動詞を使って表現の幅を広げます ふたつに分かれる動詞があります 重要な分離動詞の使い方について学びます
第3回	動詞の3つの基本となる形	基本的な動詞の不定詞・過去・過去分詞の形を覚えましょう
第4回	動詞の過去形	動詞の過去の形に気をつけましょう 過去形の文の作り方を学びます
第5回	現在完了の用法	完了形は助動詞と過去分詞でつくり ます 完了の助動詞は2つあります
第6回	読章 テディーベアの話	日本でも人気のあるテディーベアの由来の話を読みます
第7回	関係代名詞の使い方	先行詞のあるものとないもの 関係代名詞の用法を理解します
第8回	クロスワードパズル II	アルファベットが詰まった表の中から 体の部分を意味する単語を探しましょう
第9回	形容詞の比較	いろいろな比較の仕方を学びます
第10回	現在分詞とは	現在分詞の使い方を理解します
第11回	読章 ドイツの環境問題	まとまった文の読み方を理解できるようにします
第12回	zu 不定詞の用法	zu 不定詞の使い方 zu 不定詞を使った表現を学びます
第13回	受動態	「～される」という言い方 いろいろな受動的表現を学びます
第14回	接続法とは何か	人の言ったことを表すと 「もしも～ならばの」の言い方
第15回	期末試験とその解説	秋学期の学習内容を確認します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

外国語学習では繰り返し練習することが大切です。学んだ学習項目を定着させるためにしっかり復習してください。毎回の授業でならったページのドイツ語文と単語は必ず声を出して読むようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

「ハンサムドイツ」（高橋・城間著）朝日出版社

【参考書】

辞典の紹介

「アクセス独和辞典」 三修社

「アボロン独和辞典」 同公社

【成績評価の方法と基準】

①平常点 30% 授業での発表
②授業態度 30% 礼儀作法を特に重視します
③期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

毎回新しい項目を少しずつ学ぶことになります。欠席すると授業内容についていけなくなります。ドイツ語の基礎を身につけるため授業には休まずに出席しましょう。授業には必ず独和辞典を持ってくるください。

【Outline and objectives】

In this class we learn grammar and express of the German language. The aim of a lesson is to understand German grammar and to read basic sentences. We

are aiming at not only the skill of reading but also the skill of listening and speaking. Also we need to study European culture and history.

Every week we learn new rules of German grammar and make exercises. Practice makes perfect.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 I

2016 年度以前入学者

山下 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 営 1 年 A・B

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて学ぶドイツ語という言葉について、文法を中心に練習問題を繰り返しながら、発音のルール、基礎的な文法事項を修得し、ドイツ語の表現と語順に慣れ親しむ授業です。辞書の用い方を学び、初歩的な表現や文章が理解できるようにすることを目指します。

【到達目標】

ドイツ語文法の二つの基本事項として（１）名詞の格という概念を把握し、冠詞の格変化の仕方を身につけます。（２）主語に対応して動詞の語尾が様々な変化し、主語と動詞の対応によって文が成立することを学び、現在形と過去形における人称変化を自在に用いられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の文法が過不足なく明瞭に理解でき、簡単な文章で文法事項の使い方を確認できるテキストを用います。折にふれて練習問題を配布し、学んだ知識の定着を図ります。この授業で学んだ文法の知識を十分に活用して、ドイツ語 2 の授業ではより内容の豊富な文章を読んで言葉を身につける試みをしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとアルファベート	ABC の読み方・母音の発音
2	発音と挨拶	子音の発音・挨拶・曜日と月・数字
3	Lektion 1 ミュンヘン	動詞の現在人称変化
4	Lektion 1 自己紹介	sein・haben の現在人称変化
5	Lektion 2 ザルツブルク	名詞の性と定冠詞
6	Lektion 2 職業・身分	定冠詞と不定冠詞 格の用法
7	Lektion 3 ウィーン	不規則動詞の現在人称変化と命令形
8	Lektion 3 場所をたずねる	名詞の複数形 非人称の es
9	Lektion 4 ハンブルク	定冠詞類・不定冠詞類
10	Lektion 4 買い物・家族	否定の表現 並列の接続詞
11	Lektion 5 バーゼル	前置詞の格変化
12	Lektion 5 行き方をたずねる	人称代名詞
13	Lektion 5 街	疑問代名詞
14	春学期の復習	基礎文法再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業の内容を確実に身につけ、次回授業のための準備をする。
 テキストの予習を行ない、未知の単語は独和辞典を引いて意味と用法を確認しておく。
 課題は決して怠らないように。宿題は次回授業までに解答を出し、提出が求められた場合に備える。添削後に返却された答案は、再度間違いと正答を確認し、正しい知識を身につける。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子他『ブーメラン・エルエー』朝日出版社 ￥2,500 + 税

【参考書】

授業時にプリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業時における平常点 (30%) と内容の理解度を問う学期末の筆記試験 (70%) によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

独和辞書は持参すること

【Outline and objectives】

Elementary class of German language. Students learn the rules of pronunciation and the German grammar with many exercises. Also learn the everyday German expressions and reading comprehension of the plain texts with the textbook.

LANd100LA

ドイツ語 1 II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 II 2016 年度以前入学者

山下 敦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年 A・B

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて学ぶドイツ語という言葉について、文法を中心に練習問題を繰り返しながら、発音のルール、基礎的な文法事項を修得し、ドイツ語の表現と語順に慣れ親しむ授業です。辞書の使い方を学び、初歩的な表現や文章が理解できるようにすることを目指します。

【到達目標】

助動詞・分離動詞・不定詞・関係代名詞等、主にドイツ語の文章の根幹をなす特色の一つである枠構造に関する文法事項を学びます。さらに、現在形の展開形態として現在完了形・未来形等の時制の変化を、最後に、非現実の事柄が表現できる接続法について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の文法が過不足なく明瞭に理解できるテキストを用います。折にふれて練習問題を配布し、学んだ知識の定着を図ります。文法事項の修得が進むにつれて、次第に複雑で深みのあるドイツ語表現の理解が可能になります。この授業で学んだ文法の知識を十分に活用して、ドイツ語 2 の授業でまとめた文章を通じて言葉を身につける試みをしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと秋学期の展望	名詞系と動詞系の基本事項
2	Lektion 6 コンサート	話法の助動詞・未来形
3	Lektion 6 チケットを買う	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 不定代名詞 man	分離動詞と非分離動詞
5	Lektion 7 レストラン	形容詞の格語尾変化
6	Lektion 7 食べ物・色	比較級と最上級
7	Lektion 8 週末の外出	動詞の 3 基本形
8	Lektion 8 時間の表現	現在完了形
9	Lektion 9 ワイマール	過去形
10	Lektion 9 音楽関係	再帰代名詞と再帰動詞
11	Lektion 10 冬休み	zu 不定詞句
12	Lektion 10 お祝いの言葉	関係代名詞
13	文法の補足	受動態・接続法の用法
14	秋学期の復習	ドイツ語文法再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業の内容を確実に身につけ、次回授業のための準備をする。
テキストの予習を行ない、未知の単語は独和辞典を引いて意味と用法を確認しておく。
課題は決して怠らないように。宿題は次回授業までに解答を出し、提出が求められた場合に備える。添削後に返却された答案は、再度間違いと正答を確認し、正しい知識を身につける。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子他『ブーメラン・エルエー』朝日出版社 ￥2,500 + 税

【参考書】

授業時にプリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業時における平常点 (30%) と内容の理解度を問う学期末の筆記試験 (70%) によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

独和辞書は持参すること

【Outline and objectives】

Elementary class of German language. Students learn the rules of pronunciation and the German grammar with many exercises. Also learn the everyday German expressions and reading comprehension of the plain texts with the textbook.

LANd100LA

ドイツ語 1 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 I 2016 年度以前入学者

高橋 泰雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
営 1 年 C～J・L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツ語のしくみの基礎を学んでいきます。少し難しいという印象が強いドイツ語ですが、この時間ではやさしい言葉で説明しゆっくりと練習を進めていきます。「読む」能力だけでなく、それと並行してコミュニケーションに役立つように「聞き取る」「話す」能力を身に着けることも目指していきます。

【到達目標】

到達目標は 2 年次以降に学ぶ「ドイツ語 3」の授業に対応できるだけの能力を身につけることです。そのためにはまず正しい発音を覚え、簡単な短文から次第に複雑な分も理解できるようにするために、動詞と名詞の変化やドイツ語独特の枠構造を確実に理解することが必要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語のしくみを誰でも無理なく学べるように授業を進めていきます。予習、復習をするときには教科書の中のドイツ語の単語や文章を何度も声を出して読むようにしてください。毎時間少しずつ新しい項目と表現を学ぶことになりますから、休まないで授業に参加するようにしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ドイツ語の世界へようこそ	ドイツ語とはこんな言葉です 発音はむずかしくありません
第 2 回	動詞（規則動詞）の変化	動詞の形は変わります 主語によって動詞の形が変化することを学びます
第 3 回	語順に気をつけましょう	動詞の場所は決まっています 動詞の位置は 2 番目です
第 4 回	冠詞と名詞の変化	冠詞と名詞の形も変わります 定冠詞と不定冠詞の役割を理解します
第 5 回	冠詞の仲間たち	冠詞とよく似た変化をする冠詞類の使い方
第 6 回	動詞（不規則動詞）の変化	母音が変わる動詞があります 不規則な動詞の変化を学びます
第 7 回	読章 ドイツ人の休暇	少しまとまった文章を理解できるようにします
第 8 回	人称代名詞の格変化	ich du er などにも 3 格・4 格の形があります 代名詞の役割と使い方を理解します
第 9 回	前置詞の使い方	前置詞には決まった相手がいいます 前置詞を使った表現の約束について学びます
第 10 回	読章 ドイツの水事情	少し長めの文章に挑戦します
第 11 回	クロスワードパズル I	ことわざをヒントにしたパズルを解いてみましょう
第 12 回	形容詞の付加語的用法	形容詞にも語尾がつきます 付加語的に形容詞を使うときの語尾の形を学びます
第 13 回	形容詞の名詞化	形容詞は名詞に変われます 形容詞を名詞として使うことができます
第 14 回	期末試験とその解説	春学期の学習内容を確認します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

外国語学習では繰り返して練習することが大切です。学んだ学習項目を定着させるためにしっかり復習してください。毎回の授業でならったページのドイツ語文と単語は必ず声を出して読むようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

「ハンサムドイツ」（高橋・城間著）2400 円 朝日出版社

【参考書】

辞典の紹介

「アクセス独和辞典」 三修社

「アボロン独和辞典」 同学社

ポケット型の独和辞典は買わないようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点 30% 授業での発表
- ②授業態度 30% 礼儀作法を特に重視します
- ③期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

毎回新しい項目を少しずつ学ぶことになります。欠席すると授業内容についていけなくなります。ドイツ語の基礎を身につけるため授業には休まずに出席しましょう。授業には必ず独和辞典を持ってくるようにしてください。

【Outline and objectives】

In this class we learn grammar and express of the German language. The aim of a lesson is to understand German grammar and to read basic sentences. We are aiming at not only the skill of reading but also the skill of listening and speaking. Also we need to study European culture and history. Every week we learn new rules of German grammar and make exercises. Practice makes perfect.

LANd100LA

ドイツ語 1 II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 II 2016 年度以前入学者

高橋 泰雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
営 1 年 C～J・L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツ語のしくみの基礎を学んでいきます。少し難しいという印象が強いドイツ語ですが、この時間ではやさしい言葉で説明しゆっくりと練習を進めていきます。「読む」能力だけでなく、それと並行してコミュニケーションに役立つように「聞き取る」「話す」能力を身に着けることも目指していきます。

【到達目標】

到達目標は 2 年次以降に学ぶ「ドイツ語 3」の授業に対応できるだけの能力を身につけることです。そのためにはまず正しい発音を覚え、簡単な短文から次第に複雑な分も理解できるようにするために、動詞と名詞の変化やドイツ語独特の枠構造を確実に理解することが必要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語のしくみを誰でも無理なく学べるように授業を進めていきます。予習、復習をするときには教科書の中のドイツ語の単語や文章を何度も声を出して読むようにしてください。毎時間少しずつ新しい項目と表現を学ぶことになりますから、休まないで授業に参加するようにしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	話法の助動詞	助動詞を使った文の語順に気をつけましょう
第 2 回	分離動詞とは何か	助動詞を使って表現の幅を広げます ふたつに分かれる動詞があります 重要な分離動詞の使い方について学びます
第 3 回	動詞の 3 つの基本となる形	基本的な動詞の不定詞・過去・過去分詞の形を覚えましょう
第 4 回	動詞の過去形	動詞の過去の形に気をつけましょう 過去形の文の作り方を学びます
第 5 回	現在完了の用法	完了形は助動詞と過去分詞でつくり ます 完了の助動詞は 2 つあります
第 6 回	読章 テディーベアの話	日本でも人気のあるテディーベアの由来の話を読みます
第 7 回	関係代名詞の使い方	先行詞のあるものとないもの 関係代名詞の用法を理解します
第 8 回	クロスワードパズル II	アルファベットが詰まった表の中から 体の部分を意味する単語を探しましょう
第 9 回	形容詞の比較 現在分詞とは	いろいろな比較の仕方を学びます 現在分詞の使い方を理解します
第 10 回	読章 ドイツの環境問題	まとまった文の読み方を理解できるようにします
第 11 回	zu 不定詞の用法	zu 不定詞の使い方 zu 不定詞を使った表現を学びます
第 12 回	受動態	「～される」という言い方 いろいろな受動的表現を学びます
第 13 回	接続法とは何か	人の言ったことを表すと 「もしも～ならばの」の言い方
第 14 回	期末試験とその解説	秋学期の学習内容を確認します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

外国語学習では繰り返して練習することが大切です。学んだ学習項目を定着させるためにしっかり復習してください。毎回の授業でならったページのドイツ語文と単語は必ず声を出して読むようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

「ハンサムドイツ」（高橋・城間著）朝日出版社

【参考書】

辞典の紹介

「アクセス独和辞典」 三修社

「アボロン独和辞典」 同学社

【成績評価の方法と基準】

①平常点 30% 授業での発表
②授業態度 30% 礼儀作法を特に重視します
③期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

毎回新しい項目を少しずつ学ぶことになります。欠席すると授業内容についていけなくなります。ドイツ語の基礎を身につけるため授業には休まずに出席しましょう。授業には必ず独和辞典を持ってくるください。

【Outline and objectives】

In this class we learn grammar and express of the German language. The aim of a lesson is to understand German grammar and to read basic sentences. We

are aiming at not only the skill of reading but also the skill of listening and speaking. Also we need to study European culture and history.

Every week we learn new rules of German grammar and make exercises. Practice makes perfect.

LANd100LA	
ドイツ語 1 I	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 1：表現 I	2016 年度以前入学者
佐藤 まり子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 1/Mon.1 営 1 年 K	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音から始め、ドイツ語の初級文法、基本表現を学習する。

【到達目標】
ひととおり初級文法を習得し、辞書を使って平易な文章の読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。独検 5 級・4 級に合格する力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
ドイツ語の仕組みがだまかに分かるように、初歩的文法事項を学び、ドイツ語の文章構造を理解する。
前回の授業の復習をしてから、例文を使って新しい文法を説明する。理解したかどうか確かめる為、その場で問題を解いてもらう。
宿題の練習問題の解答合わせをし、覚えてきた短い例文を言ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	ドイツとドイツ語	ガイダンス、辞書の紹介
2	動詞	動詞の現在人称変化
3	動詞の位置	文の作り方、語順
4	定冠詞と不定冠詞	格変化
5	名詞、名詞の複数形	名詞の性・数・格と名詞の格変化
6	不規則動詞	不規則動詞の現在人称変化
7	命令形	命令文の作り方
8	定冠詞類と不定冠詞類	格変化
9	指示代名詞、疑問代名詞	指示代名詞の用法、疑問代名詞を使った文
10	人称代名詞	3 格と 4 格の人称代名詞
11	前置詞	前置詞の格支配
12	話法の助動詞、未来形	話法の助動詞の現在人称変化、未来形の用法
13	従属接続詞	副文
14	まとめと復習	1 課～6 課

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
知識が定着するように、授業で習った事をよく復習し、宿題の練習問題をやっておく。各課の最初にあるその課で学ぶ短い例文を覚えてくる。

【テキスト（教科書）】
教科書：『怖くはないぞドイツ文法』春日正男、松澤 淳（朝日出版社）
辞書：独和辞典 1 冊 1 回目の授業で辞書の紹介をするので、必ず説明を聞いてから購入すること。

【参考書】
必ずしも必要ではないが、参考書として、『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠璽、平尾浩三、朝倉 巧（白水社）

【成績評価の方法と基準】
試験 70 %、宿題・授業内課題・授業参加度など 30 %

【学生の意見等からの気づき】
授業の進み方が早いと思う学生が中にはいるが、1 年生で教えるべき文法を終わらせるには、授業 2 回で 1 課進む位のペースでやむを得ないのではないだろうか？

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
毎回、教科書と辞書は持参して下さい。

LANd100LA	
ドイツ語 1 II	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 1：表現 II	2016 年度以前入学者
佐藤 まり子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 1/Mon.1 営 1 年 K	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発音ができ、ドイツ語の初級文法、基本表現を学習する。

【到達目標】
ひととおり初級文法を習得し、辞書を使って平易な文章の読み書き、簡単な日常会話ができるようになる。独検 5 級・4 級に合格できる力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
ドイツ語の仕組みがだまかに分かるように、初歩的文法事項を学び、ドイツ語の文章構造を理解する。
前回の授業の復習をしてから、例文を使って新しい文法を説明する。理解したかどうか確かめる為、その場で問題を解いてもらう。
宿題の練習問題の解答合わせをし、覚えてきた短い例文を言ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	ガイダンス
2	分離動詞と非分離動詞	分離動詞と非分離動詞の前綴り
3	非人称動詞	非人称 ES の用法
4	形容詞	形容詞の格変化
5	形容詞の名詞化	形容詞の名詞化の作り方
6	動詞の三基本形	規則動詞の三基本形の作り方、不規則動詞の三基本形
7	過去	過去人称変化
8	現在完了	現在完了形の作り方
9	関係代名詞	関係代名詞の文
10	不定関係代名詞	不定関係代名詞の文
11	形容詞の比較級・最高級	作り方と用法
12	ZU 不定詞	作り方と用法
13	復習	7 課～12 課
14	まとめと整理	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
知識が定着するように授業で習った事をよく復習し、宿題の練習問題をやっておく。各課の最初にあるその課で学ぶ短い例文を覚えてくる。

【テキスト（教科書）】
教科書：『怖くはないぞドイツ文法』春日正男、松澤 淳（朝日出版社）
辞書：独和辞典

【参考書】
必ずしも必要ではないが、参考書として、『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠璽、平尾浩三、朝倉 巧（白水社）

【成績評価の方法と基準】
試験 70 %、宿題・授業内課題・授業参加度など平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
秋学期の文法は難しいが、少し、慣れてきたのか、授業の進み方に関しては、春学期に早いと思っていた学生もなんとかついてこれたようで良かったと思う。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
毎回、教科書と辞書は持参して下さい。

LANd100LA

ドイツ語 1 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 I 2016 年度以前入学者

高木 葉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年 Q・R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な文法事項の習得

【到達目標】

基本的な文法事項を習得します。また、DVD 映像を使用して、ドイツ語圏の社会・歴史・文化を多角的に紹介していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は主に次の 3 点から構成されます。

1. 講義
2. 実習（各自で問題をやってもらったり、ペア練習を行います）
3. 映像鑑賞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	自己紹介 授業の進め方 ドイツ語とドイツ語圏について
2.	つづりの読み方と発音	発音と簡単な挨拶の口頭練習
3.	第 1 課（1）	動詞の現在人称変化（1）
4.	第 1 課（2）	sein と haben の現在人称変化 語順
5.	第 2 課（1）	定冠詞と名詞の格変化
6.	第 2 課（2）	不定冠詞と名詞の格変化
7.	第 3 課	名詞の複数形 人称代名詞
8.	第 1 回テスト	テストによるこれまでの復習（1）
9.	第 4 課	動詞の現在人称変化（2） 命令法
10.	第 5 課（1）	定冠詞類
11.	第 5 課（2）	不定冠詞類
12.	第 6 課（1）	前置詞の格支配（1）
13.	第 6 課（2）	前置詞の格支配（2）
14.	第 2 回テスト	テストによるこれまでの復習（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題となった練習問題

【テキスト（教科書）】

前田・高木『身につくドイツ文法＜ Leicht ＞』郁文堂

【参考書】

授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

以下の 3 点を総合して評価します。

- 1) 第 1 回テスト 35%
- 2) 第 2 回テスト 35%
- 3) 平常点（出席状況と受講態度）30%

【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許すかぎり、個別の質問にできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】

4 月の第 1 回目の授業時に、詳しいガイダンスを行います。教科書を購入しなくてもってきてください。

LANd100LA

ドイツ語 1 II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1：表現 II 2016 年度以前入学者

高木 葉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年 Q・R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、基本的な文法事項の習得

【到達目標】

春学期に引き続き、基本的な文法事項を習得をします。また、DVD 映像を使用して、ドイツ語圏の社会・歴史・文化を多角的に紹介していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は以下の 3 点から構成されます。

1. 講義
2. 実習（各自で問題をやってもらったり、ペア練習を行います）
3. 映像鑑賞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	第 7 課（1）	話法の助動詞 未来形
2.	第 7 課（2）	非人称動詞 時刻の表現
3.	第 8 課（1）	分離動詞 非分離動詞
4.	第 8 課（2）	接続詞
5.	第 9 課	動詞の 3 基本形 過去形
6.	第 10 課（1）	現在完了形
7.	第 1 回テスト	テストによるこれまでの復習（1）
8.	第 10 課（2）	再帰表現
9.	第 11 課	形容詞の格変化 序数
10.	第 12 課（1）	日付の表現
11.	第 12 課（2）	形容詞と副詞の比較変化 zu 不定詞
12.	第 13 課（1）	関係代名詞
13.	第 13 課（2）	指示代名詞
14.	第 2 回テスト	テストによるこれまでの復習（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題となった練習問題

【テキスト（教科書）】

前田・高木『身につくドイツ文法＜ Leicht ＞』郁文堂

【参考書】

授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

次の 3 点を総合して評価します。

- 1) 第 1 回テスト 35%
- 2) 第 2 回テスト 35%
- 3) 平常点（出席状況と受講態度）30%

【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許すかぎり、個別の質問にできるだけ丁寧に対応していきます。

LANd100LA

ドイツ語 2 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 I 2016 年度以前入学者

佐々木 宗夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 1 年 A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な文法力を身につける。まずはドイツ語のキビキビしたリズムを楽しむ。本講で「読む」、「書く」力を付ける。未知の言語に接するのだから、それなりの努力をし、ドイツ語に対してだけではなく歴史や文化に対しても興味を持つようにする。「易しく簡明に」がこの授業のモットー。

【到達目標】

ドイツ語検定試験の 5～4 級にチャレンジできるレベルを目指す。
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法は英語や日本語と比較するなどして、解りやすく、シンプルに…をモットーに進める。基本事項を説明した後はプリントを用いた作文などで反復練習をし、知識の定着を図る。文法の説明などは講義形式になるが、読解、作文などは実習形式。不明な点は遠慮せずその場で質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ドイツ語紹介	英語とドイツ語の関係。
2	発音練習 1	アルファベットの発音。ドイツ語に特有の発音。
3	発音練習 2	単語の発音原則。キビキビした音感を楽しもう。
4	動詞の人称変化 1	人称代名詞と動詞の語尾変化の規則を覚える。
5	動詞の人称変化 2	辞書を使って文中の動詞を引く練習。
6	動詞の人称変化 3	sein の変化。作文練習。
7	動詞の人称変化 4	haben の変化。作文練習。小テスト。
8	名詞と冠詞	名詞の性と格。 定冠詞と不定冠詞。
9	名詞の格 1	格の意味。日本語の格助詞との比較で。 これは春学期のメインテーマ、格変化は日本語の格助詞の働きに似たものです。格が実際の文章でどんな役割を担っているかじっくり時間をかけてやっていきます。
10	名詞の格 2	定冠詞と不定冠詞の 1 格と 4 格。 読解と作文。
11	名詞の格 3	定冠詞と不定冠詞の 2 格と 3 格。 読解と作文。
12	名詞の格 4	格変化の応用練習。
13	名詞の格 5	すべての格を使った文の読解と作文。 定冠詞と不定冠詞の仲間。 dieser と mein 。
14	試験日 最終週の授業内	辞書参照可の予定。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたプリントの練習問題は必ずやって、不明な点を授業中に質問できるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』改訂版 上野成利 著 白水社

【参考書】

『初級クラスのドイツ語』石渡均 著 郁文堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、宿題、平常点 20 %、の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

プリントの練習問題は、誤りが多くあった場合には解答を配布します。

【その他の重要事項】

授業は学生諸君の習熟度を見ながら進める。従って、この授業計画通りに進まないこともあり得る。

【Outline and objectives】

This class is intended for the students who are going to study German for the first time. So we will begin our course with the pronunciation of the German alphabet and some German words. I hope you will enjoy the briskness and liveliness of the German language.

The main point in this class is to read and write German. After an explanation of each grammatical subject, we will practice reading and writing based on it. This will be effective to fix your grammatical knowledge and help with your reading and writing skills. At the end of this semester you will be able to pass the 5th stage (Elementarstufe) of German Diploma in Japan.

Also, we aim to increase your interest in German history and culture. The motto of this class is "simple and easy to understand" When you have any questions during class, please ask me without reservation. Any questions will be welcome.

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ：読解Ⅱ 2016 年度以前入学者

佐々木 宗夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
法 1 年 A

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、基本的な文法力を身につける。具体的には、春学期で学習した動詞の人称変化、及び格変化の応用力をつけ、多様な表現ができるよう、文法の運用能力を向上させる。易しいメルヘンなどを読める力をつける。「易しく簡明に」がこの授業のモットー。

【到達目標】

ドイツ語検定試験 4 級レベル、可能であれば、3 級レベルを目指す。
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法は英語や日本語と比較するなどして、解りやすく、シンプルに…をモットーに進める。基本事項を説明した後はプリントを用いた作文などで反復練習をし、知識の定着を図る。文法の説明などは講義形式になるが、読解、作文などは実習形式。不明な点は遠慮せずその場で質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動詞の人称変化	文章の中の格を読み取る練習。 名詞の複数形。
2	動詞の人称変化 6	不規則変化動詞のパターン。使用頻度の高いものを覚える。
3	前置詞 1	前置詞の格支配。
4	前置詞 2	前置詞を使った文の読解と作文。
5	前置詞 3	辞書を駆使し、前置詞の様々な意味を汲み取る。
6	形容詞 1	名詞を形容する際の語尾変化のパターン。
7	形容詞 2	語尾変化を作文練習で。 小テスト。
8	文の構造 …これまでの復習も兼ねて	動詞の位置と単語配列。 日本語との意外な類似性が興味深いはず。 文の構成に影響を与える接続詞とそうでないもの。主文と副文を見分ける。 二つに分離する動詞とそうでないもの。分離動詞と非分離動詞。辞書を引く際の注意。
9	複合動詞 1	分離動詞を見分ける練習。複合動詞の読解と作文練習。
10	複合動詞 2	助動詞構文の特徴。話法の助動詞の用法。
11	助動詞	過去基本形と人称変化。過去分詞の形。過去形との違い。長文読解
12	動詞の三基本形	辞書、参照可の予定
13	現在完了の用法	
14	試験日 最終週の授業内	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたプリントの練習問題は必ずやって、不明な点を授業中に質問できるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』改訂版 上野成利 著 白水社

【参考書】

『初級クラスのドイツ語』石渡均 著 郁文堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、宿題、平常点 20 %、の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

春学期同様、作文練習を多用するつもり。プリントの練習問題は解答を配布します。

【その他の重要事項】

授業は学生諸君の習熟度を見ながら進める。従って、この授業計画通りに進まないこともあり得る。

【Outline and objectives】

This class is intended for the students who took the former course last semester. On the basis of what you studied then, we will aim at a higher level of your literacy.

The main point in this class is to read and write German. After an explanation of each grammatical subject, we will practice reading and writing based on it. This will be effective to fix your grammatical knowledge and help with your reading and writing skills.

It is our goal to be able to read comparatively easy sentences, such as fairy tales. At the end of this semester you will be able to pass the 4th stage (Anfängerstufe) of German Diploma in Japan ,and to get practicable ability for 3th stage (Grundstufe).

Also, we aim to increase your interest in German history and culture.

The motto of this class is “simple and easy to understand” When you have any questions during class, please ask me without reservation. Any questions will be welcome.

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 I

2016 年度以前入学者

渡辺 国彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 1 年 B

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語以外の外国語にも触れることにより、多様な価値観や教養を身につけるための基礎的な能力を養う。

【到達目標】

簡単なドイツ語が辞書なしで読めるようになる。ドイツ語の基本的な文法事項の前半部分を習得することにより、ドイツ語の簡単な文章の意味が理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項の説明。その知識をもとにして練習問題を解く。文章の発音と読解の練習をする。解答をできるだけ多くの出席者に発表してもらい正解を全員で考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書の紹介。授業の進め方。ドイツ語とはなにか。アルファベット。簡単な表現。
2	Lektion 1 動詞の現在人称変化	発音の規則の解説と練習。ドイツ語でのあいさつ。現在人称変化。
3	Lektion 1 動詞の現在人称変化の練習	人称代名詞と規則動詞の変化。sein 動詞。定動詞の位置。
4	Lektion 2 名詞の性、冠詞の格変化	名詞の性、格変化、haben の文法の説明。問題練習。
5	Lektion 2 名詞の性、冠詞の格変化の練習	名詞の性、格変化、haben 等を使った表現の練習。2 課の読解。
6	Lektion 3 不規則動詞、命令形	不規則動詞、命令形の文法の説明。問題練習。
7	Lektion 3 不規則動詞、命令形の練習	不規則動詞、命令形を使った表現の練習。3 課の読解。
8	Lektion 4 定冠詞類・不定冠詞類	定冠詞類・不定冠詞類の文法の説明。問題練習。
9	Lektion 4 定冠詞類・不定冠詞類の練習	定冠詞類・不定冠詞類を使った表現の練習。4 課の読解。
10	Lektion 5 複数形、人称代名詞	複数形、人称代名詞の文法の説明。問題練習。
11	Lektion 5 複数形、人称代名詞の練習	複数形、人称代名詞を使った表現の練習。5 課の読解。
12	Lektion 6 前置詞	前置詞の文法の説明。問題練習。
13	Lektion 7 形容詞の格変化	形容詞の変化（解説と練習）。
14	春学期の学修事項の確認	到達度テスト 学修事項の確認と対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書をひき予習する。学んだことを振り返り、わからないことがあれば次の回到に質問する。教科書に添付された学修用 CD を聞いて発音になれる。

【テキスト（教科書）】

パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [改訂版] 「上野成利他」 白水社

【参考書】

任意の独和辞典

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 % 到達度テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】

知識を確実にするためには、できるだけ多くの問題練習をする必要がある。

【Outline and objectives】

By learning foreign languages other than English, cultivate the basic ability to acquire diverse values and cultures.

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ：読解Ⅱ

2016 年度以前入学者

渡辺 国彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 1 年 B

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語以外の外国語にも触れることにより、多様な価値観や教養を身につけるための基礎的な能力を養う。

【到達目標】

ドイツ語の基本的な文法事項の後半を習得することにより、ドイツ語の基本的な文章を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項の説明。修得した知識をもとに練習問題を解く。文章の発音と読解の練習。解答をできるだけ多くの出席者に発表してもらいその正解を全員で考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 8 話法の助動詞、未来形	話法の助動詞、未来形の文法の説明。 問題練習。
2	Lektion 8 話法の助動詞、未来形の練習	話法の助動詞、未来形を使った表現の練習。8 課の読解。
3	Lektion 9 分離動詞、接続詞と副文	分離動詞、接続詞と副文の文法の説明。 問題練習。
4	Lektion 9 分離動詞、接続詞と副文の練習	分離動詞、接続詞と副文を使った表現の練習。9 課の読解。
5	Lektion 10 zu 不定詞、再帰代名詞	zu 不定詞、再帰代名詞の文法の説明。 問題練習。
6	Lektion 10 zu 不定詞、再帰代名詞の練習	zu 不定詞、再帰代名詞を使った表現の練習。10 課の読解。
7	Lektion 11 三基本形、過去形	三基本形、過去形の文法の説明。問題練習。
8	Lektion 11 三基本形、過去形の練習	三基本形、過去形を使った表現の練習。11 課の読解。
9	Lektion 12 現在完了形	現在完了形の文法の説明。問題練習。
10	Lektion 12 現在完了形の練習	現在完了形を使った表現の練習。12 課の読解。
11	Lektion 13 受動態	受動態の文法の説明。問題練習。
12	Lektion 13 受動態の練習	受動態を使った表現の練習。13 課の読解。
13	Lektion 14 関係代名詞	関係代名詞、関係副詞を使った表現の練習。接続法の練習。
14	Lektion 15 接続法、関係副詞 秋学期の学修事項の確認	到達度テスト 到達度の確認と対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書をひき予習する。学んだことを振り返り、わからないことがあれば次の回到質問できるように用意する。教科書に添付された学習用 CD を聞いて発音になれる。

【テキスト（教科書）】

パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール【改訂版】 「上野成利他」白水社

【参考書】

任意の独和辞典

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 % 到達度テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】

知識を確実にするためには、できるだけ多くの問題練習をする必要がある。

【Outline and objectives】

By learning foreign languages other than English, cultivate the basic ability to acquire diverse values and cultures.

LANd100LA

ドイツ語ⅡⅠ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ：読解Ⅰ

2016 年度以前入学者

長澤 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 CD

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】
1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	アルファベット、発音とアクセント、挨拶について
第 2 回	第 1 章（1）	動詞の現在人称変化、動詞 sein と haben の変化、動詞の位置
第 3 回	第 1 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 4 回	第 2 章（1）	名詞の性、名詞の 1 格・4 格、所有冠詞
第 5 回	第 2 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 6 回	第 3 章（1）	不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形
第 7 回	第 3 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 8 回	中間試験	第 1 ～ 7 回の内容を確認します。
第 9 回	第 4 章（1）	名詞の 3 格、前置詞と名詞の格
第 10 回	第 4 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 11 回	第 5 章（1）	人称代名詞の 3・4 格、分離動詞、非分離動詞
第 12 回	第 5 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 13 回	第 6 章（1）	話法の助動詞、命令形
第 14 回	期末試験	第 9 ～ 13 回の内容を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、宿題および予習・復習を行ってることが必須です。

【テキスト（教科書）】
書名：『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』
著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり
出版社：朝日出版社
価格：2 6 0 0 円＋税

【参考書】
辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものが便利。スマートフォンの辞書アプリは不可。
また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。
書名：『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）
『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（1 5 %）、中間試験（3 5 %）、期末試験（5 0 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

【Outline and objectives】
This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

LANd100LA

ドイツ語ⅡⅡ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ：読解Ⅱ

2016 年度以前入学者

長澤 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 CD

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】
春学期に引き続き初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期に学んだ内容を復習します。
第 2 回	第 6 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 3 回	第 7 章（1）	3 格・4 格支配の前置詞、並列接続詞
第 4 回	第 7 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 5 回	第 8 章（1）	現在完了形、過去形
第 6 回	第 8 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 7 回	中間試験	第 1 ～ 6 回の内容を確認します。
第 8 回	第 9 章（1）	定冠詞類、副文
第 9 回	第 9 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 10 回	第 10 章（1）	比較級と最上級、再帰代名詞と再帰動詞
第 11 回	第 10 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 12 回	第 11 章（1）	形容詞の格変化、非人称表現（es の用法）
第 13 回	第 11 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 14 回	期末試験	第 8 ～ 13 回の内容を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、宿題および予習・復習を行ってることが必須です。

【テキスト（教科書）】
書名：『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』
著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり
出版社：朝日出版社
価格：2 6 0 0 円＋税

【参考書】
辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものが便利。スマートフォンの辞書アプリは不可。
また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。
『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）
『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（1 5 %）、中間試験（3 5 %）、期末試験（5 0 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

LANd100LA

ドイツ語 2 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 I 2016 年度以前入学者

浦田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 E・S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を修得する。ドイツ語とはどんな言葉なのかを理解する。

【到達目標】

文法の基礎とそれに関連したドイツ語の文を学習し、ドイツ語を正しく発音し、基本的な表現を口頭で練習し身につけ簡単な内容の事柄をドイツ語で表現できるよう目指す。また、辞書を使い、ドイツ語の文の内容が理解できるようにするなど総合的なドイツ語力を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

アルファベート、発音を学んだ後、テキストの各課に準じてドイツ語のしくみを説明したあと、履修者各自にその課の本文を読んでもらい、意味を確認し、練習問題を解いてもらう。

各課の文法を説明し、CD の発音を聞き、独文を全員で読む。練習問題は、問題を指名した人にやってもらい、全員で音読練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション アルファベート	ドイツ語およびドイツ語圏の紹介。授業の進め方やテキストおよび辞書の説明などを行う。アルファベートの読み方。
2	アルファベートと単語の発音	アルファベートの読み方。単語の発音の原則と注意すべき母音・子音の説明。
3	動詞の形は変わります (1)	主語となる人称代名詞。現在形の形態と用法。
4	動詞の場所は決まっています	定動詞の位置 (1) (平叙文と疑問文)
5	冠詞と名詞の形も変わります	不定冠詞・定冠詞と名詞の性と格変化。2 格の位置、3 格と 4 格の順序。
6	名詞の複数の形・誰・何をあらわすものたち	複数形の種類と格変化・疑問詞 wer と was の用法。
7	母音が変わる動詞があります	語幹の母音が変わる 3 つのパターンと独特な変わり方をする動詞の現在人称変化を覚える。
8	命令の形は 3 種類です・まとめと練習	命令形の作り方と用法・これまでに学んだことの復習と問題練習。
9	冠詞の仲間たち	冠詞と同じような格変化をする定冠詞類や不定冠詞類の形と用法・否定の表現。
10	ich du er などにも 3 格・4 格があります	人称代名詞の格変化と 3 格・4 格の文章における順序。
11	前置詞の相手は決まっています	特定の格と結びつく前置詞の意味と用法 (2 格、3 格、4 格、3・4 格支配)
12	前置詞に関連した事柄	前置詞の融合形と特定の前置詞と結びつく動詞や形容詞を覚える。
13	総復習	春学期で学習した文法項目や各種の表現の復習とこれまでの疑問点の解明。
14	期末試験	文法と読解力のチェックをするための試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に「授業テーマ」や「授業内容」を読み、教科書の該当箇所の情報を得たうえで、これに目を通して疑問点を明確にしておく。また独和辞典を引き、教科書付属の CD で発音練習などもしておく。

【テキスト（教科書）】

「ブーメラン・エルエー」
小野 寿美子・他著 朝日出版社

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を重視すると同時に、毎回の授業への取り組み方、授業中に指名されたときに、問題をきちんと解いたかなどの平常点も加味する。到達目標に達しているかを問う期末試験 80 %、平常点 20 % として、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項についての説明をさらに詳しく行い、履修者による発表や自発的な質問を行えるように徹底する。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the basic German and to understand what the German language is like.

LANd100LA

ドイツ語 2 II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 II 2016 年度以前入学者

浦田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 E・S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を修得し、文の内容を理解する。ドイツ語の発音に習熟する。春学期の文法項目を復習しながら、複雑になってきた文法を正確に理解する。ドイツ語の文章を読みすすめていく中で、ドイツとその文化への関心を深め、日本と日本文化との違いを認識する。

【到達目標】

文法の基礎とそれに関連したドイツ語の文を学習し、簡単な内容のことならドイツ語で表現できるようにする。ドイツ語を正しく発音し、基本表現を覚え、辞書を用いてドイツ語の文の内容が理解できるようにするなど総合的なドイツ語力を修得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期終了の箇所から順に学んでいく。文法は基礎を反復練習しながら、詳しく説明し、CD の発音を聞き、ドイツ語の文を全員で読む。テキストの本文や練習問題は、問題を指名した人にやってもらい、全員で音読練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期で学習した項目の復習およびプリントによる問題練習。
2	話法の助動詞・未来のこと	話法の助動詞の種類・用法と未来形の種類点および未来形の用法。
3	ふたつに分かれる動詞があります	分離動詞と非分離動詞の用法。枠構造についての説明。
4	形容詞にも語尾がつきます・形容詞は名詞としても使えます	形容詞の格変化の種類と名詞化された形容詞の意味するもの。
5	比較のしかた・動詞も形容詞のように使えます	形容詞および副詞の比較級と最上級の形とその使い方。現在分詞の形態。現在分詞と過去分詞の付加語としての用法。
6	動詞の 3 つの基本となる形	規則変化と不規則変化の過去基本形と過去分詞。
7	完了形には完了の助動詞が必要です	現在完了と過去完了の形態と用法。完了の助動詞は sein か haben か？
8	動詞の過去に気をつけましょう・語順を変える接続詞があります	過去の人称変化と用法について。定動詞の位置に関するまとめ。副文について。
9	もう一人の自分が必要です	再帰代名詞の形態と再帰動詞の用法。再帰動詞の熟語など。
10	zu + 不定詞の用法（1）	zu 不定詞の基本的な構造と用法。英語との相違点。
11	zu + 不定詞の用法（2）	zu 不定詞の注意すべき構造と用法。英語との相違点。
12	関係詞とは	先行詞のある関係代名詞の形と用法・関係詞を用いた文中での定動詞の位置の説明。
13	総復習	秋学期に学んだ項目の確認と練習。
14	期末試験	秋学期で学んだ文法と読解力のチェックのための試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

独和辞典を引き、教科書付属の CD で発音練習をする。前もって「授業テーマ」や「授業内容」に目を通して、教科書の該当箇所の事項についての情報を得たうえで疑問点等を明確にしておく。

【テキスト（教科書）】

「ブーメラン・エルエー」
小野 寿美子・他著 朝日出版社

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を重視すると同時に、毎回の授業に対する取り組み方、授業中に指名されたときに、問題をきちんと解いたかなどの平常点を加味する。到達目標に達しているかを問う期末試験 80 %、平常点 20 % の割合で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項についての説明をさらに詳しく行い、また履修者による発表や自主的な質問などができるように徹底する。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the basic German and to understand what the German language is like. Moreover, the students who take part in this class read the German sentences and can understand the country "Germany" and its culture.

LANd100LA

ドイツ語ⅡⅠ 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ：読解Ⅰ 2016 年度以前入学者

長澤 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
文 1 年 A～E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】

1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	アルファベット、発音とアクセント、挨拶について
第 2 回	第 1 章（1）	動詞の現在人称変化、動詞 sein と haben の変化、動詞の位置
第 3 回	第 1 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 4 回	第 2 章（1）	名詞の性、名詞の 1 格・4 格、所有冠詞
第 5 回	第 2 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 6 回	第 3 章（1）	不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形
第 7 回	第 3 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 8 回	中間試験	第 1～7 回の内容を確認します。
第 9 回	第 4 章（1）	名詞の 3 格、前置詞と名詞の格
第 10 回	第 4 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 11 回	第 5 章（1）	人称代名詞の 3・4 格、分離動詞、非分離動詞
第 12 回	第 5 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 13 回	第 6 章（1）	話法の助動詞、命令形
第 14 回	期末試験	第 9～13 回の内容を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、宿題および予習・復習を行ってることが必須です。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』
著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり
出版社：朝日出版社
価格：2600円＋税

【参考書】

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものが便利。スマートフォンの辞書アプリは不可。
また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。
書名：『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）
『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（15％）、中間試験（35％）、期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

【Outline and objectives】

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

LANd100LA

ドイツ語ⅡⅡ 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ：読解Ⅱ 2016 年度以前入学者

長澤 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
文 1 年 A～E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】

春学期に引き続き初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期に学んだ内容を復習します。
第 2 回	第 6 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 3 回	第 7 章（1）	3 格・4 格支配の前置詞、並列接続詞
第 4 回	第 7 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 5 回	第 8 章（1）	現在完了形、過去形
第 6 回	第 8 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 7 回	中間試験	第 1～6 回の内容を確認します。
第 8 回	第 9 章（1）	定冠詞類、副文
第 9 回	第 9 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 10 回	第 10 章（1）	比較級と最上級、再帰代名詞と再帰動詞
第 11 回	第 10 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 12 回	第 11 章（1）	形容詞の格変化、非人称表現（es の用法）
第 13 回	第 11 章（2）	前週の内容の定着と応用
第 14 回	期末試験	第 8～13 回の内容を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、宿題および予習・復習を行ってることが必須です。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』
著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり
出版社：朝日出版社
価格：2600円＋税

【参考書】

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものが便利。スマートフォンの辞書アプリは不可。
また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。
『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）
『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（15％）、中間試験（35％）、期末試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

LANd100LA

ドイツ語ⅡⅠ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ：読解Ⅰ

2016 年度以前入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 1 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスでは、現代ドイツでよく引用されたり、パロディー化されている
名言名句、諺や格言などをもとに、基礎ドイツ語を学ぶ。

【到達目標】
。基礎ドイツ語の能力、特に読解力を身につける。
。ドイツ人の価値観、文学や音楽、映画などについて知識を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律
学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部：
DP3

【授業の進め方と方法】
毎回、文法のテーマごとに2～3例文（キーセンテンス）を取り上げて文法
や使い方などを説明する。練習問題は従来のテキストに沿って進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
①	ガイダンス	発音、その他
②	動詞の現在人称変化	<i>Ich denke, also bin ich (hier falsch).</i>
③	名詞の性と格変化	<i>Der Name der Rose</i>
④	定冠詞類と不定冠詞類	<i>Jeder Mensch ist ein Künstler.</i>
⑤	前置詞の格支配	<i>Liebe geht durch den Magen.</i>
⑥	名詞の複数形	<i>Kleider machen Leute.</i>
⑦	中間テスト	①～⑥
⑧	形容詞の格変化	<i>Ein Freund, ein guter Freund, das ist das Beste, was es gibt auf der Welt.</i>
⑨	命令法	<i>Erkenne dich selbst!</i>
⑩	話法の助動詞	<i>Wer nicht hören will, muss fühlen.</i>
⑪	接続詞 (1)	<i>Mit Erstaunen bemerkte Aschenbach, dass der Knabe vollkommen schön war.</i>
⑫	分離動詞	<i>Ilsebill salzte nach.</i>
⑬	復習	⑧～⑬
⑭	試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習が必要。詳細は毎回授業の終了時に指示する。

【テキスト（教科書）】
Keiko Maiwa, Naoko Ohshima: Deutsch auf den Grund gehen
(Kompakt-Kurs)
多くの練習問題で学ぶドイツ語文法 [一年間コース版] 朝日出版社
2,592 円 (本体 2,400 円+税)

【参考書】
独和辞典を持ってきて下さい。電子辞書も可。スマホ操作不可。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 50 %
学期末テスト： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
In this class we learn the basics of German grammar using
memorable proverbs, famous sentences, refrains of popular songs etc.
to become able to read simple texts.

LANd100LA

ドイツ語ⅡⅡ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ：読解Ⅱ

2016 年度以前入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 1 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスでは、現代ドイツでよく引用されたり、パロディー化されている
名言名句、諺や格言などをもとに、基礎ドイツ語を学ぶ。

【到達目標】
。基礎ドイツ語の能力、特に読解力を身につける。
。ドイツ人の価値観、文学や音楽、映画などについて知識を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律
学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部：
DP3

【授業の進め方と方法】
毎回、文法のテーマごとに2～3例文（キーセンテンス）を取り上げて文法
や使い方などを説明する。練習問題は従来のテキストに沿って進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
①	過去	<i>Der Esel schrie, der Hund bellte, der Hahn krächte, die Katze miaute.</i>
②	現在完了	<i>Ich hab mein Herz in Heidelberg verloren.</i>
③	接続詞 (2)	<i>Als Gregor Samsa eines Morgens aus unruhigen Träumen erwachte, (...)</i>
④	zu 不定詞	<i>Es ist nicht genug zu wissen, man muss auch anwenden. Es ist nicht genug zu wollen, man muss auch tun.</i>
⑤	形容詞の比較変化	<i>Schneller, höher, stärker! (Besser?)</i>
⑥	再帰動詞	<i>Wenn zwei sich streiten, freut sich der Dritte.</i>
⑦	中間テスト	①～⑥
⑧	関係文 (1)	<i>Wer den Pfennig ehrt, betet den Taler an.</i>
⑨	関係文 (2)	<i>Den lieb ich, der Unmögliches begehrt.</i>
⑩	受動	<i>Rom ist nicht an einem Tage erbaut worden.</i>
⑪	接続法 (1)	<i>Edel sei der Mensch, hilfreich und gut.</i>
⑫	接続法 (2)	<i>Katzen würden Wiskas kaufen.</i>
⑬	復習	⑧～⑫
⑭	学期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習が必要。詳細は毎回の授業の終了時に指示する。

【テキスト（教科書）】
Keiko Maiwa, Naoko Ohshima: Deutsch auf den Grund gehen
(Kompakt-Kurs)
多くの練習問題で学ぶドイツ語文法 [一年間コース版] 朝日出版社
2,592 円 (本体 2,400 円+税)

【参考書】
独和辞典を持ってきて下さい。電子辞書も可。スマホ操作不可。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 50 %
学期末テスト： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
In this class we learn the basics of German grammar using
memorable proverbs, famous sentences, refrains of popular songs etc.
to become able to read simple texts.

LANd100LA

ドイツ語 2 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 I 2016 年度以前入学者

浦田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
文 1 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を修得する。ドイツ語とはどんな言葉なのかを理解する。

【到達目標】

文法の基礎とそれに関連したドイツ語の文を学習し、ドイツ語を正しく発音し、基本的な表現を口頭で練習し身につけ簡単な内容の事柄をドイツ語で表現できるよう目指す。また、辞書を使い、ドイツ語の文の内容が理解できるようにするなど総合的なドイツ語力を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

アルファベート、発音を学んだ後、テキストの各課に準じてドイツ語のしくみを説明したあと、履修者各自にその課の本文を読んでもらい、意味を確認し、練習問題を解いてもらう。

各課の文法を説明し、CD の発音を聞き、独文を全員で読む。練習問題は、問題を指名した人にやってもらい、全員で音読練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション アルファベート	ドイツ語およびドイツ語圏の紹介。授業の進め方やテキストおよび辞書の説明などを行う。アルファベートの読み方。
2	アルファベートと単語の発音	アルファベートの読み方。単語の発音の原則と注意すべき母音・子音の説明。
3	動詞の形は変わります (1)	主語となる人称代名詞。現在形の形態と用法。
4	動詞の場所は決まっています	定動詞の位置 (1) (平叙文と疑問文)
5	冠詞と名詞の形も変わります	不定冠詞・定冠詞と名詞の性と格変化。2 格の位置、3 格と 4 格の順序。
6	名詞の複数の形・誰・何をあらわすものたち	複数形の種類と格変化・疑問詞 wer と was の用法。
7	母音が変わる動詞があります	語幹の母音が変わる 3 つのパターンと独特な変わり方をする動詞の現在人称変化を覚える。
8	命令の形は 3 種類です・まとめと練習	命令形の作り方と用法・これまでに学んだことの復習と問題練習。
9	冠詞の仲間たち	冠詞と同じような格変化をする定冠詞類や不定冠詞類の形と用法・否定の表現。
10	ich du er などにも 3 格・4 格があります	人称代名詞の格変化と 3 格・4 格の文章における順序。
11	前置詞の相手は決まっています	特定の格と結びつく前置詞の意味と用法 (2 格、3 格、4 格、3・4 格支配)
12	前置詞に関連した事柄	前置詞の融合形と特定の前置詞と結びつく動詞や形容詞を覚える。
13	総復習	春学期で学習した文法項目や各種の表現の復習とこれまでの疑問点の解明。
14	期末試験	文法と読解力のチェックをするための試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に「授業テーマ」や「授業内容」を読み、教科書の該当箇所の情報を得たうえで、これに目を通して疑問点を明確にしておく。また独和辞典を引き、教科書付属の CD で発音練習などもしておく。

【テキスト（教科書）】

「ブーメラン・エルエー」
小野 寿美子・他著 朝日出版社

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を重視すると同時に、毎回の授業への取り組み方、授業中に指名されたときに、問題をきちんと解いたかなどの平常点も加味する。到達目標に達しているかを問う期末試験 80 %、平常点 20 % として、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項についての説明をさらに詳しく行い、履修者による発表や自発的な質問を行えるように徹底する。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the basic German and to understand what the German language is like.

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ：読解Ⅱ 2016 年度以前入学者

浦田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

文 1 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を修得し、文の内容を理解する。ドイツ語の発音に習熟する。春学期の文法項目を復習しながら、複雑になってきた文法を正確に理解する。ドイツ語の文章を読みすすめていく中で、ドイツとその文化への関心を深め、日本と日本文化との違いを認識する。

【到達目標】

文法の基礎とそれに関連したドイツ語の文を学習し、簡単な内容のことならドイツ語で表現できるようにする。ドイツ語を正しく発音し、基本表現を覚え、辞書を用いてドイツ語の文の内容が理解できるようにするなど総合的なドイツ語力を修得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期終了の箇所から順に学んでいく。文法は基礎を反復練習しながら、詳しく説明し、CD の発音を聞き、ドイツ語の文を全員で読む。テキストの本文や練習問題は、問題を指名した人にやってもらい、全員で音読練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期で学習した項目の復習およびプリントによる問題練習。
2	話法の助動詞・未来のこと	話法の助動詞の種類・用法と未来形の種類点および未来形の用法。
3	ふたつに分かれる動詞があります	分離動詞と非分離動詞の用法。枠構造についての説明。
4	形容詞にも語尾がつきます・形容詞は名詞としても使えます	形容詞の格変化の種類と名詞化された形容詞の意味するもの。
5	比較のしかた・動詞も形容詞のように使えます	形容詞および副詞の比較級と最上級の形とその使い方。現在分詞の形態。現在分詞と過去分詞の付加語としての用法。
6	動詞の 3 つの基本となる形	規則変化と不規則変化の過去基本形と過去分詞。
7	完了形には完了の助動詞が必要です	現在完了と過去完了の形態と用法。完了の助動詞は sein か haben か？
8	動詞の過去に気をつけましょう・語順を変える接続詞があります	過去の人称変化と用法について。定動詞の位置に関するまとめ。副文について。
9	もう一人の自分が必要です	再帰代名詞の形態と再帰動詞の用法。再帰動詞の熟語など。
10	zu + 不定詞の用法（1）	zu 不定詞の基本的な構造と用法。英語との相違点。
11	zu + 不定詞の用法（2）	zu 不定詞の注意すべき構造と用法。英語との相違点。
12	関係詞とは	先行詞のある関係代名詞の形と用法・関係詞を用いた文中での定動詞の位置の説明。
13	総復習	秋学期に学んだ項目の確認と練習。
14	期末試験	秋学期で学んだ文法と読解力のチェックのための試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

独和辞典を引き、教科書付属の CD で発音練習をする。前もって「授業テーマ」や「授業内容」に目を通して、教科書の該当箇所の事項についての情報を得たうえで疑問点等を明確にしておく。

【テキスト（教科書）】

「ブーメラン・エルエー」
小野 寿美子・他著 朝日出版社

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を重視すると同時に、毎回の授業に対する取り組み方、授業中に指名されたときに、問題をきちんと解いたかなどの平常点を加味する。到達目標に達しているかを問う期末試験 80 %、平常点 20 % の割合で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項についての説明をさらに詳しく行い、また履修者による発表や自主的な質問などができるように徹底する。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn the basic German and to understand what the German language is like. Moreover, the students who take part in this class read the German sentences and can understand the country "Germany" and its culture.

LANd100LA

ドイツ語 2 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 I 2016 年度以前入学者

オストヴァルト・イェンス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
文 1 年 P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解—文法の練習

基礎的な文法を練習します。

活きたドイツ語の表現・会話も学びます。

また、ドイツの旬な情報や日常を紹介しながら、ドイツの文化について触れます。

【到達目標】

簡単な文章が読めるようになります。

基礎的な文法や口語表現を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な文法をわかりやすく説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	授業についての説明・オリエンテーション	Einführung
②	Lektion 1 人と知り合う - 1 Kontakte 1	規則動詞の人称変化、疑問文
③	②の続き	②の続き
④	Lektion 2 人と知り合う - 2 Kontakte 2	数詞、名詞の性、定冠詞、所有冠詞
⑤	④の続き	④の続き
⑥	Lektion 3 専攻と言語 Studium und Sprache	不規則変化動詞の人称変化、語順、
⑦	総復習 Lektion 4 趣味 Hobbys	総復習 否定文
⑧	Lektion 4 趣味 Hobbys	否定文
⑨	Lektion 5 食事 Essen und Trinken	並列接続詞、前置詞
⑩	⑨の続き	⑨の続き
⑪	Lektion 6 家族と職業 Familie und Berufe	複数形、形容詞
⑫	Lektion 7 持ち物 Gegenstände	代名詞の格変化、形容詞
⑬	総復習および予備日 Wiederholung	総復習
⑭	試験日 Prüfung	試験日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・復習

【テキスト（教科書）】

佐藤修子 「スツェーネン 1」 「場面で学ぶドイツ語」

三修社

他、別途配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%

小テスト 20%

宿題 10%

平常点 20%

（単位認定の条件は、原則として4分の3以上の出席。）

【学生の意見等からの気づき】

教科書に沿った授業の進め方ではなく、受講生にあわせて配布プリントを活用する。

【Outline and objectives】

German language course for beginners;

basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life;

introduction to German culture.

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ：読解Ⅱ

2016 年度以前入学者

オストヴァルト・イェンス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

文 1 年 P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、ドイツ語の基本知識を学習します。秋学期は、簡単な文章が読める程度の文法知識の習得を目指します。

【到達目標】

簡単な文章が読めるようになります。
基礎的な文法や口語表現を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な文法をわかりやすく説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	Wiederholung
②	Lektion 8 住居 Wohnen	前置詞、所有冠詞
③	②の続き	②の続き
④	Lektion 9 時刻と日付 Uhrzeit und Datum	前置詞、分離動詞
⑤	Lektion 9 時刻と日付 Uhrzeit und Datum Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende	前置詞、分離動詞 現在完了形、過去形
⑥	Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende	現在完了形、過去形
⑦	Lektion 11 街と大学 Stadt und Universität	命令形、前置詞
⑧	Lektion 11 街と大学 Stadt und Universität 復習 Wiederholung	命令形、前置詞 復習
⑨	Lektion 12 休暇の前 Vor der Ferien	話法の助動詞、前置詞
⑩	⑨の続き	⑨の続き
⑪	文法のまとめ・補足	文法のまとめ・補足
⑫	⑪の続き	⑪の続き
⑬	総復習および予備日 Wiederholung	総復習および予備日
⑭	試験日 Prüfung	試験日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・復習

【テキスト（教科書）】

佐藤修子『スツェーネン 1 場面ですドイツ語』三修社
他、別途配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %
小テスト 20 %
宿題 10 %
平常点 20 %
（単位認定の条件は、原則として4分の3以上の出席。）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に順じてプログラムを変更することもあります

【Outline and objectives】

German language course for beginners;
basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life;
introduction to German culture.

LANd100LA

ドイツ語 2 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 I 2016 年度以前入学者

春日 正男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
文 1 年 T~W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の文法を学んだあとで、文法事項にあった適度の長さの文章を読んでゆくこと。
それによってドイツ語になれてゆくこと。
文法知識の確認。

【到達目標】

辞書を引きながらある程度のドイツ語文を理解できるようになること。そのドイツ語を正しく発音できるようになること。
ドイツ及びドイツ語圏の国々について、ある程度の知識を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語を音に出して正確に読めること。正しい日本語に訳せることを目指します。
毎回自発的に発表してもらいます。
かならず予習をしてくるように。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の進め方と学生の心構えについて。
②	Ueberall in Deutschland finden wir heute Manga-Shops.	規則動詞
③	Japaner lieben Europa.	動詞の位置
④	Auch Wein ist in Deutschland beliebt.	sein と haben
⑤	Die Deutschen trinken gern Bier.	名詞の性と数
⑥	Berlin ist die Hauptstadt Deutschlands.	冠詞の格変化
⑦	Die Stadt hat 3,5 Millionen Einwohner.	名詞の格変化
⑧	Die Kultur in Europa ist sehr vielfaeltig.	不規則変化動詞
⑨	Viele EU-Laender haben den Euro als Waehrung.	命令形
⑩	Manche Studenten machen auch ein Praktikum.	定冠詞類
⑪	Nicht nur in Japan, sondern auch in Deutschland jobben die Studenten.	不定冠詞類
⑫	Am Morgen gehen die Leute vor der Arbeit zur Baeckerei.	人称代名詞
⑬	Brot ist in Deutschland Grundnahrungsmittel.	前置詞
⑭	春学期の理解度確認	どれくらいドイツ語を理解できているか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と辞書は必ず持ってくること。
予習を欠かさないこと。

【テキスト（教科書）】

DVD 『わかるぞドイツ語！ みえるぞドイツ！』 春日正男&松澤淳著
2014 年 朝日出版社 2500 円

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業中での自発的な発表 50%、小試験 20%、学年末試験 30%。

【学生の意見等からの気づき】

授業前に予習をしない学生が年毎に増えていることは嘆かわしい。大学は自ら進んで学ぶところであることを心に留めておいて欲しい。

【その他の重要事項】

実際の授業は教師と学生のコミュニケーションによって進められますので、クラスによって進度も形態も異なってきます。シラバスはあくまでも単なる目安に過ぎないことを心得ていてください。

【Outline and objectives】

Welcome to this class!

You can go to the world of German language through this class.

You must learn earnestly, then you can get the basis of German language.

Let's go!

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 II

2016 年度以前入学者

春日 正男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
文 1 年 T~W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、ドイツ語の文法を学んだあとで、文法事項にあった適度の長さの文章を読んでゆくこと。
それによってドイツ語になれてゆくこと。
文法知識の確認。

【到達目標】

辞書を引きながらある程度のドイツ語文を理解できるようになること。そのドイツ語を正しく発音できるようになること。
ドイツ及びドイツ語圏の国々について、ある程度の知識を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語を音に出して正確に読めること。正しい日本語に訳せることを目指します。
毎回自発的に発表してもらいます。
かならず予習をしてくるように。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	春学期の復習と秋学期の進捗について
②	Er moechte in die Tuerkei fahren.	話法の助動詞
③	Die Straende sind sehr schoen sein.	定動詞後置
④	Das Oktoberfest findet in Muenchen statt.	分離動詞
⑤	Muenchen liegt in Sueddeutschland.	再帰動詞
⑥	Die viele Gaeste kommen aus der ganzen Welt.	形容詞の格変化
⑦	Das Oktoberfest ist ein international bekanntes Bierfest.	形容詞の名詞化
⑧	Er war in einem Fussballverein.	動詞の三基本形
⑨	Sein Lieblingsteam ist Borussia Dortmund.	過去人称変化
⑩	Manche Studenten machen auch ein Praktikum.	定冠詞類
⑪	Viele Staedte haben eine strenge Muelltrennung einfuehrt.	完了形
⑫	Einkaufen im Biomarkt.	関係代名詞
⑬	Weihnachten	比較と受動
⑭	秋学期の理解度確認	どれくらいドイツ語を理解できているか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と辞書は必ず持ってくること。
予習を欠かさないこと。

【テキスト（教科書）】

『DVD わかるぞドイツ語！ みえるぞドイツ！』 春日正男&松澤淳著
2014 年 朝日出版社 2500 円

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業中での自発的な発表 50%、小試験 20%、学年末試験 30%。

【学生の意見等からの気づき】

授業前に予習をしない学生が年毎に増えていることは嘆かわしい。大学は自ら進んで学ぶところであることを心に留めておいて欲しい。

【その他の重要事項】

実際の授業は教師と学生のコミュニケーションによって進められますので、クラスによって進度も形態も異なってきます。シラバスはあくまでも単なる目安に過ぎないことを心得ていてください。

【Outline and objectives】

Welcome to this class!

you can go to the world of German language through this class.

You must learn earnestly, then you can get the basis of German language.

Let's go!

LANd100LA

ドイツ語 2 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 I 2016 年度以前入学者

岡本 雅克

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
営 1 年 A・B

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、推理小説仕立ての読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と、両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】

接続法までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）4、3 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 13 課からなり、各課とも文法、練習問題、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、読章を読む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット
2	発音	発音の原則、母音の発音、子音の発音
3	Lektion 1	人称代名詞／動詞の現在人称変化（規則変化）／定動詞の位置／sein の現在人称変化
4	Lektion 1	読章（探偵ハルトマン）
5	Lektion 2	名詞の性／定冠詞と不定冠詞／名詞の格変化／haben と werden の現在人称変化
6	Lektion 2	読章（ドイツ博物館）
7	Lektion 3	名詞の複数形／複数名詞の格変化／男性弱変化名詞／動詞の現在人称変化（不規則変化）／命令形
8	Lektion 3	読章（2 つのバイオリン）
9	Lektion 4	人称代名詞の 3 格と 4 格／疑問代名詞／前置詞の格変化（1）／前置詞の格変化（2）／前置詞と定冠詞の融合形
10	Lektion 4	読章（辻音楽師）
11	Lektion 5	定冠詞類（dieser 型）／不定冠詞類（mein 型）／否定冠詞 kein と nicht／否定疑問文への答え方
12	Lektion 5	読章（バイオリンコンサート）
13	Lektion 6	分離動詞／非分離動詞／従属接続詞と副文
14	Lektion 6	読章（楽屋の前で）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】

萩野 蔵平、Andrea Raab『ミステリアスなドイツ文法』（朝日出版社）ISBN4255252874 ¥2,300

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を 60 %、平常点を 40 % の合計点で評価する。平常点は、読章の和訳、練習問題に的確に解答すること、あるいは、しっかり予習してきた形跡が認められることを標準とする。全時間の 3 分の 2 以上の出席が、期末試験を受験するための条件である。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【Outline and objectives】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

ドイツ語ⅡⅡ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ：読解Ⅱ

2016 年度以前入学者

岡本 雅克

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
営 1 年 A・B

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、推理小説仕立ての読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】
接続法までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）4、3 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で行う。使用する教科書は 13 課からなり、各課とも文法、練習問題、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、読章を読む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lektion 7	語法の助動詞／未来の助動詞 werden
2	Lektion 7	読章（芸術品略奪）
3	Lektion 8	形容詞の格変化／比較変化
4	Lektion 8	読章（手がかり探し）
5	Lektion 9	再帰代名詞／再帰動詞／ zu 不定詞／非人称 es の用法
6	Lektion 9	読章（ガスタイクのホールで）
7	Lektion 10	動詞の三基本形／過去人称変化／年号
8	Lektion 10	読章（告白）
9	Lektion 11	現在完了形／受動態／状態受動
10	Lektion 11	読章（手がかりはクルトに通ず）
11	Lektion 12	関係代名詞／不定関係代名詞 wer と was ／指示代名詞
12	Lektion 12	読章（クルトが打ち明ける）
13	Lektion 13	接続法第 1 式 ―間接話法― ／接続法第 2 式（1） ―非現実話法― ／接続法第 2 式（2） ―外交的接続法―
14	Lektion 13	読章（その後の話）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
荻野 蔵平、Andrea Raab『ミステリアスなドイツ文法』（朝日出版社）ISBN4255252874¥2,300

【参考書】
その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点を 60 %、平常点を 40 %の合計点で評価する。平常点は、読章の和訳、練習問題に的確に解答すること、あるいは、しっかり予習してきた形跡が認められることを標準とする。全時間の 3 分の 2 以上の出席が、期末試験を受験するための条件である。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【Outline and objectives】
In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.

LANd100LA

ドイツ語ⅡⅠ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語Ⅱ：読解Ⅰ

2016 年度以前入学者

渡辺 広佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
営 1 年 C～J・L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級ドイツ語を学ぶ（その前半）

【到達目標】
ドイツ語の発音と基礎的表現を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
初級ドイツ語を「読み、話し、聞く」の 3 つの面から総合的に学習する。ローテンブルク出身の 3 人の若者の日常を通し、現在のドイツの若者を取り巻く up-to-date なトピックにも触れたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	発音 自己紹介、授業の進め方など、授業環境（雰囲気）を整える
第 2 回	発音	発音のつづき
第 3 回	発音	数詞、四季、月、曜日、挨拶表現など
第 4 回	Lektion1 レーナを知ってる？	動詞の現在人称変化など
第 5 回	Lektion1 のつづき	ローテンブルクについて、など
第 6 回	Lektion2 ボールペン持ってる？	名詞の性、冠詞、格など
第 7 回	Lektion2 のつづき	教育制度など
第 8 回	Lektion3 ボール持ってる？	複数形など
第 9 回	Lektion3 のつづき	ドイツのスポーツなど
第 10 回	Lektion4 フライドポテトをもってくよ	不規則動詞、命令など
第 11 回	Lektion4 のつづき	ドイツのファストフードなど
第 12 回	Lektion5 町へ行くんだ	前置詞など
第 13 回	Lektion5 のつづき	ドイツの社交など
第 14 回	試験	春学期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
くりかえし音読してから、予習・復習すること。

【テキスト（教科書）】
荻野／Raab／石井『ぼくらの未来』朝日出版社

【参考書】
特になし。必要とあれば、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。学期 4 回欠席した者は原則として評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
とくに変更しなければならないような指摘はないので、従来どおりおこなうが、要望があれば、アンケートを待たないで、その都度提案するように。

【Outline and objectives】
Beginner's course German(the first half).

LANd100LA

ドイツ語 2 II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 II 2016 年度以前入学者

渡辺 広佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
営 1 年 C～J・L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級ドイツ語を学ぶ（その後半）

【到達目標】
ドイツ語の発音と基礎的表現を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
初級ドイツ語を「読み、話し、聞く」の3つの面から総合的に学習する。ローテンブルク出身の3人の若者の日常を通し、現在のドイツの若者を取り巻く up-to-date なトピックにも触れたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	後期オリエンテーション Lektion6、君の携帯、壊れていないよ	冠詞類など
第2回	Lektion6 のつづき	ドイツの携帯電話事情など
第3回	Lektion7 パーティは8時に始まる	分離動詞、副文など
第4回	Lektion8 レストランではタバコをすってはいけない	語法の助動詞、未来形など
第5回	Lektion8 のつづき	ドイツのタバコ、アルコール事情など
第6回	Lektion9 旅行は良かった？	動詞の三基本形、過去形など
第7回	Lektion9 のつづき	ドイツの休暇など
第8回	Lektion10 2 8 時間でとったわ	完了形、非人称の es、時刻など
第9回	Lektion10 のつづき	運転免許など
第10回	Lektion11 家賃が高いんじゃない？	形容詞など
第11回	Lektion11 のつづき	ハウスシェアなど
第12回	Lektion12 子供の世話が好きな	受動態、再帰代名詞、再帰動詞など
第13回	Lektion12 のつづき	ドイツの大学制度など
第14回	試験	秋学期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
くりかえし音読してから、予習・復習すること。

【テキスト（教科書）】
荻野／Raab／石井『ぼくらの未来』朝日出版社

【参考書】
特になし。必要とあれば、その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。学期 4 回欠席した者は原則として評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
とくに変更しなければならないような指摘はないので、従来どおりおこなうが、要望があれば、アンケートを待たないで、その都度提案するように。

【Outline and objectives】
Beginner's course German(the second half).

LANd100LA

ドイツ語 2 I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 I 2016 年度以前入学者

春日 正男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
営 1 年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の文法を学んだあとで、文法事項にあった適度の長さの文章を読んでゆくこと。
それによってドイツ語になれてゆくこと。
文法知識の確認。

【到達目標】
辞書を引ながらある程度のドイツ語文を理解できるようになること。そのドイツ語を正しく発音できるようになること。
ドイツ及びドイツ語圏の国々について、ある程度の知識を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
ドイツ語を音に出して正確に読めること。正しい日本語に訳せることを目指します。
毎回自発的に発表してもらいます。
かならず予習をしてくるように。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の進め方と学生の心構えについて。
②	Ueberall in Deutschland finden wir heute Manga-Shops.	規則動詞
③	Japaner lieben Europa.	動詞の位置
④	Auch Wein ist in Deutschland beliebt.	sein と haben
⑤	Die Deutschen trinken gern Bier.	名詞の性と数
⑥	Berlin ist die Hauptstadt Deutschlands.	冠詞の格変化
⑦	Die Stadt hat 3,5 Millionen Einwohner.	名詞の格変化
⑧	Die Kultur in Europa ist sehr vielfaeltig.	不規則変化動詞
⑨	Viele EU-Laender haben den Euro als Waehrung.	命令形
⑩	Manche Studenten machen auch ein Praktikum.	定冠詞類
⑪	Nicht nur in Japan, sondern auch in Deutschland jobben die Studenten.	不定冠詞類
⑫	Am Morgen gehen die Leute vor der Arbeit zur Baeckerei.	人称代名詞
⑬	Brot ist in Deutschland Grundnahrungsmittel.	前置詞
⑭	春学期の理解度確認	どれくらいドイツ語を理解できているか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書と辞書は必ず持ってくること。
予習を欠かさないこと。

【テキスト（教科書）】
DVD 『わかるぞドイツ語！ みえるぞドイツ！』 春日正男&松澤淳著
2014 年 朝日出版社 2500 円

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業中での自発的な発表 50%、小試験 20%、学年末試験 30%。

【学生の意見等からの気づき】

授業前に予習をしない学生が年毎に増えていることは嘆かわしい。大学は自ら進んで学ぶところであることを心に留めておいて欲しい。

【その他の重要事項】

実際の授業は教師と学生のコミュニケーションによって進められますので、クラスによって進度も形態も異なってきます。シラバスはあくまでも単なる目安に過ぎないことを心得ていてください。

【Outline and objectives】

Welcome to this class!

You can go to the world of German language through this class.

You must learn earnestly, then you can get the basis of German language.

Let's go!

LANd100LA

ドイツ語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 Ⅱ：読解 Ⅱ

2016 年度以前入学者

春日 正男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

営 1 年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、ドイツ語の文法を学んだあとで、文法事項にあった適度の長さの文章を読んでゆくこと。
それによってドイツ語になれてゆくこと。
文法知識の確認。

【到達目標】

辞書を引ながらある程度のドイツ語文を理解できるようになること。そのドイツ語を正しく発音できるようになること。
ドイツ及びドイツ語圏の国々について、ある程度の知識を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語を音に出して正確に読めること。正しい日本語に訳せることを目指します。
毎回自発的に発表してもらいます。
かならず予習をしてくるように。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	春学期の復習と秋学期の進度について
②	Er moechte in die Tuerkei fahren.	話法の助動詞
③	Die Straende sind sehr schoen sein.	定動詞後置
④	Das Oktoberfest findet in Muenchen statt.	分離動詞
⑤	Muenchen liegt in Sueddeutschland.	再帰動詞
⑥	Die viele Gaeste kommen aus der ganzen Welt.	形容詞の格変化
⑦	Das Oktoberfest ist ein international bekanntes Bierfest.	形容詞の名詞化
⑧	Er war in einem Fussballverein.	動詞の三基本形
⑨	Sein Lieblingsteam ist Borussia Dortmund.	過去人称変化
⑩	Manche Studenten machen auch ein Praktikum.	定冠詞類
⑪	Viele Staedte haben eine strenge Muelltrennung einfuehrt.	完了形
⑫	Einkaufen im Biomarkt.	関係代名詞
⑬	Weihnachten	比較と受動
⑭	秋学期の理解度確認	どれくらいドイツ語を理解できているか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と辞書は必ず持ってくること。
予習を欠かさないこと。

【テキスト（教科書）】

『DVD わかるぞドイツ語！ みえるぞドイツ！』 春日正男&松澤淳著
2014 年 朝日出版社 2500 円

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業中での自発的な発表 50%、小試験 20%、学年末試験 30%。

【学生の意見等からの気づき】

授業前に予習をしない学生が年毎に増えていることは嘆かわしい。大学は自ら進んで学ぶところであることを心に留めておいて欲しい。

【その他の重要事項】

実際の授業は教師と学生のコミュニケーションによって進められますので、クラスによって進度も形態も異なってきます。シラバスはあくまでも単なる目安に過ぎないことを心得ていてください。

【Outline and objectives】

Welcome to this class!

you can go to the world of German language through this class.

You must learn earnestly, then you can get the basis of German language.

Let's go!

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 I

2016 年度以前入学者

天沼 春樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

営 1 年 Q・R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の文法をひととおり確認しつつ、適度の文章を読んでゆくことによってドイツ語運用になれていくことをめざします。さらに、文法知識の確認しながら、読解の助けにしていきます。テキストは **Deutschland wie es ist, ASAHI VERLAG(Masao Kasuga,Jun Matsuzawa)** リーダー部分が受講者にとってやさしいばあいには、能力に応じてプリントで読解問題は配布します。

【到達目標】

辞書を引き、ある程度のドイツ語文章を理解できるようになること。そのドイツ語を正しく発音できるようになること。ドイツ語圏の国々やその文化・経済・政治などについても、ある程度の知識を身に付けること。または、その関心を高めること。

To draw a dictionary and to understand some degree of German sentences. Being able to pronounce that German correctly. To acquire a certain level of knowledge about German-speaking countries and their culture, economy, politics and others. Or, raise that interest.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法演習と簡単な訳読講義。ドイツ文化圏の情報ソースの提示。画像・動画も利用する。

Reading exercises and lectures. Presentation of information source in German cultural area. Also use images and movies.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 ガイダンス	講義内容と学生の指導方針を解説。	講義の進め方と、ドイツ語をどうまなぶか、適切な指導方針を告げる。
2 規則動詞 1	初級から中級のドイツ語	動詞の過去形以前までの学習をします。
3 規則動詞と位置 2	初級から中級のドイツ語	動詞の現在人称変化など基本の復習
4 定冠詞類 3	初級から中級のドイツ語	名詞と冠詞の性
5 不定冠詞類 4	初級から中級のドイツ語	名詞と性 冠詞
6 不規則動詞 1	初級からの中級ドイツ語	冠詞類と例文
7 不規則動詞 2	前置詞をつかった中級文章	配布プリント教材で簡単な訳読演習を行う。
8i 人称代名詞	形容詞の格語尾 比較級・最上級を用いた中級文章	格支配と例文復習
9	前期はテキスト第 7 課までを目標とする。以後は習熟のための練習・リーディングを行う。	教材訳読 適宜プリントを配布する
10	同上	教材訳読
11	同上	適宜プリントを配布する 教材訳読
12	同上	適宜プリントを配布する
13	総復習	文章を丁寧に読んでいく。教材訳読
14 前記試験	ドイツ語の既読文章と初読文章のふたつを訳読する。簡単な文法問題。	文章を丁寧に読んでいく。教材訳読 辞書使用可のペーパー試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたテキストの予習。

【テキスト（教科書）】

Deutschland wie es ist, ASAHI VERLAG(Masao Kasuga,Jun Matsuzawa)

DVD わかるぞドイツ語! みえるぞドイツ語! 朝日出版社。この本文の読解が基本ベースになります。講義ではそのうえの中級ベースのプリント教材も配布活用していきます。

【参考書】

独和辞書は必携。講義内でも使用します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験および、平常授業時の発表／小テスト／提出課題を総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理解しない学生を残したまま進行せず、そのつど確認していく。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書（電子辞書も可）

【その他の重要事項】

出席重視。やむなく欠席する場合は事前・事後に、申し出て補うこと。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

After studying German grammar, we aim to make the students become German by reading moderate sentences. Furthermore, while reading grammar knowledge, it improves reading comprehension ability.

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2：読解 II

2016 年度以前入学者

天沼 春樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
営 1 年 Q・R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の初級程度の文法・訳読テキストを使い、同時にドイツ語圏の文化・歴史・政治・社会への関心や知識もふかめていく。

【到達目標】

ドイツ語の読解・運用能力を養う。ドイツを中心としたヨーロッパ世界への知識と関心を高めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法・訳読練習と教員による解説・講義。また映像・図版による資料の提示もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	訳読と理解 1 教材 8 課 分離動詞・再帰動詞	特殊な用法の動詞の説明
第 2 回	訳読と理解 2 教材 8 課 es の用法と例文	多用される便利な表現
第 3 回	訳読と理解 3 教材 9 課 形容詞の格変化	日本人にはややこしい形容詞の各語尾をゆっくりていねいに解説する。
第 4 回	訳読と理解 4 教材 9 課 形容詞の名詞化	大文字かすれば名詞に早変わり。
第 5 回	訳読と理解 5 教材 10 課 動詞の三基本形	不定詞・過去基本形・過去分詞。表現の幅がひろがる。
第 6 回	訳読と理解 6 教材 10 課 過去人称変化	過去形にも人称変化？ しかし。それほどむずかしくはない。
第 7 回	訳読と理解 7 教材 11 課 完了形	ドイツ語には完了形が 2 パターンあるのが特徴。
第 8 回	時事的現代文 1 教材 12 課 関係代名詞 1	関係文はなれるが勝ち。構文構造は単純です
第 9 回	時事的現代文 2 教材 13 課 関係代名詞 2	同上
第 10 回	時事的現代文 3 教材 14 課 比較・現在分詞 zu 不定詞	ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)
第 11 回	時事的現代文 4 教材 15 課 受動	ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)
第 12 回	時事的現代文 5 接続法 1	ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)
第 13 回	時事的現代文 6 接続法 2	ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)
第 14 回	期末読解。訳読試験。	後期の配布テキストより出題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットなどでドイツの情報サイトを検索してみる。

【テキスト（教科書）】

Deutschland,wie es ist.Masao Kasuga,Jun Matsuzawa,ASAHI VERLAG

【参考書】

Spiegel や ZEIT などのネット記事情報。(授業時に細かく指示します)

【成績評価の方法と基準】

平常点および筆記試験。

【学生の意見等からの気づき】

予習などの平常点として各自のノートも授業内に評価する時間も学期末にもうけます。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書（電子辞書可）

【その他の重要事項】

出席重視とします。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline and objectives】

ドイツ文法の過去形以後、関係文章まで基本的なドイツ文を読む文法事項を教えながら、前期とおなじテキストの後半部のリーダーでドイツの社会や文化事情も教えて食い。

LANd100LA

ドイツ語（1）Ⅰ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語（1）Ⅰ

2016 年度以前入学者

高橋 憲子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語文法の基礎を学びます。言語ばかりでなく、これを話す人々のライフスタイルにも触れ、自身の言語やものの見方との違いも考えていくことになるでしょう。

【到達目標】

基礎的なドイツ語の文を読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回あてていきます。たくさんの練習をして、理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	発音	説明と練習
2	動詞の現在形	説明と練習
3	不規則動詞	説明と練習
4	名詞の性	説明と練習
5	名詞の格	説明と練習
6	不定冠詞類	説明と練習
7	命令の表現	説明と練習
8	定冠詞類	説明と練習
9	人称代名詞	説明と練習
10	疑問詞	説明と練習
11	前置詞	説明と練習
12	話法の助動詞	説明と練習
13	分離動詞	説明と練習
14	非分離動詞	説明と練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。

【テキスト（教科書）】

シュトラッセ・ノイ Ver.3.0
Gesine Goessner 他著 朝日出版社 2400 円

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果（90 %）を中心に、宿題の提出状況等（10 %）も含め、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

We learn the outline of German grammar.

LANd100LA

ドイツ語 (1) II2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 (1) II2016 年度以前入学者

高橋 憲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の基本を学びます。言語ばかりでなく、これを話して生きている人達のライフスタイルにも触れ、自身の言語や物の見方との違いについても考えていくことになるでしょう。

【到達目標】
基本的なドイツ語の文を読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回あてていきます。たくさんの練習によって理解度を確認しながら進みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	動詞の 3 基本形	説明と練習
2	現在完了	説明と練習
3	過去	説明と練習
4	接続詞	説明と練習
5	受動態	説明と練習
6	非人称	説明と練習
7	zu 不定詞	説明と練習
8	形容詞の語尾	説明と練習
9	比較級	説明と練習
10	再帰表現	説明と練習
11	指示代名詞	説明と練習
12	関係代名詞	説明と練習
13	接続法Ⅱ式	説明と練習
14	接続法Ⅰ式	説明と練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題を出します。

【テキスト（教科書）】
「シュトラッセ・ノイ」 Ver.3.0 Gesine Goessner 他著 朝日出版社 2400 円

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果（90 %）を中心に、宿題の提出状況等（10 %）も含め、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
We learn the outline of German grammar.

LANd100LA

ドイツ語 (2) I2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 (2) I2016 年度以前入学者

遠藤 浩介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では初学者を対象としてドイツ語の発音や簡単な文章表現、簡単な日常会話といったドイツ語の基礎を学びます。またドイツ語学習を通じて外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】
・ドイツ語の発音の規則、簡単な会話、簡単な文章表現といったドイツ語の基礎を習得する。
・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。
・自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】
ドイツ語（1）で学んだ内容を補足する形式で進めます。新出単語や例文を繰り返し発音練習し、その後は会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容を確認していきます。必要に応じて担当教員が教科書に沿って文法解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／ドイツ語の発音について	授業の進め方の説明／アルファベットの発音／ドイツ語圏について
2	Lektion 1	単語の綴り方と発音／挨拶をする
3	Lektion 1	自己紹介をする（1）出身地や居住地を説明する／動詞の現在人称変化（1）1・2 人称
4	Lektion 2	自己紹介をする（2）職業を説明する
5	Lektion 2	自己紹介をする（3）国籍を説明する／動詞の現在人称変化（2）3 人称
6	Lektion 3	持ち物を説明する／1 格の名詞の性／定冠詞・不定冠詞・否定冠詞
7	Lektion 3	数字を数える／名詞の複数形
8	Lektion 4	レストランで注文をする（1）
9	Lektion 4	レストランで注文をする（2）／4 格の不定冠詞と否定冠詞
10	Lektion 5	自分の家族を紹介する（1）
11	Lektion 5	自分の家族を紹介する（2）／所有冠詞と人称代名詞（1）
12	Lektion 6	自分の趣味を説明する
13	Lektion 7	人を誘う／不規則変化動詞
14	まとめ	達成度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習では次回扱う箇所について音声聞き、声に出して読んでくること。復習では課題を用意するので解いてくること。

【テキスト（教科書）】
新倉真矢子／亀ヶ谷昌秀／正木晶子／中野有希子（2015 年）『ゲナウ！ コミュニケーションのドイツ語 ノイ』第三書房。

【参考書】
辞書については初回授業時にお話します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（ペアワーク・グループワーク含む授業への積極的な参加・小テストの結果）：60 %
期末テスト：40 %
※ ただし期末テストが 50 点未満の場合には平常点にかかわらず単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
辞書類を毎回もってくること。

【その他の重要事項】
内容や順序は受講者の理解度に応じて変更されることがあります。

【Outline and objectives】

This course aims to acquire the basic knowledge of the German language by learning pronunciation, basic grammar and basic conversation. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

ドイツ語（2）Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語（2）Ⅱ

2016 年度以前入学者

遠藤 浩介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では夏学期に引き続き、初学者を対象としてドイツ語の発音や初級文法、簡単な文章表現、簡単な日常会話といったドイツ語の基礎を学びます。またドイツ語学習を通じて外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】

- ・ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現といったドイツ語の基礎知識を習得する。
- ・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。
- ・自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

ドイツ語（1）で学んだ内容を補足する形式で進めます。担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夏学期の復習	動詞の現在人称変化／名詞と人称代名詞・定冠詞類・不定冠詞類の格変化
2	Lektion 7	休暇の予定を言う
3	Lektion 7	話法の助動詞
4	Lektion 8	贈り物をする／3 格について
5	Lektion 8	洋服を買う／3 格支配の前置詞
6	Lektion 9	場所や位置を説明する
7	Lektion 9	行き先を説明する／3・4 格支配の前置詞
8	Lektion 10	一日の行動を説明する／分離動詞／zu 不定詞句
9	Lektion 10	時刻を言う／再帰代名詞
10	Lektion 11	身体の状態を説明する
11	Lektion 11	昔のことを話す／過去形と現在完了形
12	Lektion 12	天気の話をする／形容詞の比較級と最上級／非人称表現
13	Lektion 12	天気の話をする／従属の接続詞
14	まとめ	達成度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習では次回扱う箇所について音声聞き、声に出して読んでくること。復習では課題を用意するので聞いてくること。

【テキスト（教科書）】

新倉真矢子／亀ヶ谷昌秀／正木晶子／中野有希子（2015 年）『ゲナウ！ コミュニケーションのドイツ語 ノイ』第三書房。

【参考書】

辞書については初回授業時にお話します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ペアワーク・グループワーク含む授業への積極的な参加・小テストの結果）： 60 %
期末テスト： 40 %
※ ただし期末テストが 50 点未満の場合には平常点にかかわらず単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

辞書類を毎回もってくること。

【その他の重要事項】

内容や順序は受講者の理解度に応じて変更されることがあります。

【Outline and objectives】

This course aims to acquire the basic knowledge of the German language by learning pronunciation, basic grammar and basic conversation. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

ドイツ語 1

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1

2016 年度以前入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングです。SA ドイツ語圏での留学準備として、この「ドイツ語 1」と「ドイツ語 3」（秋学期開講）とあわせて、初級文法の基礎固めをします。基本的なドイツ語運用能力の習得を目指すとともに、ドイツ語のテキストの読解にも徐々に慣れていきましょう。ドイツ語学習を通して「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読むとともに、自らもドイツ語で少しずつアウトプット（作文）ができるようになることです。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を常にふり返ることのできる（反省能力のある）学習者になることです。1 年次のうちに「自分の学び方」を意識するクセをつけましょう。そして第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発音とあいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベットと発音の規則 1、
2	Lektion1A：発音の規則、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？ あいさつの表現
3	Lektion1A：発音の規則、動詞の現在人称変化（1）、定動詞と不定詞（1）	自己紹介（1）、苗字と名前、不定詞と動詞の現在人称変化、数詞
4	Lektion1B：発音の規則、動詞の現在人称変化（2）、定動詞と不定詞（2）、定動詞の位置と語順（1）	自己紹介（2）、自分の職業を言う
5	Lektion2A：名詞の性と格（1）	相手をお茶に誘う、自分の予定を説明する（1）
6	Lektion2B：名詞の性と格（2）、「否定冠詞と所有冠詞」（1）	自分の家族について話す（1）
7	Lektion2B：否定冠詞と所有冠詞（2）、ja/nein/doch の使い方	自分の家族について話す（2）
8	Lektion3A：語幹が変音する動詞の現在人称変化（1）	自分が今やっていることを説明する、人を招待する（1）
9	Lektion3A：語幹が変音する動詞の現在人称変化（2）、3 格目的語の使い方	自分が今やっていることを説明する、人を招待する（2）
10	Lektion3B：定冠詞類（1）、人称代名詞の 3・4 格（1）	旅行の計画をたてる（1）
11	Lektion3B：人称代名詞の 3・4 格、目的語の語順	旅行の計画をたてる（2）
12	Lektion4A：前置詞（1）	友人と旅行をする、地図をみる、空間の位置関係を人に説明する（1）

13	Lektion4A ：前置詞（2）	友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係や時間の経過を人に説明する（2）
14	まとめ	学期末最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。ドイツ語の文・文章はどれも必ず音読しましょう。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）
羽鳥重雄・平塚久裕編『[[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）

【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加 30 %、小テスト（単語テスト）40 %、学期末試験 30 % を合わせ、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典は必携です。紙媒体の辞書を用いること（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】

授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

【Outline and objectives】

German course for absolute Beginners, exclusively for Participants of the SA-Program in Germany (Leuphana Universität-Lüneburg) held by the Faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

LANd100LA

ドイツ語 3

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 3

2016 年度以前入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 曜日・時限：火 1/Tue.1
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語 1」に引き続き、初級文法の理解・習得を中心にドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングを行います。SA ドイツ語圏での留学準備に重点を置き、ドイツ語圏の多様性にも触れながら、ドイツ語圏の滞在に必要な基礎的ドイツ語運用能力の習得を目指します。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読み、また自らドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。「ドイツ語 1」の学習項目を積み上げながら、自分の触れているドイツ語が、どのようなシーンで活用されるのかを実感してもらいたいと思います。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。ぜひ 1 年次のうちに、自身の学びかたそのものを意識するクセをつけましょう。第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）とその発音練習・会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、小テスト	春学期の復習、既習事項の小テスト
2	Lektion4A:前置詞 （3）	友人と旅行をする、地図を観る、「移動先を示す」ことと「位置・場所を示す」ことの違いを理解する
3	Lektion4B ：梓構造と話法の助動詞、話法の助動詞の種類について	ドイツ語の基本的な発想を理解する（1）、話法の助動詞を使う、そのコロを理解する
4	Lektion4B ：複合動詞（分離動詞・非分離動詞）、「前つづり」の意味	ドイツ語の基本的な発想を理解する（2）、分離動詞の基本的な構文
5	Lektion5A ：動詞の 3 基本形、現在完了形（1）	夏休みには何をしたの？（1）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（3）
6	Lektion5A/B ：現在完了形（2）、過去時制と過去人称変化	夏休みには何をしたの？（2）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（4）
7	Lektion5B ：過去時制と現在完了形の使い分け、ふたつの接続詞、従属接続詞と副文	過去の出来事を説明する、定動詞の位置と主文・副文の関係
8	Lektion6A ：受動態（1）	誕生日という大切な日について（1）、なんで受動態にしなきゃいけないの？ドイツ語の基本的な発想を理解する
9	Lektion6A ：受動態（2）	誕生日という大切な日について（2）、状態受動の意味
10	Lektion6B ：zu 不定詞と zu 不定詞句	天候の表現、品詞を理解して文を作る（1）
11	Lektion7A ：形容詞の使い方、形容詞の付加語的用法	ショッピングに出かけよう（1）、色と好みのお話、形容詞の使い方全般を文法でしっかり理解する
12	Lektion7A ：形容詞の比較級・最上級	ショッピングに出かけよう（2）、形容詞と名詞の組み合わせ、比較・最上級の持つ意味と冠詞の持つ意味を統合させる
13	Lektion7B ：再帰代名詞と再帰動詞	病気になったら？ 他動詞の使い方と代名詞の意味をしっかり理解する
14	まとめ	学期末最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。またドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読しましょう。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）
羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）

【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』（白水社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加 35 %（外部試験の受験結果含）、小テスト（単語テスト）や提出物 30 %、学期末試験 35 %を合わせ、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典は必携です。紙媒体の辞書を用いること（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】

・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
・原則として、2019 年 12 月実施予定の「ドイツ語技能検定試験」（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）、あるいは 2019 年秋に実施されるドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）ないしオーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）の試験を 1 つ以上受験します。受験級はそれぞれの学習段階にふさわしいものを選び、受験結果は上記「成績評価の方法と基準」のうち「授業への積極的な参加（35 %）」に加算されます。受験費用は各自負担となります（難しい場合は担当者に相談してください）。

【Outline and objectives】

German course for Beginners, exclusively for Participants of "German 1 (SA)" 2019SS as well as of the SA-Program in Germany (Leuphana Universität-Lüneburg) held by the Faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces, continuing from the "German 1 (SA)", elementary Grammar, vocabulary and communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

LANd100LA

ドイツ語 2

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2

2016 年度以前入学者

アネッテ・グルーパー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung einfache Phrasen
2	Begruessen und vorstellen 1 - du, Sie	
3	Begruessen und vorstellen 2	einfache Phrasen, Verbkonjugation im Singular
4	Laender, Sprachen	Idiomatik in Fragen und Antworten
5	Berufe	Ja-/Nein-Fragen, W-Fragen
6	Zahlen von 0 bis 100	einfache Zahlenanwendungen
7	Deutsche Woerter?	Feminin - Maskulin - Neutrum
8	Zahlen bis 1000	Telefonnummern, Hausnummern
9	Informationen zur Person	Alphabet, Buchstabieren
10	Auf der Meldestelle	Formulare auf Behoerden
11	Einladung zum Kaffeetrinken	Verbkonjugation im Plural
12	Was ist wo in unserem Buch?	bestimmter/unbestimmter/negativer Artikel
13	Essen und Trinken	Nominativ und Akkusativ
14	Zusammenfassung und Wiederholung	Syntax, Phrasen, Artikel, grammtisches Geschlecht, Kasus

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を忘れないで行うこと。

【テキスト（教科書）】

Tangram aktuell 1, Lektion 1-4

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60 %

この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40 %

遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing

LANd100LA

ドイツ語 4

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 4

2016 年度以前入学者

アネッテ・グルーバー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Laender in Zahlen	Zahlen ueber 1000
3	Im Moebelhaus	Dinge bewerten: Adjektive, Adverbien
4	Haushaltsgeraete	Artikel im Nominativ und Akkusativ
5	Gespraechе im Kaufhaus	Definitpronomen
6	Gebrauchte Sachen	Zeit- und Mengenangaben
7	Beim neunten Nein kommen die Traenen	Text ueber Einkaufen mit Kindern & Diskussion
8	Einkaufen im Supermarkt	idiomatische Phrasen
9	Gespraechе mit Gaesten	idiomatische Phrasen
10	Tipps und Ratschlaege	Imperativ
11	Berufe: Vor-und Nachteile	Modalverben
12	Hobbys	Praepositionen mit Dativ und Akkusativ
13	Verabredungen	Idiomatik in typischen Situationen
14	Wiederholung und Zusammenfassung	Syntax, Phrasen, Wortschatz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を必ず行う。宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】

Tangram aktuell 1, Lektion 5-8

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60%

この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40%

遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd100LA

ドイツ語 5

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 5

2016 年度以前入学者

遠藤 浩介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するための授業です。SA
ドイツ語圏での留学準備として、コミュニケーション能力を中心とした、基本的なドイツ語運用能力の習得を目指します。またドイツ語学習を通して「自分なりの外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

1. 日常的な状況で用いる平易なドイツ語を習得し、相手の言っていることを理解するだけでなく、こちらからアウトプットできるようにする。
2. ドイツ語学習を踏まえて、自分なりの外国語の学び方を身につける。
3. ドイツ語（外国語）の学習を通じて、自分の思考や感情を言語化する能力、とりわけ他者との言語コミュニケーションの能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ペアワーク、グループワークを中心として会話練習や読解練習を行う。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／発音とあいさつの表現	授業の進め方について／ドイツ語のアルファベットの発音
2	Lektion 1A	発音の規則について／あいさつと自己紹介（1）／数詞
3	Lektion 1B	あいさつと自己紹介（2）／自分の職業を言う
4	Lektion 2A（1）	カフェやレストランで注文をする
5	Lektion 2A（2）	買い物をする
6	Lektion 2B（1）	自分の家族について話す（1）
7	Lektion 2B（2）	自分の家族について話す（2）
8	Lektion 3A（1）	自分のやっていることを説明する（1）／人を招待する（1）
9	Lektion 3A（2）	自分のやっていることを説明する（2）／人を招待する（2）
10	Lektion 3B（1）	旅行の計画をたてる（1）／時刻を言う（1）
11	Lektion 3B（2）	旅行の計画をたてる（2）／時刻を言う（2）
12	Lektion 4A（1）	友人と旅行をする（1）／地図を観る（2）／空間の位置関係を説明する
13	Lektion 4A（2）	友人と旅行をする（2）／地図を観る（2）／時間の経過を説明する
14	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業ごと新たな項目ができますので、学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直してください。またドイツ語の文・テキストは必ず音読してください。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver.3.0』（朝日出版社、2017 年）

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加）：50 %

テスト（小テストおよび期末テスト）：50 %

以上を踏まえて総合的に評価します。ただしテストが 50 点未満の場合には平常点に関わりなく単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典。とくに紙の辞典を勧めます。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

【Outline and objectives】

This preparatory course for studying abroad aims to acquire the basic language skills in German by learning pronunciation, basic grammar and basic conversation. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

ドイツ語 6

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 6

2016 年度以前入学者

遠藤 浩介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語 5」に引き続き、SA ドイツ語圏での留学準備として、コミュニケーション能力を中心とした、基本的なドイツ語運用能力の習得を目指します。またドイツ語学習を通して、「自分なりの外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

1. 日常的な状況で用いる平易なドイツ語を習得し、相手の言っていることを理解するだけでなく、こちらからアウトプットできるようにする。
2. ドイツ語学習を踏まえて、自分なりの外国語の学び方を身につける。
3. ドイツ語（外国語）の学習を通じて、自分の思考や感情を言語化する能力、とりわけ他者との言語コミュニケーションの能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ペアワーク、グループワークを中心として会話練習や読解練習を行う。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の復習
2	Lektion 4B (1)	旅先の楽しみ（1）／時を表す表現（1）
3	Lektion 4B (2)	旅先の楽しみ（2）／時を表す表現（2）
4	Lektion 5A (1)	夏休みにはなにをしたの？（1）／数詞（1）
5	Lektion 5A (2)/5B (1)	夏休みにはなにをしたの？（2）／数詞（2）
6	Lektion 5B (2)	過去の出来事を説明する
7	Lektion 6A (1)	誕生日のお祝い（1）／序数と日付
8	Lektion 6A (2)	誕生日のお祝い（2）
9	Lektion 6B	天気表現
10	Lektion 7A (1)	ショッピングに出かける（1）／形容詞を使ってみる
11	Lektion 7A (2)	ショッピングに出かける（2）／ものを比較してみる
12	Lektion 7B (1)	病気になったら？
13	Lektion 7B (2)	再帰動詞を使ってみる
14	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業ごと新たな項目がでてきますので、学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直してください。またドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読してください。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver. 3.0』（朝日出版社、2017 年）

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加）：50 %

テスト（小テストおよび期末テスト）：50 %

以上を踏まえて総合的に評価します。ただしテストが 50 点未満の場合には平常点に関わりなく単位を認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典。とくに紙の辞書を勧めます。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

【Outline and objectives】

This preparatory course for studying abroad aims to acquire the basic language skills in German by learning pronunciation, basic grammar and basic conversation. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

LANd100LA

ドイツ語 1

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1

2016 年度以前入学者

三ツ石 祐子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また授業では、ドイツ語圏の事情や習慣を紹介する写真やテキストが含まれている教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、受講者はその場面に必要な表現を習得します。その際、ドイツ語圏の文化も実感できるでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ語圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4) 自分でも簡単な文章が書ける。
- 5) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナーレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現する練習を重ねます。

練習した表現を応用できるようにするために、受講者は毎回の宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかりと復習します。

月曜日 3 時限（担当：三ツ石）と火曜日 5 時限（担当：シュミット）の授業は連動しています。どちらの授業でも、受講者は会話の練習を行います。月曜日の授業では、文法と読解を、火曜日の授業では語彙練習と作文に重点を置いた練習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Herzlich Willkommen	自己紹介 アルファベット 人称変化
2	Name, Adresse, Beruf	職業 数字 0-1000
3	Auf der Berlinale	有名人を紹介する
4	Was ist das?	名詞と冠詞 人称代名詞
5	Shoppern!	haben / möchte 4 格の名詞 Blog を書く
6	Die Leipziger Fußgängerzone	歩行者天国でインタビューする
7	Tanzen oder wandern?	不規則変化動詞 分離動詞 曜日 一週間の日記を書く
8	Familie und Freunde	所有冠詞 4 格の人称代名詞 国、国籍、言語 sein の過去形
9	Die Alpen in Österreich	写真を描写する
10	Kaffee oder lieber Schokolade?	wollen / müssen 無冠詞 値段の言い方
11	Einkaufsliste	市場での会話 カフェで注文する
12	Termine	時刻 一日のスケジュール können
13	Jochen Krauses Termine	約束する 月と季節 haben の過去形 理想の一日について書く

14 Auf dem Viktualienmarkt 写真を基に会話をつくる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache
A1: Kursbuch Gesamtband
ISBN 978-3-06-120482-2
Cornelsen verlag

【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研
2017 年 ￥1700 +税
『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005 年 ￥1400 +税

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、出席、宿題、発言など）30 %、小テスト 40 %、提出課題 30 %を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進捗などにより変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in group or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of everyday life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd100LA

ドイツ語 3

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 3

2016 年度以前入学者

ミツ石 祐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また授業では、ドイツ語圏の事情や習慣を紹介する写真やテキストが含まれている教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、受講者はその場面に必要な表現を習得します。その際、ドイツ語圏の文化も実感できるように。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ語圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4) 自分でも簡単な文章が書ける。
- 5) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナーレーニンクやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現する練習を重ねます。

練習した表現を応用できるようにするために、受講者は毎回の宿題の他に、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項を覚える必要があります。

月曜日 3 時限（担当：ミツ石）と火曜日 5 時限（担当：シュミット）の授業は連動しています。どちらの授業でも、受講者は会話の練習を行います。月曜日の授業では、文法と読解を、火曜日の授業では語彙練習と作文に重点を置いた練習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	前期の復習
2	Mit dem Auto oder zu Fuß?	3 格の名詞 3 格支配の前置詞 道案内
3	In der Firma	現在完了形 仕事について話す 旅行について書く
4	Verkehr in der Stadt	交通手段について話す
5	Mein Zuhause	3・4 格支配の前置詞 zu+形容詞 住まいについて話す
6	Gesund und fit	命令形 アドヴァイスをする 健康について話す
7	Die Wohnsiedlung	将来の住まいについて話す
8	Hard in Zürich Andere feiern, ich arbeite.	序数と日付 人称代名詞：3 格 お祭りや祝祭日について話す 招待状を書く
9	T-Shirt oder Pullover?	非人称の es 3 格目的語をとる動詞 服装と天気について話す
10	Von Ostern zu Weihnachten	ドイツ語圏の伝統的なお祭りや祭日について話す
11	Geradeaus bis zur Ampel	sollen / dürfen 駅でのアナウンスを理解する 切符を買う
12	Endlich Urlaub!	würde gern+不定詞 丁寧なお願い 苦情を言う ホテルでの会話
13	Am Foggensee	旅先から絵はがきを出す
14	プレゼンテーション	グループ発表 「ドイツ語圏を旅する」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache
A1: Kursbuch Gesamtband
ISBN 978-3-06-120482-2
Cornelsen verlag

【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研
2017 年 ￥1700 +税
『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005 年 ￥1400 +税

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、出席、宿題、発言など）30 %、小テスト 40 %、提出課題 30 %を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度などにより変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in group or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of everyday life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd100LA

ドイツ語 2

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2

2016 年度以前入学者

ウテ・シュミット

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また、授業ではドイツ語圏の事情や習慣を紹介する教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、その場面に必要な表現の習得を通して、受講者はドイツ語圏の文化を実感できることでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思っています。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1）発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2）基本的な文法事項を習得する。
- 3）辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4）自分でも簡単な文章が書ける。
- 5）想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナーレニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現する練習を重ねます。

練習した表現を応用できるようにするために、宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかり復習します。

月曜日 3 時限（担当：三ッ石）と火曜日 5 時限（担当：シュミット）の授業は連動しています。どちらの授業でも、受講者は会話の練習を行います。月曜日の授業では、文法と読解を、火曜日の授業では語彙練習と作文に重点を置いた練習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Herzlich Willkommen	自己紹介 アルファベット 人称変化 1
2	Name, Adresse, Beruf	職業 数字 0 - 1 0 0 0 人称変化 2
3	Panorama I	Auf der Berlinale ベルリン国際映画祭
4	Was ist das ?	名詞と冠詞 人称代名詞
5	Shoppen !	haben/möchten 格変化：4 格 Blog を書く
6	Panorama II	Die Leipziger Fußgängerzone ライプチヒの歩道者天国
7	Tanzen oder wandern ?	不規則変化動詞 分離動詞 曜日 一週間の日記を書く
8	Familie und Freunde	所有冠詞 人称代名詞の 4 格 国、国籍、言語 sein の過去形
9	Panorama III	Die Alpen in Österreich オーストリア・アルプス
10	Kaffee oder lieber Schokolade ?	助動詞 1 無冠詞 値段の言い方
11	Kaffee oder lieber Schokolade ?	Einkaufsdialoge Im Kaffeehaus bestellen 買い物と注文
12	Termine	時刻 一日のスケジュール 助動詞 2 約束する

13	Termine	月と季節 haben の過去形 作文：理想の一日
14	Panorama IV	Auf dem Viktualienmarkt ヴィクトアリエンマルクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache
A1: Kursbuch Gesamtband
ISBN/Verlag: ISBN 978-3-06-120482-2
Cornelsen Verlag

【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研
2017 年 ￥1700 + 税
『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005 年 ￥1400 + 税

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、出席、宿題、発言など）30 %、小テスト 40 %、提出課題 30 % を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in groups or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of everyday life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd100LA

ドイツ語 4

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 4

2016 年度以前入学者

ウテ・シュミット

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また、授業ではドイツ語圏の事情や習慣を紹介する教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、その場面に必要な表現の習得を通して、受講者はドイツ語圏の文化を実感できることでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思っています。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1）発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2）基本的な文法事項を習得する。
- 3）辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4）自分でも簡単な文章（が書ける）。
- 5）想定された場面における基本的な口語表現が聞き取る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナーレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現したりする練習を重ねます。
練習した表現を応用できるようにするために、宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかりと復習します。
月曜日 3 時限（担当：三ッ石）と火曜日 5 時限（担当：シュミット）の授業は連動しています。どちらの授業でも、受講者は会話の練習を行います。月曜日の授業では、文法と読解を、火曜日の授業では語彙練習と作文に重点を置いた練習をします。

。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	前期の復習
2	Mit dem Auto oder zu Fuß ?	名詞の 3 格 3 格支配の前置詞 道案内
3	In der Firma	現在完了形 仕事について話す 旅行について書く
4	Panorama V	Verkehr in der Stadt
5	Mein Zuhause	3・4 格支配の前置詞 zu+形容詞 住まいについて話す
6	Gesund und fit	命令形 アドバイスをする 健康について話す
7	Panorama VI	Die Wohnsiedlung Hard in Zürich
8	Andere feiern, ich arbeite.	序数と日付 人称代名詞の 3 格 お祭りや祝祭日について話す 招待状を書く
9	T-Shirt oder Pullover?	非人称の es 3 格目的の動詞 服装と天気について話す。
10	Panorama VII	Von Ostern bis Weihnachten
11	Geradeaus bis zur Ampel	助動詞 3 駅でのアナウンスを理解する、切符を買う
12	Endlich Urlaub !	würde- gern +不定詞 丁寧なお願い 苦情を言う ホテルでの会話
13	Panorama VIII	Am Forgensee
14	プレゼンテーション	グループ発表 ドイツ語圏を旅する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。

【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache
A1: Kursbuch Gesamtband
ISBN/Verlag: ISBN 978-3-06-120482-2
Cornelsen Verlag

【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研
2017 年 ￥1700 + 税
『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005 年 ￥1400 + 税

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、出席、宿題、発言など）30 %、
小テスト 40 %、
提出課題 30 % を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline and objectives】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in groups or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of everyday life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2016 年度以前入学者

畠山 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年 G~L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

原則として 2 回の授業で 1 課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。小テストを行います。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要 1	綴りの読み方と発音 1 アルファベット等について
②	ドイツ語の概要 2	綴りの読み方と発音 2 発音記号について
③	Lektion1	人称代名詞と動詞の現在人称変化（規則動詞）
④	Lektion1	sein・haben の現在人称変化、語順、ja, nein の使い方
⑤	Lektion2	名詞の性と冠詞、名詞の格、定冠詞と名詞の格変化、不定冠詞と名詞の格変化
⑥	Lektion2	格の用法、名詞の複数形、人称代名詞の使い方
⑦	Lektion3	動詞の現在人称変化（不規則動詞）、命令形
⑧	Lektion3	非人称の es、時刻の表現
⑨	Lektion4	定冠詞類、不定冠詞類
⑩	Lektion4	人称代名詞の 3 格と 4 格、3 格・4 格の語順
⑪	Lektion5	前置詞の格支配
⑫	Lektion5	前置詞と定冠詞の融合形、疑問代名詞 wer と was の格変化
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と春学期の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

【テキスト（教科書）】

『グーメラン・エルエー』
小野寿美子・中川明博・西巻丈児著
朝日出版社 2015 年発行 定価 2500 円 + 税

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円 + 税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60 %、平常点（小テスト等）40 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

ドイツ語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1 - II

2016 年度以前入学者

畠山 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年 G～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。小テストを行います。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Lektion6	話法の助動詞、未来形、従属の接続詞と副文
②	Lektion6	分離動詞と非分離動詞
③	Lektion7	形容詞の格語尾変化 1
④	Lektion7	形容詞の格語尾変化 2
⑤	Lektion7	形容詞・副詞の比較
⑥	Lektion8	動詞の3基本形 1
⑦	Lektion8	動詞の3基本形 2
⑧	Lektion8	現在完了形
⑨	Lektion9	過去形
⑩	Lektion9	再帰代名詞と再帰動詞
⑪	Lektion10	zu 不定詞（句）
⑫	Lektion10	関係代名詞
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と秋学期の復習・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

【テキスト（教科書）】

『ブーメラン・エルエー』
小野寿美子・中川明博・西巻丈児著
朝日出版社 2015 年発行 定価 2500 円＋税

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60％、平常点（小テスト等）40％とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2016 年度以前入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。

【到達目標】

1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期では、初級文法のなかでも基礎にあたる部分を学びます。簡単な現在形の単文を読んだり書いたりできるようになることが目標です。

週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につくように、手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。

文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	アルファベット、発音とアクセント、挨拶について。
第 2 回	人称と動詞の現在人称変化（1）	人称代名詞、規則活用動詞の現在人称変化について。
第 3 回	動詞の現在人称変化（2）と語順	sein, haben の現在人称変化と語順について。
第 4 回	名詞の性・数と格変化	名詞の性・数、冠詞と格変化について。
第 5 回	名詞の複数形と格変化	名詞の複数形と複数形の格変化について。
第 6 回	不規則動詞	代表的な不規則動詞の現在人称変化について。
第 7 回	命令形と人称代名詞の格変化	命令形と人称代名詞の 3 格と 4 格の格変化について。
第 8 回	中間テスト	第 1～第 7 回の内容を確認します。
第 9 回	前置詞の格支配（1）	特定の格と結びつく前置詞の格支配について。
第 10 回	前置詞の格支配（2）	3・4 格と結びつく前置詞の格支配と、定冠詞・前置詞の融合形について。
第 11 回	冠詞と定冠詞類の格変化	冠詞と定冠詞類の格変化について。
第 12 回	不定冠詞類と男性弱変化名詞	不定冠詞と不定冠詞類の格変化について。男性弱変化名詞についても補足します。
第 13 回	否定形	nicht と kein の使い分けについて。
第 14 回	期末テスト	春学期に学習した内容すべてについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に、前回の授業内容をチェックする問題を出題します。

夏休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

書名：『ミュンヘンに夢中』

著者：アンドレア・ラープ、石井学、石井寿子、保阪靖人、保阪良子

出版社：同学社 ISBN：978-4-8102-0744-6

そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

独和辞典は各自用意してください。

下記の参考書を自宅学習の際などに持っていると便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、中間テスト（40%）、学期末テスト（40%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を使用します。また、練習問題の解答などはモニターに映します。

【その他の重要事項】

独和辞書は必要になるので授業開始後できるだけ早く用意すること。

【Outline and objectives】

German Course for Beginners (A1 Level)

LANd100LA

ドイツ語 1 - II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1 - II 2016 年度以前入学者

辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。

【到達目標】

一年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期では、春学期から引き続き初級文法の残りの部分を学びます。後半からは、それまでに学んだ知識を活かし、応用的な練習問題にも徐々に取り組んでいきます。

週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につくように、手と口とアタマを働かせ、練習問題をしながら先に進んでいきます。

文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・確認テスト	春学期に学習した内容を確認します。
第 2 回	分離動詞と非分離動詞	分離動詞と非分離動詞について。
第 3 回	接続詞と話法の助動詞	接続詞の種類と使い方、話法の助動詞の種類について。
第 4 回	話法の助動詞と未来形	話法の助動詞と未来形の使い方について。
第 5 回	動詞の 3 基本形と過去人称変化	動詞の 3 基本形の作り方、過去基本形について。
第 6 回	動詞の現在完了	完了助動詞の選び方と、現在完了の使い方について。
第 7 回	中間テスト	第 2～第 6 回の内容を確認します。
第 8 回	形容詞の格変化	形容詞の各種格変化について。また形容詞の名詞化について補足します。
第 9 回	形容詞の比較級と最上級、比較表限	形容詞の比較級・最上級の作り方とそれを用いた比較表現について。
第 10 回	zu 不定詞と受動態の基礎	zu 不定詞の用法と受動態の作り方について。
第 11 回	受動態の用法と再帰動詞	状態受動、現在分詞および過去分詞について。さらに再帰代名詞および再帰動詞について。
第 12 回	関係代名詞と関係副詞	定関係代名詞・不定関係代名詞の格変化と用法について。
第 13 回	指示代名詞と接続法	指示代名詞と接続法の人称変化と時制、用法について。
第 14 回	期末テスト	秋学期だけでなく 1 年間に学んだ内容についてテストします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に、前回の授業内容をチェックする問題を出題します。

また、冬休み、春休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

書名：『ミュンヘンに夢中』

著者：アンドレア・ラープ、石井学、石井寿子、保阪靖人、保阪良子

出版社：同学社 ISBN：978-4-8102-0744-6

そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

独和辞典は各自用意してください。

下記の参考書を自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、期末テスト (40%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を使用します。また、練習問題の解答などはモニターに映します。

【その他の重要事項】

独和辞書を必ず用意し、毎回持ってくること。

【Outline and objectives】

German Course for Beginners (A1 Level)

LANd100LA

ドイツ語 1 - I2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1 - I2016 年度以前入学者

畠山 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
キ 1 年 A~H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】
辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。小テストを行います。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要	綴りの読み方と発音 アルファベット等について 1
②	Lektion0	綴りの読み方と発音 アルファベット等について 2
③	Lektion1	人称代名詞と不定詞、定動詞の現在人称変化
④	Lektion1	定動詞の位置・語順 sein の現在人称変化
⑤	Lektion2	名詞の性、名詞の格
⑥	Lektion2	冠詞の変化、haben の現在人称変化
⑦	Lektion3	名詞の複数形
⑧	Lektion3	男性弱変化名詞と例外的な名詞、人称代名詞の3・4格
⑨	Lektion4	不規則動詞の現在人称変化
⑩	Lektion4	不規則動詞の現在人称変化、命令形
⑪	Lektion5	不定冠詞類
⑫	Lektion5	定冠詞類
⑬	LektionS	前期確認問題
⑭	期末試験	期末試験
⑮	期末試験解説	期末試験についての講評と春学期の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

【テキスト（教科書）】
『つながるドイツ語みっとりーべ』
中村修・中川拓哉・大澤タカコ著
朝日出版社 2019 年発行 定価 2600 円＋税

【参考書】
『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】
原則として、期末試験（筆記）60％、平常点（小テスト等）40％とします。

【学生の意見等からの気づき】
発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

ドイツ語 1 - II2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1 - II2016 年度以前入学者

畠山 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
キ 1 年 A~H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】
辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。小テストを行います。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
①	Lektion1~5	復習事項
②	Lektion6	前置詞の格支配 2格・3格・4格支配
③	Lektion6	3・4格支配 前置詞と定冠詞の融合形
④	Lektion7	分離動詞、非分離動詞
⑤	Lektion8	話法の助動詞 従属の接続詞
⑥	Lektion9	zu 不定詞 再帰代名詞と再帰動詞
⑦	Lektion10	動詞の3基本形 1 過去形
⑧	Lektion10	動詞の3基本形 2 現在完了形
⑨	Lektion W	後期確認問題
⑩	Lektion StepUp	受動態 前置詞＋人称代名詞の融合形
⑪	Lektion StepUp	形容詞の語尾変化 比較表現
⑫	Lektion Grammatik	人称代名詞と動詞の人称変化、冠詞類等の総復習
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説	期末試験についての講評と秋学期の復習・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

【テキスト（教科書）】
『つながるドイツ語みっとりーべ』
中村修・中川拓哉・大澤タカコ著
朝日出版社 2019 年発行 定価 2600 円＋税

【参考書】
『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】
原則として、期末試験（筆記）60％、平常点（小テスト等）40％とします。

【学生の意見等からの気づき】
発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2016 年度以前入学者

畠山 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
キ 1 年 I～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。小テストを行います。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要 1	綴りの読み方と発音 1 アルファベット等について
②	ドイツ語の概要 2	綴りの読み方と発音 2 発音記号について
③	Lektion1	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化（規則動詞）
④	Lektion1	sein・haben の現在人称変化（不規則動詞）、語順（定動詞の位置）
⑤	Lektion2	名詞の性・冠詞、名詞の格変化
⑥	Lektion2	疑問代名詞 wer, was の格変化、並列の接続詞
⑦	Lektion3	動詞の現在人称変化（不規則動詞）、命令形
⑧	Lektion3	人称代名詞の3格（～に）と4格（～を）、3格と4格の語順、非人称の es
⑨	Lektion4	名詞の複数形、冠詞類
⑩	Lektion4	名詞の複数形、冠詞類、kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
⑪	Lektion5	前置詞の格支配
⑫	Lektion5	前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と春学期の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

【テキスト（教科書）】

『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』
小野寿美子・中川明博著
朝日出版社 2019 年発行 定価 2500 円＋税

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60％、平常点（小テスト等）40％とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

ドイツ語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 1 - II

2016 年度以前入学者

畠山 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
キ 1 年 I～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として2回の授業で1課を読み終える予定です。ドイツ語の構造について詳細な解説をします。基本的な例文を暗記します。小テストを行います。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Lektion6	話法の助動詞の現在人称変化、未来形従属の接続詞と副文、時刻の表現、不定代名詞 man
②	Lektion6	
③	Lektion7	形容詞の2つの使い方、形容詞の格変化
④	Lektion7	形容詞の格変化、形容詞・副詞の比較
⑤	Lektion8	分離動詞・非分離動詞
⑥	Lektion8	分離動詞・非分離動詞、 zu 不定詞・ zu 不定詞句
⑦	Lektion9	動詞の3基本形 1、過去分詞に ge- を付けない動詞
⑧	Lektion9	動詞の3基本形 2、現在完了形
⑨	Lektion10	過去形、再帰代名詞と再帰動詞
⑩	文法の補足	関係代名詞、関係副詞
⑪	文法の補足	受動形、分詞
⑫	文法の補足	接続法
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 復習	期末試験についての講評と秋学期の復習・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。重要な例文については小テストを行います。

【テキスト（教科書）】

『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』
小野寿美子・中川明博著
朝日出版社 2019 年発行 定価 2500 円＋税

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60％、平常点（小テスト等）40％とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。参加者の学習到達度を確認するため、演習・小テストの機会を多く設けたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

LANd100LA

ドイツ語 2 - I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2 - I 2016 年度以前入学者

伊東 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年 G～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音から始まるドイツ語のきまりを学ぶ。文法事項、単語を覚え、会話練習することで、ドイツ語の基礎知識を習得する。

【到達目標】

話す、聞く、読む、書くことを通じて、ドイツ語の基礎をマスターして、ドイツ語圏を旅行する際などに使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法事項を学習する一方で、CD を繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
オリエンテーション	発音	授業の進め方 勉強方法 発音
あいさつ	あいさつを覚える	あいさつ 数詞
人称代名詞	Lektion1	1 人称、2 人称、3 人称
動詞の変化	Lektion1	規則動詞
名詞の格と冠詞	Lektion2	単数名詞の性 名詞の格変化
疑問代名詞	Lektion2	was, wer の変化
不規則動詞	Lektion3	動詞の現在人称変化
命令形	Lektion3	命令形の作り方
定冠詞と不定冠詞	Lektion4	dieser, mein 等の語尾変化
名詞の複数形	Lektion4	複数形の作り方
前置詞	Lektion5	前置詞の格支配
前置詞と定冠詞	Lektion5	前置詞と定冠詞の融合形
おさらいテスト	これまでの復習 春学期のテスト	練習問題を解く 学習の習熟度をチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 課を 2 回に分けて進める。基本的な例文は暗記すること。辞書を持参すること。各課毎に小テストを実施する。

【テキスト（教科書）】

『ドイツ語ブラーヴォー + a』
小野 寿美子・他著 朝日出版社

【参考書】

必要に応じて授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における取り組みと小テストで 50 %、期末テスト 50 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

要望があればその都度、対応する。学生が自発的に質問する、自ら発表できる授業づくりを進める。

【Outline and objectives】

This course deals with the grammatical rules and principles of German language.

LANd100LA

ドイツ語 2 - II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2 - II 2016 年度以前入学者

伊東 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年 G～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音から始まるドイツ語のきまりを学ぶ。文法事項、単語を覚え、会話練習することで、ドイツ語の基礎知識を習得する。

【到達目標】

話す、聞く、読む、書くことを通じて、ドイツ語の基礎をマスターして、ドイツ語圏を旅行する際などに使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法事項を学習する一方で、CD を繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
助動詞	Lektion6	助動詞の変化 未来形
接続詞	Lektion6	接続詞と副文
形容詞	Lektion7	形容詞の格語尾変化
zu 不定詞	Lektion7	zu 不定詞のつくり方
動詞の過去形	Lektion8	過去基本形 過去分詞
過去人称変化	Lektion8	語尾変化
現在完了形	Lektion9	haben/sein の使い分け
分離動詞	Lektion9	分離動詞の基本形と zu 不定詞
比較	Lektion10	形容詞・副詞の比較級・最上級
関係代名詞	Lektion10	関係文
受動態	文法の補足	受動態 現在分詞と過去分詞
接続法第 1 式	文法の補足	接続法第 1 式の人称変化と用法
接続法第 2 式	文法の補足	接続法第 2 式の人称変化と用法
テスト	秋学期のテスト	学習の習熟度をチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 課を 2 回に分けて進める。基本的な例文は暗記すること。辞書を持参すること。各課毎に小テストを実施する。

【テキスト（教科書）】

『ドイツ語ブラーヴォー + a』
小野 寿美子・他著 朝日出版社

【参考書】

必要に応じて授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業における取り組みと小テストで 50 %、期末テスト 50 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

要望があればその都度、対応する。学生が自発的に質問する、自ら発表できる授業づくりを進める。

【Outline and objectives】

This course deals with the grammatical rules and principles of German language.

LANd100LA

ドイツ語 2 - I2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2 - I2016 年度以前入学者

伊東 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
環 1 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の発音から始まるドイツ語のきまりを学ぶ。文法事項、単語を覚え、会話練習することで、ドイツ語の基礎知識を習得する。

【到達目標】
話す、聞く、読む、書くことを通じて、ドイツ語の基礎をマスターして、ドイツ語圏を旅行する際などに使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
文法事項を学習する一方で、CD を繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
オリエンテーション	発音	授業の進め方 勉強方法 発音
あいさつ	あいさつを覚える	あいさつ 数詞
人称代名詞	Lektion1	1 人称、2 人称、3 人称
動詞の変化	Lektion1	規則動詞
名詞の格と冠詞	Lektion2	単数名詞の性 名詞の格変化
疑問代名詞	Lektion2	was,wer の変化
不規則動詞	Lektion3	動詞の現在人称変化
命令形	Lektion3	命令形の作り方
定冠詞と不定冠詞	Lektion4	dieser,mein 等の語尾変化
名詞の複数形	Lektion4	複数形の作り方
前置詞	Lektion5	前置詞の格支配
前置詞と定冠詞	Lektion5	前置詞と定冠詞の融合形
おさらい	これまでの復習	練習問題を解く
テスト	春学期のテスト	学習の習熟度をチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1 課を 2 回に分けて進める。基本的な例文は暗記すること。辞書を持参すること。
各課毎に小テストを実施する。

【テキスト（教科書）】
『ドイチュブラーヴォ + a』
小野 寿美子・他著 朝日出版社

【参考書】
必要に応じて授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業における取り組みと小テストで 50 %、期末テスト 50 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
要望があればその都度、対応する。学生が自発的に質問する、自ら発表できる授業づくりを進める。

【Outline and objectives】
This course deals with the grammatical rules and principles of German language.

LANd100LA

ドイツ語 2 - II2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2 - II2016 年度以前入学者

伊東 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
環 1 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の発音から始まるドイツ語のきまりを学ぶ。文法事項、単語を覚え、会話練習することで、ドイツ語の基礎知識を習得する。

【到達目標】
話す、聞く、読む、書くことを通じて、ドイツ語の基礎をマスターして、ドイツ語圏を旅行する際などに使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
文法事項を学習する一方で、CD を繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
助動詞	Lektion6	助動詞の変化 未来形
接続詞	Lektion6	接続詞と副文
形容詞	Lektion7	形容詞の格語尾変化
zu 不定詞	Lektion7	zu 不定詞のつくり方
動詞の過去形	Lektion8	不定詞 過去基本形 過去分詞 語尾変化
過去人称変化	Lektion8	
現在完了形	Lektion9	haben/sein の使い分け
分離動詞	Lektion9	分離動詞の基本形と zu 不定詞
比較	Lektion10	形容詞・副詞の比較級・最上級
関係代名詞	Lektion10	関係文
受動態	文法の補足	受動態 現在分詞と過去分詞
接続法第 1 式	文法の補足	接続法第 1 式の人称変化と用法
接続法第 2 式	文法の補足	接続法第 2 式の人称変化と用法
テスト	秋学期のテスト	学習の習熟度をチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文法事項を学習する一方で、CD を繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。

【テキスト（教科書）】
『ドイチュブラーヴォ + a』
小野 寿美子・他著 朝日出版社

【参考書】
必要に応じて授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業における取り組みと小テストで 50 %、期末テスト 50 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
要望があればその都度、対応する。学生が自発的に質問する、自ら発表できる授業づくりを進める。

【Outline and objectives】
This course deals with the grammatical rules and principles of German language.

LANd100LA

ドイツ語 2 - I 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2 - I 2016 年度以前入学者

高橋 憲子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年 A～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基本を学びます。言語ばかりでなく、これを話して生きている人々のライフスタイルにも触れ、自身の言語や物の見方との違いについても考えていくことになるでしょう。

【到達目標】

基本的なドイツ語の文を読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回あてていきます。たくさんの練習によって理解度を確認しながら進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	発音	説明と練習
2	動詞の現在形	説明と練習
3	不規則動詞	説明と練習
4	名詞の性	説明と練習
5	名詞の格	説明と練習
6	不定冠詞類	説明と練習
7	定冠詞類	説明と練習
8	人称代名詞	説明と練習
9	疑問文	説明と練習
10	前置詞	説明と練習
11	話法の助動詞	説明と練習
12	分離動詞	説明と練習
13	非分離動詞	説明と練習
14	否定文	説明と練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題を出します。

【テキスト（教科書）】
『シュトラッセ・ノイ Ver.3.0』
Gesine Goessner 他著
朝日出版社
2400 円

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果（90 %）を中心に、宿題の提出状況等（10 %）も含め、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
We learn the outline of German grammar.

LANd100LA

ドイツ語 2 - II 2017 年度以降入学者

LANd100LA

ドイツ語 2 - II 2016 年度以前入学者

高橋 憲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年 A～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基本を学びます。言語ばかりでなく、これを話して生きている人々のライフスタイルにも触れ、自身の言語や物の見方との違いについても考えていくことになるでしょう。

【到達目標】

基本的なドイツ語の文を読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回あてていきます。たくさんの練習によって理解度を確認しながら進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動詞の 3 基本形	説明と練習
2	現在完了	説明と練習
3	過去	説明と練習
4	接続詞	説明と練習
5	受動態	説明と練習
6	非人称	説明と練習
7	zu 不定詞	説明と練習
8	形容詞の語尾	説明と練習
9	比較級	説明と練習
10	再帰表現	説明と練習
11	指示代名詞	説明と練習
12	関係代名詞	説明と練習
13	接続法Ⅱ式	説明と練習
14	接続法Ⅰ式	説明と練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題を出します。

【テキスト（教科書）】
『シュトラッセ・ノイ Ver.3.0』
朝日出版社 2400 円
Goessner 他著

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果（90 %）を中心に、宿題の提出状況等（10 %）も含め、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
We learn the outline of German Grammar.

LANd100LA	
ドイツ語 2 - I	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 2 - I	2016 年度以前入学者
高橋 憲子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金 5/Fri.5 キ 1 年 I～P	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基本を学びます。言語ばかりでなく、これを話して生きている人々のライフスタイルにも触れ、自身の言語や物の見方との違いについて考えていくことになるでしょう。

【到達目標】

基本的なドイツ語の文を読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回あてていきます。たくさんの練習によって理解度を確認しながら進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	発音	説明と練習
2	動詞の現在形	説明と練習
3	不規則動詞	説明と練習
4	名詞の性	説明と練習
5	名詞の格	説明と練習
6	不定冠詞類	説明と練習
7	人称代名詞	説明と練習
8	定冠詞類	説明と練習
9	疑問文	説明と練習
10	命令の表現	説明と練習
11	分離動詞	説明と練習
12	非分離動詞	説明と練習
13	前置詞	説明と練習
14	話法の助動詞	説明と練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題を出します。

【テキスト（教科書）】
『問いかけのドイツ語〔新版〕』
大谷弘道著
三修社
2600 円

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果（90 %）を中心に、宿題の提出状況等（10 %）も含め、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】

We learn the outline of German grammar.

LANd100LA	
ドイツ語 2 - II	2017 年度以降入学者
LANd100LA	
ドイツ語 2 - II	2016 年度以前入学者
高橋 憲子	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金 5/Fri.5 キ 1 年 I～P	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基本を学びます。言語ばかりでなく、これを話して生きている人達のライフスタイルにも触れ、自身の言語や物の見方との違いについても考えていくことになるでしょう。

【到達目標】

基礎的なドイツ語の文を読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回あてていきます。たくさんの練習によって理解度を確認しながら進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動詞の 3 基本形	説明と練習
2	現在完了	説明と練習
3	過去	説明と練習
4	接続詞	説明と練習
5	受動態	説明と練習
6	非人称	説明と練習
7	zu 不定詞	説明と練習
8	形容詞の語尾	説明と練習
9	比較級	説明と練習
10	再帰表現	説明と練習
11	指示代名詞	説明と練習
12	関係代名詞	説明と練習
13	接続法Ⅱ式	説明と練習
14	接続法Ⅰ式	説明と練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題を出します。

【テキスト（教科書）】
『問いかけのドイツ語〔新版〕』
大谷弘道著
三修社
2600 円

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果（90 %）を中心に、宿題の提出状況等（10 %）も含め、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】

We learn the outline of German grammar.

LANd100LA

ドイツ語補講 1ーI

2017 年度以降入学者

佐々木 宗夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 6/Mon.6
法文堂環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既に一通りはドイツ語に接したことのある諸君が対象だが、ゼロから始めるものとして、基本的な文法力の涵養に努める。予習や復習にそれなりの努力は求められるが、ドイツ語に対してだけでなく歴史や文化に対しても興味を持てるよう工夫してゆく。
「易しく簡明に」がこの授業のモットー。

【到達目標】

ドイツ語検定試験の 5～4 級にチャレンジできるレベルへ。
ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味がさらに大きくなるように。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

文法は英語や日本語と比較するなどして、解りやすく、シンプルに…をモットーに進める。基本事項を説明した後はプリントを用いた作文などで反復練習をし、知識の定着を図る。文法の説明などは講義形式になるが、読解、作文などは実習形式。不明な点は遠慮せずその場で質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ドイツ語紹介	英語とドイツ語の関係。
2	発音練習 1	アルファベットの発音。ドイツ語に特有の発音。
3	発音練習 2	単語の発音の原則。 キビキビした音感を楽しもう。
4	動詞の人称変化 1	人称代名詞と動詞の語尾変化の規則を覚える。
5	動詞の人称変化 2	辞書を使って文中の動詞を引く練習。
6	動詞の人称変化 3	sein の変化。作文練習。
7	動詞の人称変化 4	haben の変化。作文練習。小テスト。
8	名詞と冠詞	名詞の性と格。 定冠詞と不定冠詞。
9	名詞の格 1	格の意味。日本語の格助詞との比較で。 これは春学期のメインテーマ、格変化は日本語の格助詞の働きに似たものです。格が実際の文章でどんな役割を担っているかじっくり時間をかけてやっていきます。
10	名詞の格 2	定冠詞と不定冠詞の 1 格と 4 格。 読解と作文。
11	名詞の格 3	定冠詞と不定冠詞の 2 格と 3 格。 読解と作文。
12	名詞の格 4	格変化の応用練習。 すべての格を使った文の読解と作文。
13	名詞の格 5	定冠詞と不定冠詞の仲間。 dieser と mein 。
14	試験日 最終週の授業内	辞書参照可の予定。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたプリントの練習問題は必ずやって、不明な点を授業中に質問できるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』[改訂版] 白水社

【参考書】

『初級クラスのドイツ語』郁文堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、宿題、平常点 20 % の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

プリントの練習問題は解答を配布します。

【その他の重要事項】

授業は学生諸君の習熟度を見ながら進める。従って、この授業計画通りに進まないこともあり得る。

【Outline and objectives】

This class is intended for the students who failed the course of beginner's class. So in this class, I will treat you as beginners and begin the course again with the pronunciation of the German alphabet plus some German words. I hope you will enjoy the briskness and liveliness of the German language. But I will skip some subjects when you have already understood them.

The main point in this class is to read and write German. After an explanation of each grammatical subject, we will practice reading and writing based on it. This will be effective to fix your grammatical knowledge and help with your reading and writing skills. At the end of this course, I hope you will pass the 5th stage (Elementalstufe) of German Deploma in Japan.

Also, we aim to increase your interest in German history and culture.

The motto of this class is "simple and easy to understand" When you have any questions during class, please ask me without reservation. Any questions will be welcome.

LANd100LA

ドイツ語補講 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐々木 宗夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 6/Mon.6

法文堂環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既に一通りはドイツ語に接したことのある諸君が対象だが、ゼロから始めるものとして、基本的な文法力の涵養に努める。具体的には、春学期で学習した動詞の人称変化、及び格変化の応用力をつけ、さらに多様な表現ができるよう、文法の運用能力の向上を図る。
「易しく簡明に」がこの授業のモットー。

【到達目標】

ドイツ語検定試験の 4 級が合格レベル、3 級がチャレンジ可能レベルに。ドイツ語圏の政治、経済、歴史、文化への興味がさらに大きくなるように。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法は英語や日本語と比較するなどして、解りやすく、シンプルに…をモットーに進める。基本事項を説明した後はプリントを用いた作文などで反復練習をし、知識の定着を図る。文法の説明などは講義形式になるが、読解、作文などは実習形式。不明な点は遠慮せずその場で質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	格の用法の復習	文章の中の格を読み取る練習。 名詞の複数形。
2	動詞の人称変化	不規則変化動詞のパターン。使用頻度の高いものを覚える。
3	前置詞 1	前置詞の格支配。
4	前置詞 2	前置詞を使った文の読解と作文。
5	前置詞 3	辞書を駆使し、前置詞の様々な意味を汲み取る。
6	形容詞 1	名詞を形容する際の語尾変化のパターン。
7	形容詞 2 比較級と最上級	語尾変化を作文練習で。
8	文の構造 …これまでの復習も兼ねて	文の構成に影響を与える接続詞とそうでないもの。 主文と副文を見分ける。
9	複合動詞 1	二つに分離する動詞とそうでないもの。 分離動詞と非分離動詞。 辞書を引く際の注意。
10	複合動詞 2	分離動詞を見分ける練習。複合動詞の読解と作文練習。
11	助動詞	助動詞構文の特徴。話法の助動詞の用法。
12	動詞の三基本形	過去基本形と人称変化。過去分詞の形。
13	現在完了の用法	過去形との違い。長文読解
14	関係代名詞	関係代名詞の見分け方。訳し下ろすテクニック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたプリントの練習問題は必ずやって、不明な点を授業中に質問できるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』改訂版 上野成利 著 白水社

【参考書】

『初級クラスのドイツ語』石渡均 著 郁文堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、宿題、平常点 20 % の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

春学期同様、作文練習を多用するつもり。プリントの練習問題は解答を配布します。

【その他の重要事項】

授業は学生諸君の習熟度を見ながら進める。従って、この授業計画通りに進まないこともあり得る。

【Outline and objectives】

This class is intended for the students who took the former course last semester. On the basis of what you studied then, we will aim at a higher level of your literacy. But I will skip some subjects when you have already understood them.

The main point in this class is to read and write German. After an explanation of each grammatical subject, we will practice reading and writing based on it. This will be effective to fix your grammatical knowledge and help with your reading and writing skills.

It is our goal to be able to read comparatively easy sentences, such as fairy tales. And at the end of this course, I hope you will pass the 4th stage (Anfängerstufe) of German Deploma in Japan. Also, we aim to increase your interest in German history and culture.

The motto of this class is “simple and easy to understand” When you have any questions during class, please ask me without reservation. Any questions will be welcome.

LANd100LA

ドイツ語補講 2－Ⅰ

2017 年度以降入学者

高橋 憲子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学びます。この言語を話す人々がどのようなものの見方をしているかも見ながら、自身の言語やライフスタイルとの違いを考えていくことになるでしょう。

【到達目標】

基本的なドイツ語の文章を読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回あてていきます。文法説明の後、多くの問題をやりながら理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	発音	説明と練習
2	動詞の現在形	説明と練習
3	不規則動詞	説明と練習
4	名詞の性	説明と練習
5	名詞の格	説明と練習
6	不定冠詞類	説明と練習
7	命令の表現	説明と練習
8	人称代名詞	説明と練習
9	定冠詞類	説明と練習
10	疑問詞	説明と練習
11	話法の助動詞	説明と練習
12	分離動詞	説明と練習
13	非分離動詞	説明と練習
14	前置詞	説明と練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。

【テキスト（教科書）】

『シュトラッセ・ノイ Ver.2.0』
Muelenz 他著 朝日出版社 2300 円

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果（90 %）を中心に、宿題の提出状況等（10 %）も含め、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

We learn the outline of German grammar.

LANd100LA

ドイツ語補講 2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 憲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語文法の基本を学びます。言語ばかりでなく、この言語を話す人々のライフスタイルにも触れて、自身の言語やものの見方との違いを考えていくことになるでしょう。

【到達目標】

基本的なドイツ語の文を読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回あてていきます。たくさんの練習をしながら理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動詞の 3 基本形	説明と練習
2	現在完了	説明と練習
3	過去	説明と練習
4	接続詞	説明と練習
5	受動態	説明と練習
6	非人称	説明と練習
7	zu 不定詞	説明と練習
8	形容詞の語尾	説明と練習
9	比較級	説明と練習
10	再帰表現	説明と練習
11	指示代名詞	説明と練習
12	関係代名詞	説明と練習
13	接続法Ⅱ式	説明と練習
14	接続法Ⅰ式	説明と練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。

【テキスト（教科書）】

『シュトラッセ・ノイ Ver.2.0』
Muelenz 他著 朝日出版社 2300 円

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果（90 %）を中心に、宿題の提出状況等（10 %）も含め、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

We learn the outline of German grammar.

LANf100LA

フランス語 ⅠⅠ

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 ⅠⅠ

2016 年度以前入学者

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初修者向けの文法の授業です。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関する情報を紹介します。

【到達目標】
実用フランス語技能検定試験（仏検）5 級レベル到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
説明、発音練習、文法練習、解説という手順で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	発音とつづり字の読み方（1）
2	イントロダクション	発音とつづり字の読み方（2）
3	Leçon 1	名詞・冠詞
4	Leçon 1	名詞・冠詞
	Leçon 2	動詞 être と avoir
5	Leçon 2	動詞 être と avoir
6	Leçon 3	er 動詞・否定形・疑問形
7	Leçon 3	er 動詞・否定形・疑問形
8	Leçon 4	形容詞
9	Leçon 5	指示形容詞・所有形容詞・強勢形・ir 動詞
10	Leçon 6	動詞 aller と venir・定冠詞の縮約・命令形
11	Leçon 7	動詞 prendre と faire・非人称構文・疑問形容詞
12	Leçon 8	疑問代名詞・疑問副詞
13	復習	主な動詞の直説法現在
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
音声教材をよく聞き、繰り返し発音の練習をすること。宿題を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】
服部悦子、伊藤淑子、近藤由佳『《ブティ》シェリーとフランス語』、三修社、2018 年
ISBN 978-4-384-21045-3 C1085
* 『シェリーとフランス語』とは別のテキストですので注意してください。

【参考書】
文法参考書、仏検対策問題集等を希望者に指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 10 %、小テスト 40 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当につき、特にありません。

【Outline and objectives】
This course is designed for beginners who are learning basis French grammar.

LANf100LA

フランス語 ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 ⅠⅡ

2016 年度以前入学者

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初修者向けの文法の授業です。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関する情報を紹介します。

【到達目標】
実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級レベル到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
説明、発音練習、文法練習、解説という手順で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Leçon 9	動詞 vouloir, pouvoir, devoir
2	Leçon 9	補語人称代名詞
	Leçon 10	比較
3	Leçon 10	現在分詞とジェロンディフ
4	Leçon 11	中性代名詞
5	Leçon 11	動詞 savoir と connaître
	Leçon 12	複合過去
6	Leçon 12	複合過去
7	Leçon 13	関係代名詞・指示代名詞
8	Leçon 13	受動態・強調構文
9	Leçon 14	代名動詞
10	Leçon 14	代名動詞
11	Leçon 15	半過去
12	Leçon 15	単純未来
13	Appendice	大過去・前未来
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
音声教材をよく聞き、繰り返し発音の練習をすること。宿題を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】
服部悦子、伊藤淑子、近藤由佳『《ブティ》シェリーとフランス語』、三修社、2018 年
ISBN 978-4-384-21045-3 C1085
* 『シェリーとフランス語』とは別のテキストですので注意してください。

【参考書】
文法参考書、仏検対策問題集等を希望者に指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 10 %、小テスト 40 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当につき、特にありません。

【Outline and objectives】
This course is designed for beginners who are learning basis French grammar.

LANf100LA

フランス語 Ⅰ I 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅰ I 2016 年度以前入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法 1 年 E・F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法を基礎から学ぶ。

【到達目標】
実用フランス語検定（仏検）4 級を受験できるレベルの力に達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行うが、その際、まず声を出して発音することに留意し、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	フランス語の綴りの読み方と発音	アルファベ、綴り字記号、母音字・子音字の読み方の規則解説と発音練習。
第 2 回	よく使う表現とあいさつ	フランス語の読み方・発音まとめ、発音の復習と補足的解説。
第 3 回	1 課：名詞と冠詞	名詞、不定冠詞、定冠詞、リエゾン、アンシェスマン、エリズイヨンの解説。問題練習。
第 4 回	2 課：動詞 être	主語人称代名詞の解説。être の直説法現在。問題練習。
第 5 回	2 課：動詞 avoir	avoir の直説法現在。il y a の表現。問題練習とディクテ。
第 6 回	3 課：第 1 群規則動詞、否定形、疑問形、数詞	事項解説と問題練習。そのほか月日の表現。
第 7 回	3 課：疑問形、数詞	事項解説と問題練習。ディクテ。
第 8 回	4 課：形容詞	形容詞の性数一致の原則。位置。問題練習。
第 9 回	5 課：指示形容詞・所有形容詞、強勢形	事項解説と問題練習。そのほか曜日表現。
第 10 回	5 課：第 2 群規則動詞	事項解説。数字。問題練習。ディクテ。
第 11 回	6 課：動詞の aller と venir。定冠詞の縮約、命令法	事項解説。国名と前置詞。近接未来と近接過去。問題練習。ディクテ。
第 12 回	7 課：不規則動詞 prendre と faire、非人称構文、疑問形容詞	事項解説。天候表現、時間表現。週・月・曜日・日付の表現。ディクテ。
第 13 回	8 課：疑問代名詞・疑問副詞。	事項解説。さまざまな否定表現。数字。問題練習。ディクテ。
第 14 回	期末試験	まとめの問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は復習に重点をおくこと。

【テキスト（教科書）】
『シェリーとフランス語』（三修社）

【参考書】
『かんたんフランス文法小辞典』（朝日出版）

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）と到達目標に関する期末試験（70 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
We learn the basic grammar of French language.

LANf100LA

フランス語 Ⅰ II 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅰ II 2016 年度以前入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法 1 年 E・F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】
実用フランス語検定（仏検）3～4 級を受験できるレベルの力に達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行う。その際、春学期に続き、声を出して文を読み、フランス語を正確に発音できるように指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	直説法現在形活用まとめ	直説法現在形活用表の使い方、その他事項解説と問題練習。
第 2 回	9 課：動詞 vouloir, pouvoir, devoir。補語人称代名詞	事項解説。補語人称代名詞の位置と語順。問題練習。
第 3 回	10 課：比較	復習問題と補足解説。
第 4 回	10 課：現在分詞とジェロンディフ	事項解説。位置を示す前置詞。問題練習。
第 5 回	11 課：中性代名詞	事項解説と問題練習。
第 6 回	11 課：動詞 savoir と connaître	事項解説。さまざまな数量表現。ディクテ。
第 7 回	12 課：複合過去（1）	直説法複合過去形の解説。問題練習。
第 8 回	12 課：複合過去（2）	時の表現。時を表す前置詞。ディクテ。
第 9 回	13 課：関係代名詞	事項解説。問題練習。
第 10 回	13 課：受動態、強調構文	事項解説。問題練習。
第 11 回	14 課：代名動詞	事項解説。問題練習。ディクテ。
第 12 回	15 課：半過去、大過去単純未来、前未来	事項解説。問題練習。ディクテ。
第 13 回	16 課：条件法、接続法	事項解説。問題練習。ディクテ。
第 14 回	期末試験	まとめの問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
秋学期は、予習中心の準備学習に切り替えること。

【テキスト（教科書）】
『シェリーとフランス語』（三修社）

【参考書】
『かんたんフランス文法小辞典』（朝日出版）

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）と到達目標に関する期末試験（70 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
We learn the basic grammar of French language.

LANf100LA

フランス語 ⅠⅠ

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 ⅠⅠ

2016 年度以前入学者

江澤 健一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年 T

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

【到達目標】
アルファベットから始めて過去の時制まで学ぶ。フランス語検定試験 5 級ならびに 4 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、過去を表す表現まで学ぶ予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	授業説明、アルファベ
2)	leçon 1	名詞の性と数、不定冠詞
3)	leçon 1 leçon 2	部分冠詞、定冠詞
4)	leçon 2	Voici, Voilà, C'est, Ce sont, Il y a
5)	leçon 3	主語人称代名詞、規則動詞 (er 動詞)
6)	leçon 3 leçon 4	規則動詞 (ir 動詞)、疑問形、être と avoir の直説法現在
7)	leçon 4	否定形、疑問形に対する答え、指示形容詞
8)	leçon 5	形容詞の位置、形容詞の女性形、名詞の複数形・形容詞の複数形、形容詞の前の不定冠詞 (複数)
9)	leçon 6	不規則動詞 aller, venir の直説法現在。冠詞の縮約、形容詞の女性形、疑問形容詞
10)	leçon 7	不規則動詞 faire, prendre, mettre, attendre の直説法現在。命令形、所有形容詞
11)	leçon 8	不規則動詞 partir, vouloir, pouvoir, devoir の直説法現在。比較級、最上級、特殊な優等比較級・最上級
12)	leçon 9	不規則動詞 voir, savoir, dire, recevoir の直説法現在。過去分詞、直説法複合過去
13)	leçon 9	直説法複合過去
14)	期末試験とまとめ	直説法複合過去 春学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。

【テキスト（教科書）】
斉藤昌三『新版ル・フランセ』白水社、2001 年、1750 円。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
試験の点数を基準にして評価します（100 パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】
大きな声で授業を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 ⅠⅡ

2016 年度以前入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法 1 年 T

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚えます。秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

【到達目標】
関係代名詞の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験 4 級ならびに 3 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。教室では大きな声で、フランス語を読みましよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	春学期の復習	春学期試験の復習
2)	leçon 10	関係代名詞
3)	leçon 10	疑問代名詞
4)	leçon 11	人称代名詞、直接目的補語と過去分詞の一致
5)	leçon 12	受動態、指示代名詞、強調構文
6)	leçon 13	代名動詞、非人称構文
7)	leçon 14	直説法単純未来、直説法前未来、中性代名詞
8)	leçon 15	直説法半過去、直説法大過去
9)	leçon 15 leçon 16	前置詞 + 関係代名詞、条件法
10)	leçon 16	現在分詞、ジェロンディフ
11)	leçon 17	直説法単純過去
12)	leçon 17	直説法前過去、直接話法と間接話法
13)	leçon 18	接続法、所有代名詞
14)	試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。

【テキスト（教科書）】
斉藤昌三『新版ル・フランセ』白水社、2001 年、1750 円。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
試験の点数を基準にして評価します（100 パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】
大きな声で授業を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 I

2016 年度以前入学者

野村 訓子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
文 1 年 A・B・E・F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、文法の諸規則を説明する。名詞に性・数があること、動詞が主語の人称に応じて変化することなどを見る。英語に似ている側面も多い。一方で動詞の活用などは覚えよう。

【到達目標】

初歩のフランス語文法を理解し、文法規則を運用できるようになることを目標とする。仏検 4 級レベルを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の説明の後、練習問題を解くことで、事項の理解と吸収を図る。復習が必要。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	授業の紹介	フランス語についての紹介。今後の授業の進め方について説明をする。
②	フランス語の音とつづり字	フランス語の母音について説明と、音と綴り字の関係について説明、練習を行う。
③	フランス語の音とつづり字	フランス語の子音について説明と、音と綴り字の関係について説明、練習を行う。
④	1 課 名詞の性と数	フランス語の名詞の男性・女性の区別について説明、練習を行う。
⑤	2 課 定冠詞と前置詞	名詞に先立つ冠詞の中で、定冠詞について説明、練習を行う。
⑥	3 課 主語の人称代名詞	主語人称代名詞の種類。動詞 <i>etre</i> の活用。説明と練習。
⑦	4 課 形容詞と副詞	フランス語の形容詞の性数変化の説明、練習。
⑧	5 課 動詞 <i>avoir</i> の活用	「持つ」という意味を持ち、過去形の助動詞としても用いられる動詞の活用を学び、練習する。
⑨	6 課 <i>-er</i> 動詞の活用	もっとも数の多い動詞の活用について説明する。練習。
⑩	7 課 指示代名詞。	「これ、それ、あれ」という意味を持つ、基本的な語を覚え、練習する。
⑪	8 課 所有形容詞	名詞に先立つ、所有者を示す所有形容詞について説明し、練習する。
⑫	9 課 <i>venir</i> の活用	「来る」という意味の動詞の活用。練習。
⑬	10 課 <i>prendre, faire</i> の直説法現在の活用	「取る、飲む、つかむ」などの広い意味を持つ動詞と「する、作る」などの意味を持つ動詞の活用。練習。
⑭	試験	今までのとりまとめ、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フランス語の文法事項が積み重なるように、復習をし、特に動詞の活用は、その都度、暗記をするようにしていただきたい。

【テキスト（教科書）】

『アベセデ フランセ』（白水社）

【参考書】

辞書として『プチ・ロワヤル』（旺文社）を勧めます。

【成績評価の方法と基準】

毎回、出席を取る。平常点（30 %）と、試験の成績（70 %）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問に答えながら、丁寧な説明をこころがけたい。

【Outline and objectives】

We will learn the basical points of french grammar for 6 months. The grammar of a language is like an architetur structure then do not miss a piece of that structure.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 II

2016 年度以前入学者

野村 訓子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
文 1 年 A・B・E・F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 1 – I につづけて、フランス語文法の諸規則を習う。動詞による時制の表し方、動詞の目的語になる代名詞類、名詞に文を結びつける関係代名詞などを扱う。

【到達目標】

フランス語の文法規則を理解し、運用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の説明の後、練習問題を解きつつ、事項の理解と吸収を図る。予習と復習が必要。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	11 課 複合過去形	「～した」という過去の表現をする動詞の形を学ぶ。練習。
②	12 課 複合過去形の続き	複合過去形の第二のパターンを学ぶ。過去分詞の性・数一致に注意。
③	13 課 直接目的の人称代名詞	「～を」に相当する代名詞を学ぶ。練習。
④	14 課 間接目的の人称代名詞	「～に」に相当する代名詞を学ぶ。練習。
⑤	15 課 代名動詞と呼ばれる一群の動詞を学ぶ。	自分自身を指す代名詞を伴う動詞活用を見る。練習。
⑥	16 課 非人称動詞。命令文。	天候・時刻を表す非人称構文、命令文を学ぶ。練習。
⑦	17 課 半過去	「～であった」という過去の状態を表す過去形を学ぶ。練習。
⑧	18 課 関係代名詞	名詞に修飾する文を結ぶ関係代名詞を見る。練習。
⑨	19 課 単純未来	未来の出来事を動詞活用で示す。練習。
⑩	20 課 中性代名詞 en, y, le.	性・数変化をしない、便利な中性代名詞を学ぶ。練習。
⑪	21 課 受動態	「～される」という意味の受動態について学ぶ。練習。
⑫	22 課 条件法	条件文の中で「もし～であったら」という非現実の家庭の結果を推論する条件法を学ぶ。練習。
⑬	23 課 接続法	話者の心中の願望、恐れなどを表す動詞表現を学ぶ。練習。
⑭	まとめと試験	試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フランス語の文法事項が積み重なるように、よく復習して、特に動詞の活用については、随時、暗記をしていただきたい。

【テキスト（教科書）】
『アベセデ フランセ』（白水社）

【参考書】

辞書として『ブチ・ロワヤル』（旺文社）を勧めます。

【成績評価の方法と基準】

毎回、出席を取る。平常点（30 %）と、試験の結果（70 %）により、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問に答えながら、丁寧に説明をしたい。

【Outline and objectives】

we will study the basical points of french grammar for 6 months. the grammar of a language is like an architectural structure. Then do not miss a piece of this structure.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 I

2016 年度以前入学者

野村 訓子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
文 1 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、文法の諸規則を説明する。名詞に性・数があること、動詞が主語の人称に応じて変化することなどを見る。英語に似ている側面も多い。

【到達目標】

初歩のフランス語文法を理解し、文法規則を運用できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の説明の後、練習問題を解くことで、事項の理解と吸収を図る。予習と復が必要。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	授業の紹介	フランス語についての紹介。今後の授業の進め方について説明をする。
②	フランス語の音とつづり字	フランス語の母音について説明と、音と綴り字の関係について説明、練習を行う。
③	フランス語の音とつづり字	フランス語の子音について説明と、音と綴り字の関係について説明、練習を行う。
④	1 課 名詞の性と数	フランス語の名詞の男性・女性の区別について説明、練習を行う。
⑤	1 課 つづき 不定冠詞と部分冠詞	名詞に先立つ冠詞の中で、不定冠詞と部分冠詞について説明、練習を行う。
⑥	2 課 定冠詞	名詞に先立つ冠詞の中で、定冠詞について説明、練習を行う。
⑦	2 課 つづき - er 動詞の活用	動詞の中で一番数の多い、第一群規則動詞について説明、練習を行う。
⑧	3 課 動詞 avoir の活用	「持つ」という意味を持ち、過去形の助動詞としても用いられる動詞の活用を学び、練習する。
⑨	3 課 つづき 否定形と疑問形	文型の中の、否定形と疑問形について説明し、練習する。
⑩	4 課 動詞 etre の活用	「いる、存在する」という意味を持つ、基本的な動詞の活用を覚え、練習する。
①	4 課 つづき 指示形容詞と所有形容詞	名詞に先立つ、「これ・あれ」という意味の指示形容詞と所有者を示す所有形容詞について説明し、練習する。
②	5 課 形容詞の位置	基本的に名詞の後ろに置かれる形容詞、名詞の前に置かれる形容詞について説明、練習する。
③	5 課 つづき 名詞と形容詞の複数形	名詞と形容詞が同時に複数形になる、英語とは異なるフランス語の規則を見て、練習する。
④	予備日	今までのとりまとめ、復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フランス語の文法事項が積み重なるように、復習をし、特に動詞の活用は、その都度、暗記をするようにしていただきたい。

【テキスト（教科書）】
『アベセデ フランセ』（白水社）

【参考書】

辞書として『ブチ・ロワヤル』（旺文社）を勧めます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、期末試験 80%とし評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問に答えながら、丁寧な説明をこころがけたい。

【Outline and objectives】

We will study the basical points of french grammar. The structure of a language is like an architectural straustructure. Then do not miss a piece of this structure.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 II

2016 年度以前入学者

野村 訓子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
文 1 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 1 – I につづけて、フランス語文法の諸規則を習う。動詞による時制の表し方、動詞の目的語になる代名詞類、名詞に文を結びつける関係代名詞などを扱う。

【到達目標】

フランス語の文法規則を理解し、運用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の説明の後、練習問題を解きつつ、事項の理解と吸収を図る。予習と復習が必要。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	6 課 動詞 aller, venir の活用形	「行く」「来る」という意味を持ち、時制の表示にも関わる動詞の活用を学び、練習する。
②	6 課 つづき 前置詞と定冠詞の縮約、命令形	前置詞と定冠詞の間に生じる、縮約の減少を学び、練習する。命令の文についても学ぶ。
③	7 課 動詞 choisir, prendre の活用形	「選ぶ」「取る」という意味を持つ、動詞の活用を学び、練習する。
④	7 課 つづき 形容詞と副詞の比較級と最上級	「より・・・だ、一番・・・だ。」という意味を持つ形容詞と副詞の比較級、最上級について学ぶ。
⑤	8 課 動詞 faire, partir の活用形	「行う」「出発する」という意味を持つ、動詞の活用を学び、練習する。
⑥	8 課 つづき 動詞の目的語となる人称代名詞	「・・・に」「・・・を」という意味の目的語となる代名詞について学び、練習する。
⑦	9 課 動詞 devoir, pouvoir, vouloir の活用形	「するべきだ」「できる」「欲する」という意味で、他の動詞を助けて意味を構成する動詞について学び、練習する。
⑧	9 課 つづき 疑問代名詞と代名動詞	自分自身を指す代名詞を伴う代名動詞、「誰が」「誰を」「何が」「何を」という意味を持つ疑問代名詞について学び、練習する。
⑨	10 課 過去文詞	動詞の過去分詞の作り方を学び練習する。
⑩	10 課 つづき 複合過去形	「・・・した」という完結した過去の事実を示す複合過去について学び、練習する。
①	11 課 半過去形	「・・・していた」という進行中の過去を示す半過去形について学び、練習する。
②	11 課 つづき 代名詞 en, y	名詞を置き換える代名詞の中で、性と数によって変化しない2つの代名詞を学び、練習する。
③	12 課 単純未来形	未来の事柄をしめす動詞の単純未来形について学ぶ。
④	12 課 つづき 非人称構文、強調構文	形式上の主語を持つ非人称構文と、文中の一つの要素を強調する強調構文を学び練習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フランス語の文法事項が積み重なるように、よく復習して、特に動詞の活用については、随時、暗記をしていただきたい。

【テキスト（教科書）】

『アベセデ フランセ』（白水社）

【参考書】

辞書として『ブチ・ロワヤル』（旺文社）を勧めます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、期末試験 80%とし評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問に答えながら、丁寧に説明をしたい。

【Outline and objectives】

We will study the basic points of french grammar. The grammar of a language is like an architectural structure. The do not miss a piece of this structure.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 I

2016 年度以前入学者

柴崎 秀穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 R・T・U～W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基本的な文法を学びます。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）のA1レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

まず教師が文法事項を解説し、全員で例文を音読、次に学生が練習問題を解く、という形で授業を進めます。練習問題はプリントを多用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーションとアルファベ	授業の進め方、勉強の仕方、成績の付け方などの説明。仏和辞典の紹介。アルファベ。
2 回目	フランス語の音。第 1 課。	アルファベ、フランス語の音、名詞。
3 回目	第 1 課続き。第 2 課。	冠詞、主語人称代名詞、動詞「～である」
4 回目	第 3 課。	動詞「持つ」、否定
5 回目	第 4 課。	部分冠詞、形容詞
6 回目	第 5 課。	第一群規則動詞、疑問文
7 回目	第 6 課。	指示形容詞、所有形容詞
8 回目	第 7 課。	「行く」と「来る」、縮約
9 回目	第 8 課。	近接未来と近接過去、非人称
10 回目	発音のまとめ	綴り字の読み方のまとめ
11 回目	第 9 課。	第二群規則動詞、命令法
12 回目	第 10 課。	疑問形容詞、疑問代名詞
13 回目	第 10 課続き。復習。	疑問代名詞、疑問副詞
14 回目	期末試験。	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題は 5 割ほどが宿題になるので、必ず解いてくること。

【テキスト（教科書）】

『新・フランス語文法の基礎（二訂版）』、太田、前田、渡辺著、駿河台出版社

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』森本・三野著、駿河台出版社、1900 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）と平常点（10 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を、より効果的なものに代えました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC も 975 点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Students taking this course will learn French grammar.

LANf100LA

フランス語 1Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1Ⅱ 2016 年度以前入学者

柴崎 秀穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 R・T・U～W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の基本的な文法を学びます。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）の A1 レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

まず教師が文法事項を解説し、全員で例文を音読、次に学生が練習問題を解く、という形で授業を進めます。練習問題はプリントを多用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	第 1 1 課。	目的格人称代名詞
2 回目	第 1 2 課。	代名動詞
3 回目	第 1 3 課。第 1 4 課。	複合過去（1）
4 回目	第 1 4 課続き。	複合過去（2）
5 回目	第 1 5 課。	半過去
6 回目	第 1 6 課。	比較と最上級
7 回目	第 1 7 課。	単純未来
8 回目	第 1 8 課。	中性代名詞
9 回目	第 1 9 課。	関係代名詞 qui、que
10 回目	第 1 9 課続き。	関係代名詞 dont、ou
11 回目	第 2 0 課。	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
12 回目	第 2 1 課。	条件法
13 回目	第 2 2 課。	接続法
14 回目	期末試験。	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題は 5 割ほどが宿題になるので、必ず解いてくること。

【テキスト（教科書）】

『新・フランス語文法の基礎（二訂版）』、太田、前田、渡辺著、駿河台出版社

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）と平常点（10 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を、より効果的なものに代えました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC も 975 点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Students taking this course will learn French grammar.

LANf100LA

フランス語 1Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1Ⅰ 2016 年度以前入学者

江澤 健一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
営 1 年 A～E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

【到達目標】

アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験 5 級ならびに 4 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	授業説明、アルファベ
2)	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3)	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4)	leçon 3, leçon 4	C'est, etc. 第 1 群規則動詞、第 2 群規則動詞
5)	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6)	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、疑問形、oui, Non, Si
7)	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞
8)	leçon 7, leçon 8	名詞と形容詞の女性形と複数形の特徴形、不規則動詞 acheter, préférer、aller と venir の直説法現在
9)	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10)	leçon 9	疑問代名詞
11)	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14)	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、他『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

試験の点数を基準にして評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

大きな声で授業を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 II

2016 年度以前入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
営 1 年 A～E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚えます。秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

【到達目標】

命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験 4 級ならびに 3 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。教室では大きな声で、フランス語を読みましよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	春学期の復習	春学期試験の復習
2)	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 manger, dire
3)	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4)	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5)	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6)	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7)	leçon 16	代名動詞の活用と用法、不規則動詞 s'appeler
8)	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 le, en, y 、不規則動詞 devoir
9)	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10)	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11)	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12)	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13)	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 vivre
14)	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

試験の点数を基準にして評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

大きな声で授業を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 I

2016 年度以前入学者

小幡 一雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
営 1 年 F～R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ボンジュール！ フランス語をはじめて学ぶ学生を対象に、フランス語の基礎となる文法をしっかりと習得することを目的とします。フランス語の発音のしくみを理解し、簡単な挨拶表現や数字を身につけます。また、文法の仕組みの基本的な枠組みが理解できるようになります。

【到達目標】

1. フランス語の発音の仕組みを理解し、発音できるようにする。
2. フランス語の文法の構造を理解し、習得する。
3. フランス語の文章が読めるようになるための基礎固めをする。
4. フランス語で会話ができるようになるための練習をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

まず、フランス語の発音のしくみからスタートします。そして、1 課から文法や会話表現について説明します。それにもとづいて教室で、あるいは宿題として、練習問題や会話をやってもらい、確実に知識を身につけていきます。毎回、最初に小テストをおこないます。それをペースメーカーにして勉強を続けてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	挨拶する	名詞の性と数 冠詞
2	自己紹介する	主語人称代名詞 直説法現在
3	自己紹介する	形容詞 否定文
4	尋ねる	avoir 疑問文
5	尋ねる	疑問形容詞
6	まとめ	総復習
7	ものや人を提示する	提示表現 指示形容詞 所有形容詞
8	夏休みの予定	aller, venir 前置詞と冠詞
9	夏休みの予定	近接未来・過去
10	バカンスの報告をする	直説法複合過去（1）
11	バカンスの報告をする	直説法複合過去（2）
12	バカンスの報告をする	比較級
13	バカンスの報告をする	最上級
14	総合練習	直説法現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の小テストや宿題をペースメーカーにして、復習中心で覚えるべき単語や文法について、60 分はしっかりと勉強してください。

【テキスト（教科書）】

『新・東京・パリ、初飛行』、藤田裕二、駿河台出版社、2017、2,376 円。

【参考書】

『新モン・フランセ ひとりで学ぶフランス語』、駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

中間と期末試験（筆記）の合計点（90%）
小テストの合計点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の文法は覚えることが多いですが、できるだけ分かりやすく説明します。一歩一歩着実に勉強を続けていけば、フランス語そのものがどんどん面白くなってきます。異文化発見への旅に出るため、復習を怠ることなく、たゆまず頑張ってください！

【Outline and objectives】

This is the first class for students studying French. The goal is to lay the foundation of communication, centering on basic grammar.

LANf100LA

フランス語 1 II 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 II 2016 年度以前入学者

小幡 一雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
営 1 年 F～R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、フランス語の初級文法を習得します。

【到達目標】

フランス語初級文法を身につける。
会話に役立つさまざまな表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回最初に小テストを行います。次に、テキストに沿って文法を説明します。練習問題が宿題になります。また会話のスケッチの和訳も宿題になります。宿題の解答や和訳は次回の授業で確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	贈り物を考える	目的語人称代名詞
2	贈り物を考える	中性代名詞
3	贈り物を考える	数量表現を使って、食べ物・飲み物をいう。
4	日常の行動をいう	代名動詞
5	日常の行動をいう	現在分詞・ジェロンディフ
6	日常の行動をいう	日課をいう
7	過去を語る	半過去
8	過去を語る	複合過去と半過去
9	過去を語る	自分の過去を語る
10	旅した国について話す	関係代名詞
11	旅した国について話す	過去分詞の一致
12	旅した国について話す	旅先からメッセージを書く
13	未来の計画を語る	単純未来
14	未来の計画を語る	強調構文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回行う小テストや宿題をこなしながら、覚えるべきことを覚え、フランス語初級文法を身につけてください。
また、役に立つ会話表現を覚えてください。

【テキスト（教科書）】

『新・東京-パリ、初飛行』、藤田裕二、駿河台出版社、2017、2,376 円。

【参考書】

『新モン・フランセ ひとりで学ぶフランス語』、駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

中間試験と期末試験の合計点（90%）
小テストの合計点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく丁寧に説明します。無理なく進めていくので、毎回出席して、楽しみながら勉強を続けてください。

【Outline and objectives】

Following the Spring semester, you will acquire elementary French grammar and broaden the range of communication.

LANf100LA

フランス語 1 I 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 I 2016 年度以前入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
営 1 年 S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を基礎から学ぶ。

【到達目標】

実用フランス語検定（仏検）4 級を受験できるレベルの力に達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行うが、その際、まず声を出して発音することに留意し、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス語の綴りの読み方と発音	アルファベ、綴り字記号、母音字・子音字の読み方の規則解説と発音練習。
第 2 回	よく使う表現とあいさつ	フランス語の読み方・発音まとめ、発音の復習と補足的解説。
第 3 回	1 課：名詞と冠詞	名詞、不定冠詞、定冠詞、リエゾン、アンシェヌマン、エリズイヨンの解説、問題練習。
第 4 回	2 課：動詞 être	主語人称代名詞の解説、être の直説法現在、問題練習。
第 5 回	2 課：動詞 avoir	avoir の直説法現在、il y a の表現、問題練習とディクテ。
第 6 回	3 課：第 1 群規則動詞、否定形、疑問形、数詞	事項解説と問題練習、そのほか月日の表現。
第 7 回	3 課：疑問形、数詞	事項解説と問題練習、ディクテ。
第 8 回	4 課：形容詞	形容詞の性数一致の原則、位置、問題練習。
第 9 回	5 課：指示形容詞・所有形容詞、強勢形	事項解説と問題練習、そのほか曜日表現。
第 10 回	5 課：第 2 群規則動詞	事項解説、数字、問題練習、ディクテ。
第 11 回	6 課：動詞の aller と venir、定冠詞の縮約、命令法	事項解説、国名と前置詞、近接未来と近接過去、問題練習、ディクテ。
第 12 回	7 課：不規則動詞 prendre と faire、非人称構文、疑問形容詞	事項解説、天候表現、時間表現、週・月・曜日・日付の表現、ディクテ。
第 13 回	8 課：疑問代名詞・疑問副詞。	事項解説、さまざまな否定表現、数字、問題練習、ディクテ、まとめの問題。
第 14 回	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は復習に重点をおくこと。

【テキスト（教科書）】

『シェリールとフランス語』（三修社）

【参考書】

『かんたんフランス文法小辞典』（朝日出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）と到達目標に関する期末試験（70 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

We learn the basic grammar of French language.

LANf100LA

フランス語 1 II2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 II2016 年度以前入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
営 1 年 S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】
実用フランス語検定（仏検）3～4 級を受験できるレベルの力に達することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
文法事項の解説と、それに応じた題練習を行う。その際、春学期に続き、声を出して文を読み、フランス語を正確に発音できるように指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	直説法現在形活用まとめ	直説法現在形活用表の使い方、その他事項解説と問題練習。
第 2 回	9 課：動詞 vouloir, pouvoir, devoir. 補語人称代名詞	事項解説。補語人称代名詞の位置と語順。問題練習。
第 3 回	10 課：比較	復習問題と補足解説。
第 4 回	10 課：現在分詞とジェロンディフ	事項解説。位置を示す前置詞。問題練習。
第 5 回	11 課：中性性代名詞	事項解説と問題練習。
第 6 回	11 課：動詞 savoir と connaître	事項解説。さまざまな数量表現。ディクテ。
第 7 回	12 課：複合過去（1）	直説法複合過去形の解説。問題練習。
第 8 回	12 課：複合過去（2）	時の表現。時を表す前置詞。ディクテ。
第 9 回	13 課：関係代名詞	事項解説。問題練習。
第 10 回	13 課：受動態、強調構文	事項解説。問題練習。
第 11 回	14 課：代名動詞	事項解説。問題練習。ディクテ。
第 12 回	15 課：半過去、大過去、単純未来、前未来	事項解説。問題練習。ディクテ。
第 13 回	16 課：条件法、接続法	事項解説。問題練習。ディクテ。
第 14 回	期末試験	まとめの問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
秋学期は、予習中心の準備学習に切り替えること。

【テキスト（教科書）】
『シェリーとフランス語』（三修社）

【参考書】
『かんたんフランス文法小辞典』（朝日出版社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）と到達目標に関する期末試験（70 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
We learn the basic grammar of French language.

LANf100LA

フランス語 2 I2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 I2016 年度以前入学者

寺家村 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスはフランス語運用能力を養うことを目的としています。とりわけ基礎的なフランス語を「話す力」、「聞く力」をバランスよく、着実に身につけていきます。

【到達目標】
まずフランス語の読み方に慣れることから始め、簡単な日常会話での表現、基本動詞を用いた会話のための文章作成を学んでいきます。これにより学生のみなさんは日常の様々な場面において使用できるフランス語の表現と文章を会話に取り入れていくことが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
演習形式で進めていきます。授業中に学習した表現等を用いて、簡単なフランス語を用いて会話をおこなっていきます。同時にリスニングにも注力していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1 回	フランス語の読みと発音	母音字と子音字の基本的な読み方を学習します
2 回	フランス語の読みと発音	鼻母音と注意する必要がある子音を集中的に学習します
3 回	フランス語の文章の読み	第 1 回、2 回の授業で学習した内容をふまえて、フランス語の文章を正しく読めるようにしていきます
4 回	簡単な表現	ごく簡単な挨拶の表現を学習し、主語人称代名詞を覚えます
5 回	冠詞や前置詞	定冠詞と日常よく用いる前置詞を学習し、会話の中で使っていきます
6 回	基本動詞の一つを学ぶ	Etre 動詞を学び、様々な会話のバリエーションに用いていきます
7 回	疑問文の作り方	3 種類の疑問の形を覚え、簡単な疑問文の作成と答え方を学びます
8 回	疑問副詞と名前を言う表現	場所をたずねる疑問の形と名前を答える表現などを学びます
9 回	2 つの冠詞と否定形	不定冠詞と部分冠詞の用法を学び、これを用いた会話文の作成をします。また否定の形もあわせて学習します。
10 回	基本動詞の使い方	Avoir 動詞を学び、この動詞を用いた様々な表現を用いて会話をします
11 回	否定のバリエーション	様々な否定の表現を学習し、文章を作成してみます
12 回	第 1 群規則動詞	規則動詞の活用を練習し、会話の中で使えるようにします
13 回	指示形容詞	前回の復習で規則動詞を用いた会話の練習と指示形容詞の用法を学習します
14 回	前期の振り返りと解説	前期に学習した内容をテストの形式でチェックし、その後、解説をしていきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎回復習のための課題をだすことになります。記述形式のものとなる予定です。

【テキスト（教科書）】
『ヌーヴォー！』（小倉博史、朝日出版社）

【参考書】
とくに指定はしません

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（70 %）、小テスト（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】
The aim of this class is to help students acquire an ability for elementary french conversation and hearing.

LANf100LA	フランス語 2 II	2017 年度以降入学者
LANf100LA	フランス語 2 II	2016 年度以前入学者
寺家村 博		

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスでは引き続き初歩のフランス語の「話す力」と「聞く力」をつけていきます。

【到達目標】
学生はこのクラスを履修することで、フランス語 II 1 に引き続いてフランスでの日常会話に必要な表現や語句を覚えてき、様々な生活場面でフランス語での表現が出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
演習形式で授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
1 回	所有形容詞と場所の前置詞	所有形容詞の用法を学び、それを会話の中で使っていきます。また場所の前置詞も覚えます。
2 回	品質形容詞と疑問形容詞	形容詞の基本的な使い方と疑問形容詞の用法を学び、会話の中で使ってみます。
3 回	年齢の表現、数詞と命令形	年齢を訪ねる表現と数の表現を学び、実際に会をしてみます。また命令形の用法も学習します。
4 回	時間や天気表現	時間をたずね、それに答える表現を学びます。
5 回	形容詞と副詞の比較級、最上級	比較級と最上級の用法を学び、会話の中で文章を作成していきます
6 回	単純未来と近接未来	2 つの未来形の形を学習し、実際に会話で使ってみます。
7 回	疑問代名詞	「ひと」と「もの」をたずねる疑問代名詞を学び、質問に的確に答えられるようにします。
8 回	複合過去形（1）と近接過去	2 つの過去形の形と用法を学びます。そして実際に会話のなかで使ってみます。
9 回	複合過去形（2）	前回に引き続き複合過去形を学習し、会話での使用を更に進めていきます。
1 0 回	曜日、月、四季の表現。	7 曜日、1 2 カ月そして四季の言い方を学び、正しく発音できると同時に書けるようにする。
1 1 回	直説法半過去	半過去の用法を学び、複合過去との使い分けを意識しながら、会話の中で表現してみる。
1 2 回	条件法現在	主として会話で用いる「丁寧な表現」としての条件法を学び、会話の中で使ってみる。
1 3 回	不規則動詞	代表的な不規則動詞の活用を覚え、会話の中で使ってみる。
1 4 回	振り返りと解説	学期末テスト実施し、その後解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎回復習のための課題を出します。記述式のものとなる予定です。

【テキスト（教科書）】
フランス語 2 I のテキストを継続使用します。

【参考書】
とくに指定はしません。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（70%）と小テスト（30%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
The aim of this class is to help students acquire an ability for elementary french conversation and hearing.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2016 年度以前入学者

小幡 一雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 1 年 E・F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ボンジュール！ フランス語をはじめて学ぶ学生を対象に、フランス語の基礎となる文法をしっかりと習得することを目的とします。
フランス語の発音のしくみを理解し、簡単な挨拶表現や数字を身につけます。また、文法の仕組みの基本的な枠組みが理解できるようになります。

【到達目標】

1. フランス語の発音の仕組みを理解し、発音できるようにする。
2. フランス語の文法の構造を理解し、習得する。
3. フランス語の文章が読めるようになるための基礎固めをする。
4. フランス語で会話ができるようになるための練習をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、前回の授業について的小テストをします。そのあと、文法について解説するので理解してください。さらに、生きた会話表現を会話のスケッチを読みながら身につけ、練習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	挨拶する	名詞の性と数 冠詞 数 挨拶表現 主語と動詞
3	挨拶する	数 挨拶表現 主語と動詞
4	自己紹介する	自己紹介 否定文
5	自己紹介する	自己紹介 否定文
6	持ち物・年齢・趣味をいう	avoir 動詞 疑問文
7	持ち物・年齢・趣味をいう	持ち物・年齢・趣味をいう表現
8	尋ねる	第一群規則動詞
9	尋ねる	疑問文
10	尋ねる	カフェで注文する。 好き嫌いをいう
11	夏休みの予定をいう	aller, venir 動詞
12	夏休みの予定をいう	前置詞 近接未来・近接過去 行き先や交通手段をいう
13	夏休みの予定をいう	夏休みの予定をいう
14	夏休みの予定をいう	夏休みの予定をいう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の小テストや宿題をペースメーカーにして、復習中心で覚えるべき単語や文法について、60 分はしっかりと勉強してください。

【テキスト（教科書）】

『新・東京-パリ、初飛行』、藤田裕二、駿河台出版社、2017、2,376 円。

【参考書】

『新モン・フランセ ひとりで学ぶフランス語』、駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

中間と期末試験（筆記）の合計点（90%）

小テストの合計点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の文法は覚えることが多いですが、できるだけ分かりやすく教えます。一步一步着実に勉強を続けていけば、フランス語そのものがどんどん面白くなってきます。異文化発見への旅に出るため、復習を怠ることなく、たゆまず頑張ってください！

【Outline and objectives】

This is the first class for students studying French. The goal is to lay the foundation of communication, centering on basic grammar.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2016 年度以前入学者

小幡 一雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 1 年 E・F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、フランス語初級文法を概観し完成させます。
基本的な会話表現を身につけます。

【到達目標】

フランス語初級文法を理解し習得します。
日常生活でよく用いる会話表現を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回小テストを行い、前回の復習をします。次に文法について説明します。練習問題が宿題になります。会話のスケッチの訳も宿題になります。それらの解答や解説は、次回の授業で確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	贈り物を考える	目的語人称代名詞
2	贈り物を考える	中性代名詞
3	贈り物を考える	贈り物を伝える
4	日常の行動をいう	代名動詞
5	日常の行動をいう	ジェロンディフ
6	日常の行動をいう	日課をいう
7	過去を語る	半過去
8	過去を語る	複合過去と半過去
9	過去を語る	過去について述べる
10	旅した国について話す	関係代名詞
11	旅した国について話す	過去分詞の一致
12	旅した国について話す	旅先からメッセージを書く
13	未来の計画を語る	単純未来
14	未来の計画を語る	受動態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回行う小テストや宿題をこなしながら、覚えるべき事項を覚えていってください。

【テキスト（教科書）】

『新・東京-パリ、初飛行』、藤田裕二、駿河台出版社、2017、2,376 円。

【参考書】

『新モン・フランセ ひとりで学ぶフランス語』、駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

中間試験と期末試験の合計点（90 %）

小テストの合計点【10%】

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく丁寧に説明します。

【Outline and objectives】

Following the Spring semester, you will acquire elementary French grammar and broaden the range of communication.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2016 年度以前入学者

杉村 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法 1 年 T

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フレンチポップスをフランス語で歌えるようにする
- 4 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る。

【到達目標】

きちんと発音ができ、大きな声でフレンチポップスを歌えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1 単語や短文の小テスト（計 10 回）

2 初級文法解説

3 練習問題

（辞書は常に携帯すること）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	年間授業内容の説明 成績評価の方法 アルファベットの発音
2	発音の練習 1	0 課プレリユード 1
3	発音の練習 2	0 課プレリユード 2
4	名詞と冠詞	Leçon 1 文法説明
5	「オー・シャンゼリゼ」	Leçon 1 練習問題
6	主語人称代名詞・動詞 etre	Leçon 2 文法説明
7	「夢見るシャンソン人形」	Leçon 2 練習問題
8	形容詞・動詞 avoir	Leçon 3 文法説明
9	「子どもを抱いて」	Leçon 3 練習問題
10	-er 動詞、-ir 動詞。否定 文	Leçon 4 文法説明
11	「シェリーに口づけ」	Leçon 4 練習問題
12	疑問文、動詞 aller/venir	Leçon 5 文法説明
13	「もう森へなんか行かない」	Leçon 5 練習問題
14	前期のまとめ	歌のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
今回の単語調べ

【テキスト（教科書）】
『ポップ・フランセ』（駿河台出版社、2500 円＋税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点分を 50 %、10 回行う小テストの合計 50 %で、60 点以上を合格として、素点による新しい成績評価基準 SABCDE で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要求があるので、適宜 Youtube など映像を紹介する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】
Learn Franch by singing

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2016 年度以前入学者

杉村 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法 1 年 T

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フレンチポップスをフランス語で歌えるようにする
- 4 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る。

【到達目標】

フランス語をきちんと発音し、大きな声でフレンチポップスを歌えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1 単語や短文の小テスト（計 10 回）

2 初級文法解説

3 練習問題（辞書は常に携帯すること）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前期の復習	発音の復習
2	疑問詞、 比較級・最上級 準助動詞	Leçon 7 文法説明
3	「ラストダンスは私に」	Leçon 7 練習問題
4	不規則動詞	Leçon 8 文法説明
5	「愛すること」	Leçon 8 練習問題
6	疑問代名詞・関係代名詞	Leçon 9 文法説明
7	「愛のとりこ」	Leçon 9 練習問題
8	目的語代名詞、代名動詞	Leçon 10 文法説明
9	「いつものように」	Leçon 10 練習問題
10	複合過去・半過去	Leçon 11 文法説明
11	「シェリーに口づけ」	Leçon 11 練習問題
12	構文練習	Leçon 12 文法説明
13	「心に太陽を」	Leçon 12 練習問題
14	後期のまとめ	全員で合唱

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
今回の単語調べ

【テキスト（教科書）】
『ポップ・フランセ』（駿河台出版社、2500 円＋税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点分を 50 %、10 回行う小テストの合計 50 %で、60 点以上を合格として、素点による新しい成績評価基準 SABCDE で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要望があり、適宜 Youtube など映像を見せていく

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】
Learn French by singing

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 I

2016 年度以前入学者

篠原 学

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 1 年 A・B・E・F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基本的な仕組みを学びながら、とりわけ会話能力の伸長を目指します。じっさいの会話で用いられるフランス語の表現を学ぶことで、フランスの文化・社会についての紹介も行うことができると考えています。

【到達目標】

フランス語の基本的な仕組みについての理解を深める。フランス語の発音を身につける。日常的に使用されるフランス語の表現に習熟し、じっさいの会話の中で運用できるようにする。フランス語で簡単な意思の疎通が行えるようになる。フランスの文化・社会についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

会話の演習が中心となるが、必要な文法事項の説明は講義形式で行う。会話の演習においては、役割分担を行うためにペアワークやグループワークも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス語という言語を知る。	フランス語が話されている地域やフランス語の言葉としての成り立ちについて学ぶ。
第 2 回	挨拶をする。	フランス語の ABC の発音を覚え、綴り字と発音の規則を学ぶ。名詞に男性形と女性形があることを知る。
第 3 回	職業、身分を言う。	主語人称代名詞と基本的な動詞について学ぶ。
第 4 回	国籍を言う。	形容詞と名詞の性・数変化、否定形について学ぶ。
第 5 回	住んでいるところを尋ねる。	第一群規則動詞、国や地域の前置詞について学ぶ。
第 6 回	話せる言語を言う。	疑問文の作り方について学ぶ。
第 7 回	家族について話す。	動詞 avoir、名詞の性と数について学ぶ。
第 8 回	年齢を尋ねる。	所有形容詞・疑問形容詞について学ぶ。
第 9 回	好みを言う。	動詞 aimer、定冠詞について学ぶ。
第 10 回	理由を尋ねる。	形容詞の用法について学ぶ。
第 11 回	物について尋ねる。	c'est の表現、il y a の表現について学ぶ。
第 12 回	位置や場所を尋ねる。	定冠詞の縮約について学ぶ。
第 13 回	容姿や服装を尋ねる。	関係代名詞 qui と que について学ぶ。
第 14 回	持ち主を言う。 まとめ	指示形容詞、人称代名詞の強勢形について学ぶ。期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストが指定されているので、予習の段階で、次回何を学ぶのかを把握しておく。復習としては、授業で説明された文法事項について、自分自身で説明できるように、ノートにまとめておく。その過程で新たに生じた疑問点については、次回授業で質問できるように不明点を整理しておく。授業で学んだ表現については、それを用いる演習問題がテキストの中にあるので、自分で会話文のサンプルを作ってみる。また、CD が付属しているので、会話文のスキットについて、教科書を見ながら音声を確認し、自身でも繰り返し発音してみる。

【テキスト（教科書）】

『フラッシュ！』（CD 付）エマニュエル・アンティエ、三上純子、ミシェル・サガズ著、駿河台出版社、2015 年、2600 円＋税。

【参考書】

参考書は特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への主体的な取り組み、ペアワーク・グループワークへの参加度）が 50%、小テスト（毎回ではないが、複数回行われる）が 20%、期末試験が 30%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is studying the basic mechanism of french language in order to improve your linguistic ability in conversation. I intend to make an introduction to the french culture and society through many conversational activities that can occur in reality.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2016 年度以前入学者

篠原 学

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 1 年 A・B・E・F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基本的な仕組みを学びながら、とりわけ会話能力の伸長を目指します。じっさいの会話で用いられるフランス語の表現を学ぶことで、フランスの文化・社会についての紹介も行うことができると考えています。

【到達目標】

フランス語の基本的な仕組みについての理解を深める。フランス語の発音を身につける。日常的に使用されるフランス語の表現に習熟し、じっさいの会話の中で運用できるようにする。フランス語で簡単な意思の疎通が行えるようになる。フランスの文化・社会についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

会話の演習が中心だが、必要な文法事項は講義形式で説明する。会話の役割分担が必要になるので、ペアワークやグループワークも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	移動について説明する。	不規則動詞 aller, venir, prendre について学ぶ。
第 2 回	交通手段を言う。	中性代名詞 y について学ぶ。
第 3 回	天候について話す。	天候の表現について学ぶ。
第 4 回	時刻を尋ねる。	時刻の表現について学ぶ。
第 5 回	食習慣について話す。	動詞 manger, boire、部分冠詞について学ぶ。
第 6 回	値段を尋ねる。	中性代名詞 en について学ぶ。
第 7 回	習慣について話す。	代名動詞について学ぶ。
第 8 回	日常の活動について話す。	不規則動詞 faire, lire, dormir について学ぶ。
第 9 回	過去のことを話す。	過去分詞について学ぶ。
第 10 回	いつのことだったかを言う。	直説法複合過去の avoir をとる形について学ぶ。
第 11 回	期間を言う。	直説法複合過去の etre をとる形について学ぶ。
第 12 回	過去の習慣について話す。	直説法半過去について学ぶ。
第 13 回	変化を表す。	人称代名詞、直接目的語・間接目的語について学ぶ。
第 14 回	過去の表現のまとめ。	過去の表現をまとめ、期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストが指定されているので、予習の段階で、次回何を学ぶのかを把握しておく。復習としては、授業で説明された文法事項について、自分自身で説明できるように、ノートにまとめておく。その過程で新たに生じた疑問点については、次回授業で質問できるように不明点を整理しておく。授業で学んだ表現については、それを用いる演習問題がテキストの中にあるので、自分で会話文のサンプルを作ってみる。また、CD が付属しているので、会話文のスキットについて、教科書を見ながら音声を確認し、自身でも繰り返し発音してみる。

【テキスト（教科書）】

『フラッシュ！ (CD 付)』エマニュエル・アンティエ、三上純子、ミシェル・サガズ著、駿河台出版社、2015 年、2600 円＋税。

【参考書】

参考書は特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への主体的な取り組み、ペアワーク・グループワークへの参加度）が 50%、小テスト（毎回ではないが、複数回行われる）が 20%、期末試験が 30%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is studying the basic mechanism of French language in order to improve your linguistic ability in conversation. I intend to make an introduction to the French culture and society through many conversational activities that can occur in reality.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2016 年度以前入学者

畑中 敏夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な文法事項の習得と単語や表現を実践的に身に付けることを目的としています。

【到達目標】

話す、聞く、読むという実践を通じて、フランス語の基礎を習得することで、仏検 5 級のレベルに達する事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法説明と問題演習の二本立てで授業は構成されるが、会話文を何度も聞いて聴解力を高めることも考えている。何回か小テストも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	学習上の注意	フランス語の特色
2	挨拶	名詞の性と数
3	自己紹介	be 動詞に当る動詞の活用
4	年齢を言う	have 動詞に当る動詞の活用
5	尋ねる	第一群規則動詞の活用
		疑問文
6	提示する	提示表現
7	買物をする	所有形容詞
		疑問副詞
8	人物を説明する	aller, venir の活用
9	予定を言う	近接未来と近接過去
10	家族を語る	定冠詞の縮約
11	比較をする	比較級と最上級
12	過去を語る	直説法複合過去の作り方
		と用法
13	過去を語る	直説法複合過去の疑問文と否定文
14	まとめと試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

動詞の活用と基本文の復習を心がけること。

【テキスト（教科書）】

『エスカパード フランス語への旅 改訂版』林ゆき他 駿河台出版社 2100 円

【参考書】

使用せず。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 8 割 小テスト 2 割

【学生の意見等からの気づき】

解りやすい説明を心がける。

【Outline and objectives】

The main aim of this class is to learn the elementary French grammar.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ2016 年度以前入学者

畑中 敏夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今学期は動詞の時制が中心になりますが、多様な会話表現も多く学びます。

【到達目標】
平易なフランス文の読解力が身につく、仏検 3 級に対応する語学力がつく事を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
文法説明と問題演習ならびに基本例文の暗記が、授業の内容になります。また、小テストも何回か実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前期の復習	複合過去
2	天候を言う	非人称表現
3	贈り物をする	目的語人称代名詞
4	行動を言う	代名動詞
		第二群規則動詞
5	依頼する	命令法
		中性代名詞
6	過去を語る 1	直説法半過去の用法
7	過去を語る 2	半過去と複合過去の違い
8	過去を語る 3	直説法大過去の用法
9	未来を語る	直説法単純未来
10	夢を語る	条件法現在形の用法
11	感情を表現する	接続法現在の形式と用法
12	歴史を語る	直説法単純過去の作り方
13	復習	動詞の活用まとめ
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に、動詞の時制をしっかり復習すること。

【テキスト（教科書）】
春学期に使用したものを継続して使う。
『エスカバード フランス語への旅』林ゆき他 駿河台出版社 2100円

【参考書】
使用せず

【成績評価の方法と基準】
定期試験に 80 点、小テストに 20 点 配分し合計 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
解りやすい説明を心がける

【Outline and objectives】
The main aim of this class is to learn the elementary French grammar.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ2016 年度以前入学者

山口 雅敏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
文 1 年 R・T・U～W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語を使って初歩的な会話ができるようになるように、フランス語の基本的な表現を中心に学習していく。

【到達目標】
フランス語で挨拶をする、自己紹介するなどの、初歩的な表現を身につけていく。簡単な会話であれば、ある程度できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
フランス語の基本的な表現の発音を確認した後、反復練習をする。適宜、ペアやグループになって会話の練習も行う。また、フランス語の聞き取り練習も合わせて行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベットなど
2	1 課	フランス語で自己紹介をする。国籍を言う。元気かどうかを聞く。
3	1 課	練習問題
	文法	数字 1～20
4	2 課	フランス語で職業を言う。
	会話表現	住所を言う。
5	2 課	練習問題
	文法	数字 21～30
6	3 課	フランス語で国籍を言う。
	会話表現	カフェで注文する。
7	3 課	練習問題
	文法	数字 31～69
8	4 課	フランス語で、年齢を尋ねる、答える。
	会話表現	
9	4 課	練習問題
	文法	数字 0～69 の復習
10	5 課	フランス語で、人物を描写する。国名を言う。
	会話表現	練習問題
11	5 課	フランス語でインタビュー
12	6 課	フランス語で、「これは何ですか」と尋ねる、答える。
	会話表現	練習問題
13	6 課	数字 70～100
	文法	総復習
14	最後のまとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で習ったフランス語の表現を確実に覚えて、正確に発音できるようにする。

【テキスト（教科書）】
『カフェ・フランセ』ニコラ・ガイヤールほか著 朝日出版社 2400円

【参考書】
仏和辞典（どこの出版社のものでも可）

【成績評価の方法と基準】
随時行う口頭テストの評価（70%）と、平常点（30%）を合わせて、100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
フランス語の発音が難しいという意見をよく聞くので、抵抗感なく発音できるように工夫したいと思う。

【Outline and objectives】
In order to be able to conduct elementary conversation using French, we will learn mainly French basic expressions.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ

2016 年度以前入学者

山口 雅敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
文 1 年 R・T・U～W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を使って初歩的な会話ができるようになるように、フランス語の基本的な表現を中心に学習していく。

【到達目標】

フランス語で買い物をするときや、友人と話すときなどに使う初歩的な表現を身につけていく。簡単な会話であれば、ある程度できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語の基本的な表現の発音を確認した後、反復練習をする。適宜、ペアやグループになって会話の練習も行う。また、フランス語の聞き取り練習も合わせて行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	7 課 会話表現	フランス語で好き嫌いを言う。
2	7 課 文法	練習問題 Il y a など
3	8 課 会話表現	フランス語で天気を尋ねる、答える。
4	8 課 文法	練習問題 比較級など
5	9 課 会話表現	フランス語でどんなスポーツをするかを言う。
6	文法 10 課 会話表現	練習問題 フランス語で人を誘う、招待する。 練習問題
7	文法 11 課 会話表現	フランス語で時刻を言う。 練習問題
8	文法 12 課 会話表現	フランス語でアルバイトについて話す。 練習問題
9	文法 13 課 会話表現	フランス語で料理を注文する。 練習問題
10	文法 14 課 会話表現	フランス語で過去のことを話す。
11	文法 14 課	練習問題 複合過去
12	文法 15 課 会話表現	フランス語で未来のことを話す。
13	文法 15 課	連数問題 近接未来
14	最後のまとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習ったフランス語の表現を確実に覚えて、正確に発音できるようにする。

【テキスト（教科書）】

『カフェ・フランセ』ニコラ・ガイヤールほか著 朝日出版社 2400円

【参考書】

仏和辞典（どこの出版社のものでも可）

【成績評価の方法と基準】

随時行う口頭テストの評価（70％）と、平常点（30％）を合わせて100点満点とし、60点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の発音が難しいという意見をよく聞くので、抵抗感なく発音できるように工夫したいと思う。

【Outline and objectives】

In order to be able to conduct elementary conversation using French, we will learn mainly French basic expressions.

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 I

2016 年度以前入学者

寺家村 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 営 1 年 A～E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスはフランス語運用能力を養うことを目的としています。とりわけ基礎的なフランス語を「話す力」、「聞く力」をバランスよく、着実に身につけていきます。

【到達目標】

まずフランス語の読み方に慣れることから始め、簡単な日常会話での表現、基本動詞を用いた会話のための文章作成を学んでいきます。これにより学生みなさんは日常の様々な場面において使用できるフランス語の表現と文章を会話に取り入れていくことが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式で進めていきます。授業中に学習した表現等を用いて、簡単なフランス語を用いて会話をおこなっていきます。ま同時にリスニングにも注力していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	フランス語の読みと発音	母音字と子音字の基本的な読み方を学習します
2 回	フランス語の読みと発音	鼻母音と注意する必要がある子音を集中的に学習します
3 回	フランス語の文章の読み	第 1 回、2 回の授業で学習した内容をふまえて、フランス語の文章を正しく読めるようにしていきます
4 回	簡単な表現	ごく簡単な挨拶の表現を学習し、主語人称代名詞を覚えます
5 回	冠詞や前置詞	定冠詞と日常よく用いる前置詞を学習し、会話の中で使っていきます
6 回	基本動詞の一つを学ぶ	Etre 動詞を学び、様々な会話のバリエーションに用いていきます
7 回	疑問文の作り方	3 種類の疑問の形を覚え、簡単な疑問文の作成と答え方を学びます
8 回	疑問副詞と名前を言う表現	場所をたずねる疑問の形と名前を答える表現などを学びます
9 回	2 つの冠詞と否定形	不定冠詞と部分冠詞の用法を学び、これを用いた会話文の作成をします。また否定の形もあわせて学習します。
10 回	基本動詞の使い方	Avoir 動詞を学び、この動詞を用いた様々な表現を用いて会話をします
11 回	否定のバリエーション	様々な否定の表現を学習し、文章を作成してみます
12 回	第 1 群規則動詞	規則動詞の活用を練習し、会話の中で使えるようにします
13 回	指示形容詞	前回の復習で規則動詞を用いた会話の練習と指示形容詞の用法を学習します
14 回	前期の振り返りと解説	前期に学習した内容をテストの形式でチェックし、その後、解説をしていきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回復習のための課題をだすことになります。記述形式のものとなる予定です。

【テキスト（教科書）】

『ヌーヴォー！』（小倉博史、朝日出版社）

【参考書】

とくに指定はしません

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（70 %）、小テスト（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

The aim of this class is to help students acquire an ability for elementary french conversation and hearing.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2016 年度以前入学者

寺家村 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
営 1 年 A～E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは引き続き初歩のフランス語の「話す力」と「聞く力」をつけていきます。

【到達目標】

学生はこのクラスを履修することで、フランス語 Ⅱ Ⅰ に引き続いてフランスでの日常会話に必要な表現や語句を覚えてき、様々な生活場面でフランス語での表現が出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式で授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	所有形容詞と場所の前置詞	所有形容詞の用法を学び、それを会話の中で使っていきます。また場所の前置詞も覚えます。
2 回	品質形容詞と疑問形容詞	形容詞の基本的な使い方と疑問形容詞の用法を学び、会話の中で使ってみます。
3 回	年齢の表現、数詞と命令形	年齢を訪ねる表現と数の表現を学び、実際に会をしてみます。また命令形の用法も学習します。
4 回	時間や天気表現	時間をたずね、それに答える表現を学びます。
5 回	形容詞と副詞の比較級、最上級	比較級と最上級の用法を学び、会話の中で文章を作成していきます
6 回	単純未来と近接未来	2 つの未来形の形を学習し、実際に会話で使ってみます。
7 回	疑問代名詞	「ひと」と「もの」をたずねる疑問代名詞を学び、質問に的確に答えられるようにします。
8 回	複合過去形（1）と近接過去	2 つの過去形の形と用法を学びます。そして実際に会話のなかで使ってみます。
9 回	複合過去形（2）	前回に引き続き複合過去形を学習し、会話での使用を更に進めていきます。
10 回	曜日、月、四季の表現。	7 曜日、12 カ月そして四季の言い方を学び、正しく発音できると同時に書けるようにする。
11 回	直説法半過去	半過去の用法を学び、複合過去との使い分けを意識しながら、会話の中で表現してみる。
12 回	条件法現在	主として会話で用いる「丁寧な表現」としての条件法を学び、会話の中で使ってみる。
13 回	不規則動詞	代表的な不規則動詞の活用を覚え、会話の中で使ってみる。
14 回	振り返りと解説	学期末テスト実施し、その後解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回復習のための課題を出します。記述式のものとなる予定です。

【テキスト（教科書）】

フランス語 Ⅱ のテキストを継続使用します。

【参考書】

とくに指定はしません。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（70％）と小テスト（30％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to help students acquire an ability for elementary french conversation and hearing.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2016 年度以前入学者

杉村 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 1 年 F～R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を学びながら、会話表現を学ぶ。

【到達目標】

フランス語の発音ができるようになることが第一の目標。辞書を引いて語彙力を増やししながら、フランス語を読み聞く訓練をすることで、日本語能力の向上と表現力の豊かさを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項を学び、その後、日常会話表現を練習する。練習問題をこなして定着する。各回にやった内容から次回の小テストを授業開始時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	テキストの説明 小テストの実施方法 アルファベの発音
2	名詞の性数と数	A Paris あいさつ
3	不定冠詞と定冠詞 主語人称代名詞 動詞 être	国名と国籍 身分・職業 A l'hôtel
4	動詞 avoir	La famille
5	er 型規則動詞 疑問文	
6	不規則動詞 aller, venir	Le cinéma
7	不規則動詞 faire	Les vacances
8	ir 型規則動詞 finir	Souvenir de vacances
9	不規則動詞 pouvoir, vouloir	Au restaurant
10	不規則動詞 savoir, connaître	A la réunion
11	補語人称代名詞	Le stage
12	疑問副詞	Coup de téléphone
13	近接未来・近接過去	La fête de Noël
14	前期テスト	基本文型の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回にやる課の単語調べと、小テストの書き取りの準備をする。

【テキスト（教科書）】

大岩昌子他著『パラレル 1』、白水社、2018 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点を 50 %、10 回行う小テストの合計 50 %で、60 点以上を合格として、素点による新しい成績評価基準 SABCDE で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

映像やパワーポイントを使ってフランス文化を紹介してほしいとの声があります。時々そのような紹介を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

LANf100LA

フランス語 Ⅱ2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ2016 年度以前入学者

杉村 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 1 年 F～R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法を学びながら、会話表現を学ぶ。

【到達目標】
フランス語の発音ができるようになることが第一の目標。辞書を引いて語彙力を増やしながら、フランス語を読み聞く訓練をすることで、日本語能力の向上と表現力の豊かさを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
文法事項を学び、その後、日常会話表現を練習する。練習問題をこなして定着する。各回にやった内容から次回の小テストを授業開始時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	不規則動詞 entendre	Au café
2	不規則動詞 dire, écrire	Au magasin
3	不規則動詞 devoir	Quatre saisons
4	過去分詞	avoir + P.P. être + p.p.
5	複合過去	Qu'est-ce que tu as fait?
6	半過去	Qu'est-ce que tu faisais?
7	代名動詞	Une journée
8	単純未来	A demain!
9	非人称構文	Quelle heure est-il?
10	基本 6 文型	Quel temps fait-il?
11	時制のまとめ	Hier, aujourd'hui, demain
12	人称代名詞のまとめ	Moi, je pars avec ma mère.
13	語順のチェック	Quand, comment, combien, où; pourquoi
14	後期テスト	基本構文のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回にやる課の単語調べと、小テストの書き取りの準備をする。

【テキスト（教科書）】
大岩昌子他著『パラレル 1』、白水社、2018 年

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 点分を 50 %、10 回行う小テストの合計 50 %で、60 点以上を合格として、素点による新しい成績評価基準 SABCDE で決定する。

【学生の意見等からの気づき】
映像やパワーポイントを使ってフランス文化を紹介してほしいとの声があります。時々そのような紹介を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
Learn French by communication language

LANf100LA

フランス語 Ⅱ I2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ I2016 年度以前入学者

柴崎 秀穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
営 1 年 S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
最初歩のフランス語会話の習得を目指します。

【到達目標】
簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）の A 1 レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
文法事項は最低限にとどめ、基本表現を応用変化させながら、初歩的なフランス語会話力の習得を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、フランス語の挨拶。	授業の進め方と成績のつけ方。フランス語の挨拶。
②	Initiation 1	挨拶。
③	Initiation 2	挨拶。国籍、職業を聞く。
④	Leçon 1	職業、住所を聞く。自分の仕事を言う。
⑤	Leçon 1	人について質問する。
⑥	Leçon 2	職業を聞く。
⑦	Leçon 2	何語を話すか聞く。
⑧	Leçon 3	人について聞く。もの、ことを言う。
⑨	Leçon 3	何語を話すか言う。
⑩	Leçon 4	好きなものを言う。
⑪	Leçon 4	どちらが好きか言う。
⑫	Leçon 5	好きなことを言う。
⑬	Leçon 5	したいことを言う。
⑭	期末テスト。	試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習の必要はありませんが、復習は必ずしてください。

【テキスト（教科書）】
『Spirale（新スピラル）』、クレビュー、カランス著、アシェット・ジャボン

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）と平常点（10 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ベアの先生が文法を担当するので、こちらはコミュニケーションに特化した授業にしましょう。

【その他の重要事項】
若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC も 975 点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】
Students taking this course will learn French conversation.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 Ⅱ 2016 年度以前入学者

柴崎 秀穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
営 1 年 S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的なフランス語会話力の習得を目指します。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）の A1 レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項は最低限にとどめ、基本表現を応用・変化させながら、基礎的なフランス語会話力の習得を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Leçon 6	好みを説明する
②	Leçon 6	人を描写する
③	Leçon 7	自分について、科目について話す
④	Leçon 7	時間割を言う
⑤	Leçon 8	持っているものを言う
⑥	Leçon 8	ものを借りる
⑦	Leçon 9	場所を説明する、聞く
⑧	Leçon 9	場所について聞く
⑨	Leçon 10	何をするか聞く、答える
⑩	Leçon 10	詳しく聞く
⑪	Leçon 11	趣味について言う
⑫	Leçon 11	習慣を言う、頻度を言う
⑬	Leçon 12	家族のことを言う
⑭	期末テスト。	試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、復習は必ずしてください。

【テキスト（教科書）】

『Spirale（新スピラル）』、クレビユー、カランス著、アシェット・ジャポン

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）と平常点（10 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ベアの先生が文法を担当するので、こちらはコミュニケーションに特化した授業にしましょう。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができると思います。また、TOEIC も 975 点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Students taking this course will learn French conversation.

LANf100LA

フランス語（Ⅰ）Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語（Ⅰ）Ⅰ 2016 年度以前入学者

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を学びます。コンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項のサポートをおこないながら、授業を進めていきます。

【到達目標】

フランス語文法に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って進めていきます。また、同時にパートナーを組んでいるフランス人の先生の文法事項についても解説します。まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について話します 必ず出席のこと
第 2 回	L1 フランス語の読み方	綴り字の読み方の規則
第 3 回	L2 冠詞	不定冠詞・定冠詞
第 4 回	L2 演習	L2 の練習問題
第 5 回	L3 動詞 1	動詞の活用
第 6 回	L3 演習	L3 の練習問題
第 7 回	L4 動詞 2	2 つの規則動詞
第 8 回	L4 演習	L4 の練習問題
第 9 回	L5 不規則動詞	ALLER VENIR
第 10 回	L 5 演習	L5 練習問題
第 11 回	L6 形容詞	指示形容詞 所有形容詞
第 12 回	L6 演習	練習問題
第 13 回	L7 代名詞	疑問代名詞 関係代名詞
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくといでしょう。

【テキスト（教科書）】

『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ー

【参考書】

授業で説明します。
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので持ってくるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 % 平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline and objectives】

To learn the Elementary grammar of French

LANf100LA

フランス語（1）Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語（1）Ⅱ 2016 年度以前入学者

佐藤 正和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ひきつづきコンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項を説明しながら、フランス語の初級文法を教えていきます。

【到達目標】

フランス語の読み方や発音に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って進めていきます。コンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項について解説を行いながら、体系的に文法を解説して行きます。まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	L8 人称代名詞と強勢形	人称代名詞の順序
第 2 回	L8 演習	L8 練習問題
第 3 回	L9 複合過去	複合過去について
第 4 回	L9 演習	練習問題
第 5 回	L10 代名動詞	代名動詞と中性代名詞
第 6 回	L10 演習	練習問題
第 7 回	L11 未来形	単純未来
第 8 回	L11 演習	練習問題
第 9 回	L12 過去形	半過去・大過去
第 10 回	L12 演習	練習問題
第 11 回	L13 条件法	条件法
第 12 回	L13 演習	練習問題
第 13 回	L14 接続法	接続法
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくといよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ー

【参考書】

授業で説明します。
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので持ってくるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 80 % 平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

To learn the Elementary grammar of French

LANf100LA

フランス語（2）Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語（2）Ⅰ 2016 年度以前入学者

ニコラ・ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。また、フランス文化や現代フランス社会に関する様々なテーマも取り上げる授業です。

【到達目標】

このクラスでは、学生が日常生活に必要な表現を取得することができます。教科書の応用練習をしながら、聞く、読む、話す、書くの 4 つの能力も鍛えます。また、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げて、フランスに対する好奇心や興味を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の会話を参考にして、ペアで会話を作って、ロールプレーを行います。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションしてから、フランス語でまとめの文章を書きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「Denis という名前です」	自己紹介（名前・住所・国籍）
2	「Denis という名前です」	アルファベット・10 までの数字
3	「どこに住んでるの？」	第三者の紹介（年齢・職業）数字 11～20
4	「どこに住んでるの？」	第三者の紹介（年齢・職業）数字 11～20
5	「パナシェをください」	カフェでの注文
6	「パナシェをください」	不定冠詞・否定文・第一群規則動詞・数字 30～69
7	「メールアドレスを教えてください」	持ち物や年齢を言う
8	「メールアドレスを教えてください」	動詞 avoir 持つ・否定の de・疑問文
9	「あれは誰ですか？」	家族について話す
10	「あれは誰ですか？」	所有形容詞・疑問詞・形容詞の性別
11	「これは何ですか？」	物について説明する
1 2	「これは何ですか？」	定冠詞・空間を表す前置詞・100 までの数字
13	「それ、大好きだよ！」	好き嫌いを言う
14	「それ、大好きだよ！」	定冠詞・形容詞の使い方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の時に勉強したことを復習することが必要です。

【テキスト（教科書）】

『カフェ・フランス』ニコラ・ガイヤール著 朝日出版社

【参考書】

特に必要はありませんが、仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 33 %、期末試験 34 %、平常点（授業中の発言と態度）33 %。この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象としないので、注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活についてもっと話します。

【Outline and objectives】

In this class, students will study French conversation and culture at a beginner level.

LANf100LA

フランス語 (2) II 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 (2) II 2016 年度以前入学者

ニコラ・ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。また、フランス文化や現代フランス社会に関する様々なテーマも取り上げる授業です。

【到達目標】

このクラスでは、学生が日常生活に必要な表現を取得することができます。教科書の応用練習をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。また、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げて、フランスに対する好奇心や興味を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の会話を参考にして、ペアで会話を作って、ロールプレーを行います。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをしながら、フランス語でまとめの文章を書きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「そのあなたのTシャツ、いいですね」	着ているものの説明
2	「そのあなたのTシャツ、いいですね」	天候・比較級・目的語人称代名詞（1）
3	「サッカーをします」	スポーツの種類と行う頻度
4	「サッカーをします」	前置詞と定冠詞の縮約（1） 部分冠詞・中性代名詞（1） 行き方と所要時間
5	「レッツゴー！」	aller/venir などの不規則動詞
6	「レッツゴー！」	前置詞と定冠詞の縮約（2）・中性代名詞（2） 疑問詞 combien いくつ？ さまざまな動作と時間表現
7	「7時に起きます」	時刻を表す非人称構文・代名動詞
8	「誘ってくれるの？」	人についての情報・目的語人称代名詞（2）
9	「誘ってくれるの？」	疑問詞 pourquoi なぜ？ /quand いつ？ 動詞 connaitre 知っている/voir 見える
10	「召し上がれ！」	食事の注文と料理の感想
11	「召し上がれ！」	複合過去（1）・半過去
12	「昨日は何してた？」	複合過去（2）
13	「昨日は何してた？」	主語代名詞 on・動詞 écrire 書く
14		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の時に勉強したことを復習することが必要です。

【テキスト（教科書）】

『カフェ・フランセ』ニコラ・ガイヤール著 朝日出版社

【参考書】

特に必要はありませんが、仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 33 %、期末試験 34 %、平常点（授業中の発言と態度）33 %。この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象としないので、注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活についてもっと話します。

【Outline and objectives】

In this class, students will study French conversation and culture at a beginner level.

LANf100LA

フランス語 1 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 2016 年度以前入学者

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 2・フランス語 5 とトリオの科目です。初修フランス語学習者を対象とし、初歩のフランス語文法を学びます。

【到達目標】

SA アンジェに備え、春semester終了時にはフランス語実用技能検定試験（仏検）5級合格、秋semester終了時には4級合格に相当する語学力の習得をめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

フランス語 2 およびフランス語 5（ネイティブ教師との会話実習）と同じテキスト（【テキスト 1】）を使い、連携しながら、各課の導入学習をします。また文法学習を体系的に補うために、文法の教科書（【テキスト】2）も使用します。知識の定着のために時々小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 1	-アルファベット -主語人称代名詞 -s'appeler（名前を言う） -動詞 être
2	Leçon 1	-qui を用いた疑問文 -定冠詞と不定冠詞
3	Leçon 2	-形容詞の男性形／女性形
4	Leçon 2	-前置詞 -動詞 aller
5	Leçon 3	-所有形容詞 -疑問詞 quel(1) -定冠詞／不定冠詞のまとめ -Il y a
6	Leçon 5	-Qu'est-ce que～の使い方 -人称代名詞強勢形 -動詞 avoir
7	Leçon 6	-否定文 -名詞と形容詞の性・数一致
8	Leçon 7	-疑問形容詞 quel(2) -comment と combien を用いた疑問文 -指示形容詞 -様々な前置詞表現 -où を用いた疑問文
9	Leçon 9	-命令法 -前置詞と冠詞の縮約
10	Leçon 10	-動詞 prendre -中性代名詞 y
11	Leçon 10	-方角 -主語人称代名詞 on
12	Leçon 11	筆記試験 -期末テストの返却・答あわせ -補足
13	期末テスト	
14	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として、付属の CD をよく聞き、声に出して読んで下さい。復習を必ず行って下さい。

【テキスト（教科書）】

1 『Le Nouveau Taxi! 1』（Hachette）

2 『新版 3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』（白水社）

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners who are learning basis French grammar.

LANf100LA

フランス語 3

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 3

2016 年度以前入学者

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 2・フランス語 5 とトリオの科目です。初修フランス語学習者を対象とし、初歩のフランス語文法を学びます。

【到達目標】

SA アンジェに備え、春semester終了時にはフランス語実用技能検定試験（仏検）5 級合格、秋semester終了時には 4 級合格に相当する語学力の習得をめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

フランス語 2 およびフランス語 5（ネイティブ教師との会話実習）と同じテキスト（【テキスト 1】）を使い、連携しながら、各課の導入学習をします。また文法学習を体系的に補うために、文法の教科書（【テキスト】2）も使用します。知識の定着のために時々小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Leçon 13	-時間の言い方 -動詞 partir
2	Leçon 14	-動詞 faire - est-ce que を用いた疑問文 - 職業を表す名詞の性・数
3	Leçon 15	-動詞 lire, écrire
4	Leçon 15	-代名動詞
5	Leçon 17	-faire + 部分冠詞 + スポーツ -部分冠詞
6	Leçon 18	-動詞 boire, acheter -形容詞 beau の女性形・複数形
7	Leçon 19	-複合過去 (1) -複合過去 (2) -前置詞 pour, dans を用いた時間の表現
8	まとめ・復習	複合過去
9	Leçon 21	-動詞 pouvoir -否定命令形
10	Leçon 21	-命令形における補語人称代名詞の位置
11	Leçon 22	-動詞 vouloir, savoir -非人称表現 Il faut～ -近接未来
12	Leçon 23	-動詞 connaître -補語人称代名詞
13	期末テスト	筆記試験
14	まとめ	-期末テストの返却・答え合わせ -補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として、付属の CD をよく聞き、声に出して読んで下さい。復習を必ず行って下さい。

【テキスト（教科書）】

1 『Le Nouveau Taxi! 1』(Hachette)

2 『新版 3 段階チェック式フランス語トレーニング・コース』(白水社)

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners who are learning basis French grammar.

LANf100LA

フランス語 2 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 2016 年度以前入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「フランス語 1（日本語話者教員）」、「フランス語 5（フランス語話者教員）」と連携しながら、SA アンジェへの参加に向けて、フランス語の初歩から中級を学んでいく。

表現としては自己紹介、人やものの描写、道順の尋ね方など、文法としては、人称代名詞、文法上の性、現在時制の動詞の活用などを学ぶ。

フランス人に通じる発音を身に着けるために、音声や映像も見ることでの発音の訓練もする。

【到達目標】

SA アンジェにおいて現地の学校で学ぶために必要な知識と技能を身に着けることを目標とする。

他授業と連携しながら、「聞いてわかる、話す、読む、書く」という 4 つの側面をバランス良く修得していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記の教科書①（Le Nouveau Taxi 1）を用いて、3 人の教員による連携授業を行う。本授業では、全体の説明、文法の説明と練習、口頭や筆記による表現の練習を教科書や補助教材に基づき行う。本教科書は、SA アンジェ出発までの 1 年半（3 つのセメスター）で終わらせる。

本授業では、さらに教科書②『改訂版グラメール・アクティヴ-文法で複言語・複文化 La Grammaire active du français』を補助教材に用いて、特に文法規則を中心に学習する。この教科書を用いることで、初級から中級の文法を、豊富な実例とともに体系的に学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation・Unité 1 L0	授業の紹介 ＊各回の内容は、連携授業の進度などにより、修正される。
2	Unité 1 L1 :	自己紹介／ 人称代名詞、規則動詞の現在時制、基本動詞 être、
3	Unité 1 L2 :	誰ですか／ 男性名詞と女性名詞、不規則動詞
4	Unité 1 L3 :	お元気ですか／ 不定冠詞、疑問詞
5	Unité 1 L4 :	メル友
6	まとめ	進度による調整 小テスト
7	Unité 2 L5 :	どこにありますか／ 定冠詞、基本動詞 être
8	Unité 2 L6 :	人の描写／ 基本動詞 avoir、否定文
9	Unité 2 L7 :	買い物／ 疑問詞、指示形容詞
10	Unité 2 L8 :	芸術家たち：エディット・ピアフの伝記映画
11	Unité 3 L9 :	アパートを借りる：位置の表現／前置詞
12	Unité 3 L10 :	道順の説明／ 命令法、不規則動詞、縮約形
13	Unité 3 L11 :	よい旅行を！／ それは～だ。
14	まとめ	進度による調整 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

外国語学習の出発点では、特に予習・復習が重要であるため、毎授業ごとに短時間でも欠かさずに行うこと。また、もしも分からない部分があった際には、遠慮せずに担当教員などに質問すること。

学習内容としては、文法事項ではなく、特に自己紹介の仕方、道の尋ねかた・教え方といった「発話状況」ごとに、まとめて理解・練習をしておくこと。

新しい動詞を習った際（7 回、8 回、12 回など）には、必ず活用を繰り返して書き、また繰り返し発音することで、早めに記憶に定着させること。

授業で通知されるフランス語圏情報以外にも、常に関連するニュースに注意を払うこと。

【テキスト（教科書）】

① Guy Capelle & Robert Menand, "Le Nouveau Taxi 1", Hachette, 2009.

『新装版タクシー！』の第 1 レベル（初級）を用いる。日本に限らず、世界のフランス語学習者向けに作られた、コミュニケーション重視の教科書である。3 人の教員で行われる連携授業の共通教科書である。全体で 9 つの単位からなり、それぞれが 4 つの課で構成される。見開きのページからなる 1 つの課には「対話文、文法や表現のまとめ、聞き取り、文法、発話の練習問題」が含まれる。また、4 課ごと（つまりひとつの単位ごと）に「総復習問題」がある。

②大木充、西山教行、ジャン＝フランソワ・グラヴィアニ著、『改訂版グラメール・アクティヴ-文法で複言語・複文化 La Grammaire active du français』、朝日出版社、2013.

日本人学習者向けに作られた文法重視の教科書であり、文法規則の学習と練習を兼ねる。①のコミュニケーション重視の教科書を補って、体系的に文法を学び、復習をするために用いる。また、フランス本国を含めたフランス語圏の文化・社会に関する項目も豊富である。

【参考書】

お薦め文法参考書・単語集：

・久松健一著、『ケータイ「万能」フランス語文法』、駿河台出版社、2001 年。
・一丸禎子、パトリック・レボラル著、『フランス語ホームステイ・ライブ：中級からのコミュニケーション』、三修社、2011 年。

・久松健一著、『でる順仏検単語集（5 級～2 級準備レベル）』、駿河台出版社、2006 年。

お薦め辞書：

・初級：『クラウン仏和辞典』三省堂／『ディコ仏和辞典』白水社／『ロベール・クレ仏和辞典』駿河台出版社

・中級以上：『ロワイヤル仏和辞典』旺文社／『白水社・ラルース仏和辞典』白水社

【成績評価の方法と基準】

以下の項目に鑑みて、総合的に評価する。

平常点（30 %）：参加状況や小テストの結果

期末試験成績（70 %）：期末テストの結果

【学生の意見等からの気づき】

説明の分かりやすさ・詳しさと進度とのバランスを取りながら、段階的に学生がフランス語を修得できるようにする。質問に対しては、学生が完全に理解できるまで返答を行う。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of french language to students of the Departement of intercultural communication. This course is connected to other courses: フランス語 1 (by japonophone teacher) and フランス語 5 (by francophone teacher) .

LANf100LA	
フランス語 4	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 4	2016 年度以前入学者
廣松 勲	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「フランス語 3（日本語話者教員）」、「フランス語 6（フランス語話者教員）」と連携しながら、SA アンジェへの参加に向けて、引き続き、フランス語の初歩から中級を学んでいく。
表現としては、注文や依頼、要求など、文法としては不規則動詞、代名動詞、近接未来、過去時制などを学ぶ。
フランス人に通じる発音を身に着けるために、音声や映像も見ることで発音の訓練もする。

【到達目標】
SA アンジェにおいて現地の学校で学ぶために必要な知識と技量を、さらに充実させることを目標とする。
他授業と連携しながら、「聞いてわかる、話す、読む、書く」という 4 つの側面をバランス良く修得していく。特に、様々な日常場面・状況において対応できるフランス語を修得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】
引き続き、教科書①（Le Nouveau Taxi 1）を用いて、3 人の教員による連携授業を行う。本授業でも、全体の説明、文法の説明と練習、口頭や筆記による表現の練習を教科書や補助教材に基づき行う。
本授業でも、教科書②『改訂版グラメール・アクティヴ-文法で複言語・複文化 La Grammaire active du français』を補助教材に用いて、特に文法規則を中心に学習する。教科書①における文法学習の進度は少し遅いため、教科書②を補助的に用いることで、過去・未来時制や叙法など一部の項目に関してはやや先取りして行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	Orientation :	授業の紹介・春学期のまとめ ＊各回の内容は、連携授業の進度などにより、修正される。
2	Unité 3 L12 :	マルセイユ／復習
3	Unité 4 L13 :	駅の窓口で／ 疑問詞、不規則動詞
4	Unité 4 L14 :	スケジュール／ 不規則動詞、行為者を表す名詞
5	Unité 4 L15 :	日常の行動、スポーツ／ 不規則動詞、代名動詞
6	Unité 4 L16 :	ロール・マノドゥで知っていますか。
7	まとめ	まとめ 不規則動詞、代名動詞
8	Unité 5 L17 :	要求、飲食の習慣、量／ 部分冠詞
9	Unité 5 L18 :	過去の出来事、意見／ 複合過去（助動詞 avoir）
10	Unité 5 L19 :	過去について話す、期間／ 複合過去（助動詞 être）
11	Unité 5 L20 :	行事
12	Unité 6 L21 :	許可-禁止／ 否定命令、命令法と人称代名詞
13	Unité 6 L22 :	求人／ 非人称、近接未来
14	Unité 6 L23 :	提案／ 目的語としての人称代名詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
外国語学習の出発点では、特に予習・復習が重要であるため、毎授業ごとに短時間でも欠かさずに行うこと。また、もしも分からない部分があった際には、遠慮せずに担当教員などに質問すること。
学習内容としては、文法事項ではなく、特に自己紹介の仕方、道の尋ねかた・教え方といった「発話状況」ごとに、まとめて理解・練習をしておくこと。
新しい動詞を習った際（3 回、4 回、5 回、7 回、9 回、10 回など）には、必ず活用を繰り返し書き、また繰り返し発音することで、早めに記憶に定着させること。

授業で通知されるフランス語圏情報以外にも、常に関連するニュースに注意を払うこと。

【テキスト（教科書）】
① Guy Capelle & Robert Menand, "Le Nouveau Taxi 1", Hachette, 2009.
②大木充, 西山教行, ジャン＝フランソワ・グラツィアニ著, 『改訂版グラメール・アクティヴ-文法で複言語・複文化 La Grammaire active du français』, 朝日出版社, 2013.

【参考書】
お薦め文法参考書・単語集：
・久松健一著, 『ケータイ「万能」フランス語文法』, 駿河台出版社, 2001 年.
・一丸禎子, パトリック・レボラル著, 『フランス語ホームステイ・ライブ：中級からのコミュニケーション』, 三修社, 2011 年.
・久松健一著, 『でる順仏検単語集（5 級～2 級準備レベル）』, 駿河台出版社, 2006 年.
お薦め辞書：
・初級：『クラウン仏和辞典』三省堂 / 『ディコ仏和辞典』白水社 / 『ロベール・クレ仏和辞典』駿河台出版社
・中級以上：『ロワイヤル仏和中辞典』旺文社 / 『白水社・ラルース仏和辞典』白水社

【成績評価の方法と基準】
以下の項目に鑑みて、総合的に評価する。
平常点（30 %）：参加状況や小テストの結果
期末試験成績（70 %）：期末テストの結果

【学生の意見等からの気づき】
説明の分かりやすさ・詳しさと進度とのバランスを取りながら、段階的に学生がフランス語を修得できるようにする。質問に対しては、学生が完全に理解できるまで返答を行う。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of french langage to students of the Departement of intercultural communication. This course is connected to other courses: フランス語 3 (by japonophone teacher) and フランス語 6 (by francophone teacher) .

LANf100LA

フランス語 5 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 5 2016 年度以前入学者

ジョルディ・フィリップ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 1,2 で学んだフランス語を実践的に応用します。

【到達目標】

コミュニケーション・スキルズを中心に授業を進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

フランス人教師との対話を通じて、フランス語を自発的かつ気軽に話そうとする気分を養っていきます。発音練習・会話練習を毎回 LL 教室で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 1 L0	授業の紹介
②	Unité 1 L1	紹介・自己紹介
③	Unité 1 L2	誰ですか
④	Unité 1 L3	お元気ですか
⑤	Unité 1 L4	メールのペンフレンド
⑥	まとめ	中間テスト
⑦	Unité 2 L5	どこにありますか
⑧	Unité 2 L6	人の描写
⑨	Unité 2 L7	買い物
⑩	Unité 2 L8	芸術家たち
⑪	Unité 3 L9	アパートを借りる
⑫	Unité 3 L10	道順の説明
⑬	Unité 3 L11	よい旅行を！
⑭	まとめ	復習 最終テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

徹底的な予習と復習が不可欠（SA フランス・西部カトリック大学の Cidef プログラムの準備として）

【テキスト（教科書）】

LE NOUVEAU TAXI 1, Robert Menand, Hachette

【参考書】

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度を平常点とし、中間テストと期末テストが加味されます。欠席は 3 回以上で単位取得不可とします。中間テスト＋期末試験＝60%、平常点（宿題、参加度）＝40%

【学生の意見等からの気づき】

発音練習をさらに強化します。

【学生が準備すべき機器他】

LL 教室ですが、録音機の持ち込みは構いません。

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

French for beginners (1st part). A course focused on developing basic communication skills for students of the Study Abroad program in France.

LANf100LA

フランス語 6 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 6 2016 年度以前入学者

ジョルディ・フィリップ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 5 の続きですが、口頭表現と発音を重視した授業です。

【到達目標】

来年の留学先（SA フランス）を考慮しながら、フランス語基礎能力をのばすことを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

フランス人教師との対話を通じて、フランス語を自発的かつ気軽に話そうとする気分を養っていきます。勿論、予習・復習を必要とします。発音練習・会話練習を毎回 LL 教室で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	授業の紹介	春学期の総合まとめ
②	Unité 3 L12	マルセイユ
③	Unité 4 L13	駅の窓口に
④	Unité 4 L14	スケジュール
⑤	Unité 4 L15	日常の行動、スポーツ
⑥	まとめ	中間テスト
⑦	Unité 4 L16	ロール・マノデュウ
⑧	Unité 5 L17	要求、飲食の習慣、量
⑨	Unité 5 L18	過去の出来事、意見
⑩	Unité 5 L19	過去について話す、期間
⑪	Unité 5 L20	行事
⑫	Unité 6 L21	許可・禁止
⑬	Unité 6 L22	求人
⑭	Unité 6 L23	提案
	まとめ	最終テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

徹底的な予習と復習が不可欠（SA フランス・西部カトリック大学の Cidef プログラムの準備として）

【テキスト（教科書）】

LE NOUVEAU TAXI 1, Robert Menand, Hachette

【参考書】

「かんたんフランス文法小辞典」、鈴木豊、他、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

出席率と授業への参加度を平常点とし、中間テストと期末テストが加味されます。欠席は 3 回以上で単位取得不可とします。中間テスト＋期末試験＝60%、平常点（宿題、参加度）＝40%

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を更に強化します。

【学生が準備すべき機器他】

LL 教室ですが、録音機の持ち込みは構いません。

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

French for beginners (2nd part). A course focused on developing basic communication skills for students of the Study Abroad program in France.

LANf100LA

フランス語 1 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 2016 年度以前入学者

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、SA でフランス語圏以外の国を選んだ国際文化学部（学生を対象とし、フランス語の基礎的な知識を身につけることを目標としています。フランス語の全体像をとらえながら、実用的な（「会話」に限定されるものではありません）項目に重点を置いて学びます。また授業中にはフランスの文化や社会に関することも学びます。「グローバリゼーション」が否応なしに進む時代において、一つの外国語、特に英語の知識だけでは十分ではありません。フランス語を学ぶことで、皆さんはより広い世界で生きる機会を得ることでしょう。

【到達目標】

フランス語の基礎的な文法項目を学びます。ラテン系のことばであるフランス語では、特に動詞の活用が重要です。基本動詞（規則、不規則）の直説法現在の活用、それを用いた肯定文、否定文、疑問文の作り方を学びます。また人称代名詞の格も学びます。皆さんは、これらの知識を応用して、実際に文を読んだり、書いたり、話したりできる、また聞いて理解することができることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

コミュニケーションに力点を置いた教科書『Spirale』新版を用いて、フランス語 2（フランス人教員担当）とリレー式に授業を進めます。この授業では特に文法項目に重点を置きます。（フランス人教員は発話の実習に力点を置きます。）したがって文法をさらにまとめて説明した教科書を補助として用います。毎回『Spirale』で紹介された対話文や語彙、表現を学んだあと、補助の教科書を用いて取り上げられている文法項目をより体系的に学びます。学期中に小テスト（動詞の活用、発音）を数回行います。また練習問題の宿題も出されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Initiation 1	挨拶、自己紹介 一般動詞
2	Initiation 2	挨拶、他人について尋ねる、自分の名前の綴りを言う
3	Leçon 1	名前や職業、住んでいる場所を言う、尋ねる 基本動詞の肯定
4	Leçon 1	基本動詞の否定、疑問
5	Leçon 2	職業を尋ねる 所有形容詞、 名詞と形容詞の男性形、女性形
6	Leçon 2	国籍を尋ねる 何語を話すかを言う 希望を表す条件法
7	Leçon 3	他人について尋ねる 不規則動詞 名詞と形容詞の一致
8	Leçon 3	何かを示す 定冠詞 前置詞 + 国の名
9	Leçon 4	好きなものを言う 規則動詞、冠詞
10	Leçon 4	好き嫌いの程度を言う 否定、 「～がある」という表現
11	Leçon 4	何をするのが好きかを言う
12	Leçon 5	規則動詞、不定詞
13	Leçon 5	したいことについて話す 願望を表す条件法
14	試験と復習	授業内試験 春学期で学んだことの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. CD を使ってアルファベットを覚える 2. 自分の名前の綴りを言えるようにする。挨拶が言えるようにする 3. 自己紹介ができるようにする。基本動詞の活用を覚える 4. 否定文が作れるようにする 5. 疑問文が作れるようにする 6. 基本動詞の活用を覚える 7. 基本動詞の活用を覚える 8. 定冠詞、不定冠詞、部分冠詞を覚える 9. 基本動詞の活用を覚える 10. 「～がある」という表現を使えるようにする 11. 基本動詞の活用を覚える 12. 「～するのが好き」という表現がつかえるようにする 13. 願望を表す表現が使えるようにする 14. 総復習

【テキスト（教科書）】

教科書：『Spirale』Nouvelle édition（『新スピラル-日本人初学者のためのフランス語教材』、Philippe Callens 著、Hachette 発行
『Bonjour, la France!（ボンジュール・フランス-言語と文化で学ぶ新フランス語文法-）』栗国孝 著、朝日出版社 発行

【参考書】

参考書：『かんたんフランス文法小辞典』鈴木豊、久富健 著、朝日出版社
『フランス語動詞 60 一活用・用法・索引-』久保田剛史、高橋信良、井上櫻子 著、朝日出版社
辞書：初級『クラウン仏和辞典』三省堂/
『デコ仏和辞典』白水社/『ロベール・クレ』駿河台出版社
中級以上：『ロワイヤル仏和中辞典』旺文社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、宿題の提出や参加状況による平常点（2 割前後）、期末試験の成績（8 割前後）を総合し評価します。
日ごろから教科書に出てきた例文はすべて声を出して読む、付録の CD を繰り返し聴く、出てきた単語は活用も含めて発音しながら書いて覚えることを心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

やや進みが遅いのではないかとのご指摘をいただきました。
飛ばしすぎは困りますが、無駄のない効率的な授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners (students in the Faculty of Intercultural Communication who will participate in the Study Abroad programme in an English speaking country). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication in French. All four skills are exercised with a classroom focus on systematical learning of grammar.

During the class, the students will learn also about French society and culture.

In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient. By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

LANf100LA

フランス語3 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語3 2016 年度以前入学者

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、SA でフランス語圏以外の国を選んだ国際文化学部（学生を対象とし、フランス語の基礎的な知識を身につけることを目標としています。フランス語の全体像をとらえながら、実用的な（「会話」に限定されるものではありません）項目に重点を置いて学びます。また授業中には、フランスの文化や社会に関することも学びます。「グローバルゼーション」が否応なしに進む時代において、一つの外国語、特に英語の知識だけでは十分ではありません。フランス語を学ぶことで、皆さんはより広い世界で生きる機会を得ることでしょう。

【到達目標】

春学期に引き続いてフランス語の基礎的な文法項目を学びます。ラテン系のことばであるフランス語では、特に動詞の活用が重要です。基本動詞（規則、不規則）の語彙を増やすとともに、命令文や過去時制を学びます。皆さんは、これらの知識を応用して、実際に文を読んだり、書いたり、話したりできる、また聞いて理解することができることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期を引き継ぎ、コミュニケーションに力点を置いた教科書『Spirale』新版を用いて、フランス語 2（フランス人教員担当）とリレー式に授業を進めます。この授業では特に文法項目に重点を置きます。（フランス人教員は発話の実習に力点を置きます。）春学期で使った文法の教科書を引き続き補助として用います。

毎回『Spirale』で紹介された対話文や語彙、表現を学んだあと、補助の教科書を用いて取り上げられている文法項目をより体系的に学びます。学期中に小テスト（動詞の活用、発音）を数回行います。また練習問題の宿題も出されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 Leçon 6	挨拶、自己紹介、 基本動詞の活用、所有形容詞、形容詞 と名詞の性と数の一致好みを説明する 好きな理由を説明する 形容詞の、男性形、女性形 比較級 理由を述べる接続表現 他人を描写する SVOC 構文
2	Leçon 6	
3	Leçon 7	自分について話す、年齢を言う 基本動詞の活用、
4	Leçon 7	科目や時間割について言う 疑問形容詞
5	Leçon 8	持っているものを言う 人称代名詞の強勢形
6	Leçon 8	物を借りる、あやまる 否定文
7	Leçon 9	場所について説明する、 尋ねる 冠詞、基本動詞 命令法
8	Leçon 10	何をするか尋ねる 不規則動詞の活用
9	Leçon 10	詳しく書く 「何が～」という表現
10	Leçon 11	趣味について話す 「～をする」という表現
11	Leçon 11	習慣について言う 頻度を言う 中性代名詞 頻度の副詞
12	Leçon 12	家族について話す 過去のことを話す： 複合過去

13	Leçon 12	どこへ行くかを話す 基本動詞の活用
14	試験と復習	授業内試験 秋学期で学んだことの総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 春学期で学んだことの復習をする 2.SVOC 構文の練習をする 3. 基本動詞の活用を覚える 4. 疑問形容詞を使った文が作れるようにする。5. 冠詞が使い分けられるように練習する 6. 正しい否定文が作れるよう練習する 7. 基本動詞の活用を覚える 8. 命令の表現を練習する 9. 不規則動詞の活用を覚える 10. 指示形容詞を覚える 11. 「～する」という表現を覚えるようにする 12. 中性代名詞が使えるように練習する 13. 複合過去の練習をする 14. 総復習特に複合過去の練習をする

【テキスト（教科書）】

教科書：『Spirale』 Nouvelle édition(『新スピラル-日本人初学者のためのフランス語教材』、Philippe Callens 著、Hachette 発行
『Bonjour, la France! (ボンジュール・フランス-言語と文化で学ぶ新フランス語文法-)』栗国孝 著、朝日出版社 発行

【参考書】

参考書：『かんたんフランス文法小辞典』、鈴木豊、久富健 著、朝日出版社
『フランス語動詞 60 ―活用・用法・索引―』久保田剛史、高橋信良、井上櫻子 著、朝日出版社
辞書：初級『クラウン仏和辞典』三省堂/
『デコ仏和辞典』白水社/
『ロベール・クレ』駿河台出版社
中級以上：『ロワイヤル仏和中辞典』旺文社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、宿題の提出や参加状況による平常点（2 割前後）、期末試験の成績（8 割前後）を総合して評価します。
日ごろから教科書に出てきた例文はすべて声を出して読む、付録の CD を繰り返し返して聞く、出てきた単語は活用も含めて発音しながら書いて覚えることを心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

やや進みが遅いのではないかとのご指摘をいただきました。
飛ばしすぎは困りますが、無駄のない効率的な授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners (students in the Faculty of Intercultural Communication who will participate in the Study Abroad programme in an English speaking country). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication in French. All four skills are exercised with a classroom focus on systematical learning of grammar.

During the class, the students will learn also about French society and culture.

In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient. By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

LANf100LA

フランス語22017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語22016 年度以前入学者

コンルール ジョルジュ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてフランス語を学ぶ学生のための授業です。

【到達目標】
「話す」練習をしながら「文法」を身につけます。要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力も向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】
日本人一名とフランス人一名が行う授業です。文法を説明し、練習問題を繰り返す。そして、ペアでロールプレーなどを行い、フランス語を磨く。その上、フランスについての簡単な資料を使って、理解力を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation Initiation 1	授業の紹介 挨拶
2	Initiation 2	自己紹介 数字
3	Leçon 1	名前、職業、住んでいるところについて尋ねる 自分の仕事について話す ある人について質問する
4	Leçon 1	職業をたずねる
5	Leçon 2	やりたい職業を言う 国籍をたずねる
6	Leçon 2	何語を話すのか言う ある人についてたずねる 何かを示す
7	Leçon 3	中間テスト 何語を話すかを言う
8	Test Leçon 3	好きなものを言う 好き嫌いの程度を言い表す
9	Leçon 4	どちらが好きかを言う なにをするのが好きか言う
10	Leçon 4	好き嫌いの程度を言い表す したいことについて話す
11	Leçon 5	好みを説明する どちらが好きか理由を述べる
12	Leçon 5	テスト
13	Leçon 6	
14	Test	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題（書く練習をする）

【テキスト（教科書）】
Spirale
Gael Crépieux / Philippe Callens
Hachette

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】
平常点: 30 %
積極性: 35 %
期末試験: 35 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
CD プレーヤー

【Outline and objectives】
The goal of this course is to teach the French Language basic structure using English according to the ability of the students.

LANf100LA

フランス語42017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語42016 年度以前入学者

コンルール ジョルジュ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「話す」練習をしながら「文法」を身につけます。

【到達目標】
要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力を向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】
日本人教師とフランス人教師が行う授業です。テーマに即した会話のパターンを聞き、語彙、文法を説明し、練習問題を繰り返す。そして、ペアでロールプレーなどを行い、フランス語を磨く。その上、フランスについての簡単な資料を使って、理解力を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Révisions	復習
2	Leçon 7	自分について話す (年齢、学年) 科目について話す 時間の使い方 時間割について話す
3	Leçon 7	持っているもの 所有を表す 物を借りる
4	Leçon 8	ある場所について説明し、 情報を求める
5	Leçon 8	名所について情報を求める 位置づける
6	Leçon 9	中間テスト
7	Leçon 9	何をするか尋ねる、答える 詳しく書く 趣味・余暇について話す
8	Test	頻度を表す
9	Leçon 10	習慣について話す
10	Leçon 10	家族について話す
11	Leçon 11	テスト
12	Leçon 11	
13	Leçon 12	
14	Test	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題（書く練習をする）

【テキスト（教科書）】
Spirale
Gael Crépieux / Philippe Callens
Hachette

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】
平常点: 30 %
積極性: 35 %
期末試験: 35 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
The goal of this course is to teach the French Language basic structure using English according to the ability of the students.

LANf100LA

フランス語 1 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 2016 年度以前入学者

竹本 研史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「SA 先でフランス以外を選んだ国際文化学部」の学生を対象として、初級フランス語の知識および学習方法を習得することを目的とする。
そのために、本授業ではコミュニケーション中心の教科書『Spirale』を用いながら、日常的な会話や文章を理解するだけでなく、できるだけ確に反応する練習も行いつつ、併せて、文法も着実に定着できるようにていねいな解説も加えていく。

【到達目標】

本授業は秋学期の「フランス語 3」および、「フランス語 2」・「フランス語 4」とを併せ、1 年を通じてフランス語文法を中心とした初級フランス語の知識を習得することで、フランス語の読み書きの基礎や簡単な日常会話ができるようになること、またその後の学習方法の基礎を身に付けることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では教科書『Spirale』を用いて、「フランス語 2」（コリス・ヴァリエンス先生ご担当）と連携して授業を進めることになる。「フランス語 1」では文法に重点、「フランス語 2」は発話に重点を置く。
教科書を中心に毎回の授業を進めていくが、文法事項に関しては、とくにプリントなどを使って教科書を補足する。その回で学んだ文法事項などを使った練習問題を宿題として課し、次の授業で答えあわせ、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Phonétique Initiation 1	・挨拶／自己紹介等 ・母音と子音 ・数字／強勢形
2	Vocabulaire de la classe Initiation 2	・教室で使うフランス語／挨拶／職業・国籍について尋ねる／名前の綴りを言う等 ・基礎動詞の現在形／人称代名詞／男性形と女性形
3	Unité 1 Leçon 1	・名前・職業・住んでいる所について尋ねる／自分の仕事を話す等 ・基礎動詞の現在形／人称代名詞／男性形と女性形
4	Unité 1 Leçon 1	・人について質問する等 ・基礎動詞の現在形／肯定形、否定形、疑問形
5	Unité 1 Leçon 2	・職業を尋ねる／やりたい職業を言う等 ・所有形容詞／名詞と形容詞の性数一致
6	Unité 1 Leçon 2	・何語を話すか言う（1）等 ・動詞 vouloir の条件法／国籍と言語
7	Unité 1 Leçon 3	・人について尋ねる／もの・ことを示す等 ・動詞 connaître の現在形単数／性数一致／前置詞＋国名 ・好きなことを言う／好き嫌いの程度（行動）／したいことについて話す等
8	Unité 1 Leçon 3	・何語を話すか言う（2）等 ・人称代名詞と on／観光名所の前に付く定冠詞
9	Unité 2 Leçon 4	・好きなものを言う／好き嫌いの程度（物）等 ・動詞 aimer, préférer の現在形単数／定冠詞
10	Unité 2 Leçon 4	・どちらが好きか言う等 ・副詞の位置／否定形／il y a...
11	Unité 2 Leçon 5	・好きなことを言う／好き嫌いの程度（行動）等 ・ER 動詞の現在形のすべて

12	Unité 2 Leçon 5	・したいことについて話す等 ・動詞 aimer + 動詞の不定詞／動詞 vouloir の条件法
13	Unité 2 Leçon 6	・好みを説明する／どちらが好きか理由を述べる等 ・形容詞の男性形、女性形／比較級の基礎／trouver ça 形容詞 ・人を描写する等 ・理由の表現／C'est + 形容詞の男性形
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は当然必要。
〈準備学習〉毎回教科書を熟読したうえで、各課の文法事項の説明を通じて疑問点を洗い出し、単語の意味を事前に調べておくこと。また、CD などの音声教材を利用しながら教科書に出てくるフランス語表現を繰り返し音読し発音を確認しておくこと。
〈復習・宿題〉教科書と音声教材を利用してその日に学んだ文法事項とフランス語表現の発音を定着させたうえで、教員がその日に指定した宿題を必ずおこなうこと。
〈学外で〉何よりもまず、現場に赴き、何かがそこで生起している場面に立ち会うことが重要である。各人が積極的に出かけて、読書（BD も含め）、映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、料理、スポーツ、ファッションなどを通じて、フランス語およびフランス語圏文化に親しむ機会をつくること。そのための一助として、「フランス語の世界 LA」、「フランスの文化と社会 LA」、「フランス生活文化論」などの履修を推奨する。
教科書は文法を段階的に学ぶような構成にはなっていないため、自分自身で文法事項をまとめた上で「文法ノート」を作成すること。

【テキスト（教科書）】

ガエル・クレビュー、フィリップ・カレンスほか『新スピラルー日本人初心者のためのフランス語教材』[2015 年]、アシェット・ジャポン、2017 年。ISBN：978-2-01-401581-2

【参考書】

仏和辞典は必ず携帯すること。紙辞書を積極的に推奨する（単語、熟語などの見やすさなどの利点から）。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（20 %）＋音読テスト（10 %）＋期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当のためなし

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of French grammar to the students in the Faculty of Intercultural communication who take SA not in France.

LANf100LA	
フランス語 3	2017 年度以降入学者
LANf100LA	
フランス語 3	2016 年度以前入学者
竹本 研史	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「SA 先でフランス以外を選んだ国際文化学部」の学生を対象として、初級フランス語の知識および学習方法を習得することを目的とする。
そのために、本授業ではコミュニケーション中心の教科書『Spirale』を用いながら、日常的な会話や文章を理解するだけでなく、できるだけ確に反応する練習も行いつつ、併せて、文法も着実に定着できるようにていねいな解説も加えていく。

【到達目標】
本授業は秋学期の「フランス語 3」および、「フランス語 2」・「フランス語 4」とを併せ、1 年を通じてフランス語文法を中心とした初級フランス語の知識を習得することで、フランス語の読み書きの基礎や簡単な日常会話ができるようになること、またその後の学習方法の基礎を身に付けることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では教科書『Spirale』を用いて、「フランス語 2」（コリーヌ・ヴァリエンス先生ご担当）と連携して授業を進めることになる。「フランス語 1」では文法に重点、「フランス語 2」は発話に重点を置く。
教科書を中心に毎回の授業を進めていくが、文法事項に関しては、とくにプリントなどを使って教科書を補足する。その回で学んだ文法事項などを使った練習問題を宿題として課し、次の授業で答えあわせ、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
1	Phonétique Initiation 1	・挨拶／自己紹介等 ・母音と子音 ・数字／強勢形
2	Vocabulaire de la classe Initiation 2	・教室で使うフランス語／挨拶／職業・国籍について尋ねる／名前の綴りを言う等 ・基礎動詞の現在形／人称代名詞／男性形と女性形
3	Unité 1 Leçon 1	・名前・職業・住んでいる所について尋ねる／自分の仕事を話す等 ・基礎動詞の現在形／人称代名詞／男性形と女性形
4	Unité 1 Leçon 1	・人について質問する等 ・基礎動詞の現在形／肯定形、否定形、疑問形
5	Unité 1 Leçon 2	・職業を尋ねる／やりたい職業を言う等 ・所有形容詞／名詞と形容詞の性数一致
6	Unité 1 Leçon 2	・何語を話すか言う（1）等 ・動詞 vouloir の条件法／国籍と言語
7	Unité 1 Leçon 3	・人について尋ねる／もの・ことを示す等 ・動詞 connaître の現在形単数／性数一致／前置詞＋国名 ・好きなことを言う／好き嫌いの程度（行動）／したいことについて話す等
8	Unité 1 Leçon 3	・何語を話すか言う（2）等 ・人称代名詞と on／観光名所の前に付く定冠詞
9	Unité 2 Leçon 4	・好きなものを言う／好き嫌いの程度（物）等 ・動詞 aimer, préférer の現在形単数／定冠詞
10	Unité 2 Leçon 4	・どちらが好きか言う等 ・副詞の位置／否定形／il y a...
11	Unité 2 Leçon 5	・好きなことを言う／好き嫌いの程度（行動）等 ・ER 動詞の現在形のすべて

12	Unité 2 Leçon 5	・したいことについて話す等 ・動詞 aimer + 動詞の不定詞／動詞 vouloir の条件法
13	Unité 2 Leçon 6	・好みを説明する／どちらが好きか理由を述べる等 ・形容詞の男性形、女性形／比較級の基礎／trouver ça 形容詞 ・人を描写する等 ・理由の表現／C'est + 形容詞の男性形
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では教科書『Spirale』を用いて、「フランス語 2」（コリーヌ・ヴァリエンス先生ご担当）と連携して授業を進めることになる。「フランス語 1」では文法に重点、「フランス語 2」は発話に重点を置く。
教科書を中心に毎回の授業を進めていくが、文法事項に関しては、とくにプリントなどを使って教科書を補足する。その回で学んだ文法事項などを使った練習問題を宿題として課し、次の授業で答えあわせ、解説を行う。

【テキスト（教科書）】
ガエル・クレビュー、フィリップ・カレンスほか『新スピラルー日本人初心者のためのフランス語教材』[2015 年]、アシェット・ジャポン、2017 年。ISBN：978-2-01-401581-2

【参考書】
仏和辞典は必ず携帯すること。紙辞書を積極的に推奨する（単語、熟語などの見やすさなどの利点から）。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（20 %）＋音読テスト（10 %）＋期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
新規の担当のためなし

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of French grammar to the students in the Faculty of Intercultural communication who take SA not in France.

LANf100LA

フランス語 2 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 2016 年度以前入学者

ヴァリエンス コリヌ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習① Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞 ETRE
5	Leçon 3	ER 動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞 VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞 AVOIR・代名詞 EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・3人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞 FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】宿題

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE
【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】

無い

【Outline and objectives】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

LANf100LA

フランス語 4 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 4 2016 年度以前入学者

ヴァリエンス コリヌ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions
2	Leçon 11	まとめ② Révisions
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞 Y と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を提出することが必須です。
毎週新しい語彙と表現を覚えること。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE
【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】

宿題を提出することが必須です。
毎週新しい語彙と表現を覚えること。

【Outline and objectives】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

LANf100LA

フランス語 1 - I2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 - I2016 年度以前入学者

稲垣 正久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年 G～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法の習得を目指します。

【到達目標】
フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アルファベと綴り字の読み方	アルファベ、綴り字記号、など
第 2 回	第 1 課	名詞の性と数、不定冠詞など
第 3 回	第 2 課	動詞 etre 、形容詞の性数一致と位置
第 4 回	第 3 課	avoir 、部分冠詞など
第 5 回	第 4 課	-er 規則動詞、疑問文など
第 6 回	第 5 課	-ir 規則動詞、指示形容詞、所有形容詞
第 7 回	第 6 課	faire,mettre 、疑問代名詞
第 8 回	復習 1	第 1 回小テスト（予定）
第 9 回	第 7 課	aller,partir 、冠詞の縮約など
第 10 回	第 8 課	venir,prendre 、指示代名詞など
第 1 1 回	第 9 課	voir,attendre 、命令法など
第 1 2 回	第 1 0 課	ecrire,dire 、非人称構文など
第 1 3 回	復習 2	第 2 回小テスト（予定）
第 1 4 課	総括	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回出される宿題を必ずやってくること。

【テキスト（教科書）】
『基本+アルファのフランス語文法』（駿河台出版社）を使用します。

【参考書】
授業中に指示することもあるかと思いますが。仏和辞典が一冊必要になります。

【成績評価の方法と基準】
期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合計 150 点満点でつけます。
この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。
詳細は第一回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

【Outline and objectives】
study of elementary grammar of French language

LANf100LA

フランス語 1 - II2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 - II2016 年度以前入学者

稲垣 正久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年 G～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法の習得を目指します。

【到達目標】
フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	復習 1	第 1 課～第 10 課
第 2 回	第 1 1 課	代名動詞
第 3 回	第 1 2 課	直説法複合過去（1）
第 4 回	第 1 3 課	直説法複合過去（2）
第 5 回	復習 2	第 1 回小テスト（予定）
第 6 回	第 1 4 課	中性代名詞など
第 7 回	第 1 5 課	比較級、最上級など
第 8 回	第 1 6 課	直説法半過去、大過去など
第 9 回	第 1 7 課	関係代名詞など
第 1 0 回	第 1 8 課	直説法単純未来など
第 1 1 回	復習 3	第 2 回小テスト（予定）など
第 1 2 回	第 1 9 課	条件法現在、過去など
第 1 3 回	第 2 0 課	接続法現在、過去など
第 1 4 回	総括	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回出される宿題を必ずやってくること。

【テキスト（教科書）】
『基本+アルファのフランス語文法』（朝日出版社）を使用します。

【参考書】
授業中に指示することもあるかと思いますが。仏和辞典が一冊必要になります。

【成績評価の方法と基準】
期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合計 150 点満点でつけます。
この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。
詳細は第一回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

【Outline and objectives】
study of elementary grammar of French language

LANf100LA

フランス語 1 - I 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 - I 2016 年度以前入学者

竹本 研史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を初めて学ぶ人間環境学部（A-F 組）の学生が、指定教科書にしたがって、フランス語の文法を学ぶ。

【到達目標】

フランス語の初級文法について、代名動詞までを 1 学期間でマスターする。
DELF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の A1 レベル到達を目標とする。仏検 5 級合格を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法事項の解説＋教科書の例文の音読練習 → 該当の文法事項に関する宿題 → 答え合わせ・解説 → 新たな文法事項に関する解説 → 以下、この繰り返し。動詞の活用などを覚えるために学期に数回小テストを実施。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	発音、よく使う表現、挨拶
第 2 回	第 1 課	名詞・冠詞
第 3 回	第 2 課	動詞 être と avoir
第 4 回	第 3 課	-er 動詞・否定形・疑問形
第 5 回	第 4 課	形容詞
第 6 回	復習 (1)	第 1-4 課の復習
第 7 回	第 5 課	指示形容詞・所有形容詞・強勢形・-ir 動詞
第 8 回	第 6 課	動詞 aller と venir・定冠詞の縮約・命令法
第 9 回	第 7 課	動詞 prendre と faire・非人称構文・疑問形容詞
第 10 回	第 8 課	疑問代名詞・疑問副詞
第 11 回	復習 (2)	第 5-8 課の復習
第 12 回	第 9 課	動詞 vouloir、pouvoir、devoir・補語人称代名詞
第 13 回	期末試験 (1)	音読試験
第 14 回	期末試験 (2)	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は当然必要。

〈準備学習〉毎回教科書を熟読したうえで、各課の文法事項の説明を通じて疑問点を洗い出し、単語の意味を事前に調べておくこと。また、CD などの音声教材を利用しながら教科書に出てくるフランス語表現を繰り返し音読し発音を確認しておくこと。

〈復習・宿題〉教科書と音声教材を利用してその日に学んだ文法事項とフランス語表現の発音を定着させたいと、教員がその日に指定した宿題を必ずおこなうこと。

〈学外で〉人間環境学部の学生は、何よりもまず、現場に赴き、何かがそこで生起している場面に立ち会うことが重要である。各人が積極的に出かけて、読書（BD も含め）、映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、料理、スポーツ、ファッションなどを通じて、フランス語およびフランス語圏文化に親しむ機会をつくること。そのための一助として、「フランス語の世界 L A」の履修を推奨する。

【テキスト（教科書）】

服部悦子ほか『《ブティ》シェリーとフランス語ー仏検 5 級・4 級対応フランス語文法』、三修社、2016 年。

ISBN : 978-4-384-21045-3

定価：2,400 円＋税

【参考書】

仏和辞典は必ず携行すること。紙辞書を積極的に推奨する（単語、熟語などの見やすさなどの利点から）。

この授業とペアを組んでいるジョルジュ・コンルール先生の「フランス語 2-I」の教科書『Spirale』もときどき参照するので、そちらも持参しておくこと。

【成績評価の方法と基準】

語彙・活用などに関する小テスト（学期に数回実施）[20%]＋音読試験 [10%]＋筆記試験 [70%]

ただし、授業中に指名するにあたっては、単語調べなどの予習をやっていない場合は、授業進行の妨害とみなし、その都度 1 点ずつ減点する。教科書、辞書を手に入れない学生は評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of French grammar to students taking this course.

LANf100LA

フランス語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 - II

2016 年度以前入学者

竹本 研史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

環 1 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「フランス語 1-I」に引き続き、フランス語を初めて学ぶ人間環境学部（A-F 組）の学生が、指定教科書にしたがって、フランス語の文法を学ぶ。

【到達目標】

フランス語の初級文法について、接続法現在までを 1 学期間でマスターする。DELF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の A1 レベル到達を目標とする。仏検 4 級合格を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法事項の解説＋教科書の例文の音読練習 → 該当の文法事項に関する宿題 → 答え合わせ・解説 → 新たな文法事項に関する解説 → 以下、この繰り返し。動詞の活用などを覚えるために学期に数回小テストを実施。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 10 課	比較・現在分詞とジェロンディフ
第 2 回	第 11 課	中性代名詞・動詞 <i>savoir</i> と <i>connaître</i>
第 3 回	復習 (1)	第 10-11 課の復習
第 4 回	第 12 課 (1)	複合過去 (1)
第 5 回	第 12 課 (2)	複合過去 (2)
第 6 回	第 13 課	関係代名詞・指示代名詞・受動態・強調構文
第 7 回	復習 (2)	第 12-13 課の復習
第 8 回	第 14 課 (1)	代名動詞 (1)
第 9 回	第 14 課 (2)	代名動詞 (2)
第 10 回	第 15 課	半過去・単純未来
第 11 回	復習 (3)	第 14-15 課の復習
第 12 回	Appendice	条件法、接続法
第 13 回	期末試験 (1)	音読試験
第 14 回	期末試験 (2)	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は当然必要。

〈準備学習〉毎回教科書を熟読したうえで、各課の文法事項の説明を通じて疑問点を洗い出し、単語の意味を事前に調べておくこと。また、CD などの音声教材を利用しながら教科書に出てくるフランス語表現を繰り返し音読し発音を確認しておくこと。

〈復習・宿題〉教科書と音声教材を利用してその日に学んだ文法事項とフランス語表現の発音を定着させたいと、教員がその日に指定した宿題を必ずおこなうこと。

〈学外で〉人間環境学部の学生は、何よりもまず、現場に赴き、何かがそこで生起している場面に立ち会うことが重要である。各人が積極的に出かけて、読書（BD も含め）、映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、料理、スポーツ、ファッションなどを通じて、フランス語およびフランス語圏文化に親しむ機会をつくること。そのための一助として、「フランス語の世界 L B」の履修を推奨する。

【テキスト（教科書）】

服部悦子ほか『《ブティ》シェリーとフランス語ー仏検 5 級・4 級対応フランス語文法』、三修社、2016 年。

ISBN : 978-4-384-21045-3

定価：2,400 円＋税

【参考書】

仏和辞典は必ず携行すること。紙辞書を積極的に推奨する（単語、熟語などの見やすさなどの利点から）。

この授業とペアを組んでいるジョルジュ・コンルール先生の「フランス語 2-II」の教科書『Spirale』もときどき参照するので、そちらも持参しておくこと。

【成績評価の方法と基準】

語彙・活用などに関する小テスト（学期に数回実施）[20%]＋音読試験 [10%]＋筆記試験 [70%]

ただし、授業中に指名するにあたって事前に、単語調べなどの予習をやっていた場合は、授業進行の妨害とみなし、その都度 1 点ずつ減点する。

教科書、辞書を入手しない学生は評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of French grammar to students taking this course.

LANf100LA

フランス語 1 - I 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 - I 2016 年度以前入学者

江澤 健一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
キ 1 年 A～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

【到達目標】

アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験 5 級ならびに 4 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	授業説明、アルファベ
2)	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3)	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4)	leçon 3, leçon 4	C'est, etc. 第 1 群規則動詞、第 2 群規則動詞
5)	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6)	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、疑問形、oui, Non, Si
7)	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞
8)	leçon 7, leçon 8	名詞と形容詞の女性形と複数形の特殊形、不規則動詞 acheter, préférer、aller と venir の直説法現在
9)	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10)	leçon 9	疑問代名詞
11)	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14)	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、他『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

試験の点数を基準にして評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

大きな声で授業を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 - II 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 - II 2016 年度以前入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
キ 1 年 A～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚えます。秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

【到達目標】

命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験 4 級ならびに 3 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。教室では大きな声で、フランス語を読みましよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	春学期の復習	春学期試験の復習
2)	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 manger, dire
3)	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4)	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5)	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6)	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7)	leçon 16	代名詞の活用と用法、不規則動詞 s'appeler
8)	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 le, en, y、不規則動詞 devoir
9)	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10)	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11)	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12)	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13)	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 vivre
14)	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

試験の点数を基準にして評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

大きな声で授業を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

Students will learn basic French grammar.

LANf100LA

フランス語 1 - I2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 - I2016 年度以前入学者

瀬戸 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
キ 1 年 I〜P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級（基本）文法を学び、読み・書き・聞く・話すの総合的な語学力を養う。

【到達目標】
英語とは異なるフランス語の文字の読み方と文法体系の基礎をマスターする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
フランス語の初級文法と簡単な会話表現を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、アルファベ	英語との相違と共通点 アルファベの練習
②	発音の基礎	ビデオ使用でネイティブの発音
③	つづり字の読み方 つづり字の読み方（2）	単語による発音と文字の読み方記憶 つづり字の読み方の規則と発音の復習
④	旅の基本表現と数字 自己紹介 挨拶表現	続き 名詞の性・数 主語人称代名詞 規則動詞
⑤	パリに親しむ	簡単なフランス語表現、パリの名所
⑥	be 動詞、国籍・職業を 言う モノを頼む表現	形容詞と性・数の一致 所有・指示形容詞
⑦	have 動詞、許可を求める	よく使う表現、形容詞（続き）
⑧	プチ・ホテルを取る	値段を尋ねる フランスはてる事情
⑨	場所を尋ねる	疑問文と否定文 命令文
⑩	モノの位置関係	不規則動詞（1）
⑪	Cafe に入る	不規則動詞（2）
⑫	季節と天候表現 身体の不調を訴える	習った動詞の総復習 習った会話表現の確認
⑬	文法復習	期末テスト（1）筆記
⑭	総復習とまとめ	期末テスト（2）聞き取り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
小テスト（会話・文法）の為の学習

【テキスト（教科書）】
「街かどのフランス語―第三版―」 朝日出版

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内小課題 40 パーセント、授業内期末テスト 40 パーセント、平常点（授業参加度評価） 20 パーセント
出席重視。2 回続けて休まないこと 全 14 回のうち欠席は 3 回まで。遅刻は 3 回で 1 回の欠席とする。公欠、インフルエンザ等の欠席も 3 回の中を含むので、やむをえない事情がない限り、極力休まないこと。続けて休んだり、飛び飛びでも休みがちになると、授業についてこれなくなるおそれあり。また授業中の作業も（練習問題や訳出、発話等）点数化する。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
This French class aims at teaching students begnners'grammar, and cultivating their comprehensive language ability in areas incluing reading,writing,listening,and speaking.

LANf100LA

フランス語 1 - II2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 1 - II2016 年度以前入学者

瀬戸 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
キ 1 年 I〜P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級文法の基礎力と読み・書き・聞く・話すの総合力を養う。

【到達目標】
英語とは異なるフランス語の文字の読み方と基礎文法をマスターする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
フランス語初級文法の理解と簡単な会話表現を積極的・能動的に学習。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	基本動詞の復習、とくに発音
②	電話をかける、バレーを みる	春学期に学んだ数字表現の復習と丁寧表現
③	時刻表現、様々な疑問文	レストラン予約
④	自己紹介	疑問文の総合学習、質疑応答表現
⑤	ブティックで買い物	比較級と人称代名詞の目的格
⑥	色彩と比較表現 愛の表 現	ブティックでの買い物、試着をする
⑦	メトロに乗る	代名動詞
⑧	非人称表現、最上級	疑問文、命令文の復習
⑨	過去の表現 旅のトラブ ル会話	複合過去（1）
⑩	レストランで注文 フラ ンス料理	第二の規則動詞
⑪	パリ・ディズニールランド に行く 様々なカードを書く	複合過去（2） 金札過去・未来
⑫	絵葉書を書く 思い出を 書く	単純未来、半過去
⑬	文法総復習	期末テスト（1）筆記
⑭	初級会話の総復習	期末テスト（2）聞き取り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内小テスト、会話練習・暗記のための事前学習

【テキスト（教科書）】
「街かどのフランス語―第三版―」 続き

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（2つの大きな会話課題を含む） 40 パーセント、授業内期末テスト 40 パーセント。平常点 20 パーセント
出席重視 内容は前期に同じ

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけゆっくり丁寧に説明する

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
This French class aims at teaching students beginners'grammar,and cultivating their comprehensive language ability in areas including reading, writing,listening,and speaking.

LANf100LA

フランス語 2 - I 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 - I 2016 年度以前入学者

野村 訓子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年 G～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、文法との関連で、語彙やさまざまな文型と表現を学習する。始めに、正しく綴り字が読めること発音できることを指導する。

【到達目標】

基本的なコミュニケーションの文型を学び、使ってみる。（書く、話す、など）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、本文の意味の解釈の後、音読を行なう。さらに練習問題を解きながら、語彙や表現の定着を図る。
短文の書き取り・暗記などの練習もしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	授業の紹介	授業の紹介
②	フランス語の音とつづり字	フランス語の音とつづり字
③	フランス語の音とつづり字：続き	フランス語の音とつづり字：続き
④	1 課	自己紹介 名詞の性と数
⑤	1 課	前回の続き
⑥	2 課	いろいろな質問 疑問文の型
⑦	2 課	前回の続き
⑧	3 課	自己紹介 2 動詞 avoir の活用
⑨	3 課	前回の続き
⑩	4 課	ものの名前 所有形容詞
⑪	4 課	前回の続き
⑫	5 課	パリの友だち 第一群規則動詞の活用
⑬	5 課	前回の続き
⑭	まとめと試験	試験日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい課に入る前に、その意味内容を予習し考えてくること。また、練習問題については指示に応じて、自宅で準備すること。

【テキスト（教科書）】

『ココリコ・コクリコ』（駿河台出版社）

【参考書】

辞書としては『プチ・ロワイヤル』（旺文社）を推薦。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、試験の成績（70％）により、評価をする。試験の方法、内容については、授業において、教員が指示をする。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問に答えながら、ゆっくりと進めたい。

【Outline and objectives】

We will study the basical expressions and the vocabulary of french language. French pronuciation is regular according to the spells. At first, we will master this regularity.

LANf100LA

フランス語 2 - II 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 - II 2016 年度以前入学者

野村 訓子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年 G～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 2 - I につづけて、さらに語彙、文型また表現の学習を進める。文法事項との関連も踏まえるようにしたい。

【到達目標】

基本的なコミュニケーションのための文型を知り、使ってみる。（書く、読む、など）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、本文の意味の解釈の後、音読を行なう。さらに練習問題を解きながら、語彙や表現の定着を図る。
短文の書き取り・暗記などの練習もしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	6 課	医者にかかる 動詞 aller, venir の活用を学ぶ。
②	6 課続き	前回の続き 練習問題をする。
③	7 課	時刻の表現 近接未来・近接過去
④	7 課続き	前回の続き
⑤	8 課	天候の表現 形容詞・副詞の比較級
⑥	8 課続き	前回の続き
⑦	9 課	喫茶店での注文 複合過去形
⑧	9 課続き	前回の続き
⑨	1 0 課	休暇の計画 単純未来形
⑩	1 0 課続き	前回の続き
⑪	1 1 課	道順の表現。パリの歴史建造物の固有 名詞を 詠む。練習。
⑫	1 1 課続き	1 1 課続き。練習問題を扱う。
⑬	1 2 課	複合過去の第二形に触れる。練習する。
⑭	試験日	試験日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい課に入る前に、その意味内容を予習し考えてくること。また、練習問題については指示に応じて、自宅で準備すること。

【テキスト（教科書）】

『ココリコ・コクリコ』（駿河台出版社）

【参考書】

辞書としては『プチ・ロワイヤル』（旺文社）を推薦。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、期末試験の成績（70％）により、評価をする。期末試験の方法、内容については、授業において、教員が指示をする。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問に答えながら、ゆっくりと進みたい。

【Outline and objectives】

We will continue to learn the basical expressions and the vocabulary of french language.

LANf100LA

フランス語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 - II

2016 年度以前入学者

コンルール ジョルジュ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてフランス語を学ぶ学生のための授業です。

【到達目標】
「話す」練習をしながら「文法」を身につけます。要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力も向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
日本人一名とフランス人一名が行う授業です。文法を説明し、練習問題を繰り返す。そして、ペアでロールプレーなどを行い、フランス語を磨く。その上、フランスについての簡単な資料を使って、理解力を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の紹介
2	Initiation 1	挨拶
2	Initiation 2	自己紹介
3	Leçon 1	数字 名前、職業、住んでいるところについて尋ねる
4	Leçon 1	自分の仕事について話す
5	Leçon 2	ある人について質問する 職業をたずねる
6	Leçon 2	やりたい職業を言う 国籍をたずねる
7	Leçon 3	何語を話すのか言う ある人についてたずねる
8	Test	何かを示す 中間テスト
9	Leçon 3	何語を話すかを言う
9	Leçon 4	好きなものを言う 好き嫌いの程度を言い表す
10	Leçon 4	どちらが好きかを言う
11	Leçon 5	なにをするのが好きか言う
12	Leçon 5	好き嫌いの程度を言い表す したいことについて話す
13	Leçon 6	好みを説明する どちらが好きか理由を述べる
14	Test	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題（復習のために家で書く練習させる）

【テキスト（教科書）】
Spirale
Gael Crépieux / Philippe Callens
Hachette

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】
平常点: 30 %
積極性: 35 %
期末試験: 35 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
CD プレーヤー

【Outline and objectives】
The goal of this course is to teach the French Language basic structure using English according to the ability of the students.

LANf100LA

フランス語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 - II

2016 年度以前入学者

コンルール ジョルジュ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

環 1 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてフランス語を学ぶ学生のための授業です。「話す」練習をしながら「文法」を身につけます。

【到達目標】
要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力を向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
日本人教師とフランス人教師が行う授業です。テーマに即した会話のパターンを聞き、語彙、文法を説明し、練習問題を繰り返す。そして、ペアでロールプレーなどを行い、フランス語を磨く。その上、フランスについての簡単な資料を使って、理解力を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Révisions	復習
2	Leçon 7	自分について話す (年齢、学年) 科目について話す 時間の使い方 時間割について話す
3	Leçon 7	持っているもの 所有を表す 物を借りる
4	Leçon 8	ある場所について説明し、 情報を求める
5	Leçon 8	名所について情報を求める 位置づける
6	Leçon 9	中間テスト
7	Leçon 9	何をするか尋ねる、答える
8	Test	詳しく書く
9	Leçon 10	趣味・余暇について話す
10	Leçon 10	頻度を表す
11	Leçon 11	習慣について話す
12	Leçon 11	家族について話す
13	Leçon 12	テスト
14	Test	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題（家で書く練習をさせる）

【テキスト（教科書）】
Spirale
Gael Crépieux / Philippe Callens
Hachette

【参考書】
Dictionnaire de poche Royal 旺文社

【成績評価の方法と基準】
平常点: 30 %
積極性: 35 %
期末試験: 35 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
The goal of this course is to teach the French Language basic structure using English according to the ability of the students.

LANf100LA

フランス語 2 - I 2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 - I 2016 年度以前入学者

楠本 重行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年 A～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスではフランス語の基本文法と日常会話基本表現（現在時制）を覚えることを主眼とし、さらに単語の入れ替えや文の変換によって表現をある程度まで展開できるようになることをめざします。

【到達目標】

400～500 の基本単語の意味と発音を覚えるとともに、それらを組み合わせた基本日常表現が正しく発音でき、かつ聞き取って書けるようになることをめざします。フランス語検定 5 級に合格できるレベルに到達できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回まず、その時間に学習する日常表現にとって必要な文法事項の解説を行ない、理解度確認のための練習問題を経たのち、日常会話表現の解説と発音練習を行ない、確認のため一人一人に発音してもらうという順序で進めてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文字と記号と音	フランス語で使われる文字・記号・音について解説する
第二回	綴りの読み方	単語の綴りの読み方の規則と注意点について解説する
第三回	名詞の性と数。 定冠詞と不定冠詞。リエゾン・エリゾイオン・アンシェヌマン	男性名詞と女性名詞、単数と複数、冠詞の用法と発音の仕方、その注意点について
第四回	物を指し示す表現と疑問文	voilà,c'est,ce sont を使った表現とその疑問形
第五回	疑問文に対する答え方、否定文の作り方	疑問文に対する答え方と否定文の作り方について学びます
第六回	出会いと別れの挨拶	人に出会ったときと別れるときの基本的な挨拶表現を学びます
第七回	人称代名詞、動詞 être、形容詞の性数	自己紹介・人を紹介する表現、名前・国籍・身分を言う
第八回	人称代名詞強勢形、指示形容詞、疑問代名詞	何、誰、誰のもの、といった問いと応答の表現
第九回	avoir,faire,er 動詞、所有形容詞、定冠詞と à・de の縮約	家族の紹介、職業・年齢の表現
第十回	quel,combien,comment、il y a を使った表現	住まいについて表現
第十一回	中性代名詞 en	中性代名詞 en を使った表現
第十二回	目的語人称代名詞、動詞 aller・venir、近接未来・近接過去	目的語人称代名詞、動詞 aller・venir 使った表現
第十三回	時刻の表現、中性代名詞 y、動詞 vouloir,pouvoir,er 動詞変則形	時刻を伴う表現、待ち合わせ、お詫び、お礼の表現
第十四回	まとめと確認	これまでの学習事項の理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く学習内容を目を通しておくだけでいいですが、復習はたっぷりと時間をかけてください。単語を整理し、教科書付属の CD で何度もフランス語を聞きながら発音練習をし、CD を聞いてフランス語が書けるようになるまで練習すること

【テキスト（教科書）】

早美出版社『アラカルト』倉方秀憲 2500 円 CD 付き

【参考書】

各種仏和辞典（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

テスト 70 % 平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆっくと分かりやすく、板書も見やすい書き方を工夫しながら授業を進めてゆきます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the basic French grammar and sentences for conversation (present tense), and to be able to extend the sentences by the substitution of words and the transformatin of sentences.

LANf100LA

フランス語 2 - II2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 - II2016 年度以前入学者

楠本 重行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年 A～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスではフランス語の基本文法と日常会話基本表現（過去時制・未来時制）を覚えることを主眼とし、さらに単語の入れ替えや文の変換によって表現をある程度まで展開できるようになることをめざします。

【到達目標】
700～800 の基本単語の意味と発音を覚えるとともに、それらを組み合わせた基本日常表現が正しく発音でき、かつ聞き取って書けるようになることをめざします。フランス語検定 4 級に合格できるレベルに到達できることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回まず、その時間に学習する日常表現にとって必要な文法事項の解説を行ない、理解度確認のための練習問題を経たのち、日常会話表現の解説と発音練習を行ない、確認のため一人一人に発音してもらうという順序で進めてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第一回	代名動詞、命令文	代名動詞を使った表現の練習
第二回	avoir を使った複合過去形	avoir を使った複合過去形の表現練習
第三回	動詞 prendre・suivre・voir・asseoir・lire・écrire	道を尋ねる・教える表現
第四回	部分冠詞と数量表現	部分冠詞と数量表現を使った文
第五回	命令文と代名詞	レストランでの表現
第六回	être を使った複合過去形	être を使った複合過去形の表現練習
第七回	単純未来形	単純未来形を使った表現練習
第八回	動詞 falloir・partir・sortir、疑問詞 quand・combien de temps	交通手段、所要時間を表す表現
第九回	半過去形	半過去形を使った表現練習
第十回	条件法現在形	条件法現在形を使った表現練習
第十一回	非人称構文 il fait	天候を表す表現
第十二回	関係代名詞、指示代名詞 celui	関係代名詞、指示代名詞 celui を使った表現練習
第十三回	現在分詞とジェロンディフ、接続法	現在分詞とジェロンディフを使った表現練習、買い物で使う表現
第十四回	まとめと確認	これまでの学習事項の理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は軽く学習内容に目を通しておくだけでいいですが、復習はたっぷりと時間をかけてください。単語を整理し、教科書付属の CD で何度もフランス語を聞きながら発音練習をし、CD を聞いてフランス語が書けるようになるまで練習すること

【テキスト（教科書）】
早美出版社『アラカルト』倉方秀憲 2500 円 CD 付き

【参考書】
各種仏和辞典（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】
テスト 70 % 平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
できるだけゆっくりと分かりやすく、板書も見やすい書き方を工夫しながら授業を進めてゆきます。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to learn the basic French grammar and sentences for conversation (past tense ,futur tense), and to be able to extend the sentences by the substitution of words and the transformatin of sentences.

LANf100LA

フランス語 2 - I2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 - I2016 年度以前入学者

楠本 重行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
キ 1 年 I～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、フランス語の単語の発音の仕方から始めて、基本文法の前半、主として現在時制にかかわる文の構造を中心に、解説と練習問題を通して一通り学習します。

【到達目標】
動詞の現在形変化の学習を中心に、フランス語検定 5 級に合格できるレベルに到達できることを目標にします

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回ポイントとなる文法事項を解説することから始めて、基本文の発音練習、練習問題を解くことによる確認作業と進めてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第一回	フランス語で使われる音と文字と記号	フランス語で使われる音と文字と記号についての解説と発音練習
第二回	単語の綴りの読み方	単語の綴りの読み方についての解説と発音練習
第三回	名詞の性と数、冠詞、アンシュヌマン・リエゾン・エリズィオン	名詞の性と数、冠詞についての解説と発音練習と練習問題
第四回	物を指示する表現、形容詞	形容詞、および c'est,ce sont,il y a についての解説と発音練習と練習問題
第五回	主語人称代名詞と第一群規則動詞、否定文	er 動詞、否定文の解説と発音練習と練習問題
第六回	動詞 avoir,être と否定文Ⅱ	動詞 avoir,être と否定冠詞についての解説と発音練習と練習問題
第七回	疑問文の作り方、疑問文に対する答え方	疑問文の作り方と疑問文に対する答え方の練習問題
第八回	指示形容詞、所有形容詞	指示形容詞、所有形容詞の形と使い方についての解説・発音練習・練習問題
第九回	第二群規則動詞、前置詞と定冠詞の縮約、aller,venir	第二群規則動詞と aller,venir の変化形、定冠詞縮約についての解説と練習問題
第十回	近接未来・近接過去、疑問代名詞、疑問形容詞、疑問副詞	近接未来・近接過去の形と意味、様々な疑問詞についての解説と練習問題
第十一回	名詞・形容詞の女性形と複数形、形容詞の位置	名詞・形容詞の女性形と複数形、形容詞の位置についての解説と練習問題
第十二回	形容詞の男性単数第二形、形容詞・副詞の比較級・最上級	形容詞の男性単数第二形、形容詞・副詞の比較級・最上級についての解説と練習問題
第十三回	数量表現の比較級・最上級、人称代名詞強勢形、動詞の現在形変化補遺	数量表現の比較級・最上級、人称代名詞強勢形、動詞の現在形変化についての解説と練習問題
第十四回	まとめと確認	既習事項の理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は軽く学習事項を確認するだけでよいが、復習は単語を整理し発音練習をたっぷりと行ない、練習問題の間違いをきちんと確認しておくこと

【テキスト（教科書）】
『グラメール・フランセーズ』鈴木雅生、岩崎浩、野村正人（朝日出版社）2100 円

【参考書】
各種仏和辞典（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】
テスト 70 %、平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】
できるだけゆっくりとわかりやすく、板書の仕方にも工夫するつもりです。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the rules of pronuntiation of French words and the basic French grammar (above all, the structure of sentences using the present tense), through the explanation and the exercises.

LANf100LA

フランス語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANf100LA

フランス語 2 - II

2016 年度以前入学者

楠本 重行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
キ 1 年 I～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フランス語の基本文法の後半、主として過去形・未来形を使った文や、さまざまな代名詞の形と用法（人称代名詞、再帰代名詞、指示代名詞、副詞的代名詞、関係代名詞など）を中心に、解説と練習問題を通して一通り学習します。

【到達目標】

動詞のさまざまな時制変化と種々の代名詞の学習を中心にして、フランス語検定 4 級に合格できるレベルに到達できることを目標にします

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回ポイントとなる文法事項を解説することから始めて、基本文の発音練習、練習問題を解くことによる確認作業と進めてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	過去分詞と avoir を使った複合過去形	過去分詞と avoir を使った複合過去形についての解説と練習問題
第二回	être を使った複合過去形	être を使った複合過去形についての解説と練習問題
第三回	関係代名詞と強調構文、複合過去形における過去分詞の性・数一致	関係代名詞・強調構文・過去分詞の性数一致についての解説と練習問題
第四回	受動態、命令法	受動態と命令法についての解説と練習問題
第五回	目的語になる人称代名詞	目的語になる人称代名詞の形と語順についての解説と練習問題
第六回	動詞 devoir,vouloir,pouvoir,savoir, と指示代名詞	助動詞として使われる動詞と指示代名詞についての解説と練習問題
第七回	所有代名詞、代名動詞	所有代名詞と代名動詞についての解説と練習問題
第八回	代名動詞の複合過去形	代名動詞の複合過去形についての解説と練習問題
第九回	中性代名詞 le,en,y	中性代名詞 le,en,y についての解説と練習問題
第十回	半過去形	半過去形についての解説と練習問題
第十一回	大過去形、疑問代名詞 lequell	大過去形と疑問代名詞 lequell についての解説と練習問題
第十二回	関係代名詞 dont,où,前置詞＋関係代名詞	関係代名詞 dont,où,前置詞＋関係代名詞についての解説と練習問題
第十三回	単純未来形、非人称構文	単純未来形と非人称構文についての解説と練習問題
第十四回	まとめと確認	既習事項の理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く学習事項を確認するだけでよいが、復習は単語を整理し発音練習をたっぷり行ない、練習問題の間違いをきちんと確認しておくこと

【テキスト（教科書）】

『グラメール・フランセーズ』鈴木・岩崎・野村 著 （朝日出版社）2100 円＋税

【参考書】

各種仏和辞典（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

テスト 7 0 %、平常点 3 0 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆつくりとわかりやすく、板書の仕方にも工夫するつもりです。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the basic French grammar (above all, the structure of sentences using the past tense, the future tense and the different pronouns : personal pronouns, reflexive pronouns, demonstrative pronouns, adverbial pronouns, relative pronouns,etc.), through the explanation and the exercices.

LANf100LA

フランス語補講 1ーI

2017 年度以降入学者

森本 謙子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 6/Thu.6
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の再確認と新たな文法知識の習得。
語彙の拡張。

【到達目標】

すでに学んだフランス語文法の基礎を再確認し、文法知識を深化させます。またフランス語の基礎的な語彙を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進めます。各課ごとの Mini-dialogue を暗記し、それに関する練習問題を解くことで、文法事項の理解を徹底し、さらにその知識を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業方針を説明
第 2 回	第 1 課	発音と綴り 簡単な挨拶 名詞の性・数 不定冠詞と定冠詞
第 3 回	第 1 課	基本的な動詞の活用 (1) 人や物を提示する表現
第 4 回	第 2 課	疑問文 数詞
第 5 回	第 2 課	基本的な動詞の活用とその表現 (2) 否定形
第 6 回	第 3 課	品質形容詞
第 7 回	第 3 課	第 1 群規則動詞の活用 母音字、または無音の h で始まる第 1 群規則動詞
第 8 回	第 4 課	人称代名詞
第 9 回	第 4 課	所有形容詞 疑問代名詞
第 10 回	第 5 課	命令法
第 11 回	第 5 課	第 2 群規則動詞の活用 不規則動詞の活用
第 12 回	第 6 課	部分冠詞 非人称構文
第 13 回	第 6 課	試験
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた文法事項を復習し、分らなかった箇所は次週に確認してください。

【テキスト（教科書）】

『コミュニケーションのためのマニエールフランス文法』 傳田久仁子、神田悦他著 第三書房。

【参考書】

教室で指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、出席日数 30%、授業への参加度 20%

【学生の意見等からの気づき】

学生の苦手とする箇所を重点的に補うようにします。

LANf100LA

フランス語補講 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

森本 謙子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 6/Thu.6
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の再確認と新たな文法知識の習得。
語彙の拡張。

【到達目標】

春学期と同様、すでに学んだ文法事項を再確認し、文法の知識を深化させます。語彙の拡張を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期と同様、教科書に沿って進めます。各課ごとの Mini-dialogue を暗記し、それに関する練習問題を解くことで、文法事項の理解を徹底させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	春学期に学んだ文法事項を復習する
第 2 回	第 7 課	不規則動詞の活用と近接未来、近接過去
第 3 回	第 7 課	比較構文 名詞の数量の比較
第 4 回	第 8 課	補語人称代名詞 (1)
第 5 回	第 8 課	補語人称代名詞 (2) 指示代名詞 代名動詞の活用
第 6 回	第 9 課	代名動詞の用法
第 7 回	第 9 課	複合過去
第 8 回	第 10 課	複合過去の否定文、疑問文 代名動詞の複合過去
第 9 回	第 10 課	半過去
第 10 回	第 11 課	半過去と複合過去
第 11 回	第 11 課	大過去
第 12 回	第 12 課	シャンソン 単純未来 前未来 受動態
第 13 回	第 13 課	関係代名詞 現在分詞 ジェロンディフ
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた文法事項を復習し、分からなかった箇所は次週に確認してください。

【テキスト（教科書）】

『コミュニケーションのためのマニユエルフランス文法』傳田久仁子、神田修悦他著 第三書房。

【参考書】

教室で指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、出席日数 30%、授業への参加度 20%

【学生の意見等からの気づき】

学生の弱点を補えるよう、理解が徹底していない箇所を繰り返して学習するようにします。

LANf100LA

フランス語補講 2－Ⅰ

2017 年度以降入学者

中村 美緒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 6/Fri.6
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習、その応用として簡単な作文と会話を行う授業です。テキストで初級文法を復習して、映像やその他の資料についてその内容を学習したばかりの文法事項を使いながらフランス語で言ったり書いたりできるようになります。

【到達目標】

初級文法をマスターして、履歴書にも書けるフランス語検定 3 級レベルになります。ダイアログや映像の内容を簡単に説明することができる作文力・会話力も身につきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1 回の授業でいたい 1 レッスンずつ進みます。まずはダイアログの映像を見て使われている文法事項を復習します。次は応用です。映画や写真や音声などの資料を使って、その内容をフランス語で表現しましょう。復習したばかりの文法を含んだ表現をすぐに使ってみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 1・2「自己紹介（国籍、職業）」	動詞 être、形容詞の一致
2 回目	Leçon 3「年齢・家族」	不定冠詞、否定文
3 回目	Leçon 4「好き」	定冠詞、第一群規則動詞、疑問文
4 回目	応用「好きな物、好きなこと」	映画、作文・発表
5 回目	Leçon 5「持ち物」	指示形容詞・所有形容詞、強勢形
6 回目	Leçon 6「友だち」	形容詞
7 回目	Leçon 7「たずねる」	疑問代名詞・疑問副詞
8 回目	応用「誰かの物、自分の友だち」	映画、作文・発表
9 回目	Leçon 8「近い未来・近い過去」	近接未来・近接過去、縮約、中性代名詞 y
10 回目	Leçon 9「時間・天候」	疑問形容詞、非人称構文
11 回目	Leçon 10「数量」	部分冠詞、中性代名詞 en
12 回目	応用「このあと、何食べよう？」	映画、作文・発表
13 回目	Leçon 11「紹介する」	補語人称代名詞
14 回目	試験とまとめ	口頭・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

15 分程度でできる簡単な課題プリント、または調べる課題が出ます。

【テキスト（教科書）】

『新・東京―パリ、初飛行（新装改訂二版）』藤田裕二・藤田知子 著（駿河台出版社）

【参考書】

『フランス語動詞 60』久保田剛史 他著（朝日出版社）

【成績評価の方法と基準】

授業内評価 50 % + 期末試験 50 %（4 回以上の欠席や、未受験は E 評価となります）

【学生の意見等からの気づき】

授業で見る映画や資料は、学生のみなさんと相談して決めたいと思います。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）
明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日 初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当）
フラッシュカード・品詞別文型カードなどを使用して会話を行い、ビジュアルでわかりやすく文法を説明します。フランス語検定にも対応しています。

【Outline and objectives】

It is a lesson to review basic grammar. We also learn simple composition and conversation as its application. After reviewing the grammar with text, we will tell and write what happened in the movie in French.

LANf100LA

フランス語補講 2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

中村 美緒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 6/Fri.6
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習、その応用として作文と会話を行う授業です。テキストで初級文法を復習して、映像やその他の資料についてその内容を学習したばかりの文法事項を使いながらフランス語で言ったり書いたりできるようになります。

【到達目標】

初級文法をマスターして、履歴書にも書けるフランス語検定 3 級レベルになります。ダイアログや映像の内容を簡単に説明することができる作文力・会話力も身につきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1 回の授業でいたい 1 レッスンずつ進みます。まずはダイアログの映像を見て使われている文法事項を復習します。次は応用です。映画や写真や音声などの資料を使って、その内容をフランス語で表現しましょう。復習したばかりの文法を含んだ表現をすぐに使ってみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 12「一日の動作」	代名動詞
2 回目	Leçon 13「依頼する」	命令法、動詞 devoir
3 回目	Leçon 14「将来のこと」	単純未来、動詞 espérer
4 回目	応用「今と 3 年後」	映画、作文・発表
5 回目	Leçon 15「過去のこと」	複合過去
6 回目	Leçon 16「過去のこと」	半過去・大過去
7 回目	Leçon 17「人や物について」	関係代名詞、指示代名詞
8 回目	Leçon 18「比較する」	比較級・最上級
9 回目	応用「昔の思い出」	映画、作文・発表
10 回目	Leçon 19「受け身と同時性」	受動態、現在分詞・ジェロンディフ
11 回目	Leçon 20「仮定する」	条件法現在・条件法過去
12 回目	Leçon 21「感情表現」	接続法現在・接続法過去
13 回目	応用「自分の意見」	映画、作文・発表
14 回目	試験とまとめ	口頭・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

15 分程度でできる簡単な課題プリント、または調べる課題が出ます。

【テキスト（教科書）】

『新・東京―パリ、初飛行（新装改訂二版）』藤田裕二・藤田知子 著（駿河台出版社）

【参考書】

『フランス語動詞 60』久保田剛史 他著（朝日出版社）

【成績評価の方法と基準】

授業内評価 50 % + 期末試験 50 %（4 回以上の欠席や、未受験は E 評価となります）

【学生の意見等からの気づき】

授業で見る映画や資料は、学生のみなさんと相談して決めたいと思います。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）
明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日）
初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当）
フラッシュカード・品詞別文型カードなどを使用して会話を行い、ビジュアルでわかりやすく文法を説明します。フランス語検定にも対応しています。

【Outline and objectives】

It is a lesson to review basic grammar. We also learn simple composition and conversation as its application. After reviewing the grammar with text, we will tell and write what happened in the movie in French.

LANf200LA

フランス語補講 3－Ⅰ

2017 年度以降入学者

楠本 重行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文営環 3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フランス語の単語の発音の仕方から始めて、基本文法の前半、主として現在時制にかかわる文の構造を中心に、解説と練習問題を通して一通り学習します

【到達目標】

動詞の現在形変化の学習を中心に、フランス語検定 5 級に合格できるレベルに到達できることを目標にします

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

毎回ポイントとなる文法事項を解説することから始めて、基本文の発音練習、練習問題を解くことによる確認作業と進めてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	フランス語で使われる音と文字と記号	フランス語で使われる音と文字と記号についての解説と発音練習
第二回	単語の綴りの読み方	単語の綴りの読み方についての解説と発音練習
第三回	名詞の性と数、冠詞、アンシェヌマン・リエゾン・エリズイオン	名詞の性と数、冠詞についての解説と発音練習と練習問題
第四回	物を指示する表現、形容詞Ⅰ	形容詞、および c'est, ce sont, il y a についての解説と発音練習と練習問題
第五回	主語人称代名詞と第一群規則動詞、否定文	er 動詞、否定文の解説と発音練習と練習問題
第六回	動詞 avoir, être と否定文Ⅱ	動詞 avoir, être と否定冠詞についての解説と発音練習と練習問題
第七回	疑問文の作り方、疑問文に対する答え方	疑問文の作り方と疑問文に対する答え方の練習問題
第八回	指示形容詞、所有形容詞	指示形容詞、所有形容詞の形と使い方についての解説・発音練習・練習問題
第九回	第二群規則動詞、前置詞と定冠詞の縮約、aller, venir	第二群規則動詞と aller, venir の変化形、定冠詞縮約についての解説と練習問題
第十回	近接未来・近接過去、疑問代名詞、疑問形容詞、疑問副詞	近接未来・近接過去の形と意味、様々な疑問詞についての解説と練習問題
第十一回	名詞・形容詞の女性形と複数形、形容詞の位置	名詞・形容詞の女性形と複数形、形容詞の位置についての解説と練習問題
第十二回	形容詞の男性単数第二形、形容詞・副詞の比較級・最上級	形容詞の男性単数第二形、形容詞・副詞の比較級・最上級についての解説と練習問題
第十三回	数量表現の比較級・最上級、人称代名詞強勢形、動詞の現在形変化補遺	数量表現の比較級・最上級、人称代名詞強勢形、動詞の現在形変化についての解説と練習問題
第十四回	まとめと確認	既習事項の理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く学習事項を確認するだけでよいが、復習は単語を整理し発音練習をたっぷり行ない、練習問題の間違いをきちんと確認しておくこと

【テキスト（教科書）】

『グラメール・フランセーズ』鈴木雅生、岩崎浩、野村正人（朝日出版）2100 円

【参考書】

各種仏和辞典（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

テスト 70 %、平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆつくとわかりやすく、板書の仕方にも工夫するつもりです。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the rules of pronunciation of French words and the basic French grammar (above all, the structure of the sentences using the present tense), through the explanation and the exercises.

LANr200LA

フランス語補講 3ーⅡ

2017 年度以降入学者

楠本 重行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文営環 3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フランス語の基本文法の後半、主として過去形・未来形を使った文や、さまざまな代名詞の形と用法（人称代名詞、再帰代名詞、指示代名詞、副詞的代名詞、関係代名詞など）を中心に、解説と練習問題を通して一通り学習します。

【到達目標】

動詞のさまざまな時制変化と種々の代名詞の学習を中心にして、フランス語検定 4 級に合格できるレベルに到達できることを目標にします

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

毎回ポイントとなる文法事項を解説することから始めて、基本文の発音練習、練習問題を解くことによる確認作業と進めてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	過去分詞と avoir を使った複合過去形	過去分詞と avoir を使った複合過去形についての解説と練習問題
第二回	être を使った複合過去形	être を使った複合過去形についての解説と練習問題
第三回	関係代名詞と強調構文、複合過去形における過去分詞の性・数一致	関係代名詞・強調構文・過去分詞の性数一致についての解説と練習問題
第四回	受動態、命令法	受動態と命令法についての解説と練習問題
第五回	目的語になる人称代名詞	目的語になる人称代名詞の形と語順についての解説と練習問題
第六回	動詞 devoir, vouloir pouvoir, savoir, と指示代名詞	助動詞として使われる動詞と指示代名詞についての解説と練習問題
第七回	所有代名詞、代名動詞	所有代名詞と代名動詞についての解説と練習問題
第八回	代名動詞の複合過去形	代名動詞の複合過去形についての解説と練習問題
第九回	中性代名詞 le, en, y	中性代名詞 le, en, y についての解説と練習問題
第十回	半過去形	半過去形についての解説と練習問題
第十一回	大過去形、疑問代名詞 lequel	大過去形と疑問代名詞 lequel についての解説と練習問題
第十二回	関係代名詞 dont, où, 前置詞 + 関係代名詞	関係代名詞 dont, où, 前置詞 + 関係代名詞についての解説と練習問題
第十三回	単純未来形、非人称構文	単純未来形と非人称構文についての解説と練習問題
第十四回	まとめと確認	既習事項の理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く学習事項を確認するだけでよいが、復習は単語を整理し発音練習をたっぷり行ない、練習問題の間違いをきちんと確認しておくこと

【テキスト（教科書）】

『グラメール・フランセーズ』鈴木・岩崎・野村 著（朝日出版社）2100 円＋税

【参考書】

各種仏和辞典（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

テスト 70 %、平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆつくりとわかりやすく、板書の仕方にも工夫するつもりです。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the basic French grammar (above all, the structure of sentences using the past tense, the future tense and the different pronouns : personal pronouns, reflexive pronouns, demonstrative pronouns, adverbial pronouns, relative pronouns, etc.), through the explanation and the exercises.

LANr100LA

ロシア語 1 I

2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 1 I

2016 年度以前入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
法 1 年（Y 除く）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、ロシア語のアルファベット、発音、初級文法を習得する。本授業は「ロシア語 1 II」とセットになっている。

【到達目標】

(1) ロシア語の文字を読み書きすることができる。(2) ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得する。その後、初級文法を教科書で学びながら、様々な練習問題を解くことにより、理解・定着を図る。視聴覚教材もふんだんに用い、まずはロシア語に親しむことを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ロシア語の特徴と勉強の仕方について
2	第 1 課 文字と発音	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	第 1 課 文字と発音	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント
4	第 2 課 基本文型（～は...である。～に...がある。）	基本文型、疑問文、接続詞
5	第 2 課 基本文型（～は...である。～に...がある。）	人称代名詞、名詞の性
6	第 3 課 名詞の複数形、所有代名詞	名詞の複数形
7	第 3 課 名詞の複数形、所有代名詞	所有代名詞
8	第 4 課 形容詞	指示代名詞、形容詞
9	第 4 課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）
10	第 5 課 動詞の過去形、副詞、格	動詞（不定形と過去形）
11	第 5 課 動詞の過去形、副詞、格	副詞の作り方、格の説明
12	第 6 課 動詞の現在形、未来形、前置格	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	第 6 課 動詞の現在形、未来形、前置格	前置格
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には該当箇所を予習し、授業でわからないところを確認する。復習として練習問題を解く。また、小テストの前には必ず文法事項や語彙を復習する。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2013 年

【参考書】

露和・和露辞典（博友社「ロシア語辞典」（1995 年）など）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）（60 %）、期末試験（40 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【Outline and objectives】

This course introduces you to the foundations of Russian language. In this semester, we will focus on mastery of alphabets, pronunciation, and basic grammar and vocabulary. The course will be followed by the “Russian 1 II” course in the autumn semester. By the end of this course, students will be able to 1) read and pronounce Russian alphabets and 2) explain basic Russian grammar. No prior knowledge of Russian is required.

LANr100LA

ロシア語 1 II 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 1 II 2016 年度以前入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
法 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「ロシア語 1 I」に引き続き、ロシア語の諸学者を対象とする。本授業ではロシア語の初級文法の習得に加え、簡単な会話、文章の読み書きを学ぶ。

【到達目標】

(1) 簡単なロシア語会話ができる。(2) ロシア語の文章から情報を得たり、ロシア語で必要な情報を伝えたりすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

まずは春学期の復習を行う。文法のエッセンスを取り上げ、繰り返ししながら習得を目指す。また、文法の勉強と並行してテキストの和訳、露訳作文、会話の練習を行うことにより、学んだ文法知識を実践することにも重点を置く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期に学んだ文法事項の確認
2	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	動詞の命令形、対格変化（名詞、人称代名詞）
3	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	対格変化、曜日の表現
4	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	動詞の変化（-с я、歯音、唇音）
5	第 8 課 運動の動詞	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
6	第 8 課 運動の動詞	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
7	第 9 課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	形容詞の対格、前置格
8	第 9 課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の変化
9	第 9 課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	人称代名詞の変化
10	第 10 課 生格	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
11	第 10 課 生格	所有の表現、否定生格
12	第 11 課 与格と造格	与格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
13	第 11 課 与格と造格	造格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には該当箇所を予習し、授業でわからないところを確認する。復習として練習問題を解く。また、小テストの前には必ず文法事項や語彙を復習する。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2013 年

【参考書】

露和・和露辞典（博友社「ロシア語辞典」（1995 年）など）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）（60 %）、期末テスト（40 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【Outline and objectives】

This course introduces you to the foundations of Russian language. It will be offered to students who take the “Russian 1 I” course in the spring semester. In this semester, we will focus on providing knowledge on Russian grammar and vocabulary, as well as basic reading, listening comprehension, speaking, and writing skills. By the end of this course, students will be able to 1) communicate in Russian through basic phrases and 2) read and write basic Russian texts.

LANr100LA

ロシア語 1 I 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 1 I 2016 年度以前入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前篇）。1）文字と発音の習得、2）初級文法の最初の段階。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。「ロシア語 1 II」とセットになっています。また、「ロシア語 2 I」と提携して行なわれる授業です。ロシア語ではラテン文字と異なるキリル文字が用いられています。まずはこの馴染みのない文字に慣れることに集中します。自分の口で発音し、手で書くことによってマスターしていきましょう。授業への積極的な参加が不可欠です。次に、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることにします。ポイントとなるのは、動詞の過去形・現在形・未来形の変化を覚えること、それから、英語などにはない「格」という仕組みを理解することです。毎回小テスト等で復習しながら、着実にものにしていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	文字と発音（その 1）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
②	文字と発音（その 2）	前回の続き。
③	文字と発音（その 3）	ロシア語の単語の読み方の規則。
④	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
⑤	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
⑥	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
⑦	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑧	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑨	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。
⑩	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。
⑪	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑫	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑬	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
⑭	期末試験	文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この段階での最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。単語を辞書で調べる学習は、後から次第に増やすようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、授業の最初に既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
音声教材をより一層利用するよう努める。

【Outline and objectives】
Elementary Russian Part 1. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the past, present and future tenses of verbs, etc.)

LANr100LA

ロシア語 1 II 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 1 II 2016 年度以前入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
文 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語入門（後編）。1）初級文法。2）会話、読解、作文。

【到達目標】
簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で伝えたりすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
「ロシア語 1 I」に引き続き、ロシア語の初学者を対象とします。「ロシア語 2 II」と提携して行なわれる授業です。ここでの文法学習のポイントとなるのは、名詞（と形容詞・所有代名詞）の「格」の変化と意味を覚えることです。問題を繰り返し解く反復練習を行い、春学期にも増して小テスト等での復習を重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	名詞の性・数・格、動詞の過去形・現在形・未来形など。
②	動詞の命令形	命令の表現の作り方。
③	名詞の対格	名詞の主格から対格を作る仕方、名詞の対格の意味。曜日の表現。
④	運動の動詞（その 1）	運動の動詞の意味、現在形・過去形。
⑤	運動の動詞（その 2）	運動の動詞の使い分け。
⑥	形容詞の前置格と対格	名詞の前置格と形容詞の前置格、名詞の対格と形容詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑦	所有代名詞の前置格と対格	名詞の前置格と所有代名詞の前置格、名詞の対格と所有代名詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑧	名詞の生格	名詞の主格から生格を作る仕方、名詞の生格の意味。
⑨	形容詞・所有代名詞の生格	名詞の生格と形容詞・所有代名詞の生格との結合の仕方。
⑩	名詞の与格	名詞の主格から与格を作る仕方、名詞の与格の意味。
⑪	形容詞・所有代名詞の与格	名詞の与格と形容詞・所有代名詞との結合の仕方。
⑫	名詞の造格	名詞の主格から造格を作る仕方、名詞の造格の意味。
⑬	形容詞・所有代名詞の造格	名詞の造格と形容詞・所有代名詞の造格との結合の仕方。
⑭	期末試験	文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ロシア語を声に出す準備学習と復習に加えて、辞書で単語を引き、ロシア語の文章の意味を自分の力で理解する練習をしましょう。春学期よりもずっと大変な学習になるので、努力が必要です。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、授業の最初に既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
音声教材をより一層利用するよう努める。

【Outline and objectives】
Elementary Russian Part 2. The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, verbs of motion, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

LANr100LA	
ロシア語 1 I	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語 1 I	2016 年度以前入学者
長屋 房夫	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語のアルファベットを学び、単語の発音から始めて、簡単な文章を読み、辞書を用いて意味を理解できるようになる。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい（秋学期授業を受けるためには春学期の試験合格が前提）

【到達目標】
教科書の単語と文法を着実に習得する。テキストが読めるようになる。練習問題や宿題を積み重ねて理解度を上げる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
2 名の先生がリレー方式で授業をします。基本的に前回の授業で終えたところから次の先生が続ける。下記の授業計画の中で毎回テキストの読みや宿題の答え合わせを行い、中間テストとして発音・暗記ミニテストを行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識	授業ガイダンス、ロシア語について
2	第 1 課 ロシア語文字と発音	アルファベットの習得と書き方、母音の発音、文字の発音練習
3	第 1 課 文字と発音	子音の発音、単語の中での発音、例外など特殊な音
4	第 2 課 基本文型	基本文型の特徴的な文法説明、テキストの読みと訳
5	第 2 課 基本文型	イントネーションと練習問題
6	第 3 課 名詞の複数、所有代名詞、テキスト	新出単語の説明、文法、テキストの読みと訳
7	第 3 課 会話と練習問題	会話の読みと訳、文法説明、練習問題の答え合わせと説明
8	第 4 課 形容詞	新出単語の説明、文法とテキストの読み、訳
9	第 4 課 会話と練習問題	会話の訳と文法説明、練習問題の答え合わせ
10	第 5 課 動詞の過去形、副詞、格	新出単語の説明、文法とテキスト
11	第 5 課 会話と練習問題	会話の訳と文法説明、練習問題の答え合わせ
12	第 6 課 動詞の現在人称形、未来形、前置格	新出単語の説明、文法説明とテキストの読み、訳
13	第 6 課 会話と練習問題。 春期総復習	会話の訳と文法説明、練習問題の答え合わせ。試験に向けて復習をする
14	春学期の試験	授業内試験（1 時間）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習・反復・復習が大切なので、まずは単語を覚え、文法も学習しながら練習問題で確実に学習する。毎回の宿題を予習し、各課のテキストは間違いないで発音できるようにする

【テキスト（教科書）】
「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員編）

【参考書】
「入門ロシア語文法」和久利智一 白水社

【成績評価の方法と基準】
授業内試験（60%）ミニテスト・宿題回答（20%）平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】
ミニテストや中間テストを行う。その他、単語や発音、文章の暗記なども積極的に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】
春期は新出単語の説明をしますが、秋期は各自辞書を用意して自分で単語を引く。辞書については授業内で説明します

【その他の重要事項】
語学の継続性を重視しますので、正当な理由無くして 3 回以上欠席した学生は授業内受験の権利を失います。（授業の中で詳しく説明します）

【Outline and objectives】

You can learn the Russian alphabet, start with the pronunciation of a word, read a simple sentence, and use a dictionary to understand the meaning. It is preferable to take this course through the spring and autumn semester (it is premised that you pass the spring semester exam in order to take the autumn semester)

LANr100LA

ロシア語 1 II

2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 1 II

2016 年度以前入学者

長屋 房夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で用いた「初級ロシア語」の教科書を継続します。春期に終了した箇所から始め、ロシア語の文法・語彙を深めます

【到達目標】

この教科書の第 11 課まで終えるのが目標です。秋期からはロシア語的な難しさが文法にも出てくるので、嫌にならないように関心を持ち、集中して学びましょう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春期と同じように、教科書に沿って授業を進めます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春期の復習	夏休みで忘れてしまった文法や単語、練習問題で復習する
2	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日	文法説明とテキストの読みと訳
3	第 7 課 会話と練習問題	会話の読みと訳、文法説明、練習問題の答え合わせ
4	第 8 課 運動の動詞	運動の動詞の文法説明、前置格と対格の使用例、テキストの読みと訳
5	第 8 課 会話と練習問題	会話の読みと訳、文法説明、練習問題の答え合わせ
6	第 9 課 形容詞、所有代名詞の対格、前置格	文法説明とテキストの読みと訳
7	第 9 課 会話と練習問題	会話の読みと訳、文法説明、練習問題の答え合わせ
8	第 10 課 生格（名詞の生格）、生格を要求する前置詞、形容詞の生格変化、所有代名詞の生格	生格（名詞の生格）、生格を要求する前置詞、形容詞の生格変化、所有代名詞の生格の文法説明
9	第 10 課 生格（所有を表す表現、否定生格）	文法説明とテキストの読みと訳
10	第 10 課 会話と練習問題	会話の読みと訳、文法説明、練習問題の答え合わせ
11	第 11 課 与格と造格	文法説明とテキスト
12	第 11 課 会話と練習問題	会話の読みと訳、文法説明、練習問題の答え合わせ
13	秋学期の総復習	第 7 課から 11 課までの総復習
14	秋学期試験	授業内試験（1 時間）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は各自調べる。宿題だけでなくテキストの読みもスラスラ読めるまで練習する

【テキスト（教科書）】

「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員編）

【参考書】

「入門ロシア語文法」和久利誓一 白水社

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（60%）、中間テスト・宿題（20%）、平常点（20%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学習を確実に身につけるためのテストをします。単語のテスト、発音を学ぶため暗記テストなどを実施します

【学生が準備すべき機器他】

ロシア語初級レベルの辞書

【その他の重要事項】

語学の継続性を重視しますので、正当な理由無くして 3 回以上欠席した学生は授業内受験資格を失います。（授業の中で詳しく説明します）

【Outline and objectives】

We will continue with the "Getting Started Russian" textbook, which used in the spring semester. We will begin with the end of the spring and deepen the grammar and vocabulary of the Russian language.

LANr100LA

ロシア語 2 I

2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 (2) I

2016 年度以前入学者

LANr100LA

ロシア語 (2) I

2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 2 I

2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の音、読み方、書き方から始め、それらが定着した後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。また、ロシア語が話されている国や地域についても紹介したいと考えています。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音できること。イントネーションを意識してまとまった文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に応えられること。学んだ文法を理解し運用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 との連携授業です。ロシア語 1 で学んだ単語、文法や文章表現を復習しながら、練習問題、テキストの読解、応用会話と授業を進めます。なお、授業の進展によっては授業内容が変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	「所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化 (1)	動詞の現在人称変化 (第 1 変化) の説明と練習
10	動詞の現在人称変化 (2)	動詞の現在人称変化 (第 2 変化) の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	まとめと復習	既習事項のまとめと復習
14	まとめと確認	既習事項の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習して覚えるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む） 30 % 学期末試験 70 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業に積極的に参加しましょう。皆さんが積極的に発言できるような授業を目指したいと考えています。

【Outline and objectives】

This is a course for beginners. For the beginning, Russian alphabet, pronunciation of each letter, phonics and simple conversation for the first contact will be introduced. After that it deals with elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.

LANr100LA

ロシア語 2Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 2Ⅱ 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1 で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。ロシア語の特徴である 6 つの格変化と動詞関連の学習を終え、簡単な文章を読んで理解できることを目標とします。

【到達目標】

動詞の変化（現在、過去、未来、命令形）を正確に理解し、運用できること。格変化の意味と用法を理解すること。簡単なロシア語の文章を理解し正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、それに的確に応えられること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの音読と日本語への訳出というように授業を進めます。機会があれば視聴覚資料を用いて現地事情を紹介したいと考えています。なお、授業の進度によっては予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	行き先と乗り物の表現	行先と交通手段の表現
4	所有代名詞・形容詞の格変化	所有代名詞と形容詞の格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と用法
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有の表現、否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格の表現や造格を要求する前置詞
12	名詞の格変化の復習	名詞の格変化の復習
13	所有代名詞・形容詞の格変化の復習	所有代名詞・形容詞の格変化の復習
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を調べ、覚えるようにしましょう。授業で学んだことはしっかり復習しましょう。疑問点はその場で質問し、問題解決につとめましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利智一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む）30 %、学期末試験 70 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を目指します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case change).

LANr100LA

ロシア語 2Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 2Ⅰ 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の音、読み方、書き方から始め、それらが定着した後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。また、ロシア語が話されている国や地域についても紹介したいと考えています。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音できること。イントネーションを意識してまとまった文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に応えられること。学んだ文法を理解し運用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 との連携授業です。ロシア語 1 で学んだ単語、文法や文章表現を復習しながら、練習問題、テキストの読解、応用会話と授業を進めます。なお、授業の進展によっては授業内容が変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	「所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化（1）	動詞の現在人称変化（第 1 変化）の説明と練習
10	動詞の現在人称変化（2）	動詞の現在人称変化（第 2 変化）の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	まとめと復習	既習事項のまとめと復習
14	まとめと確認	既習事項の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習して覚えるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利智一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む）30 %、学期末試験 70 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業に積極的に参加しましょう。皆さんが積極的に発言できるような授業を目指したいと考えています。

【Outline and objectives】

This is a course for beginners. For the beginning, Russian alphabet, pronunciation of each letter, phonics and simple conversation for the first contact will be introduced. After that it deals with elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.

LANr100LA

ロシア語 2Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 2Ⅱ 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1 で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。ロシア語の特徴である 6 つの格変化と動詞関連の学習を終え、簡単な文章を読んで理解できることを目標とします。

【到達目標】

動詞の変化（現在、過去、未来、命令形）を正確に理解し、運用できること。格変化の意味と用法を理解すること。簡単なロシア語の文章を理解し正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、それに的確に応えられること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの音読と日本語への訳出というように授業を進めます。機会があれば視聴覚資料を用いて現地事情を紹介したいと考えています。なお、授業の進度によっては予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	行き先と乗り物の表現	行先と交通手段の表現
4	所有代名詞・形容詞の格変化	所有代名詞と形容詞の格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と用法
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有の表現、否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格の表現や造格を要求する前置詞
12	名詞の格変化の復習	名詞の格変化の復習
13	所有代名詞・形容詞の格変化の復習	所有代名詞・形容詞の格変化の復習
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を調べ、覚えるようにしましょう。授業で学んだことはしっかり復習しましょう。疑問点はその場で質問し、問題解決につとめましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利智一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む）30 %、学期末試験 70 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を目指します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case change).

LANr100LA

ロシア語 2Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 2Ⅰ 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
営 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の音、読み方、書き方から始め、それらが定着した後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。また、ロシア語が話されている国や地域についても紹介したいと考えています。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音できること。イントネーションを意識してまとまった文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に応えられること。学んだ文法を理解し運用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 との連携授業です。ロシア語 1 で学んだ単語、文法や文章表現を復習しながら、練習問題、テキストの読解、応用会話と授業を進めます。なお、授業の進展によっては授業内容が変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	「所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化（1）	動詞の現在人称変化（第 1 変化）の説明と練習
10	動詞の現在人称変化（2）	動詞の現在人称変化（第 2 変化）の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	まとめと復習	既習事項のまとめと復習
14	まとめと確認	既習事項の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習して覚えるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利智一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む）30 %、学期末試験 70 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業に積極的に参加しましょう。皆さんが積極的に発言できるような授業を目指したいと考えています。

【Outline and objectives】

This is a course for beginners. For the beginning, Russian alphabet, pronunciation of each letter, phonics and simple conversation for the first contact will be introduced. After that it deals with elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.

LANr100LA

ロシア語 2Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 2Ⅱ 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
営 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1 で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。ロシア語の特徴である 6 つの格変化と動詞関連の学習を終え、簡単な文章を読んで理解できることを目標とします。

【到達目標】

動詞の変化（現在、過去、未来、命令形）を正確に理解し、運用できること。格変化の意味と用法を理解すること。簡単なロシア語の文章を理解し正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、それに的確に応えられること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの音読と日本語への訳出というように授業を進めます。機会があれば視聴覚資料を用いて現地事情を紹介したいと考えています。
なお、授業の進度によっては予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	行き先と乗り物の表現	行先と交通手段の表現
4	所有代名詞・形容詞の格変化	所有代名詞と形容詞の格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と用法
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有の表現、否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格の表現や造格を要求する前置詞
12	名詞の格変化の復習	名詞の格変化の復習
13	所有代名詞・形容詞の格変化の復習	所有代名詞・形容詞の格変化の復習
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を調べ、覚えるようにしましょう。授業で学んだことはしっかり復習しましょう。疑問点はその場で質問し、問題解決につとめましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利智一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出などを含む）30 %、学期末試験 70 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を目指します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case change).

LANr100LA

ロシア語 1 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 1 2016 年度以前入学者

コベルニック ナディア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてロシア語に接する学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の読み書き、ロシア語の発音とイントネーションの規則、そして初級文法を身につけることを目的とします。

【到達目標】

正確にロシア文字を読み、書けること。アクセントの位置、イントネーションを正しく発音できること。ロシア語の文法の基本を説明することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「ロシア語 2」および「ロシア語 5」と提携して行なわれる授業です。まずは、ロシア（キリル）文字に慣れることに集中します。次に、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることにします。ポイントとなるのは、動詞の過去形・現在形・未来形の変化を覚えること、それから「格」という仕組みを理解することです。
原則として、毎回の授業で前回の内容を復習する小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文字と発音（その 1）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
2	文字と発音（その 2）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方（前回の続き）。
3	文字と発音（その 3）	ロシア語の単語の読み方の規則。
4	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
5	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
6	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
7	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
8	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
9	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。
10	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。
11	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
12	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
13	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この段階で最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。単語を辞書で調べる学習は、後から次第に増やすようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。

【参考書】

匹田剛 (2016)『これならわかる ロシア語文法：入門から上級まで』NHK 出版。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、期末試験 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

個々の学生の長所を伸ばせるような授業を心掛けたいと考えています。

【Outline and objectives】

The goals of this course are: (1) to teach students Russian alphabet, (2) to practice handwriting, (3) to give students tips on how to pronounce Russian sounds and words correctly, and (4) to teach students basic grammar, useful words, and expressions.

LANr100LA

ロシア語 3

2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 3

2016 年度以前入学者

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 4、ロシア語 6 と連携する授業です。春学期に引き続き、単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに新たな文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎を盤石にしていきたいと思います。この授業が終わる頃には、ロシア語で平易な読み物が読めるようになり、簡単な会話表現が身に付いていることでしょう。具体的には、ロシア語能力検定試験 4 級もしくは 3 級程度の力がついているはずです。また、ロシアの豊かな芸術や文化に触れてもらうため、映像や音楽を楽しむようにします。

【到達目標】

SA ロシアでの授業や生活で困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。ロシア人留学生との交流も通して、語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期と同じ教材を使用し、それぞれの担当教員がリレー方式で授業を進めます。春学期に学んだ文法事項を復習するところから始め、引き続き、新たな文法事項を練習問題や読解を通して着実に身につけていきます。文法を学ぶことが、語学上達の鍵ですので、一生懸命吸収してください。授業は音読に力を入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習／映像鑑賞。	春学期期末試験の確認を通して復習を行う。映像鑑賞。
第 2 回	運動の動詞（定動詞と不定動詞）の人称変化。練習問題。映像鑑賞。	運動の動詞（定動詞と不定動詞）の概念について。その人称変化を確認。映像鑑賞。
第 3 回	運動の動詞（定動詞と不定動詞）。方向の示し方。交通手段。対格、前置格。映像鑑賞。	前回授業の復習。方向を示す副詞句。交通手段を表す表現。対格と前置格の復習。映像鑑賞。
第 4 回	前置格、対格の形容詞・所有代名詞の変化。練習問題。映像鑑賞。	形容詞＋名詞の前置格、対格を覚える。映像鑑賞。
第 5 回	前置格、対格の形容詞・所有代名詞の変化。テキスト読解。映像鑑賞。	前回授業の復習。テキストの読解と質疑応答。映像鑑賞。
第 6 回	生格（形容詞・所有代名詞も含む）。練習問題。映像鑑賞。	形容詞＋名詞の生格を覚える。テキストの読解と質疑応答。映像鑑賞。
第 7 回	生格（形容詞・所有代名詞も含む）。テキスト読解。映像鑑賞。	前回授業の復習。練習問題。テキストの読解と質疑応答。映像鑑賞。
第 8 回	与格と造格。練習問題。映像鑑賞。	形容詞＋名詞の与格を覚える。テキストの読解と質疑応答。映像鑑賞。
第 9 回	与格と造格。テキスト読解。映像鑑賞。	形容詞＋名詞のを造格を覚える。テキストの読解と質疑応答。映像鑑賞。
第 10 回	動詞の完了体・完了体。練習問題。映像鑑賞。	動詞の完了体・完了体の概念としくみについて。その区別を行う練習問題。映像鑑賞。
第 11 回	動詞の完了体・完了体。映像鑑賞。	前回授業の復習と確認。映像鑑賞。
第 12 回	関係代名詞。テキスト読解。映像鑑賞。	関係代名詞のしくみについて。文章の中で、関係代名詞の機能を確認していく。映像鑑賞。
第 13 回	関係代名詞／目的を示す接続詞。テキスト読解。映像鑑賞。	前回の復習。目的を示す接続詞を学ぶ。仮定法のしくみについて。映像鑑賞。
第 14 回	期末試験	文法を確認する筆記試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業内容の予習（とくに辞書を引く作業）。復習を兼ねた課題。

【テキスト（教科書）】

春学期に同じ。

【参考書】

春学期に同じ。

【成績評価の方法と基準】

出席率（50%）、期末試験（25%）、小テスト（25%）。

【学生の意見等からの気づき】

これまでどおり、文法と会話の力を身につけていく工夫を重ねていきます。

【Outline and objectives】

This course proceeds in close contact with courses: Russian 4 and Russian 6.

In this course, we will acquire basics of Russian grammar: grammatical cases, grammatical aspects and relative pronoun. We will be able to read easy texts and have simple conversations in Russian.

LANr100LA

ロシア語 2

2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 2

2016 年度以前入学者

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1、ロシア語 5 と連携する授業です。単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎作りをしていきましょう。また、コミュニケーション手段としてのロシア語を身近に感じてもらうために、映画や歌謡を通して、習得した表現がどのように使われているのかを確認する時間もちます。ロシアの文化や慣習とつねに結び付けながら、また英語や日本語との比較を絶えず視野に入れながらロシア語の特殊性、面白さを発見していきましょう。

【到達目標】

SA ロシアでの授業や生活で困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。ロシア人留学生との交流も通して、語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と同じ教材を使用し、それぞれの担当教員がリレー方式で授業を進めます。ロシア語 1 で学んだ文法事項を練習問題や簡単な口頭表現で定着させていきます。文法を学ぶことが、語学上達の鍵となりますので、一生懸命に吸収してください。授業は音読に力を入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音／映像鑑賞	ガイダンス。 ロシア語のアルファベット。文字の確認と音に慣れる。映像鑑賞。
第 2 回	文字と発音／映像鑑賞	ロシア語のアルファベット。文字の確認と音に慣れる。映像鑑賞。
第 3 回	基本文型「これは何？」 「これは誰？」会話練習。 映像鑑賞	物や人を尋ねる表現を覚え、基本的な名詞もどんどん覚えて反復練習。映像鑑賞。
第 4 回	基本文型。名詞の性について。練習問題。映像鑑賞。	平叙文の基本文型と疑問詞のない疑問文を確認しつつ、練習問題で基本文型の基礎固めを行う。名詞の性分類。映像鑑賞。
第 5 回	名詞の複数。所有代名詞。自己紹介の練習。練習問題。映像鑑賞。	名詞の複数形の数々を覚え、いくつかの例外も記憶する。名詞の性と所有代名詞の関係を覚える。映像鑑賞。
第 6 回	名詞の複数。所有代名詞。会話練習。練習問題。個数詞 1 ～ 10。	前回の内容を復習しながら、新たな例外も覚える。個数詞を暗記。映像鑑賞。
第 7 回	指示代名詞と形容詞。モスクワを案内する会話練習。練習問題。個数詞 1 ～ 12。	名詞の性と形容詞の関係について覚える。モスクワの街について知る。個数詞を復習しながら 12 まで書けるようにする。映像鑑賞。
第 8 回	動詞の過去形。対話練習。ロシア人の名前について。練習問題。個数詞 11 ～ 20。映像鑑賞。	動詞の過去形の作り方を覚える。ロシア人の名前・父称・姓について。個数詞を 20 まで覚える。映像鑑賞。
第 9 回	動詞の現在形。前置格。場所の表現。個数詞 11 ～ 20。	動詞の現在人称変化（第 1 変化／第 2 変化）を覚える。場所を表す前置格の使い方について。個数詞の復習。
第 10 回	動詞の未来形。前置格。練習問題。個数詞 21 ～ 69。映像鑑賞。	動詞の未来形（合成未来）の作り方を覚える。個数詞を 69 まで口頭で言えるようにする。映像鑑賞。
第 11 回	動詞の命令形。曜日の表現。対格。「～が好き」を使った会話練習。個数詞 70 ～ 100。映像鑑賞。	動詞の命令形の作り方について。曜日を覚えて、「～曜日に～した（する）」という表現でやりとりをする。個数詞を 100 まで口頭で言えるようにする。映像鑑賞。
第 12 回	動詞の歯音変化と唇音変化。再帰動詞の変化、練習問題。個数詞 50 ～ 199。映像鑑賞。	動詞の歯音変化と唇音変化を覚える。再帰動詞のしくみと変化について。個数史を 199 まで口頭練習。映像鑑賞。

第 13 回	動詞の現在、過去、未来形の復習。会話練習。練習問題。個数詞 11 ～ 199。映像鑑賞。	前期に学習したロシア語文法とロシア語の会話表現、疑問文、個数詞の復習を行う。映像鑑賞。
第 14 回	期末試験。	筆記とリスニング、もしくはディクテーションからなる期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回授業内容の予習。復習を兼ねた課題。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版（白水社）
その他、プリントやテキストを適宜、配付します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）、期末テスト（25 %）、小テスト（25%）。

【学生の意見等からの気づき】
これまでどおり、文法の基礎固めのために分かり易い論理的な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
DVD 再生機器、スクリーン、プロジェクタ

【Outline and objectives】
This course proceeds in close contact with courses: Russian 1 and Russian 5.
In this course, we will acquire basics of Russian grammar and increase the vocabulary of Russian. We will be able to say greetings and easy conversation in Russian.

LANr100LA	
ロシア語 4	2017 年度以降入学者
LANr100LA	
ロシア語 4	2016 年度以前入学者
佐藤 千登勢	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語 3、ロシア語 6 と連携する授業です。春学期に引き続き、単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに新たな文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎を盤石にしていきたいと思います。この授業が終わる頃には、ロシア語能力検定試験 4 級もしくは 3 級程度の力がつきます。SA ロシアに向けて、口語的表現の習得にも力を入れます。

【到達目標】
SA ロシアでの授業や生活に困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。ロシア人留学生との交流を通して、語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語 3 と同じ教材を使用し、各担当教員がリレー方式で授業を行います。ロシア語 3 で学んだ文法事項を復習しつつ、練習問題を解いたり、テキストを読解することで応用力を養います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期で学んだ事項の確認と復習。
2	対格の用法	対格の説明と用法練習。
3	対格を使った表現	曜日など対格が含まれる表現の練習。
4	交通の表現	交通の手段と行先の表現（前置格、対格の応用）
5	所有代名詞・形容詞の格変化（前置格・対格）	所有代名詞・形容詞の格変化の説明と練習。
6	生格の用法	生格の説明と練習。
7	生格の用法	生格の説明と練習。
8	与格と造格の用法	与格と造格の説明と練習。
9	与格と造格の復習	名詞の格変化の総復習。
10	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体・不完了体の概念としくみ。練習問題。
11	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体・不完了体の復習
12	関係代名詞	関係代名詞のしくみについて
13	関係代名詞・目的を示す接続詞	関係代名詞の練習
14	期末試験	文法を確認する筆記試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学で予習、復習は大切です。新出単語は事前に辞書で意味を確認し、授業で学んだことはしっかり復習しましょう。格変化は変化表でくりかえし確認し覚えるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】
『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】
出席率（50%）、期末試験（25%）、小テスト（25%）

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ双方向的な授業を目指します。授業には積極的に参加しましょう。

【Outline and objectives】
This course proceeds in close contact with courses: Russian 3 and Russian 6.
In this course, we will acquire basics of Russian grammar: grammatical cases, grammatical aspects and relative pronoun. We will be able to read easy texts and have simple conversations in Russian.

LANr100LA

ロシア語5 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語5 2016 年度以前入学者

コベルニック ナディア

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてロシア語に接する学生を対象とした授業です。ロシア語 1、2 で学んだ事項を復習しつつ、発音・リズム・イントネーション、そして平易な会話表現を確実に身につけることを目的とします。

【到達目標】

正確にロシア文字を読み、書けること。アクセントの位置、イントネーションを正しく発音できること。また、ロシア語の基礎的な会話表現の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音、単語と文のイントネーションの訓練を行います。また、表現力をつけるために日常会話の中に出てくるような単語の導入と練習、そして基礎的な会話表現の練習も行います。何よりも、ロシア語を楽しく学べるよう心掛けたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文字と発音	ロシア（キリル）文字の練習、母音と子音、発音練習
2	出会い	ロシア（キリル）文字の練習、母音と子音、発音練習、表現の練習
3	「これは～です」文型	平叙文と疑問文のイントネーションの練習、単語・表現の練習。
4	「～はどこですか？」文型	平叙文と疑問文のイントネーションの練習、単語・表現の練習と復習。
5	身のまわりの物	発音練習。授業のテーマに関する単語・表現を学び、会話の練習をする。
6	「～を持っています」文型	発音練習。単語・表現の練習と復習、会話の練習。
7	自己紹介、家族	発音練習。授業のテーマに関する単語・表現を学び、会話の練習をする。
8	職業	発音練習。授業のテーマに関する単語・表現を学び、会話の練習をする。
9	天気：数字	発音練習。授業のテーマに関する単語・表現を学び、会話の練習をする。
10	色	発音練習。授業のテーマに関する単語・表現を学び、会話の練習をする。
11	衣服	発音練習。授業のテーマに関する単語・表現を学び、会話の練習をする。
12	果物	発音練習。授業のテーマに関する単語・表現を学び、会話の練習をする。
13	野菜	発音練習。授業のテーマに関する単語・表現を学び、会話の練習をする。
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語の暗記と復習。表現の復習。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

匹田剛 (2016)『これならわかる ロシア語文法：入門から上級まで』NHK 出版。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%)、期末試験 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】

個々の学生の長所を伸ばせるような授業を心掛けたいと考えています。

【Outline and objectives】

The goals of this course are: (1) to give students practice at listening and speaking, and (2) to teach students useful words and expressions.

LANr100LA

ロシア語6 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語6 2016 年度以前入学者

コベルニック ナディア

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期でロシア語の文字と発音に慣れた学生を対象とした授業です。初級文法の補習に加えて補助的に運用（会話）の練習をします。

【到達目標】

複数生格や、これと密接に関係する数詞を使った表現など、初級文法のなかで習得が困難で、かつ日常的なコミュニケーションに必須な事項をマスターすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「ロシア語 3」および「ロシア語 4」と提携して行なわれる授業です。文法については、まず基本的なパターンを覚えた後、徐々に例外的な規則に慣れていきます。練習問題を数多くこなすことで確実にマスターします。さらに、よく使うフレーズを暗記した上で、それを設定された場面の中で使う練習などを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	名詞の生格（その 1）	名詞の単数生格の作り方、生格の用法。
2	名詞の生格（その 2）	名詞の複数生格の作り方（基本パターン）。
3	名詞の生格（その 3）	名詞の複数生格の作り方（男性名詞の例外）。
4	名詞の生格（その 4）	名詞の複数生格の作り方（中性名詞の例外）。
5	名詞の生格（その 5）	名詞の複数生格の作り方（女性名詞の例外）。
6	数詞の表現（その 1）	個数詞。
7	数詞の表現（その 2）	順序数詞。
8	数詞の表現（その 3）	個数詞と名詞の結合。
9	数詞の表現（その 4）	時刻の表現。
10	数詞の表現（その 5）	年月日の表現。
11	数詞の表現（その 6）	年齢の表現。
12	数詞の表現（その 7）	値段の表現。
13	数詞の表現（その 8）	概数の表現、個数詞と形容詞と名詞の結合など。
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

暗唱や音読など、ロシア語を声に出す準備学習はもちろんのこと、露和辞典・和露辞典を使って、ロシア語の文章を読み解き、ロシア語の文章を書く練習が必要です。学習のコツは、時々多くの時間練習するのではなく、毎日少しずつ取り組むことです。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。

【参考書】

匹田剛 (2016)『これならわかる ロシア語文法：入門から上級まで』NHK 出版。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%)、期末試験 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】

個々の学生の長所を伸ばせるような授業を心掛けたいと考えています。

【Outline and objectives】

The goals of this course are: (1) to teach students basic grammar, useful words, and expressions; (2) to give students practice at writing, listening, and speaking.

LANr100LA

ロシア語 1 - I 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 1 - I 2016 年度以前入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語のアルファベットを覚え、単語を正確に発音することができる。教科書で初級文法をしっかりと習得する。簡単な文章を読み、辞書を用いてその意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、単語や文法を着実に身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けての練習問題も解いていきます。また、DVD や CD などの視聴覚教材、習字帳などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、第 1 課 文字の発音と書き方	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音（母音）、簡単な挨拶
2	第 1 課 文字と単語の発音	文字と単語の発音（子音）、アクセント
3	第 2 課 基本文型（～は...である）	基本文型（～は...である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、発音のミニテスト
4	第 2 課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第 3 課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第 3 課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第 4 課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第 4 課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
9	中間テスト、第 5 課 動詞の不定形と過去形	中間テスト（2 課から 4 課）、第 5 課 動詞（不定形と過去形）
10	第 5 課 副詞と格について	副詞の作り方、格の説明
11	第 6 課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
12	第 6 課 前置格	第 6 課 前置格
13	春学期の復習	春学期の復習（5 課と 6 課の動詞と格変化を中心に復習）
14	春学期授業内期末試験	春学期授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切です。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につける。小テスト前には集中的に復習をする。

ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2013 年

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）

【成績評価の方法と基準】

中間テストと最終週の期末テストを行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ひとりではなかなか覚えられない単語や文法の繰り返しなど、授業でリズムよく復唱したいと思います。

【Outline and objectives】

The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to learn basic grammar using textbooks; 3) to be able to read simple sentences and understand their meaning using a dictionary; 4) be able to greet people in Russian.

LANr100LA

ロシア語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 1 - II

2016 年度以前入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、ロシア語文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳作文ができるようになる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、準備を進める。

【到達目標】

ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。毎年 5 月と 10 月に開催されるロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、初級文法を着実に習得し練習問題が解ける。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。文法のエッセンスを取り上げ、繰り返しながら、文法の階段を登っていきましょう。そして習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文、会話をこなしていくことで、毎回確実に基礎の語学力が身につけていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	第 7 課 動詞の命令形、曜日	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	第 7 課 対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	第 8 課 運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	第 8 課 運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト（7 課と 8 課）
7	第 9 課 前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	第 9 課 対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	第 10 課 生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	第 10 課 所有の表現	所有の表現、否定生格
11	第 11 課 与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	第 11 課 造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の総復習	秋学期の総復習
14	期末テスト	期末テスト（9-11 課）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。評価テスト前に集中的に復習する。ロシア語能力検定試験 4 級、3 級に向けて練習問題・過去問題を解く。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）
・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー 3 級・4 級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、¥1620

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際にロシア人とコミュニケーションができる、日常生活で使える平易なロシア語表現と会話も練習していきましょう。

【その他の重要事項】

ロシア語 1-I を履修していることが受講条件です。

【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will learn about the regularity of Russian grammar. Using this grammar and a dictionary, you will translate Russian compositions. In parallel with learning grammar, you will practice listening, reading, and conversation until you have acquired the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing." You will start to prepare to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANr100LA

ロシア語 1 - I 2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 1 - I 2016 年度以前入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
キ 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前篇）。1）文字と発音の習得、2）初級文法の最初の段階。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。「ロシア語 1-II」とセットになっています。また、「ロシア語 2-I」と提携して行なわれる授業です。ロシア語ではラテン文字と異なるキリル文字が用いられています。まずはこの馴染みのない文字に慣れることに集中します。自分の口で発音し、手で書くことによってマスターしていきましょう。授業への積極的な参加が不可欠です。次に、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかるとにします。ポイントとなるのは、動詞の過去形・現在形・未来形の変化を覚えること、それから、英語などにはない「格」という仕組みを理解することです。毎回小テスト等で復習しながら、着実にものにしていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	文字と発音（その 1）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
②	文字と発音（その 2）	前回の続き。
③	文字と発音（その 3）	ロシア語の単語の読み方の規則。
④	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
⑤	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
⑥	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
⑦	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑧	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑨	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数が複数かによって決まること。
⑩	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。
⑪	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑫	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑬	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
⑭	期末試験	文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この段階での最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。単語を辞書で調べる学習は、後から次第に増やすようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。
和久利智一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、授業の最初に既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 1. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the past, present and future tenses of verbs, etc.)

LANr100LA

ロシア語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 1 - II

2016 年度以前入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
キ 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（後編）。1）初級文法。2）会話、読解、作文。

【到達目標】

簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で伝えたりすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「ロシア語 1-I」に引き続き、ロシア語の初学者を対象とします。「ロシア語 2-II」と提携して行なわれる授業です。ここでの文法学習のポイントとなるのは、名詞（と形容詞・所有代名詞）の「格」の変化と意味を覚えることです。問題を繰り返し解く反復練習を行い、春学期にも増して小テスト等での復習を重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	名詞の性・数・格、動詞の過去形・現在形・未来形など。
②	動詞の命令形	命令の表現の作り方。
③	名詞の対格	名詞の主格から対格を作る仕方、名詞の対格の意味。曜日の表現。
④	運動の動詞（その 1）	運動の動詞の意味、現在形・過去形。
⑤	運動の動詞（その 2）	運動の動詞の使い分け。
⑥	形容詞の前置格と対格	名詞の前置格と形容詞の前置格、名詞の対格と形容詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑦	所有代名詞の前置格と対格	名詞の前置格と所有代名詞の前置格、名詞の対格と所有代名詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑧	名詞の生格	名詞の主格から生格を作る仕方、名詞の生格の意味。
⑨	形容詞・所有代名詞の生格	名詞の生格と形容詞・所有代名詞の生格との結合の仕方。
⑩	名詞の与格	名詞の主格から与格を作る仕方、名詞の与格の意味。
⑪	形容詞・所有代名詞の与格	名詞の与格と形容詞・所有代名詞との結合の仕方。
⑫	名詞の造格	名詞の主格から造格を作る仕方、名詞の造格の意味。
⑬	形容詞・所有代名詞の造格	名詞の造格と形容詞・所有代名詞の造格との結合の仕方。
⑭	期末試験	文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語を声に出す準備学習と復習に加えて、辞書で単語を引き、ロシア語の文章の意味を自分の力で理解する練習をしましょう。春学期よりもずっと大変な学習になるので、努力が必要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、授業の最初に既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。特にロシア語は、初級段階の学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 2. The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, verbs of motion, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

LANr100LA

ロシア語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 2 - I

2016 年度以前入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を「聞く・読む・話す・書く」練習をこなし、大学で初めて学ぶ語学を確実に身につける。正確に文字を発音し、テキストをきれいに音読できる。教科書で初級文法をしっかりと習得する。文法を使いテキストの意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。ロシア語能力検定試験 4 級合格を目指した準備を始める。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットを覚え、書けるようになる。単語の美しく正確な発音ができる。名詞を中心とした文法（形容詞、所有代名詞、指示代名詞）と動詞の変化を覚える。格の意味などロシア語の構文の構造を理解する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、対象範囲の必須単語や文法などを確実に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けての練習問題も解いていきます。また、DVD や CD などの視聴覚教材、習字帳などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、文字と発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音
2	第 1 課 ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	第 1 課 ロシア文字と単語の発音、発音のテスト	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント、発音のテスト
4	第 2 課 基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、挨拶の練習
5	第 2 課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞、検定試験問題
6	第 3 課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	第 3 課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	第 4 課 形容詞と指示代名詞	形容詞の用法と指示代名詞
9	第 4 課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
10	第 5 課 動詞の不定形と過去形	動詞（不定形と過去形）
11	第 5 課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明
12	第 6 課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	第 6 課 前置格	前置格の説明、春学期の復習
14	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切です。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につける。小テスト前には集中的に復習をする。ロシア語能力検定試験 4 級合格を目標とし、対象範囲の必須単語や文法などを確実に習得していく。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。

【テキスト（教科書）】

・『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2013 年
・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー 3 級・4 級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、¥1620

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）

【成績評価の方法と基準】

春学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくりとした発音練習、単語の小テストの実施

【Outline and objectives】

You will practice Russian by “listening, reading, talking, and writing” and definitely acquire it as your first new language subject at the university. You will be able to pronounce characters exactly and read text smoothly. You will learn basic grammar using textbooks. You will be able to understand the meaning of text by using the grammar you have acquired. You will be able to greet people in Russian. You will start preparing to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANr100LA

ロシア語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 2 - II

2016 年度以前入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の文法の復習とともに、格変化がポイントのロシア語文法の構造を理解する。名詞をはじめ、形容詞、人称代名詞などの格変化を覚える。また、動詞の命令形や、日本の感覚とは違う運動の動詞を覚える。その上でロシア語能力検定試験 4 級への準備を続ける。さらに辞書を用いてのテキスト和訳、露訳作文ができるようになる。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。

【到達目標】

格変化を中心としたロシア語文法の構造を理解し、変化表を覚える。毎年 5 月と 10 月に開催されるロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、格変化および運動の動詞などの練習問題が解ける。ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ文法を駆使しながら、辞書をひいてテキストの意味を理解し和訳できる。さらにリスニングや会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。動詞や名詞の変化形を復唱し、しっかりと覚えていきます。それに対応するロシア語能力検定試験の過去問題や対策問題を解きます。さらに習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文を行います。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	第 7 課 動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	第 7 課 対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	第 8 課 運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	第 8 課 運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト（7-8 課）、会話の練習、自己紹介等
7	第 9 課 前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	第 9 課 対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	第 10 課 生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	第 10 課 所有の表現	所有の表現、否定生格
11	第 11 課 与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	第 11 課 造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	教科書の練習問題を中心に検定試験 4 級 3 級の問題も解いていく
14	期末試験	期末試験（9-11 課）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。評価テスト前に集中的に復習する。ロシア語能力検定試験 4 級に向けて練習問題を解く。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。

【テキスト（教科書）】

・『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー 3 級・4 級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、¥1620

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業での格変化表の暗唱、単語のミニテスト、リスニングの練習を増やす。

【Outline and objectives】

After reviewing the grammar you learned in the spring semester, you will learn to understand the structure of Russian grammar focusing on case inflection. First, you will memorize the declensions of nouns, adjectives, personal pronouns, and so on. Then, you will learn the imperative forms of verbs and the verbs for movement, which are very different from Japanese. You will continue preparing for the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4. Furthermore, you will develop your ability to translate Russian texts to Japanese and Japanese texts to Russian using a dictionary. Through listening, reading, and conversation practice, you will acquire the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing."

LANr100LA

ロシア語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 2 - I

2016 年度以前入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語のアルファベットを覚え、単語を正確に発音することができる。教科書で初級文法をしっかりと習得する。簡単な文章を読み、辞書を用いてその意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を教科書できちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、必須単語や文法を着実に身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けての練習問題も解いていきます。また、DVD や CD などの視聴覚教材、習字帳などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、第 1 課 文字の発音と書き方	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音（母音）、簡単な挨拶
2	第 1 課 文字と単語の発音	文字と単語の発音（子音）、アクセント、母音の弱化、子音の同化
3	第 2 課 基本文型（～は...である）	基本文型（～は...である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、発音のミニテスト
4	第 2 課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第 3 課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第 3 課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第 4 課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第 4 課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
9	中間テスト、第 5 課 動詞の不定形と過去形	中間テスト（2 課から 4 課）、第 5 課 動詞（不定形と過去形）
10	第 5 課 副詞と格について	副詞の作り方、格の説明
11	第 6 課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
12	第 6 課 前置格	第 6 課 前置格
13	春学期の復習	春学期の復習（5 課と 6 課の動詞と格変化を中心に復習）
14	春学期授業内期末試験	春学期授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切です。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につけてください。小テスト前には集中的に復習をしましょう。また、ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる、NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をするなど、自ら学習を深めてください。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2013 年

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）

【成績評価の方法と基準】

中間テストと期末テストを行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ひとりではなかなか覚えられない単語や文法の繰り返しなど、授業でリズムよく復唱したいと思います。

【Outline and objectives】

The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to learn basic grammar using textbooks; 3) to be able to read simple sentences and understand their meaning using a dictionary; 4) be able to greet people in Russian.

LANr100LA

ロシア語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANr100LA

ロシア語 2 - II

2016 年度以前入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、ロシア語初級文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳作文ができるようになる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、準備を進める。

【到達目標】

ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。また、ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、必須単語を習得、過去問題や練習問題が解ける。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。初級文法の規則性、基礎変化等を繰り返し覚えながら、文法の階段を登っていきましょう。そして習得した文法知識を駆使してテキストの和訳、露訳作文、会話をこなしていくことで、毎回確実に基礎の語学力が身につけていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	第 7 課 動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	第 7 課 対格、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	第 8 課 運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	第 8 課 運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト（7-8 課）、会話の練習、自己紹介等
7	第 9 課 前置格（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	第 9 課 対格（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	第 10 課 生格	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	第 10 課 所有の表現	所有の表現、否定生格
11	第 11 課 与格	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	第 11 課 造格	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	教科書の練習問題を中心に検定対策問題も解いていく
14	期末試験	期末試験（9-11 課）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。評価テスト前に集中的に復習する。ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けて準備を進める。ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）
・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3 級・4 級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、¥1620

【成績評価の方法と基準】

中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 %となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢(宿題、予習や復習を含む)などの平常点を 40 %とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際にロシア人とコミュニケーションができる、日常生活で使える平易なロシア語表現と会話も練習していきましょう。

【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will learn about the regularity of Russian grammar. Using this grammar and a dictionary, you will translate Russian compositions. In parallel with learning grammar, you will practice listening, reading, and conversation until you have acquired the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing." You will start to prepare to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANr100LA

ロシア語補講 1－I

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

再履修の学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットを覚え、単語やテキストを正確に発音することができる。初級文法をしっかりと習得し、辞書を用いてテキストの意味が理解できるようになる。ロシア語で挨拶ができる。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）をきちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし語学力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を学びながら、ロシア語能力検定試験 4 級に向けての練習問題も解いていきます。また、DVD や CD などの視聴覚教材、習字帳などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	補講に関するガイダンス	ロシア語補講に関して（再履修の心構え）
	第 1 課 ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）、簡単な挨拶
2	第 1 課 ロシア文字と単語の発音	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント
3	第 2 課 基本文型（～は...である）	基本文型（～は...である）、イントネーション（平叙文と疑問文）
4	第 2 課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第 3 課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第 3 課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第 4 課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第 4 課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
9	中間テスト	中間テスト
10	第 5 課 動詞（不定形と過去形）	動詞（不定形と過去形）
11	第 5 課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明
12	第 6 課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	第 6 課 前置格 春学期のまとめ	前置格の用法と練習問題、春学期のまとめ
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

再履修の語学では、前回より成績が上がるよう、時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムをしっかりと身につけることが重要。小テスト前には集中的に復習を行う。
また、ロシアの歴史や文学、芸術にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などで積極的にロシア語に触れる。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2015 年
授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせ、適時小テストを行います。小テストの総合点が全体評価の 30 % となります。欠席をせずにしっかりと復習の成果を出して下さい。また、春学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 40 % となります。その他に授業への参加度や取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 30 % とし、最終評価を算出します。

【学生の意見等からの気づき】

ひとりではなかなか覚えられない単語や文法表の繰り返しなど、毎回授業でリズムよく復唱したいと思います。補講を受けた翌年5月にロシア語能力検定試験4級に合格した学生がいます。皆さんも頑張ってください。

【その他の重要事項】

授業計画は進度により変更もあり得ます。

【Outline and objectives】

This course is for students who did not pass the basic Russian course 1-I and take it for a second time. The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to learn basic grammar using textbooks; 3) to be able to read simple sentences and understand their meaning using a dictionary; 4) be able to greet people in Russian.

LANr100LA

ロシア語補講 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、ロシア語初級文法の規則性を覚える。習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳ができるようになる。また、文法学習と並行し、リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題にも挑戦する。

【到達目標】

ロシア語テキストを正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。日本語の短い文章を的確なロシア語に出来る。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。文法のエッセンスを取り上げ、繰り返しながら、文法の階段を登っていきましょう。そして習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文、会話をこなしていくことで、毎回確実に基礎的な語学力が身につけていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	運動の動詞 1	運動の動詞（定動詞と不定動詞）
5	運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト
7	前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	所有の表現	所有の表現、否定生格
11	与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	秋学期の復習
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。中間および期末テスト前には集中的に復習をする。ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題を解く。ロシアの歴史や文化にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
適宜初級文法の解説や練習問題のプリントを配布します。

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）
・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー 3 級・4 級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、¥1620

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際にロシア人とコミュニケーションができる、日常生活で使える平易なロシア語表現と会話も練習していきましょう。

【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will learn about the regularity of Russian grammar. Using this grammar and a dictionary, you will translate Russian compositions. In parallel with learning grammar, you will practice listening, reading, and conversation until you have acquired the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing." You will start to prepare to sit the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4.

LANr100LA

ロシア語補講２－Ⅰ

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

再履修の学生を対象とした授業です。これまで習得できなかったロシア語の基礎をアルファベット・発音からしっかりと学び直す。教科書および副教材で基礎文法を復習し、聴く、読む、話す、書く力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題や対策問題にも挑戦する。実際のコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語を美しく正確に発音できる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を教科書できちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題に挑戦し、必須単語や文法を着実に身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得し直します。テキストの正確で美しい音読の練習を行います。初級文法を学び直しながら、ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題も解いていきます。適時ミニテストを行い、文法の習熟度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットと発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音、簡単な挨拶
2	ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	ロシア文字と単語の発音	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント
4	基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）
5	名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
6	名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
9	形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
10	動詞	動詞（不定形と過去形）
11	副詞、格の説明	副詞の作り方、格の説明
12	動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	動詞と前置格	不規則動詞と前置格
14	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。小テスト前には集中的に復習をする。

ロシアの歴史や文化にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。

【テキスト（教科書）】

「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員編）

適宜初級文法解説と練習問題のプリントを配布します。

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404

・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）

・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3 級・4 級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、¥1620

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせ、適時小テストを行います。小テストの総合点が全体評価の 30 % となります。欠席をせずにしっかりと復習の成果を出して下さい。また、秋学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 40 % となります。その他に授業への参加度や取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 30 % とし、最終評価を算出します。

【学生の意見等からの気づき】

初級文法の規則性をきちんと習得できるよう、授業での復唱時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業計画は進度により変更があり得ます。

【Outline and objectives】

This course is for students who did not pass the basic Russian course 2-I and take it for a second time. You will relearn the alphabet and pronunciation of basic Russian that you could not master until now. In parallel with grammar lessons using textbooks and teaching materials, you will acquire the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing." You will aim to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4 as one of your goals; in preparation, you will tackle past tests and formulate strategies. You will master daily conversation, self-introductions, etc., that you can actually use for communication.

LANr100LA

ロシア語補講2ーⅡ

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期授業の復習とともに、格変化がポイントのロシア語文法の構造を理解する。名詞をはじめ、形容詞、人称代名詞などの格変化を覚える。また、動詞の命令形や、日本の感覚とは違う運動の動詞を覚える。その上でロシア語能力検定試験4級受験の準備を行う。さらに辞書を用いてのテキスト和訳、露訳作文ができるようになる。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。

【到達目標】

格変化を中心としたロシア語文法の構造を理解し、変化表を覚える。ロシア語能力検定試験4級合格をひとつの目標とし、格変化および運動の動詞などの練習問題が解ける。ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ文法を駆使しながら、辞書をひいてテキストの意味を理解し和訳できる。さらにリスニングや会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。動詞や名詞の変化形を復唱し、しっかりと覚えていきます。それに対応するロシア語能力検定試験の過去問題や対策問題を解きます。さらに習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文を行います。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト
7	前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	所有の表現	所有の表現、否定生格
11	与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	秋学期の復習
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。中間および期末テスト前には集中的に復習をする。ロシア語能力検定試験4級の練習問題を解く。ロシアの歴史や文化にも関心をもち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をする。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
適宜文法の解説や練習問題のテキストを配布します。

【参考書】

・『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）
・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3 級・4 級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005 年、¥1620

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 60 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 40 % とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

検定試験合格を視野に、授業での格変化表の暗唱、単語のミニテスト、リーディングの練習を増やす。

【Outline and objectives】

After reviewing the grammar you learned in the spring semester, you will learn to understand the structure of Russian grammar focusing on case inflection. First, you will memorize the declensions of nouns, adjectives, personal pronouns, and so on. Then, you will learn the imperative forms of verbs and the verbs for movement, which are very different from Japanese. You will continue preparing for the Russian language proficiency test (of Japan) at level 4. Furthermore, you will develop your ability to translate Russian texts to Japanese and Japanese texts to Russian using a dictionary. Through listening, reading, and conversation practice, you will acquire the comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, and writing."

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法 1 年 G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ディクテーション、発音テスト、e 宿題）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法 1 年 G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ディクテーション、発音テスト、e 宿題）4 0 %、期末試験 6 0 %

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

大江 千晶

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年 H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（e 宿題と各回的小テスト）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

大江 千晶

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年 H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（e 宿題と各回の小テスト） 40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

池田 麻希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 1 年 1・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（7、8 割）、及び平常点（小テスト等）（2、3 割）による総合評価。出席回数が授業回数の 3 分の 2 に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とします）。

小テスト（書き取りや暗誦を予定）と期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が興味を持って取り組めるような授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

池田 麻希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 1 年 I・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（7、8 割）及び平常点（小テスト等）（2、3 割）による総合評価。出席回数が授業回数の 3 分の 2 に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とします）。

小テスト（書き取りや暗誦を予定）と期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が興味を持って取り組めるような授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

野村 英登

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法 1 年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 %。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなし、授業を 3 分の 1 以上欠席した場合は、授業内試験を受験しても不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

インターネットでの中国語の利用法も基礎を学びます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

野村 英登

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
法 1 年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 %。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなし、授業を 3 分の 1 以上欠席した場合は、授業内試験を受験しても不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

インターネットでの中国語の利用法も基礎を学びます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

鷲巢 益美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法 1 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】

・中間試験（6 月に実施予定）40 %、期末試験 40 %、e 宿題 20 % の割合で計算し、評価する。e 宿題について、詳細は授業時に説明する。
・全授業回数の三分の一を欠席したら、自動的に不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
わかりにくいところ、疑問があったらその都度発言してください。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 1 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 II	2016 年度以前入学者
鷲巢 益美	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法 1 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館
『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】
・中間試験（11 月に実施予定）40 %、期末試験 40 %、e 宿題 20 %の割合で計算し、評価する。
・全授業回数の三分の一を欠席したら、自動的に不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
質問・疑問があれば随時尋ねてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

赤平 恵里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点〔授業態度・小テスト・暗唱など〕（40 %）および期末試験（60 %）の結果に基づき、総合的に評価する。

なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

赤平 恵里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度・小テスト・暗唱など）（40 %）および期末試験（60 %）の結果に基づき、総合的に評価する。

なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

渡部 れい子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

各期末テストに加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。（期末テスト 60%、小テスト 20%、平常点 20%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 1 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 II	2016 年度以前入学者
渡部 れい子	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
各期末テストに加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。（期末テスト 6 0 %、小テスト 2 0 %、平常点 2 0 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

池田 麻希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
文 1 年 B～G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（7、8 割）及び平常点（小テスト等）（2、3 割）による総合評価。出席回数が授業回数の 3 分の 2 に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とします）。

小テスト（書き取りや暗誦を予定）と期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が興味を持って取り組めるような授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

池田 麻希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
文 1 年 B～G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（7、8 割）及び平常点（小テスト等）（2、3 割）による総合評価。出席回数が授業回数の 3 分の 2 に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とします）。

小テスト（書き取りや暗誦を予定）と期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が興味を持って取り組めるような授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
文 1 年 H・I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ディクテーション、発音テスト、e 宿題）40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
文 1 年 H・I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	授業内試験	「第 21 課から第 40 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ディクテーション、発音テスト、e 宿題）40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 L～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業中に指示する

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 30 %、期末テスト 70 % で評価します。
欠席 4 回以上の者は期末テストの受験を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
e 宿題を取り組んだ者には加点することになります。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 1 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 II	2016 年度以前入学者
青木 正子	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 L～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
授業中に指示する
【成績評価の方法と基準】
e 宿題 30 %、期末テスト 70 %。
欠席 4 回以上の者は、期末テストを受験できません。

【学生の意見等からの気づき】
e 宿題への取り組みに対して加点することになりました。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

倉持 貴文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

倉持 貴文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
文 1 年 U・V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」あるいは 「第 12 課」	「補語」あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.Ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 %の割合で評価する。

小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストがすべてA評価以上の場合期末テストに最大 1.15 を乗し、E・F評価が 3 回以上になった場合 0.9～0.7 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
文 1 年 U・V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」あるいは「第 22 課」	「経験態」「あるいは」「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」あるいは「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」あるいは「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」あるいは「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」あるいは「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」あるいは「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」あるいは「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」あるいは「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」あるいは「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」あるいは「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	授業内試験	「第 21 課から第 40 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 %の割合で評価する。

小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストがすべてA評価以上の場合期末テストに最大 1.15 を乗し、E・F評価が 3 回以上になった場合 0.9～0.7 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

大野 広之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業参加時のリアクションペーパー考察記入（50 %）＋定期試験（50 %）＝100 %

【学生の意見等からの気づき】

授業時に個別指導を強化して学生の理解度チェックを図っていきます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

大野 広之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業参加時のリアクションペーパー考察記入（50 %）＋定期試験（50 %）＝100 %

【学生の意見等からの気づき】

授業時の個別指導を強化して学生の到達度チェックを図っていきます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

渡部 れい子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年 B・C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

各期末テストに加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。（期末テスト 60%、小テスト 20%、平常点 20%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 1 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 II	2016 年度以前入学者
渡部 れい子	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年 B・C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
各期末テストに加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。（期末テスト 6 0 %、小テスト 2 0 %、平常点 2 0 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

大野 広之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
営 1 年 D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業参加時のリアクションペーパー記入（50 %）＋定期試験（50 %）＝ 100 %

【学生の意見等からの気づき】

授業時に個別指導の時間を設けて学生の到達度をチェックしていきます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

大野 広之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
営 1 年 D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	授業内試験	「第 21 課から第 40 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業参加時のリアクションペーパー記入（50 %）＋定期試験（50 %）＝ 100 %

【学生の意見等からの気づき】

授業時に学生の個別指導を実施して各自の到達度チェックを図っていきます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 1 I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 I	2016 年度以前入学者
赤平 恵里	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点〔授業態度・小テスト・暗唱など〕（40 %）および期末試験（60 %）の結果に基づき、総合的に評価する。
なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

赤平 恵里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度・小テスト・暗唱など）（40 %）および期末試験（60 %）の結果に基づき、総合的に評価する。

なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

倉持 貴文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
営 1 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でペンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

倉持 貴文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
営 1 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 1 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」あるいは 「第 12 課」	「補語」あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.Ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 % の割合で評価する。

小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストがすべてA評価以上の場合期末テストに最大 1.15 を乗し、E・F評価が 3 回以上になった場合 0.9～0.7 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 1 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」あるいは「第 22 課」	「経験態」「あるいは」「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」あるいは「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」あるいは「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」あるいは「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」あるいは「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」あるいは「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」あるいは「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」あるいは「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」あるいは「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」あるいは「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	授業内試験	「第 21 課から第 40 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 %の割合で評価する。

小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストがすべてA評価以上の場合期末テストに最大 1.15 を乗し、E・F評価が 3 回以上になった場合 0.9～0.7 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
営 1 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 30 %、期末テスト 70 %。
欠席 4 回以上の者は不合格です。

【学生の意見等からの気づき】
e 宿題の取り組みを加点することになりました。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 1 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 II	2016 年度以前入学者
青木 正子	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
営 1 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
授業中に指示する
【成績評価の方法と基準】
e 宿題 30 %、期末テスト 70 %。
欠席 4 回以上の者は、期末テストを受験できません。

【学生の意見等からの気づき】
e 宿題への取り組みに対して加点することになりました。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

野村 英登

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
営 1 年 O・Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 %。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなし、授業を 3 分の 1 以上欠席した場合は、授業内試験を受験しても不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

インターネットでの中国語の利用法も基礎を学びます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

野村 英登

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
営 1 年 O・Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 %。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなし、授業を 3 分の 1 以上欠席した場合は、授業内試験を受験しても不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

インターネットでの中国語の利用法も基礎を学びます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

大野 広之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
営 1 年 R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業参加時のリアクションペーパー記入 (50 %) + 定期試験 (50 %) = 100 %

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図っていきます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

大野 広之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
営 1 年 R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業参加時のリアクションペーパー記入（50 %）＋定期試験 50 %＝成績評価 100 %

【学生の意見等からの気づき】

授業時の個別指導を通じて、学生各自の到達度チェックを図っていきます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

福木 滋久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
営 1 年 T・U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	授業内口頭試験	「第 1 課から第 20 課」までの口頭試験
14	授業内筆記試験	「第 1 課から第 20 課」までの筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅で web 教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（<http://fic.xsrv.jp/hosei>）に取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は授業開始後にお知らせします。URL のページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視します。毎回行う小テストの結果や web 教材を用いた自宅学習も評価に反映させ、授業への参加姿勢などの平常点、口頭試験、期末試験（筆記）の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点 20 %、小テスト 20 %、自宅学習 20 %、口頭試験 20 %、期末筆記試験 20 % となります。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストと期末の口頭試験は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

自宅学習で使用する web 教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』は、スマートフォンやネットに接続された自宅の PC、学内の PC での学習が可能です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、その都度個別に時間をとり、教室内もしくは会議室などで対応します。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

福木 滋久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
営 1 年 T・U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの復習
13	授業内筆記試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの筆記試験
14	授業内口頭試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの口頭試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅で web 教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（<http://fic.xsrv.jp/hosei>）に取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は授業開始後にお知らせします。URL のページ下部からは解説書である『フレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視します。毎回行う小テストの結果や web 教材を用いた自宅学習も評価に反映させ、授業への参加姿勢などの平常点、口頭試験、期末試験（筆記）の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点 20 %、小テスト 20 %、自宅学習 20 %、口頭試験 20 %、期末試験 20 %となります。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストと期末の口頭試験は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

自宅学習で使用する web 教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』は、スマートフォンやネットに接続された自宅の P C、学内の P Cでの学習が可能です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、その都度個別に時間をとり、教室内もしくは会議室などで対応します。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

大江 千晶

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 1 年 G～K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します

【成績評価の方法と基準】

平常点（e 宿題と各回的小テスト）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

大江 千晶

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 1 年 G～K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	授業内試験	「第 21 課から第 40 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（e 宿題と各回の小テスト）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法 1 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 30 %、期末テスト 70 %。
欠席 4 回以上の者は不合格です。

【学生の意見等からの気づき】
e 宿題の取り組みを加点することになりました。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 1 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 1 II	2016 年度以前入学者
青木 正子	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
法 1 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
授業中に指示する

【成績評価の方法と基準】
e 宿題 30 %、期末テスト 70 %。
欠席 4 回以上の者は、期末テストを受験できません。

【学生の意見等からの気づき】
e 宿題への取り組みに対して加点することになりました。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 I

2016 年度以前入学者

鷲巣 益美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
営 1 年 S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】

・中間試験（6 月に実施予定）40 %、期末試験 40 %、e 宿題 20 % の割合で計算し、評価する。

・e 宿題について、詳細は授業時に説明する。

・全授業回数の三分の一を欠席したら、自動的に不合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

よくわからないところ、疑問があればその都度発言してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 II

2016 年度以前入学者

鷲 巢 益 美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
営 1 年 S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館
『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】

・中間試験（11 月に実施予定）40 %、期末試験 40 %、e 宿題 20 %の割合で計算し、評価する。
・全授業回数の三分の一を欠席したら、自動的に不合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

質問・疑問があれば随時尋ねてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

馬 挺

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 1 年 G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

配る参考資料のプリント以外――

相原茂著『謎解き中国語文法』（講談社現代新書）
それに、中型程度の中日辞典が必要（授業時持参）。
（以下の提示は推薦でなくあくまで参考のため。）
香坂順一『簡約 現代中国語辞典』（光生館）
相原茂『中日辞典 第二版』（講談社）

『中日辞典 第二版』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

- 1、出席は授業総数の 3 分の 2 以上足りない者なら基本的に評価の対象としない。
- 2、遅刻は連続 2 回なら 1 回の欠席と数える。
（1 と 2 については不可抗力による事情を考慮する）
- 3、平常点 100 %（授業に積極的に参加する姿勢、提出物や期末テストの成績などを総合的に吟味して評価を行う）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの結果なんかは一切読みません。非科学的ですから！授業で教員と学生との真剣勝負！意見や建言があれば、授業でぶつかってやってください。

【その他の重要事項】

基本マナーのことでありますが、男性は教室に入って脱帽すること。事情があれば、教員に説明して許可を得ること。

また、語学の授業ですので、発音の練習などのため、マスクつけることを極力避けること。どうしても場合、教員に説明して許可を得ること。

PC、DVD、ブルーレイの放映機器

初級なら、ほかに PC。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

馬 挺

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 1 年 G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

配る参考資料のプリント以外――

相原茂著『謎解き中国語文法』（講談社現代新書）

それに、中型程度の中日辞典が必要（授業時持参）。

（以下の提示は推薦でなくあくまで参考のため。）

香坂順一『簡約 現代中国語辞典』（光生館）

相原茂『中日辞典 第二版』（講談社）

『中日辞典 第二版』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

- 1、出席は授業総数の 3 分の 2 以上足りない者なら基本的に評価の対象としない。

- 2、遅刻は連続2回なら1回の欠席と数える。
(1と2については不可抗力による事情を考慮する)
3、平常点100%(授業に積極的に参加する姿勢、提出物や期末テストの成績などを総合的に吟味して評価を行う)

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの結果なんかは一切読みません。非科学的ですから！授業で教員と学生との真剣勝負！意見や建言があれば、授業でぶつかってやってください。

【その他の重要事項】

基本マナーのことですが、男性は教室に入って脱帽すること。事情があれば、教員に説明して許可を得ること。
また、語学の授業ですので、発音の練習などのため、マスクつけることを極力避けること。どうしてもの場合、教員に説明して許可を得ること。
PC、DVD、ブルーレイの放映機器
初級なら、ほかにPC。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

LANc100LA

中国語2 I

2016年度以前入学者

齊 霞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法1年H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館
もしくはほかの辞書（ネットで使えるものも可）

【成績評価の方法と基準】

毎回進めた授業内容をe宿題で確認し、次の週の開始までにそれを全部完了することを課します。一回分は三点相当で、全部約十回分で期末評価の30点に値します

期末試験は筆記試験とし、期末評価の 70 点に値します
そのほか、授業態度や発表で最終評価を吟味します

【学生の意見等からの気づき】
学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたい

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 2 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2 II	2016 年度以前入学者
齊 霞	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 3/Thu.3 法 1 年 H	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館
もしくはほかの辞書（ネットで使えるものも可）

【成績評価の方法と基準】
毎回進めた授業内容を e 宿題で確認し、次の週の開始までにそれを全部完了することを課します。一回分は三点相当で、全部約十回分で期末評価の 30 点に値します
期末試験は筆記試験とし、期末評価の 70 点に値します
そのほか、授業態度や発表で最終評価を吟味します

【学生の意見等からの気づき】

学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたい

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 1 年 I・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランス良く身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。
1) 小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習（約 40 分）。3) 文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	第 1 課 あるいは 第 2 課	発音 1 「ピンイン 1 と簡体字」、発音 2 「声母」
第 3 回	第 3 課 あるいは 第 4 課	発音 3 「韻母」 あるいは 発音 4 「二音節語」
第 4 回	第 5 課 あるいは 第 6 課	「人称代名詞」 あるいは 「動詞述語文」
第 5 回	第 7 課 あるいは 第 8 課	「中国語の四文型」2 あるいは 「中国語の四文型」3
第 6 回	第 9 課 あるいは 第 10 課	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語」
第 7 回	第 11 課 あるいは 第 12 課	「数量補語」 あるいは 「構造助詞」
第 8 回	復習 文法問題の演習	第 1 課～第 12 課の発音、及び文法問題に関する演習、確認
第 9 回	第 13 課 あるいは 第 14 課	「指示代詞」1 あるいは 「所有を表す語彙」
第 10 回	15 課 あるいは 第 16 課	「家族構成の尋ね方」 あるいは 「指示代詞」2
第 11 回	第 17 課 あるいは 第 18 課	「名量詞と動量詞」 あるいは 「連動文」
第 12 回	第 19 課 あるいは 第 20 課	「完了態」 あるいは 「変化態」
第 13 回	第 1 課～第 20 課の復習	第 1 課～第 20 課の発音、文法事項に関する復習
第 14 回	第 1 課～第 20 課の文法問題の演習	第 1 課～第 20 課の文法問題に関する演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/>を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級』東方書店

【参考書】

康玉華 『漢語 301 句』北京言語大学出版社

佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 1 年 I・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1）小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。2）テキストの学習（約 40 分）。3）文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「数字の教え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	復習、文法問題の演習 1	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	復習、文法問題の演習 2	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	秋期の文法問題の演習	「第 21 課から第 40 課」までの文法問題の演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を開いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/>を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

康玉華 『漢語 301 句』北京言語大学出版社
佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

薬 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
法 1 年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 2 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2 II	2016 年度以前入学者
薬 会	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
法 1 年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

齊 霞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 1 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館
もしくはほかの辞書（ネットで使えるものも可）

【成績評価の方法と基準】

毎回進めた授業内容を e 宿題で確認し、次の週の開始までにそれを全部完了することを課します。一回分は三点相当で、全部約十回分で期末評価の 30 点に値します

期末試験は筆記試験とし、期末評価の 70 点に値します
そのほか、授業態度や発表で最終評価を吟味します

【学生の意見等からの気づき】
学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたい

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

LANc100LA

中国語 2 II

齊 霞

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
法 1 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経歴態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館
もしくはほかの辞書（ネットで使えるものものも可）

【成績評価の方法と基準】
毎回進めた授業内容を e 宿題で確認し、次の週の開始までにそれを全部完了することを課します。一回分は三点相当で、全部約十回分で期末評価の 30 点に値します
期末試験は筆記試験とし、期末評価の 70 点に値します
そのほか、授業態度や発表で最終評価を吟味します

【学生の意見等からの気づき】

学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたい

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

齊 霞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法 1 年 U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館
もしくはほかの辞書（ネットで使えるものものも可）

【成績評価の方法と基準】

毎回進めた授業内容を e 宿題で確認し、次の週の開始までにそれを全部完了することを課します。一回分は三点相当で、全部約十回分で期末評価の 30 点に値します

期末試験は筆記試験とし、期末評価の 70 点に値します
そのほか、授業態度や発表で最終評価を吟味します

【学生の意見等からの気づき】
学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたい

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

LANc100LA

中国語 2 II

齊 霞

2017 年度以降入学者

2016 年度以前入学者

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法 1 年 U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経歴態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館
もしくはほかの辞書（ネットで使えるものものも可）

【成績評価の方法と基準】
毎回進めた授業内容を e 宿題で確認し、次の週の開始までにそれを全部完了することを課します。一回分は三点相当で、全部約十回分で期末評価の 30 点に値します
期末試験は筆記試験とし、期末評価の 70 点に値します
そのほか、授業態度や発表で最終評価を吟味します

【学生の意見等からの気づき】

学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたい

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

孫 琦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ
<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 %で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

孫 琦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第 3 6 課から 4 0 課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ
<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、期末試験（70％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

王 安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 B～G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題など 20 %、平常点 20 % を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 2 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2 II	2016 年度以前入学者
王 安	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 B～G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %、小テスト・課題など 20 %、平常点 20 %を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

馬 挺

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文 1 年 H・I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

配る参考資料のプリント以外――

相原茂著『謎解き中国語文法』（講談社現代新書）
それに、中型程度の中日辞典が必要（授業時持参）。
（以下の提示は推薦でなくあくまで参考のため。）
香坂順一『簡約 現代中国語辞典』（光生館）
相原茂『中日辞典 第二版』（講談社）

『中日辞典 第二版』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

- 1、出席は授業総数の 3 分の 2 以上足りない者なら基本的に評価の対象としない。
- 2、遅刻は連続 2 回なら 1 回の欠席と数える。
（1 と 2 については不可抗力による事情を考慮する）
- 3、平常点 100 %（授業に積極的に参加する姿勢、提出物や期末テストの成績などを総合的に吟味して評価を行う）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの結果なんかは一切読みません。非科学的ですから！授業で教員と学生との真剣勝負！意見や建言があれば、授業でぶつかってやってください。

【その他の重要事項】

基本マナーのことでありますが、男性は教室に入って脱帽すること。事情があれば、教員に説明して許可を得ること。
また、語学の授業ですので、発音の練習などのため、マスクつけることを極力避けること。どうしてもの場合、教員に説明して許可を得ること。
PC、DVD、ブルーレイの放映機器
初級なら、ほかに PC。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

馬 挺

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
文 1 年 H・I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	授業内試験	「第 21 課から第 40 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

配る参考資料のプリント以外――
相原茂著『読解き中国語文法』（講談社現代新書）
それに、中型程度の中日辞典が必要（授業時持参）。
（以下の提示は推薦でなくあくまで参考のため。）
香坂順一『簡約 現代中国語辞典』（光生館）
相原茂『中日辞典 第二版』（講談社）
『中日辞典 第二版』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

- 1、出席は授業総数の 3 分の 2 以上足りない者なら基本的に評価の対象としない。

- 2、遅刻は連続2回なら1回の欠席と数える。
(1と2については不可抗力による事情を考慮する)
3、平常点100%(授業に積極的に参加する姿勢、提出物や期末テストの成績などを総合的に吟味して評価を行う)

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの結果なんかは一切読みません。非科学的ですから！授業で教員と学生との真剣勝負！意見や建言があれば、授業でぶつかってやってください。

【その他の重要事項】

基本マナーのことですが、男性は教室に入って脱帽すること。事情があれば、教員に説明して許可を得ること。

また、語学の授業ですので、発音の練習などのため、マスクつけることを極力避けること。どうしてもの場合、教員に説明して許可を得ること。

PC、DVD、ブルーレイの放映機器

初級なら、ほかにPC。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

LANc100LA

中国語2 I

2016年度以前入学者

薄 宏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
文1年L～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話すの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	春学期の授業内容全般	「第1課から第20課」までの到達度チェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

四技能、すなわち中国語にかかわる書く、聴く、言う、読むに関するもの

【成績評価の方法と基準】

成績評価と方法（100点満点）

- 1、授業受講時の態度、姿勢、出席（欠席五回以上は失格）など：20点
2、春学期期末における到達度チェック：80点

【学生の意見等からの気づき】

随時学生の声に耳を傾き、授業の改善を大前提に対応する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

薄 宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
文 1 年 L～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書くの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	秋学期授業内容の全般	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの到達度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法（100 点満点）

1、授業受講の態度、姿勢、出席回数（欠席五回以上は失格する）： 20 点
2、期末到達度チェック： 80 点

【学生の意見等からの気づき】

板書をすぐに消さない
説明のスピードに注意する

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

劉 湯氷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
文 1 年 Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。進出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 16 課」 あるいは 「第 17 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」
12	「第 18 課」 あるいは 「第 12 課から第 18 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第 19 課、20 課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 2 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2 II	2016 年度以前入学者
劉 湯水	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
文 1 年 Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
2	「第 2 2 課」	「進行態」「持続態」
	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」	「形容詞述語文」 1
	あるいは	あるいは
4	「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 2
	「第 2 5 課」	「形容詞述語文」
5	あるいは	あるいは
	「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」の復習
6	「第 2 6 課」	「名詞述語文」 1
	あるいは	あるいは
7	「第 2 7 課」	「名詞述語文」 2
	「第 2 8 課」	「名詞述語文」 3
8	あるいは	あるいは
	「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」の復習
9	「第 2 9 課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
10	「第 3 0 課」	「連用修飾語」
	「第 2 9 課、3 0 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習
11	あるいは	あるいは
	「第 3 1 課」	「程度補語」
12	「第 3 2 課」	「数量補語」
	あるいは	あるいは
13	「第 3 3 課」	「結果補語」
	「第 3 4 課」	「方向補語」
14	あるいは	あるいは
	「第 3 5 課」	「可能補語」
15	「第 3 1 課から 3 5 課」	「補語」の復習
	あるいは	あるいは
16	「第 3 6 課」	「助動詞」
	「第 3 7 課」	「兼語文」
17	あるいは	あるいは
	「第 3 8 課」	「受け身表現」
18	「第 3 9 課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
19	「第 4 0 課」	「存現文」
	「第 3 6 課から 4 0 課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I 2016 年度以前入学者

余 瀾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
文 1 年 U・V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上は合格となります。配分は
毎回授業中で行う小テストが 25 点で、
毎回授業後、復習のために e 宿題をやるのが 15 点で、
中間テストと期末テストが 60 点です。

欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

楽しい授業になるように心がけます。
発音が楽しい！ 先生が丁寧に分かりやすく発音を教えます。
練習が楽しい！ 学生がペアになって会話を練習します。
発表が楽しい！ 学生がクラス或いはグループで会話を発表します。
中国の文化が楽しい！ 先生が授業内容にあわせて、随時中国の若者の生活、中国人の伝統、流行の歌などを紹介します。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

余 瀾

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
文 1 年 U・V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、60 点以上は合格となります。配分は毎回授業中で行う小テストが 25 点で、毎回授業後、復習のために e 宿題をやるのが 15 点で、中間テストと期末テストが 60 点です。欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

楽しい授業になるように心がけます。

発音が楽しい！先生が丁寧に分かりやすく発音を教えます。
練習が楽しい！学生がペアになって会話を練習します。
発表が楽しい！学生がクラス或いはグループで会話を発表します。
中国の文化が楽しい！先生が授業内容にあわせて、随時中国の若者の生活、中国人の伝統、流行の歌などを紹介します。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

劉 光赤

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
文 1 年 X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）、授業参加、小テストや課題の完成など（40 %）による総合評価です。

【学生の意見等からの気づき】

発音の練習をできるだけ多く行います。場合によって授業の進度を調整することもあります。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

劉 光赤

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
文 1 年 X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）、授業参加、小テストや課題の完成など（40 %）による総合評価です。

【学生の意見等からの気づき】

発音の練習をできるだけ多く行います。場合によって授業の進度を調整することもあります。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

孫 琦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
営 1 年 B・C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 %で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

孫 琦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
営 1 年 B・C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第 3 6 課から 4 0 課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ
<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、期末試験（70％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランス良く身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1）小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。2）テキストの学習（約 40 分）。3）文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	第 1 課 あるいは 第 2 課	発音 1 「ピンイン 1 と簡体字」、発音 2 「声母」
第 3 回	第 3 課 あるいは 第 4 課	発音 3 「韻母」 あるいは 発音 4 「二音節語」
第 4 回	第 5 課 あるいは 第 6 課	「人称代名詞」 あるいは 「動詞述語文」
第 5 回	第 7 課 あるいは 第 8 課	「中国語の四文型」2 あるいは 「中国語の四文型」3
第 6 回	第 9 課 あるいは 第 10 課	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語」
第 7 回	第 11 課 あるいは 第 12 課	「数量補語」 あるいは 「構造助詞」
第 8 回	復習 文法問題の演習	第 1 課～第 12 課の発音、及び文法問題に関する演習、確認
第 9 回	第 13 課 あるいは 第 14 課	「指示代詞」1 あるいは 「所有を表す語彙」
第 10 回	15 課 あるいは 第 16 課	「家族構成の尋ね方」 あるいは 「指示代詞」2
第 11 回	第 17 課 あるいは 第 18 課	「名量詞と動量詞」 あるいは 「連動文」
第 12 回	第 19 課 あるいは 第 20 課	「完了態」 あるいは 「変化態」
第 13 回	第 1 課～第 20 課の復習	第 1 課～第 20 課の発音、文法事項に関する復習
第 14 回	第 1 課～第 20 課の文法問題の演習	第 1 課～第 20 課の文法問題に関する演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級』東方書店

【参考書】

康玉華 『漢語 301 句』北京言語大学出版社
佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1）小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。2）テキストの学習（約 40 分）。3）文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「数字の教え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	復習、文法問題の演習 1	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	復習、文法問題の演習 2	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	秋期の文法問題の演習	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの文法問題の演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を開いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/>を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

康玉華 『漢語 3 0 1 句』北京言語大学出版社
佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

薬 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 1 年 E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 2 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2 II	2016 年度以前入学者
薬 会	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 1 年 E

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

孫 琦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
営 1 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ
<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 %で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

孫 琦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
営 1 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第 3 6 課から 4 0 課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ
<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、期末試験（70％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

劉 光赤

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
営 1 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）、授業参加、小テストや課題の完成など（40 %）による総合評価です。

【学生の意見等からの気づき】

発音の練習をできるだけ多く行います。場合によって授業の進度を調整することもあります。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

劉 光赤

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
営 1 年 L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）、授業参加、小テストや課題の完成など（40 %）による総合評価です。

【学生の意見等からの気づき】

発音の練習をできるだけ多く行います。場合によって授業の進度を調整することもあります。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

薬 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 1 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から「第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 16 課」 あるいは 「第 17 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」
12	「第 18 課」 あるいは 「第 12 課から第 18 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第 19 課、20 課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか 1 冊。電子辞書でもよい。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 10 %、中間テスト 15 %、課題 (小テストなど)15 %、期末試験 60 %とする。期末試験は筆記のみとする。無断欠席は 1 回につき 2 ～5 点マイナスになる。
検定試験準 4 級合格者：I 期終了時合格は 90 点プラス。
検定試験 4 級合格者：I 期終了時合格は 100 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】

進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていきたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

薬 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 1 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第 3 6 課から 4 0 課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか 1 冊。電子辞書でもよい。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 10 %、中間テスト 15 %、課題 (小テストなど)15 %、期末試験 60 %とする。期末試験は筆記のみとする。無断欠席は 1 回につき 2 ～5 点マイナスになる。

検定試験準 4 級合格者：Ⅰ期終了時合格は 15 点プラス。
検定試験 4 級合格者：Ⅰ期終了時合格は 90 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】

進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていきたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

靳 耀勳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年 O・Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて指導する。

【成績評価の方法と基準】

- 1 期末テスト 50 %
- 2 小テスト 30 %
- 3 積極的参加点（宿題、暗唱、出席など）20 %の割合

【学生の意見等からの気づき】
しっかりと読解できて、きれいに発音できることを目標にしたい。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 2 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2 II	2016 年度以前入学者
新 耀勲	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年 O・Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】
1 期末テスト 50 %
2 小テスト 30 %
3 積極的参加点（宿題、暗唱、出席など）20 %の割合

【学生の意見等からの気づき】
しっかりと読解できて、きれいに発音できることを目標にしたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

耿 函

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
営 1 年 R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、小テストの代わりに、簡単な会話の練習も取り入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

期末試験を7割、E 宿題・会話の発表・出席回数・授業参加態度などを3割として評価する。なお、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。試験を含めた評価方法については、授業時間内に説明・通知する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の学習意欲を引き出し、少しでも中国語を身につけるように授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

耿 函

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
営 1 年 R

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、簡単な会話の練習も取り入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

期末試験を7割、E 宿題・会話の発表・出席回数・授業参加態度などを3割として評価する。なお、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。試験を含めた評価方法については、授業時間内に説明・通知する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の学習意欲を引き出し、少しでも中国語を身につけるように授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 1 年 T・U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	まとめ	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

日中・中日辞典（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（100 点）を基本とする。小テストなどの平常点も考慮に入れます（減点制）。

【学生の意見等からの気づき】
各課の難易度に従って、適度に授業の進行を調節します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
営 1 年 T・U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	まとめ	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
日中・中日辞典（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 点）の成績を基本とします。小テストなどの平常点も考慮に入れます（減点制）。

【学生の意見等からの気づき】
各課の難易度によって適度に進行を調節します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

蒋 彥婷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
営 1 年 G～K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から「第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 16 課」 あるいは 「第 17 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」
12	「第 18 課」 あるいは 「第 12 課から第 18 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第 19 課、20 課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50％）、学習態度や学習意欲（20％）、小テスト（20％）、平常点なども（10％）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業アンケートの結果を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

蒋 彧婷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
営 1 年 G～K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第 3 6 課から 4 0 課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。
毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50％）、学習態度や学習意欲（20％）、小テスト（20％）、平常点なども（10％）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を目指すため、学生のご意見やご要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

薬 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語 2 II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 2 II	2016 年度以前入学者
薬 会	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年 F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 I

2016 年度以前入学者

薄 宏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
営 1 年 S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話すの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	春学期の授業内容全般	「第 1 課から第 20 課」までの到達度チェック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

四技能、すなわち中国語にかかわる書く、聴く、言う、読むに関するもの

【成績評価の方法と基準】

成績評価と方法（100 点満点）

1、授業受講時の態度、姿勢、出席（欠席五回以上は失格）など：	20 点
2、春学期期末における到達度チェック：	80 点

【学生の意見等からの気づき】

随時学生の声に耳を傾き、授業の改善を大前提に対応する。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 II

2016 年度以前入学者

薄 宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
営 1 年 S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書くの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	秋学期授業内容の全般	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの到達度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法（100 点満点）

1、授業受講の態度、姿勢、出席回数（欠席五回以上は失格する）： 20 点
2、期末到達度チェック： 80 点

【学生の意見等からの気づき】

板書をすぐに消さない
説明のスピードに注意する

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語（1）Ⅰ

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語（1）Ⅰ

2016 年度以前入学者

鷲巣 益美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】

・中間試験（6 月に実施予定）40 %、期末試験 40 %、e 宿題 20 %として計算し、評価する。e 宿題について、詳細は授業時に説明する。
・全授業回数の三分之一を欠席したら、自動的に不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
よくわからないところ、疑問があったらその都度発言してください。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語（１）Ⅱ	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語（１）Ⅱ	2016 年度以前入学者
鷲巢 益美	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館
『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】
・中間試験（11 月に実施予定）40 %、期末試験 40 %、e 宿題 20 %の割合で計算し、評価する。
・全授業回数の三分の一を欠席したら、自動的に不合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
疑問・質問があれば随時尋ねてください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語（１）Ⅰ

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語（１）Ⅰ

2016 年度以前入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ディクテーション、発音テスト、e 宿題）40%、期末試験60%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語（１）Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語（１）Ⅱ

2016 年度以前入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ディクテーション、発音テスト、e 宿題）4 0 %、期末試験 6 0 %

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語（2）Ⅰ

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語（2）Ⅰ

2016 年度以前入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験、まとめ	「第 1 課から第 20 課」までの試験、春学期の問題点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて指導します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、宿題の完成度、授業中の解答および発音など（60 点）。期末試験（40 点）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

しっかりときれいに発音できることを目標にしたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語（2）Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語（2）Ⅱ

2016 年度以前入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験、まとめ	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験、 秋学期の問題点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でペンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて指導します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、宿題の完成度、授業中の解答および発音など（60 点）。期末試験（40 点）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

しっかりときれいに発音できることを目標にしたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語（2）Ⅰ

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語（2）Ⅰ

2016 年度以前入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	まとめ	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

日中・中日辞典（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 点）の成績を基本とします。普段の小テストなどの平常点も考慮に入れます（減点制）。

【学生の意見等からの気づき】
適宜に進度を調節します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語（2）Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語（2）Ⅱ

2016 年度以前入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	まとめ	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
日中・中日辞典（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 点）の成績を基本とします。また、小テストなどの平常点も考慮に入れます（減点制）。

【学生の意見等からの気づき】
各課の難易度に応じて適宜に進行を調節します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1

2016 年度以前入学者

鈴木 靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 中国に参加する学生を対象に、HSK1 級の合格に必要な語彙（150 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】

新 HSK（漢語水平考試）1 級の取得に必要な語学力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2、5 の授業は、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で進めていく。

中国語 1、5 では、効率的かつゆとりある授業を行うため、教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせたブレンド型学習を行う。毎回の授業内容は下記のとおりである。

①小テスト（約 20 分）

教室での学習と e ラーニングによる自宅学習の成果を確認するため、毎回授業のはじめに小テストを行う。

②テキストの学習（約 50 分）

テキストを使いながら、発音や文法などを中心に学習する。

③コミュニケーション・トレーニング（約 20 分）

前回の授業で学習した表現を使いながら、学生同士でコミュニケーション・トレーニングを行う。

（例）クラス全員の氏名をたずねる、電話番号をたずねる、家族構成をたずねる等

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語とは 中国語を学ぶ意義について考える	中国語の使用人口や方言、標準語の定義などについて学ぶ
第 2 回	発音の基本 (1) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の表記法
第 3 回	発音の基本 (2) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の声調、声母、韻母、二音節語の声調
第 4 回	中国語の基本構造 (1) 中国語の文法体系を概観する	中国語の四文型
第 5 回	中国語の基本構造 (2) 中国語の文法体系を概観する	連体修飾語・連用修飾語
第 6 回	中国語の基本構造 (3) 中国語の文法体系を概観する	補語
第 7 回	動詞述語文 (1) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞“是”の用法
第 8 回	動詞述語文 (2) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞“有”の用法
第 9 回	動詞述語文 (3) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	名量詞・動量詞
第 10 回	動詞述語文 (4) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	連動文
第 11 回	中国語の態 (1) 中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	変化態

第 12 回	中国語の態 (2) 中国語の態とそれを使っ たさまざまな表現を学ぶ	経験態、進行態・持続態
第 13 回	形容詞述語文 形容詞述語文の文法とそ れを使ったさまざまな表 現を学ぶ	程度副詞、比較表現①～⑤
第 14 回	名詞述語文 名詞述語文の文法とそ れを使ったさまざまな表 現を学ぶ	月日・曜日、時刻、金額の表現方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国語 1、5 では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e ラーニングによる自宅学習の達成度に応じて与えられている。前回の授業までに学習した内容を e ラーニングによって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。

【テキスト（教科書）】
本学の中国語スタッフがリレー式授業用に編纂した『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）とそのデジタル版を使用する。

【参考書】
劉月華ほか『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】
成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。
出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。
問題は、単語の聞き取り（4 問 × 5 点 = 20 点）、短文の聞き取り（2 問 × 10 点 = 20 点）、日文中訳（2 問 × 10 点 = 20 点）、e ラーニングによる自宅学習の達成度（4 種 × 10 点 = 40 点）の計 100 点。

【学生の意見等からの気づき】
学生のインターネット利用環境が P C からスマートフォンへと移行しているのを受け、昨年度は e ラーニングを改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。昨年度は多くの学生がこうした学習方法を実践してくれたので、今年度もこの方法で自宅学習を充実させていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
中国語 1、5 では、毎回授業の後にデジタル教科書と e ラーニングによる自宅学習を宿題として課している。e ラーニングの利用方法については、初回の授業で説明する。

【Outline and objectives】
Chinese 1 - SA is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China next year. In this course, we are going to learn:
Vocabulary:
We will learn 150 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.
Grammar:
We will learn the elementary grammar required for the HSK level 1.
Skills work:
We will expand vocabulary and improve listening and speaking skills through the use of e-Learning.

LANc100LA	
中国語 3	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 3	2016 年度以前入学者
鈴木 靖	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA 中国に参加する学生を対象に、HSK2 級の合格に必要な語彙（300 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】
新 H S K（漢語水平考試）2 級を取得するのに必要な中国語力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】
前半は、中国語 1、2、5 と同じく、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で授業を進めていく。
後半からは文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e ラーニング教材を使い、留学先での授業を疑似体験しながら、そこでの質疑応答に必要な表現力を身につけていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
第 1 回	補語 (2) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	程度補語、数量補語
第 2 回	補語 (3) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	結果補語、方向補語
第 3 回	補語 (4) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	可能補語
第 4 回	さまざまな表現 (1) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	助動詞、兼語文（使役表現）
第 5 回	さまざまな表現 (2) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	受身表現、把構文
第 6 回	さまざまな表現 (3) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	存現文
第 7 回	留学先での授業準備 (1)	e ラーニング教材を使い、留学先での授業を疑似体験しながら、そこでの質疑応答に必要な表現力を身につけていく
第 8 回	留学先での授業準備 (2)	同上
第 9 回	留学先での授業準備 (3)	同上
第 10 回	留学先での授業準備 (4)	同上
第 11 回	留学先での授業準備 (5)	同上
第 12 回	留学先での授業準備 (6)	同上
第 13 回	留学先での授業準備 (7)	同上
第 14 回	留学先での授業準備 (8)	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国語 3、6 の授業では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e ラーニングによる自宅学習の達成度に応じて与えられている。前回の授業までに学習した内容を e ラーニングによって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。

【テキスト（教科書）】
前半は春学期と同じく『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）を使用する。
後半からはテキストは使用せず、文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e ラーニング教材と H S K（漢語水平考試）の過去問データを使用する。

【参考書】

劉月華『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。
出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。
問題は、単語の聞き取り（4 問 × 5 点 = 20 点）、短文の聞き取り（2 問 × 10 点 = 20 点）、日文中訳（2 問 × 10 点 = 20 点）、e ラーニングによる自宅学習の達成度（4 種 × 10 点 = 40 点）の計 100 点。

【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が P C からスマートフォンへと移行しているのを受け、昨年度は e ラーニングを改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。昨年度は多くの学生がこうした学習方法を実践してくれたので、今年度もこの方法で自宅学習を充実させていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

中国語 3、6 では、毎回授業の後にデジタル教科書や e ラーニングによる自宅学習を宿題として課している。e ラーニングの利用方法については、春学期の授業と同じ。

【Outline and objectives】

Chinese 3 - SA is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China next year. In this course, we are going to learn:
Vocabulary:
We will learn 300 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.
Grammar:
We will learn the elementary grammar required for the HSK level 2.
Skills work:
We will extend vocabulary and improve listening and speaking skills through the use of e-Learning.

LANc100LA

中国語 2

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2

2016 年度以前入学者

蒋 彧婷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎および文法の基本を学び、その中でも日本人が苦手とする「四声」をしっかりと発音できるよう習得させる。この授業を土台にしながら 2 年次につながる必要な知識を身につけていく。

【到達目標】

中国語の発音ができる。
文法の基礎を理解する。
自己紹介や日常会話などを表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音および読解の練習を中心としつつ、徐々に習熟度を高めるよう授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の説明
2	第 1 課～第 3 課	発音 1～3
3	第 4 課～第 6 課	発音 4、あいさつ、動詞述語文
4	第 7 課～第 9 課	形容詞述語文、名詞述語文、主述述語文
5	第 10 課～第 12 課	連体・連用修飾語、補語、動詞述語文（一）
6	第 13 課～第 15 課	動詞述語文（二）、動詞述語文（三）、動詞述語文（四）
7	第 16 課～第 18 課	動詞述語文（五）、動詞述語文（六）、動詞述語文（七）
8	第 19 課～第 21 課	完了態、変化態、経験態
9	第 22 課～第 24 課	進行・持続態、形容詞述語文（一）、形容詞述語文（二）
10	第 25 課～第 27 課	形容詞述語文（三）、名詞述語文（一）、名詞述語文（二）
11	第 28 課～第 30 課	名詞述語文（三）、連体修飾語、連用修飾語
12	復習 1	春学期前半の学習内容の復習
13	復習 2	春学期後半の学習内容の復習
14	試験、まとめ、解説	これまでの学習内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に出るまでに必ず復習と予習しておくこと。毎課の新出単語と文法をしつかり記憶し、理解したかどうかチェックすること。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』
東方書店

【参考書】

必要なのは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを主に（50 %）、学習態度や学習意欲（20 %）、小テスト（20 %）、平常点なども（10 %）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を行うため、前年度の授業アンケートをいかしていきたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 42017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 42016 年度以前入学者

蒋 彧婷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の発音の基礎および文法の基本を学び、その中でも日本人が苦手とする「四声」をしっかりと発音できるよう習得させる。この授業を土台にしながら 2 年次につながる必要な知識を身に付けていく。

【到達目標】
発音の基礎を固める。
文法・構文を理解し、応用することができる。
一般的な会話の聞き取りと表現ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】
発音および読解の練習を中心としつつ、徐々に習熟度を高めるよう授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	春学期期末テストの解説と復習	春学期に習った文法などをどこまで覚えているか、チェックする。
第 2 回	第 31 課～第 33 課	程度補語、数量補語、結果補語
第 3 回	第 34 課～第 36 課	方向補語、可能補語、助動詞
第 4 回	第 37 課～第 39 課	兼語文、受身表現、把構文
第 5 回	第 40 課	存現文
第 6 回	復習 1	自己紹介、挨拶
第 7 回	復習 2	趣味の表現
第 8 回	復習 3	コミュニケーションの常用表現
第 9 回	復習 4	買い物の表現
第 10 回	復習 5	道を尋ねる表現
第 11 回	復習 6	友達を作るための表現
第 12 回	復習 7	授業での常用表現
第 13 回	復習 8	様々な質問表現
第 14 回	試験、まとめ、解説	習った文法を使って、自由に会話させる。これまでの学習内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に出るまでに必ず復習と予習しておくこと。
毎課の新出単語と文法をしっかりと記憶し、理解したかどうかチェックすること。
毎日最低 20 分テキストの CD を聞きながら、発音練習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級』＜改訂版＞
東方書店

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テストを主に（50 %）、学習態度や学習意欲（20 %）、小テスト（20 %）、平常点なども（10 %）勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
よりよい授業を行うため、前期のアンケートの結果を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 52017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 52016 年度以前入学者

鈴木 靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA 中国に参加する学生を対象に、HSK1 級の合格に必要な語彙（150 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】
新 HSK（漢語水平考試）1 級の取得に必要な語学力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1、2、5 の授業は、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で進めていく。
中国語 1、5 では、効率的かつゆとりある授業を行うため、教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせたブレンド型学習を行う。毎回の授業内容は下記のとおりである。
①小テスト（約 20 分）
教室での学習と e ラーニングによる自宅学習の成果を確認するため、毎回授業のはじめに小テストを行う。
②テキストの学習（約 50 分）
テキストを使いながら、発音や文法などを中心に学習する。
③コミュニケーション・トレーニング（約 20 分）
前回の授業で学習した表現を使いながら、学生同士でコミュニケーション・トレーニングを行う。
（例）クラス全員の氏名をたずねる、電話番号をたずねる、家族構成をたずねる等

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	中国語とは 中国語を学ぶ意義について考える	中国語の使用人口や方言、標準語の定義などについて学ぶ
第 2 回	発音の基本 (1) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の表記法
第 3 回	発音の基本 (2) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の声調、声母、韻母、二音節語の声調
第 4 回	中国語の基本構造 (1) 中国語の文法体系を概観する	中国語の四文型
第 5 回	中国語の基本構造 (2) 中国語の文法体系を概観する	連体修飾語・連用修飾語
第 6 回	中国語の基本構造 (3) 中国語の文法体系を概観する	補語
第 7 回	動詞述語文 (1) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞“是”の用法
第 8 回	動詞述語文 (2) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞“有”の用法
第 9 回	動詞述語文 (3) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	名量詞・動量詞
第 10 回	動詞述語文 (4) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	連動文
第 11 回	中国語の態 (1) 中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	変化態

第 12 回	中国語の態 (2) 中国語の態とそれを使っ たさまざまな表現を学ぶ	経験態、進行態・持続態
第 13 回	形容詞述語文 形容詞述語文の文法とそ れを使ったさまざまな表 現を学ぶ	程度副詞、比較表現①～⑤
第 14 回	名詞述語文 名詞述語文の文法とそれ を使ったさまざまな表現 を学ぶ	月日・曜日、時刻、金額の表現方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 1、5 では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e ラーニングによる自宅学習の達成度に応じて与えられている。前回の授業までに学習した内容を e ラーニングによって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。

【テキスト（教科書）】

本学の中国語スタッフがリレー式授業用に編纂した『ポイント学習中国語初級』（東方書店）とそのデジタル版を使用する。

【参考書】

劉月華ほか『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。
出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。
問題は、単語の聞き取り（4 問 × 5 点 = 20 点）、短文の聞き取り（2 問 × 10 点 = 20 点）、日文中訳（2 問 × 10 点 = 20 点）、e ラーニングによる自宅学習の達成度（4 種 × 10 点 = 40 点）の計 100 点。

【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が P C からスマートフォンへと移行しているのを受け、昨年度は e ラーニングを改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。昨年度は多くの学生がこうした学習方法を実践してくれたので、今年度もこの方法で自宅学習を充実させていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

中国語 1、5 では、毎回授業の後にデジタル教科書と e ラーニングによる自宅学習を宿題として課している。e ラーニングの利用方法については、初回の授業で説明する。

【Outline and objectives】

Chinese 1 - SA is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China next year. In this course, we are going to learn:
Vocabulary:
We will learn 150 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.
Grammar:
We will learn the elementary grammar required for the HSK level 1.
Skills work:
We will expand vocabulary and improve listening and speaking skills through the use of e-Learning.

LANc100LA	
中国語 6	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語 6	2016 年度以前入学者
鈴木 靖	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 中国に参加する学生を対象に、HSK2 級の合格に必要な語彙（300 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】

新 H S K（漢語水平考試）2 級の取得に必要な中国語力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、中国語 1、2、5 と同じく、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で授業を進めていく。
後半からは文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e ラーニング教材を使い、留学先での授業を疑似体験しながら、そこでの質疑応答に必要な表現力を身につけていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	補語 (2) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	程度補語、数量補語
第 2 回	補語 (3) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	結果補語、方向補語
第 3 回	補語 (4) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	可能補語
第 4 回	さまざまな表現 (1) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	助動詞、兼語文（使役表現）
第 5 回	さまざまな表現 (2) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	受身表現、把構文
第 6 回	さまざまな表現 (3) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	存現文
第 7 回	留学準備 (1)	e ラーニング教材を使い、留学先での授業を疑似体験しながら、そこでの質疑応答に必要な表現力を身につけていく。
第 8 回	留学準備 (2)	同上
第 9 回	留学準備 (3)	同上
第 10 回	留学準備 (4)	同上
第 11 回	留学準備 (5)	同上
第 12 回	留学準備 (6)	同上
第 13 回	留学準備 (7)	同上
第 14 回	留学準備 (8)	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 3、6 の授業では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e ラーニングによる自宅学習の達成度に応じて与えられている。前回の授業までに学習した内容を e ラーニングによって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。

【テキスト（教科書）】

前半は春学期と同じく『ポイント学習中国語初級』（東方書店）を使用する。
後半からはテキストは使用せず、文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e ラーニング教材と H S K（漢語水平考試）の過去問データを使用する。

【参考書】

劉月華『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。

出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。

問題は、単語の聞き取り（4 問 × 5 点 = 20 点）、短文の聞き取り（2 問 × 10 点 = 20 点）、日文中訳（2 問 × 10 点 = 20 点）、e ラーニングによる自宅学習の達成度（4 種 × 10 点 = 40 点）の計 100 点。

【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が P C からスマートフォンへと移行しているのを受け、昨年度は e ラーニングを改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。昨年度は多くの学生がこうした学習方法を実践してくれたので、今年度もこの方法で自宅学習を充実させていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

中国語 3、6 では、毎回授業の後にデジタル教科書や e ラーニングによる自宅学習を宿題として課している。e ラーニングの利用方法については、春学期の授業と同じ。

【Outline and objectives】

Chinese 3 - SA is a Chinese course designed especially for the students who are going to study abroad in China next year. In this course, we are going to learn:

Vocabulary:

We will learn 300 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.

Grammar:

We will learn the elementary grammar required for the HSK level 2.

Skills work:

We will extend vocabulary and improve listening and speaking skills through the use of e-Learning.

LANc100LA

中国語 1

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1

2016 年度以前入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。また、この授業ではフレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓?]、動詞述語文 [你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、連体修飾語・連用修飾語 [一年级的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时?]、動詞述語文（一）[她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）[这是什么?]、動詞述語文（三）[你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）[你家有几口人?]、動詞述語文（五）[这儿有邮局吗?]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）[请再念一次]、動詞述語文（七）[去中国干什么?]
11	第十九課あるいは第二十課	完了態 [这本书你看了吗?]、変化態 [快要考试了]
12	復習	教科書のポイントの総復習
13	HSK1 級問題の解説 1	リスニング問題の解説
14	HSK1 級問題の解説 2	読解問題の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材（<http://fic.xsrv.jp/hosei/>）を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店）

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあけておく。

・劉月華 他『実用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）

・守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店）

・相原茂 他『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同人社）

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『実用現代漢語語法』は和訳『『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）』も出ている。HSKの勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 %評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取る。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。

・授業中に、HSK（中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定）の 1 級問題の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ（<http://www.hskj.jp/>）も参照。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 3

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 3

2016 年度以前入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。また、この授業ではフレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边吗?]、進行態・持続態 [你在做什么呢?]
2	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
3	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
4	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
5	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
6	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
7	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
8	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
9	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]
10	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
11	復習 1	教科書第 21 課から第 30 課までの復習
12	復習 2	教科書第 31 課から第 40 課までの復習
13	HSK2 級問題の解説 1	リスニング問題の解説
14	HSK2 級問題の解説 2	読解問題の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材（<http://fic.xsrv.jp/hosei/>）を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店）

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあけておく。
・劉月華 他 『実用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）

・守屋宏則 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』（東方書店）
・相原茂 他 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）
これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『実用現代漢語語法』は和訳 [『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）] も出ている。HSKの勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 %評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取る。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
・授業中に、HSK（中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定）の 2 級問題の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ（<http://www.hskj.jp/>）も参照。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2

2016 年度以前入学者

薬 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビギナーのための初級中国語の授業です。

【到達目標】

中国語の発音の基礎と基本文型、初級レベルの文法習得を目指す授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音・文法・語彙等、中国語を運用するための基本能力のトレーニングを行います。

教員の説明と、受講者とのやりとりを通じて、初級に必要なとされる項目をすべて習得します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国語とは
第 2 回	第一課（第二課）	発音（一） 発音（二）
第 3 回	第三課（第四課）	発音（三） 発音（四）
第 4 回	第五課（第六課）	発音の仕上げ、人称代詞、姓名の表現、発音の総復習、四文型①動詞述語文、専攻分野のいろいろ
第 5 回	第七課（第八課）	四文型②形容詞述語文、四文型③名詞述語文、数の数え方①
第 6 回	第九課（第十課）	「四文型④主述述語文、身体部分のいい方、連体修飾語 連用修飾語
第 7 回	第六課～第十課	中国語の基本構造について総復習
第 8 回	第十一課（第十二課）	「補語」、「動詞述語文（一）」
第 9 回	第十三課（第十四課）	「動詞述語文（二）」、「動詞述語文（三）」
第 1 0 回	第十五課（第十六課）	「動詞述語文（四）」、「動詞述語文（五）」
第 1 1 回	第十七課（第十八課）	動詞述語文（六）、名量詞、動量詞、動詞の重ね型、連動文、乗り物のいろいろ
第 1 2 回	第十二課～第十八課	動詞述語文の総復習
第 1 3 回	第十九課（第二十課）	「完了態」、「変化態」
第 1 4 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教室へ来る前に、必ず前週まで習った内容やスピーチの内容を確認してください。また使用するテキストの CD も聞いてきてください。E ラーニングを各自行ってください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語』 改訂版 東方書店

【参考書】

授業開始時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

発音の学習はピンインが中心になります。「中国語音節表」を理解できるようにしてください。また日本語と同じように「漢字」を使用しているが、全く別の言語であることも理解してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 4 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 4 2016 年度以前入学者

薬 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビギナーのための初級中国語の授業です。

【到達目標】

中国語の発音の基礎と基本文型、初級レベルの文法習得を目指す授業です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音・文法・語彙等、中国語を運用するための基本能力のトレーニングを行います。

教員の説明と、受講者とのやりとりを通じて、初級に必要とされる項目をすべて習得します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第二十一課（第二十二課）	経験態、可能表現、進行態・持続態
第 2 回	第二十三課（第二十四課）	形容詞述語文（一）、程度の表現、形容詞述語文（二）、比較表現①～③、四季と寒暑
第 3 回	第二十五課（第二十六課）	形容詞述語文（三）、比較表現④⑤、数の数え方②長さの単位
第 4 回	第二十六課（第二十七課）	名詞述語文（一）、名詞述語文（二）日時の表現時刻の表現
第 5 回	第二十八課（第二十九課）	名詞述語文（三）、数の数え方③～⑤
第 6 回	第二十六課～第三十課	金額の表現、連体修飾語 名詞述語文、連体修飾語、連用修飾語の総復習
第 7 回	第三十一課（第三十二課）	程度補語、球技のいろいろ、数量補語
第 8 回	第三十三課（第三十四課）	結果補語、方向補語、“是～的”の表現、家電製品のいろいろ
第 9 回	第三十一課～第三十五課	可能補語、補語について総復習
第 10 回	第三十六課（第三十七課）	助動詞、兼語文、使役表現
第 11 回	第三十八課（第三十九課）	受身表現、“把”構文
第 12 回	第三十六課～第四十課	存現文、さまざまな表現について総復習
第 13 回	総合復習と口頭試験	総合復習と口頭試験
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教室へ来る前に、必ず前週まで習った内容やスピーチの内容を確認してください。また使用するテキストの CD も聞いてきてください。E ラーニングを各自行ってください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語』 改訂版 東方書店

【参考書】

授業開始時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

発音の学習はピンインが中心になります。「中国語音節表」を理解できるようにしてください。また日本語と同じように「漢字」を使用しているが、全く別の言語であることも理解してください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 2016 年度以前入学者

曾 士才

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音・基本的文法事項・基本表現を習得し、中国語の基礎力を確立する。また、中国語の学習を通じて、多様な言語で自己表現を行う楽しさを感じてもらう。

【到達目標】

HSK1 級に合格するレベルの基礎力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、初めて中国語を学ぶ人が中国語の基礎力を確立することを目指す。中国語上達の鍵となる発音と、声調・ピンイン・簡体字の習得を徹底する。また、中国語の基本文型を理解する。文法事項の学習と同時に、日常会話表現を覚えてもらう。授業は本学用に編纂したテキストを使い、二人の教員がリレー式に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに、第一課	イントロダクション、発音（一）
第 2 回	第二課、第三課	声母、ピンインのつづり方①、韻母
第 3 回	第三課、第四課	ピンインのつづり方②、韻母、声調
第 4 回	第五課、発音の仕上げ	人称代詞、姓名の表現、発音の総復習
第 5 回	第六課、第七課	四文型①動詞述語文、専攻分野のいろいろ、四文型②形容詞述語文
第 6 回	第八課、第九課	四文型③名詞述語文、数の数え方①、四文型④主述述語文、身体部分のいろいろ
第 7 回	第六課～第十課	中国語の基本構造について総復習
第 8 回	第十一課、第十二課	補語、動詞述語文（一）、国名・地域名のいろいろ
第 9 回	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、指示代詞①、数詞、量詞、動詞述語文（三）、所有の表現、文房具のいろいろ
第 10 回	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、家族構成の表現、動詞述語文（五）、指示代詞②、存在表現、所在表現、方位名詞、公共施設のいろいろ
第 11 回	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）、名量詞、動量詞、動詞の重ね型、連動文、乗り物のいろいろ
第 12 回	第十二課～第十八課	動詞述語文の総復習
第 13 回	第十九課、第二十課	完了態、変化態
第 14 回	全体のめとめ	前期授業の総復習、練習問題、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の始めに小テストを実施し、前の週に学んだことの定着度を測ります。学習したことの復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著 『ポイント学習中国語初級 [新装版]』 東方書店

【参考書】

辞書は『中日辞典』（小学館）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の始めに行う小テストと期末試験の結果を総合して成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ことばそのものの習得だけでなく、ことばを通して中国理解につながるような授業運営を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

欠席や遅刻が重なると授業についていけなくなります。注意してください。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students'skills in the areas of pronunciation, grammar, conversation and writing. This course focuses on helping students develop basic Chinese communication ability, including reading, writing, listening and speaking.
At the end of this course, students are expected to get a pass in HSK level 1.

LANc100LA

中国語 2

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2

2016 年度以前入学者

祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランス良く身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。
1）小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。
2）テキストの学習（約 40 分）。
3）文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	第 1 課 あるいは 第 2 課	発音 1 「ピンイン 1 と簡体字」、発音 2 「声母」
第 3 回	第 3 課 あるいは 第 4 課	発音 3 「韻母」 あるいは 発音 4 「二音節語」
第 4 回	第 5 課 あるいは 第 6 課	「人称代名詞」 あるいは 「動詞述語文」
第 5 回	第 7 課 あるいは 第 8 課	「中国語の四文型」2 あるいは 「中国語の四文型」3
第 6 回	第 9 課 あるいは 第 10 課	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語」
第 7 回	第 11 課 あるいは 第 12 課	「数量補語」 あるいは 「構造助詞」
第 8 回	復習 文法問題の演習	第 1 課～第 12 課の発音、及び文法問題に関する演習、確認
第 9 回	第 13 課 あるいは 第 14 課	「指示代詞」1 あるいは 「所有を表す語彙」
第 10 回	15 課 あるいは 第 16 課	「家族構成の尋ね方」 あるいは 「指示代詞」2
第 11 回	第 17 課 あるいは 第 18 課	「名量詞と動量詞」 あるいは 「連動文」
第 12 回	第 19 課 あるいは 第 20 課	「完了態」 あるいは 「変化態」
第 13 回	第 1 課～第 20 課の復習	第 1 課～第 20 課の発音、文法事項に関する復習
第 14 回	第 1 課～第 20 課の文法問題の演習	第 1 課～第 20 課の文法問題に関する演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/>を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級』 東方書店

【参考書】

康玉華 『漢語 301 句』 北京言語大学出版社
佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』 白帝社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 3

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 3

2016 年度以前入学者

曾 士才

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音や声調をマスターするとともに、初級中国語の基本的文法事項・基本表現を習得する。また、最終的に中国語で簡単なコミュニケーションをはかれるようになってもらう。

【到達目標】

HSK2 級に合格することを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、中国語を習い始めたばかりの人が、基本的文法を習得することを目指す。また文法事項の学習と同時に、日常会話表現を覚えてもらう。授業は本学用に編纂したテキストを使い、二人の教員がリレー式に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第二十一課、第二十二課	経験態、可能表現、進行態・持続態
第 2 回	第十九課～第二十二課	中国語の態について総復習
第 3 回	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、程度表現、形容詞述語文（二）、比較表現①～③、四季と寒暑
第 4 回	第二十五課、第二六課	形容詞述語文（三）、比較表現④⑤、長さの単位
第 5 回	第二十三課～第二五課	形容詞述語文の総復習
第 6 回	第二十六課、第二七課	名詞述語文（一）、時間の表現
第 7 回	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（一）、金額の表現、連体修飾語
第 8 回	第二十六課～第三十課	名詞述語文、連体修飾語、連用修飾語の総復習
第 9 回	第三十一課、第三十二課	程度補語、球技のいろいろ、数量補語
第 10 回	第三十三課、第三十四課	結果補語、方向補語、家電製品のいろいろ
第 11 回	第三十一課～第三十五課	可能補語、補語について総復習
第 12 回	第三十六課、第三十七課	助動詞、兼語文、使役表現
第 13 回	第三十八課、第三十九課	受身表現、把構文
第 14 回	第三十六課～第四十課	存現文、さまざまな表現について総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業の始めに小テストを行い、前の週に学んだことの定着度を測るので、学習したことを復習すること。

【テキスト（教科書）】

大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著『ポイント学習中国語初級【新装版】』東方書店

【参考書】

辞書は『中日辞典』（小学館）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の始めに行う小テストと期末試験の結果を総合して成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ことばそのものの習得だけでなく、ことばを通して中国理解につながるような授業運営を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

欠席や遅刻が重なると授業についていけなくなります。注意してください。

【Outline and objectives】

This course aims to develop students'skills in the areas of pronunciation, grammar, conversation and writing. This course focuses on helping students develop basic Chinese communication ability, including reading, writing, listening and speaking.

At the end of this course, students are expected to get a pass in HSK level 2.

LANc100LA

中国語 4

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 4

2016 年度以前入学者

祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。

1）小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。2）テキストの学習（約 40 分）。3）文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	秋期の文法問題の演習	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの文法問題の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を開いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/>を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

康玉華 『漢語 3 0 1 句』北京言語大学出版社

佐藤富士雄 『中国語初級テキスト 緑さんの留学生活』白帝社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 % とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 % とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は全回の出席が成績評価の前提である。原則として欠席は認めない。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応をとること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - I

2016 年度以前入学者

永江 貴子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年 G~I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。また、この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓?]、動詞述語文 [你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、連体修飾語・連用修飾語 [一年级的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时?]、動詞述語文（一）[她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）[这是什么?]、動詞述語文（三）[你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）[你家有几口人?]、動詞述語文（五）[这儿有邮筒吗?]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）[请再念一次]、動詞述語文（七）[去中国干什么?]
11	第十九課あるいは第二十課	完了態 [这本书你看了吗?]、変化態 [快要考试了]
12	復習	教科書のポイントの総復習
13	中国語検定準 4 級チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	中国語検定準 4 級チャレンジ 2	筆記問題とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他『ポイント学習中国語初級〔改訂版〕』（東方書店）

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華 他『实用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）

・守屋宏則『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』（東方書店）

・相原茂 他『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）
これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『实用現代漢語語法』は和訳『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）も出ています。勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 %評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 ー II

2016 年度以前入学者

永江 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年 G~I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。また、この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持続態 [你在做什么呢?]
2	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
3	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
4	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
5	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
6	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
7	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
8	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
9	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]
10	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
11	復習 1	教科書第 21 課から第 30 課までの復習
12	復習 2	教科書第 31 課から第 40 課までの復習
13	中国語検定準 4 級チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	リスニング問題とその解説 2	筆記問題のその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級〔改訂版〕』（東方書店）

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあけておく。
・劉月華 他 『實用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
・守屋宏則 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店）
・相原茂 他 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）
これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『實用現代漢語語法』は和訳『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）も出ている。HSK の勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - I 2016 年度以前入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年 J～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁 第九课 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁？ 第十三课 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？ 第十五课 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？ 第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么？
⑬	中国語の態 中国語の態 期末復習	第十九课 这本书你看了吗？ 第二十课 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	ヒアリングテスト・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - II 2016 年度以前入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年 J～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗？ 第二十二课 你在做什么呢？ 第二十三课 水饺好吃吗？ 第二十四课 明天比今天还热
②	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿 第二十六课 今天几月几号？ 第二十七课 现在几点？
③	形容詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱？
④	名詞述語文	第二十九课 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑤	名詞述語文	第三十一课 谁打得好？
⑥	連体修飾語 連用修飾語	第三十二课 你打了几年网球？ 第三十三课 对不起，我打错了
⑦	補語	第三十四课 你退回去吧
⑧	補語	第三十五课 我听不懂
⑨	補語	第三十六课 我不想见他
⑩	さまざまな表現	第三十七课 让谁讲好呢？
⑪	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
⑫	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
⑬	さまざまな表現 期末復習	第四十课 大楼门口出来了一个高个子 一年間勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	ヒアリングテスト・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 ー I 2016 年度以前入学者

永江 貴子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年 A～C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。また、この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓?]、動詞述語文 [你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、連体修飾語・連用修飾語 [一年级的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时?]、動詞述語文（一）[她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）[这是什么?]、動詞述語文（三）[你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）[你家有几口人?]、動詞述語文（五）[这儿有邮局吗?]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）[请再念一次]、動詞述語文（七）[去中国干什么?]
11	第十九課あるいは第二十課	完了態 [这本书你看了吗?]、変化態 [快要考试了]
12	復習	教科書のポイントの総復習
13	中国語検定準 4 級チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	中国語検定準 4 級チャレンジ 2	筆記問題とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材（<http://fic.xsrv.jp/hosei/>）を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他『ポイント学習中国語初級〔改訂版〕』（東方書店）

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華 他『實用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）

・守屋宏則『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』（東方書店）
・相原茂 他『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）
これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『實用現代漢語語法』は和訳『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）も出ています。勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 %評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 ー II

2016 年度以前入学者

永江 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年 A～C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。また、この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持続態 [你在做什么呢?]
2	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
3	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
4	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
5	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
6	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
7	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
8	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
9	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]
10	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
11	復習 1	教科書第 21 課から第 30 課までの復習
12	復習 2	教科書第 31 課から第 40 課までの復習
13	中国語検定準 4 級チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	リスニング問題とその解説 2	筆記問題のその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級〔改訂版〕』（東方書店）

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあけておく。
・劉月華 他 『實用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
・守屋宏則 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店）
・相原茂 他 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）
これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『實用現代漢語語法』は和訳『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）も出ている。HSK の勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度担当者変更につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - I

2016 年度以前入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年 D～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁 第九课 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁？ 第十三课 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？ 第十五课 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？ 第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么？
⑬	中国語の態 中国語の態 期末復習	第十九课 这本书你看了吗？ 第二十课 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	ヒアリングテスト・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補完文法・プリントなどを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - II

2016 年度以前入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年 D～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗？ 第二十二课 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗？ 第二十四课 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六课 今天几月几日？ 第二十七课 现在几点？
⑤	名詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱？
⑥	連体修飾語 連用修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑦	補語	第三十一课 谁打得更好？ 第三十二课 你打了几年网球？
⑧	補語	第三十三课 对不起，我打错了 第三十四课 你退回去吧
⑨	補語	第三十五课 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六课 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七课 让谁讲好呢？
⑫	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十课 大楼门口出来了一个高个子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補完文法・プリントなどを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テストなど）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - I 2016 年度以前入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
キ 1 年 A～D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁 第九课 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁？ 第十三课 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？ 第十五课 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？ 第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九课 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十课 快要考试了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補完文法・プリントなどを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テストなど） 40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - II 2016 年度以前入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
キ 1 年 A～D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗？ 第二十二课 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗？ 第二十四课 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六课 今天几月几日？ 第二十七课 现在几点？
⑤	名詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱？
⑥	連体修飾語 連用修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑦	補語	第三十一课 谁打得更好？ 第三十二课 你打了几年网球？
⑧	補語	第三十三课 对不起，我打错了 第三十四课 你退回去吧
⑨	補語	第三十五课 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六课 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七课 让谁讲好呢？
⑫	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十课 大楼门口出来了一个高个子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補完文法・プリントなどを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テストなど） 40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - I

2016 年度以前入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
キ 1 年 E～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から「第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 16 課」 あるいは 「第 17 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」
12	「第 18 課」 あるいは 「第 12 課から第 18 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第 19 課、20 課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - II

2016 年度以前入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
キ 1 年 E～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第 3 6 課から第 4 0 課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - I

2016 年度以前入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
キ 1 年 I～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁
⑧	中国語の基本構造	第九课 你哪儿不舒服？ 第十课 一年级的学生都学外语
⑨	動詞述語文	第十一课 你每天看几个小时？ 第十二课 她是谁？
⑩	動詞述語文	第十三课 这是什么？ 第十四课 你有铅笔吗？
⑪	動詞述語文	第十五课 你家有几口人？ 第十六课 这儿有邮筒吗？
⑫	動詞述語文	第十七课 请再念一次
⑬	中国語の態	第十八课 去中国干什么？
⑭	中国語の態	第十九课 这本书你看了吗？ 第二十课 快要考试了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テストなど） 40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - II

2016 年度以前入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
キ 1 年 I～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗？ 第二十二课 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗？ 第二十四课 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六课 今天几月几号？ 第二十七课 现在几点？
⑤	名詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱？
⑥	連体修飾語 連用修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑦	補語	第三十一课 谁打得更好？ 第三十二课 你打了几年网球？
⑧	補語	第三十三课 对不起，我打错了 第三十四课 你退回去吧
⑨	補語	第三十五课 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六课 我不想见他 第三十七课 让谁讲好呢？
⑪	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
⑫	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
⑬	さまざまな表現 期末復習	第四十课 大楼门口出来了一个高个子 一年間勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	ヒアリングテスト・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト） 40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - I

2016 年度以前入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
キ 1 年 M～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から「第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 16 課」 あるいは 「第 17 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」
12	「第 18 課」 あるいは 「第 12 課から第 18 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第 19 課、20 課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 1 - II

2016 年度以前入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

キ 1 年 M～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 3 2 課」 あるいは 「第 3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 3 4 課」 あるいは 「第 3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 3 1 課から第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第 3 6 課から第 4 0 課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - I 2016 年度以前入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年 G～I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁 第九课 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁？ 第十三课 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？ 第十五课 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？ 第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么？
⑬	中国語の態 中国語の態 期末復習	第十九课 这本书你看了吗？ 第二十课 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	ヒアリングテスト・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - II 2016 年度以前入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年 G～I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗？ 第二十二课 你在做什么呢？ 第二十三课 水饺好吃吗？ 第二十四课 明天比今天还热
②	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿 第二十六课 今天几月几号？ 第二十七课 现在几点？
③	形容詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱？
④	名詞述語文	第二十九课 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑤	名詞述語文	第三十一课 谁打得更好？
⑥	連体修飾語 連用修飾語	第三十二课 你打了几年网球？ 第三十三课 对不起，我打错了
⑦	補語	第三十四课 你退回去吧
⑧	補語	第三十五课 我听不懂
⑨	補語	第三十六课 我不想见他
⑩	さまざまな表現	第三十七课 让谁讲好呢？
⑪	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
⑫	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
⑬	さまざまな表現 期末復習	第四十课 大楼门口出来了一个高个子 一年間勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	ヒアリングテスト・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - I

2016 年度以前入学者

日原 傳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年 J～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	発音の基本	第一课 发音（一）
第 2 回	発音の基本	第二课 发音（二）
第 3 回	発音の基本	第三课 发音（三）
第 4 回	発音の基本	第四课 发音（四）
第 5 回	発音の基本	第五课 您贵姓？
第 6 回	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？
		第七课 北京大学很大
第 7 回	中国語の基本構造	第八课 我十八岁
		第九课 你哪儿不舒服？
第 8 回	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语
		第十一课 你每天看几个小时？
第 9 回	動詞述語文	第十二课 她是谁？
		第十三课 这是什么？
第 10 回	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？
		第十五课 你家有几口人？
第 11 回	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？
		第十七课 请再念一次
第 12 回	動詞述語文 / 中国語の態	第十八课 去中国干什么？
		第十九课 这本书你看了吗？
第 13 回	中国語の態	第二十课 快要考试了
第 14 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・発音チェックテスト）30％ 期末試験70％

【学生の意見等からの気づき】

発音チェックテストを6～7月に行ない、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - II

2016 年度以前入学者

日原 傳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年 J～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗？
		第二十二课 你在做什么呢？
第 2 回	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗？
		第二十四课 明天比今天还热
第 3 回	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
第 4 回	名詞述語文	第二十六课 今天几月几日？
		第二十七课 现在几点？
第 5 回	名詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱？
第 6 回	連体修飾語 連用修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣真漂亮！
		第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
第 7 回	補語	第三十一课 谁打得得好？
第 8 回	補語	第三十二课 你打了几年网球？
		第三十三课 对不起，我打错了
第 9 回	補語	第三十四课 你退回去吧
第 10 回	さまざまな表現	第三十五课 我听不懂
		第三十六课 我不想见他
第 11 回	さまざまな表現	第三十七课 让谁讲好呢？
第 12 回	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
第 13 回	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
第 14 回	期末試験	第四十课 大楼门口出来了一个高个子 筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅での e ラーニングを行なう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・暗誦テスト）30％ 期末試験70％

【学生の意見等からの気づき】

課文の暗誦テストを11月～12月に実施し、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - I 2016 年度以前入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
環 1 年 A～C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁 第九课 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时？ 第十二课 她是谁？ 第十三课 这是什么？
⑨	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？ 第十五课 你家有几口人？ 第十六课 这儿有邮筒吗？ 第十七课 请再念一次
⑩	動詞述語文	第十八课 去中国干什么？ 第十九课 这本书你看了吗？ 第二十课 快要考试了
⑪	動詞述語文	前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑫	動詞述語文 中国語の態	
⑬	中国語の態 期末復習	
⑭	期末試験	ヒアリングテスト・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - II 2016 年度以前入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
環 1 年 A～C

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗？ 第二十二课 你在做什么呢？ 第二十三课 水饺好吃吗？ 第二十四课 明天比今天还热 第二十五课 比泰山高一点儿 第二十六课 今天几月几号？ 第二十七课 现在几点？ 第二十八课 这只手表多少钱？ 第二十九课 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
②	形容詞述語文	第三十一课 谁打得更好？ 第三十二课 你打了几年网球？ 第三十三课 对不起，我打错了 第三十四课 你退回去吧 第三十五课 我听不懂 第三十六课 我不想见他 第三十七课 让谁讲好呢？ 第三十八课 衣服都被淋湿了 第三十九课 我把衬衫弄脏了 第四十课 大楼门口出来了一个高个子 一年間勉強した内容をまとめて総復習する
③	形容詞述語文	
④	名詞述語文	
⑤	名詞述語文	
⑥	連体修飾語 連用修飾語	
⑦	補語	
⑧	補語	
⑨	補語	
⑩	さまざまな表現	
⑪	さまざまな表現	
⑫	さまざまな表現	
⑬	さまざまな表現 期末復習	
⑭	期末試験	ヒアリングテスト・筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。（補充練習・補充文法・プリントなどを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・会話テスト）40 %
- ・期末試験 60 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - I

2016 年度以前入学者

日原 傳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
環 1 年 D～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	発音の基本	第一课 发音（一）
第 2 回	発音の基本	第二课 发音（二）
第 3 回	発音の基本	第三课 发音（三）
第 4 回	発音の基本	第四课 发音（四）
第 5 回	発音の基本	第五课 您贵姓？
第 6 回	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？
		第七课 北京大学很大
第 7 回	中国語の基本構造	第八课 我十八岁
		第九课 你哪儿不舒服？
第 8 回	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语
		第十一课 你每天看几个小时？
第 9 回	動詞述語文	第十二课 她是谁？
		第十三课 这是什么？
第 10 回	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？
		第十五课 你家有几口人？
第 11 回	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？
		第十七课 请再念一次
第 12 回	動詞述語文 / 中国語の態	第十八课 去中国干什么？
		第十九课 这本书你看了吗？
第 13 回	中国語の態	第二十课 快要考试了
第 14 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・発音チェックテスト）30% 期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

発音チェックテストを6～7月に行ない、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - II

2016 年度以前入学者

日原 傳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
環 1 年 D～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗？
		第二十二课 你在做什么呢？
第 2 回	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗？
		第二十四课 明天比今天还热
第 3 回	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
第 4 回	名詞述語文	第二十六课 今天几月几号？
		第二十七课 现在几点？
第 5 回	名詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱？
第 6 回	連体修飾語 連用修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣真漂亮！
		第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
第 7 回	補語	第三十一课 谁打得好？
		第三十二课 你打了几年网球？
第 8 回	補語	第三十三课 对不起，我打错了
		第三十四课 你退回去吧
第 9 回	補語	第三十五课 我听不懂
第 10 回	さまざまな表現	第三十六课 我不想见他
		第三十七课 让谁讲好呢？
第 11 回	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
第 12 回	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
第 13 回	さまざまな表現	第四十课 大楼门口出来了一个高个子
第 14 回	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅での e ラーニングを行なう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・暗誦テスト）30% 期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

課文の暗誦テストを11月～12月に実施し、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - I 2016 年度以前入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年 A～D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁 第九课 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁？ 第十三课 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？ 第十五课 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？ 第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九课 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十课 快要考试了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20％
期末試験80％

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - II 2016 年度以前入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年 A～D

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗？ 第二十二课 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗？ 第二十四课 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六课 今天几月几号？ 第二十七课 现在几点？
⑤	名詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱？
⑥	連体修飾語・連用修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣真漂亮！
⑦	補語	第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑧	補語	第三十一课 谁打得更好？ 第三十二课 你打了几年网球？
⑨	補語	第三十三课 对不起，我打错了 第三十四课 你退回去吧
⑩	さまざまな表現	第三十五课 我听不懂
⑪	さまざまな表現	第三十六课 我不想见他
⑫	さまざまな表現	第三十七课 让谁讲好呢？
⑬	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
⑭	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
		第四十课 大楼门口出来了一个高个子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20％
期末試験80％

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - I

2016 年度以前入学者

篠田 幸夫開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年 E～H**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」あるいは 「第 12 課」	「補語」あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>**【成績評価の方法と基準】**

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 % の割合で評価する。

小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストがすべて A 評価以上の場合期末テストに最大 1.15 を乗し、E・F 評価が 3 回以上になった場合 0.9～0.7 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - II

2016 年度以前入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年 E～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」あるいは 「第 40 課」	「把構文」あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	授業内試験	「第 21 課から第 40 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 % の割合で評価する。

小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストがすべて A 評価以上の場合期末テストに最大 1.15 を乗し、E・F 評価が 3 回以上になった場合 0.9～0.7 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - I

2016 年度以前入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
キ 1 年 I～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 発音（一）
②	発音の基本	第二课 発音（二）
③	発音の基本	第三课 発音（三）
④	発音の基本	第四课 発音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么？ 第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁 第九课 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁？ 第十三课 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗？ 第十五课 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗？ 第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九课 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十课 快要考试了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20％
期末試験80％

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - II

2016 年度以前入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
キ 1 年 I～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗？ 第二十二课 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗？ 第二十四课 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六课 今天几月几号？ 第二十七课 现在几点？
⑤	名詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱？
⑥	連体修飾語・連用修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑦	補語	第三十一课 谁打得更好？ 第三十二课 你打了几年网球？
⑧	補語	第三十三课 对不起，我打错了 第三十四课 你退回去吧
⑨	補語	第三十五课 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六课 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七课 让谁讲好呢？
⑫	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十课 大楼门口出来了一个高个子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・小テスト）20％
期末試験80％

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - I 2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - I 2016 年度以前入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
キ 1 年 M~P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」あるいは 「第 12 課」	「補語」あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 % の割合で評価する。

小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストがすべて A 評価以上の場合期末テストに最大 1.15 を乗し、E・F 評価が 3 回以上になった場合 0.9～0.7 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語 2 - II

2016 年度以前入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
キ 1 年 M～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」あるいは 「第 40 課」	「把構文」あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	授業内試験	「第 21 課から第 40 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は覚えようという積極的な気持ちと適切なタイミングでの復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚え、練習問題を解答を見ずに解けるように練習してください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

小テスト 50 %、期末テスト 40 %、e 宿題 10 % の割合で評価する。

小テストの成績を期末テストに連動させる。小テストがすべて A 評価以上の場合期末テストに最大 1.15 を乗し、E・F 評価が 3 回以上になった場合 0.9～0.7 を乗す。詳細は初回の授業で説明する。授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。私語・居眠り・練習しない・独自の判断で練習を止めた場合、その他授業を妨害する行為は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 1 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語補講 I

2016 年度以前入学者

池田 麻希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかりと身に付けることを目標とします。

【到達目標】

中国語の基礎を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最初の数回は発音篇、その後文法を中心とした本篇に入ります。本篇の各課は文法・会話文・練習問題から成り、授業もこれに沿って進めます。また、毎回文法例文または会話文の小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス・第 1 課	授業の進め方について・中国語とは・ 発音
②	第 2 課	発音
③	第 3 課	発音
④	第 4 課	発音
⑤	第 5 課	文法
⑥	第 6 課	文法
⑦	第 7 課	文法
⑧	第 8 課	文法
⑨	第 9 課	文法
⑩	第 10 課	文法
⑪	第 11 課	文法
⑫	第 5～8 課の復習	学習内容の確認
⑬	第 9～11 課の復習	学習内容の確認
⑭	授業内試験	第 1～11 課の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その週に学ぶ予定の課について、授業前に必ず目を通し、わからない単語の意味は調べておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

『わくわくスタディ 実学実用 初級中国語 ライト版』陳淑梅・劉光赤著、朝日出版社、2019 年

【参考書】

『ポイント学習中国語初級〔改訂版〕』東方書店、2010 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（3～4 割）と期末試験（6～7 割）の総合評価。

平常点とは、授業中に指名する教科書の音読、訳、練習問題の解答及び小テストから評価します。出席＝平常点ではないので、授業中の私語・注意散漫・携帯電話使用は厳禁です。欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しません（遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とします）。小テスト（書き取りや暗誦を予定）と期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが興味を持って学習を続け、達成感を得られるような授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 1 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語補講 II

2016 年度以前入学者

池田 麻希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかりと身に付けることを目標とします。

【到達目標】

中国語の基礎を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

各課は文法・会話文・練習問題から成り、授業もこれに沿って進めます。また、毎回文法例文または会話文の小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス・第 12 課	文法
②	第 13 課	文法
③	第 14 課	文法
④	第 15 課	文法
⑤	第 16 課	文法
⑥	第 17 課	文法
⑦	第 18 課	文法
⑧	第 19 課	文法
⑨	第 20 課	文法
⑩	第 12～14 課の復習	学習内容の確認
⑪	第 15～17 課の復習	学習内容の確認
⑫	第 18～20 課の復習	学習内容の確認
⑬	総復習又は補充教材	学習内容の確認・発展
⑭	授業内試験	第 12～20 課の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その週に学ぶ予定の課について、授業前に必ず目を通し、わからない単語の意味は調べておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

『わくわくスタディ 実学実用 初級中国語 ライト版』陳淑梅・劉光赤著、朝日出版社、2019 年

【参考書】

『ポイント学習中国語初級〔改訂版〕』東方書店、2010 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（3～4 割）と期末試験（6～7 割）の総合評価。

平常点とは、授業中に指名する教科書の音読、訳、練習問題の解答及び小テストから評価します。出席＝平常点ではないので、授業中の私語・注意散漫・携帯電話使用は厳禁です。欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しません（遅刻・早退 2 回で欠席 1 回とします）。小テスト（書き取りや暗誦を予定）と期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが興味を持って学習を続け、達成感を得られるような授業を心がけます。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA		
中国語補講 1 - I	2017 年度以降入学者	
LANc100LA		
中国語補講 I	2016 年度以前入学者	
李 維涛		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：土 2/Sat.2 法文堂環キ 2～3 年（再履修のみ）		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業は、中国語初級を総合的に勉強し、中国語の基礎知識を身につけ、日常生活の諸場面における中国語によるコミュニケーション力の向上を図るものである。 授業は、教科書を使つての学習、コミュニケーション活動、課題と、3 つのブロックに分けて行なう。授業では、質疑応答・コミュニケーション活動に、能動的且つ積極的に参加することを強く望む。 【教科書】 初回は、オリエンテーションと授業アンケートを行なう。 2-5 回は、ピンインを学習し、発音適性テストを行い、6 回目以後基本表現の学習に入る。 基本的に 1 課を 2 回に分けて、1 回目は主に言葉、文法の解説や其の練習・応用などを、2 回目は本文の会話文の学習をベースに、シナリオプレイ・ロールプレイなどの応用・実戦活動を行い、既習文型を活かしての実際のコミュニケーション能力の向上を目指して、授業を進めて行く。 課毎に、言葉・文法クイズを、それぞれ 1 回行なう。予習・復習は必須。 【コミュニケーション活動】 グループまたはペアによるコミュニケーションワークを行なう。 活動中に積極的に自己表現することを望む。 【課題】 前期の課題は自由作文。 テーマ決め → 執筆 → 提出 → リライト → プレゼンテーションという流れで行なう。		
【到達目標】 漢字と共に文字表記に用いながらも、文法も音声も全く異なる言語ー中国語に触れ、その基礎となる、ピンイン、漢字、基礎語彙と表現などを学ぶことを目標とする。 更に、学んだものを活かして、日常生活の基本的な諸場面に於いて中国語による円滑なコミュニケーションを行う能力の向上を目指す。 中国語の基礎となる、ピンイン、漢字、基本的な表現の仕方などをマスターした上で、自己紹介・日常生活【一日の暮らし、買物、電話応対、感謝、依頼、物を尋ねるなど】、気持ちと感情の表現の仕方など、種々のシチュエーションに於けるコミュニケーションの表現を学び、そして、活動を通して実践する。たくさん学ぶというより、少しでも学んだものを、十分に活かして応用できることを趣旨として授業を進めて行く。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		
【授業の進め方と方法】 授業は、教科書を使つての勉強、コミュニケーション活動、課題と、3 つのブロックに分けて行なう。 【教科書】 初回は初級と中級前半で学んだ知識をチェックするテストを行い、その結果に応じて、既習基礎知識の復習・練習を、最初の 2 回にわたって行なう。3 回目以後教材を使つての学習に入る。 基本的に 1 課を 2 回に分けて、1 回目は主に文法の解説や練習や応用などを、2 回目は本文の会話文の学習をベースに、シナリオプレイ・ロールプレイなどの応用・実戦活動を行い、既習文型を活かしての実際のコミュニケーション能力の向上を目指して、授業を進めて行く。 課毎に、語彙・文法テストを行う。 予習・復習は必須。 【コミュニケーション活動】 グループまたはペアによるコミュニケーション活動を行なう。 活動中には能動的に参加し、積極的に中国語による自己表現をすることを望む。 【課題】 短作文と当該年度の中国語の新語・流行語のリサーチレポート。 何れも下記の流れで行なう。 テーマ決め → 執筆 → 提出 → リライト → プレゼンテーション 授業スケジュールは、状況に応じて、変更する場合がある。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No		
【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 中国語についてその概況を理解し、教室で使う中国語の表現を学習する。	シラバスに基づき講義内容を説明する。 オリエンテーション ①授業目標、教材、授業の進め方、スケジュール、履修上の注意事項などについて説明。 ②授業用語と挨拶 ③授業アンケート ④ [Culture Point] 中国・中国語・中国人について 中国語の発音 [part1] ①中国語について：中国語とはどのような言語か。その特徴は何か。etc. ②中国語の発音表記体系：ピンイン概説・総覧 ③母音、声調 中国語の発音 [part2] ①子音・清音・濁音 vs 有気音・無気音 ②単母音、複合母音 ③挨拶用語
第 2 回	中国語の発音表記法ーピンインについて学習し、ピンインの母音部分をマスターする。	中国語の発音 [part1] ①中国語について：中国語とはどのような言語か。その特徴は何か。etc. ②中国語の発音表記体系：ピンイン概説・総覧 ③母音、声調 中国語の発音 [part2] ①子音・清音・濁音 vs 有気音・無気音 ②単母音、複合母音 ③挨拶用語
第 3 回	中国語の発音表記法ーピンインの子音部分をマスターする。 中国語の挨拶用語を覚える。	中国語の発音 [part2] ①子音・清音・濁音 vs 有気音・無気音 ②単母音、複合母音 ③挨拶用語
第 4 回	ピンイン全体を総復習して、正確に発音することを目指す	中国語の発音 [part3] ①鼻母音 ②ピンイン総括・練習 ③ピンインの綴りの規則 ④発音適性テスト [前半] 中国の発音 [part4] ①発音適性テスト [後半] ②挨拶用語・教室用語 ③語彙導入 [5 課] 自己紹介 ①チェックテスト [5 課語彙] ②名詞述語文：名前・国籍・職業の言い方
第 5 回	発音適性テストによって、各自で自分の発音の問題点などを意識する。	自己紹介 ①チェックテスト [5 課語彙] ②名詞述語文：名前・国籍・職業の言い方 自己紹介 ①チェックテスト [5 課文法] ②既習文型実戦・応用練習 ③語彙導入 [6 課] 自己紹介 ①チェックテスト [6 課語彙] ②名詞述語文：所属・専門について話す ③年齢の言い方
第 6 回	自己紹介の表現を覚える。	自己紹介 ①チェックテスト [5 課文法] ②既習文型実戦・応用練習 ③語彙導入 [6 課] 自己紹介 ①チェックテスト [6 課語彙] ②名詞述語文：所属・専門について話す ③年齢の言い方
第 7 回	自己紹介の表現を使って、実践を通して、その表現をマスターする。	自己紹介 ①チェックテスト [5 課文法] ②既習文型実戦・応用練習 ③語彙導入 [6 課] 自己紹介 ①チェックテスト [6 課語彙] ②名詞述語文：所属・専門について話す ③年齢の言い方
第 8 回	自己紹介における所属・専攻・年齢の言い方をマスターする。	自己紹介 ①チェックテスト [5 課文法] ②既習文型実戦・応用練習 ③語彙導入 [6 課] 自己紹介 ①チェックテスト [6 課語彙] ②名詞述語文：所属・専門について話す ③年齢の言い方
第 9 回	より内容が充実した自己紹介を、実践を通してマスターして行く。	自己紹介 ①チェックテスト [5 課文法] ②既習文型実戦・応用練習 ③語彙導入 [6 課] 自己紹介 ①チェックテスト [6 課語彙] ②名詞述語文：所属・専門について話す ③年齢の言い方
第 10 回	行為を表現する、中国語の動詞文をマスターし、自分の日常を表現する。	自己紹介 ①チェックテスト [5 課文法] ②既習文型実戦・応用練習 ③語彙導入 [6 課] 自己紹介 ①チェックテスト [6 課語彙] ②名詞述語文：所属・専門について話す ③年齢の言い方
第 11 回	自分の日常を、学習した動詞文を使って、口頭表現する。	自己紹介 ①チェックテスト [5 課文法] ②既習文型実戦・応用練習 ③語彙導入 [6 課] 自己紹介 ①チェックテスト [6 課語彙] ②名詞述語文：所属・専門について話す ③年齢の言い方
第 12 回	買物という場面における様々な表現を学ぶ。	自己紹介 ①チェックテスト [5 課文法] ②既習文型実戦・応用練習 ③語彙導入 [6 課] 自己紹介 ①チェックテスト [6 課語彙] ②名詞述語文：所属・専門について話す ③年齢の言い方
第 13 回	買物という場面における様々な表現を、実践活動を通して、マスターする。	自己紹介 ①チェックテスト [5 課文法] ②既習文型実戦・応用練習 ③語彙導入 [6 課] 自己紹介 ①チェックテスト [6 課語彙] ②名詞述語文：所属・専門について話す ③年齢の言い方
第 14 回	前期の学習内容を振り返り・総括して、期末筆記試験を行う。	自己紹介 ①チェックテスト [5 課文法] ②既習文型実戦・応用練習 ③語彙導入 [6 課] 自己紹介 ①チェックテスト [6 課語彙] ②名詞述語文：所属・専門について話す ③年齢の言い方
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 課毎に言葉クイズ・文法クイズを行う。授業で学習した内容をしっかりと復習・予習すること。 課題などの準備は授業時間外の作業となるが、提出締切など時間を守ること。		
【テキスト（教科書）】 『日中いぶこみ交差点』 相原茂など 著 朝日出版社 2017 年 ISBN978-4-255-45286-9		
【参考書】 ・中日・日中辞典類 [紙媒体、電子辞書、App の何れも可。電子辞書を奨める] ・『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂など 同学社 ・『中国語生活図解辞典』 遠藤雅裕 小学館		
【成績評価の方法と基準】 授業参加度・参加態度なども考慮しながら、主にテスト・活動・課題によって評価する。		

発行日：2019/5/1

チェックテスト【語彙・文法】 35%
期末テスト 25%
活動・口頭表現 15%
課題 15%
授業貢献度・学習態度など 10%

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、コミュニケーション活動など、口頭表現する活動が多く行われて来た。学生から、口頭表現の内容を板書して提示して欲しいとの要望があった。今後の授業では、これらの口頭活動の内容を、なるべく文字資料でも提示するように心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習内容に応じて、教室に備えてある機器、または PC などを使う。
また、学内授業支援システムなどを利用して、学生とのコミュニケーションを図る。

【その他の重要事項】

授業中、学習用具類以外、机上に置かないこと。
特に、携帯電話、飲み物類は、鞆等にしまうこと。
教材【教科書、授業関連資料】を持参せずの受講は欠席と見なすこと。

【授業に臨む心構え】

其の一 勉強する意欲と意識を高く持つこと
其の二 しっかり予習・復習してくること。
其の三 教科書は勿論のこと、ノート、筆記具、辞書も必ず持ってくること。
其の四 可能な限り、授業時間中は中国語で話すこと。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 1 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語補講 II

2016 年度以前入学者

李 維涛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、中国語初級を総合的に勉強し、中国語の基礎知識を身につけ、日常生活の諸場面における中国語によるコミュニケーション力の向上を図るものである。

授業は、教科書を使つての学習、コミュニケーション活動、課題と、3 つのブロックに分けて行なう。授業では、質疑応答・コミュニケーション活動に、能動的且つ積極的に参加することを強く望む。

【教科書】

初回は、オリエンテーションと授業アンケートを行なう。

2-5 回は、ピンインを学習し、発音適性テストを行い、6 回目以後基本表現の学習に入る。

基本的に 1 課を 2 回に分けて、1 回目は主に言葉、文法の解説や其の練習・応用などを、2 回目は本文の会話文の学習をベースに、シナリオプレイ・ロールプレイなどの応用・実戦活動を行い、既習文型を活かしての実際のコミュニケーション能力の向上を目指して、授業を進めて行く。

課毎に、言葉・文法クイズを、それぞれ 1 回行なう。予習・復習は必須。

【コミュニケーション活動】

グループまたはペアによるコミュニケーションワークを行なう。

活動中に積極的に自己表現することを望む。

【課題】

前期の課題は自由作文。

テーマ決め → 執筆 → 提出 → リライト → プレゼンテーションという流れで行なう。

【到達目標】

漢字と共に文字表記に用いながらも、文法も音声も全く異なる言語ー中国語に触れ、その基礎となる、ピンイン、漢字、基礎語彙と表現などを学ぶことを目標とする。

更に、学んだものを活かして、日常生活の基本的な諸場面に於いて中国語による円滑なコミュニケーションを行う能力の向上を目指す。

中国語の基礎となる、ピンイン、漢字、基本的な表現の仕方などをマスターした上で、自己紹介・日常生活【一日の暮らし、買物、電話応対、感謝、依頼、物を尋ねるなど】、気持ちと感情の表現の仕方など、種々のシチュエーションに於けるコミュニケーションの表現を学び、そして、活動を通して実践する。たくさん学ぶというより、少しでも学んだものを、十分に活かして応用できることを趣旨として授業を進めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、教科書を使つての勉強、コミュニケーション活動、課題と、3 つのブロックに分けて行なう。

【教科書】

初回は初級と中級前半で学んだ知識をチェックするテストを行い、その結果に応じて、既習基礎知識の復習・練習を、最初の 2 回にわたって行なう。3 回目以後教材を使つての学習に入る。

基本的に 1 課を 2 回に分けて、1 回目は主に文法の解説や練習や応用などを、2 回目は本文の会話文の学習をベースに、シナリオプレイ・ロールプレイなどの応用・実戦活動を行い、既習文型を活かしての実際のコミュニケーション能力の向上を目指して、授業を進めて行く。

課毎に、語彙・文法テストを行う。

予習・復習は必須。

【コミュニケーション活動】

グループまたはペアによるコミュニケーション活動を行なう。

活動中には能動的に参加し、積極的に中国語による自己表現をすることを望む。

【課題】

短作文と当該年度の中国語の新語・流行語のリサーチレポート。

何れも下記の流れで行なう。

テーマ決め → 執筆 → 提出 → リライト → プレゼンテーション

授業スケジュールは、状況に応じて、変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	前期学習内容を確認し、現在の自分の状況を把握する。	シラバスに基づき講義内容を説明する。 オリエンテーション ■授業目標、教材、授業の進め方、スケジュール、履修上の注意事項などについて確認。 ■授業用語と挨拶 ■チェックテスト【前期既習知識】 ■前期の復習 I ■前期の復習 II ■コミュニケーション活動 (1) 自己紹介
第 2 回	前期学習内容を、コミュニケーション活動を通して、口頭で表現できるようにする。	■語彙導入【9 課】 ■年・月・日・曜日・時刻の言い方
第 3 回	行為が行われる時刻の言い方を学び、行為を時間系列で表現する。	①チェックテスト【数字】 ②動詞文：動作が行なわれる時間
第 4 回	家族の人数、構成メンバー、年齢、職業などについて口頭で表現する。	①チェックテスト【9 課語彙】 ②動詞文：所有と存在を表す ③比較を表現する
第 5 回	自分の家族について、口頭で表現できるようにする。	④家族について話す ①チェックテスト【9 課文法】 ②既習文型実戦・応用練習 ③●コミュニケーション活動 (2) 家族について話す
第 6 回	過去の経験について口頭で表現する。	④語彙導入【10 課】 過去の経験について話す ①チェックテスト【10 課語彙】 ②動詞文：過去の経験 ③誘い
第 7 回	過去の経験について口頭で表現する。	過去の経験について話す ①チェックテスト【10 課文法】 ②既習文型実戦・応用練習 ③語彙導入【11 課】
第 8 回	過去の行為や動作を表現する。	一日の活動について話す ①チェックテスト【11 課語彙】 ②動詞文：動作が行なわれる時間
第 9 回	自分の一日について表現し、聞き手の一日について聞く。	過去形 一日の活動について話す ①チェックテスト【11 課文法】 ②既習文型実戦・応用練習 ③●コミュニケーション活動 (3) 私の一日、あなたの一日
第 10 回	新語・流行語で中国語と中国社会事情を学ぶ	一日の活動について話す ①●コミュニケーション活動 (3) 私の一日、あなたの一日 ②★課題 (1) 中国語の新語・流行語についてリサーチ ③語彙導入【12 課】
第 11 回	動作や行為が行う時間や量について表現する。	①チェックテスト【12 課語彙】 ②道を訊ねる時の表現 ③時量補語
第 12 回	道を訊ねる場面で使う表現を実際に口頭で表現する。	道を訊ねる ①チェックテスト【12 課文法】 ②既習文型実戦・応用練習 ③●コミュニケーション活動 (4) 道を訊ねる
第 13 回	動作の同時進行や変化などについて口頭で表現する。	④語彙導入【13 課】 ⑤★課題 (1) 提出 動作の同時進行と変化 ①チェックテスト【13 課語彙】 ②動詞文：動作の変化 ③動詞文：動作の同時進行
第 14 回	後期学習内容を振り返り、総括する。	振り返り・総復習 総括【授業内期末テスト【筆記】】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課毎に言葉クイズ・文法クイズを行う。授業で学習した内容をしっかりと復習・予習すること。
課題などの準備は授業時間外の作業となるが、提出締切など時間を守ること。

【テキスト（教科書）】

『日中いぶこみ交差点』
相原茂など 著
朝日出版社 2017 年
ISBN978-4-255-45286-9

【参考書】

- ・中日・日中辞典類【紙媒体、電子辞書、App の何れも可。電子辞書を奨める】
- ・『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂など 同学社
- ・『中国語生活図解辞典』 遠藤雅裕 小学館

【成績評価の方法と基準】

授業参加度・参加態度なども考慮しながら、主にテスト・活動・課題によって評価する。

チェックテスト【語彙・文法】 35%

期末テスト 25%

活動・口頭表現 15%

課題 15%

授業貢献度・学習態度など 10%

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、コミュニケーション活動など、口頭表現する活動が多く行われて来た。学生から、口頭表現の内容を板書して提示して欲しいとの要望があった。今後の授業では、これらの口頭活動の内容を、なるべく文字資料でも提示するように心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習内容に応じて、教室に備えてある機器、または PC などを使う。

また、学内授業支援システムなどを利用して、学生とのコミュニケーションを図る。

【その他の重要事項】

授業中、学習用具類以外、机上に置かないこと。

特に、携帯電話、飲み物類は、鞆等にしまうこと。

教材【教科書、授業関連資料】を持参せずの受講は欠席と見なすこと。

【授業に臨む心構え】

其の一 勉強する意欲と意識を高く持つこと

其の二 しっかり予習・復習してくること。

其の三 教科書は勿論のこと、ノート、筆記具、辞書も必ず持ってくること。

其の四 可能な限り、授業時間中は中国語で話すこと。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before.

The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 1 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語補講 I

2016 年度以前入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書に沿って、中国語の文章を読み日常会話を学びつつ、中国語の発音と文法の基礎も身につけるようにします。

【到達目標】

中国語の発音と基礎の文法をマスターすること、簡単な文章が読めること、簡単な会話ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で中国語による表現を反復練習し、テキストの日本語訳や中国語の文法・語彙について、全員に発言を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	発音の基礎 1	表記の法則、声調、単母音
2	発音の基礎 2	子音、複母音
3	発音の基礎 3	n と ng を伴う母音、r 化音、半三声、 隔音符号
4	初次见面、多关照。	人称代名詞、動詞の「是」
5	我去哪儿。	動詞述語文
6	中国的茶很好喝。	指示代詞、形容詞述語文
7	局局不？	数字の読み方と書き方
8	你去哪儿？	疑問詞疑問文、連動文
9	医院在哪儿。	方位詞、存在を表す「在」
10	你有儿子吗？	存在を表す「有」、所有を表す「有」
11	你的生日是几月几号？	年月日・曜日・時刻の言い方
12	我在一号口等你。	前置詞
13	我比你大一。	年齢の尋ね方、比較の表現
14	授業内試験	前期内容の定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で指示された範囲の最低限の予習を欠かさないこと。

【テキスト（教科書）】

新谷秀明・王宇南『読み書き話す 中国語の基本』、朝日出版社

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 1 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語補講 II

2016 年度以前入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書に沿って、中国語の文章を読み日常会話を学びつつ、中国語の発音と文法の基礎も身につけるようにします。

【到達目標】

中国語の発音と基礎の文法をマスターすること、簡単な文章が読めること、簡単な会話ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業で中国語による表現を反復練習し、テキストの日本語訳や中国語の文法・語彙について、全員に発言を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	她怎么样了。	完了や変化を表す「了」、没有+動詞
2	你在干什么？	動作・行為の進行を表す、持続表現、 主述述語文
3	你去哪儿？	経験態、動量補語
4	我要减肥。	選択疑問文、助動詞 1
5	公园里可以跑步？	助動詞 2
6	这条裙子多少？	又～又、既～又、お金の数え方、動詞 の重ね型
7	我想把教室打扫干净。	結果補語、副詞の「就」、「把」構文
8	你是什么时候来中国的？	是～的、方向補語
9	我被老师批评了。	受け身文、「有」の連動文
10	我已经得到。	存現文、可能補語
11	我已经回家一年。	快～了、原因・理由を表す表現、使役 表現
12	你中文说得越来越好了。	様態補語
13	我祝你成功。	兼語文、副詞「再」、二重目的語
14	授業内試験	後期内容の定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で指示された範囲の最低限の予習を欠かさないこと。

【テキスト（教科書）】

新谷秀明・王宇南『読み書き話す 中国語の基本』、朝日出版社

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や小テスト）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 2 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語補講 I

2016 年度以前入学者

王 安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

法文堂環キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、中国語の発音・文法の基礎をしっかりと身につけ、読む・書く・聴く・話すという 4 つの技能をバランスよく訓練し、初級レベルの中国語能力を総合的に引き上げる。また、中国の文化・社会・生活習慣などを紹介し、多文化理解を目指す。

【到達目標】

- 1、中国語の文字と発音を知り、ピンインや簡体字の仕組みを理解する。
- 2、中国語文法の基礎知識及び中国語運用能力を総合的に習得する。
- 3、挨拶などの日常会話を学び、中国語で簡単なコミュニケーションをする。
- 4、中国の文化、習慣、社会について知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業では毎回、まず中国語で簡単な日常挨拶を交わり、学生たちが自分の名前を中国語で言い、聞き取れるように練習する。次に、先生と一緒に単語と本文を音読し、中国語の正しい発音を覚えていく。そのあと、重要単語の意味と用法、文法項目及び関連知識を学習し、作文練習や補足練習を通して確実に身に着ける。さらに、各課のトピックに合わせて、グループで会話練習を行う。例えば、自己紹介に関するトピックの場合、学んだ表現を使って実際に自己紹介ができるように練習する。このように、授業は中国語の総合能力の向上を意識して進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	①授業の説明 ②中国語の基本知識の紹介
2 回	第 1 課発音（1）	中国語の母音と声調
3 回	第 2 課発音（2）	中国語の子音（その 1）
4 回	第 2 課発音（2）	中国語の子音（その 2）
5 回	第 3 課発音（3）	複合母音・ピンインの綴り
6 回	第 4 課発音（4）	中国語の鼻母音（その 1）
7 回	第 4 課発音（4）	中国語の鼻母音（その 2）
8 回	第 5 課発音（5）	発音規則、発音部分復習）
9 回	第 6 課	“是” 構文、中国語の人称代詞
10 回	第 6 課	副詞 “都” “也” の用法、否定表現 “不” の用法、疑問を表す語気助詞
11 回	第 7 課	動詞述語文、疑問詞疑問文
12 回	第 7 課	中国語の指示代詞の用法、語気助詞 “呢”、構造助詞 “的” の用法
13 回	第 1 課～7 課	これまでの復習、まとめ、会話練習
14 回	期末テスト	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課をしっかり予習・復習すること。特に各課の本文をしっかり音読してください。

【テキスト（教科書）】

『標準中国語・基礎篇』 孫樹林・王欣・王安著 2,200 円（朝日出版）
ISBN978-4-255-45161-9 C1087

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂・石田知子・戸沼子著 2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 % + 平常点（授業への取組、予習など）20 % + 小テスト・課題 20 % で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 2 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語補講 II

2016 年度以前入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に引き続き、中国語の発音・文法の基礎をしっかりと身につけ、初級レベルの中国語能力を総合的に引き上げる。また、中国の文化・社会・生活習慣などを紹介し、多文化理解を目指す。

【到達目標】

- 1、中国語文法の基礎知識及び中国語運用能力を総合的に習得する。
- 2、挨拶などの日常会話を学び、中国語で簡単なコミュニケーションをする。
- 3、中国語の基本構文を理解し、中国語で短文を書く。
- 4、中国の文化、習慣、社会について知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業では毎回、まず中国語で簡単な日常挨拶を交わし、学生たちが自分の名前を中国語で言い、聞き取れるように練習する。次に、先生と一緒に単語と本文を音読し、中国語の正しい発音を覚えていく。そのあと、重要単語の意味と用法、文法項目及び関連知識を学習し、作文練習や補足練習を通して確実に身につける。さらに、各課のトピックに合わせて、グループで会話練習を行う。例えば、自己紹介に関するトピックの場合、学んだ表現を使って実際に自己紹介ができるように練習する。このように、授業は中国語の総合能力の向上を意識して進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	授業の説明、前期内容の復習
2 回	第 8 課	形容詞述語文、よく使われる程度副詞の用法
3 回	第 8 課	反復疑問文、中国語の数詞、逆接接続詞“但是”の用法
4 回	第 9 課	存在表現、中国語の方位詞
5 回	第 9 課	否定表現“没”の用法と機能、副詞“只”の用法、中国語の数量詞
6 回	第 10 課	名詞述語文、前置詞“在”“从”の用法
7 回	第 10 課	時刻、年月日、季節などの言い方
8 回	第 11 課	連動文、疑問詞疑問文（その 2）
9 回	第 11 課	否定表現“别”の用法、語気助詞（その 2）、お金の言い方
10 回	第 11 課	買い物の際によく使われる表現、言い方
11 回	第 12 課	中国語のアスペクト：“進行”、“過去の経験”、“完了”など
12 回	第 12 課	語気助詞“了”の用法及びアスペクト助詞“了”との相違、時間副詞の用法など
13 回	第 12 課	数量補語、これまでの復習とまとめ
14 回	期末テスト	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課をしっかりと予習・復習すること。特に各課の本文をしっかりと音読してください。

【テキスト（教科書）】

『標準中国語・基礎篇』孫樹林・王欣・王安著 2,200 円（朝日出版）ISBN978-4-255-45161-9 C1087

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼子著 2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 % + 平常点（授業への取組、予習など）20 % + 小テスト・課題 20 % で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語補講 2 - I	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 I	2016 年度以前入学者
余 瀾	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間中国語の発音と文法の基礎を学習します。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
新出単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いたり、テストを受けたりして、知識を定着するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	第 1 課～4 課	発音
2	第 5 課	名前・挨拶
3	第 6 課	動詞述語文
4	第 7 課	形容詞述語文
5	第 8 課	名詞述語文
6	第 9 課	主述述語文
7	第 10 課	修飾語
	中間テスト	
8	第 11 課	補語
9	第 12 課	動詞述語文
10	第 13 課	動詞述語文
11	第 14 課	動詞述語文
12	第 15 課	動詞述語文
13	第 16 課	動詞述語文
14	復習	試験
	期末テスト	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が大事です。授業後必ず添付 CD を聞いてください。

【テキスト（教科書）】
ポイント学習中国語初級改訂版

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
毎回行う小テストが 40 点。
中間テストが 30 点。
期末テストが 30 点。
欠席と遅刻をすると小テストができませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA	
中国語補講 2 - II	2017 年度以降入学者
LANc100LA	
中国語補講 II	2016 年度以前入学者
余 瀾	

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間中国語の発音と文法の基礎を学習します。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
新出単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いたり、テストを受けたりして、知識を定着するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	第 17 課	数量補語
2	第 18 課	連動文
3	第 19 課	動詞の完了態
4	第 20 課	変化態
5	第 21 課	動詞の経験態
6	第 22 課	動詞の進行態
7	第 23 課	形容詞述語文
	中間テスト	
8	第 24 課	比較表現
9	第 25 課	比較表現
10	第 26 課	月日・曜日の言い方
11	第 27 課	時刻の言い方
12	第 28 課	金額の言い方
13	第 29 課	連体修飾語
14	期末テスト	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が大事です。授業後添必ず付の CD を聞いてください。

【テキスト（教科書）】
ポイント学習中国語初級改訂版

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
毎回行う小テストが 40 点。
中間テストが 30 点。
期末テストが 30 点。
欠席と遅刻をすると小テストができませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 2 - I

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語補講 I

2016 年度以前入学者

劉 光赤

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

【到達目標】

これまで習った中国語の基本文法を再確認し、日常的コミュニケーション能力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ポイントの学習、新出単語、本文の音読、ペアの会話、ドリルを解くような流れで、習った知識を定着するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	発音の復習	名前の言い方
第 5 課	出迎える	名前のたずね方
2	第 5 課	出迎える
3	第 6 課	歓迎パーティー
4	第 6 課	歓迎パーティー
5	第 7 課	タクシーに乗る
6	第 7 課	タクシーに乗る
7	第 8 課	宿泊する
8	第 8 課	宿泊する
9	第 9 課	道をたずねる
10	第 9 課	道をたずねる
11	第 10 課	ショッピングをする
12	第 10 課	ショッピングをする
13	第 11 課	おしゃべりをする
14	復習と授業内試験	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

CD を聴いて、学習内容を復習し、覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

「しゃべっていいとも中国語 トータル版」
 朝日出版社

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）、授業参加、小テストや課題の完成など（40 %）による総合評価です。

【学生の意見等からの気づき】

様子を見ながら授業を進めていきます。場合によって学習の進度を調整することもあります。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 2 - II

2017 年度以降入学者

LANc100LA

中国語補講 II

2016 年度以前入学者

劉 光赤

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 法文営環キ 2～3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

【到達目標】

これまで習った中国語の基本文法を再確認し、日常的コミュニケーション能力を身につけることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ポイントの学習、新出単語、本文の音読、ペアの会話、ドリルを解くような流れで、習った知識を定着するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 12 課	料理を注文する
2	第 12 課	料理を注文する
3	第 13 課	サッカーのチケットを買う
4	第 13 課	サッカーのチケットを買う
5	第 14 課	マッサージをする
6	第 14 課	マッサージをする
7	第 15 課	インターネット・カフェ
8	第 15 課	インターネット・カフェ
9	第 16 課	電話をかける
10	第 16 課	電話をかける
11	第 17 課	アルバイトをする
12	第 17 課	アルバイトをする
13	第 18 課	レストランで
14	復習と授業内試験	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

CD を聴いて、学習内容を復習し、覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

「しゃべっていいとも中国語 トータル版」
 朝日出版社

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）、授業参加、小テストや課題の完成など（40 %）によって総合評価です。

【学生の意見等からの気づき】

様子を見ながら授業を進めていきます。場合によって学習の進度を調整することもあります。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 2 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語補講 3 - I

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営環 3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理解力の増進。

【到達目標】
文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
1 年次で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1 回目	導入	導入
2 回目	招く	動作の進行形
3 回目	婉曲に断る	1、連用修飾語としての期間を表す名詞 2、動態助詞【了】
4 回目	お詫び	1、結果補語としての形容詞【好】2、副詞【就】、【才】など
5 回目	残念	1、兼語文 2、【是不是】を用いる反復疑問文
6 回目	称賛	1、文型【又～又～】2、複文【要是～就～】
7 回目	祝賀	1、結果補語としての【開】、【下】2、可能補語としての【了】
8 回目	忠告	存現文など
9 回目	比較	1、比較文2、数量補語
10 回目	趣味	時量補語（1）など
11 回目	言葉	時量補語（2）など
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、春学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1 年生の教科書をはじめ、過去の教科書をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】
『中国語会話 3 0 1 文』（下）語文研究社、1365 円。

【参考書】
『中国語学習ハンドブック』大修館書店

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】
もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for students who have failed Chinese 3 before. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語補講 3 - II

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営環 3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理解力の増進。

【到達目標】
文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
1 年次で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1 回目	復習	復習
2 回目	旅行（1）	1、方向補語（3）2、反語文
3 回目	旅行（2）	1、動作の持続 2、結果補語としての【見】
4 回目	旅行（3）	1、形容詞の重ね型 2、可能補語（2）
5 回目	診察を受ける	1、【把】文（1）2、【一～就～】
6 回目	見舞い	受動文
7 回目	お別れの挨拶	1、時量補語（3）2、【有的～、有的～】
8 回目	送別会	1、複文【雖然～但是～】2、【把】文（2）
9 回目	託送	1、複文【不但～而且～】2、可能補語としての【動】
10 回目	送別（1）	1、動作の持続と進行2、【不如】を用いる比較文
11 回目	送別（2）	1、【把】文（3）2、慣用句【～了～就～】
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、秋学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1 年生の教科書をはじめ、過去の教科書をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】
『中国語会話 3 0 1 文』（下）語文研究社、1365 円。

【参考書】
『中国語学習ハンドブック』大修館書店

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】
もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline and objectives】
This is the Chinese course for students who have failed Chinese 3 before. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語補講 3 - I

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
法文営環 3 年（再履修のみ）【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理解力の増進。【到達目標】
文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1 年次で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	導入	導入
2 回目	招く	動作の進行形
3 回目	婉曲に断る	1、連用修飾語としての期間を表す名詞 2、動態助詞【了】
4 回目	お詫び	1、結果補語としての形容詞【好】2、副詞【就】、【才】など
5 回目	残念	1、兼語文 2、【是不是】を用いる反復疑問文
6 回目	称賛	1、文型【又～又～】2、複文【要是～就～】
7 回目	祝賀	1、結果補語としての【開】、【下】2、可能補語としての【了】
8 回目	忠告	存現文など
9 回目	比較	1、比較文2、数量補語
10 回目	趣味	時量補語（1）など
11 回目	言葉	時量補語（2）など
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、春学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 年生の教科書をはじめ、過去の教科書をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 3 0 1 文』（下）語文研究社、1365 円。

【参考書】

『中国語学習ハンドブック』大修館書店

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 3 before. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語補講 3 - II

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
法文営環 3 年（再履修のみ）【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理解力の増進。【到達目標】
文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1 年次で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	復習	復習
2 回目	旅行（1）	1、方向補語（3）2、反語文
3 回目	旅行（2）	1、動作の持続 2、結果補語としての【見】
4 回目	旅行（3）	1、形容詞の重ね型 2、可能補語（2）
5 回目	診察を受ける	1、【把】文（1）2、【一～就～】
6 回目	見舞い	受動文
7 回目	お別れの挨拶	1、時量補語（3）2、【有的～、有的～】
8 回目	送別会	1、複文【雖然～但是～】2、【把】文（2）
9 回目	託送	1、複文【不但～而且～】2、可能補語としての【動】
10 回目	送別（1）	1、動作の持続と進行2、【不如】を用いる比較文
11 回目	送別（2）	1、【把】文（3）2、慣用句【～了～就～】
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、秋学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 年生の教科書をはじめ、過去の教科書をよく復習すること。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 3 0 1 文』（下）語文研究社、1365 円。

【参考書】

『中国語学習ハンドブック』大修館書店

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 3 before. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語補講 3-I

2017 年度以降入学者

馬 挺

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
法文営環 3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語のテキストを学習して、発音から読解まで中国語への理解を深めて、異文化意識をベースに中国語での交流の力を備える。

【到達目標】

中国語の総合的理解力を養うことと同時に、異文化の視点から現代中国にある程度理解すること。基本的に中国語の初級科目を履修した学生を対象とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキストを予習して、ディスカッションや PBL で正確な意味を探る。グループワークを重視するプレゼンテーション方式も採用する予定。中国の事情をあわせて紹介する。関連のある資料や映像も使用する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講生との初交流、授業方針の説明と受講生の要望を聞く
2	第 1 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
3	第 1 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
4	第 2 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
5	第 2 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
6	第 3 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
7	第 3 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
8	第 4 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
9	第 4 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
10	第 5 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
11	第 5 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
12	第 6 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
13	第 6 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
14	春学期のテスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習が必要。
テキストを大声で朗読の練習をし、宿題を時間通りに提出する。

【テキスト（教科書）】

「2019 年度版 時事中国語の教科書」（朝日出版社）¥1900 + 税
「馬話日本」（中国）東方出版社 ¥2500（予定）+ 税

【参考書】

相原茂著『謎解き中国語文法』（講談社現代新書）
それに、中型程度の中日辞典が必要（授業時持参）。
（以下の提示は推薦でなくあくまで参考のため。）
香坂順一『簡約 現代中国語辞典』（光生館）
相原茂『中日辞典 第二版』（講談社）
『中日辞典 第二版』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

- 1、出席は授業総数の 3 分の 2 以上足りない者なら基本的に評価の対象としない。
- 2、遅刻は連続 2 回なら 1 回の欠席と数える。
（1 と 2 については不可抗力による事情を考慮する）
- 3、平常点 100 %（授業に積極的に参加する姿勢、提出物や期末テストの成績などを総合的に吟味して評価を行う）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの結果なんかは一切読みません。非科学的ですから！授業で教員と学生との真剣勝負！意見や建言があれば、授業でぶつかってやってください。

【その他の重要事項】

基本マナーのことですが、男性は教室に入って脱帽すること。事情があれば、教員に説明して許可を得ること。
また、語学の授業ですので、発音の練習などのため、マスクつけることを極力避けること。どうしてもの場合、教員に説明して許可を得ること。
PC、DVD、ブルーレイの放映機器
初級なら、ほかに PC。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 3 before. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語補講 3-II

2017 年度以降入学者

馬 挺

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 法文営環 3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語のテキストを学習して、発音から読解まで中国語への理解を深めて、異文化意識をベースに中国語での交流の力を備える。

【到達目標】

中国語の総合的理解力を養うことと同時に、異文化の視点から現代中国にある程度理解すること。基本的に中国語の初級科目を履修した学生を対象とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキストを予習して、ディスカッションや PBL で正確な意味を探る。グループワークを重視するプレゼンテーション方式も採用する予定。中国の事情をあわせて紹介する。関連のある資料や映像も使用する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自由会話	夏休みの体験と見聞
2	第 7 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
3	第 8 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
4	第 9 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
5	第 10 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
6	第 11 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
7	第 12 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
8	第 13 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
9	第 14 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
10	第 15 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
11	第 16 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
12	第 17 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
13	第 18 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
14	期末テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習が必要。
 テキストを大声で朗読の練習をし、宿題を時間通りに提出する。

【テキスト（教科書）】

「2019 年度版 時事中国語の教科書」（朝日出版社）¥1900 + 税
 「馬話日本」（中国）東方出版社 ¥2500（予定）+ 税

【参考書】

相原茂著『謎解き中国語文法』（講談社現代新書）
 それに、中型程度の中日辞典が必要（授業時持参）。
 （以下の提示は推薦でなくあくまで参考のため。）
 香坂順一『簡約 現代中国語辞典』（光生館）
 相原茂『中日辞典 第二版』（講談社）
 『中日辞典 第二版』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

1、出席は授業総数の 3 分の 2 以上足りない者なら基本的に評価の対象としない。
 2、遅刻は連続 2 回なら 1 回の欠席と数える。
 （1 と 2 については不可抗力による事情を考慮する）
 3、平常点 100 %（授業に積極的に参加する姿勢、提出物や期末テストの成績などを総合的に吟味して評価を行う）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの結果なんかは一切読みません。非科学的ですから！授業で教員と学生との真剣勝負！意見や建言があれば、授業でぶつかってやってください。

【その他の重要事項】

基本マナーのことですが、男性は教室に入って脱帽すること。事情があれば、教員に説明して許可を得ること。
 また、語学の授業ですので、発音の練習などのため、マスクつけることを極力避けること。どうしてもの場合、教員に説明して許可を得ること。
 PC、DVD、ブルーレイの放映機器
 初級なら、ほかに PC。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 3 before. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語補講 3-I

2017 年度以降入学者

馬 挺

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
法文営環 3 年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語のテキストを学習して、発音から読解まで中国語への理解を深めて、異文化意識をベースに中国語での交流の力を備える。

【到達目標】

中国語の総合的理解力を養うことと同時に、異文化の視点から現代中国にある程度理解すること。基本的に中国語の初級科目を履修した学生を対象とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキストを予習して、ディスカッションや PBL で正確な意味を探る。グループワークを重視するプレゼンテーション方式も採用する予定。中国の事情をあわせて紹介する。関連のある資料や映像も使用する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講生との初交流、授業方針の説明と受講生の要望を聞く
2	第 1 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
3	第 1 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
4	第 2 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
5	第 2 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
6	第 3 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
7	第 3 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
8	第 4 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
9	第 4 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
10	第 5 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
11	第 5 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
12	第 6 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
13	第 6 課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
14	春学期のテスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習が必要。
テキストを大声で朗読の練習をし、宿題を時間通りに提出する。

【テキスト（教科書）】

「2019 年度版 時事中国語の教科書」（朝日出版社）¥1900 + 税
「馬話日本」（中国）東方出版社 ¥2500（予定）+ 税

【参考書】

相原茂著『謎解き中国語文法』（講談社現代新書）
それに、中型程度の中日辞典が必要（授業時持参）。
（以下の提示は推薦でなくあくまで参考のため。）
香坂順一『簡約 現代中国語辞典』（光生館）
相原茂『中日辞典 第二版』（講談社）
『中日辞典 第二版』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

- 1、出席は授業総数の 3 分の 2 以上足りない者なら基本的に評価の対象としない。
- 2、遅刻は連続 2 回なら 1 回の欠席と数える。
（1 と 2 については不可抗力による事情を考慮する）
- 3、平常点 100 %（授業に積極的に参加する姿勢、提出物や期末テストの成績などを総合的に吟味して評価を行う）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの結果なんかは一切読みません。非科学的ですから！授業で教員と学生との真剣勝負！意見や建言があれば、授業でぶつかってやってください。

【その他の重要事項】

基本マナーのことですが、男性は教室に入って脱帽すること。事情があれば、教員に説明して許可を得ること。
また、語学の授業ですので、発音の練習などのため、マスクつけることを極力避けること。どうしてもの場合、教員に説明して許可を得ること。
PC、DVD、ブルーレイの放映機器
初級なら、ほかに PC。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 3 before. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc200LA

中国語補講3-II

2017 年度以降入学者

馬 挺

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
法文営環3年（再履修のみ）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語のテキストを学習して、発音から読解まで中国語への理解を深めて、異文化意識をベースに中国語での交流の力を備える。

【到達目標】

中国語の総合的理解力を養うことと同時に、異文化の視点から現代中国にある程度理解すること。基本的に中国語の初級科目を履修した学生を対象とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキストを予習して、ディスカッションやPBLで正確な意味を探る。グループワークを重視するプレゼンテーション方式も採用する予定。中国の事情をあわせて紹介する。関連のある資料や映像も使用する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自由会話	夏休みの体験と見聞
2	第7課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
3	第8課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
4	第9課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
5	第10課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
6	第11課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
7	第12課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
8	第13課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
9	第14課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
10	第15課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
11	第16課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
12	第17課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
13	第18課	文章を読んで、正確に理解しているかをチェックする
14	期末テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習が必要。
テキストを大声で朗読の練習をし、宿題を時間通りに提出する。

【テキスト（教科書）】

「2019 年度版 時事中国語の教科書」（朝日出版社）¥1900 + 税
「馬話日本」（中国）東方出版社 ¥2500（予定）+ 税

【参考書】

相原茂著『謎解き中国語文法』（講談社現代新書）
それに、中型程度の中日辞典が必要（授業時持参）。
（以下の提示は推薦でなくあくまで参考のため。）
香坂順一『簡約 現代中国語辞典』（光生館）
相原茂『中日辞典 第二版』（講談社）
『中日辞典 第二版』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

- 1、出席は授業総数の3分の2以上足りない者なら基本的に評価の対象としない。
- 2、遅刻は連続2回なら1回の欠席と数える。
（1と2については不可抗力による事情を考慮する）
- 3、平常点100%（授業に積極的に参加する姿勢、提出物や期末テストの成績などを総合的に吟味して評価を行う）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの結果なんかは一切読みません。非科学的ですから！授業で教員と学生との真剣勝負！意見や建言があれば、授業でぶつかってやってください。

【その他の重要事項】

基本マナーのことですが、男性は教室に入って脱帽すること。事情があれば、教員に説明して許可を得ること。
また、語学の授業ですので、発音の練習などのため、マスクつけることを極力避けること。どうしてもの場合、教員に説明して許可を得ること。
PC、DVD、ブルーレイの放映機器
初級なら、ほかにPC。

【Outline and objectives】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 3 before. The aim of this course is to acquire the intermediate level communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 I

2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 1 年 I・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

①簡単な挨拶ができる。②綴りを見て単語を発音することができる。③現在形に活用した動詞の不定詞を辞書で調べることができる。④ **Gustar** 型動詞の意味と用法について理解し、好みについて述べるができる。⑤現在形の単文ならば辞書を引いて読むことができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。おおむね教科書のひとつの課を 2 回の授業で終わらせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス アルファベット	本シラバスを用いた授業の説明。 発音、アクセント。
2	第 1 課 第 1 課	主格人称代名詞。 動詞 ser 、文の基本的な構成など。 会話文、練習問題。
3	第 2 課	名詞、冠詞、形容詞。
4	第 2 課	会話文、練習問題。
5	第 3 課	動詞 estar 、 hay 、時刻の表現など。
6	第 3 課	会話文、練習問題。
7	理解度確認 第 4 課	中間試験を実施。 指示詞、所有形容詞、直説法現在規則動詞。
8	第 4 課	会話文、練習問題。
9	第 5 課	直説法現在語幹母音変化動詞、直説法現在不規則動詞など。
10	第 5 課	会話文、練習問題。
11	第 6 課	人称代名詞：直接目的語と間接目的語、 Gustar 型動詞など。
12	第 6 課	会話文、練習問題。
13	理解度確認	春学期授業の総復習。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習を必ずやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

教科書 京都府立スペイン語教室 (2019)『世界につながるスペイン語－改訂版』朝日出版社 978-4-255-55103-6

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30 %、期末試験 50%とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD を随時聞けるように、スマートフォンなどに移しておくことを勧める。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと。
授業内容に関する質問は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。
etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 II

2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 1 年 I・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

①動詞の点過去形・線過去形から不定詞を辞書で調べることができる。②点過去形、線過去形の違いを理解できる。③再帰動詞の用法を理解できる。④比較表現を理解し、ものごとを形態的、品質的観点から相対的に描写できる。⑤スペイン・ラテンアメリカ文化についての知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。おおむね教科書のひとつの課を 2 回の授業で終わらせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本シラバスを用いた授業の説明。
2	第 7 課	直説法点過去、疑問詞を用いた疑問文。
3	第 7 課	会話文、練習問題。
4	第 8 課	再帰動詞。
5	第 8 課	会話文、練習問題。
6	第 9 課	直説法線過去、関係詞。
7	理解度確認	中間試験を実施
8	第 9 課	会話文、練習問題。
9	第 10 課	過去分詞、直説法現在完了、無人称文、受身表現。
10	第 10 課	会話文、練習問題。
11	第 11 課	直説法過去完了、不定詞と否定語、比較表現。
12	第 11 課	会話文、練習問題。
13	理解度確認	期末試験を実施。
14	理解度確認	秋学期の総復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習を必ずやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

京都府立スペイン語教室 (2019)『世界につながるスペイン語 改訂版』朝日出版社。ISBN978-4-255-55103-6

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 %とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。

授業内容に関する質問や要望は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。
etsuhasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 ⅠⅠ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 ⅠⅠ

2016 年度以前入学者

敦賀 公子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 1 年 K・L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語世界への理解と興味を導く第一歩として、スペイン語の基本文法・表現を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
今学期は特に、名詞、冠詞、形容詞の性数変化と基本動詞の現在形、目的格人称代名詞などを習得します。
基本文法を活用して、日常生活の中で使う簡単な語彙と文章に慣れるとともに、簡単な会話文を理解できるようになることをめざします。また、日本語や英語とは異なる言語のしくみについて考え、多様な魅力にあふれるスペイン語世界への興味を高めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
テキストにそって、文法の解説を行い、その後、練習問題、会話表現、リスニング、訳読などで、さらに理解を深め、知識の定着を図ります。なお、より効果的な学習のために毎回練習問題や訳読などを宿題とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション	簡単な自己紹介文 アルファベット、読み方など
2	Lección 1	主語代名詞など
3	Lección 1	動詞 ser、名詞など
4	Lección 2	形容詞など
5	Lección 2	動詞 estar、ser など
6	Lección 3	冠詞、動詞 hay など
7	Lección 3	hay と estar の違いなど 数字など
8	中間テスト	Lección 3 までの確認
	Lección 4	目的語、時刻の表現など
9	Lección 4	否定文、疑問文など
10	Lección 5	目的語の人称代名詞など
11	Lección 5	目的語の人称代名詞、不規則動詞など
12	Lección 6	不規則動詞など
13	Lección 6	所有形容詞、指示代名詞など
14	期末テスト	Lección 6 までの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業毎の予習・復習、宿題など

【テキスト（教科書）】
『イデアル（IDEAL）』
宇野和美、平井素子、パウラ・レテリエル 著 （同学社）

【参考書】
西和辞典
その他、授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1、試験（中間・期末、小テスト）80 %
2、平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい、活気のある授業をめざし、言語のみならず、スペイン語圏の社会への興味を引き出すような授業にしたいと思います。初回授業で簡単なアンケートを行います。

【Outline and objectives】
This course introduces the basic grammar and expression of Spanish to students taking this course. It also enhances understanding and interest in the diverse cultures of the Spanish World.

LANs100LA

スペイン語 ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 ⅠⅡ

2016 年度以前入学者

敦賀 公子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 1 年 K・L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に習得した知識の上に、発展した基本文法を習得し、スペイン語やスペイン語諸国についての理解と興味をさらに深めることを目標とします。

【到達目標】
今学期は特に、再帰動詞、動詞の現在完了形、過去形などを習得します。
春学期の知識に加え、さらに発展した基礎文法を活用することで、様々な日常生活の場面で使う語彙と文章に親しみます。それによって多様な魅力にあふれるスペイン語世界への興味を高めるとともに、日本語や日本文化との比較分析を行い、異文化理解へと発展させていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
テキストにそって、文法の解説を行い、その後、練習問題、会話表現、リスニング、訳読などでさらに理解を深めます。なお、より効果的な学習のために毎回練習問題や訳読などを宿題とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期のポイントの復習
	Lección 7	不規則動詞など
2	Lección 7	不規則動詞など
	Lección 8	再帰動詞など
3	Lección 8	再帰動詞など
4	Lección 9	gustar 動詞など
5	Lección 9	比較表現など
6	Lección 10	過去分詞など
7	中間テスト	Lección 9 もしくは 10 までの確認
	Lección 10	過去完了など
8	Lección 11	過去時制について
9	Lección 11	点過去など
10	Lección 11	点過去、数字など
11	Lección 12	線過去など
12	Lección 12	点過去と線過去の使い分けなど
13	Lección 12	過去時制のまとめ
14	期末テスト	Lección 12 までの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業毎の予習・復習、宿題。

【テキスト（教科書）】
『イデアル（IDEAL）』宇野和美、平井素子、パウラ・レテリエル 著 （同学社）

【参考書】
西和辞典
その他、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1、試験（中間・期末、小テスト）80 %
2、平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすい、活気のある授業をめざし、言語のみならず、スペイン語社会への興味を引き出すような授業にしたいと思います。

【Outline and objectives】
On the knowledge acquired in the Spring Semester, this course lead the step up grammar and expression of the basic Spanish to students taking this course. It also enhances the development of understanding in the Spanish Countries.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 I

2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 1 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

①簡単な挨拶ができる。②綴りを見て単語を発音することができる。③現在形に活用した動詞の不定詞を辞書で調べることができる。④再帰動詞の意味と用法について理解する。⑤現在形の単文ならば辞書を引いて読むことができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。おおむね教科書のひとつの課を 2 回の授業で終わらせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、第 1 課 (2 ページ)	本シラバスを用いた授業の説明。 アルファベット。
2	第 1 課 (3 ページ)	発音、アクセント。
3	第 2 課 (6-7 ページ)	名詞の性と数、冠詞、人称代名詞、動詞 <i>ser</i> 、など
4	第 2 課 (8-9 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
5	第 3 課 (10-11 ページ)	指示形容詞、指示代名詞、所有形容詞、動詞 <i>estar</i> 、動詞 <i>tener</i> 、など。
6	第 3 課 (12-13 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 4 課 (18-19 ページ)	規則動詞、時刻の表現、など
9	第 4 課 (20-21 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
10	第 5 課 (22-23 ページ)	指示形容詞、動詞 <i>ir</i> と <i>ver</i> 、など。
11	第 5 課 (24-25 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
12	第 6 課 (26-27 ページ)	語根母音変化動詞、直接目的格人称代名詞、など。
13	第 6 課 (28-29 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習を必ずやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

デル・プラド他 (2013) 『スペイン語のある風景 (Panoramica del español)』同学生社。ISBN978-4-8102-0395-0、2700 円＋税。

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30 %、期末試験 50%とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと。
授業内容に関する質問は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。
etsuhasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 II

2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法 1 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

①動詞の点過去形・線過去形から不定詞を辞書で調べることができる。②点過去形、線過去形の違いを理解できる。③再帰動詞の用法を理解できる。④ gustar 型動詞の用法を理解できる。⑤スペイン・ラテンアメリカ文化についての知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。おおむね教科書のひとつの課を 2 回の授業で終わらせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本シラバスを用いた授業の説明。
2	第 7 課 (34-35 ページ)	間接目的格人称代名詞、動詞 dar, traer, decir, など。
3	第 7 課 (36-37 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
4	第 8 課 (40-41 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
5	第 9 課 (42-43 ページ)	前置詞格人称代名詞、動詞 gustar, など。
6	第 9 課 (44-45 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
7	理解度確認	中間試験を実施
8	第 10 課 (50-51 ページ)	比較級、不定語、など。
9	第 10 課 (52-53 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
10	第 11 課 (54-55 ページ)	規則動詞、不規則動詞の点過去形、など。
11	第 11 課 (56-57 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
12	第 12 課 (58-59 ページ)	線過去形、点過去形と線過去形の違い、など。
13	第 12 課 (60-61 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
14	理解度確認	期末試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習を必ずやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

デル・プラド他 (2013) 『スペイン語のある風景 (Panoramica del español)』同出版社。ISBN978-4-8102-0395-0。2700 円＋税。

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 % とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと。授業内容に関する質問や要望は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。
etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 I

2016 年度以前入学者

渡部 哲郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 N～V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を習得して、発音ができるようにし、スペイン語の短文が読めるようにする。また簡単な会話を練習する。

【到達目標】

日々の話題にスペイン語またスペイン語使用地域や関連事項がなるようにする。先ずは、挨拶から。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回必ず一人一人指名して、「声」を出すようにしスペイン語の「語感」に慣れるようにする。辞書は必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
① 発音・初級	発音練習	発音に慣れること。
② 発音・初級	発音練習	発音に慣れること。
③ 文法・初級	文法学習と講読初級	文法の基礎を学び、平易な文章を読む。
④ 文法・初級	文法学習と講読。DVD の視聴・学習確認	文法の基礎を学び、平易な文章を読む。
⑤ 文法・初級	文法学習と講読	文法の基礎を確認、文章を読む。
⑥ 文法・初級	文法学習と講読。DVD の視聴・学習確認	文法の基礎を学び、平易な文章を読む。
⑦ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑧ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑨ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑩ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑪ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑫ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑬ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑭ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑮ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑯ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑰ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑱ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑲ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑳ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉑ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉒ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉓ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉔ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉕ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉖ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉗ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉘ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉙ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉚ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉛ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉜ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉝ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉞ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㉟ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊱ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊲ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊳ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊴ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊵ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊶ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊷ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊸ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊹ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊺ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊻ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊼ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊽ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊾ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊿ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
㊿	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回受講前に、講義当日の学習部分に目を通して声を出して発音すること。講義外では、スペイン語らしい単語に日頃から注意する。

【テキスト（教科書）】

宮本博司『楽しいスペイン語文法読本』（大学書林）
配布プリント（DVD 使用の場合もある）
スペイン語辞書

【参考書】

スペイン語辞書

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80 %）に加え、小テストなど「平常点」（20 %）を考慮して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

板書をしっかりする。

【学生が準備すべき機器他】

視聴覚資料（DVD）の使用

【Outline and objectives】

Purpose and aim of this class

The purpose of this course is be able to understand and explain in Spanish

We study Spanish grammar first, and in practice and writing master the basic usage of Spanish.

LANs100LA

スペイン語 ⅠⅡ2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 ⅠⅡ2016 年度以前入学者

渡部 哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 N～V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法を習得した後、スペイン語の短文を読む。DVD の映像を使用して簡単な会話を練習する。

【到達目標】
目で耳でスペイン語が「確認」できるようにし、内容が「分かる」ようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
毎回必ず一人一人指名して、「声」を出すようにし、スペイン語の「語感」に慣れるようにする。辞書は必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
① 読解・初級 1	文法学習と講読 (1)	読解 (短文)
② 読解・初級 2	文法学習と講読 (2)	読解 (短文)
③ 読解・初級 3	文法学習と講読 (3)	読解 (短文)
④ 学習確認	視聴覚資料使用	地理・歴史紹介
⑤ 会話・初級	会話・初級 生きたスペイン語 (会話と講読) (1)	会話文の反復・作成・確認
⑥ 会話・中級	会話・中級 生きたスペイン語 (会話と講読) (2)	会話文の反復・作成・確認
⑦ 会話・上級	会話・上級 生きたスペイン語 (会話と講読) (3)	会話文の反復・作成・確認
⑧ 学習確認	視聴覚資料使用	日常会話事例
⑨ 読解・中級 1	生きたスペイン語 (講読) (1)	読解 (長文)
⑩ 読解・中級 2	生きたスペイン語 (講読) (2)	読解 (長文)
⑪ 読解・中級 3	生きたスペイン語 (講読) (3)	読解 (長文)
⑫ 学習確認	視聴覚資料使用	文学作品・背景
⑬ 総復習	総合学習	総復習
⑭ 試験	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前にテキストに目を通す。町中にある「スペイン語」に注意する。

【テキスト（教科書）】
宮本博司『楽しいスペイン語文法読本』（大学書林）
配布プリント
DVD による映像
スペイン語辞書

【参考書】
スペイン語辞書

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80 %）に加え、小テストなど「平常点」（20 %）を考慮して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
板書をしっかりとる。

【学生が準備すべき機器他】
視聴覚資料（DVD）

【Outline and objectives】
Purpose and aim of this class
The purpose of this course is be able to understand and explain in Spanish
We study Spanish grammar first, and in practice and writing master the basic usage of Spanish.

LANs100LA

スペイン語 ⅠⅡ2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 ⅠⅡ2016 年度以前入学者

渡部 哲郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 1 年 W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法を習得して、発音ができるようにし、スペイン語の短文が読めるようにする。また簡単な会話を練習する。

【到達目標】
日々の話題にスペイン語またスペイン語使用地域や関連事項がなるようにする。先ずは、挨拶から。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
毎回必ず一人一人指名して、「声」を出すようにしスペイン語の「語感」に慣れるようにする。辞書は必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
① 発音・初級	発音練習	発音に慣れること。
② 発音・初級	発音練習	発音に慣れること。
③ 文法・初級	文法学習と講読初級	文法の基礎を学び、平易な文章を読む。
④ 学習確認	文法学習と講読 DVD の視聴・学習確認	文法の基礎を学び、平易な文章を読む。
⑤ 文法・初級	文法学習と講読	文法の基礎を確認、文章を読む。
⑥ 文法・初級	文法学習と講読 DVD の視聴・学習確認	文法の基礎を学び、平易な文章を読む。
⑦ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑧ 文法・初級	文法学習と講読中級	文法と講読。
⑨ 学習確認	視聴 DVD・学習確認	文法と講読。
⑩ 作文・初級	文法学習と講読作文	文法と講読。
⑪ 作文・初級	文法学習と講読・作文	文法と講読。
⑫ 作文まとめ	文法学習と講読・作文	文法と講読。
⑬ 学習確認	文法学習と講読・作文。学習確認	文法と講読。
⑭ 試験	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回受講前に、講義当日の学習部分に目を通して声を出して発音すること。講義外では、スペイン語らしい単語に日頃から注意する。

【テキスト（教科書）】
宮本博司『楽しいスペイン語文法読本』（大学書林）
配布プリント（DVD 使用の場合もある）
スペイン語辞書

【参考書】
スペイン語辞書

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80 %）に加え、小テストなど「平常点」（20 %）を考慮して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
板書をしっかりとる。

【学生が準備すべき機器他】
視聴覚資料（DVD）の使用

【Outline and objectives】
Purpose and aim of this class

The purpose of this course is be able to understand and explain in Spanish
We study Spanish grammar first, and in practice and writing master the basic usage of Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 II

2016 年度以前入学者

渡部 哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法 1 年 W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を習得した後、スペイン語の短文を読む。DVD の映像を使用して簡単な会話を練習する。

【到達目標】

目で耳でスペイン語が「確認」できるようにし、内容が「分かる」ようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回必ず一人一人指名して、「声」を出すようにし、スペイン語の「語感」に慣れるようにする。辞書は必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
① 読解・初級 1	文法学習と講読 (1)	読解 (短文)
② 読解・初級 2	文法学習と講読 (2)	読解 (短文)
③ 読解・初級 3	文法学習と講読 (3)	読解 (短文)
④ 学習確認	視聴覚資料使用	地理・歴史紹介
⑤ 会話・初級	会話・初級 生きたスペイン語 (会話と講読) (1)	会話文の反復・作成・確認
⑥ 会話・中級	会話・中級 生きたスペイン語 (会話と講読) (2)	会話文の反復・作成・確認
⑦ 会話・上級	会話・上級 生きたスペイン語 (会話と講読) (3)	会話文の反復・作成・確認
⑧ 学習確認	視聴覚資料使用	日常会話事例
⑨ 読解・中級 1	生きたスペイン語 (講読) (1)	読解 (長文)
⑩ 読解・中級 2	生きたスペイン語 (講読) (2)	読解 (長文)
⑪ 読解・中級 3	生きたスペイン語 (講読) (3)	読解 (長文)
⑫ 学習確認	視聴覚資料使用	文学作品・背景
⑬ 総復習	総合学習	総復習
⑭ 試験	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前にテキストに目を通す。町中にある「スペイン語」に注意する。

【テキスト（教科書）】

宮本博司『楽しいスペイン語文法読本』（大学書林）
配布プリント
DVD による映像
スペイン語辞書

【参考書】

スペイン語辞書

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80 %）に加え、小テストなど「平常点」（20 %）を考慮して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

板書をしっかりとる。

【学生が準備すべき機器他】

視聴覚資料（DVD）

【Outline and objectives】

Purpose and aim of this class

The purpose of this course is be able to understand and explain in Spanish

We study Spanish grammar first, and in practice and writing master the basic usage of Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 I

2016 年度以前入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
文 1 年 B～I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。

【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書にそって進む。

教科書は文法が中心で練習問題も充実しているので、教科書をしっかりと学習していただきたい。各課の簡単な会話文を暗記して日常的な表現を身につける。会話文の暗記を含めて、かなり頻繁に小テストを実施する予定である。スペイン語圏の文化については、適宜に DVD や CD などを使って紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベットの読み方、母音の発音と種類
2	Lección 1	子音の発音、アクセント、音節の区切り方基数①
3	Lección 2	名詞、冠詞
4	Lección 2	形容詞動詞
5	Lección 3	主格人称代名詞、直説法現在－規則動詞の活用
6	Lección 3	肯定文・疑問文・否定文、目的語と前置詞 a、基数②
7	Lección 4	動詞 ser, estar, hay
8	Lección 4	前置詞 a, de + 定冠詞 el、疑問詞
9	Lección 5	直説法現在－不規則活用（一人称だけが不規則な動詞）
10	Lección 5	指示詞、-mente の副詞、感嘆文、序数詞
11	Lección 6	直説法現在－不規則活用（語幹母音変化動詞）、接続詞
12	Lección 6	所有詞
13	Lección 7	直説法現在－不規則活用（その他の不規則動詞）、基数詞③
14	振り返り	1 課～7 課の復習（特に直説法現在の活用の確認）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみる。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書く。このような地道な練習をすることでスペイン語が身につけていきます。辞書の引きかたを学んだ後には、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。単語帳を作ると便利である。

【テキスト（教科書）】

和佐敦子著、『初級スペイン語文法』、朝日出版社 ISBN978-4-255-55077-0 C1087

【参考書】

特になし。教科書をしっかりと学習すること。

【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが 50%、期末テストが 50%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

文法の学習にもっと力を入れたいので、シンプルであるが、しっかりと文法を学べる教科書を選びました。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語 1Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1Ⅱ 2016 年度以前入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
文 1 年 B～I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語基礎文法の習得（直説法現在から直説法の 4 つの過去へ）。

【到達目標】

- 1) スペイン語文法でも目的格人称代名詞の使い方は複雑である。これを習得した上で、**gustar** 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なる表現の仕方を理解する。
- 2) 直説法現在完了と直説法点過去を学び、活用だけではなく、用法をマスターして使い分けができるようにする。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書にそって進む。

教科書は文法が中心で、練習問題も充実しているので、教科書をしっかりと学習する。各課の簡単な会話文は暗記して、日常的な表現を身につけていただきたい。この暗記を含めて、かなり頻繁に小テストを実施する予定である。スペイン語圏の文化については、適宜に DVD や CD などを使って紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習問題を解く
2	Lección 7	目的格人称代名詞、基数詞③
3	Lección 8	前置詞、前置詞格人称代名詞
4	Lección 8	gustar 型動詞
5	Lección 9	再帰動詞
6	Lección 9	無人称文、日付・曜日の表現
7	Lección 10	不定詞
8	Lección 10	現在分詞、過去分詞
9	Lección 11	現在完了
10	Lección 11	直説法点過去－規則動詞、
11	Lección 11	受動文、縮小辞と増大辞
12	Lección 12	直説法点過去－不規則動詞
13	Lección 12	知覚・使役・放任・命令・許可の動詞、不定詞と否定語
14	振り返り	7 課～12 課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切です。このレベルになると、さらなる復習が必要になります。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみる。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書く。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身についていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。引き続き、単語を整理を兼ねて、単語帳を作ること。

【テキスト（教科書）】

和佐敦子著、『初級スペイン語文法』、朝日出版社 ISBN978-4-255-55077-0 C1087

【参考書】

特になし。教科書をしっかりと学習すること。

【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが 50%、期末テストが 50%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

大学の授業として、ある程度の内容は維持しなければならないが、練習問題などをより多く取り入れて、文法の理解のさらなる向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー。

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語 1Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1Ⅰ 2016 年度以前入学者

日高 憲三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
文 1 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は 4 億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って文法事項や会話表現などを学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深めるため、様々な視聴覚資料や、担当者自身が現地で収集した食材、生活用具などの現物資料に触れる時間も設けるつもりです。社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、スペイン語の世界へようこそ！	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。アファベット、母音、子音
第 2 回	教科書第 1 課	音節の分け方、アクセントのルール
第 3 回	教科書第 1 課	名詞の性、名詞の数
第 4 回	教科書第 2 課	冠詞、形容詞
第 5 回	教科書第 2 課	主格人称代名詞、 ser 動詞
第 6 回	教科書第 3 課	文の構造、指示語
第 7 回	教科書第 3 課	estar 動詞、所有形容詞
第 8 回	教科書第 4 課	Hay の用法、 Hay と Estar の比較
第 9 回	教科書第 4 課	直説法現在形・規則動詞
第 10 回	教科書第 5 課	直説法現在形・規則動詞
第 11 回	教科書第 5 課	直説法現在形・規則動詞
第 12 回	教科書第 6 課	現在形不規則動詞 1
第 13 回	教科書第 6 課	直接目的格人称代名詞
第 14 回	教科書第 7 課	現在形不規則動詞 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にスペイン語に対してアンテナを張り、テレビや街角などで見たり聞いたりしたスペイン語があったら、書きとめるか記憶に残し、適宜発表してもらう。

【テキスト（教科書）】

「エスピギータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2017 年）2300 円

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

授業では、スペイン語圏の映像資料のみならず、私自身がラテンアメリカに現地調査で出向いた際に持ってきた食材などの現物資料を提示し、時には試食したりする機会を設けてきた。これらの体験がスペイン語に親しみを持つ大きなきっかけになったようで、「これまで受けたことのない斬新な授業」、「学習意欲がわく授業」、「グローバルな視野が持てた」などの意見が多数あった。今後も学生さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたい。

【Outline and objectives】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and English is not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 II

2016 年度以前入学者

日高 憲三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
文 1 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行きたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って文法事項や会話表現などを学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深めるため、様々な視聴覚資料や、担当者自身が現地で収集した食材、生活用具などの現物資料に触れる時間も設けるつもりです。社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	教科書第8課	gustar 動詞
第2回	教科書第8課	前置詞格人称代名詞
第3回	教科書第9課	再帰動詞
第4回	教科書第9課	無人称文、接続詞
第5回	教科書第10課	点過去1（規則動詞）
第6回	教科書第10課	点過去2（規則動詞）
第7回	教科書第11課	点過去（不規則動詞）
第8回	教科書第11課	関係代名詞 所有形容詞
第9回	教科書第12課	現在分詞
第10回	教科書第12課	不定語、否定語
第11回	教科書第13課	過去分詞、現在完了
第12回	教科書第13課	受動態
第13回	教科書第14課	比較級、関係副詞
第14回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的にスペイン語に対してアンテナを張り、テレビや街角などで見たり聞いたりしたスペイン語があったら、書きとめるか記憶に残し、適宜発表してもらう。

【テキスト（教科書）】

「エスビギター-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2017年）2300円

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

授業では、スペイン語圏の映像資料のみならず、私自身がラテンアメリカに現地調査で出向いた際に持ってきた食材などの現物資料を提示し、時には試食したりする機会を設けてきた。これらの体験がスペイン語に親しみを持つ大きなきっかけになったようで、「これまで受けたことのない斬新な授業」、「学習意欲がわく授業」、「グローバルな視野が持てた」などの意見が多数あった。今後も学生さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたい。

【Outline and objectives】

This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and English in not a common language.Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 I

2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
文 1 年 R～T

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為、について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。教科書のひとつの課をおおむね2回の授業で終わらせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 第0課	シラバスを用いての授業の説明。 文字と発音、アクセント。
2	第1課	名詞、冠詞、主格人称代名詞など。
3	第1課－第2課	練習問題、会話文。 直説法現在形規則動詞、疑問文、否定文。
4	第2課	練習問題、会話文。
5	第3課	形容詞、動詞 ser と estar。
6	第3課－第4課	練習問題、会話文。 Hay、指示詞、所有形容詞。
7	理解度確認 第4課	中間試験を実施。 時刻の表現、練習問題、会話文。
8	第5課	直接目的格人称代名詞、直説法現在形1人称単数が不規則な動詞など。
9	第5課－第6課	練習問題、会話文。 直説法現在語幹母音変化動詞など。
10	第6課	練習問題、会話文。
11	第7課	間接目的格人称代名詞、前置詞格人称代名詞など。
12	第7課	練習問題、会話文。
13	理解度確認	春学期授業の総復習。
14	理解度確認。	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をきちんとやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録のCDを聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・ブラド他(2007)『スペイン語のリズムで』同公社。
978-4-8102-0371-4

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社(2002)を推薦する。他にも授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 %とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が5回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教科書付録のCDの音声随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。
授業内容に関する質問は、授業中はもちろんメールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 ⅠⅡ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 ⅠⅡ

2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

文 1 年 R～T

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

- ①"IR(行く)"、"VENIR(来る)"などの重要な不規則動詞や再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べるができる。
- ②比較級の表現を用いて、形態、品質などを相対的観点から描写できる。
- ③動詞の直説法現在完了形や直説法過去形を活用させて、過去の行為、動作、状況について述べるができるようになる。
- ④スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。教科書のひとつの課をおおむね 2 回の授業で終わらせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本シラバスを用いての授業の説明。
2	第 8 課	直説法現在不規則動詞など。
3	第 8 課－第 9 課	練習問題、会話文。再帰動詞など。
4	第 9 課	練習問題、会話文。
5	第 10 課	現在分詞、不定語と否定語など。
6	第 10 課－第 11 課	練習問題、会話文。比較表現など。
7	第 11 課	練習問題、会話文。
8	理解度確認	中間試験を実施。
9	第 12 課	過去分詞、直説法現在完了など。
10	第 12 課－第 13 課	練習問題、会話文。直説法点過去規則動詞など。
11	第 13 課	練習問題、会話文。
12	第 14 課	直説法点過去不規則動詞、受身文。
13	第 14 課－第 15 課	練習問題、会話文。直説法線過去。
14	理解度確認	期末試験を実施。
		秋学期の総復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をきちんとやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・ブラド他 (2007)『スペイン語のリズムで』同学社
978-4-8102-0371-4

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 % とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。

質問は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write simple texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 I

2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
文 1 年 U～X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為、について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。教科書のひとつの課をおおむね 2 回の授業で終わらせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスを用いての授業の説明。
第 1 課	文字と発音。	
2	第 1 課	アクセントの位置、数詞、曜日、など。
3	第 2 課	名詞の性と冠詞、など。
4	第 2 課	会話文と練習問題。
5	第 3 課	指示形容詞と指示代名詞、など。
6	第 3 課	会話文と練習問題。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 4 課	規則動詞の活用と不規則動詞、など。
9	第 4 課	会話文と練習問題。
10	第 5 課	1 人称単数不規則動詞、など。
11	第 5 課	会話文と練習問題。
12	第 6 課	語幹母音変化動詞、など。
13	第 6 課	会話文と練習問題。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をきちんとやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹（2010）『改訂版・ミラ』同学社、2500 円＋税。ISBN978-4-8102-0354-7

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社（2002）を推薦する。他にも授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 % とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。

授業内容に関する質問は、授業中はもちろんメールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 II

2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
文 1 年 U～X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

- ① **gustar** 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べることができる。
- ② 再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べるができる。
- ③ 動詞の直説法過去形を活用させて、過去の行為、動作、状況について述べるができるようになる。
- ④ スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。教科書のひとつの課をおおむね 2 回の授業で終わらせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本シラバスを用いての授業の説明。
	第 7 課	再帰動詞、時刻の表現。
2	第 7 課	会話文と練習問題。
3	第 8 課	動詞 gustar の用法、比較級、最上級、など。
4	第 8 課	会話文と練習問題。
5	第 9 課	点過去の規則動詞、同等比較など。
6	第 9 課	会話文と練習問題。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 10 課	点過去の不規則形、否定語と不定語など。
9	第 10 課	会話文と練習問題。
10	第 11 課	線過去、点過去と線過去の違いなど。
11	第 11 課	会話文と練習問題。
12	第 12 課	過去分詞、関係詞など。
13	第 12 課	会話文と練習問題。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をきちんとやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹（2010）『改訂版・ミラ』同学社、2500 円＋税。ISBN978-4-8102-0354-7

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社（2002）を推薦する。他にも授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 %とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声を随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。

質問は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 I

2016 年度以前入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
営 1 年 D～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。

【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書にそって進む。

教科書は文法が中心で練習問題も充実しているので、教科書をしっかりと学習していただきたい。各課の簡単な会話文を暗記して日常的な表現を身につける。会話文の暗記を含めて、かなり頻繁に小テストを実施する予定である。スペイン語圏の文化については、適宜に DVD や CD などを使って紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Lección 1	アルファベットの読み方、母音の発音と種類
2	Lección 1	子音の発音、アクセント、音節の区切り方基数①
3	Lección 2	名詞、冠詞
4	Lección 2	形容詞動詞
5	Lección 3	主格人称代名詞、直説法現在－規則動詞の活用
6	Lección 3	肯定文・疑問文・否定文、目的語と前置詞 a、基数②
7	Lección 4	動詞 ser、estar、hay
8	Lección 4	前置詞 a、de＋定冠詞 el、疑問詞
9	Lección 5	直説法現在－不規則活用（一人称だけが不規則な動詞）
10	Lección 5	指示詞、-mente の副詞、感嘆文、序数詞
11	Lección 6	直説法現在－不規則活用（語幹母音変化動詞）、接続詞
12	Lección 6	所有詞
13	Lección 7	直説法現在－不規則活用（その他の不規則動詞）、基数詞③
14	振り返り	1 課～7 課の復習（特に直説法現在の活用の確認）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみる。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書く。このような地道な練習をすることでスペイン語が身についていきます。辞書の引きかたを学んだ後には、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。単語帳を作ると便利である。

【テキスト（教科書）】

和佐敦子著、『初級スペイン語文法』、朝日出版社 ISBN978-4-255-55077-0 C1087

【参考書】

特になし。教科書をしっかりと学習すること。

【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが 50%、期末テストが 50%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

文法の学習にもっと力を入れたいので、シンプルであるが、しっかりと文法を学べる教科書を選びました。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 II

2016 年度以前入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
営 1 年 D～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語基礎文法の習得（直説法現在から直説法の4つの過去へ）。

【到達目標】

- 1) スペイン語文法でも目的格人称代名詞の使い方は複雑である。これを習得した上で、**gustar** 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なる表現の仕方を理解する。
- 2) 直説法現在完了と直説法点過去を学び、活用だけではなく、用法をマスターして使い分けができるようにする。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書にそって進む。

教科書は文法が中心で、練習問題も充実しているので、教科書をしっかりと学習する。各課の簡単な会話文は暗記して、日常的な表現を身につけていただきたい。この暗記を含めて、かなり頻繁に小テストを実施する予定である。スペイン語圏の文化については、適宜に DVD や CD などを使って紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習問題を解く
2	Lección 7	目的格人称代名詞、基数詞③
3	Lección 8	前置詞、前置詞格人称代名詞
4	Lección 8	gustar 型動詞
5	Lección 9	再帰動詞
6	Lección 9	無人称文、日付・曜日の表現
7	Lección 10	不定詞
8	Lección 10	現在分詞、過去分詞
9	Lección 11	現在完了
10	Lección 11	直説法点過去－規則動詞、
11	Lección 11	受動文、縮小辞と増大辞
12	Lección 12	直説法点過去－不規則動詞
13	Lección 12	知覚・使役・放任・命令・許可の動詞、不定語と否定語
14	振り返り	7 課～12 課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切です。このレベルになると、さらなる復習が必要になります。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみる。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書く。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身についていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。引き続き、単語を整理を兼ねて、単語帳を作ること。

【テキスト（教科書）】

和佐敦子著、『初級スペイン語文法』、朝日出版社 ISBN978-4-255-55077-0 C1087

【参考書】

特になし。教科書をしっかりと学習すること。

【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが 50%、期末テストが 50%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

大学の授業として、ある程度の内容は維持しなければならないが、練習問題などをより多く取り入れて、文法の理解のさらなる向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー。

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語 1 I 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 I 2016 年度以前入学者

岡本 年正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初習者を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業である。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいく。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていく。

【到達目標】

スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。平易な文章の理解や作文やオーラルでのコミュニケーションを通じた簡単な表現、また平易な事実の描写ができるようになる。スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈する。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をする。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用する。文法の補足や補充の練習問題は、プリントを用いる。内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていく。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、アルファベットとあいさつ	授業概要説明 アルファベットと発音、あいさつの練習
2	名詞の性と数	名詞の性と数を理解する
3	冠詞、形容詞、数詞 1	冠詞の概念を理解する 形容詞の練習
4	主語人称代名詞、動詞 ser	主語人称代名詞と動詞の活用を理解する 動詞 ser の活用と用法を練習する
5	文構造	スペイン語の文構造を理解する
6	動詞 estar	動詞 estar の活用と用法を練習する、 ser との違いを確認する
7	存在を表す hay	存在を表す hay の用法を理解し、 estar との違いを確認する
8	直接法現在規則動詞	直接法現在規則動詞の用法と活用を学び練習する
9	時間に関する表現	時間に関する表現を学び練習する
10	直接法現在語幹母音変化動詞	直接法現在語幹母音変化動詞の活用を学び練習する
11	直接目的語人称代名詞	動詞 querer と poder の用法を学ぶ 直接目的語人称代名詞の用法を学び練習する
12	直接法現在不規則動詞	直接法現在不規則動詞の活用を学び練習する 動詞 saber と conocer の違いを学ぶ
13	間接目的語人称代名詞	動詞 ir, hacer の用法を学ぶ 間接目的語人称代名詞の用法を学び練習する
14	春学期のまとめと期末試験	春学期に学習したことをまとめ、期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をする。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にする。宿題の授業内の確認によって、疑問点をなくすようにする。

【テキスト（教科書）】

岡田敦美、那須まどり (2017) 『エスピギータ実りのスペイン語―』 (Espiguita: primer curso de español) (朝日出版社)

【参考書】

推薦辞書は以下。辞書は必携である。
『西和中辞典』小学館
『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下。必携ではない。

上田博人 2011 『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015 『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点 (60 %)、期末試験 (40 %)。
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、5 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしない。

【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進度調整を頻繁に行う。
語彙を覚えられるように、単語のチェックを行う。

【Outline and objectives】

The main objective of the lecture is to learn the basics of Spanish grammar.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 II

2016 年度以前入学者

岡本 年正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
営 1 年 G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語 1 I からの継続である。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいく。平易な文章の理解、作文やオーラルでのコミュニケーションを通じた簡単な表現ができるようになる。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていく。

【到達目標】

現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。
好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。
平易な文章が読み、理解できるようになる。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈する。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をする。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用する。文法の補足や補充の練習問題は、プリントを用いる。
内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていく。
教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習、 動詞 gustar	春学期の復習 動詞 gustar の用法を理解する
2	gustar 型動詞	gustar 型動詞の用法を学び練習する
3	再帰動詞（全人称）	再帰動詞の概念を理解し、全人称用法を学び練習する
4	再帰動詞（3 人称）、 無人称文	再帰動詞の 3 人称用法と、無人称文についても学び、練習する
5	点過去（規則活用）	点過去の概念を理解し、点過去の規則活用を学び練習する
6	点過去（不規則活用）	点過去の不規則活用を学び練習する
7	点過去練習、 関係代名詞 que	点過去をまとめ、点過去を用いた表現の練習をする 関係代名詞 que を学び練習する
8	現在分詞	現在分詞の形と用法を学び練習する
9	不定語と否定語	不定語と否定語を学び、様々な動詞を復習しつつ練習する
10	過去分詞と直説法現在完了	過去分詞の形と用法を学び練習する 直接法現在完了の概念を理解し、その活用と用法を学び練習する
11	比較	比較表現を学び練習する
12	線過去	線過去の概念を理解し、その活用と用法を学び練習する
13	点過去と線過去、 秋学期まとめ	点過去と線過去の違いを理解し、単純な過去の表現を練習する 秋学期に学習したことをまとめる
14	1 年間のふりかえりと期末試験	1 年を通して学んだことをふりかえり、期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をする。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にする。宿題の授業内の確認によって、疑問点をなくすようにする。

【テキスト（教科書）】

岡田敦美、那須まどり (2017) 『エスピギータ実りのスペイン語Ⅰ』(Espiguita: primer curso de español) (朝日出版社)

【参考書】

推薦辞書は以下。辞書は必携である。
『西和辞典』小学館
『クラウン西和辞典』三省堂
『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下。必携ではない。

上田博人 2011 『スペイン語文法ハンドブック』研究社
瓜谷良平、瓜谷望 2015 『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点 (60 %)、期末試験 (40 %)
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、5 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしない。

【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進捗調整を頻繁に行う。
語彙を覚えられるように、単語のチェックを行う。

【Outline and objectives】

The main objective of the lecture is to learn the basics of Spanish grammar.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 I

2016 年度以前入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
営 1 年 H・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

【到達目標】

履修生は今学期終了時まで、スペイン語の単純な現在形の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。講義はスペイン語のアルファベットから開始する。講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行なう。まったくのスペイン語初心者が受講することを想定するので、授業はできる限りゆっくり、また丁寧に進行するが、効果的な学習のためには各自の予習と復習、特に後者が必須である。このため学期の途中で一度、理解の確認のための小テストを行う。ただし初回の授業は予習の必要はない。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。

また講義が無味乾燥なものにならないよう、時間が許す限りスペイン語の歌や映画なども紹介し、受講生がスペインや中南米文化の一端に触れられるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション アルファベット 母音と子音の発音	本授業のガイダンス スペイン語と英語のアルファベットの違い 母音と子音の発音規則 (テキスト: 第 1 課)
2	アクセントのルール 注意すべきつづり 名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞	単語の発音規則 名詞の性の概念と複数化 定冠詞と不定冠詞 (テキスト: 第 1 課、第 2 課)
3	主格人称代名詞 動詞 ser	主語となる人称代名詞 動詞 ser の意味と用法 (テキスト: 第 2 課)
4	形容詞 所有形容詞前置形	性と数に対応した形容詞の変化 名詞の前につく形の所有形容詞 (テキスト: 第 3 課)
5	疑問文と否定文 動詞 tener 数 1 ～ 100	疑問文と否定文の語順 動詞 tener の意味と用法 1 から 100 までの数詞 (テキスト: 第 3 課)
6	直説法現在形規則動詞 疑問詞 (1)	直説法現在形の動詞規則変化 よく用いられる疑問詞 (テキスト: 第 4 課)
7	指示形容詞 動詞 estar ser と estar	指示形容詞の種類と用法 動詞 estar の意味と用法 動詞 ser と estar の使い分け (テキスト: 第 5 課)
8	中間試験 hay 存在文 tener + 名詞の表現	中間試験 hay 存在文の用法 hay 存在文と estar 存在文の使い分け tener を用いた状態の表現 (テキスト: 第 5 課)
9	動詞 ir 動詞 ver 動詞 hacer 動詞 poner 動詞 salir	動詞 ir , ver , hacer , poner , salir の意味と用法 (テキスト: 第 6 課)
10	ir a + 不定詞の表現 tener que + 不定詞の表現 時刻表現	動詞 ir を用いた予定の表現 動詞 tener を用いた義務の表現 時刻表現 (テキスト: 第 6 課)

11	日付表現 疑問詞 (2) 語幹母音変化動詞	曜日と月の表現 知っておくと便利な疑問詞 語幹母音変化動詞 (テキスト: 第 6 課、第 7 課)
12	天候表現 動詞 oír 動詞 venir 動詞 saber 動詞 conocer	天候を表す 3 人称表現 動詞 oír , venir , saber , conocer の意味と用法 (テキスト: 第 8 課)
13	動詞 dar 動詞 decir 動詞 traer 質疑応答	動詞 dar , decir , traer の意味と用法 学期末試験に備え、今学期授業内容全体に対しての質疑を受け付ける
14	授業内期末試験	授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。また時間の都合上、授業中に教科書内の全ての練習問題に取り組むことはできない。このため、授業の進行に合わせて各自が自主的に問題に取り組み、理解度を把握することが必須となる。

【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・デル・ブラド、齋藤華子、仲道慎治『イメージ・スペイン語 (Español en imágenes)』(朝日出版)、2,500 円+税

【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』(小学館)をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。

上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【成績評価の方法と基準】

学期中間で 1 度小テストを行う。平常点を 30%、学期中間での小テスト結果を 30%、学期末試験結果を 40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。平常点の評価方法について、詳しくは初回授業のイントロダクション時に説明するので、必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

説明の分かりやすさを考慮し、授業計画を若干組み替えた。なお履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

【Outline and objectives】

Basic grammar of Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 II

2016 年度以前入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
営 1 年 H・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

【到達目標】

履修生は今学期終了時まで、簡単な過去形や現在完了形を含むスペイン語の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。内容は春学期「スペイン語 II」の継続であり、テキストも同じものを引き続き用いる。毎回の講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行なう。秋学期からは学習内容も高度化するため、各自の予習と復習、特に後者がより重要となる。このため学期の途中で一度、理解の確認のための小テストを行う。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。また講義が無味乾燥なものにならないよう、時間が許す限りスペイン語の歌や映画なども紹介し、受講生がスペインや中南米文化の一端に触れられるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	直接目的格代名詞 間接目的格代名詞 (その 1)	春学期のおさらい 目的語と目的格代名詞① (テキスト: 第 7 課、第 8 課)
2	直接目的格代名詞 間接目的格代名詞 (その 2)	目的語と目的格代名詞② (テキスト: 第 7 課、第 8 課)
3	前置詞格人称代名詞 動詞 gustar gustar 型動詞	前置詞の後に置かれる人称代名詞 動詞 gustar の意味と用法 gustar と似た使い方をする動詞 (テキスト: 第 10 課)
4	所有形容詞後置形 再帰動詞	名詞の後に置かれる所有形容詞 再帰動詞の概念と基本用法 (テキスト: 第 9 課、第 10 課)
5	再帰動詞のその他の用法 義務の表現	再帰動詞のその他の用法 いくつかの義務の表現 (テキスト: 第 9 課)
6	比較級	「〇〇よりも ×× である」という文の 作り方 (テキスト: 第 11 課)
7	最上級 不定語と否定語 感嘆文	「最も ×× である」という文の作り方 よく用いられる不定語と否定語 感嘆文の作り方 (テキスト: 第 11 課)
8	中間試験 直説法点過去規則活用	中間試験 直説法点過去形の規則活用と用法 (テキスト: 第 12 課)
9	直説法点過去不規則活用 数 100 ～ 2,000	直説法点過去形の不規則動詞 100 から 2,000 までの数詞 (テキスト: 第 12 課)
10	直説法線過去規則活用 直説法線過去不規則活用 点過去と線過去の使い分け	直説法線過去形の規則動詞と不規則動詞 点過去形と線過去形の違い (テキスト: 第 13 課)
11	直接話法・間接話法 数 10,000 ～ 序数	直接話法と間接話法の違い 10,000 以上の数 序数の種類と用法 (テキスト: 第 13 課)
12	過去分詞	過去分詞の作り方と用法 (テキスト: 第 14 課)
13	直説法現在完了 質疑応答	直説法現在完了の意味と用法 (テキスト: 第 14 課) 学期末試験に備え、今学期授業内容全体 に対する質疑を受け付ける

14 授業内期末試験

授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。

【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・デル・ブラド、齋藤華子、仲道慎治『イメージ・スペイン語 (Español en imágenes)』（朝日出版）、2,500 円+税

【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』（小学館）をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。

上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【成績評価の方法と基準】

学期中間で 1 度小テストを行う。平常点を 30%、学期中間での小テスト結果を 30%、学期末試験を 40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

会話表現も出来るようになりたいとの要望があったため、文法だけでなく口語表現にも力を入れる。

【Outline and objectives】

Basic grammar of Spanish.

LANs100LA		
スペイン語 1 I		
2017 年度以降入学者		
LANs100LA		
スペイン語 1 I		
2016 年度以前入学者		
若林 大我		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：土 2/Sat.2		
営 1 年 K		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。		
【到達目標】		
履修生は今学期終了時まで、スペイン語の単純な現在形の文章を理解し、作文できるようになる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3		
【授業の進め方と方法】		
受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。講義はスペイン語のアルファベットから開始する。講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行なう。まったくのスペイン語初心者が受講することを想定するので、授業はできる限りゆっくり、また丁寧に進行するが、効果的な学習のためには各自の予習と復習、特に後者が必須である。このため学期の途中で一度、理解の確認のための小テストを行う。ただし初回の授業は予習の必要はない。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。		
また講義が無味乾燥なものにならないよう、時間が許す限りスペイン語の歌や映画なども紹介し、受講生がスペインや中南米文化の一端に触れられるようにする。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
なし / No		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	イントロダクション アルファベット 母音と子音の発音	本授業のガイダンス スペイン語と英語のアルファベットの違い 母音と子音の発音規則 (テキスト: 第 1 課)
2	アクセントのルール 注意すべきつづり 名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞	単語の発音規則 名詞の性の概念と複数化 定冠詞と不定冠詞 (テキスト: 第 1 課、第 2 課)
3	主格人称代名詞 動詞 ser	主語となる人称代名詞 動詞 ser の意味と用法 (テキスト: 第 2 課)
4	形容詞 所有形容詞前置形	性と数に対応した形容詞の変化 名詞の前につく形の所有形容詞 (テキスト: 第 3 課)
5	疑問文と否定文 動詞 tener 数 1 ～ 100	疑問文と否定文の語順 動詞 tener の意味と用法 1 から 100 までの数詞 (テキスト: 第 3 課)
6	直説法現在形規則動詞 疑問詞 (1)	直説法現在形の動詞規則変化 よく用いられる疑問詞 (テキスト: 第 4 課)
7	指示形容詞 動詞 estar ser と estar	指示形容詞の種類と用法 動詞 estar の意味と用法 動詞 ser と estar の使い分け (テキスト: 第 5 課)
8	中間試験 hay 存在文 tener + 名詞の表現	中間試験 hay 存在文の用法 hay 存在文と estar 存在文の使い分け tener を用いた状態の表現 (テキスト: 第 5 課)
9	動詞 ir 動詞 ver 動詞 hacer 動詞 poner 動詞 salir	動詞 ir, ver, hacer, poner, salir の意味と用法 (テキスト: 第 6 課)
10	ir a + 不定詞の表現 tener que + 不定詞の表現 時刻表現	動詞 ir を用いた予定の表現 動詞 tener を用いた義務の表現 時刻表現 (テキスト: 第 6 課)
11	日付表現 疑問詞 (2) 語幹母音変化動詞	曜日と月の表現 知っておくと便利な疑問詞 語幹母音変化動詞 (テキスト: 第 6 課、第 7 課)
12	天候表現 動詞 oír 動詞 venir 動詞 saber 動詞 conocer	天候を表す 3 人称表現 動詞 oír, venir, saber, conocer の意味と用法 (テキスト: 第 8 課)
13	動詞 dar 動詞 decir 動詞 traer 質疑応答	動詞 dar, decir, traer の意味と用法 学期末試験に備え、今学期授業内容全体に対しての質疑を受け付ける
14	授業内期末試験	授業内期末試験
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。		
また時間の都合上、授業中に教科書内の全ての練習問題に取り組むことはできない。このため、授業の進行に合わせて各自が自主的に問題に取り組み、理解度を把握することが必須となる。		
【テキスト（教科書）】		
エウヘニオ・デル・ブラド、齋藤華子、仲道慎治『イメージ・スペイン語 (Español en imágenes)』(朝日出版)、2,500 円+税		
【参考書】		
外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』(小学館)をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。		
上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探することができる。 http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm		
【成績評価の方法と基準】		
学期中間で 1 度小テストを行う。平常点を 30%、学期中間での小テスト結果を 30%、学期末試験結果を 40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。平常点の評価方法について、詳しくは初回授業のイントロダクション時に説明するので、必ず出席すること。		
【学生の意見等からの気づき】		
説明の分かりやすさを考慮し、授業計画を若干組み替えた。 なお履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。		
【Outline and objectives】		
Basic grammar of Spanish.		

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 II

2016 年度以前入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
営 1 年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

【到達目標】

履修生は今学期終了時まで、簡単な過去形や現在完了形を含むスペイン語の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。内容は春学期「スペイン語 II」の継続であり、テキストも同じものを引き続き用いる。毎回の講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行なう。秋学期からは学習内容も高度化するため、各自の予習と復習、特に後者がより重要となる。このため学期の途中で一度、理解の確認のための小テストを行う。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。また講義が無味乾燥なものにならないよう、時間が許す限りスペイン語の歌や映画なども紹介し、受講生がスペインや中南米文化の一端に触れられるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	直接目的格代名詞 間接目的格代名詞 (その 1)	春学期のおさらい 目的語と目的格代名詞① (テキスト: 第 7 課、第 8 課)
2	直接目的格代名詞 間接目的格代名詞 (その 2)	目的語と目的格代名詞② (テキスト: 第 7 課、第 8 課)
3	前置詞格人称代名詞 動詞 gustar gustar 型動詞	前置詞の後に置かれる人称代名詞 動詞 gustar の意味と用法 gustar と似た使い方をする動詞 (テキスト: 第 10 課)
4	所有形容詞後置形 再帰動詞	名詞の後に置かれる所有形容詞 再帰動詞の概念と基本用法 (テキスト: 第 9 課、第 10 課)
5	再帰動詞のその他の用法 義務の表現	再帰動詞のその他の用法 いくつかの義務の表現 (テキスト: 第 9 課)
6	比較級	「〇〇よりも ×× である」という文の 作り方 (テキスト: 第 11 課)
7	最上級 不定語と否定語 感嘆文	「最も ×× である」という文の作り方 よく用いられる不定語と否定語 感嘆文の作り方 (テキスト: 第 11 課)
8	中間試験 直説法点過去規則活用	中間試験 直説法点過去形の規則活用と用法 (テキスト: 第 12 課)
9	直説法点過去不規則活用 数 100 ～ 2,000	直説法点過去形の不規則動詞 100 から 2,000 までの数詞 (テキスト: 第 12 課)
10	直説法線過去規則活用 直説法線過去不規則活用 点過去と線過去の使い分け	直説法線過去形の規則動詞と不規則動詞 点過去形と線過去形の違い (テキスト: 第 13 課)
11	直接話法・間接話法 数 10,000 ～ 序数	直接話法と間接話法の違い 10,000 以上の数 序数の種類と用法 (テキスト: 第 13 課)
12	過去分詞	過去分詞の作り方と用法 (テキスト: 第 14 課)
13	直説法現在完了 質疑応答	直説法現在完了の意味と用法 (テキスト: 第 14 課) 学期末試験に備え、今学期授業内容全体 に対する質疑を受け付ける

14 授業内期末試験

授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。

【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・デル・ブラド、齋藤華子、仲道慎治『イメージ・スペイン語 (Español en imágenes)』（朝日出版）、2,500 円+税

【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』（小学館）をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。
上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【成績評価の方法と基準】

学期途中で 1 度小テストを行う。平常点を 30%、学期中間での小テスト結果を 30%、学期末試験を 40%として総合評価する。このうち平常点については、ただ授業に出ることだけでなく、受講態度や口頭練習・質疑応答への参加の積極性も勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

会話表現も出来るようになりたいとの要望があったため、文法だけでなく口語表現にも力を入れる。

【Outline and objectives】

Basic grammar of Spanish.

LANs100LA

スペイン語 Ⅰ I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 Ⅰ I

2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年 M～Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

【到達目標】

現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。

The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明と設問の練習など。Grammatical explanation and practicing exercises.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペイン語には名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および～があるの hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえたうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を適宜出すので、復讐は勿論宿題は必ずやっておくこと

【テキスト（教科書）】

Ahora tu

【参考書】

新版「スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する

【Outline and objectives】

In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.

LANs100LA

スペイン語 Ⅰ II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 Ⅰ II

2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
営 1 年 M～Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章を作成できるようにする

Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences.

【到達目標】

スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話を業に慣れる

Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

Practicing exercises and grammatical explanation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則動詞 ER 型、IR 型	現在形規則動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくる。

【テキスト（教科書）】

Ahora tu

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回配布するアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。

【Outline and objectives】

スペイン語で会話を構成したり、文章を書いたりすることを目的とする

To structure conversation in Spanish and write sentences

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 I

2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
営 1 年 T・U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、人やモノの所在、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為について述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。教科書のひとつの課をおおむね 2 回の授業で終わらせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを用いた授業の説明。
2	イントロダクション イントロダクション	文字と発音。 アクセントの位置。
3	第 1 課	名詞、冠詞、 Hay を使った文、形容詞。
4	第 2 課	会話文、練習問題。 主語人称代名詞、直接法現在・規則動詞。
5	第 2 課	会話文、練習問題。
6	第 3 課	ser 「です」の直説法現在、 estar 「いる、ある」の直説法現在など。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 3 課	会話文、練習問題。
9	第 4 課	ir 「行く」の直説法現在、所有形容詞・後置形、 hay と estar など。
10	第 4 課	会話文、練習問題。
11	第 5 課	直説法現在不規則活用、 querer ・ poder 語幹母音変化動詞など。
12	第 5 課	会話文、練習問題。
13	理解度確認	春学期の総復習。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をきちんとやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵他 (2019) 『新・エストレリタースペイン語入門コース』朝日出版社
978-4-255-55104-3

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 % とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声を随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。

授業内容に関する質問は、授業中はもちろんメールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 II

2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

営 1 年 T・U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

- ① **gustar** 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べることができる。
- ② 再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べるができる。
- ③ 動詞の直説法過去形を活用させて、過去の行為、動作、状況について述べるができるようになる。
- ④ スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、文法事項の学習、問題演習、会話文の音読と意味の把握を行ってゆく。教科書のひとつの課をおおむね 2 回の授業で終わらせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 第 6 課	本シラバスを用いての授業の説明。 目的語人称代名詞、 gustar 型構文など。
2	第 6 課	練習問題、会話文。
3	第 7 課	直説法点過去、不定語・否定語など。
4	第 7 課	練習問題、会話文。
5	第 8 課	直説法点過去・強変化とその変形、直説法点過去・完全不規則活用など。
6	第 8 課	練習問題、会話文。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 9 課	直説法線過去、線過去と点過去の使い分け、比較表現など。
9	第 9 課	練習問題、会話文。
10	第 10 課	線過去、点過去と線過去の違いなど。
11	第 10 課	練習問題、会話文。
12	第 11 課	過去分詞、直説法現在完了、関係詞。
13	理解度確認	期末試験を実施
14	理解度確認	秋学期の総復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をきちんとやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵他 (2019)『新・エストレリタースペイン語入門コース』朝日出版社。

978-4-255-55104-3

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。他にも授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 % とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

教科書付録の CD の音声は随時聞けるように、スマートフォンに取り込んでおくことを勧める。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。

質問は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

By systematically learning Spanish grammar, we will get the ability to read and write elementary texts in this language. We deepen our knowledge about the culture and society of the Spanish-speaking countries.

LANs100LA

スペイン語ⅡⅠ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語ⅡⅠ 2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 I・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP9

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser, estar, hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語ⅡⅡ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語ⅡⅡ 2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 I・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語ⅡⅠから連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅰ 数字③（31～99）
2	所有形容詞	所有形容詞（前置形）
3	数字③	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅱ tener que+不定詞
4	動詞の不規則活用	数字（100～999） 直接目的格代名詞
5	数字④	動詞 gustar の用法
6	直接目的格代名詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	gustar 動詞	再帰動詞
8	gustar 型動詞	無人称表現 se を用いた無人称表現
9	再帰動詞	時刻の言い方
10	無人称表現	時刻の言い方Ⅰ 天気①
11	時刻	天気②
12	天気①	直説法点過去
13	天気②	直説法点過去形の規則活用
14	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
15	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
16	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
17	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
18	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
19	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
20	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
21	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
22	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
23	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
24	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
25	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
26	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
27	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
28	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
29	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
30	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
31	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
32	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
33	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
34	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
35	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
36	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
37	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
38	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
39	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
40	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
41	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
42	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
43	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
44	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
45	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
46	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
47	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
48	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
49	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
50	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
51	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
52	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
53	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
54	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
55	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
56	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
57	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
58	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
59	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
60	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
61	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
62	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
63	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
64	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
65	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
66	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
67	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
68	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
69	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
70	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
71	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
72	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
73	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
74	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
75	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
76	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
77	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
78	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
79	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
80	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
81	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
82	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
83	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
84	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
85	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
86	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
87	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
88	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
89	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
90	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
91	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
92	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
93	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
94	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
95	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
96	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
97	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
98	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
99	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
100	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】
Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA	
スペイン語 2 I	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語 2 I	2016 年度以前入学者
オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 1 年 K・L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】
スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。音楽
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞、定冠詞、主語代名詞
5	職業、国籍	SER 直説法現在、疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞、品質形容詞、所有詞前置形
7	親族、ジェスチャー	TENER 直説法現在、疑問詞 I
8	位置関係、場所を表す副詞	指示形容詞、指示代名詞
9	数字 III. 序数、世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞 直説法現在、不規則動詞 (HACE, IR) 直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法、疑問詞 II
12	時間	前置詞、
13	月と季節	語幹母音変化動詞 I
14	交通機関/予定	未来を表す IR A +不定詞 /動詞 SALIR. VENIR

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。

【テキスト（教科書）】
Entre amigos 1, Editorial Asahi

【参考書】
授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】
授業内での口頭試験及び平常点 40 %
小テスト 30
期末試験の結果 30 %
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】
It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ 2016 年度以前入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 1 年 K・L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	住居/天候表現	語幹母音変化動詞Ⅱ
2	日常	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名詞/動詞 VER.SABER, CONOCER
4	レシビ/レストランで	SABER+不定詞.PODER+不定詞.QUERER+不定詞.PODER+不定詞
5	衣服とアクセサリ/買い物	前置詞 (a, de, en,...) 間接目的人称名詞/比較現在Ⅰ
6	色/クリスマス	動詞 DAR, TRAER, DECIR. 不規則な比較級を持つ形容詞
7	余暇活動	動詞 GUSTAR. GUSTAR と同じように用いられる動詞 ENCAN-
8	趣味/スポーツ	TAR, INTERESAR, PARECER, IMPORTAR. 比較現在Ⅱ/比較表現Ⅲ/数量の比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER. ESTARⅡ
10	状態	SER+形容詞. estar+形容詞
11	体調、感情表現	感情文. SER+形容詞. estar+形容詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞. 不定語と否定語
13	旅行	直説法点過去. 直説法点過去 規則活用.
14	人の一生/言語	直説法点過去/不規則活用/所有詞後 置形

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。

【テキスト（教科書）】
Entre amigos 1, , Editorial Asahi

【参考書】
授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 40 %
小テスト 30 %
期末試験の結果 30 %
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ 2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 1 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課	目的格人称代名詞
13	第 7 課	gustar 型動詞の用法
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨールⅠ 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）
『わかるスペイン語』西川喬 （同学社）
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用時のオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
法 1 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 2Ⅰ から連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去（不規則）1
11	第 13 課	点過去（不規則）2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

【テキスト（教科書）】
『ブラサ・マヨールⅠ ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パラマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】
『西和中辞典』（小学館）
『わかるスペイン語』西川喬（同学生社）
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】
Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法 1 年 N～V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎をしっかりと身に付けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

【到達目標】
現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。
The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
文法の説明と設問の練習など。Grammatical explanation and practicing exercises.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペイン語には名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および～があるの hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえたうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと

【テキスト（教科書）】
Ahora tu

【参考書】
「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】
テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

【学生の意見等からの気づき】
なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する

【Outline and objectives】
In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ 2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法 1 年 N～V

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences.

【到達目標】

スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話を業に慣れる

Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

Practicing exercises and grammatical expansion

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則動詞 ER 型、IR 型	現在形規則動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題への取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題への取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくること。

【テキスト（教科書）】
Ahora tu

【参考書】

「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

【学生の意見等からの気づき】

毎回配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。

【Outline and objectives】

スペイン語で会話を構成したり、文章を書いたりすることを目的とする
To structure conversation in Spanish and write sentences

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ 2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課	目的格人称代名詞
13	第 7 課	gustar 型動詞の用法
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨールⅠ 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語ⅡⅡ2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語ⅡⅡ2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 W

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語ⅡⅡから連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去（不規則）1
11	第 13 課	点過去（不規則）2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨールⅠ ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】
『西和中辞典』（小学館）
『わかるスペイン語』西川喬 （同学社）
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】
Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語ⅡⅡ2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語ⅡⅡ2016 年度以前入学者

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 B～I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語は世界中で多く話されている言語のうちのひとつである。スペイン、ラテンアメリカ諸国での公用語であるほか、近年では、日本にもスペイン語を話す旅行者や生活者も多く見かけられる。本講義では、スペイン語の文法を中心に、学びながら、スペイン語圏の文化や習慣への関心・理解を促していく。

【到達目標】
①スペイン語への興味・関心の向上。
②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。
毎回テーマは飽くまで目安。理解度・進度に合わせ、内容を変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション／文字と発音	春学期講義概要のほか、スペイン語のアルファベット、発音に慣れる。挨拶をはじめとした日常会話に必要な表現を学ぶ。
第 2 回	名詞	性と数
第 3 回	定冠詞／不定冠詞	un/una, el/la unos/unas, los/las
第 4 回	形容詞／ hay	性と数
第 5 回	疑問文と否定文	疑問詞の種類・用法
第 6 回	直説法現在・規則動詞	ar 動詞
第 7 回	直説法現在・規則動詞	er,ir 動詞
第 8 回	直説法現在・不規則動詞	ser・estar
第 9 回	直説法現在・不規則動詞	語根母音変化
第 10 回	直説法現在・不規則動詞	その他不規則動詞
第 11 回	指示形容詞	指示形容詞／指示代名詞
第 12 回	所有形容詞	所有形容詞／所有代名詞
第 13 回	人称代名詞	間接目的格人称代名詞／直接目的人称代名詞
第 14 回	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は自由だが、復習をすること。

【テキスト（教科書）】
それぞれの課に合わせプリントを配布。

【参考書】
『超入門スペイン語』（大学書林）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】
スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline and objectives】
上記の通り、文法中心となるが、適宜スペイン語圏の文化を紹介するなど、「語学の授業」とならないように進めていく。

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ

2016 年度以前入学者

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
文 1 年 B～I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「スペイン語 2Ⅰ」からの継続。
引き続き文法中心の授業。

【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。

各回テーマはあくまで目安。理解度・進度に応じて変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	gustar 型動詞	前置詞、 gustar 動詞
第 2 回	再帰動詞	意味と活用
第 3 回	比較	比較級／最上級
第 4 回	現在分詞	活用方法
第 5 回	過去分詞	活用方法／現在完了
第 6 回	点過去	規則
第 7 回	点過去	不規則
第 8 回	線過去	規則／不規則
第 9 回	点過去・線過去復習	2つの過去形の違い／練習
第 10 回	過去完了	意味と活用
第 11 回	未来	規則／不規則
第 12 回	過去未来	規則／不規則
第 13 回	その他の完了形	未来完了／過去未来完了
第 14 回	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）。辞書については授業内で指示。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline and objectives】

春学期同様、興味関心を通じて語学習得に積極的になってもらえるよう、文化や習慣、音楽なども交えながら進めていく。

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ

2016 年度以前入学者

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
文 1 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語は世界中で多く話されている言語のうちのひとつである。スペイン、ラテンアメリカ諸国での公用語であるほか、近年では、日本にもスペイン語を話す旅行者や生活者も多く見かけられる。本講義では、スペイン語の文法を中心に、学びながら、スペイン語圏の文化や習慣への関心・理解を促していく。

【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。

各回テーマは飽くまで目安。理解度・進度に合わせ、内容を変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション／文字と発音	春学期講義概要のほか、スペイン語のアルファベット、発音に慣れる。挨拶をはじめとした日常会話に必要な表現を学ぶ。
第 2 回	名詞	性と数
第 3 回	定冠詞／不定冠詞	un/una, el/la unos/unas, los/las
第 4 回	形容詞／ hay	性と数
第 5 回	疑問文と否定文	疑問詞の種類・用法
第 6 回	直説法現在・規則動詞	ar 動詞
第 7 回	直説法現在・規則動詞	er,ir 動詞
第 8 回	直説法現在・不規則動詞	ser・estar
第 9 回	直説法現在・不規則動詞	語根母音変化
第 10 回	直説法現在・不規則動詞	その他不規則動詞
第 11 回	指示形容詞	指示形容詞／指示代名詞
第 12 回	所有形容詞	所有形容詞／所有代名詞
第 13 回	人称代名詞	間接目的格人称代名詞／直接目的格人称代名詞
第 14 回	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。

【テキスト（教科書）】

それぞれの課に合わせプリントを配布。

【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline and objectives】

上記の通り、文法中心となるが、適宜スペイン語圏の文化を紹介するなど、「語学の授業」とならないように進めていく。

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ2016 年度以前入学者

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
文 1 年 M・N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期「スペイン語 2Ⅰ」からの継続。
引き続き文法中心の授業。

【到達目標】
①スペイン語への興味・関心の向上。
②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。
各回テーマはあくまで目安。理解度・進度に応じて変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	gustar 型動詞	前置詞、gustar 動詞
第 2 回	再帰動詞	意味と活用
第 3 回	比較	比較級／最上級
第 4 回	現在分詞	活用方法
第 5 回	過去分詞	活用方法／現在完了
第 6 回	点過去	規則
第 7 回	点過去	不規則
第 8 回	線過去	規則／不規則
第 9 回	点過去・線過去復習	2つの過去形の違い／練習
第 10 回	過去完了	意味と活用
第 11 回	未来	規則／不規則
第 12 回	過去未来	規則／不規則
第 13 回	その他の完了形	未来完了／過去未来完了
第 14 回	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は自由だが、復習をすること。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『超入門スペイン語』（大学書林）。辞書については授業内で指示。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】
スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline and objectives】
春学期同様、興味関心を通じて語学習得に積極的になってもらえるよう、文化や習慣、音楽なども交えながら進めていく。

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ2016 年度以前入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
文 1 年 R～T

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】
スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。音楽
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字Ⅰ。歴史上の人物	名詞、定冠詞、主語代名詞
5	職業、国籍	SER 直説法現在、疑問文と否定文
6	数字Ⅱ。家族	不定冠詞、品質形容詞、所有詞前置形
7	親族、ジェスチャー	TENER 直説法現在、疑問詞Ⅰ
8	位置関係、場所を表す副詞	指示形容詞、指示代名詞
9	数字Ⅲ。序数、世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在Ⅰ。HABER の活用
10	曜日	規則動詞 直説法現在、不規則動詞 (HACE,IR) 直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法、疑問詞Ⅱ
12	時間	前置詞、
13	月と季節	未来を表す IR A +不定詞/ 語幹母音変化動詞Ⅰ
14	交通機関	動詞 SALIR,VENIR

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。

【テキスト（教科書）】
Entre amigosⅠ, Editorial Asahi

【参考書】
授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】
授業内での口頭試験及び平常点 40 %
小テスト 30 %
期末試験の結果 30 %
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】
It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world

LANs100LA

スペイン語Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語Ⅱ

2016 年度以前入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
文 1 年 R~T

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	住居、天気表現	語幹母音変化動詞 II. 動詞 VOLVER, REPETIR
2	日常の習慣	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名 動詞 VER.SABER, CONOCER
4	レシビ/レストランで	Saber + 不定詞, PODER + 不定詞. QUERER + 不定詞, PODER + 不定詞
5	衣服とアクセサリ、色	間接目的人称代名詞. 動詞 DAR, TRAER, DECIR
6	クリスマス、買い物	比較現在 I. 形容詞の比較/ 不規則な比較を持つ形容詞
7	余暇活動 スポーツ	動詞 GUSTAR. 活用
8	スペイン語圏の国々のお祭り	GUSTAR と同じように用いられる動詞 ENCANTAR, INTERESAR, PARECER, IMPORTAR/ 比較現在 II/ 比較現在 III. 数量の比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER. ESTAR II
10	状態	SER+形容詞. estar+形容詞
11	体調、感情表現	感情文. SER+形容詞. estar+形容詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞. 不定語と否定語
13	旅行	直説法点過去. 直説法点過去 規則活用.
14	人の一生/言語	直説法点過去. 不規則活用. 所有詞後置形

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 40%

小テスト 30%

期末試験の結果 30%

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of Spanish-speaking countries. It aims to master conversation in addition to basic Spanish grammar learning. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語Ⅱ I 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語Ⅱ I 2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
文 1 年 U~X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語Ⅱ II 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語Ⅱ II 2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
文 1 年 U~X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、 estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar 、 salir 、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞（ yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞（ yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語ⅡⅠ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語ⅡⅠ 2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 1 年 D～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser, estar, hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語ⅡⅡ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語ⅡⅡ 2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
営 1 年 D～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語ⅡⅠから連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅰ
2	所有形容詞 数字③	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅱ
4	数字④ 直接目的格代名詞	tener que+不定詞 数字（100～999） 直接目的格代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞	再帰動詞
8	時刻 天気①	se を用いた無人称表現 時刻の言い方 天気（1）の言い方Ⅰ
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	天気②	天気（2）の言い方Ⅱ
11	直説法点過去 月	直説法点過去形の不規則活用 月の名前
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】
Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2 I 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2 I 2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 1 年 G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ 2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 1 年 G

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2Ⅱ で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
2	La hora	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	比較級、最上級を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
8	Repaso y examen	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
9	Verbo "gustar" 1	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。
14	Repaso y examen	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ 2016 年度以前入学者

ヴィラ・ラケル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年 H・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

【到達目標】

自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに従って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。状況により、授業進度を調整する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オープニング	ガイダンス
1-3	第 1 課 Hola, ¿ cómo te llamas?	挨拶や感謝の言葉 基本的な個人の情報 発音やつづり
3-4	第 2 課 Soy japonés, de Tokio	Soy japonés, de Tokio 名前、出身国や職業 自分自身や人の紹介 都市の位置
5-6	第 3 課 Mi universidad	大学や住んでいる町について話す
7	中間テスト	Examen U1-3
8-9	第 4 課 Estudio en la Universidad de Salamanca	勉強について話す 日常や余暇の過ごし方 時刻、スケジュール
10-11	第 5 課 La familia	家族について話す 人の性格や容姿
12-13	第 6 課 En vacaciones voy a ir a Barcelona	有名な場所について話す 場所ややりたい活動について話す 旅の計画や簡単な行程
14	期末試験	Examen final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。復習をすること。

【テキスト（教科書）】

「 Muy bien! いいね! スペイン語」フアン・カルロス・モヤノ・ロペス / カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、試験の成績 60%

【学生の意見等からの気づき】

未確認

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【Outline and objectives】

Introduction to Spanish.

LANs100LA

スペイン語ⅡⅡ2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語ⅡⅡ2016 年度以前入学者

ヴィラ・ラケル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
営 1 年 H・J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

【到達目標】
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
テキストに従って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。
状況により、授業進度を調整する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オープニング	春学期の復習とガイダンス。
1-2	第 7 課 Me gusta mucho la música pop. ¿ Y a ti?	好み、趣味や興味について話す 計画や義務について話す
3-4	第 8 課 De compras	イベントについて簡単な情報 店で欲しいものを伝える 店頭での会話 市場や店の様子
5-6	第 9 課 ¡ A comer!	スペイン語圏の食べ物 食べたいもの、飲みたいものを頼む レストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する
7	中間テスト	Examen ~ Unidad 9
8-9	第 10 課 Los mexicanos se levantan pronto	1 日の生活について情報交換する 天候
10-11	第 11 課 Estoy muy contenta	体調や気分について話す 体の痛い場所や体調について説明する 健康的な生活を送るためのアドバイス
12-13	第 12 課 De viaje	過去の旅行中に行ったことや食べ物について話す 今年度の出来事について話す
14	期末試験	Examen final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。復習をすること。

【テキスト（教科書）】
「Muy bien! 1 いいね! スペイン語」、フアン・カルロス・モヤノ・ロベス / カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

【参考書】
たくなし

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%、テスト／試験の成績 60%

【学生の意見等からの気づき】
未確認

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroom の登録が必要となります。

【Outline and objectives】
Introduction to Spanish

LANs100LA

スペイン語ⅡⅡ2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語ⅡⅡ2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
営 1 年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【Outline and objectives】
In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅱ 2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
営 1 年 K

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2Ⅱ で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2Ⅰ 2016 年度以前入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
営 1 年 M～Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

【到達目標】

スペイン語の初級文法と基本的語彙を習得し、スペイン語圏の歴史・文化・社会への理解に基づいて、平易な文章の読み書きができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、導入としてスペイン語とスペイン語圏の特徴を概観する。
2	文字と発音	スペイン語の文字と発音のルールを習得する。
3	音節と強勢	音節と強勢のルールを習得する。
4	名詞と冠詞	名詞と冠詞の用法を習得する。
5	人称代名詞と動詞 ser (現在形)	人称代名詞の種類と、動詞 ser の現在形の活用と用法を習得する。
6	動詞 estar (現在形)	動詞 estar の現在形の活用と用法を習得する。
7	形容詞と指示詞	形容詞と指示詞の用法を習得する。
8	現在形規則活用-ar 動詞	現在形の規則活用動詞である-ar 動詞の活用と、これに分類される各動詞の用法を習得する。
9	現在形規則活用-er 動詞と-ir 動詞	現在形の規則活用動詞である-er 動詞と-ir 動詞の活用と、これらに分類される各動詞の用法を習得する。
10	疑問詞と時刻表現	主な疑問詞の用法と時刻の表現を習得する。
11	前置詞と天候表現	主な前置詞の用法と天候の表現を習得する。
12	現在形不規則活用	現在形の不規則活用動詞の活用と用法を習得する。
13	目的格	目的格の用法を習得する。
14	学期末試験	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の予習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

木村琢也・柳田玲奈『スペイン語へのとびら』朝日出版社、2012 年、ISBN9784255550527、本体価格 2,000 円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題： 20 %、小テスト： 20 %、学期末試験： 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人一人の理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1 つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること（紙の辞書でも電子辞書でも可。ただしスマートフォンのアプリなど、通信のできる機器の使用は原則として認めない）。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 Ⅱ

2016 年度以前入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 営 1 年 M～Q

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

【到達目標】

スペイン語の初級文法と基本的語彙を習得し、スペイン語圏の歴史・文化・社会への理解に基づいて、平易な文章の読み書きができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	動詞 <i>gustar</i> と所有詞	動詞 <i>gustar</i> と所有詞の用法を習得する。
3	比較級と最上級	比較級と最上級の用法を習得する。
4	再帰動詞	再帰動詞の用法を習得する。
5	点過去形規則活用	点過去形の規則活用と用法を習得する。
6	点過去形不規則活用	点過去形の不規則活用と用法を習得する。
7	数詞と月日・曜日	数詞および月日と曜日の表現を習得する。
8	感嘆文と不定語・否定語	感嘆文および不定語と否定語の用法を習得する。
9	線過去形	線過去形の活用と用法を習得する。
10	過去時制のまとめ	点過去形と線過去形の用法を整理する。
11	現在分詞と進行形	現在分詞と進行形の用法を習得する。
12	過去分詞と完了形	過去分詞と完了形の用法を習得する。
13	受動表現	受動表現を習得する。
14	学期末試験	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の予習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

木村琢也・柳田玲奈『スペイン語へのとびら』朝日出版社、2012 年、ISBN9784255550527、本体価格 2,000 円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題： 20 %、小テスト： 20 %、学期末試験： 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人一人の理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1 つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること（紙の辞書でも電子辞書でも可。ただしスマートフォンのアプリなど、通信のできる機器の使用は原則として認めない）。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2 I

2016 年度以前入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 1 年 T・U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

【到達目標】

スペイン語の初級文法と基本的語彙を習得し、スペイン語圏の歴史・文化・社会への理解に基づいて、平易な文章の読み書きができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、導入としてスペイン語とスペイン語圏の特徴を概観する。
2	文字と発音	スペイン語の文字と発音のルールを習得する。
3	音節と強勢	音節と強勢のルールを習得する。
4	名詞と冠詞	名詞と冠詞の用法を習得する。
5	人称代名詞と動詞 ser (現在形)	人称代名詞の種類と、動詞 ser の現在形の活用と用法を習得する。
6	動詞 estar (現在形)	動詞 estar の現在形の活用と用法を習得する。
7	形容詞と指示詞	形容詞と指示詞の用法を習得する。
8	現在形規則活用- ar 動詞	現在形の規則活用動詞である- ar 動詞の活用と、これに分類される各動詞の用法を習得する。
9	現在形規則活用- er 動詞と- ir 動詞	現在形の規則活用動詞である- er 動詞と- ir 動詞の活用と、これらに分類される各動詞の用法を習得する。
10	疑問詞と時刻表現	主な疑問詞の用法と時刻の表現を習得する。
11	前置詞と天候表現	主な前置詞の用法と天候の表現を習得する。
12	現在形不規則活用	現在形の不規則活用動詞の活用と用法を習得する。
13	目的格	目的格の用法を習得する。
14	学期末試験	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の予習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

木村琢也・柳田玲奈『スペイン語へのとびら』朝日出版社、2012 年、ISBN9784255550527、本体価格 2,000 円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題： 20 %、小テスト： 20 %、学期末試験： 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人一人の理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1 つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること（紙の辞書でも電子辞書でも可。ただしスマートフォンのアプリなど、通信のできる機器の使用は原則として認めない）。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語Ⅱ

2016 年度以前入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
営 1 年 T・U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

【到達目標】
スペイン語の初級文法と基本的語彙を習得し、スペイン語圏の歴史・文化・社会への理解に基づいて、平易な文章の読み書きができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	動詞 <i>gustar</i> と所有詞	動詞 <i>gustar</i> と所有詞の用法を習得する。
3	比較級と最上級	比較級と最上級の用法を習得する。
4	再帰動詞	再帰動詞の用法を習得する。
5	点過去形規則活用	点過去形の規則活用と用法を習得する。
6	点過去形不規則活用	点過去形の不規則活用と用法を習得する。
7	数詞と月日・曜日	数詞および月日と曜日の表現を習得する。
8	感嘆文と不定語・否定語	感嘆文および不定語と否定語の用法を習得する。
9	線過去形	線過去形の活用と用法を習得する。
10	過去時制のまとめ	点過去形と線過去形の用法を整理する。
11	現在分詞と進行形	現在分詞と進行形の用法を習得する。
12	過去分詞と完了形	過去分詞と完了形の用法を習得する。
13	受動表現	受動表現を習得する。
14	学期末試験	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定範囲の予習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
木村琢也・柳田玲奈『スペイン語へのとびら』朝日出版社、2012 年、ISBN9784255550527、本体価格 2,000 円。

【参考書】
適宜、教場に紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
宿題および授業時間内の課題： 20 %、小テスト： 20 %、学期末試験： 60 %。

【学生の意見等からの気づき】
学習事項の着実な習得のために、受講者一人一人の理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1 つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること（紙の辞書でも電子辞書でも可。ただしスマートフォンのアプリなど、通信のできる機器の使用は原則として認めない）。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語（Ⅰ）Ⅰ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語（Ⅰ）Ⅰ

2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	<i>ser</i> 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	<i>estar</i> 動詞、 <i>hay</i> + 名詞
7	第 4 課	<i>ser</i> と <i>estar</i> の比較、 <i>estar</i> と <i>hay</i> の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞- <i>ar</i> 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 <i>a</i>
10	第 6 課	規則動詞- <i>er</i> 動詞、- <i>ir</i> 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課	目的格人称代名詞
13	第 7 課	<i>gustar</i> 型動詞の活用
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨールⅠ 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹（ほか）（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】
『西和中辞典』（小学館）
『わかるスペイン語』西川喬（同学社）
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることもある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】
Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語（1）Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語（1）Ⅱ

2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 (1)Ⅰ から連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 8 課	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課	現在完了の活用と用法
8	第 12 課	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課	点過去（不規則）1
11	第 13 課	点過去（不規則）2
12	第 14 課	再帰動詞の点過去
13	第 14 課	線過去
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨールⅠ ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）
『わかるスペイン語』西川喬（同学社）
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語（1）Ⅰ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語（1）Ⅰ

2016 年度以前入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語をマスターするためにスペイン語の文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書にそって進む。
教科書は文法が中心で練習問題も充実しているので、教科書をしっかりと学習していただきたい。各課の簡単な会話文を暗記して日常的な表現を身につける。この暗記を含めて、かなり頻繁に小テストを実施する予定である。スペイン語圏の文化については適宜に DVD や CD などを使って紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Lección 1	アルファベットの読み方、母音の発音と種類
2	Lección 1	子音の発音、アクセント、音節の区切り方基数①
3	Lección 2	名詞、冠詞
4	Lección 2	形容詞動詞
5	Lección 3	主格人称代名詞、直説法現在－規則動詞の活用
6	Lección 3	肯定文・疑問文・否定文、目的語と前置詞 a、基数②
7	Lección 4	動詞 ser、estar、hay
8	Lección 4	前置詞 a、de＋定冠詞 el、疑問詞
9	Lección 5	直説法現在－不規則活用（一人称だけが不規則な動詞）
10	Lección 5	指示詞、-mente の副詞、感嘆文、序数詞
11	Lección 6	直説法現在－不規則活用（語幹母音変化動詞）、接続詞
12	Lección 6	所有詞
13	Lección 7	直説法現在－不規則活用（その他の不規則動詞）、基数詞③
14	振り返り	1 課～7 課の復習（特に直説法現在の活用の確認）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみる。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書く。このような地道な練習をすることでスペイン語が身についていきます。辞書の引きかたを学んだ後には、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。単語帳を作ると便利である。

【テキスト（教科書）】

和佐敦子著、『初級スペイン語文法』、朝日出版社 ISBN978-4-255-55077-0 C1087

【参考書】

特になし。教科書をしっかりと学習すること。

【成績評価の方法と基準】

提出物、授業への参加度、小テストが 50%、期末テストが 50%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

文法の学習にもっと力を入れたいので、シンプルであるが、しっかりと文法を学べる教科書を選びました。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline and objectives】
Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語（１）Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語（１）Ⅱ

2016 年度以前入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語基礎文法の習得（直説法現在から直説法の過去へ）。

【到達目標】

- 1) スペイン語文法でも目的格人称代名詞の使い方は複雑である。これを習得した上で、**gustar** 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なる表現の仕方を理解する。
- 2) 直説法現在完了と直説法点過去の活用と用法をマスターして使い分けができるようにする。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書にそって進む。

教科書は文法が中心で、練習問題も充実しているので、教科書をしっかりと学習する。各課の簡単な会話文は暗記して、日常的な表現を身につけていただきたい。この暗記を含めて、かなり頻繁に小テストを実施する予定である。スペイン語圏の文化については、適宜に DVD や CD などを使って紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習問題を解く
2	Lección 7	目的格人称代名詞、基数詞③
3	Lección 8	前置詞、前置詞格人称代名詞
4	Lección 8	gustar 型動詞
5	Lección 9	再帰動詞
6	Lección 9	無人称文、日付・曜日の表現
7	Lección 10	不定詞
8	Lección 10	現在分詞、過去分詞
9	Lección 11	現在完了、受動文
10	Lección 11	直説法点過去－規則動詞、縮小辞と増大辞
11	Lección 12	直説法点過去－不規則動詞
12	Lección 12	知覚・使役・放任・命令・許可の動詞
13	Lección 12	不定語と否定語
14	振り返り	第7課から第12課までの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切です。このレベルになると、さらなる復習が必要になります。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、実際に書いてみる。新しい活用や新しい単語は、最低、10 回は書く。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身についていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨むこと。引き続き、単語を整理を兼ねて、単語帳を作ること。

【テキスト（教科書）】

和佐敦子著、『初級スペイン語文法』、朝日出版社 ISBN978-4-255-55077-0 C1087

【参考書】

特になし。教科書をしっかりと学習すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点（提出物、小テスト、出席）50%、期末テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

大学の授業として、ある程度の内容は維持しなければならないが、練習問題などをより多く取り入れて、文法の理解のさらなる向上に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー。

【Outline and objectives】

Spanish for beginners.

LANs100LA

スペイン語 (2) I 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 (2) I 2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 (2) II 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 (2) II 2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、 estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar , salir 、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞（ yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞（ yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 (2) I2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 (2) I2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

【到達目標】
現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようになる。
The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
文法の説明と設問の練習など。Grammatical explanation and practicing sentences.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペイン語には名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえたうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと

【テキスト（教科書）】
Ahora tu

【参考書】
「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】
テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

【学生の意見等からの気づき】
なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する

【Outline and objectives】
In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.

LANs100LA

スペイン語 (2) II2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 (2) II2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences.

【到達目標】
スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話を業に慣れる
Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施
Practicing exercises and gramattical explanation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくる。

【テキスト（教科書）】
Ahora tu

【参考書】
「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】
テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと

【Outline and objectives】
スペイン語で会話を構成したり、文章を書いたりすることを目的とする
To structure conversation in Spanish and write sentences

LANs100LA

スペイン語 1 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 2016 年度以前入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20 %)、期末試験 (60 %) を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

スペイン語 3 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 3 2016 年度以前入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20 %)、期末試験 (60 %) を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

スペイン語2 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語2 2016 年度以前入学者

佐々木 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20 %)、期末試験 (60 %) を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

スペイン語4 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語4 2016 年度以前入学者

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、小テスト (20 %)、期末試験 (60 %) を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

LANs100LA

スペイン語5 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語5 2016 年度以前入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項と語彙・表現の知識を生かしながら、簡単な読み書きができるようになることを目指す。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行う。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ。
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ。
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ。
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ。
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ。
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ。
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ。
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ。
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ。
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ。
13	接続詞と比較の学習	スペイン語の接続詞と、形容詞・副詞の比較について学ぶ。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の予習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

- エンリケ・アルマラスほか『ブラサ・マヨール I 改訂版』朝日出版社、2018 年、ISBN9784255550985、本体価格 2,100 円。
- 西村君代ほか『レベル別 スペイン語文法ドリル』朝日出版社、2009 年、ISBN9784255550282、本体価格 1,600 円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題：20 %、小テスト：20 %、期末試験：60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人一人の理解度をこまめに確認する。

【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading and writing easy Spanish text.

LANs100LA

スペイン語6 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語6 2016 年度以前入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、文法事項の知識と語彙・表現のさらなる充実によって、読み書き能力の向上を目指す。

【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則形）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則形）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の予習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

- エンリケ・アルマラスほか『ブラサ・マヨール I 改訂版』朝日出版社、2018 年、ISBN9784255550985、本体価格 2,100 円。
- 西村君代ほか『レベル別 スペイン語文法ドリル』朝日出版社、2009 年、ISBN9784255550282、本体価格 1,600 円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題：20 %、小テスト：20 %、期末試験：60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人一人の理解度をこまめに確認する。

【Outline and objectives】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading and writing Spanish text.

LANs100LA

スペイン語 1

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1

2016 年度以前入学者

佐々木 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

【到達目標】

スペイン語の初級文法と基本的語彙を習得し、スペイン語圏の歴史・文化・社会への理解に基づいて、平易な文章の読み書きができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。

ペアあるいはグループによるスペイン語会話の練習も頻繁に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、導入としてスペイン語とスペイン語圏の特徴を概観する。
2	文字と発音	スペイン語の文字と発音のルールを習得する。
3	音節と強勢	音節と強勢のルールを習得する。
4	名詞と冠詞	名詞と冠詞のルールを習得する。
5	人称代名詞と直説法現在 ser 動詞	人称代名詞の種類と、動詞 ser の現在形の活用と用法を習得する。
6	直接法現在 estar 動詞	動詞 estar の現在形の活用と用法を習得する。
7	形容詞と指示詞	形容詞と指示詞の用法を習得する。
8	直説法現在 -ar 動詞規則活用と用法	現在形の規則活用動詞である -ar 動詞の活用と、これに分類される各動詞の用法を習得する。
9	直説法現在 -er 動詞, -ir 動詞規則活用と用法	現在形の規則活用動詞である -er 動詞と -ir 動詞の活用と、これらに分類される各動詞の用法を習得する。
10	疑問詞と時刻表現	主な疑問詞の用法と時刻の表現を習得する。
11	前置詞と天候の表現	主な前置詞の用法と天候の表現を習得する。
12	直説法現在不規則活用と用法	現在形の不規則活用動詞の活用と用法を習得する。
13	目的格	目的格の用法を習得する。
14	期末試験	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の予習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

木村琢也・柳田玲奈『スペイン語へのとびら』朝日出版社、2012 年、ISBN9784255550527、本体価格 2,000 円。

【参考書】

自主学習用に練習問題集を希望する場合は、『レベル別スペイン語ドリル』（朝日出版）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の課題：20 %、小テスト：20 %、学期末試験：60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人一人の理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

西和辞典を必ず用意し、毎回の授業に持参すること（紙の辞書でも電子辞書でも可。ただしスマートフォンのアプリなど、通信のできる機器の使用は認めない）。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語3 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語3 2016 年度以前入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

【到達目標】

スペイン語の初級文法と基本的語彙を習得し、スペイン語圏の歴史・文化・社会への理解に基づいて、平易な文章の読み書きができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	動詞 <i>gustar</i> と所有詞	動詞 <i>gustar</i> と所有詞の用法を習得する。
3	比較級と最上級	比較級と最上級の用法を習得する。
4	再帰動詞	再帰動詞の用法を習得する。
5	点過去形規則活用	点過去形の規則活用と用法を習得する。
6	点過去形不規則活用	点過去形の不規則活用と用法を習得する。
7	数詞と月日・曜日	数詞および月日と曜日の表現を習得する。
8	感嘆文と不定語・否定語	感嘆文および不定語と否定語の用法を習得する。
9	線過去形	線過去形の活用と用法を習得する。
10	過去時制のまとめ	点過去形と線過去形の用法を整理する。
11	現在分詞と進行形	現在分詞と進行形の用法を習得する。
12	過去分詞と完了形	過去分詞と完了形の用法を習得する。
13	受動表現	受動表現を習得する。
14	学期末試験	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の予習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

木村琢也・柳田玲奈『スペイン語へのとびら』朝日出版社、2012 年、ISBN9784255550527、本体価格 2,000 円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題：20 %、小テスト：20 %、学期末試験：60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人一人の理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1 つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること（紙の辞書でも電子辞書でも可。ただしスマートフォンのアプリなど、通信のできる機器の使用は原則として認めない）。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語2 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語2 2016 年度以前入学者

ピエダッド・ガルシア・ルイス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語を第 1 外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、特にアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語であり、スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことである。

【到達目標】

基礎文法の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スペイン語の基本文法を学ぶ。毎回、初出の事項ばかりなので、出席することがとても重要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	発音	スペイン語の発音に慣れよう。
2.	名詞	スペイン語の名詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
3.	形容詞	スペイン語の形容詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
4.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
5.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
6.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
7.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
8.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
9.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
10.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
11.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
12.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
13.	復習	春学期文法事項のおさらいをする。
14.	期末試験	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること。

【テキスト（教科書）】

『超入門スペイン語』（大学書林）

【参考書】

『現代スペイン語辞典』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的活用

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 4

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 4

2016 年度以前入学者

ピエダッド・ガルシア・ルイス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語を第 1 外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、特にアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語であり、スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことである。

【到達目標】

基礎文法の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スペイン語の基本文法を学ぶ。毎回、初出の事項ばかりなので、出席することがとても重要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	過去分詞	スペイン語過去分詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
2.	直説法現在完了	スペイン語の現在完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
3.	直説法現在完了	スペイン語の現在完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
4.	現在分詞	スペイン語の現在分詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
5.	関係代名詞	スペイン語の関係代名詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
6.	直説法点過去	スペイン語の点過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
7.	直説法点過去	スペイン語の点過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
8.	直説法線過去	スペイン語の線過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
9.	直説法線過去	スペイン語の線過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
10.	直説法過去完了	スペイン語の過去完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
11.	直接法未来	スペイン語の未来形に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
12.	直説法未来完了	スペイン語の未来完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
13.	復習	春学期文法事項のおさらいをする。
14.	期末試験	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること。

【テキスト（教科書）】

『超入門スペイン語』（大学書林）

【参考書】

『現代スペイン語辞典』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的活用

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 1 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 2016 年度以前入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

【到達目標】

スペイン語の初級文法と基本的語彙を習得し、スペイン語圏の歴史・文化・社会への理解に基づいて、平易な文章の読み書きができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、導入としてスペイン語とスペイン語圏の特徴を概観する。
2	文字と発音	スペイン語の文字と発音のルールを習得する。
3	音節と強勢	音節と強勢のルールを習得する。
4	名詞と冠詞	名詞と冠詞の用法を習得する。
5	人称代名詞と動詞 ser （現在形）	人称代名詞の種類と、動詞 ser の現在形の活用と用法を習得する。
6	動詞 estar （現在形）	動詞 estar の現在形の活用と用法を習得する。
7	形容詞と指示詞	形容詞と指示詞の用法を習得する。
8	現在形規則活用- ar 動詞	現在形の規則活用動詞である- ar 動詞の活用と、これに分類される各動詞の用法を習得する。
9	現在形規則活用- er 動詞と- ir 動詞	現在形の規則活用動詞である- er 動詞と- ir 動詞の活用と、これらに分類される各動詞の用法を習得する。
10	疑問詞と時刻表現	主な疑問詞の用法と時刻の表現を習得する。
11	前置詞と天候表現	主な前置詞の用法と天候の表現を習得する。
12	現在形不規則活用	現在形の不規則活用動詞の活用と用法を習得する。
13	目的格	目的格の用法を習得する。
14	学期末試験	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の予習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

木村琢也・柳田玲奈『スペイン語へのとびら』朝日出版社、2012 年、ISBN9784255550527、本体価格 2,000 円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題：20 %、小テスト：20 %、学期末試験：60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人一人の理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1 つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること（紙の辞書でも電子辞書でも可。ただしスマートフォンのアプリなど、通信のできる機器の使用は原則として認めない）。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語3 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語3 2016 年度以前入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

【到達目標】

スペイン語の初級文法と基本的語彙を習得し、スペイン語圏の歴史・文化・社会への理解に基づいて、平易な文章の読み書きができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	動詞 <i>gustar</i> と所有詞	動詞 <i>gustar</i> と所有詞の用法を習得する。
3	比較級と最上級	比較級と最上級の用法を習得する。
4	再帰動詞	再帰動詞の用法を習得する。
5	点過去形規則活用	点過去形の規則活用と用法を習得する。
6	点過去形不規則活用	点過去形の不規則活用と用法を習得する。
7	数詞と月日・曜日	数詞および月日と曜日の表現を習得する。
8	感嘆文と不定語・否定語	感嘆文および不定語と否定語の用法を習得する。
9	線過去形	線過去形の活用と用法を習得する。
10	過去時制のまとめ	点過去形と線過去形の用法を整理する。
11	現在分詞と進行形	現在分詞と進行形の用法を習得する。
12	過去分詞と完了形	過去分詞と完了形の用法を習得する。
13	受動表現	受動表現を習得する。
14	学期末試験	学期末試験を実施し、今学期の最終的な理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の予習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

木村琢也・柳田玲奈『スペイン語へのとびら』朝日出版社、2012 年、ISBN9784255550527、本体価格 2,000 円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題：20 %、小テスト：20 %、学期末試験：60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人一人の理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1 つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること（紙の辞書でも電子辞書でも可。ただしスマートフォンのアプリなど、通信のできる機器の使用は原則として認めない）。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語2 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語2 2016 年度以前入学者

ピエダッド・ガルシア・ルイス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語を第 1 外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、特にアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語であり、スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことである。

【到達目標】

基礎文法の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スペイン語の基本文法を学ぶ。毎回、初出の事項ばかりなので、出席することがとても重要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	発音	スペイン語の発音に慣れよう。
2.	名詞	スペイン語の名詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
3.	形容詞	スペイン語の形容詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
4.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
5.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
6.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
7.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
8.	直接法現在	スペイン語の直接法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
9.	直接法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
10.	直説法現在	スペイン語の直説法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
11.	直説法現在	スペイン語の直接法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
12.	直説法現在	スペイン語の直接法現在に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
13.	復習	春学期文法事項のおさらいをする。
14.	期末試験	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること。

【テキスト（教科書）】

『超入門スペイン語』（大学書林）

【参考書】

『現代スペイン語辞典』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的活用

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 4

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 4

2016 年度以前入学者

ピエダッド・ガルシア・ルイス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
国 1 年非 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語を第 1 外国語とする学生を対象とするクラスである。スペイン語は英語圏、特にアメリカ合衆国で急速に話者人口が増えている言語であり、スペイン語を習得することは、英語を専攻する学生にとっても大変有益なことである。

【到達目標】

基礎文法の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スペイン語の基本文法を学ぶ。毎回、初出の事項ばかりなので、出席することがとても重要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	過去分詞	スペイン語過去分詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
2.	直説法現在完了	スペイン語の現在完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
3.	直説法現在完了	スペイン語の現在完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
4.	現在分詞	スペイン語の現在分詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
5.	関係代名詞	スペイン語の関係代名詞に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
6.	直説法点過去	スペイン語の点過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
7.	直説法点過去	スペイン語の点過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
8.	直説法線過去	スペイン語の線過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
9.	直説法線過去	スペイン語の線過去に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
10.	直説法過去完了	スペイン語の過去完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
11.	直説法未来	スペイン語の未来形に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
12.	直説法未来完了	スペイン語の未来完了に関する説明のあと、練習問題を通じて理解を深める。
13.	復習	春学期文法事項のおさらいをする。
14.	期末試験	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること。

【テキスト（教科書）】

『超入門スペイン語』（大学書林）

【参考書】

『現代スペイン語辞典』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的活用

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 1 - I2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 - I2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年 G～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【Outline and objectives】
In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 - II2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 - II2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年 G～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 1 I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、 estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar 、 salir 、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞（ yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞（ yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【Outline and objectives】
In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 - I 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 - II 2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 - II 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 - II 2016 年度以前入学者

バリエントス ロドリゲス ジョン ダビッ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
環 1 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 1 I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、 estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar , salir 、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞（ yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞（ yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen	今までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

LANs100LA

スペイン語 1 - I2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 - I2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
キ 1 年 A～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

【到達目標】
現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。
The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
文法の説明と設問の練習など。Grammatical explanation and practicing sentences.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの練習
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音や読み方の練習
3	名詞の性と数	スペイン語の名詞の性についての説明と数の変化に伴う変化についての説明
4	名詞の性と数	スペイン語の名詞の性についての説明と数の変化に伴う変化についての説明。練習問題
5	ser 動詞について	～であるという意味をもつ ser 動詞についての説明と練習問題の実施
6	ser 動詞について	～であるという意味をもつ ser 動詞についての説明と練習問題の実施
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞についての説明
9	estar 動詞の現在形について	estar 動詞の使い方についての説明
10	estar 動詞の現在形について	estar 動詞の使い方についての説明と練習
11	ser と estar の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	指示形容詞と hay と estar について	指示形容詞と hay と estar についての文法的説明を踏まえて練習問題をこなす
13	現在形規則動詞 AR 型	現在形規則動詞についての説明
14	現在形規則動詞 ER 型と IR 型	現在形規則動詞についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題を適宜出すので、復讐は勿論宿題は必ずやっておくこと

【テキスト（教科書）】
Ahora tu

【参考書】
「新版スペイン語入門」

【成績評価の方法と基準】
テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

【学生の意見等からの気づき】
なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する

【Outline and objectives】
In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.

LANs100LA

スペイン語 1 - II2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 - II2016 年度以前入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
キ 1 年 A～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする
Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences.

【到達目標】
スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話を業に慣れる
Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施
Practicing exercises and gramattical expansion

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみ	現在形で一人称単数のみ
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくること。

【テキスト（教科書）】
Ahora tu

【参考書】
「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】
テスト 60 %、平常点（参加態度）40 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。

【Outline and objectives】
スペイン語で会話を構成したり、文章を書いたりすることを目的とする
To structure conversation in Spanish and write sentences

LANs100LA

スペイン語 1 - I 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 - I 2016 年度以前入学者

ピエダッド・ガルシア・ルイス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
キ 1 年 I～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法

【到達目標】
学生が、スペイン語の基本的な文法知識を身に付けることに主眼を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部
： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
所定のテキストに沿いながら、文法の学習を中心に進め、同時に正確な発音
やイントネーションにも気を付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	初級文法	オリエンテーション アルファベットと発音
2	初級文法	アクセント あいさつ
3	初級文法	主格人称代名詞 名詞の性と数
4	初級文法	冠詞 形容詞
5	初級文法	ser の直説法現在 所有形容詞（前置形）
6	初級文法	estar の直説法現在 ser + 形容詞と estar + 形容詞の比較
7	初級文法	疑問文と否定文 動詞 hay
8	初級文法	復習
9	初級文法	hay と estar の比較 直説法現在規則活用動詞
10	初級文法	直接目的語と前置詞 a 一人称単数形のみ不規則活用をする動 詞
11	初級文法	天候を表す hace 主な前置詞
12	初級文法	指示形容詞 指示代名詞
13	初級文法	語幹母音変化動詞 querer と poder の用法
14	初級文法	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習

【テキスト（教科書）】
i Por supuesto!
もちろん！ スペイン語
（著 者）内田千重子
（出版社）同学社

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
オリジナル補助教材のより積極的活用

【Outline and objectives】
This course is designed to provide students with an understanding of
elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies
and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 1 - II 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 1 - II 2016 年度以前入学者

ピエダッド・ガルシア・ルイス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
キ 1 年 I～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法

【到達目標】
春学期からの継続の授業ということで、授業のレベルは多少高くなりますが、
基本的な目標は春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部
： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初は、既に春学期で学習した事柄の中から、必要事項を復習します。その
後は、新たな文法事項を学習し、よりレベルの高い作文能力を身に付けるた
めの練習を行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	初級文法	その他の主要な不規則活用動詞 tener と ir の用法
2	初級文法	所有形容詞（後置形） 目的格人称代名詞
3	初級文法	前置詞格人称代名詞 gustar 型動詞
4	初級文法	再帰動詞 時間の表現
5	初級文法	無人称表現 不定語と否定語
6	初級文法	過去分詞 直説法現在完了
7	初級文法	復習
8	初級文法	現在分詞 疑問詞
9	初級文法	直説法点過去規則活用 比較級
10	初級文法	最上級 絶対最上級
11	初級文法	直説法点過去不規則活用 時間の経過を表す hace
12	初級文法	主な関係詞 直説法線過去
13	初級文法	点過去と線過去の比較 直説法過去完了
14	初級文法	直説法未来と過去未来 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習

【テキスト（教科書）】
i Por supuesto!
もちろん！ スペイン語
（著 者）内田千重子
（出版社）同学社

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
オリジナル補助教材のより積極的活用

【Outline and objectives】
This course is designed to provide students with an understanding of
elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies
and cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 2-I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2-I

2016 年度以前入学者

松尾 俊輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年 G～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年間かけて基礎的なスペイン語運用能力を身に付けるとともに、スペイン・ラテンアメリカの豊かな文化と歴史に触れる道を開く。

【到達目標】

初級文法を各項目ごとにひとつひとつ押さえていきながら、スペイン語世界で通用する実践的なコミュニケーション能力（読む／書く／話す／聞く）の基礎を身に付ける。

春学期の授業では、発音や簡単な挨拶から始め、初歩的な動詞を用いた現在の形の単純な文章を作ることができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には指定の教科書に沿って授業を進める。また必要に応じて適宜プリントなどを配布し補足する。毎回の授業は、小テスト → 講義 → 練習問題（→ 授業外での復習）というサイクルで構成される。このサイクルを地道に繰り返しながら、こつこつ学んでいくことが重要である。また時間に余裕があれば、スペイン語圏の映画などを題材に、生きたスペイン語とその世界に触れる機会を持つ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	スペイン語とスペイン語世界
第 2 回	発音	アルファベット／発音／アクセントのルール
第 3 回	挨拶	挨拶
第 4 回	第一課①	主語代名詞／動詞 ser ①
第 5 回	第一課②	名詞
第 6 回	第二課	形容詞／動詞 estar ①／動詞 ser ②
第 7 回	第三課①	冠詞
第 8 回	第三課②	存在を表す hay／動詞 estar ②
第 9 回	中間まとめ	第三課までのおさらい／スペイン語世界に触れる
第 10 回	第四課①	規則動詞
第 11 回	第四課②	目的語につく前置詞 a／時刻の表現
第 12 回	第五課①	間接目的語・直接目的語の人称代名詞
第 13 回	第五課②	不規則動詞 I
第 14 回	期末まとめ	第五課までのおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要だが、必ず前回の授業で学んだことを復習し、小テストに備えること。

【テキスト（教科書）】

宇野和美ほか『イデアル』同学社、2016 年、2600 円＋税
加えて、西和辞書を必ず入手すること。下記のものを紹介するが、他のものや電子辞書に収録されているものでも構わない。ただし、無料のオンライン辞書等の使用は認めない。

【参考書】

『西和中辞典【第 2 版】』小学館、2007 年、6600 円＋税 なお、この辞書にはアプリ版（iOS 版のみ）もある。

【成績評価の方法と基準】

毎回小テストを行い、各項目についての理解度・修得度を測る。この小テストの成績を中心に、授業への参加度と期末試験の成績を加味して評価を行う。それぞれの内訳は以下の通りである。

平常点：20 %

小テスト：60 %

期末試験：20 %

【学生の意見等からの気づき】

使用するテキストをより新しく、また実際の学習範囲に即したものに変更した。

【その他の重要事項】

スペイン語やスペイン語圏諸国に関することなどで質問や相談があれば、できる限りお答えしますので気軽に声を掛けてください。

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners to learn the basic Spanish grammar and its practical usage in the Spanish-speaking world. It will also open up the eyes of the students to the rich culture and history of Spain and Latin America.

LANs100LA

スペイン語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2 - II

2016 年度以前入学者

松尾 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年 G～L

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年間かけて基礎的なスペイン語運用能力を身に付けるとともに、スペイン・ラテンアメリカの豊かな文化と歴史に触れる道を開く。

【到達目標】

初級文法を各項目ごとにひとつひとつ押さえていきながら、スペイン語世界で通用する実践的なコミュニケーション能力（読む／書く／話す／聞く）の基礎を身に付ける。

秋学期の授業では、諸々の現在形不規則動詞から過去形までの文法事項を学びながら、より複雑な構文に慣れるとともに、実際の生活に即した重要な単語や表現の習得に努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には指定の教科書に沿って授業を進める。また必要に応じて適宜プリントなどを配布し補足する。毎回の授業は、小テスト → 講義 → 練習問題（→ 授業外での復習）というサイクルで構成される。このサイクルを地道に繰り返しながら、こつこつ学んでいくことが重要である。また時間に余裕があれば、スペイン語圏の映画などを題材に、生きたスペイン語とその世界に触れる機会を持つ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	春学期の復習
第 2 回	第六課①	不規則動詞 II
第 3 回	第六課②	所有形容詞／指示形容詞
第 4 回	第七課	不規則動詞 III／動詞の原形と目的語人 称代名詞
第 5 回	第八課	再帰代名詞を伴う動詞
第 6 回	第九課①	gustar 型動詞
第 7 回	第九課②	比較表現
第 8 回	中間まとめ	第九課までのおさらい／スペイン語世界に触れる
第 9 回	第十課①	過去分詞／現在完了
第 10 回	第十課②	現在分詞
第 11 回	第十一課①	点過去①
第 12 回	第十一課②	点過去②
第 13 回	第十二課	線過去／接続詞
第 14 回	期末まとめ	第十二課までのおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要だが、必ず前回の授業で学んだことを復習し、小テストに備えること。

【テキスト（教科書）】

宇野和美ほか『イデアル』同社、2016 年、2600 円＋税

加えて、西和辞書を必ず入手すること。下記のものを紹介するが、他のものや電子辞書に収録されているものでも構わない。ただし、無料のオンライン辞書等の使用は認めない。

【参考書】

『西和中辞典【第 2 版】』小学館、2007 年、6600 円＋税 なお、この辞書にはアプリ版（iOS 版のみ）もある。

【成績評価の方法と基準】

毎回小テストを行い、各項目についての理解度・修得度を測る。この小テストの成績を中心に、授業への参加度と期末試験の成績を加味して評価を行う。それぞれの内訳は以下の通りである。

平常点：20 %

小テスト：60 %

期末試験：20 %

【学生の意見等からの気づき】

使用するテキストをより新しく、また実際の学習範囲に即したものに変更した。

【その他の重要事項】

スペイン語やスペイン語圏諸国に関することなどで質問や相談があれば、できる限りお答えしますので気軽に声を掛けてください。

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners to learn the basic Spanish grammar and its practical usage in the Spanish-speaking world. It will also open up the eyes of the students to the rich culture and history of Spain and Latin America.

LANs100LA

スペイン語 2-I

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2-I

2016 年度以前入学者

松尾 俊輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
環 1 年 A~F**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

1 年間かけて基礎的なスペイン語運用能力を身に付けるとともに、スペイン・ラテンアメリカの豊かな文化と歴史に触れる道を開く。

【到達目標】

初級文法を各項目ごとにひとつひとつ押さえていきながら、スペイン語世界で通用する実践的なコミュニケーション能力（読む／書く／話す／聞く）の基礎を身に付ける。

春学期の授業では、発音や簡単な挨拶から始め、初歩的な動詞を用いた現在の形の単純な文章を作ることができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には指定の教科書に沿って授業を進める。また必要に応じて適宜プリントなどを配布し補足する。毎回の授業は、小テスト → 講義 → 練習問題（→ 授業外での復習）というサイクルで構成される。このサイクルを地道に繰り返しながら、こつこつ学んでいくことが重要である。また時間に余裕があれば、スペイン語圏の映画などを題材に、生きたスペイン語とその世界に触れる機会を持つ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	スペイン語とスペイン語世界
第 2 回	発音	アルファベット／発音／アクセントのルール
第 3 回	挨拶	挨拶
第 4 回	第一課①	主語代名詞／動詞 ser ①
第 5 回	第一課②	名詞
第 6 回	第二課	形容詞／動詞 estar ①／動詞 ser ②
第 7 回	第三課①	冠詞
第 8 回	第三課②	存在を表す hay／動詞 estar ②
第 9 回	中間まとめ	第三課までのおさらい／スペイン語世界に触れる
第 10 回	第四課①	規則動詞
第 11 回	第四課②	目的語につく前置詞 a／時刻の表現
第 12 回	第五課①	間接目的語・直接目的語の人称代名詞
第 13 回	第五課②	不規則動詞 I
第 14 回	期末まとめ	第五課までのおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要だが、必ず前回の授業で学んだことを復習し、小テストに備えること。

【テキスト（教科書）】宇野和美ほか『イデアル』同学社、2016 年、2600 円＋税
加えて、西和辞書を必ず入手すること。下記のものを紹介するが、他のものや電子辞書に収録されているものでも構わない。ただし、無料のオンライン辞書等の使用は認めない。**【参考書】**

『西和中辞典【第 2 版】』小学館、2007 年、6600 円＋税 なお、この辞書にはアプリ版（iOS 版のみ）もある。

【成績評価の方法と基準】

毎回小テストを行い、各項目についての理解度・修得度を測る。この小テストの成績を中心に、授業への参加度と期末試験の成績を加味して評価を行う。それぞれの内訳は以下の通りである。

平常点：20 %

小テスト：60 %

期末試験：20 %

【学生の意見等からの気づき】

使用するテキストをより新しく、また実際の学習範囲に即したものに変更した。

【その他の重要事項】

スペイン語やスペイン語圏諸国に関することなどで質問や相談があれば、できる限りお答えしますので気軽に声を掛けてください。

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners to learn the basic Spanish grammar and its practical usage in the Spanish-speaking world. It will also open up the eyes of the students to the rich culture and history of Spain and Latin America.

LANs100LA

スペイン語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2 - II

2016 年度以前入学者

松尾 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
環 1 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年間かけて基礎的なスペイン語運用能力を身に付けるとともに、スペイン・ラテンアメリカの豊かな文化と歴史に触れる道を開く。

【到達目標】

初級文法を各項目ごとにひとつひとつ押さえていきながら、スペイン語世界で通用する実践的なコミュニケーション能力（読む／書く／話す／聞く）の基礎を身に付ける。

秋学期の授業では、諸々の現在形不規則動詞から過去形までの文法事項を学びながら、より複雑な構文に慣れるとともに、実際の生活に即した重要な単語や表現の習得に努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には指定の教科書に沿って授業を進める。また必要に応じて適宜プリントなどを配布し補足する。毎回の授業は、小テスト → 講義 → 練習問題（→ 授業外での復習）というサイクルで構成される。このサイクルを地道に繰り返しながら、こつこつ学んでいくことが重要である。また時間に余裕があれば、スペイン語圏の映画などを題材に、生きたスペイン語とその世界に触れる機会を持つ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	春学期の復習
第 2 回	第六課①	不規則動詞 II
第 3 回	第六課②	所有形容詞／指示形容詞
第 4 回	第七課	不規則動詞 III／動詞の原形と目的語人 称代名詞
第 5 回	第八課	再帰代名詞を伴う動詞
第 6 回	第九課①	gustar 型動詞
第 7 回	第九課②	比較表現
第 8 回	中間まとめ	第九課までのおさらい／スペイン語世界に触れる
第 9 回	第十課①	過去分詞／現在完了
第 10 回	第十課②	現在分詞
第 11 回	第十一課①	点過去①
第 12 回	第十一課②	点過去②
第 13 回	第十二課	線過去／接続詞
第 14 回	期末まとめ	第十二課までのおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要だが、必ず前回の授業で学んだことを復習し、小テストに備えること。

【テキスト（教科書）】

宇野和美ほか『イデアル』同社、2016 年、2600 円＋税

加えて、西和辞書を必ず入手すること。下記のものを紹介するが、他のものや電子辞書に収録されているものでも構わない。ただし、無料のオンライン辞書等の使用は認めない。

【参考書】

『西和中辞典【第 2 版】』小学館、2007 年、6600 円＋税 なお、この辞書にはアプリ版（iOS 版のみ）もある。

【成績評価の方法と基準】

毎回小テストを行い、各項目についての理解度・修得度を測る。この小テストの成績を中心に、授業への参加度と期末試験の成績を加味して評価を行う。それぞれの内訳は以下の通りである。

平常点：20 %

小テスト：60 %

期末試験：20 %

【学生の意見等からの気づき】

使用するテキストをより新しく、また実際の学習範囲に即したものに変更した。

【その他の重要事項】

スペイン語やスペイン語圏諸国に関することなどで質問や相談があれば、できる限りお答えしますので気軽に声を掛けてください。

【Outline and objectives】

This course is designed for beginners to learn the basic Spanish grammar and its practical usage in the Spanish-speaking world. It will also open up the eyes of the students to the rich culture and history of Spain and Latin America.

LANs100LA

スペイン語 2 - I 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2 - I 2016 年度以前入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年 A～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。音楽
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞、定冠詞、主語代名詞
5	職業、国籍	SER 直説法現在、疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞、品質形容詞、所有詞前置形
7	親族、ジェスチャー	TENER 直説法現在、疑問詞 I
8	位置関係、場所を表す副詞	指示形容詞、指示代名詞
9	数字 III. 序数、世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞 直説法現在、不規則動詞 (HACE,IR) 直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法、疑問詞 II
12	時間	前置詞
13	月と季節	語幹母音変化動詞 I
14	交通機関/予定	未来を表す IR A +不定詞 /動詞 SALIR. VENIR

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, Editorial Asahi. 2a. edición

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験及び平常点 40%

小テスト 30%

期末試験の結果 30%

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of Spanish-speaking countries. It aims to master conversation in addition to basic Spanish grammar learning. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 2 - II 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2 - II 2016 年度以前入学者

オスノ イジャネス デ ササクボ エルマヘネス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年 A～H

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	住居、天気表現	語幹母音変化動詞 II. 動詞 VOLVER,REPETIR
2	日常の習慣	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名
4	レシビ/レストランで	動詞 VER,SABER,CONOCER
5	衣服とアクセサリ、色	Saber +不定詞、PODER +不定詞、QUERER +不定詞,PODER +不定詞
6	クリスマス、買い物	間接目的人称代名詞、動詞 DAR,TRAER,DECIR
7	余暇活動 スポーツ	比較現在 I. 形容詞の比較/ 不規則な比較を持つ形容詞
8	スペイン語圏の国々のお祭り	動詞 GUSTAR. 活用
9	体の部分の名称	GUSTAR と同じように用いられる
10	状態	動詞 ENCAN-
11	体調、感情表現	TAR,INTERESAR,PARECER,IMPORTAR/
12	日常行われるスポーツ	比較現在 II/比較現在 III. 数量の比較
13	旅行	動詞 DOLER.ESTAR II
14	人の一生/言語	SER+形容詞.estar+形容詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 40%

小テスト 30%

期末試験の結果 30%

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline and objectives】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of Spanish-speaking countries. It aims to master conversation in addition to basic Spanish grammar learning. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

LANs100LA

スペイン語 2 - I 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2 - I 2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
キ 1 年 I～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser, estar, hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同公社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語 2 - II 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語 2 - II 2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
キ 1 年 I～P

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2-I から連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I 所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
2	所有形容詞 数字③	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞 数字（100～999）
3	動詞の不規則活用	直接目的格代名詞 動詞 gustar の用法 動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
4	数字④ 直接目的格代名詞	再帰動詞 無人称表現 時刻 天気① 天気②
5	gustar 動詞	直説法点過去 天気②
6	gustar 型動詞	直説法点過去 月の名前 直説法線過去 直説法線過去 点過去、線過去の対比
7	再帰動詞	再帰動詞
8	無人称表現 時刻 天気①	se を用いた無人称表現 時刻の言い方 天気①
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	天気②	天気②
11	直説法点過去 月	直説法点過去形の規則活用 月の名前
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の規則活用 点過去と線過去の対比
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同公社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】
Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA	
スペイン語補講 1－I	2017 年度以降入学者
LANs100LA	
スペイン語補講 1・2－I	2016 年度以前入学者
大貫 良史	

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞①	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	形容詞②	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser, estar, hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字①	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字②	数字（13～30）
14	試験	試験に向け、質問など 筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

【テキスト（教科書）】
泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】
『西和中辞典』（小学館）
『わかるスペイン語』西川喬（同学社）
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】
Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語補講 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語補講 1・2－Ⅱ

2016 年度以前入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語補講 1－Ⅰ から連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅰ
2	所有形容詞 数字③	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅱ tener que+ 不定詞
4	数字④ 直接目的格代名詞	数字（100～999） 直接目的格代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる 動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天気①	時刻の言い方 天気①の言い方Ⅰ
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	天気②	天気②の言い方Ⅱ
11	直説法点過去 月	直説法点過去形の不規則活用 月の名前
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比
14	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同人社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation

LANs100LA

スペイン語補講 1－Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語補講 1・2－Ⅰ 2016 年度以前入学者

岡本 年正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 法文堂環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初習者（再履修者）を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業である。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいく。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていく。

【到達目標】

スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。
 平易な事実の描写ができるようになる。
 スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈する。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をする。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用する。文法の補足や補充の練習問題は、プリントを用いる。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、アルファベットとあいさつ	授業概要説明、アルファベットと発音、あいさつの練習。
2	発音と文字の規則	発音と文字の規則を理解し、基本単語を覚える。あいさつの練習。
3	名詞の性と数	名詞の性と数を理解する。
4	冠詞と動詞 ser	冠詞を理解し、ser の用法を練習する。
5	形容詞	形容詞の理解と、指示形容詞、指示代名詞の練習。
6	所有形容詞、動詞 estar と hay	所有形容詞を覚えるほか、estar、hay の用法を理解し練習する。
7	復習と中間試験	第 1 課～第 3 課の復習、中間試験。
8	直接法現在規則動詞	直接法現在規則動詞の活用練習と用法の理解。
9	動詞 ir と tener、前置詞	動詞 ir と tener の活用と用法の練習、前置詞の理解。
10	1 人称単数不規則動詞	1 人称単数不規則動詞の活用練習と用法の理解。
11	直接目的語人称代名詞	直接目的語人称代名詞の用法を理解し練習する。
12	語幹母音変化動詞	語幹母音変化動詞の活用練習と用法の理解。
13	間接目的語人称代名詞	間接目的語人称代名詞の用法を理解し練習する。
14	復習と期末試験	第 4 課～第 6 課の復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を必要とする場合、また宿題に関しては適宜指示するが、復習を必ず行うこと。
 教科書を中心に学習すること。

【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹、二村久則、水戸博之『改訂版・ミラ！ (¡ Mira! -edición revisada-)』同学社

【参考書】

推薦辞書は以下。辞書は必携である。

『西和辞典』小学館
 『クラウン西和辞典』三省堂
 『プエルタ新スペイン語辞典』研究社
 『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下。必携ではない。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社
 瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト・中間試験を含む）60%、期末試験 40%

5 回以上の欠席、期末試験を受けなかったものは評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

The main objective of the lecture is to learn the basics of Spanish grammar.

LANs100LA

スペイン語補講 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語補講 1・2－Ⅱ

2016 年度以前入学者

岡本 年正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語補講 1－Ⅰからの継続である。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいく。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていく。

【到達目標】

現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。
好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。
平易な文章が読み、理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈する。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をする。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用する。文法の補足や補充の練習問題は、プリントを用いる。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、春学期復習	授業概要説明し、春学期の復習をする。
2	再帰動詞	再帰動詞の用法を理解し練習する。
3	時刻の表現	時刻の表現を理解し、再帰動詞と共に日常を表現する練習をする。
4	gustar 型動詞	gustar 型動詞を理解し練習する。
5	比較	比較級・最上級・絶対最上級を理解し練習する。
6	復習と中間試験	第 7 課、第 8 課と直接法現在形の復習、中間試験をする。
7	点過去規則動詞	点過去の用法を理解し、規則動詞の活用を練習する。
8	前置詞、同等比較	前置詞、同等比較を理解する。
9	点過去不規則動詞	点過去不規則動詞の活用を練習する。
10	不定語と否定語	不定語と否定語の用法を理解し練習する。
11	線過去	線過去の用法を理解し練習する。
12	点過去と線過去	点過去と線過去の違いを理解して使い分ける練習をする。
13	過去分詞、現在完了、過去完了	過去分詞の形を覚え、現在完了と過去完了の用法を覚え練習する。
14	復習と期末試験	第 9 課～第 12 課の復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を必要とする場合、また宿題に関しては適宜指示するが、復習を必ず行うこと。
教科書を中心に学習すること。

【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹、二村久則、水戸博之『改訂版・ミラ！ (j Mira! -edición revisada-)』同学社

【参考書】

推薦辞書は以下。辞書は必携である。
『西和中辞典』小学館
『クラウン西和辞典』三省堂
『ブルータ新スペイン語辞典』研究社
『現代スペイン語辞典』白水社
参考書は以下。必携ではない。
上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社
瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）60%、期末試験 40%
5 回以上の欠席、期末試験を受けなかったものは評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【Outline and objectives】

The main objective of the lecture is to learn the basics of Spanish grammar.

LANs100LA

スペイン語補講 2－Ⅰ2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語補講 1・2－Ⅰ2016 年度以前入学者

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語初級文法の復習。

【到達目標】
①スペイン語への興味・関心の向上。
②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。
各回テーマは飽くまで目安。理解度・進度に合わせ、内容を変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義内容説明。
第 2 回	名詞	性と数
第 3 回	定冠詞／不定冠詞	un/una, el/la unos/unas, los/las
第 4 回	形容詞／ hay	性と数
第 5 回	疑問文と否定文	疑問詞の種類・用法
第 6 回	直説法現在・規則動詞	ar 動詞
第 7 回	直説法現在・規則動詞	er,ir 動詞
第 8 回	直説法現在・不規則動詞	ser・estar
第 9 回	直説法現在・不規則動詞	語根母音変化
第 10 回	直説法現在・不規則動詞	その他不規則動詞
第 11 回	指示形容詞	指示形容詞／指示代名詞
第 12 回	所有形容詞	所有形容詞／所有代名詞
第 13 回	人称代名詞	間接目的格人称代名詞／直接目的人称代名詞
第 14 回	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は自由だが、復習をすること。

【テキスト（教科書）】
それぞれの課に合わせプリントを配布。

【参考書】
『超入門スペイン語』（大学書林）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】
スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline and objectives】
スペイン語の文法を中心に、学びながら、スペイン語圏の文化や習慣への関心・理解を促していく。

LANs100LA

スペイン語補講 2－Ⅱ2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語補講 1・2－Ⅱ2016 年度以前入学者

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期「スペイン語補講 2Ⅰ」からの継続。
引き続き文法中心の授業。

【到達目標】
①スペイン語への興味・関心の向上。
②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストの解説を中心に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。
各回テーマはあくまで目安。理解度・進度に応じて変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	gustar 型動詞	前置詞、gustar 動詞
第 2 回	再帰動詞	意味と活用
第 3 回	比較	比較級／最上級
第 4 回	現在分詞	活用方法
第 5 回	過去分詞	活用方法／現在完了
第 6 回	点過去	規則
第 7 回	点過去	不規則
第 8 回	線過去	規則／不規則
第 9 回	点過去・線過去復習	2つの過去形の違い／練習
第 10 回	過去完了	意味と活用
第 11 回	未来	規則／不規則
第 12 回	過去未来	規則／不規則
第 13 回	その他の完了形	未来完了／過去未来完了
第 14 回	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は自由だが、復習をすること。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『超入門スペイン語』（大学書林）。辞書については授業内で指示。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】
スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline and objectives】
春学期同様、興味関心を通じて語学習得に積極的になってもらえるよう、文化や習慣、音楽なども交えながら進めていく。

LANs100LA

スペイン語補講 2－Ⅰ 2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語補講 1・2－Ⅰ 2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をもう一度最初から学んでいく。

【到達目標】

①綴りを見て単語を発音することができる。②人の職業や国籍・出身地について述べるができる。③特定のものや人の所在について述べるができる。④人やものの性格・性質や状態について述べるができる。⑤直説法現在形の動詞の活用から不定詞を推測し、辞書を引くことができる。⑥ *querer*, *poder* などの動詞の用法を理解し、欲求、願望、可能、許可などについての表現ができる。⑦スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書に沿ってすすめる。文法事項の学習と問題演習を行ってゆく。受講生を指名して、音読、問題への解答を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを使って本授業について説明。
2	第 1 課	教科書 pp.8-9 : 発音とアクセント。
2	第 2 課	教科書 pp.10-11 : 名詞、冠詞、 <i>hay</i> 。
3	第 3 課	教科書 pp.12-13 : 主格人称代名詞、規則活用の動詞など。
4	第 4 課	教科書 pp.14-15 : 形容詞、動詞 <i>ser</i> 、疑問文など。
5	第 5 課	教科書 pp.16-17 : 所有形容詞前置形、動詞 <i>estar</i> 。
6	第 6 課	教科書 pp.18-19 : 1 人称単数のみ不規則な活用の動詞など。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 7 課	教科書 pp.20-21 : 指示形容詞と指示代名詞、語幹母音変化動詞。
9	第 8 課	教科書 pp.22-23 : 所有形容詞後置形と所有代名詞、目的格人称代名詞。
10	第 9 課	教科書 pp.24-25 : 時間の表現、5 つの不規則活用の動詞など。
11	第 10 課	教科書 pp.26-27 : 前置詞と名詞・代名詞、 <i>Gustar</i> 型の動詞など。
12	第 11 課	教科書 pp.28-29 : 再帰動詞 (1)、知覚・使役・放任の構文。
13	第 12 課	教科書 pp.30-31 : 再帰動詞 (2)、天候表現。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習を必ずやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。

【テキスト（教科書）】

廣澤明彦 (2019)『スペイン語 文法と練習』白水社
978-4-560-09953-7

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 % とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。

授業内容に関する質問は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

In this lesson we will learn basic Spanish, especially grammar from the beginning again.

LANs100LA

スペイン語補講 2-Ⅱ

2017 年度以降入学者

LANs100LA

スペイン語補講 1・2-Ⅱ

2016 年度以前入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

法文営環キ 2～3 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をもう一度最初から学んでいく。

【到達目標】

①過去形、現在完了形の用法を理解し、過去の行為、動作、状況について述べるができる。②再帰動詞の用法を理解し、日常生活について話すことができる。③ *gustar* 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べるができる。④人やものの性格・性質や状態について述べるができる。⑤日付・曜日の表現ができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書に沿ってすすめる。文法事項の学習と問題演習を行ってゆく。受講生を指名して、音読、問題への解答を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを使って本授業について説明。
2	第 13 課	教科書 pp.32-33 : 直説法点過去規則活用など。
3	第 14 課	教科書 pp.34-35 : 直説法点過去不規則活用、時の経過を表す表現など。
4	第 15 課	教科書 pp.36-37 : 過去分詞 (1) 直説法現在完了。
5	第 16 課	教科書 pp.38-39 : 過去分詞 (2) 名詞句で用いられる過去分詞、受動文。
6	第 17 課	教科書 pp.40-41 : 直説法線過去、-mente の副詞。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 18 課	教科書 pp.42-43 : 比較表現の基本的な型、現在分詞、進行形。
9	第 19 課	教科書 pp.44-45 : 注意すべき比較表現 (1)、直説法過去完了。
10	第 20 課	教科書 pp.46-47 : 直説法未来、注意すべき比較表現 (2)。
11	第 21 課	教科書 pp.48-49 : 直説法過去未来。
12	第 22 課	教科書 pp.50-51 : 関係代名詞 <i>que</i> ・ <i>el que</i> 、直説法未来完了。
13	第 23 課	教科書 pp.52-53 : その他の関係代名詞と用法、直説法過去未来完了。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習を必ずやる。予習としては、少なくともも分からない単語の意味を辞書で調べておく。

【テキスト（教科書）】

廣澤明彦 (2019)『スペイン語 文法と練習』白水社
978-4-560-09953-7

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 20%、中間試験 30%、期末試験 50 % とし、総合的に評価する。大幅な遅刻は欠席と見なす。欠席回数が 5 回に達すると、単位認定資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

【その他の重要事項】

授業中に飲食をしないこと、授業中に無断で教室から出ないこと、授業中は携帯電話は電源を切り、使用しないこと。

授業内容に関する質問は、授業中はもちろん、メールでも受け付ける。

etsuohasegawa@gmail.com

インフルエンザ、その他の法定伝染病の罹患、交通機関の障害、体育会運動部の活動など、欠席事由がやむを得ぬものとみなされる場合は成績評価に当たって配慮するが、可能なら上記アドレス宛に「事前に」申告すること。事前に申告することができない場合には、事後速やかに上記アドレス宛に申告すること。

【Outline and objectives】

In this lesson we will learn basic Spanish, especially grammar from the beginning again.

LANk100LA

朝鮮語 1 I 2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 1 I 2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 1 年 A～I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 II 2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 1 II 2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
法 1 年 A～I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 1 I2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 1 I2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
文 1 年 A～N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行います。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行います。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。
なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 II2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 1 II2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
文 1 年 A～N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。
なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 1 I 2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 1 I 2016 年度以前入学者

高橋 梓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
文 1 年 P～X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行います。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行います。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 II 2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 1 II 2016 年度以前入学者

高橋 梓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
文 1 年 P～X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 1 I2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 1 I2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
営 1 年 A～J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行います。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行います。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。
なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 II2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 1 II2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
営 1 年 A～J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。
なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

高橋 梓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
営 1 年 K～U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行います。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行います。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

高橋 梓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
営 1 年 K～U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 I2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 2 I2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
法 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行います。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行います。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。
なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 II2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 2 II2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
法 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。
なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 I 2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 2 I 2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
文 1 年 A～N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行います。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行います。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 II 2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 2 II 2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
文 1 年 A～N

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 I2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 2 I2016 年度以前入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 1 年 P～X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行います。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行います。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 II2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 2 II2016 年度以前入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
文 1 年 P～X

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 I 2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 2 I 2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 1 年 A～J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行います。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行います。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 II 2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 2 II 2016 年度以前入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 1 年 A～J

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 1 年 K～U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行います。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行います。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
営 1 年 K～U

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 (1) I 2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 (1) I 2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行います。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行います。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 % で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 (1) II 2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 (1) II 2016 年度以前入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 % で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語（2）Ⅰ2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語（2）Ⅰ2016 年度以前入学者

黒澤 朋子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行います。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行います。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。
なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 % で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語（2）Ⅱ2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語（2）Ⅱ2016 年度以前入学者

黒澤 朋子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
法 1 年 Y

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 % ずつ、合計 100 % として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。
なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 % に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 % で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANK100LA

朝鮮語 1

2017 年度以降入学者

LANK100LA

朝鮮語 1

2016 年度以前入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」「朝鮮語 2」「朝鮮語 5」は 3 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字その 1／子音字その 2
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字その 3／7 つの終声／用言の「ですます形」
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音化／疑問形と否定形／平音の濃音化
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／動詞の進行形と連体形／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形その 1／過去形その 2／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともうひとつの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／パンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のパンマルとヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言／動詞の過去連体形と未来連体形
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならない」／意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書については授業中に相談しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20 %，期末テスト 80 %によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

Students have to learn about 400 words in this semester.

LANk100LA

朝鮮語 32017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 32016 年度以前入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の学習内容を理解しているという前提で、文法と語彙をさらに学び、複雑な表現ができるようにつとめます。

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 3」「朝鮮語 6」「朝鮮語コミュニケーションⅠ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習，「やりもらい」
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形，禁止形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
5	第 3 課	文中の疑問形，方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオッ不規則用言，動詞のこそあどことは
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
8	第 5 課	用言の名詞形，いくつかの助詞
9	第 6 課	推量表現，大過去
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
11	第 7 課	「～しながら」，指定詞の第Ⅲ語基
12	第 8 課	用言の「である」形，間接話法Ⅰ
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
共通テキストの予習は不要ですが，なるべく復習の時間を多く取ってください。また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください。辞書は中辞典として小学館の『朝鮮語辞典』，語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします。

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】
既習者も，「わかっているから」と思わずに，はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】
In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise what you learned in the spring semester have been mastered enough.
By the end of this course, students will be able to learn complicated expressions in Korean.

LANk100LA

朝鮮語 22017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 22016 年度以前入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち，以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」「朝鮮語 2」「朝鮮語 5」は 3 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字その 1／子音字その 2
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字その 3／7 つの終声／用言の「ですます形」
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音化／疑問形と否定形／平音の濃音化
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／動詞の進行形と連体形／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形その 1／過去形その 2／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともうひとつの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／パンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のパンマルとヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言／動詞の過去連体形と未来連体形
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならない」／意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない，学習の手助けをします。なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください。また辞書については授業中に相談しましょう。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テスト）20 %，期末テスト 80 %によります。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】
既習者も，「わかっているから」と思わずに，はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

Students have to learn about 400 words in this semester.

LANk100LA

朝鮮語 4

2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 4

2016 年度以前入学者

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容の定着を図りつつ、発音を丁寧に指摘したり、話せる力をつけたり、文章の力をつけていきます。

【到達目標】

自然な読み方と簡単な日常の会話ができることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題の発表やテキストに沿って授業を進めます。会話が可能になることを前提した授業にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習と授業の進め方について	復習と授業の進め方についての説明。
2	第 1 課 韓国語伸びましたね	会話の本文を読みます。
3	第 1 課 韓国語伸びましたね	本文の説明をします。
4	第 1 課 韓国語伸びましたね	練習問題
5	第 2 課 何限までありますか	会話の本文を読みます。
6	第 2 課 何限までありますか	本文の説明をします。
7	第 2 課 何限までありますか	練習問題
8	第 3 課 趣味は何ですか	会話の本文を読みます。
9	第 3 課 趣味は何ですか	本文の説明をします。
10	第 3 課 趣味は何ですか	練習問題
11	まとめ会話練習	会話の練習をします。
12	課題発表	発表をしてもらいます。
13	第 4 課 一年になりますね	会話の本文を読みます。
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題を出します。作文練習や読む練習、また、翻訳や内容のまとめを韓国でやってもらいます。

【テキスト（教科書）】

梁禮先『中級韓国語〔私家版〕』（授業で配布します）

【参考書】

授業で時々発表します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト・課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加してください。
授業内容は、少々変わることがあります。

【Outline and objectives】

While continuing to study the contents covered in the spring semester, we will focus on improving your pronunciation and obtaining speaking and writing skills.

LANk100LA

朝鮮語 5

2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 5

2016 年度以前入学者

高柳 俊男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」「朝鮮語 2」「朝鮮語 5」は 3 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字その 1／子音字その 2
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字その 3／7 つの終声／用言の「ですます形」
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音化／疑問形と否定形／平音の濃音化
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／動詞の進行形と連体形／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形その 1／過去形その 2／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともうひとつの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／パンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のパンマルとヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言／動詞の過去連体形と未来連体形
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならない」／意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書については授業中に相談しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20 %，期末テスト 80 %によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

Students have to learn about 400 words in this semester.

LANk100LA

朝鮮語 6

2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 6

2016 年度以前入学者

高柳 俊男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
国 1 年 SA

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容を理解しているという前提で、文法と語彙をさらに学び、複雑な表現ができるようにつとめます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 3」「朝鮮語 6」「朝鮮語コミュニケーション I」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。この「朝鮮語 6」では、韓国で発行されている語学教材を使って、リスニングの練習をします（予習必要）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし / No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習、「やりもらい」
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形、禁止形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
5	第 3 課	文中の疑問形、方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオツ不規則用言、動詞のこそあどことば
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
8	第 5 課	用言の名詞形、いくつかの助詞
9	第 6 課	推量表現、大過去
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
11	第 7 課	「～しながら」、指定詞の第Ⅲ語基
12	第 8 課	用言の「である」形、間接話法 1
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通テキストの予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語〔私家版〕』を用います。サブテキストはコピーを配付し、ヒアリングの音声授業支援システム上にアップします。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は中辞典として小学館の『朝鮮語辞典』、語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise what you learned in the spring semester have been mastered enough.

By the end of this course, students will be able to learn complicated expressions in Korean.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2016 年度以前入学者

高橋 梓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
環 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし / No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 1 ー II

2016 年度以前入学者

高橋 梓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

環 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみて学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 1 ー I

2016 年度以前入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

キ 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・政治学科： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみて学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 1 - II

2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 1 - II

2016 年度以前入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
キ 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・政治学科： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみて学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 2 - I

2016 年度以前入学者

黒澤 朋子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
環 1 年**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみて学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 2 ー II

2016 年度以前入学者

黒澤 朋子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

環 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみて学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

LANk100LA

朝鮮語 2 - I

2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 2 ー I

2016 年度以前入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

キ 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・政治学科： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字その 2／子音字その 3
3	第 5 課／第 6 課	7 つの終声／用言の「ですます」形
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音化
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	疑問形と否定形／平音の濃音化
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／激音化・鼻音化・口蓋音化
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	動詞の進行形と連体形／固有数詞とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみて学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

LANk100LA

朝鮮語 2 - II

2017 年度以降入学者

LANk100LA

朝鮮語 2 - II

2016 年度以前入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
キ 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・政治学科： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のバンマルとヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	動詞の過去連体形と未来連体形
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますから」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回小テストを行ない、学習の手助けをします。予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、まとめて期末テストを実施します。その成績が 80 %、そして「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の担当教員の平常点が 10 %ずつ、合計 100 %として計算し、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」には同一の評価が与えられます。

なお「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の出席（遅刻や電車遅延などの扱いは担当教員の裁量によります）がどちらかでも 50 %に満たない場合は不合格とします。ただし再履修者の場合に限り、出席を条件とはせず、期末テスト 100 %で計算した評価と上記の評価方法による評価を比較し、高い方の評価を適用します。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline and objectives】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

